

新 屋 敷 遺 跡
上 西 根 遺 跡
関 遺 跡 (1)

社会資本整備総合交付金事業（活力創出基盤整備）
国道462号（本関拡幅）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

新 屋 敷 遺 跡
上 西 根 遺 跡
関 遺 跡 (1)

社会資本整備総合交付金事業（活力創出基盤整備）
国道462号（本関拡幅）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



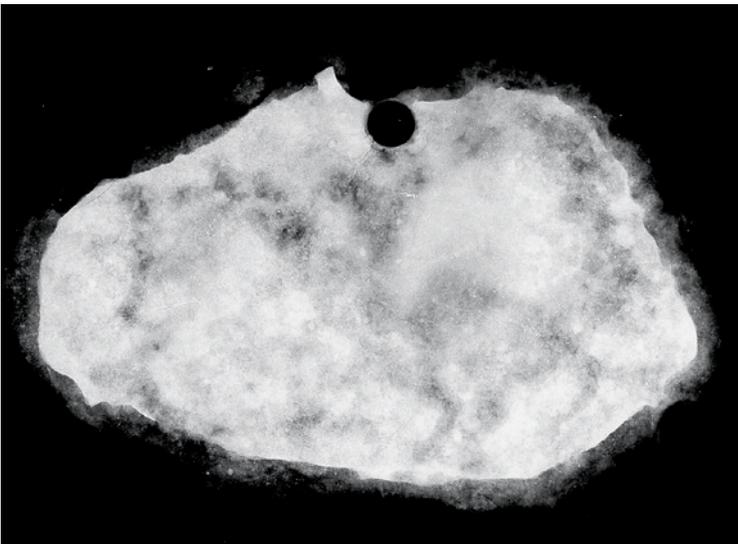
1. 新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡 調査区全景(上が北、西に粕川)



2. 上西根遺跡2区33号住居出土丸靱裏金具(表面)
(タテ1.4cm、ヨコ2.5cm)



3. 上西根遺跡2区33号住居出土丸靱裏金具(裏面)



4. 丸靱裏金具X線写真
(撮影提供：独立行政法人国立文化財機構
奈良文化財研究所)
装置：マイクロフォーカスX線拡大撮像システム
(富士フィルム社製 μ FX-1000)
イメージングアナライザー
(富士フィルム社製BAS-5000)
イメージングプレート(IP)：BAS-SR2025
測定条件：管電圧：60kV、管電流：30 μ A
露光時間：30秒

序

伊勢崎市とみどり市大間々町を結ぶ国道462号は、北関東自動車道伊勢崎インターチェンジおよび国道17号上武道路と隣接し、交通の要衝として、周辺地域の開発や発展に貢献してきました。近年交通量の増加に伴い、拡幅工事が計画され、埋蔵文化財調査が必要となりました。群馬県伊勢崎土木事務所からの委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、平成20年度に発掘調査を実施いたしました。

粕川に臨む微高地に立地する新屋敷遺跡、上西根遺跡、関遺跡では、古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴住居が多数発見され、金銅製品をはじめとする貴重な遺物が出土しました。古代佐位郡の中心地域と考えられる上植木廃寺や三軒屋遺跡、一ノ関古墳を中心として多数の古墳が密集する本関町古墳群との関連が予想される調査成果となりました。幾度もの洪水に見舞われながらも、その後も集落を営み続けたことが明らかになっています。こうした先人に対し畏敬の念を覚えるとともに、今回の調査成果が地域研究の一助となり、教育の場で活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から報告書の作成に至るまで、群馬県伊勢崎土木事務所をはじめ、群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には多大なご指導、ご協力を賜りました。本報告書の上梓に際し、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。序といたします。

平成25年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 須 田 榮 一

例 言

1. 本書は、平成20年度国道462号道路改築事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査委託で実施された発掘調査の成果を、平成24年度社会資本整備総合交付金事業(活力創出基盤整備)国道462号(本関拡幅)に伴う埋蔵文化財の整理委託で整理した新屋敷遺跡、上西根遺跡、関遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
 2. 調査区の所在地は、群馬県伊勢崎市鹿島町79-2、80-1、81-3、83-4、90-3、91-7、97-7、97-8、98-6、106-3、274、277-1・4・5、282-3、287-1・3、288-1、289-4、293-3、294-3、295-4、305-7～9、308-4、310-4・6～8、318-1、320-1・3、321-1、322、327-1・8・9である。
 3. 事業主体は群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所である。
 4. 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月に公益財団法人に組織改定)である。
 5. 発掘調査の期間と体制は以下のとおりである。

平成20年度履行期間 平成20年6月20日～平成21年3月31日

第1次発掘調査 調査期間 平成20年7月1日～9月30日
担当者 佐藤明人(専門員)、小林洋一(主任調査研究員)
委託 掘削請負 山下工業株式会社
遺構測量・デジタル編集業務 アコン測量設計株式会社
井戸掘削および図化業務 原澤ボーリング株式会社

第2次発掘調査 調査期間 平成21年1月1日～3月31日
担当者 麻生敏隆(主任専門員(総括))、綿貫昭(主任調査研究員)
小林洋一(主任調査研究員)
委託 掘削請負 技研測量設計株式会社
遺構測量・デジタル編集業務 アコン測量設計株式会社
航空測量・空中写真撮影業務 株式会社シン技術コンサル
火山灰分析および年代測定、プラント・オパール分析 株式会社火山灰考古学研究所
遺物洗浄・注記業務 有限会社毛野考古学研究所
 6. 整理事業の期間と体制は以下のとおりである。

平成23年度 履行期間 平成23年3月31日～平成24年3月31日
整理期間 平成23年4月1日～平成24年2月29日
担当者 宮下寛(主任調査研究員)
委託出土人骨・馬歯分析 榑崎修一郎(生物考古学研究所)

平成24年度 履行期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日
整理期間 平成24年4月1日～平成25年1月31日
担当者 大西雅広(上席専門員)、石田典子(主任調査研究員)
 7. 本報告書作成の担当者は以下のとおりである。

編集 大西雅広、宮下寛、石田典子 デジタル編集担当 齊田智彦(主任調査研究員)
遺物写真撮影 佐藤元彦(補佐(総括)) 遺物保存処理 関邦一(補佐(総括))
実測・遺物観察表 土師器・須恵器：桜岡正信(資料統括) 陶磁器：大西雅広
石器・石製品：岩崎泰一(上席専門員)
金属製品：笹澤泰史(主任調査研究員)、関邦一
木製品：綿貫邦男(上席専門員)、関邦一

執筆 第1章・第2章 宮下寛、石田典子
第6章第1節・第2節 株式会社火山灰考古学研究所
第6章第3節・第4節 榑崎修一郎(生物考古学研究所)
第6章第5節 田村朋美(独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所)
上記以外 石田典子
 8. 金属製品の蛍光X線分析を田村朋美氏(独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所)に依頼した。
 9. 石材同定は飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。
 10. 記録資料・出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
 11. 発掘調査に際しては、発掘現場作業に従事していただいた多くの方々や伊勢崎市をはじめ本遺跡周辺地域の多くの皆様からご支援、ご協力をいただきました。ここにあらためて感謝の意を表します。
 12. 発掘調査および整理事業・本報告書の作成には下記の機関・諸氏よりご指導・ご教示を頂きました。記して感謝の意を表します。(敬称略)
- 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、群馬県伊勢崎土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、伊勢崎市教育委員会、独立行政法人国立文化財機構理事奈良文化財研究所長 松村恵司、群馬県教育委員会文化財保護課 武藤直美、群馬県立歴史博物館 神宮善彦、静岡県埋蔵文化財センター 中川律子、岡山市埋蔵文化財センター 扇崎 由

凡 例

1. 本書で使用した座標値は世界測地系国家座標(座標第IX系)を用いて測量した。遺構図中にある+印とそれに付記される数値は国家座標値X・Y値を表す。なお、遺構図中に標記した数値は国家座標値の下3桁のみを用いて表記した。
2. 遺構図中で使用した北方位はすべて座標北である。
3. 挿図のキャプションは関遺跡7区を「関7区」、上西根遺跡1～5区を「上西根1～5区」、新屋敷遺跡1区を「新屋敷1区」のように略記した。
4. 遺構図・遺物図の縮尺は、各図にそれぞれ示した。
5. 遺物写真は遺物図とほぼ同じ縮尺で掲載してある。
6. 図中で使用したスクリーントーンおよびマークは以下の通りである。
遺構図 硬化面  焼土  炭化物  灰  灰と焼土 
土器出土地点 ● 石器出土地点 ▲ 金属製品出土地点 □ 骨出土地点 ○ 炭化物出土地点 ×
斜面(急)  斜面(緩) 
遺物図 土器  煤  漆  吸炭  粘土  被熱  赤彩 
釉  剝離  発泡  油付着  摩滅(硯面) 
石製品 摩耗痕の範囲  摩耗痕の範囲(断面図) 
7. 竪穴住居の面積は遺構検出面での面積をプランメーターを用いて計測した。
8. 遺構土層注記および土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準拠している。
9. 本書で使用した地図は下記の通りである。
第1図 国土地理院発行20万分の1地勢図 「長野」平成10年2月1日発行
「大胡」平成18年4月1日発行
第2・8図 国土地理院発行2万5千分の1地形図 「大胡」平成22年12月1日発行
「伊勢崎」平成15年2月1日発行
第3・7図 伊勢崎市発行2千5百分の1現況図22 平成22年度10月測図
23 平成22年度10月測図
第5図 『群馬県史通史編1』(1990)付図2を使用一部改変
群埋文『喜多町遺跡』(2011)第2図を加筆修正して掲載
第6図 群埋文『喜多町遺跡』(2011)第98図を加筆修正して掲載
10. テフラについては以下の略称を用いた。
浅間Bテフラ=As-B 天仁元年(1, 108年) 榛名二ツ岳渋川テフラ=Hr-FA 6世紀初頭
浅間C軽石=As-C 3世紀末から4世紀初頭
11. 遺構名称の変更について
遺構の性格の見直しにより整理段階で遺構名称の変更したものおよび遺構としての性格を持たないと判断して欠番とした遺構を第2表に掲載した。

目次

口絵

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経過と方法

- 第1節 発掘調査に至る経緯…………… 1
- 第2節 調査区の設定…………… 3
- 第3節 発掘調査の方法…………… 3
- 第4節 基本土層…………… 5
- 第5節 発掘調査の経過…………… 7
- 第6節 整理作業の経過…………… 8

第2章 地理的および歴史的環境

- 第1節 遺跡の位置と周辺の地形…………… 9
- 第2節 遺跡の歴史的環境…………… 11
 - 1. 上西根遺跡・新屋敷遺跡のこれまでの調査…………… 11
 - 2. 周辺の遺跡…………… 11

第3章 関遺跡の調査

- 第1節 7区の調査…………… 19
 - 1. 概要…………… 19
 - 2. 竪穴住居…………… 19
 - 3. 柵…………… 65
 - 4. 溝…………… 66
 - 5. 井戸…………… 74
 - 6. 墓坑…………… 86
 - 7. 土坑…………… 87
 - 8. ピット…………… 93
 - 9. 遺構外から出土した遺物…………… 100

第4章 上西根遺跡の調査

- 第1節 1区の調査…………… 102
 - 1. 概要…………… 102
 - 2. 竪穴住居…………… 103
 - 3. 井戸…………… 129
 - 4. 土坑…………… 131
 - 5. ピット…………… 134
 - 6. 遺構外から出土した遺物…………… 136
- 第2節 2区の調査…………… 137
 - 1. 概要…………… 137
 - 2. 竪穴住居…………… 137
 - 3. 竪穴状遺構…………… 179
 - 4. 溝…………… 186
 - 5. 土坑…………… 189
 - 6. ピット…………… 194
 - 7. 遺構外から出土した遺物…………… 195
- 第3節 3区の調査…………… 197
 - 1. 概要…………… 197
 - 2. 竪穴住居…………… 197
 - 3. 竪穴状遺構…………… 203
 - 4. 礎石建物…………… 204
 - 5. 溝…………… 207
 - 6. 土坑…………… 208
 - 7. ピット…………… 215
 - 8. 遺構外から出土した遺物…………… 217

- 第4節 4区の調査…………… 218
 - 1. 概要…………… 218
 - 2. 竪穴住居…………… 218
 - 3. 竪穴状遺構…………… 224
 - 4. 溝…………… 225
 - 5. 井戸…………… 232
 - 6. 土坑…………… 234
 - 7. ピット…………… 239
 - 8. 遺構外から出土した遺物…………… 240
- 第5節 5区の調査…………… 242
 - 1. 概要…………… 242
 - 2. 竪穴住居…………… 242
 - 3. 柵…………… 249
 - 4. 溝…………… 250
 - 5. 井戸…………… 251
 - 6. 土坑…………… 254
 - 7. ピット…………… 264
 - 8. 遺構外から出土した遺物…………… 268

第5章 新屋敷遺跡の調査

- 第1節 1区の調査…………… 269
 - 1. 概要…………… 269
 - 2. 竪穴住居…………… 269
 - 3. 溝…………… 270
 - 4. 土坑…………… 276
 - 5. ピット…………… 282
 - 6. 遺構外から出土した遺物…………… 282

第6章 自然科学分析

- 第1節 上西根遺跡の火山灰分析および年代測定…………… 285
- 第2節 上西根遺跡のプラント・オパール分析…………… 292
- 第3節 関遺跡出土人骨…………… 296
- 第4節 上西根遺跡出土馬歯…………… 300
- 第5節 上西根遺跡出土金属製品の材質調査…………… 301

第7章 発掘調査の成果とまとめ

- 第1節 遺構…………… 303
 - 1. 洪水層と竪穴住居…………… 303
 - 2. 竪穴住居および竪穴状遺構の変遷…………… 304
 - 3. 景観の変遷…………… 304
- 第2節 遺物…………… 309
 - 1. 上西根遺跡出土礫石器の顕微鏡観察…………… 309
 - 2. 上西根遺跡出土の金属製品…………… 312

本文参考文献…………… 320

土坑・ピット一覧表…………… 322

出土遺物点数表…………… 327

遺物観察表…………… 332

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図	関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡と群馬県の地勢(国土地理院1:200,000地勢図「長野」平成10年2月1日発行、「大胡」平成18年4月1日発行使用)……………1	第51図	関7区21号竪穴住居掘方・カマド土層断面と出土遺物……………61
第2図	関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡位置図(国土地理院1:25,000地形図「大胡」平成22年12月1日発行、「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)……………2	第52図	関7区22号竪穴住居出土遺物……………62
第3図	遺跡と調査区範囲図(伊勢崎市現況図22・23 1:2,500平成22年度10月測図使用、遺跡の範囲は群馬県情報システムWEB版を参照)……………4	第53図	関7区22号竪穴住居……………63
第4図	基本土層と観察地点……………6	第54図	関7区23号竪穴住居と出土遺物……………64
第5図	遺跡周辺の地形(1:200,000)(『群馬県史通史編』付図2を使用一部改変、群埋文『喜多町遺跡』(2011)第2図を加筆修正して掲載)……………9	第55図	関7区24号竪穴住居と出土遺物……………65
第6図	伊勢崎市北部の地形区分図(群埋文『喜多町遺跡』(2011)第98図を加筆修正して掲載)……………9	第56図	関7区1号柵……………66
第7図	関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡のおもな発掘調査地点(伊勢崎市現況図22・23 1:2,500平成22年10月測図使用)……………10	第57図	関7区1号溝と出土遺物……………67
第8図	周辺の遺跡位置図(国土地理院発行、1:25,000地形図「大胡」平成22年12月1日発行「伊勢崎」平成15年2月1日発行)……………13	第58図	関7区2号・3号溝と3号溝出土遺物……………68
第9図	関7区全体図……………19	第59図	関7区4号・5号溝……………69
第10図	関7区1号竪穴住居……………20	第60図	関7区5号溝出土遺物……………70
第11図	関7区1号竪穴住居出土遺物(1)……………21	第61図	関7区6号・7号溝と7号溝出土遺物……………71
第12図	関7区1号竪穴住居出土遺物(2)……………22	第62図	関7区8号～10号溝……………72
第13図	関7区2号竪穴住居……………23	第63図	関7区11号～13号溝と12号溝出土遺物……………73
第14図	関7区2号竪穴住居出土遺物……………24	第64図	関7区14号溝と出土遺物……………74
第15図	関7区3号竪穴住居……………26	第65図	関7区1号井戸……………75
第16図	関7区3号竪穴住居掘方……………27	第66図	関7区1号井戸出土遺物……………76
第17図	関7区3号竪穴住居カマド土層断面と出土遺物(1)……………28	第67図	関7区2号井戸と出土遺物……………77
第18図	関7区3号竪穴住居出土遺物(2)……………29	第68図	関7区3号井戸と出土遺物……………78
第19図	関7区3号竪穴住居出土遺物(3)……………30	第69図	関7区4号井戸……………79
第20図	関7区3号竪穴住居出土遺物(4)……………31	第70図	関7区4号井戸出土遺物……………80
第21図	関7区3号竪穴住居出土遺物(5)……………32	第71図	関7区5号井戸……………81
第22図	関7区3号竪穴住居出土遺物(6)……………33	第72図	関7区5号井戸出土遺物(1)……………82
第23図	関7区3号竪穴住居出土遺物(7)……………34	第73図	関7区5号井戸出土遺物(2)……………83
第24図	関7区3号竪穴住居出土遺物(8)……………35	第74図	関7区5号井戸出土遺物(3)……………84
第25図	関7区3号竪穴住居出土遺物(9)……………36	第75図	関7区6号井戸……………85
第26図	関7区4号竪穴住居……………37	第76図	関7区1号・2号墓坑と2号墓坑出土遺物……………86
第27図	関7区4号竪穴住居出土遺物……………38	第77図	関7区3号墓坑と出土遺物……………87
第28図	関7区5号竪穴住居と出土遺物……………39	第78図	関7区2号・3号・5号～9号土坑と3号土坑出土遺物……………89
第29図	関7区8号竪穴住居……………40	第79図	関7区10号～13号・15号～17号・19号土坑と10号・13号・16号・19号土坑出土遺物……………90
第30図	関7区8号竪穴住居出土遺物……………41	第80図	関7区4号・18号・21号・22号・24号・25号・28号・29号土坑と18号・28号・29号土坑出土遺物……………91
第31図	関7区9号竪穴住居……………42	第81図	関7区1号・14号・20号・23号・26号・27号土坑と27号土坑出土遺物……………92
第32図	関7区9号竪穴住居掘方とカマド土層断面……………43	第82図	関7区30号土坑……………93
第33図	関7区9号竪穴住居出土遺物……………44	第83図	関7区ピット全体図(1)……………94
第34図	関7区10号竪穴住居……………45	第84図	関7区ピット全体図(2)……………95
第35図	関7区10号竪穴住居出土遺物……………46	第85図	関7区ピット全体図(3)……………96
第36図	関7区12号竪穴住居……………47	第86図	関7区1号～27号ピット土層断面……………97
第37図	関7区12号竪穴住居出土遺物……………48	第87図	関7区28号～62号ピット土層断面……………98
第38図	関7区13号竪穴住居と出土遺物……………49	第88図	関7区63号～77・79・80・85・87～94号ピット土層断面……………99
第39図	関7区14号竪穴住居……………50	第89図	関7区遺構外の出土遺物(1)……………100
第40図	関7区14号竪穴住居出土遺物(1)……………51	第90図	関7区遺構外の出土遺物(2)……………101
第41図	関7区14号竪穴住居出土遺物(2)……………52	第91図	上西根1区全体図……………102
第42図	関7区15号竪穴住居と出土遺物……………53	第92図	上西根1区1号竪穴住居……………103
第43図	関7区16号・17号竪穴住居と出土遺物……………54	第93図	上西根1区1号竪穴住居出土遺物……………104
第44図	関7区18号竪穴住居と出土遺物……………55	第94図	上西根1区2号竪穴住居……………105
第45図	関7区19号竪穴住居……………56	第95図	上西根1区2号竪穴住居出土遺物……………106
第46図	関7区19号竪穴住居掘方・カマドと出土遺物(1)……………57	第96図	上西根1区3a号竪穴住居……………107
第47図	関7区19号竪穴住居出土遺物(2)……………58	第97図	上西根1区3b号竪穴住居と3a号竪穴住居出土遺物……………108
第48図	関7区19号竪穴住居出土遺物(3)……………59	第98図	上西根1区3a・3b号竪穴住居出土遺物……………109
第49図	関7区20号竪穴住居と出土遺物……………59	第99図	上西根1区4号竪穴住居と出土遺物……………110
第50図	関7区21号竪穴住居……………60	第100図	上西根1区5号竪穴住居……………111
		第101図	上西根1区5号竪穴住居出土遺物……………112
		第102図	上西根1区6号竪穴住居と出土遺物……………113
		第103図	上西根1区7号竪穴住居……………114
		第104図	上西根1区7号竪穴住居出土遺物……………115
		第105図	上西根1区8号竪穴住居と出土遺物……………116
		第106図	上西根1区9号竪穴住居と出土遺物……………117
		第107図	上西根1区10号竪穴住居と出土遺物……………118
		第108図	上西根1区11号竪穴住居と出土遺物……………119
		第109図	上西根1区12号竪穴住居と出土遺物……………120

第110図	上西根1区13号竪穴住居	121	第175図	上西根2区6号竪穴状遺構と出土遺物	183
第111図	上西根1区13号竪穴住居出土遺物	122	第176図	上西根2区7号竪穴状遺構と出土遺物	184
第112図	上西根1区14号竪穴住居と出土遺物	123	第177図	上西根2区8号竪穴状遺構	184
第113図	上西根1区15号竪穴住居と出土遺物	124	第178図	上西根2区9号・10号竪穴状遺構と 10号竪穴状遺構出土遺物	185
第114図	上西根1区16号竪穴住居	125	第179図	上西根2区1号～3号溝と2号・3号溝出土遺物	187
第115図	上西根1区16号竪穴住居カマド土層断面と出土遺物	126	第180図	上西根2区4号・5号溝と出土遺物	188
第116図	上西根1区17号竪穴住居と出土遺物	127	第181図	上西根2区1号・2号・6号～8号・12号・14号・15号・17号 ・20号・21号・23号土坑	190
第117図	上西根1区18号竪穴住居	128	第182図	上西根2区3号～5号・9号～11号・13号・16号・18号・ 19号土坑と10号土坑出土遺物	191
第118図	上西根1区18号竪穴住居出土遺物	129	第183図	上西根2区22号・24号～29号・30号土坑と 29号土坑出土遺物	192
第119図	上西根1区1号・2号井戸と1号井戸出土遺物	130	第184図	上西根2区31号・33号～37号土坑と33号土坑出土遺物	193
第120図	上西根1区1号・2号土坑	131	第185図	上西根2区ピット全体図と1号～5号ピット土層断面	194
第121図	上西根1区3号土坑と出土遺物	132	第186図	上西根2区遺構外出土遺物(1)	195
第122図	上西根1区4号・5号・6号土坑と4号土坑出土遺物	133	第187図	上西根2区遺構外出土遺物(2)	196
第123図	上西根1区1号～7号・9号・13号・15号・16号・ 18号～23号・25号ピット土層断面と2号ピット出土遺物	134	第188図	上西根3区全体図	197
第124図	上西根1区ピット全体図、26号～29号・34号～36号ピット 土層断面	135	第189図	上西根3区1号竪穴住居と出土遺物	198
第125図	上西根1区遺構外出土遺物	136	第190図	上西根3区2a号竪穴住居と出土遺物	199
第126図	上西根2区全体図	137	第191図	上西根3区2b号竪穴住居と出土遺物	200
第127図	上西根2区1号竪穴住居と出土遺物	138	第192図	上西根3区3号竪穴住居と出土遺物	201
第128図	上西根2区2号竪穴住居	138	第193図	上西根3区4号竪穴住居	202
第129図	上西根2区2号竪穴住居カマドと出土遺物	139	第194図	上西根3区4号竪穴住居出土遺物	203
第130図	上西根2区4号・5号竪穴住居	140	第195図	上西根3区5号竪穴住居と出土遺物、1号竪穴状遺構	204
第131図	上西根2区4号・5号竪穴住居掘方と5号竪穴住居カマド	141	第196図	上西根3区1号礎石建物	205
第132図	上西根2区4号竪穴住居出土遺物	142	第197図	上西根3区1号礎石建物土層断面と出土遺物	206
第133図	上西根2区5号竪穴住居出土遺物(1)	143	第198図	上西根3区1号～3号溝と1号溝出土遺物	208
第134図	上西根2区5号竪穴住居出土遺物(2)	144	第199図	上西根3区2号・3号・6号・8号～14号・18号土坑	209
第135図	上西根2区7号竪穴住居	145	第200図	上西根3区15号・16号・19号・22号～25号・28号・29号土坑と 16号・22号土坑出土遺物	210
第136図	上西根2区7号竪穴住居出土遺物	146	第201図	上西根3区4号・17号・27号・33号土坑	211
第137図	上西根2区9号竪穴住居	146	第202図	上西根3区5号・30号・31号・35号～38号・44号・46号・ 48号土坑と31号・37号・48号土坑出土遺物	212
第138図	上西根2区10号竪穴住居	147	第203図	上西根3区32号・39号～43号・47号・49号土坑と32号・ 41号土坑出土遺物	213
第139図	上西根2区10号竪穴住居カマドと出土遺物	148	第204図	上西根3区7号・20号・21号・26号・34号・45号土坑と 20号土坑出土遺物	214
第140図	上西根2区11号・23号竪穴住居と出土遺物	150	第205図	上西根3区ピット全体図と1号～5号・10号・15号～17号・ 21号ピット土層断面	215
第141図	上西根2区12号竪穴住居と出土遺物	151	第206図	上西根3区ピット全体図と6号～9号・11号～14号・19号・ 22号・24号～33号・35号ピット土層断面	216
第142図	上西根2区13号竪穴住居と出土遺物	152	第207図	上西根3区遺構外出土遺物	217
第143図	上西根2区14号竪穴住居と出土遺物	153	第208図	上西根4区全体図	218
第144図	上西根2区15号竪穴住居と出土遺物	154	第209図	上西根4区2号竪穴住居	219
第145図	上西根2区17号竪穴住居	155	第210図	上西根4区2号竪穴住居出土遺物	220
第146図	上西根2区17号竪穴住居掘方とカマド	156	第211図	上西根4区3号竪穴住居と出土遺物	221
第147図	上西根2区17号竪穴住居出土遺物(1)	157	第212図	上西根4区4号竪穴住居と出土遺物	222
第148図	上西根2区17号竪穴住居出土遺物(2)	158	第213図	上西根4区5号竪穴住居と出土遺物	223
第149図	上西根2区18号竪穴住居	159	第214図	上西根4区6号竪穴住居と出土遺物	224
第150図	上西根2区18号竪穴住居出土遺物	160	第215図	上西根4区1号竪穴状遺構と出土遺物	225
第151図	上西根2区19号竪穴住居と出土遺物	160	第216図	上西根4区1号溝と出土遺物	226
第152図	上西根2区20号竪穴住居と出土遺物	161	第217図	上西根4区2号溝と出土遺物	227
第153図	上西根2区21号・22号竪穴住居と出土遺物	162	第218図	上西根4区3号～7号溝	229
第154図	上西根2区27号竪穴住居	163	第219図	上西根4区3号・6号・7号溝出土遺物	230
第155図	上西根2区28号竪穴住居と出土遺物	164	第220図	上西根4区7号溝出土遺物	231
第156図	上西根2区29号竪穴住居と出土遺物	165	第221図	上西根4区1号井戸と出土遺物	232
第157図	上西根2区30号竪穴住居	166	第222図	上西根4区2号井戸と出土遺物	233
第158図	上西根2区30号竪穴住居カマドと出土遺物(1)	167	第223図	上西根4区1号～3号・5号・7号・8号・10号・16号・18号・ 19号・21号～24号土坑と8号土坑出土遺物	235
第159図	上西根2区30号竪穴住居出土遺物(2)	168	第224図	上西根4区4号・9号・11号～14号・20号・25号土坑と9号・ 11号・14号土坑出土遺物	236
第160図	上西根2区30号竪穴住居出土遺物(3)	169	第225図	上西根4区6号・15号・17号・32号・35号・36号・39号～42号土坑と 15号土坑出土遺物	237
第161図	上西根2区31号竪穴住居と出土遺物	170	第226図	上西根4区26号～31号・37号・38号・43号土坑と26号・27号土坑出 土遺物	238
第162図	上西根2区32号竪穴住居	171	第227図	上西根4区ピット全体図	239
第163図	上西根2区32号竪穴住居出土遺物	172			
第164図	上西根2区33号・34号竪穴住居と33号竪穴住居出土遺物	173			
第165図	上西根2区35号竪穴住居と出土遺物	174			
第166図	上西根2区37号竪穴住居	175			
第167図	上西根2区37号竪穴住居出土遺物	176			
第168図	上西根2区38号竪穴住居と出土遺物	177			
第169図	上西根2区49号竪穴住居と出土遺物	178			
第170図	上西根2区1号竪穴状遺構と出土遺物	179			
第171図	上西根2区2号竪穴状遺構と出土遺物	180			
第172図	上西根2区3号竪穴状遺構と出土遺物	181			
第173図	上西根2区4号竪穴状遺構と出土遺物	182			
第174図	上西根2区5号竪穴状遺構と出土遺物	182			

第228図	上西根4区1号～34号ピット土層断面と7号・26号ピット出土遺物	240
第229図	上西根4区遺構外出土遺物	241
第230図	上西根5区全体図	242
第231図	上西根5区1号竪穴住居	243
第232図	上西根5区2号竪穴住居	244
第233図	上西根5区2号竪穴住居掘方とカマド	245
第234図	上西根5区2号竪穴住居出土遺物(1)	246
第235図	上西根5区2号竪穴住居出土遺物(2)	247
第236図	上西根5区2号竪穴住居出土遺物(3)	248
第237図	上西根5区1号・2号柵	249
第238図	上西根5区1号～3号溝と1号・2号溝出土遺物	251
第239図	上西根5区1号井戸と出土遺物(1)	252
第240図	上西根5区1号井戸出土遺物(2)	253
第241図	上西根5区2号井戸と出土遺物	254
第242図	上西根5区8号・9号・11号・15号・16号・18号・19号・21号・26号土坑	256
第243図	上西根5区27号・30号・31号・33号～36号土坑と31号・33号土坑出土遺物	257
第244図	上西根5区39号・41号～46号・81号土坑と43号・46号土坑出土遺物	258
第245図	上西根5区47号・49号・50号・56号・59号・61号～64号土坑と49号・50号・63号土坑出土遺物	259
第246図	上西根5区7号・65号～69号・71号・72号・79号・80号土坑	260
第247図	上西根5区10号・12号～14号・17号・20号・25号・32号土坑と12号・17号土坑出土遺物	261
第248図	上西根5区2号～4号・6号・22号・23号・37号・38号・48号・51号・53号・74号・77号土坑と22号土坑出土遺物	262
第249図	上西根5区24号・29号・40号・52号・54号・55号・57号・58号・60号・70号・73号・76号・78号土坑	263
第250図	上西根5区ピット全体図と39号～43号ピット土層断面	264
第251図	上西根5区ピット全体図と25号～38号ピット土層断面	265
第252図	上西根5区ピット全体図と1号・2号・23号・24号ピット土層断面	266
第253図	上西根5区ピット全体図と44号～56号ピット土層断面	267
第254図	上西根5区遺構外出土遺物	268
第255図	新屋敷1区全体図	269
第256図	新屋敷1区1号竪穴住居	270

第257図	新屋敷1区1号～3号溝	271
第258図	新屋敷1区4号～7号溝	272
第259図	新屋敷1区8号～10号・15号溝と10号溝出土遺物	273
第260図	新屋敷1区11号・12号溝と12号溝出土遺物	274
第261図	新屋敷1区13号溝	275
第262図	新屋敷1区14号溝	276
第263図	新屋敷1区6号・12号・13号・15号・18号土坑と12号土坑出土遺物	277
第264図	新屋敷1区19号・20号・23号・24号・29号・30号・36号・38号・39号・44号土坑と38号土坑出土遺物	278
第265図	新屋敷1区1号・2号・45号～50号・52号～55号・59号土坑	279
第266図	新屋敷1区4号・5号・10号・14号・16号・21号・22号・25号・26号・28号・33号・56号土坑	280
第267図	新屋敷1区3号・7号・8号・17号・31号・37号・40号～42号土坑と40号土坑出土遺物	281
第268図	新屋敷1区32号・43号・51号土坑と43号土坑出土遺物	282
第269図	新屋敷1区ピット全体図	283
第270図	新屋敷1区1号・4号～8号・10号～50号ピット土層断面と遺構外出土遺物	284
第271図	火山灰分析、プラント・オパール分析試料採取地点	285
第272図	上西根2区・5区土層柱状図	287
第273図	上西根遺跡におけるプラント・オパール分析	293
第274図	植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真	295
第275図	関7区1号墓坑出土人骨平面図(1/20・上が北)	296
第276図	関7区2号墓坑出土人骨平面図(1/20・上が北)	297
第277図	関7区3号墓坑出土人骨平面図(1/20・上が北)	298
第278図	上西根2区Vb層出土馬歯出土部位図(左側面観)	300
第279図	蛍光X線分析箇所(左上)と各測定箇所における蛍光X線スペクトル	302
第280図	洪水層と竪穴住居の時期	303
第281図	竪穴住居および竪穴状遺構の時期別変遷(6世紀)	305
第282図	竪穴住居および竪穴状遺構の時期別変遷(7世紀)	306
第283図	竪穴住居および竪穴状遺構の時期別変遷(8世紀)	307
第284図	竪穴住居および竪穴状遺構の時期別変遷(9世紀)	308
第285図	観察した礫石器	310
第286図	礫石器の顕微鏡写真	311
第287図	群馬県腰帯具出土遺跡分布図	313

表 目 次

第1表	遺跡名、調査区名変更一覧表	3
第2表	遺構名変更一覧表	8
第3表	周辺の遺跡一覧表(1)	15
第4表	周辺の遺跡一覧表(2)	16
第5表	周辺の遺跡一覧表(3)	17
第6表	1号柵計測表	66
第7表	5号井戸出土竹製品計測表	84
第8表	上西根遺跡検出遺構一覧表	102
第9表	1号礫石建物掘方計測表	205

第10表	1号・2号柵ピット計測表	250
第11表	テフラ検出分析結果	288
第12表	屈折率測定結果	289
第13表	放射性炭素年代測定の試料と方法	290
第14表	放射性炭素年代測定結果	290
第15表	上西根遺跡におけるプラント・オパール分析結果	293
第16表	関遺跡7区出土人骨のまとめ	298
第17表	関遺跡7区出土人骨歯冠計測値及び比較表	299
第18表	観察した石器一覧	309
第19表	群馬県内出土腰帯具一覧	314

写 真 目 次

写真1	関7区1号墓坑出土人骨出土状況(西から撮影)	296
写真2	関7区1号墓坑出土歯齧蝕	296
写真3	関7区2号墓坑出土人骨出土状況(西から撮影)	297
写真4	関7区2号墓坑出土人骨下顎骨右側面(生前脱落)	297

写真5	関7区2号墓坑出土人骨下顎骨右咬合面(生前脱落)	297
写真6	関7区3号墓坑出土人骨出土状況(西から撮影)	298
写真7	関7区3号墓坑出土人骨齧蝕	298
写真8	上西根2区Vb層出土馬歯(上顎左P4・M1頬側面観)	298

口 絵

口絵1-1	遺新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡調査区全景(上が北、西に粕川)
口絵2-2	上西根遺跡2区33号竪穴住居出土丸軋裏金具(表面)

口絵2-3	上西根遺跡2区33号竪穴住居出土丸軋裏金具(裏面)
口絵2-4	丸軋裏金具X線写真 (撮影提供: 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所)

写真図版目次

- PL. 1 1. 7区全景(南から)
2. 7区全景(南から)
3. 7区作業風景(西から)
4. 7区基本土層
- PL. 2 1. 7区1号住居全景(西から)
2. 7区1号住居遺物出土状態(東から)
3. 7区1号住居遺物出土状態(東から)
4. 7区1号住居カマド全景(西から)
5. 7区2号住居全景(北から)
6. 7区2号住居土層断面A-A'(東から)
7. 7区2号住居カマド全景(北から)
8. 7区2号住居カマド土層断面D-D'(北から)
- PL. 3 1. 7区3号住居全景(南から)
2. 7区3号住居土層断面A-A' 南側(東から)
3. 7区3号住居土層断面A-A' 中側(東から)
4. 7区3号住居土層断面A-A' 北側(東から)
5. 7区3号住居調査風景(東から)
- PL. 4 1. 7区3号住居遺物出土状態(南から)
2. 7区3号住居遺物出土状態(南から)
3. 7区3号住居遺物出土状態(南から)
4. 7区3号住居カマド脇柱穴土層断面(南から)
5. 7区3号住居カマド全景(南から)
6. 7区3号住居カマド遺物出土状態(南から)
7. 7区3号住居カマド土層断面D-D'(東から)
8. 7区3号住居カマド土層断面F-F'(北東から)
- PL. 5 1. 7区4号住居全景(西から)
2. 7区4号住居土層断面B-B'(西から)
3. 7区4号住居遺物出土状態(西から)
4. 7区4号住居遺物出土状態(西から)
5. 7区4号住居カマド全景(西から)
6. 7区4号住居カマド土層断面D-D'(西から)
7. 7区4号住居カマド袖構築遺物出土状態(西から)
8. 7区5号住居掘方全景(東から)
- PL. 6 1. 7区8号住居全景(南から)
2. 7区8号住居土層断面B-B'(南から)
3. 7区8号住居遺物出土状態(南東から)
4. 7区8号住居カマド全景(南から)
5. 7区8号住居貯蔵穴土層断面(南から)
- PL. 7 1. 7区9号住居全景(北東から)
2. 7区9号住居土層断面A-A'(東から)
3. 7区9号住居遺物出土状態(北東から)
4. 7区9号住居遺物出土状態(東から)
5. 7区9号住居炭化物出土状態(東から)
6. 7区9号住居炭化物断面(北から)
7. 7区9号住居カマド土層断面D-D'(北から)
8. 7区9号住居貯蔵穴土層断面(南から)
- PL. 8 1. 7区10号住居全景(西から)
2. 7区10号住居土層断面A-A'(南から)
3. 7区10号住居遺物出土状態(西から)
4. 7区10号住居遺物出土状態(西から)
5. 7区10号住居カマド土層断面D-D'(西から)
6. 7区10号住居カマド土層断面D-D'(西から)
7. 7区10号住居掘方全景(西から)
8. 7区10号住居カマド掘方全景(西から)
- PL. 9 1. 7区12号住居全景(西から)
2. 7区12号住居土層断面B-B' 北側(西から)
3. 7区12号住居土層断面B-B' 南側(西から)
4. 7区12号住居遺物出土状態(西から)
5. 7区12号住居カマド全景(西から)
6. 7区12号住居カマド土層断面D-D'(西から)
7. 7区12号住居カマド土層断面C-C'(南から)
8. 7区13号住居掘方全景(西から)
- PL. 10 1. 7区14号住居全景(南から)
2. 7区14号住居土層断面A-A'(西から)
3. 7区14号住居遺物出土状態(西から)
4. 7区14号住居遺物出土状態(東から)
5. 7区14号住居遺物出土状態(南から)
6. 7区14号住居カマド全景(南から)
7. 7区14号住居カマド土層断面D-D'(南から)
8. 7区14号住居掘方全景(南から)
- PL. 11 1. 7区15号住居全景(西から)
2. 7区15号住居土層断面A-A'(南から)
3. 7区15号住居掘方全景(西から)
4. 7区15号住居カマド掘方全景(西から)
5. 7区16号住居全景(西から)
6. 7区16・17号住居土層断面A-A'(西から)
7. 7区17号住居全景(西から)
8. 7区17号住居掘方全景(西から)
- PL. 12 1. 7区18号住居全景(西から)
2. 7区18号住居土層断面A-A'(南から)
3. 7区18号住居遺物出土状態(西から)
4. 7区18号住居カマド土層断面D-D'(西から)
5. 7区18号住居掘方全景(西から)
- PL. 13 1. 7区19号住居全景(東から)
2. 7区19号住居土層断面A-A'(南から)
3. 7区19号住居遺物出土状態(南東から)
4. 7区19号住居遺物出土状態(南から)
5. 7区19号住居遺物出土状態(西から)
- PL. 14 1. 7区19号住居遺物出土状態(北から)
2. 7区19号住居炭化物と遺物出土状態(北東から)
3. 7区19号住居カマド全景(東から)
4. 7区19号住居カマド土層断面D-D'(東から)
5. 7区19号住居カマド土層断面C-C'(北から)
6. 7区19号住居カマド遺物出土状態(東から)
7. 7区19号住居掘方全景(東から)
8. 7区20号住居全景(西から)
- PL. 15 1. 7区21号住居全景(南から)
2. 7区21号住居土層断面B-B'(南から)
3. 7区21号住居カマド全景(南から)
4. 7区21号住居掘方全景(南から)
5. 7区22号住居全景(南から)
6. 7区22号住居土層断面B-B'(南から)
7. 7区22号住居カマド土層断面(西から)
8. 7区22号住居カマド掘方全景(南から)
- PL. 16 1. 7区23号住居全景(西から)
2. 7区23号住居土層断面A-A'(南から)
3. 7区23号住居カマド全景(西から)
4. 7区23号住居カマド土層断面D-D'(西から)
5. 7区23号住居カマド土層断面C-C'(北から)
6. 7区23号住居掘方全景(西から)
7. 7区24号住居全景(西から)
8. 7区24号住居掘方全景(西から)
- PL. 17 1. 7区1号溝全景(西から)
2. 7区1号溝土層断面(西から)
3. 7区2号溝全景(西から)
4. 7区2号溝土層断面(西から)
5. 7区3号溝全景(南から)
6. 7区3号溝遺物出土状態(南から)
7. 7区4号溝全景(西から)
8. 7区4号溝土層断面(西から)
- PL. 18 1. 7区5号溝全景(西から)
2. 7区5号溝土層断面(南西から)
3. 7区6・7号溝全景(北から)
4. 7区8・9号溝全景(東から)
5. 7区8号溝土層断面(東から)
6. 7区9号溝土層断面(東から)
7. 7区10号溝全景(北から)
8. 7区10号溝土層断面(北から)

- PL. 19 1. 7区11・12号溝全景(南から)
2. 7区11・12号溝土層断面(北から)
3. 7区13号溝全景(南から)
4. 7区13号溝土層断面(南から)
5. 7区14号溝全景(北から)
6. 7区14号溝土層断面(東から)
7. 7区調査風景(北から)
- PL. 20 1. 7区1号井戸遺物出土状態(北東から)
2. 7区1号井戸全景(東から)
3. 7区2号井戸全景(北から)
4. 7区2号井戸土層断面(南から)
5. 7区4号井戸・30号土坑全景(南から)
6. 7区4号井戸・30号土坑土層断面(東から)
7. 7区5号井戸全景(北から)
8. 7区6号井戸土層断面(北から)
- PL. 21 1. 7区1号墓坑人骨出土状態(西から)
2. 7区1号墓坑人骨出土状態(南から)
3. 7区1号墓坑土層断面(東から)
4. 7区2号墓坑人骨出土状態(東から)
5. 7区2号墓坑人骨出土状態(南から)
6. 7区2号墓坑土層断面(東から)
7. 7区3号墓坑人骨出土状態(南から)
8. 7区3号墓坑全景(南から)
- PL. 22 1. 7区1号土坑全景(北東から)
2. 7区1号土坑土層断面(北から)
3. 7区2・3・21号土坑全景(東から)
4. 7区2・3号土坑土層断面(東から)
5. 7区4号土坑全景(東から)
6. 7区4号土坑土層断面(東から)
7. 7区5号土坑全景(南から)
8. 7区5号土坑土層断面(南から)
9. 7区6号土坑全景(南から)
10. 7区7・8・13号土坑全景(南から)
11. 7区8・9号土坑土層断面(南から)
12. 7区9号土坑全景(南から)
13. 7区10号土坑全景(東から)
14. 7区11・12号土坑全景(北から)
15. 7区11・12号土坑土層断面(北から)
- PL. 23 1. 7区13号土坑土層断面(南から)
2. 7区14号土坑土層断面(東から)
3. 7区15号土坑全景(南から)
4. 7区15号土坑土層断面(南から)
5. 7区12・16号土坑全景(北から)
6. 7区17号土坑全景(南から)
7. 7区17号土坑土層断面(南から)
8. 7区18号土坑全景(東から)
9. 7区18号土坑土層断面(東から)
10. 7区19号土坑全景(南から)
11. 7区19号土坑土層断面(南から)
12. 7区20号土坑全景(北から)
13. 7区20号土層断面(南から)
14. 7区21号土坑全景(南から)
15. 7区21号土坑土層断面(南から)
- PL. 24 1. 7区22号土坑土層断面(南から)
2. 7区23号土坑全景(南から)
3. 7区23号土坑土層断面(東から)
4. 7区25号土坑土層断面(南西から)
5. 7区27号土坑土層断面(東から)
6. 7区28号土坑全景(南から)
7. 7区28号土坑土層断面(南から)
8. 7区29号土坑全景(北から)
9. 7区29号土坑土層断面(南から)
10. 7区1号柵(西から)
- PL. 25 1. 1区全景(北から)
2. 1区全景(北から)
- PL. 26 1. 1区全景(北から)
2. 1区基本土層(西から)
- PL. 27 1. 1区住居全景(西から)
2. 1区1号住居土層断面A-A'(南から)
3. 1区1号住居カマド遺物出土状態(西から)
4. 1区1号住居カマド土層断面D-D'(西から)
5. 1区2号住居全景(南西から)
6. 1区2号住居土層断面B-B'東側(南から)
7. 1区2号住居土層断面B-B'西側(南から)
8. 1区2号住居カマド全景(南西から)
- PL. 28 1. 1区3号住居全景(西から)
2. 1区3号住居土層断面B-B'西側(南から)
3. 1区3号住居土層断面B-B'東側(南から)
4. 1区3号住居焼土塊土層断面(南から)
5. 1区4号住居全景(東から)
6. 1区4号住居土層断面A-A'(東から)
7. 1区4号住居焼土・灰・炭化物土層断面(東から)
8. 1区4号住居掘方全景(東から)
- PL. 29 1. 1区5号住居全景(西から)
2. 1区5号住居炭化物出土状態
3. 1区5号住居西側カマド全景(東から)
4. 1区5号住居北側カマド全景(南から)
5. 1区6号住居全景(西から)
6. 1区6号住居土層断面A-A'(南から)
7. 1区6号住居焼土・灰・炭化物土層断面(西から)
8. 1区6号住居カマド掘方土層断面D-D'(西から)
- PL. 30 1. 1区7号住居土層断面A-A'(南から)
2. 1区7号住居カマド全景(南西から)
3. 1区7号住居カマド土層断面B-B'(南から)
4. 1区7号住居カマド掘方土層断面B-B'(南から)
5. 1区8号住居全景(西から)
6. 1区8号住居土層断面A-A'西側(南から)
7. 1区8号住居土層断面A-A'中側(南から)
8. 1区8号住居土層断面A-A'東側(南から)
- PL. 31 1. 1区9号住居全景(南西から)
2. 1区9号住居カマド土層断面A-A'(西から)
3. 1区9号住居カマド遺物出土状態(南から)
4. 1区9号住居カマド全景(南西から)
5. 1区10号住居全景(西から)
6. 1区10号住居遺物出土状態(南から)
7. 1区10号住居掘方全景(西から)
- PL. 32 1. 1区11号住居全景(西から)
2. 1区11号住居土層断面A-A'(西から)
3. 1区11号住居遺物出土状態(西から)
4. 1区11号住居掘方全景(西から)
5. 1区12号住居全景(南から)
6. 1区12号住居土層断面A-A'(北から)
7. 1区12号住居カマド全景(北から)
8. 1区12号住居掘方全景(北から)
- PL. 33 1. 1区13号住居全景(西から)
2. 1区13号住居土層断面A-A'(南から)
3. 1区13号住居遺物出土状態(西から)
4. 1区13号住居掘方全景(西から)
5. 1区14号住居全景(西から)
6. 1区15号住居全景(西から)
7. 1区15号住居土層断面A-A'(南から)
8. 1区15号住居カマド掘方土層断面D-D'(西から)
- PL. 34 1. 1区16号住居全景(西から)
2. 1区16号住居土層断面A-A'西側(南から)
3. 1区16号住居土層断面A-A'(南から)
4. 1区16号住居土層断面B-B'(南から)
5. 1区16号住居土層断面(東から)
- PL. 35 1. 1区16号住居カマド土層断面C-C'(南から)
2. 1区16号住居カマド土層断面D-D'(西から)
3. 1区16号住居カマド掘方土層断面C-C'(北から)
4. 1区16号住居カマド掘方土層断面D-D'(西から)
5. 1区16号住居貯蔵穴土層断面(南から)
6. 1区16号住居貯蔵穴土層断面(南から)
7. 1区16号住居P1土層断面(南から)
8. 1区16号住居調査風景(南から)

- PL. 36 1. 1区17号住居全景(南西から)
2. 1区17号住居土層断面A-A'(南から)
3. 1区17号住居カマド全景(南西から)
4. 1区17号住居カマド掘方土層断面(南東から)
5. 1区18号住居全景(南西から)
- PL. 37 1. 1区18号住居土層断面B-B'北側(西から)
2. 1区18号住居土層断面B-B'南側(西から)
3. 1区18号住居カマド全景(南西から)
4. 1区18号住居カマド掘方土層断面D-D'(南西から)
5. 1区1号井戸全景(東から)
6. 1区1号井戸土層断面(東から)
7. 1区2号井戸全景(南から)
8. 1区2号井戸土層断面(南から)
- PL. 38 1. 1区1号土坑全景(西から)
2. 1区1号土坑土層断面(南から)
3. 1区2号土坑全景(西から)
4. 1区2号土坑土層断面(南から)
5. 1区3号土坑全景(西から)
6. 1区3号土坑土層断面(南から)
7. 1区4号土坑坑全景(西から)
8. 1区4号土坑土層断面(南から)
- PL. 39 1. 2区全景(南から)
2. 2区全景(南から)
3. 2区全景(北から)
4. 2区全景(西から)
5. 2区調査風景(南から)
- PL. 40 1. 2区1号住居全景(南西から)
2. 2区1号住居遺物出土状態(西から)
3. 2区2号住居全景(南から)
4. 2区2号住居土層断面(東から)
5. 2区2号住居カマド土層断面C-C'(南から)
- PL. 41 1. 2区2号住居カマド土層断面(東から)
2. 2区2号住居掘方全景(南から)
3. 2区4・5号住居土層断面A-A'(西から)
4. 2区4・5号住居土層断面A-A'(西から)
5. 2区5号住居全景(南西から)
- PL. 42 1. 2区5号住居カマド土層断面C-C'(南から)
2. 2区5号住居全景(南西から)
3. 2区5号住居カマド掘方土層断面D-D'(南西から)
4. 2区5号住居掘方全景(南西から)
5. 2区7号住居全景(南から)
6. 2区7号住居土層断面A-A'(西から)
7. 2区7号住居カマド土層断面C-C'(南から)
8. 2区7号住居カマド付近遺物出土状態(南から)
- PL. 43 1. 2区7号住居カマド付近遺物出土状態(北から)
2. 2区7号住居掘方全景(南から)
3. 2区9号住居全景(西から)
4. 2区10号住居全景(西から)
- PL. 44 1. 2区9・10号住居土層断面A-A'(西から)
2. 2区10号住居カマド遺物出土状態(西から)
3. 2区10号住居カマド土層断面C-C'(南から)
4. 2区10号住居カマド全景(西から)
5. 2区11号住居全景(西から)
6. 2区11号住居土層断面B-B'(西から)
7. 2区11号住居カマド土層断面C-C'(南から)
8. 2区11号住居貯蔵穴全景(南から)
- PL. 45 1. 2区12号住居全景(西から)
2. 2区12号住居土層断面A-A'(南から)
3. 2区12号住居カマド全景(西から)
4. 2区12号住居カマド土層断面D-D'(西から)
5. 2区13号住居全景(西から)
6. 2区13号住居カマド全景(西から)
7. 2区13号住居カマド土層断面B-B'(南から)
8. 2区13号住居1号土坑全景(東から)
- PL. 46 1. 2区14号住居全景(西から)
2. 2区14号住居土層断面B-B'(西から)
3. 2区14・28号住居掘方全景(西から)
4. 2区14号住居掘方土層断面A-A'(南から)
5. 2区15号住居全景(西から)
- PL. 47 1. 2区17号住居全景(東から)
2. 2区17号住居土層断面A-A'(北から)
3. 2区17号住居焼土・炭化物検出状況(南から)
4. 2区17号住居遺物出土状態(東から)
5. 2区17号住居遺物出土状態(東から)
- PL. 48 1. 2区17号住居遺物出土状態(東から)
2. 2区17号住居カマド遺物出土状態(東から)
3. 2区17号住居カマド全景(東から)
4. 2区17号住居遺物出土状態(東から)
5. 2区18号住居全景(南西から)
6. 2区18号住居土層断面B-B'(西から)
7. 2区18号住居カマド全景(南から)
8. 2区18号住居カマド土層断面C-C'(北西から)
- PL. 49 1. 2区18号住居炭化物・遺物出土状態(北から)
2. 2区18号住居掘方全景(西から)
3. 2区19号住居全景(東から)
4. 2区19号住居土層断面A-A'(北から)
5. 2区20号住居土層断面(西から)
6. 2区21・22号住居全景(東から)
7. 2区21・22号住居土層断面A-A'(東から)
8. 2区23号住居土層断面A-A'(東から)
- PL. 50 1. 2区23号住居全景(東から)
2. 2区27号住居掘方全景(東から)
3. 2区27号住居P1土層断面(東から)
4. 2区29号住居全景(北東から)
5. 2区29号住居土層断面A-A'(東から)
- PL. 51 1. 2区30号住居全景(南から)
2. 2区30号住居土層断面A-A'(東から)
3. 2区30号住居遺物出土状態(南から)
4. 2区30号住居カマド遺物出土状態(南から)
5. 2区30号住居カマド遺物出土状態(東から)
- PL. 52 1. 2区30号住居カマド土層断面D-D'(南から)
2. 2区30号住居遺物・炭化物出土状態(西から)
3. 2区30号住居遺物・炭化物出土状態(北から)
4. 2区30号住居カマド掘方全景(南から)
5. 2区30号住居掘方全景(南から)
6. 2区31号住居全景(南から)
7. 2区31号住居土層断面A-A'(南から)
- PL. 53 1. 2区31号住居遺物出土状態(南から)
2. 2区31号住居遺物出土状態(南東から)
3. 2区32号住居全景(東から)
4. 2区32号住居土層断面A-A'(東から)
5. 2区32号住居遺物出土状態(東から)
6. 2区32号住居遺物出土状態(東から)
7. 2区32号住居遺物出土状態(東から)
8. 2区32号住居P2全景(南から)
- PL. 54 1. 2区32号住居P3全景(南から)
2. 2区32・33号住居掘方全景(南から)
3. 2区32・33号住居掘方全景(東から)
4. 2区34号住居全景・土層断面A-A'(東から)
5. 2区35号住居全景(西から)
6. 2区35号住居カマド全景(西から)
7. 2区35号住居カマド土層断面D-D'(南から)
8. 2区35号住居掘方全景(東から)
- PL. 55 1. 2区37号住居全景(東から)
2. 2区37号住居土層断面A-A'(西から)
3. 2区37号住居遺物出土状態(東から)
4. 2区37号住居掘方全景(東から)
5. 2区38号住居全景(西から)
6. 2区38号住居土層断面A-A'(西から)
7. 2区38号住居掘方全景(北から)
8. 2区49号住居全景(西から)
- PL. 56 1. 2区1号竪穴状遺構全景(南から)
2. 2区2号竪穴状遺構全景(西から)
3. 2区2号竪穴状遺構遺物出土状態(西から)
4. 2区4・10号竪穴状遺構全景(北東から)
5. 2区4号竪穴状遺構全景(西から)
6. 2区49号住居・5・7号竪穴状遺構全景(西から)
7. 2区6号竪穴状遺構全景(東から)
8. 2区5・6・8号竪穴状遺構全景(西から)

- PL. 57 1. 2区49号住居、4・7号竪穴状遺構全景(北西から)
2. 2区49号住居、4・7・10号竪穴状遺構全景(西から)
3. 2区49号住居、3・4・6・7・10号竪穴状遺構全景(東から)
4. 2区5～9号竪穴状遺構全景(南から)
5. 2区5～9号竪穴状遺構全景(北から)
6. 2区6・8・9号竪穴状遺構全景(東から)
7. 2区5・6・8・9号竪穴状遺構全景(西から)
8. 2区4・7・10号竪穴状遺構全景(北東から)
- PL. 58 1. 2区49号住居、4号竪穴状遺構全景(南から)
2. 2区1号溝全景(西から)
3. 2区1号溝土層断面(西から)
4. 2区2・3号溝全景(北から)
5. 2区2・3号溝全景(南から)
6. 2区4号溝全景(南から)
7. 2区5号溝土層断面(西から)
- PL. 59 1. 2区1号土坑全景(東から)
2. 2区1号土坑土層断面(東から)
3. 2区3号土坑全景(西から)
4. 2区3号土坑土層断面(西から)
5. 2区4号土坑全景(東から)
6. 2区4号土坑土層断面(東から)
7. 2区5号土坑土層断面(南東から)
8. 2区6・7号土坑全景(南から)
9. 2区6号土坑土層断面(南西から)
10. 2区7号土坑全景・土層断面(南西から)
11. 2区7号土坑土層断面(南西から)
12. 2区8号土坑全景(北から)
13. 2区8号土坑土層断面(南西から)
14. 2区9号土坑全景(東から)
15. 2区10号土坑全景(西から)
- PL. 60 1. 2区10号土坑土層断面(東から)
2. 2区11号土坑全景(南から)
3. 2区11号土坑土層断面(南から)
4. 2区12号土坑全景(東から)
5. 2区12号土坑土層断面(東から)
6. 2区13号土坑全景(南から)
7. 2区13号土坑土層断面(南から)
8. 2区14号土坑全景(南から)
9. 2区15号土坑全景(西から)
10. 2区16号土坑全景(南から)
11. 2区16号土坑土層断面(南から)
12. 2区17号土坑全景(南から)
13. 2区17号土坑土層断面(南から)
14. 2区18・19号土坑全景(南から)
15. 2区18・19号土坑土層断面(南から)
- PL. 61 1. 2区19号土坑土層断面(南から)
2. 2区20号土坑全景(南から)
3. 2区20号土坑土層断面(南から)
4. 2区21号土坑全景(南から)
5. 2区21号土坑土層断面(南から)
6. 2区22号土坑全景(南から)
7. 2区22号土坑土層断面(南から)
8. 2区23号土坑全景(南から)
9. 2区23号土坑炭化物検出状況(南から)
10. 2区25号土坑全景(東から)
11. 2区26号土坑全景(東から)
12. 2区27・29号土坑全景(東から)
13. 2区28・30号土坑全景(東から)
14. 2区31号土坑全景(東から)
15. 2区37号土坑全景(南から)
- PL. 62 1. 3区全景(南から)
2. 3区全景(北から)
- PL. 63 1. 3区1号住居掘方全景(西から)
2. 3区1号住居土層断面A-A'(西から)
3. 3区1号住居カマド土層断面B-B'(南から)
4. 3区1号住居カマド土層断面C-C'(南西から)
5. 3区1号住居P1土層断面(西から)
6. 3区1号住居カマド掘方全景(西から)
7. 3区2号住居全景(南西から)
8. 3区2号住居土層断面A-A'(西から)
- PL. 64 1. 3区2号住居全景(南西から)
2. 3区2号住居遺物出土状態(南西から)
3. 3区2号住居全景(南西から)
4. 3区2号住居P1全景(西から)
5. 3区2号住居P2全景(南東から)
6. 3区2号住居P3土層断面(北から)
7. 3区3号住居全景(東から)
8. 3区3号住居土層断面B-B'(東から)
- PL. 65 1. 3区4号住居全景(東から)
2. 3区4号住居土層断面A-A'(西から)
3. 3区4号住居土層断面A-A'近景(西から)
4. 3区4号住居遺物出土状態(東から)
5. 3区4号住居掘方全景(東から)
6. 3区4号住居掘方土層断面(西から)
7. 3区5号住居全景(東から)
8. 3区1号竪穴状遺構全景(東から)
- PL. 66 1. 3区1号礎石建物全景(南から)
2. 3区1号礎石建物検出状況(西から)
3. 3区1号礎石建物検出状況(西から)
4. 3区1号礎石建物根石9(南から)
5. 3区1号礎石建物根石3(南から)
6. 3区1号礎石建物根石3土層断面(南から)
7. 3区1号礎石建物根石4(南から)
8. 3区1号礎石建物根石4土層断面(南から)
- PL. 67 1. 3区1号溝土層断面(南から)
2. 3区2号溝全景(西から)
3. 3区2号溝土層断面(西から)
4. 3区3号溝全景(西から)
5. 3区3号溝全景(東から)
6. 3区3号溝土層断面(東から)
- PL. 68 1. 3区2号土坑全景(南から)
2. 3区2号土坑土層断面(南から)
3. 3区3号土坑全景(南から)
4. 3区3号土坑土層断面(南から)
5. 3区4号土坑全景(南から)
6. 3区4号土坑土層断面(南から)
7. 3区5号土坑全景(南から)
8. 3区5号土坑土層断面(南から)
9. 3区6号土坑全景(東から)
10. 3区6号土坑土層断面(東から)
11. 3区7・8・19号土坑全景(東から)
12. 3区7号土坑土層断面(東から)
13. 3区8号土坑土層断面(東から)
- PL. 69 1. 3区9号土坑全景(東から)
2. 3区9号土坑土層断面(東から)
3. 3区10号土坑全景(東から)
4. 3区10号土坑土層断面(東から)
5. 3区11号土坑全景(東から)
6. 3区11号土坑土層断面(東から)
7. 3区12号土坑全景(南から)
8. 3区12号土坑土層断面(南から)
9. 3区13・16号土坑全景(北から)
10. 3区13号土坑土層断面(南から)
11. 3区14・18号土坑全景(北から)
12. 3区14号土坑土層断面(南から)
13. 3区15号土坑全景(西から)
14. 3区16号土坑土層断面(南から)
15. 3区17号土坑全景(南から)

- PL. 70 1. 3区17号土坑土層断面(南から)
2. 3区20号土坑土層断面(北から)
3. 3区21号土坑全景(南から)
4. 3区21号土坑土層断面(南から)
5. 3区22号土坑土層断面(南西から)
6. 3区24・25・28・29号土坑全景(北から)
7. 3区24・25号土坑土層断面(西から)
8. 3区26号土坑土層断面(東から)
9. 3区27号土坑全景(西から)
10. 3区27号土坑土層断面(南から)
11. 3区30号土坑全景(西から)
12. 3区30号土坑土層断面(南から)
13. 3区31・32号土坑全景(西から)
14. 3区31・32号土坑土層断面(西から)
15. 3区32号土坑全景(西から)
- PL. 71 1. 3区32号土坑土層断面(西から)
2. 3区33号土坑全景(東から)
3. 3区34号土坑全景(南から)
4. 3区34号土坑土層断面(南から)
5. 3区35～37号土坑全景(東から)
6. 3区35～37号土坑全景(南から)
7. 3区35・37号土坑土層断面(東から)
8. 3区36・37号土坑土層断面(西から)
9. 3区38号土坑全景(南から)
10. 3区39号土坑全景(北から)
11. 3区39号土坑土層断面(南から)
12. 3区40号土坑全景(北から)
13. 3区40号土坑土層断面(南から)
14. 3区41～43号土坑全景(南から)
15. 3区41・42号土坑全景(南から)
- PL. 72 1. 3区41号土坑土層断面(東から)
2. 3区41号土坑掘方土層断面(東から)
3. 3区41号土坑掘方土層断面(東から)
4. 3区41号土坑掘方土層断面(東から)
5. 3区41号土坑掘方全景(東から)
6. 3区42号土坑土層断面(東から)
7. 3区43号土坑全景(南から)
8. 3区43号土坑断面(東から)
9. 3区44号土坑全景(西から)
10. 3区45号土坑全景(西から)
11. 3区45号土坑土層断面(西から)
12. 3区46号土坑全景(西から)
13. 3区48号土坑全景(東から)
14. 3区49号土坑全景(東から)
15. 3区調査風景
- PL. 73 1. 4区全景(北から)
2. 4区全景(南から)
- PL. 74 1. 4区2号住居全景(西から)
2. 4区2号住居土層断面A-A'(東から)
3. 4区2号カマド住居全景(西から)
4. 4区2号住居カマド土層断面D-D'(西から)
5. 4区2号住居カマド土層断面C-C'(南から)
- PL. 75 1. 4区2号住居カマド掘方全景(西から)
2. 4区2号住居P1全景(南から)
3. 4区2号住居掘方全景(西から)
4. 4区2号住居掘方全景(南西から)
5. 4区3号住居全景(南西から)
- PL. 76 1. 4区3号住居土層断面C-C'(南から)
2. 4区3号住居カマド土層断面C-C'・D-D'(南西から)
3. 4区3号住居P1土層断面(南から)
4. 4区3号住居P3土層断面(南から)
5. 4区3号住居P4土層断面(南から)
6. 4区3・4号住居掘方全景(西から)
7. 4区4号住居掘方土層断面A-A'(西から)
8. 4区調査風景(南から)
- PL. 77 1. 4区5号住居全景(西から)
2. 4区5号住居土層断面A-A'(東から)
3. 4区5号住居カマド全景(西から)
4. 4区5号住居カマド土層断面B-B'(北から)
5. 4区6号住居掘方全景(西から)
6. 4区6号住居遺物出土状態(西から)
7. 4区1号竪穴状遺構全景(西から)
8. 4区1号竪穴状遺構土層断面A-A'(東から)
- PL. 78 1. 4区1号溝全景(北から)
2. 4区1号溝土層断面(南から)
3. 4区2号溝全景(南から)
4. 4区2号溝土層断面(北から)
5. 4区3～7号溝全景(北から)
6. 4区3～7号溝全景(南から)
7. 4区3号溝土層断面(北から)
- PL. 79 1. 4区3～7号溝全景(東から)
2. 4区3～7号溝全景(西から)
3. 4区3・4・7号溝土層断面(南西から)
4. 4区7号溝土層断面(南西から)
5. 4区7号溝遺物出土状態(西から)
6. 4区7号溝遺物出土状態(西から)
7. 4区7号溝遺物出土状態(北から)
8. 4区7号溝遺物出土状態(東から)
- PL. 80 1. 4区1号井戸全景(南から)
2. 4区1号井戸土層断面(北から)
3. 4区1号井戸土層断面(南から)
4. 4区1号井戸完掘状況(南から)
5. 4区2号井戸全景(北西から)
6. 4区2号井戸土層断面(西から)
7. 4区2号井戸遺物出土状態(南から)
8. 4区2号井戸遺物出土状態(南から)
- PL. 81 1. 4区1・2号土坑全景(東から)
2. 4区1・2号土坑土層断面(東から)
3. 4区3号土坑全景(東から)
4. 4区3号土坑土層断面(南東から)
5. 4区4号土坑全景(東から)
6. 4区4号土坑土層断面(南から)
7. 4区5号土坑全景(東から)
8. 4区5号土坑土層断面(東から)
9. 4区6号土坑全景(東から)
10. 4区6号土坑土層断面(南から)
11. 4区7号土坑全景(南から)
12. 4区7号土坑土層断面(南から)
13. 4区8号土坑全景(南から)
14. 4区8号土坑土層断面(南西から)
15. 4区9号土坑全景(東から)
- PL. 82 1. 4区9号土坑土層断面(西から)
2. 4区10号土坑全景(東から)
3. 4区11・12号土坑全景(東から)
4. 4区11・12号土坑土層断面(東から)
5. 4区13・14号土坑全景(東から)
6. 4区13号土坑土層断面(東から)
7. 4区14号土坑全景(東から)
8. 4区14号土坑土層断面(西から)
9. 4区15号土坑全景(東から)
10. 4区15号土坑土層断面(東から)
11. 4区16号土坑全景(北から)
12. 4区16号土坑土層断面(北から)
13. 4区17号土坑全景(南から)
14. 4区18・19号土坑全景(南から)
15. 4区18号土坑土層断面(南から)
- PL. 83 1. 4区19号土坑全景(南から)
2. 4区20号土坑全景(東から)
3. 4区20号土坑土層断面(東から)
4. 4区21・22号土坑全景(南から)
5. 4区21・22号土坑土層断面(南から)
6. 4区23号土坑全景(南から)
7. 4区25号土坑全景(東から)
8. 4区24号土坑全景(東から)
9. 4区26・27号土坑全景(西から)
10. 4区26・27号土坑土層断面(南から)
11. 4区27号土坑遺物出土状態(南から)
12. 4区27号土坑遺物出土状態(南から)
13. 4区28号土坑全景(西から)
14. 4区28号土坑土層断面(南から)

- PL. 84 1. 4区29号土坑全景(西から)
2. 4区29号土坑土層断面(南から)
3. 4区30・31号土坑全景(東から)
4. 4区32号土坑全景(南から)
5. 4区32号土坑土層断面(南から)
6. 4区35号土坑土層断面(南から)
7. 4区36号全景(南から)
8. 4区36号土坑土層断面(南から)
9. 4区37号土坑土層断面(北から)
10. 4区38号土坑全景(北から)
11. 4区38号土坑土層断面(南から)
12. 4区40号土坑土層断面(南東から)
13. 4区41号土坑全景(北から)
14. 4区41号土坑土層断面(南から)
15. 4区43号土坑全景(東から)
- PL. 85 1. 5区全景(北から)
2. 5区全景(北から)
- PL. 86 1. 5区全景(南から)
2. 5区調査風景(北から)
- PL. 87 1. 5区1号住居全景(南西から)
2. 5区1号住居土層断面B-B'(南から)
3. 5区1号住居カマド土層断面C-C'(東から)
4. 5区1号住居カマド掘方土層断面D-D'(南から)
5. 5区1号住居掘方全景(南西から)
- PL. 88 1. 5区2号住居全景(南から)
2. 5区2号住居遺物出土状態(南から)
3. 5区2号住居遺物出土状態(南東から)
4. 5区2号住居遺物出土状態(南東から)
5. 5区2号住居遺物出土状態(南東から)
- PL. 89 1. 5区2号住居全景(南から)
2. 5区2号住居土層断面(南東から)
3. 5区2号住居カマド土層断面E-E'(南から)
4. 5区2号住居カマド土層断面D-D'(西から)
5. 5区2号住居カマド掘方全景(南から)
- PL. 90 1. 5区2号住居貯蔵穴全景(南から)
2. 5区2号住居P2土層断面(南から)
3. 5区2号住居P3土層断面(南から)
4. 5区2号住居掘方全景(南から)
5. 5区1号溝全景(西から)
6. 5区1号溝土層断面(東から)
7. 5区2号溝全景(西から)
8. 5区2号溝全景(西から)
- PL. 91 1. 5区3号溝全景(西から)
2. 5区3号溝土層断面(西から)
3. 5区1号井戸遺物出土状態(南から)
4. 5区2号井戸土層断面(西から)
5. 5区1号井戸土層断面(南から)
6. 5区2号井戸土層断面(西から)
7. 5区2号井戸土層断面(西から)
- PL. 92 1. 5区2号土坑全景(南東から)
2. 5区2号土坑土層断面(北東から)
3. 5区3号土坑全景(南西から)
4. 5区3号土坑土層断面(南東から)
5. 5区4号土坑全景(南西から)
6. 5区4号土坑土層断面(南から)
7. 5区6号土坑全景(東から)
8. 5区6号土坑土層断面(東から)
9. 5区7号土坑全景(南から)
10. 5区7号土坑土層断面(南から)
11. 5区8号土坑全景(南から)
12. 5区8号土坑土層断面(南から)
13. 5区7~9・18・19号土坑全景(北から)
14. 5区9号土坑土層断面(南から)
15. 5区10号土坑全景(北から)
- PL. 93 1. 5区10号土坑土層断面(南から)
2. 5区11号土坑全景(南から)
3. 5区11号土坑土層断面(南から)
4. 5区12号土坑全景(西から)
5. 5区12号土坑土層断面(南から)
6. 5区13号土坑全景(北から)
7. 5区13号土坑土層断面(南から)
8. 5区14号土坑全景(東から)
9. 5区14号土坑土層断面(西から)
10. 5区15~17号土坑全景(西から)
11. 5区15~17号土坑土層断面(南から)
12. 5区18・19号土坑全景(北から)
13. 5区18・19号土坑土層断面(南から)
14. 5区20号土坑全景(南から)
15. 5区20号土坑土層断面(南から)
- PL. 94 1. 5区21号土坑全景(東から)
2. 5区21号土坑土層断面(西から)
3. 5区22号土坑全景(南から)
4. 5区22号土坑土層断面(南から)
5. 5区23号土坑全景(北から)
6. 5区23号土坑土層断面(南から)
7. 5区24号土坑全景(西から)
8. 5区24号土坑土層断面(西から)
9. 5区25号土坑全景(西から)
10. 5区25号土坑土層断面(西から)
11. 5区26号土坑全景(西から)
12. 5区26・27号土坑土層断面(西から)
13. 5区27号土坑全景(西から)
14. 5区29号土坑全景(南から)
15. 5区29号土坑土層断面(南から)
- PL. 95 1. 5区30号土坑全景(南から)
2. 5区30号土坑土層断面(南から)
3. 5区31号土坑全景(東から)
4. 5区31号土坑土層断面(東から)
5. 5区32号土坑全景(南から)
6. 5区33号土坑全景(南から)
7. 5区33号土坑土層断面(南から)
8. 5区33・34・80号土坑全景(南から)
9. 5区34号土坑土層断面(南から)
10. 5区35号土坑全景(南から)
11. 5区35号土坑土層断面(南から)
12. 5区36号土坑全景(南から)
13. 5区36号土坑土層断面(北から)
14. 5区37号土坑全景(南から)
15. 5区37号土坑土層断面(南から)
- PL. 96 1. 5区38号土坑全景(南から)
2. 5区38号土坑土層断面(南から)
3. 5区39号土坑全景(南から)
4. 5区39号土坑土層断面(南から)
5. 5区40号土坑全景(南から)
6. 5区40号土坑土層断面(南から)
7. 5区41・42号土坑全景(南から)
8. 5区42号土坑土層断面(東から)
9. 5区43・45・47・61・62号土坑全景(東から)
10. 5区43号土坑土層断面(東から)
11. 5区44号土坑(南から)
12. 5区44号土坑土層断面(北から)
13. 5区43・45・47・61・62号土坑全景(東から)
14. 5区45号土坑土層断面(東から)
15. 5区46・81号土坑全景(東から)

- PL. 97 1. 5区46号土坑土層断面(北から)
2. 5区47・61・62号土坑土層断面(東から)
3. 5区48号土坑全景(南から)
4. 5区48号土坑土層断面(南から)
5. 5区49・50号土坑全景(南から)
6. 5区49・50号土坑土層断面(東から)
7. 5区51号土坑全景(南から)
8. 5区51号土坑土層断面(南から)
9. 5区52号土坑全景(南から)
10. 5区52号土坑土層断面(南から)
11. 5区53号土坑全景(南から)
12. 5区53号土坑土層断面(南から)
13. 5区54号土坑全景(南から)
14. 5区54号土坑土層断面(南から)
15. 5区55号土坑土層断面(西から)
- PL. 98 1. 5区56号土坑全景(西から)
2. 5区56号土坑土層断面(南から)
3. 5区57号土坑全景(南から)
4. 5区57号土坑土層断面(南から)
5. 5区58号土坑遺物出土状態(西から)
6. 5区58号土坑全景(西から)
7. 5区58号土坑土層断面(西から)
8. 5区59・60号土坑全景(西から)
9. 5区59・60号土坑全景(西から)
10. 5区63～65号土坑全景(東から)
11. 5区63号土坑土層断面(東から)
12. 5区64号土坑土層断面(西から)
13. 5区65号土坑土層断面(東から)
14. 5区66・67号土坑全景(南から)
15. 5区66・67号土坑土層断面(南から)
- PL. 99 1. 5区68・69号土坑全景(東から)
2. 5区70号土坑全景(南西から)
3. 5区71・72号土坑全景(北から)
4. 5区71・72号土坑土層断面(北から)
5. 5区73号土坑全景(南から)
6. 5区73号土坑土層断面(南から)
7. 5区74号土坑全景(南から)
8. 5区74号土坑土層断面(南から)
9. 5区76号土坑全景(北東から)
10. 5区76号土坑土層断面(西から)
11. 5区77号土坑土層断面(西から)
12. 5区78号土坑全景(西から)
13. 5区78号土坑土層断面(南から)
14. 5区79号土坑全景(西から)
15. 5区79号土坑土層断面(西から)
- PL. 100 1. 1区調査風景(北から)
2. 1区全景(北から)
3. 1区全景(南から)
4. 1区全景(南から)
5. 1区全景(北から)
6. 1区全景(南から)
7. 1区全景(北から)
8. 1区調査風景(南から)
- PL. 101 1. 1区1号住居全景(北から)
2. 1区1号溝全景(東から)
3. 1区1号溝土層断面(東から)
4. 1区2～7号溝全景(北から)
5. 1区3号溝土層断面(東から)
6. 1区3号溝土層断面(東から)
7. 1区4～7号溝土層断面(南から)
8. 1区8・15号溝全景(西から)
- PL. 102 1. 1区8・15号溝土層断面(西から)
2. 1区9～11号溝、35号土坑土層断面(西から)
3. 1区11号溝土層断面(東から)
4. 1区12号溝全景(東から)
5. 1区12号溝土層断面(東から)
6. 1区13・14号溝全景(東から)
7. 1区13号溝土層断面(東から)
8. 1区14号溝土層断面(東から)
- PL103 1. 1区1号土坑全景(北から)
2. 1区2号土坑全景(南から)
3. 1区2号土坑土層断面(南から)
4. 1区3号土坑全景(南から)
5. 1区3号土坑土層断面(西から)
6. 1区4号土坑全景(南から)
7. 1区4号土坑土層断面(南から)
8. 1区5号土坑全景(東から)
9. 1区6・7号土坑全景(東から)
10. 1区6・7号土坑土層断面(南から)
11. 1区8号土坑全景(西から)
12. 1区10号土坑全景(西から)
13. 1区12・13号土坑土層断面(東から)
14. 1区12・13号土坑全景(東から)
15. 1区12・13号土坑土層断面(東から)
- PL. 104 1. 1区14～16号土坑全景(南から)
2. 1区14～16号土坑土層断面(南から)
3. 1区17号土坑全景(西から)
4. 1区17号土坑土層断面(西から)
5. 1区17～20号土坑全景(南から)
6. 1区18号土坑土層断面(東から)
7. 1区19号土坑土層断面(東から)
8. 1区20号土坑土層断面(東から)
9. 1区21・22号土坑全景(東から)
10. 1区21・22号土坑土層断面(南から)
11. 1区25号土坑全景(東から)
12. 1区25号土坑土層断面(南から)
13. 1区26号土坑全景(東から)
14. 1区26号土坑土層断面(西から)
15. 1区28号土坑全景(西から)
- PL. 105 1. 1区28号土坑土層断面(東から)
2. 1区29・30号土坑全景(南から)
3. 1区29号土坑土層断面(東から)
4. 1区30号土坑土層断面(南から)
5. 1区31号土坑土層断面(西から)
6. 1区31号土坑土層断面(西から)
7. 1区32・38号土坑、9～11号溝全景(西から)
8. 1区32号土坑土層断面(西から)
9. 1区33号土坑全景(西から)
10. 1区33号土坑土層断面(西から)
11. 1区36号土坑全景(東から)
12. 1区36号土坑土層断面(東から)
13. 1区37号土坑全景(東から)
14. 1区37号土坑土層断面(西から)
15. 1区38号土坑土層断面(西から)
- PL. 106 1. 1区39号土坑全景(北から)
2. 1区39号土坑土層断面(北から)
3. 1区40号土坑全景(南西から)
4. 1区40号土坑土層断面(南西から)
5. 1区40号土坑木桶底部検出状況(南西から)
6. 1区40号土坑木桶底部検出状況(南西から)
7. 1区41号土坑全景(南から)
8. 1区41号土坑土層断面(南から)
9. 1区42号土坑全景(南から)
10. 1区42号土坑土層断面(南から)
11. 1区43号土坑、12号溝全景(南から)
12. 1区43号土坑、12号溝土層断面(東から)
13. 1区44号土坑全景(南から)
14. 1区45・52号土坑全景(南から)
15. 1区45・52号土坑土層断面(南から)

- PL. 107 1. 1区46・47号土坑全景(東から)
 2. 1区46・47号土坑土層断面(東から)
 3. 1区48・49号土坑全景(東から)
 4. 1区48・49号土坑土層断面(東から)
 5. 1区50号土坑全景(西から)
 6. 1区51号土坑全景(北から)
 7. 1区53号土坑土層断面(西から)
 8. 1区53号土坑、49号ピット全景(西から)
 9. 1区55・56号土坑全景(西から)
 10. 1区54・59号土坑全景(東から)
 11. 1区55号土坑土層断面(西から)
 12. 1区56号土坑全景・土層断面(西から)
- PL. 108 関7区1号住居出土遺物
 PL. 109 関7区2号住居・3号住居出土遺物
 PL. 110 関7区3号住居出土遺物
 PL. 111 関7区3号住居出土遺物
 PL. 112 関7区3号住居出土遺物
 PL. 113 関7区3号住居・4号住居出土遺物
 PL. 114 関7区4号住居・5号住居・8号住居・9号住居・10号住居出土遺物
 PL. 115 関7区10号住居・12号住居・14号住居出土遺物
 PL. 116 関7区14号住居・15号住居・17号住居・18号住居出土遺物
 PL. 117 関7区18号住居・19号住居出土遺物
 PL. 118 関7区19号住居・21号住居出土遺物
 PL. 119 関7区21号住居・22号住居・23号住居・1号溝・3号溝・5号溝出土遺物
 PL. 120 関7区5号溝・14号溝・1号井戸・2号井戸・4号井戸出土遺物
 PL. 121 関7区4号井戸・5号井戸出土遺物
 PL. 122 関7区2号墓坑・3号墓坑・3号土坑・7号土坑・27号土坑・遺構外出土遺物
 PL. 123 上西根1区1号住居・2号住居・3号住居・4号住居・5号住居・6号住居・7号住居出土遺物
- PL. 124 上西根1区7号住居・8号住居・9号住居・10号住居・12号住居・13号住居出土遺物
 PL. 125 上西根1区13号住居・14号住居・15号住居・16号住居・17号住居・18号住居・1号井戸・3号土坑・遺構外、2区1号住居・2号住居出土遺物
 PL. 126 上西根2区4号住居・5号住居出土遺物
 PL. 127 上西根2区5号住居・7号住居出土遺物
 PL. 128 上西根2区10号住居・11号住居・13号住居・15号住居・17号住居出土遺物
 PL. 129 上西根2区17号住居出土遺物
 PL. 130 上西根2区18号住居・20号住居・22号住居・28号住居・29号住居・30号住居出土遺物
 PL. 131 上西根2区30号住居・31号住居・32号住居・33号住居・35号住居出土遺物
 PL. 132 上西根2区37号住居・38号住居・49号住居・1号竪穴状遺構・2号竪穴状遺構・4号竪穴状遺構・6号竪穴状遺構・7号竪穴状遺構出土遺物
 PL. 133 上西根2区3号溝・4号溝・遺構外出土遺物
 PL. 134 上西根3区2a号住居・4号住居・22号土坑・32号土坑・41号土坑・48号土坑・遺構外、4区2号住居・3号住居・5号住居・6号住居出土遺物
 PL. 135 上西根4区1号竪穴状遺構・1号溝・3号溝・6号溝・7号溝・1号井戸・2号井戸出土遺物
 PL. 136 上西根4区9号土坑・11号土坑・14号土坑・15号土坑・26号土坑・27号土坑・26号ピット・遺構外、5区2号住居出土遺物
 PL. 137 上西根5区2号住居・1号溝出土遺物
 PL. 138 上西根5区1号井戸・12号土坑・17号土坑・31号土坑・49号土坑・70号土坑・遺構外、新屋敷1区38号土坑・40号土坑・43号土坑出土遺物

第1章 調査の経過と方法

第1節 発掘調査に至る経緯

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の今回の調査区は群馬県伊勢崎市本関町・鹿島町に所在する。

伊勢崎市は群馬県南部に位置し、前橋市、高崎市、太田市、桐生市、みどり市、佐波郡玉村町のほか、南部を流れる利根川を挟んで埼玉県本庄市などの市町と隣接している。伊勢崎市はこれまでに、周辺町村と度重なる編入や合併を行ってきたが、平成17年には、「平成の大合併」により、赤堀町、東村、境町と合併し現在の伊勢崎市に至っている。

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡は、J R伊勢崎駅より北東約2.5kmに位置する。関遺跡から北東約1.2kmには平成23年3月に全面開通した北関東自動車道伊勢崎インターチェンジおよび国道17号上武道路が走行するなど主要交通網が発達し、沿線では伊勢崎三和工業団地など大規模な開発が進む地域である。

伊勢崎市街地からみどり市大間々町を結ぶ国道462号は、主要交通網である上武国道や北関東自動車道伊勢崎

インターチェンジと隣接し、アクセス道として交通量の増加が予想されるため拡幅工事が計画された。

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡は、国道462号道路改築工事業に伴い、群馬県教育委員会文化財保護課による試掘・確認調査が平成19年7月24日から7月26日に群馬県伊勢崎市鹿島町および本関町において行われた。試掘・確認調査の結果、古墳時代の住居や土坑、溝などの遺構や土師器や須恵器などの遺物が確認されたため本調査が必要であると判断された。平成20年度国道462号道路改築事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所からの委託を受けて公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月に公益財団法人に組織改定、以下当事業団と略す)が実施することとなり、平成20年6月20日伊勢崎土木事務所と当事業団理事長との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約の締結が行われた。

群馬県教育委員会文化財保護課による前年度未実施となっていた関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の試掘・確認調査については、平成20年6月18日から6月20日に実施した結果、住居などの遺構や遺物が確認されたため本



第1図 関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡と群馬県の地勢
(国土地理院 1:200,000地勢図「長野」平成10年2月1日発行、「大胡」平成18年4月1日発行使用)



第2図 関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡位置図
(国土地理院 1:25,000地形図「大胡」平成22年12月1日発行、「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)

調査が必要であると判断された。国道462号東側拡幅となる新屋敷遺跡の試掘・確認トレンチの一部では、遺構が確認されたが幅が狭小であり確認面が深く歩道主体の施工内容から保護層が確保されるとともに試掘調査によって旧地形などが確認できたため本調査は不要と判断された。平成20年6月20日に群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所から群馬県教育委員会に発掘承諾書が提出され埋蔵文化財発掘調査のための発掘が承諾された。

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の平成20年度発掘調査は、平成20年7月1日～平成20年9月30日(第1次)、平成21年2月1日～平成21年3月31日(第2次)となり、調査区の総面積は8,113.16㎡である。現国道462号を挟んで東側調査区が新屋敷遺跡、西側が上西根遺跡であり、上西根遺跡以北が関遺跡となる(第3図)。上西根遺跡1区では、調査区西側に排水管が南北に埋設され、それに先立ち伊勢崎市教育委員会が平成9年にすでに発掘調査を実施していた(第7図、伊勢崎市教育委員会 2004)。そのため、調査区西側は幅3mが調査不要であった。第1次発掘調査は、北側の関遺跡7区、上西根遺跡1区から着手し、調査によって竪穴住居、土坑、溝等の遺構数が当初の想定を上回ることとなり、さらに群馬県教育委員会文化財保護課による試掘調査の結果から遺構数を増加して想定する必要性が生じた。これらの理由から、発掘調査委託契約を変更する必要性が生じたため、平成20年12月12日に発掘調査委託契約の一部変更について協議を行った。上述の変更理由などにより委託料増額、発掘調査員増、発掘調査期間を平成20年7月1日～平成20年9月30日、平成21年1月1日～平成21年3月31日として契約内容を変更し、変更契約を締結した。発掘調査期間は変更契約によって1か月延長され、平成21年3月31日に終了した。

第2節 調査区の設定

平成20年度の関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の調査区域は国道462号に沿って南北におよそ580mと帯状に長い。発掘調査にあたり、国家座標に基づいたグリッドを用いた付名は行わず、国道462号と交わる市道などを境界として、便宜的に北から南へそれぞれ順に新屋敷遺跡1区から7区と呼称した。関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の基準点は、国家座標IX系 X = 38,531.810、Y = -56,148.492である。

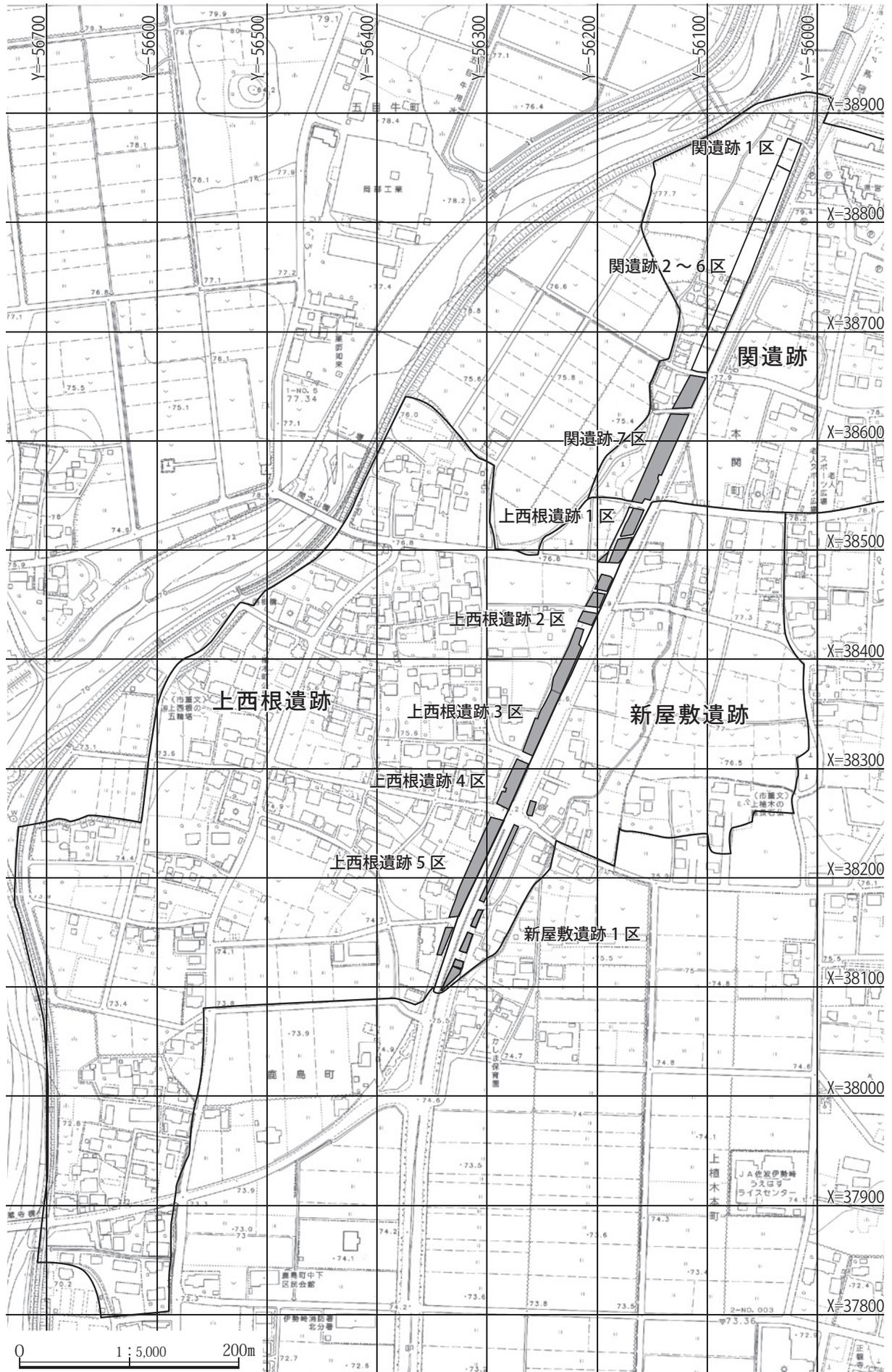
本報告書では、発掘調査で便宜上新屋敷遺跡として取り扱っていたものを『伊勢崎市遺跡分布地図』により国道462号東側が新屋敷遺跡、西側が上西根遺跡、上西根遺跡以北の調査区が関遺跡とした。本報告書では、発掘調査時に呼称していた新屋敷遺跡1区を関遺跡7区に、同じく新屋敷遺跡2区から6区をそれぞれ上西根遺跡1区から5区に、新屋敷遺跡7区を新屋敷遺跡1区に変更した(第1表、第3図)。関遺跡は平成23・24年度の発掘調査で国道462号に沿って北から1区、2区・・・6区と呼称した。本報告書で対象とする関遺跡の調査区は南端の7区に当たるため、関遺跡7区と変更したものである。それぞれの調査面積は、関遺跡1374.84㎡(7区)、上西根遺跡5226.99㎡(1区1024.58㎡、2区1576.54㎡、3区761.25㎡、4区730.03㎡、5区1134.59㎡)、新屋敷遺跡1511.33㎡(1区)である。

第1表 遺跡名、調査区名変更一覧表

平成20年度発掘調査時 (変更前)	本報告書 (変更後)
新屋敷遺跡1区	関遺跡7区
新屋敷遺跡2区	上西根遺跡1区
新屋敷遺跡3区	上西根遺跡2区
新屋敷遺跡4区	上西根遺跡3区
新屋敷遺跡5区	上西根遺跡4区
新屋敷遺跡6区	上西根遺跡5区
新屋敷遺跡7区	新屋敷遺跡1区

第3節 発掘調査の方法

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡西側には粕川が流れ、標高はおおよそ75～77mのほぼ平坦な地形である。北側に位置する関遺跡7区から南側の上西根遺跡、新屋敷遺跡までは総延長約580mとなり、現国道462号からおおよそ1～14m幅となる調査区である。発掘調査前の現況は宅地や畑地のほか道路や墓地などであった。発掘調査は国道462号道路改築工事に起因するものであり、平成19年の群馬県教育委員会文化財保護課による試掘・確認調査によって、古墳時代の竪穴住居や土坑、溝などの遺構や遺物が多数確認されていることから、平成20年度の発掘調査(第1次平成20年7月1日～平成20年9月30日、第2次平成21年1月1日～平成21年3月31日)では、大型掘削重機(バックホー)やダンプなどを使用した表土掘削と掘削土運搬、埋め戻しを調査区内で随時実施した。重機による表土掘削のあとは作業員による鋤簾や移植ごてなどの手作業によって遺構検出作業を進めた。遺構を検出した時点で遺構の輪郭や重複を確認し、土層観察用畦を適宜設定



第3図 遺跡と調査区範囲図
 (伊勢崎市現況図22・23 1:2,500 平成22年度10月測図使用、遺跡の範囲は群馬県情報システムWEB版を参照)

して精査を行った。なお、バックホーによる掘削、掘削土の運搬は委託で行われ、人力による掘削は遺跡掘削工事の請負契約による委託で実施した。平成20年度の調査によって関遺跡では、竪穴住居21軒、土坑30基、溝14条、井戸6基、墓坑3基、柵1列、ピット88基が検出された。上西根遺跡においては、竪穴住居61軒、竪穴状遺構12基、礎石建物1棟、柵2列、土坑208基、溝18条、井戸6基、ピット131基などが検出された。新屋敷遺跡では、竪穴住居1軒、土坑52基、溝15条、ピット50基などが検出された。遺構番号は遺構の種類ごとに各遺跡・調査区でそれぞれ1番から付けてある。

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡における遺物の取り上げについては、遺構地点別取り上げおよび調査区一括取り上げ等を測量委託業者によって適宜行い、平成20年度の発掘調査によって出土した遺物はすべて新屋敷遺跡(1区～7区)として注記した。遺構断面測量は、測量委託業者と発掘現場作業員の手実測によって行った。また、遺構平面測量については遺構の種類に合わせて測量委託業者によるデジタル平板測量を行った。遺構写真全般については、デジタルカメラ(Canon EOS Kiss Digital)とペンタックス6×7版モノクロカメラを併用し、現場担当者が地上撮影およびローリングタワーなどを使用して撮影した。また、上西根遺跡2区～5区、新屋敷遺跡1区では測量委託業者によるラジコンヘリを使用した空中写真撮影を実施した。

第4節 基本土層(第4図 PL. 1)

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の基本土層は、関遺跡7区、上西根遺跡1区に深掘りトレンチをそれぞれ設定し、断面観察および実測を行ったものである。上西根遺跡2区～5区および新屋敷遺跡1区については、深掘りでの土層断面観察を実施しなかったため、井戸や住居などの遺構の土層断面図および写真を利用して掲載した。各区の基本土層は全体的にほぼ同様の堆積状況を示すが、V層より下位の水成堆積物で土質、色調に多少の違いが認められた。そのため、I～V層はまとめて記載したが、V層より下位の層は①～③の番号を付し個別に記載した。

遺構確認面は基本的にVb層である。V層は地点によりVa、Vbの2層に分けられた。Vb層は調査区全体で確認

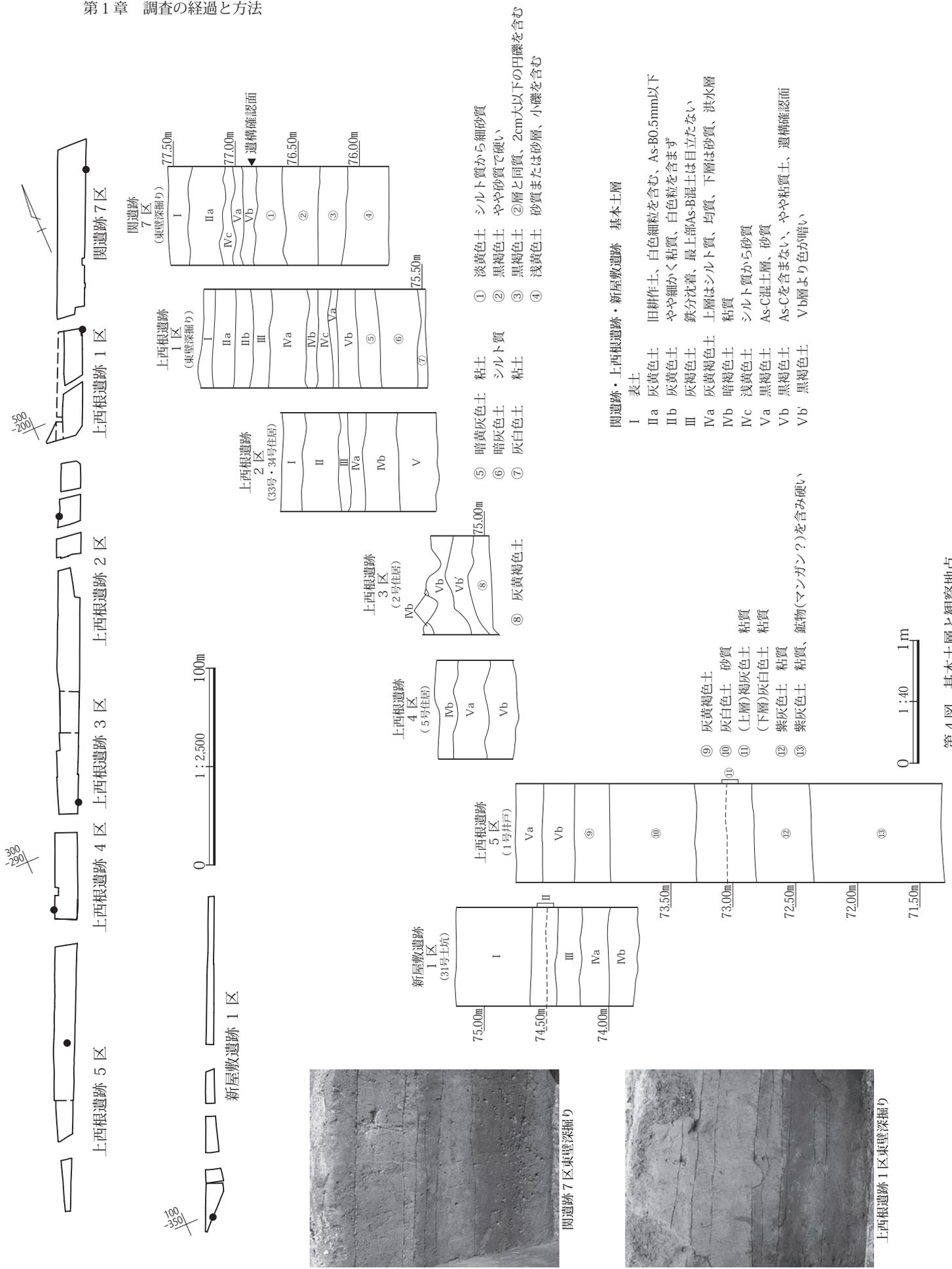
できたが、Va層は同一の調査区でも認められる地点とそうでない地点があり限定的な分布である。上西根遺跡5区で実施した火山灰分析によると、Va層は浅間C軽石(As-C)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)に由来する軽石を含む(第6章第1節参照)が、Vb層はこれらを含まない。Vb'層は上西根遺跡3区の一部で検出され、Vb層より色調が暗いため分けている。

IV層はシルト質または砂質の水成堆積物で、地点によりIVa、IVb、IVcの3層に分けられた。IV層の堆積時期は明確ではないが、IV層が古代の遺構検出面であるVb層より上位に堆積し、上層のIII層に浅間B軽石(As-B、1, 108年噴火)を含むことを考えると、IV層は少なくとも古代以降12世紀初頭までに堆積したと言える。

V層より下位の土層は関遺跡7区、上西根遺跡1区・5区で観察できた。上西根遺跡5区の1号井戸の深掘りでは、V層より下に洪水によると考えられる水成堆積物が3m以上の厚さで堆積していたのが確認できた。この水成堆積物は部分的にやや粘土化した層が認められるものの、グラデーションに変化する色調や土質などから、一次的に堆積した水成堆積物であると判断した。当事業団の岩崎泰一氏によると、周辺遺跡の土層観察および縄文土器の出土位置などから、これらの水成堆積物は縄文時代の洪水による堆積層であるという。同様の縄文時代の洪水層は、周辺の南久保遺跡、飯土井二本松遺跡、喜多町遺跡などでも確認されている(群埋文『喜多町遺跡』2011第9章第1節)。

縄文時代と考えられる水成堆積物は遺構検出面より3.5m下位まで続き、これ以上の掘り下げは困難であるため、ローム層や礫層の確認には至らなかった。

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の調査で、少なくとも縄文時代と古代の2時期の洪水層を確認した。縄文時代の洪水は多量の土砂を運搬し新たな地形を作り出す規模であったことが確認できた。



第4図 基本土層と観察地点

第5節 発掘調査の経過

発掘調査日誌から調査当時の主な記録を抜粋した。

平成20年度 第1次発掘調査

- 7.1 関遺跡・上西根遺跡第1次発掘調査開始。発掘現場事務所用地について打合せ。
- 7.2 地元区長宅挨拶、発掘調査実施の回覧を依頼。県文化財保護課諸田指導主事と発掘区域や発掘順序等について打合せ。
- 7.8 単管パイプ、トラロープによる安全柵設置。事務所・駐車場用地に砕石敷設。上西根遺跡1区で排水管の確認。
- 7.9 鉄板・ゴムマット敷設。関遺跡7区表土掘削開始、竪穴住居5軒確認。
- 7.10 関遺跡7区表土掘削継続、上西根遺跡1区に排土運搬。竪穴住居15軒前後確認。
- 7.16 関遺跡7区遺構精査開始。
- 7.18 関遺跡7区遺構精査。溝平面実測、1号井戸土層断面実測。
- 7.24 関遺跡7区溝調査。2号・3号・5号住居土層断面写真撮影・実測。1号井戸調査、瓦・青磁碗等出土。3号井戸検出。
- 7.25 関遺跡7区1号～5号住居精査。
- 7.28 関遺跡7区住居調査。ピット群検出。
- 7.29 関遺跡7区住居調査。4号井戸調査。
- 7.31 関遺跡7区住居調査。土坑・ピット検出・調査。
- 8.4 関遺跡7区住居調査、1号墓坑の人骨検出。
- 8.7 関遺跡7区住居調査、2号墓坑から人骨検出。
- 8.18 前夜の豪雨により遺構水没。関遺跡7区17号住居まで調査継続。
- 8.21 関遺跡7区20号住居まで調査継続、9号住居で上屋根検討の良好資料を確認。
- 8.26 関遺跡7区原澤ボーリング株式会社による井戸委託掘削開始。人骨出土の3号墓坑の調査。
- 8.29 昨夜の豪雨で遺構水没、排水作業。関遺跡7区井戸掘削継続。
- 9.5 関遺跡7区住居調査継続(24号住居まで)。上西根遺跡1区表土掘削開始。
- 9.9 関遺跡7区住居調査継続、井戸掘削委託終了。上西根遺跡1区表土掘削、竪穴住居4軒確認。

- 9.16 関遺跡7区住居調査。上西根遺跡1区南側調査区6軒竪穴住居確認。上西根遺跡1区北側調査区10軒竪穴住居確認。
- 9.17 関遺跡7区、上西根遺跡1区住居調査継続。
- 9.30 上西根遺跡1区遺構調査終了、全景写真撮影。

平成20年度 第2次発掘調査

- 1.5 上西根遺跡・新屋敷遺跡第2次発掘調査開始。伊勢崎土木事務所ほか現地立ち会い。
- 1.6 上西根遺跡5区表土掘削開始。
- 1.14 上西根遺跡5区土坑調査。新屋敷遺跡1区表土掘削開始。
- 1.19 上西根遺跡2区表土掘削開始。上西根遺跡5区土坑、ピット調査。新屋敷遺跡1区遺構確認。
- 1.21 上西根遺跡2区住居調査開始、新屋敷遺跡1区土坑・ピット調査。前橋市教育委員会5名来跡。
- 1.22 上西根遺跡5区1号井戸調査。新屋敷遺跡1区土坑・ピット調査。上西根遺跡2区遺構確認。
- 1.26 上西根遺跡2区住居調査継続。上西根遺跡5区埋め戻し作業開始。新屋敷遺跡1区溝調査。
- 1.29 上西根遺跡2区2号住居・土坑調査。上西根遺跡4区表土掘削。新屋敷遺跡1区土坑・溝調査。
- 1.31 上西根遺跡4区単管パイプ打設しトラロープで安全対策を行う。
- 2.2 上西根遺跡2区単管パイプ打設しトラロープで安全対策を行う。2月から2班集体となる。
- 2.4 上西根遺跡2区2号住居調査。上西根遺跡4区住居、土坑、ピット、溝調査。新屋敷遺跡1区溝、ピット調査。
- 2.10 上西根遺跡2区4号・5号住居調査。上西根遺跡3区遺構確認。新屋敷遺跡1区埋め戻し作業終了。
- 2.16 上西根遺跡2区中央調査区2号・5号住居調査継続、南側調査区住居検出。上西根遺跡3区土坑、ピット調査継続。上西根遺跡4区2号・3号住居調査継続。上西根遺跡5区表土掘削開始。
- 3.5 上西根遺跡2区住居、溝調査。上西根遺跡3区北側表土掘削開始。株式会社火山灰考古学研究所サンプリングのため来跡。
- 3.9 上西根遺跡2区住居、溝調査。上西根遺跡3区土坑、礎石建物精査。上西根遺跡4区住居、土坑調査。上西根遺跡5区2号住居調査、南側アスファルト剥ぎ、ガードフェンス設置。

- 3.11 上西根遺跡2区住居調査。上西根遺跡3区北表土掘削。上西根遺跡4区埋め戻し作業。上西根遺跡5区土坑、ピット、溝、2号井戸調査。
- 3.13 上西根遺跡2区住居調査。上西根遺跡3区土坑、ピット、溝調査。上西根遺跡4区住居調査。上西根遺跡5区住居、1号井戸調査。株式会社火山灰考古学研究所サンプリングのため来跡。
- 3.21 上西根遺跡3区遺構確認追加。空中写真撮影業務委託。
- 3.26 上西根遺跡2区49号住居まで全景写真撮影。上西根遺跡3区住居写真撮影、礎石掘方精査。
- 3.29 上西根遺跡2区・3区埋め戻し作業開始。
- 3.31 上西根遺跡2区・3区埋め戻し作業終了。

クリーニング、実測、鑑定などを行った(第6章第3節参照)。

遺構図については、測量委託業者により納品された図面を用いて報告書掲載のために修正などを行った。その後、図面のデジタルトレースを行った。また、遺物図についてもトレース図、拓本をスキャニングし、遺物デジタル図版を作成した。

掲載する遺構写真を選択し、遺構写真、遺物写真のレイアウト編集を行い、デジタル図版を作成した。

デジタルデータでの組版作業と並行して、本文の執筆を行った後、印刷用原稿の校正を行った。上記の整理作業を経て平成24年度報告書刊行に至った。

新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡で出土した遺物・図面・写真等全ての資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに収納した。なお、整理作業で遺跡名・調査区名の変更が生じたが、平成20年度に発掘調査した新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡から出土した遺物注記、測量委託業者により納品された図面の書き換えは行っていない。

整理作業で遺構図や写真、出土遺物等を確認・再検討をした結果、必要に応じて発掘調査時の遺構名称を変更した。第2表に遺構名変更の一覧を示す。

第6節 整理作業の経過

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の整理作業は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団において平成23年4月1日から平成24年2月29日まで、平成24年4月1日から平成25年1月31日まで行われた。

関遺跡、上西根遺跡、新屋敷遺跡から出土した土器、石器、金属製品、木製品などの遺物は、それぞれ分類、接合・復元、保存処理などを行った後、報告書掲載遺物の選択、実測図・トレース図作成、採拓、デジタルカメラを使用した遺物写真撮影、遺物観察表作成などを行った。関遺跡7区から出土した人骨については、外部委託によって

第2表 遺構名変更一覧表

遺跡名	変更前	変更後	遺跡名	変更前	変更後	遺跡名	変更前	変更後
関遺跡7区	6号竪穴住居	欠番	上西根遺跡2区	36号竪穴住居	欠番	上西根遺跡5区	7号ピット	2号柵P15
関遺跡7区	7号竪穴住居	欠番	上西根遺跡2区	39号竪穴住居	3号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	8号ピット	2号柵P16
関遺跡7区	11号竪穴住居	欠番	上西根遺跡2区	40号竪穴住居	4号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	9号ピット	2号柵P17
関遺跡7区	78号ピット	1号柵P3	上西根遺跡2区	41号竪穴住居	5号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	10号ピット	2号柵P18
関遺跡7区	81号ピット	1号柵P6	上西根遺跡2区	42号竪穴住居	6号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	11号ピット	2号柵P19
関遺跡7区	82号ピット	1号柵P5	上西根遺跡2区	43号竪穴住居	7号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	12号ピット	2号柵P20
関遺跡7区	83号ピット	1号柵P4	上西根遺跡2区	44号竪穴住居	8号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	13号ピット	2号柵P21
関遺跡7区	84号ピット	1号柵P2	上西根遺跡2区	45号竪穴住居	欠番	上西根遺跡5区	14号ピット	1号柵P 1
関遺跡7区	86号ピット	1号柵P1	上西根遺跡2区	46号竪穴住居	9号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	15号ピット	1号柵P 2
上西根遺跡1区	8号ピット	欠番	上西根遺跡2区	47号竪穴住居	10号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	16号ピット	1号柵P 3
上西根遺跡1区	10号ピット	欠番	上西根遺跡2区	48号竪穴住居	欠番	上西根遺跡5区	17号ピット	1号柵P 4
上西根遺跡1区	11号ピット	欠番	上西根遺跡2区	32号土坑	欠番	上西根遺跡5区	18号ピット	1号柵P 5
上西根遺跡1区	12号ピット	欠番	上西根遺跡3区	1号土坑	欠番	上西根遺跡5区	19号ピット	1号柵P 6
上西根遺跡1区	14号ピット	欠番	上西根遺跡3区	18号ピット	欠番	上西根遺跡5区	20号ピット	1号柵P 7
上西根遺跡1区	17号ピット	欠番	上西根遺跡3区	20号ピット	欠番	上西根遺跡5区	21号ピット	1号柵P 8
上西根遺跡1区	24号ピット	欠番	上西根遺跡3区	23号ピット	欠番	上西根遺跡5区	22号ピット	1号柵P 9
上西根遺跡1区	30号ピット	欠番	上西根遺跡3区	34号ピット	欠番	上西根遺跡5区	57号ピット	2号柵P13
上西根遺跡1区	31号ピット	欠番	上西根遺跡4区	3号土坑	1号井戸	新屋敷遺跡1区	9号土坑	欠番
上西根遺跡1区	32号ピット	欠番	上西根遺跡4区	34号土坑	2号井戸	新屋敷遺跡1区	11号土坑	欠番
上西根遺跡1区	33号ピット	欠番	上西根遺跡5区	1号土坑	欠番	新屋敷遺跡1区	27号土坑	欠番
上西根遺跡2区	3号竪穴住居	欠番	上西根遺跡5区	5号土坑	欠番	新屋敷遺跡1区	34号土坑	欠番
上西根遺跡2区	6号竪穴住居	欠番	上西根遺跡5区	28号土坑	1号井戸	新屋敷遺跡1区	35号土坑	欠番
上西根遺跡2区	8号竪穴住居	1号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	75号土坑	2号井戸	新屋敷遺跡1区	57号土坑	欠番
上西根遺跡2区	16号竪穴住居	2号竪穴状遺構	上西根遺跡5区	3号ピット	2号柵P10	新屋敷遺跡1区	58号土坑	欠番
上西根遺跡2区	24号竪穴住居	欠番	上西根遺跡5区	4号ピット	2号柵P11	新屋敷遺跡1区	2号ピット	欠番
上西根遺跡2区	25号竪穴住居	37号土坑	上西根遺跡5区	5号ピット	2号柵P12	新屋敷遺跡1区	3号ピット	欠番
上西根遺跡2区	26号竪穴住居	欠番	上西根遺跡5区	6号ピット	2号柵P14	新屋敷遺跡1区	9号ピット	欠番

第2章 地理的および歴史的環境

第1節 遺跡の位置と周辺の地形

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡は、赤城山小沼に源を發し南流して利根川に注ぐ粕川の左岸段丘上に位置する。遺跡の標高はおよそ75～77mで、粕川の現河床面との比高差は3～4mである。粕川の現流路は関遺跡7区で約50m西に、上西根遺跡で約350m西に位置する。

本遺跡は地形的には大間々扇状地桐原面西端に位置する。大間々扇状地は渡良瀬川によって形成され、みどり市大間々町を扇頂とし、南北約18km、東西(扇端部)約13kmの規模をもつ(澤口 1984)。大間々扇状地は大きく2つの段丘面(桐原面、藪塚面)から成り、桐原面は藪塚面より古いとされている。このうち、遺跡のある桐原面は、西は粕川から東は早川までの範囲で、約5万年前に段丘化したと言われている。桐原面では砂礫層の上に湯ノ口軽石層(Ag-UP)、八崎軽石層(Hr-HP)、鹿沼軽石層(Ag-KP)などの中部ロームおよび板鼻褐色軽石層(As-BP)などの上部ロームの堆積が確認されている。

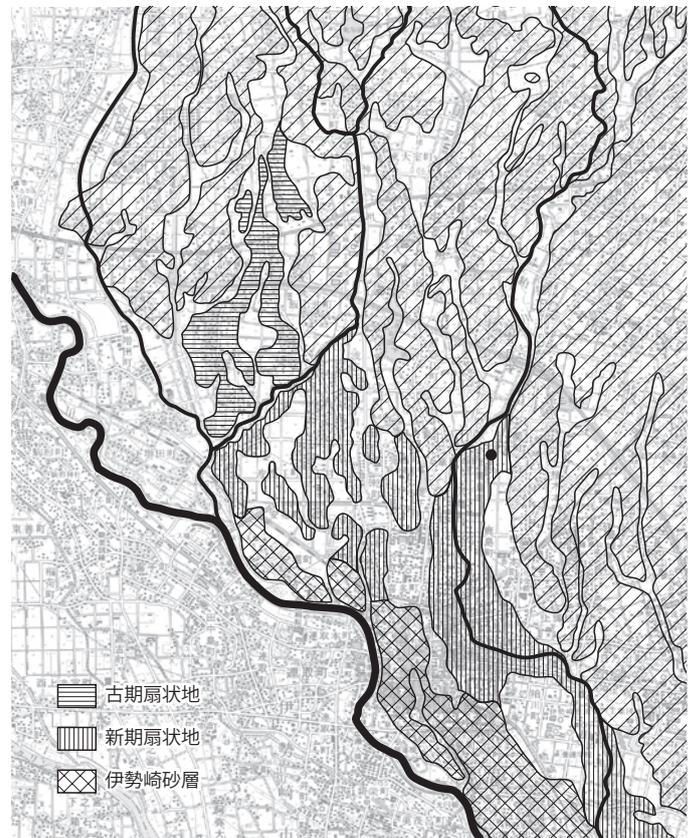
報告する関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡周辺には、大間々扇状地形成より新しい砂層が厚く堆積し、この砂層が微高地を形成している。今回の発掘調査では、上西根遺跡5区1号井戸で土層を観察するために深掘りトレンチを設定し、地表下約4mまで確認することができた。岩崎泰一氏が現地を確認した所見によれば、黒褐色土のV層より下位の土層は、周辺遺跡でも観察される縄文時代の洪水層であるという。ここでは、桐原面との直接の関連は明らかではないが、縄文時代以降の洪水層が何層も堆積している状況が観察された。

『群馬県史通史編1』(1990)付図2によると、本遺跡は「伊勢崎台地上の微高地(LP)」に位置している(第5図)。伊勢崎台地は、洪積世最末期から沖積世初頭に、赤城山南面から供給され旧利根川(広瀬川)によって運搬された火山灰質な砂質層(伊勢崎砂層)で形成された地形とされている(澤口 1984・1991)。

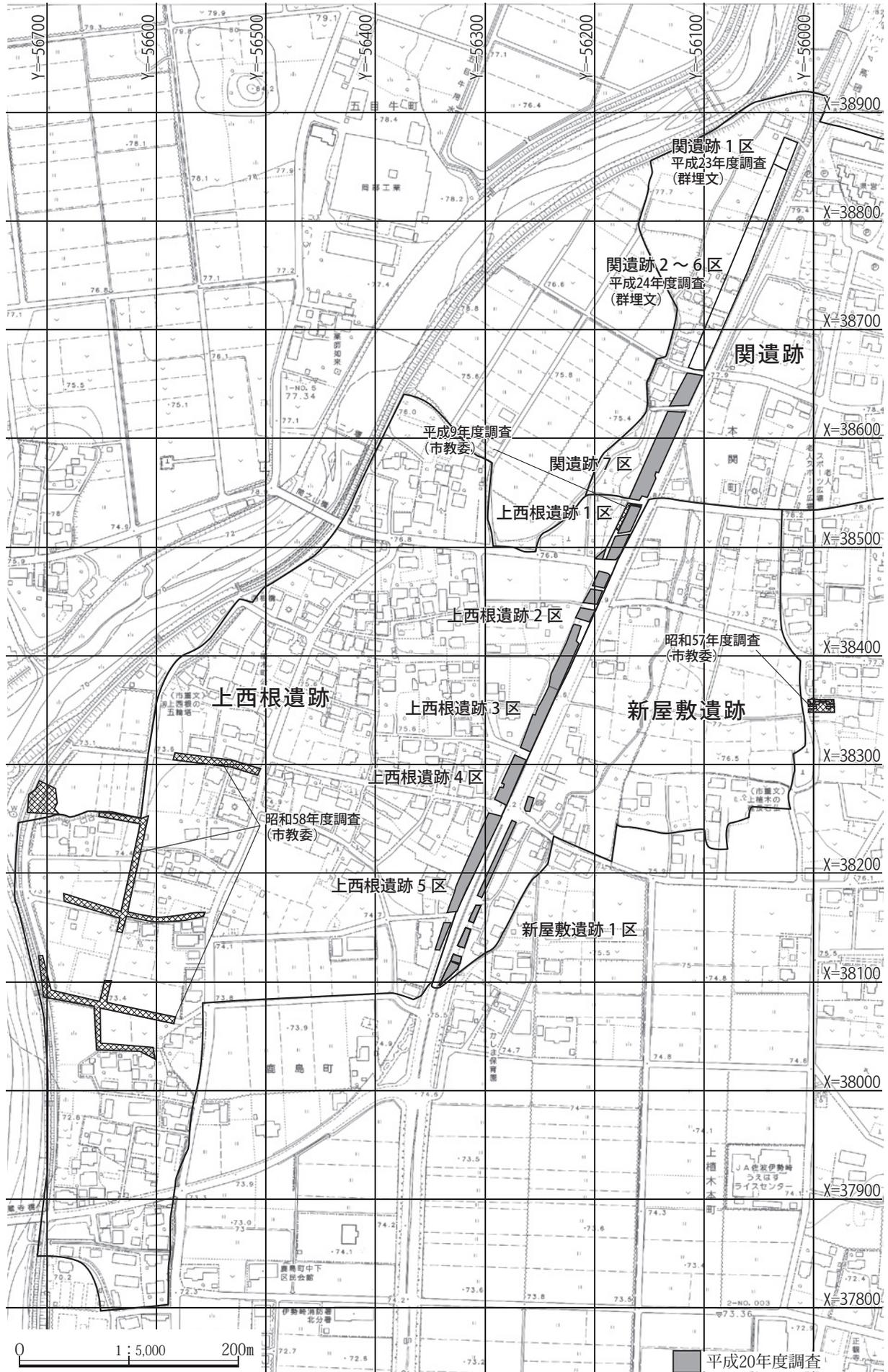
岩崎泰一氏は、これまでの発掘調査の成果を踏まえ、「伊勢崎台地上の微高地(LP)」の中には、神沢川や粕川



第5図 遺跡周辺の地形(1:200,000)
 (『群馬県史通史編1』(1990)付図2を使用一部改変、
 群埋文『喜多町遺跡』(2011)第2図を加筆修正して掲載)



第6図 伊勢崎市北部の地形区分図
 (群埋文『喜多町遺跡』(2011)第98図を加筆修正して掲載)



第7図 関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡のおもな発掘調査地点
(伊勢崎市現況図22・23 1:2,500 平成22年10月測図使用)

が直接形成した微高地も含まれていること、これらの微高地は縄文時代以降に形成された新期扇状地としてとらえられることを指摘している。本遺跡の立地する微高地もそれに含まれるとしている(第6図、群埋文『喜多町遺跡』2011第9章第1節参照)。本遺跡は、広瀬川より北方(高位)にあり、粕川の左岸に近接してあることから、本遺跡に厚く堆積する砂層は旧利根川(広瀬川)ではなく、粕川によって運ばれたと考えられ、岩崎氏の指摘は妥当と思われる。

遺跡は、以上のような縄文時代以降の砂層からなる微高地に、古墳時代後期から古代の遺構が掘り込まれ、その間にも洪水堆積層が認められる複雑な地形を呈している。度重なる洪水という自然災害による地形改変の過程で人間活動が重ねられてきたことが、本遺跡の地理的環境といえよう。

第2節 遺跡の歴史的環境

1. 上西根遺跡・新屋敷遺跡のこれまでの調査

上西根遺跡・新屋敷遺跡はこれまでに伊勢崎市教育委員会により3度発掘調査が行われた(第7図)。上西根遺跡では、植木土地改良事業に伴い、昭和58年度に調査が実施され、平成9年度には三和工業団地造成事業流末排水路工事に伴い行われた。また、新屋敷遺跡では昭和57年度に個人住宅建設の事前調査として発掘調査が実施された。

上西根遺跡の昭和58年度調査は、遺跡範囲の西側で、粕川が南に変流する左岸段丘上の縁辺部を対象とした(伊勢崎市教育委員会 1985)。この調査で、4世紀後半から8世紀の竪穴住居跡26軒のほか、方形周溝墓5基、石槨1基、溝15条、井戸3基などを検出している。報告書では、住居跡が方形周溝墓群を取り巻くように分布していることが指摘されている。平成9年度の調査は、本報告の上西根遺跡1区の隣接地を対象として行われたもので、竪穴住居跡2軒、土坑1基、溝5条が検出された(伊勢崎市教育委員会 2004)。2軒の住居跡は重複しており、ともに8世紀と推定されている。

新屋敷遺跡の昭和57年度の調査地点は、現在は新屋敷遺跡の範囲外で、上植木廃寺周辺遺跡として認定されている(伊勢崎市教育委員会 2009)。この調査で、竪穴住

居跡2軒、井戸1基、方形遺構1基が検出された。2軒の住居跡は、出土遺物から古墳時代前期および9世紀代と推定されている。

今回の上西根遺跡の調査では、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての竪穴住居が61軒検出され、この間継続的に集落が営まれたことが明らかになった。

2. 周辺の遺跡(第8図 第3～5表)

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の所在する伊勢崎市では、これまで広域にわたり遺跡の発掘調査が行われてきたが、高速道路や工業団地造成など大規模な開発に伴う近年の発掘調査によって貴重な遺構や遺物の発見などが相次いでいる。本遺跡の周辺に所在する遺跡についても発掘調査報告書などが現在までに数多く刊行され、詳細な報告が行われている。以下に、関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡が所在する本関町や鹿島町などを中心に、伊勢崎市域の主な遺跡の概略を時代別に記す。

旧石器時代

旧石器時代の遺跡は赤城山南麓地域に点在する。関遺跡(1)・上西根遺跡(2)・新屋敷遺跡(3)周辺においてもこれまでに旧石器時代の遺跡が調査されている。波志江西宿遺跡(55)では後期旧石器時代の3時期の石器群、光仙房遺跡(24)では槍先形尖頭器を含む石器群とホロカ型細石刃核を含む石器群の2つの文化層が調査された。岡屋敷遺跡(41)では少量の剥片を含む4基の礫群が検出され、本関町古墳群(5)では、有槌尖頭器を含む石器群などが出土している。三和工業団地Ⅰ遺跡(25)ではおもに後期旧石器時代の石器群(環状ブロック)などが検出されている。書上本山遺跡(19)、三和工業団地Ⅱ遺跡(26)、三和工業団地Ⅲ遺跡(27)、三和工業団地Ⅳ遺跡(28)ではA T層準前後の石器群が調査され、当該期の石器群の様相が明らかになってきている。また、伊勢山遺跡(39)、下触牛伏遺跡(69)、舞台遺跡(33)、下植木壺町田遺跡(29)、大道西遺跡(58)などでも調査が行われている。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、伊勢崎市域において主に広瀬川低地帯東側に分布する。草創期の遺跡では、五目牛新田遺跡(62)において竪穴住居などの調査が行われ、間之山遺跡(37)では土器片が出土している。

早期の遺跡では、波志江中屋敷遺跡(52)で住居2軒が

検出され、撚糸文系土器や押型文土器が出土している。このほか、波志江西宿遺跡(55)、大道西遺跡(58)、高山遺跡(31)においても早期の遺物が出土している。

前期の遺跡では、三和工業団地Ⅱ～Ⅳ遺跡(26～28)、舞台遺跡(33)、五目牛清水田遺跡(61)、五目牛南組遺跡(64)、下触牛伏遺跡(69)、下吉祥寺遺跡(30)などで集落の調査が行われ、中西原遺跡(70)で諸磯c式期の竪穴住居や土器などが出土している。

中期の遺跡では、天ヶ堤遺跡(15)において中期後半の集落が確認されている。波志江中野面遺跡(波志江町)では10軒の竪穴住居や土坑などが検出されている。鯉沼東遺跡(23)、中西原遺跡(70)において、加曾利E式期の竪穴住居の調査が行われている。

後期の遺跡では、配石遺構が検出された八坂遺跡(波志江町)や三和工業団地Ⅱ遺跡(26)、天ヶ堤遺跡(15)などで調査が行われている。本関町古墳群(5)では後期初頭の柄鏡形敷石住居が1軒のほか土坑や集石遺構などが検出されている。

縄文時代晩期の遺跡では、八坂遺跡(波志江町)が調査され晩期初頭の土器片などが出土している。

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡では遺構埋没土や遺構外から縄文土器が40点あまり出土している。細片で埋没土からの出土が多かったため図示しなかったが、これらの中には縄文時代中期の深鉢などが含まれていた。縄文時代の遺構は明確ではないが、関遺跡7区5号土坑がフラスコ状を呈し、縄文時代の土坑の可能性が高い。

弥生時代

伊勢崎市域において弥生時代の遺跡は少ない。西太田遺跡(安堀町)では中期3軒、後期1軒の住居、中組遺跡(波志江町)では中期の住居のほか後期の樽式土器などが出土している。間之山遺跡(37)では後期の住居1軒が調査され、五目牛南組遺跡(64)では後期の再葬墓が検出された。波志江西宿遺跡(55)では磨製石鏃が1点出土している。大道西遺跡(58)、恵下遺跡(8)、波志江中屋敷東遺跡(54)においても土器片が出土している。また、五目牛清水田遺跡(61)では、弥生時代後期以前の粕川の旧河道が検出され、旧河道は5世紀代の粗砂層で埋没し、現河道に一本化されたことが調査によって明らかになっている。

古墳時代

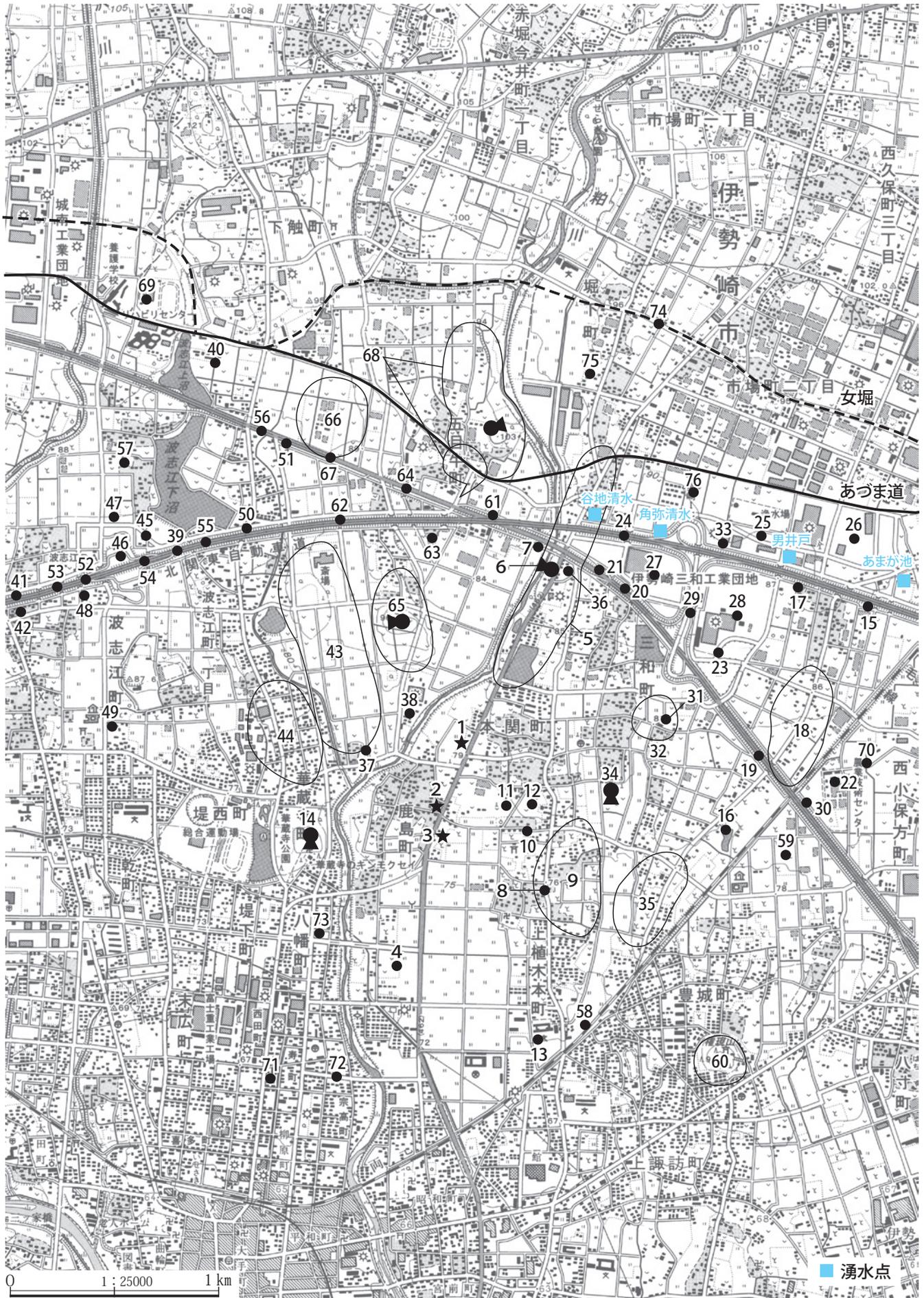
伊勢崎市北部から前橋市東部の地域は、群馬県内にお

いても古墳が多く確認されている地域である。『上毛古墳総覧』によると、伊勢崎市三和町、本関町、豊城町など殖蓮地区において338基、三郷地区は105基の古墳が確認されるなど、伊勢崎市内全域にわたり古墳が分布していたとされる。また、古墳時代になると伊勢崎市域における集落の分布も広範囲となる。関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡周辺でも数多くの遺跡が調査され、古墳のほか集落などが確認され貴重な遺構や遺物が出土している。

前期の遺跡では、上西根遺跡(2)、三和工業団地Ⅱ遺跡(26)、三和工業団地Ⅲ遺跡(27)、三和工業団地Ⅳ遺跡(28)、舞台遺跡(33)、本関町古墳群(5)などで調査が行われ、間之山遺跡(37)では住居と方形周溝墓が検出されている。三和工業団地Ⅰ遺跡(25)では、124軒の竪穴住居のほか掘立柱建物、平地式建物、畑などが検出されている。舞台遺跡(33)では、前期の住居149軒や周溝墓、後期の竪穴住居71軒や円形周溝遺構2基が検出されている。群馬県内でも古い古墳の一つである華蔵寺裏山古墳(14)は、4世紀後半に築造された前方後円墳とみられている。波志江中屋敷西遺跡(53)、波志江中宿遺跡(50)、波志江中屋敷東遺跡(54)などでは水田が調査された。波志江中宿遺跡(50)では粘土採掘坑66基とS字状口縁台付甕、採掘に使用した木製品が一括して出土し注目される。

中期の遺跡では、原之城遺跡(59)において竪穴住居、掘立柱建物、環濠居館跡などが検出されている。古墳では、お富士山古墳(安堀町)は伊勢崎市内で最大規模となる前方後円墳であり長持型石棺が出土している。また、釜ノ口遺跡(75)では5世紀中葉の埴輪工房跡が検出され、赤堀茶白山古墳に埴輪を供給していたと推定されている。

後期の遺跡では、上西根遺跡(2)、書上本山遺跡(19)、舞台遺跡(33)、下触牛伏遺跡(69)において調査が行われ、岡屋敷遺跡(41)は竪穴住居が100軒以上検出された。後期になると群馬県内において前方後円墳の築造が増加する。地蔵山古墳群(65)や蟹沼東古墳群(43)などは円墳からなる群集墳であり、竪穴式石室を主体部とする。さらに横穴式石室が採用された権現山古墳群(60)のほか、伊勢崎市指定史跡の一ノ関古墳(6)などがある。本関町古墳群(5)では多くの古墳が調査され、C区2号墳からは



第8図 周辺の遺跡位置図
 (国土地理院発行、1:25,000地形図「大胡」平成22年12月1日発行、「伊勢崎」平成15年2月1日発行)

類例の希少な「赤玉」が出土し注目される。

終末期になると前方後円墳の築造はなくなるが古墳は造られ続け、下触牛伏遺跡(69)の古墳群や周溝を2重に廻らせ、横穴式石室の基礎に版築技法が施された円墳の祝堂古墳(40)がある。また、伊勢崎市教育委員会が調査を行った本関町古墳群(5)6号墳は、7世紀後半と考えられ、周溝からは上植木廃寺創建期と同範の軒丸瓦が出土し、藤手刀や銅製銚帯が出土した上原古墳(36)とともに地方豪族と律令体制との関連が注目される。

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡では、古墳時代後期の住居が多数検出された。本遺跡はすぐ北で本関町古墳群と近接することから、これらの古墳群築造を支えた集落の可能性が高い。同様に本関町古墳群に対応すると考えられ、古墳群東側に広がる光仙房遺跡(24)、上植木光仙房遺跡(21)、舞台遺跡(33)、三和工業団地Ⅰ～Ⅲ遺跡(25～28)などの集落遺跡は湧水点の周囲とこれを起源とする小谷に挟まれた台地上に立地する(坂口 2012)。

古代

伊勢崎市周辺では、広瀬川(旧利根川)より東の地域は古代行政区分の佐位郡にあたると考えられている。古代佐位郡の中心と考えられている殖蓮地区に位置する三軒屋遺跡(13)では、礎石建物や掘立柱建物群と八角形の大型礎石建物が発見され、「上野国交替実録帳」の記載と一致することから、古代佐位郡正倉跡と断定された。7世紀後半に創建され他に例を見ない伽藍配置が調査されている上植木廃寺(10)、上植木廃寺創建期の瓦窯である上植木廃寺瓦窯跡(11)などが調査されている。上植木廃寺(10)に隣接する恵下遺跡(8)では集落跡が確認された。また、遺跡より3.5km南には東山道駅路が推定され、南久保遺跡(4)や大道西遺跡(58)では佐位郡衙に関連すると思われる道路状遺構が検出されている。

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡では奈良・平安時代の住居が検出され、古墳時代から継続して集落が営まれていた。本遺跡の約400m東には上植木廃寺(10)が位置し、その周辺には上植木廃寺瓦窯跡(11)、上植木廃寺周辺遺跡(12)などの遺跡が分布している。また、本遺跡から1.2km南東には三軒屋遺跡(13)が位置し、その周辺は古代佐位郡の中心地域と推定されている。本遺跡の古代の遺構は住居が中心であるが、遺物では丸軻裏金具や墨書土器、鉄製品、瓦塔、古代瓦などが出土し、これらの

遺跡との関わりが想定される。

中近世

岡屋敷遺跡(41)では内堀と土塁が確認された外堀の一部を検出し、波志江中屋敷西遺跡(53)や波志江中屋敷遺跡(52)などでも館跡などの調査が行われている。周辺には中世と推定される岡屋敷館址(42)、中屋敷館址(48)などがあり、波志江中屋敷遺跡(52)では岡屋敷館址(42)の内郭部分が調査され溝や掘立柱建物などが調査された。天ヶ堤遺跡(15)では、近世後半の礎石を伴う屋敷跡が2棟、壁際に柱穴が廻る土坑2基のほか畑では耕作列が3か所で検出されている。上植木壱町田遺跡(20)では掘立柱建物や溝、火葬跡や土坑墓、井戸、伊勢山遺跡(39)では土坑墓が28基調査されている。下植木壱町田遺跡(29)では中世遺構が数多く検出され、堀で区画された館跡や掘立柱建物群、土坑墓や火葬跡などが調査された。12世紀中頃に前橋市上泉町から旧佐波郡東村国定(現伊勢崎市)まで用水路として開削された全長およそ13kmに及ぶ女堀(74)は未完成のまま放棄されたことが調査で明らかになっている。伊勢崎市域北部を東西に走るあずま道(76)は、前橋市から太田市まで延び、東山道駅路と推定されているが、調査によって中世以降に構築された道路であることが明らかとなった。近世の掘立柱建物、礎石建物は五目牛南組遺跡(64)において検出されている。

上西根遺跡3区では近世と考えられる礎石建物が1棟検出された。このほか、関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡では、中近世と考えられる特徴的な土坑が多数調査され、当該期の土器も出土している。

第3表 周辺の遺跡一覧表(1)

番号	遺跡名	所在地	調査	概要	時代	文献番号
1	関遺跡(せきいせき)	本関町・鹿島町	平成20・23・24年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	本報告書	古墳/奈良・平安/中近世	本報告書、1
2	上西根遺跡(かみにしねいせき)	鹿島町	昭和58年度伊勢崎市教育委員会、平成20年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代中期から後期の住居、方形周溝墓、奈良時代の住居などが調査された(伊勢崎市教委調査)。本報告書	古墳/奈良・平安/中近世	本報告書、2・3
3	新屋敷遺跡(あらやしきいせき)	本関町・鹿島町	昭和57年度伊勢崎市教育委員会、平成20年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代前期、平安時代の住居、方形遺構、井戸などが調査された(伊勢崎市教委調査)。本報告書	奈良/中近世	本報告書、4・5・6
4	南久保遺跡(みなみくぼいせき)	鹿島町	平成20年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代の住居、古代の畠、水田のほか佐位郡衙から東西に延びる道路状遺構が検出され、中世の溝、土坑、掘立柱建物などが調査された。	古墳/奈良・平安	7
5	本関町古墳群(ほんせききょうこふんぐん)	本関町他	昭和25年度群馬大学史学研究室、昭和39・43・49年度伊勢崎市教育委員会、昭和41年度県立伊勢崎女子高、昭和58年度群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成15・16年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、縄文時代住居1軒、土坑、古墳時代の前期の方形周溝墓6基、後期の古墳20基などが調査された。	古墳	8
6	一ノ関古墳(いちのせきこふん)	本関町	昭和43年度・平成8・15年度伊勢崎市教育委員会	「上毛古墳総覧」記載の殖蓮村71号古墳を平成16年に名称変更、6世紀後半の前方後円墳。	古墳	5・9
7	関山遺跡(せきやまいせき)	本関町	平成15・17年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代後期の円墳が調査され、家形埴輪をはじめ、多くの形象埴輪、円筒埴輪が出土。	古墳/奈良/平安	10・11
8	恵下遺跡(えげいせき)	上植木本町	昭和53年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代の住居、溝、古墳3基、奈良・平安時代の住居などが調査された。	古墳/奈良・平安	5・12
9	恵下古墳群(えげこふんぐん)	上植木本町	昭和53・54・平成2年度伊勢崎市教育委員会	6世紀の円墳。	古墳	5・12
10	上植木廃寺(かみうえきはいじ)	上植木町他	昭和57～62年度・平成2～5・7・18・20年度伊勢崎市教育委員会	7世紀後半の寺院跡、伽藍配置や寺院に関連する建物などが調査された。	古墳/奈良・平安	13・14
11	上植木廃寺瓦窯跡(かみうえきはいじがようあと)	本関町	平成7年度伊勢崎市教育委員会	上植木廃寺創建期の瓦窯、瓦窯廃絶遺構の溝などが調査された。	古墳/奈良・平安	15
12	上植木廃寺周辺遺跡(かみうえきはいじしゅうへんいせき)	上植木町他	昭和59～63年度・平成4・7・10年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代・奈良平安時代の集落。	古墳/奈良・平安	14・15
13	三軒屋遺跡(さんげんやいせき)	上植木本町	平成14・16・17・18・19・20・21年度伊勢崎市教育委員会	古代佐位郡正倉跡、掘立柱建物、礎石建物、溝などが調査された。	古墳/奈良・平安	16・17
14	華蔵寺裏山古墳(けぞうじうらやまこふん)	華蔵寺町	昭和39年度伊勢崎市教育委員会	4世紀後半の墳丘40mの前方後円墳。	古墳	5
15	天ヶ堤遺跡(あまがつつみいせき)	三和町	昭和52・平成6～8・10年度伊勢崎市教育委員会、平成12・13・14年度群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成17年度伊勢崎市教育委員会	縄文時代前期、中期の住居や土坑、後期の土坑、古墳時代の住居、平安時代の掘立柱建物、近世の屋敷跡、土坑、畑跡などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安/近世	18・19・20
16	天野沼遺跡(あまのぬまいせき)	三和町他	昭和52年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代の住居5軒が調査された。	古墳/奈良・平安	18
17	書上遺跡(かきあげいせき)	三和町	昭和59・平成12・13・14年度群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成7年度伊勢崎市教育委員会	旧石器時代第1から第4文化層の石器群、縄文前期から後期の土器、竪穴状遺構、土坑、古墳時代の住居、畠遺構、中近世の土坑、溝、井戸などが調査された。	旧石器/古墳/中世	21・22
18	書上古墳群(かきあげこふんぐん)	三和町	昭和58年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	横穴式石室を主体部とする7世紀の円墳。	古墳	18・23
19	書上本山遺跡(かきあげほんざんいせき)	三和町	昭和59年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、縄文時代早期から中期の土器、石器、古墳時代後期の住居、井戸、平安時代の住居、溝、集石遺構、土坑、中世から近世の掘立柱建物、溝などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/中近世	24
20	上植木老町田遺跡(かみうえきいっちょうだいせき)	三和町	昭和58・59年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代から奈良・平安時代の住居、中近世の掘立柱建物、溝、土坑墓、井戸などが調査された。	縄文/古墳/奈良/中近世	23
21	上植木光仙房遺跡(かみうえきこうせんぼういせき)	三和町	昭和58・59・平成10年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器20点、古墳時代の古墳、奈良・平安時代土坑、溝、墓坑、中世の竪穴建物、近世の掘立柱建物、溝、土坑、井戸などが調査されている。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安/中世	25・26
22	県園芸試験場第二遺跡(えんげいしけんじょうだいにいせき)	三和町	昭和49年度群馬県教育委員会	奈良・平安時代の住居、掘立柱建物。	奈良・平安	5・27
23	鯉沼東遺跡(こいぬまひがしいせき)	三和町	昭和51年度・平成7・8年度伊勢崎市教育委員会、昭和58年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代中期、古墳時代、平安時代の住居などが調査された。	縄文/奈良・平安	5・28
24	光仙房遺跡(こうせんぼういせき)	三和町	平成9～11年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代第1、第2文化層、古墳時代6世紀後半の円墳、集落、粘土採掘坑、平安時代の集落、須恵器窯跡が調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安	5・29
25	三和工業団地I遺跡(さんわこうぎょうだんちいちいせき)	三和町	平成7・8年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、縄文時代の住居、土坑、陥穴、古墳時代の住居126軒、掘立柱建物8棟、平地式建物1棟、祭祀跡1箇所、畑、壺棺墓1基、奈良・平安時代住居20軒、掘立柱建物7棟、井戸7基などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安/中世	30・31
26	三和工業団地II遺跡(さんわこうぎょうだんちにいせき)	三和町	平成6～8年度伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器、縄文時代前期から後期の住居、屋外埋設土器、土坑、古墳時代の土坑、奈良・平安時代の掘立柱建物、柵列跡、溝、中近世の溝、近現代の道跡、窯跡などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安/中世/近世	32
27	三和工業団地III遺跡(さんわこうぎょうだんちさんいせき)	三和町	平成7～9年度伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器、縄文時代前期から中期の住居、土坑、古墳時代の方形周溝墓、住居、掘立柱建物、竪穴状遺構、土坑、井戸、溝、奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、溝、井戸、窯跡、水田などが調査された。	旧石器/縄文/弥生/古墳/奈良・平安	33
28	三和工業団地IV遺跡(さんわこうぎょうだんちよんいせき)	三和町	平成9～11年度伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器、縄文時代前期の住居、土坑、古墳時代の住居、掘立柱建物、土坑、井戸、溝、壺棺墓、古墳、道路状遺構、土坑墓、火葬墓、円形周溝状遺構、古代から奈良・平安時代の住居、竪穴状遺構、掘立柱建物、土坑、溝、井戸、中近世の土坑、溝、井戸、近世の柵列、井戸、溝、道路状遺構などが調査された。	旧石器/縄文/弥生/古墳/奈良・平安/中世/近世	34
29	下植木老町田遺跡(しもうえきいっちょうだいせき)	三和町	平成8・9年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代石器、古墳時代の住居、溝、奈良・平安時代の住居、鍛冶遺構、水田、中世の館跡と掘立柱建物群、土坑墓、火葬跡、堀、入口遺構、井戸、近世の溝、集水遺構などが調査された。	旧石器/古墳/平安/中世/近世	35
30	下吉祥寺遺跡(しもきちじょういせき)	三和町	昭和54・56年度伊勢崎市教育委員会	縄文時代前期および中期の住居、古墳時代から奈良・平安時代の住居、溝、製鉄遺構などが調査された。	縄文/古墳/奈良・平安	36・37

第2章 地理のおよび歴史的環境

第4表 周辺の遺跡一覧表(2)

番号	遺跡名	所在地	調査	概要	時代	文献番号
31	高山遺跡 (たかやまいせき)	三和町	昭和52年度・平成9年度伊勢崎市教育委員会	縄文時代前期の住居、古墳、方形特殊遺構、溝などが調査された。	縄文/古墳/奈良・平安	5・18
32	高山古墳群 (たかやまこふんぐん)	三和町	昭和52年度伊勢崎市教育委員会	6世紀に築造された円墳。	古墳	5・18
33	舞台遺跡 (ぶたいいせき)	三和町	平成7～11年度群馬県埋蔵文化財調査事業団、昭和51年度伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器群、縄文時代前期の住居、古墳時代前期および後期の住居や後期の円形周溝遺構、奈良・平安時代の住居、平安須恵器窯跡などが調査された。	旧石器/縄文/奈良・平安/中世	38・39・40
34	丸塚山古墳 (まるづかやまこふん)	三和町	昭和30年度群馬大学史学研究室	5世紀後半に築造された帆立貝式古墳。	古墳	5
35	大道西古墳群 (おおみちにしこふんぐん)	三和町他	昭和56・58年度伊勢崎市教育委員会	大道西1号墳、行者山1・2号墳が調査された。	古墳	5
36	上原古墳 (うえはらこふん)	三和町	昭和41年度伊勢崎市教育委員会、梅沢重昭	玄室から蔵手刀、青銅製銜帯などが出土し、築造時期は7世紀末から8世紀初頭と推定されている。	古墳	41・42
37	間之山遺跡 (あいのやまいせき)	波志江町	昭和52年度伊勢崎市教育委員会	縄文時代草創期土器片、弥生時代の住居、後期土器、古墳時代の住居、方形周溝墓などが調査されている。	縄文/弥生/古墳/奈良・平安	5・43・44
38	間之山東遺跡 (あいのやまひがしいせき)	波志江町	昭和60年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代の集落。	縄文/古墳/奈良・平安	5
39	伊勢山遺跡 (いせやまいせき)	波志江町	平成11年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、縄文時代土器・石器、古墳時代前期土器、近世墓、溝、土坑等が調査された。	旧石器/縄文/古墳/近世	45
40	祝堂古墳 (いわいどうこふん)	波志江町	昭和56年度伊勢崎市教育委員会	横穴式両袖型石室を主体部とし2重の周溝をもつ終末期の円墳。	古墳	5・46
41	岡屋敷遺跡 (おかやしきいせき)	波志江町	平成10・11年度群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成11年度伊勢崎市教育委員会、平成22年度伊勢崎市教育委員会	旧石器時代礫群4基、古墳時代後期集落、粘土採掘坑群、中世墓、屋敷堀などが調査された。	旧石器/古墳/奈良・平安/中世/近世	47・48
42	岡屋敷館址 (おかやしきやかたあと)	波志江町	平成10年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	ほぼ150m四方とされる館跡。	中世	5・49・50
43	蟹沼東古墳群 (かにぬまひがしこふんぐん)	波志江町	昭和52～55・61年度伊勢崎市教育委員会	縄文時代の住居、古墳時代の住居、方形周溝墓、約70基の後期の円墳などが調査された。	古墳	5・44・51・52
44	台所山古墳 (だいどころやまこふん)	波志江町	昭和46年度伊勢崎市教育委員会	箱式石室を主体部とする6世紀中頃から後半と推定される円墳。	古墳	5
45	大沼下遺跡 (おおぬまたいせき)	波志江町	昭和51年度伊勢崎市教育委員会、平成9・10・15年度群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成10年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代前期、奈良・平安時代の集落、方形周溝遺構、溝のほか古墳時代、平安時代の水田などが調査された。	古墳/奈良・平安	53・54
46	田中田遺跡 (たなかだいせき)	波志江町	平成15年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代の水田、平安時代の水田、古代の水路が調査された。	古墳/奈良・平安	54
47	田中田遺跡Ⅱ (たなかだいせきに)	波志江町	平成18年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代から古代の水田。	古墳/奈良・平安	55
48	中屋敷館址 (なかやしきやかたあと)	波志江町	平成10年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	東西100m、南北130mとされる館跡。	中世	5・49・56・57
49	西稲岡遺跡 (にしいなおかいせき)	波志江町	昭和51年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代の溝などが調査された。	古墳/奈良・平安	58
50	波志江中宿遺跡 (はしえなかにじゅくいせき)	波志江	平成9～11年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、奈良・平安時代の住居、古墳時代前期の粘土採掘坑、木製品、水田、中近世の掘立柱建物、井戸などが調査された。	旧石器/縄文/弥生/古墳/古代/中世以降	59
51	波志江中峰岸遺跡 (はしえなかみねがしいせき)	波志江町	昭和60年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	平安時代の水田、溝などが調査された。	平安	60
52	波志江中屋敷遺跡 (はしえなかやしきいせき)	波志江町	平成10年度伊勢崎市教育委員会、平成10・11年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代早期の住居、集石遺構、古墳時代から平安時代の住居、溝、水田、畠、中近世の環濠屋敷、溝、掘立柱建物、井戸、土坑、近代の屋敷などが調査された。	縄文/古墳/奈良・平安/中世/近世	57
53	波志江中屋敷西遺跡 (はしえなかやしきにしいせき)	波志江町	平成10年度群馬県埋蔵文化財調査事業団平成10・12年度伊勢崎市教育委員会	縄文時代～弥生時代の土坑、古墳時代水田、古墳時代から平安時代の溝、土坑、奈良・平安時代の住居、溝、水田、畠、中世屋敷、堀、溝、掘立柱建物、井戸、土坑、土坑墓、江戸時代以降の溝、土坑等が調査された。	縄文/古墳/中世/近世	61
54	波志江中屋敷東遺跡 (はしえなかやしきひがしいせき)	波志江町	平成9・10年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代の土坑、集石遺構、弥生時代の土器、古墳時代の木製品・木器が出土した水田、溝、中近世の土坑、近世の溝などが調査された。	弥生/古墳/奈良・平安	53・54
55	波志江西宿遺跡 (はしえにしじゅくいせき)	波志江町	平成10～12年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代3時期の石器群、縄文時代石器、弥生時代磨製石鏃などが出土した。古墳時代前期住居19軒、掘立柱建物2棟、土坑等、中近世掘立柱建物1棟、建物跡1棟、井戸24基、溝45条、土坑などが調査された。	旧石器/縄文/弥生/古墳/中世/近世	45・62
56	波志江六反田遺跡 (はしえろくたんだいせき)	波志江町	昭和60年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、平安時代の住居、水田、近世以降の溝、井戸、土坑、掘立柱建物などが調査された。	旧石器/古墳/奈良・平安/中世/近世	63
57	宮貝戸下遺跡 (みやがいとしいせき)	波志江町	昭和52年度伊勢崎市教育委員会	奈良時代住居、中近世の井戸、墓坑などが調査された。	古墳/奈良・平安	44
58	大道西遺跡 (おおみちにしいせき)	豊城町	平成20・21年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代前期の住居、土坑、佐位郡衙へ続く古代の道路遺構、平安時代の水田、畠、中近世の溝、土坑などが調査された。	古墳/奈良・平安/中世/近世	64
59	原之城遺跡 (げんのじょういせき)	豊城町	昭和56・58～61年度・平成2年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代後期の住居や掘立柱建物、環濠居館跡、祭祀跡などが調査された。	古墳	5・36・65
60	権現山古墳群 (ごんげんやまこふんぐん)	豊城町	昭和45年度伊勢崎市教育委員会	横穴式石室を主体部とする6世紀前半から7世紀前半の4基の円墳が調査された。	古墳	5
61	五目牛清水田遺跡 (ごめうししみずだいいせき)	五目牛町	昭和59・60年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代前期初頭の住居、古墳時代の住居、水田、前方後円墳、奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、溝、特殊遺構、祭祀跡、水田、中近世の掘立柱建物、溝、井戸、墓坑などが調査された。	縄文/古墳/奈良・平安	66・67

第5表 周辺の遺跡一覧表(3)

番号	遺跡名	所在地	調査	概要	時代	文献番号
62	五日牛新田遺跡 (ごめうししんでんいせき)	五日牛町	平成9～11年度伊勢崎市教育委員会	縄文時代草創期の住居、土坑、集石遺構、前期の住居、古墳時代前期の住居、古墳時代から近世の掘立柱建物、古代から近現代の土坑や溝などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良/平安	67
63	五日牛東遺跡 (ごめうしひがしいせき)	五日牛町	昭和54年度赤堀町教育委員会	縄文時代の住居、古墳時代の住居、奈良・平安時代の住居、時期不明の掘立柱建物などが調査された。	縄文/古墳/奈良/平安	68
64	五日牛南組遺跡 (ごめうしみなみぐみいせき)	五日牛町	昭和59・60年度群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成8～11年度伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器、縄文時代前期の住居、土坑、陥し穴、竪穴状遺構、弥生時代後期の再葬墓、古墳時代前期の住居、後期の円墳、古代の木炭窯、近現代の掘立柱建物、礎石建物、溝、土坑、井戸、畠などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/近世/現代	67・69
65	地蔵山古墳群 (じざうやまこふんぐん)	五日牛町	昭和52・53年度赤堀村教育委員会	6世紀前半から7世紀後半に築造された円墳、方墳、帆立貝式古墳など43基の古墳が調査された。	古墳	70・71
66	八幡林古墳群 (はちまんばやしこふんぐん)	五日牛町	昭和56年度赤堀村教育委員会	縄文時代前期の住居4軒、4基の円墳が調査された。	縄文/古墳	72
67	堀下八幡遺跡 (ほりしたはちまんいせき)	五日牛町	昭和59年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器群、縄文時代前期の住居、土坑、平安時代の住居、掘立柱建物、時期不明の溝、井戸などが調査された。	旧石器/縄文/奈良/平安	73
68	洞山遺跡・洞山古墳群 (どうやまいせき・どうやまこふんぐん)	五日牛町	昭和55・57年度赤堀村教育委員会、平成2・9年度東村教育委員会、平成17・18・21年度伊勢崎市教育委員会	縄文時代の住居(中・後期)・土坑、方形周溝墓、古墳時代・奈良・平安時代の住居などが調査されている。	縄文/古墳/奈良/平安/中世以降	74・75・76・77・78・79
69	下触牛伏遺跡 (しもふれうしふせいせき)	下触町	昭和57・58年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代第1・第2文化層の石器群、縄文時代の住居、土坑、陥し穴、集石、古墳時代後期の住居、古墳10基などが調査された。	旧石器/縄文/古墳	80
70	中西原遺跡 (なかにしはらいせき)	西小保方町	昭和49年度群馬県教育委員会、平成7～9年度東村教育委員会、平成22・23年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代前期から中期、古墳時代、平安時代の住居、中近世の土坑、井戸などが調査された。	縄文/古墳/奈良/平安	81・82・83・84・85・102
71	寿町遺跡 (ことぶきちょういせき)	寿町	平成10・11・18年度伊勢崎市教育委員会	奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、土坑、溝、井戸、道路状遺構が調査され、皇朝十二銭などが出土した。	古墳/奈良/平安/中世/近世	86・87・88・89
72	宗高遺跡 (むねたかいせき)	宗高町	平成9・10年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代の住居、奈良・平安時代の住居、中近世の溝、土坑墓、道跡などが調査された。	古墳/奈良/平安/中世	86・90
73	八幡町遺跡 (やはたちょういせき)	八幡町	昭和60・62年度・平成元年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代前期から後期の集落、溝、土坑、井戸、平安時代の溝、近世以降の溝などが調査された。	古墳/奈良/平安/近世	91・92・93
74	女堀 (おんなぼり)	前橋市上泉町から伊勢崎市西国定他	昭和54・56・57・58年度群馬県埋蔵文化財調査事業団、昭和54・60年度赤堀村教育委員会	前橋市上泉町付近から旧佐波郡東村西国定(現伊勢崎市)まで12世紀代に幅15～30m、深さ3～4m、全長およそ13kmにわたり開削された未完成の用水路。	中世	94・95・96
75	釜ノ口遺跡 (かまのくちいせき)	堀下町	平成11年度赤堀町教育委員会、平成14・15・19年度伊勢崎市教育委員会	古墳時代中期の埴輪工房跡、後期の円墳のほか、縄文時代、古墳時代、平安時代の遺構と遺物が出土した。	縄文/古墳/平安/近世	97・98・99
76	あづま道 (あづまみち)	—	昭和61・62年度群馬県埋蔵文化財調査事業団	中世以降に構築された道路。	中世以降	100・101

第3～5表参考文献(数字は文献番号と一致する)

1. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『年報28』(新屋敷遺跡・上西根遺跡)
2. 伊勢崎市教育委員会 1985 『上西根遺跡』
3. 伊勢崎市教育委員会 2004 『上西根遺跡』
4. 須長泰一 1986 『上植木廃寺周辺遺跡の一調査例』『伊勢崎史研究』第4号 pp.1-16
5. 伊勢崎市 1987 『伊勢崎市史通史編1』
6. 伊勢崎市教育委員会 2009 『新屋敷遺跡・上植木廃寺周辺遺跡Ⅱ・上植木廃寺』
7. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『南久保遺跡』
8. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008 『本関町古墳群』
9. 伊勢崎市教育委員会 2005 『一ノ関古墳』
10. 伊勢崎市教育委員会 2005 『関山遺跡Ⅱ』
11. 伊勢崎市教育委員会 2006 『平成17年度市内遺跡確認調査報告書』
12. 伊勢崎市教育委員会 1979 『恵下遺跡』
13. 伊勢崎市教育委員会 1985 『上植木廃寺発掘調査概報Ⅰ』
14. 伊勢崎市教育委員会 2009 『新屋敷遺跡・上植木廃寺周辺遺跡Ⅱ・上植木廃寺』
15. 伊勢崎市教育委員会 2002 『上植木廃寺・上植木廃寺瓦窯』
16. 伊勢崎市教育委員会 2007 『三軒屋遺跡Ⅰ』
17. 伊勢崎市教育委員会 2010 『三軒屋遺跡Ⅱ』
18. 伊勢崎市教育委員会 1977 『高山遺跡・天ヶ堤遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』
19. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『天ヶ堤遺跡(1)』
20. 伊勢崎市教育委員会 2006 『天ヶ堤遺跡Ⅴ』
21. 伊勢崎市教育委員会 2002 『平成12年度埋蔵文化財発掘調査年報』
22. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008 『書上遺跡』
23. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 『書上下吉祥寺遺跡・書上下原之城遺跡・上植木寺町田遺跡』
24. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 『書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江天神山遺跡』
25. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989 『上植木光仙房遺跡』
26. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『上植木光仙房遺跡』
27. 群馬県教育委員会 1974 『県園芸試験場第二遺跡・下江田前遺跡』
28. 伊勢崎市教育委員会 1977 『鯉沼東遺跡・舞台遺跡』
29. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 『光仙房遺跡』
30. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『三和工業団地Ⅰ遺跡(1)』
31. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『三和工業団地Ⅰ遺跡(2)』
32. 伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅱ遺跡』
33. 伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅲ遺跡』

第2章 地理のおよび歴史的環境

34. 伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅳ遺跡』
35. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998 『下植木老町田遺跡』
36. 伊勢崎市教育委員会 1982 『原之城遺跡・下吉祥寺遺跡』
37. 伊勢崎市教育委員会 1980 『下吉祥寺遺跡』
38. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『舞台遺跡(1)』
39. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『舞台遺跡(2)』
40. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『舞台遺跡(3)』
41. 群馬県立伊勢崎女子高等学校地歴部 1968 『上原古墳発掘報告書』
42. 群馬県 1981 『群馬県史資料編3』
43. 伊勢崎市教育委員会 1983 『西太田遺跡』
44. 伊勢崎市教育委員会 1977 『蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡』
45. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『波志江西宿遺跡Ⅰ・伊勢山遺跡』
46. 伊勢崎市教育委員会 1982 『牛伏1号古墳・祝堂古墳・大沼上遺跡』
47. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『岡屋敷遺跡』
48. 伊勢崎市教育委員会 2012 『岡屋敷遺跡―第4次調査―』
49. 群馬県文化事業振興会 1978 『群馬県古城墓址の研究』
50. 群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城館跡』
51. 伊勢崎市教育委員会 1979・1981 『蟹沼東古墳群』
52. 伊勢崎市教育委員会 1980 『宮貝戸古墳群・蟹沼東古墳群』
53. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『波志江中屋敷東遺跡』
54. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『中屋敷東遺跡・田中田遺跡・大沼下遺跡』
55. 伊勢崎市教育委員会 2007 『田中田遺跡Ⅱ』
56. 群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城館跡』
57. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 『波志江中屋敷遺跡』
58. 伊勢崎市教育委員会 1977 『大沼下遺跡・西稲岡遺跡』
59. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『波志江中宿遺跡』
60. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995 『飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡』
61. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『波志江中屋敷西遺跡』
62. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『波志江西宿遺跡Ⅱ』
63. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 『書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江天神山遺跡』
64. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011 『大道西遺跡』
65. 伊勢崎市教育委員会 1983 『原之城遺跡発掘調査報告書』
66. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 『五日牛清水田遺跡』
67. 伊勢崎市教育委員会 2005 『五日牛新田遺跡、五日牛南組Ⅱ遺跡、五日牛清水田Ⅱ遺跡、柳田Ⅱ遺跡』
68. 赤堀町教育委員会 1979 『五日牛東遺跡群及び赤堀町8号墳発掘調査概報』
69. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 『五日牛南組遺跡』
70. 赤堀村教育委員会 1978 『赤堀村地蔵山の古墳Ⅰ』
71. 赤堀村教育委員会 1979 『赤堀村地蔵山の古墳Ⅱ』
72. 赤堀村教育委員会 1982 『八幡林古墳群及び縄文住居跡調査概報』
73. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 『堀下八幡遺跡』
74. 赤堀村教育委員会 1980 『五日牛洞山遺跡発掘調査概報』
75. 赤堀村教育委員会 1982 『洞山古墳群及び北通、鷹巣遺跡発掘調査概報』
76. 赤堀町教育委員会 1990 『五日牛地区長堂106号線拡幅工事伴う埋蔵文化財発掘調査概報』
77. 伊勢崎市教育委員会 2006 『洞山遺跡Ⅴ』
78. 伊勢崎市教育委員会 2007 『洞山遺跡Ⅳ』
79. 伊勢崎市教育委員会 2010 『洞山遺跡Ⅵ』
80. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986 『下触牛伏遺跡』
81. 東村 1979 『東村誌』
82. 東村教育委員会 1996 『中西原遺跡Ⅰ』
83. 東村教育委員会 1997 『中西原遺跡Ⅱ』
84. 東村教育委員会 1998 『中西原遺跡Ⅲ』
85. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011 『年報30』
86. 伊勢崎市教育委員会 2001 『平成10年度埋蔵文化財調査年報』
87. 伊勢崎市教育委員会 2001 『平成11年度埋蔵文化財調査年報』
88. 伊勢崎市教育委員会 2007 『平成18年度埋蔵文化財調査年報』
89. 伊勢崎市教育委員会 2012 『寿町遺跡―第1～3次調査―』
90. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998 『年報17』
91. 伊勢崎市教育委員会 1987 『八幡町遺跡』
92. 伊勢崎市教育委員会 1988 『八幡町遺跡(B地区)』
93. 伊勢崎市教育委員会 1999 『八幡町遺跡(D地区)』
94. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984 『女堀』
95. 赤堀村教育委員会 1980 『川上遺跡、女堀用水遺構発掘調査概報』
96. 赤堀村教育委員会 1986 『中畑遺跡、女堀用水遺構発掘調査概報』
97. 赤堀町教育委員会 1999 『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』
98. 伊勢崎市教育委員会 2007 『釜ノ口遺跡Ⅳ』
99. 伊勢崎市教育委員会 2011 『釜ノ口遺跡Ⅲ』
100. 群馬県教育委員会 1983 『歴史の道調査報告書東山道』
101. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995 『今井道上・道下遺跡』
102. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『中西原遺跡―縄文時代集落遺跡の調査―』

第3章 関遺跡の調査

第1節 7区の調査

1. 概要

平成20年度に発掘調査が行われた新屋敷遺跡1区が、整理作業によって関遺跡7区と名称が変更された(第1表参照)。平成23・24年度の発掘調査で、北側から1区、2区、・・・と呼称したため、それに従い南端の当該調査区は7区となったものである。7区が最初の報告となったが、関遺跡1～6区については今後順次報告書を刊行する予定である。

関遺跡7区は、国道462号拡幅部分の調査となるため、調査区は南北に細長く、長さ86m、幅約14mである。調査区内の標高はおよそ76.3～77.0mで、北東側から粕川に近い南西側に向かって緩やかに傾斜するものの、ほぼ平坦な地形である。関遺跡7区の調査面積は1374.84㎡である。

関遺跡7区では、古墳時代から平安時代、中世から近世の遺構を検出した。遺構検出面はVb層である。遺構の内訳は、竪穴住居21軒、柵1列、溝14条、井戸6基、墓坑3基、土坑30基、ピット88基である。竪穴住居は古墳時代から平安時代、墓坑は中世、柵および井戸、ピットは埋没土の特徴などから中世以降と考えている。溝および土坑は古代から中近世で、中には時期が特定できない遺構もあった。7区南端を除き、竪穴住居などの遺構が調査区全体に認められ、遺構の密度が高かった。基本土層の確認は7区北東部の東壁トレンチで深掘り調査を実施し、表土から約1.8mの深さまで確認した(第4図)。このほかに井戸の調査時には側壁の土層観察も併せて行った。また、縄文時代の洪水層が3～4mの厚さで堆積していたため、旧石器時代の確認調査は実施しなかった。

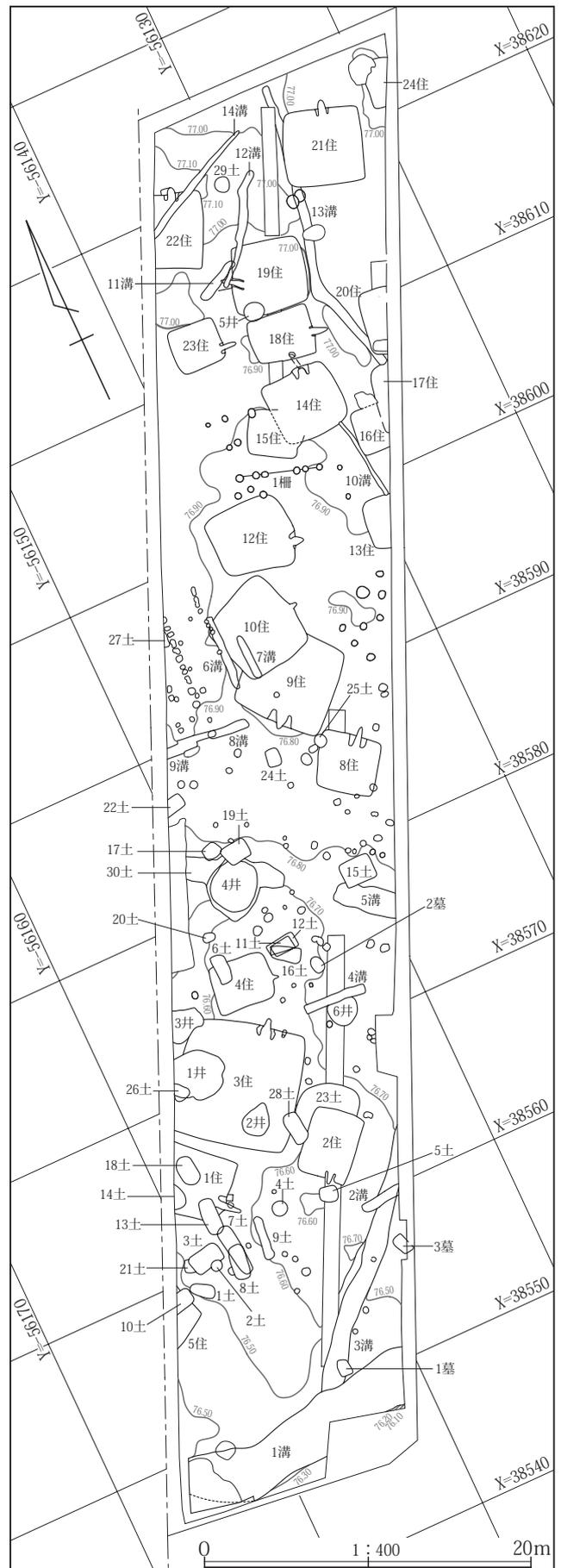
2. 竪穴住居

21軒検出された。いずれも古墳時代終末期から平安時代の竪穴住居である。南端を除く調査区全体に分布していた。一辺7m以上の大型の住居もある。遺構検出面はVb層上面である。

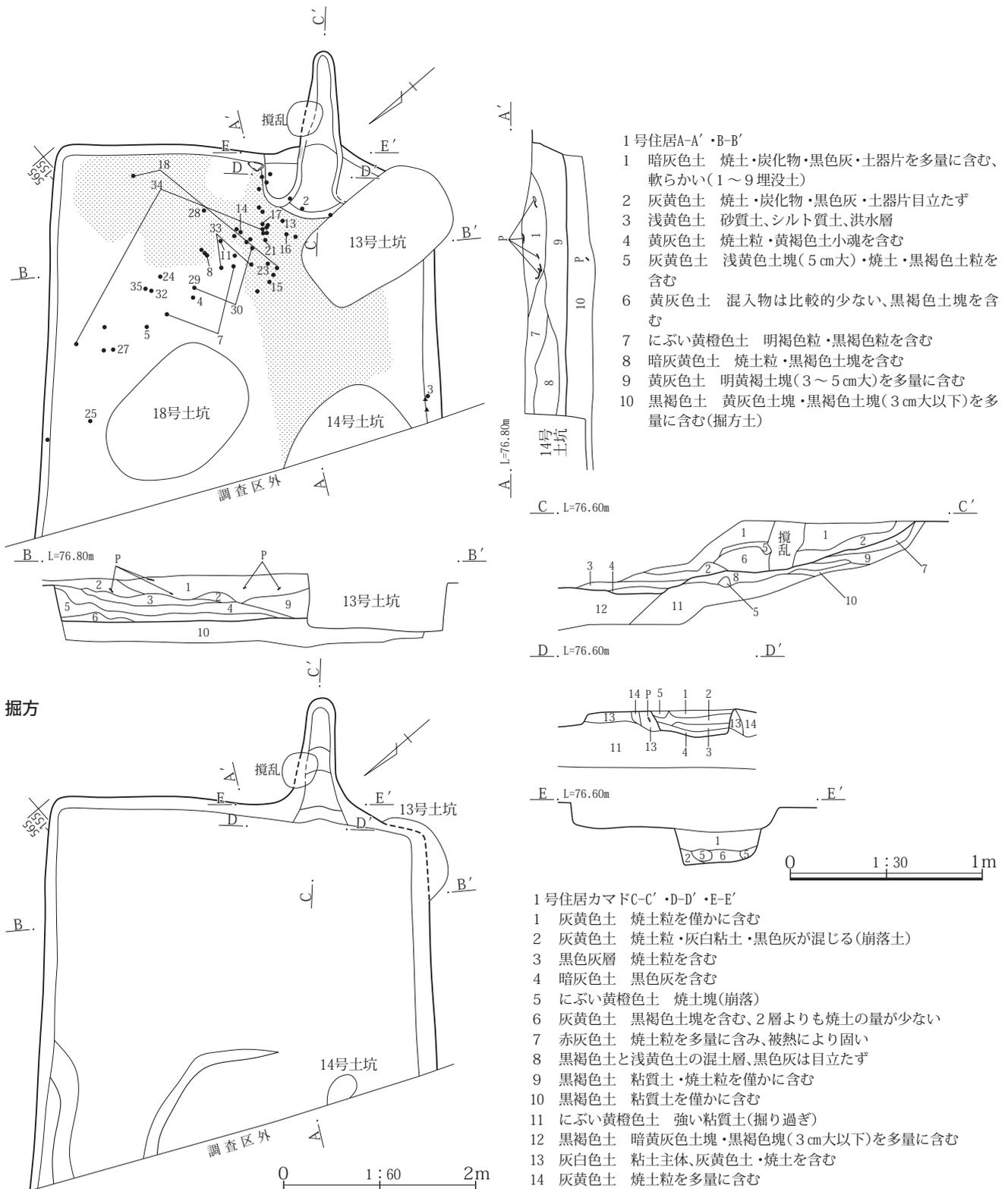
7区1号竪穴住居(第10～12図 PL. 2・108)

位置 7区南西部

X=38,562～38,567 Y=-56,155～-56,159



第9図 関7区全体図



第10図 関7区1号竈穴住居

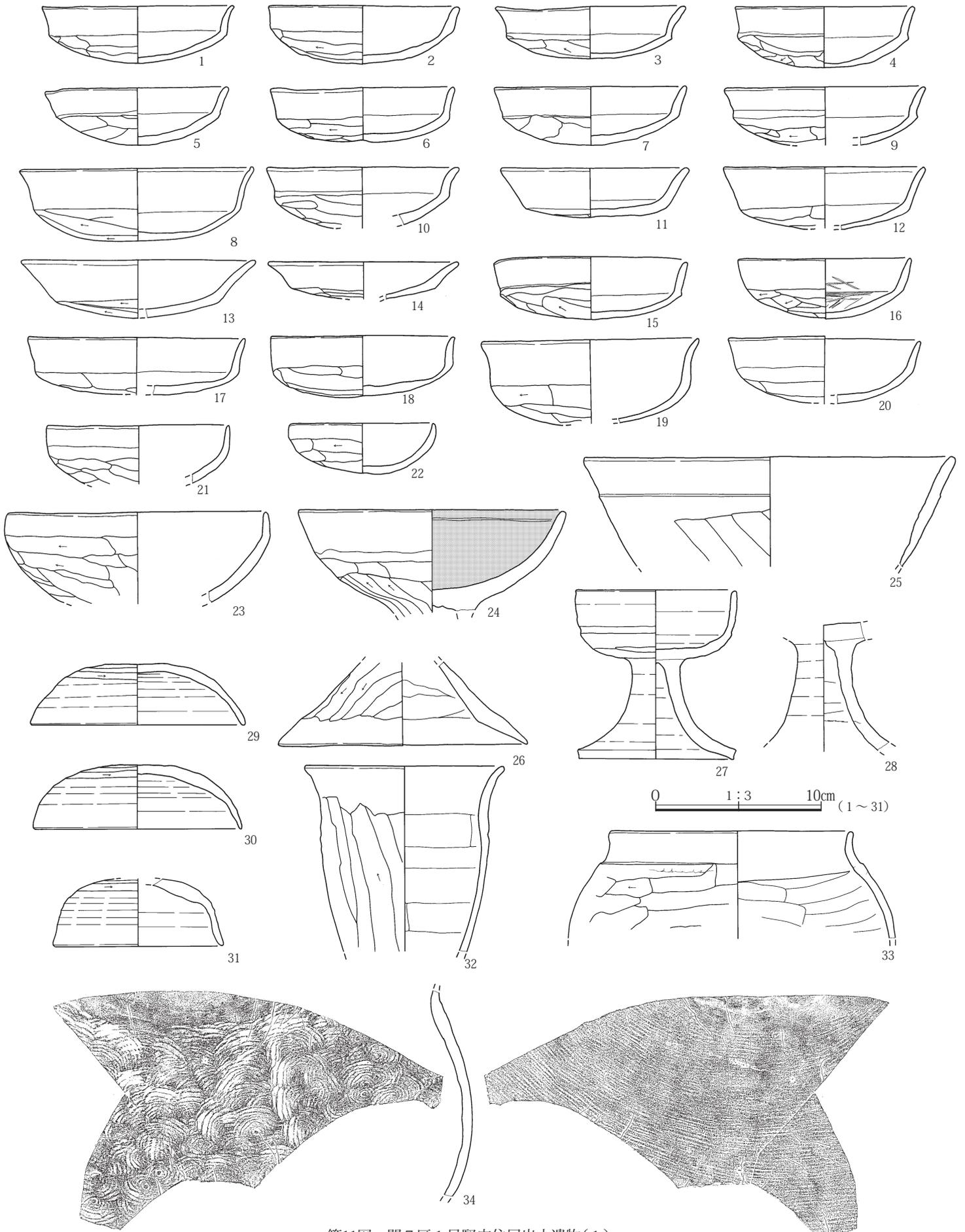
主軸方向 N-47°-W

重複 13号・14号・18号土坑と重複する。遺構検出状況および土層断面の観察から、いずれの土坑よりも本住居が古い。

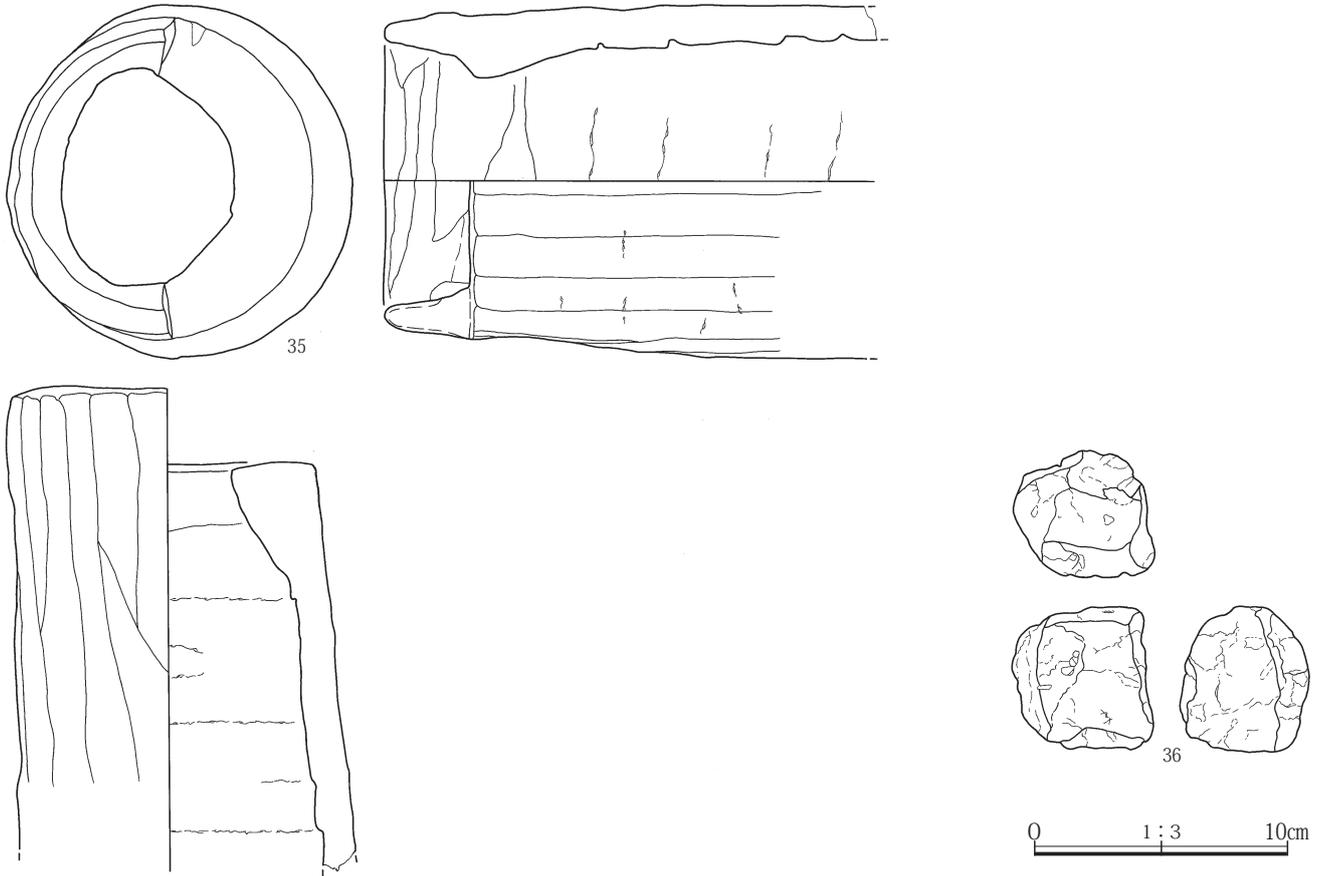
形状と規模 北西部が調査区外だが、平面形は正方形ま

たは長方形と推定する。検出した長軸長は4.14m、短軸長4.10m、遺構検出面から床面までの深さは0.37m、掘方底面までの深さは0.57m、住居内の面積は14.26㎡以上である。

埋没土 焼土粒を含む暗灰色土や灰黄色土を主体とし、



第11図 関7区1号竪穴住居出土遺物(1)



第12図 関7区1号竪穴住居出土遺物(2)

自然堆積の状況を示す。1層は締まりが弱い暗灰色土で土器片を多く含む。3層は比較的均質な浅黄色砂質土で、洪水層と判断した。

床面 黄灰色土塊と黒褐色土塊を含む黒褐色土で構築され、カマド周辺を中心に硬化していた。

カマド 東壁で1か所検出した。右袖の一部は13号土坑に切られている。両袖は灰白色粘土で構築されている。焚き口幅0.32m、焚き口から煙道までの長さは1.75mである。燃烧部奥壁および煙道の一部に焼土面が残っている。カマド使用面は床面より5cm程度低くなっている。

柱穴 検出されなかった。

掘方 掘方底面は西部に約5cmの高まりがある。床面から掘方底面までの深さは約0.2mである。

遺物と出土状態 土師器1,108点、須恵器50点、土製品1点、粘土塊1点、礫6点が出土した。このうち、器形や時期がわかる土器や特徴的な遺物を36点図示した。カマド周辺から多量の土器が出土した。いずれも1層・2層からの出土で、床面から出土した遺物はなかった。

所見 埋没土の観察から、住居が埋まりきらない凹みの時期に洪水によると考えられる砂質シルト層(10～15cm)が入り込んでいる。出土遺物から、時期は7世紀前半と推定される。

7区2号竪穴住居(第13・14図 PL. 2・109)

位置 7区南東部

X=38,561～38,565 Y=-56,147～-56,151

主軸方向 N-42°-E

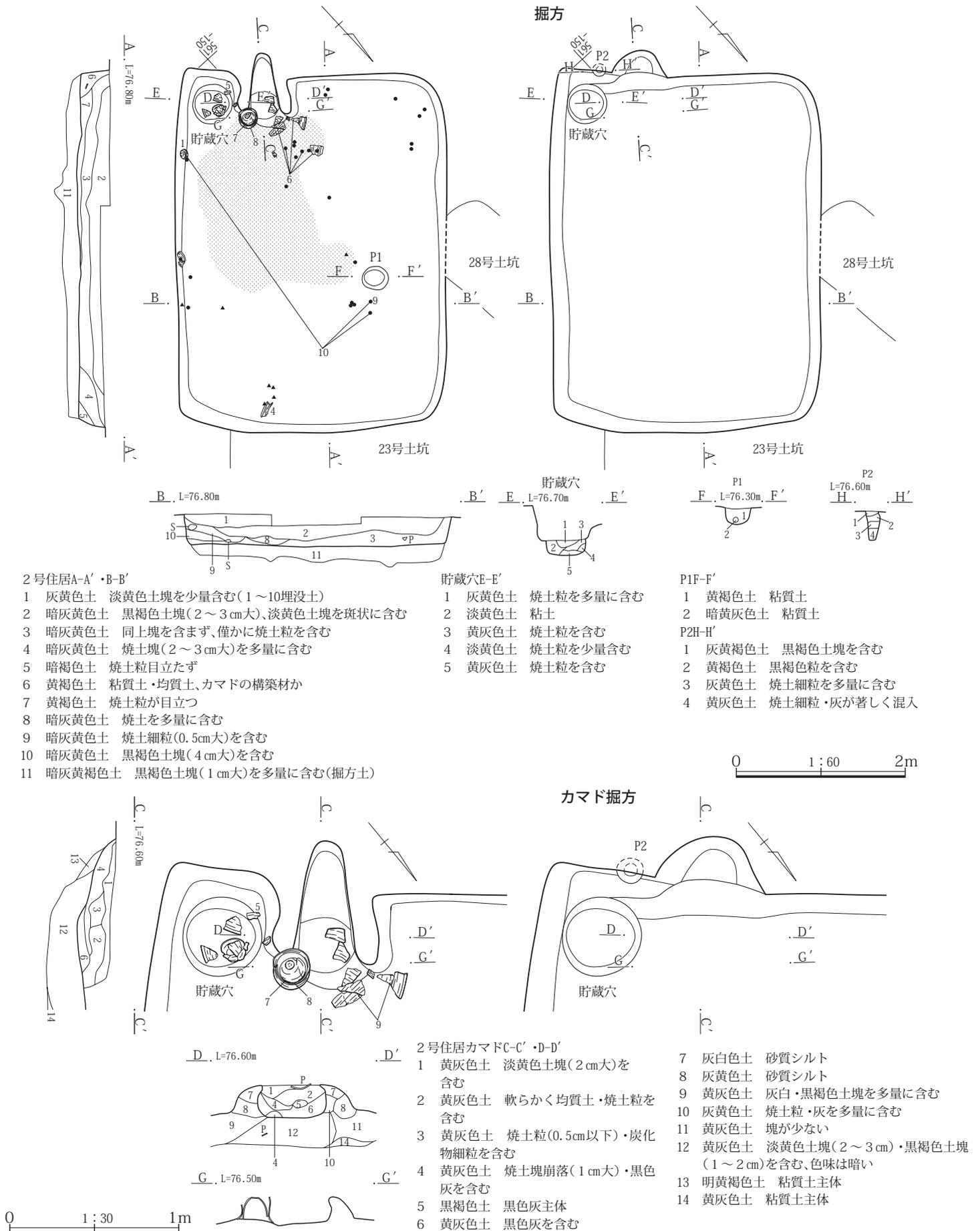
重複 23号・28号土坑と重複する。遺構検出時および断面の観察から、本住居は23号土坑より新しく、28号土坑より古い。

形状と規模 長方形を呈し、長軸長は4.26m、短軸長3.16m、検出面から床面までの深さは0.35m、掘方底面までの深さは約0.5m、住居内の面積は13.22㎡である。

埋没土 暗灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示している。

床面 カマド前面から中央部にかけて硬化していた。

カマド 南西壁で1か所検出され、残存状況は良好である。左袖では土師器甕(7・8)が倒立した状態で、右袖では土師器甕片が重なった状態で検出された。袖は灰白～灰黄色の砂質シルトで構築されている。袖の長さは0.40mである。焚き口幅は0.34m、焚き口から煙道までの長さは0.88mである。燃烧部から煙道にかけて緩やかに傾斜している。カマド埋没土4層は天井部が崩落した土である。



2号住居A-A'・B-B'

- 1 灰黄色土 淡黄色土塊を少量含む(1~10埋没土)
- 2 暗灰黄色土 黒褐色土塊(2~3cm大)、淡黄色土塊を斑状に含む
- 3 暗灰黄色土 同上塊を含まず、僅かに焼土粒を含む
- 4 暗灰黄色土 焼土塊(2~3cm大)を多量に含む
- 5 暗褐色土 焼土粒が目立つ
- 6 黄褐色土 粘質土・均質土、カマドの構築材か
- 7 黄褐色土 焼土粒が目立つ
- 8 暗灰黄色土 焼土を多量に含む
- 9 暗灰黄色土 焼土細粒(0.5cm大)を含む
- 10 暗灰黄色土 黒褐色土塊(4cm大)を含む
- 11 暗灰黄褐色土 黒褐色土塊(1cm大)を多量に含む(掘方土)

貯蔵穴E-E'

- 1 灰黄色土 焼土粒を多量に含む
- 2 淡黄色土 粘土
- 3 黄灰色土 焼土粒を含む
- 4 淡黄色土 焼土粒を少量含む
- 5 黄灰色土 焼土粒を含む

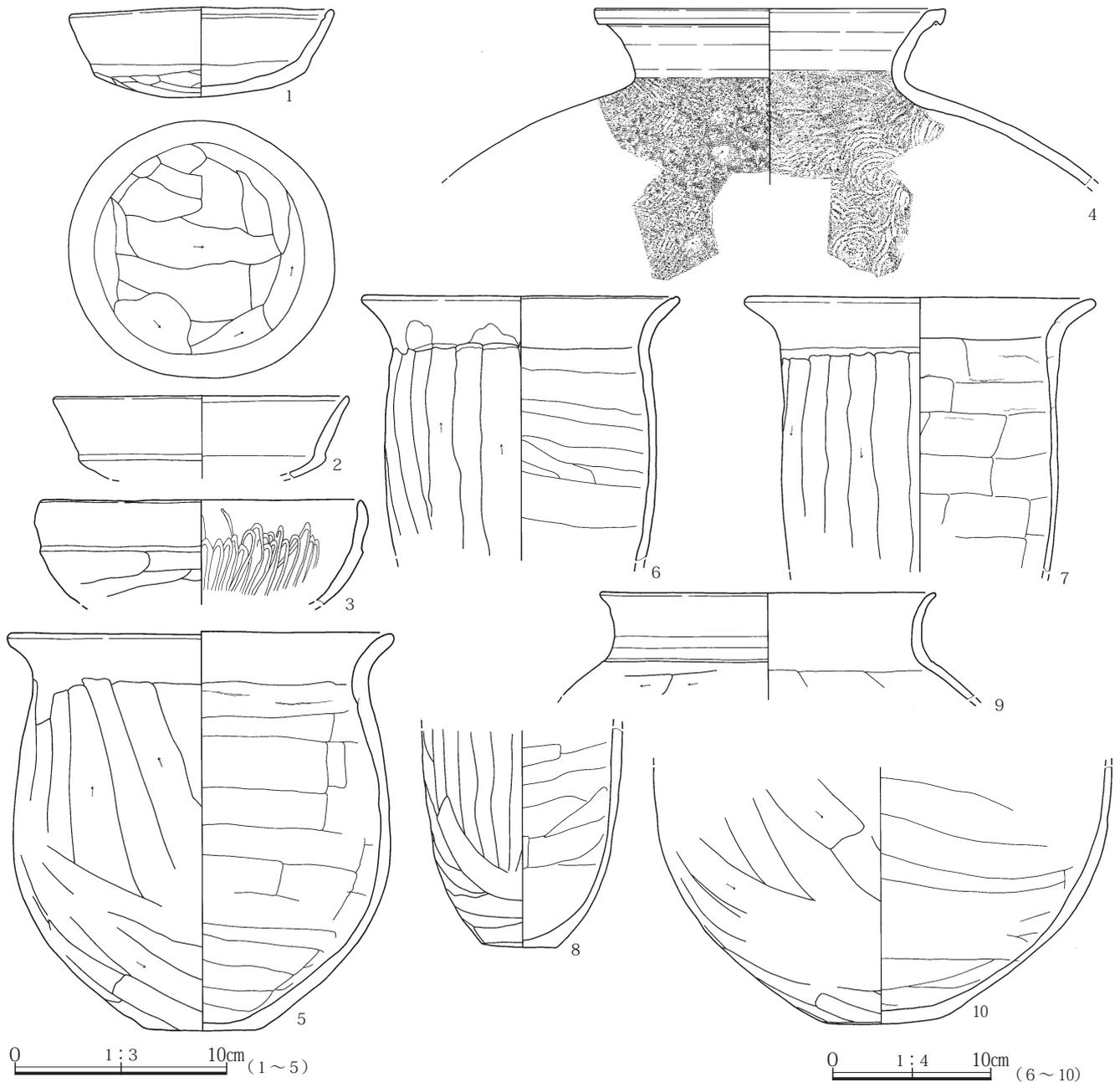
P1F-F'

- 1 黄褐色土 粘質土
- 2 暗黄灰色土 粘質土

P2H-H'

- 1 灰黄褐色土 黒褐色土塊を含む
- 2 黄褐色土 黒褐色粒を含む
- 3 灰黄色土 焼土細粒を多量に含む
- 4 黄灰色土 焼土細粒・灰が著しく混入

第13図 関7区2号竖穴住居



第14図 関7区2号竪穴住居出土遺物

貯蔵穴 カマド東側に隣接して検出された。円形を呈し、長径0.48m、短径0.47m、深さ0.22mである。埋没土1層には焼土が多量に含まれていた。

柱穴 2基検出された。P1は床面調査中に確認し、規模は長径0.32m、短径0.28m、深さ0.20mである。P2はカマド近くの側壁に位置する。埋没土の特徴が住居内埋没土と似ているものの、住居に伴うものかどうかは不明である。長径0.15m、短径0.15m、深さ0.35mである。

掘方 掘方底面は5～10cm程度の小さな凹凸が多数あるが、全体的にはほぼ平らである。床面から掘方底面までの深さは約0.15～0.2mである。掘方調査中にP1付近

から土器片がまとまって出土した。

遺物と出土状態 土師器702点、須恵器16点、埴輪5点、棒状礫4点が出土し、このうち10点を図示した。5の小型甕は貯蔵穴底面より2cm上位で出土した。土師器甕(10)は埋没土中および掘方土中から出土し接合した。また、北東壁付近では、床面より9cm上位で棒状礫が4点まとまって出土している。

所見 P1は柱穴の可能性があるが、深さが0.2mと浅く、柱痕もなかった。出土遺物から、時期は6世紀末～7世紀初めと推定される。

7区3号竪穴住居(第15～25図 PL. 3・4・109～113)**位置** 7区南東部

X=38,564～38,574 Y=-56,148～-56,157

主軸方向 N-37°-E**重複** 26号・28号土坑、1号・2号・3号井戸と重複する。遺構検出時や土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本住居が古い。**形状と規模** 西壁の一部が調査区外だが、ほぼ全体を調査することができた。平面形はほぼ正方形で、長軸長は7.6m、短軸長7.3m、遺構検出面から床面までの深さは0.6m、掘方底面までの深さは0.7～0.9m、面積は54.18㎡以上である。**埋没土** 灰黄色土を主体とし自然堆積の状況を示している。3層は層厚0.1～0.2mの灰白色シルト層で、均質で洪水層と判断した。6～9層は住居中央から南西部に部分的に分布し、6層と8層は炭化物を多量に含む黒色灰土または黒色土で、7層と9層は焼土を多量に含む灰色土または黒色灰土である。これらの層は互層あるいは縞状に堆積している。埋没土中位から下位層にかけて遺物が多量に出土した。**床面** 側壁付近以外は全面的に床の硬化が見られた。**カマド** 北東壁で1か所検出された。両袖は灰白～灰色の粘土で構築されている。袖の長さは0.76mである。焚き口幅は0.52m、焚き口から煙道までの長さは1.64mである。燃焼部から煙道にかけて緩やかに傾斜している。燃焼部と煙道の側壁には焼土面がよく残存していた。カマド内部および焚き口周辺には灰が分布していた。焚き口付近は住居床面よりも4～9cm程度低く楕円形の凹みとなっている。掘方はカマド使用面よりも約0.1～0.2m掘られ、掘方土からは土器片が17点出土した。**貯蔵穴** カマド東側に隣接して検出された。円形で、長径0.94m、短径0.84m、深さ0.32mである。底面からの出土遺物はなかった。**柱穴** P1～P3を検出した。P1・P2は床面調査中に、P3は掘方調査中に確認した。P1～P3の大きさと形状は下記の通りである。

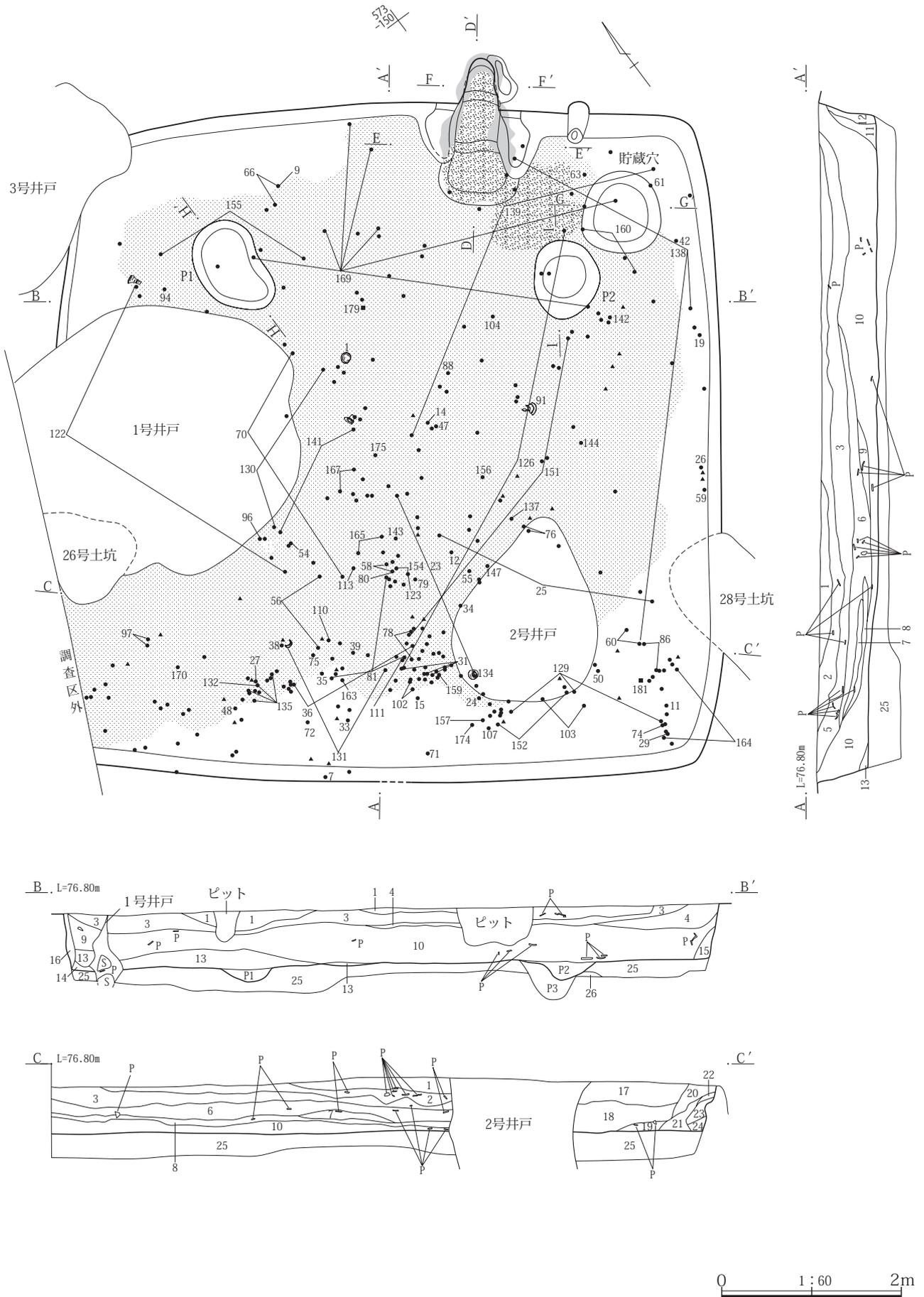
P1は長径1.12m、短径0.7m、深さ0.16m、不整楕円形。

P2は長径0.88m、短径0.74m、深さ0.21m、円形。

P3は長径0.75m、短径0.67m、深さ0.65m、楕円形。

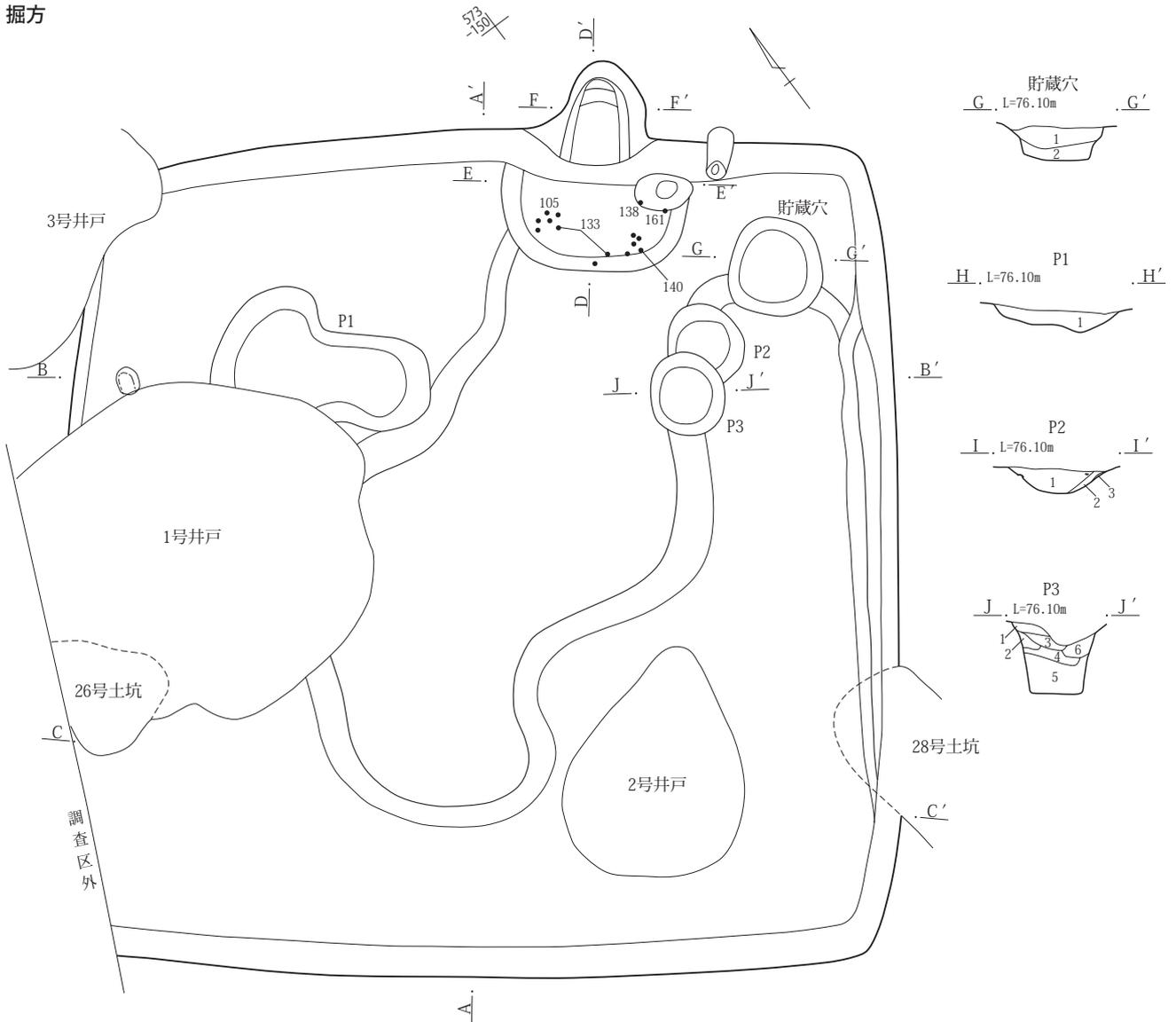
また、カマド右袖付近の側壁で直径約0.2m、深さ0.7mの円形のピットを検出した。住居検出作業中に確認された。埋没土は焼土粒を多く含む暗褐色土で、住居埋没土と似ていることから、本住居に伴うものと考えている。ピットは側壁に沿って垂直に掘られ、その位置からカマドの上屋根に関わる可能性を考えるが、他に同様のピットは検出されず詳細は不明である。

掘方 掘方底面は中央部で浅く、側壁付近で深く掘られている。床面から掘方底面までの深さは、中央部で約0.1m、側壁付近では0.2～0.3mである。**遺物と出土状態** 土師器6,080点、須恵器165点、土製品1点、埴輪47点、古代瓦1点、粘土塊3点、礫7点、鉄製品5点が出土した。このうち180点を図示し、粘土塊は写真のみ掲載した。遺物は住居南西部を中心に、埋没土中から多量に出土した。これらの土器は6世紀後半から7世紀前半と比較的長期間にわたることから、居住時期が複数あった可能性も考慮し、点取り遺物367点について垂直分布を確認した。遺物は埋没土中位から下位まで連続して出土し、間隙は認められなかった。また、6世紀後半と考えられる土器は平面的に偏りがなく、垂直分布でも7世紀前半と考えられる土器と同様の傾向であった。土師器高坏(88・91)は床上2cmから出土した。土師器甕(144)は床上1cmから出土している。**所見** 一辺7m以上の大型の竪穴住居である。カマドは北東壁に1か所設置されていた。カマドは掘方が大きくて深く、掘方土は焼土、灰白粘土、黄灰色土塊の混土層で、カマドをつくり替えている可能性がある。埋没土から遺物が多量に出土した。6世紀後半から7世紀前半と土器の時期が長期にわたるため、遺物出土状況の再検討を行ったが、平面分布および垂直分布に違いは認められなかった。住居の重複の可能性は低く、1軒の竪穴住居から長期間にわたる土器が埋没土中から出土したと判断した。出土遺物から、住居の時期は7世紀前半と推定される。

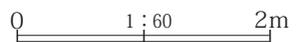


第15図 関7区3号竪穴住居

掘方

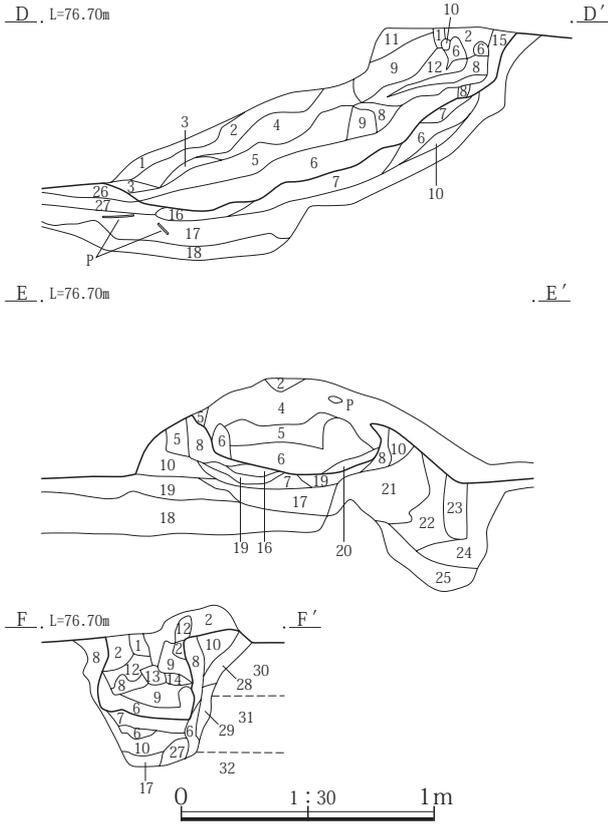


- | | |
|---|---|
| 3号住居A-A'・B-B'・C-C' | 22 明黄褐色土 塊主体(壁土崩落土) |
| 1 灰黄色土 焼土細粒を含む(1~24埋没土) | 23 黒褐色土 Vb層壁土崩落土主体 |
| 2 黒褐色土 黒色灰・焼土・炭化物粒を多量に含む、土器片も目立つ | 24 淡黄色土 粘質土、壁土崩落土主体 |
| 3 灰白色土 シルト層、洪水層、純度が高い | 25 黄灰色土 黒褐色土・灰白色土塊(5cm以下)が混じる(25・26掘方土) |
| 4 黄灰色土 焼土粒少ない、色味は暗い | 26 黒褐色土 黄灰色土を少量含む |
| 5 灰色土 焼土粒を多量に含む | 貯蔵穴G-G' |
| 6 黒色灰土 炭化物の縞状堆積(0.5cm)の薄い層が10数枚重なった状況、間に焼土粒・焼土塊を含む、土器片も多量 | 1 暗灰黄色土 焼土・炭化物(1~2cm大)を多量に含む、軟らかい |
| 7 灰色土 焼土粒を多量に含む | 2 暗黄灰色土 焼土・炭化物が1層よりも少ない |
| 8 黒色土 黒色褐色・炭化物の縞状堆積 | P1H-H' |
| 9 黒色灰土 焼土粒が50%を占める | 1 暗灰黄色土 焼土粒・淡黄色土塊・黒褐色土塊を多量に含む、汚れた土 |
| 10 灰黄色土 軟粘質・夾雑物少なく均質土、僅かに焼土粒を含む | P2I-I' |
| 11 にぶい黄褐色土 焼土を少量含む | 1 暗灰黄色土 焼土粒(0.5cm)・炭化物粒(0.5~2cm)を多量に含む |
| 12 黒褐色土 粘質土 | 2 暗灰黄色土 1層と同質、黒色灰を多量に含む |
| 13 黄灰色土 焼土粒少ない | 3 黒色土 固い縞状層 |
| 14 黄灰色 焼土粒含まず | P3J-J' |
| 15 にぶい黄褐色土 壁土塊主体・黒褐色土塊を含む | 1 黄灰色土 黒褐色土・浅黄褐色土・焼土粒が混在、色味は暗い、固い上面は床面の層 縞状に踏み固める |
| 16 黄灰色土 淡黄色土(壁土崩落土)を含む | 2 黄灰色土 黒褐色土がやや多い |
| 17 灰黄色土 淡黄色土塊(1~2cm大)を含む | 3 黄灰色土 黒褐色土灰を含む |
| 18 灰黄色土 淡黄色土塊(1~2cm大)・黒褐色土塊(2cm)を多量に含む(土坑埋没土) | 4 黒褐色土 焼土・灰を多量に含む |
| 19 暗黄灰色土 焼土粒(1cm以下)を含む、色味は暗い(ピット埋没土) | 5 黒褐色土 黒褐色土・浅黄色土塊の混土、掘方土と似る |
| 20 灰黄色土 焼土粒を僅かに含む | 6 暗灰色土 黒褐色土・灰白色土塊の混土層 |
| 21 暗黄灰色土 淡黄色土塊(壁土崩落土)を含む | |



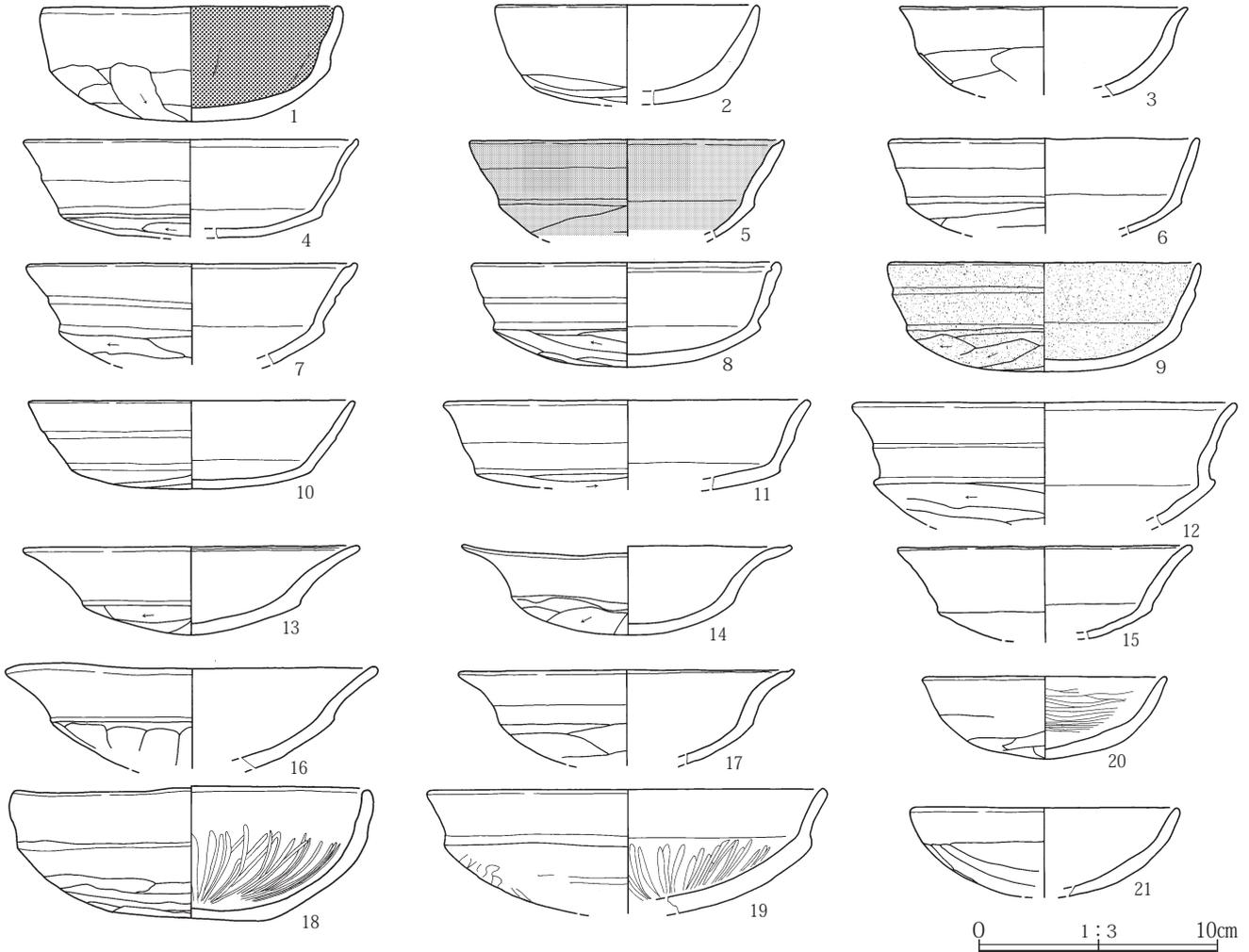
第16図 関7区3号竪穴住居掘方

第3章 関遺跡の調査

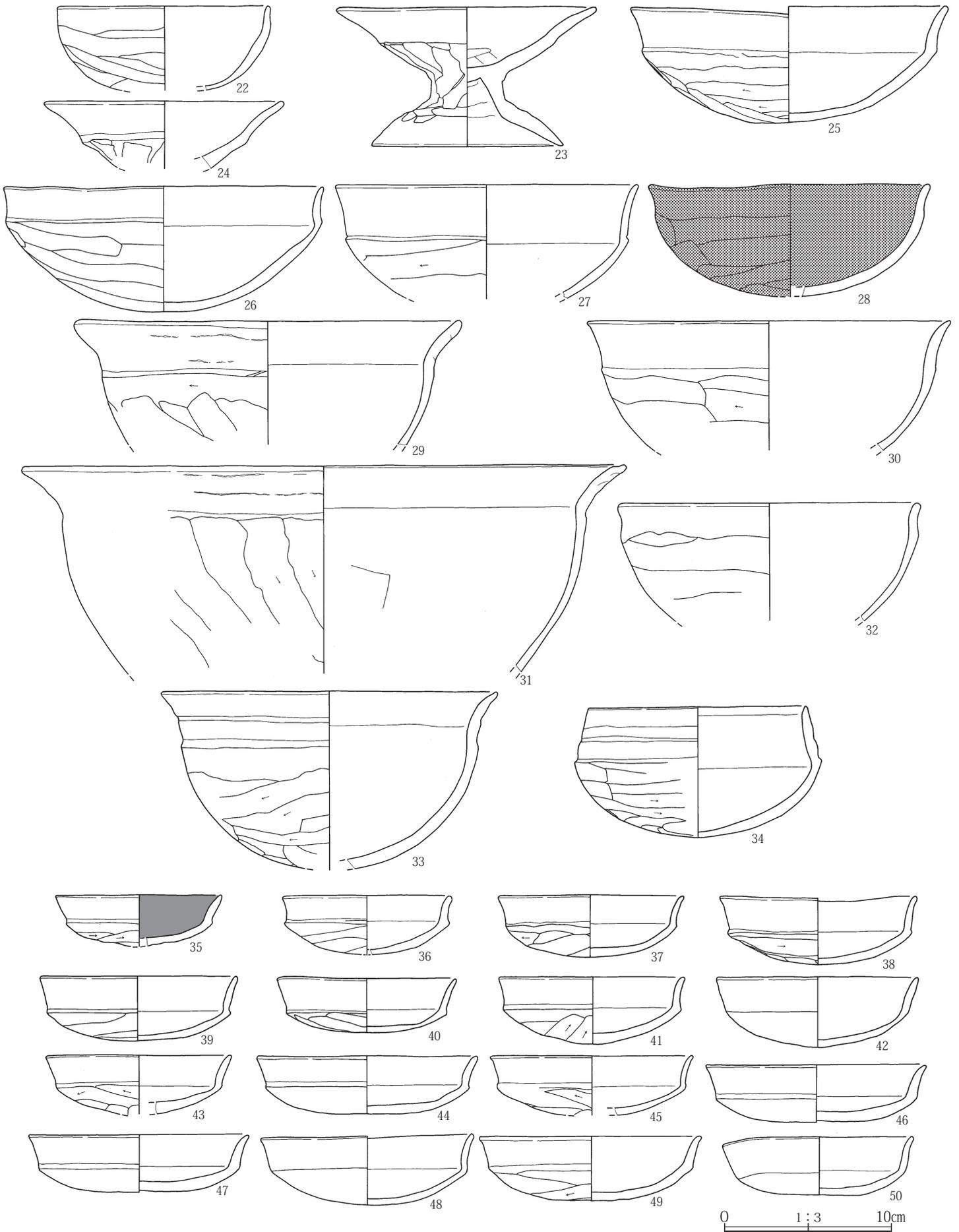


3号住居カマドD-D'・E-E'・F-F'

- 1 黄灰色土 粘質土、僅かに焼土粒を含む、色味は暗い
- 2 黄灰色土 焼土粒(2cm大)を含む
- 3 灰色土 純灰層
- 4 暗灰色土 2層と5層の中間層
- 5 暗灰色土 粘土
- 6 赤褐色土 粘土塊(粒)主体
- 7 青灰色灰
- 8 にぶい橙色土 焼土
- 9 暗灰色土 粘土・焼土粒・黒色灰を含む
- 10 灰白色土 粘土、灰色土の混土
- 11 暗灰色土 9層よりも多く粘土粒を含む
- 12 灰白色土 粘土・焼土粒の混土
- 13 黄灰色土 焼土細粒・灰を含む
- 14 黄灰色土 黄色粘土(焼土)0.5cm粒を多量に含む
- 15 黒褐色土 黒色灰・焼土を含む
- 16 にぶい橙色土 焼土、僅かに灰層を介する縞状堆積、現位置で加熱受けている
- 17 にぶい橙色土 焼土・灰白粘土・黄灰色土塊(5cm以下)の混土
- 18 にぶい橙色土 焼土塊(1cm以下)で、焼土・粘土が少ない
- 19 青灰色土 7層と同じ灰層と灰白粘土主体の互層
- 20 褐色土 6層と19層の中間、灰白粘土主体
- 21 黄灰色土 黒褐色土塊を多量に含み、灰白粘土を含まず、色味は暗い
- 22 灰色土 粘土塊主体、焼土を含む
- 23 灰色土 焼土粒を含まず
- 24 灰色土 灰色粘質土
- 25 灰色土 灰色粘質土
- 26 灰色土 灰白色粘土を含む
- 27 灰色土 粘土、焼土粒主体層の互層
- 28 黒褐色土 黄灰色土・灰白色土の混土層
- 29 灰色土 粘質土
- 30 黒褐色土 砂質土
- 31 にぶい黄橙色土 粘質土
- 32 黒褐色土 砂質土



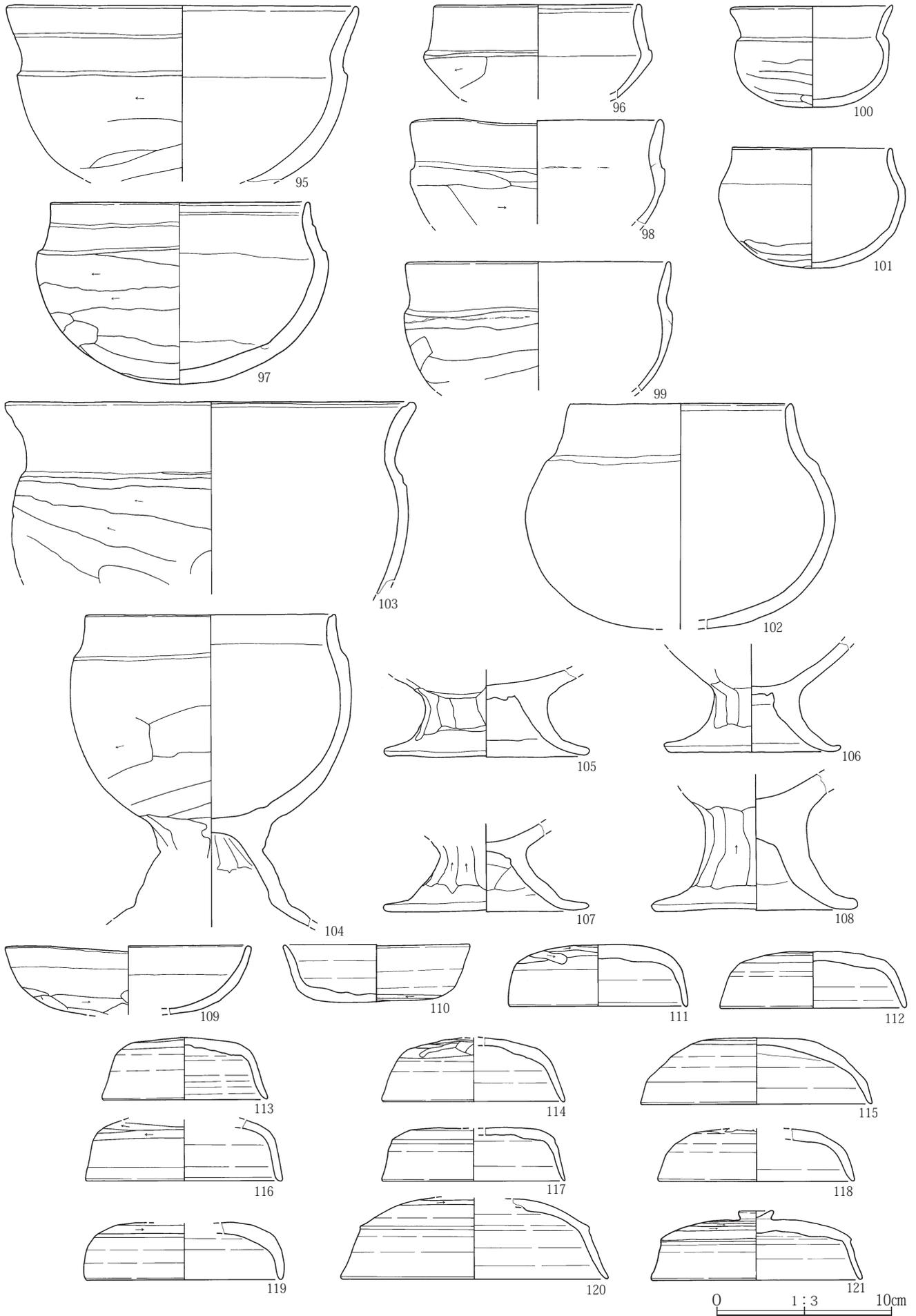
第17図 関7区3号竪穴住居カマド土層断面と出土遺物(1)



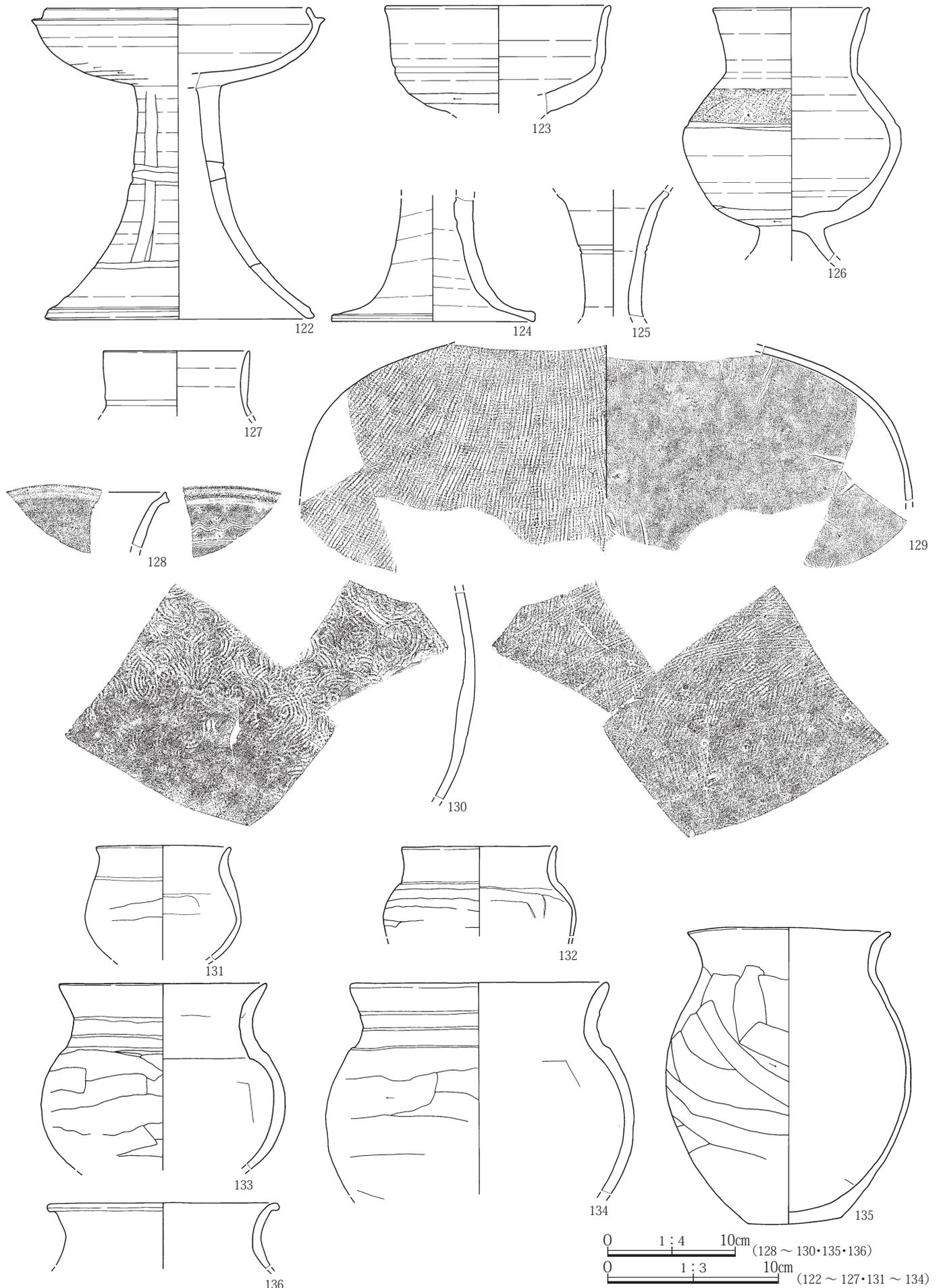
第18図 関7区3号竪穴住居出土遺物(2)



第19図 関7区3号竪穴住居出土遺物(3)



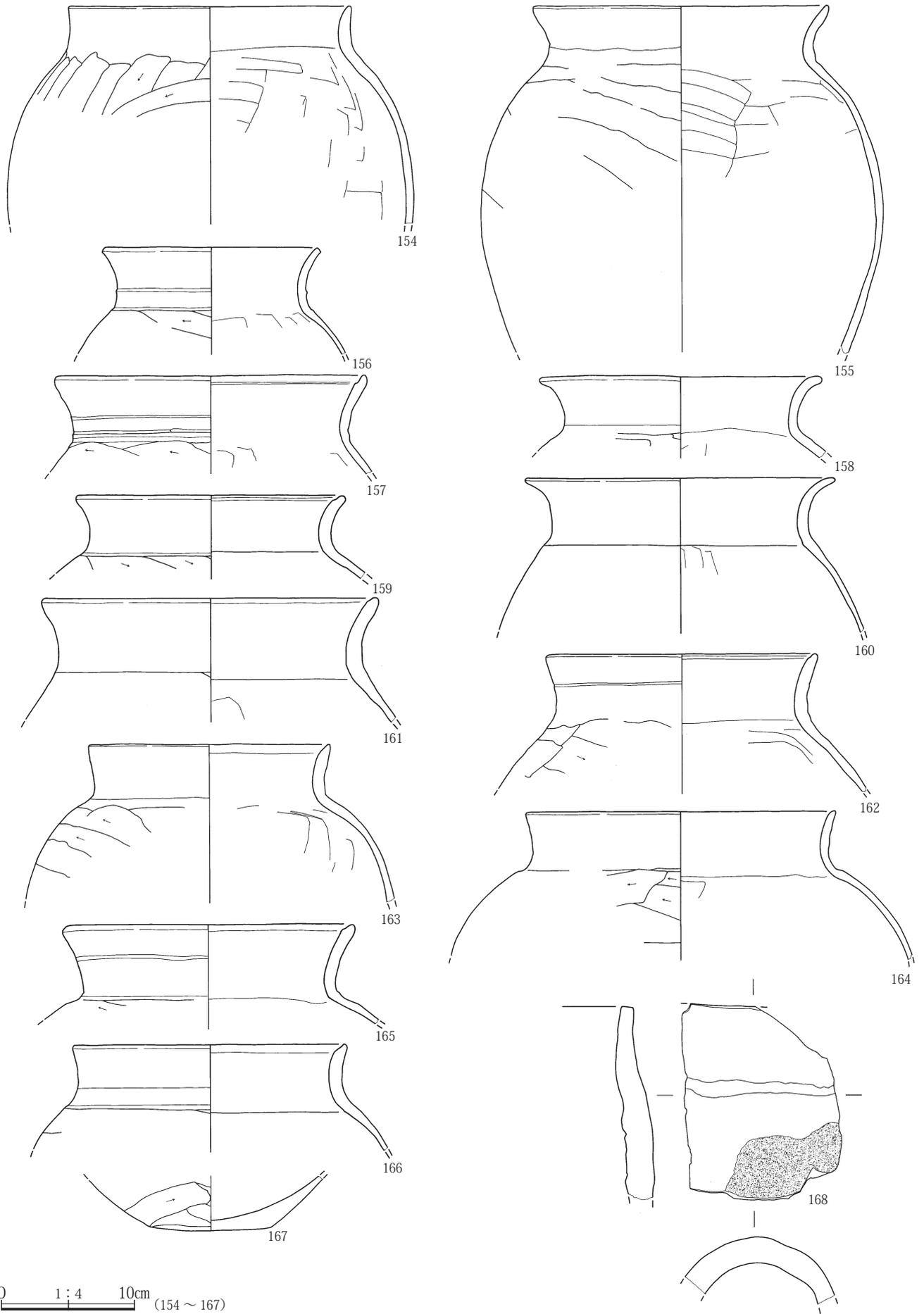
第20図 関7区3号竪穴住居出土遺物(4)



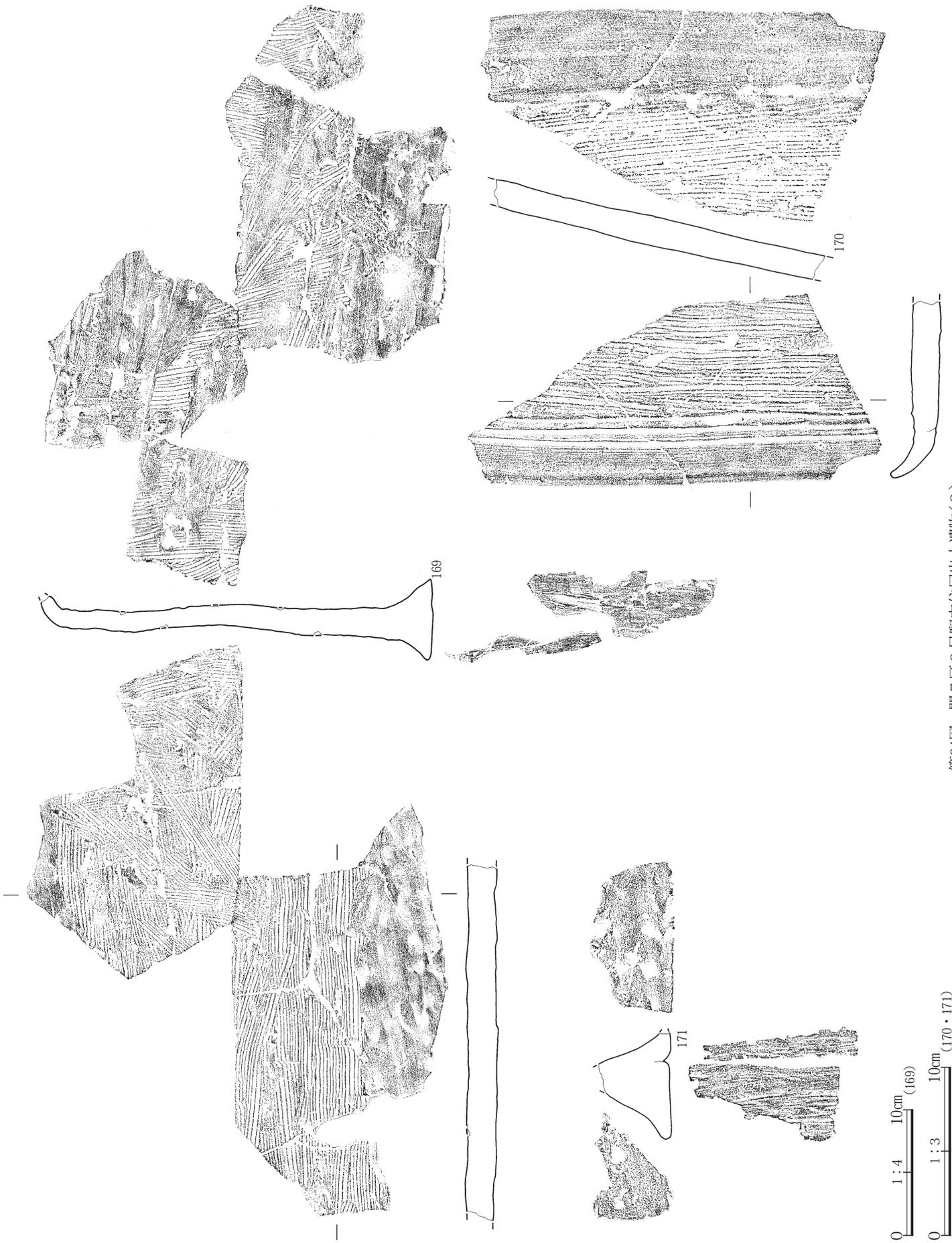
第21図 関7区3号竪穴住居出土遺物(5)



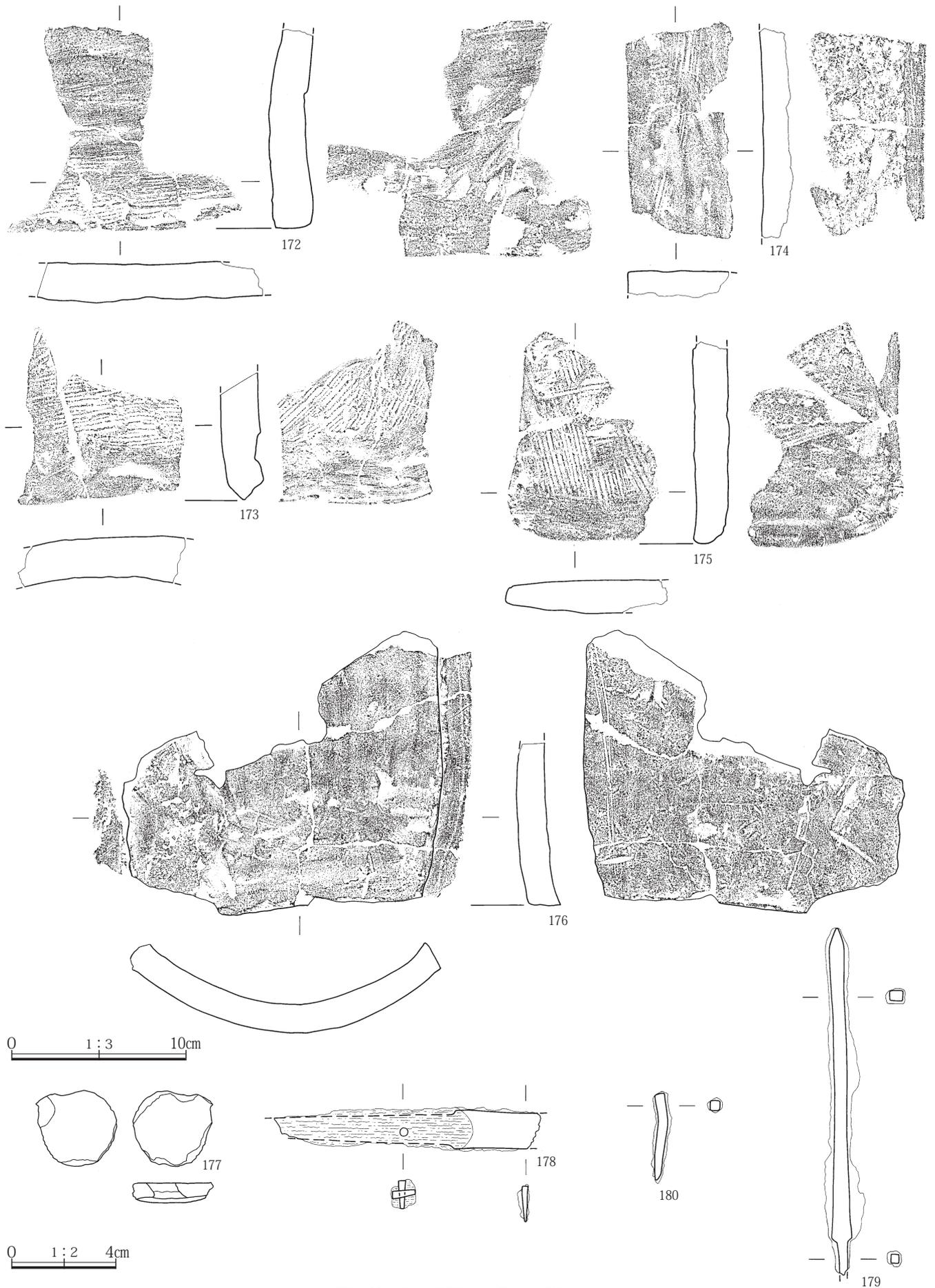
第22図 関7区3号竪穴住居出土遺物(6)



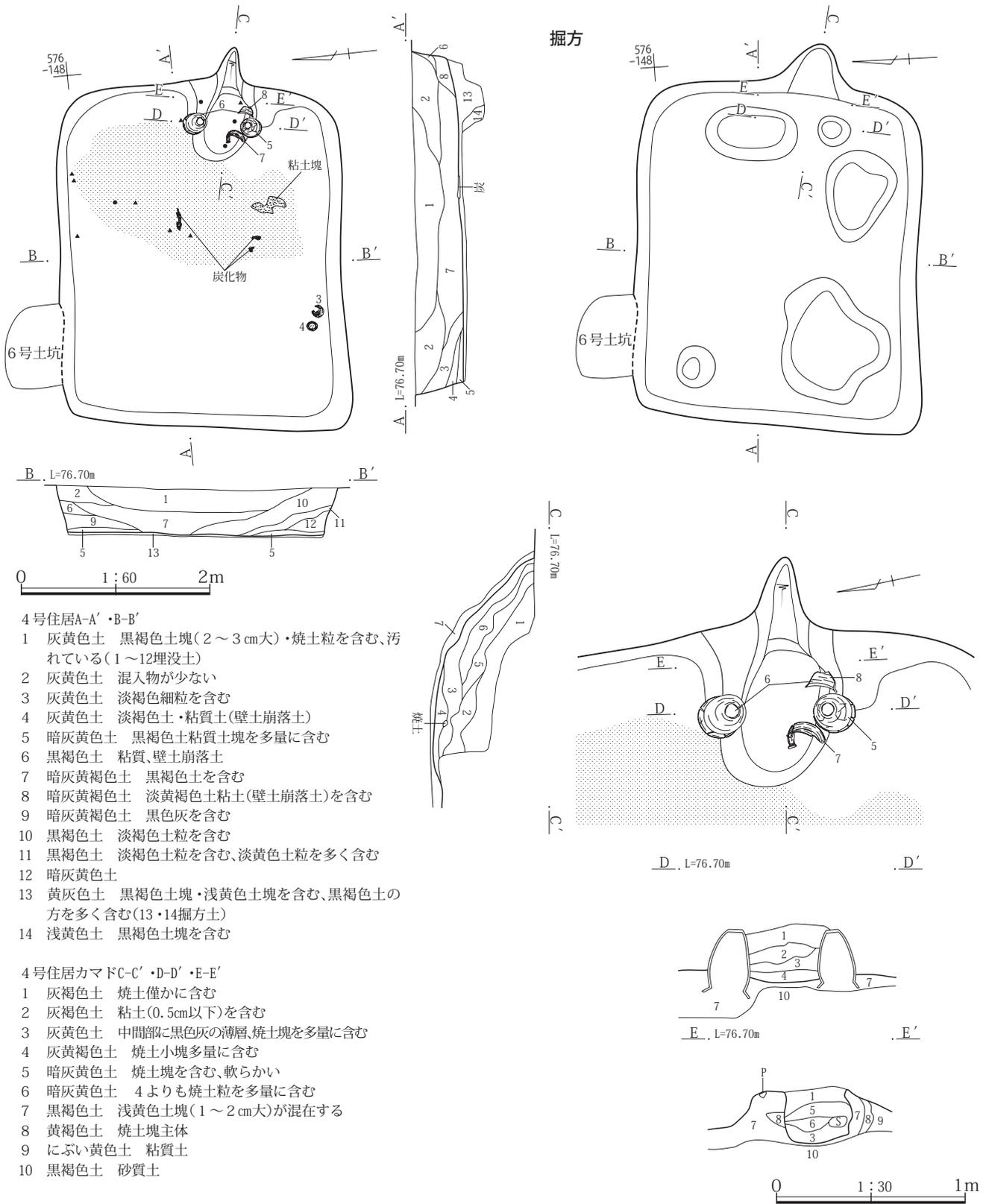
第23図 関7区3号竪穴住居出土遺物(7)



第24図 関7区3号竪穴住居出土遺物(8)



第25図 関7区3号竪穴住居出土遺物(9)



第26図 関7区4号竪穴住居

7区4号竪穴住居(第26・27図 PL. 5・113・114)

位置 7区中央部南寄り

X=38,573~38,576 Y=-56,148~-56,152

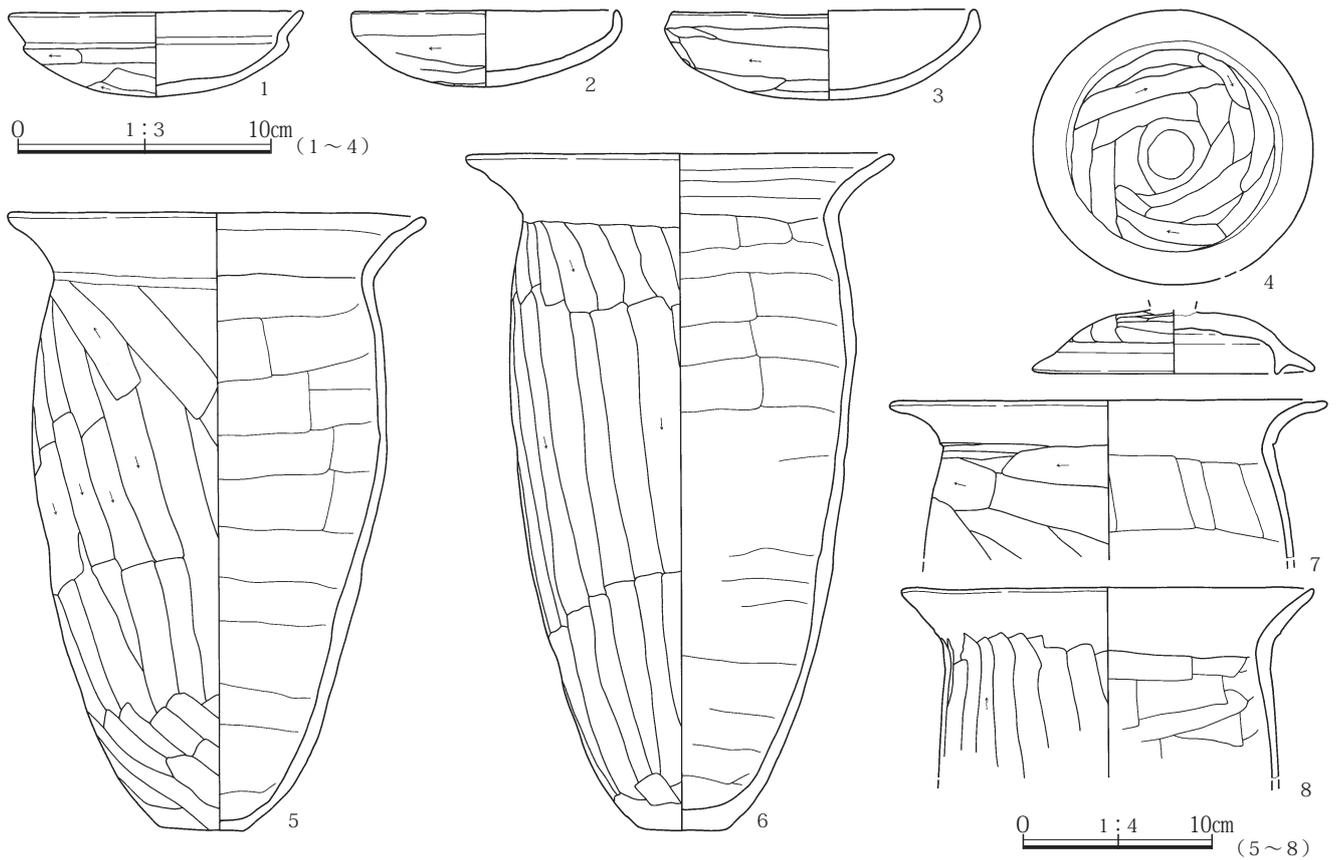
主軸方向 N-85°-W

重複 6号土坑と重複する。遺構検出時の観察から、6

号土坑が新しい。

形状と規模 長方形を呈する。長軸長は3.7m、短軸長3.0m、遺構検出面から床面までの深さは約0.5m、掘方底面までの深さは0.55m、面積は10.78㎡である。

埋没土 上層は灰黄色土を、下層は暗灰黄褐色土を主体



第27図 関7区4号竪穴住居出土遺物

とし、自然堆積の状況を示す。

床面 黒褐色土塊を多く含む黄灰色土で構築され、カマド周辺を中心に住居東側で硬化していた。住居中央付近、床面直上から炭化物と粘土塊が検出された。炭化物は3片で、大きさは25cm×5cm、10cm×5cm、5cm×5cmである。粘土塊は40cm×20cmの大きさである。

カマド 東壁で1か所検出した。カマドの残存状況は良好で、両袖端では土師器甕(6が左袖、5が右袖)が倒立した状態で検出された。両袖は暗灰黄色土で構築されている。袖の長さは0.48m、焚き口幅0.45m、焚き口から煙道までの長さは1.23mである。燃烧部内埋没土からは大型(10cm以上)の扁平礫が1点出土した。

柱穴 検出されなかった。

掘方 カマド前の2基の土坑状の凹みは両袖に土師器甕を設置する際の掘方で、床面からの深さは0.1～0.15mである。そのほか、側壁付近で、床面からの深さが0.1～0.2mの不定形の凹みが認められた。

遺物と出土状態 土師器112点、須恵器8点、棒状礫8点が出土した。このうち、8点を図示した。北壁際では、床面付近から棒状礫が3点出土した。カマド袖に芯材と

して使用された土師器甕(5・6)以外の土器は埋没土または掘方土から出土した。

所見 床面から比較的大型の炭化物や粘土塊が出土したものの、この他に炭化物や粘土、焼土等は確認されず、焼失住居か否かを判断することができない。出土遺物から、時期は7世紀後半から7世紀末と推定される。

7区5号竪穴住居(第28図 PL. 5・114)

位置 7区南西部

X = 38, 556 ~ 38, 559 Y = -56, 161 ~ -56, 163

主軸方向 一部の調査のため不明である。

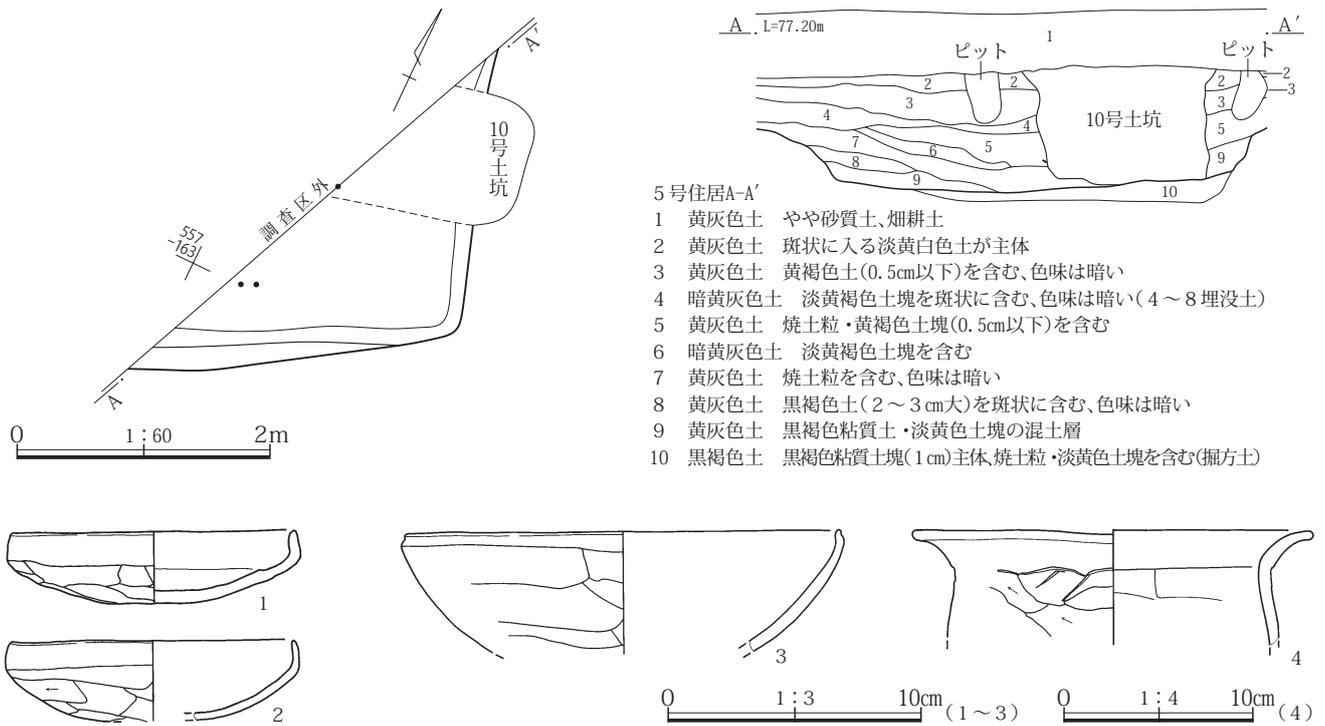
重複 10号土坑と重複する。土層断面の観察から、10号土坑が新しい。

形状と規模 住居の一部のみの調査であるが、方形または長方形と推定される。検出した南壁と東壁の長さはそれぞれ2.6m、2.35mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.4～0.5m、掘方底面までの深さは0.55mである。

埋没土 黄灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 硬化等は見られなかった。

カマド 検出されなかった。



- 5号住居A-A'
- 1 黄灰色土 やや砂質土、畑耕土
 - 2 黄灰色土 斑状に入る淡黄白色土が主体
 - 3 黄灰色土 黄褐色土(0.5cm以下)を含む、色味は暗い
 - 4 暗黄灰色土 淡黄褐色土塊を斑状に含む、色味は暗い(4~8埋没土)
 - 5 黄灰色土 焼土粒・黄褐色土塊(0.5cm以下)を含む
 - 6 暗黄灰色土 淡黄褐色土塊を含む
 - 7 黄灰色土 焼土粒を含む、色味は暗い
 - 8 黄灰色土 黒褐色土(2~3cm大)を斑状に含む、色味は暗い
 - 9 黄灰色土 黒褐色粘質土・淡黄色土塊の混土層
 - 10 黒褐色土 黒褐色粘質土塊(1cm)主体、焼土粒・淡黄色土塊を含む(掘方土)

第28図 関7区5号竪穴住居と出土遺物

柱穴 検出されなかった。

掘方 住居北側で最も深く、床面から掘方底面までの深さは0.18mである。南側ほど浅くなり、掘方が確認できない所もあった。

遺物と出土状態 土師器119点、須恵器5点が出土した。このうち、4点を図示した。出土遺物は少なく、床面から出土した遺物はなかった。

所見 住居の一部を調査したのみで、全体形や内部施設については不明である。出土遺物から、時期は7世紀末と推定される。

7区8号竪穴住居(第29・30図 PL. 6・114)

位置 7区中央部

X=38,582~38,586 Y=-56,136~-56,140

主軸方向 N-33°-E

重複 25号土坑、41号・43号ピットと重複する。遺構検出時の観察から、いずれの遺構よりも本住居が古い。

形状と規模 長軸長・短軸長ともに3.66mの方形である。遺構検出面から床面までの深さは約0.45m、掘方底面までの深さは0.6m、面積は13.10㎡である。

埋没土 灰黄色土や黄灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。2層では黒色灰の薄層が部分的に見られた。

床面 カマドの前面から住居中央部に硬化が認められた。

カマド 北西壁で1か所検出した。両袖は灰白色粘土および灰白色土で構築されている。袖の長さは0.73m、焚き口幅0.42m、焚き口から煙道までの長さは1.47mである。燃燒部使用面には黒色灰層と焼土が分布していた。

貯蔵穴 カマド右袖付近に位置し、長径0.45m、短径0.41m、床面からの深さは0.45mである。底面から遺物は出土しなかった。

柱穴 床面調査中にP1~P3を検出した。位置や大きさ、深さ、埋没土などから支柱穴と判断した。北西隅の柱穴は検出に努めたものの確認できなかった。各ピットの大きさは以下の通り。

P1は長径0.32m、短径0.3m、深さ0.31m、円形。

P2は長径0.34m、短径0.3m、深さ0.31m、円形。

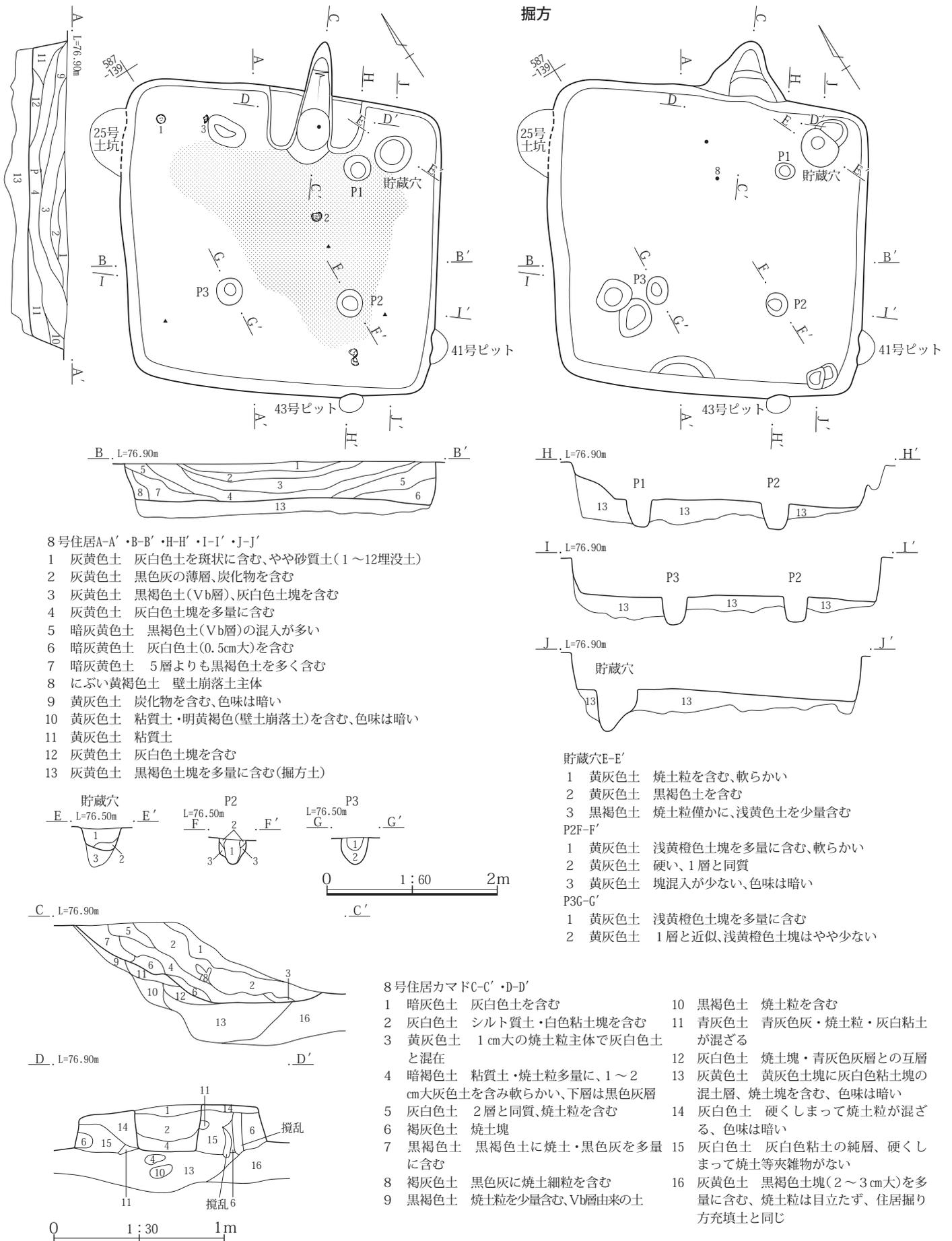
P3は長径0.32m、短径0.31m、深さ0.32m、円形。

柱穴間の距離は、P1とP2では1.6m、P2とP3では1.45mである。

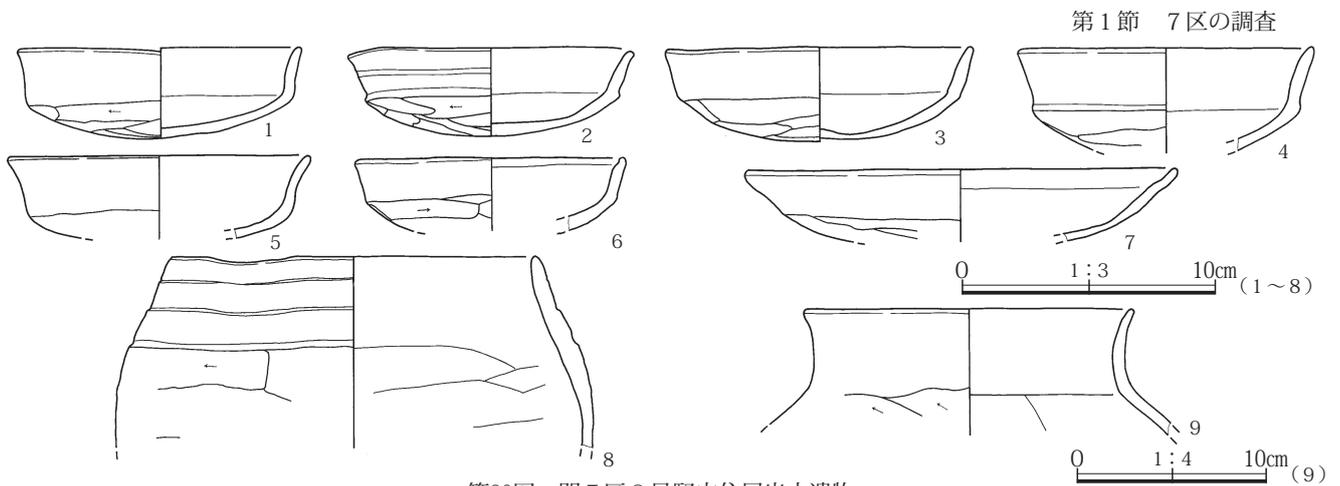
掘方 ピット状の凹凸があるものの全体的には平坦である。黒褐色土塊を主体とする土で充填されていた。

遺物と出土状態 土師器189点、須恵器1点、棒状礫4点が出土した。このうち、9点を図示した。土師器杯(1・2)は床面直上から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀前半と推定される。



第29図 関7区8号竪穴住居



第30図 関7区8号竪穴住居出土遺物

7区9号竪穴住居(第31～33図 PL. 7・114)

位置 7区中央部

X=38,586～38,592 Y=-56,136～-56,143

主軸方向 N-54°-E

重複 10号住居、6号・7号溝、76号ピットと重複する。遺構検出時の観察から、いずれの遺構よりも本住居が古い。

形状と規模 10号住居によって北側の一部を切られているものの、形状は正方形と推定される。長軸長は5.76m、短軸長は5.74m、遺構検出面から床面までの深さは0.57m、掘方底面までの深さは0.7m、面積は24.60㎡以上である。

埋没土 灰黄色土または黄灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。8層・18層・23層など埋没土下層には焼土が多量に含まれていた。4層には炭化物粒が多量に含まれ、薄い縞状になっていた。

床面 側壁から1～1.5mの範囲に、床面から2～5cm上位で焼土と炭化物の分布が認められた。調査時の所見では、植物質の炭化物を上から焼土層が被っている状態で検出されたとある。部分的には、炭化物層と焼土層が互層になっている箇所もあった。炭化物および焼土の分布状況を実測し記録した。また、カマド前面から住居中央部にかけて硬化が認められた。北東壁付近で1.2m×0.8mの範囲にも硬化が確認された。

カマド 南西壁で1か所検出した。両袖は浅黄橙色の粘質シルトで構築されている。袖の長さは0.84m、焚き口幅0.7m、焚き口から煙道までの長さは1.5mである。カマドは袖の構築材と同質の浅黄橙色粘質土(3層)で0.2m程度覆われていた。3層と3層の間には焼土塊を主体とする浅黄橙色シルト(6層)が挟まれていた。

貯蔵穴 カマド左袖付近で検出され、円形を呈する。長

径0.63m、短径0.57m、床面からの深さは0.22mである。上層から土師器杯(3)が出土した。

柱穴 P1～P3を検出した。位置や大きさ、深さ、埋没土などから主柱穴と判断した。北東隅の柱穴は10号住居によって失われたと考えている。各ピットの大きさは以下の通り。

P1は長径0.62m、短径0.47m、深さ0.36m、円形。

P2は長径0.47m、短径0.43m、深さ0.39m、円形。

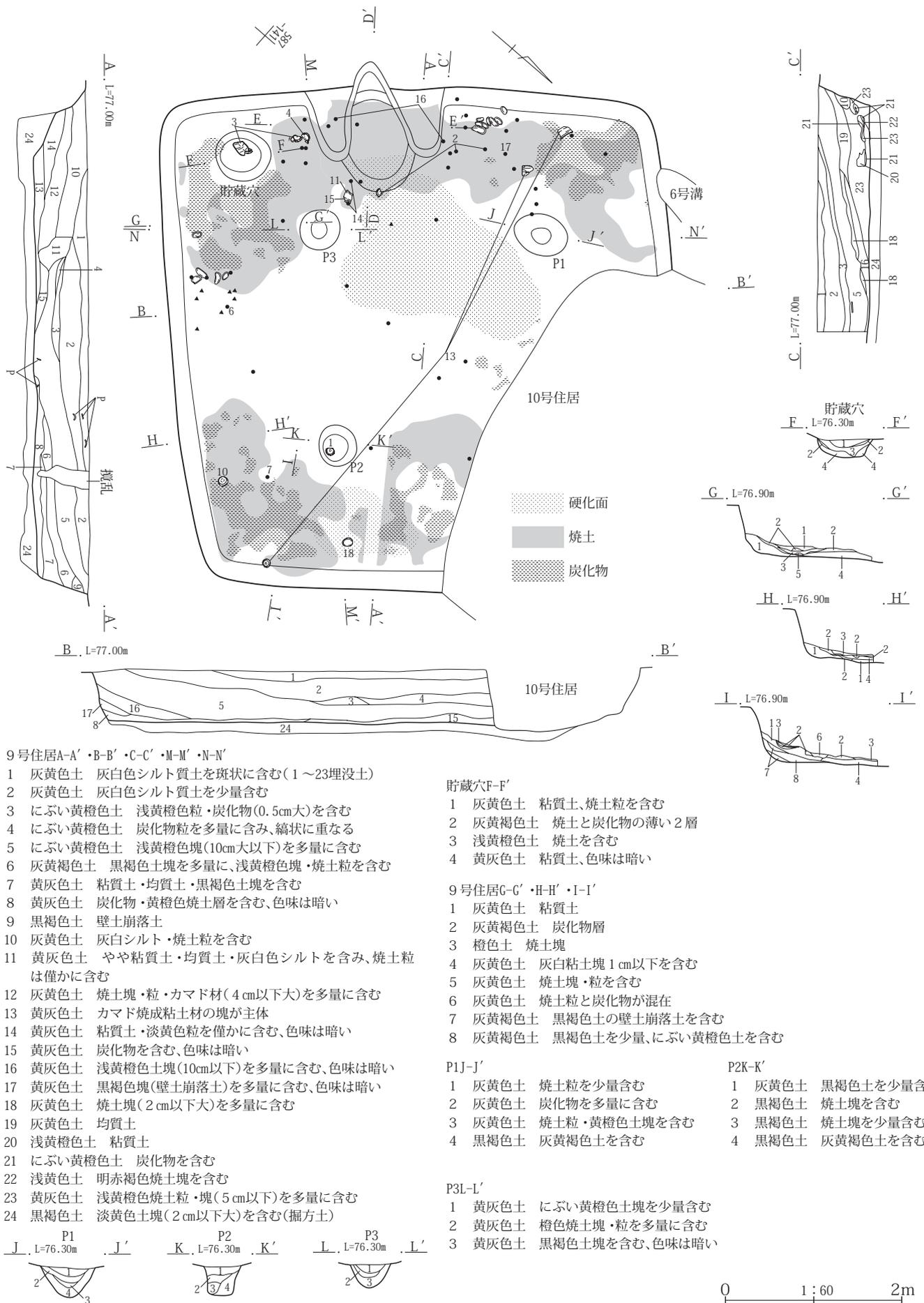
P3は長径0.46m、短径0.46m、深さ0.28m、円形。

柱穴間の距離は、P1とP3では2.5m、P2とP3では2.5mである。

掘方 東側にピット状の凹凸が多く、これらが繋がって溝状にやや低くなっているが、全体的には平坦である。淡黄色土塊を含む黒褐色土で充填されていた。

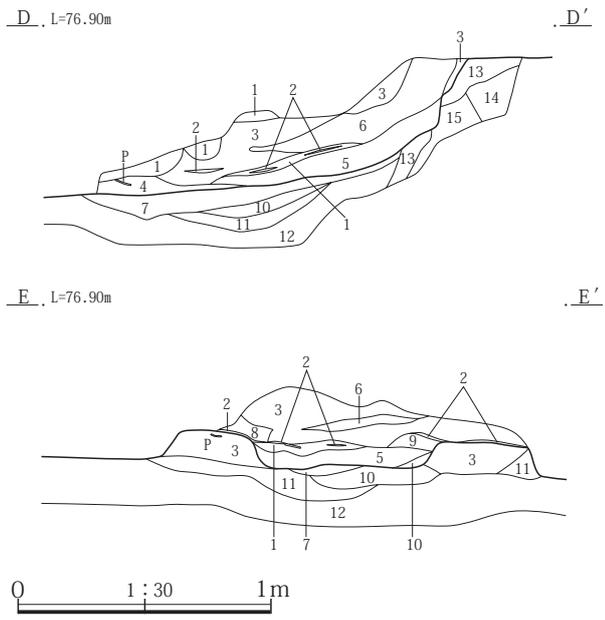
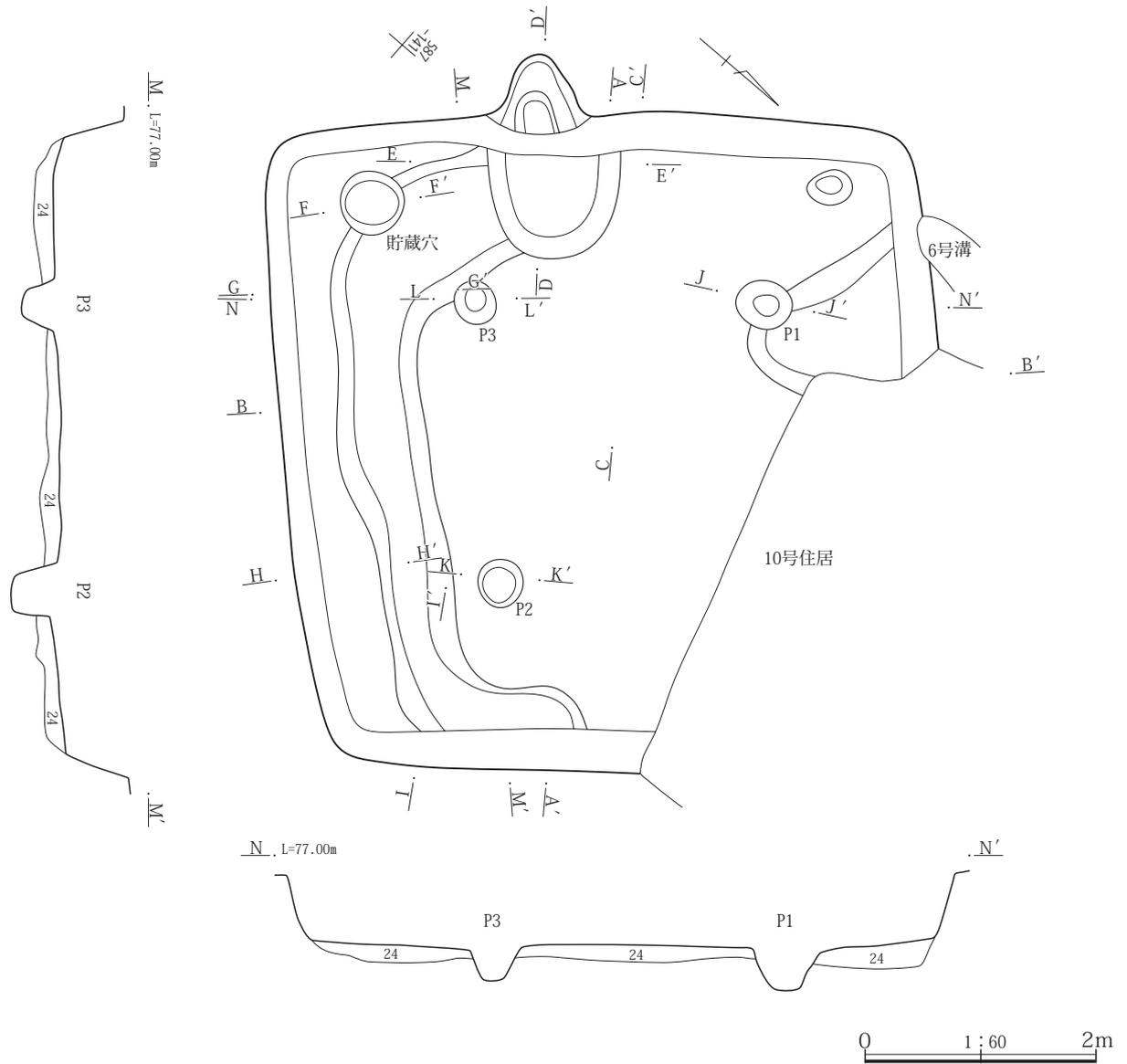
遺物と出土状態 土師器547点、須恵器17点、石製品1点、棒状礫23点、礫1点が出土し、このうち18点を図示した。土師器甕(13)はカマド周辺の床面から出土した。南西壁際と南東壁付近では、棒状礫が床面付近でまとまって出土した。

所見 一辺5m以上の方形の竪穴住居で、焼失住居である。床面直上には炭化物と焼土が広く分布していた。炭化物は木質のものではなく、草等の植物質のものである。炭化物を焼土が覆っている状態で検出されたが、部分的には炭化物と焼土が互層に堆積していた。この焼土は土屋根の構築材の可能性もあるが、詳細は不明である。また、カマドを厚く覆う浅黄橙色粘質シルト(3層)がカマド構築材の崩落によるものか焼失した屋根材の崩落なのかを検討しながら調査を進めたが、どちらかを判断することができなかった。床の硬化から北東壁に出入り口を予想したが、周辺にピットや段の痕跡等はなかった。出土遺物から、時期は7世紀後半と推定される。



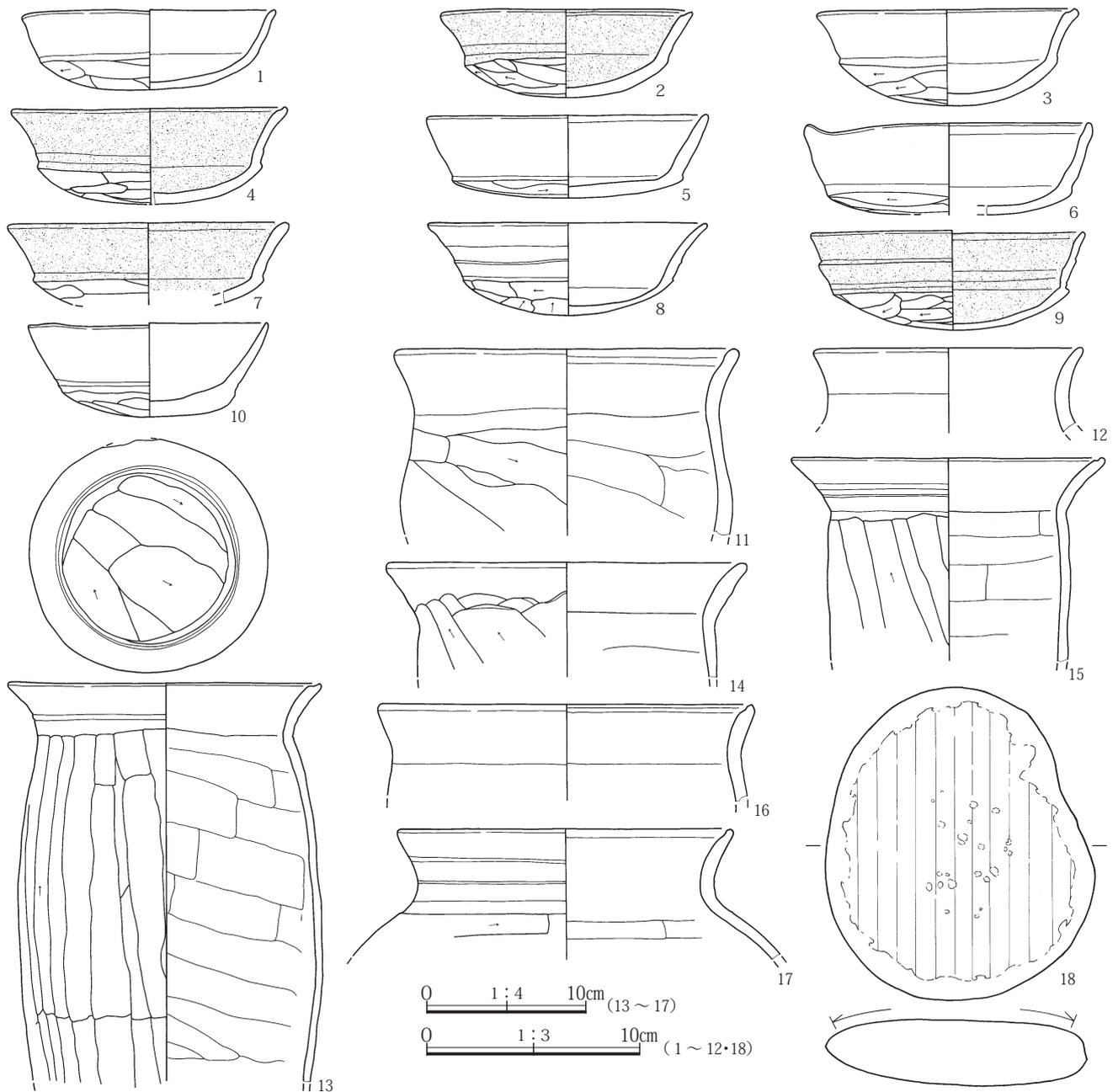
第31図 関7区9号竪穴住居

掘方



- 9号住居カマドD-D'・E-E'
- 1 浅黄橙色土 シルト質土、焼土を含む
 - 2 黒褐色土 炭化物層
 - 3 浅黄橙色土 粘質土
 - 4 浅黄橙色土 シルト質土、焼土・灰を多量に含む
 - 5 黄灰色土 焼土塊主体
 - 6 浅黄橙色 焼土化したシルト質土塊主体
 - 7 青灰色灰
 - 8 黄灰色土 浅黄橙色土を少量含む
 - 9 浅黄橙色土 灰白色土・焼土粒を含む
 - 10 黄灰色土 焼土塊を多量に含む
 - 11 灰色土 淡黄色土塊混在、粘質土、色味は暗い
 - 12 黒褐色土 淡黄色土塊(2cm以下)を含む
 - 13 黒褐色土 淡黄色土含む
 - 14 黒褐色土 淡黄色土を少量含む、色味は暗い
 - 15 黒褐色土 浅黄色シルトを含む

第32図 関7区9号竪穴住居掘方とカマド土層断面



第33図 関7区9号竪穴住居出土遺物

7区10号竪穴住居(第34・35図 PL. 8・114・115)

位置 7区中央部北寄り

X=38,591 ~ 38,598 Y=-56,137 ~ -56,142

主軸方向 N-70°-E

重複 9号住居、6号・7号溝と重複する。遺構検出時および土層断面の観察から9号住居より新しく、6号・7号溝より古い。

形状と規模 方形を呈し、長軸長は4.86m、短軸長は4.84m、遺構検出面から床面までの深さは約0.65m、掘方底面までの深さは0.75m、面積は23.43㎡である。

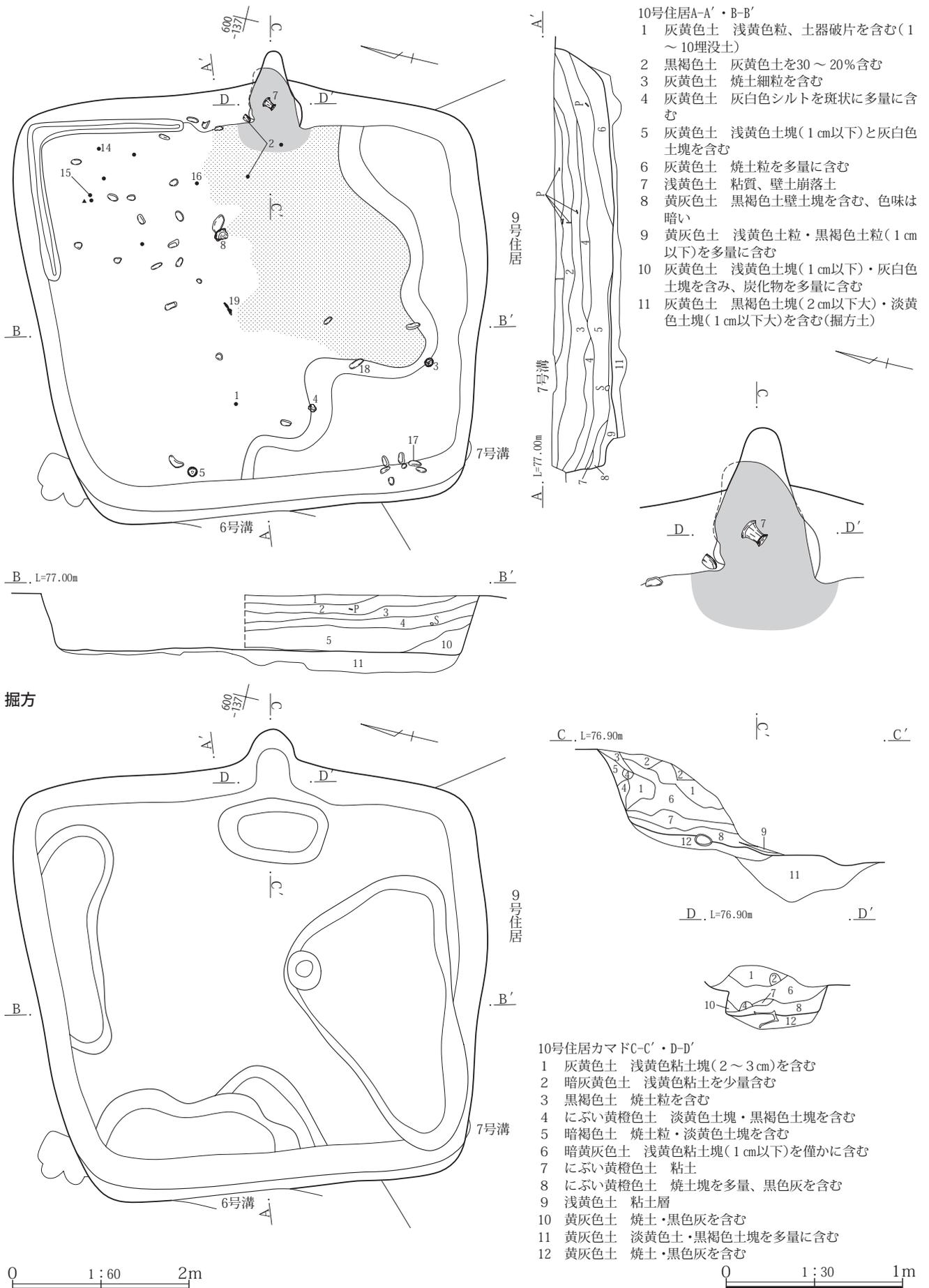
埋没土 灰黄色土や黄灰色土を主体とし、自然堆積の状

況を示す。2層は黒褐色土で、4層は灰白色シルトを多量に含む。

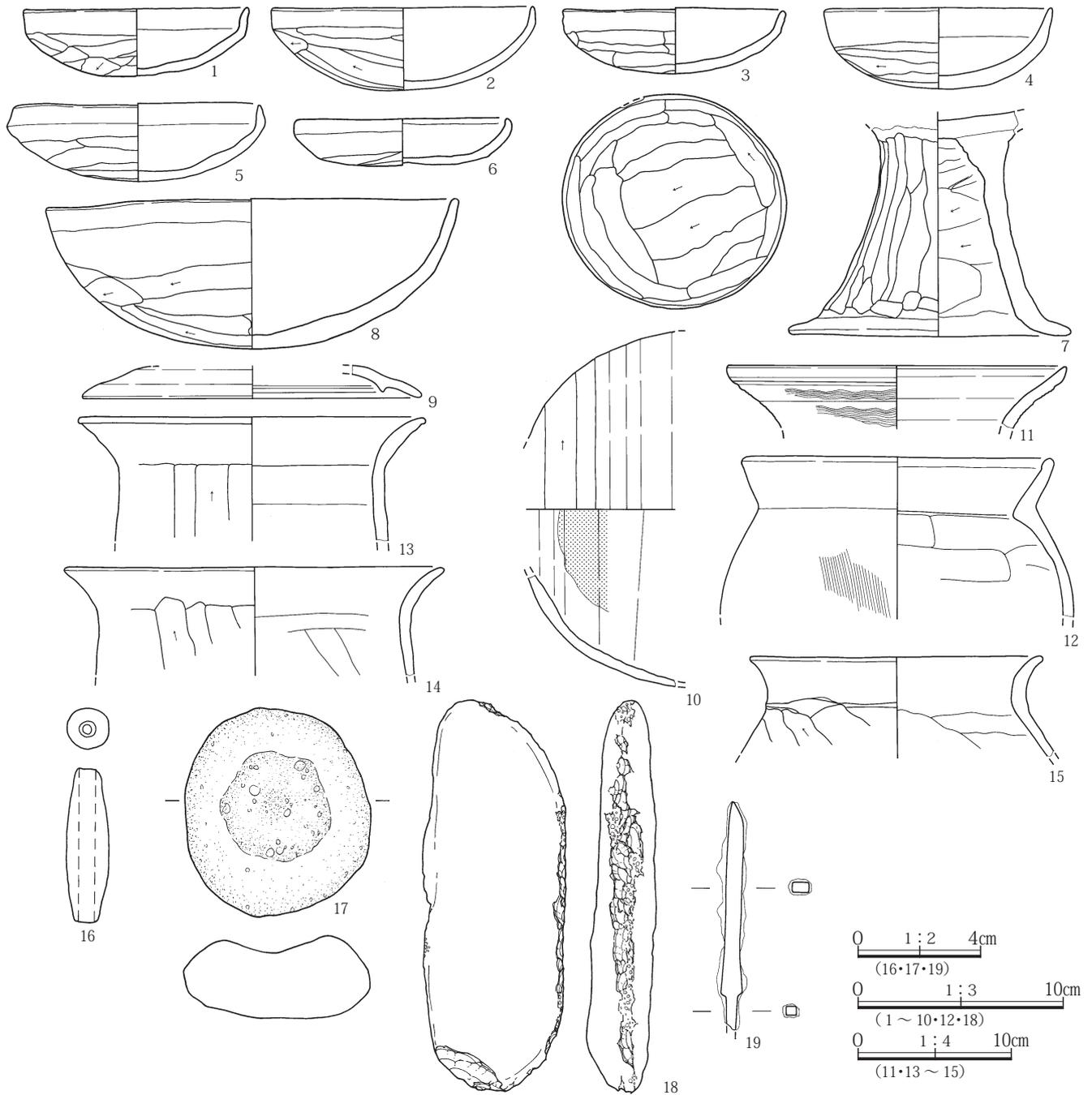
床面 カマドの焚き口から住居中央部に硬化が認められ、特にカマド前が顕著であった。

カマド 東壁で1か所検出し、袖の遺存状況はよくない。残存する燃烧部幅は0.58m、燃烧部と煙道の長さは0.8mである。燃烧部全面に焼土が広がっていた。高杯の脚部(7)が燃烧部中央部でカマド掘方に埋め込まれたような状態で出土した。出土状況から、カマドの支脚として転用されたと考えられる。

柱穴 検出されなかった。



第34図 関7区10号竪穴住居



第35図 関7区10号竪穴住居出土遺物

周溝 北部隅で検出され、幅は約0.15m、床面からの深さは約0.03mである。

掘方 側壁付近で溝状または土坑状の浅い落ち込みがあるものの、おおむね平坦である。黒褐色土塊と淡黄色土塊を含む灰黄色土で充填されていた。

遺物と出土状態 土師器1,114点、須恵器49点、石製品3点、棒状礫26点、礫2点、鉄製品1点が出土し、このうち19点を図示した。土師器高杯(7)以外の土器はすべて埋没土中から出土した。床面付近および埋没土中から、棒状礫が26点出土した。住居北部および南西隅で多く出

土したものの、住居全体に散在していた。

所見 棒状礫が多数出土し特徴的である。出土遺物から、時期は7世紀後半から7世紀末と推定される。

7区12号竪穴住居(第36・37図 PL. 9・115)

位置 7区中央部北寄り

X=38,596~38,601 Y=-56,135~-56,140

主軸方向 N-85°-E

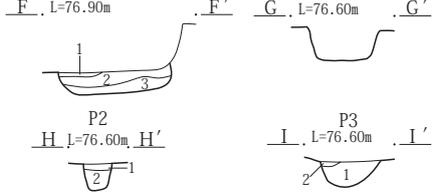
重複 68号ピットと重複し、68号ピットの方が新しい。

形状と規模 不整な長方形を呈する。長軸長は4.98m、

12号住居A-A'・B-B'

- 1 暗灰黄色土 白色細粒を含む
- 2 暗灰黄色土 浅黄色土を少量含む
- 3 暗灰黄色土 浅黄色土塊を含む
- 4 黒褐色土 浅黄色粒・炭化物を含む
- 5 黒褐色土 浅黄色塊(壁土)を含む
- 6 灰黄褐色土 焼土粒・浅黄色土・粘土粒が混ざった粘質土
- 7 暗灰黄色土 黒褐色土を斑状に含む
- 8 暗灰黄色土 浅黄色土塊を含む
- 9 暗灰黄色土 黒褐色土塊(3~5cm大)を含む(壁土崩落土)
- 10 灰黄色土 黄灰色土を含む
- 11 灰黄色土 焼土粒・塊を多く含む(P1埋没土)
- 12 淡黄色土 粘土層(P1埋没土)
- 13 灰黄色土 焼土粒・炭化物を多量に含む(P1埋没土)
- 14 灰黄色土 黒褐色土塊と浅黄色土塊(3~5cm大)を含む

1号床下土坑



1号床下土坑F-F'

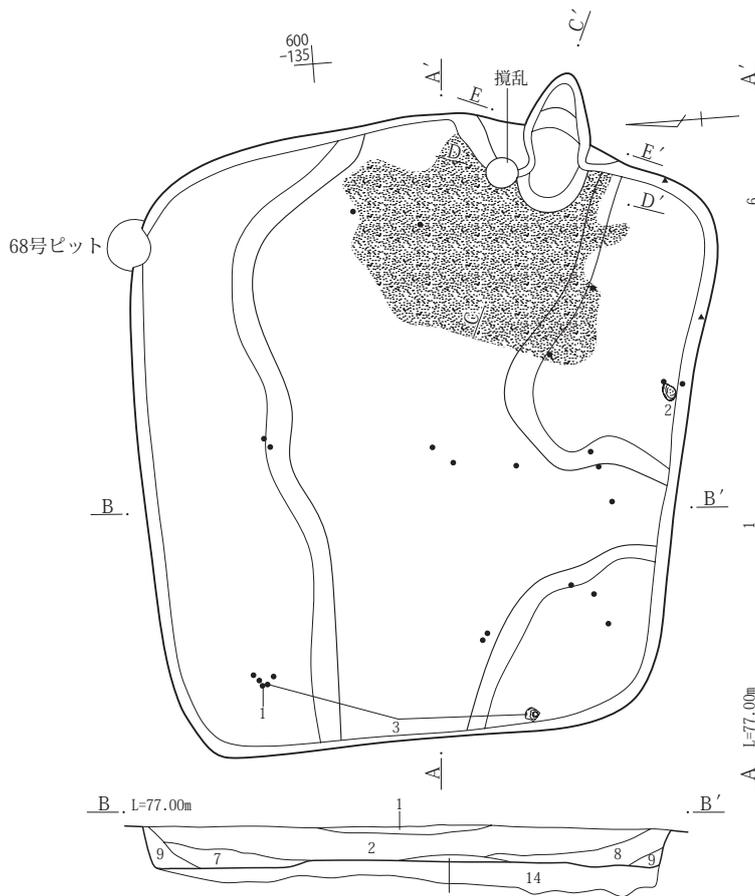
- 1 灰白色土 粘質土
- 2 暗灰黄色土 黒褐色土粒を含む
- 3 黄灰色土 浅黄橙色土主体

P2H-H'

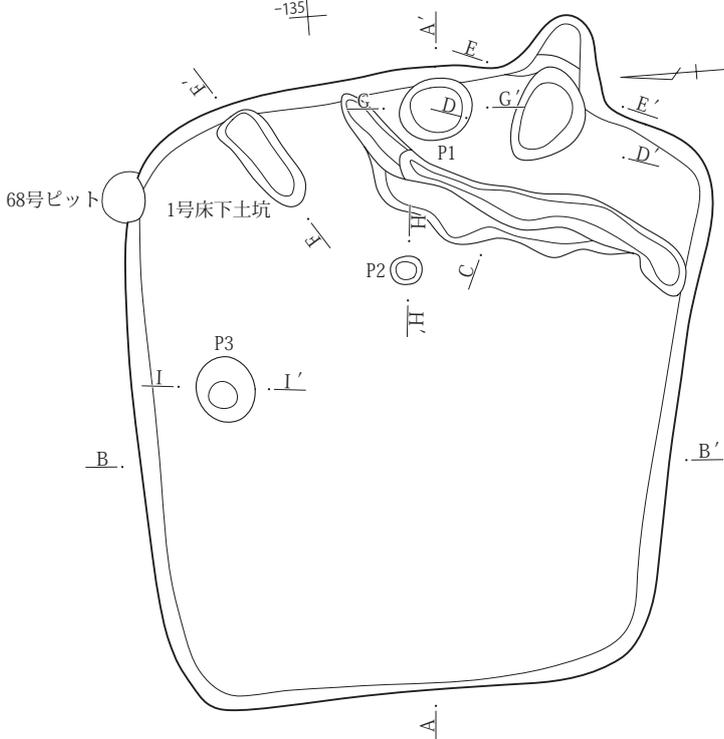
- 1 灰黄色土 焼土粒を含む
- 2 灰黄色土 褐灰色土を含む

P3I-I'

- 1 黄灰色土 やや色味が暗い
- 2 黄灰色土 淡黄粒・焼土粒・炭化物を含む

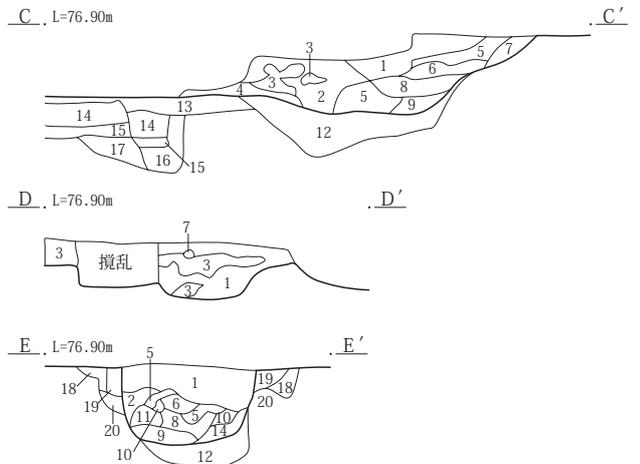


掘方



12号住居カマドC-C'・D-D'・E-E'

- 1 灰黄褐色土 焼土塊・炭化物・淡黄色土を含む
- 2 灰黄色土 灰白色粘質土・焼土粒を含む
- 3 灰黄色土 灰白色粘質土を多量に含み、焼土塊を含む
- 4 暗灰黄色土 黒色灰を多量に含む

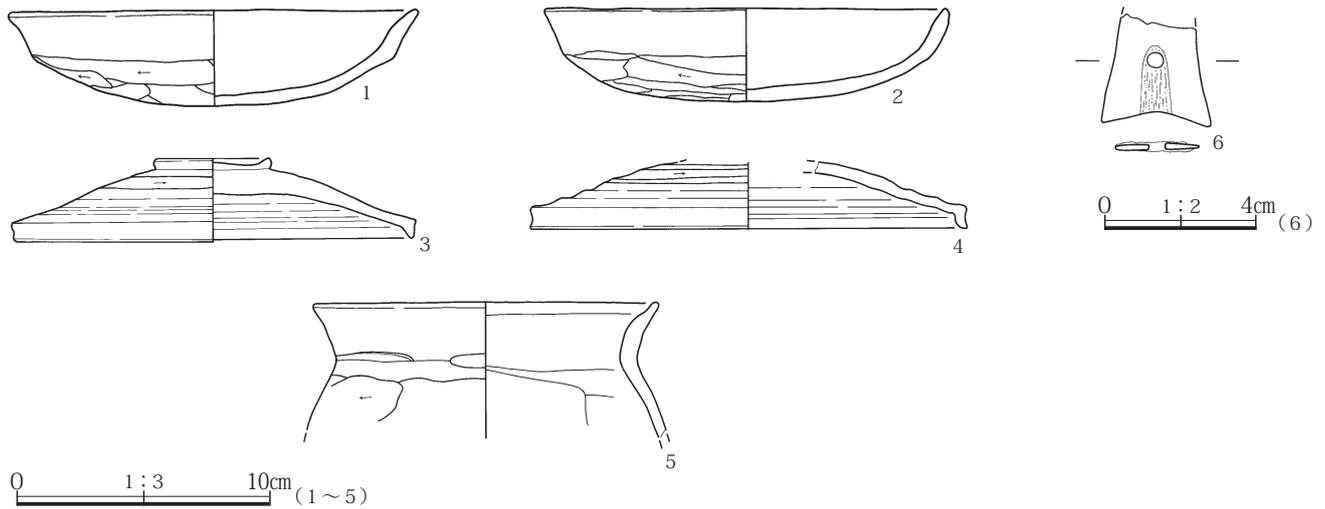


- 5 灰黄色土 粘質土・黄灰色土塊を含む
- 6 灰黄色土 灰白色土・焼土塊を多量に含む
- 7 黒褐色土 淡黄色土・焼土を少量含む
- 8 灰黄褐色土 灰白色粘質土・焼土粒・黒色灰を多量に含む
- 9 灰黄褐色土 灰白色粘質土・黒色灰・焼土粒を少量含む
- 10 灰黄色土 黒色灰・焼土粒を少量含む
- 11 黄灰色土 黒色灰を多量・焼土塊を含む
- 12 灰黄色土 黒褐色土塊を含み、焼土塊を多量に含む
- 13 褐灰色土 焼土塊少量を含む、硬い
- 14 灰黄色土 灰白色塊を多量に含む
- 15 黄灰色土 灰白色土との水平互層
- 16 黄灰色土 黒褐色土塊主体
- 17 黒褐色土 灰白色土・焼土塊を含む、硬い
- 18 褐灰色土 焼土小塊・灰黄色土を含む
- 19 褐灰色土 灰黄色土小塊を少量含む
- 20 浅黄橙色土 粘土

0 1:60 2m

0 1:30 1m

第36図 関7区12号竪穴住居



第37図 関7区12号竪穴住居出土遺物

短軸長は4.38m、遺構検出面から床面までの深さは約0.3m、掘方底面までの深さは0.5m、面積は20.40㎡である。
埋没土 暗灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。6層は焼土粒・浅黄色土・粘土粒が混ざった粘質土である。

床面 黒褐色土塊と浅黄色土塊を含む灰黄色土で構築されていた。カマド前の2m×1.3mの範囲に粘土が分布していた。

カマド 東壁で1か所検出した。左袖の一部は攪乱により失われ、右袖はわずかな残存であった。燃烧部内側の幅は0.4m、燃烧部と煙道の長さは0.8mである。

柱穴 掘方調査中にP1～P3が検出された。その位置から支柱穴とは判断しがたく、柱穴については不明である。各ピットの形状と大きさは以下の通りである。

P1は長径0.53m、短径0.49m、深さ0.22m、楕円形。

P2は長径0.25m、短径0.23m、深さ0.22m、円形。

P3は長径0.52m、短径0.46m、深さ0.2m、楕円形。

掘方 住居東側に溝状の落ち込みがあるものの、全体的には平坦である。住居北東部で長楕円形の土坑が検出された。長径が0.88m、短径が0.35m、深さが0.18mである。

遺物と出土状態 土師器891点、須恵器33点、礫4点、鉄製品1点が出土した。このうち、6点を図示した。床面から出土した遺物はなかった。

所見 カマド前に粘土の分布が認められ特徴的であるが、その性格は不明である。出土遺物から、時期は8世紀前半と推定される。

7区13号竪穴住居(第38図 PL. 9)

位置 7区北東部壁際

X=38,595～38,598 Y=-56,129～-56,131

主軸方向 住居東半が調査区外のため不明。

重複 10号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

形状と規模 一部のみの調査であるが、方形または長方形と推定される。検出した西壁と北壁の長さはそれぞれ3.15m、1.75mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.4m、掘方底面までの深さは0.5mである。

埋没土 灰黄色土または暗灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 暗灰黄色土で構築されていた。

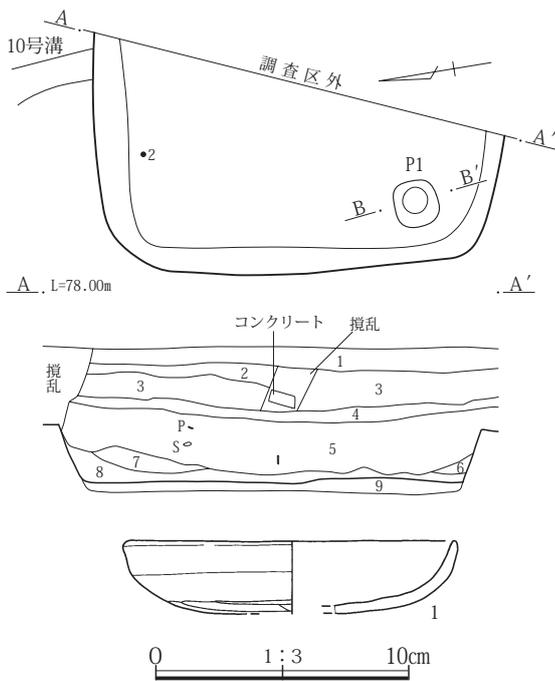
カマド 検出されなかった。

柱穴 南西隅にP1を検出した。隅丸方形を呈し、長径0.37m、短径0.35m、深さ0.38mである。床面調査中に確認し、位置から柱穴の可能性もあるが、他に柱穴が検出されなかったので不明である。

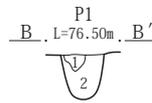
掘方 ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器261点、須恵器24点、縄文土器3点が出土し、このうち2点を図示した。床面から出土した遺物はなかった。

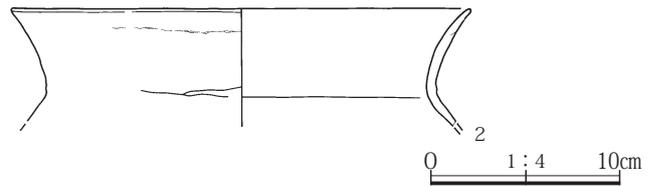
所見 住居の一部を調査したのみで、全体形や内部施設については不明である。出土遺物から、時期は8世紀後半と考えている。



- 13号住居A-A'
- 1 灰黄色土 畑耕土
 - 2 灰黄色土 明黄褐色土を含む
 - 3 明黄褐色土 シルト質土
 - 4 暗灰黄色土 明黄褐色土塊を含む
 - 5 灰黄褐色土 やや砂質土、均質、土器・焼土粒・炭化物(5mm以下)が混じる(5~8埋没土)
 - 6 灰黄色土 淡黄色壁土を含む
 - 7 灰黄色土 淡黄色土塊(1cm大)を含む
 - 8 暗灰黄色土 淡黄色土塊(1cm大)・黒褐色粘質土を含む
 - 9 暗灰黄色土 浅黄色塊(1~2cm大)を含む(掘方土)



- P1B-B'
- 1 黄灰色土 やや粘質土
 - 2 黄灰色土 黒褐色土を少量含む締めり弱い



第38図 関7区13号竪穴住居と出土遺物

7区14号竪穴住居(第39~41図 PL. 10・115・116)

位置 7区北東部

X = 38,603 ~ 38,607 Y = -56,129 ~ -56,133

主軸方向 N-0°-S

重複 15号・18号住居、10号溝と重複する。遺構検出時の観察から、15号住居よりも本住居が新しいと判断して調査を開始したが、出土遺物も含めて検討した結果、14号住居の方が古いことが確認できた。また、本住居は18号住居よりも古い。10号溝との新旧関係は不明である。

形状と規模 正方形を呈し、長軸長は4.36m、短軸長は4.3mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.75m、掘方底面までの深さは0.8m、面積は18.15㎡である。

埋没土 灰黄色土または暗灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。4層は粘土・黒色土塊・遺物を顕著に含む暗灰色土である。土層断面の西半分は豪雨により崩落し観察できなかった。

床面 黒褐色土で構築されていた。カマド両袖脇には焼土の分布が認められた。カマド焚き口から住居東側で硬化が見られた。

カマド 北壁で1か所検出した。袖は黄灰色の粘質土と淡黄色粘土で構築されている。袖の長さは0.5m、焚き口幅0.5m、焚き口から奥壁までの長さは0.57mである。煙道は地下式と考えられ、カマド10層は淡黄色砂質土で、基本土層の①(第4図)に相当する。燃焼部底面には青灰色の灰層が広がっていた。

右袖掘方から土師器甕(19)が倒立した状態で出土した。

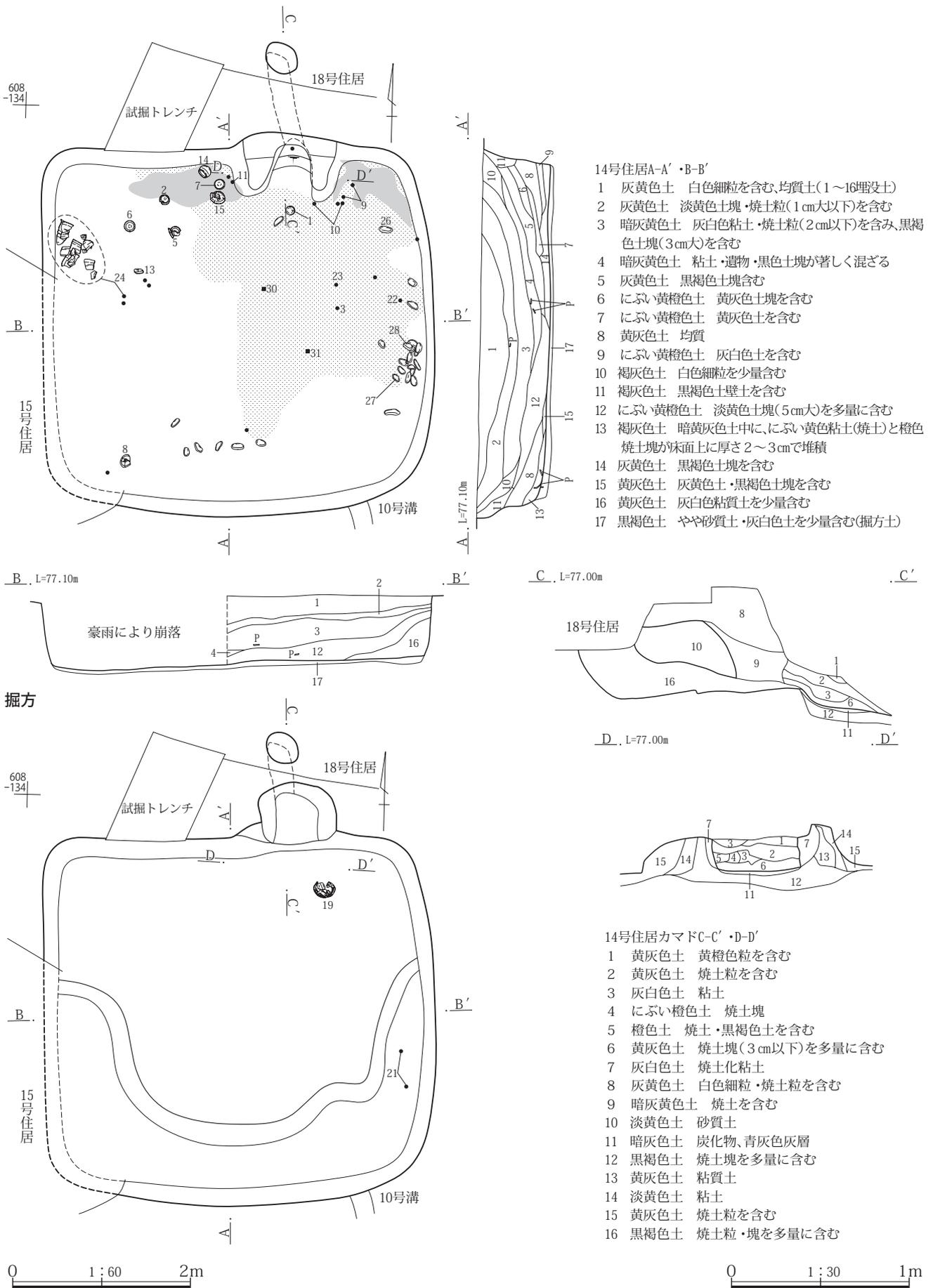
柱穴 検出されなかった。

掘方 住居南側でやや低くなっているが、全体的には平坦である。

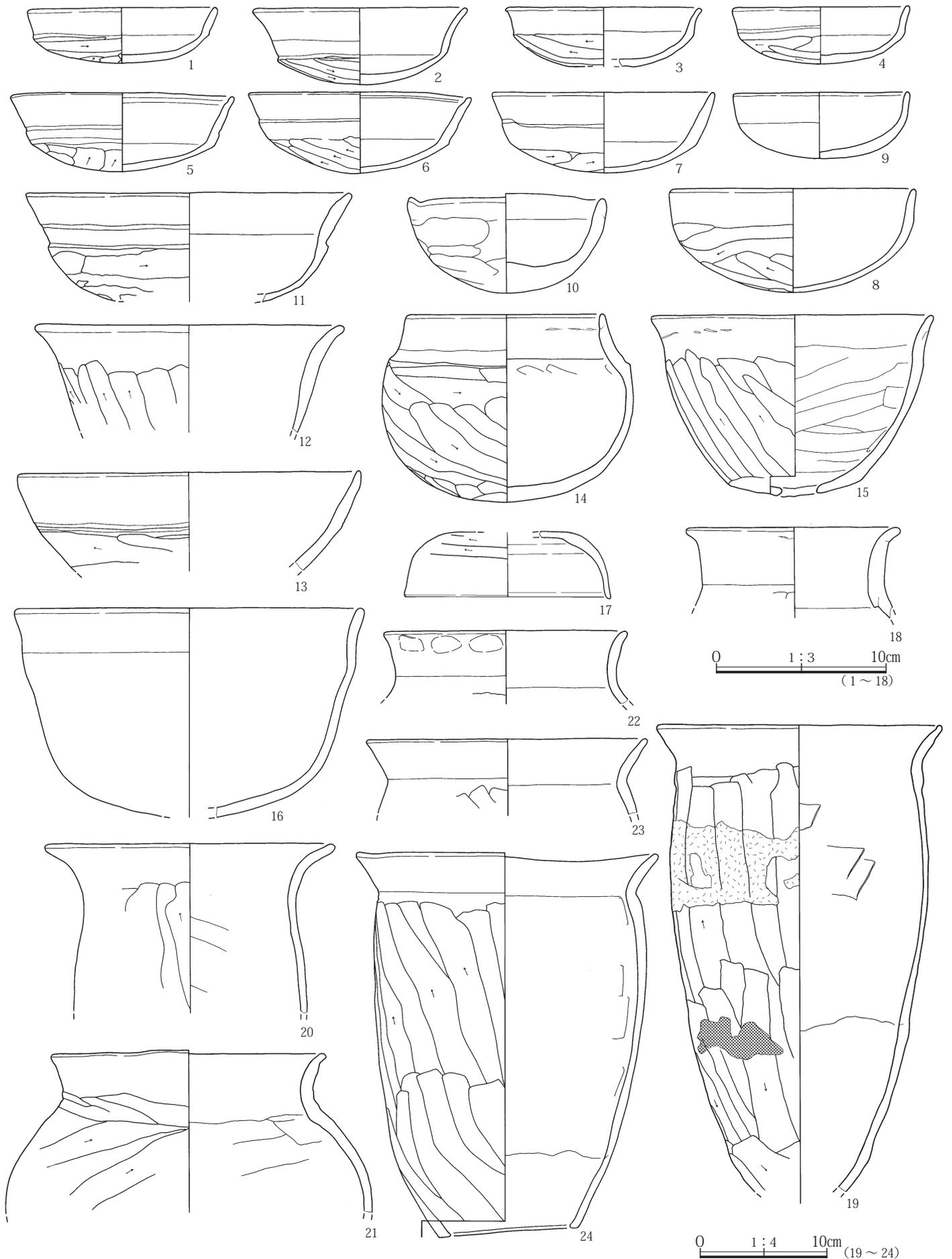
遺物と出土状態 土師器1,254点、須恵器12点、石製品8点、棒状礫24点、鉄製品2点が出土し、このうち31点を図示した。カマド周辺や住居北西部で、ほぼ完形の土器4点(2・7・14・15)が焼土に食い込むような状態で出土した。土師器杯(1・5・6・10・11)、土師器甕(22・24)は床面付近から出土した。東壁際および南壁付近で棒状礫が多数出土した。特に東壁際では14点の棒状礫が重なるような状態で集中していた。これらは床面から2cm~31cm上位で出土した。刀子(30)、紡錘車(31)が埋没土中位より出土した。

所見 発掘調査日記に、14号住居と15号住居の新旧関係と出土遺物の時期が逆転し、予想外と記載されている。遺構検出時の観察から、本住居が15号住居より新しいと判断し調査を開始したが、出土遺物から本住居の方が古いことが明らかになった。本住居の土層断面の西半分が豪雨で崩れてしまったために重複部分の土層観察が十分行えなかったようである。

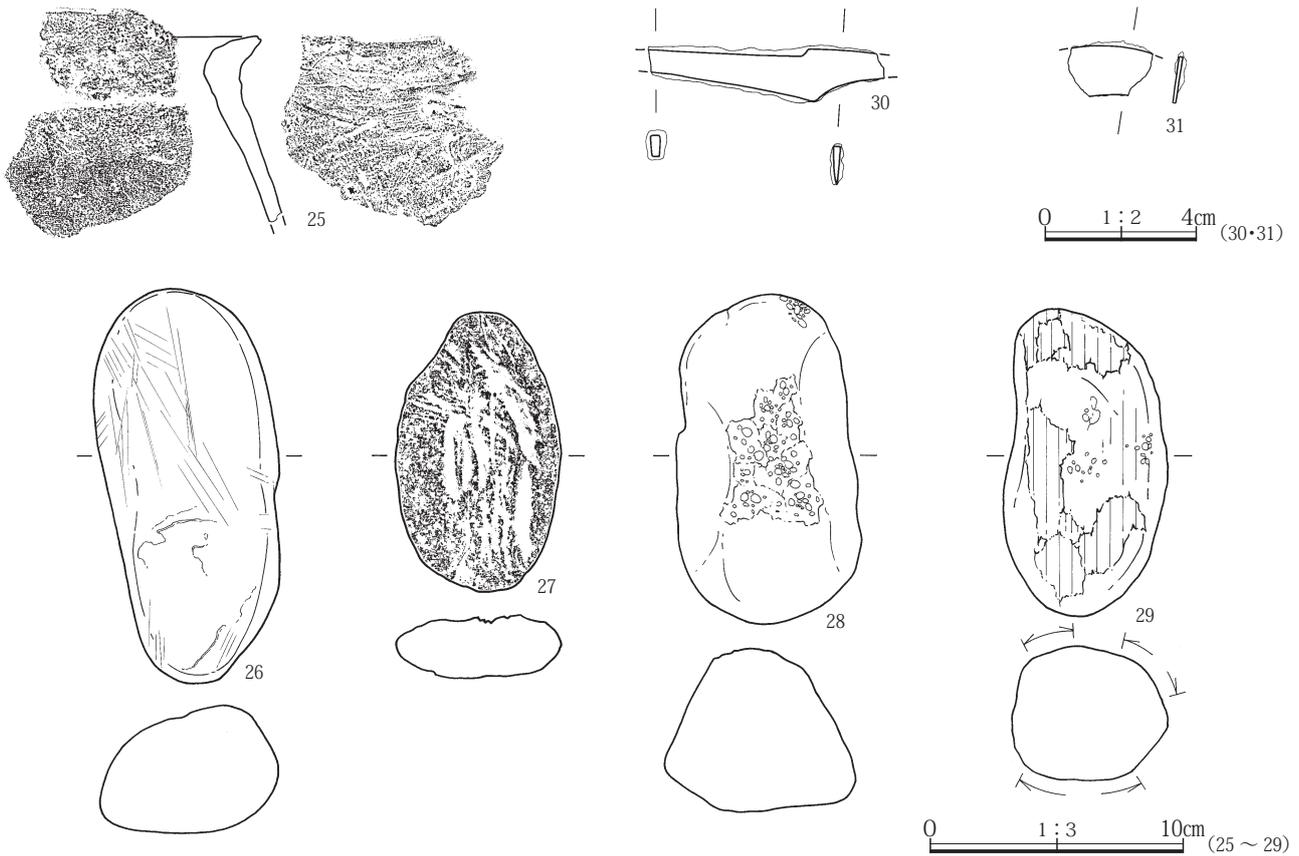
カマドの外側に焼土が顕著に広がっていた。ほかに炭化物や焼土面などは認められず、焼失家屋とは考えにくい。その性格については不明である。出土遺物から、時期は7世紀後半と考えられる。



第39図 関7区14号竪穴住居



第40図 関7区14号竪穴住居出土遺物(1)



第41図 関7区14号竪穴住居出土遺物(2)

7区15号竪穴住居(第42図 PL. 11・116)

位置 7区北東部

X=38,602~38,606 Y=-56,132~-56,135

主軸方向 N-61°-W

重複 14号住居、92号ピットと重複する。遺構検出時の観察から、本住居よりも14号住居が新しいと判断して調査を開始したが、出土遺物も含めて検討した結果、本住居の方が新しいことが確認できた。また、本住居より92号ピットが新しい。

形状と規模 北東部を検出できなかったものの、平面形は長方形と推定される。長軸長は3.2m、短軸長は2.84m、遺構検出面から床面までの深さは約0.53m、掘方底面までの深さは0.63m、面積は6.35㎡以上である。

埋没土 灰黄色土および暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。2~4層はシルト質の同質の土で、短期間に堆積したと考えられる。

床面 灰白色シルト質土を含む黒褐色土で構築されていた。カマド周辺で硬化が見られた。

カマド 東壁で1か所検出した。右袖のみ調査した。付

近に焼土等の広がり認められなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘方 小さな凹凸があるものの、おおむね平坦である。
遺物と出土状態 土師器113点、須恵器2点が出土し、このうち5点を図示した。5の土師器甕は床上2cm上位から出土した。それ以外は埋没土から出土した。

所見 遺構検出時の観察で14号住居が新しいと判断し調査を進めたが、出土遺物から、本住居の方が新しいことが確認できた。出土遺物から、本住居の時期は8世紀前半頃と考えている。

7区16号竪穴住居(第43図 PL. 11)

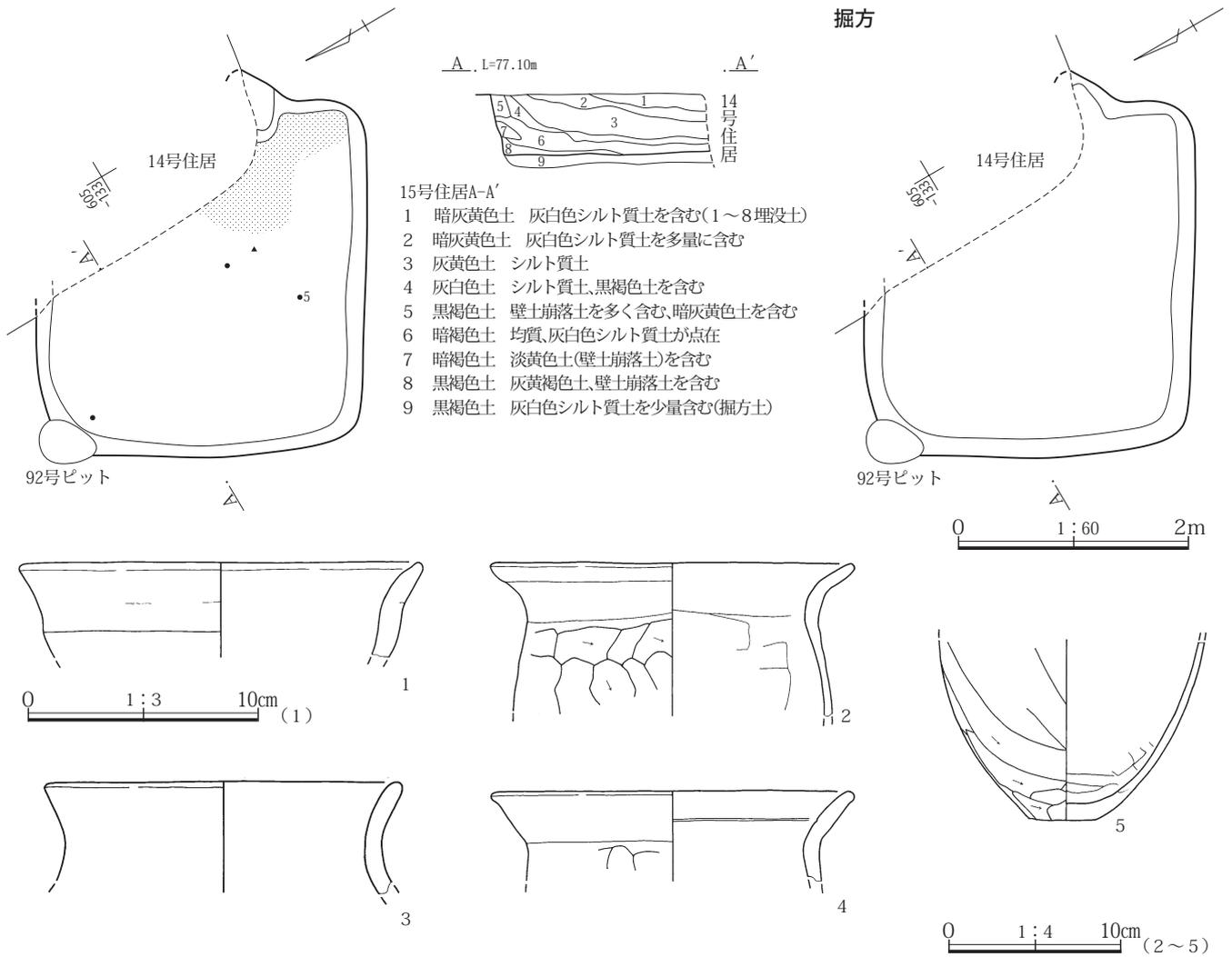
位置 7区北東部

X=38,601~38,603 Y=-56,127~-56,129

主軸方向 N-85°-W

重複 17号住居と重複し、土層断面の観察から、本住居の方が古い。

形状と規模 東側は調査区外で、北東部を17号住居に切られているが、平面形は長方形または正方形と推定され



第42図 関7区15号竪穴住居と出土遺物

る。西壁の長さは2.83m、南壁の長さ1.75m、遺構検出面から床面までの深さは約0.52m、掘方底面までの深さは0.64m、面積は6.05㎡以上である。

埋没土 上層は褐色土を主体とし、下層ほどVb層由来の黒褐色土を含み色が暗い。自然堆積の状況を示す。

床面 暗灰黄色土および黒褐色土で構築されていた。

カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 小さな凹凸があるものの、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器35点が出土し、このうち4点を図示した。床面直上から出土した遺物はなかった。

所見 出土遺物から、時期は7世紀中頃から後半と考えられる。

7区17号竪穴住居(第43図 PL. 11・116)

位置 7区北東部

X=38,601~38,605 Y=-56,126・-56,127

主軸方向 住居の大半が調査区外のため不明である。

重複 16号住居、13号溝と重複する。いずれの遺構よりも17号住居が新しい。

形状と規模 大半が調査区外であるため、全体形は不明である。西壁の長さは4.1m、北壁の長さは1.2m以上、遺構検出面から床面までの深さは約0.45m、掘方底面までの深さは0.55mである。

埋没土 褐灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

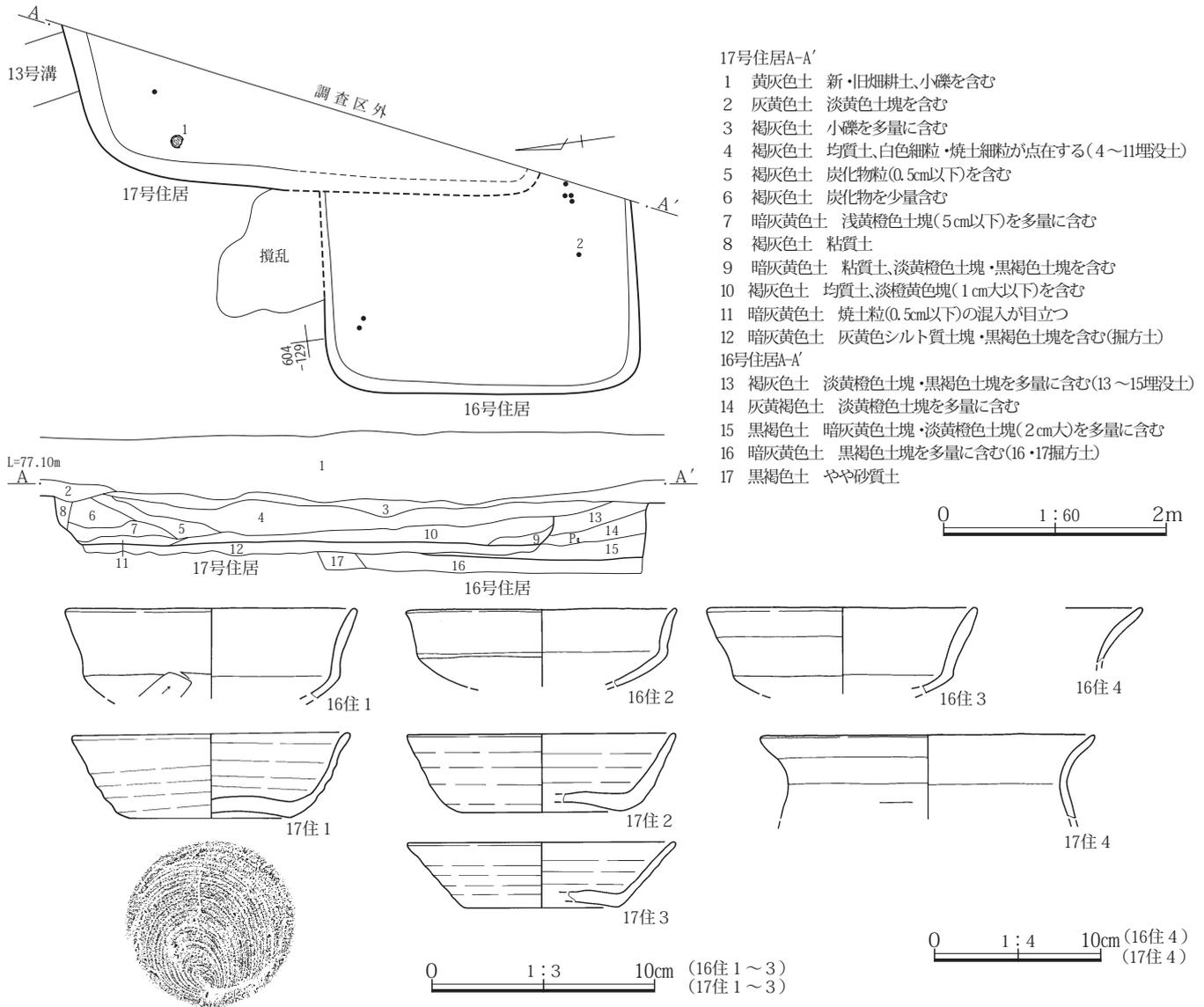
床面 暗灰黄色土で構築されていた。

カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 北側で小さな凹凸があるが、おおむね平坦である。

遺物と出土状態 土師器95点、須恵器16点、縄文土器1点が出土し、このうち4点を図示した。床面直上から出土した遺物はなかった。

所見 出土遺物から、時期は9世紀前半と考えられる。



- 17号住居A-A'
- 1 黄灰色土 新・旧畑耕土、小礫を含む
 - 2 灰黄色土 淡黄色土塊を含む
 - 3 褐灰色土 小礫を多量に含む
 - 4 褐灰色土 均質土、白色細粒・焼土細粒が点在する(4~11埋没土)
 - 5 褐灰色土 炭化物粒(0.5cm以下)を含む
 - 6 褐灰色土 炭化物を少量含む
 - 7 暗灰黄色土 浅黄橙色土塊(5cm以下)を多量に含む
 - 8 褐灰色土 粘質土
 - 9 暗灰黄色土 粘質土、淡黄橙色土塊・黒褐色土塊を含む
 - 10 褐灰色土 均質土、淡黄橙色塊(1cm大以下)を含む
 - 11 暗灰黄色土 焼土粒(0.5cm以下)の混入が目立つ
 - 12 暗灰黄色土 灰黄色シルト質土塊・黒褐色土塊を含む(掘方土)
- 16号住居A-A'
- 13 褐灰色土 淡黄橙色土塊・黒褐色土塊を多量に含む(13~15埋没土)
 - 14 灰黄褐色土 淡黄橙色土塊を多量に含む
 - 15 黒褐色土 暗灰黄色土塊・淡黄橙色土塊(2cm大)を多量に含む
 - 16 暗灰黄色土 黒褐色土塊を多量に含む(16・17掘方土)
 - 17 黒褐色土 やや砂質土

第43図 関7区16号・17号竪穴住居と出土遺物

7区18号竪穴住居(第44図 PL. 12・116・117)

位置 7区北部

X=38,608~38,611 Y=-56,130~-56,135

主軸方向 N-82°-W

重複 14号住居、5号井戸と重複し、遺構検出時の観察から、14号住居より新しく、5号井戸より古い。

形状と規模 長方形を呈し、長軸長3.9m、短軸長3.0mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.33m、掘方底面までの深さは0.5m、面積は11.52㎡である。

埋没土 灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 黒褐色土および浅黄色粘質土塊を含む灰黄色土で構築されていた。カマド焚き口周辺から住居南東部に硬化が認められた。

カマド 東壁で1か所検出した。袖の残存は良好ではなく、袖の長さは0.29m、焚き口幅0.37m、焚き口から煙道までの

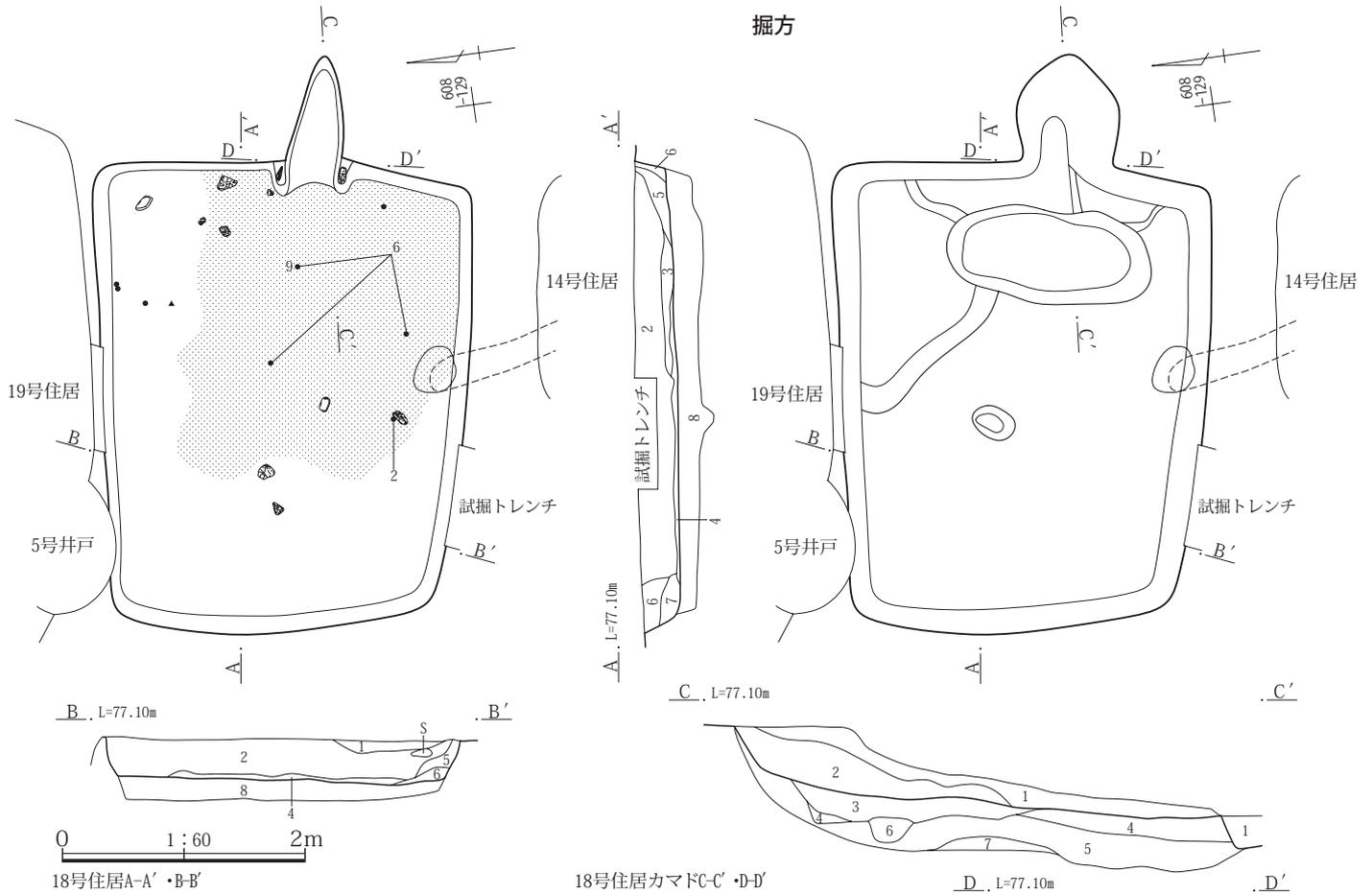
長さは1.17mである。両袖で凝灰岩とみられる礫が検出され、左袖で床面から10cm上位、右袖で床面から4cm上位から出土した。燃焼部使用面には灰層と焼土塊が認められた。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 部分的に土坑状およびピット状の凹凸や落ち込みがあるものの全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器511点、須恵器30点、石製品1点、鉄製品1点、粘土塊1点が出土した。このうち11点を図示し、粘土塊は写真のみ掲載した。土師器有孔鉢(6)と土師器甕(9)は床面直上から出土した。また、床面付近で6cm~18cm大の凝灰岩が7点出土し、調査時の所見ではカマドに使用したと考えられる凝灰岩が散乱している状況で出土したとある。

所見 出土遺物から、時期は8世紀第4四半期から9世紀初頭と考えている。

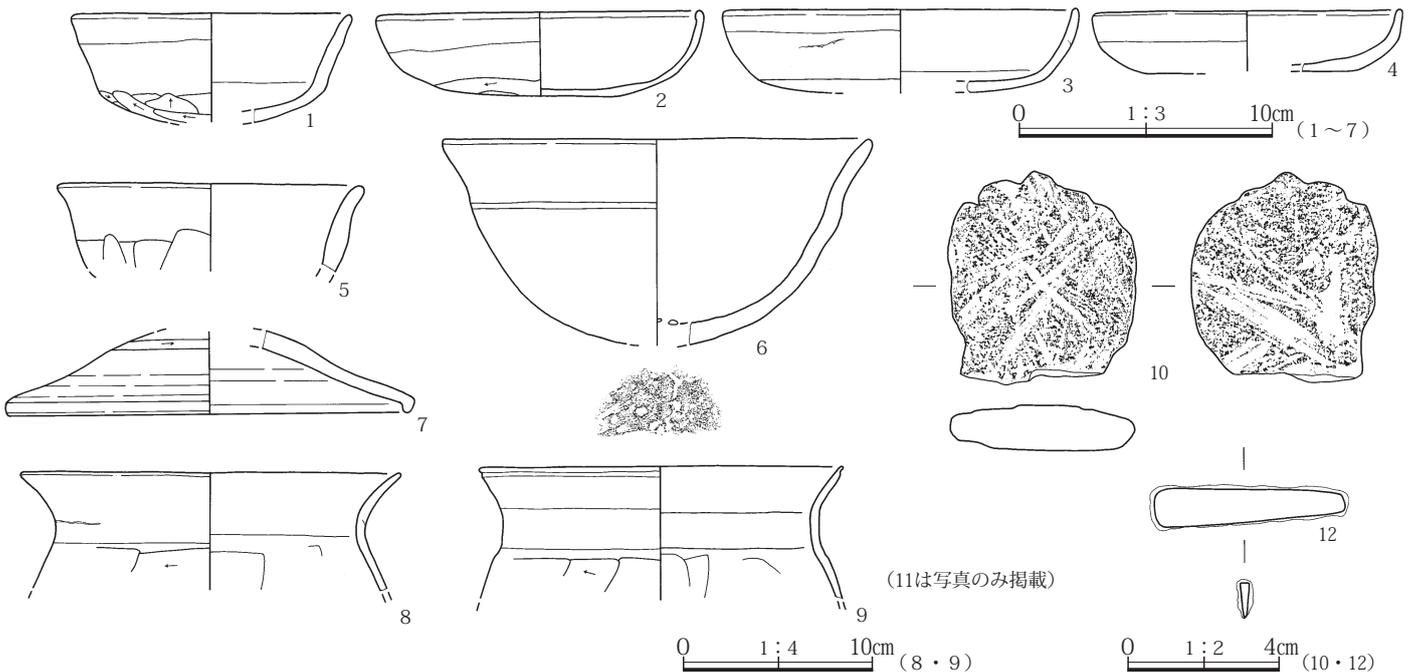


18号住居A-A'・B-B'

- 1 黄灰色土 灰白色シルト質土を含む(1~7埋没土)
- 2 灰黄色土 均質土
- 3 灰黄色土 淡黄色土塊を含む
- 4 暗灰黄色土 黒褐色土塊を含む
- 5 灰黄褐色土 焼土を含む
- 6 黒褐色土 壁土崩落土塊を含む
- 7 浅黄橙色土 シルト質土、締まり弱い
- 8 灰黄色土 黒褐色土・浅黄色粘質土塊を含む(掘方土)

18号住居カマドC-C'・D-D'

- 1 暗褐色土 粘質土・焼土粒を少量含む
- 2 褐色土 焼土塊(1cm以下)を含む
- 3 褐灰色土 黒色灰・黄色灰・青灰色灰が綿状に堆積、焼土塊を多量に含む
- 4 灰白色土 浅褐色粘質土・焼土を含む
- 5 灰白色土 浅褐色粘質土・焼土を少量含む
- 6 暗褐色土 灰混土層
- 7 黒褐色土 砂質土、灰黄色土塊を含む



第44図 関7区18号竪穴住居と出土遺物

7区19号竪穴住居(第45～48図 PL.13・14・117・118)

位置 7区北部

X=38,611～38,616 Y=-56,127～-56,133

主軸方向 N-80°-W

重複 5号井戸、11号・12号溝と重複する。遺構検出時の観察からいずれの遺構よりも本住居が古い。

形状と規模 正方形を呈し、長軸長は4.66m、短軸長は4.5mである。遺構検出面から床面までの深さは0.5m、掘方底面までの深さは0.56m、面積は約19.2㎡である。

埋没土 上部には灰白色シルトが20～30cm堆積し、下部には灰黄色土または黄灰色土が堆積していた。レンズ状堆積を示し、自然堆積と考えられる。

床面 灰白色粘質土・黄灰色シルト質土塊を含む黒褐色土で構築されていた。側壁付近で10～50cm大の炭化物が検出された。炭化物は木質で、樹種など詳細は不明である。炭化物は床上0～10cmで出土している。また、住居中央部、床面直上で炭化物が80cm×40cmの範囲に集中していた。この炭化物は細片で木目の方向などはわからなかった。カマド焚き口から東壁にかけて硬化が見られた。

カマド 西壁で1か所検出した。遺存状況は良好で、両袖には土師器甕(左袖が27、右袖が28)が倒立した状態で出土した。

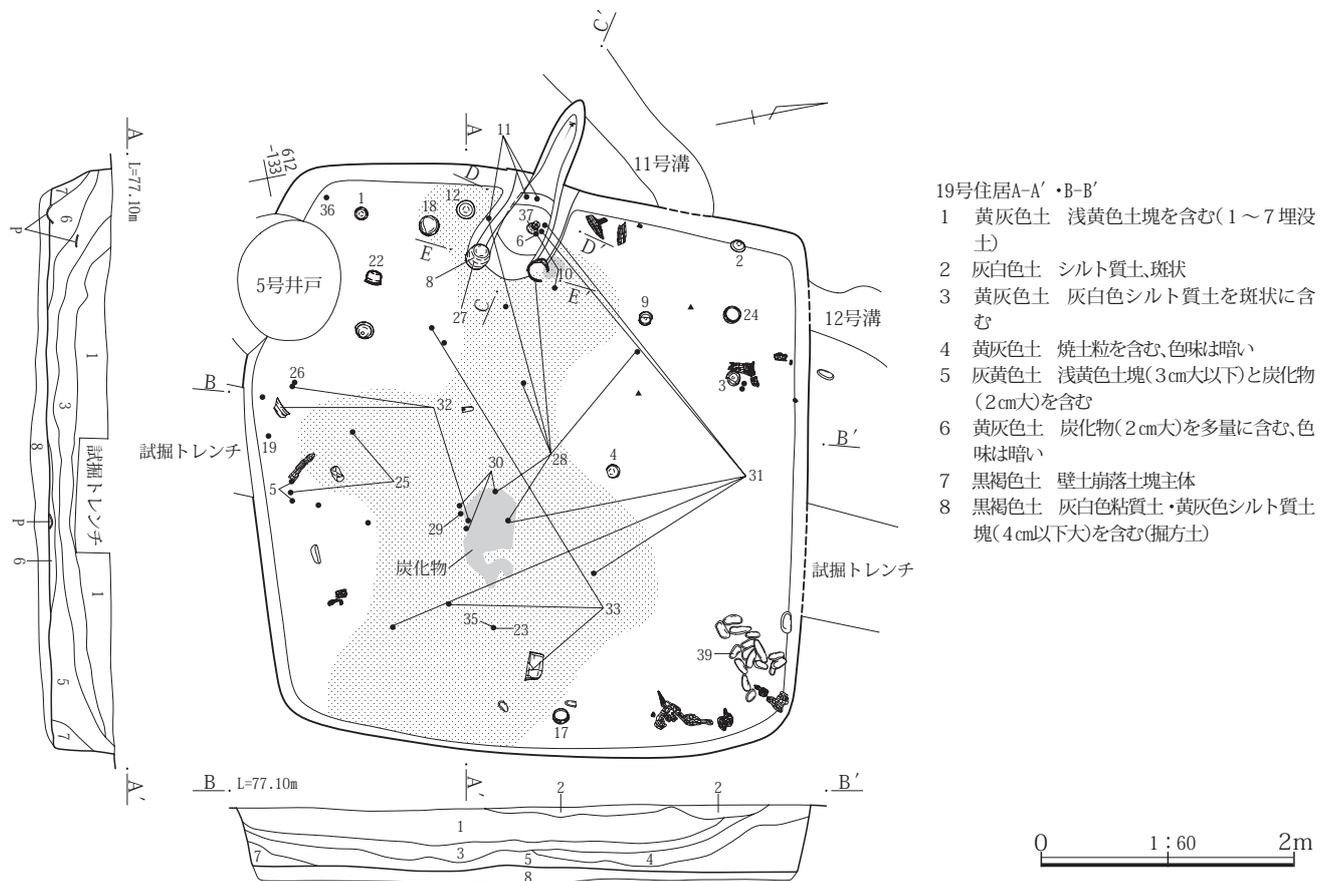
袖は黄灰色粘土で構築され、袖の長さは0.68mである。焚き口幅は0.42m、焚き口から煙道の長さは1.55mである。焚き口から煙道にかけて青灰色の灰が分布していた。また、右袖の一部に焼土が見られた。燃焼部中央では土製支脚(37)がカマド掘方に埋め込まれ、据えられた状態で出土した。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

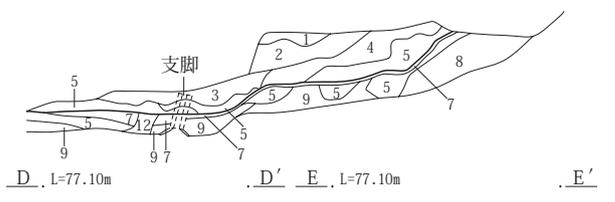
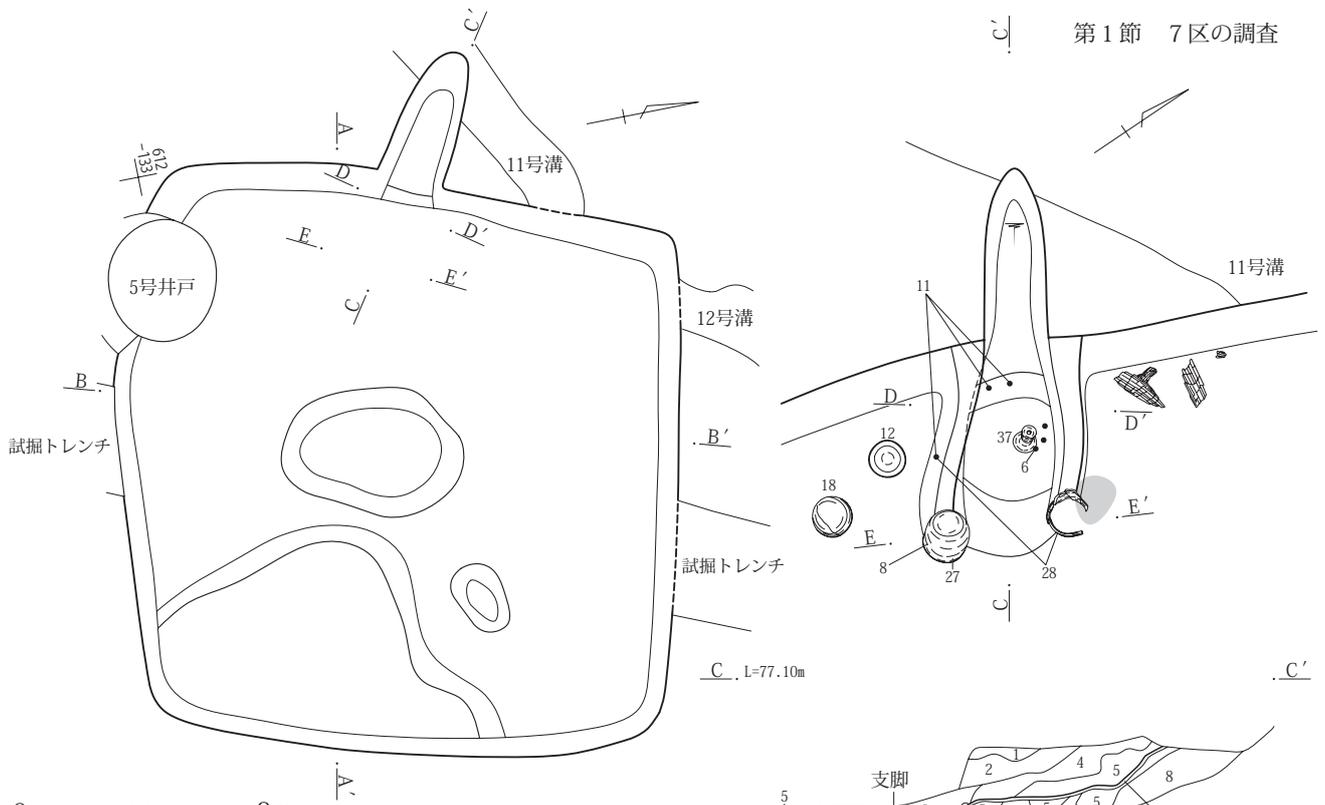
掘方 東部が2～4cm程度高かったが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器278点、須恵器14点、土製品2点、石製品2点、棒状礫19点が出土し、このうち39点を図示した。土師器杯(1・4・5・9)、土師器有孔鉢(23)、土師器甕(33)、土師器壺(24)、土師器小型甕(25)、須恵器甕(35)は床上0～3cmから出土した。また、北東隅では、棒状礫および敲石(39)がまとまって検出された。これらは床上0～7cmで出土している。

所見 床面直上から大型の炭化物片や炭化物の集中が認められ、焼失住居の可能性はあるが、焼土の広がり等は確認されず不明である。埋没土の観察から、住居が埋まりきらない凹みの状態の時期に、洪水によると思われる砂質シルト層が厚く入り込んでいる。出土遺物から、時期は7世紀前半と考えている。

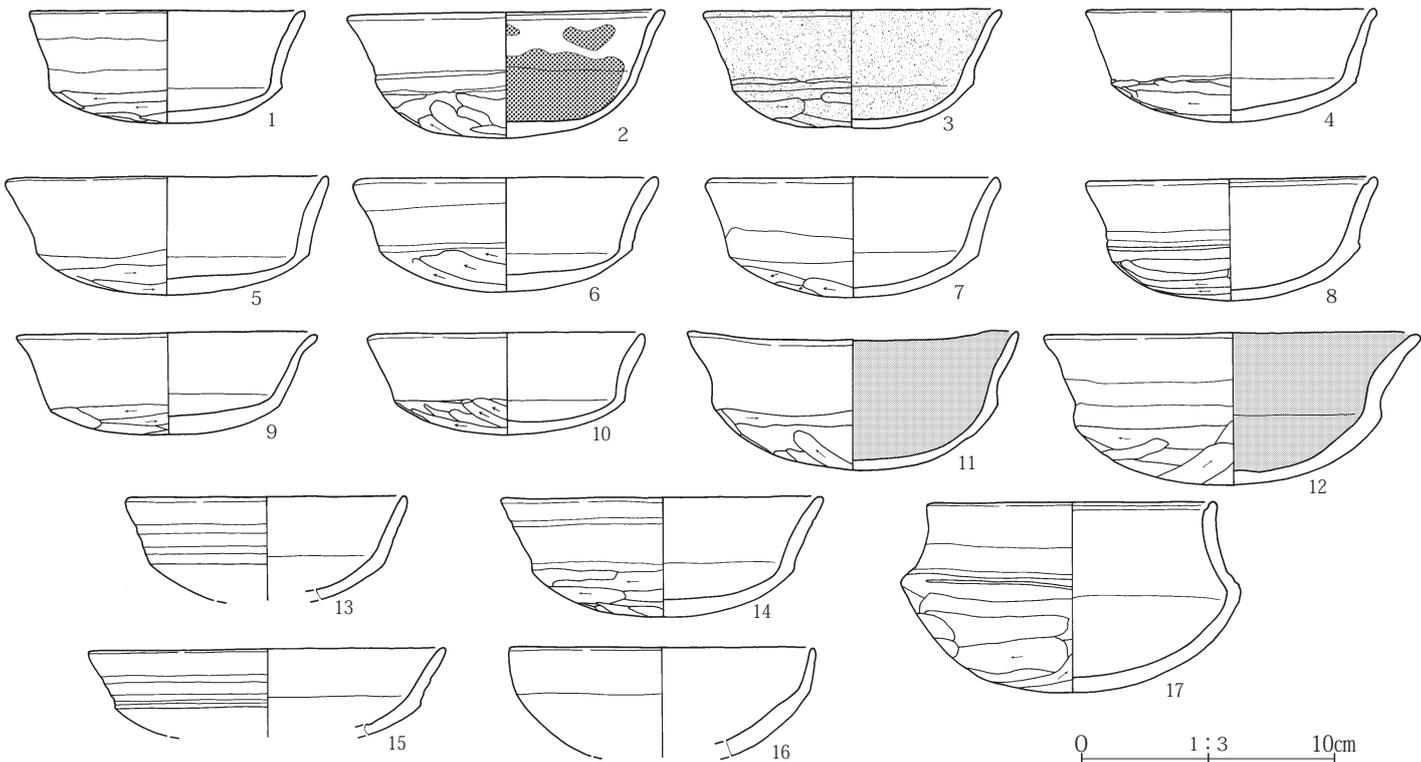
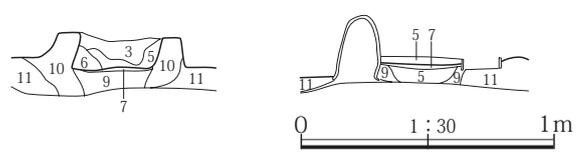


第45図 関7区19号竪穴住居

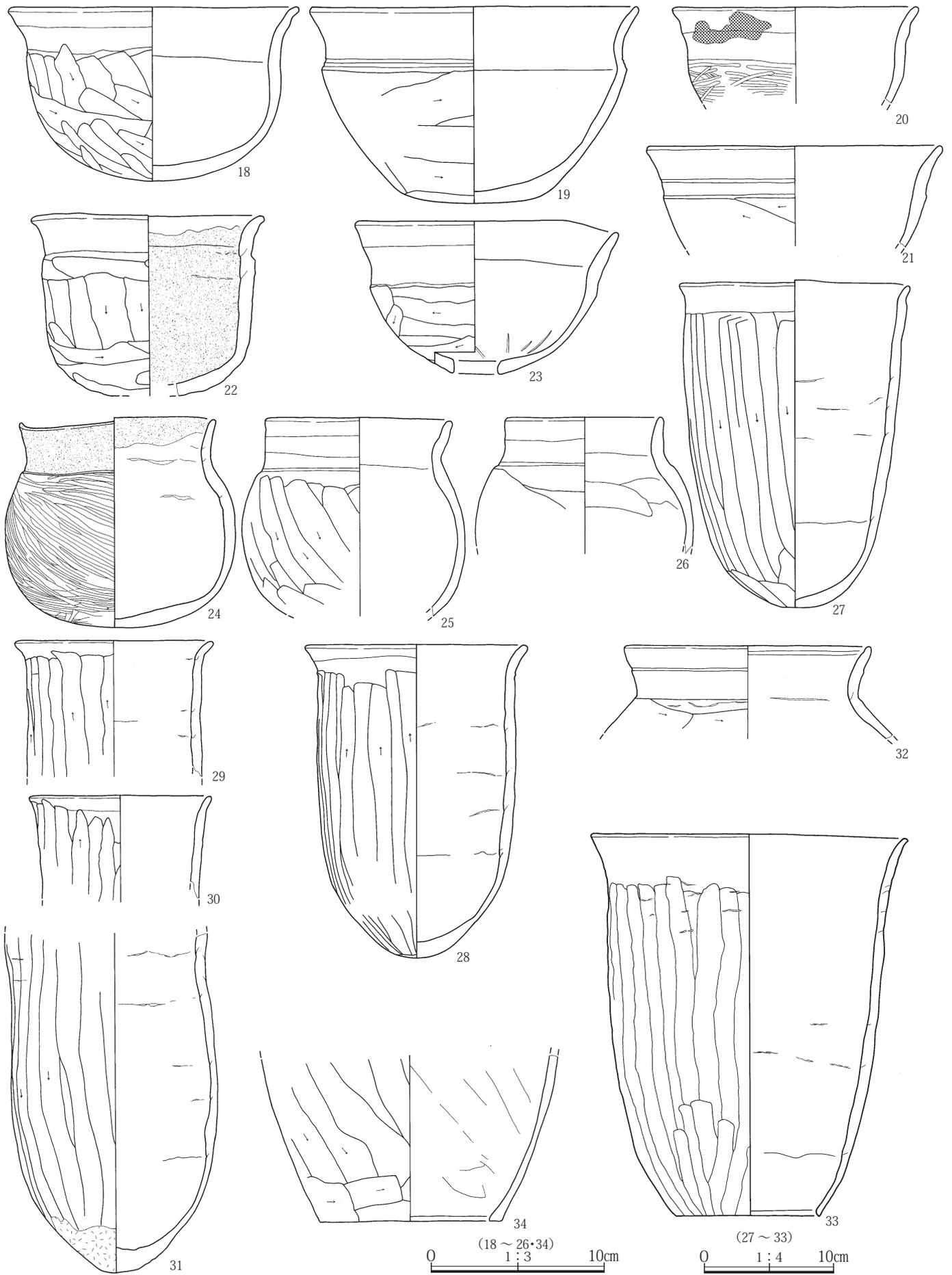


19号住居カマドC-C'・D-D'・E-E'

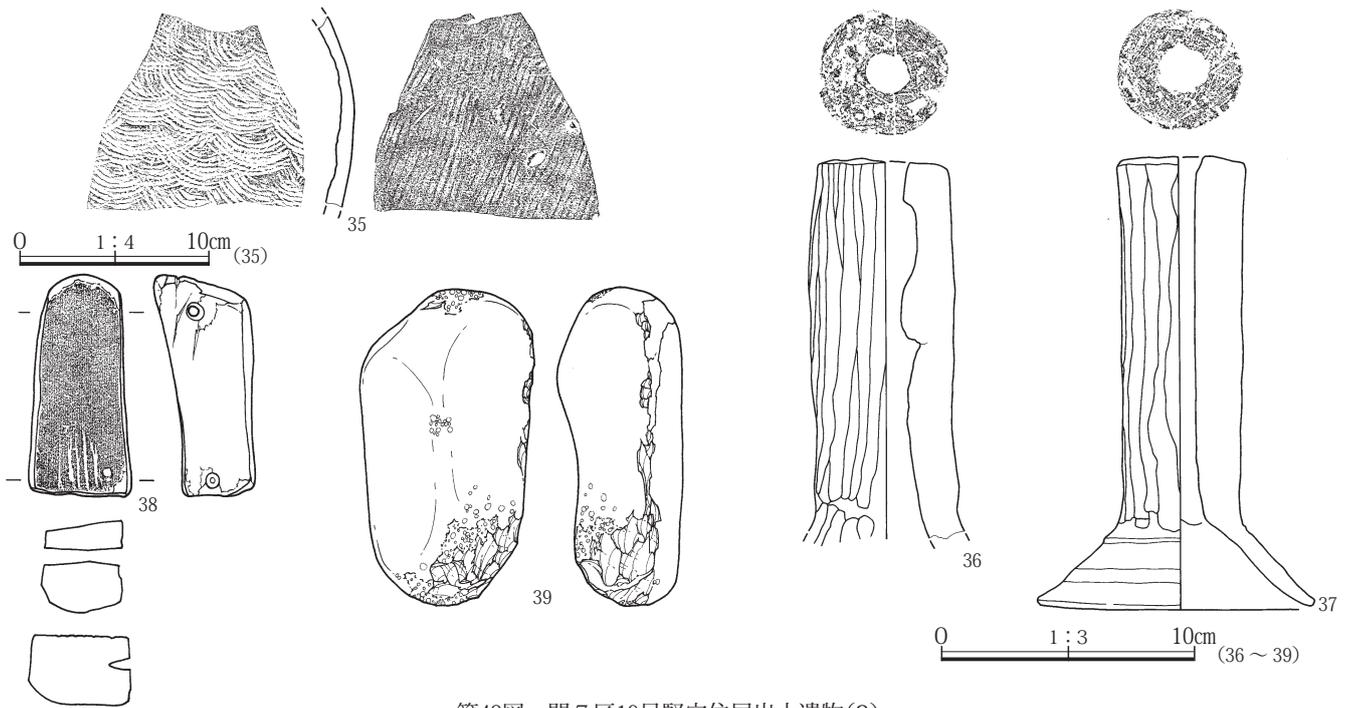
- 1 黒褐色土 褐灰色土塊を含む
- 2 灰黄褐色土 炭化物粒を含む
- 3 黒褐色土 橙色焼土塊・炭化物を多量に含む
- 4 黒褐色土 焼土粒を含む
- 5 褐灰色土 焼土塊主体・混土層
- 6 黒褐色土 焼土塊の崩落
- 7 青灰色灰
- 8 黒褐色土 青灰色土粘質土
- 9 褐灰色土 黒褐色土粒・炭化物・焼土を含む
- 10 黄灰色土 粘質土
- 11 黒褐色土 黄灰色土・淡黄色土を含む
- 12 黒褐色土 攪乱(地下動植物による)



第46図 関7区19号竪穴住居掘方・カマドと出土遺物(1)



第47図 関7区19号竪穴住居出土遺物(2)



第48図 関7区19号竪穴住居出土遺物(3)

7区20号竪穴住居(第49図 PL. 14)

位置 7区北東部壁際

X=38,606 ~ 38,610 Y=-56,124 ~ -56,126

主軸方向 住居東半が調査区外のため不明。

重複 13号溝と重複し、新旧関係は不明である。

形状と規模 一部のみの調査であるが、方形または長方形と推定される。検出した西壁と北壁の長さはそれぞれ3.75m、1.75mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.38m、掘方底面までの深さは0.46mである。

埋没土 床面直上には遺物や炭化物を含む暗褐色の粘質土が堆積していた。その上位には、洪水層と考えられる浅黄橙色シルトが20~30cmの厚さで堆積し、住居中央部では床面まで達していた。

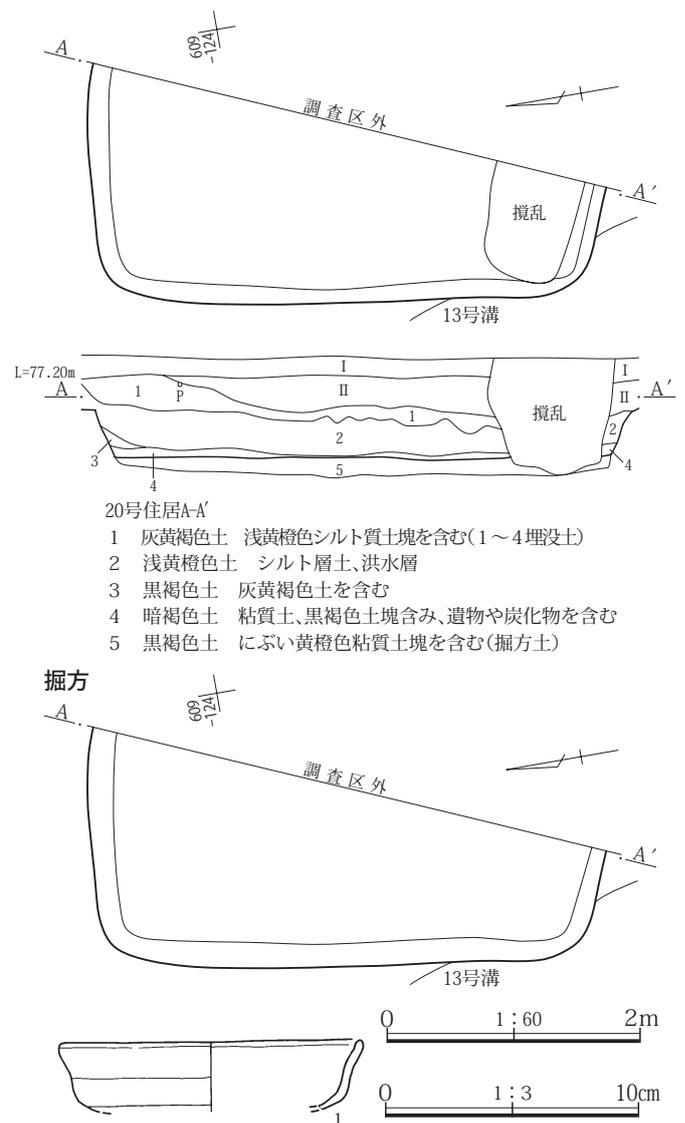
床面 南側の一部が攪乱で失われていた。にぶい黄橙色粘質土塊を含む黒褐色土で構築されていた。

カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器1点、縄文土器1点が出土し、このうち1点を図示した。床面から出土した遺物はなかった。縄文土器は後世の混入と考えている。

所見 住居の一部を調査したのみで、全体形や内部施設については不明である。出土遺物が少ないが、時期は9世紀代と考えている。



20号住居A-A'

- 1 灰黄褐色土 浅黄橙色シルト質土塊を含む(1~4埋没土)
- 2 浅黄橙色土 シルト層土、洪水層
- 3 黒褐色土 灰黄褐色土を含む
- 4 暗褐色土 粘質土、黒褐色土塊含み、遺物や炭化物を含む
- 5 黒褐色土 にぶい黄橙色粘質土塊を含む(掘方土)

第49図 関7区20号竪穴住居と出土遺物

7区21号竪穴住居(第50・51図 PL. 15・118・119)

位置 7区北東部

X=38,616 ~ 38,622 Y=-56,121 ~ -56,126

主軸方向 N-20°-E

重複 13号溝と重複し、土層断面の観察から、本住居が新しい。

形状と規模 正方形で、長軸長は4.86m、短軸長は4.7mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.45m、掘方底面までの深さは0.62m、面積は22.2㎡である。

埋没土 レンズ状堆積を呈し、自然堆積の状況を示す。灰黄色土または灰黄褐色土を主体とし、2層は炭化物を多量に含んでいる。

床面 暗灰黄色土とにぶい黄橙色土で構築されていた。カマド焼き口から住居中央部にかけて硬化が認められた。住居中央部で15cm大の炭化物が出土した。床上6cmから出土し、炭化物は木質で木目の方向が確認できた。他に大型の炭化物は認められなかった。

カマド 北壁で1か所検出された。袖は灰白色粘土で構築されている。袖の長さは0.54m、焼き口幅0.48m、焚

き口から煙道までの長さは1.2mである。

貯蔵穴 北東隅で掘方調査時に検出された。平面形は楕円形で、長径0.76m、短径0.53m、床面からの深さは0.19mである。底面から出土した遺物はなかった。

柱穴 床面調査中には確認できず、掘方調査でP1～P4を検出した。各ピットの大きさと形状は以下の通りである。

P1は長径0.45m、短径0.37m、深さ0.4m、楕円形。

P2は長径0.46m、短径0.41m、深さ0.4m、円形。

P3は長径0.62m、短径0.55m、深さ0.15m、円形。

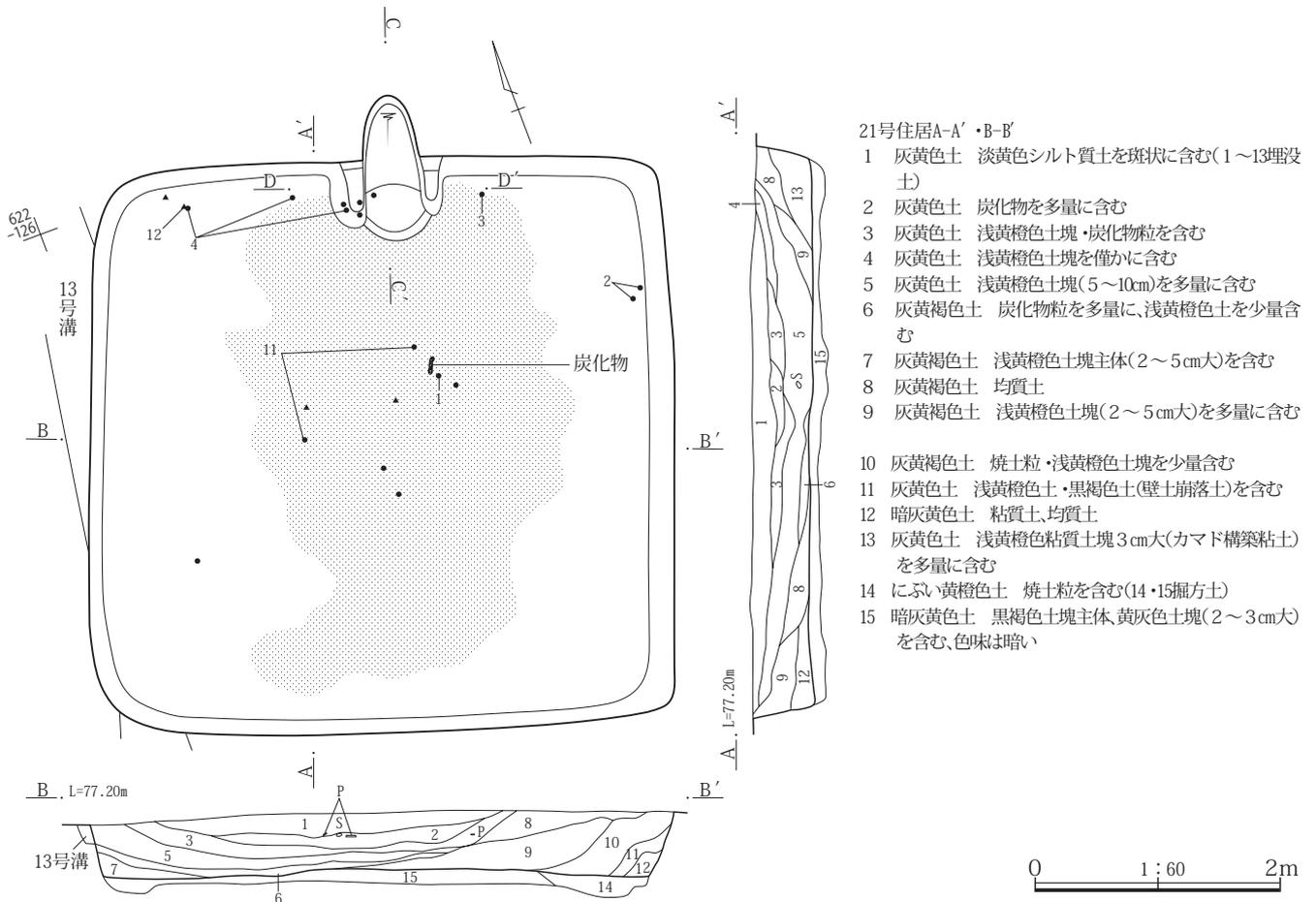
P4は長径0.48m、短径0.42m、深さ0.35m、円形。

P1～P4は位置や大きさから主柱穴と考えている。

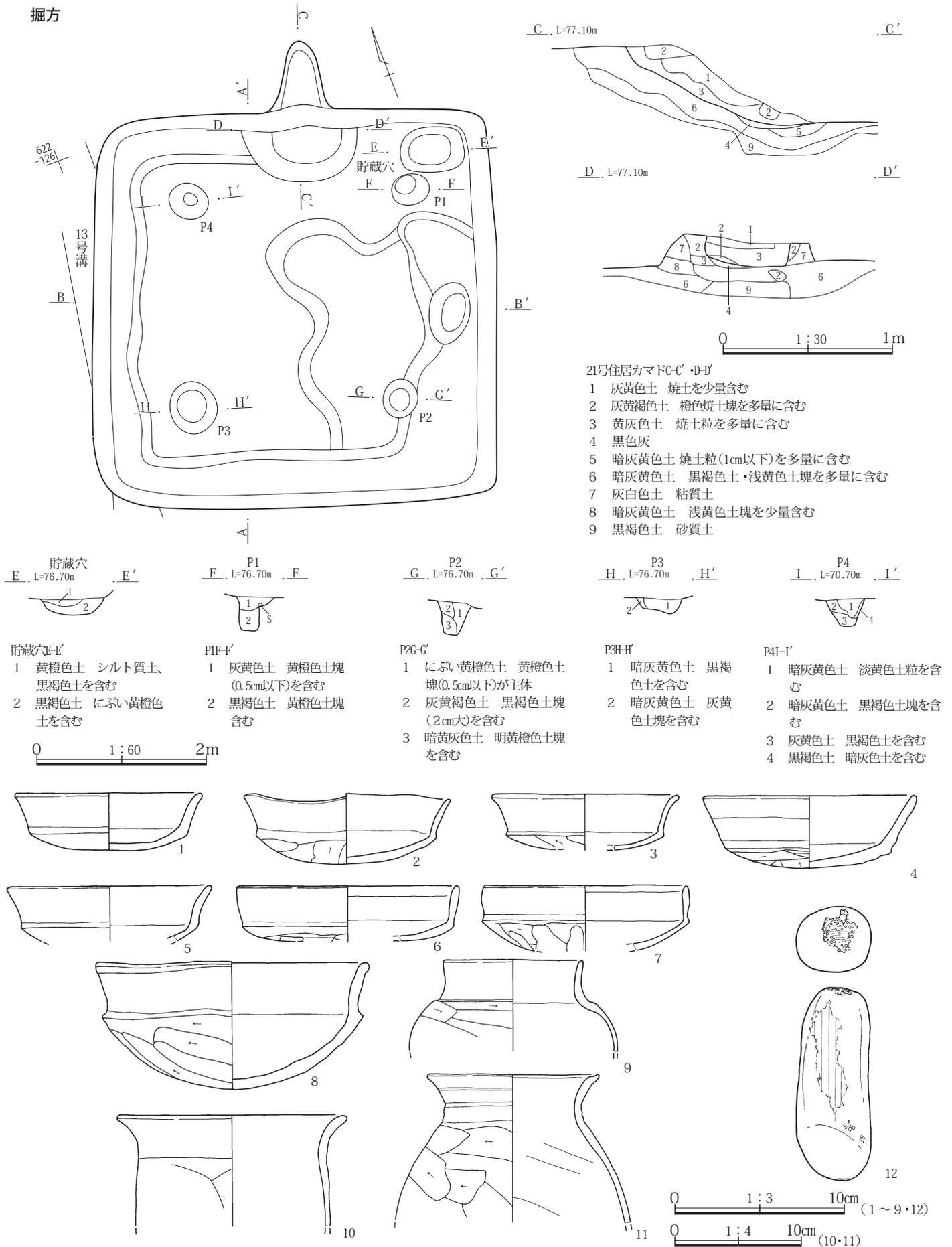
掘方 側壁に沿って溝状に浅い落ち込みがあり、中央部がやや高くなっている。

遺物と出土状態 土師器284点、石製品1点、鉄製品1点、縄文土器2点が出土し、このうち12点を図示した。敲石(12)は床上2cmから出土した。それ以外は埋没土から出土した。縄文土器は後世の混入と考えている。

所見 出土遺物から、時期は7世紀第2四半期と推定される。



掘方



第51図 関7区21号竪穴住居掘方・カマド土層断面と出土遺物

7区22号竪穴住居(第52・53図 PL. 15・119)

位置 7区北西部

X = 38,615 ~ 38,621 Y = -56,132 ~ -56,136

主軸方向 N-24°-E

重複 14号溝と重複し、遺構検出状況および土層断面の観察から、本住居が古い。

形状と規模 西側が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は4.5m、短軸長2.96m、遺構検出面から床面までの深さは0.55m、掘方底面までの深さは0.65m、面積は13.93㎡以上である。

埋没土 灰黄色土および黄灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。5層は灰白色シルト質土を斑に含んでいる。

床面 浅黄色土塊を含む黒褐色土で構築され、カマド焚き口から住居中央部を中心に硬化していた。東壁際では46cm×35cmの範囲に焼土が分布していた。焼土に食い込むような状態で土師器杯(205)が出土した。

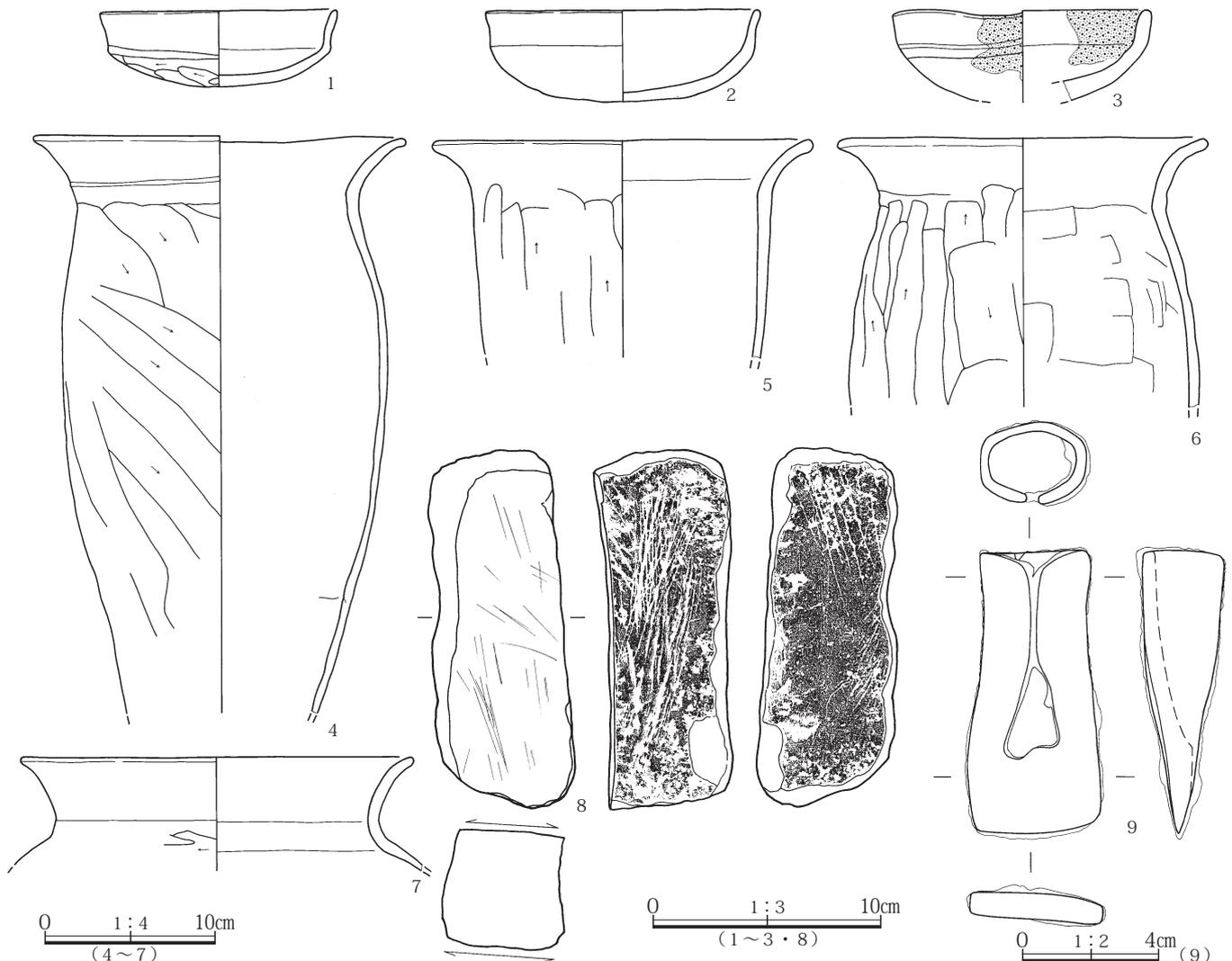
カマド 北壁で1か所検出した。袖は灰白色粘土で構築されている。袖の長さは0.55m、焚き口幅0.39m、焚き口から煙道までの長さは0.93mである。燃烧部から煙道にかけて灰層が分布していた。煙道部に使用されていたと推定される土師器甕(4・6)が押しつぶされたような状態で出土した。

柱穴 掘方調査中にP1・P2が検出された。P1はカマド右袖付近で確認され、円形を呈し、長径0.38m、短径0.36m、床面からの深さは0.19mである。P2は円形で、長径0.38m、短径0.37m、床面からの深さは0.51mである。P1はやや小さいものの、位置から貯蔵穴の可能性もある。P2は位置や深さから主柱穴の一つと考えている。

掘方 土坑状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

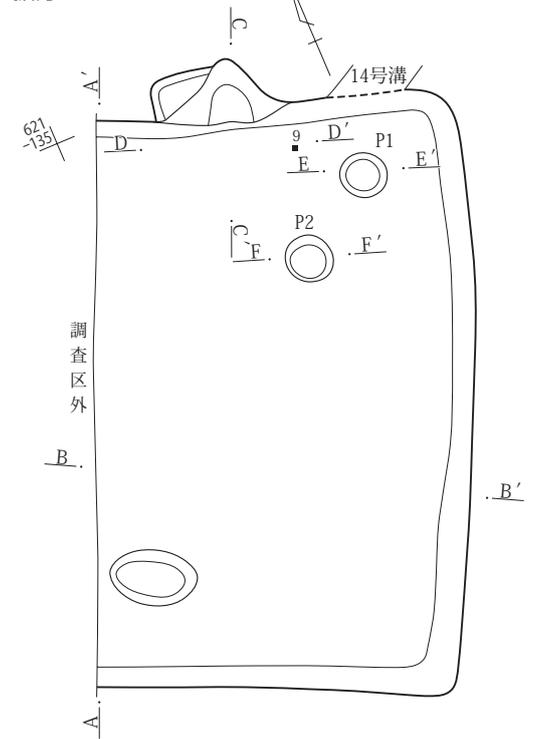
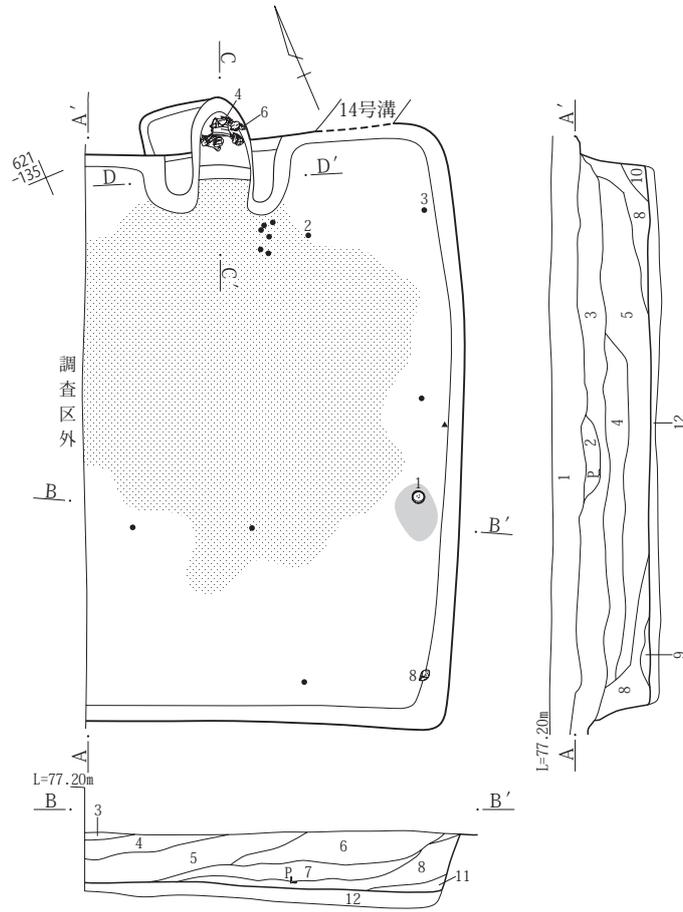
遺物と出土状態 土師器239点、須恵器13点、石製品1点、鉄製品2点が出土し、このうち13点を図示した。南東隅で砥石(8)が壁に立てかけられたような状態で出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀後半頃と考えている。



第52図 関7区22号竪穴住居出土遺物

掘方



22号住居A-A'・B-B'

- 1 灰黄色土 旧畑耕土
- 2 灰黄色土 シルト質土(14号溝埋没土)
- 3 灰黄色土 均質土、小礫(1cm以下)を僅かに含む(3~11埋没土)
- 4 灰黄色土 淡黄色土を斑状に含む
- 5 浅黄橙色土 灰白色シルト質土を含む
- 6 黄灰色土 淡黄色シルト質土を僅かに含む
- 7 黄灰色土 浅黄色土小塊を多量に含む
- 8 灰黄色土 均質土、炭化物粒を含む
- 9 黒褐色土 黄灰色土を含む、色味は暗い
- 10 黄灰色土 黒褐色土塊を含む
- 11 褐灰色土 橙色焼土塊・炭化物を含む
- 12 黒褐色土 浅黄色土塊を含む(掘方土)

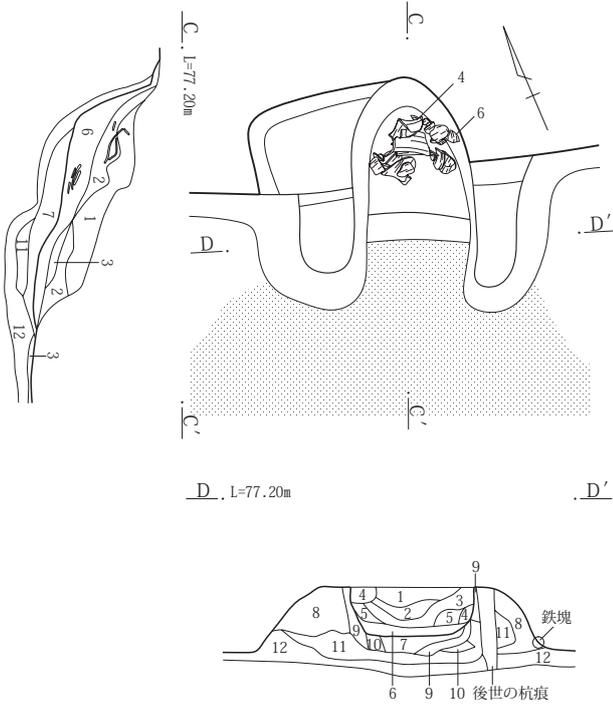
PIE-E'

- 1 灰黄色土 やや砂質土
- 2 暗褐色土 小礫を多量に含む

P2F-F'

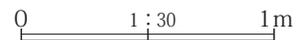
- 1 灰黄色土 小礫を含み、砂質土
- 2 灰黄色土 黒色土粒を含む
- 3 灰黄色土 黄色を増す

カマド掘方



22号住居カマドC-C'・D-D'

- 1 灰黄色土 均質で硬く締まる
- 2 灰黄色土 焼土粒を含む
- 3 灰黄色土 焼土塊を60%含む
- 4 灰黄色土 焼土粒を多量に含む
- 5 灰黄色土 焼土粒・青灰色灰を含む
- 6 灰黄色土 黒色炭化物多量に含む
- 7 灰黄色土 灰層、焼土床面
- 8 灰白色土 粘質土
- 9 灰白色土 焼土を含む
- 10 灰黄色土 黒色炭化物を含む
- 11 灰白色土 粘土、色味は暗い
- 12 暗灰黄色土 黒褐色土塊・淡黄色土塊を含む



第53図 関7区22号竪穴住居

7区23号竪穴住居(第54図 PL. 16・119)

位置 7区北西部

X=38,610~38,612 Y=-56,134~-56,137

主軸方向 N-90°-E 重複 なし

形状と規模 長方形を呈し、長軸長は3.07m、短軸長2.78mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.65m、掘方底面までの深さは0.73m、面積は8.5㎡である。

埋没土 上層は灰黄色土、下層は灰白色シルト層を主体とする。灰白色シルト層は洪水層と考えられ、30cm以上の厚さで床面直上まで堆積している。

床面 灰白色シルト、暗褐色土塊を含む黒褐色土で構築されている。カマド周辺から住居中央部にかけて硬化が見られた。

カマド 東壁南寄り1か所検出した。袖は灰白色粘土で構

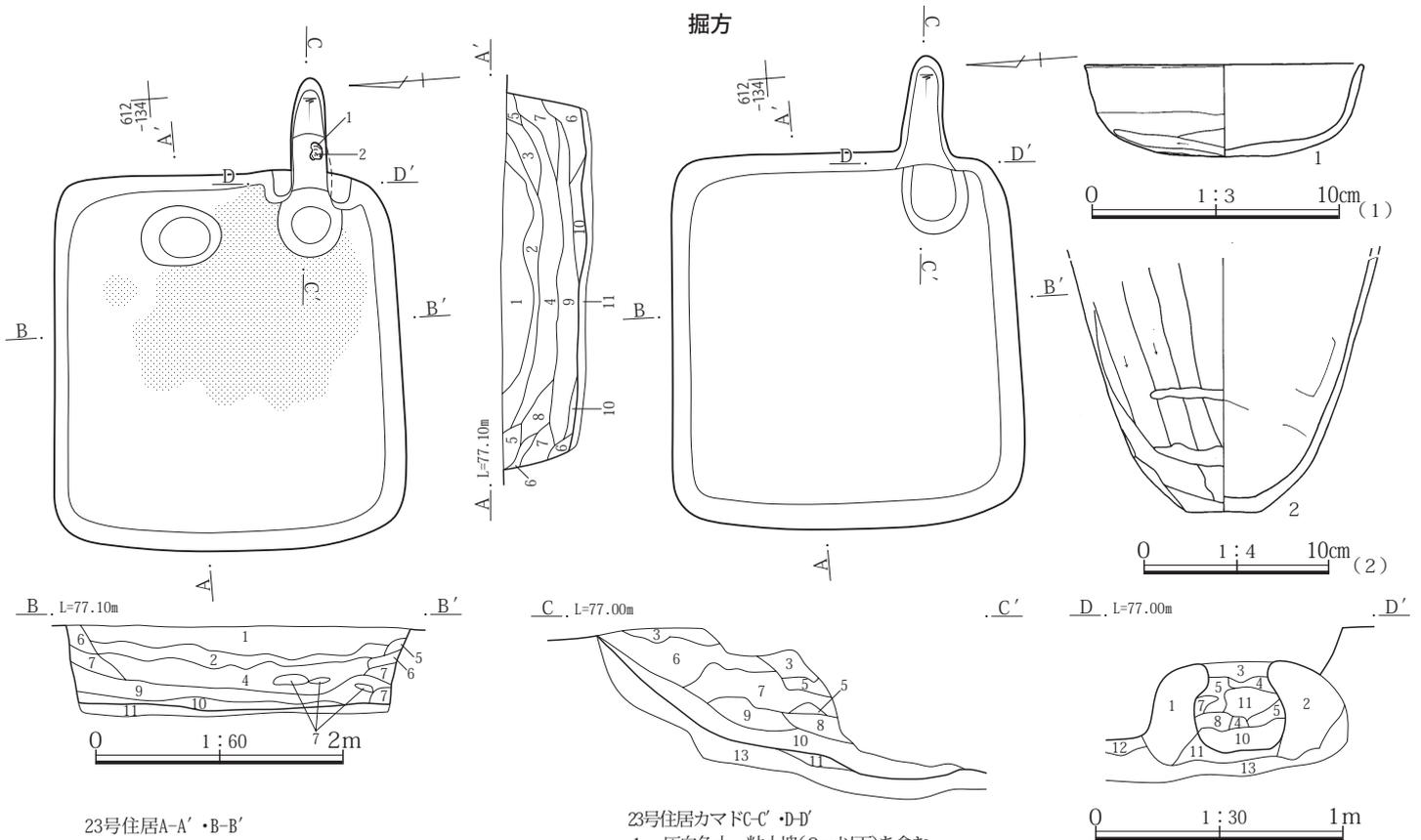
築されている。袖の長さは0.28m、袖内側の幅は0.3m、袖から煙道までの長さは1.05mである。土層断面から、天井部の崩落土の上に灰白色シルトが堆積している状況が観察できた。煙道からは土師器杯(1)と土師器甕(2)が底面から5cm上位で出土している。

柱穴 検出されなかった。

掘方 ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器56点、須恵器7点、陶磁器2点が出土し、このうち2点を図示した。すべて埋没土から出土した。

所見 洪水層が床面まで厚く堆積していた。埋没土の堆積状況から、廃棄後間もなく洪水に見舞われた住居と考えている。出土遺物などから、時期は8世紀前半頃と考えている。



23号住居A-A'・B-B'

- 1 灰黄色土 灰白色シルト質土を斑状に含む、やや砂質(1~10埋没土)
- 2 灰黄色土 灰白色シルト質土を斑状に多量に含む
- 3 灰黄色土 灰白色シルト質土塊(5cm大)を含む
- 4 灰白色土 シルト質土
- 5 褐灰色土 黒褐色(壁土崩落土)を含む
- 6 黒褐色土 壁土崩落土塊主体
- 7 暗灰黄色土 灰白色シルト質土を僅かに含む
- 8 灰白色土 灰白色シルト質土に灰色土を混じる
- 9 灰白色土 シルト質土、4層よりも白味強い
- 10 暗灰黄色土 灰白色土塊との混土層
- 11 黒褐色土 灰白色シルト質土、暗褐色土塊を含む(掘方土)

23号住居カマドC-C'・D-D'

- 1 灰白色土 粘土塊(2cm以下)を含む
- 2 灰黄色土 灰白色土塊を含む
- 3 暗灰黄色土 黒褐色土・灰白色土を含む
- 4 灰白色土 粘土塊・黒褐色土を少量含む
- 5 灰白色土 シルト質土主体、黄灰色土と混土
- 6 灰黄色土 黒褐色土・灰白色シルト質土を含む
- 7 灰白色土 シルト質土、氾濫層
- 8 灰白色土 焼土塊を含む
- 9 黄灰色土 焼土塊3cm以下と黒色灰の混土(崩落したカマド壁)
- 10 青灰色灰、焼土塊含む
- 11 灰黄色土 黒褐色土塊(3cm以下)を多量に含む
- 12 灰白色土 黒褐色土を少量含む
- 13 黒褐色土 暗灰黄色土塊(1cm以下)・焼土を含む

第54図 関7区23号竪穴住居と出土遺物

7区24号竪穴住居(第55図 PL. 16)

位置 7区北東部壁際

X=38,620~38,623 Y=-56,118~-56,120

主軸方向 住居東半が調査区外のため不明。

重複 なし

形状と規模 一部のみの調査であるが、方形または長方形と推定される。検出した西壁と北壁の長さはそれぞれ3m、1.75mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.48m、掘方底面までの深さは0.65mである。

埋没土 暗灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 北西部の一部が攪乱で失われていた。灰黄色土と黄橙色土を含むにぶい黄橙色土で構築されていた。

カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 浅い凹凸がみられるものの、ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器97点、須恵器6点、陶磁器1点が出土し、このうち4点を図示した。すべて埋没土から出土した。

所見 住居の一部を調査したのみで、全体形や内部施設については不明である。出土遺物から、時期は8世紀前半頃と推定される。

3. 柵

7区北部で1列検出した。遺構確認面はVb層である。発掘調査時に6基のピットが東西に列をなしていることを確認した。整理作業でも、ピット群が掘立柱建物や柵になるかどうか再検討を行ったが、現時点では1号柵のみである。

7区1号柵(第56図 PL. 24)

位置 7区北部

X=38,601~38,604 Y=-56,132~-56,138

主軸方向 N-73°-W

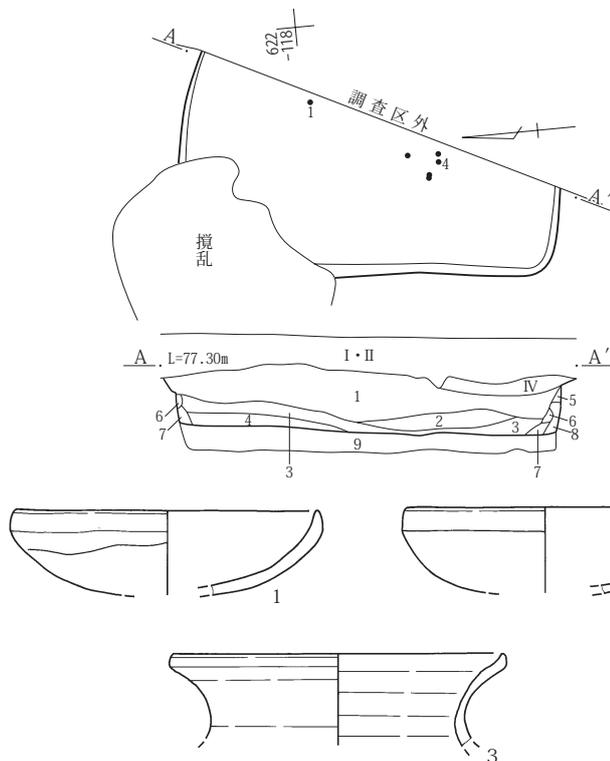
重複 なし

形状と規模 6基のピットからなる。周辺には他にもピットがあったが、これ以上組むことはできなかった。P1~P6までの中心間の長さは4.98mである。P1~P6の大きさは第5表に示した。柱穴間の距離は図中に示した。P2~P3間、P4~P5間で0.55mと狭く、P3~P4間で1.98mと広い。

埋没土 P1~P6の埋没土は灰黄色土を主体とし、土質がよく類似していた。P1の2層は締まりの弱い黄灰色土で、柱痕の可能性はある。

遺物と出土状態 P1から土師器1点、P2から土師器3点、P3から土師器3点、P4から土師器1点、須恵器1点が出土した。いずれも埋没土中からの出土で、細片のため図示しなかった。

所見 埋没土の特徴から、中世以降と推定されるが、詳細な時期は不明である。



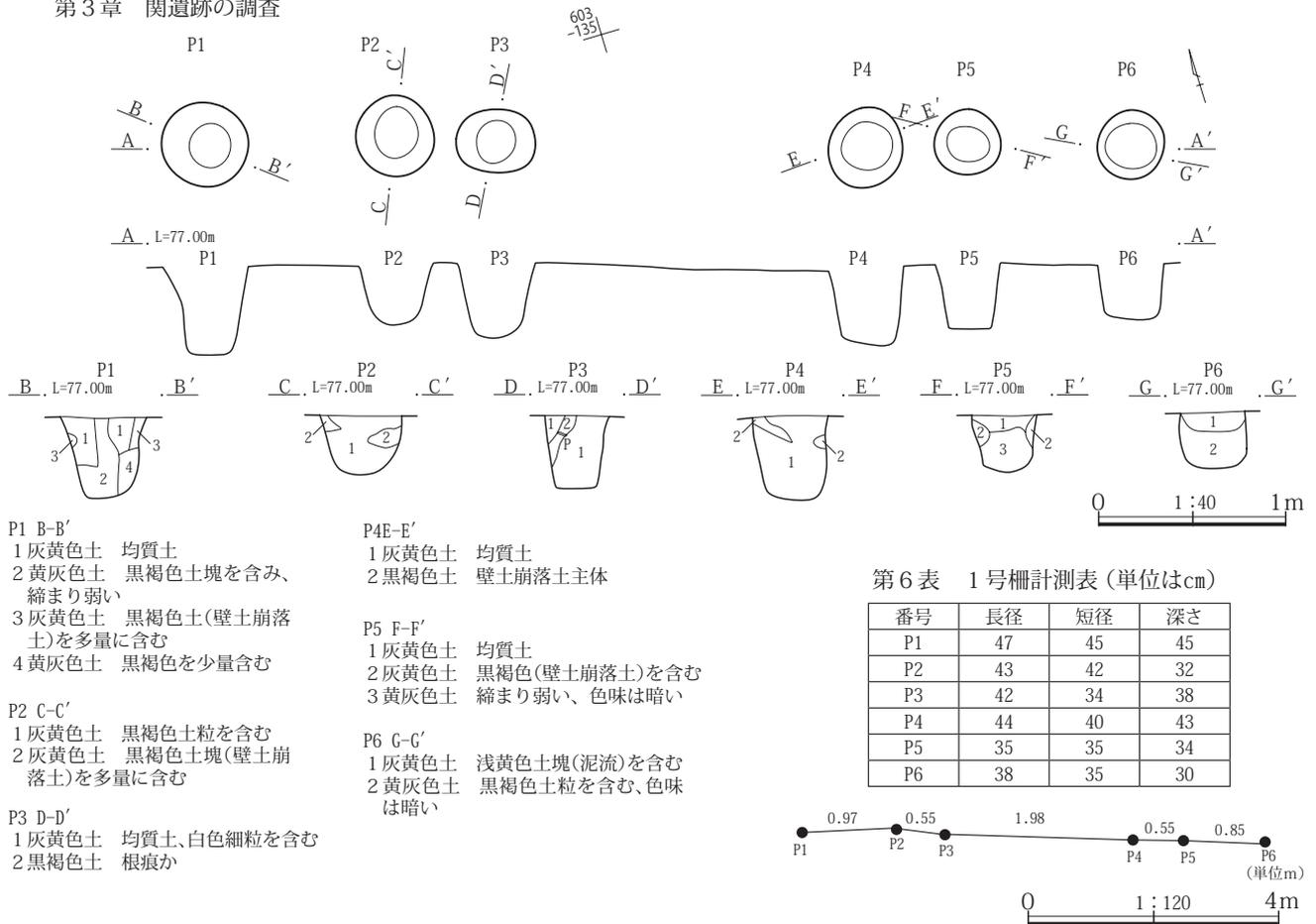
24号住居A-A'

- 1 暗灰黄色土 焼土(0.5cm以下)を僅かに含む、均質土(1~8埋没土)
- 2 暗灰黄色土 焼土粒塊(1cm大)・炭化物粒を含む
- 3 灰黄色土 淡黄色土を斑状に含む
- 4 暗灰黄色土 粘質土
- 5 灰黄褐色土 黒褐色土を少量含む
- 6 黒褐色土 壁土崩落土塊主体
- 7 褐灰色土 粘質土
- 8 黒褐色土 粘質土、黄橙色土を含む
- 9 にぶい黄橙色土 灰黄色土・黄橙色土を含み、黒褐色土の混入が少ない(掘方土)

0 1:60 2m

0 1:3 10cm (1~3)
0 1:4 10cm (4)

第55図 関7区24号竪穴住居と出土遺物



第56図 関7区1号柵

4. 溝

溝は14条検出された。遺構確認面はV層上面である。方向が南北および東西を示すもの(2号・4号・6号～9号溝)と、南北あるいは東西を示さないもの(1号・3号・5号・10号～14号溝)がある。前者は長さが5m未満の短い溝である。1号溝は7区南端で、調査区内で最も標高が低い地点(標高76.3m～76.45m)に位置する。

7区1号溝(第57図 PL.17・119)

位置 7区南端

X=38,545～38,550 Y=-56,150～-56,165

重複 3号溝と重複し、土層断面の観察から、1号溝が新しい。

形状と規模 東側および西側は調査区外で、西側の一部は攪乱により失われている。検出された長さは14.6m、幅は3.25～3.6mと広い。遺構検出面から底面までの深さは0.83～0.9mである。底面はやや丸味を帯び、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-85°-E

底面比高 東端が西端より0.12m高い。

埋没土 黄灰色土および灰黄色土を主体とする。埋没土は全体的にやや砂質土で、均質である。底面付近に砂等の堆積物は認められず、常時水が流れていたとは考えにくい。

遺物と出土状態 土師器27点、須恵器8点、陶磁器2点、時期不明土器1点、古代瓦3点、瓦塔1点、石製品3点、鉄滓1点が出土した。このうち3点を図示し、2点を写真のみ掲載した。いずれも埋没土中から出土した。瓦塔(1)は埋没土上部から出土し、酸化焙焼成によるもので、丸瓦のみを表現している。1点の鉄滓は椀形鍛冶滓(PL.119-5)と考えられ、内面は発泡し、外面には酸化土砂が付着している。陶磁器は2点とも近世のものである。

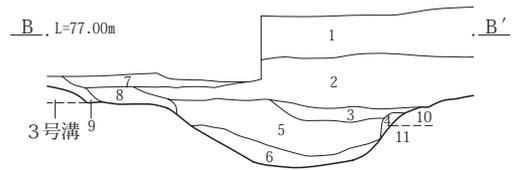
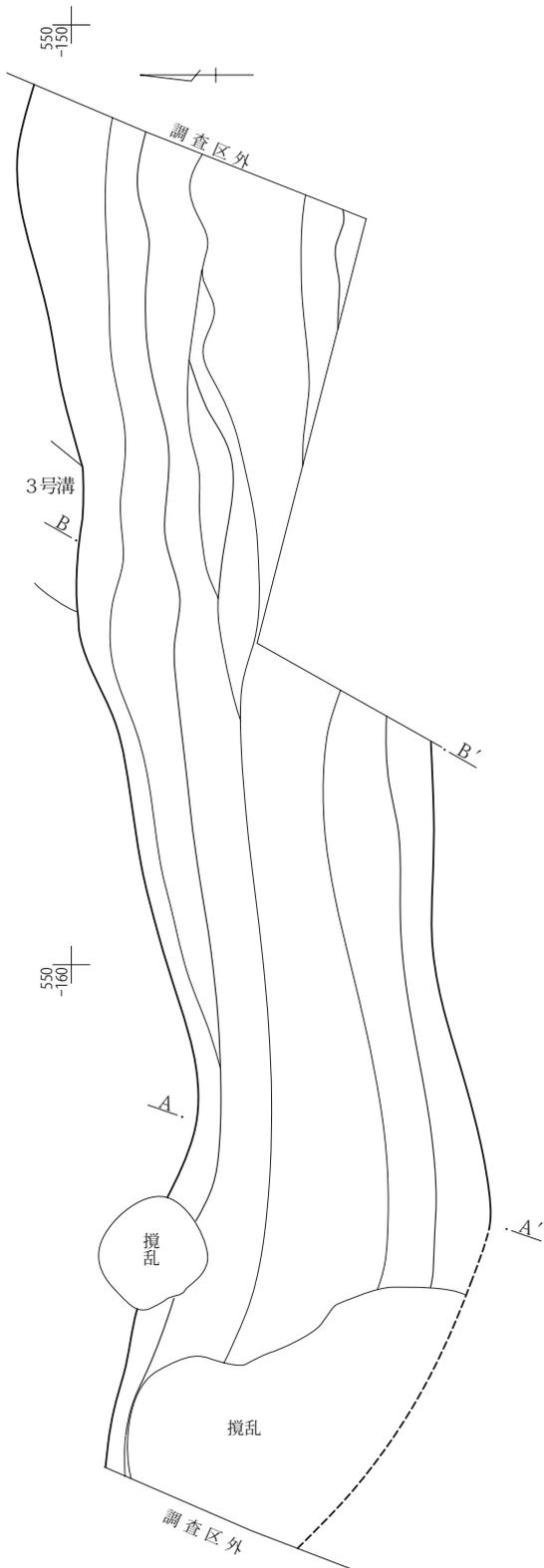
所見 埋没土および底面の観察から、区画溝と考えられる。遺構の重複関係と出土遺物から、時期は7世紀後半より新しいと推定される。

7区2号溝(第58図 PL.17)

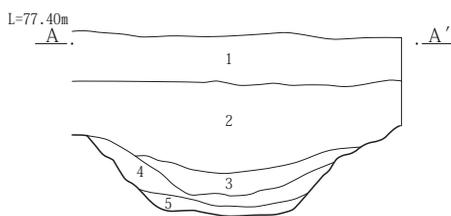
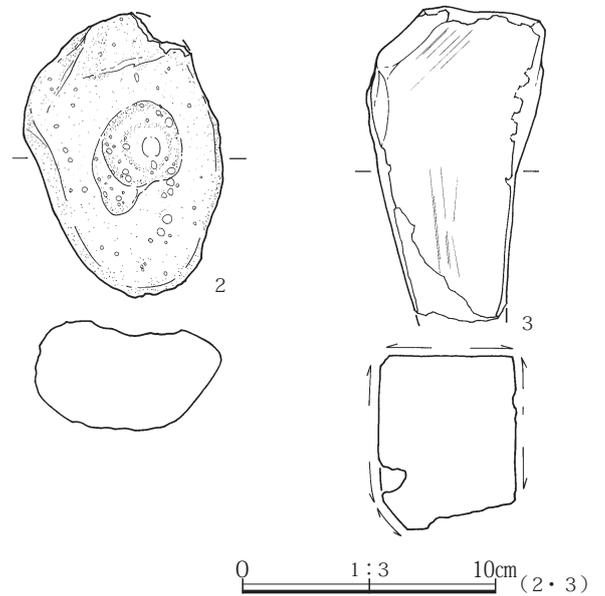
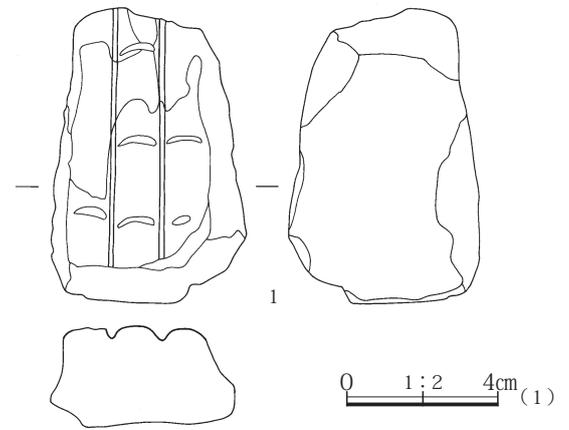
位置 7区南東部

X=38,558～38,559 Y=-56,146～-56,149

重複 3号溝と重複し、遺構検出時および土層断面の観



- 1号溝B-B'
- 1 黄灰色土 旧畑耕土
 - 2 黄灰色土 やや砂質土、均質土、As-A (0.5mm以下)を含む
 - 3 黄灰色土 黒褐色土小粒を含む
 - 4 黄灰色土 黒褐色粘質土主体
 - 5 黄灰色土 砂質土、均質土、黒褐色土細粒を含む
 - 6 黄灰色土 黒褐色土塊(3~5cm)を含む
 - 7 灰黄色土 黄色土細粒を含む、色味は明るい
 - 8 灰黄色土 黒褐色土塊を含む
 - 9 灰黄色土 黄褐色土砂を含む
 - 10 黒褐色土 粘質土
 - 11 暗灰色土 シルト質土



- 1号溝A-A'
- 1 黄灰色土 黄色粒含み、縮まりあり、旧畑耕土
 - 2 黄灰色土 やや砂質土、混入物少なく均一
 - 3 黄灰色土 やや砂質土、僅かに黒褐色土(壁土崩落土)を含む
 - 4 黄灰色土 やや砂質土、褐色土塊を含む
 - 5 黄灰色土 やや砂質土、黒褐色土・灰白色土塊を含む



第57図 関7区1号溝と出土遺物

察から、2号溝が新しい。

形状と規模 東側は調査区外である。検出された長さは2.7m、幅は0.6～0.65mである。遺構検出面から底面までの深さは0.16～0.22mである。底面はほぼ平坦で、断面形は箱形を呈する。

方向 N-85°-E

底面比高 西端が東端より0.05m高い。

埋没土 灰黄色土を主体とする。底面付近に砂等の水成堆積物は認められなかった。

遺物と出土状態 土師器1点、須恵器2点が出土した。細片のため、図示しなかった。いずれも埋没土から出土した。

所見 形状や規模から、土坑(①細長い土坑)の可能性もある。走向はほぼ東西方向で、方角を意識している様子が窺える。遺構の重複および埋没土の特徴から中世以降と推定されるが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

7区3号溝(第58図 PL.17・119)

位置 7区南東部

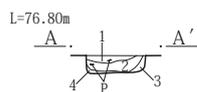
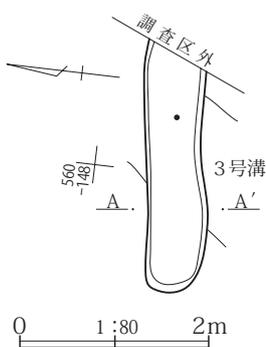
X=38,549～38,562 Y=-56,145～-56,157

重複 1号・2号溝、1号墓坑、3号ピットと重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、いずれの遺構よりも3号溝が古い。

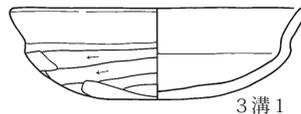
形状と規模 北東部はさらに調査区外に延びていると推定される。検出された長さは18.3m、幅は1.0～1.52mである。遺構検出面から底面までの深さは0.33～0.56mである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは比較的急な部分と緩やかな部分がある。

方向 N-42°-E

2号溝



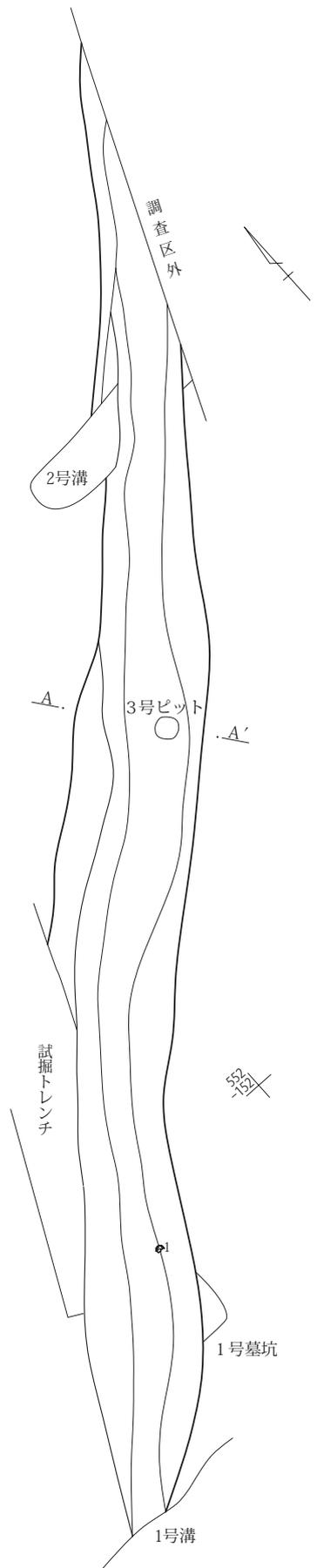
- 2号溝A-A'
- 1 灰黄色土 明黄橙色土塊を含む
 - 2 灰黄色土 明黄橙色土塊(1cm大)を多量に含む
 - 3 灰黄色土 明黄橙色土塊を含まず
 - 4 灰黄色土 黒褐色土を含む



3号溝

3号溝A-A'

- 1 明黄褐色土 微細砂
- 2 灰黄褐色土 細砂
- 3 暗褐色土 砂質土
- 4 灰黄色土 やや粘質土
- 5 灰黄色土 細砂を多量に含む



第58図 関7区2号・3号溝と3号溝出土遺物

底面比高 北東端が西南端より0.08m高い。

埋没土 明黄褐色土と灰黄褐色土、暗褐色土が互層に堆積していた。

遺物と出土状態 土師器が1点出土し、これを図示した。土師器杯(3溝1)は底面付近から出土した。

所見 調査区の中で最も標高が低い南端部に向かって、等高線に直交するように走向する。埋没土および底面の観察から、区画の溝なのか水路なのかを判断することができなかった。遺構の重複および出土遺物から、時期は7世紀後半と推定される。

7区4号溝(第59図 PL.17)

位置 7区中央部南寄り

X=38,571 Y=-56,143~-56,147

重複 6号井戸と重複し、遺構検出時の観察から、4号溝が新しい。

形状と規模 長さは3.9m、幅は0.52~0.6mである。遺構検出面から底面までの深さは0.13~0.19mである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは垂直に近く、断面形は箱形を呈する。

方向 N-80°-W

底面比高 東端が西端より0.05m高い。

埋没土 やや砂質の灰黄色土である。

遺物と出土状態 土師器19点、須恵器1点、陶磁器1点が出土した。いずれも細片のため図示しなかった。陶磁器とした1点は近世のものである。すべて埋没土から出土した。

所見 走向はほぼ東西方向で、形状や規模から、土坑(①細長い土坑)の可能性もある。埋没土の特徴および出土遺物から、時期は中世以降と推定されるが詳細は不明である。

7区5号溝(第59・60図 PL.18・119・120)

位置 7区中央部東壁際

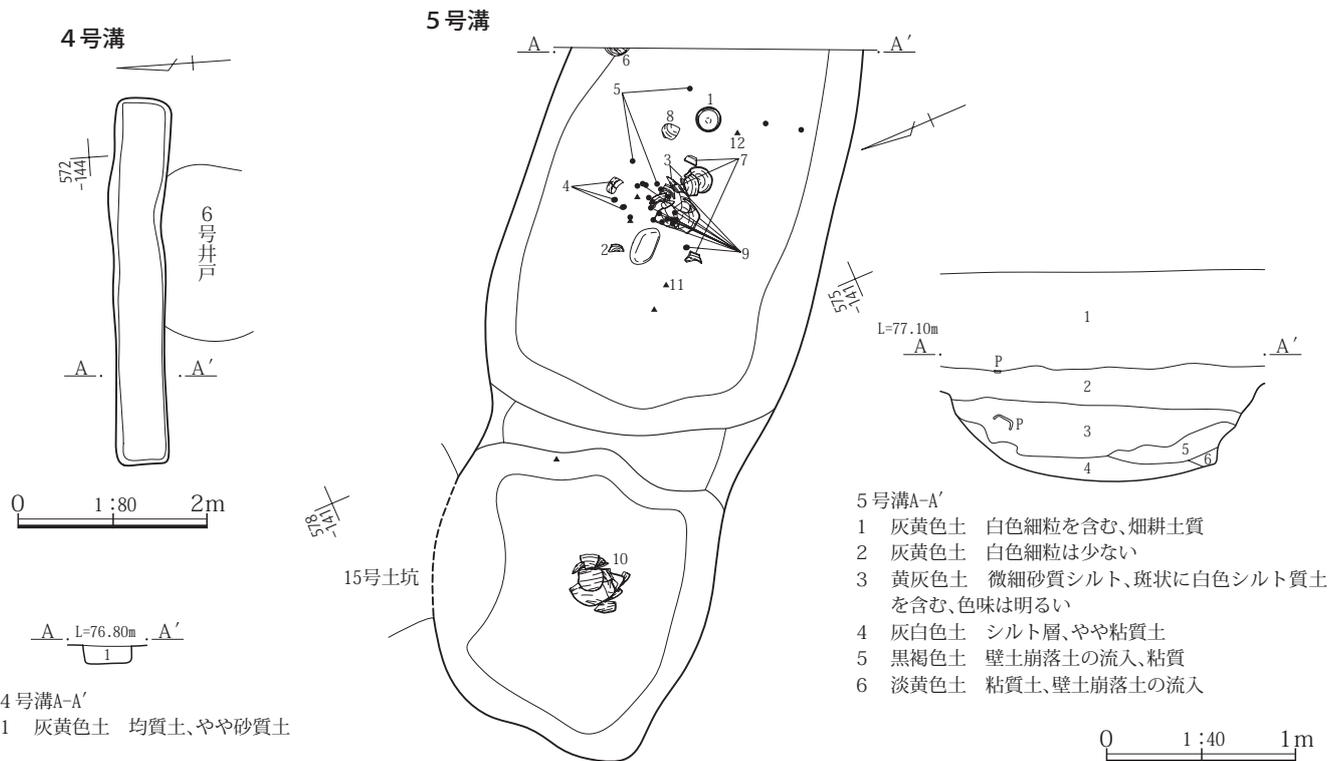
X=38,574~38,577 Y=-56,139~-56,142

重複 15号土坑と重複し、遺構検出時の観察から、5号溝が古い。

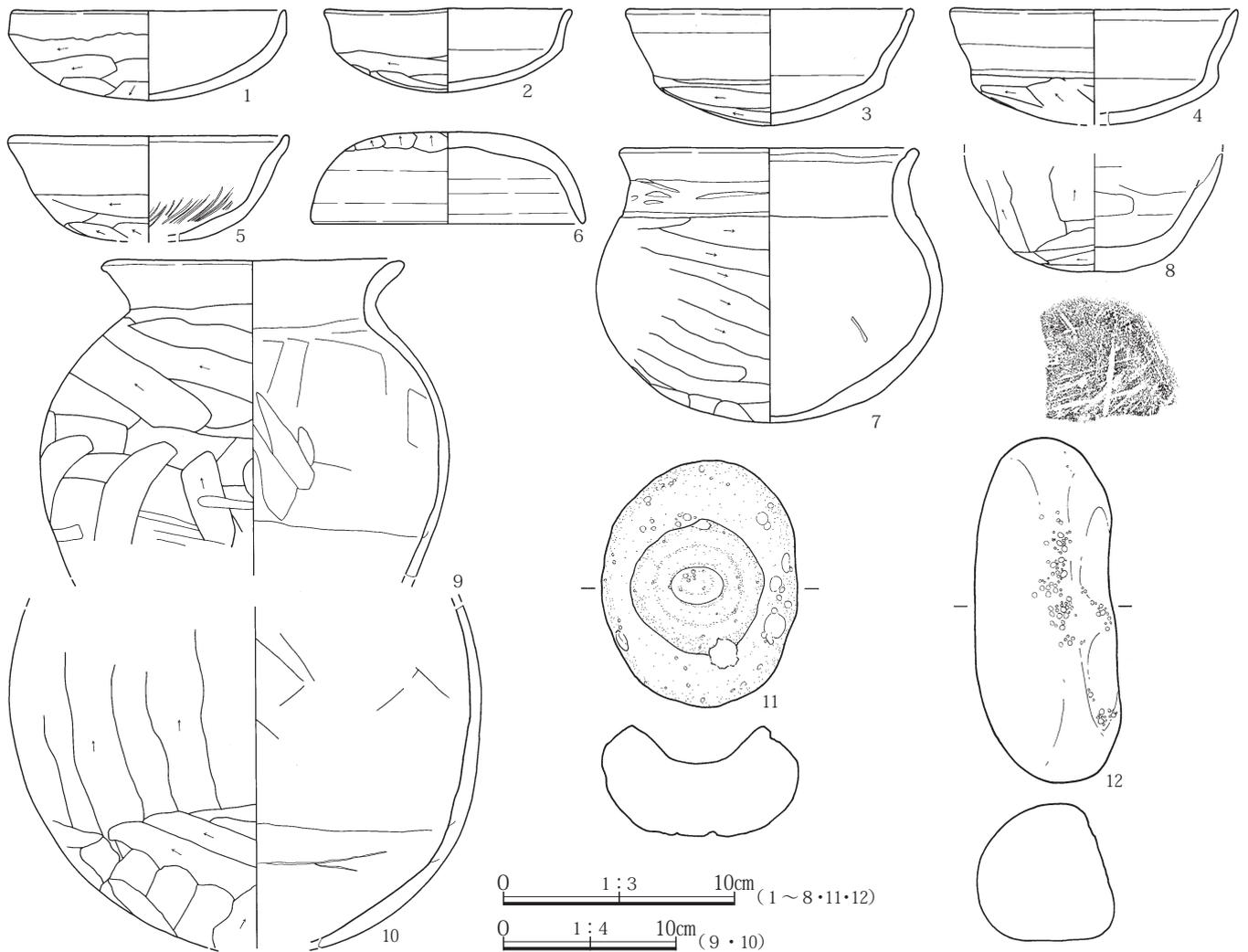
形状と規模 検出された長さは3.98m、幅は1.2~1.67mである。遺構検出面から底面までの深さは0.13~0.38mである。底面は浅い碗形で丸味を持ち、壁の立ち上がりは比較的緩やかである。中央部で底面が15cm程度高くなり、溝を2つに分けている。

方向 N-52°-W

底面比高 北西端が南東端より0.18m高い。



第59図 関7区4号・5号溝



第60図 関7区5号溝出土遺物

埋没土 黄灰色土を主体とする。3層からは多量の土器や礫がまとまって出土した。

遺物と出土状態 土師器98点、須恵器4点、石製品2点が出土し、このうち12点を図示した。東側で3層から多量の遺物がまとまって検出された。土器や石製品、礫などが20～30cm程度の高低差をもって出土したが、5の土師器杯が底面より14cm、19cm、44cm上位から出土した破片が接合したことから、3層出土遺物は同時期と捉えることができる。底面から出土した遺物はなかった。

所見 埋没土の観察から、水が流れていた痕跡は認められなかった。埋没土3層から多量の遺物がまとまって出土した。土器の接合関係から、20～30cmの高低差を持ちながらも、これらの遺物は同一時期と考えられる。出土遺物から、時期は古代と推定される。

7区6号溝(第61図 PL.18)

位置 7区中央部やや北寄り

X=38,591～38,596 Y=-56,142

重複 10号住居と重複し、遺構検出時の観察から、6号溝が新しい。

形状と規模 全体を調査することができた。長さは4.75m、幅は0.28～0.48mである。遺構検出面から底面までの深さは0.05～0.18mである。底面はほぼ平坦で、断面形は箱形を呈する。西壁にピットが5個認められたが、6号溝に伴うものかは判断できない。

方向 N-2°-E

底面比高 北端が南端より0.02m高い。

埋没土 締まりが弱い灰黄色土である。西側の52号～57号ピットの埋没土と同質であると発掘調査時の所見がある。

遺物と出土状態 土師器20点、須恵器1点が出土した。いずれも細片のため図示しなかった。すべて埋没土中か

ら出土した。

所見 7号溝と並列し、ともに走向はほぼ南北方向である。形状や規模から、土坑(①細長い土坑)の可能性もある。位置および方向から、西側に位置する52号～57号ピットや7号～9号溝との関連が予想される。埋没土の特徴から、時期は中世以降と推定される。

7区7号溝(第61図 PL. 18)

位置 7区中央部やや北寄り

X=38,591～38,594 Y=-56,141

重複 10号住居と重複し、遺構検出時の観察から、7号溝が新しい。

形状と規模 全体を調査することができた。長さは2.88m、幅は0.28～0.48mである。遺構検出面から底面までの深さは0.02～0.08mである。底面はほぼ平坦で、断面形は箱形を呈する。

方向 N-3°-W

底面比高 北端が南端より0.08m高い。

埋没土 灰黄色土で、6号溝および西側の52号～57号ピットの埋没土と同質であると発掘調査時の所見がある。

遺物と出土状態 土師器16点が出土し、このうち1点を図示した。いずれも埋没土中から出土した。

所見 6号溝と並列し、ともに走向はほぼ南北方向である。形状や規模から、土坑(①細長い土坑)の可能性もある。位置および方向から、6号溝と同様に、西側に位置する52号～57号ピットや8号・9号溝との関連が予想さ

れる。埋没土の特徴から、時期は中世以降と考えている。

7区8号溝(第62図 PL. 18)

位置 7区中央部北寄り

X=38,589 Y=-56,143～-56,145

重複 9号溝と重複し、新旧関係は不明である。

形状と規模 遺存状態は良好ではなかった。長さは2.6m、幅は0.5～0.6mである。遺構検出面から底面までの深さは0.08～0.11mである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-85°-W

底面比高 西端が東端より0.02m高い。

埋没土 やや砂質の灰黄色土で、6号・7号・9号溝、52号～57号ピットの埋没土と同質である。

遺物と出土状態 土師器13点、須恵器2点が出土した。いずれも細片のため、図示しなかった。すべて埋没土中から出土した。

所見 走向はほぼ東西方向で、形状や規模から、土坑(①細長い土坑)の可能性もある。位置および方位、埋没土から、6号・7号・9号溝、北側のピット群との関連が予想される。時期は中世以降と考えている。

7区9号溝(第62図 PL. 18)

位置 7区中央部北寄り

X=38,589 Y=-56,145～-56,148

重複 8号溝と重複し、新旧関係は不明である。

形状と規模 西側は調査区外である。検出された長さは3.2m、幅は0.38～0.86mである。遺構検出面から底面までの深さは0.09～0.22mである。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

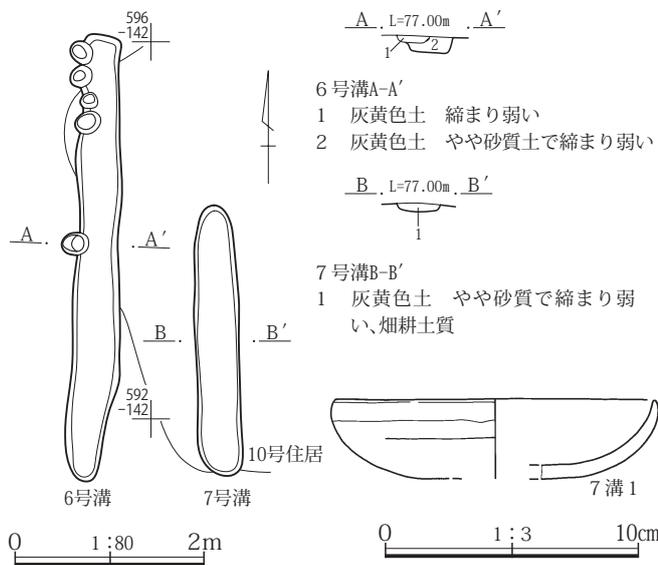
方向 N-84°-W

底面比高 西端が東端より0.04m高い。

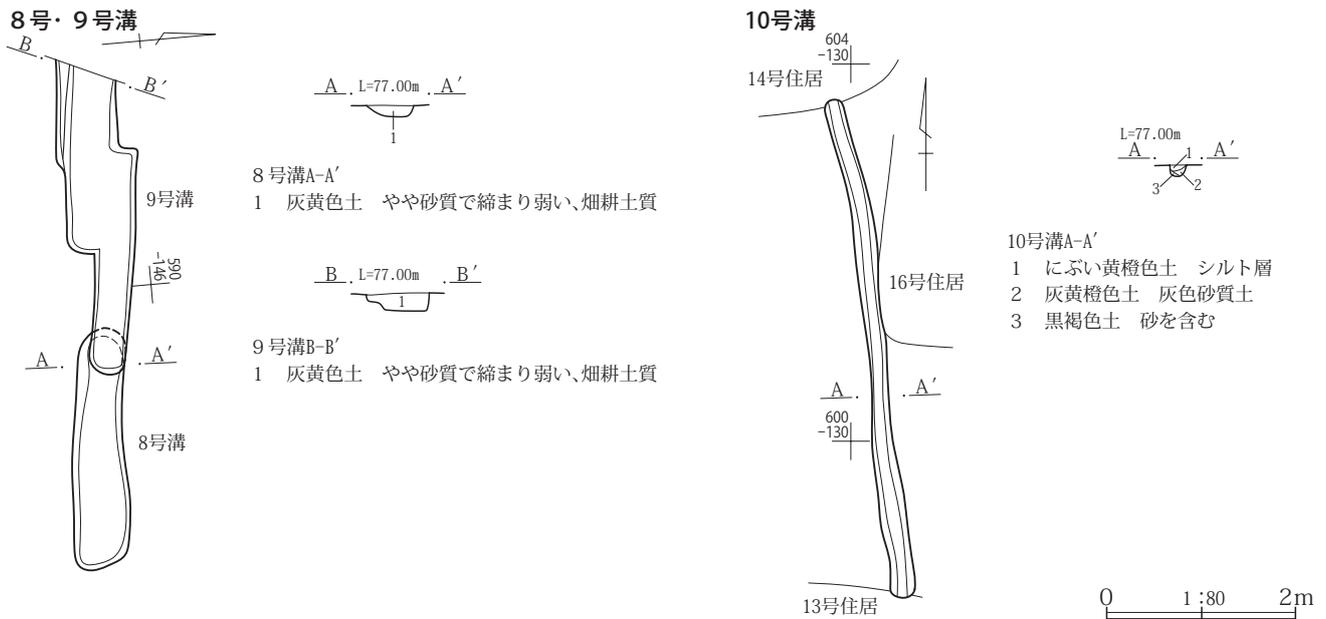
埋没土 やや砂質の灰黄色土で、締まりが弱く、6号～8号溝、52号～57号ピットの埋没土と同質である。

遺物と出土状態 土師器27点が出土した。いずれも細片のため図示しなかった。すべて埋没土中から出土した。

所見 走向はほぼ東西方向で、形状や規模から、複数の土坑(①細長い土坑)が重複したものの可能性もある。位置および方位、埋没土から、6号～8号溝、北側のピット群との関連が予想される。時期は中世以降と考えている。



第61図 関7区6号・7号溝と7号溝出土遺物



第62図 関7区8号～10号溝

7区10号溝(第62図 PL. 18)

位置 7区北東部

X=38,598～38,603 Y=-56,129～-56,130

重複 13号・14号住居と重複し、新旧関係は不明である。16号住居とは接するのみである。

形状と規模 検出された長さは5.34m、幅は0.2～0.28mと狭い。遺構検出面から底面までの深さは0.08～0.13mである。底面はやや丸味を帯び、断面形は楕形を呈する。

方向 N-8°-W

底面比高 北端が南端より0.06m高い。

埋没土 底面付近の埋没土3層は黒褐色土で砂を含む。水が流れていた可能性が高い。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 埋没土の観察から、水路の可能性が高い。時期は不明である。

7区11号溝(第63図 PL. 19)

位置 7区北部

X=38,613～38,615 Y=-56,131～-56,134

重複 19号住居および12号溝と重複し、遺構検出時の観察および土層断面から、いずれの遺構よりも11号溝が新しい。

形状と規模 長さは3.0m、幅は0.42～0.6mである。遺構検出面から底面までの深さは0.07～0.18mである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急である。

方向 N-64°-E

底面比高 北東端が南西端より0.06m高い。

埋没土 締まりのない黄灰色土である。発掘調査時の所見に現畑耕土に似るとある。

遺物と出土状態 土師器51点、須恵器5点が出土した。いずれも細片のため図示しなかった。すべて埋没土中から出土した。

所見 遺構の重複および埋没土の特徴から、時期は近現代と推定されるが詳細は不明である。性格も不明である。

7区12号溝(第63図 PL. 19)

位置 7区北部

X=38,614～38,619 Y=-56,128～-56,133

重複 19号住居および11号溝と重複する。遺構検出時の観察および土層断面の観察より、19号住居より新しく、11号溝より古い。

形状と規模 全体を調査することができた。長さは7.42m、幅は南西部で0.28m、北東部で0.6mである。遺構検出面から底面までの深さは0.08～0.2mである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急である。

方向 N-36°-E。途中で緩やかに東に走向を変え、北東部ではN-55°-Eである。

底面比高 中央部が最も低く、両端より0.1m程度低い。

埋没土 黄灰色の粘質土である。

遺物と出土状態 土師器10点、須恵器4点が出土し、このうち2点を図示した。すべて埋没土中から出土した。

所見 埋没土の観察から、水が流れていた痕跡は認めら

れなかった。水路の可能性は否定されるが、性格については不明である。遺構の重複関係から、時期は7世紀後半より新しく、近現代より古い。

7区13号溝(第63図 PL.19)

位置 7区北東部

X=38,605~38,624 Y=-56,125~-56,128

重複 17号・20号・21号住居、93号・94号ピットと重複する。20号住居を除く、いずれの遺構よりも13号溝が古い。20号住居との新旧関係は不明である。

形状と規模 検出された長さは19.0m、幅は0.44~0.92mである。遺構検出面から底面までの深さは0.14~0.31mである。底面はやや丸味を帯び、断面形は楕円形を呈する。

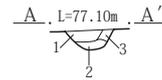
方向 途中で緩やかに向きを変え、北部はN-10°-E、南部はN-16°-Wである。

底面比高 屈曲部が最も低く、両端より0.06~0.08m低い。

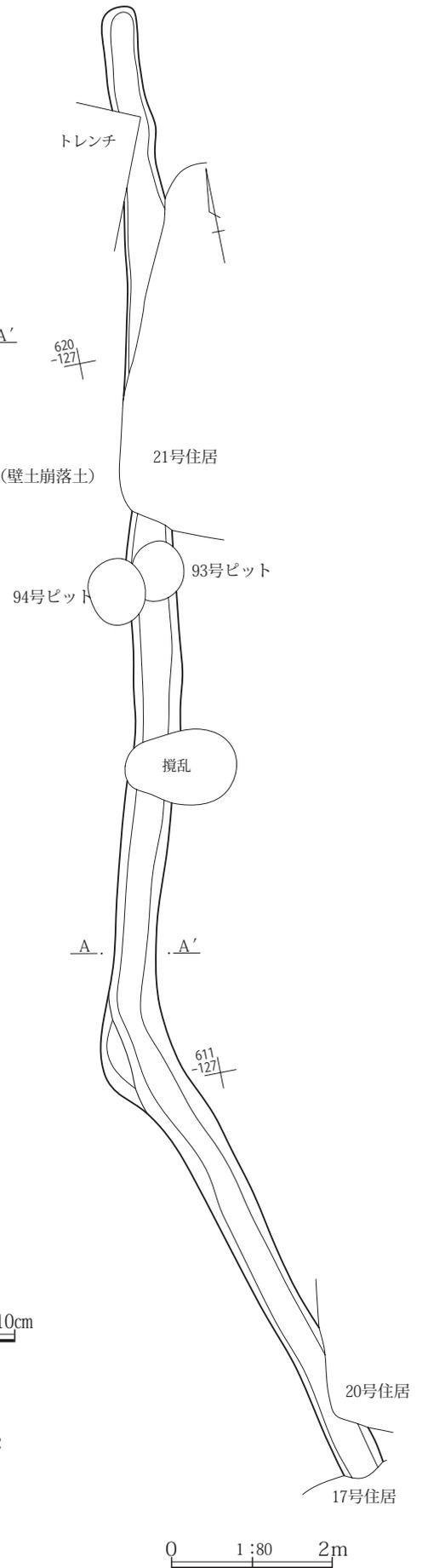
埋没土 にぶい黄橙色土を主体とする。底面付近の埋没土2層は砂層である。

遺物と出土状態 埋没土中から鉄製品が1点出土したが、図示しなかった。

13号溝

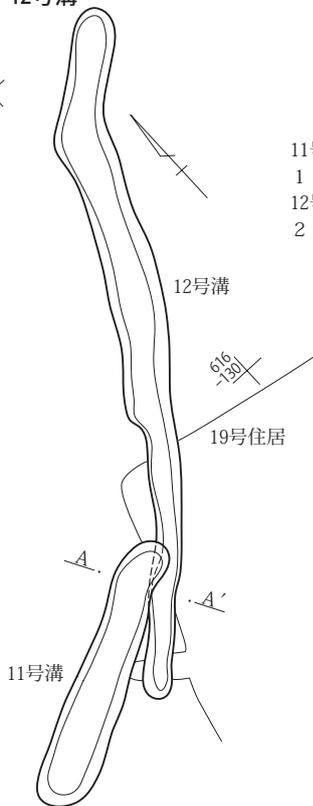


- 13号溝A-A'
- 1 にぶい黄橙色土 砂質土
 - 2 にぶい黄橙色土 砂層
 - 3 にぶい黄橙色 黒褐色土(壁土崩落土)を含む

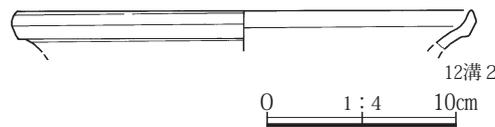
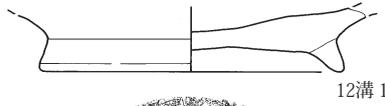


11号・12号溝

620
127



- 11号溝A-A'
- 1 灰黄色土 軟らかく現畑耕土に似る
- 12号溝A-A'
- 2 黄灰色土 粘質土、黄橙色粒を含む、色味は暗い



第63図 関7区11号~13号溝と12号溝出土遺物

所見 埋没土の観察から、水路の可能性を考えるが、底面の傾斜が一方向ではなく、屈曲部が最も低くなっていることから、性格は不明である。遺構の重複関係から、時期は7世紀第2四半期より古いと考えている。

7区14号溝(第64図 PL. 19・120)

位置 7区北西部

X=38,618~38,622 Y=-56,128~-56,135

重複 22号住居と重複し、14号溝の方が新しい。

形状と規模 西側は調査区外にさらに延びると考えられる。検出された長さは8.4m、幅は0.16~0.46mである。遺構検出面から底面までの深さは0.02~0.13mである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-64°-E

底面比高 ほぼ平坦である。

埋没土 灰黄色土と黒褐色土からなる。底面付近に砂等の堆積は見られなかった。

遺物と出土状態 土師器8点、陶磁器1点が出土し、このうち器形がわかる1点を図示した。すべて埋没土中か

ら出土した。1は肥前陶器で、8m南に位置する5号井戸から出土した破片と接合した。

所見 埋没土の観察から、水が流れていた痕跡は見られず、水路の可能性は否定できるが、性格については不明である。遺構の重複関係および出土遺物から、時期は7世紀後半以降と考えている。

5. 井戸

井戸は6基検出された。調査区北部のやや標高の高い地点(標高76.95m)に5号井戸、ほかの5基は調査区南西部の低地部に位置する。

7区1号井戸(第65・66図 PL. 20・120)

位置 7区南西部東壁際

X=38,570~38,571 Y=-56,153~-56,154

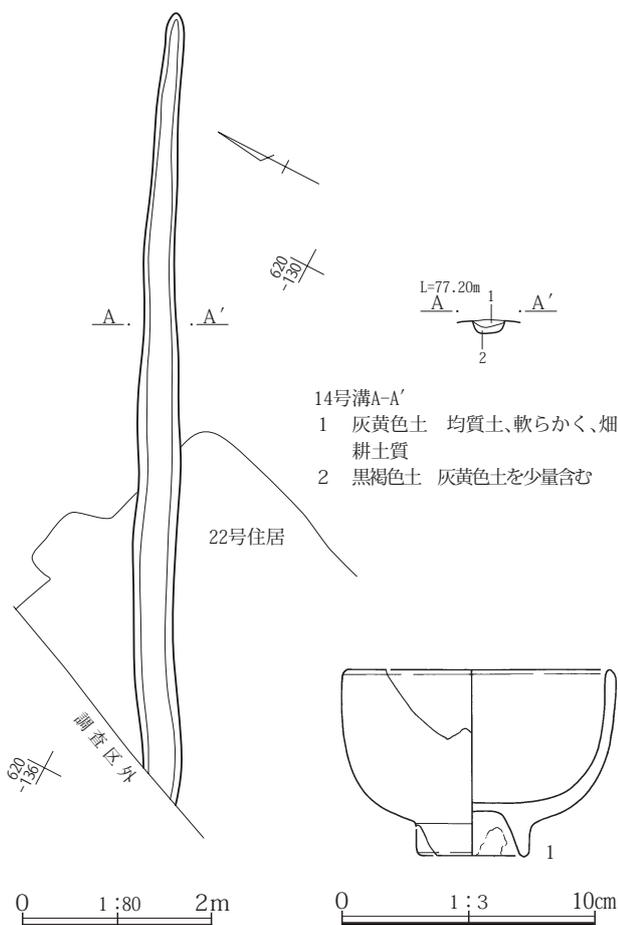
長軸方向 N-55°-W

重複 3号住居と26号土坑と重複し、土層断面の観察から、本遺構は3号住居より新しく、26号土坑との新旧関係は不明である。

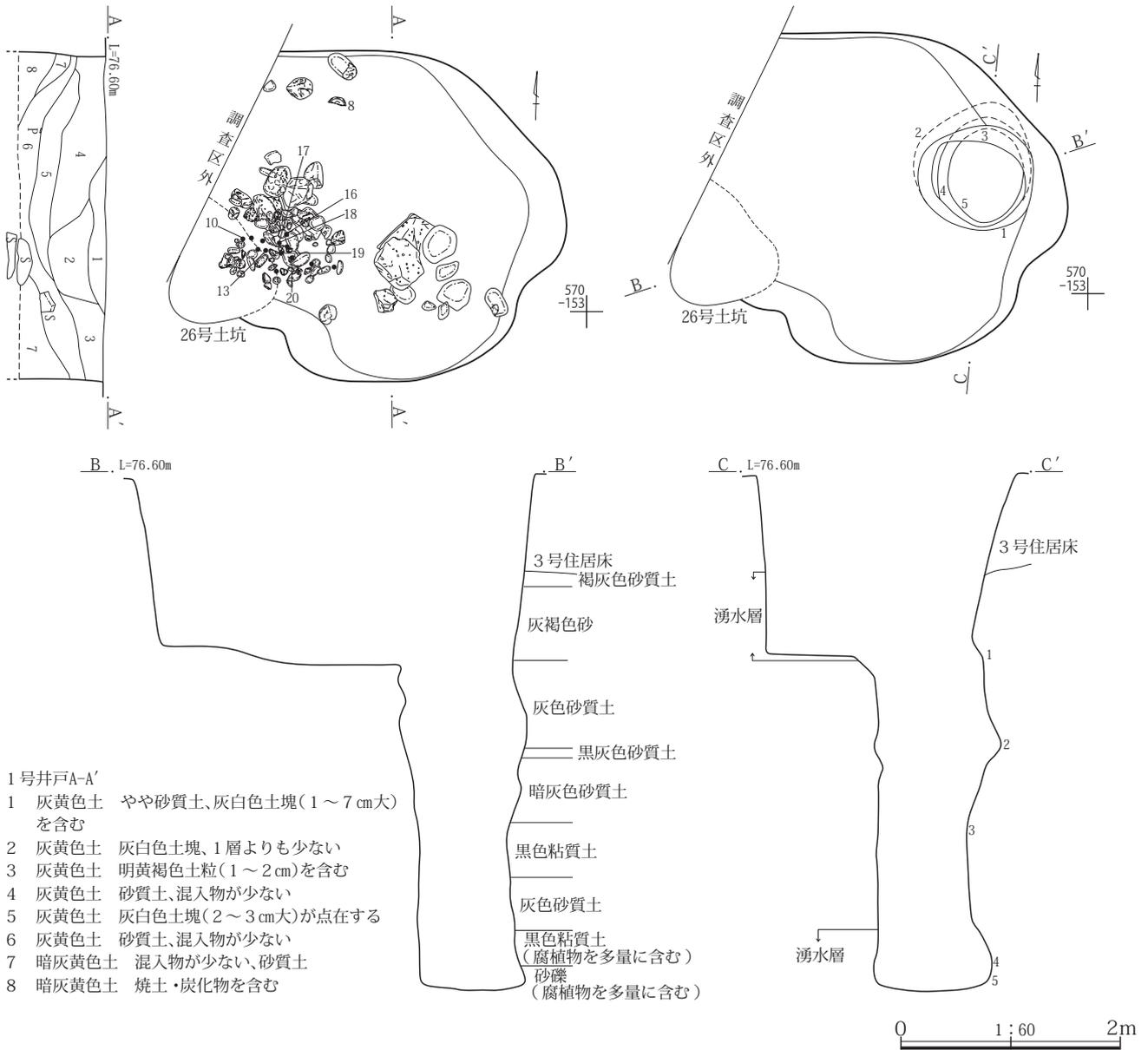
形状と規模 西側の一部は調査区外であるが、ほぼ全体を把握することができた。平面形はほぼ円形で、長径は1.04m、短径0.95mである。遺構検出面から底面までの深さは4.7mである。委託業者の掘削により完掘した。井戸周囲に広く不整形な中段が掘られていた。遺構検出面から中段底面までの深さは0.7~0.8mである。湧水層は2か所確認でき、上層の灰褐色砂層と下層の黑色粘質土層および砂礫層である。湧水量は現在も豊富で、調査中も毎分約200ℓあり、ポンプを使用し常時排水を行った。

埋没土 土層の記録は上部のみで、それより下の記録は困難であった。灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示している。

遺物と出土状態 土師器254点、須恵器38点、陶磁器17点、時期不明土器1点、埴輪1点、古代瓦2点、石製品3点、銅銭5点が出土し、このうち20点を図示した。いずれも埋没土中から出土した。土師器および須恵器は3号住居の遺物が入り込んだと考えられる。陶磁器はすべて中世のものである。掲載しなかったが、3点の石製品のうち2点は板碑であった。銅銭では17の至和通寶(北宋 初鑄年1054年)と18・19の熙寧元寶(北宋 初鑄年1068年)



第64図 関7区14号溝と出土遺物



第65図 関7区1号井戸

はともに北宋銭である。

所見 遺構の重複関係および出土遺物から、時期は中世以降と考えている。

7区2号井戸(第67図 PL.20・120)

位置 7区南西部

X=38,565~38,567 Y=-56,152・-56,153

長軸方向 N-46°-E

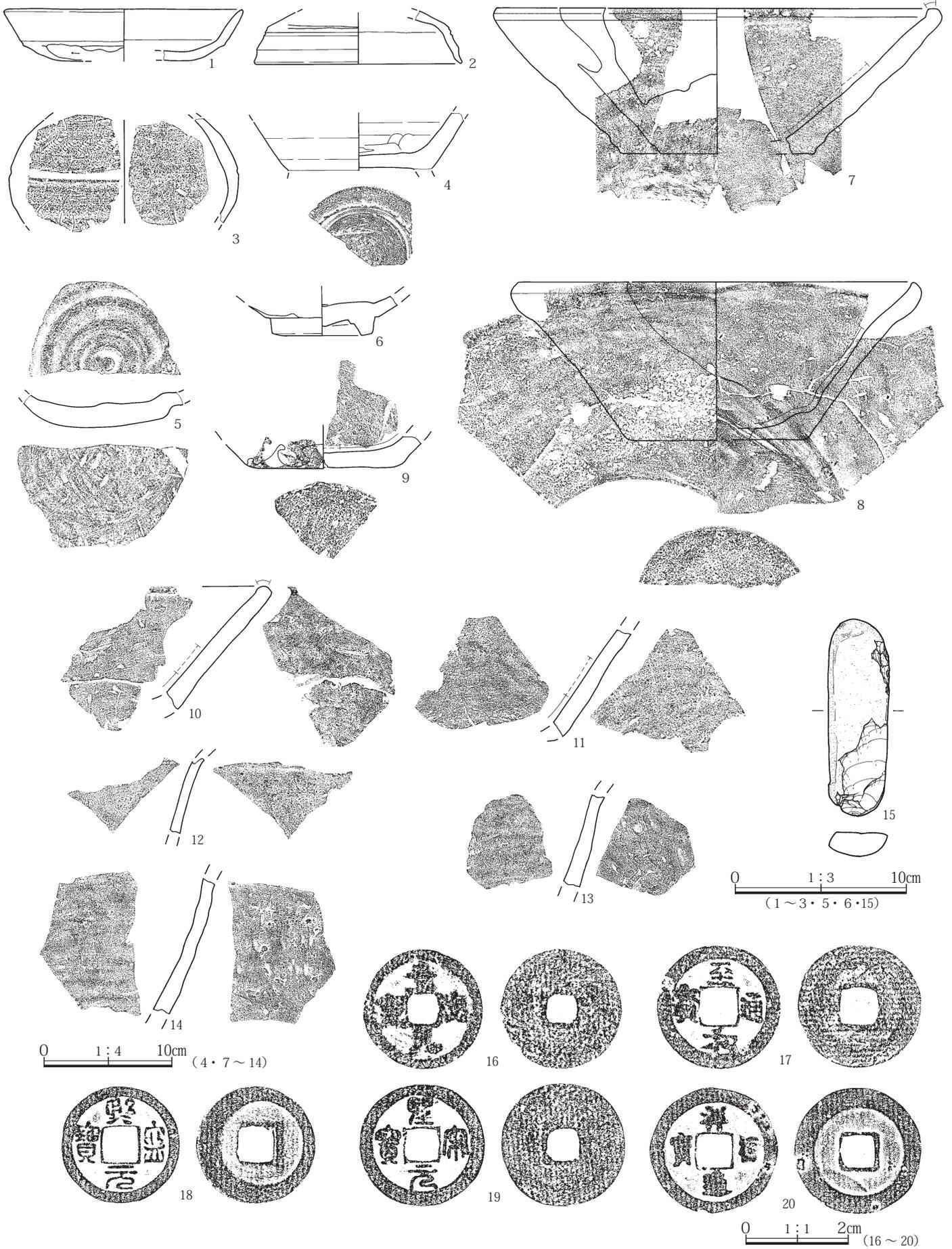
重複 3号住居と重複し、遺構検出時と土層断面の観察から、3号住居より新しい。

形状と規模 平面形は不整な楕円形で、長径は2.1m、短径1.61mである。遺構検出面から底面までの深さは3.3

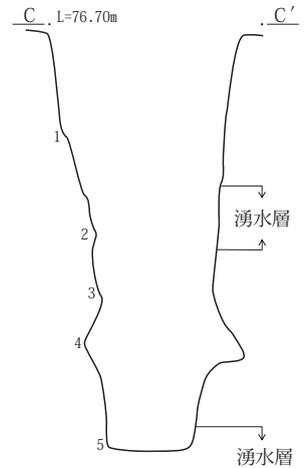
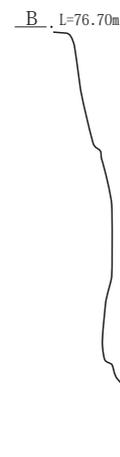
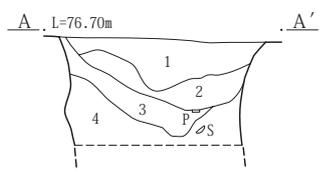
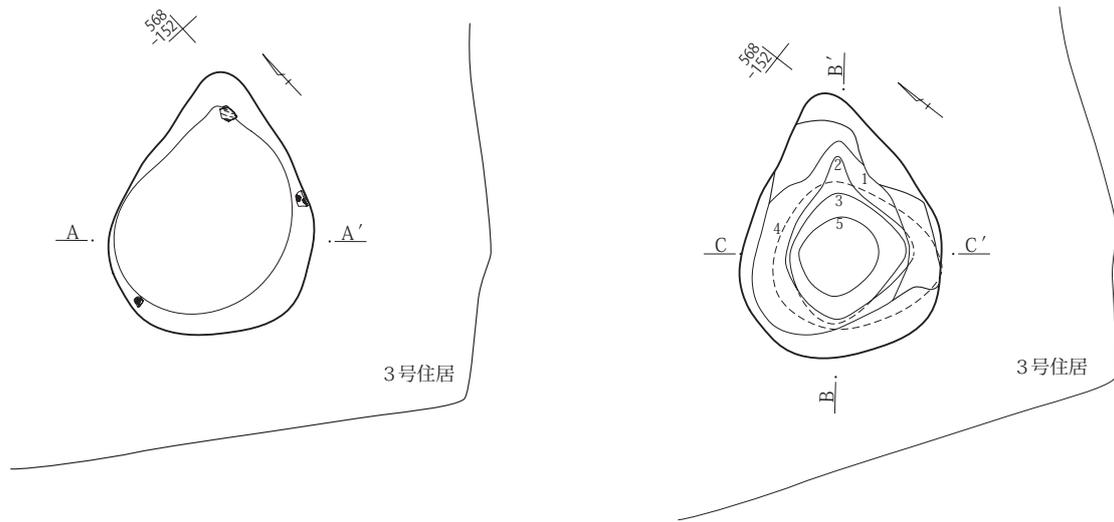
mである。委託業者の掘削により完掘した。1号井戸と同様に、湧水層は2か所確認でき、上層の灰褐色砂層と下層の黒色粘質土層である。湧水量は豊富で、調査時にも毎分約100lあり、ポンプを使用し常時排水を行った。

埋没土 遺構検出面から1m程度掘り下げたところで、湧水レベルに達したため、ここまで記録をとった。灰黄色土または暗灰色土を主体とする。2層は明黄褐色土塊を多量に含み、人為堆積の可能性が高い。

遺物と出土状態 土師器72点、須恵器8点、陶磁器1点、古代瓦7点、木製品1点が出土し、このうち9点を図示した。すべて埋没土中から出土した。土師器および須恵器は3号住居の遺物が入り込んだと考えられる。7は常

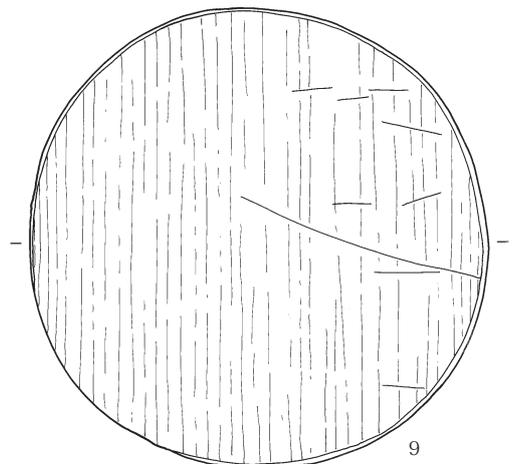
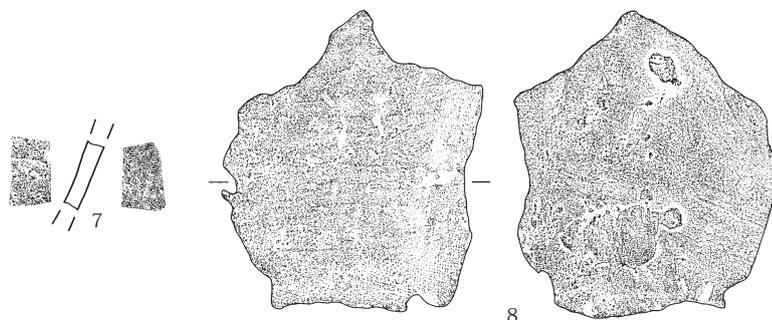
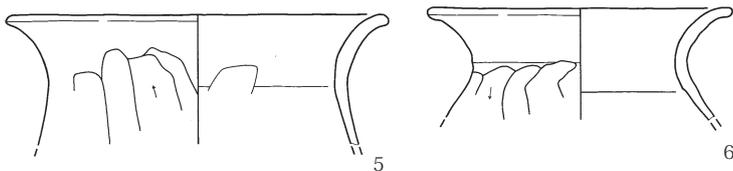
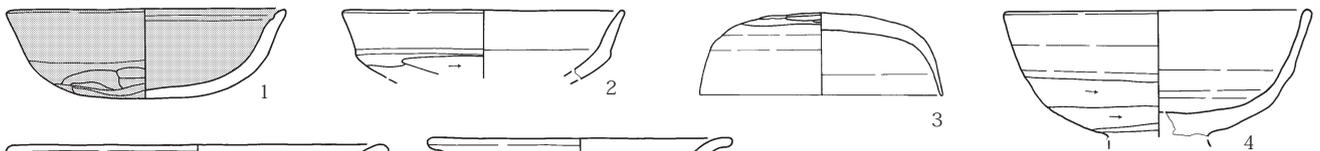


第66図 関7区1号井戸出土遺物



- 2号井戸A-A'
- 1 灰黄色土 砂質土、明黄褐色土粒(0.2~0.5cm大)を含む
 - 2 灰黄色土 砂質土、明黄褐色土塊(3~5cm大)を多く含む
 - 3 暗灰色土 砂質土
 - 4 暗灰色土 明黄褐色土の小粒・小礫を含む

0 1:60 2m



0 1:4 10cm (5~8)

0 1:3 10cm (1~4・9)

第67図 関7区2号井戸と出土遺物

滑の壺または甕で、中世のものである。

所見 遺構の重複関係および出土遺物から、時期は中世以降と考えている。

7区3号井戸(第68図)

位置 7区南西部西壁際

X=38,573 ~ 38,575 Y=-56,153 ~ -56,155

長軸方向 N-85°-E

重複 3号住居と重複し、遺構検出時と土層断面の観察から、3号住居より新しい。

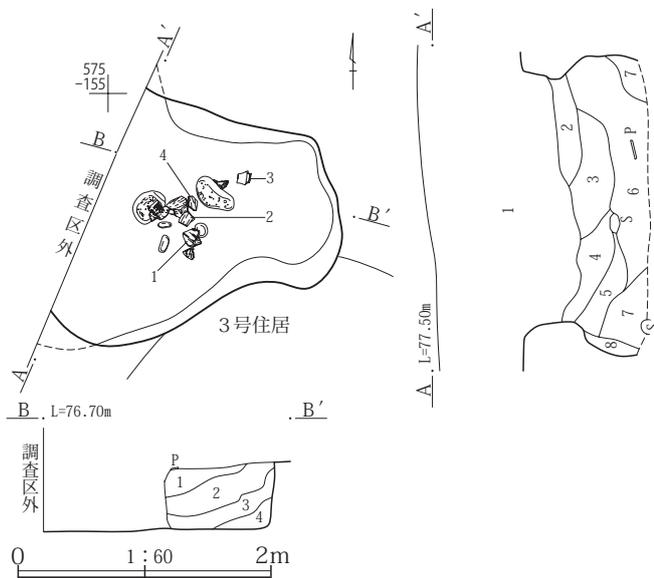
形状と規模 西側は調査区外である。平面形は不定形で、長径は2.0m、短径1.92mである。東側に長方形の張り出しが認められた。調査中豪雨のために、調査区境の西

壁が崩壊し危険なため、遺構検出面から約1mの深さまでで調査を中止した。

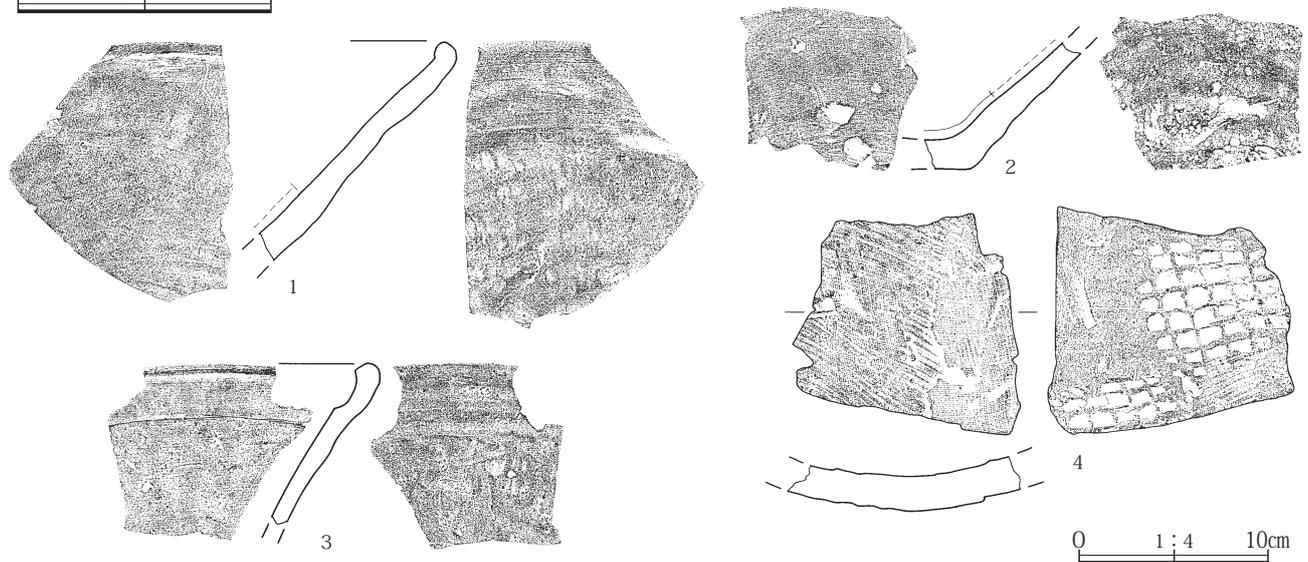
埋没土 灰黄色土および暗灰黄色土を主体とする。張り出し部の4層(B-B')は黒色灰と焼土の層である。

遺物と出土状態 土師器12点、須恵器3点、陶磁器3点、古代瓦2点が出土し、このうち4点を図示した。すべて埋没土上部から出土した。土師器および須恵器は3号住居の遺物が入り込んだと考えられる。陶磁器はすべて中世のものである。

所見 東側の張り出し部では、遺構検出面から約50cm下位に灰と焼土の層が検出され、この張り出しが本遺構に伴うものかは不明である。遺構の重複関係と出土遺物から、時期は中世以降と考えている。



- 3号井戸A-A'
- 1 にぶい黄橙色土 畑耕土質、やや砂質土、均質土
 - 2 灰黄色土 黒褐色土を僅かに含む
 - 3 灰黄色土 やや砂質土、均質土
 - 4 灰黄色土 黒褐色土塊(3~5cm)を含む
 - 5 暗灰黄色土 黒褐色土を多量に含む
 - 6 暗灰黄色土 黒褐色土を少量含む
 - 7 暗灰黄色土 黒褐色土を5層よりも多量に含む
 - 8 黒褐色土 粘質土
- 3号井戸B-B'
- 1 灰黄色土 砂質土、均質土
 - 2 灰黄色土 淡黄色土塊(1cm大)を含む
 - 3 灰黄色土 焼土が点在
 - 4 黒色灰土 焼土が斜めに堆積



第68図 関7区3号井戸と出土遺物

7区4号井戸(第69・70図 PL.20・120・121)

位置 7区中央部

X=38,578~38,581 Y=-56,146~-56,149

長軸方向 N-33°-E

重複 19号・30号土坑と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、本井戸は30号土坑より新しく、19号土坑より古い。

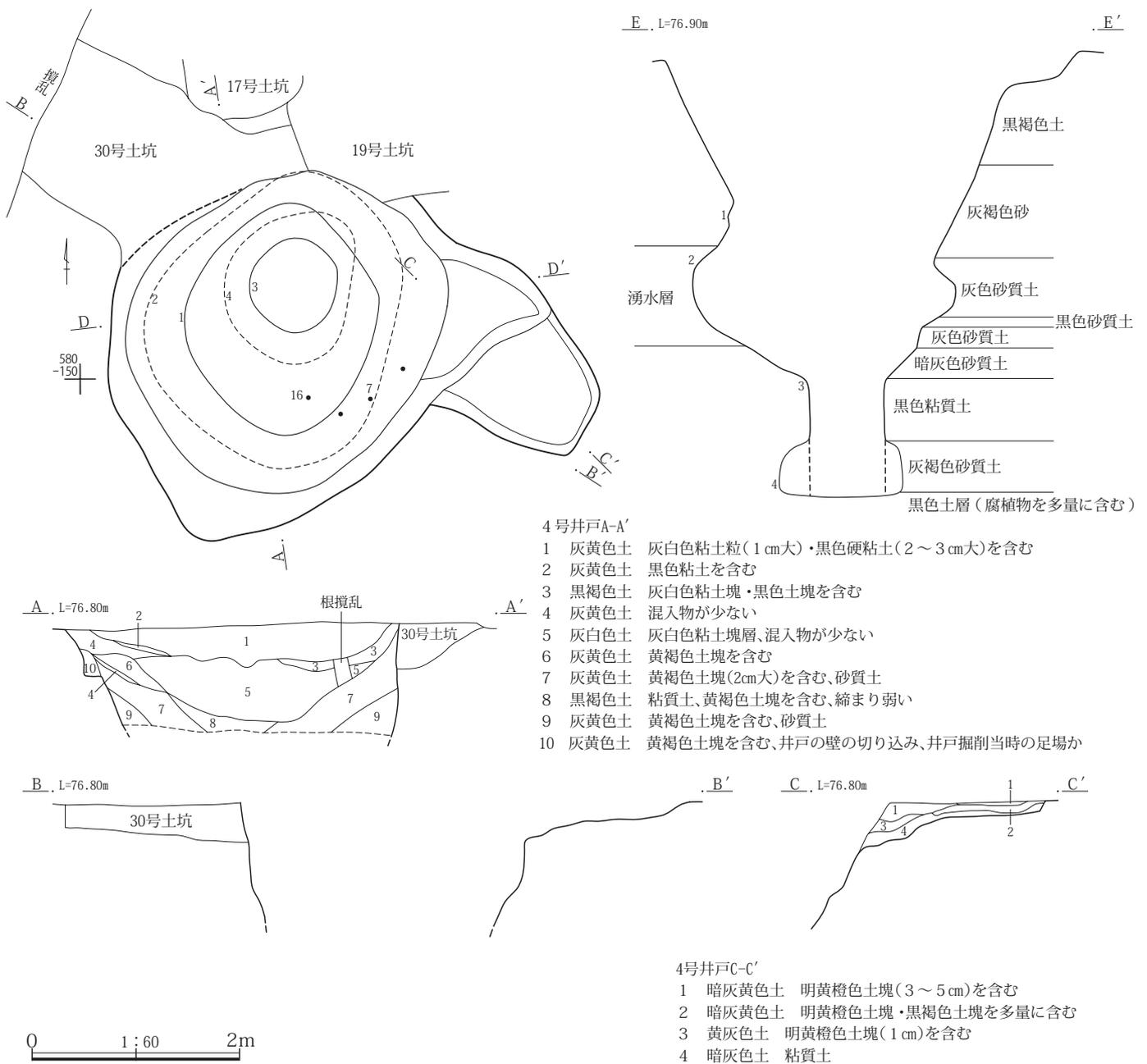
形状と規模 平面形は不定形で、長径は3.7m、短径3.0mである。南東側に伸びる張り出しは本井戸に伴うかどうか判断する資料がなく不明である。業者に委託して掘削を行ったが、遺構検出面から約4.25mの深さまで掘り下げた時点で、中間の側壁が著しくオーバーハングの状態となり崩落の危険が

あったため、最下部までの調査を中止した。湧水層は2か所確認でき、灰褐色砂層および灰褐色砂質土層である。湧水量は現在も豊富で、調査中もポンプを使用し常時排水を行った。

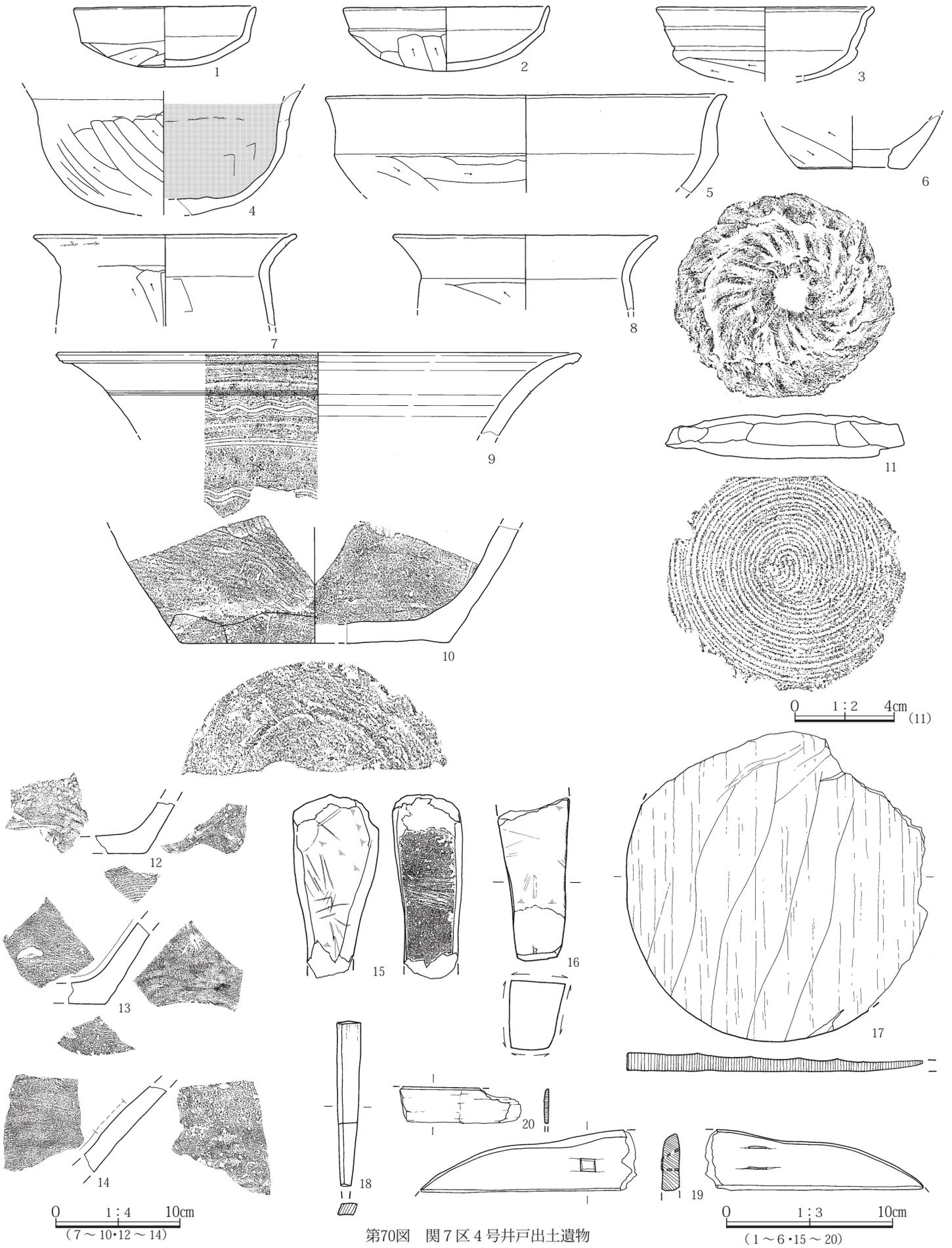
埋没土 灰黄色土を主体とする。5層は灰白色粘土塊層で、周囲に同様の土層の堆積が認められないことから、人為堆積である。

遺物と出土状態 土師器166点、須恵器17点、陶磁器3点、古代瓦2点、石製品3点、木製品4点が出土し、このうち20点を図示した。すべて埋没土中から出土した。陶磁器はすべて中世である。

所見 出土遺物から、時期は中世以降と考えている。



第69図 関7区4号井戸



第70図 関7区4号井戸出土遺物

7区5号井戸(第71～74図 PL.20・121)

位置 7区北部

X=38,611・38,612 Y=-56,131・-56,132

長軸方向 N-70°-W

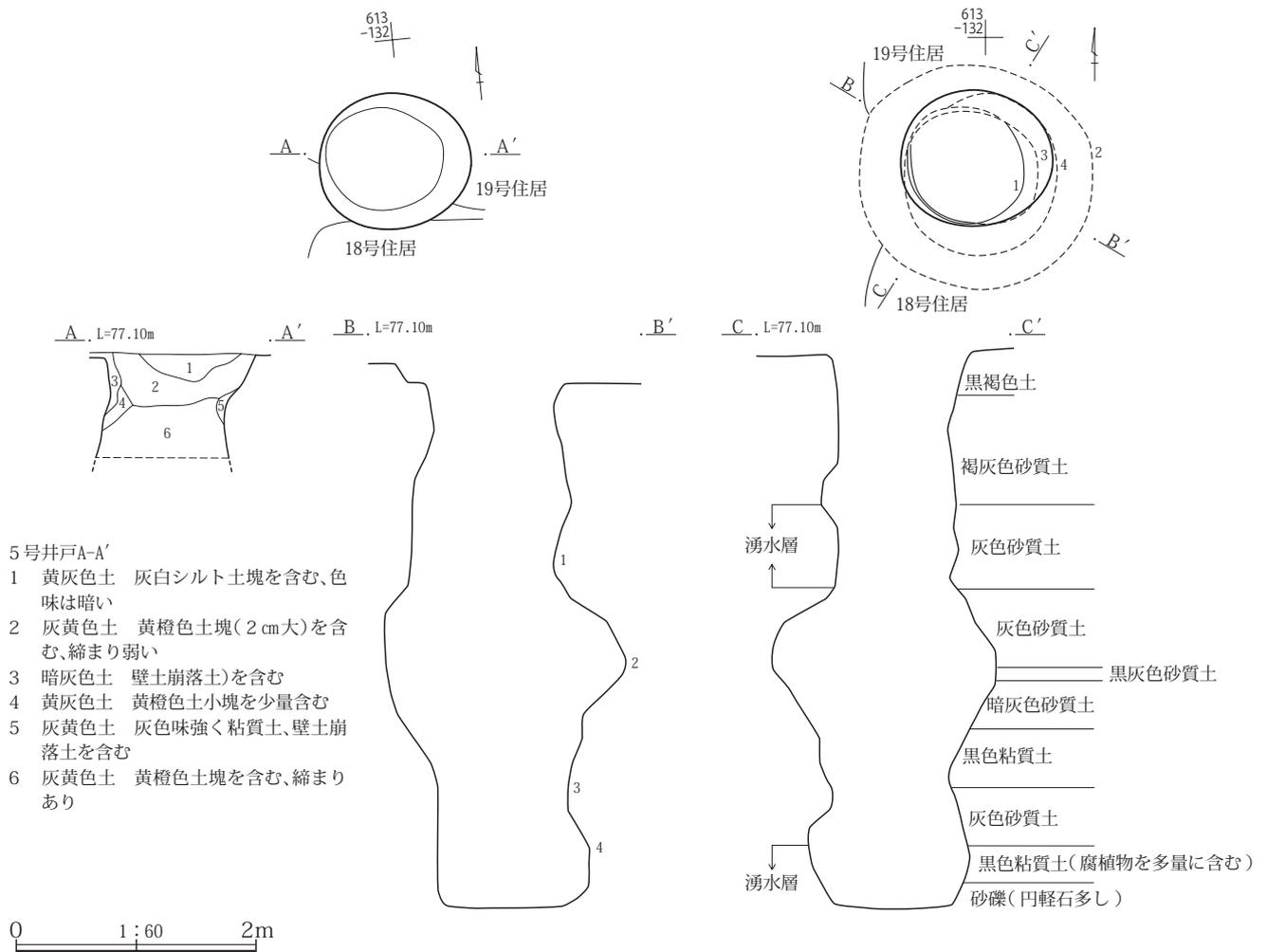
重複 18号・19号住居と重複し、土層断面の観察から、いずれの住居よりも本井戸が新しい。

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径は1.27m、短径1.14mである。掘削業者に委託し掘り下げを行った。遺構検出面からの深さは4.6mである。湧水層は2か所確認でき、上層の灰色砂質土層と下層の黒色粘質土層および砂礫層である。湧水量は非常に豊富で、調査中もポンプを使用し常時排水を行った。

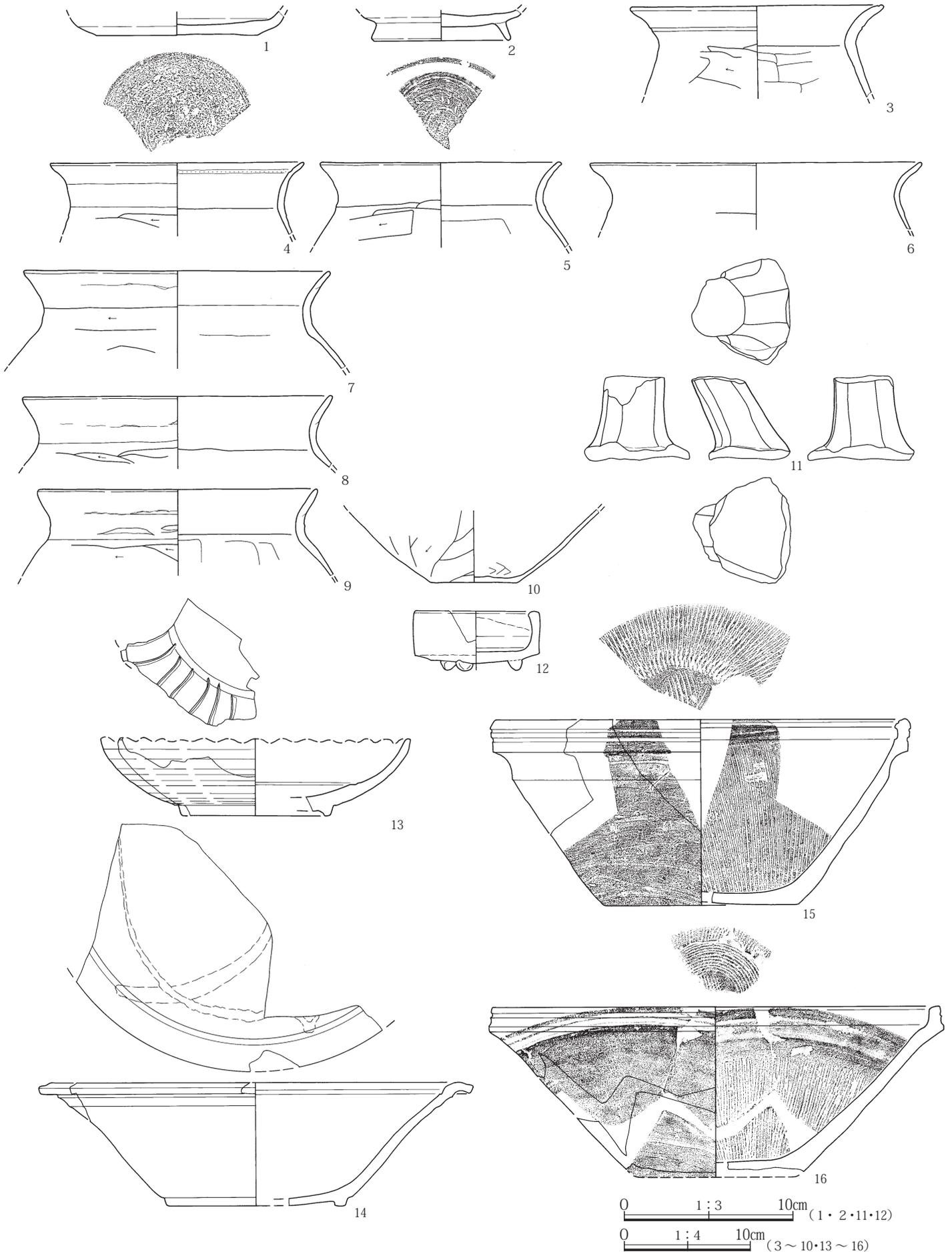
埋没土 土層の記録は上部のみで、それより下の記録は困難であった。黄灰色土および灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

遺物と出土状態 土師器122点、須恵器12点、陶磁器9点、

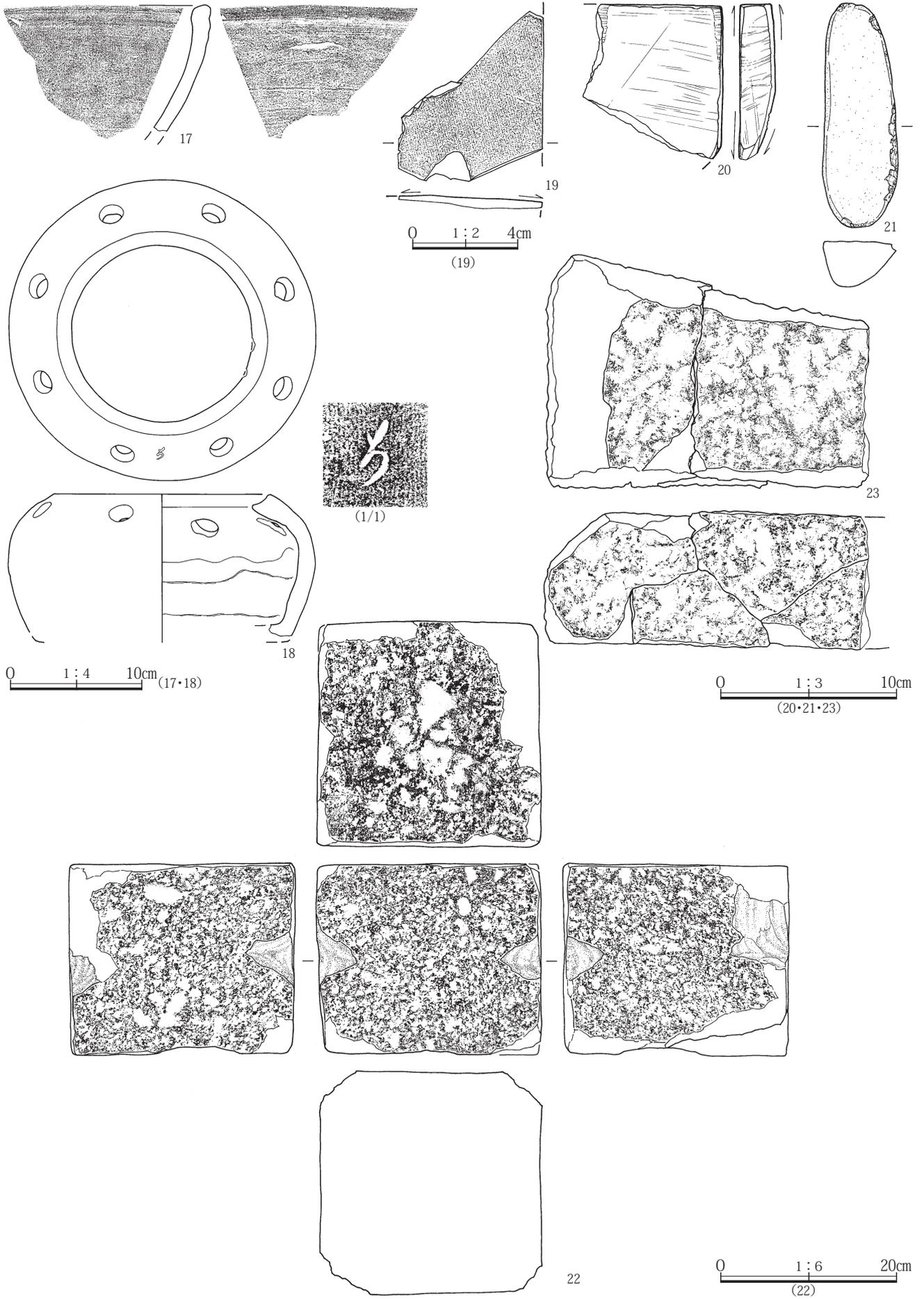
古代瓦2点、鉄製品1点、石製品6点、木製品40点が出土し、このうち29点を図示した。すべて埋没土中から出土した。土師器・須恵器は18号・19号住居のものが入り込んだと考えられる。肥前陶器(第64図-1)は14号溝と5号井戸から出土した破片が接合した。陶磁器はすべて近世のものである。26～28は用途不明の竹製品で、37点がまとまって出土した。これらは規格性が高く、形状も類似しているため、3点を図示し、それ以外は第7表の計測表で補った。長さは4.9～5.6cm、幅は1.6～2.1cm、厚さは0.6～0.9cmである。直径0.5～0.6cmの孔が2か所穿孔されている。穿孔部以外のすべての辺に面取りが施されている。28では節の部分素材として使用している。27では孔の位置がずれたので初期の段階で穿孔し直しているのが観察できる。最初の孔の中央には錐の痕跡が確認でき、鼠歯錐のような加工工具であったと推定される。穿孔部の内側に摩耗は認められなかった。2つの孔



第71図 関7区5号井戸

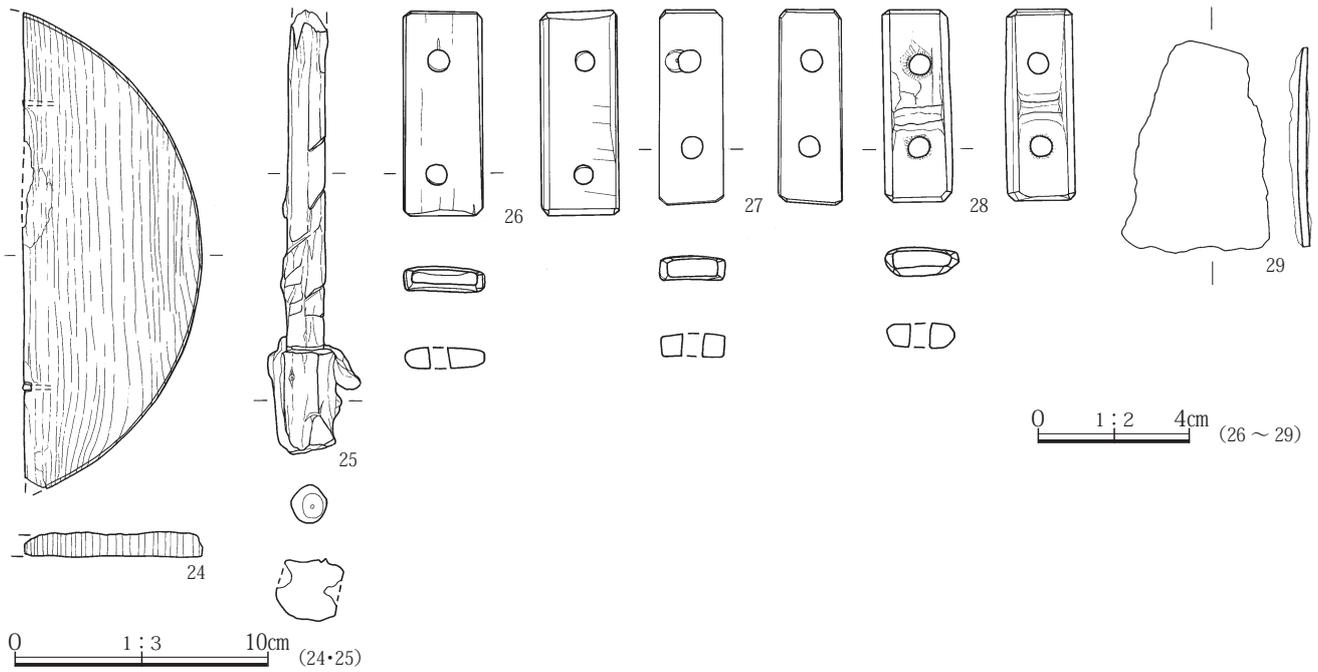


第72図 関7区5号井戸出土遺物(1)



第73図 関7区5号井戸出土遺物(2)

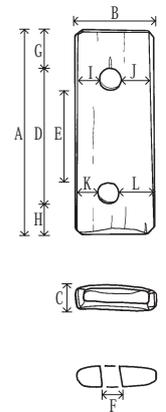
第3章 関遺跡の調査



第74図 関7区5号井戸出土遺物(3)

第7表 5号井戸出土竹製品計測表

番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	挿図番号
1	5.5	2.1	0.7	3.6	2.5	0.5	1.0	0.9	0.6	0.9	0.6	1.0	第74図26
2	5.2	1.7	0.7	2.9	1.7	0.5	1.1	1.2	0.5	0.6	0.6	0.6	第74図27
3	5.1	1.8	0.8	2.8	1.6	0.6	1.2	1.1	0.7	0.5	0.6	0.6	第74図28
4	5.6	2.0	0.6	3.7	2.5	0.5	1.0	0.8	0.5	0.8	0.6	0.8	
5	5.6	1.7	0.6	3.4	2.2	0.5	1.1	1.1	0.7	0.4	0.7	0.3	
6	5.6	1.7	0.7	3.6	2.4	0.5	1.0	0.9	0.5	0.6	0.5	0.7	
7	5.5	1.9	0.6	3.4	2.3	0.6	1.0	0.9	0.6	0.7	0.6	0.6	
8	5.5	1.7	0.7	3.8	2.6	0.6	0.9	0.8	0.6	0.6	0.6	0.5	
9	5.4	2.1	0.7	3.4	2.3	0.6	1.0	1.1	0.6	0.9	0.7	0.8	
10	5.5	1.8	0.7	3.8	2.7	0.6	1.0	0.7	0.7	0.6	0.7	0.5	
11	5.5	1.9	0.6	3.8	2.6	0.6	1.0	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	
12	5.4	1.7	0.6	3.7	2.6	0.6	0.9	0.9	0.8	0.5	0.7	0.4	
13	5.4	2.1	0.6	3.8	2.6	0.6	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	
14	5.4	2.0	0.7	3.8	2.2	0.6	1.2	0.9	0.7	0.8	0.7	0.8	
15	5.4	1.6	0.6	2.9	1.8	0.6	1.5	1.0	0.5	0.5	0.5	0.6	
16	5.2	1.7	0.7	2.8	1.7	0.6	1.3	1.1	0.6	0.6	0.6	0.6	
17	5.1	1.7	0.6	2.7	1.5	0.6	1.3	1.1	0.7	0.4	0.5	0.6	
18	5.1	1.7	0.7	2.7	1.6	0.6	1.3	1.2	0.5	0.6	0.6	0.5	
19	5.2	1.7	0.7	2.8	1.6	0.6	1.2	1.2	0.6	0.5	0.5	0.6	
20	5.1	1.8	0.7	2.8	1.6	0.6	1.2	1.2	0.7	0.7	0.7	0.7	
21	5.1	1.7	0.7	2.7	1.6	0.6	1.2	1.2	0.5	0.6	0.6	0.6	
22	5.1	1.6	0.6	2.7	1.5	0.6	1.3	1.2	0.5	0.5	0.5	0.5	
23	5.0	1.7	0.7	2.7	1.6	0.6	1.2	1.1	0.6	0.5	0.5	0.6	
24	5.1	1.7	0.7	2.5	1.4	0.6	1.3	1.4	0.6	0.5	0.5	0.6	
25	5.1	1.7	0.7	2.7	1.6	0.6	1.2	1.2	0.5	0.6	0.6	0.5	
26	5.1	1.7	0.6	3.3	2.2	0.6	0.8	0.9	0.6	0.5	0.6	0.5	
27	5.0	1.7	0.7	3.4	2.3	0.6	0.8	0.8	0.5	0.6	0.5	0.6	
28	5.1	1.7	0.7	2.7	1.6	0.6	1.2	1.3	0.6	0.7	0.6	0.5	
29	4.9	1.7	0.7	2.7	1.5	0.6	1.0	1.2	0.5	0.6	0.6	0.6	
30	5.0	1.7	0.6	2.8	1.7	0.6	1.0	1.1	0.5	0.6	0.7	0.4	
31	5.0	1.7	0.6	2.7	1.6	0.6	1.2	1.1	0.5	0.6	0.5	0.6	
32	5.1	1.7	0.6	2.8	1.7	0.6	1.0	1.3	0.5	0.6	0.6	0.6	
33	5.0	1.7	0.8	2.8	1.7	0.6	1.2	1.0	0.5	0.6	0.6	0.5	
34	5.0	1.9	0.7	2.8	1.6	0.6	1.1	1.1	0.6	0.7	0.7	0.6	
35	4.9	1.7	0.7	2.8	1.7	0.6	1.0	1.1	0.6	0.6	0.6	0.5	
36	4.9	1.7	0.7	2.7	1.5	0.6	1.2	1.0	0.5	0.6	0.5	0.6	
37	4.9	1.9	0.9	2.8	1.7	0.6	1.1	1.1	0.7	0.7	0.7	0.7	



A : 長さ
 B : 巾
 C : 厚さ
 D : 外孔間
 E : 内孔間
 F : 孔径
 G : 孔上
 H : 孔下
 I : 孔上左
 J : 孔上右
 K : 孔下左
 L : 孔下右
 単位はcm

間の内径(E)は1.4~2.7cmと幅があり一定ではない。そのため、孔には棒のような硬いものではなく、紐のような柔らかいものを通したものと推定される。竹製品の時期は不明である。

所見 出土遺物から、時期は中世以降と考えているが、詳細は不明である。

7区6号井戸(第75図 PL.20)

位置 7区南東部

X=38,569~38,571 Y=-56,144~-56,146

長軸方向 N-7°-E

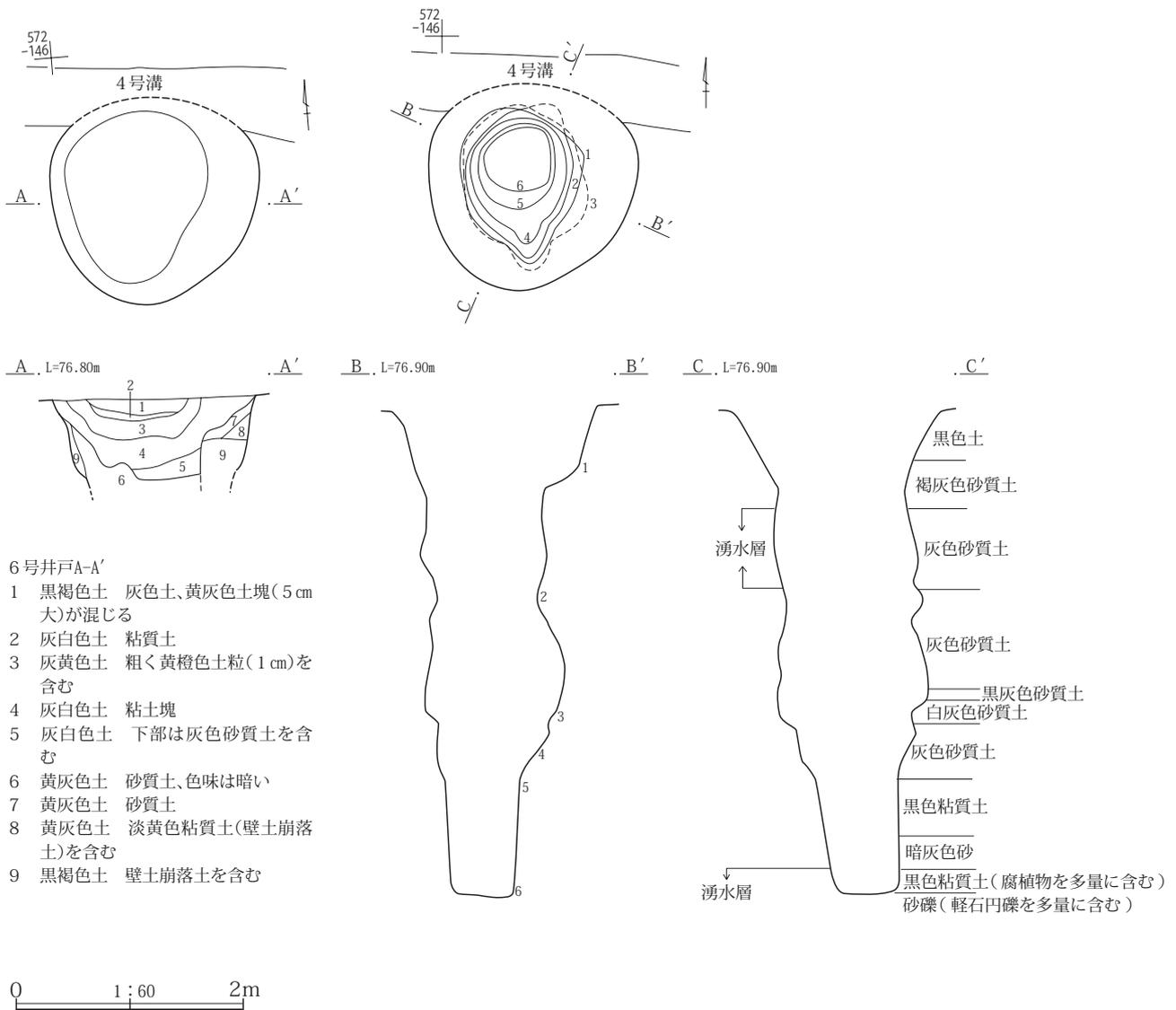
重複 4号溝と重複し、遺構検出時の観察から、本井戸の方が古い。

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径は1.85m、短径1.83mである。遺構検出面から底面までの深さは4.35mである。委託業者の掘削により完掘した。湧水層は2か所確認でき、上層の灰色砂質土層と下層の黒色粘質土層および砂礫層である。湧水量は現在も豊富で、調査中もポンプを使用し常時排水を行った。

埋没土 土層の記録は遺構検出面より80cm下位までで、それより下の記録は困難であった。1~5層は灰色土および黄灰色土、黄橙色土の土塊を多く含み、人為堆積と考えられる。6~9層は黄灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示している。

遺物と出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 時期は、中世以降と考えられる4号溝より古い。



第75図 関7区6号井戸

6. 墓坑

墓坑は3基検出された。いずれも人骨が埋葬されていたために墓坑と確認できた。遺構検出面はVb層上面であるが、土層断面の観察から、墓坑の掘り込み面はIV層である。3基の墓坑は7区南側に点在し、1号・3号墓坑は南西部の低地に向かって傾斜する緩斜面上に、2号墓坑は南西部低地に向かって傾斜を始める地点に位置する。人骨については自然科学分析を行い、その成果は第6章第3節に掲載した。

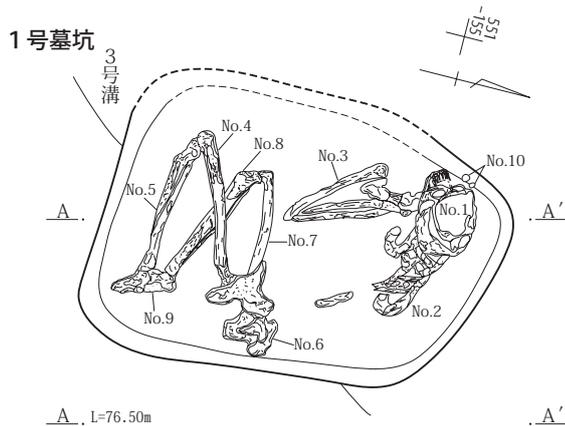
7区1号墓坑(第76図 PL.21)

位置 7区南東部

X=38,550・38,551 Y=-56,154

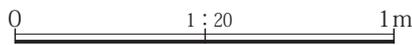
長軸方向 N-0°-S

重複 3号溝と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、本墓坑が新しい。



1号墓坑A-A'

1 灰黄色土 やや砂質土、黄橙色砂質土を塊状に含む、一括埋没



形状と規模 平面形は隅丸長方形で、長径は1.05m、短径0.76mである。遺構検出面から底面までの深さは0.14mである。埋葬された人骨の遺存状況は良好で、頭骨から足骨まで1体分が揃っている。頭位方向は北で、顔を西に向け脚を折り曲げた状態で検出された。検出状況から横臥屈葬と考えている。

埋没土 黄橙色砂質土塊を含む灰黄色土で、人為堆積である。

遺物と出土状態 副葬品はなかった。

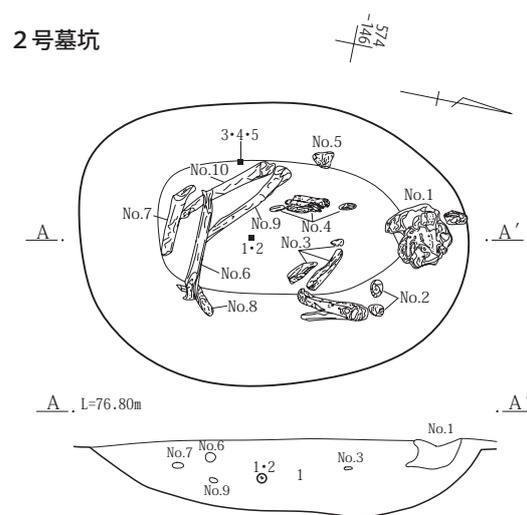
所見 出土遺物はなかったものの、2号・3号墓坑と形状や規模、埋没土が類似していることから、時期は両墓坑と同時期の中世と考えている。

7区2号墓坑(第76図 PL.21・122)

位置 7区中央部南寄り

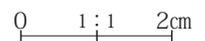
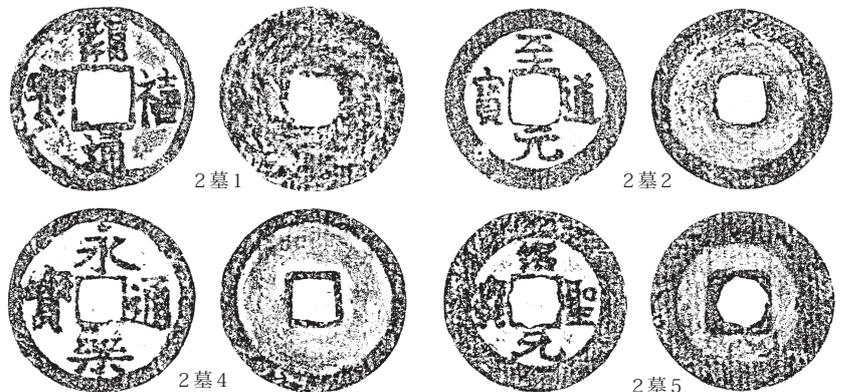
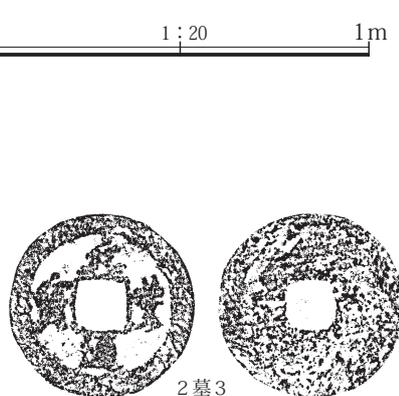
X=38,573・38,574 Y=-56,145

1号墓坑から北東に約25mの地点で検出された。



2号墓坑A-A'

1 灰黄色土 やや砂質土、黒褐色土塊を僅かに含む



第76図 関7区1号・2号墓坑と2号墓坑出土遺物

長軸方向 N-12°-W

重複 なし

形状と規模 平面形は楕円形で、長径は1.02m、短径0.76mである。遺構検出面から底面までの深さは0.2mである。頭蓋骨や上腕骨、大腿骨、頸骨など大型の部位を中心に1体分遺存していた。頭位方向は北で、脚を折り曲げた状態で検出された。検出状況から横臥屈葬と考えている。

埋没土 黒褐色土塊を含む灰黄色土で、人為堆積である。

遺物と出土状態 土師器1点、銅銭が5点副葬されていた。土師器は細片のため図示しなかった。墓坑中央部で、人骨の胴体があったと推定される付近で、底面から7cm上位で2墓2の至道元寶(北宋 初鑄年995年)と2墓1の開禧通寶(南宋 初鑄年1205年)が出土した。また、西側の右脛骨付近、底面上1cmから2墓5の紹聖元寶(北宋 初鑄年1094年)、2墓3の元豊通寶(北宋 初鑄年1078年)、2墓4の永樂通寶(明 初鑄年1408年)の3点が出土している。紹聖元寶(2墓5)は孔の周りを星形に加工している。元豊通寶(2墓3)と推定される銅銭は表面の摩滅が著しく、文字が不鮮明であった。

所見 出土遺物から、時期は中世と考えている。

1号墓坑から北東方向に約8mの位置で検出された。

長軸方向 N-21°-W

重複 なし

形状と規模 東側の一部は調査区外である。平面形は長方形で、長径は1.25m、短径0.74mである。遺構検出面から底面までの深さは0.27mである。頭蓋骨や上腕骨、大腿骨、頸骨など大型の部位を中心に1体分検出された。頭位方向はやや西に傾き、N-27°-Wである。顔が西に向き、脚を折り曲げた状態で検出された。検出状況から横臥屈葬と考えている。

埋没土 V層由来の黒褐色土塊を含む灰黄褐色土を主体とする。

遺物と出土状態 土師器5点、銅銭が2点出土した。土師器は細片のため図示しなかった。2点の銅銭は墓坑のほぼ中央部、人骨の胴体があったと推定される位置で出土している。1の熙寧元寶(北宋 初鑄年1068年)は底面より11cm上位で、2の元祐通寶(北宋 初鑄年1086年)は底面より2cm上位で出土した。

所見 出土遺物から、時期は中世と考えている。

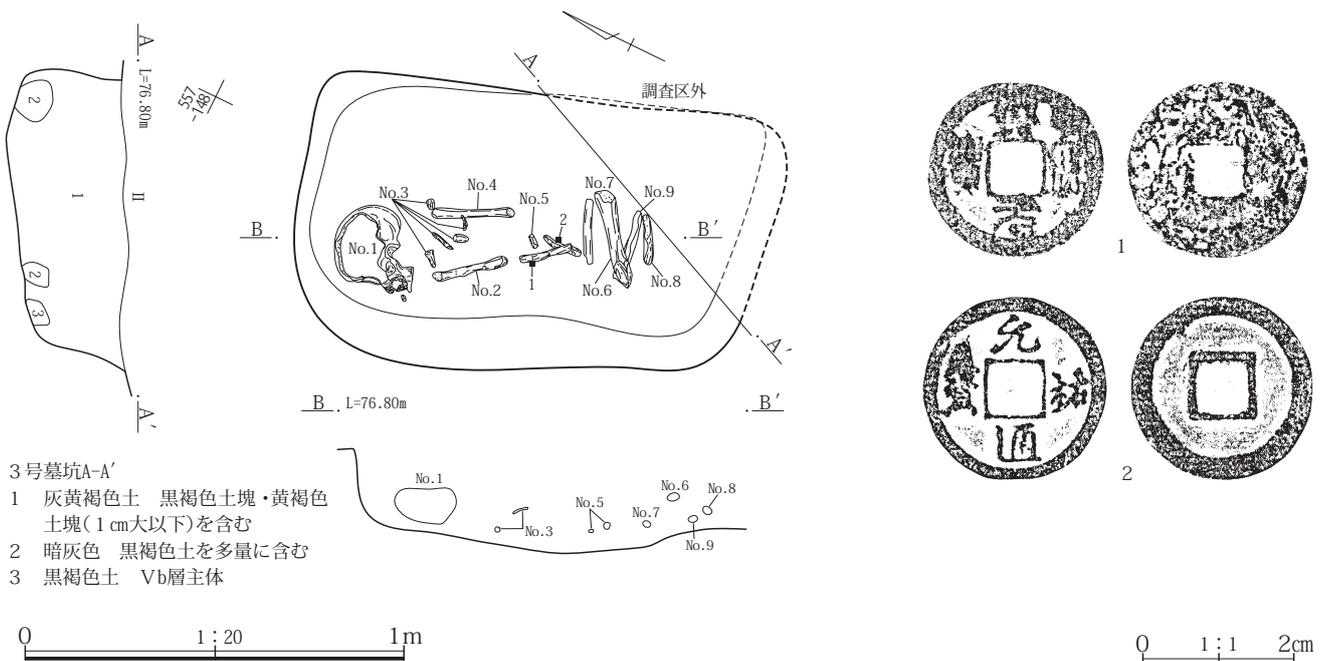
7. 土坑

土坑は30基検出された。これらは7区南西部で、比較的標高が低い地点(標高76.8m~76.5m)に集中している。遺構確認面はIV層あるいはV層である。大部分はV

7区3号墓坑(第77図 PL.21・122)

位置 7区南東部東壁際

X=38,555・38,556 Y=-56,147・-56,148



- 3号墓坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 黒褐色土塊・黄褐色土塊(1cm大以下)を含む
 - 2 暗灰色 黒褐色土を多量に含む
 - 3 黒褐色土 Vb層主体

第77図 関7区3号墓坑と出土遺物

層上面で検出された。これらの土坑は平面形や断面形、埋没土などから、以下の6種類に分類することができた。

- ①袋状の土坑 1基
- ②細長い土坑 2基
- ③隅丸長方形の土坑 15基
- ④円形の土坑 4基
- ⑤楕円形の土坑 3基
- ⑥不定形の土坑(その他の土坑) 5基

それぞれの土坑の位置や規模、重複、時期、出土遺物については322・330ページに示した。以下、6つの分類ごとに土坑を概観する。

①袋状の土坑(第78図 PL.22)

5号土坑がこれに当たる。Vb層上面で遺構を確認した。平面形は隅丸長方形で、断面形は袋状を呈する。底面はほぼ平坦である。埋没土は浅黄色土およびぶい黄色土を主体とする。形状や規模は縄文時代の貯蔵穴に似るが、5号土坑から縄文土器は出土していない。埋没土中から、土師器7点が出土した。時期は形状などから縄文時代の可能性があるが不明である。

②細長い土坑(第78図 PL.22・122)

7号・9号土坑がこれに含まれる。2基の土坑は長軸方向がほぼ南北を向き、並列して検出された。平面形は細長い長方形で、長径が短径の3倍以上である。断面形は7号土坑では箱状を呈するが、9号土坑では上部が削平され底面付近の検出のため不明である。埋没土とともに黒褐色土塊を含む灰黄色土またはぶい黄色土である。7号土坑では、埋没土中から、土師器15点、陶磁器2点、鍛冶滓1点が出土した。土器は細片のため図示しなかった。鍛冶滓を写真掲載した(PL.122-7土1)。9号土坑から遺物は出土しなかった。埋没土の特徴から、2つの土坑の時期は中世以降と考えられるが、詳細は不明である。性格についても不明である。

③隅丸長方形の土坑(第78～80図 PL.22～24・122)

3号・6号・8号・10号・11号・12号・13号・15号・16号・17号・19号・21号・22号・24号・28号土坑がこれに含まれる。10号および22号土坑は遺構の一部が調査区外で、21号土坑は東側を3号土坑に切られているものの、検出

した部分から推定し当該土坑に分類した。平面形は隅丸長方形で、断面形は箱形を呈する。底面は15号・24号土坑で凹凸を持ち平坦ではないが、それ以外の土坑は平坦である。これらの土坑は16号土坑を除き、長軸方向が南北または東西となっており、規則性が認められる。埋没土は灰黄色土および灰黄褐色土を主体とし、12号・21号土坑以外の土坑では自然堆積の状況を示している。12号・21号土坑は埋没土の堆積状況から、人為堆積の可能性がある。これらの土坑では、埋没土中から、土師器、須恵器が出土し、器形や時期がわかるものを図示した。そのほか、3号土坑では鉄滓が4点(うち3点を写真掲載、PL.122-3土9～11)出土している。これらの15基の土坑は形状や規模、長軸方向、埋没土の特徴などで共通性が高く、ほぼ同時期と考えている。時期は遺構の重複および埋没土の特徴から、中世以降と考えているが、詳細は不明である。性格についても不明である。

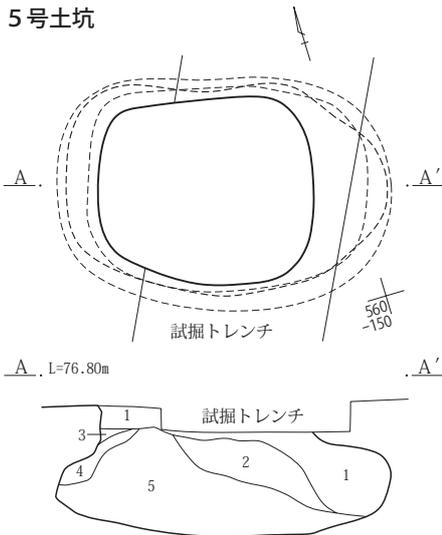
④円形の土坑(第78・80図 PL.22・24)

2号・4号・25号・29号土坑がこれに当たる。平面形はほぼ円形で、壁の立ち上がりは比較的急である。底面はほぼ平坦であるが、29号土坑ではピット状に一段低くなっている。埋没土は黄灰色土およびぶい黄褐色土を主体とする。埋没土中から、土師器および須恵器が出土した。いずれも細片のため、図示しなかった。遺構の重複および埋没土の特徴から、これらの土坑の時期は中世以降と考えているが、詳細は不明である。性格についても不明である。

⑤楕円形の土坑(第80・81図 PL.22・23)

1号・18号・20号土坑がこれに含まれる。1号・18号土坑は形状と規模で③と共通性があるものの、平面形が楕円形のため、当該土坑に分類した。平面形は長楕円形から楕円形である。壁の立ち上がりは18号土坑では垂直であるが、それ以外は緩やかである。底面はいずれの土坑も平坦である。埋没土は灰黄色土を主体とする。堆積状況から、20号土坑は自然堆積、1号・18号土坑は人為堆積と考えている。埋没土中から、土師器、須恵器が出土し、そのうち、器形や時期がわかるものを図示した。遺構の重複および埋没土の特徴から、時期は中世以降と考えているが、詳細は不明である。性格も不明である。

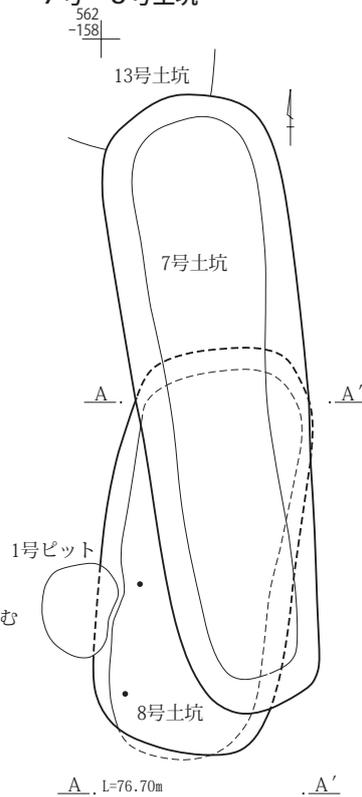
5号土坑



5号土坑A-A'

- 1 浅黄色土 やや砂質土、黒褐色粒を含む
- 2 浅黄色土 黒褐色粘質土粒(0.5~1cm)を多量に含む
- 3 黒褐色土 黒褐色土塊主体
- 4 にぶい黄橙色土 黒褐色土塊を少量含む
- 5 にぶい黄色土 明黄褐色土小塊を含む

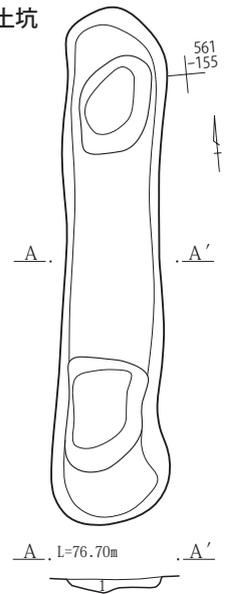
7号・8号土坑



7号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 黒褐色土塊・淡黄色土塊(0.5~1cm大)を含む
- 2 灰黄色土 黒褐色土塊(0.15~1cm)を含む
- 8号土坑A-A'
- 3 灰黄色土 粘質土、黒褐色土塊(0.5~1cm)を多量に含む、色味は暗い

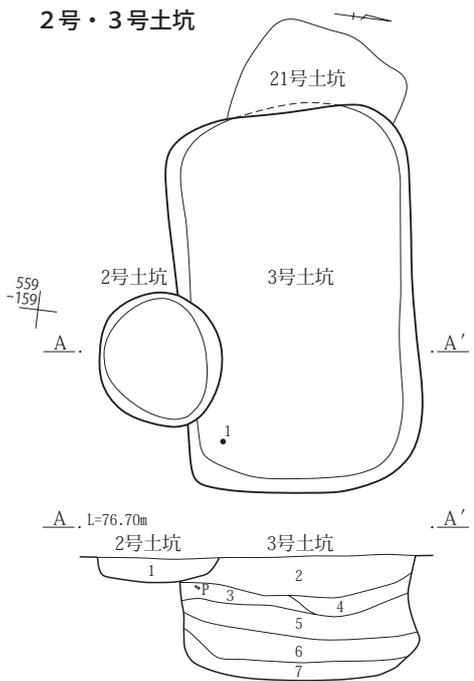
9号土坑



9号土坑A-A'

- 1 にぶい黄色土 黒褐色土塊を少量含む

2号・3号土坑



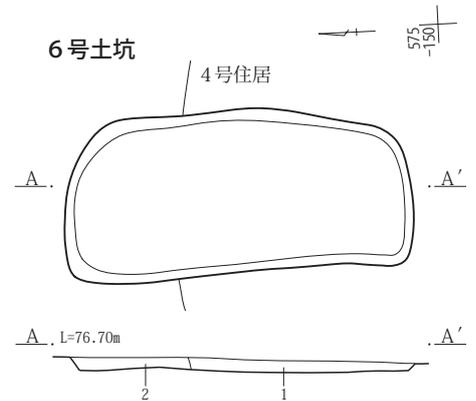
2号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 黒褐色土塊が斑状に多量に含む

3号土坑A-A'

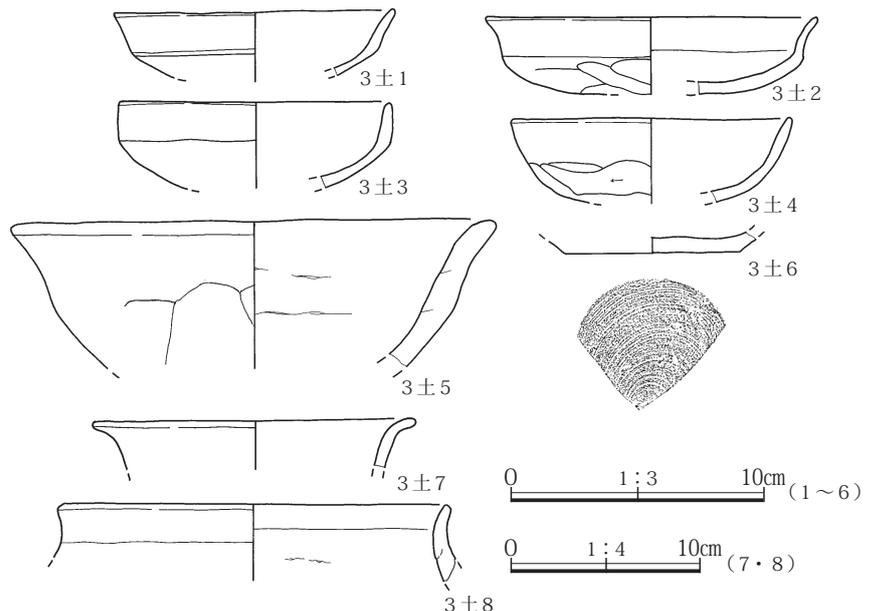
- 2 灰黄色土 黒褐色土塊(0.5~1cm)を含む
- 3 灰黄色土 黒褐色土塊(2~3cm)を含む
- 4 灰黄色土 黒褐色土塊を少量含む、均質
- 5 灰黄色土 黒褐色土塊を含まず
- 6 灰黄色土 黄橙色粒を含む
- 7 灰黄色土 やや砂質土、塊は含まない

6号土坑



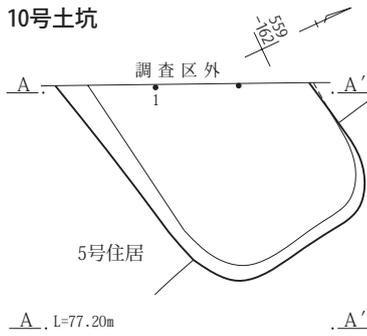
6号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 やや砂質土、均質土、夾雑物目立たず
- 2 灰黄褐色土 黒褐色土を含む



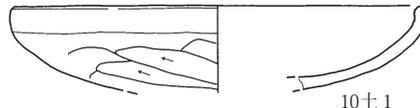
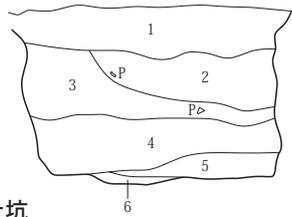
第78図 関7区2号・3号・5号~9号土坑と3号土坑出土遺物

10号土坑

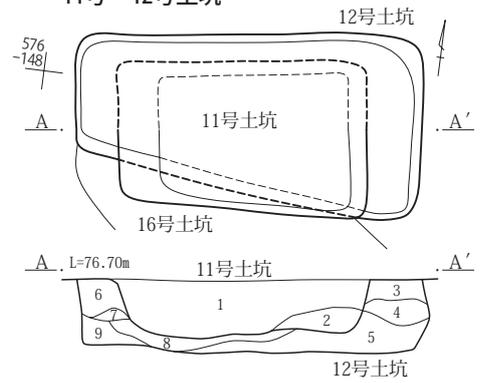


10号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 やや粘質、0.5cmの黄褐色土塊を含む
- 2 灰黄色土 焼土細粒・黒褐色土塊(1cm大)を含む
- 3 灰黄色土 やや粘質、黄褐色土塊・黒褐色土塊(2~3cm大)を含む、色味は暗い
- 4 灰黄色土 やや粘質、黄褐色土塊(0.5~1cm)・焼土細粒を含む、色味は暗い
- 5 黄灰色土 黄褐色土(0.5cm大)・焼土細粒を多量に含む、色味は暗い
- 6 黄灰色土 黒褐粘質土塊(1cm)を多量に含む。色味は暗い

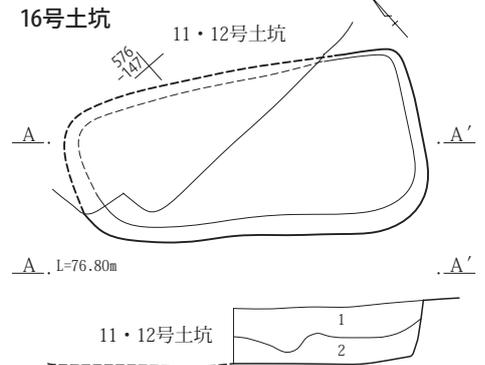


11号・12号土坑



11号土坑A-A'

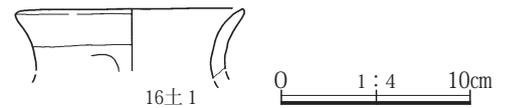
- 1 灰黄色土 均質土、やや粘質土
- 2 灰黄色土 褐色土塊(0.5~1cm)を含む
- 12号土坑A-A'
- 3 灰黄色土 1~2cm塊主体、粘質黒褐色土1~2cmを含む
- 4 灰黄褐色土 黒褐色土塊が混在
- 5 灰黄褐色土 粘質土
- 6 褐灰色土 粘質土
- 7 明黄褐色土 褐灰色土を少量含む
- 8 灰黄色土 粘質土、黒褐色土・明黄褐色土を含む、色味は暗い
- 9 褐灰色土 明黄褐色土塊を多量に含む



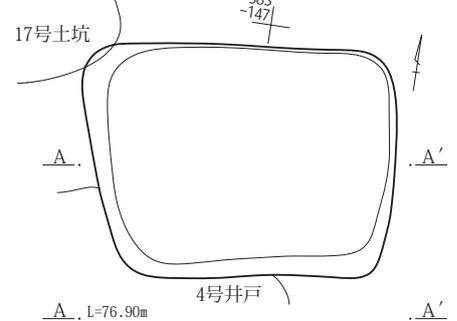
16号土坑

16号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 黒褐色土塊(1cm)・淡黄色土塊を多量に含む、粘質土
- 2 灰黄色土 淡黄色土塊(5cm)・灰黄色土塊を多量に含む、粘質土

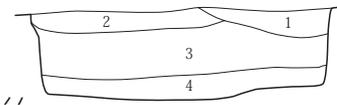


19号土坑

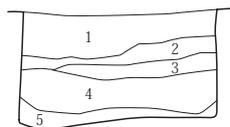
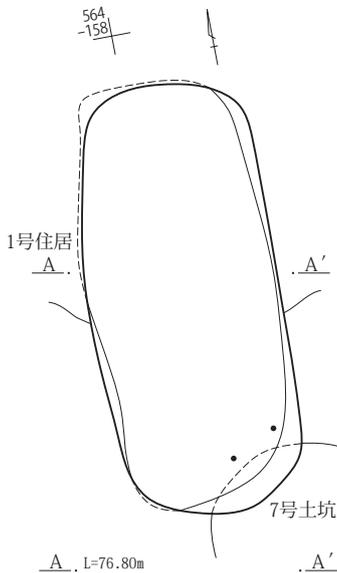


19号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 やや粘質土、均質土
- 2 灰黄色土 黒褐色土塊(1cm大)・灰白色土塊を多量に含む
- 3 灰黄色土 黒褐色土塊(1cm大)・灰白色土塊を少量含む
- 4 灰黄色土 粘質土、淡黄色粘土(壁土崩壊土)を多量に含む

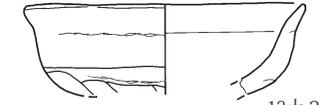
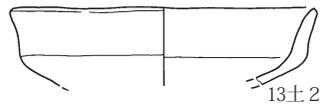
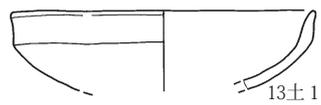


13号土坑

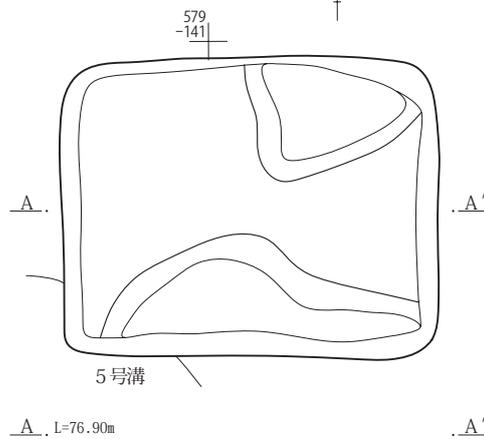


13号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 暗褐色土塊(1~2cm大)、焼土粒を含む、色味は暗い
- 2 灰黄色土 暗褐色土塊を含まない
- 3 灰黄色土 暗褐色土塊を含む
- 4 灰黄色土 2層と同質、色味が暗い
- 5 黒褐色土 粘質土、灰黄色土塊を含む



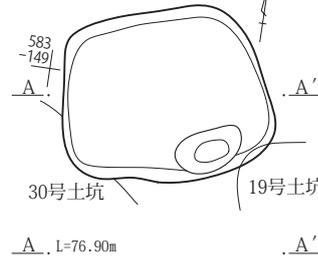
15号土坑



15号土坑A-A'

- 1 黄灰色土 黒褐色土塊(1~3cm)を多量に含む、色味は暗い
- 2 灰黄色土 黒褐色土塊(1cm大以下)を含む
- 3 灰黄色土 黒褐色土塊(1cm大以下)を含む、色味は暗い

17号土坑

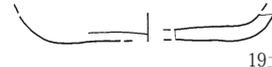
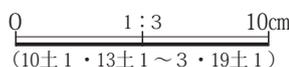


17号土坑A-A'

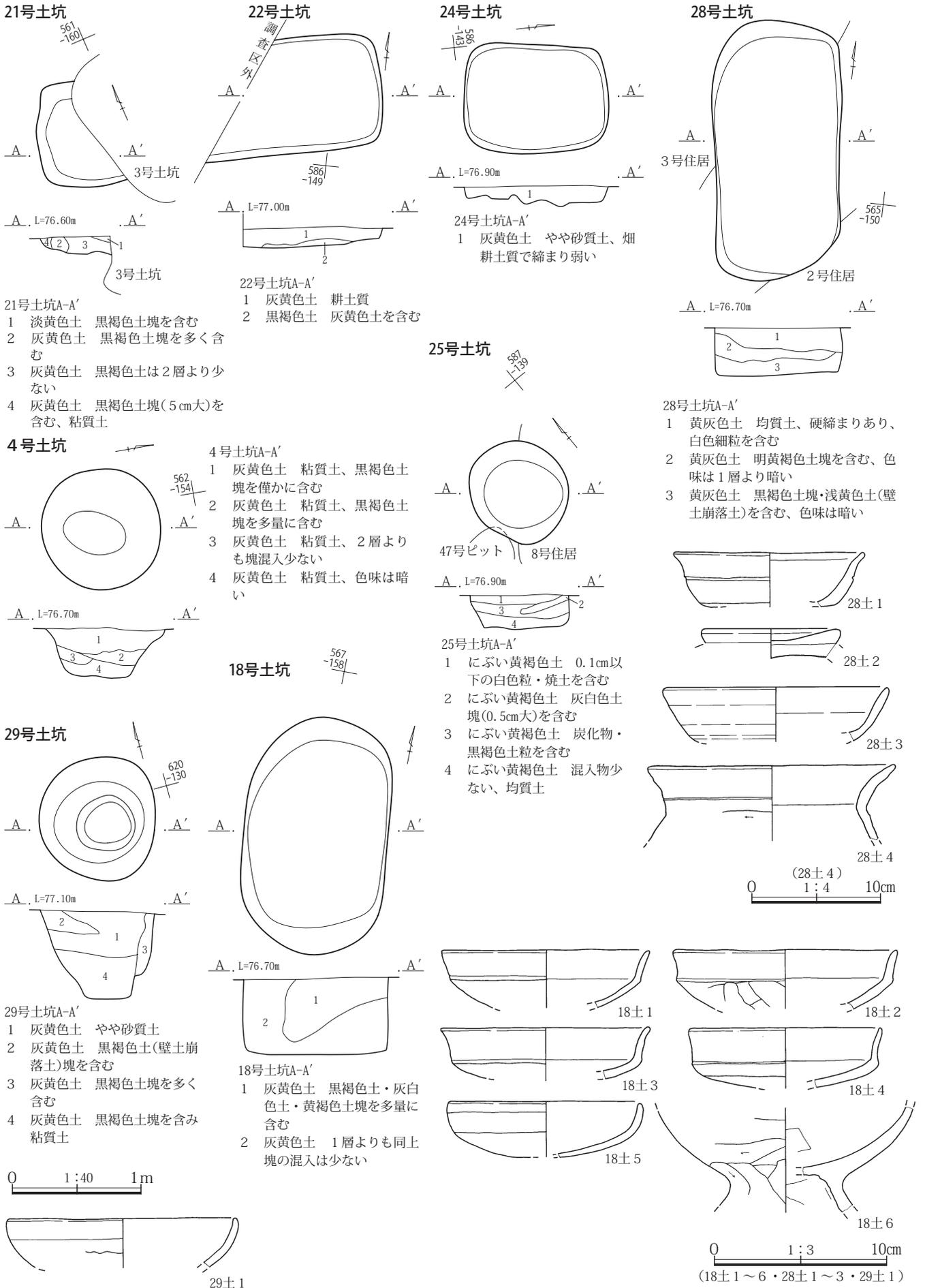
- 1 灰黄色土 黒褐色土塊(2cm)を含む

19号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 やや粘質土、均質土
- 2 灰黄色土 黒褐色土塊(1cm大)・灰白色土塊を多量に含む
- 3 灰黄色土 黒褐色土塊(1cm大)・灰白色土塊を少量含む
- 4 灰黄色土 粘質土、淡黄色粘土(壁土崩壊土)を多量に含む



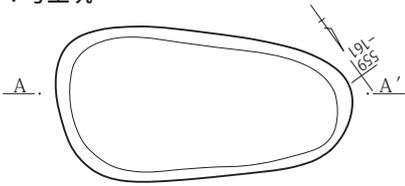
第79図 関7区10号~13号・15号~17号・19号土坑と10号・13号・16号・19号土坑出土遺物



第80図 関7区4号・18号・21号・22号・24号・25号・28号・29号土坑と18号・28号・29号土坑出土遺物

第3章 関遺跡の調査

1号土坑

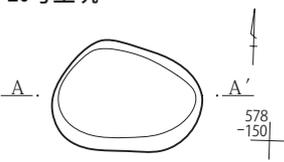


A . L=76.60m . A'

1号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 粘質土、黒褐色土塊(5cm大)を含む
- 2 灰黄色土 粘質土、明黄褐色土塊(1~2cm大)を多量に含む
- 3 灰黄色土 粘質土、明黄褐色土塊(1~2cm大)を少量含む

20号土坑

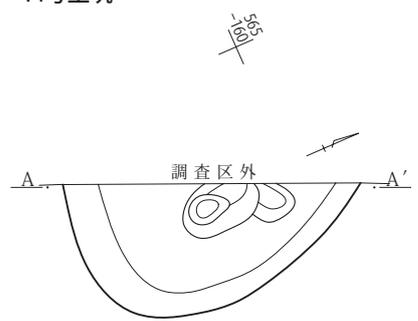


A . L=76.70m . A'

20号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 混入物目立たず、粗く締まっていない
- 2 灰黄色土 1層と同質だが、色味は暗い

14号土坑

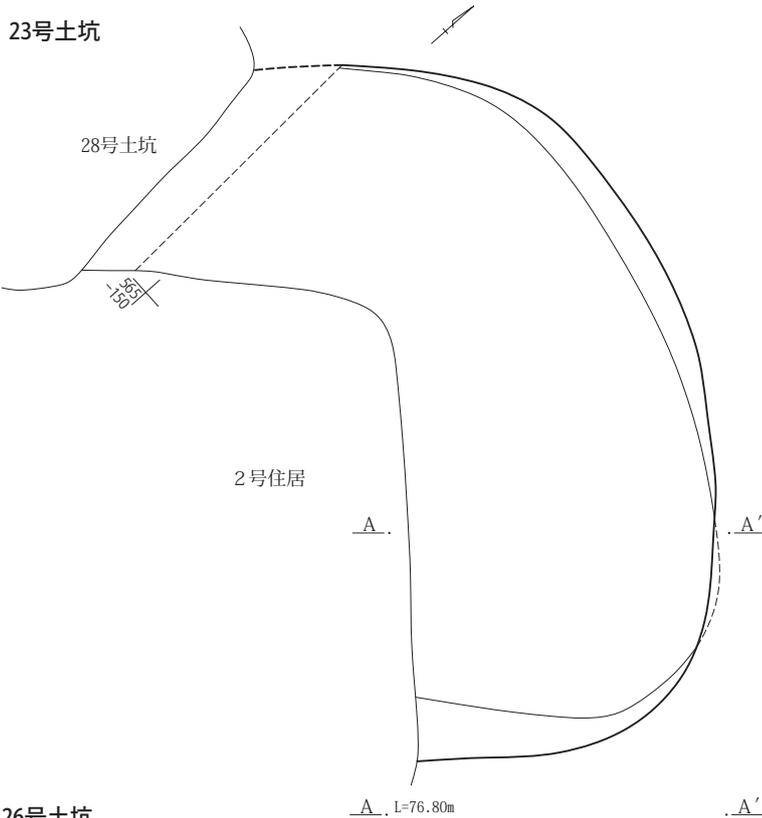


A . L=77.00m . A'

14号土坑A-A'

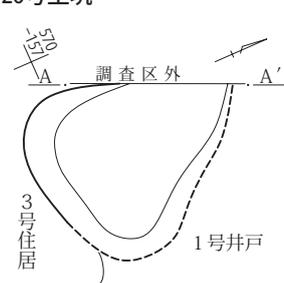
- 1 灰黄色土 均質土、旧畑耕土
- 2 灰黄色土 黄褐色土粒(0.5cm以下)を含む
- 3 灰黄色土 黄褐色土粒・黒褐色土塊(1cm大)を含む
- 4 灰黄色土 黒褐色土粒、3層よりも少ない、砂質土
- 5 灰黄色土 黒褐色土の混入多い、砂質土、色味は暗い
- 6 灰黄色土 黒褐色土塊(1~2cm)を多量に含む、粘質土、色味は暗い
- 7 灰黄色土 明黄褐色土塊を含む
- 8 黒褐色土 粘質土
- 9 灰黄色土 灰白色土塊(5cm大)を含む

23号土坑



A . L=76.80m . A'

26号土坑



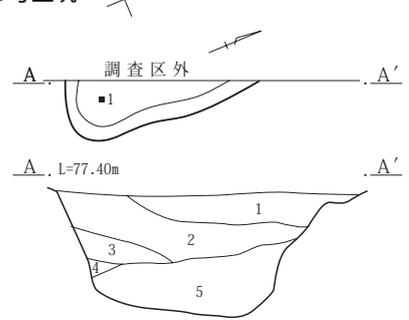
L=76.60m A . A'

26号土坑A-A'

- 1 黄灰色土 浅黄橙色土粒(0.5cm以下)を含む
- 2 黄灰色土 浅黄橙色土塊(1cm大)を含む
- 3 黄灰色土 焼土粒・土器片を含む、色味は暗い

0 1:40 1m

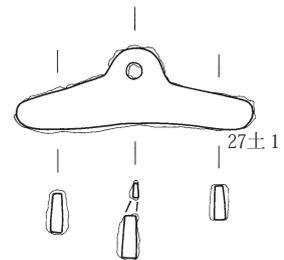
27号土坑



A . L=77.40m . A'

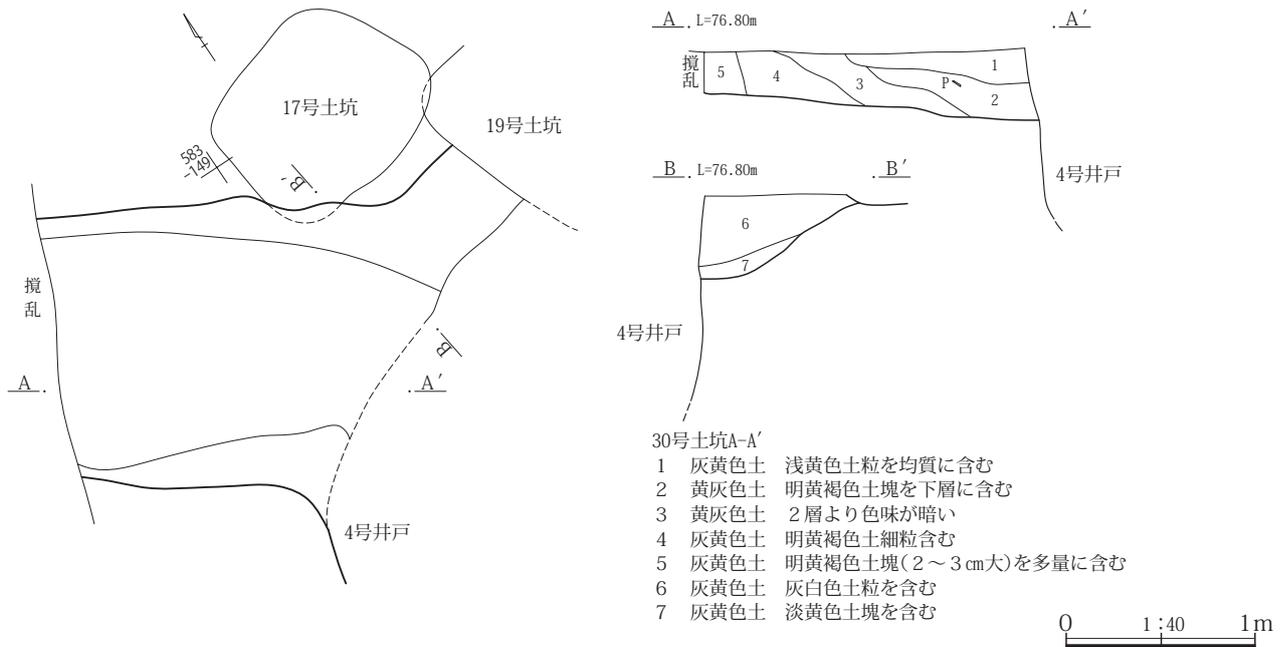
27号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 やわらかく均質、旧畑耕土
- 2 灰黄色土 黒褐色粘質土塊を含む
- 3 灰黄色土 黒褐色土を僅かに含む
- 4 暗褐色土 黒褐色土(壁土崩落土)主体
- 5 灰黄色土 黒褐色粘質土塊を多量に含む



0 1:2 4cm

第81図 関7区1号・14号・20号・23号・26号・27号土坑と27号土坑出土遺物



第82図 関7区30号土坑

⑥不定形の土坑(その他の土坑)(第81・82図 PL. 20・23・24・122)

14号・23号・26号・27号・30号土坑がこれに当たる。不定形の土坑および上記の①～⑤に当てはまらない土坑をその他の土坑としてこれに含めた。

14号土坑は、底面に長径40cm、短径30cm、深さ20cmのピット状の落ち込みが認められた。時期は、遺構の重複関係から7世紀前半より新しいことは言えるが、詳細は不明である。

23号土坑は2号住居および28号土坑と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本土坑が古い。平面形は不整な円形で、長径3.8mと大型である。竪穴状遺構に含められる可能性がある。埋没土から、土師器15点、古代瓦1点が出土しているが、いずれも細片のため図示しなかった。遺構の重複から、時期は7世紀末から8世紀前半以前と考えている。

27号土坑では遺構検出面はVb層上面であるが、西壁土層断面を観察した結果、II層(旧耕作土)上面から掘り込まれていることが確認された。埋没土中から、鉄製品1点が出土し、これを図示した。遺構の掘り込み面から、近現代と考えている。

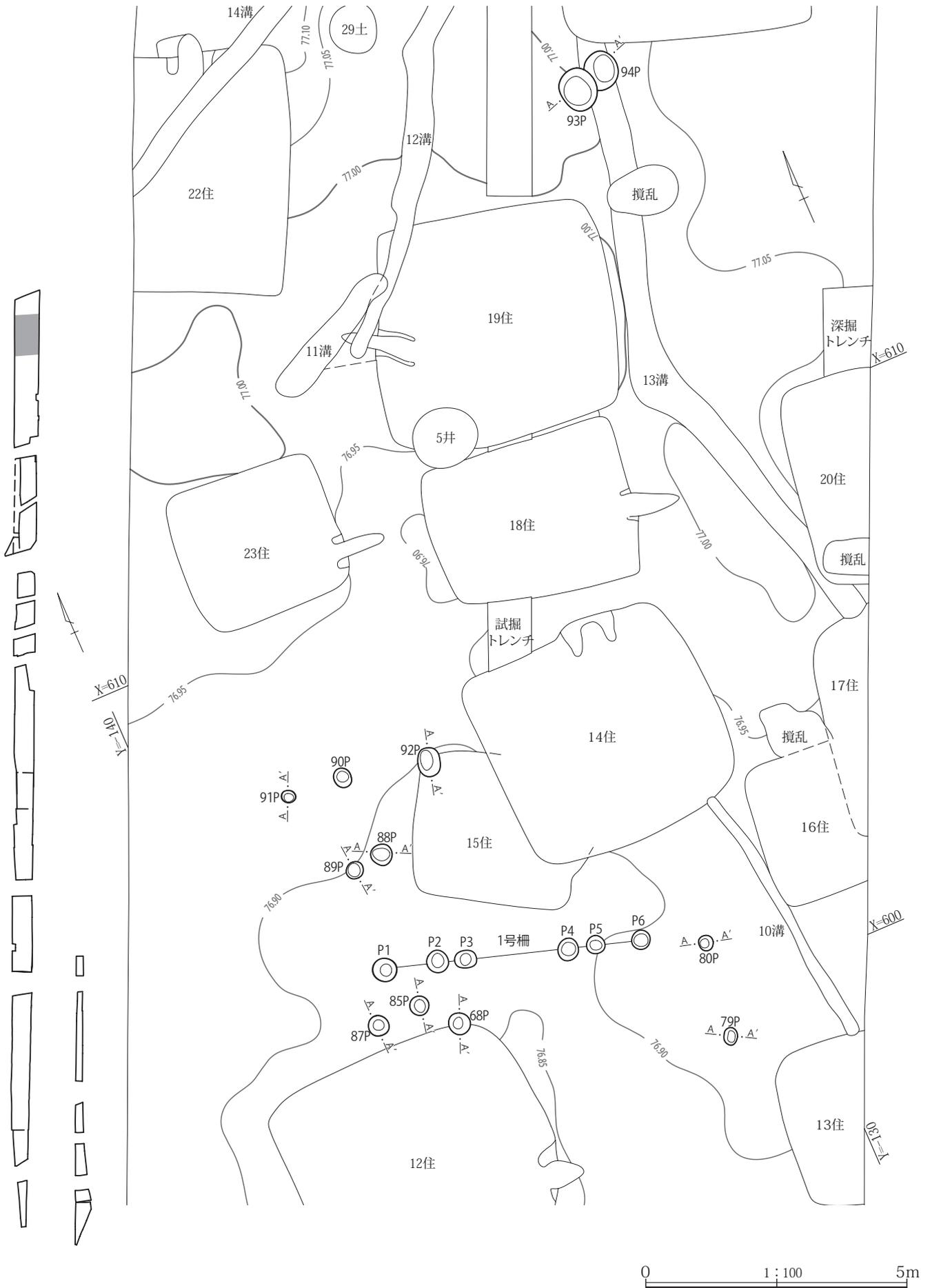
30号土坑は4号井戸、17号土坑、19号土坑と重複し、土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本土坑が古い。本土坑は発掘調査時には4号井戸に関連する施設と

考え、4号井戸の一部として調査を進めたが、その後整理段階で断面図や写真を観察、再検討した結果、別の遺構として30号土坑を設定した。時期は遺構の重複関係から、中世以降と考えられる4号井戸より古い。

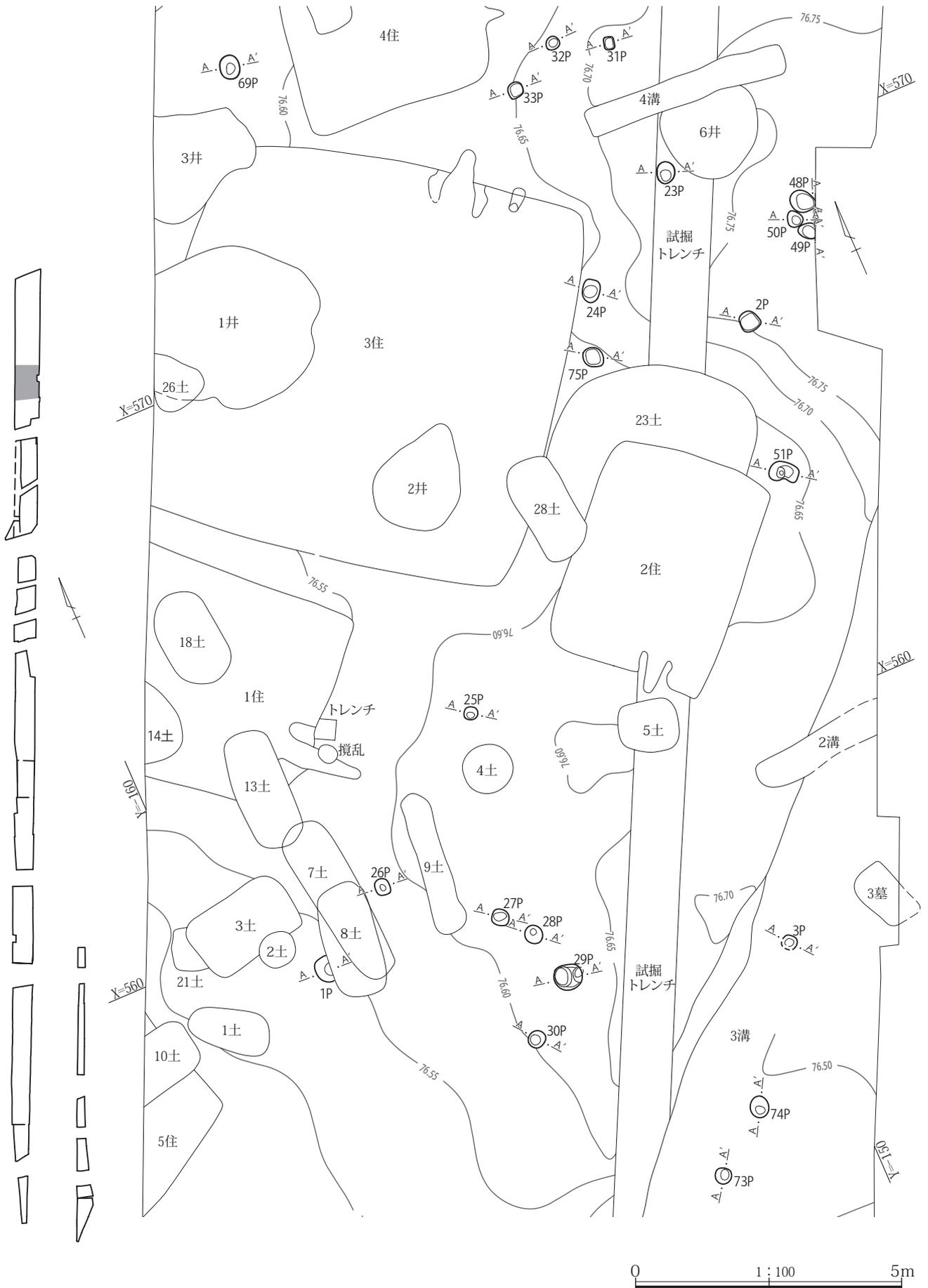
8. ピット(第83～88図)

ピットは88基検出した。いくつかのまとまりを持ちながら、調査区全体に分布している。遺構検出面はVb層上面である。整理作業でも、位置や間隔、埋没土の特徴から、掘立柱建物や柵になるかどうか検討を行ったが、現在のところ1号柵のみである。これらのピットは埋没土が類似し、灰黄色土や黄橙色土を主体とするものが多かった。また、52号～57号ピットの埋没土が6号～9号溝の埋没土と共通しているという調査時の所見がある。54号～57号ピットの軸線方向が6号・7号溝の長軸方向と平行で、8号・9号溝の長軸方向と直交することなどから、これらは関連性があるものと考えている。

各ピットの規模や出土遺物点数については、326・327・330ページに示す。出土遺物は、9号ピットで縄文土器が1点出土した以外は、土師器と須恵器である。いずれも細片のため図示しなかった。すべて埋没土から出土した。これらのピットの時期は遺構の重複や埋没土の特徴から、中世以降と考えられるが、詳細は不明である。

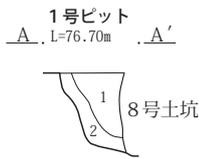


第83図 関7区ピット全体図(1)

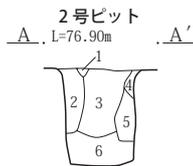


第85図 関7区ピット全体図(3)

第1節 7区の調査



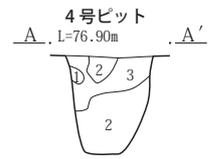
1号ピットA-A'
1 暗灰黄色土 黄橙色土塊を含む
2 暗灰黄色土 黒褐色土塊・黄橙色土塊を含む



2号ピットA-A'
1 灰黄色土 橙色細粒を含む
2 灰黄色土 黒褐色土塊(1cm大)を含む
3 灰黄色土 黒褐色土塊の混入少ない
4 灰黄色土 明黄褐色土塊を含む
5 灰黄色土 黒色木炭粒を含む、色味は暗い
6 灰黄色土 色味は暗い



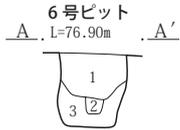
3号ピットA-A'
1 黄灰色土 黄色土粒を含む
2 黄灰色土 黄色土粒を少量含む
3 灰白色土 シルト質土
4 灰黄色土 明黄色土塊を含む



4号ピットA-A'
1 黒褐色土 灰黄色土を含む
2 灰黄色土 黒褐色土粒を含む
3 灰黄色土 黒褐色土粒を少量含む



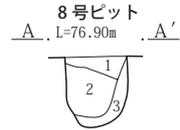
5号ピットA-A'
1 淡黄色土 シルト質土・泥流層
2 黒褐色土 壁土崩落土



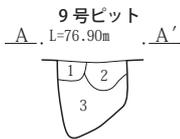
6号ピットA-A'
1 淡黄色土 シルト質土
2 灰黄色土 暗褐色土を含む
3 暗褐色土 粘質土



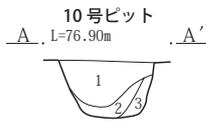
7号ピットA-A'
1 にぶい黄橙色土
2 灰黄色土 にぶい黄褐色を含む
3 灰黄色土 壁土崩落土と1層の混土層、色味は暗い



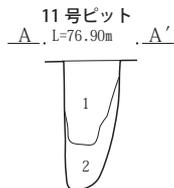
8号ピットA-A'
1 にぶい黄橙色土 灰色土塊を含む、色味は暗い
2 灰色土 黄橙色土塊を含む、色味は暗い
3 灰色土 壁土崩落土、色味は暗い



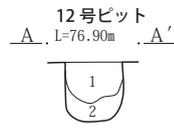
9号ピットA-A'
1 灰黄色土 明黄褐色細粒を僅かに含む
2 灰黄色土 明黄褐色細粒・黒褐色細粒を含む
3 灰黄色土 明黄褐色細粒・黒褐色細粒を含む、色味は暗い



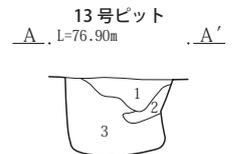
10号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土塊を含む
2 暗褐色土 粘質土
3 黄灰色土 1層と2層の混土、1層より色味は暗い



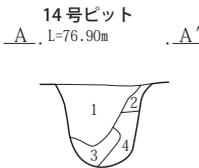
11号ピットA-A'
1 にぶい黄褐色土 黒褐色土細粒を僅かに含む
2 黒褐色土 粘質壁土崩落土主体



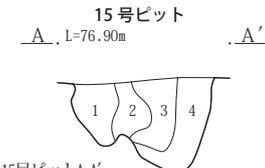
12号ピットA-A'
1 にぶい黄褐色土 黒褐色土細粒を僅かに含む
2 黄褐色土 壁土崩落土主体



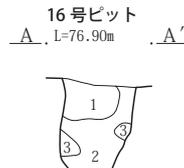
13号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土を少量含む
2 黒褐色土 壁土崩落土主体
3 灰黄色土 黒褐色土塊を多量に含む



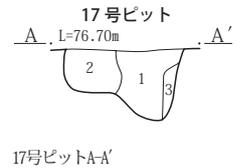
14号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土を少量含む
2 黒褐色土 灰黄色土を少量含む
3 黄褐色土 黒褐色土を少量含む
4 暗褐色土 灰黄色土塊を少量含む



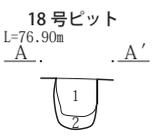
15号ピットA-A'
1 にぶい黄褐色土 シルト質土、夾雑物少ない
2 にぶい黄褐色土 シルト質土
3 にぶい黄褐色土 黒褐色土小塊・小粒を含む
4 にぶい黄褐色土 黒褐色土塊・小粒を少量含む



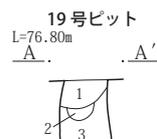
16号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土を少量含む
2 灰黄色土 1層より色味暗い
3 灰黄色土 淡黄色土塊(壁土崩落土)主体



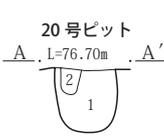
17号ピットA-A'
1 灰黄褐色土 泥流土
2 灰黄褐色土 黒褐色土塊を含む
3 黒褐色土 壁土崩落土主体



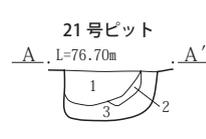
18号ピットA-A'
1 にぶい黄褐色土 黒褐色土塊を含む
2 黒褐色土 黄褐色土塊を含む



19号ピットA-A'
1 にぶい黄褐色土 黒褐色土を少量含む
2 暗褐色土 黄褐色土塊を含む
3 黒褐色土 壁土崩落土主体



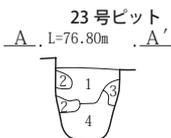
20号ピットA-A'
1 灰黄色土 淡黄色土塊・黒褐色土塊を含む
2 灰黄色土 黒褐色土塊を少量含む



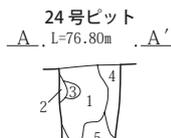
21号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土粒を含む
2 黒褐色土 壁土崩落土主体
3 黄灰色土 黒褐色土粒を多量に含む



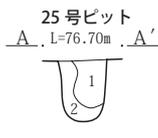
22号ピットA-A'
1 灰黄色土 均質土
2 黒褐色土 灰黄色土塊を多量に含む
3 黒褐色土 灰黄色土塊を含む



23号ピットA-A'
1 にぶい黄褐色土 黒褐色土・黄褐色土粒を含む
2 黒褐色土 にぶい黄褐色土粒を含む
3 にぶい黄褐色土 1層より均質土
4 にぶい黄褐色土 黒褐色土塊を含む



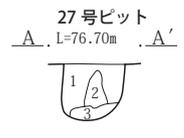
24号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土粒を少量含む
2 黒褐色土 灰黄色土を含む
3 灰黄色土 淡黄色土粒を含む
4 灰黄色土 黒褐色土1cm大塊を多量に含む
5 灰黄色土 4層よりも黒褐色土塊が大きく目立つ



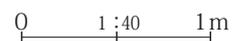
25号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土細粒を含む、色味は暗い
2 灰黄色土 黒褐色土細粒を多量に含む



26号ピットA-A'
1 灰黄色土 柱痕か
2 灰黄色土 黒褐色土粒を含む

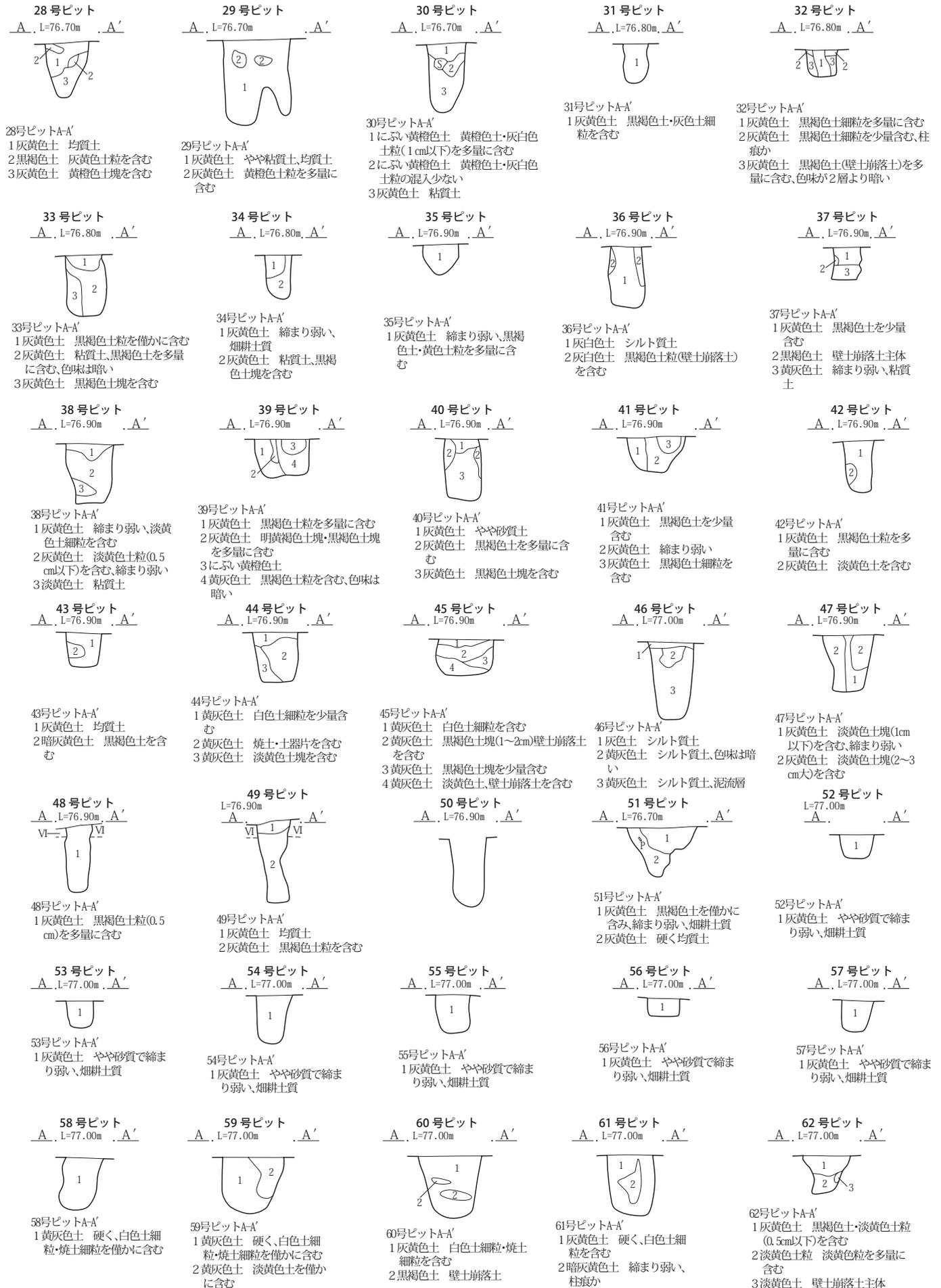


27号ピットA-A'
1 にぶい黄褐色土 浅黄色土塊を含む
2 黒褐色土 柱痕
3 黒褐色土 にぶい黄褐色土粒を含む

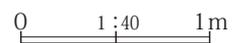


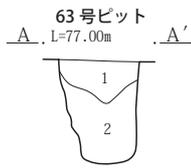
第86図 関7区1号～27号ピット土層断面

第3章 関遺跡の調査

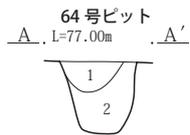


第87図 関7区28号~62号ピット土層断面

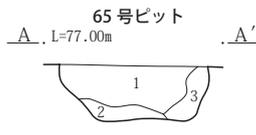




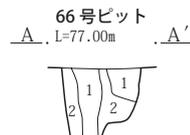
63号ピットA-A'
1 灰黄色土 硬く均質土、白色土・焼土細粒を含む
2 灰黄色土 焼土細粒を少量含む



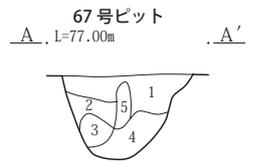
64号ピットA-A'
1 灰黄色土 硬く均質土、白色土細粒・焼土細粒を含み、黒褐色土が斑状に含む
2 灰黄色土 黒褐色土を少量含む



65号ピットA-A'
1 灰黄色土 灰色シルト質土塊を多量に含む、色味は暗い
2 灰黄色土 灰色シルト質土大塊を含む
3 黒褐色土 灰黄色土を含む



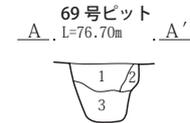
66号ピットA-A'
1 灰黄色土 縮まり弱い、黒褐色土粒を含む、色味は暗い
2 黒褐色土 灰黄色土塊を含む



67号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土塊を含む
2 暗灰黄色土 黒褐色土塊を含む
3 灰白色土 粘土塊(3~4cm)壁土崩落土主体
4 灰黄色土 粘質土、色味は暗い
5 灰黄色土 縮まり弱い、柱痕か



68号ピットA-A'
1 灰黄色土 均質土、淡黄色土塊(壁土崩落土)を含む
2 灰黄色土 黒褐粘質土塊を多量に含む



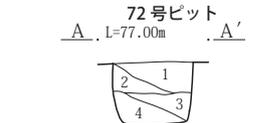
69号ピットA-A'
1 にぶい黄褐色土 畑耕土質、縮まり弱い
2 黒褐色土 にぶい黄褐色土を少量含む
3 にぶい黄褐色土 黒褐色土塊を含む



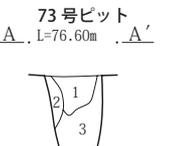
70号ピットA-A'
1 灰黄色土 均質土、硬い、泥流土が土壌化



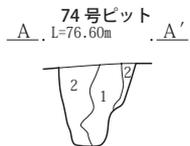
71号ピットA-A'
1 灰黄色土 縮まり弱い
2 灰黄色土 1層より縮まりあり
3 黒褐色土 壁土崩落土



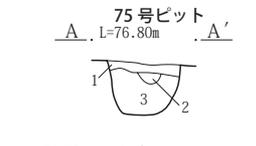
72号ピットA-A'
1 灰黄色土 縮まり弱い、現畑耕土質
2 灰黄色土 黒褐色土を含む
3 灰黄色土 黒褐色土を僅かに含む
4 灰黄色土 浅黄色土、粘質土



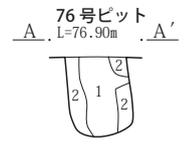
73号ピットA-A'
1 灰黄色土 明黄色土塊を含む、色味は暗い
2 黒褐色土 壁土崩落土主体
3 灰黄色土 シルト質土



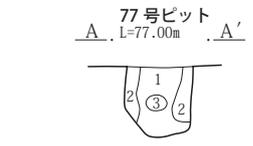
74号ピットA-A'
1 灰黄色土 やや縮まり弱い、色味は暗い
2 にぶい黄褐色土 泥流土



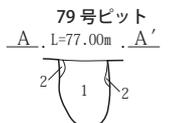
75号ピットA-A'
1 灰黄色土 明黄褐色土を含む
2 灰黄色土 明黄褐色土を多量に含む
3 明黄灰色土 黒褐色土の混入多い



76号ピットA-A'
1 灰黄色土 浅黄色土、泥流土を含む
2 浅黄色土 泥流土主体



77号ピットA-A'
1 浅黄褐色土 現畑耕土質で縮まり弱い
2 浅黄褐色土 黒褐色土(壁土崩落土)を含む
3 浅黄褐色土 柱痕か、1層より縮まり弱い



79号ピットA-A'
1 浅黄褐色土 均質土、縮まりあり
2 黒褐色土 壁土塊を含む



80号ピットA-A'
1 浅黄褐色土 均質土、縮まりあり
2 浅黄褐色土 黒褐色(壁土崩落土)を含み、縮まり弱い



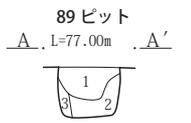
85号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土(壁土崩落土)塊を含む
2 灰黄色土 灰色粒を含み、縮まり弱い
3 灰黄色土 やや縮まりあり
4 灰黄色土 黒褐色土(壁土崩落土)含む



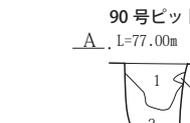
87号ピットA-A'
1 灰黄色土 白色細粒を含む
2 灰色土 黒褐色土塊を多量に含む
3 灰黄色土 黒褐色土塊を含む



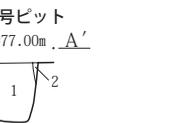
88号ピットA-A'
1 灰黄色土 均質土、粘質土
2 灰黄色土 1層よりも色味は暗い



89号ピットA-A'
1 灰黄色土 均質土
2 灰黄色土 黒褐色土(壁土崩落土)を含む
3 黒褐色土 灰黄色土を含む



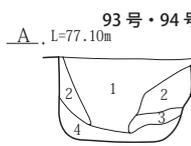
90号ピットA-A'
1 灰黄色土 黒褐色土粒を少量含む
2 灰黄色土 黒褐色土を含む
3 黒褐色土 (壁土崩落土)主体



91号ピットA-A'
1 灰黄色土 均質土
2 黒褐色土 (壁土崩落土)主体



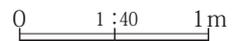
92号ピットA-A'
1 灰黄色土 均質土
2 黒褐色土 (壁土崩落土)主体
3 灰黄色土 均質土、色味が1層より暗い



93号ピット 94号ピット

93号ピットA-A'
1 灰黄色土 白色細粒を含む
2 灰黄色土 黒褐色土(壁土崩落土)を含む
3 灰黄色土 浅黄色土(壁土崩落土)を含む
4 灰黄色土 黒褐色土塊を斑状に含む

94号ピットA-A'
5 灰黄色土 縮まりあり、焼土粒を含む
6 灰黄色土 黄褐色土を含む
7 灰黄色土 黒褐色土を多量に含む
8 灰黄色土 浅黄色土を含む

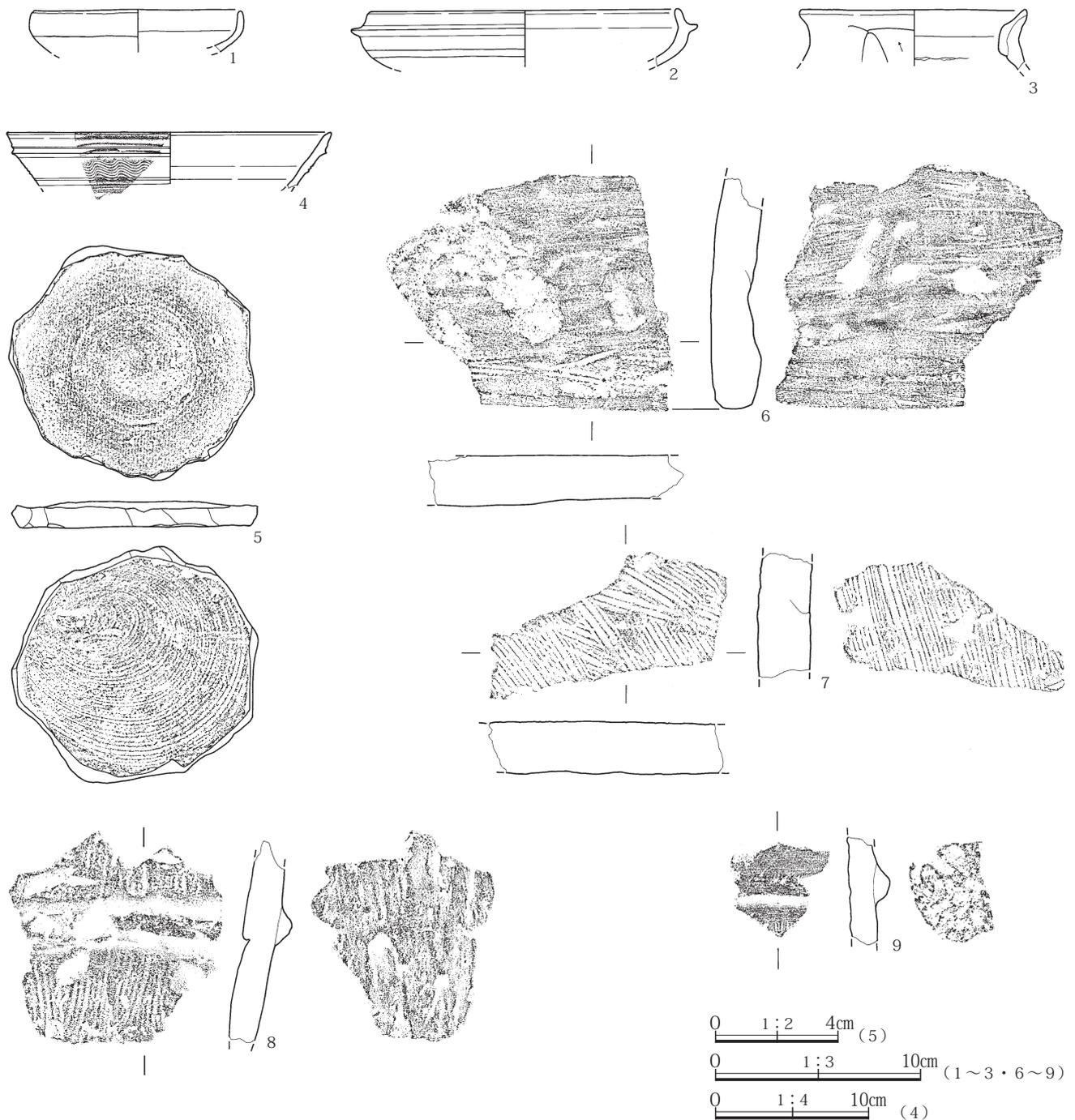


第88図 関7区63号~77・79・80・85・87~94号ピット土層断面

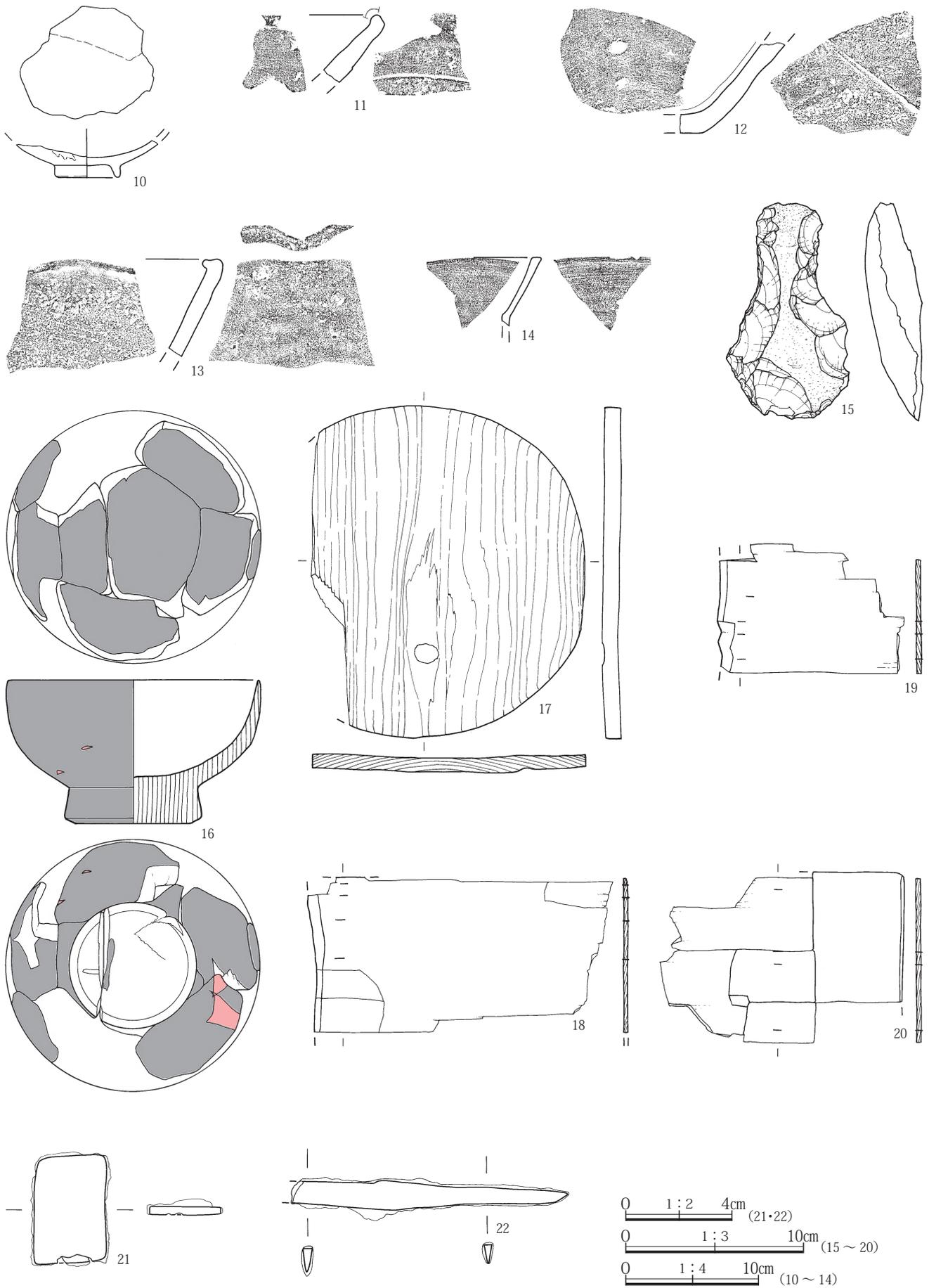
9. 遺構外から出土した遺物(第89・90図 PL. 122)

遺構外から出土した遺物は、古代の土器を中心に2,136点出土した。その内訳は、土師器1,889点、須恵器160点、陶磁器33点、縄文土器9点、時期不明土器5点、埴輪7点、古代瓦2点、近現代瓦1点、石器1点、石製品15点、礫2点、鉄製品7点、木製品5点である。このうち器形や時期がわかるものや特徴的な遺物を22点図示した。土師器および須恵器

は竪穴住居の時期と同時期のものである。11・12・14は中世の在地の土器で、1号井戸周辺から出土した。黒色頁岩製の打製石斧(15)は縄文時代と考えられる。鉄製品は刀子(22)や板状の鉄製品(21)が出土した。また、実測図や写真を掲載しなかったものの、鉄滓(23)も出土している。5点の木製品(16~20)は1号井戸周辺から出土した。椀(16)は内外面黒漆塗りで、外面の一部は赤漆で文様を描いている。



第89図 関7区遺構外の出土遺物(1)



第90図 関7区遺構外の出土遺物(2)

第4章 上西根遺跡の調査

平成20年度に発掘調査が行われた新屋敷遺跡2～6区をそれぞれ上西根遺跡1～5区と名称を変更した(第1表参照)。新屋敷遺跡として発掘調査を実施したが、その後整理作業中に調査範囲の一部が上西根遺跡であることが判明し、上記のように遺跡名および区名を改めたものである。

上西根遺跡は最北の1区が最も標高が高く南側に行くに従い緩やかに低くなっているものの、概ね平坦である。遺構の密度は各区とも高く、特に2区では31軒もの竪穴住居が検出された。

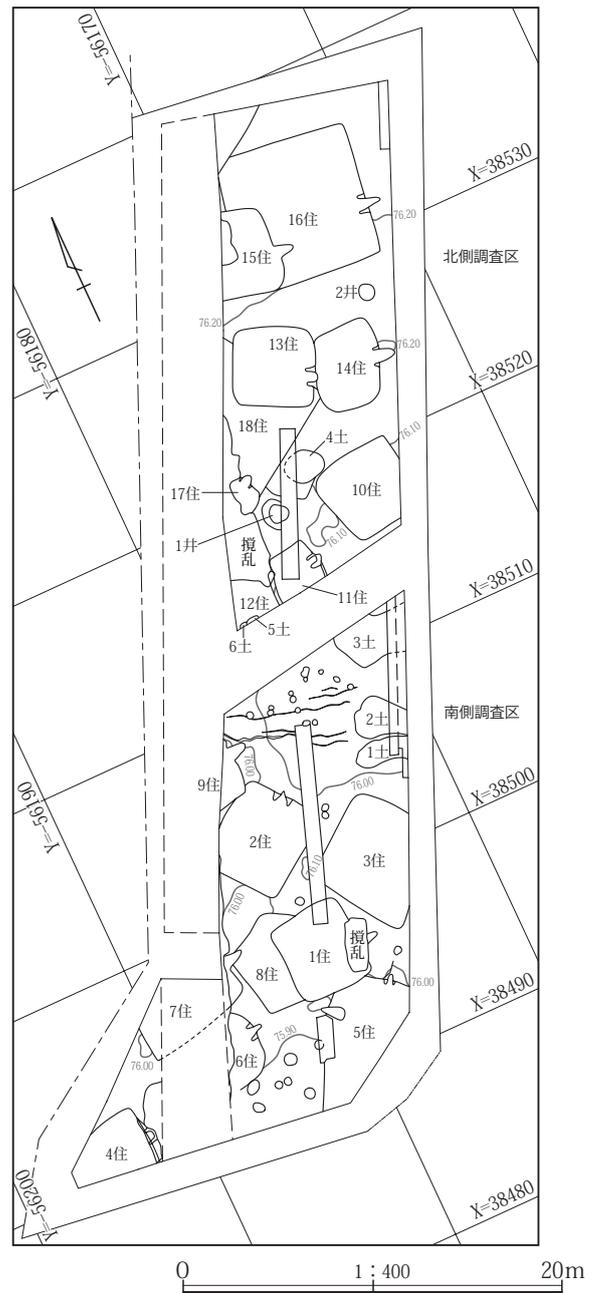
上西根遺跡では、古墳時代から奈良・平安時代、中世から近世の遺構を検出した。各区の検出遺構の内訳は第8表の通りである。古墳時代から奈良・平安時代と考えられる遺構は竪穴住居、竪穴状遺構である。中世から近世と推定されるのは、礎石建物、柵、ピットである。土坑、溝、井戸は古代から近世まで各時代にわたり、時期が特定できない遺構も多かった。

第1節 1区の調査

1. 概要

上西根遺跡1区は、国道462号拡幅部分の調査となるため調査区は南北に細長く、長さ54m、幅約9～13mである。標高はおよそ76.25～75.90mで、北東側から粕川に近い南西側に向かって緩やかに傾斜するものの、ほぼ平坦な地形である。上西根遺跡1区の調査面積は1024.58㎡である。

上西根遺跡1区では、古墳時代から平安時代、中世から近世の遺構を検出した。遺構の内訳は、竪穴住居18軒、井戸2基、土坑6基、ピット25基である。遺構の密度は高く、竪穴住居などの遺構が調査区全体で検出された。遺構検出面はVb層上面である。基本土層の確認は調査区北東隅にトレンチを設定して深掘り調査を実施し、表土から約1.4mの深さまで確認した(第4図)。この他に、井戸の調査時には側壁の土層観察も併せて行った。



第91図 上西根1区全体図

第8表 上西根遺跡検出遺構一覧

区	竪穴住居	竪穴状遺構	礎石建物	柵	溝	井戸	土坑	ピット	合計
1区	18	0	0	0	0	2	6	25	51
2区	31	10	0	0	5	0	36	5	87
3区	5	1	1	0	3	0	48	31	89
4区	5	1	0	0	7	2	41	34	90
5区	2	0	0	2	3	2	77	36	122
合計	61	12	1	2	18	6	208	131	439

2. 竪穴住居

上西根遺跡1区で竪穴住居は18軒確認された。すべて古墳時代から平安時代の住居である。遺構検出面は基本的にVb層上面である。分布に偏りはなく、調査区全体で検出された。

1区1号竪穴住居(第92・93図 PL. 27・123)

位置 1区南側調査区南部

X=38,494~38,499 Y=-56,177~-56,182

主軸方位 N-90°-E

重複 5号・8号住居と重複する。土層断面の観察から、5号・8号住居よりも新しい。

形状と規模 東側の一部が攪乱で失われているが、ほぼ全体を調査することができた。平面形は長方形で、長軸

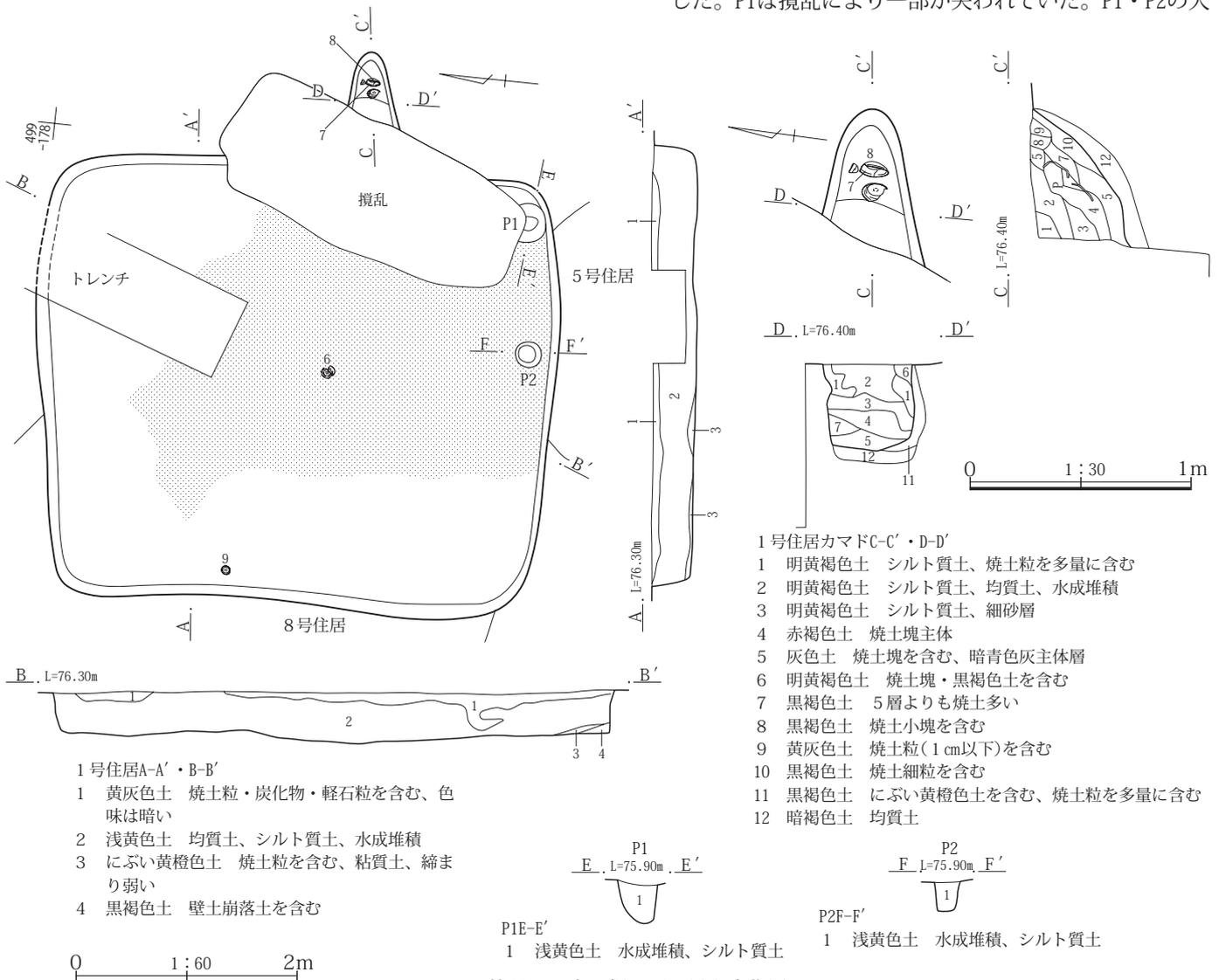
長は4.76m、短軸長4.02m、遺構検出面から床面までの深さは0.48m、面積は約18.92㎡である。

埋没土 浅黄色シルトを主体とし自然堆積の状況を示している。2層は層厚0.3~0.39mの均質な浅黄色シルトで、洪水層と判断した。洪水層は、西壁の一部を除き、床面まで厚く堆積している。

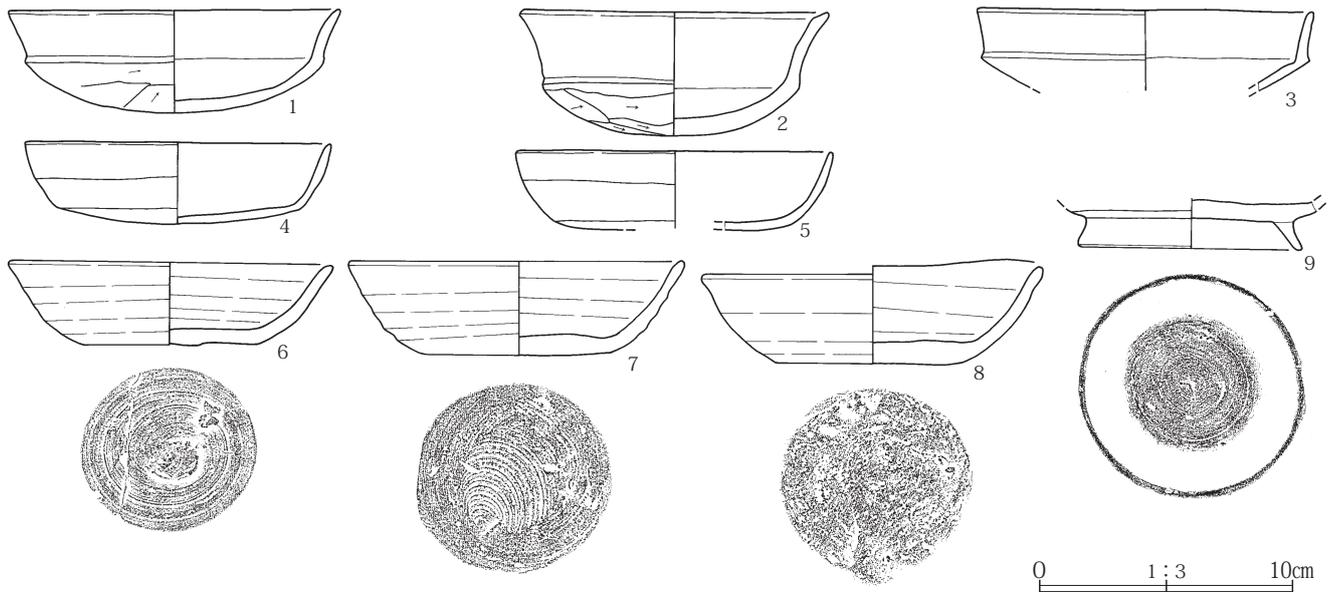
床面 住居南東部から中央部にかけて硬化が見られた。

カマド 東壁で1か所検出された。焚き口および燃烧部は攪乱により失われていた。残存する煙道の長さは0.63m、幅は0.41mである。底面には灰青色灰が7~9cmの厚さで広がっていた。底面から約10cm上位の埋没土中から須恵器杯(7・8)が2点完形に近い状態で出土した。天井崩落土の上には明黄褐色シルトが20cmの厚さで堆積していた。

柱穴 P1~P2を検出した。2基とも床面精査中に確認した。P1は攪乱により一部が失われていた。P1・P2の大



第92図 上西根1区1号竪穴住居



第93図 上西根1区1号竪穴住居出土遺物

きさと形状は下記の通りである。

P1は長径0.33m、短径は残存値で0.19m、深さ0.37m、楕円形。

P2は長径0.22m、短径0.21m、深さ0.26m、円形。

P1・P2の埋没土は均質な浅黄色シルトによく似ている。

P1は位置から貯蔵穴の可能性もある。

遺物と出土状態 土師器192点、須恵器35点出土し、このうち器形や時期がわかる土器9点を図示した。須恵器杯(6)と須恵器椀(9)が床面直上から出土した。

所見 床面まで洪水層で厚く覆われた住居である。床面など住居に伴う遺物から、時期は8世紀後半と推定される。

1区2号竪穴住居(第94・95図 PL. 27・123)

位置 1区南側調査区西壁際

X=38,499~38,505 Y=-56,177~-56,183

主軸方位 N-55°-E

重複 9号住居と重複する。発掘調査時には新旧関係は明らかにできなかったが、出土遺物から本住居が古い。

形状と規模 住居の一部が調査区外およびトレンチで切られているが、ほぼ全体を調査することができた。平面形は長方形で、長軸長は5.2m、短軸長4.56m、遺構検出面から床面までの深さは0.35m、掘方底面までの深さは0.55m、面積は20.77㎡以上である。

埋没土 灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 黒褐色土と淡黄色土を含む灰黄色土で構築されている。カマド前面から中央部にかけて硬化が見られた。

カマド 北東壁で1か所検出された。袖は浅黄橙色土で構築されていた。袖の長さは0.55m、焚き口幅は0.6m、焚き口から煙道の長さは0.92mである。燃焼部には灰層が広がっていた。

貯蔵穴 カマド右袖付近で検出した。楕円形で、長径0.52m、短径0.37m、深さ0.26mである。1層はカマド由来と考えられる焼土塊を多量に含んでいた。

柱穴 P1~P5を検出した。P1~P5の形状と大きさは以下の通りである。

P1は長径0.4m、短径0.33m、深さ0.26m、楕円形。

P2は長径0.6m、短径0.41m、深さ0.45m、楕円形。

P3は長径0.44m、短径0.4m、深さ0.31m、円形。

P4は長径0.45m、短径0.4m、深さ0.25m、楕円形。

P5は長径0.5m、短径0.43m、深さ0.24m、楕円形。

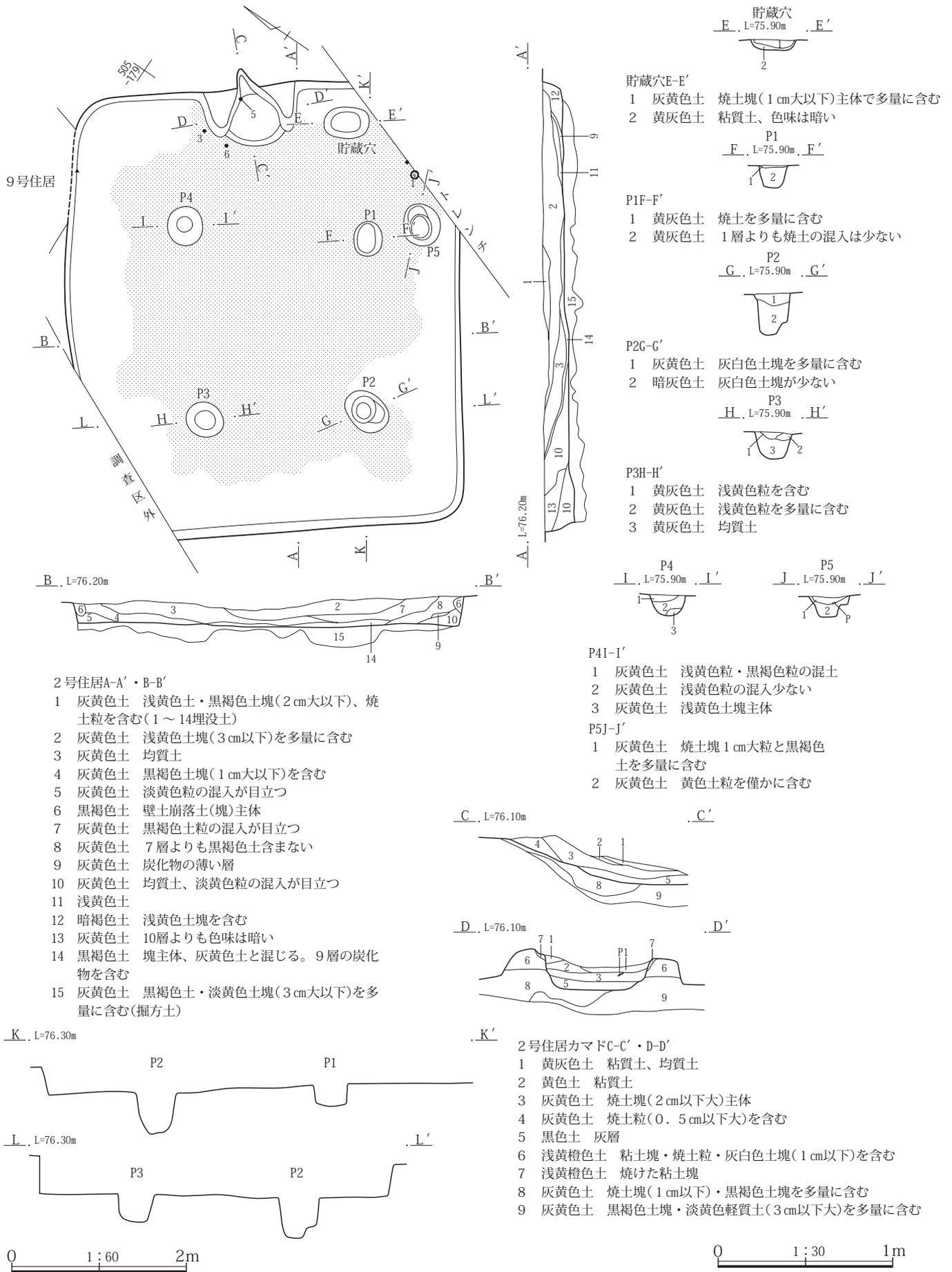
P1~P4は位置と大きさから、主柱穴と考えている。柱穴間の距離はP1とP2間では1.97m、P2とP3間では1.87m、P3とP4間では2.25m、P1とP4間では2.08mである。P5の1層は焼土塊と黒色土を多量に含む土で、P1~P4には見られなかった。

掘方 土坑状およびピット状の落ち込みが多く、平坦ではない。

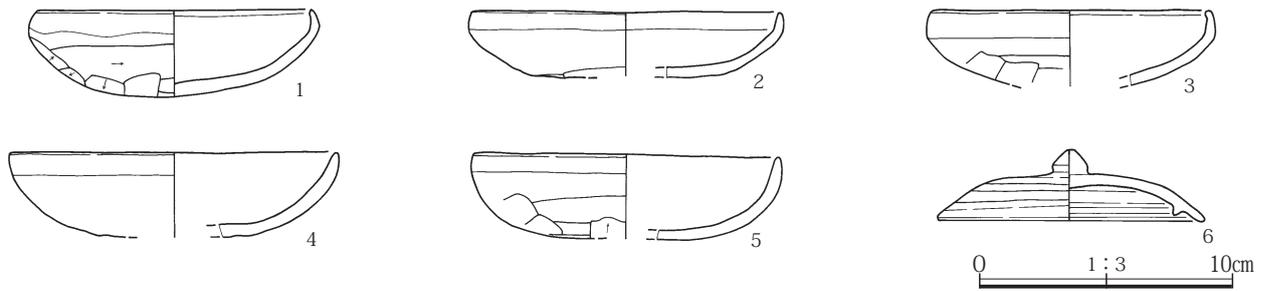
遺物と出土状態 土師器94点、須恵器7点出土し、このうち6点を図示した。土師器杯(5)はカマド底面から、土師器杯(3)は床面から出土した。

所見 遺構の重複と出土遺物から、時期は7世紀後半と推定される。

第1節 1区の調査



第94図 上西根1区2号竪穴住居



第95図 上西根1区2号竪穴住居出土遺物

1区3号竪穴住居(第96～98図 PL.28・123)

位置 1区南側調査区東壁際

X=38,496～38,503 Y=-56,173～-56,178

主軸方向 N-52°-E。

重複 重複する遺構はないが、住居の拡張が認められた。拡張後の住居を3a号住居、拡張前の住居を3b号住居と呼ぶ。3a号住居の掘方を調査している時に側壁に沿ってテラス状の段が巡り、下段全体に硬化面が確認されたことと、住居の主軸が同じことから住居の拡張と判断した。

〈3a号住居〉

形状と規模 住居の一部が調査区外およびトレンチに切られているものの、長方形と推定される。長軸長5.64m、短軸長5.2m、遺構検出面から床面までの深さは約0.60m、掘方底面までの深さは0.75mである。

埋没土 灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 焼土粒・黒褐色土塊を含む黄灰色土で構築されていた。側壁周辺を除き広く硬化が確認された。北西壁際では焼土が55cm×20cmの範囲で検出された。南東部では深さ4～8cmの不定形な落ち込みが認められた。

カマド 確認されなかった。

柱穴 P1～P4を検出した。P1～P4の形状と大きさは以下の通りである。

P1は長径0.26m、短径0.25m、深さ0.12m、円形。

P2は長径0.35m、短径0.35m、深さ0.26m、円形。

P3は長径0.36m、短径0.34m、深さ0.29m、円形。

P4は長径0.28m、短径0.23m、深さ0.26m、楕円形。

P2～P4は位置や大きさから支柱穴と判断した。柱穴間の距離はP2とP3間では2.63m、P3とP4間では2.78mである。南東部の支柱穴は調査区外にあると推定される。こ

のほか、床面精査中に小ピットを13基検出した。これらは直径10cm以下で、深さは4～23cmである。大部分は住居北側に点在していた。

掘方 ほぼ平坦である。

〈3b号住居〉

形状と規模 正方形と推定され、長軸長4.4m、短軸長4.3mである。3a号住居の掘方底面から床面までの深さは約0.15mである。

埋没土 黒褐色土塊・淡黄橙色土塊を多量に含み斑状を呈する黄灰色土で、人為堆積と考えられる。

床面 ほぼ平坦であるが、北東壁付近に緩やかな盛り上がり認められた。

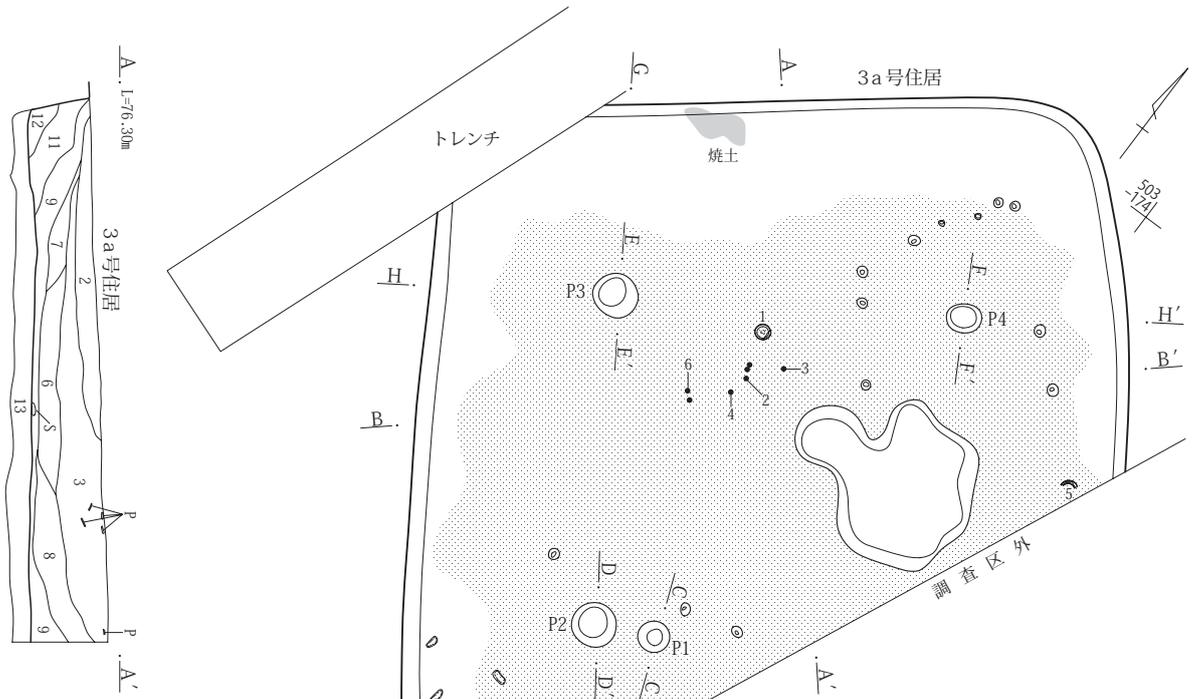
カマド 検出されなかった。

柱穴 北東部にP5・P6を検出した。P5は楕円形を呈し、長径0.57m、短径0.51m、深さ0.38mである。P6は円形で、長径0.55m、短径0.54m、深さ0.17mである。ともに出土遺物はなかった。P5は柱穴の可能性はあるが、ほかに検出されず不明である。

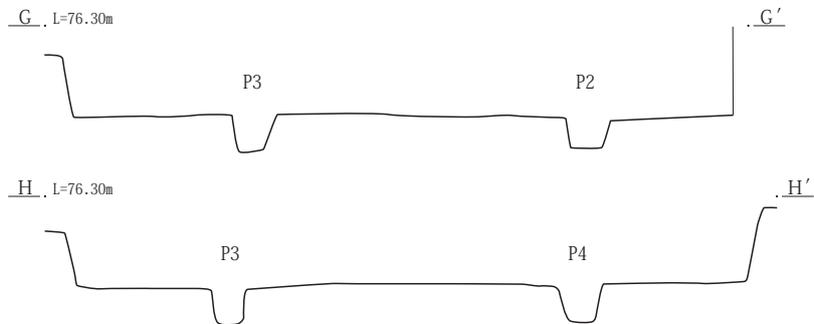
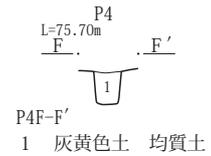
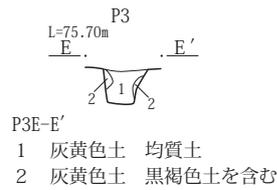
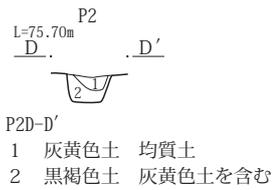
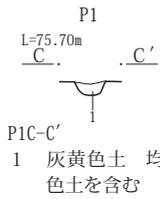
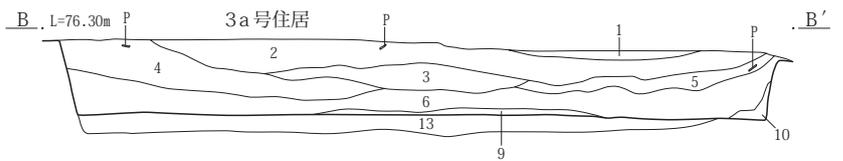
〈3a号・3b号住居〉

遺物と出土状態 土師器1,328点、須恵器27点、古代瓦1点、石製品3点、鉄製品1点が出土し、このうち23点を図示した。土師器甕(5)が3a号住居床上1cmから、1～4・6は3a号住居の埋没土上部から出土した。4点の棒状礫が3a号住居の埋没土および床面付近から出土している。それ以外の遺物はすべて3号住居埋没土として取り上げられているため、3a号住居出土か3b号住居出土か明らかではない。

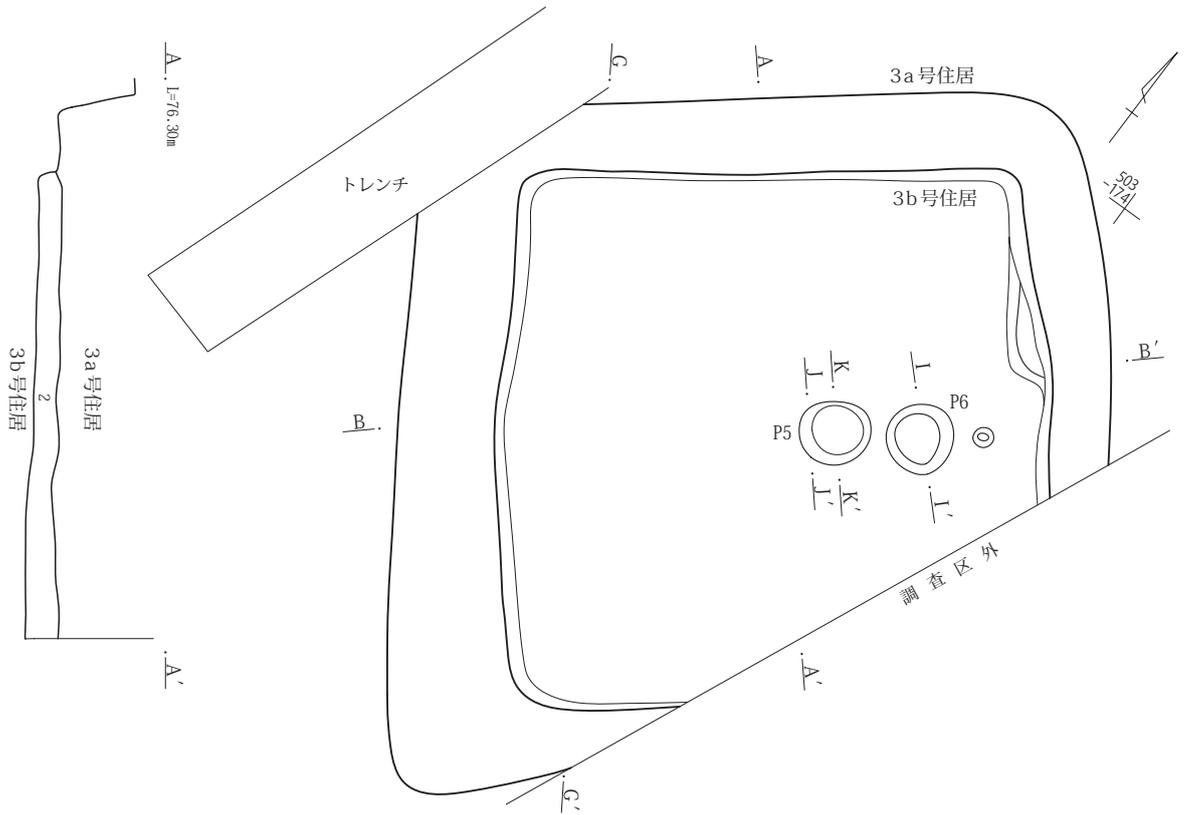
所見 出土遺物から、時期は3a号住居が7世紀末から8世紀前半、3b号住居はそれ以前と考えられる。



- 3 a号住居A-A'・B-B'
- 1 灰黄色土 夾雑物少ない(1~12埋没土)
 - 2 灰黄色土 黒色灰・焼土粒を多量に含む
 - 3 灰黄色土 黒色灰・焼土を含むが1層より少ない
 - 4 灰黄色土 焼土小塊・粒を含む、色味は暗い
 - 5 灰黄色土 焼土・黒色灰・炭化物が著しく混入
 - 6 灰黄色土 黒色灰斑状(10cm以下)に含む
 - 7 灰黄色土 黒色灰を含まず
 - 8 灰黄色土 黒褐色土塊を含む
 - 9 灰黄色土 黒色土塊が5層より多い
 - 10 灰黄色土 黒褐色土塊主体
 - 11 灰黄色土 黒褐色土塊を含まず
 - 12 灰黄色土 焼土大塊主体
 - 13 黄灰色土 上部に暗青灰色の硬化面が縞状に堆積、焼土粒・黒褐色土塊を含む(13~15人為堆積)

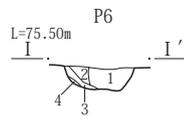
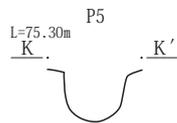
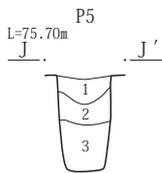
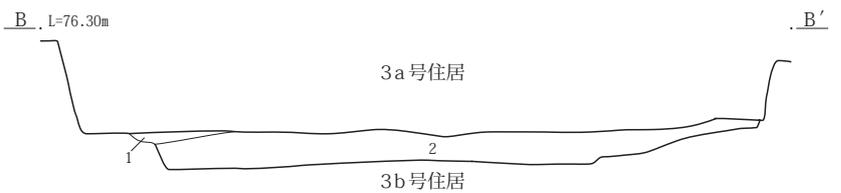


第96図 上西根1区3 a号竪穴竪穴住居



3b号住居

- 1 黄灰色土 焼土塊を多量に含み、黒色炭化物、灰層が介在する、人為堆積
- 2 黄灰色土 黒褐色土塊・淡黄橙色土塊(4cm大以下)を多量に含む、色味は暗い、人為堆積



P6I-I'

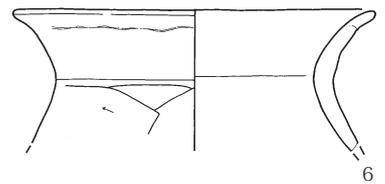
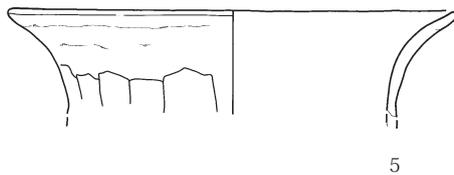
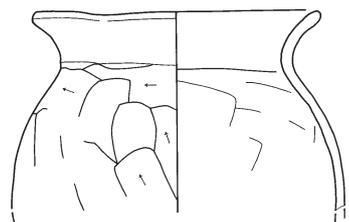
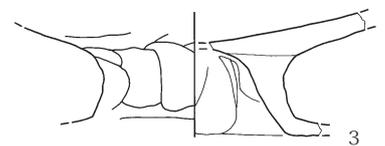
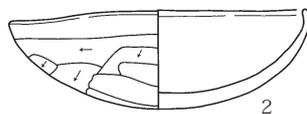
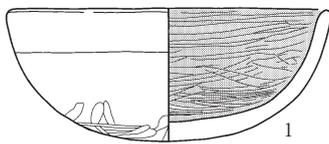
- 1 黄灰色土 黒色灰・焼土小塊を多量に含む
- 2 黄灰色土 黒色灰・焼土粒を少量含む
- 3 暗灰黄色土 焼土塊を多く含み、黒色灰を少量含む
- 4 暗灰黄色土 黒褐色土を含む

P5J-J'

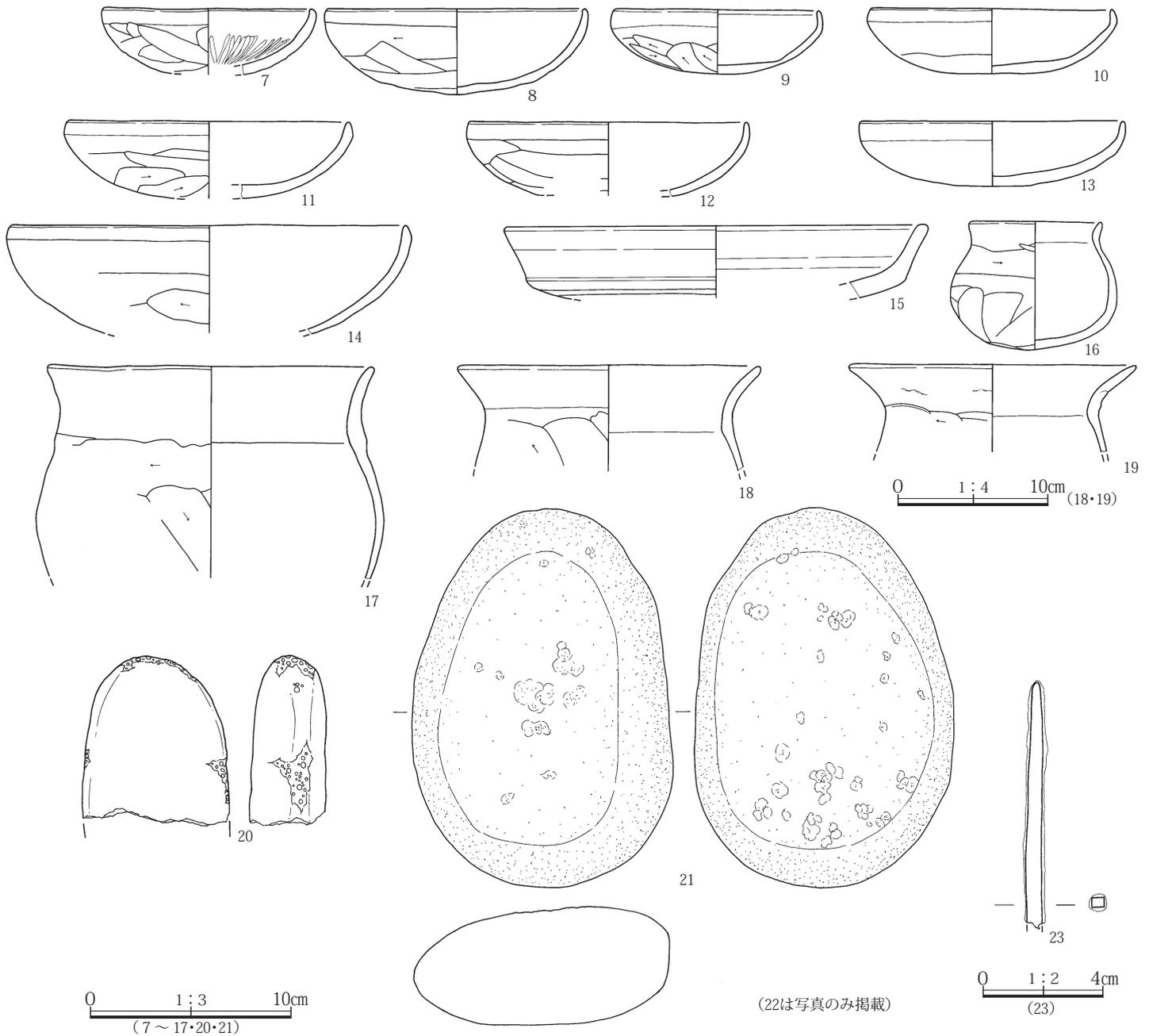
- 1 黄灰色土 黒褐色粒・焼土細粒を含む
- 2 黄灰色土 1層よりも少ない
- 3 黄灰色土



〈3a号竪穴住居〉



第97図 上西根1区3b号竪穴住居と3a号竪穴住居出土遺物



第98図 上西根1区3a・3b号竪穴住居出土遺物

1区4号竪穴住居(第99図 PL. 28・123)

位置 1区南側調査区南西隅

X=38,490~38,493 Y=-56,192~-56,197

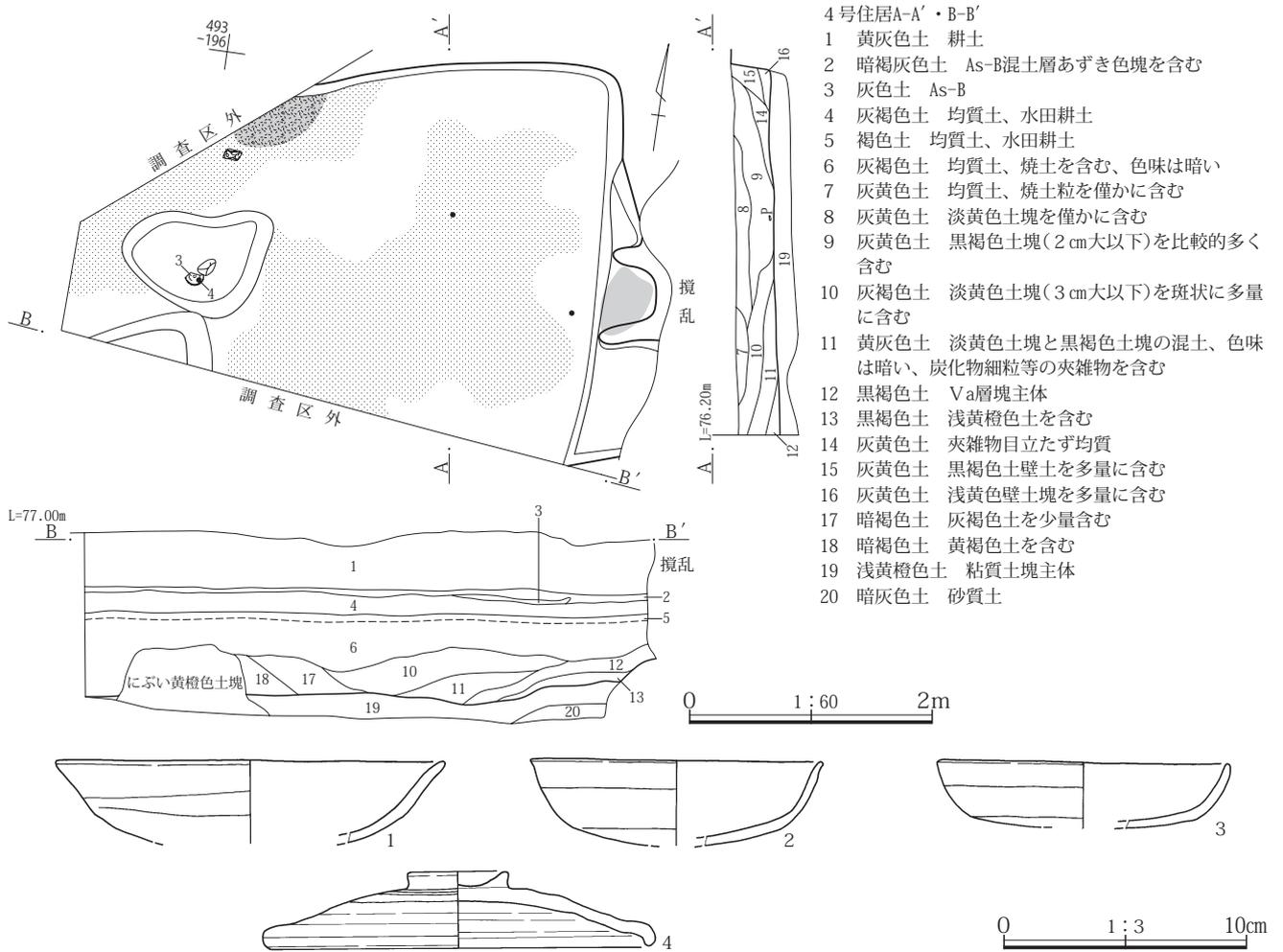
主軸方位 N-80°-E

重複 なし

形状と規模 南部および西部が調査区外だが、正方形または長方形と推定する。検出した長軸長は5m、短軸長3.3m、遺構検出面から床面までの深さは0.33m、掘方底面までの深さは0.5mである。

埋没土 灰褐色土や灰黄色土を主体とし自然堆積の状況を示す。

床面 浅黄橙色粘質土で構築され、住居中央部と北西部で硬化していた。西部で深さ4~10cmの不定形な落ち込みが認められた。落ち込みの底面では土師器杯(3)と須恵器蓋(4)、20cm大の礫が出土した。南西部調査区際でにぶい黄橙色土の大きな高まりが確認された。検出された高まりの大きさは長軸長1.05m、短軸長0.44mである。掘方底面でも確認され、高さは0.4mである。にぶい黄橙色土塊は比較的均質であった。また、調査区北壁では焼土と灰、炭化物が80cm×30cmの範囲に集中していた。中には焼けた粘土塊も含まれていた。カマドの構築材を廃棄した可能性がある。



第99図 上西根1区4号竪穴住居と出土遺物

カマド 東壁で1か所検出した。煙道は攪乱で失われていた。袖の長さは0.45m、焚き口幅0.6m、焚き口から燃焼部奥壁までの長さは0.42mである。燃焼部には焼土が広がっていた。

柱穴 検出されなかった。

掘方 部分的に凹凸が見られるものの、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器183点、須恵器8点、礫1点が出土し、このうち4点を図示した。土師器杯(3)と須恵器蓋(4)は床面に認められた深さ4～9cmの落ち込みの中から出土した。その他の遺物はすべて埋没土中から出土した。

所見 住居南西部のにぶい黄橙色土の高まりの性格やこの土の由来については不明である。西側には別遺構が存在した可能性もあるが、その点も明らかにできなかった。出土遺物から、時期は8世紀後半と考えている。

1区5号竪穴住居(第100・101図 PL. 29・123)

位置 1区南側調査区南東壁際

X = 38,488 ~ 38,495 Y = -56,176 ~ -56,183

主軸方位 N-38°-E

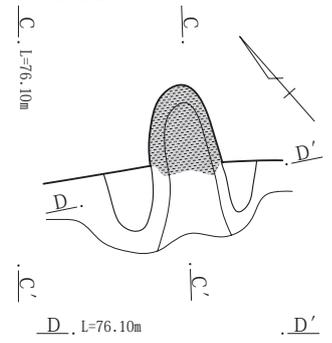
重複 1号・8号住居と重複する。土層断面の観察から、1号住居の方が新しい。8号住居との新旧関係は発掘調査時には不明であったが、出土遺物から判断して本住居の方が8号住居より古い。

形状と規模 南東部が調査区外であるが、平面形は長方形と推定される。長軸長は7.3m、短軸長は3.9m、遺構検出面から床面までの深さは0.53m、掘方底面までの深さは0.66mである。

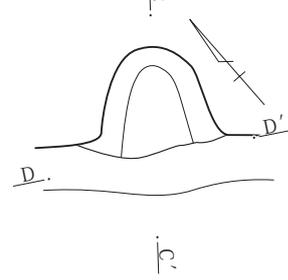
埋没土 灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 西部では淡黄色土および黒褐色土を多量に含む灰黄色土で構築され、東部では暗灰色土の⑥層(第4図)を踏み固めて床としている。住居中央部で炭化物が1.55m×0.72mの範囲に分布するのが確認された。厚さは6cm

北側カマド



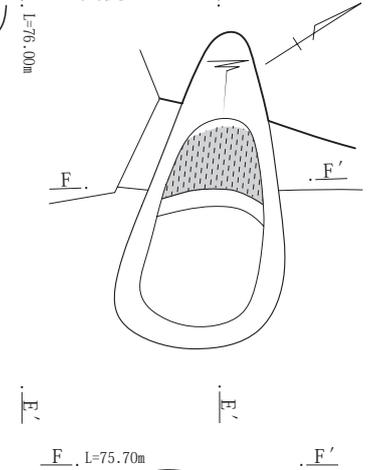
北側カマド掘方



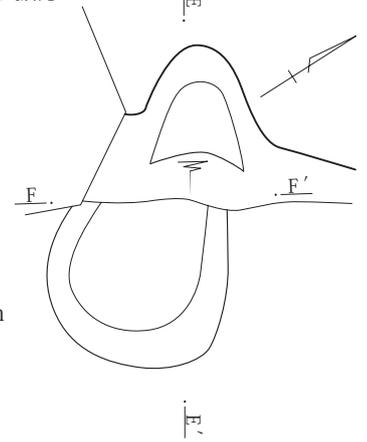
5号住居北側カマドC-C'・D-D'

- 1 灰黄色土 焼土塊(1cm大)が充填
- 2 青灰色灰
- 3 灰褐色土 焼土塊・粒を含む
- 4 黒褐色土 灰・焼土塊粒を含む
- 5 灰色土 焼土粒が多量に混じる
- 6 暗灰褐色土 淡黄色土塊・黒褐色土塊を含む
- 7 灰褐色土 黒褐色土塊を含む
- 8 黒褐色土 黒色灰を含む

西側カマド



西側カマド掘方

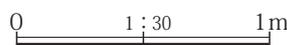
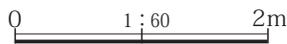
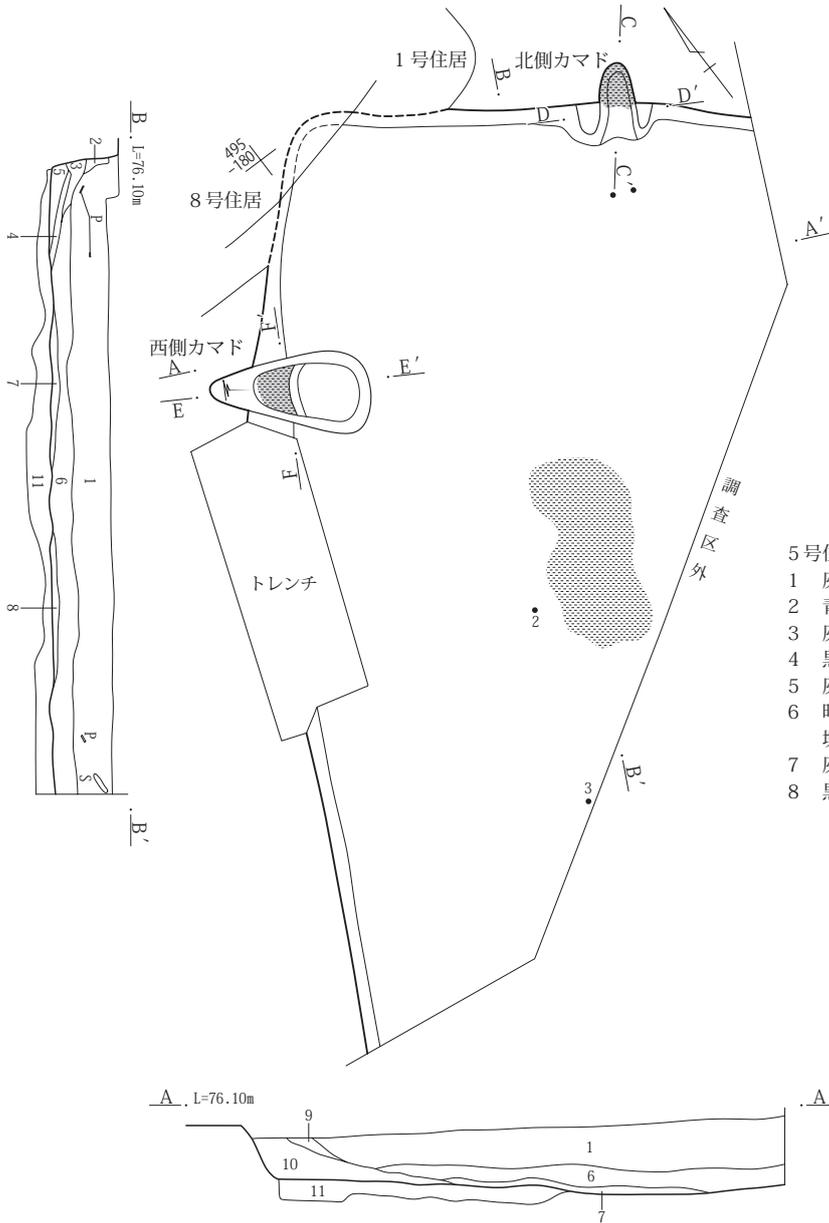


5号住居西側カマドE-E'・F-F'

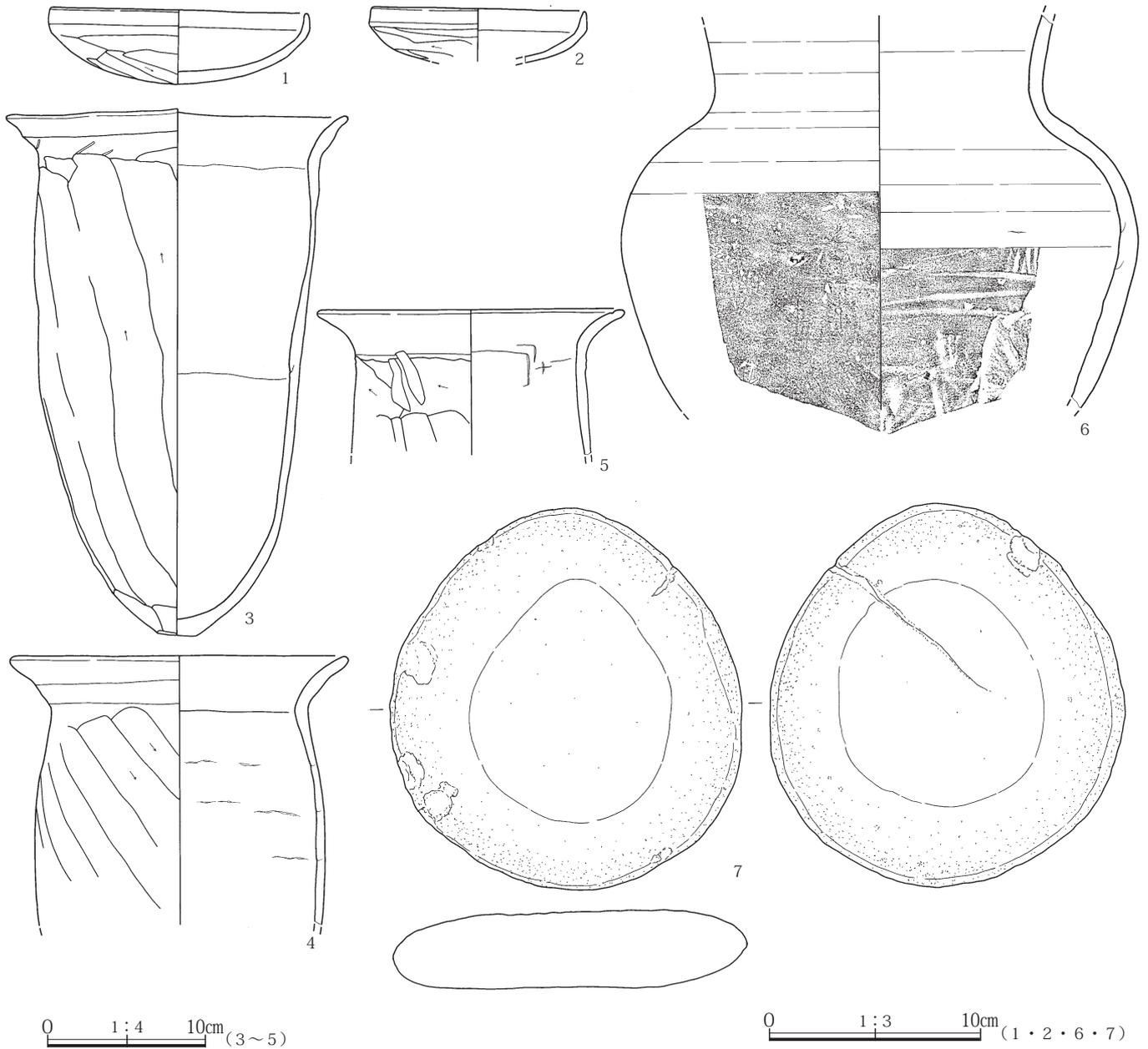
- 1 灰黄色土 均質土、夾雑物少ない
- 2 灰黄色土 焼土塊(4cm以下大)が多量に充填されている
- 3 青灰色灰
- 4 にぶい黄色土 粘質土
- 5 赤橙色土 焼土化、粘土
- 6 赤橙色土 焼土
- 7 暗灰黄土 黒褐色土塊を多量に含む住居掘方土と似る
- 8 黄灰色土 粘質土、色味は暗い
- 9 暗灰黄色土 黒褐色土を含む
- 10 暗灰色土 粘質土・炭化物を含む

5号住居A-A'・B-B'

- 1 灰黄色土 硬く均質土、焼土粒(1cm大以下)が散在する(1~10埋没土)
- 2 黒褐色土 壁土崩落土
- 3 灰黄色土 淡黄色土塊を含む
- 4 灰黄色土 黒褐色土塊を多量に含む
- 5 灰黄色土 黒褐色土・淡黄色土塊が混在する
- 6 灰黄色土 夾雑物目立たず均質土
- 7 灰黄色土 淡黄色土塊(2cm大以下)・炭化物(1cm大以下)を含む
- 8 灰黄色土 炭化物堆積と赤橙色粘土粒が混じる
- 9 灰黄色土 1層よりも焼土が目立つ
- 10 灰黄色土 浅黄色土塊(カマド構築材)2cm大以下を多量に含む
- 11 灰黄色土 淡黄色土・黒褐色土塊を多量に含む(掘方土)



第100図 上西根1区5号竪穴住居



第101図 上西根1区5号竪穴住居出土遺物

である。

カマド 北壁と西壁で2か所検出された。北側カマドは袖の長さが0.35m、焚き口幅は0.30m、焚き口から煙道の長さは0.6mである。煙道に炭化物と焼土が広がっていた。西側カマドは袖の遺存状況は良くないものの、黄灰色粘質土で構築されていた。検出したカマドの長さは1.27m、幅は0.44mである。燃焼部は床面より1～4cm低く、燃焼部底面では焼土面が顕著に残っていた。被熱による焼土化が底面から8cm下位まで認められた。煙道で炭化物と焼土の広がりを確認した。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 底面には緩やかな凹凸が認められる。

遺物と出土状態 土師器169点、須恵器10点、石製品1点が出土し、このうち7点を図示した。床面直上から出土した遺物はなかった。

所見 カマドが2か所検出された。遺存状況から、西側カマドと北側カマドは併存した可能性がある。住居中央部に炭化物の広がりが認められた。住居全体に広がる様子は見られず、焼土もなかったため、焼失家屋かどうかを判断することができない。出土土器から、時期は7世紀末と考えている。

1区6号竪穴住居(第102図 PL. 29・123)

位置 1区南側調査区南部

X=38,491~38,495 Y=-56,184~-56,187

主軸方位 N-80°-E

重複 2号ピットと重複し、2号ピットが新しい。

形状と規模 東側のみの調査であるが、平面形は円形状で、長径は3.63m、短径は1.55mである。遺構検出面から床面までの深さは0.48m、掘方底面までの深さは0.59mである。

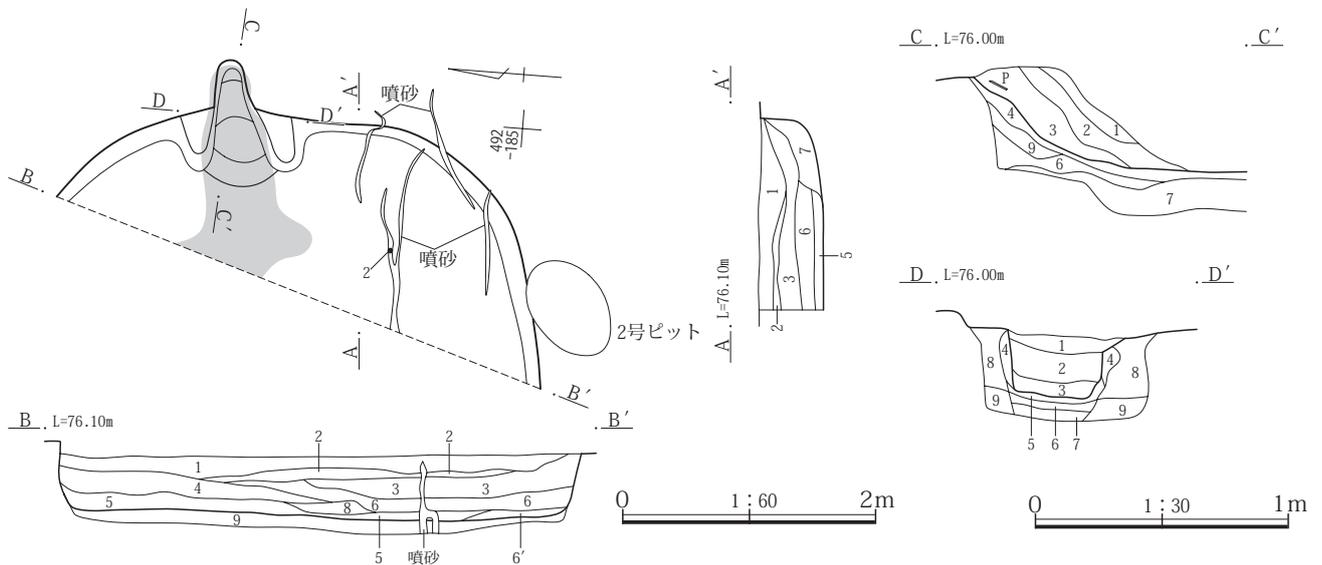
埋没土 黄灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。噴砂の痕跡が埋没土上部まで認められた。

床面 淡黄色土塊と黒褐色土塊を多量に含む黄灰色土で構築されている。

カマド 北東壁で1か所検出された。袖は浅黄橙色粘土で構築され、袖の長さは0.47m、焚き口幅は0.6m、焚き口から煙道の長さは1.02mである。焼土がカマド全面で確認され、焚き口から床面まで広範囲に認められた。
貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 南側でやや高くなっているが、ほぼ平坦である。
遺物と出土状態 土師器97点、須恵器6点が出土し、このうち6点を図示した。土師器杯(2)が床面より8cm下位の噴砂中で出土した。また、土師器杯(4)が掘方土から出土している。この他の遺物はすべて埋没土中から出土した。

所見 地震による噴砂の痕跡が住居床面、側壁、埋没土で確認された。出土遺物から、住居の時期は8世紀前半から中頃と推定される。

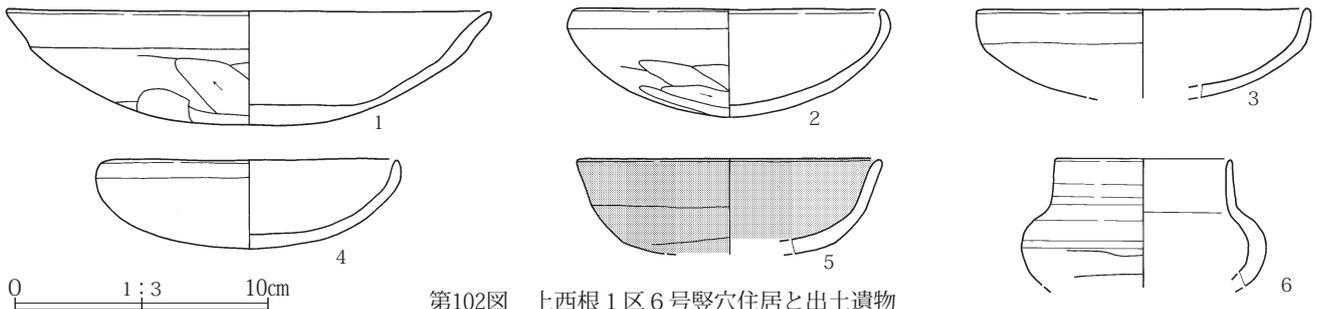


6号住居A-A'・B-B'

- 1 黄灰色土 焼土粒・炭化物粒を含む(1~8埋没土)
- 2 黄灰色土 黒色灰・焼土を多量に含む
- 3 黄灰色土 黒褐色土塊を特に北側で多量に含む
- 4 黄灰色土 焼土粒を含み均質土
- 5 黄灰色土 焼土塊を多量に含む、カマドの崩落材の流れ
- 6 黄灰色土 黒褐色土塊を多量に含む
- 6' 黄灰色土 黒色灰・黒褐色土塊目立たず
- 7 黄灰色土 黒褐色土塊・焼土を含む
- 8 黄灰色土 混入物目立たず均質土、北半部では黒色灰の薄い層(床面)が5枚前後みられる
- 9 黄灰色土 淡黄色土塊(5cm大以下)・黒褐色土塊を多量に含む(掘方土)

6号住居カマドC-C'・D-D'

- 1 黄灰色土 粘質土、均質土
- 2 黄灰色土 焼土塊を多量に含む、天井崩落土
- 3 黄灰色土 焼土塊(3cm大以下)を多量に含む
- 4 橙色土 焼土面
- 5 青灰色灰 焼土塊を含む
- 6 暗灰黄色土 焼土粒(0.5cm以下)を多量に含む
- 7 暗灰黄色土 6層よりも焼土、灰は少ない、中位(上面から3cm以下)に旧床面あり
- 8 浅黄色土 粘土、焼土を僅かに含む
- 9 暗灰黄色土 焼土粒を僅かに含む



第102図 上西根1区6号竪穴住居と出土遺物

1区7号竪穴住居(第103・104図 PL.30・123・124)

位置 1区南側調査区南西部

X=38,495~38,498 Y=-56,183~-56,190

主軸方位 N-75°-E

重複 8号住居と重複し、土層断面の観察から、7号住居が新しい。

形状と規模 住居中央部が攪乱で大きく失われている。平面形は長方形または正方形と考えられ、南壁の長さは5.94m、検出された西壁の長さは2.08mである。遺構検出面から床面までの深さは0.32mである。

埋没土 黄灰色土を主体とする。

床面 検出された範囲はほぼ平坦である。

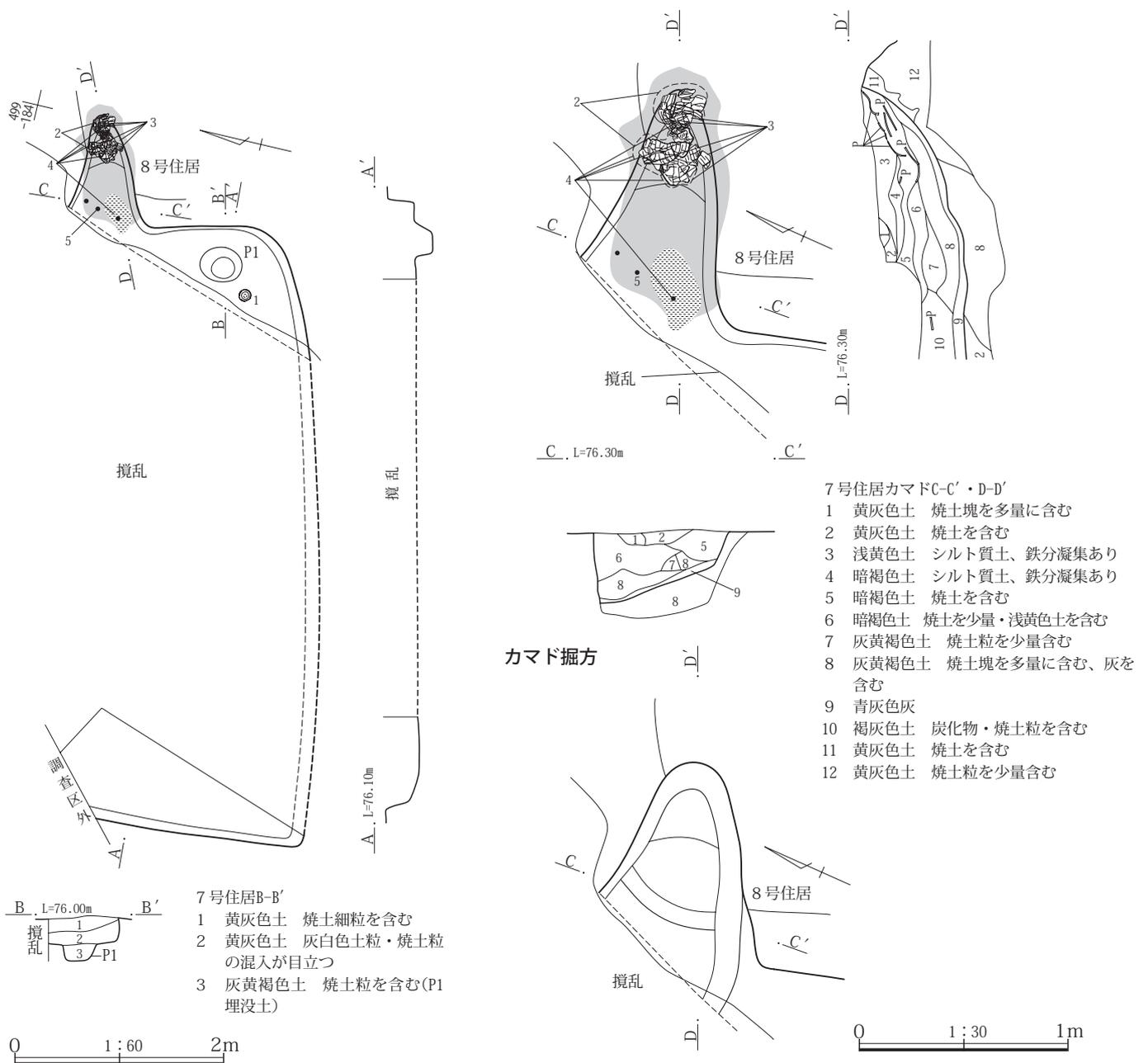
カマド 東壁で1か所確認された。袖は残存していなかった。カマド内側の幅は0.6m、長さは1.17mである。底面に灰層が広がり、その上に焼土塊が堆積していた。カマド全面に焼土が認められ、煙道では埋没土上位で土師器甕(2・3・4A・4B)が押し潰された状態で出土した。

柱穴 南東隅でP1を検出した。楕円形で、長径0.4m、短径0.34m、床面からの深さが0.16mである。焼土粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。

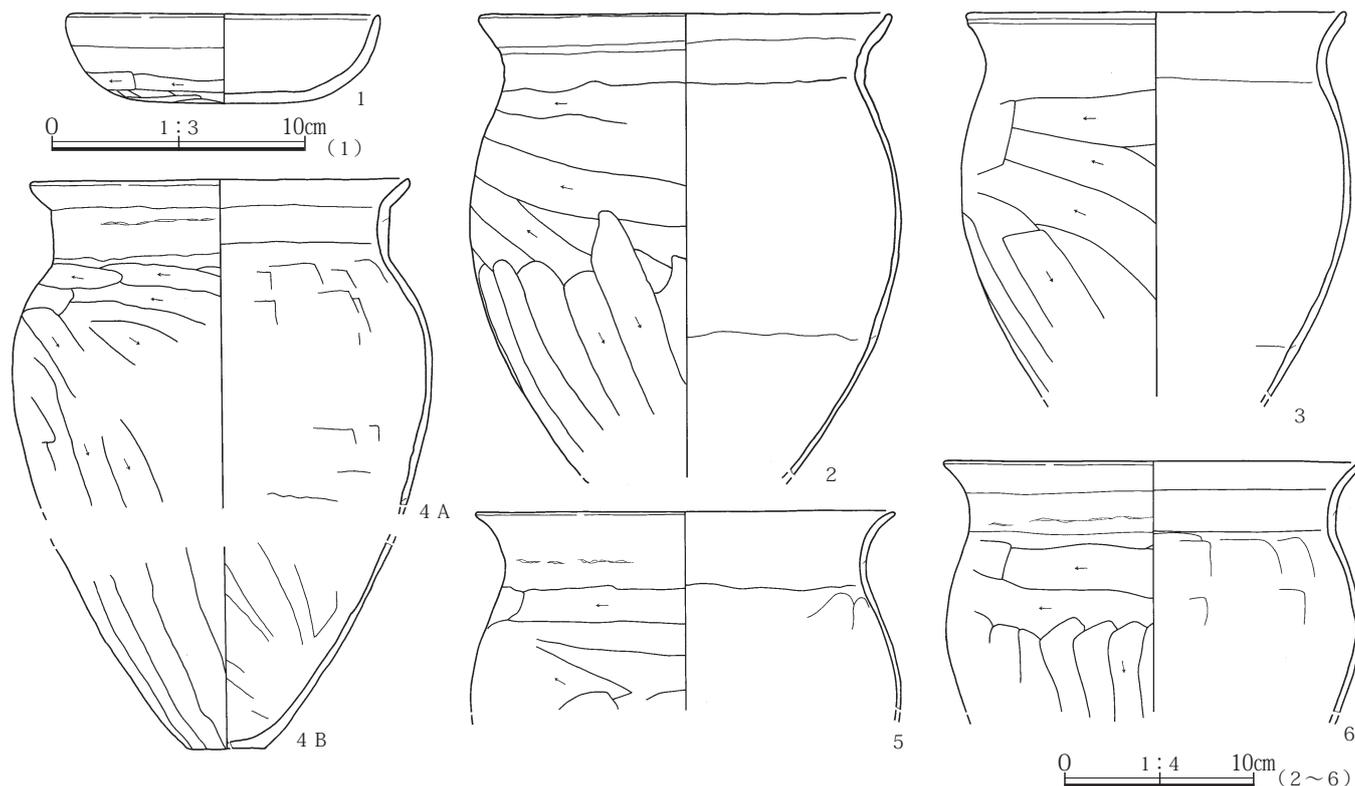
掘方 南側で高くなっているが、ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器109点、須恵器1点が出土し、このうち6点を図示した。すべて埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、住居の時期は9世紀中頃と推定される。



第103図 上西根1区7号竪穴住居



第104図 上西根1区7号竪穴住居出土遺物

1区8号竪穴住居(第105図 PL. 30・124)**位置** 1区南側調査区中央部

X=38,494~38,499 Y=-56,179~-56,184

主軸方位 不明

重複 1号・5号・7号住居と重複する。土層断面の観察から、本住居は1号・7号住居よりも古い。5号住居との新旧関係は発掘調査時には明らかにできなかったが、出土遺物から、本住居は5号住居より新しい。

形状と規模 平面形は不定形で、長軸長は5.2m、短軸長5.04mである。遺構検出面から床面までの深さは0.50m、掘方底面までの深さは0.74m、面積は21.8m²以上である。

埋没土 黄灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。噴砂が埋没土下位から上位まで確認された。

床面 灰白色粘土塊を含む灰褐色土で構築されている。住居中央部では硬化が認められた。東壁際で長径1.6m、短径1.35m、深さ2~11cmの浅い落ち込みが認められた。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 緩やかな凹凸があり、ピット状の落ち込みがあるものの、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器110点、須恵器7点が出土し、このうち7点を図示した。土師器皿(1)は床面上4cmで出土した。

所見 形状が不定形で、床面の硬化が認められたものの、カマド等の内部施設は検出されなかった。東側で1号住居と重複するが、1号住居の掘方底面が本住居の床面よりも25cm以上レベルが高く、カマドが付設されていた場合も確認できたと考えられる。また、焼土の分布も見られなかった。従って、本住居にはカマドは設置されていなかったと考えている。遺構の性格が住居以外の可能性がある。出土遺物から、時期は7世紀末から8世紀初頭と考えている。

1区9号竪穴住居(第106図 PL. 31・124)**位置** 1区南側調査区西壁際

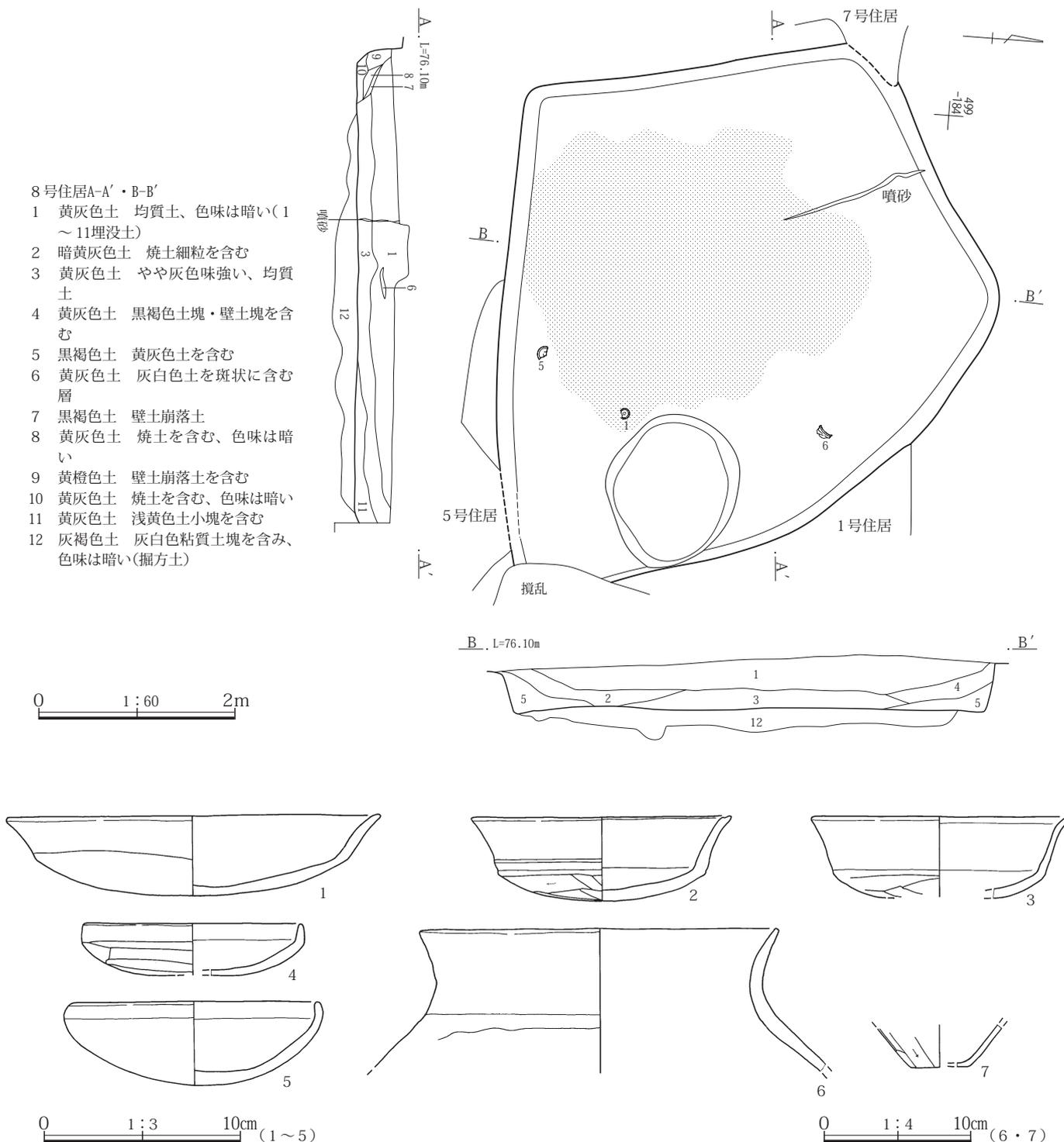
X=38,505~38,508 Y=-56,179~-56,181

主軸方位 N-80°-E

重複 2号住居と重複する。土層観察から新旧関係は明らかにできなかったが、出土遺物から本住居が新しい。

形状と規模 西側が調査区外だが、正方形または長方形と推定する。検出した東壁の長さは3.0m、南壁の長さは1.6m、遺構検出面から床面までの深さは0.19~0.29mである。

埋没土 調査区境の土層断面写真では黄灰色土を主体とする。



第105図 上西根1区8号竪穴住居と出土遺物

床面 ほぼ平坦である。

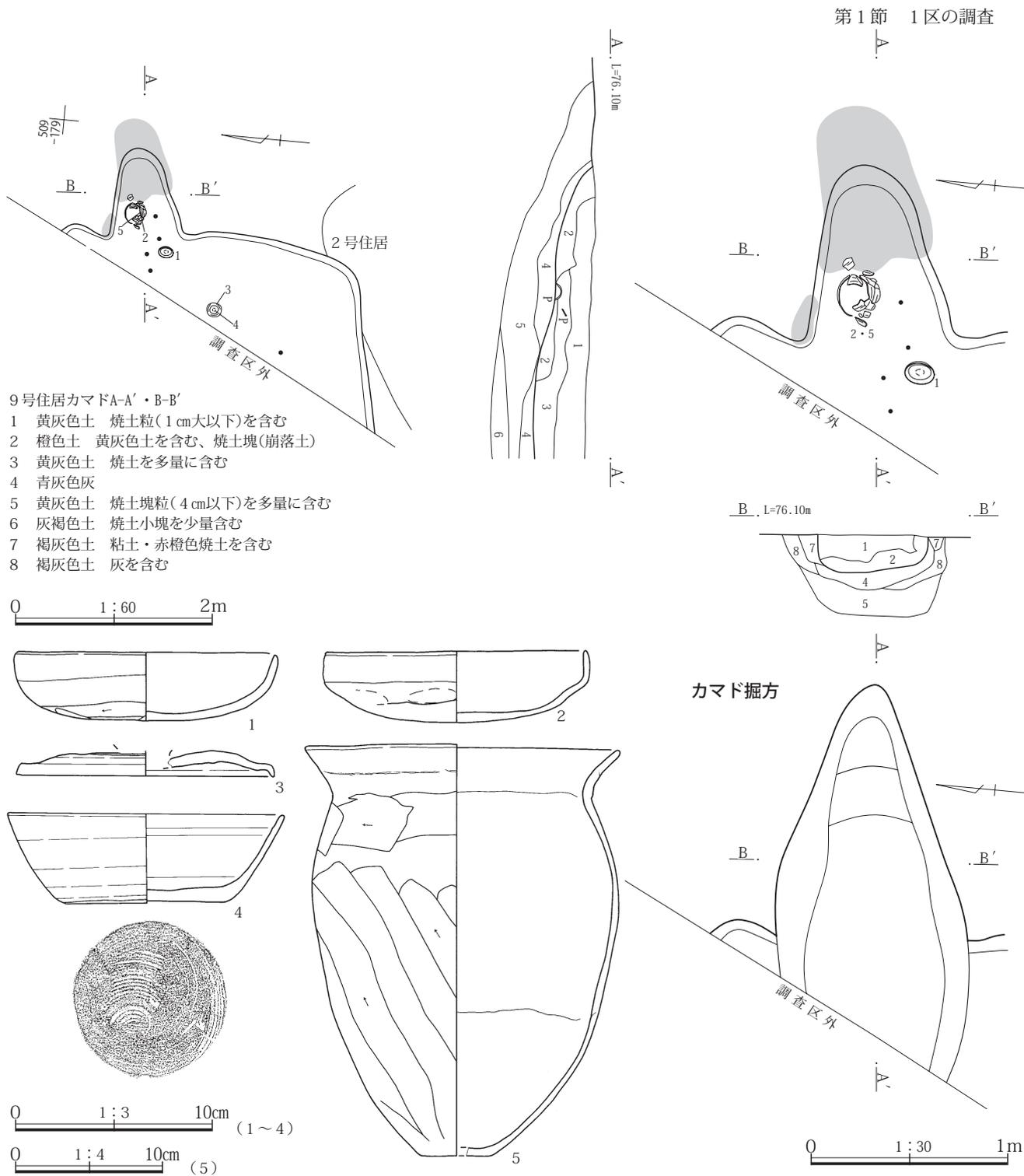
カマド 袖は残存していなかった。カマド内側の幅は0.7m、長さは0.95mである。使用面に灰層が広がり、煙道では焼土が認められた。土師器甕(5)が倒立した状態で検出され、口縁部はカマド掘方に食い込むような状態で出土した。また、焚き口周辺では、完形の土師器杯(1)が4層(灰層)直上から出土した。カマド掘方には焼土塊

を多量に含む黄灰色土が充填されていた。

柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器122点、須恵器8点が出土し、このうち5点を図示した。ほぼ完形の須恵器杯(4)が床面上1cmで出土した。

所見 出土遺物から、本住居の時期は8世紀後半と考えている。



第106図 上西根1区9号竪穴住居と出土遺物

1区10号竪穴住居(第107図 PL. 31・124)

位置 1区北側調査区東壁際

X=38,515~38,520 Y=-56,165~-56,170

主軸方向 N-10°-W

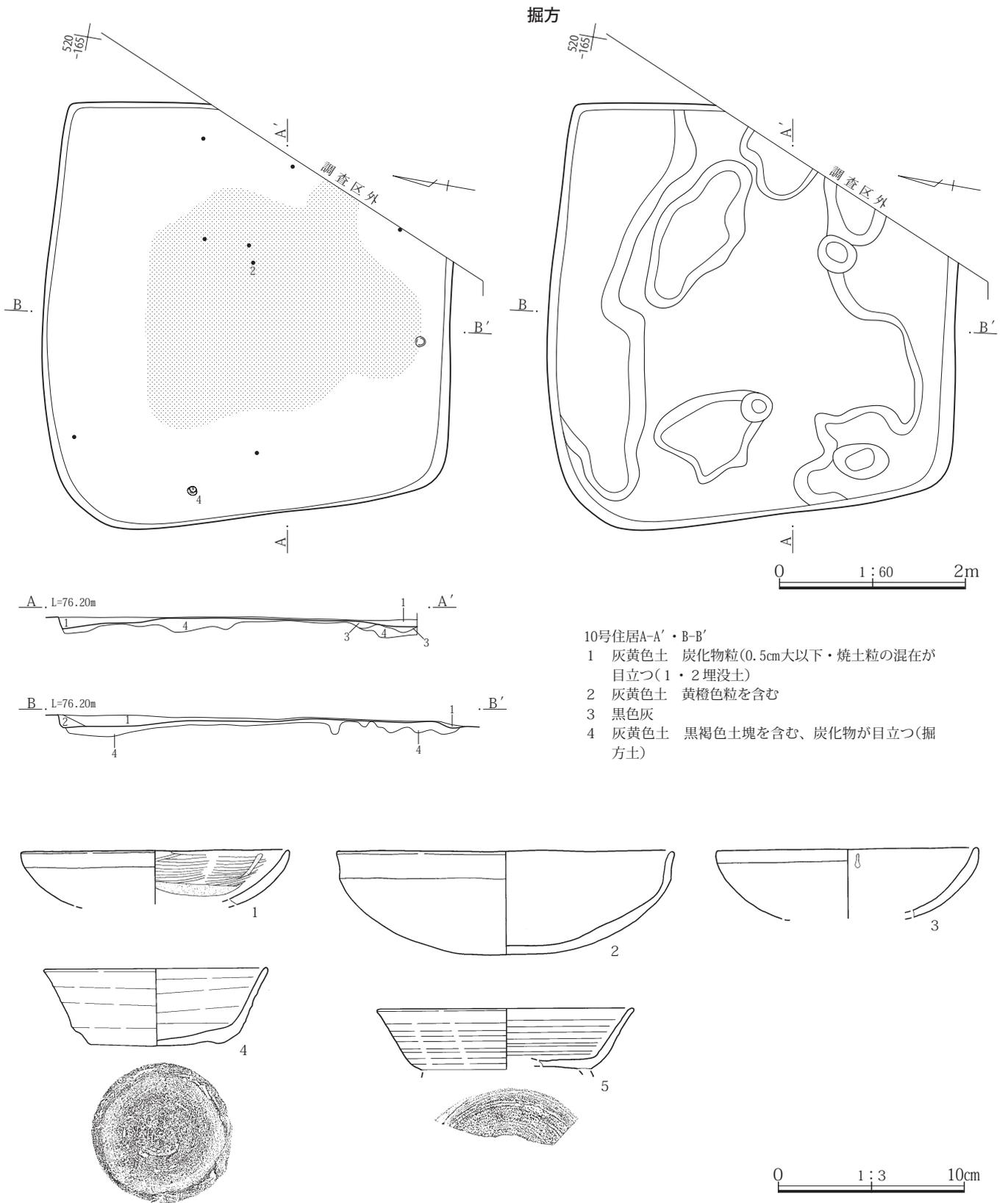
重複 なし

形状と規模 南東部は調査区外であったが、全体形を把握することはできた。正方形を呈し、長軸長4.62m、

短軸長4.4mである。遺構検出面から床面までの深さは約1~12cm、掘方底面までの深さは3~22cm、面積は16.82㎡以上である。

埋没土 炭化物粒および焼土粒を含む灰黄色土が堆積していた。

床面 黒褐色土塊を含む灰黄色土で構築されていた。東部では灰層の分布が認められ、東壁にカマドが設けられ



第107図 上西根1区10号竪穴住居と出土遺物

ていたと推定される。住居中央部で硬化が認められた。

柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の凹凸があり、側壁付近で低くなっている。

遺物と出土状態 土師器259点、須恵器18点、石製品2点、鉄製品2点が出土し、このうち5点を図示した。土師器杯(2)と須恵器杯(4)はともに床面上1cmから出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えられる。

1区11号竪穴住居(第108図 PL. 32)

位置 1区北側調査区南壁際

X=38,514 ~ 38,516 Y=-56,171 ~ -56,174

主軸方向 N-81°-E

重複 12号住居とわずかに重複する。土層観察から新旧関係は明らかではないが、出土遺物から本住居が古い。

形状と規模 南側は調査区外で、長方形または正方形を呈する。長軸長5.54m、短軸長4.74m、遺構検出面から床面までの深さは0.02~0.04m、掘方底面までの深さは0.09~0.14mである。

埋没土 灰黄色土を主体とする。

床面 灰白色土塊と黒褐色土粒を含む灰黄色土で構築さ

れていた。住居中央部で硬化が見られた。

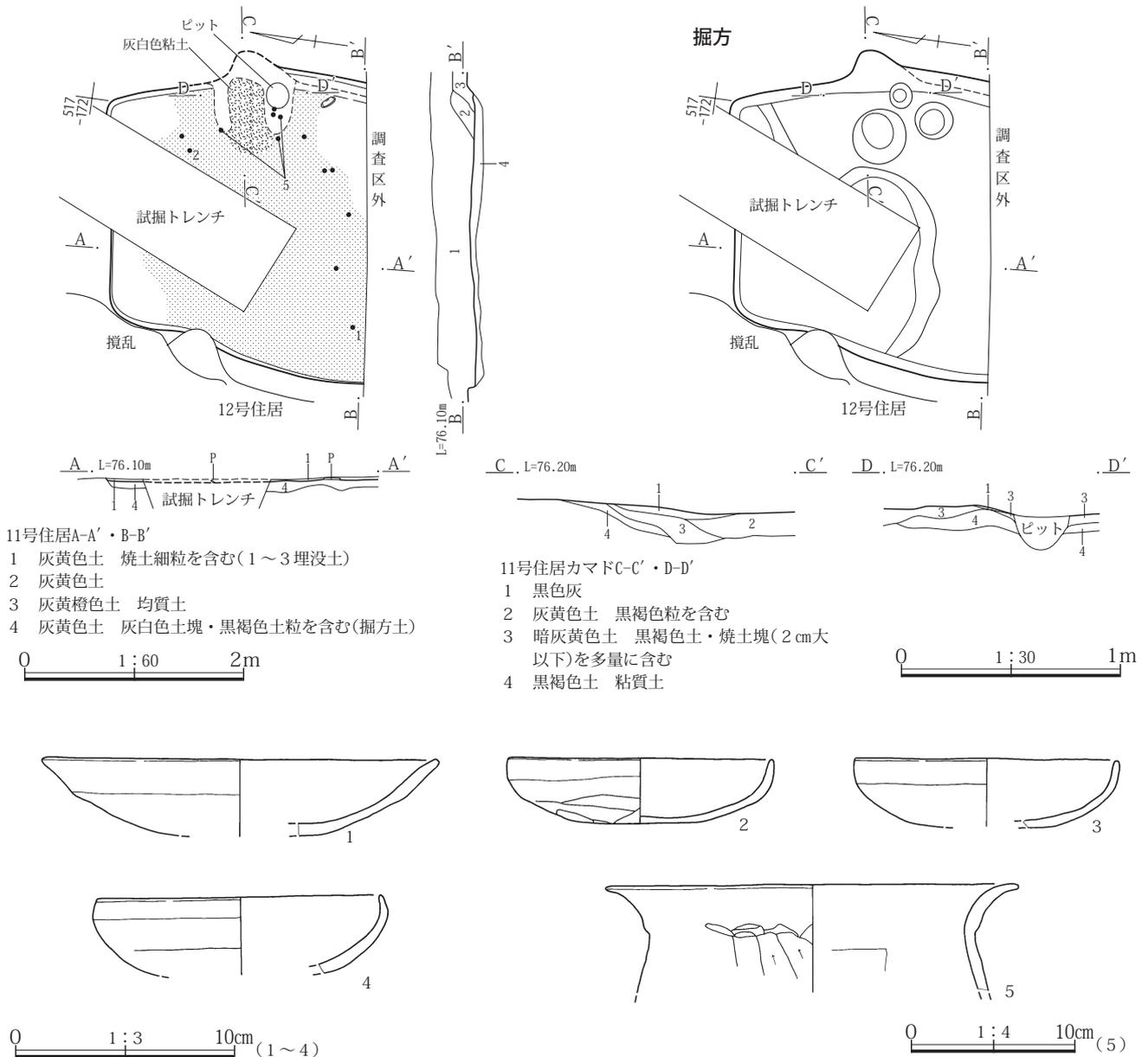
カマド 東壁で1か所検出された。袖の残存は僅かであったが、灰白色粘土で構築されていた。燃烧部には焼土と灰の分布が見られた。カマド掘方には、灰黄色土や焼土塊を多量に含む暗灰黄色土、黒褐色土が充填されていた。

柱穴 検出されなかった。

掘方 僅かな落ち込みがあるものの、ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器62点、須恵器4点が出土し、このうち5点を図示した。土師器皿(1)が床面直上から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末から8世紀初頭と考えられる。



第108図 上西根1区11号竪穴住居と出土遺物

1区12号竪穴住居(第109図 PL. 32・124)

位置 1区北側調査区南西壁際

X=38,514 ~ 38,516 Y=-56,174 ~ -56,176

主軸方向 北部は攪乱で失われ、南部と西部は調査区外のため、一部のみの調査であったことから、不明である。

重複 11号住居、5号・6号土坑と重複する。土層観察から、5号・6号土坑の方が新しい。11号住居との新旧関係は調査時には明らかにできなかったが、出土遺物から本住居が新しい。

形状と規模 形状は不明で、残存する最大長、最大幅はそれぞれ2.6m、2.48mである。遺構検出面から床面までの深さは0.35m、掘方底面までの深さは0.45mである。

埋没土 灰黄色土および浅黄色土を主体とする。3層は浅黄色シルト層、4層は浅黄色の砂層で、ともに洪水による堆積層と考えられる。

床面 焼土粒を多量に含む黄褐色土で構築されている。南部に落ち込みがあるものの、おおむね平坦である。住居中央部付近に硬化が確認された。

カマド 東壁で1か所検出された。攪乱によって大きく失われ、煙道の一部を調査したのみである。煙道には焼

土が認められた。

柱穴 掘方調査中にP1が検出された。カマド付近に位置し、円形である。長径0.28m、短径0.25m、深さ0.33mである。埋没土中に住居埋没土3層・4層で見られた浅黄色の洪水層は認められなかった。

掘方 土坑状の落ち込みがあり、西側で低くなっている。
遺物と出土状態 土師器38点、須恵器5点が出土した。細片が多く、1点を図示した。床面から出土した遺物はなかった。円盤状土製品(1)は須恵器杯の底部を整形し転用したと考えられる。

所見 出土遺物から、時期は8世紀から9世紀と考えている。

1区13号竪穴住居(第110・111図 PL. 33・124・125)

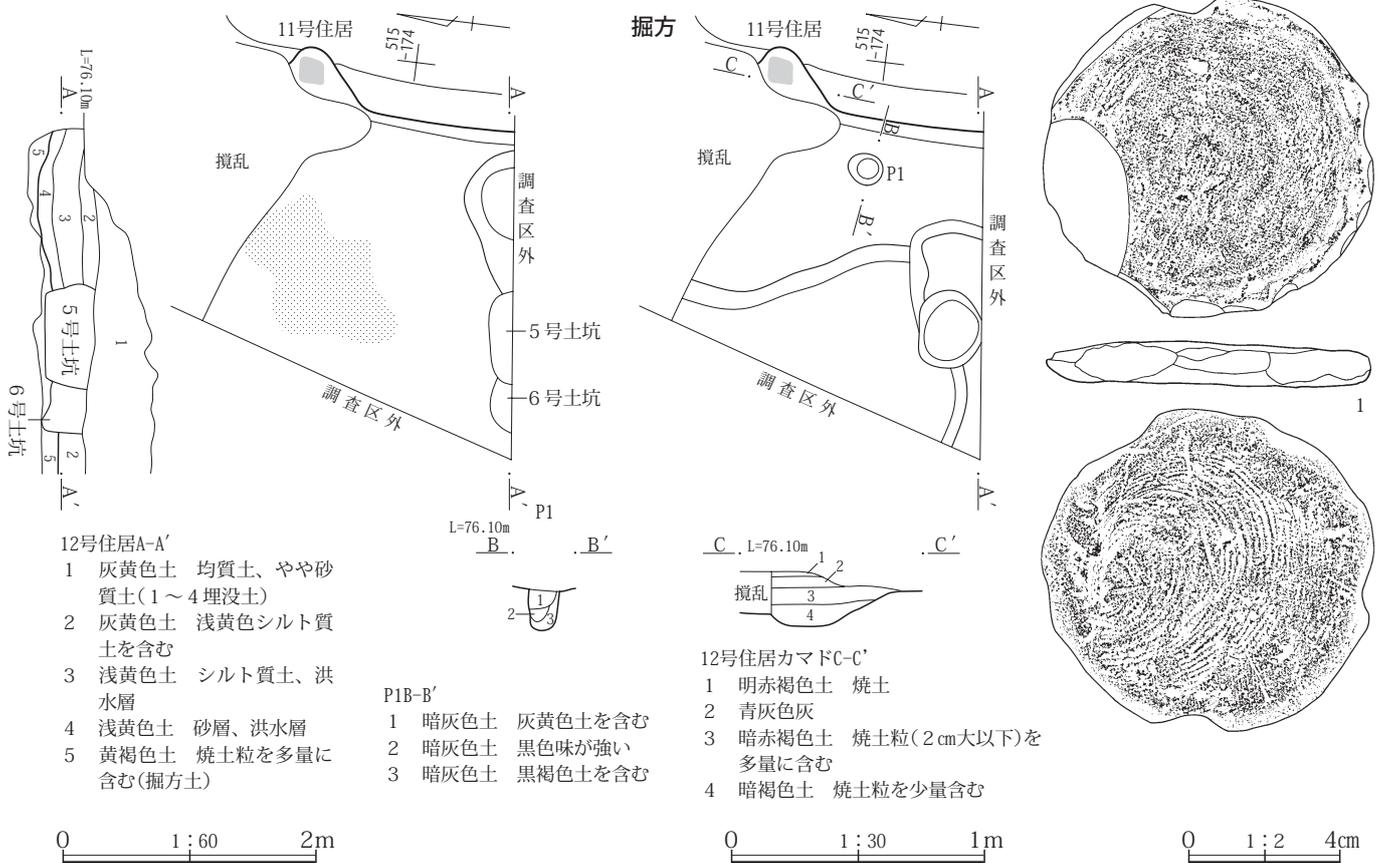
位置 1区北側調査区中央部

X=38,523 ~ 38,528 Y=-56,167 ~ -56,171

主軸方位 N-65°-W

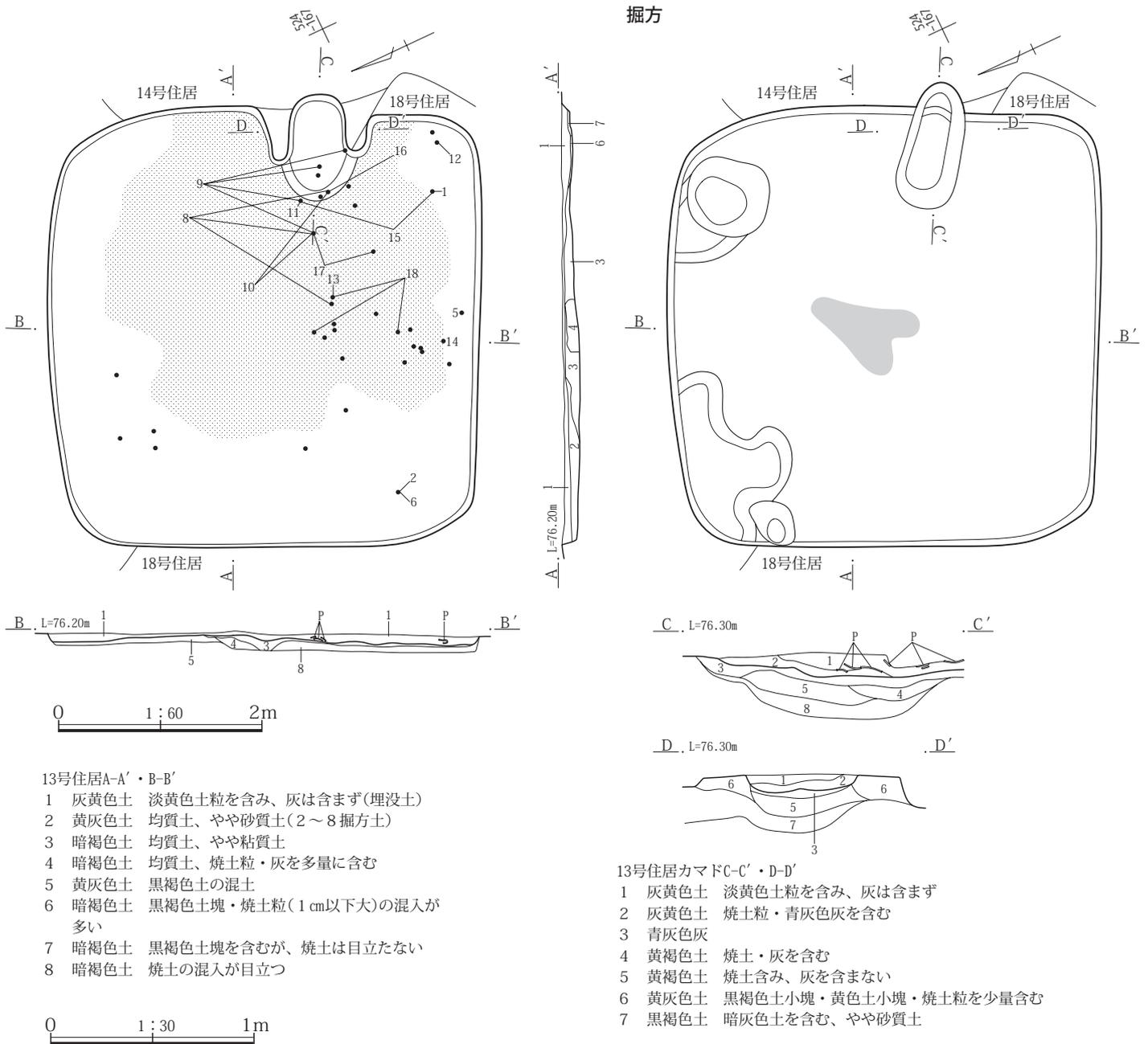
重複 14号・18号住居と重複する。遺構検出時の観察から、いずれの住居よりも本住居が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は4.4m、短軸



第109図 上西根1区12号竪穴住居と出土遺物

掘方



第110図 上西根1区13号竪穴住居

長4.24mである。遺構検出面から床面までの深さは0.05~0.1m、掘方底面までの深さは0.1~0.16m、面積は17.5㎡である。

埋没土 灰黄色土を主体とする。住居内堆積土4層は焼土粒・灰を多量に含む暗褐色土で、本住居より古い18号住居のカマドの土と考えられる。

床面 カマド周辺から住居中央部にかけて広く硬化が見られた。

カマド 東壁で1か所検出された。遺存状況は良好ではないが、袖を検出することができた。袖は黄灰色土で構築されていた。袖の長さは0.59m、焚き口幅は0.53m、

焚き口から煙道の長さは1.07mである。

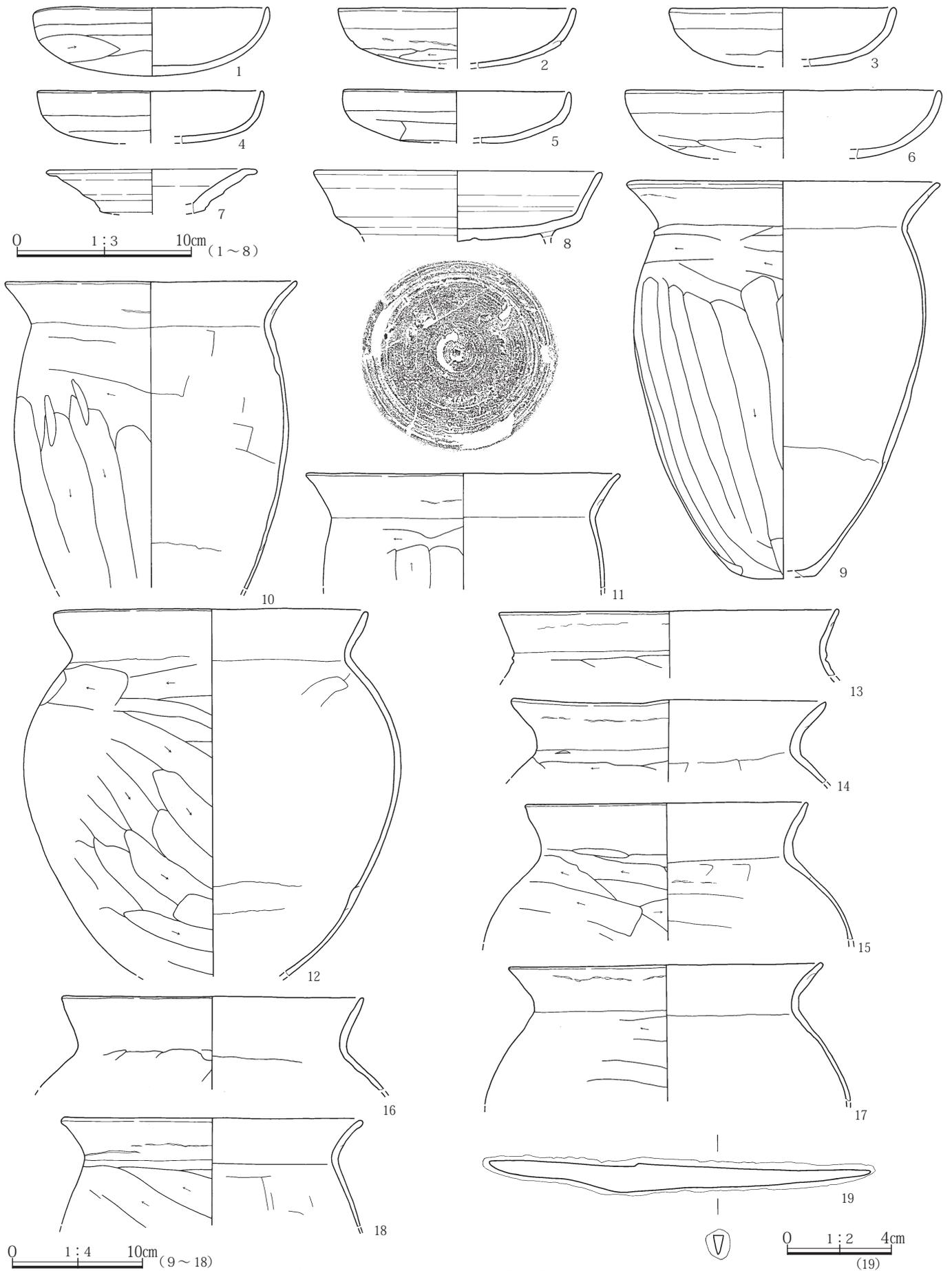
貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 北壁付近に土坑状の落ち込みがあり平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器344点、須恵器18点、礫1点、鉄製品1点が出土し、このうち19点を図示した。カマド焚き口から住居南部にかけて、土師器甕(9~11・13・15~18)が床上0~2cmで押しつぶされた状態で検出された。また、土師器杯(1)と須恵器杯(8)も床面付近で出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えられる。

第4章 上西根遺跡の調査



第111図 上西根1区13号竪穴住居出土遺物

1区14号竪穴住居(第112図 PL. 33・125)

位置 1区北側調査区中央部

X=38,522~38,526 Y=-56,163~-56,167

主軸方位 N-9°-E

重複 13号・18号住居と重複する。遺構検出時の観察から、13号住居より古い。18号住居との新旧関係は調査時には明らかにできなかったが、出土遺物から本住居が18号住居よりも新しい。

形状と規模 平面形は不定形で、長軸長は4.34m、短軸長3.4mである。遺構検出面から床面までの深さは0.03~0.11m、面積は14.25㎡である。

埋没土 1層のみで、炭化物を含む灰黄色土である。

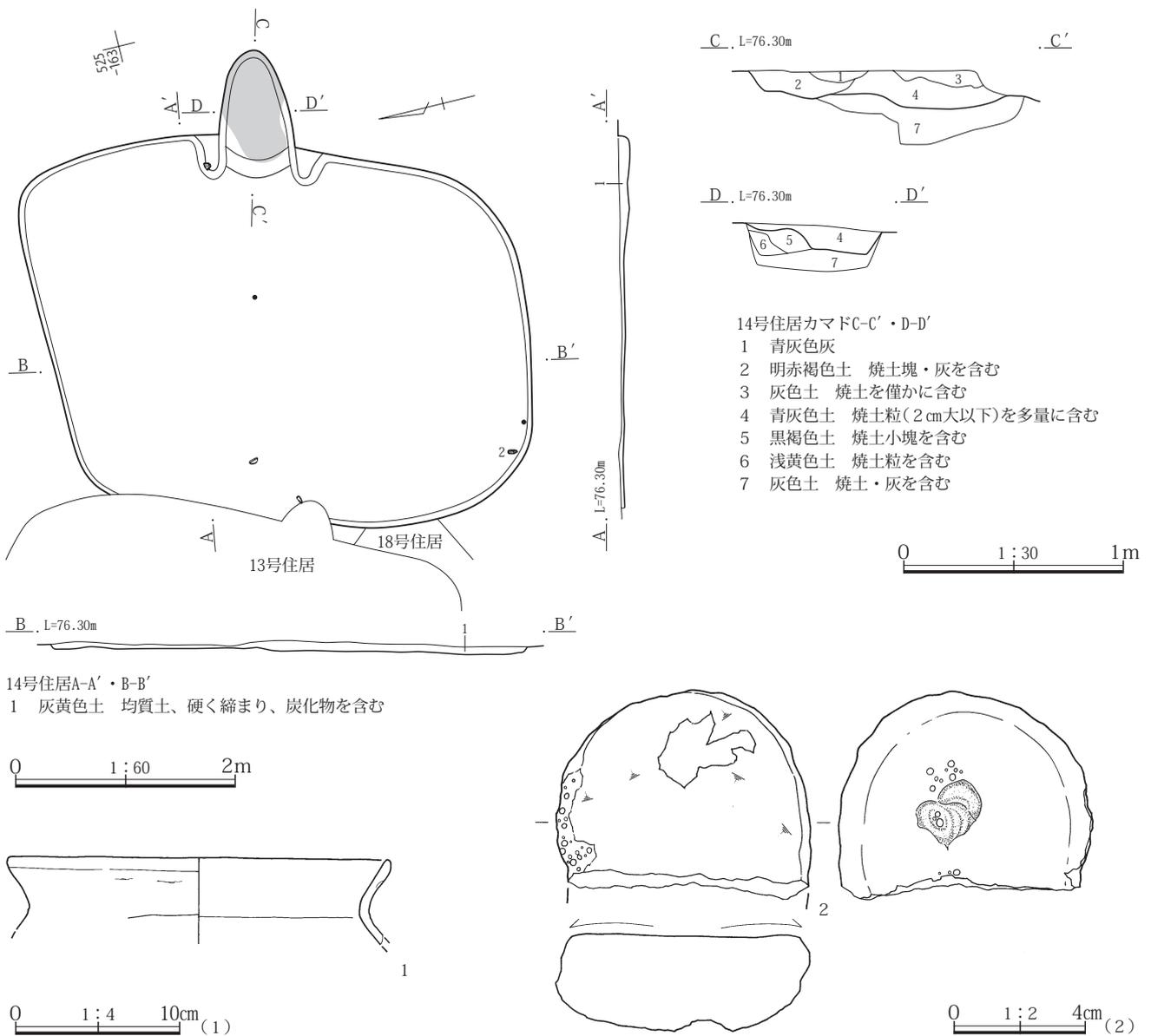
床面 ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出された。袖の長さは0.41m、焚き口幅は0.64m、焚き口から煙道の長さは1.17mである。燃烧部から煙道にかけて焼土が分布していた。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器125点、須恵器7点、石製品1点、礫1点が出土し、このうち2点を図示した。礫を素材にした砥石(2)は南西隅の床面直上で出土した。床面から出土した土器はなかった。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と推定される。



第112図 上西根1区14号竪穴住居と出土遺物

1区15号竪穴住居(第113図 PL. 33・125)

位置 1区北側調査区西壁際

X=38,529~38,534 Y=-56,165~-56,170

主軸方位 N-70°-W

重複 16号住居と重複する。遺構検出時の観察から、本住居が新しい。

形状と規模 西側が調査区外である。平面形は長方形または正方形で、東壁の長さは4.3m、南壁の長さは3.15m、遺構検出面から床面までの深さは0.08mである。

埋没土 黒褐色土塊や焼土粒を含む灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所確認された。袖は残存していない。

カマドの幅は0.68m、長さは1mである。燃烧部および

煙道に炭と焼土が分布していた。カマド掘方では、多量の焼土塊を含む明赤褐色土層と青灰色灰層(最大厚12cm)が認められた。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 部分的に黒褐色土を含む灰黄色土が充填されていた。

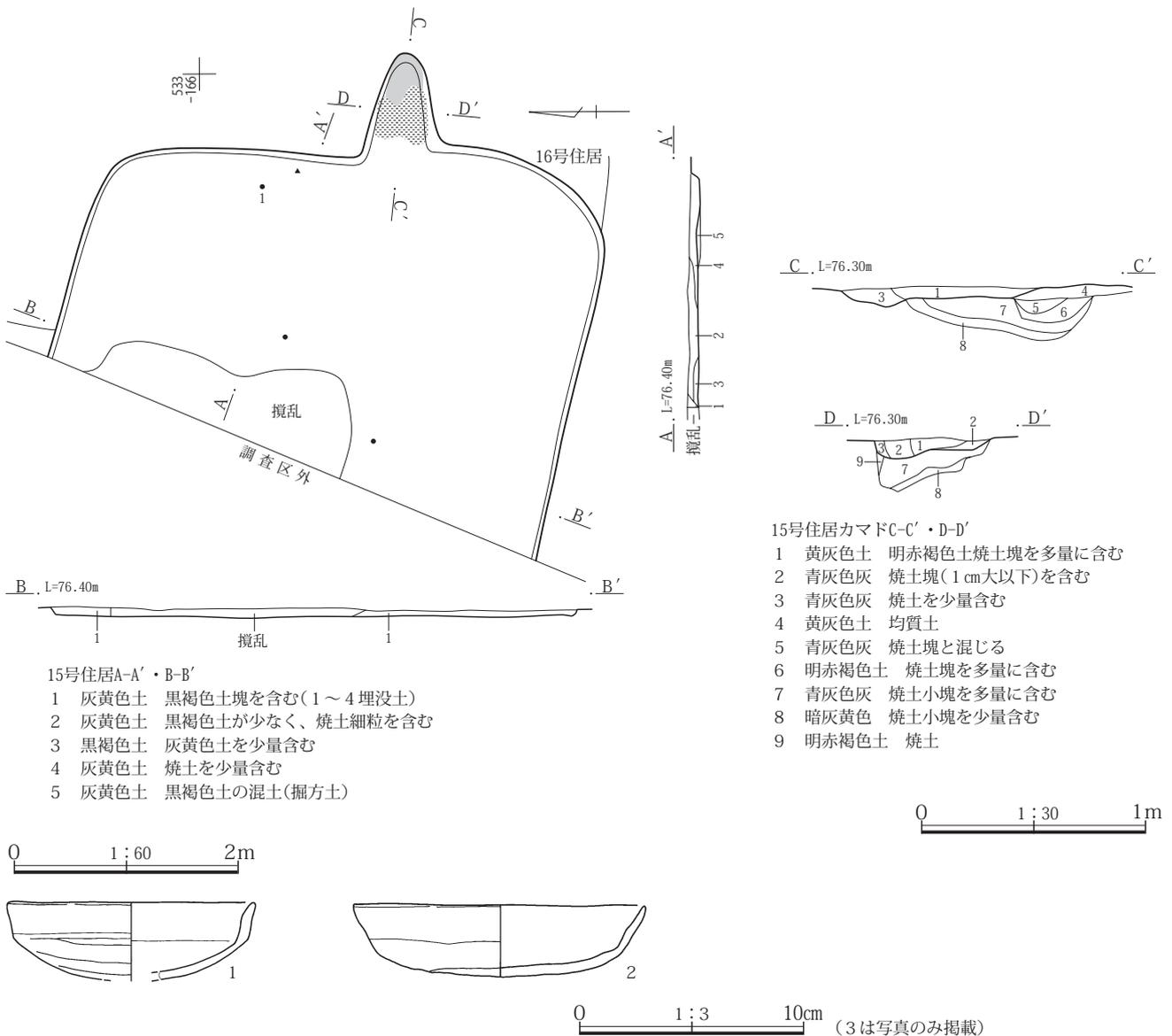
遺物と出土状態 土師器61点、須恵器8点、石製品1点が出土した。このうち2点を図示し、石製品1点を写真のみ掲載した。土師器杯(1)が床面上3cmで出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀代と考えられる。

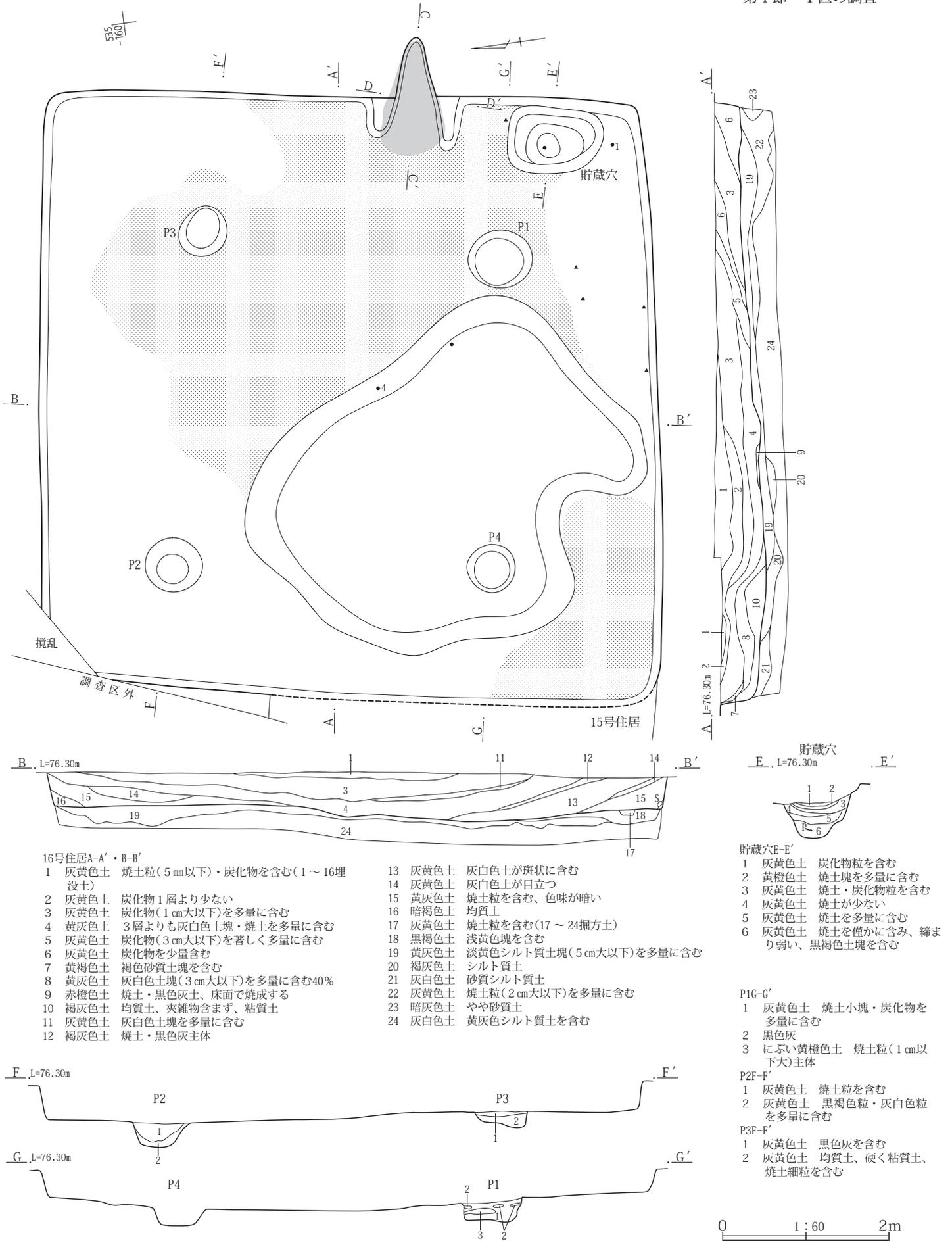
1区16号竪穴住居(第114・115図 PL. 34・35・125)

位置 1区北側調査区北部

X=38,529~38,536 Y=-56,160~-56,168



第113図 上西根1区15号竪穴住居と出土遺物



16号住居A-A'・B-B'

- 1 灰黄色土 焼土粒(5mm以下)・炭化物を含む(1~16埋没土)
- 2 灰黄色土 炭化物1層より少ない
- 3 灰黄色土 炭化物(1cm大以下)を多量に含む
- 4 黄灰色土 3層よりも灰白色土塊・焼土を多量に含む
- 5 灰黄色土 炭化物(3cm大以下)を著しく多量に含む
- 6 灰黄色土 炭化物を少量含む
- 7 黄褐色土 褐色砂質土塊を含む
- 8 黄灰色土 灰白色土塊(3cm大以下)を多量に含む40%
- 9 赤橙色土 焼土・黒色灰土、床面で焼成する
- 10 褐灰色土 均質土、夾雑物含まず、粘質土
- 11 灰黄色土 灰白色土塊を多量に含む
- 12 褐灰色土 焼土・黒色灰主体

- 13 灰黄色土 灰白色土が斑状に含む
- 14 灰黄色土 灰白色土が目立つ
- 15 黄灰色土 焼土粒を含む、色味が暗い
- 16 暗褐色土 均質土
- 17 灰黄色土 焼土粒を含む(17~24掘方土)
- 18 黒褐色土 浅黄色塊を含む
- 19 黄灰色土 淡黄色シルト質土塊(5cm大以下)を多量に含む
- 20 褐灰色土 シルト質土
- 21 灰白色土 砂質シルト質土
- 22 灰黄色土 焼土粒(2cm大以下)を多量に含む
- 23 暗灰色土 やや砂質土
- 24 灰白色土 黄灰色シルト質土を含む

貯蔵穴E-E'

- 1 灰黄色土 炭化物粒を含む
- 2 黄橙色土 焼土塊を多量に含む
- 3 灰黄色土 焼土・炭化物粒を含む
- 4 灰黄色土 焼土が少ない
- 5 灰黄色土 焼土を多量に含む
- 6 灰黄色土 焼土を僅かに含み、縮まり弱い、黒褐色土塊を含む

P1G-G'

- 1 灰黄色土 焼土小塊・炭化物を多量に含む
- 2 黒色灰
- 3 にぶい黄橙色土 焼土粒(1cm以下大)主体

P2F-F'

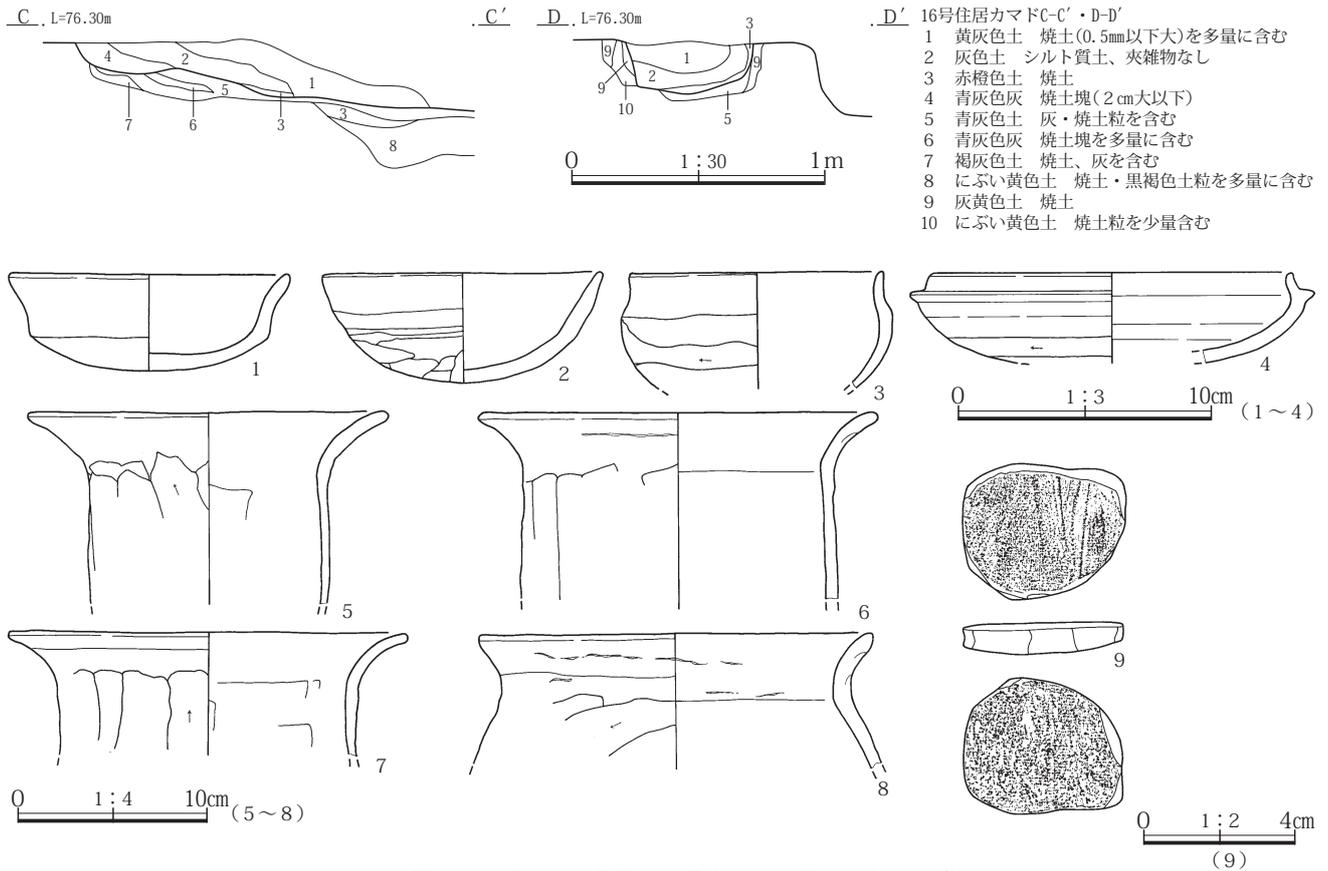
- 1 灰黄色土 焼土粒を含む
- 2 灰黄色土 黒褐色粒・灰白色粒を多量に含む

P3F-F'

- 1 灰黄色土 黒色灰を含む
- 2 灰黄色土 均質土、硬く粘質土、焼土細粒を含む

第114図 上西根1区16号竪穴住居

第4章 上西根遺跡の調査



第115図 上西根1区16号竪穴住居カマド土層断面と出土遺物

主軸方向 N-83°-W

重複 15号住居と重複し、遺構検出時の観察から、本住居が古い。

形状と規模 北西隅を攪乱で失われているものの、全体を調査することができた。形状は正方形で、長軸長は7.44m、短軸長は7.38mである。遺構検出面から床面までの深さは0.31~0.6m、掘方底面までの深さは0.75~0.9m、面積は約53.9㎡である。

埋没土 灰黄色土または黄灰色土を主体とする。西側に堆積している8層・10層は人為堆積の可能性が高い。それ以外は自然堆積と考えている。

床面 淡黄色シルト塊を多量に含む黄灰色土で構築されていた。住居南西部で4~15cm低くなっているが、おおむね平坦である。カマド周辺と中央部、北西隅で硬化が認められた。

カマド 東壁で1か所検出した。カマドの遺存状況は良好で、袖の長さは0.65m、焚き口幅0.6m、焚き口から煙道までの長さは1.44mである。焚き口から煙道にかけて、底面および側壁で焼土が広がっていた。2層は灰色シルトで、水成堆積物の様相を示す。住居内埋没土には

なく、カマドにのみ堆積していた。

貯蔵穴 カマド右袖付近で検出された。平面形は楕円形で、西側で一段低くなっている。長径1.15m、短径0.8m、床面からの深さは0.42mである。1層は炭化物粒を含む灰黄色土で、2層は焼土塊を多量に含む黄橙色土である。

柱穴 P1~P4を検出した。位置や大きさ、深さ、埋没土などから主柱穴と判断した。各ピットの大きさは以下の通り。

P1は長径0.77m、短径0.7m、深さ0.25m、円形。

P2は長径0.7m、短径0.66m、深さ0.3m、円形。

P3は長径0.62m、短径0.56m、深さ0.14m、円形。

P4は長径0.59m、短径0.57m、深さ0.19m、円形。

柱穴間の距離は、P1とP4間は3.75m、P4とP2間は2.5m、P2とP3間は4.1m、P3とP1間は3.6mである。

掘方 ほぼ平坦だが、南西部で10cm程度低くなっている。

遺物と出土状態 土師器601点、須恵器13点、土製品1点が出土し、このうち9点を図示した。

所見 一辺7m以上の大型の竪穴住居である。住居の大きさに比べ出土遺物が少なかった。出土遺物から、住居の時期は7世紀前半と考えている。

1区17号竪穴住居(第116図 PL. 36・125)

位置 1区北側調査区南西部

X=38,519~38,521 Y=-56,172~-56,174

主軸方位 攪乱で住居の大部分が失われているため、不明である。

重複 18号住居と重複し、遺構検出時と土層断面の観察から、本住居が新しい。

形状と規模 一部のみの調査であるが、平面形は不定形で、検出された東壁の長さは1.35m、南壁1.42mである。遺構検出面から床面までの深さは0.34mである。

埋没土 黄灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出された。袖の長さは0.3m、焚き口幅は0.43m、焚き口から煙道の長さは0.62mである。燃焼部および煙道では青灰色の灰層が確認され、その上位に焼土塊を多量に含む灰黄色土が堆積していた。5は板状で、器財埴輪の一部と考えられるが、右袖付近の埋没土から出土した。出土位置から、カマドの補強材に使用した可能性がある。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器79点、須恵器5点が出土し、こ

のうち5点を図示した。すべて埋没土から出土した。

所見 遺構の重複および出土遺物から、住居の時期は7世紀後半と推定される。

1区18号竪穴住居(第117・118図 PL. 36・37・125)

位置 1区北側調査区西壁

X=38,520~38,528 Y=-56,167~-56,173

主軸方向 N-56°-E

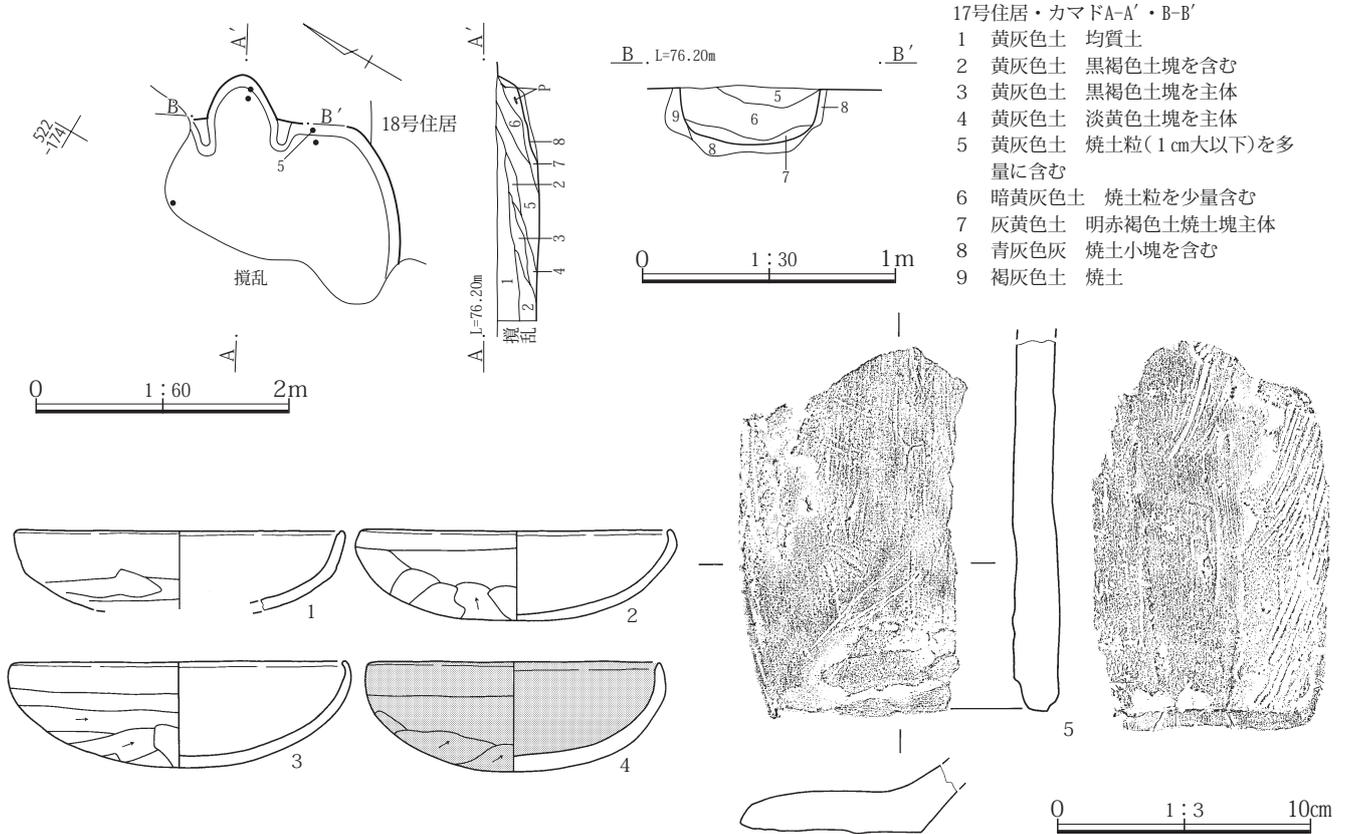
重複 13号・14号・17号住居と重複し、遺構検出時の観察や出土遺物から、いずれの住居よりも本住居が古い。

形状と規模 西側は調査区外だが、平面形は長方形または正方形で、長軸長は6.46m、短軸長は6.0mである。遺構検出面から床面までの深さは0.28m、面積は28.5㎡以上である。

埋没土 灰黄色土および灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

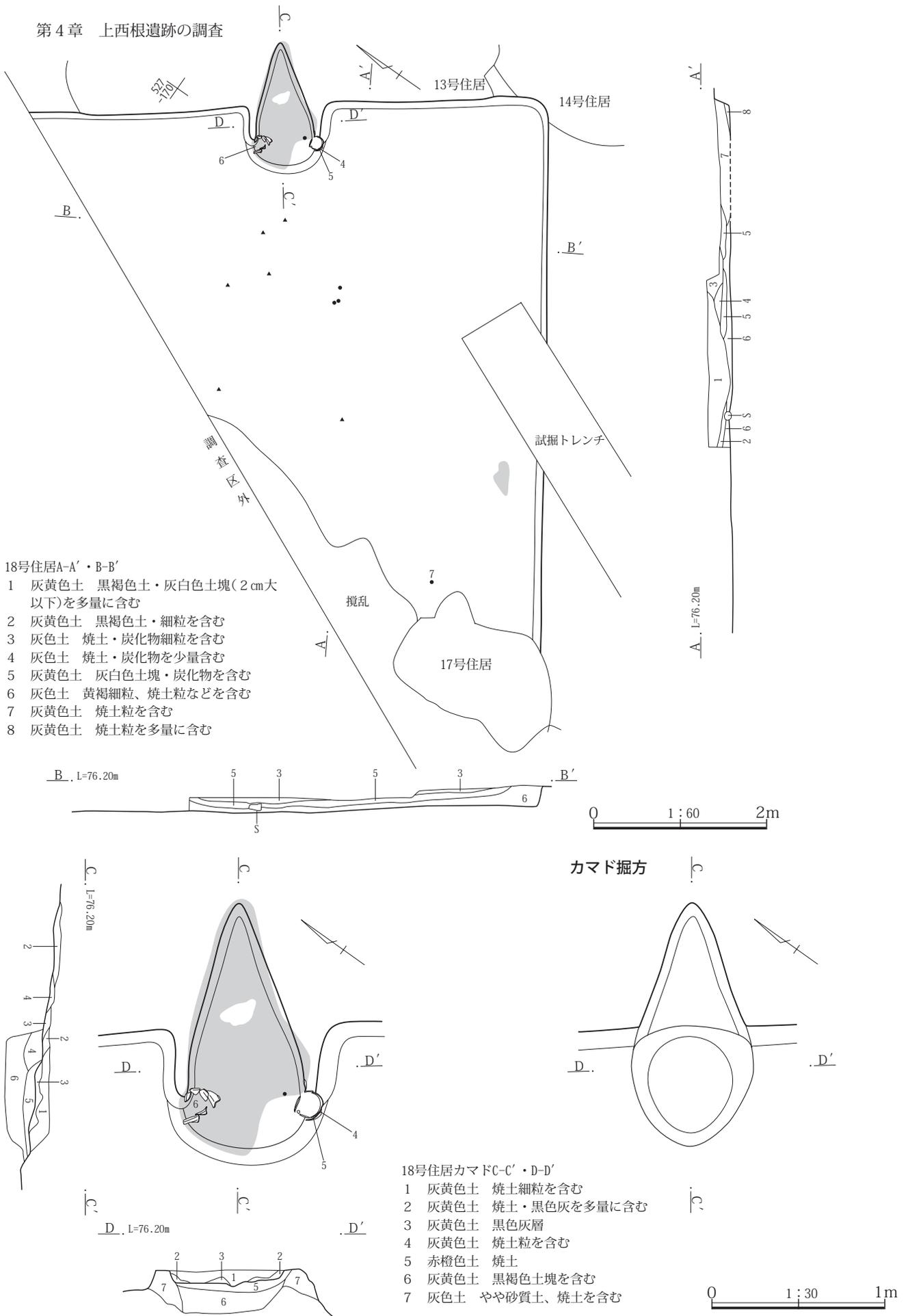
床面 ほぼ平坦である。南壁付近で40cm×20cmの範囲に焼土塊が検出された。焼土塊は床面から7cm程度上位であった。これ以外に焼土や炭化物の広がりはなかった。

カマド 東壁で1か所検出した。カマドの遺存状況は良好ではない。残存する袖の長さは0.48m、焚き口幅0.6m、

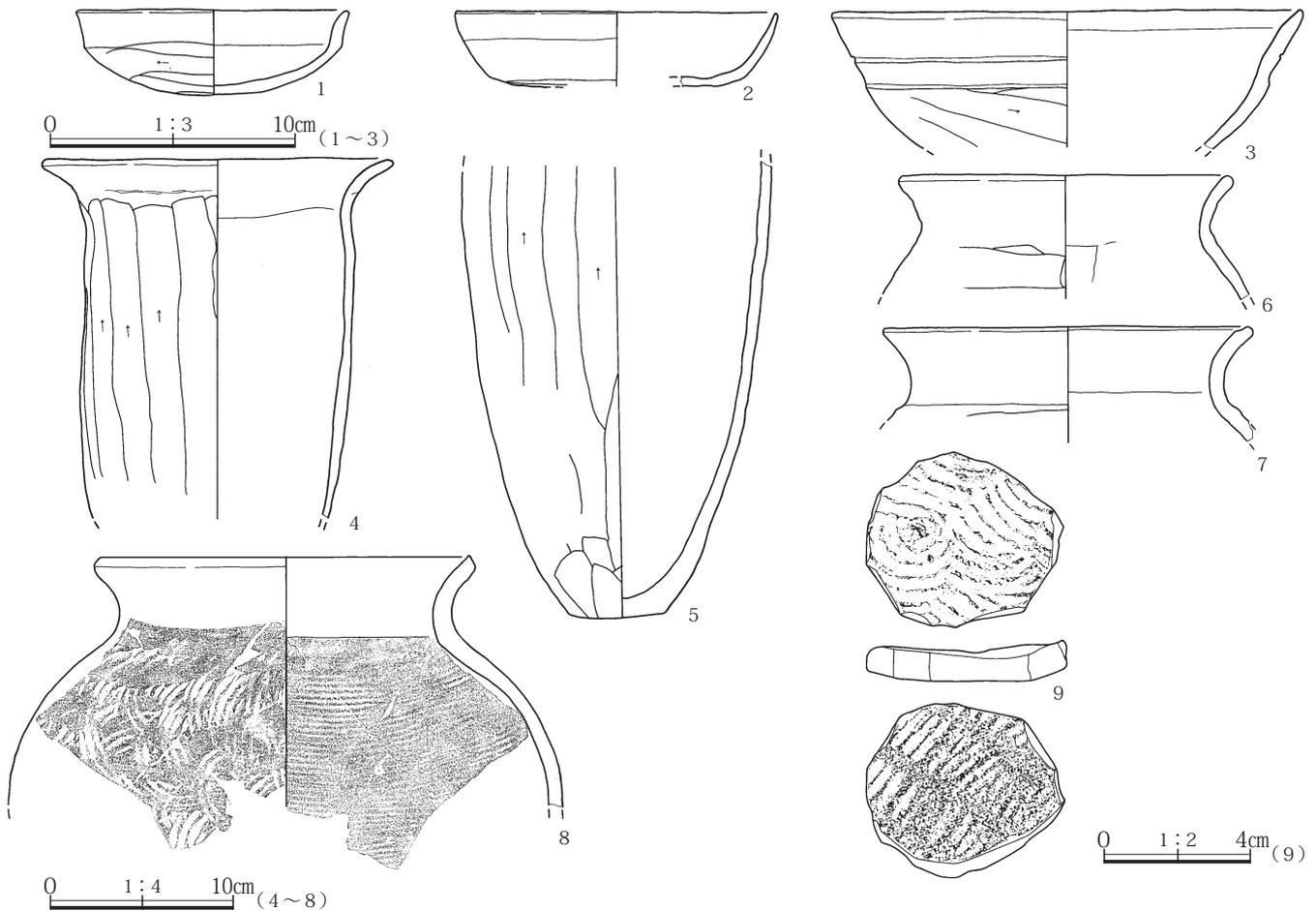


第116図 上西根1区17号竪穴住居と出土遺物

第4章 上西根遺跡の調査



第117図 上西根1区18号竪穴住居



第118図 上西根1区18号竪穴住居出土遺物

焚き口から煙道までの長さは1.53mである。右袖では土師器甕(4・5)が倒立した状態で出土した。左袖では右袖ほど明瞭ではなかったものの、土師器甕(6)の破片が出土している。燃烧部側壁および底面には焼土面が認められた。底面では被熱による赤色変化がカマド使用面より7cm程度下位にまで及んでいる。焼土面の上には黒色の灰層が部分的に堆積していた。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器85点、須恵器5点、土製品1点が出土し、このうち9点を図示した。住居南西部で、土師器甕(7)が床面直上から出土している。

所見 一辺6m以上の大型の竪穴住居である。出土遺物から、時期は7世紀中頃と考えている。

3. 井戸

井戸は1区北側調査区で2基検出された。ともにVb層上面で検出した。

1区1号井戸(第119図 PL. 37・125)

位置 1区北側調査区南部

X=38,517~38,519 Y=-56,171~-56,173

長軸方向 N-0°-S

重複 なし

形状と規模 東側の上端は試掘トレンチにより失われている。平面形は楕円形で、長径は1.7m、短径1.35mである。遺構検出面から底面までの深さは2.78mである。

埋没土 土層の記録は上部のみで、それより下の記録は困難であった。灰黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示している。

遺物と出土状態 土師器56点、須恵器10点、木製品3点が出土し、このうち7点を図示した。すべて埋没土中から出土した。

所見 出土遺物から、時期は古代以降と考えられるが詳細は不明である。

1区2号井戸(第119図 PL. 37)

位置 1区北側調査区東壁寄り

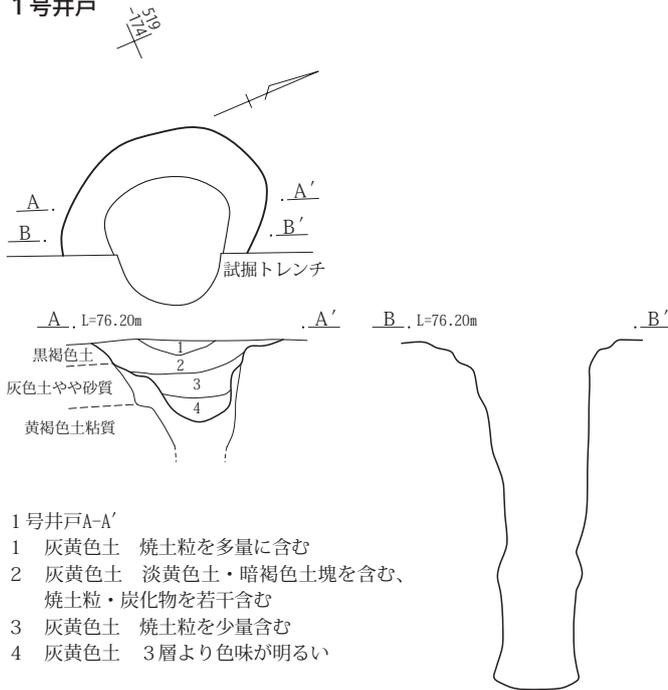
X=38,526・38,527 Y=-56,162・-56,163

長軸方向 N-13°-W

重複 なし

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径は0.93m、短径0.85mである。遺構検出面から底面までの深さは2.25mである。

1号井戸



1号井戸A-A'

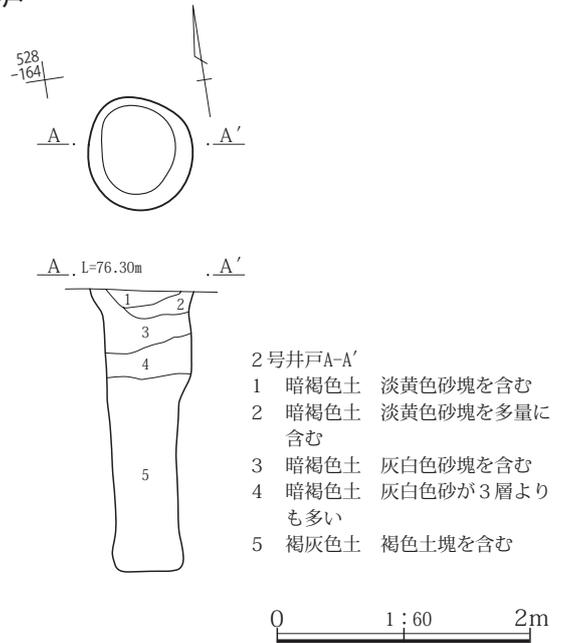
- 1 灰黄色土 焼土粒を多量に含む
- 2 灰黄色土 淡黄色土・暗褐色土塊を含む、焼土粒・炭化物を若干含む
- 3 灰黄色土 焼土粒を少量含む
- 4 灰黄色土 3層より色味が明るい

埋没土 土層の記録は上部のみで、それより下の記録は困難であった。砂を塊状に含む暗褐色土を主体とし、人為堆積の可能性が高い。

遺物と出土状態 土師器2点、須恵器3点が出土した。いずれも細片のため図示しなかった。すべて埋没土中から出土した。

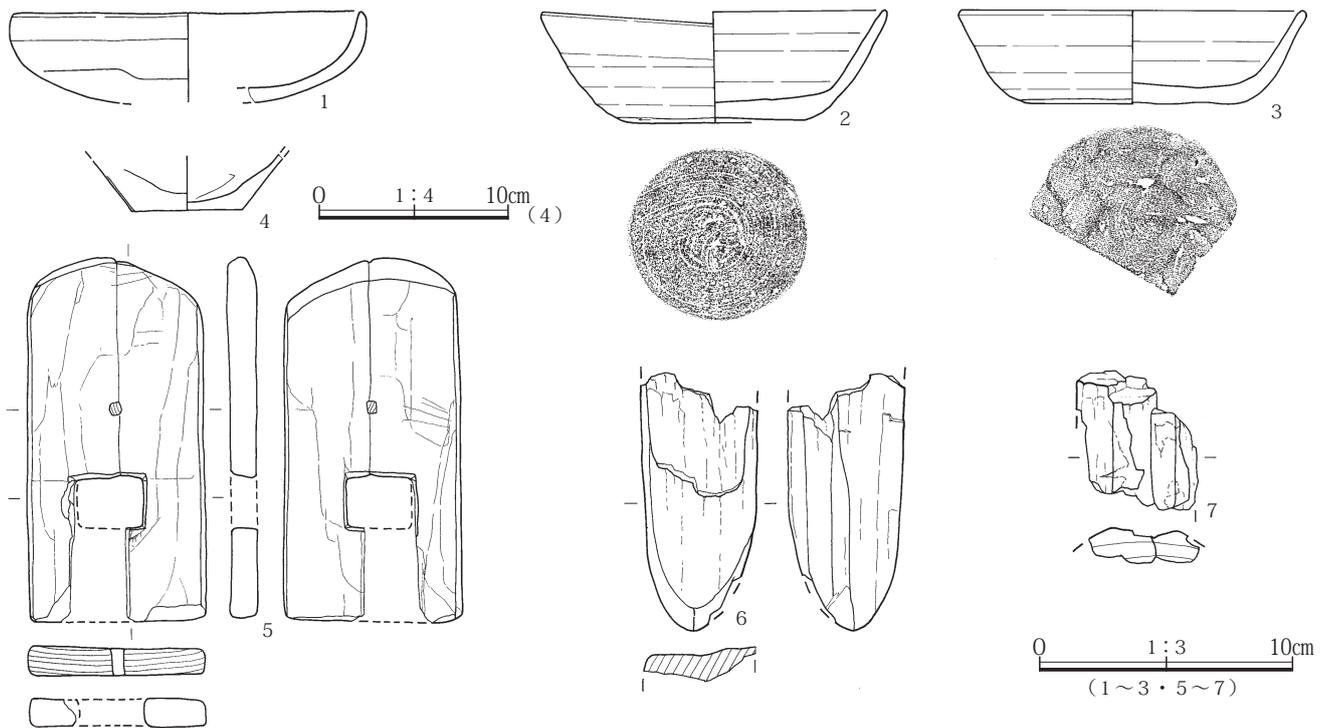
所見 出土遺物から、時期は古代以降と考えられるが詳細は不明である。

2号井戸



2号井戸A-A'

- 1 暗褐色土 淡黄色砂塊を含む
- 2 暗褐色土 淡黄色砂塊を多量に含む
- 3 暗褐色土 灰白色砂塊を含む
- 4 暗褐色土 灰白色砂が3層よりも多い
- 5 褐灰色土 褐色土塊を含む



第119図 上西根1区1号・2号井戸と1号井戸出土遺物

4. 土坑

6基検出された。1号～3号土坑は南側調査区の東壁際で、4号土坑は北側調査区南部で、5号・6号土坑は北側調査区南壁際で検出された。1号～4号土坑はVb層上面で確認された。5号・6号土坑は12号竪穴住居の土層断面を観察している時に確認したため、土層断面および底面付近のみの調査となった。

1区1号土坑(第120図 PL.38)

位置 1区南側調査区東壁際

X=38,504～38,505 Y=-56,172～-56,174

重複 なし

形状と規模 東側は調査区外である。平面形は不定形で、長軸方向はN-90°-Eである。検出された長径は1.93m、短径は1.25m、遺構検出面から底面までの深さは0.54mである。壁

の立ち上がりは急で、底面は西側で0.2m低く、平坦ではない。
埋没土 灰黄色土を主体とする。下層の4～8層はVb層由来の黒褐色土塊を多く含む。堆積状況から、土が東側から西側に流入または投げ込まれた状況を示している。1～3層は自然堆積の様相を示す。4～8層は黒褐色土塊を多く含むが、自然堆積か人為堆積かの判断は難しい。

遺物と出土状態 土師器4点が出土したが、細片のため図示しなかった。いずれも埋没土中から出土した。

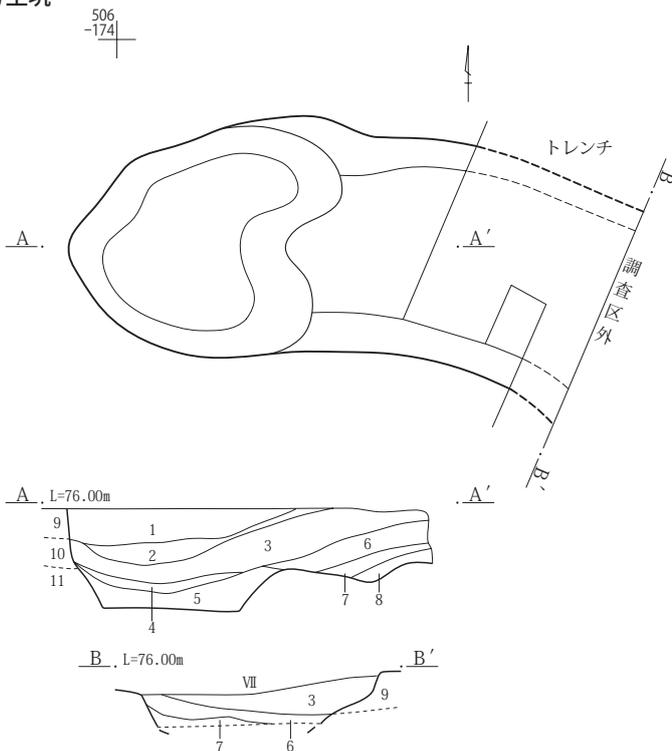
所見 平面形が不定形であることから粘土採掘坑の可能性はあるが、採取した粘土層が明確ではなく不明である。時期も不明である。

1区2号土坑(第120図 PL.38)

位置 1区南側調査区東壁際

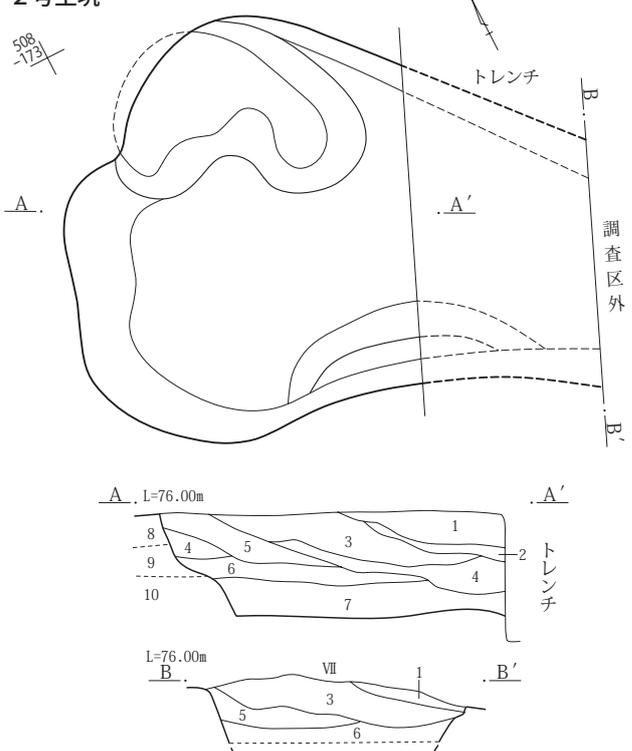
X=38,505～38,507 Y=-56,171～-56,173

1号土坑

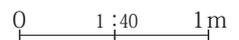


- 1号土坑A-A'・B-B'
- 1 灰黄色土 均質土、縮まりあり
 - 2 灰黄色土 黒褐色土を含む
 - 3 灰黄色土 黒褐色土を少量含む、縮まりあり
 - 4 灰黄色土 黒褐色土を40%含む
 - 5 灰黄色土 黒褐色土を20%含む
 - 6 灰黄色土 黒褐色土を90%含む
 - 7 灰黄色土 黒褐色土を20%含む
 - 8 灰黄色土 黒褐色土を40%含む
 - 9 黒褐色土 Vb層
 - 10 浅黄色土 粘土
 - 11 暗灰色土 砂質土

2号土坑



- 2号土坑A-A'・B-B'
- 1 灰黄色土 黒褐色土をほとんど含まず、均質で硬く縮まっている
 - 2 灰黄色土 黒褐色土小塊を少量含む
 - 3 灰黄色土 黒褐色土を含む
 - 4 灰黄色土 黒褐色土塊(3cm)を含む
 - 5 暗灰黄色土 3層より色味は暗い
 - 6 灰黄色土 均質土、硬く縮まっている
 - 7 灰黄色土 黒褐色土大塊を多量に含む
 - 8 黒褐色土 Vb層
 - 9 浅黄色土 粘土
 - 10 暗灰色土 砂質土



第120図 上西根1区1号・2号土坑

重複 なし

形状と規模 東側は調査区外である。平面形は不定形で、長軸方向はN-39°-Eである。検出された長径は2.22m、短径は1.8m、遺構検出面から底面までの深さは0.56mである。壁の立ち上がりは南側が急で、北側は比較的緩やかである。底面は部分的に落ち込みがあるものの、全体的には平坦である。

埋没土 2層・4層・7層はVb層由来の黒褐色土塊を多量に含む。黒褐色土塊を多く含む土(2層・4層・7層)とあまり含まない土(1層・3層・5層・6層)が互層を成している。堆積状況から、土が西側から東側に流入または投げ込まれたと考えられる。

遺物と出土状態 土師器3点が出土した。細片のため、図示しなかった。いずれも埋没土中から出土した。

所見 平面形が不定形であることから粘土採掘坑の可能性もあるが、採取した粘土層が明確ではなく不明である。時期も不明である。

1区3号土坑(第121図 PL.38・125)

位置 1区南側調査区東壁際

X=38,509~38,511 Y=-56,169~-56,172

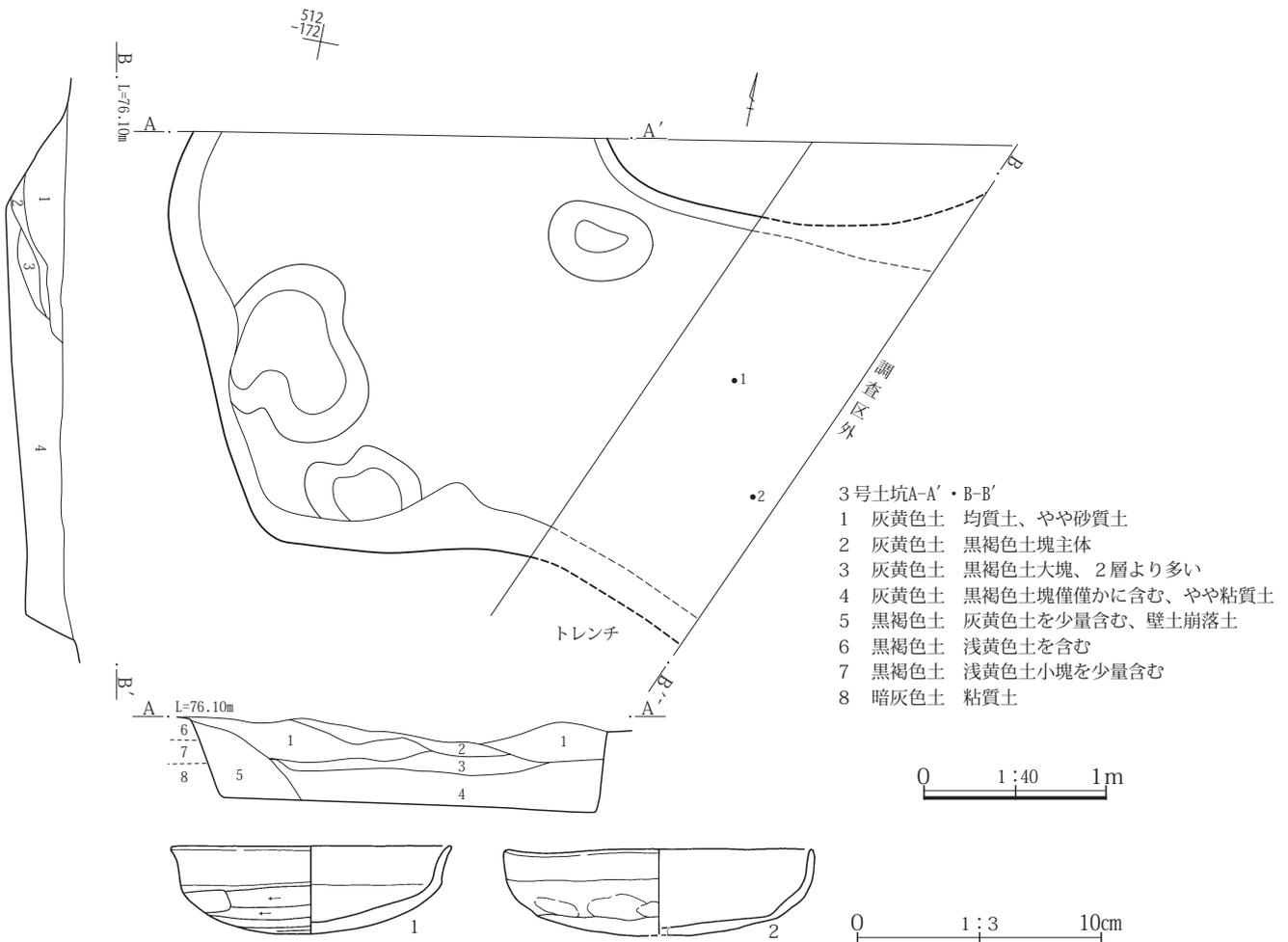
重複 なし

形状と規模 東側は調査区外である。平面形は不定形で、長軸方向はN-82°-Eである。検出された長径は3.37m、短径は2.27m、遺構検出面から底面までの深さは0.5mである。壁の立ち上がりは急で、ほぼ平坦である。

埋没土 5層はVb層に由来する黒褐色土を主体とし、2層・3層は黒褐色土塊を多く含んでいる。

遺物と出土状態 土師器2点が出土し、これを図示した。土師器杯(1・2)は埋没土上層から出土した。

所見 平面形が不定形であることから粘土採掘坑の可能性はあるが、採取した粘土層が明確ではなく不明である。時期も不明である。



第121図 上西根1区3号土坑と出土遺物

1区4号土坑(第122図 PL. 38)

位置 1区北側調査区南部

X=38,519~38,521 Y=-56,169~-56,171

重複 なし

形状と規模 平面形は楕円形で、長軸方向はN-83°-Wである。検出された長径は2.15m、短径は1.72m、遺構検出面から底面までの深さは0.42mである。壁の立ち上がりは急で、底面はほぼ平坦である。

埋没土 3層・4層はそれぞれ黒褐色土塊、にぶい黄橙色土塊を多量に含み、人為堆積の可能性が高い。

遺物と出土状態 土師器5点、須恵器2点が出土し、このうち1点を図示した。いずれも埋没土中から出土した。

所見 形状から、粘土採掘坑の可能性もあるが、壁面および底面に粘土層は認められず、性格を明らかにすることができなかった。時期も不明である。

1区5号土坑(第122図)

位置 1区北側調査区南西隅

X=38,513~38,514 Y=-56,175~-56,176

重複 12号住居および6号土坑と重複し、いずれの遺構

よりも本土坑が新しい。

形状と規模 12号住居調査中、土層断面観察時に6号土坑とともに確認された。そのため、土層断面と底面付近のみの調査となった。南側は調査区外である。底面付近の平面形は楕円形と推定され、長軸方向は不明である。検出された長径は0.75m、短径0.18m、深さは0.07mである。壁の立ち上がりは垂直に近く、断面形は箱形である。底面は平坦である。

埋没土 灰黄色土を主体とする。2層はIV層由来と考えられる浅黄色土大塊を多量に含む。1層・2層は人為堆積と推定される。

遺物と出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 性格は不明である。遺構の重複から、8世紀から9世紀と推定される12号住居より新しいが、詳細は不明である。性格も不明である。

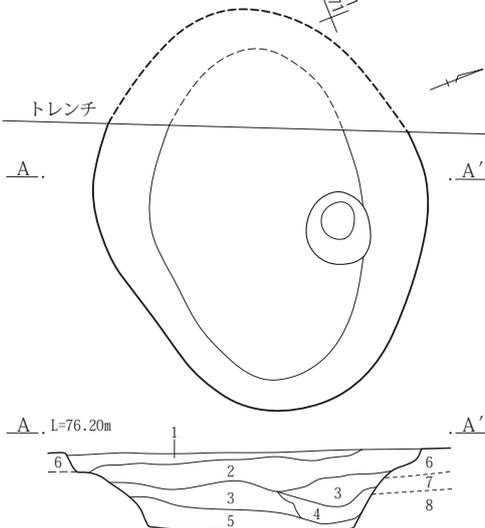
1区6号土坑(第122図)

位置 1区北側調査区南西隅

X=38,513~38,514 Y=-56,176

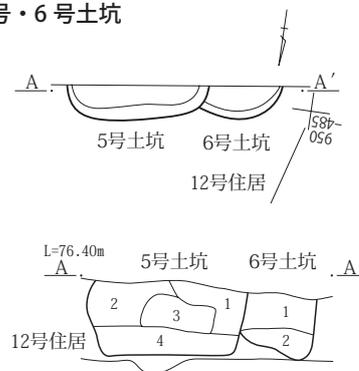
重複 12号住居および5号土坑と重複する。12号住居よ

4号土坑



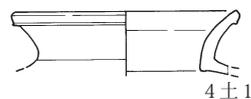
- 4号土坑A-A'
- 1 浅黄色土 均質土、やや砂質土
 - 2 浅黄色土 黒褐色土塊(1cm大)を含む
 - 3 浅黄色土 黒褐色土塊(2cm大以下)を多量に含む
 - 4 黒褐色土 にぶい黄橙色土塊を含む
 - 5 浅黄橙色土 シルト質土塊主体
 - 6 浅黄色土 シルト洪水層
 - 7 黒褐色土 Vb層
 - 8 浅黄橙色土 シルト質

5号・6号土坑



- 5号土坑A-A'
- 1 灰黄色土 シルト質、土粒が細かい
 - 2 灰黄褐色土 シルト質、焼土粒を微量に含む
 - 3 灰黄色土 IV層由来の浅黄色土大塊を多量に含む、砂質土を含む
 - 4 暗灰黄色土 IV層由来の浅黄色土塊を含む、焼土粒を含む

- 6号土坑A-A'
- 1 灰黄色土 浅黄色シルト質土を含む
 - 2 灰白色土 粘土、焼土粒を僅かに含む



0 1:3 10cm

0 1:40 1m

第122図 上西根1区4号・5号・6号土坑と4号土坑出土遺物

り新しく、5号土坑より古い。

形状と規模 12号住居調査中、土層断面を観察時に5号土坑とともに確認された。そのため、断面および底面のみの検出である。南側は調査区外である。底面付近の平面形は楕円形と推定され、長軸方向は不明である。検出された長径は0.38m、短径0.17m、深さは0.05mである。壁の立ち上がりは急な傾斜で、底面は西側で0.1m深くなっている。

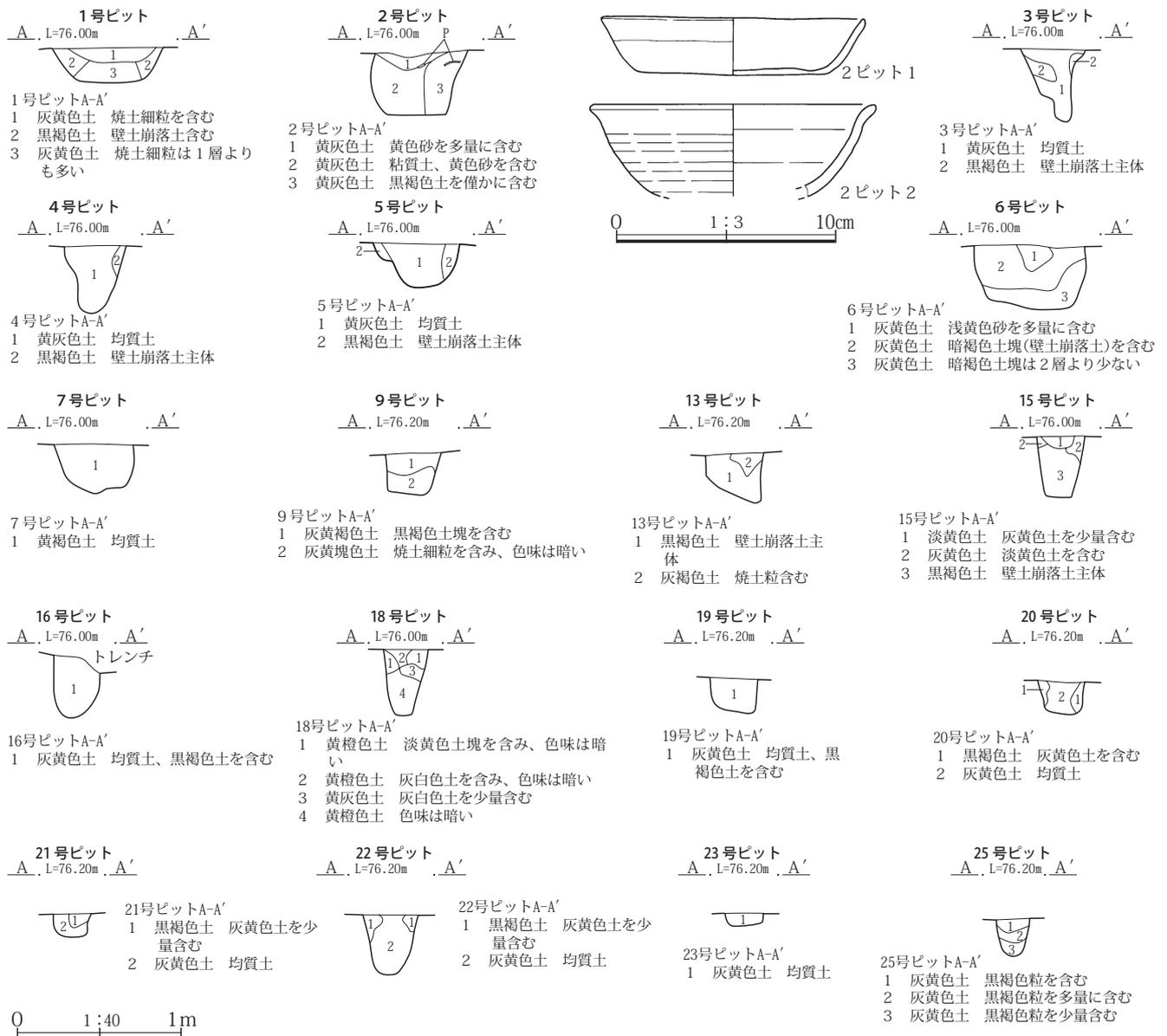
埋没土 4層は灰白色土で、洪水層由来の砂質土である。1層は5号土坑の埋没土1層と似ている。

遺物と出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 性格は不明である。時期は8世紀から9世紀と推定される12号住居より新しいものの、詳細は不明である。性格も不明である。

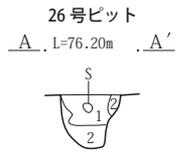
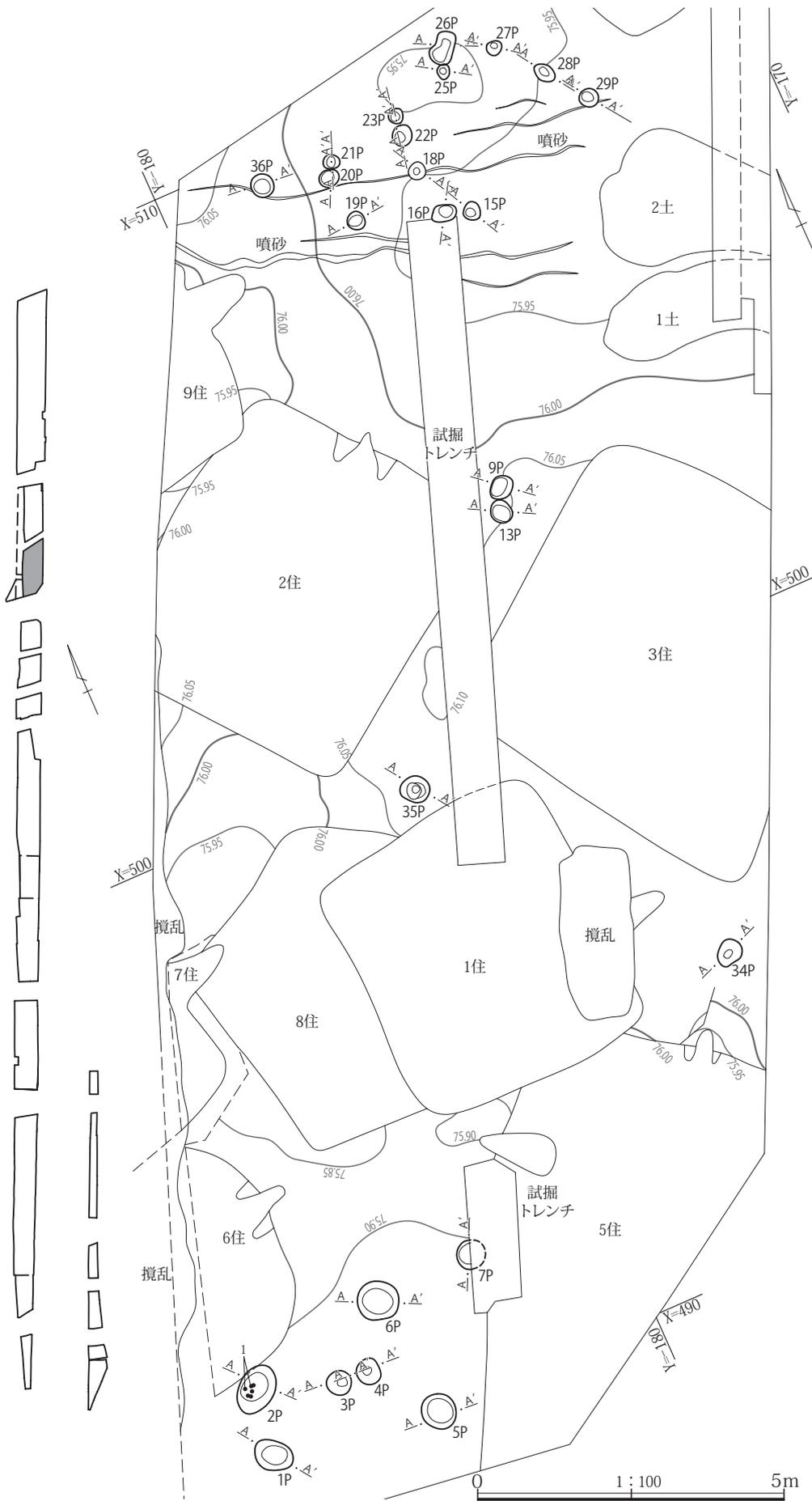
5. ピット(第123・124図)

ピットは25基検出した。大部分は南側調査区北部に集中し、それ以外は南側調査区で2～5基のピットがまとまって検出された。遺構検出面はVb層上面である。整理作業でも、位置や間隔、埋没土の特徴から、掘立柱建物や柵になるかどうか検討を行ったが、建物などに認識できるものはなかった。埋没土は、灰黄色土および黒褐色土を主体とするものが多かった。各ピットの規模や出土遺物の点数については、327・331ページに示す。2号ピットの埋没土から土師器杯(2ピット1)と須恵器碗(2ピット2)が出土した。これらのピットの時期は遺構の重複関係や埋没土の特徴から、中世以降と考えられるが、詳細な時期は不明である。

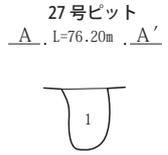


第123図 上西根1区1号～7号・9号・13号・15号・16号・18号～23号・25号ピット土層断面と2号ピット出土遺物

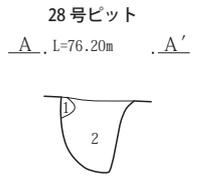
第1節 1区の調査



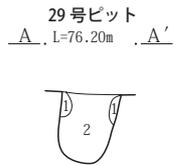
26号ピットA-A'
1 黒褐色土 灰黄色土を含む
2 灰黄色土 均質土



27号ピットA-A'
1 灰黄色土 灰白色土塊を含む



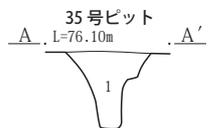
28号ピットA-A'
1 黒褐色土 黄灰色土を少量含む
2 黄灰色土 黒褐色土を含み、色味は暗い



29号ピットA-A'
1 黒褐色土 灰黄色土を含む
2 灰黄色土 均質土



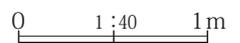
34号ピットA-A'
1 黒褐色土 暗褐色土を少量含む
2 暗褐色土 黒褐色土を含む



35号ピットA-A'
1 暗褐色土 黒褐色土塊を含む



36号ピットA-A'
1 灰黄色土 均質土

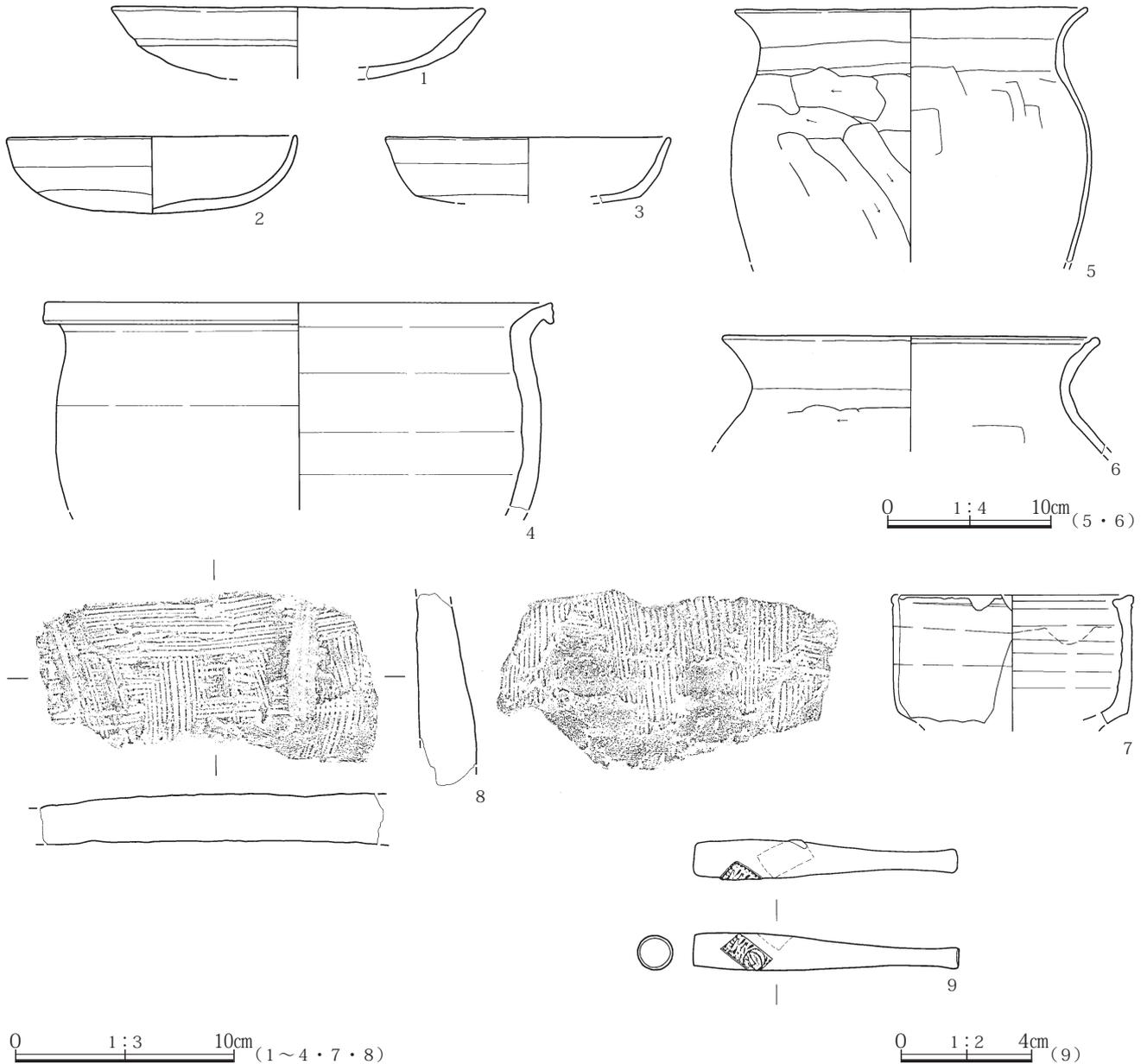


第124図 上西根1区ピット全体図、26号～29号・34号～36号ピット土層断面

6. 遺構外から出土した遺物(第125図 PL.125)

遺構外から出土した遺物は、古代の土器を中心に1,322点出土した。その内訳は、土師器1,146点、須恵器167点、陶磁器2点、時期不明土器3点、埴輪1点、古代瓦2点、銅製品1点である。このうち、器形や時期がわかるものや特徴的な遺物を9点図示した。土師器および須恵器は7世紀から9世紀のものと考えられ、竪穴住居の時期と

一致している。7は美濃焼の香炉で口縁端部の内外面に剥離が連続して認められる。8は板状で、形象埴輪の一部と考えられるが、詳細は不明である。9は煙管の吸い口で、一分金または二朱金を模倣した飾りが2か所に付けられている。1か所は一部残存しているのみで、大部分は剥落し痕跡が残っている。飾りには「光次」の文字と花押が認められる。



第125図 上西根1区遺構外出土遺物

第2節 2区の調査

1. 概要

上西根遺跡2区は、国道462号拡幅部分の調査となるため調査区は南北に細長く、長さ115m、幅10～12.5mである。標高はおよそ76～74.9mで、北東側から粕川に近い南西側に向かって緩やかに傾斜するものの、ほぼ平坦な地形である。上西根遺跡2区の調査面積は1576.54㎡である。

上西根遺跡2区では、古墳時代から平安時代、中世から近世の遺構を検出した。遺構の内訳は、竪穴住居31軒、竪穴状遺構10基、溝5条、土坑36基、ピット5基である。遺構の密度は高く、特に南側調査区では、竪穴住居および竪穴状遺構が集中して検出された。この地点では遺構の重複が著しく、遺構検出時の観察で遺構の有無は確認できたものの、各遺構の平面形を把握することが困難であった。そのため、調査区全体に土層観察用のベルトを複数設定し、掘り下げを進めた。土層断面の観察で壁の立ち上がりを確認した遺構も多く、中には掘方調査時に壁の立ち上がりを確認できた竪穴住居もあった。遺構検出面はVb層上面またはVb層下面である。

2. 竪穴住居

上西根遺跡2区で竪穴住居は31軒確認された。すべて古墳時代から平安時代の住居である。遺構検出面はVb層上面またはVb層下面である。本報告書では明瞭な床面が検出されたものを竪穴住居とし、床面を確認できなかったものを竪穴状遺構と区別した。

2区1号竪穴住居(第127図 PL. 40・125)

位置 2区中央調査区東壁際

X=38,437・38,438 Y=-56,201

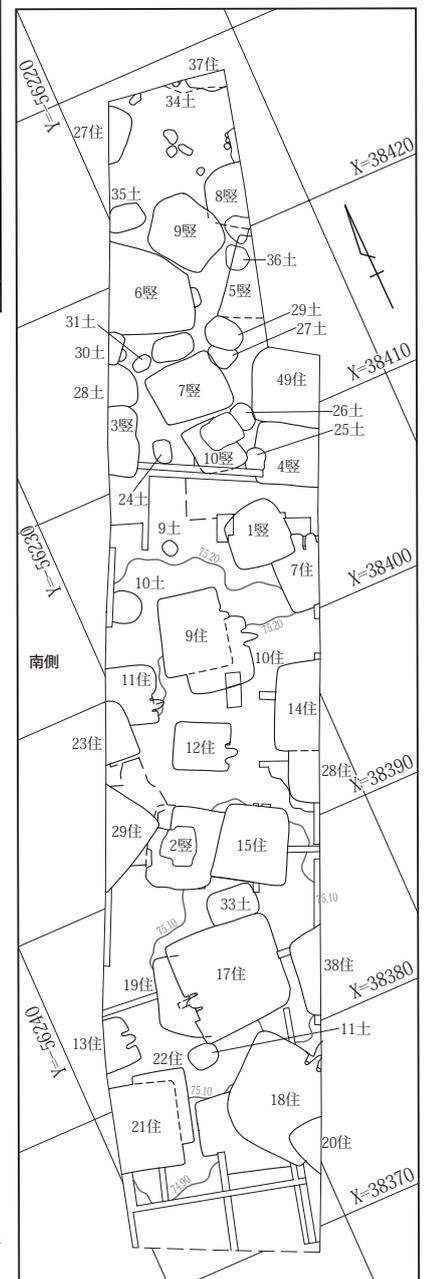
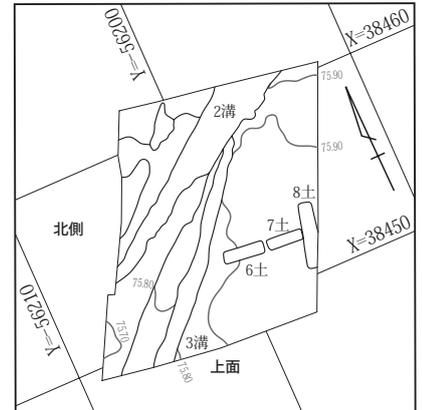
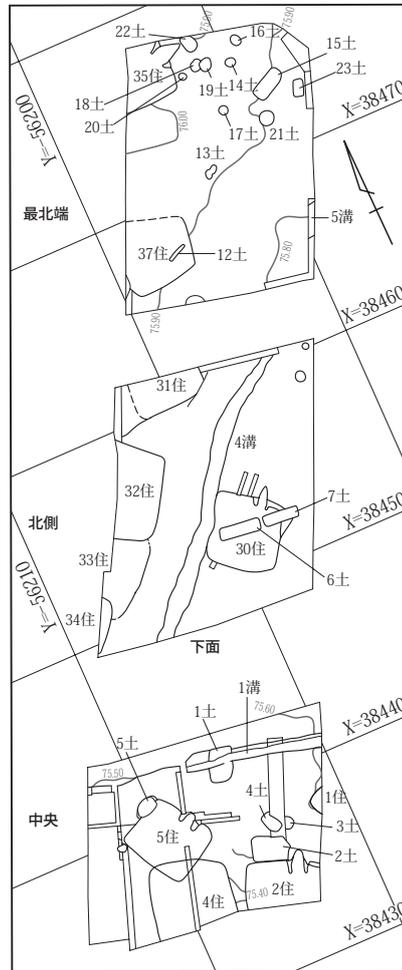
主軸方向 大半が調査区外にあるため、不明である。

重複 なし

形状と規模 南西隅のごく一部の調査のため、全体を把握することはできなかった。平面形は長方形または正方形で、検出した北西壁の長さは1m、南西壁の長さは0.85m、遺構検出面から床面までの深さは0.47mである。

埋没土 焼土・炭を少量含む暗褐色土を1層確認した。

第2節 2区の調査



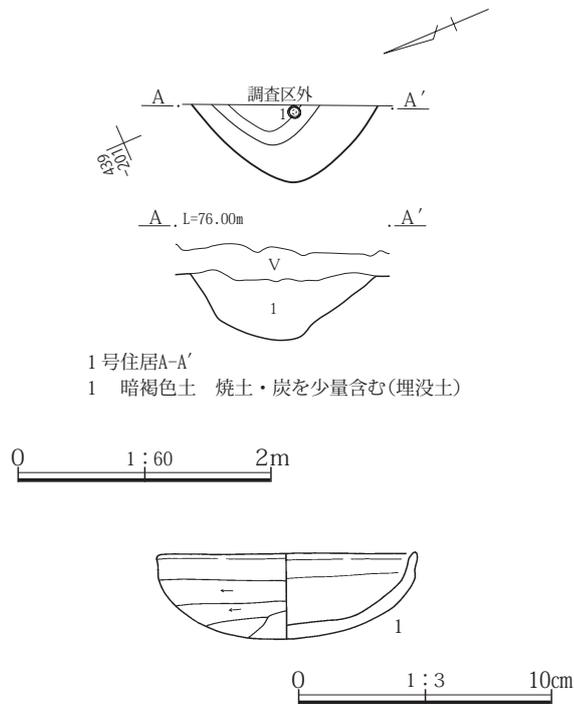
0 1:400 20m

第126図 上西根2区全体図

カマド・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器6点が出土し、このうち器形や時期がわかる土器1点を図示した。完形の土師器杯(1)が床面上2~3cmで出土した。他の遺物もすべて埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末と考えている。



1号住居A-A'
1 暗褐色土 焼土・炭を少量含む(埋没土)

第127図 上西根2区1号竪穴住居と出土遺物

2区2号竪穴住居(第128・129図 PL. 40・41・125)

位置 2区中央調査区南東隅

X=38,433~38,436 Y=-56,202~-56,207

主軸方向 N-19°-E

重複 なし。北側で2号土坑と接するが、重複していない。

形状と規模 東側および南側が調査区外である。平面形は正方形または長方形で、長軸長は3.9m、短軸長2.44mである。遺構検出面から床面までの深さは0.64m、掘方底面までの深さは0.77mである。

埋没土 暗褐色土および黒褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。床面および埋没土全体で灰黄色の噴砂の痕跡が多数観察できた。

床面 ほぼ平坦である。黄灰色土大塊を含む褐色土で構築されていた。

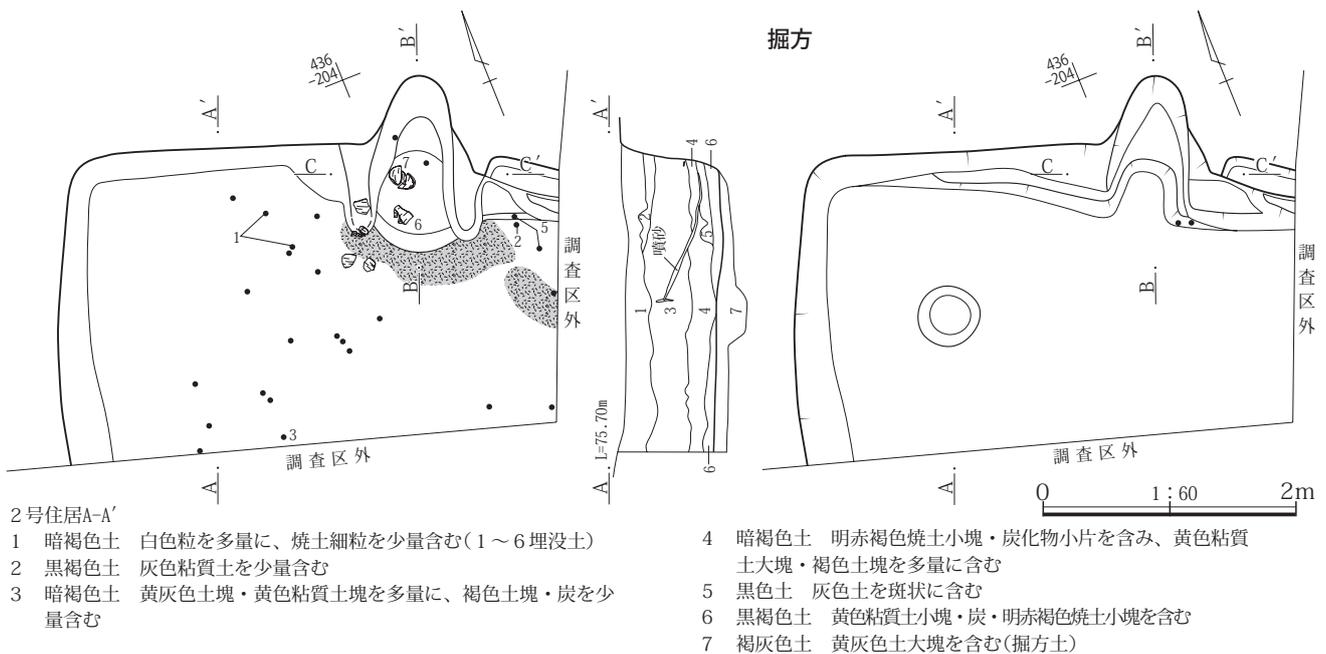
カマド 北壁で1か所検出された。袖は暗褐色土および褐色土で構築され、袖の長さは0.72m、焚き口幅は0.63m、焚き口から煙道の長さは1.4mである。焚き口付近で焼土と灰の分布が認められた。すべて埋没土から出土した。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 西側で土坑状の落ち込みが見られた。

遺物と出土状態 土師器117点、須恵器16点、鉄製品1点が出土し、このうち8点を図示した。土師器杯(2・3)と須恵器蓋(5)は床面付近で出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀前半と考えられる。

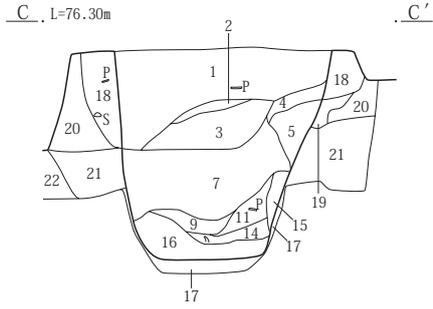
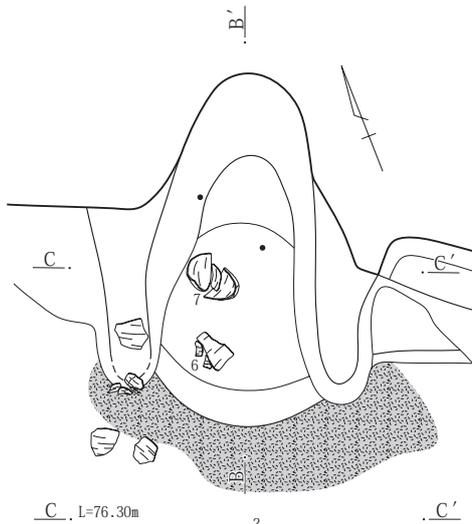


2号住居A-A'
1 暗褐色土 白色粒を多量に、焼土細粒を少量含む(1~6埋没土)
2 黒褐色土 灰色粘質土を少量含む
3 暗褐色土 黄灰色土塊・黄色粘質土塊を多量に、褐色土塊・炭を少量含む

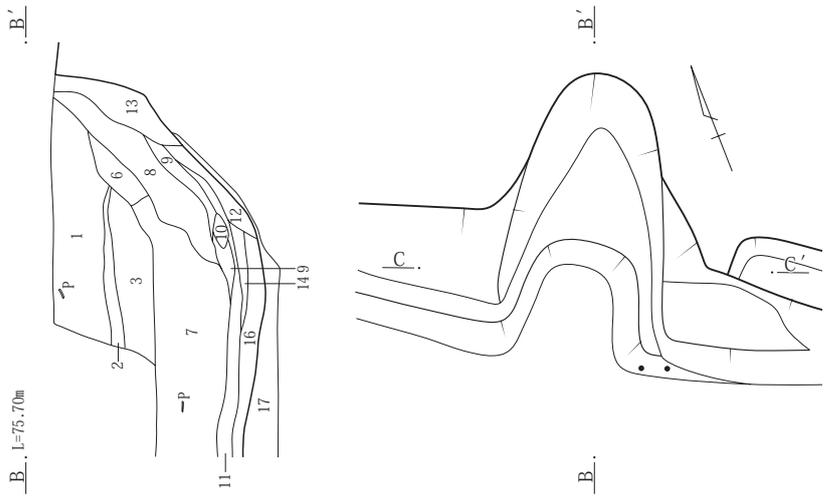
4 暗褐色土 明赤褐色焼土小塊・炭化物小片を含み、黄色粘質土大塊・褐色土塊を多量に含む
5 黒色土 灰色土を斑状に含む
6 黒褐色土 黄色粘質土小塊・炭・明赤褐色焼土小塊を含む
7 褐色土 黄灰色土大塊を含む(掘方土)

第128図 上西根2区2号竪穴住居

カマド

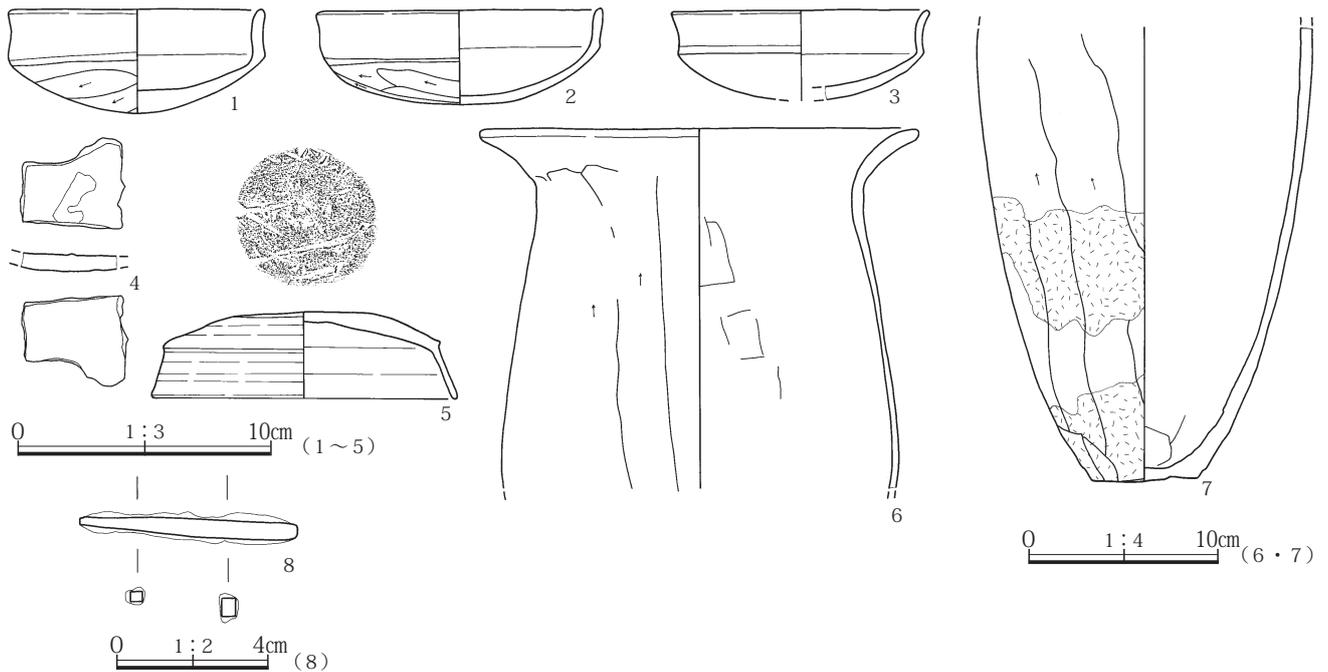


カマド掘方



2号住居カマドB-B'・C-C'

- 1 暗褐色土 白色粒を多量に、焼土細粒を少量含む
- 2 灰黄色土 填砂か
- 3 灰黄褐色土 黄色粘質土塊・焼土小塊を多量に含む
- 4 暗褐色土 白色粒・黄色粘質土塊を少量含む
- 5 黒褐色土 灰黄色土・灰色土・焼土小塊を含む
- 6 灰黄褐色土 灰色土・焼土粒を含む、色味やや明るい
- 7 褐灰色土 灰黄色土・灰色土多量に、明赤褐色焼土小塊を含む
- 8 黄灰色土 明赤褐色焼土塊・粒を多量に含む
- 9 褐灰色土 灰色土・明赤褐色焼土小塊を含む
- 10 黄灰色土 明赤褐色焼土大塊を含む
- 11 灰黄色土 褐灰色土・明赤褐色焼土塊を少量含む
- 12 黒褐色土 焼土粒を少量含む
- 13 黒褐色土 黄灰色土粒を含む
- 14 褐灰色土 灰を多量に、焼土小塊を少量含む
- 15 灰黄色土 明赤褐色焼土塊主体
- 16 灰黄褐色土 焼土小塊・炭を含む
- 17 暗褐色土 灰色土を多量に、黄灰色土粒を少量含む
- 18 暗褐色土 白色粒を少量含む
- 19 褐灰色土 黒褐色土・灰黄色土を含む
- 20 褐灰色土 黒褐色土を多量に含む
- 21 褐灰色土 黒褐色土を少量含む
- 22 黄灰色土 灰黄色土・黒褐色土を含む



第129図 上西根2区2号竪穴住居カマドと出土遺物

2区4号竪穴住居(第130～132図 PL. 41・126)

位置 2区中央調査区

X=38,434～38,437 Y=-56,207～-56,211

主軸方向 N-17°-E

重複 5号住居と重複する。発掘調査時には重複部分での壁の立ち上がりを確認できず、これらの住居との新旧関係を明らかにできなかった。出土遺物から、いずれの住居よりも古い。

形状と規模 南側は調査区外である。平面形は正方形または長方形で、長軸長4.32m、短軸長4.3mである。遺

構検出面から床面までの深さは0.5mである。

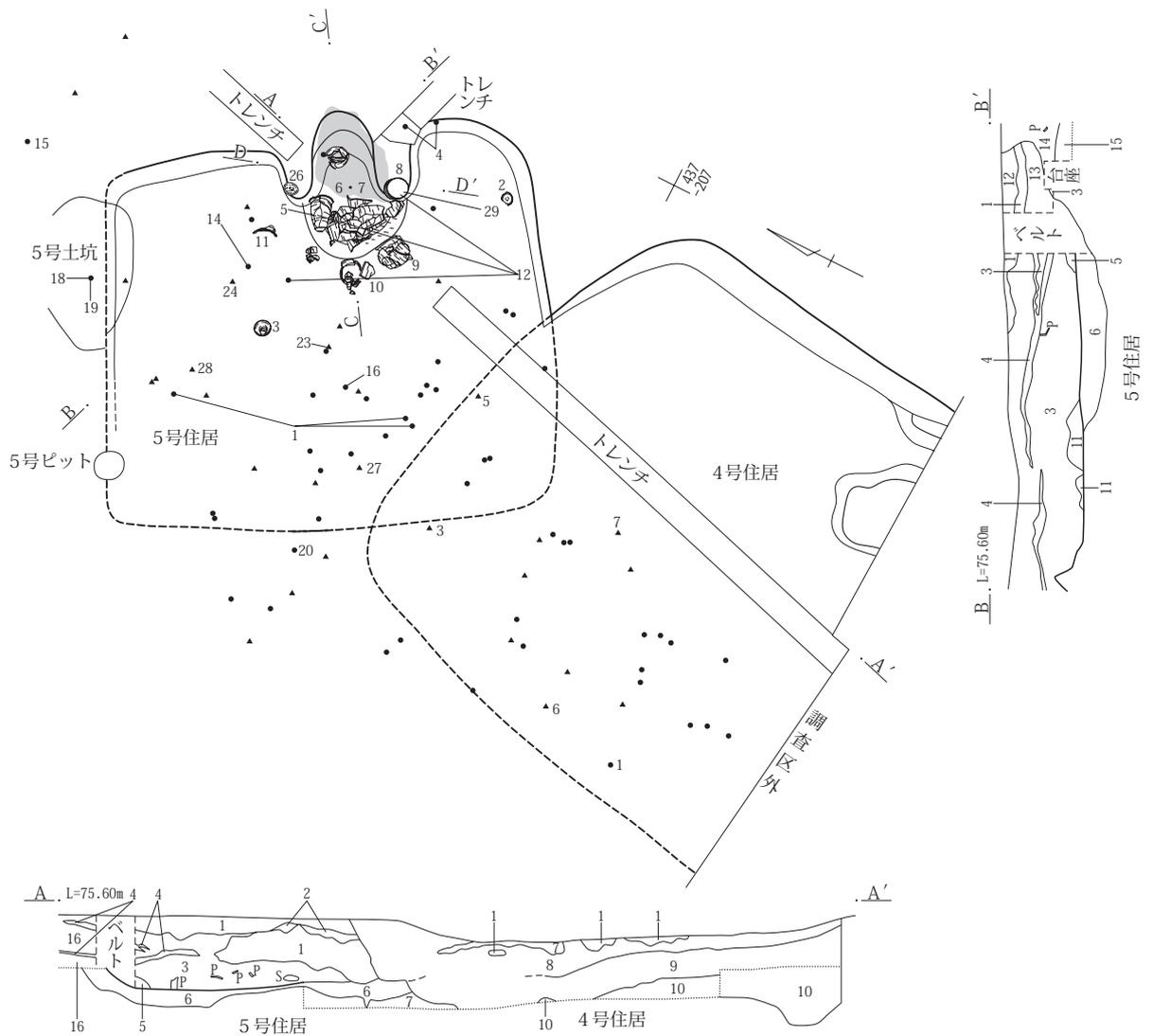
埋没土 灰黄褐色土および黒褐色土を主体とする。

カマド・柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 西部で低く、7～10cmの高まりが見られた。

遺物と出土状態 土師器340点、須恵器17点、石製品5点、礫1点、鉄滓1点が出土した。このうち6点を図示し、石製品の1点を写真のみ掲載した(PL.126-7)。遺物は西部に集中していた。石製品(3)は床面直上から出土している。

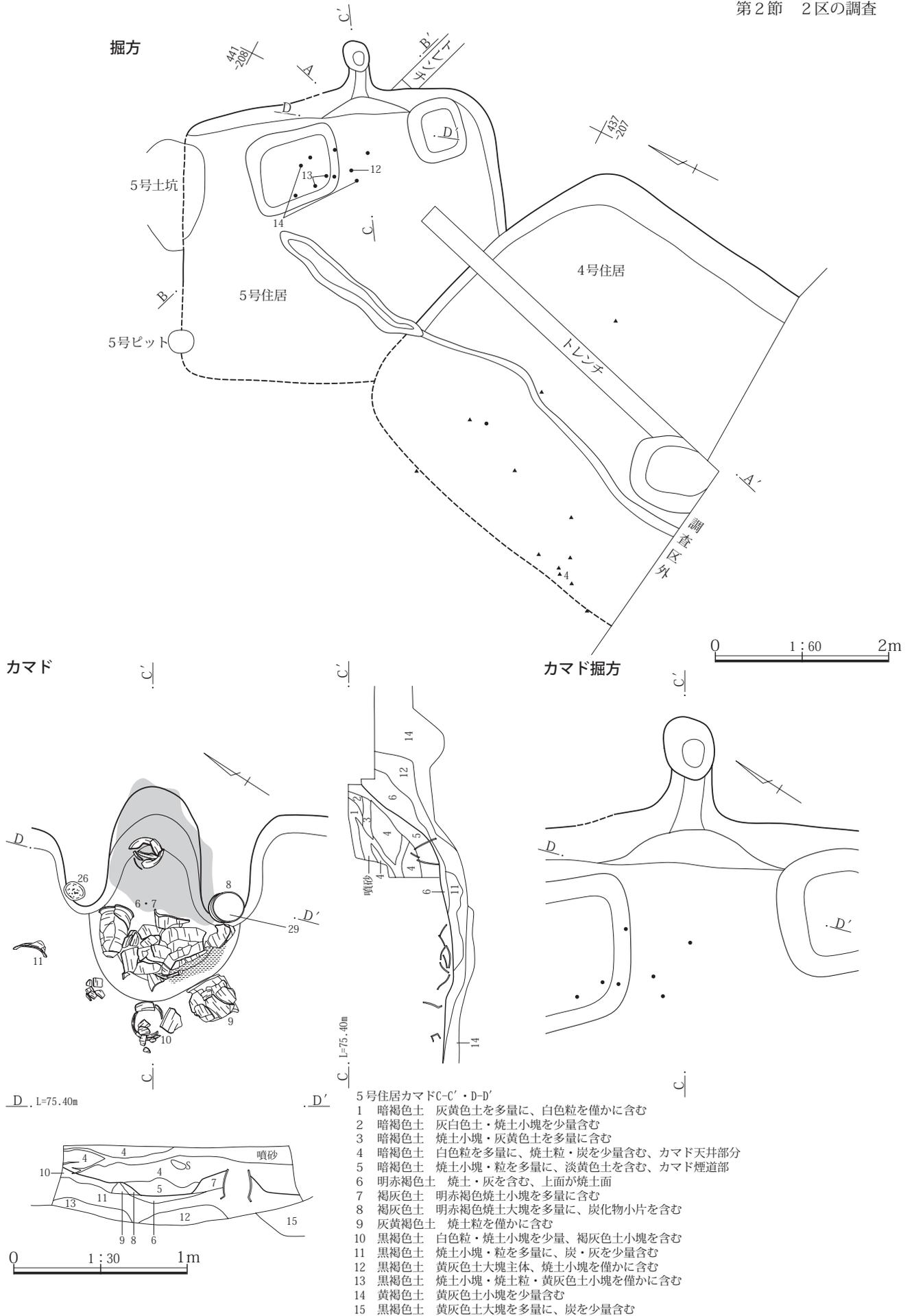
所見 出土遺物から、時期は7世紀前半と考えられる。



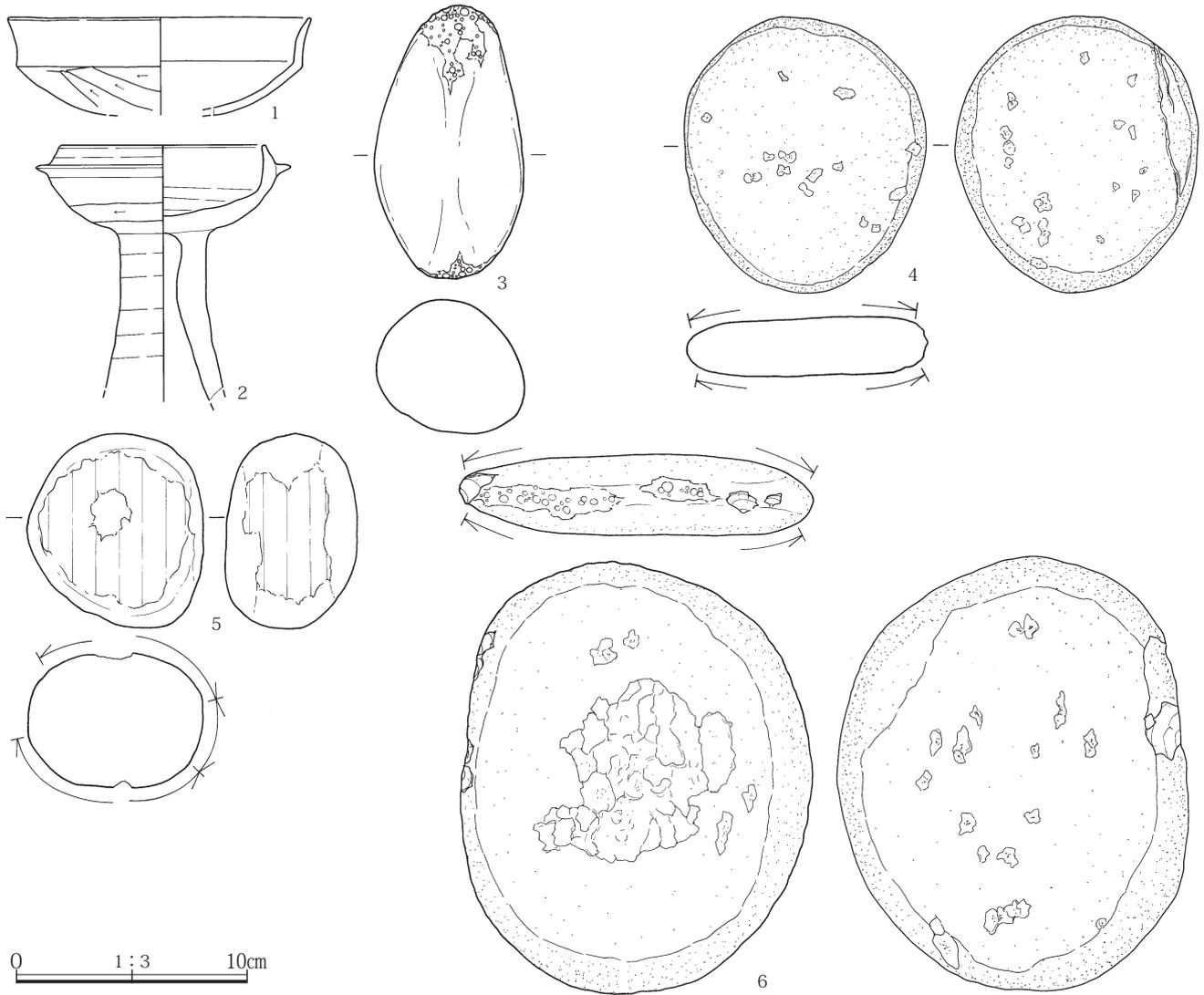
4号・5号住居A-A'・B-B'

- 1 黄灰色土 黄色粘質土塊・酸化鉄を多量に含む
- 2 暗褐色土 白色粒・焼土粒・炭化物少量含む
- 3 褐灰色土 焼土粒・炭化物を含む、白色粒を少量含む、筋状の灰黄色土が顕著
- 4 灰黄色土 噴砂か
- 5 赤褐色土 焼土塊を多量に含む
- 6 灰黄色土 淡黄色土を多量に含む、炭を僅かに含む(5号住居掘方土)
- 7 黄灰色土 酸化鉄を含む
- 8 褐灰色土 白色粒を多量に含む、淡黄色土小塊・焼土粒を少量含む、
- 9 黒褐色土 淡黄色土塊多量に含む、酸化鉄を含む、人為的埋没土か
- 10 褐灰色土 黒褐色土塊・黄灰色土塊を含む
- 11 暗黄灰色土 黄灰色土塊・粒を多量に含む、炭化物を少量含む
- 12 暗褐色土 焼土粒・白色粒を少量含む、酸化鉄を含む
- 13 灰黄褐色土 黄灰色土塊・暗褐色土塊を多量に含む、焼土粒を含む、人為的埋没土か
- 14 黒褐色土 白色粒を多量に含む、焼土粒を少量含む、酸化鉄・遺物を含む
- 15 灰黄色土 暗褐色土塊を斑に含む
- 16 暗褐色土 白色粒・焼土粒を少量含む、灰黄色土を筋状に含む

第130図 上西根2区4号・5号竪穴住居



第131図 上西根2区4号・5号竪穴住居掘方と5号竪穴住居カマド



第132図 上西根2区4号竪穴住居出土遺物

2区5号竪穴住居(第130・131・133・134図 PL.41・42・126・127)

位置 2区中央調査区

X=38,436~38,441 Y=-56,207~-56,211

主軸方向 N-58°-E

重複 4号住居、5号土坑、5号ピットと重複する。発掘調査時には重複部分での壁の立ち上がりを確認できず、これらの住居との新旧関係を明らかにできなかった。出土遺物から、4号住居より新しい。また、5号土坑および5号ピットの方が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は3.76m、短軸長3.36mである。遺構検出面から床面までの深さは0.65m、掘方底面までの深さは0.75mである。

埋没土 黄灰色土および褐灰色土を主体とする。1層は複雑な堆積状況を示し、人為堆積と考えられる。埋没土では灰黄色の噴砂が多数観察できた。

床面 ほぼ平坦である。淡黄色土を多量に含む灰黄色土

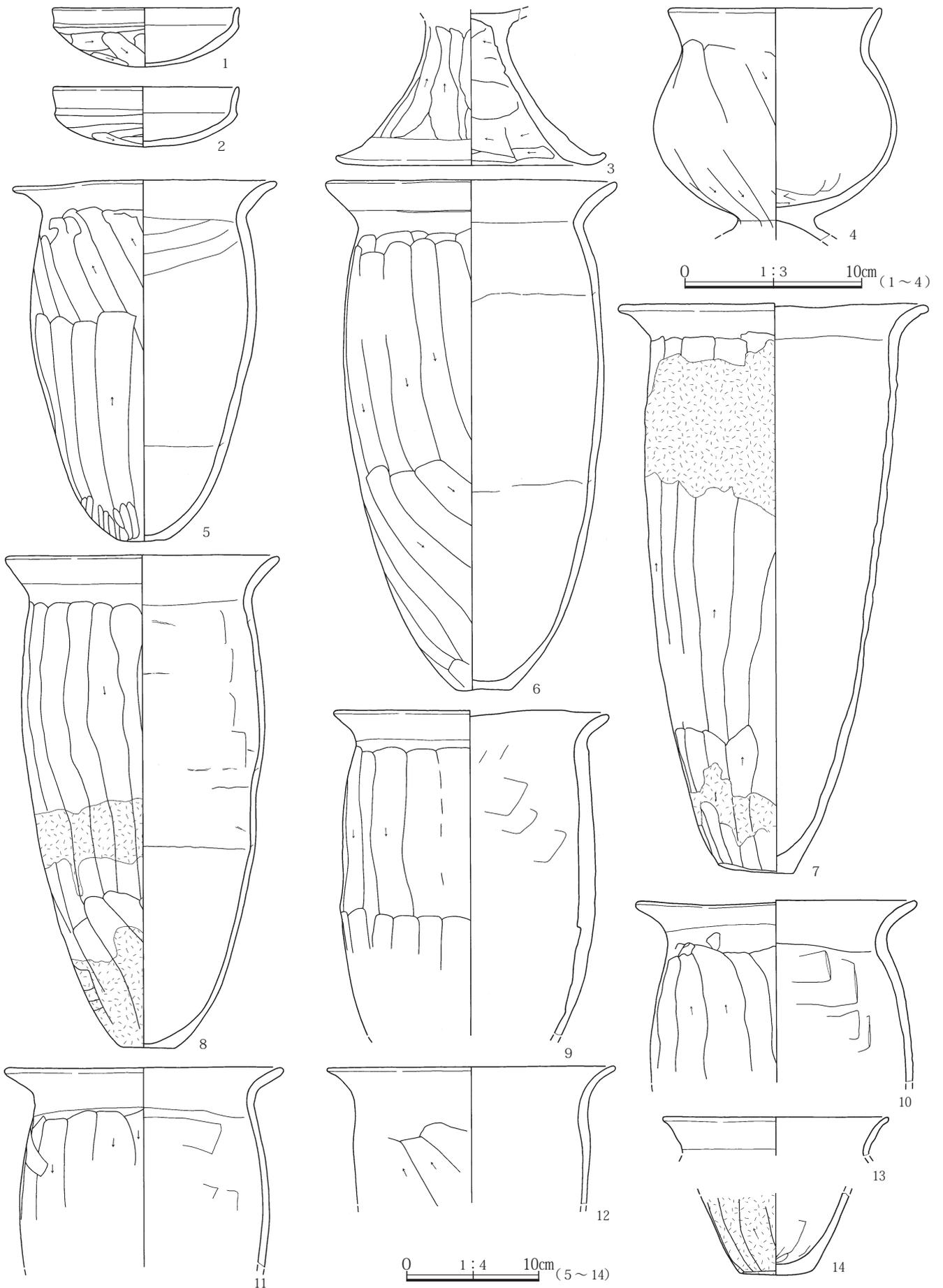
で構築されている。

カマド 北東壁で1か所検出された。袖は褐灰色土で構築され、袖の長さは0.66m、焚き口幅は0.8m、焚き口から煙道の長さは0.76mである。燃焼部および煙道部には広く焼土が分布していた。また、焚き口から右袖付近で炭化物の分布が認められた。土師器甕(8)が右袖の構築材として倒立した状態で出土した。また、燃焼部から奥壁付近では土師器甕が伏せた状態で出土している。胴部下半が失われていたため、図示しなかったが、位置や出土状況から支脚として使用したものと考えられる。また、焚き口付近では、床面直上で多量の土師器甕(5~7・9・10)が横倒しの状態で出土した。カマドの構築材として使用された可能性がある。

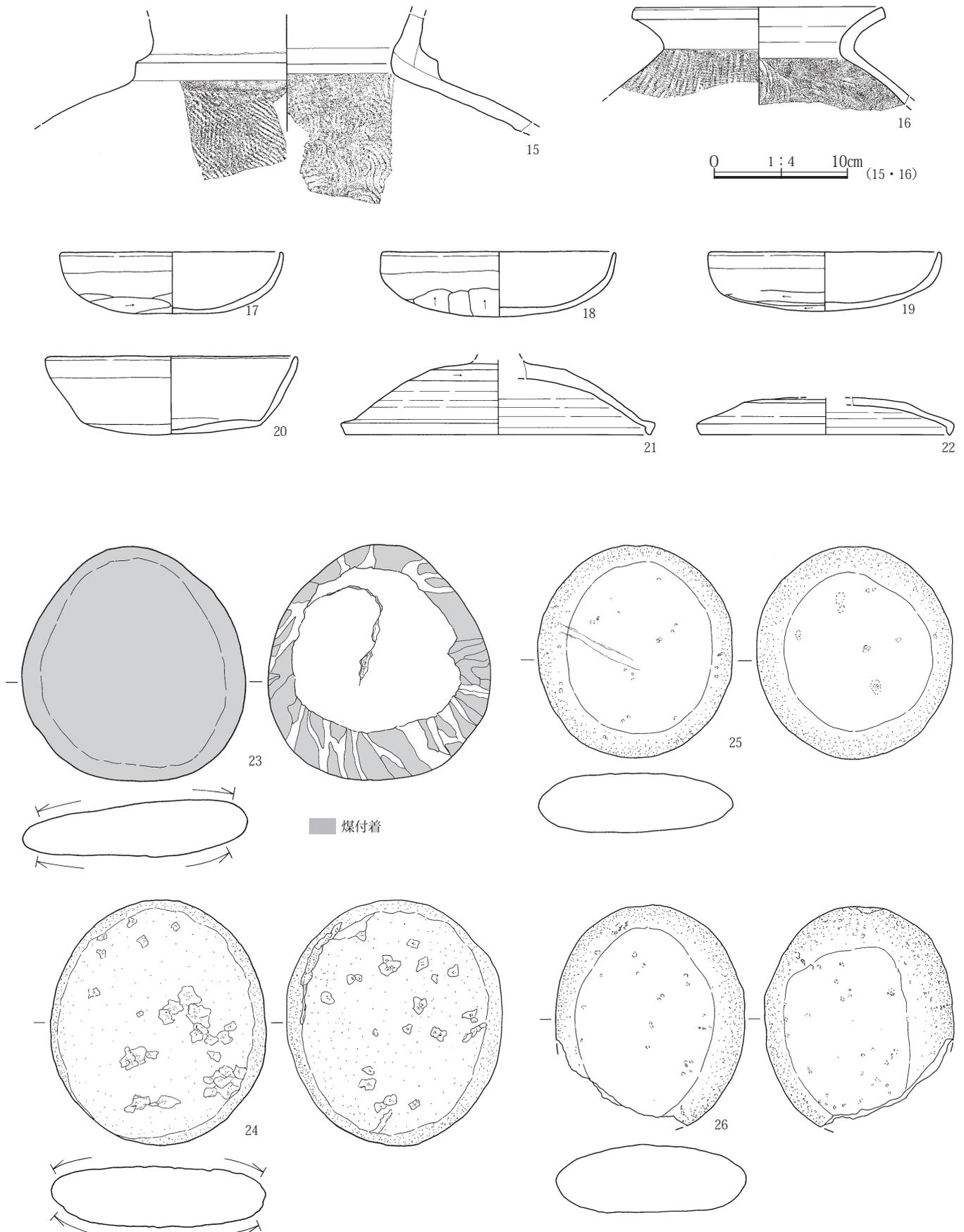
貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状または溝状の落ち込みが認められた。

遺物と出土状態 土師677点、須恵器24点、石製品6点、



第133図 上西根2区5号竪穴住居出土遺物(1)



第134図 上西根2区5号竪穴住居出土遺物(2) 0 1:3 10cm (17~26)

礫2点、粘土塊1点が出土した。このうち26点を図示し、3点を写真のみ掲載した(PL. 127-27~29)。

所見 床面直上およびカマドの出土遺物から、時期は7世紀後半と考えている。

2区7号竪穴住居(第135・136図 PL. 42・43・127)

位置 2区南側調査区東壁際

X=38,400~38,404 Y=-56,216~-56,219

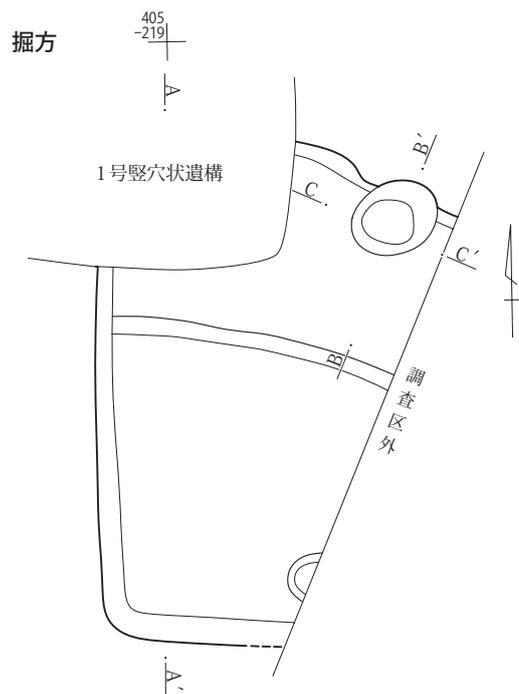
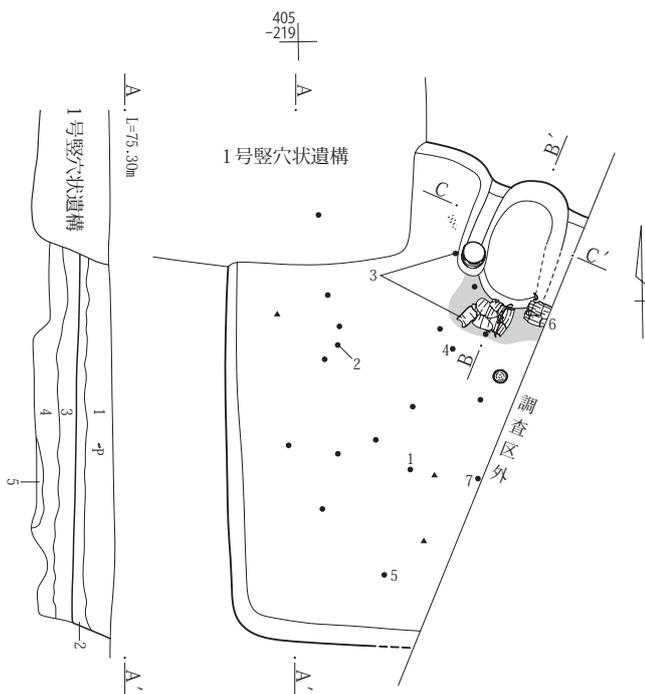
主軸方向 N-22°-E

重複 1号竪穴状遺構と重複し、土層断面の観察から本住居が古い。

形状と規模 東側が調査区外であるが、平面形は不整な長方形または正方形と推定され、長軸長は4.2m、短軸長2.5mである。遺構検出面から床面までの深さは0.32m、掘方底面までの深さは0.6mである。

埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。



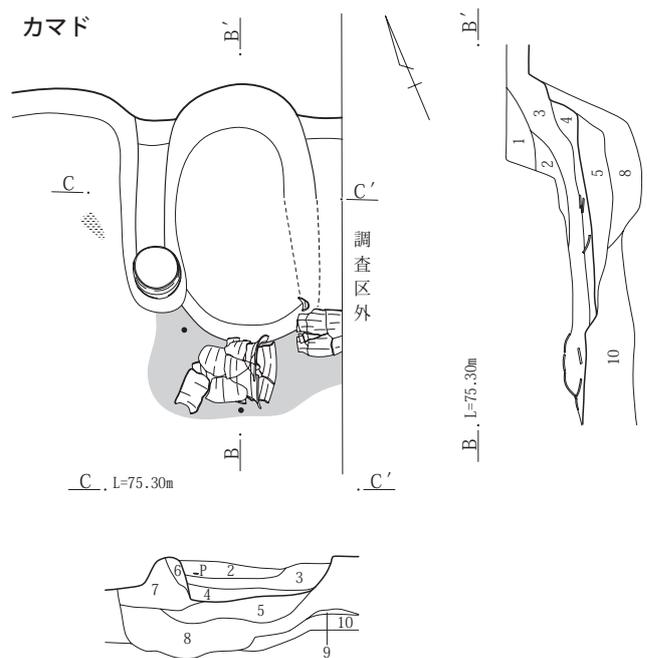
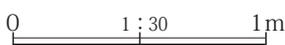
7号住居A-A'

- 1 暗褐色土 白色粒を少量、焼土小塊・炭を僅かに含む、遺物を含む(1・2埋没土)
- 2 暗褐色土 炭を含み、褐灰色土を均質に含む
- 3 褐灰色土 灰黄色土を含む(3~5掘方土)
- 4 褐灰色土 黄灰色土粒を少量含む、やや色味は暗い
- 5 黄褐色土 黄灰色土粒を含む

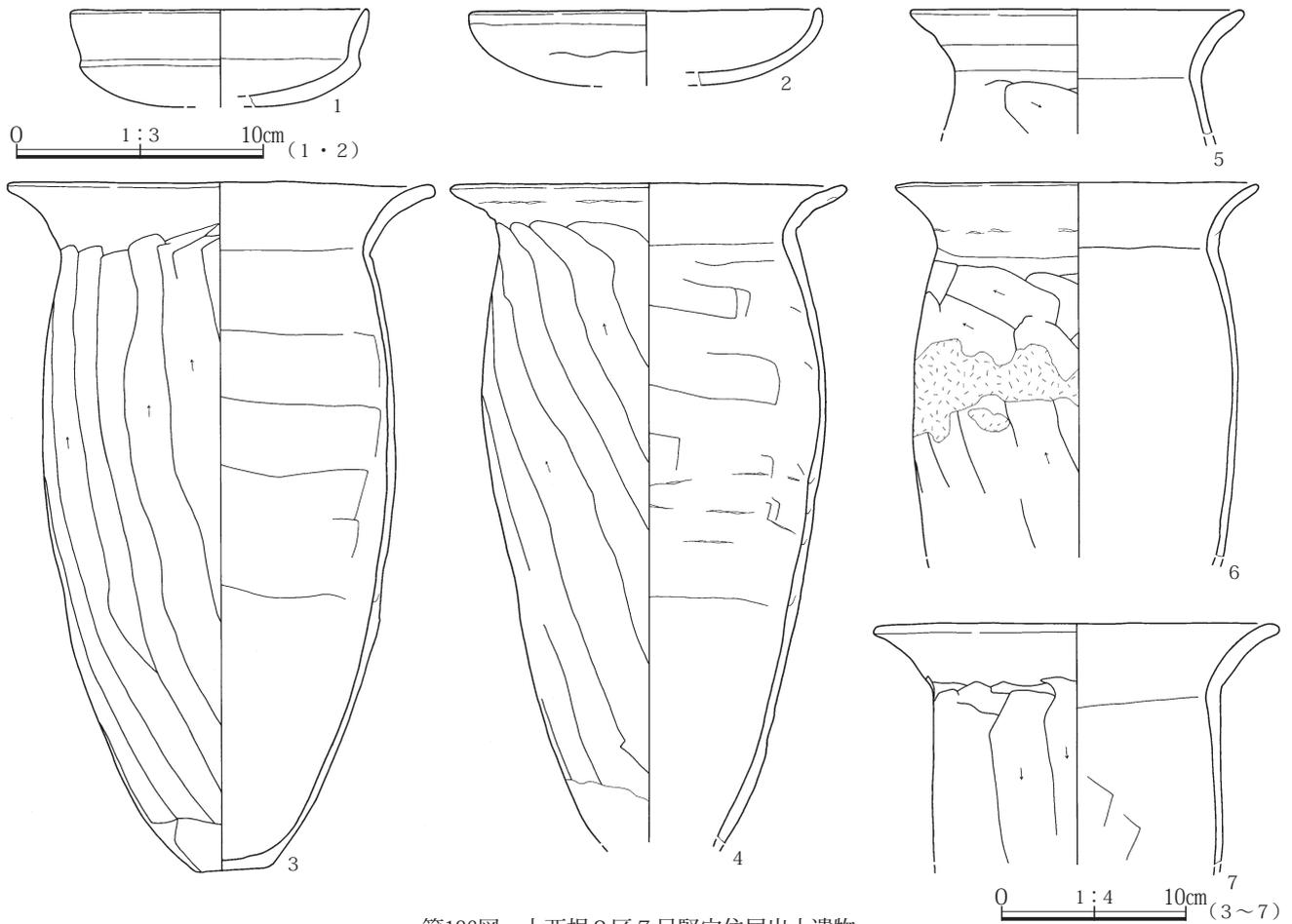


7号住居カマドB-B'・C-C'

- 1 褐色土 焼土粒を多量に、白色粒を僅かに含む
- 2 暗褐色土 焼土粒を多量に含む
- 3 褐灰色土 明赤褐色焼土主体、灰を少量含む
- 4 褐灰色土 灰を多量に、明赤褐色焼土小塊を少量含む、遺物を含む
- 5 褐色土 明赤褐色焼土・黄褐色土を含む
- 6 黄褐色土 明赤褐色焼土・粒を多量に、灰を少量含む
- 7 暗褐色土 焼土小塊を僅かに含む
- 8 暗褐色土 焼土小塊を均質に含む
- 9 黄褐色土 黒褐色土を少量含む
- 10 灰黄褐色土 黒褐色土・黄灰色土粒を少量含む



第135図 上西根2区7号竪穴住居



第136図 上西根2区7号竪穴住居出土遺物

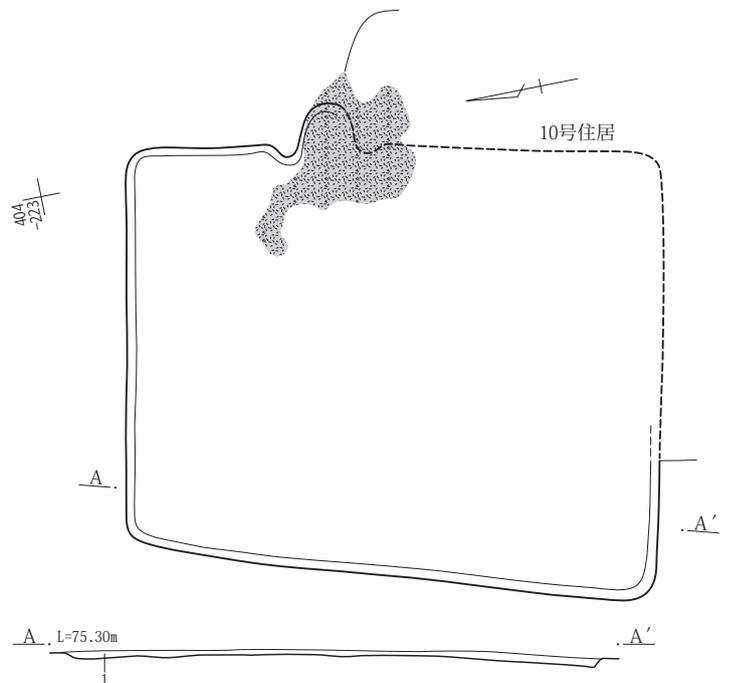
カマド 北壁で1か所検出された。右袖は調査区外である。左袖は黄褐色土および暗褐色土で構築され、袖の長さは0.76m、焚き口幅は0.45m、焚き口から煙道の長さは1.02mである。左袖では土師器甕が倒立した状態で出土した。焚き口周辺では、床面付近で土師器甕(3・6)が押し潰された状態で出土している。焚き口付近には焼土が分布していた。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 南部が0.08～0.13m低い。

遺物と出土状態 土師器437点、須恵器2点が出土し、このうち7点を図示した。土師器杯(2)、土師器甕(4・5・7)はいずれも床面付近から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末と推定される。



9号住居A-A'

1 褐色土 黒褐色土塊を多量に、焼土小塊を少量含む

第137図 上西根2区9号竪穴住居

2区9号竪穴住居(第137図 PL. 43・44)

位置 2区南側調査区中央部

X=38,399～38,403 Y=-56,222～-56,226

主軸方向 N-78°-W

重複 10号住居と重複し、出土遺物から本住居が新しい。

形状と規模 10号住居と重複する部分は明確ではないが、平面形は長方形と推定する。検出した長軸長は4.22m、短軸長3.3m、遺構検出面から床面までの深さは0.04mである。

埋没土 遺存状態がよくないため、埋没土は1層のみ確認した。黒褐色土を多量に含む褐色土である。

床面 ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。遺構検出時にカマド周辺に焼土と灰の広がりを確認したが、袖はほとんど遺存していなかった。カマドの幅は0.45m、燃烧部と煙道の長さは0.48mである。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 確認できなかった。

遺物と出土状態 埋没土から土師器35点が出土した。いずれも細片のため図示しなかったが、8世紀の特徴を持つ土師器片が見られた。

所見 出土遺物から、時期は8世紀代と考えられる。

2区10号竪穴住居(第138・139図 PL. 43・44・128)

位置 2区南側調査区中央

X=38,398~38,402 Y=-56,221~-56,226

主軸方向 N-78°-W

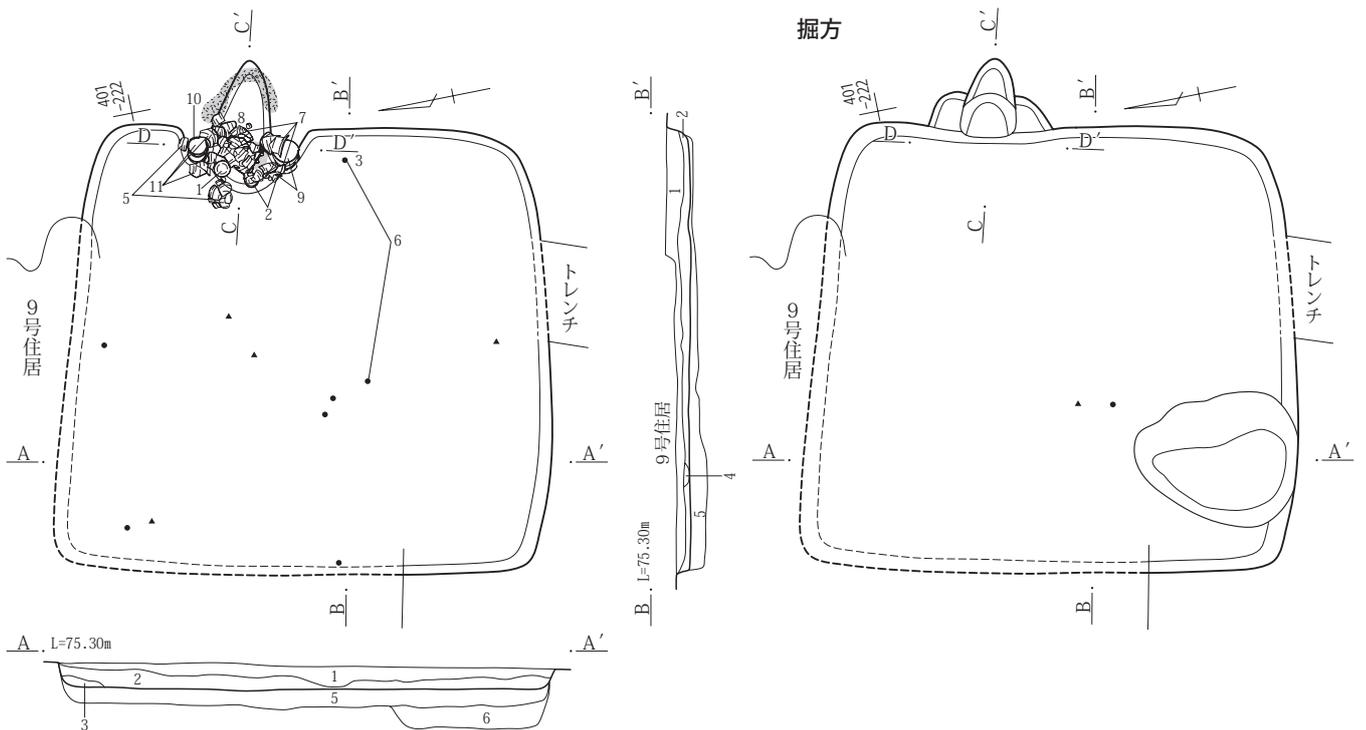
重複 9号住居と重複し、出土遺物から本住居が古い。

形状と規模 平面形は長方形を呈し、長軸長は3.9m、短軸長3.54m、検出面から床面までの深さは0.2m、掘方底面までの深さは0.23~46cm、面積は13.23㎡である。

埋没土 暗褐色土を主体とし自然堆積の状況を示している。

床面 褐色土で構築され、ほぼ平坦である。噴砂の痕跡が顕著に認められた。

カマド 東壁やや北寄りや北寄りで1か所検出され、遺存状況は良好である。袖は暗褐色土で構築され、袖の長さは0.22m、焚き口幅は0.43m、焚き口から煙道までの長さは1.06mである。両袖の先端には土師器甕(9~11)が倒立した状態で埋設されていた。焚き口および燃烧部では多量



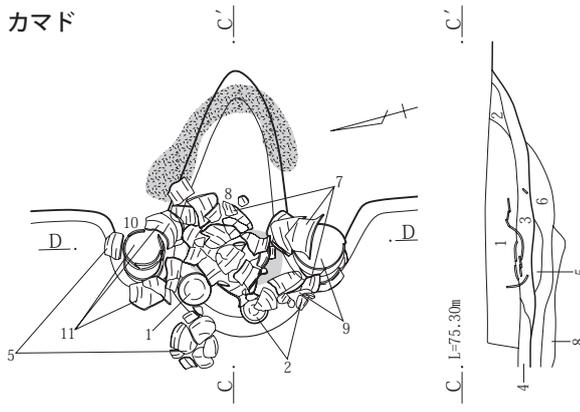
10号住居A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 白色粒・焼土小塊・炭を多量に、褐灰色土を均質に含む(1~4埋没土)
- 2 暗褐色土 褐灰色土を含み、焼土小塊・炭を少量含む
- 3 褐色土 暗褐色土小塊を含む
- 4 灰黄褐色土 白色粒を僅かに、灰白色土を含む
- 5 褐色土 白色粒を多量に、浅黄色土塊を含む、酸化鉄の沈着が著しい(5・6掘方土)
- 6 灰黄褐色土 白色粒を少量、全体に酸化鉄を含む、床下土坑か

0 1:60 2m

第138図 上西根2区10号竪穴住居

カマド



10号住居カマドC-C'・D-D'

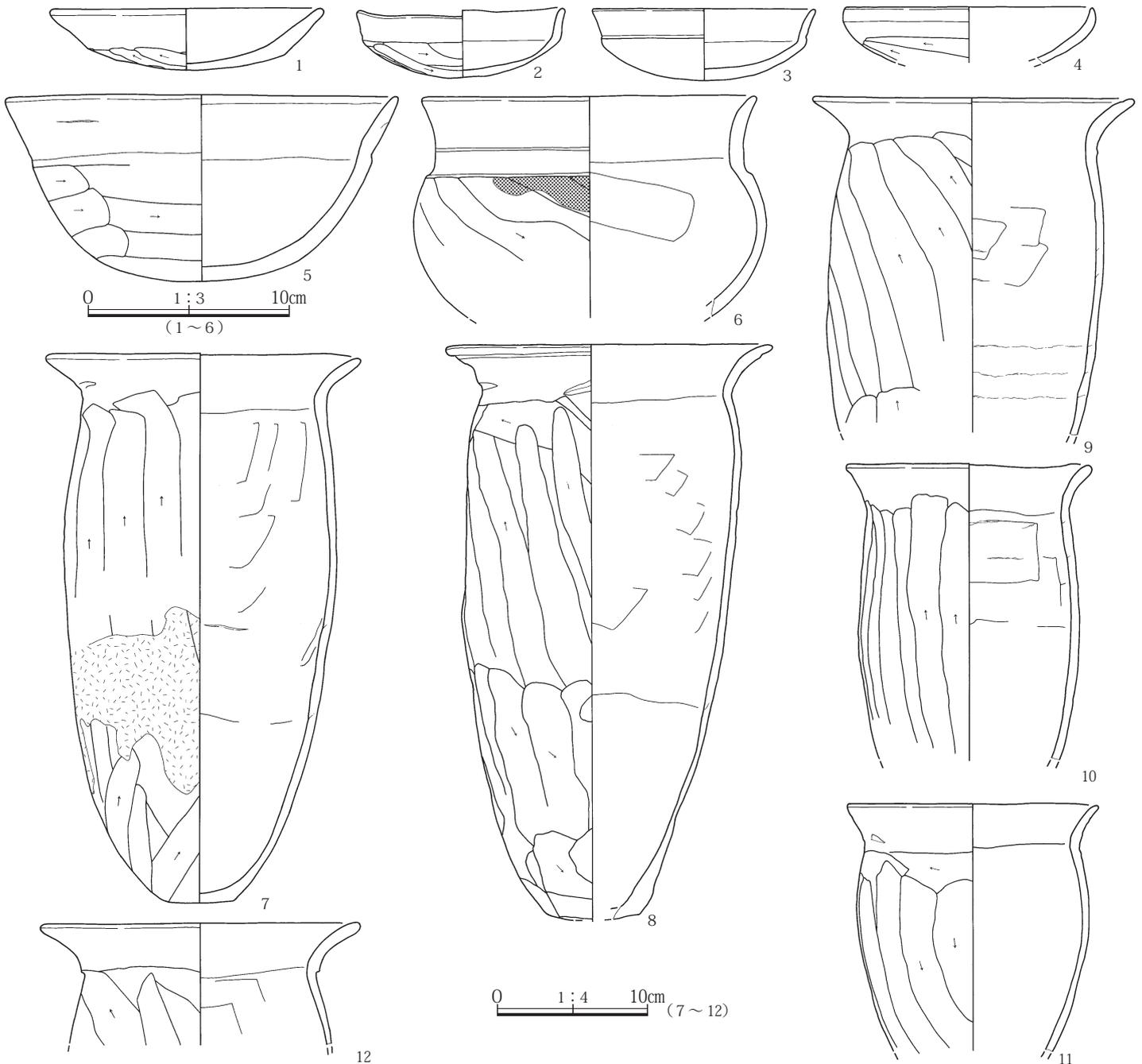
- 1 暗褐色土 明赤褐色焼土大塊・焼土粒を多量に含み、遺物を含む
- 2 灰色土 灰・焼土小塊を多量に含む
- 3 暗灰色土 灰を多量に、焼土粒を少量含み、遺物を含む
- 4 褐灰色土 焼土粒・灰を少量含む
- 5 橙色土 焼土・淡黄色土を含む
- 6 灰黄褐色土 焼土粒を多量に、白色粒を僅かに含む
- 7 暗褐色土 焼土小塊・遺物を含む
- 8 褐灰色土 焼土粒を少量、灰黄褐色土を含む

D, L=75.30m

D'

C, L=75.30m

0 1:30 1m



第139図 上西根2区10号竪穴住居カマドと出土遺物

の土師器鉢(5)、土師器甕(7~9)や土師器杯(1・2)が押し潰されたような状態で出土した。これらの土器は底面より2~10cm上位の埋没土中からまとまって出土した。煙道側壁では焼土面と灰のまとまりが検出された。カマド5層は焼土面で、使用面から約5cm下位まで被熱による赤化が確認できた。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の小さな凹凸が底面全体に認められた。南西隅には深さ15cmの土坑状の落ち込みが見られた。

遺物と出土状態 土師器215点、須恵器14点、縄文土器1点が出土し、このうち12点を図示した。土師器杯(3)・土師器鉢(6)は床面直上から出土し、それ以外はカマドから出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末と考えられる。

2区11号竪穴住居(第140図 PL. 44・128)

位置 2区南側調査区中央部

X=38,398~38,401 Y=-56,227~-56,231

主軸方向 N-19°-E

重複 23号住居と重複する。土層断面の観察から、発掘調査時には23号住居の方が新しいと判断したが、出土遺物を見ると新旧が逆である。

形状と規模 西側は調査区外である。平面形は長方形または正方形を呈し、長軸長は3.14m、短軸長2.8m、検出面から床面までの深さは0.06m、掘方底面までの深さは0.15~0.29mである。

埋没土 酸化鉄を多量に含む暗褐色土である。

床面 黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出された。上部が削平され、遺存状態は良好ではない。袖は黒褐色土を含む暗褐色土で構築され、残存する袖の長さは0.22mである。焚き口幅は0.55m、焚き口から煙道までの長さは0.73mである。燃焼部および煙道には、焼土と灰が分布していた。

貯蔵穴 検出されなかった

柱穴 検出されなかった。

掘方 北東部に深さ3cm程度の浅い落ち込みが認められた。

遺物と出土状態 土師器504点、須恵器7点、鉄製品1点、馬歯1点が出土し、このうち2点を図示した。須恵器杯(1)は埋没土と掘方土から出土した。土師器甕(2)は本

住居と23号住居が重複する部分から出土した。どちらの住居に帰属するのかが明確ではないが、本住居出土遺物として掲載した。また、馬歯が1点掘方土中から出土している(第6章第4節参照)。

所見 遺構の重複および出土遺物から、時期は8世紀後半と考えられる。

2区23号竪穴住居(第140図 PL. 49・50)

位置 2区南側調査区中央部

X=38,391~38,395 Y=-56,229~-56,232

主軸方向 N-0°-S

重複 11号住居と重複する。発掘調査時は本住居の方が平面・断面の観察から新しいと判断しているが、出土遺物を見ると新旧が逆の可能性もある。

形状と規模 検出した平面形から推して、形状は正方形または長方形である。検出した長軸長は3.22m、短軸長1.92m、遺構検出面から床面までの深さは0.2~0.25mである。

埋没土 暗褐色土を主体とする。2層・3層は堆積状況から人為堆積と考えられる。

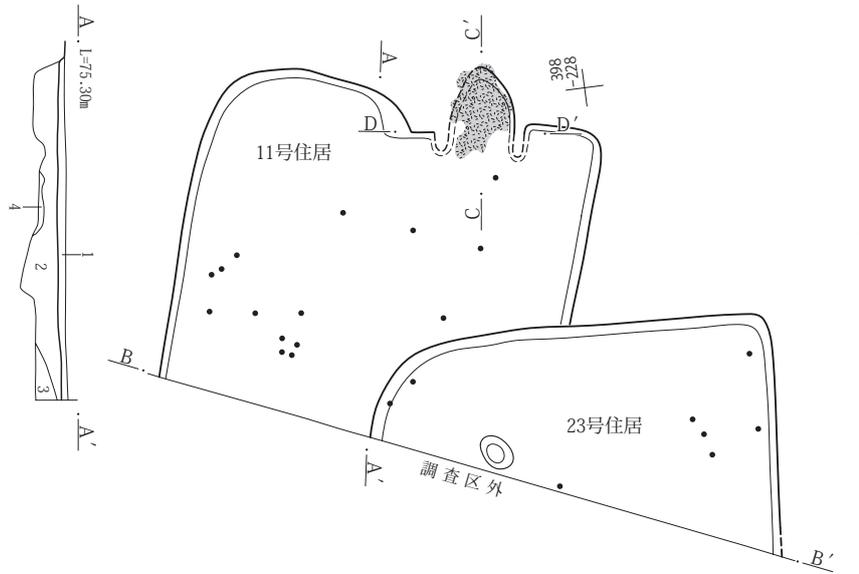
床面 ほぼ平坦である。

カマド・柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

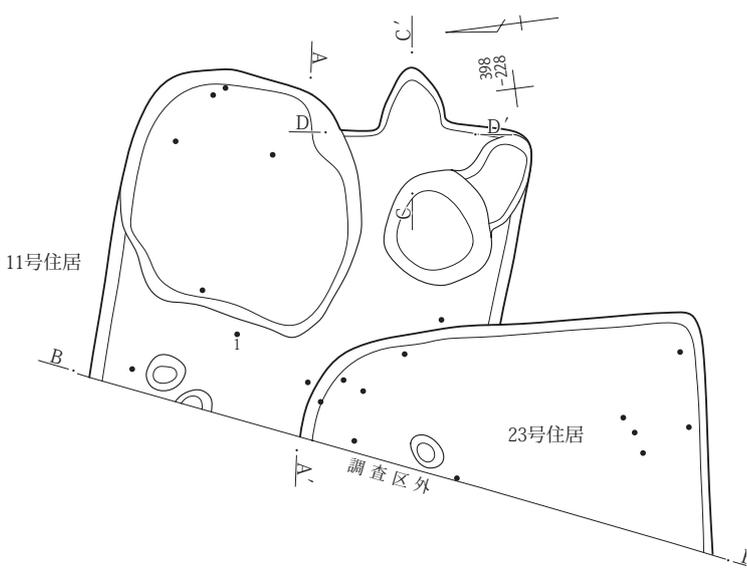
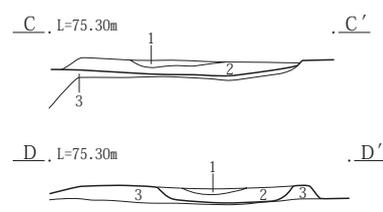
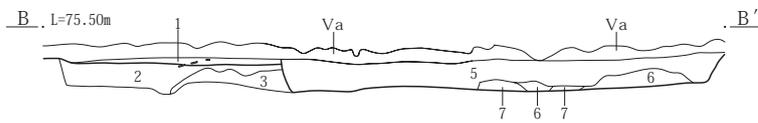
遺物と出土状態 土師器162点、須恵器7点、粘土塊2点が出土した。そのうち1点を図示し、2点の粘土塊は観察表(2・3)にのみ掲載した。遺物は細片が多く、埋没土から出土した。

所見 遺構の重複および出土遺物から、時期は7世紀末から8世紀初頭と考えている。

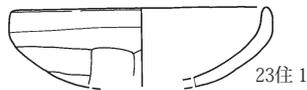
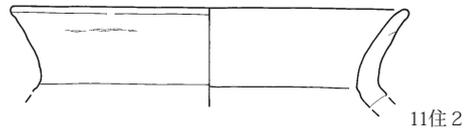
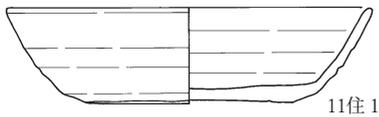
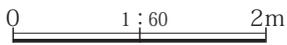
第4章 上西根遺跡の調査



- 11号住居A-A'・B-B'
- 1 暗褐色土 酸化鉄を多量に、白色粒を少量含む(埋没土)
 - 2 黒褐色土 白色粒・焼土小塊多量に、炭を少量、筋状の黄灰色土・遺物を含む(2~4掘方土)
 - 3 黒褐色土 焼土粒を僅かに含む
 - 4 褐灰色土 酸化鉄を少量、筋状の黄灰色土を含み、焼土粒を僅かに含む
- 23号住居B-B'
- 5 暗褐色土 白色粒を多量に、焼土小塊・炭を少量含む、遺物を含む
 - 6 褐灰色土 筋状の灰黄色土を含む
 - 7 黒褐色土 筋状の灰黄色土を含み、白色粒を僅かに含む



- 11号住居カマドC-C'・D-D'
- 1 明赤褐色土 焼土塊主体、灰を少量含む
 - 2 褐灰色土 焼土小塊・焼土粒を多量に、筋状の黄灰色土を含み、炭・灰を少量含む
 - 3 暗褐色土 黒褐色土小塊を含む



第140図 上西根2区11号・23号竪穴住居と出土遺物

2区12号竪穴住居(第141図 PL. 45)

位置 2区南側調査区中央部

X=38,394 ~ 38,397 Y=-56,225 ~ -56,228

主軸方向 N-26°-E

重複 なし

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は2.96m、短軸長2.54mである。遺構検出面から床面までの深さは0.1m、掘方底面までの深さは0.24m、面積は7.51㎡である。

埋没土 焼土と炭を含む暗灰色土を主体とする。

床面 暗褐色土で構築され、ほぼ平坦である。住居中央部で焼土および炭化物の分布が認められた。炭化物は材質がわかるような大きなまとまりのものではなく、1cm以下の小塊または粒子状である。

カマド 北東壁で1か所検出した。袖の長さは0.28m、

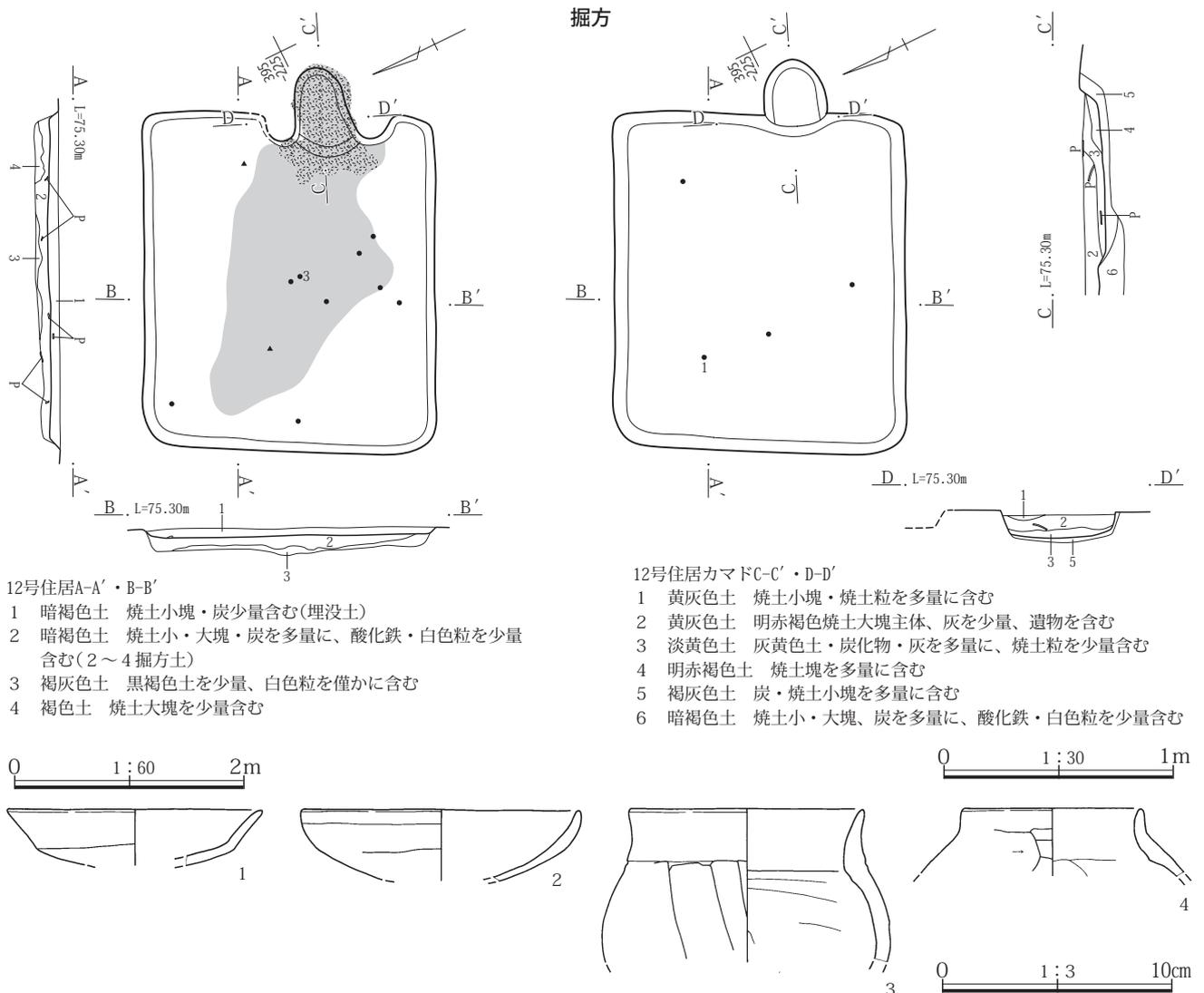
焚き口幅0.47m、焚き口から煙道までの長さは0.78mである。焚き口から煙道まで焼土および灰の広がりが確認できた。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 小さな凹凸があるものの、全体的には平らである。

遺物と出土状態 土師器109点、須恵器5点が出土し、このうち4点を図示した。土師器小型甕(3)は床面直上から出土した。土師器杯(1)は掘方底面から出土している。

所見 床面中央で焼土と炭化物の広がりが認められた。炭化物は小さく、灰状のものが大部分である。焼土および炭化物の状態や、カマドで検出された焼土・灰の分布とも連続することから、カマドの内部を掻き出した痕跡と推定される。出土遺物から、時期は8世紀前半と考え



第141図 上西根2区12号竪穴住居と出土遺物

られる。

2区13号竪穴住居(第142図 PL. 45・128)

位置 2区南側調査区南西部

X=38,381 ~ 38,384 Y=-56,236 ~ -56,238

主軸方向 N-90°-E

重複 なし

形状と規模 西側は調査区外であるが、形状は長方形または正方形と推定される。長軸長は2.73m、短軸長は2.02m、遺構検出面から床面までの深さは0.12m、掘方底面までの深さは0.15~0.44mである。

埋没土 酸化鉄を多量に含む暗褐色土を主体とする。

床面 暗褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

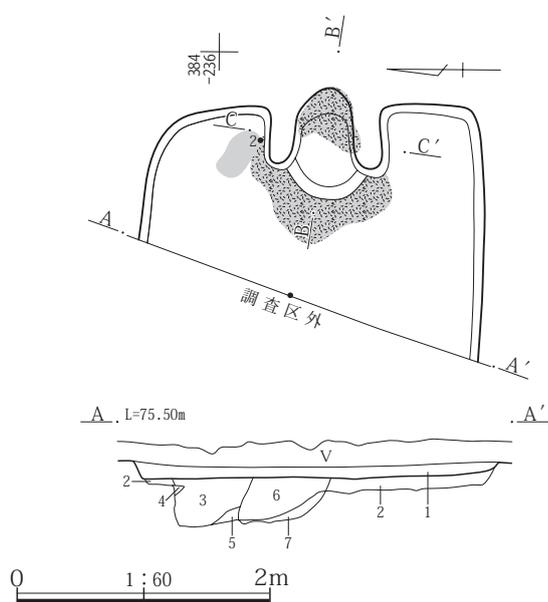
カマド 東壁で1か所検出した。両袖は暗褐色土で構築

され、袖の長さは0.51m、焚き口幅0.5m、焚き口から煙道までの長さは0.89mである。煙道部、焚き口周辺では焼土と灰の広がりが確認された。また、左袖外側には焼土が分布していた。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

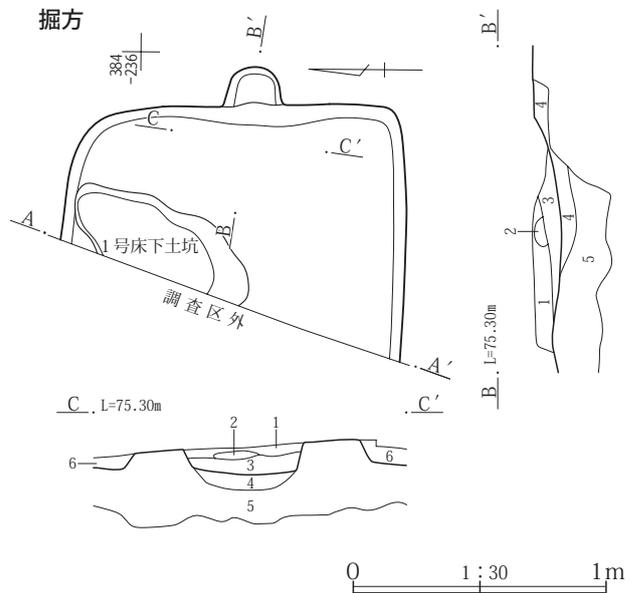
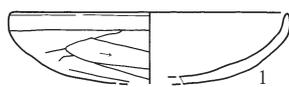
掘方 ピット状の凹凸が底面全体に見られた。掘方精査中に北部で楕円形の1号床下土坑が検出された。長径1.58m、短径0.54m、掘方底面からの深さは0.3~0.34mである。

遺物と出土状態 土師器70点、縄文土器1点が出土し、このうち2点を図示した。土師器杯(2)はカマド左袖付近で、床面上2cmから出土した。



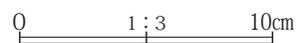
13号住居A-A'

- 1 暗褐色土 酸化鉄を多量に、筋状の灰黄色土を含み、白色粒・焼土小塊・炭を僅かに含む(埋没土)
- 2 暗褐色土 黒褐色土を少量含む(2~7掘方土)
- 3 黒褐色土 灰黄褐色土を含み、白色粒を少量、焼土小塊を僅かに含む
- 4 黒色土 褐灰色土を含む、根痕か
- 5 浅黄色土 黄灰色土粒を多量に、黒褐色土塊を少量含む
- 6 褐灰色土 筋状の灰黄色土を含み、黒褐色土小塊・白色粒を僅かに含む
- 7 灰黄色土 褐色土を多量に、黄灰色土塊を少量含む



13号住居カマドB-B'・C-C'

- 1 暗褐色土 明赤褐色焼土を多量に、炭を少量含む
- 2 明赤褐色土 焼土塊主体
- 3 暗灰色土 炭化物・灰を多量に、焼土小塊・焼土粒を少量含む
- 4 褐灰色土 灰を多量に、焼土粒・炭化物を少量含む
- 5 暗褐色土 褐色土・焼土小塊を少量含む
- 6 暗褐色土 酸化鉄を含み、焼土小塊を僅かに含む



第142図 上西根2区13号竪穴住居と出土遺物

所見 出土遺物から、時期は8世紀初頭と推定される。

2区14号竪穴住居(第143図 PL. 46)

位置 2区南側調査区東壁際

X=38,393~38,397 Y=-56,219~-56,223

主軸方向 N-25°-E

重複 28号住居と重複し、土層断面の観察から本住居が新しい。

形状と規模 東側は調査区外である。平面形は長方形または正方形で、長軸長は4.96m、短軸長2.32mである。遺構検出面から床面までの深さは0.29m、掘方底面まで

の深さは0.45~0.64mである。

埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

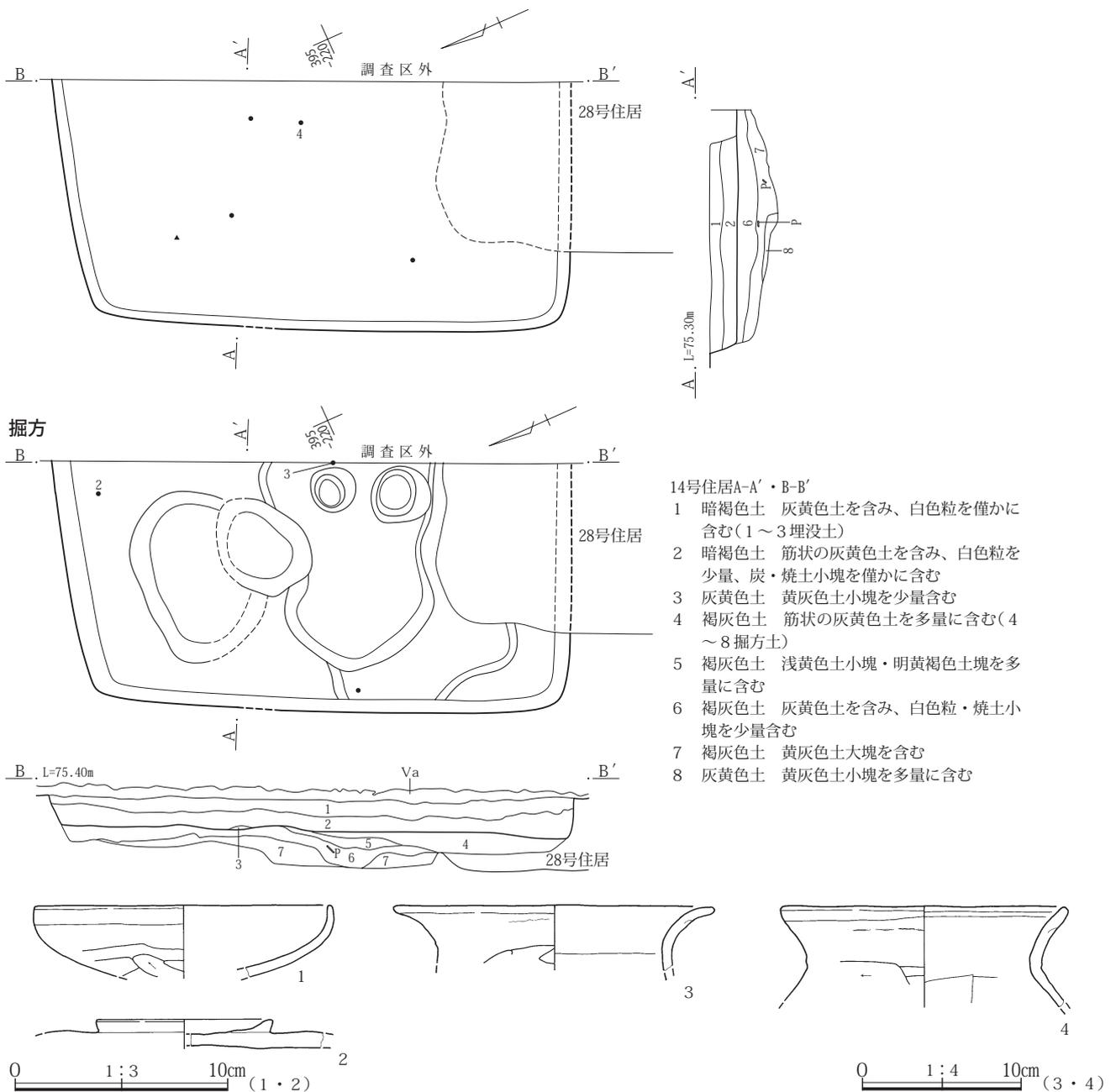
床面 褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状または浅い皿状の落ち込みが認められた。

遺物と出土状態 土師器518点、須恵器13点、縄文土器2点が出土し、このうち4点を図示した。床面から出土した遺物はなかった。須恵器蓋(2)は掘方土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末から8世紀前半と考えられる。



第143図 上西根2区14号竪穴住居と出土遺物

2区15号竪穴住居(第144図 PL. 46・128)

位置 2区南側調査区中央部

X=38,387~38,392 Y=-56,224~-56,229

主軸方向 N-31°-E

重複 2号竪穴状遺構と重複し、土層断面の観察から、本住居が新しい。

形状と規模 平面形は台形を呈し、長軸長は4.04m、短軸長3.9mである。遺構検出面から床面までの深さは0.26cm、掘方底面までの深さは0.35~0.6mである。面積は14.47㎡である。

埋没土 暗褐色土・褐灰色土・黒褐色土が認められ、自然堆積の様相を示している。

床面 黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。埋没土で

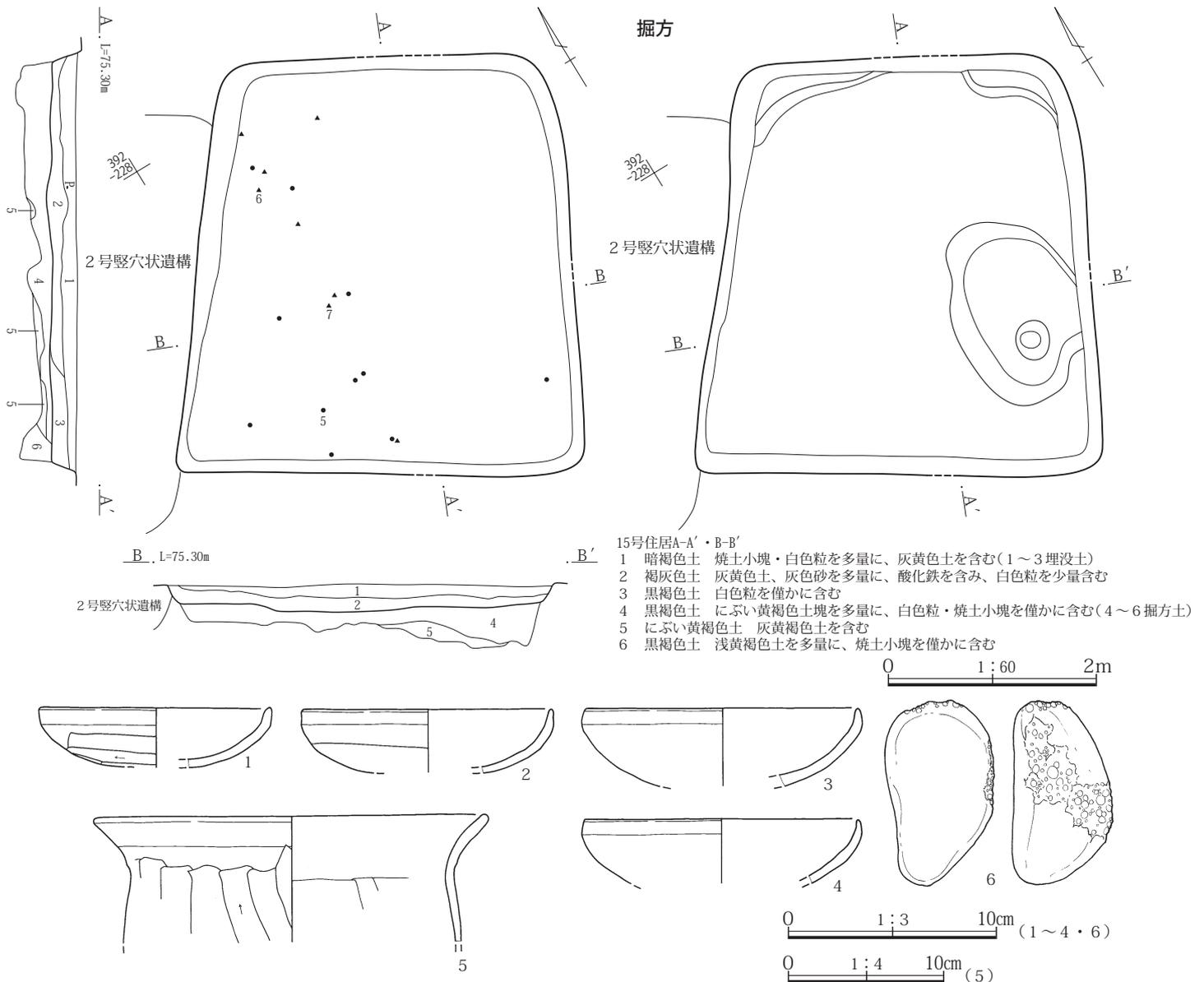
観察された筋状の灰黄色土、灰色砂が広範囲に見られ、北東部では筋状ではなく面的なまとまりをもって検出された。これらは噴砂の痕跡と考えられる。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 小さな凹凸が全体的に見られ、東側では深さ15cm程度の緩やかな落ち込みとピット状の落ち込み(長径40cm、短径33cm、深さ48cm)が確認された。

遺物と出土状態 土師器859点、須恵器25点、石製品2点が出土した。このうち6点を図示し、石製品のうち1点を写真掲載した(PL. 128-7)。敲石(6)は、床面直上から出土した。

所見 壁の立ち上がりは明瞭であるものの、カマドはなかった。住居以外の機能を持つ可能性がある。出土遺物から、時期は8世紀前半と推定される。



第144図 上西根2区15号竪穴住居と出土遺物

2区17号竪穴住居(第145～148図 PL. 47・48・128・129)

位置 2区南側調査区南部

X=38,381～38,386 Y=-56,224～-56,230

主軸方向 N-90°-E

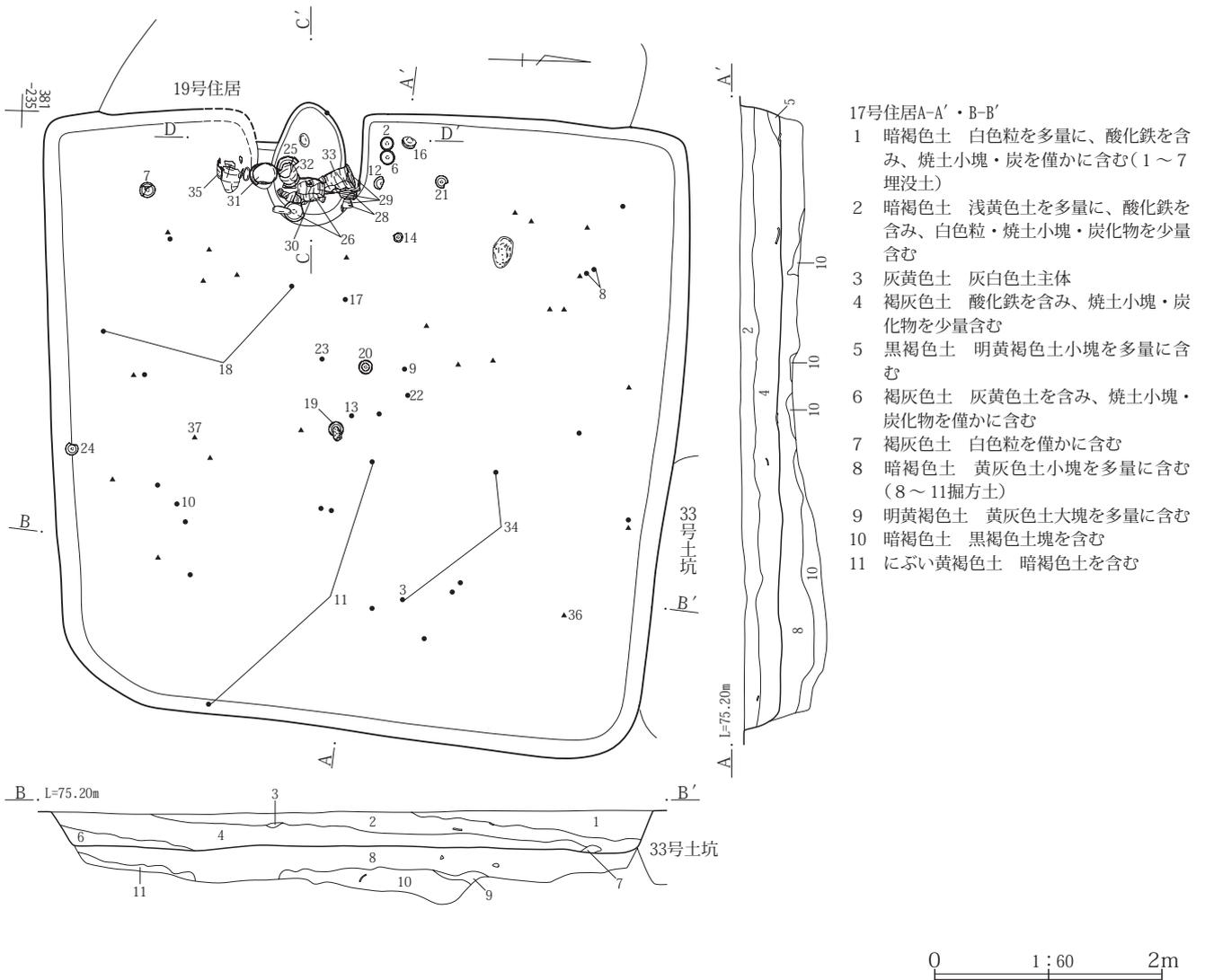
重複 19号住居、33号土坑と重複する。発掘調査時には、19号住居よりも新しいと判断して調査を進めたが、出土遺物から新旧が逆である。また、土層断面の観察から、33号土坑よりも新しい。

形状と規模 平面形は正方形で、長軸長は5.6m、短軸長5.6m、遺構検出面から床面までの深さは0.28～0.36m、掘方底面までの深さは0.48～0.82mである。

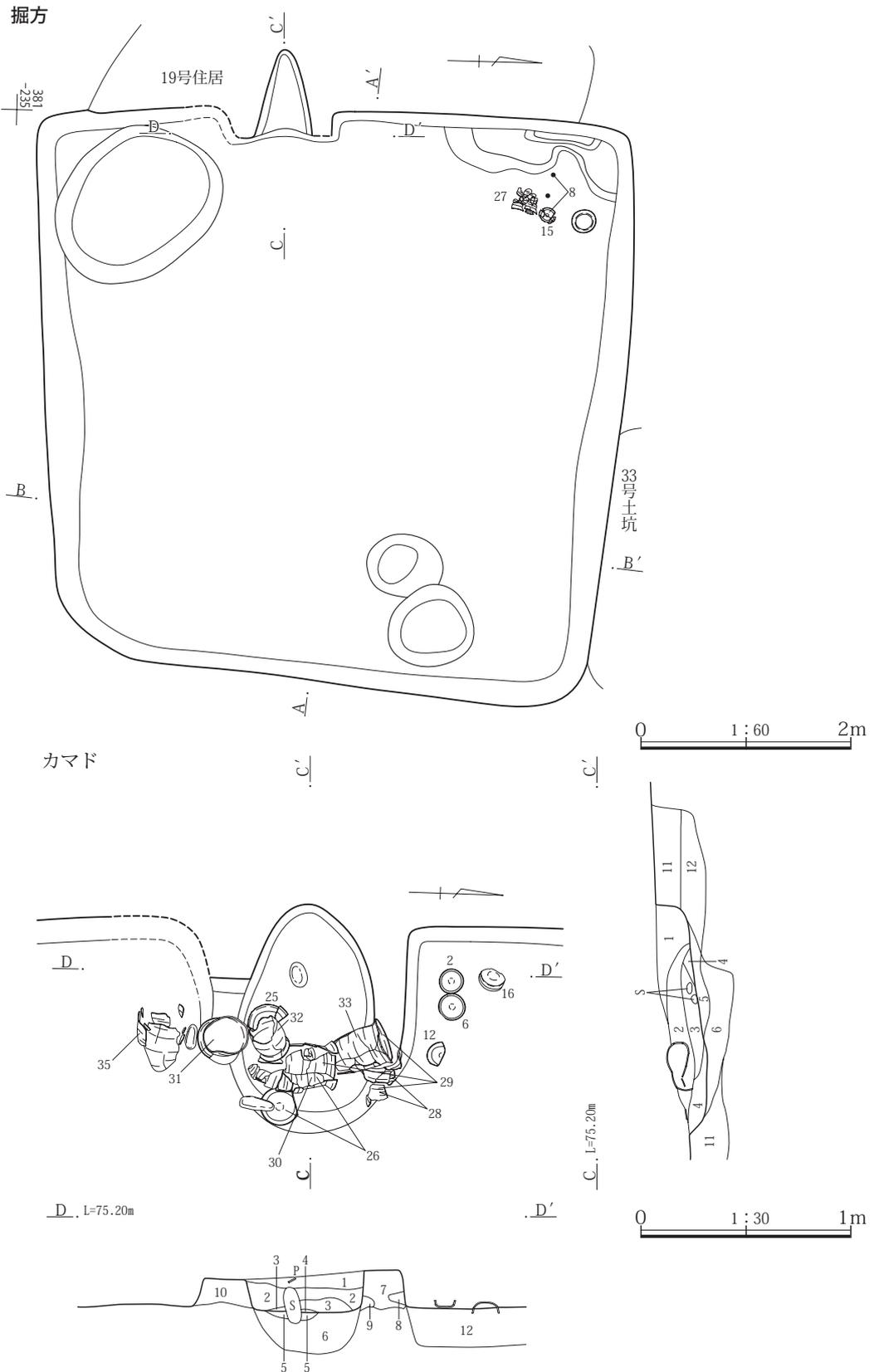
埋没土 暗褐色土および褐灰色土を主体とする。2層は浅黄色土を多く含み、人為堆積と推定される。埋没土は南側から流入したと考えられる。

床面 暗褐色土で構築され、平坦である。

カマド 西壁で1か所検出された。袖は暗褐色土または黄灰色土で構築され、左袖端には土師器甕(31)が伏せた状態で設置されていた。袖の長さは0.72m、焚き口幅は0.53m、焚き口から煙道の長さは1.1mである。燃烧部中央では長径15cmの細長い礫が検出された。カマド掘方に埋め込み、立てた状態で出土した。支脚に使用したと考えられる。焚き口および燃烧部では遺物が多量に出土した。土師器甕(30・33)が横倒しの状態で出土した。また、ほぼ完形の土師器鉢(26)が正位で出土し、その上に20cm大の細長い礫に乗った状態で出土した。これらの土器を取り上げると下位に焼土面が確認できた。被熱により白色化しその周囲が赤色変化していた。右袖周辺では土師器杯が6点(2・6・12・14・16・21)まとめて出土した。6・12・16・21は床面直上から、14は床面上4cmから出土している。



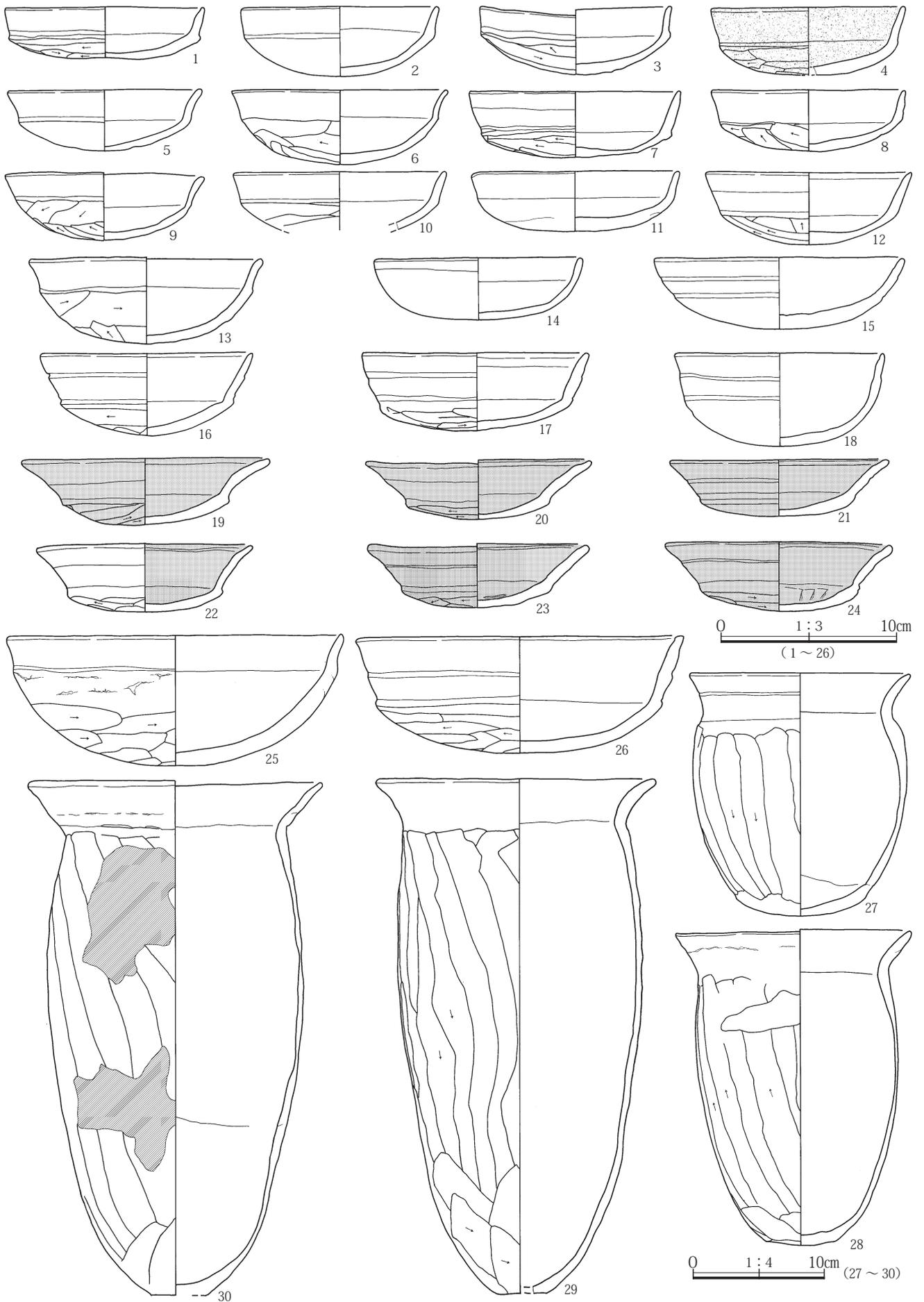
第145図 上西根2区17号竪穴住居



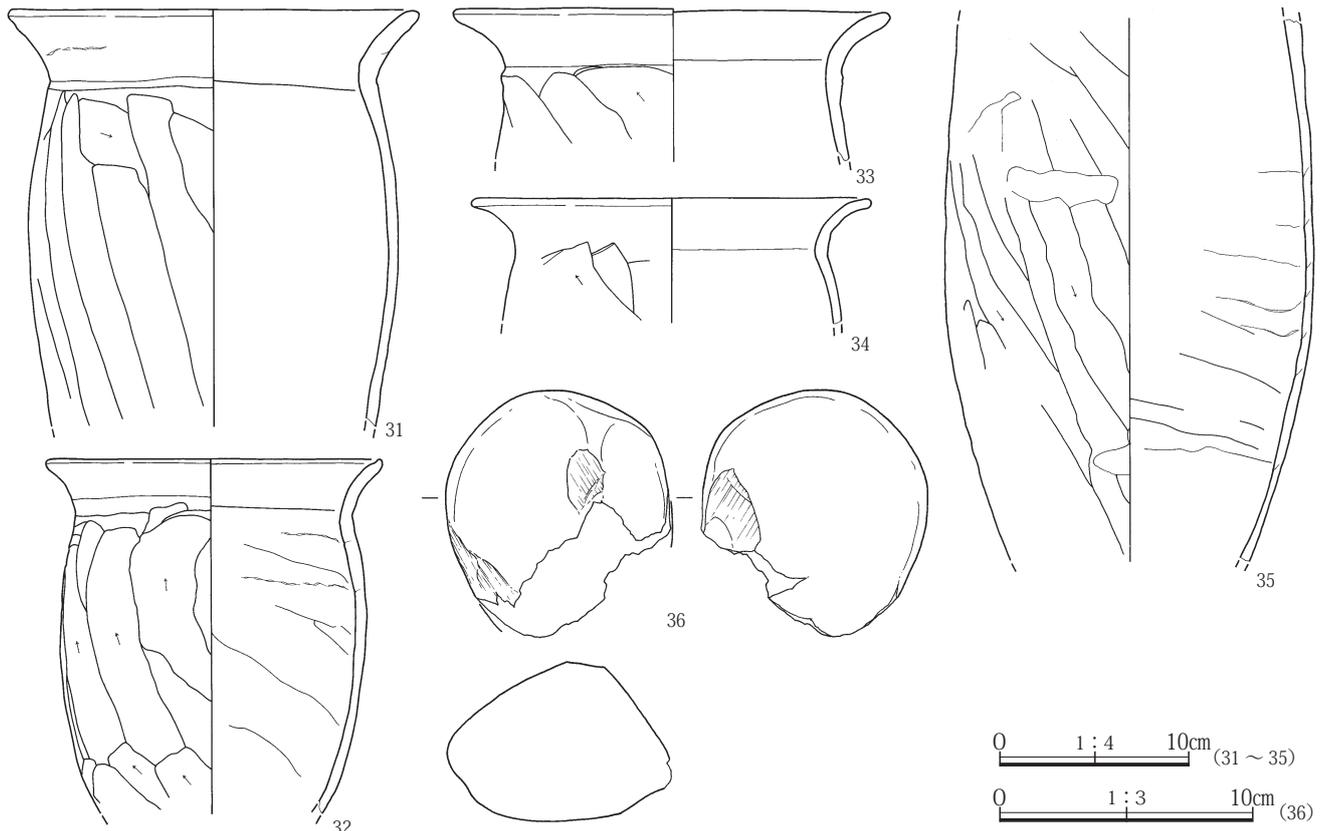
17号住居カマドC-C'・D-D'

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色土 褐色土・遺物を含み、筋状の灰黄色土を含む | 7 暗褐色土 黒褐色土・焼土小塊・焼土粒を含む |
| 2 灰黄褐色土 明黄褐色土を多量に、焼土粒を僅かに含む | 8 褐灰色土 明黄褐色土を含む |
| 3 暗灰色土 焼土塊・灰を多量に含む | 9 灰黄色土 焼土粒を僅かに含む |
| 4 暗灰色土 灰を多量に含む | 10 黄灰色土 淡黄色土塊を多量に、焼土小塊・炭を僅かに含む |
| 5 灰黄色土 焼土粒を多量に含む | 11 褐灰色土 酸化鉄を含み、筋状の灰黄色土を含む |
| 6 褐灰色土 暗褐色土塊・焼土小塊・炭を少量含む | 12 暗褐色土 黒褐色土を含み、淡黄色土塊を少量含む |

第146図 上西根2区17号竪穴住居掘方とカマド



第147図 上西根2区17号竪穴住居出土遺物(1)



第148図 上西根2区17号竪穴住居出土遺物(2)

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 浅い皿状あるいはピット状の落ち込みが多く、平らではない。北西隅で土師器甕(27)と土師器杯(15)が出土した。

遺物と出土状態 土師器1,389点、須恵器44点、古代瓦1点、石製品3点、棒状礫11点が出土した。このうち36点図示し、敲石1点を写真のみ掲載した(PL.129-37)。出土遺物はカマド周辺で多く、東側ほど散漫になっている。土師器杯(7~9・13・17・19・20・22・23)と敲石(37)が床面付近から出土した。完形の土師器杯(19)の中に礫が入った状態で出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀前半と考えられる。

2区18号竪穴住居(第149・150図 PL.48・49・130)

位置 2区南側調査区南東部

X=38,373~38,380 Y=-56,227~-56,233

主軸方向 N-50°-E

重複 20号住居と重複し、土層断面の観察から本住居が古い。

形状と規模 東側は調査区外である。平面形は不整な隅丸方形で、長軸長は5.64m、短軸長5.56m、検出面から

床面までの深さは0.3~0.35m、掘方底面までの深さは0.36~0.55mである。

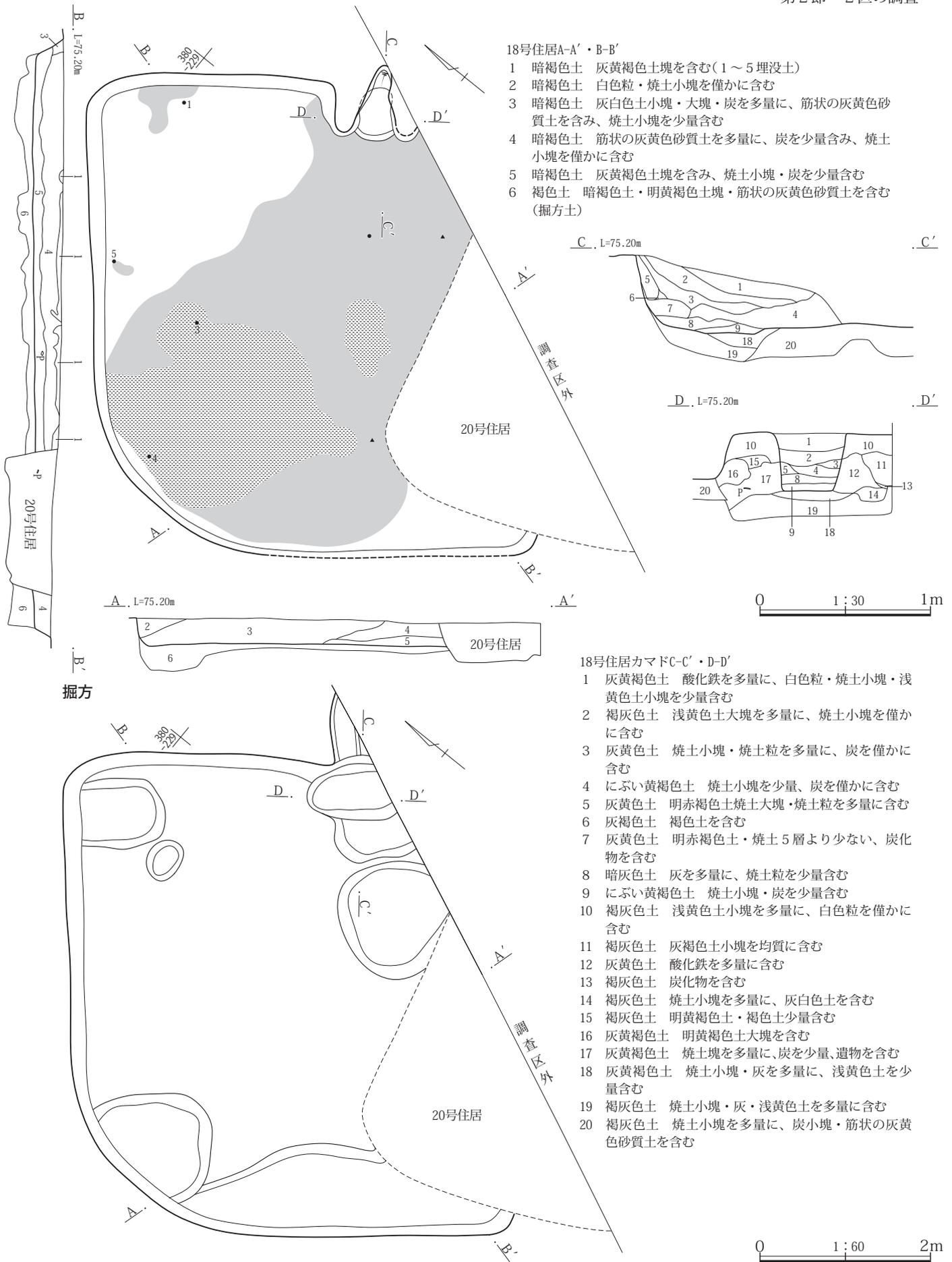
埋没土 暗褐色土を主体とする。1~5層は灰黄褐色土および灰白色土、焼土小塊を多く含み、標高が低い東側から埋没土が流入していることなどから、人為堆積と考えている。

床面 褐色土で構築され、ほぼ平坦である。カマドから住居東隅にかけて焼土および炭化物が広く分布していた。炭化物は小片の集合で、形状から材質を推定することはできない。また、側壁付近でも焼土がまとまって検出された。

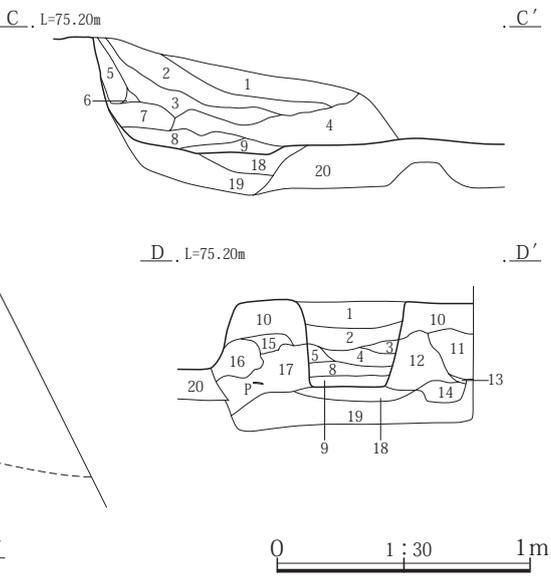
カマド 北東壁やや北寄りですら1か所検出され、右袖および煙道の一部は調査区外である。袖は褐灰色土および灰黄褐色土で構築され、袖の長さは0.57m、焚き口幅は0.41m、焚き口から煙道までの長さは0.9mである。袖の遺存状況は良好で、側壁の一部はドーム状に残っていた。燃烧部および煙道の側壁では焼土面が顕著に認められた。掘方は楕円形の土坑状で、焼土小塊と炭化物を多量に含む褐色土が充填されていた。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

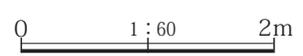
掘方 ピット状の小さな凹凸や浅い落ち込みが底面全体



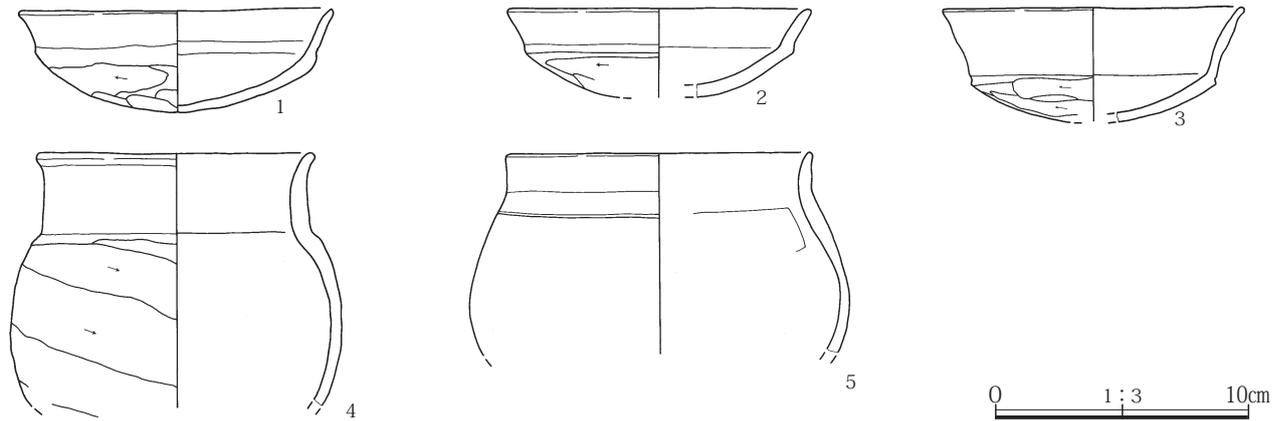
- 18号住居A-A'・B-B'
- 1 暗褐色土 灰黄褐色土塊を含む(1~5埋没土)
 - 2 暗褐色土 白色粒・焼土小塊を僅かに含む
 - 3 暗褐色土 灰白色土小塊・大塊・炭を多量に、筋状の灰黄色砂質土を含み、焼土小塊を少量含む
 - 4 暗褐色土 筋状の灰黄色砂質土を多量に、炭を少量含み、焼土小塊を僅かに含む
 - 5 暗褐色土 灰黄褐色土塊を含み、焼土小塊・炭を少量含む
 - 6 褐色土 暗褐色土・明黄褐色土塊・筋状の灰黄色砂質土を含む(掘方土)



- 18号住居カマドC-C'・D-D'
- 1 灰黄褐色土 酸化鉄を多量に、白色粒・焼土小塊・浅黄色土小塊を少量含む
 - 2 褐灰色土 浅黄色土大塊を多量に、焼土小塊を僅かに含む
 - 3 灰黄色土 焼土小塊・焼土粒を多量に、炭を僅かに含む
 - 4 にぶい黄褐色土 焼土小塊を少量、炭を僅かに含む
 - 5 灰黄色土 明赤褐色土焼土大塊・焼土粒を多量に含む
 - 6 灰褐色土 褐色土を含む
 - 7 灰黄色土 明赤褐色土・焼土5層より少ない、炭化物を含む
 - 8 暗灰色土 灰を多量に、焼土粒を少量含む
 - 9 にぶい黄褐色土 焼土小塊・炭を少量含む
 - 10 褐灰色土 浅黄色土小塊を多量に、白色粒を僅かに含む
 - 11 褐灰色土 灰褐色土小塊を均質に含む
 - 12 灰黄色土 酸化鉄を多量に含む
 - 13 褐灰色土 炭化物を含む
 - 14 褐灰色土 焼土小塊を多量に、灰白色土を含む
 - 15 褐灰色土 明黄褐色土・褐色土少量含む
 - 16 灰黄褐色土 明黄褐色土大塊を含む
 - 17 灰黄褐色土 焼土塊を多量に、炭を少量、遺物を含む
 - 18 灰黄褐色土 焼土小塊・灰を多量に、浅黄色土を少量含む
 - 19 褐灰色土 焼土小塊・灰・浅黄色土を多量に含む
 - 20 褐灰色土 焼土小塊を多量に、炭小塊・筋状の灰黄色砂質土を含む



第149図 上西根2区18号竪穴住居



第150図 上西根2区18号竪穴住居出土遺物

に認められた。

遺物と出土状態 土師器260点、須恵器3点、石製品1点、棒状礫1点、粘土塊3点、縄文土器1点が出土した。このうち5点を図示し、粘土塊および石製品の4点を写真掲載した(PL. 130-6~9)。これらの大部分は埋没土から出土した。

所見 住居床面で焼土や炭化物が広く分布しているのが確認できた。焼失住居の可能性がある。出土遺物から、時期は7世紀後半と推定される。

2区19号竪穴住居(第151図 PL. 49)

位置 2区南側調査区南部

X=38,381~38,386 Y=-56,230・-56,231

主軸方向 N-17°-E

重複 17号住居と重複する。発掘調査時には、17号住居よりも古いと判断して調査を進めたものの、出土遺物から本住居の方が新しいと判断できる。

形状と規模 17号住居と重複している部分は不明である。確認できた平面形から推して、不整な長方形または正方形と考えられる。検出した長軸長は4.04m、短軸長1.84m、遺構検出面から床面までの深さは0.13~0.23mである。

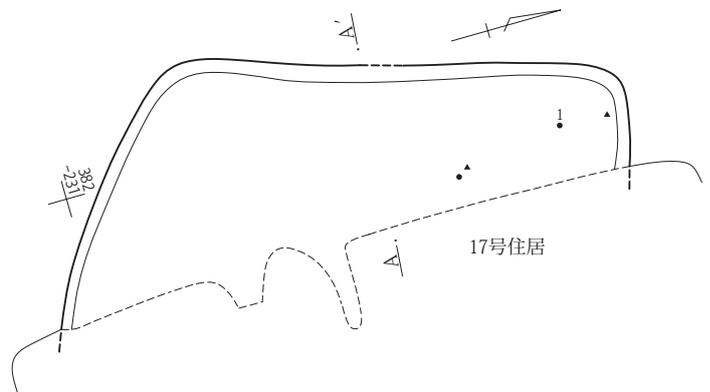
埋没土 暗褐色土および黒褐色土で、自然堆積の状況を示す。2層では筋状の灰黄色砂質土が見られた。

床面 ほぼ平坦であるが、東部で0.05~0.09m低い。

カマド・柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

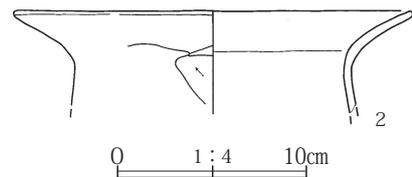
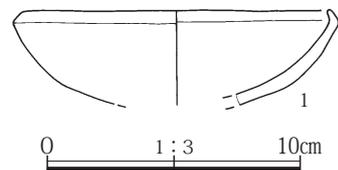
遺物と出土状態 土師器102点、須恵器5点が出土し、このうち2点を図示した。土師器杯(1)は床上2cmから出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀後半と考えられる。



19号住居A-A'

- 1 暗褐色土 褐色土・白色粒を少量、遺物を含む
- 2 黒褐色土 筋状の灰黄色砂質土を含み、白色粒を僅かに含む



第151図 上西根2区19号竪穴住居と出土遺物

2区20号竪穴住居(第152図 PL. 49・130)

位置 2区南側調査区南東部

X=38,372~38,376 Y=-56,230~-56,232

主軸方向 不明である。

重複 18号住居と重複し、土層断面の観察から、本住居が新しい。遺構確認時には重複の確認ができず、土層断面観察で重複を確認したため、平面形態等詳細は不明である。

形状と規模 東側が調査区外である。平面形は正方形または長方形と考えられ、土層断面で確認した壁の立ち上がりを基に推定したものである。南西壁の長さは3.2m、北西壁の長さは3.02mと推定される。遺構検出面から床面までの深さは0.2~0.5m、掘方底面までの深さは0.47

~0.55mである。

埋没土 暗褐色土および黒褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。2・3層では焼土小塊と炭を多量に含んでいた。

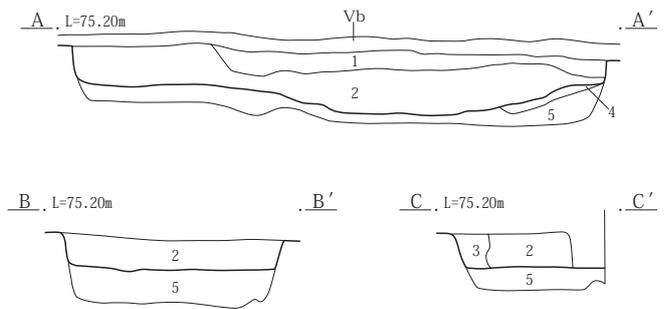
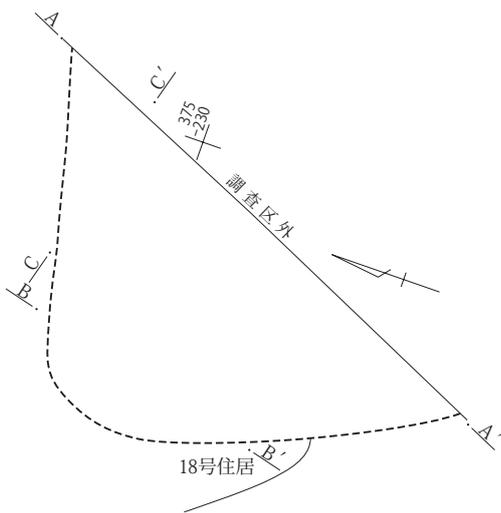
床面 黄褐色土で構築されている。平坦ではなく南部で最大20cm低くなっている。

カマド・柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 浅い小さな凹凸が見られるものの、全体的には平坦である。

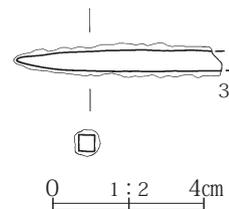
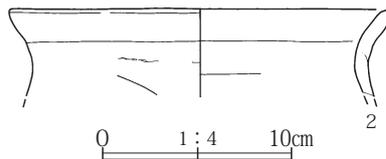
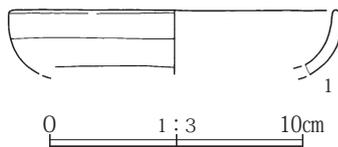
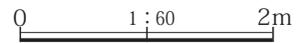
遺物と出土状態 土師器611点、須恵器16点、礫2点、鉄製品2点が出土し、このうち3点図示した。土師器杯(1)は掘方土から、それ以外の遺物は埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と考えられる。



20号住居A-A'・B-B'・C-C'

- 1 暗褐色土 筋状の灰黄色土を含み、白色粒・焼土小塊を僅かに含む(1~3埋没土)
- 2 黒褐色土 焼土小塊・炭を多量に含む
- 3 暗褐色土 焼土小塊・炭を多量に、明黄褐色土小塊を少量含む
- 4 灰黄色土 暗褐色土を含む(4・5掘方土)
- 5 黄褐色土 筋状の灰黄色土を含み、焼土小塊・炭を少量含む



第152図 上西根2区20号竪穴住居と出土遺物

2区21号竪穴住居(第153図 PL. 49)

位置 2区南側調査区南西部

X=38,376~38,380 Y=-56,235~-56,239

主軸方向 N-15°-E

重複 22号住居と重複する。新旧関係は発掘調査時に明らかにできなかったが、出土遺物から、本住居が新しい。

形状と規模 西側は調査区外である。平面形は長方形または正方形で、長軸長は4.6m、短軸長3.4mである。遺構検出面から床面までの深さは0.35~0.45mである。

埋没土 褐色土および暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を呈する。3層には焼土小塊や炭化物が含まれている。

床面 ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器234点、須恵器7点が出土し、このうち4点図示した。すべて埋没土から出土した。

所見 壁の立ち上がりが明確で、平坦な床面が認められたので住居として調査したが、カマドなどの内部施設がなく、住居以外の性格をもつ遺構の可能性がある。出土遺物から、8世紀中頃と考えられる。

2区22号竪穴住居(第153図 PL. 49・130)

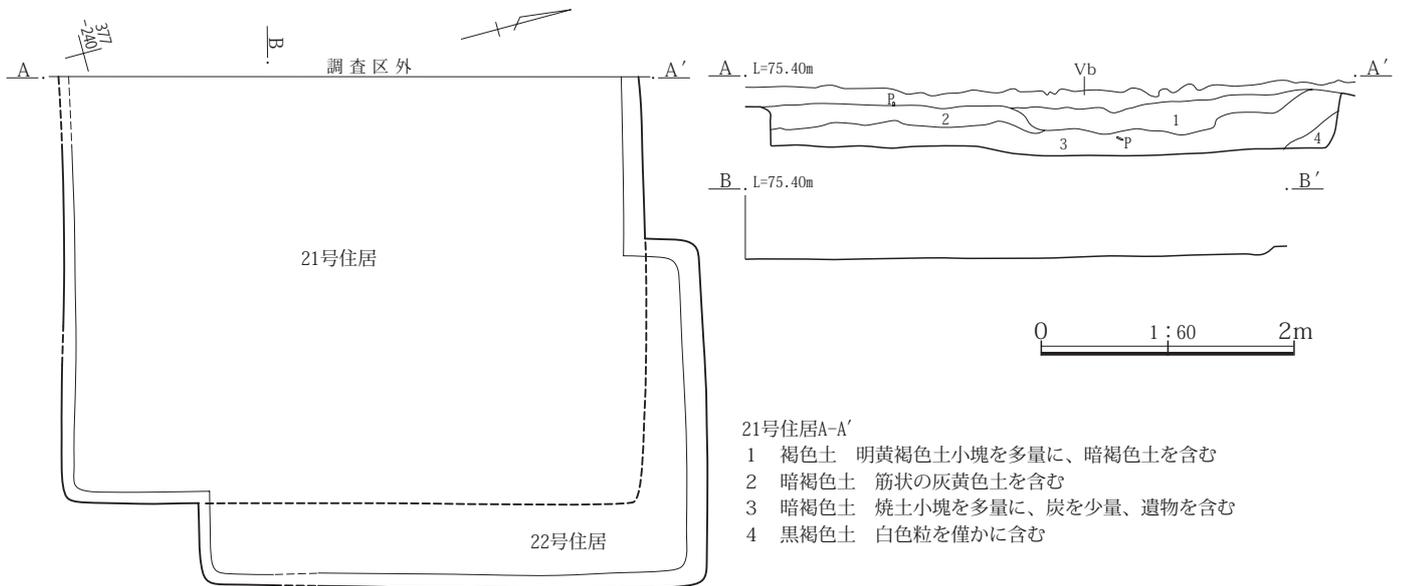
位置 2区南側調査区南西部

X=38,377~38,380 Y=-56,235~-56,238

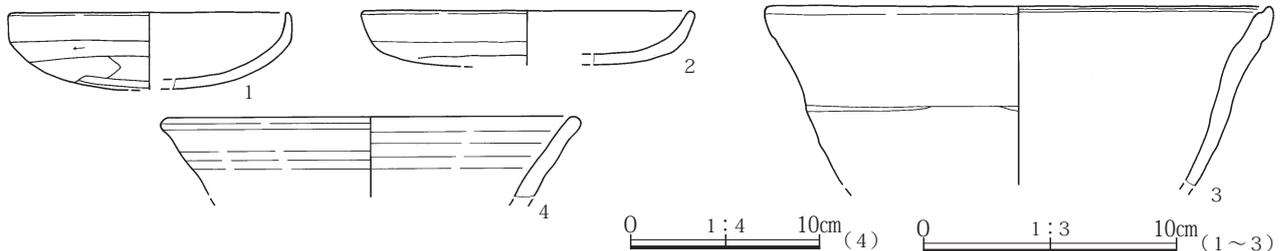
主軸方向 N-15°-E

重複 21号住居と重複する。新旧関係は発掘調査時に明らかにできなかったが、出土遺物から、本住居が古い。

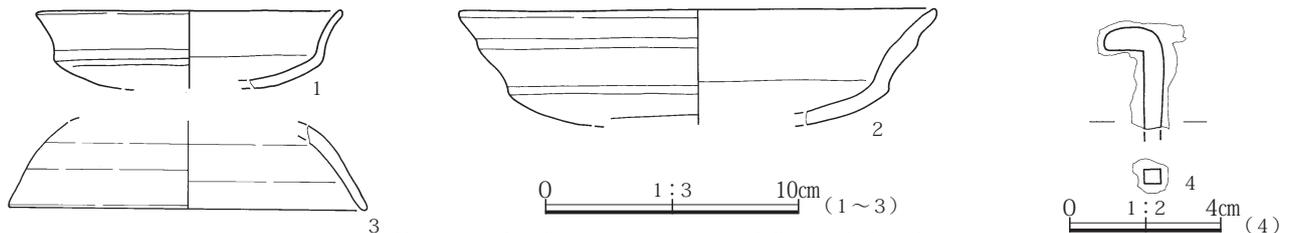
形状と規模 平面形は長方形と推定され、長軸長は3.54



21号住居出土遺物



22号住居出土遺物



第153図 上西根2区21号・22号竪穴住居と出土遺物

m、短軸長2.2mである。遺構検出面から床面までの深さは0.2～0.28mである。

床面 平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 21号住居に壊されているためか検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器386点、須恵器13点、礫1点、鉄製品1点、縄文土器1点が出土し、このうち4点を図示した。いずれも埋没土から出土した。縄文土器は混入と考えられる。

所見 壁の立ち上がりが明確で、平坦な床面が認められたので住居として調査したが、住居以外の性格をもつ遺構の可能性もある。出土遺物から、時期は7世紀中頃と推定される。

2区27号竪穴住居(第154図 PL. 50)

位置 2区南側調査区北西隅

X=38,426～38,428 Y=-56,216～-56,218

主軸方向 N-42°-S

重複 なし

形状と規模 西側は調査区外であるが、平面形は不整な長方形または正方形と推定される。南東壁を主軸とした場合、長軸長は2.9m、短軸長1.3m、遺構検出面から床面までの深さは0.25～0.34m、掘方底面までの深さは

0.3～0.55mである。

埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 P1が検出された。長径0.36m、短径0.3mの楕円形で、深さは0.12mである。P1の埋没土1層は暗褐色土で、住居内埋没土と同質である。

掘方 底面に小さな凹凸があるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器2点が出土した。いずれも細片のため時期を推定できるものがなく図示しなかった。

所見 埋没土の特徴から、時期は古代と考えられるが詳細は不明である。

2区28号竪穴住居(第155図 PL. 46・130)

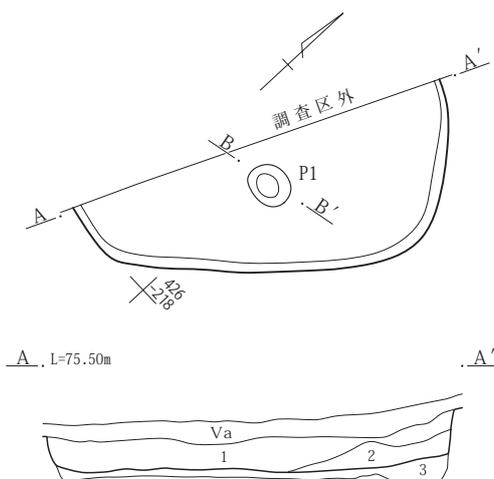
位置 2区南側調査区東壁際

X=38,390～38,394 Y=-56,220～-56,223

主軸方向 N-21°-E

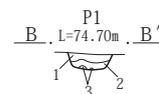
重複 14号住居と重複し、土層断面の観察から本住居が古い。

形状と規模 東側は調査区外である。平面形は長方形または正方形と推定され、長軸長は3.94m、短軸長1.64mである。遺構検出面から床面までの深さは0.1～0.28m、



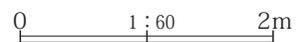
27号住居A-A'

- 1 暗褐色土 白色粒・褐灰色土塊を少量含む(1・2埋没土)
- 2 暗褐色土 褐色土小塊・褐灰色土小塊を少量含む、やや色味明るい
- 3 褐灰色土 明黄褐色土小塊を均質に含む(掘方土)

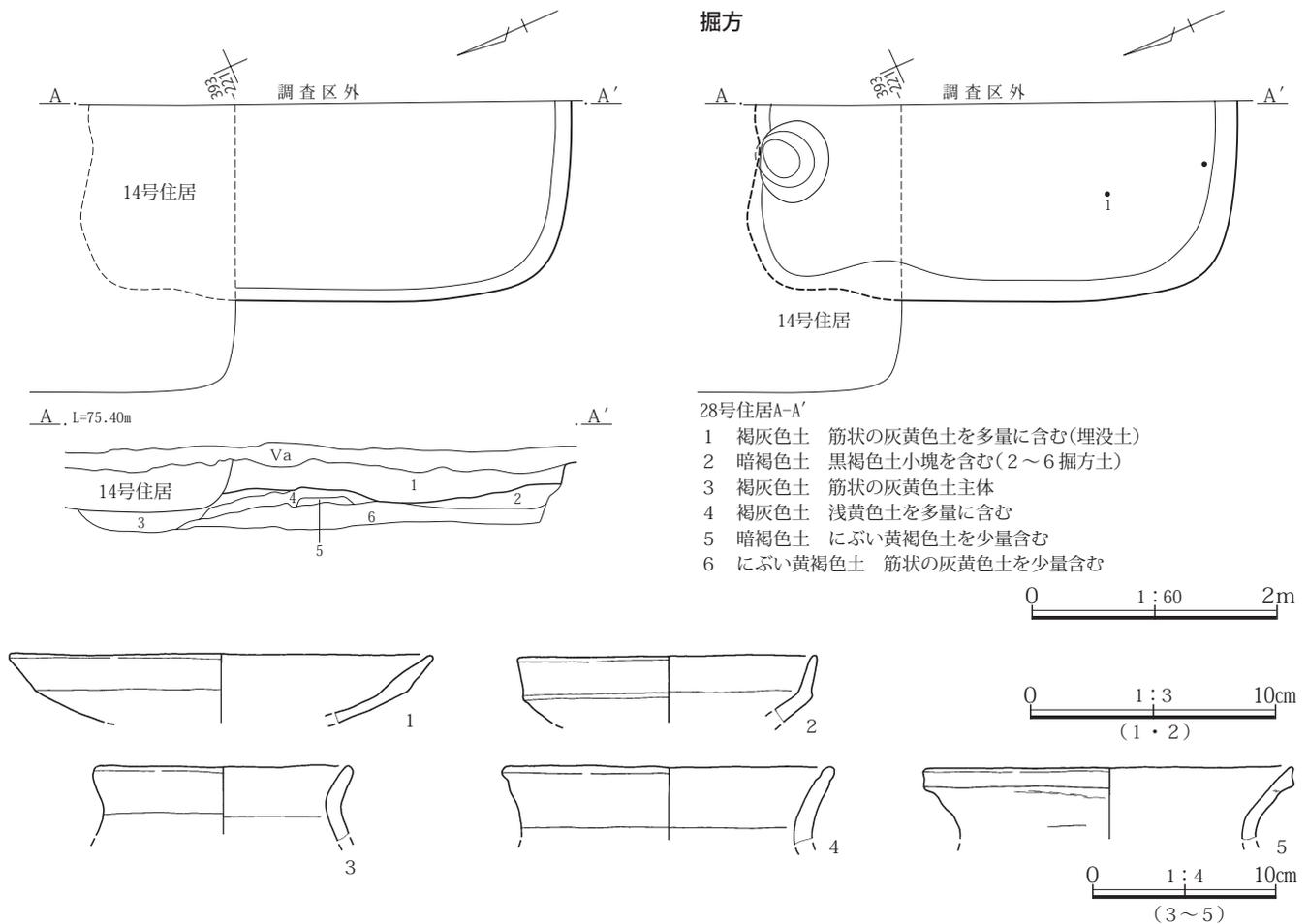


P1B-B'

- 1 暗褐色土 褐灰色土を少量含む
- 2 褐灰色土 黒褐色土小塊を僅かに含む
- 3 黒褐色土 暗褐色土を僅かに含む



第154図 上西根2区27号竪穴住居



第155図 上西根2区28号竪穴住居と出土遺物

掘方底面までの深さは0.45～0.58mである。

埋没土 褐灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。噴砂の痕跡と考えられる筋状の灰黄色土が埋没土および掘方土で多数確認された。

床面 褐灰色土を主体として構築されている。床面は平坦ではなく、南側で10cm程度低くなっている。噴砂の痕跡と考えられる筋状の灰黄色土が多数確認された。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 小さな凹凸があるものの、ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器331点、須恵器10点、石製品1点が出土した。このうち5点を図示し、石製品は写真のみを掲載した(PL.130-6)。土師器皿(1)で掘方土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末から8世紀初頭と推定される。

2区29号竪穴住居(第156図 PL.50・130)

位置 2区南側調査区西壁際

X=38,390～38,395 Y=-56,230～-56,234

掘方

28号住居A-A'

- 1 褐灰色土 筋状の灰黄色土を多量に含む(埋没土)
- 2 暗褐色土 黒褐色土小塊を含む(2～6掘方土)
- 3 褐灰色土 筋状の灰黄色土主体
- 4 褐灰色土 浅黄色土を多量に含む
- 5 暗褐色土 にぶい黄褐色土を少量含む
- 6 にぶい黄褐色土 筋状の灰黄色土を少量含む

0 1:60 2m

0 1:3 10cm
(1・2)

0 1:4 10cm
(3～5)

主軸方向 N-62°-S

重複 2号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は発掘調査時には明らかにできなかったが、出土遺物から、本住居が新しい。

形状と規模 西側は調査区外である。遺構検出時に平面形や大きさから住居と判断し調査を進めたが、床面の把握をすることができなかった。第156図の住居平面図は掘方完掘時のものである。平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は4.65m、短軸長3.38m、遺構検出面から掘方底面までの深さは0.47～0.55mである。

埋没土 暗褐色土を主体とする。2層は浅黄色土を含む灰黄色土である。2～5層は複雑な堆積状況を示し、人為堆積の可能性はある。

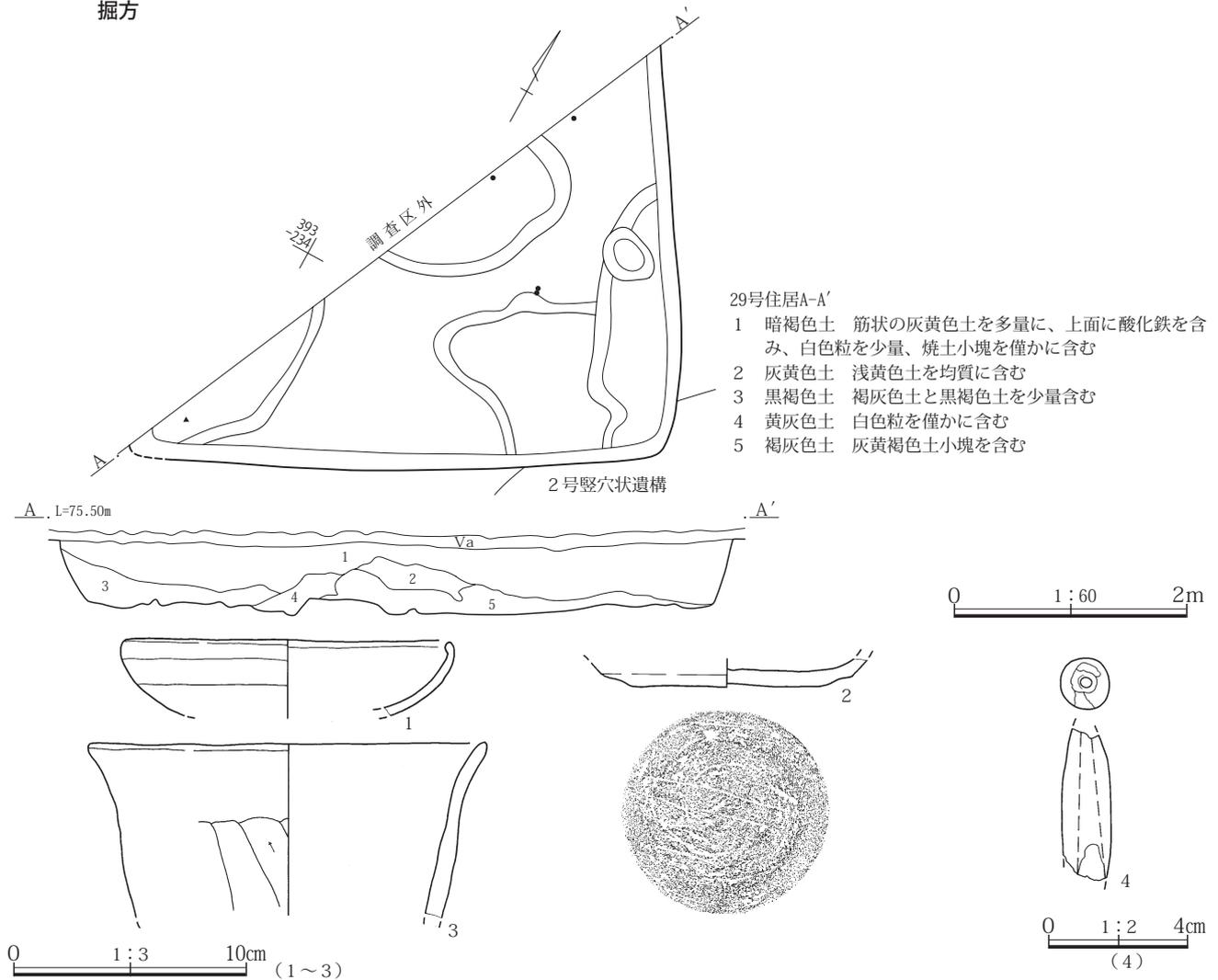
床面 確認することができなかった。

カマド・柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 低い高まりや深さ10cm程度の落ち込みが見られ、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器644点、須恵器17点、土製品1点、

掘方



第156図 上西根2区29号竪穴住居と出土遺物

礫8点が出土し、そのうち4点を図示した。いずれも埋没土から出土した。

所見 内部施設が検出されず、床面を確認することができなかった。床面の状況から構築途中で放棄されたか、住居以外の機能をもつ遺構の可能性もある。出土遺物から、時期は8世紀前半と考えられる。

2区30号竪穴住居(第157～160図 PL. 51・52・130・131)

位置 2区北側調査区中央部

X=38,450～38,454 Y=-56,196～-56,201

主軸方向 N-46°-W

重複 6号・7号土坑、4号溝と重複する。遺構検出時と土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本住居が古い。

形状と規模 住居の遺存状態は良好である。平面形は不整形な長方形である。北東隅に段が1段あり、張り出し状

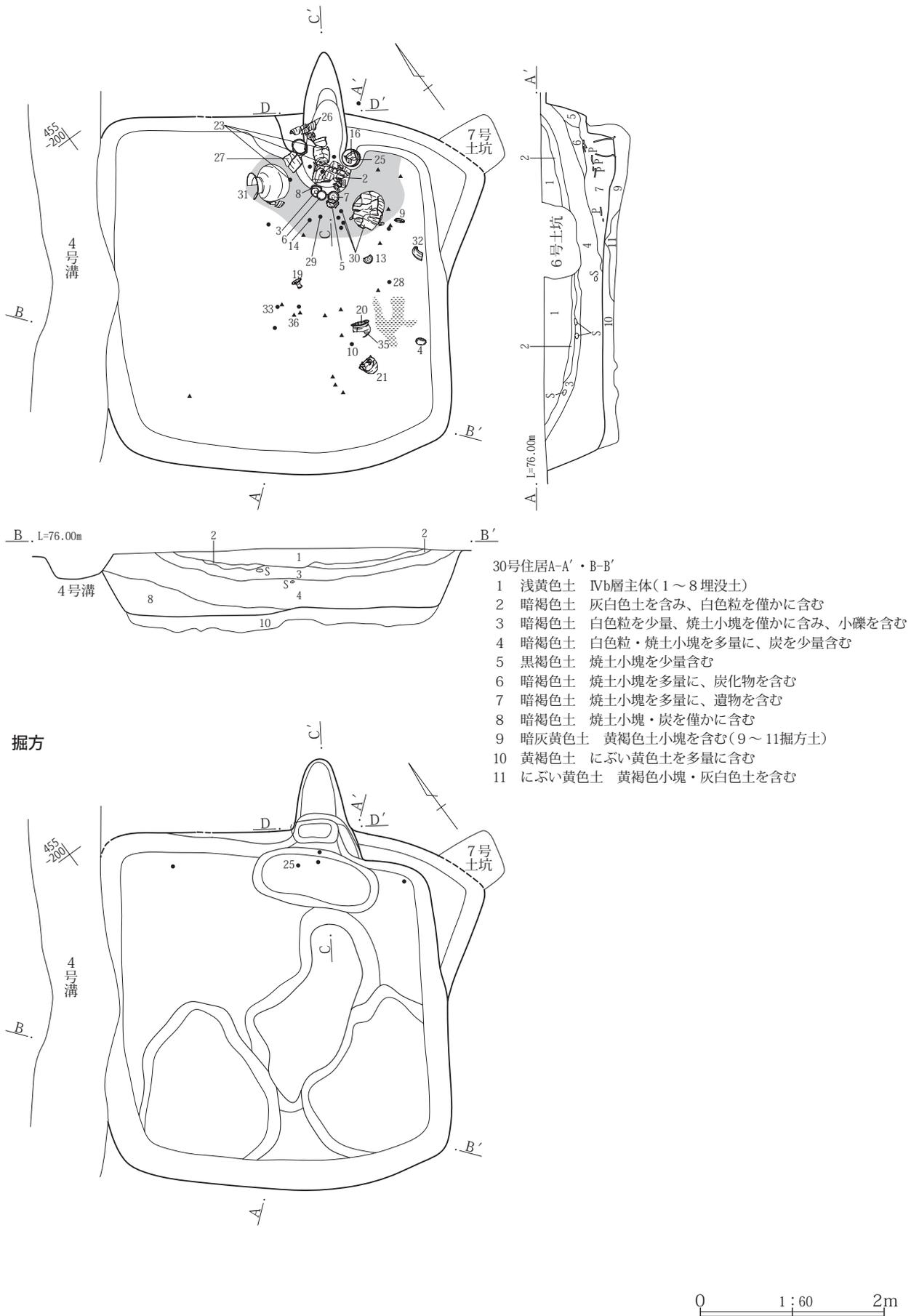
になっている。長軸長は4.2m、短軸長3.85m、遺構検出面から床面までの深さは0.65～0.8m、掘方底面までの深さは0.8～0.95mである。

埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

1層はIVb層と同質の洪水層である。3層は小礫を含む。

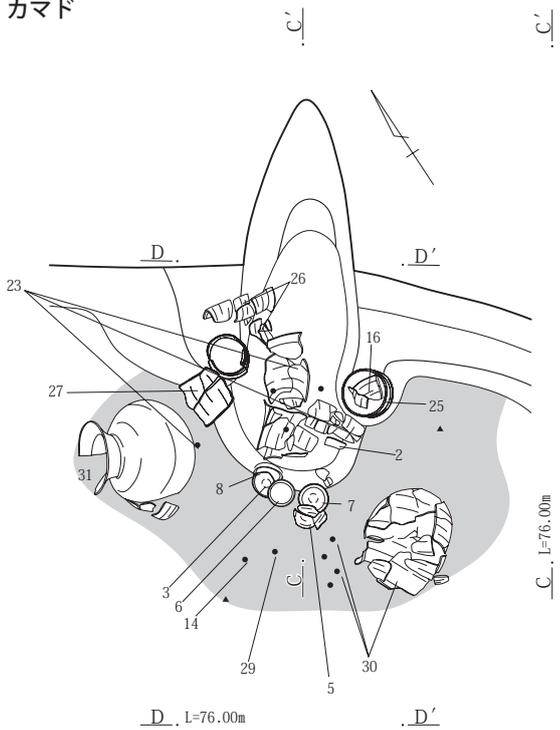
床面 黄褐色土で構築され、ほぼ平坦である。東壁付近で炭化物の集中が認められた。60cm×50cmの範囲で、床上6～8cmで検出された。

カマド 北東壁で1か所検出された。両袖端には土師器甕(右袖25、左袖27)が伏せた状態で埋設されていた。袖の長さは0.61m、焚き口幅は0.38m、焚き口から煙道の長さは1.29mである。カマド周辺では多量の遺物が出土した。燃烧部では煮沸に使用されていたと見られる土師器甕(23・24・26)が押し潰されたような状況で、焚き口では土師器杯(2・3・5～8)がほぼ完形で出土している。これらはカマド内埋没土1・2層から出土した。左袖付

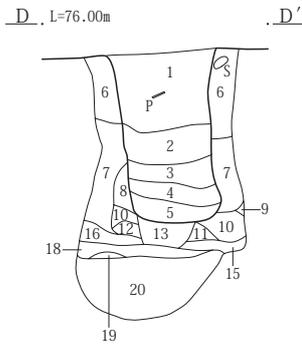
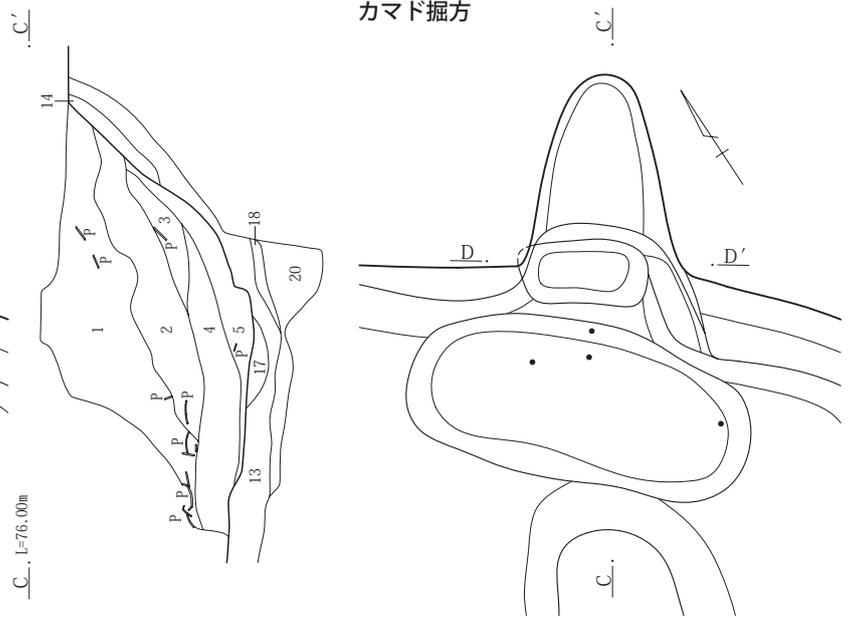


第157図 上西根2区30号竪穴住居

カマド



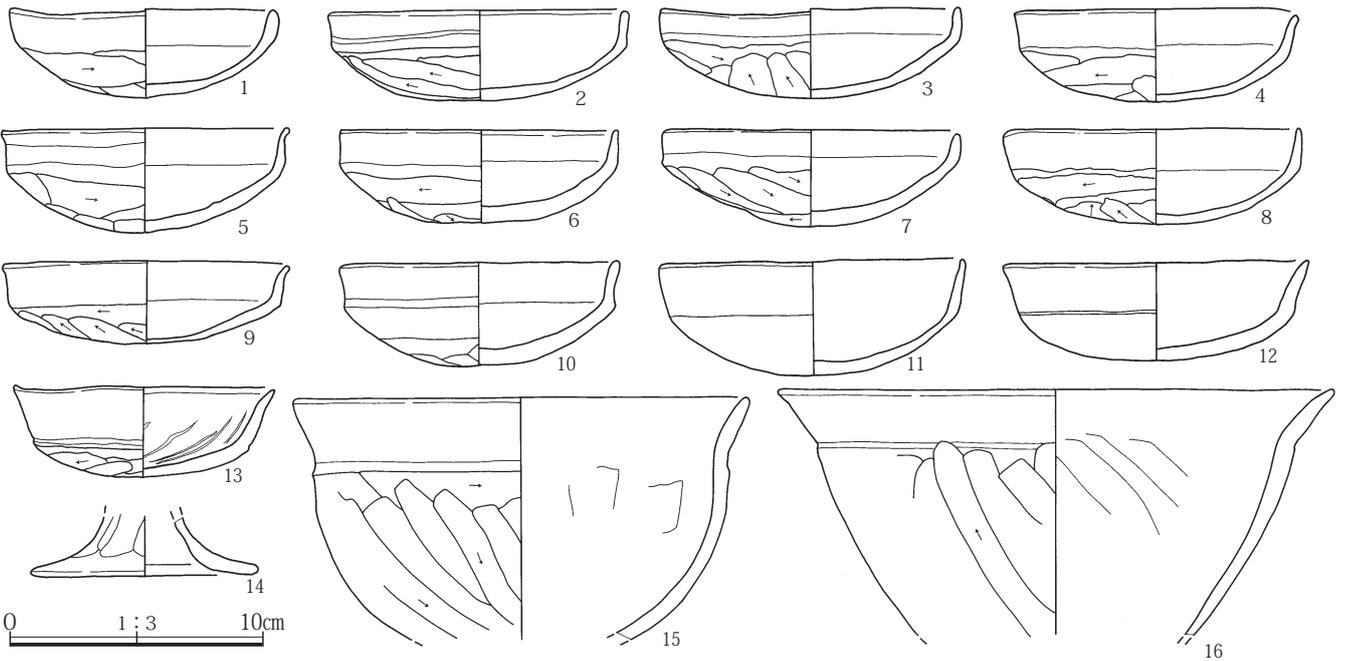
カマド掘方



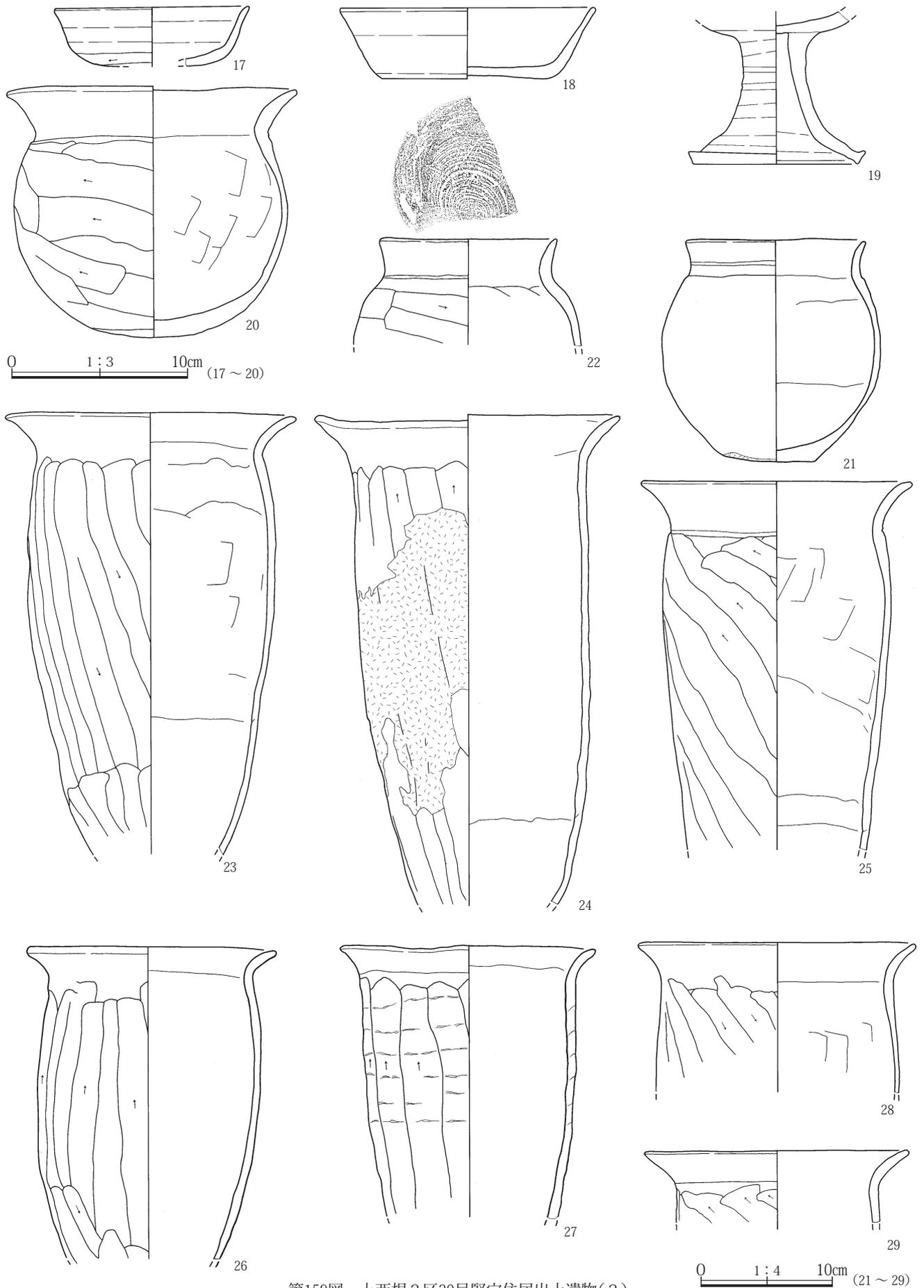
30号住居カマドC-C'・D-D'

- 1 暗褐色土 焼土小塊を多量に、遺物を含む
- 2 暗褐色土 焼土小塊を少量、炭を僅かに含む
- 3 暗褐色土 焼土を多量に、炭を僅かに含む
- 4 褐色土 焼土大塊・粒・炭・灰を多量に含む
- 5 褐色土 明黄褐色土・焼土小塊・灰を少量含む
- 6 暗褐色土 明黄褐色土粒を含む
- 7 暗褐色土 焼土小塊を少量、白色粒を僅かに含む
- 8 暗灰黄色土 焼土粒を多量に含む
- 9 黄灰色土 明黄褐色土粒を僅かに含む
- 10 暗褐色土 焼土小塊・明黄褐色土を少量含む
- 11 淡黄色土 黄灰色土を少量含む
- 12 黄灰色土 炭・明黄褐色土粒を僅かに含む
- 13 褐灰色土 焼土粒・炭を多量に含む
- 14 黄灰色土 焼土小塊・粒を少量含む
- 15 にぶい黄色土 灰黄色土を含む、やや色味暗い
- 16 黄灰色土 明黄褐色土小・大塊を多量に、焼土小塊を僅かに含む
- 17 灰黄色土 橙色焼土塊・粒主体
- 18 灰黄色土 灰白色土を多量に含む
- 19 黄灰色土 明黄褐色土小塊を少量含む
- 20 明黄褐色土 黄灰色土を含む

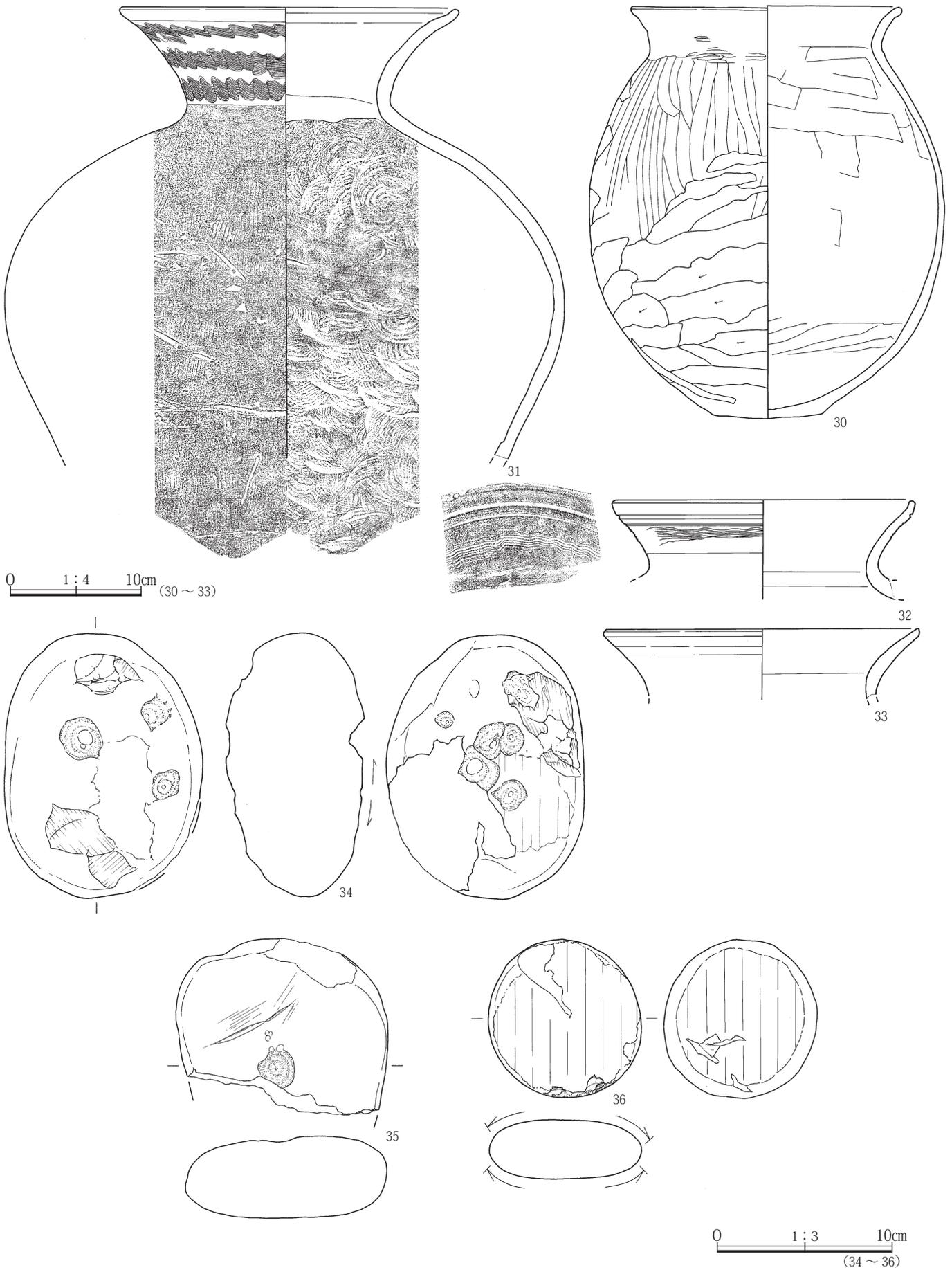
0 1:30 1m



第158図 上西根2区30号竪穴住居カマドと出土遺物(1)



第159図 上西根2区30号竪穴住居出土遺物(2)



第160図 上西根2区30号竪穴住居出土遺物(3)

第4章 上西根遺跡の調査

近ではほぼ完形の須恵器甕(31)が床面から5cmほど掘り窪められて据えられたような状態で出土した。また、カマド周辺では焼土の分布が認められた。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 中央部が高く、側壁付近が土坑状に3~5cm低い。

遺物と出土状態 土師器708点、須恵器26点、古代瓦1点、石製品4点、棒状礫6点が出土し、このうち36点を図示した。出土遺物は多く、特にカマド周辺と住居東部で顕著である。土師器杯(13)、土師器小型甕(20・21)が床面直上から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀後半と考えている。

2区31号竪穴住居(第161図 PL. 52・53・131)

位置 2区北側調査区北壁際

X=38,459~38,462 Y=-56,197~-56,201

主軸方向 南壁を主軸とした場合、N-84°-E

重複 2号溝と重複し、遺構検出時の観察から、2号溝の方が新しい。

形状と規模 北側は調査区外である。平面形は長方形または正方形と推定できる。検出した長軸長は3.95m、短軸長2.07m、遺構検出面から床面までの深さは0.27~0.45mである。

埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。

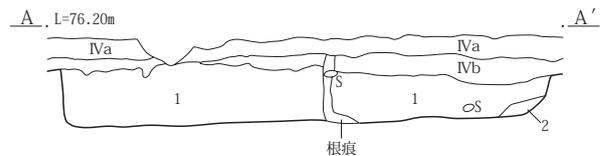
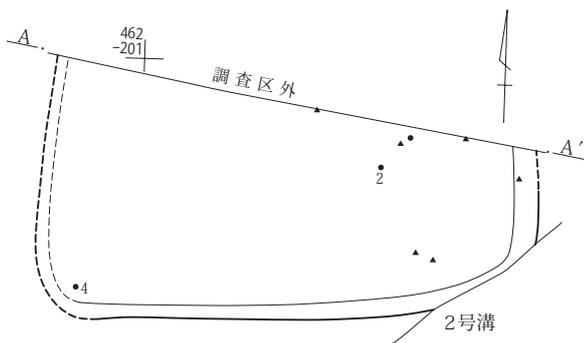
床面 ほぼ平坦である。

カマド 検出されなかった。北側に設置されていた可能性がある。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器250点、須恵器33点、石製品1点、馬歯が出土し、そのうち4点を図示した。須恵器杯(2)は床面付近から出土した。また、馬歯が埋没土中から出土している(第6章第4節参照)。

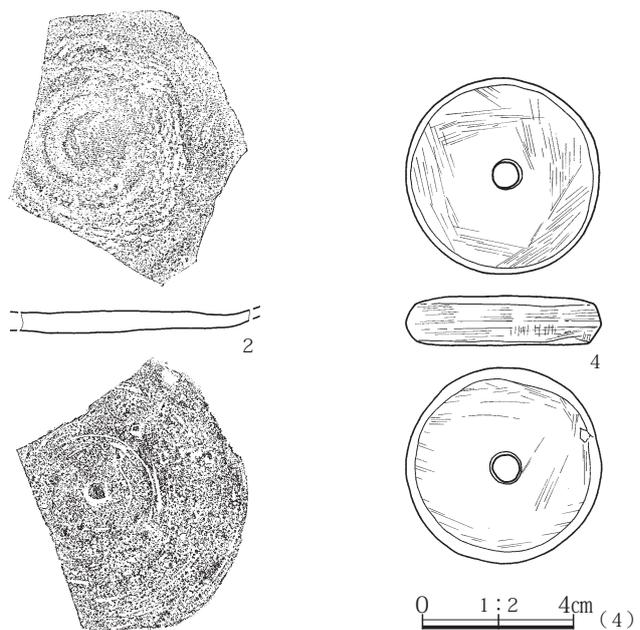
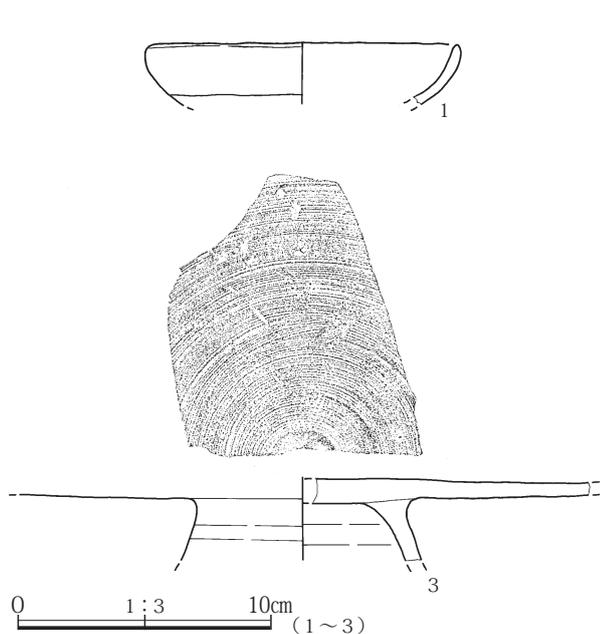
所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と推定される。



31号住居A-A'

- 1 暗褐色土 白色粒を多量に、焼土小塊を僅かに含み、小礫を含む
- 2 暗褐色土 黒褐色土を含む

0 1:60 2m



第161図 上西根2区31号竪穴住居と出土遺物

2区32号竪穴住居(第162・163図 PL. 53・54・131)

位置 2区北側調査区西壁際

X=38,454~38,459 Y=-56,201~-56,205

主軸方向 N-29°-E

重複 33号住居および2号溝と重複する。土層断面の観察から、33号住居の方が古い。また、遺構検出時の観察から、2号溝の方が新しい。

形状と規模 西側は調査区外である。平面形は長方形または正方形と推定できる。検出した長軸長は4.6m、短軸長2.52mである。遺構検出面から床面までの深さは0.18~0.27m、掘方底面までの深さは0.25~0.28mである。

埋没土 暗褐色土および褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。

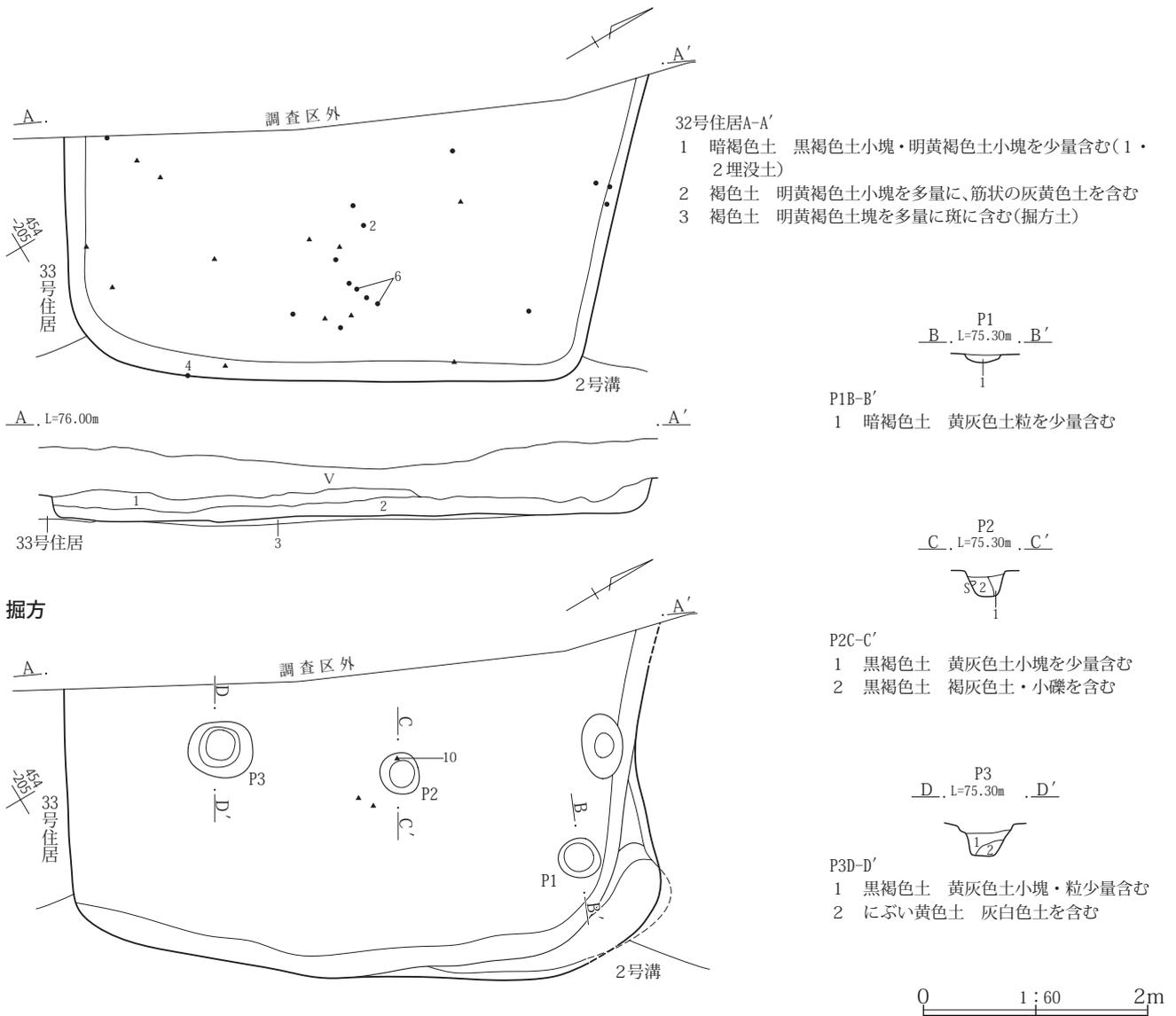
床面 褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴 検出されなかった。西側に設置されていた可能性がある。

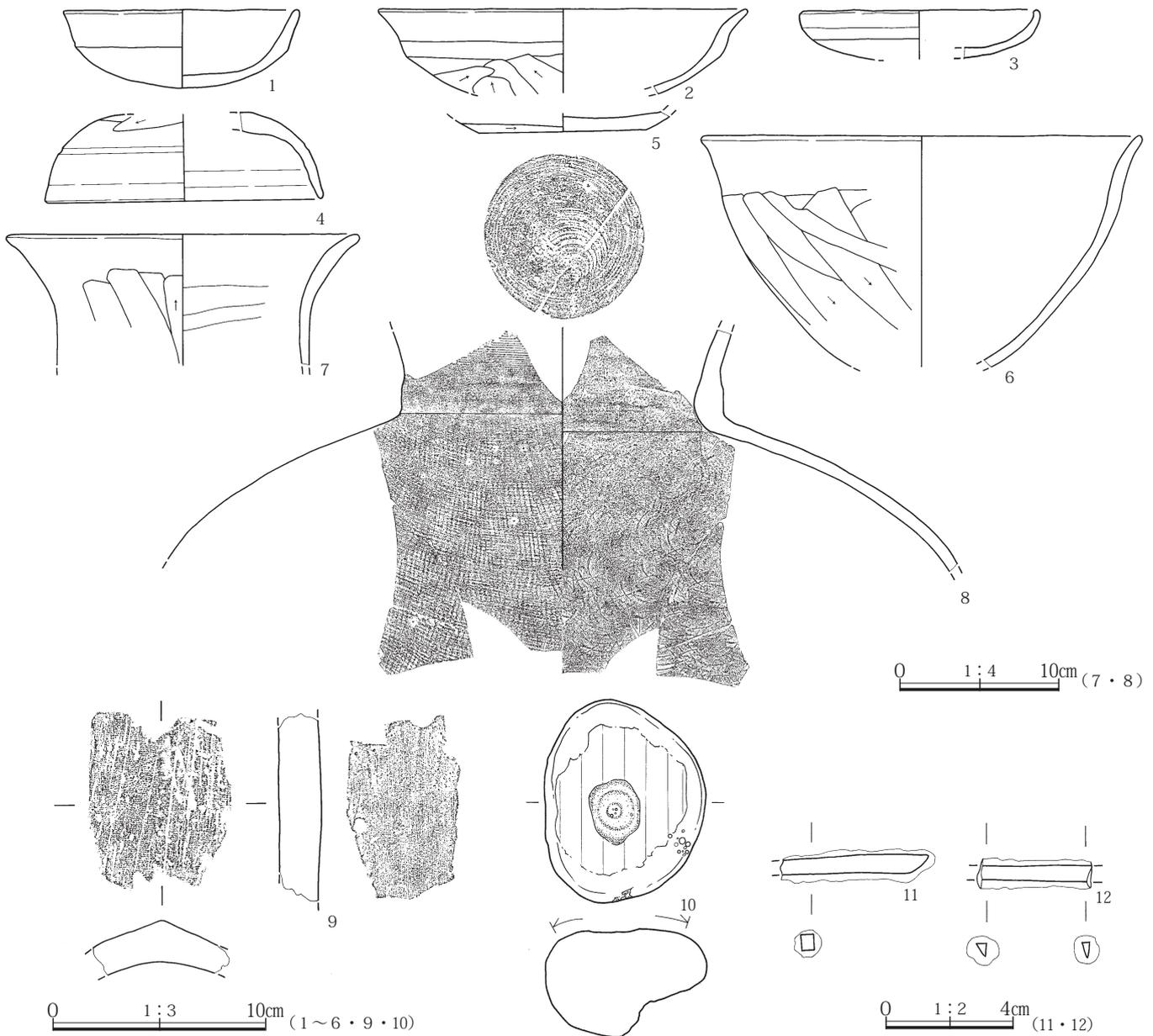
柱穴 掘方精査中にP1~P3が出土した。P1は長径0.38m、短径0.36mの円形で、深さは0.11mである。P2は長径0.37m、短径0.35mの円形で、深さは0.25mである。P3は長径0.58m、短径0.5mで不整な円形で、深さは0.28mである。P2・P3は位置や深さから支柱穴の可能性がある。

遺物と出土状態 土師器405点、須恵器40点、石製品1点、棒状礫4点、鉄製品2点が出土し、このうち12点を図示した。これらの大部分は埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀後半と推定される。



第162図 上西根2区32号竪穴住居



第163図 上西根2区32号竪穴住居出土遺物

2区33号竪穴住居(第164図 PL. 54・131)

位置 2区北側調査区西壁際

X=38,450~38,455 Y=-56,204~-56,207

主軸方向 南東壁を主軸とした場合、N-36°-E

重複 32号・34号住居および2号溝と重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本住居が古い。

形状と規模 西側は調査区外である。平面形は長方形または正方形と推定できる。検出した長軸長は4.4m、短軸長1.94mで、遺構検出面から床面までの深さは0.2~0.38mである。

埋没土 暗褐色土および褐色土を主体とし、自然堆積の様相を示す。

床面 ほぼ平坦である。

カマド 検出されなかった。西側に設置されていた可能性がある。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器277点、須恵器14点、棒状礫1点、青銅製品1点、馬歯が出土し、このうち1点を図示した。土師器および須恵器は細片のため図示しなかったものの、7世紀代の特徴を持つ土器が見られた。1は丸軻裏金具と考えられ、埋没土中から出土した。青銅製で表面に鍍金が施されている。直径1.5mmの穴が2か所見られる(口絵2-2~4、第6章第5節参照)。また、馬歯が1点埋没土から出土している(第6章第4節参照)。

所見 出土遺物から、時期は7世紀代と考えている。

2区34号竪穴住居(第164図 PL. 54)

位置 2区北側調査区西壁際

X=38,449~38,451 Y=-56,207・-56,208

主軸方向 南東壁を主軸とすると、N-35°-E

重複 33号住居および2号溝と重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、2号溝より古く、33号住居より新しい。

形状と規模 西側の大部分は調査区外であるが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は2.8m、短軸長0.6mである。遺構検出面から床面までの深さは0.3mである。

埋没土 暗褐色土および黒褐色土が認められ、自然堆積の状況を示す。

床面 ほぼ平坦である。

カマド 検出されなかった。調査区外に設置されていた可能性がある。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器28点、須恵器1点が出土した。

細片が多く図示しなかったが、7世紀後半の特徴を持つ土師器が見られた。遺物はすべて埋没土から出土した。
所見 遺構検出時の平面形から住居と考え調査を進めた
 が、限られた範囲の調査のため、全体については不明である。住居以外の性格を持つ遺構の可能性もある。出土遺物から、時期は7世紀中頃から後半と考えられる。

2区35号竪穴住居(第165図 PL. 54・131)

位置 2区最北端調査区北西隅

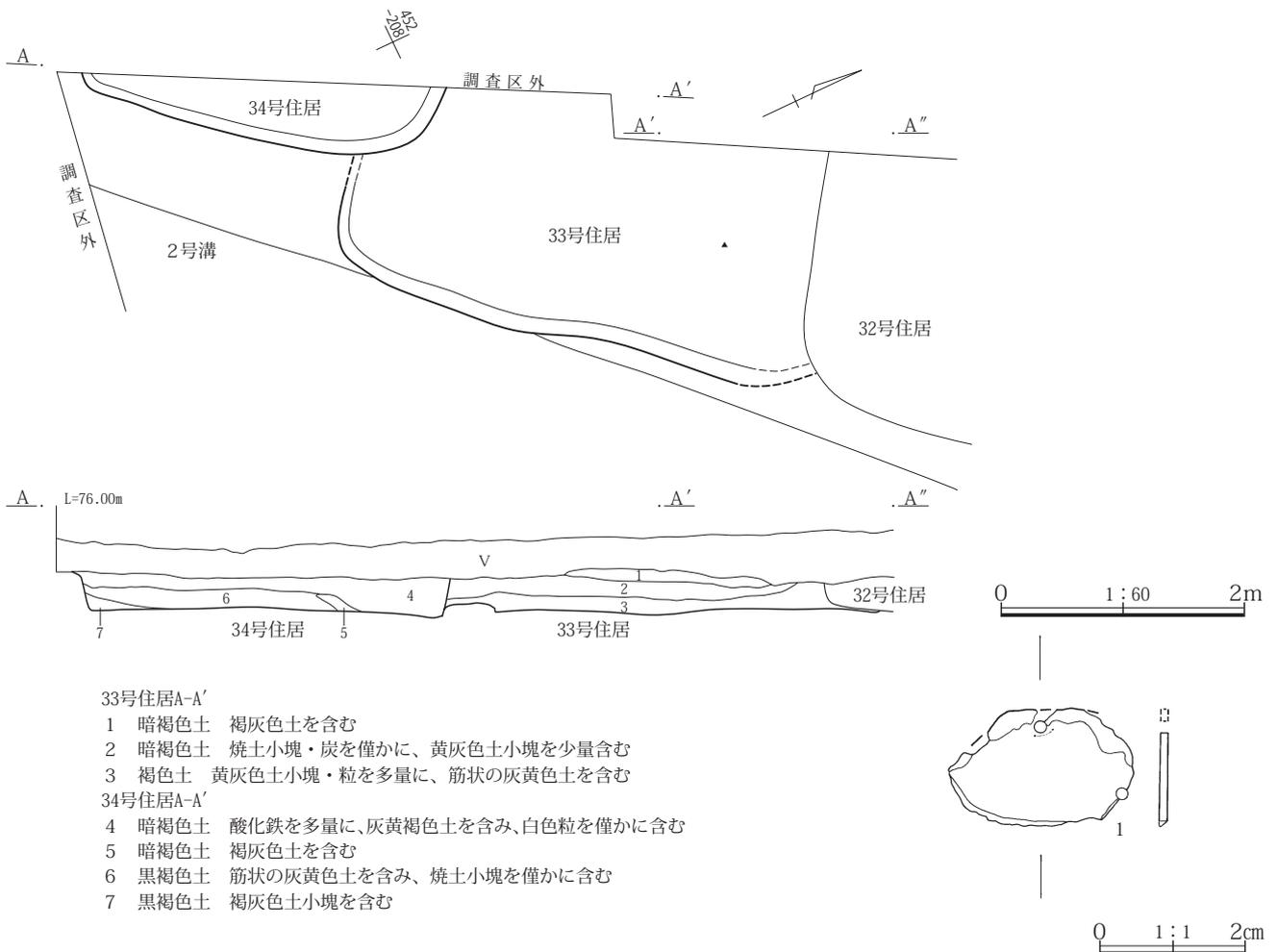
X=38,475~38,478 Y=-56,191~-56,195

主軸方向 N-86°-E

重複 なし

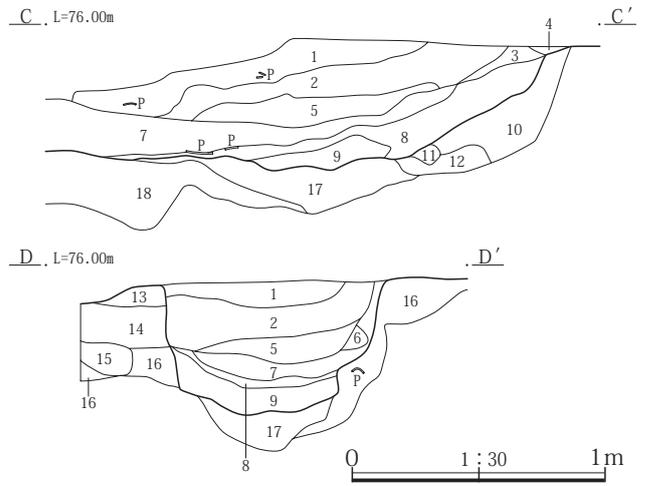
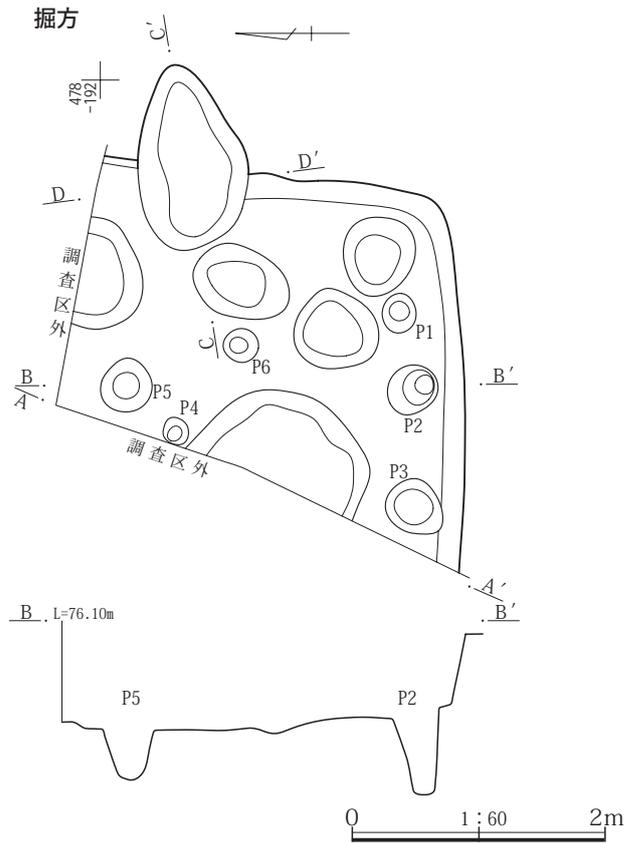
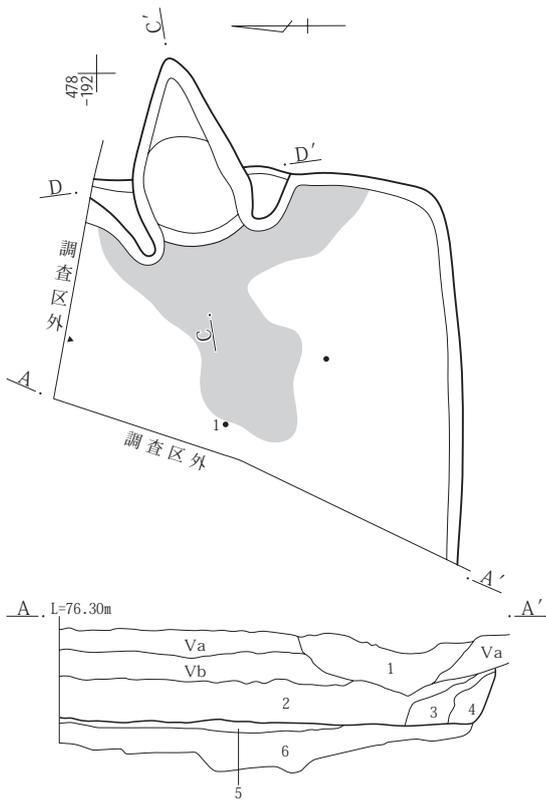
形状と規模 北側と西側は調査区外である。形状は長方形または正方形と推定され、長軸長は3.25m、短軸長は3.2m、遺構検出面から床面までの深さは約0.35m、掘方底面までの深さは0.55~0.7mである。

埋没土 褐色土および黒褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。



第164図 上西根2区33号・34号竪穴住居と33号竪穴住居出土遺物

第4章 上西根遺跡の調査

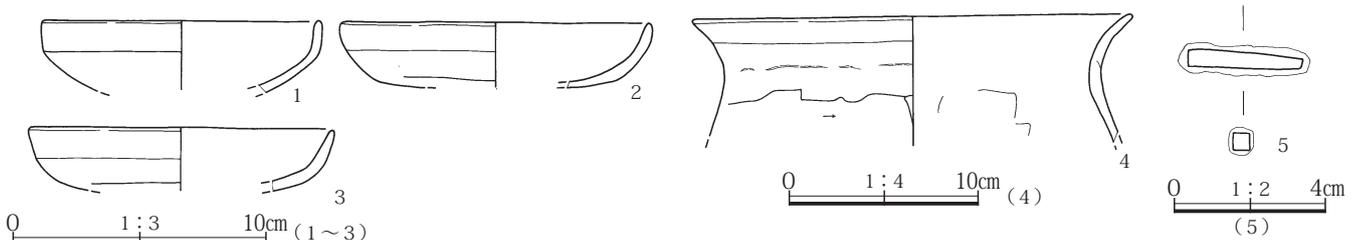


35号住居A-A'

- 1 黄灰色土 褐色土小塊を多量に含む、白色粒少量含む
- 2 暗褐色土 明黄褐色土小塊・焼土小塊・炭を少量含む(2~4埋没土)
- 3 暗褐色土 明黄褐色土小塊を少量含む
- 4 黒褐色土 明黄褐色土粒を少量含む
- 5 灰色土 灰白色土粒を含む(5・6掘方土)
- 6 黒褐色土 灰色土を多量に、焼土小塊を少量含む

35号住居カマドC-C'・D-D'

- 1 褐色土 焼土小塊・粒を少量含む
- 2 褐色土 焼土小塊・粒を多量に、炭・灰を少量含む
- 3 橙色焼土 灰黄褐色土を含む
- 4 黒褐色土 焼土粒を多量に、灰を僅かに含む
- 5 暗褐色土 焼土小塊・粒を多量に、炭を少量含む
- 6 灰黄褐色土 焼土大塊・粒を多量に含む
- 7 灰黄褐色土 焼土粒少量含む
- 8 橙色土 焼土大塊・粒を多量に含む
- 9 褐灰色土 灰を多量に、焼土小塊を少量含む
- 10 灰黄褐色土 焼土小塊・粒を多量に含む
- 11 褐灰色土 焼土粒を多量に含む
- 12 にぶい黄橙色土 焼土小塊・粒を少量含む
- 13 褐灰色土 焼土粒を僅かに含む
- 14 褐灰色土 焼土粒・灰を少量含む
- 15 灰黄褐色土 焼土小塊・炭を僅かに含む
- 16 灰黄褐色土 焼土小塊・粒・灰を多量に、炭を少量含む、遺物を含む
- 17 灰黄褐色土 焼土を多量に、炭を少量含む
- 18 灰黄色土 褐灰色土を少量含む



第165図 上西根2区35号竪穴住居と出土遺物

床面 灰白色土および黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。焚き口から住居中央部にかけて焼土が分布していた。

カマド 東壁で1か所検出した。袖の長さは0.72m、焚き口幅0.64m、焚き口から煙道までの長さは1.5mである。底面直上には灰を多量に含む褐灰色土が堆積していた。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 掘方調査時にP1～P6を検出した。規模と形状は以下の通りである。

P1は長径0.36m、短径0.26m、深さ0.08m、楕円形。

P2は長径0.43m、短径0.36m、深さ0.61m、楕円形。

P3は長径0.5m、短径0.42m、深さ0.13m、楕円形。

P4は長径0.25m、短径0.21m、深さ0.32m、楕円形。

P5は長径0.44m、短径0.4m、深さ0.4m、楕円形。

P6は長径0.28m、短径0.28m、深さ0.2m、円形。

P2およびP5は大きさや深さから柱穴の可能性はある。

掘方 ピット状および土坑状の浅い落ち込みが底面全体に見られた。

遺物と出土状態 土師器1,823点、須恵器61点、鉄製品1点が出土し、このうち5点を図示した。土師器杯(1)は床面上4cmで出土した。

所見 遺構の重複および出土遺物から、時期は8世紀後半と考えられる。

2区37号竪穴住居(第166・167図 PL.55・132)

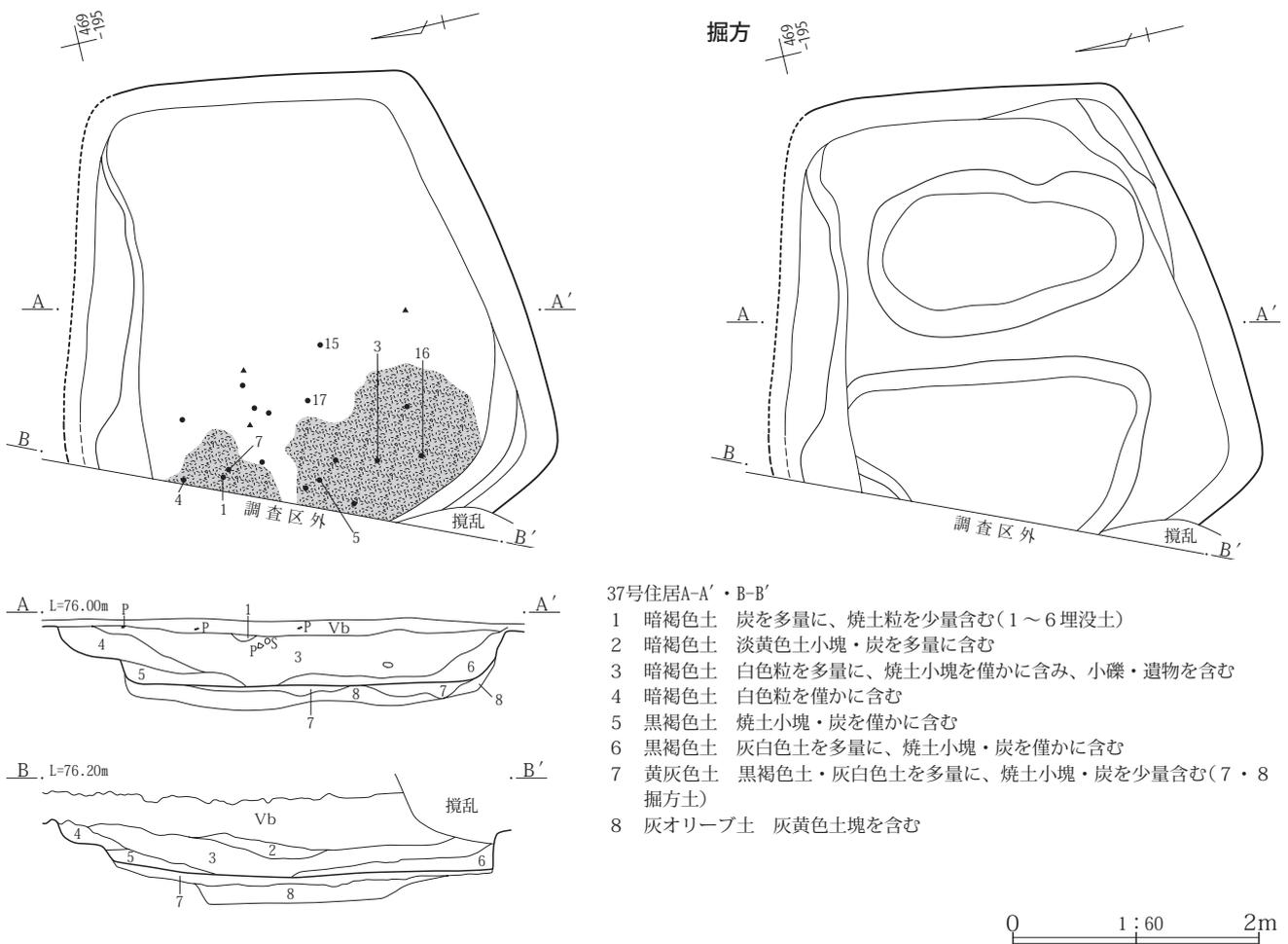
位置 2区最北端調査区西壁際

X=38,465～38,469 Y=-56,195～-56,199

主軸方向 南壁を主軸とした場合、N-85°-E

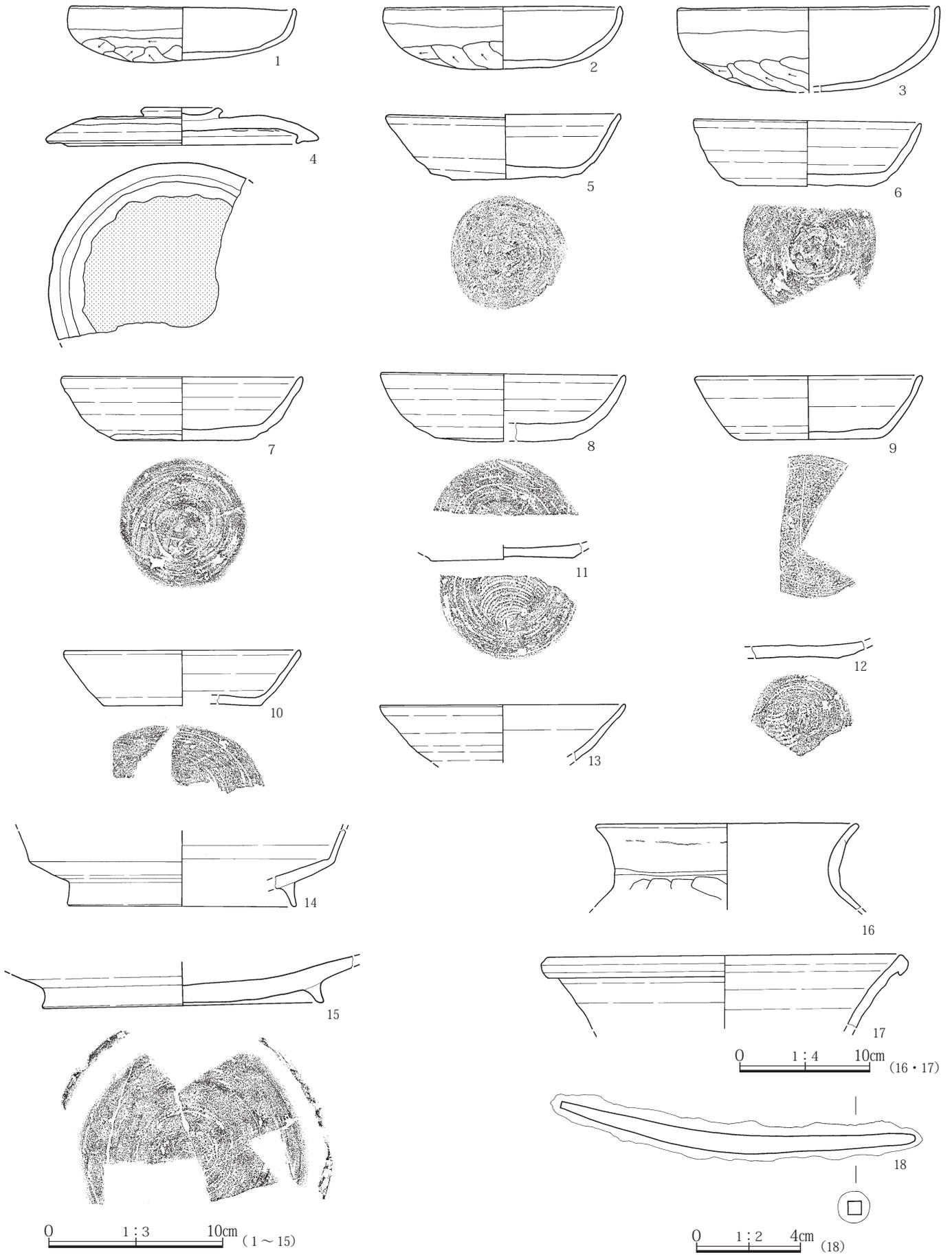
重複 12号土坑と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、12号土坑よりも古い。

形状と規模 北西部は調査区外である。平面形は不定形である。検出した長軸長・短軸長はともに3.8m、遺構検出面から床面までの深さは0.3～0.45m、掘方底面までの深さは0.4～0.58mである。北壁付近でテラス状の平坦面が認められた。最大幅は0.35mである。南西隅でも階段状の平坦面が確認された。



第166図 上西根2区37号竪穴住居

第4章 上西根遺跡の調査



第167図 上西根2区37号竪穴住居出土遺物

埋没土 暗褐色土および黒褐色土を主体し、自然堆積の状況を示す。2層は淡黄色土小塊・炭を多量に含む暗褐色土である。

床面 ほぼ平坦である。西側で焼土や灰が広く分布していた。

カマド 検出されなかった。焼土や灰の分布状況から、西壁に設置されていたと考えられる。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みが見られ、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器2,714点、須恵器126点、鉄製品1点が出土し、このうち18点を図示した。

所見 側壁付近にテラス状の平坦面が認められることから、住居を拡張している可能性がある。遺構の重複および出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。

2区38号竪穴住居(第168図 PL. 55・132)

位置 2区南側調査区南東部

X=38,380~38,384 Y=-56,224~-56,227

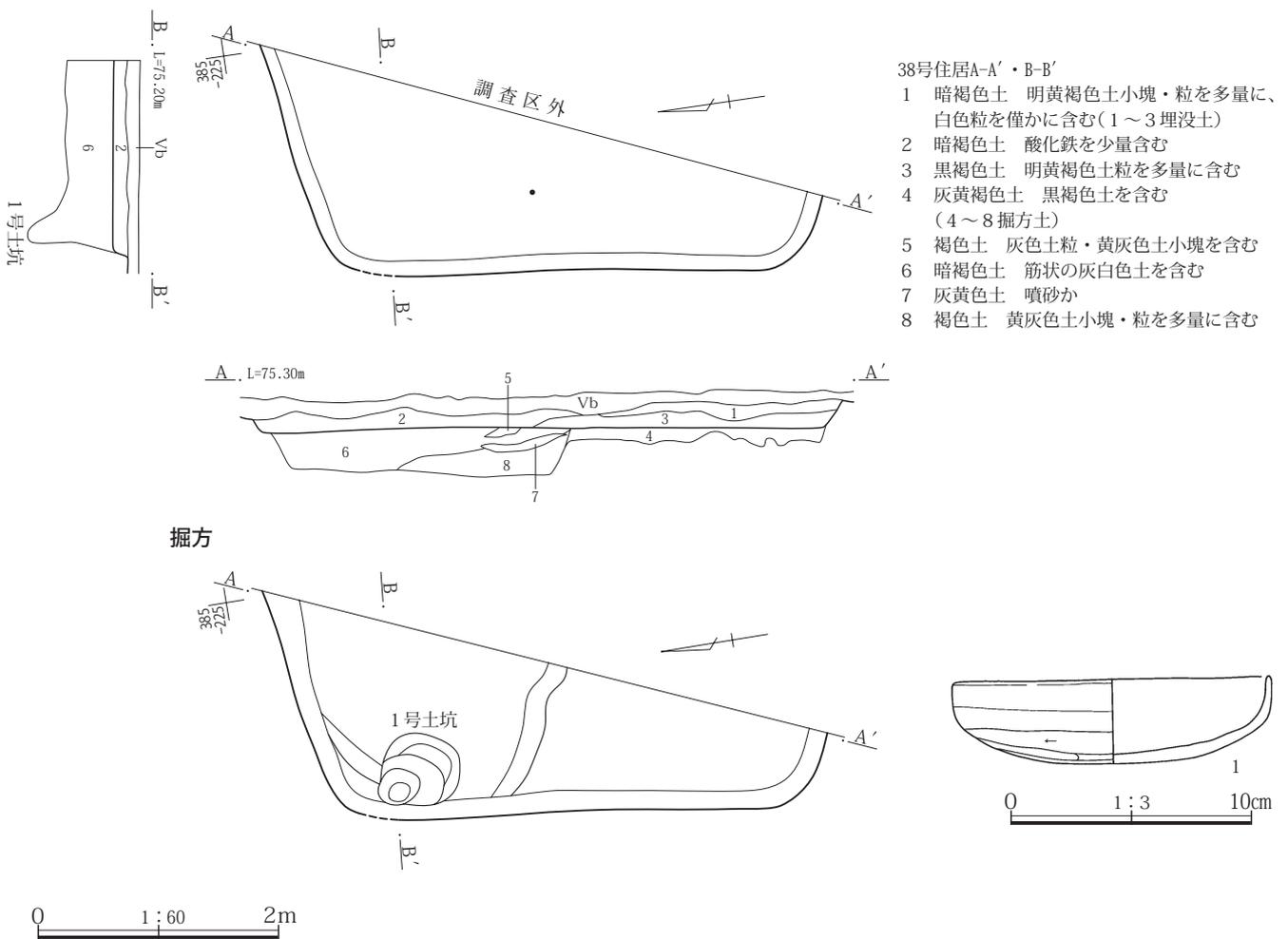
主軸方向 西壁を主軸とした場合、N-10°-E

重複 なし

形状と規模 東側の大部分は調査区外で、一部のみの発掘調査である。平面形は長方形または正方形と推定される。検出した長軸長は4.3m、短軸長1.65m、遺構検出面から床面までの深さは0.10~0.19m、掘方底面までの深さは0.3~0.5mである。

埋没土 暗褐色土および黒褐色土を主体とする。1層は明黄褐色土小塊・粒を多量に含む暗褐色土で、人為堆積と考えられる。6層は筋状の灰白色土を含む。

床面 暗褐色土および灰黄褐色土で構築され、ほぼ平坦である。床面でも筋状または斑状の黄灰色土が確認でき



第168図 上西根2区38号竪穴住居と出土遺物

た。北側で筋状の灰白色土が認められた。

カマド・柱穴・貯蔵穴 検出されなかった

掘方 掘方調査中に1号土坑を確認した。長径0.71m、短径0.64mの楕円形で、深さは最大で0.34mである。西側がピット状に低くなっている。住居北側で0.15～0.3m低くなっている。

遺物と出土状態 土師器207点、須恵器11点が出土し、このうち1点を図示した。床面から出土した遺物はなかった。

所見 出土遺物から、時期は8世紀中頃と推定される。

2区49号竪穴住居(第169図 PL. 55・57・58・132)

位置 2区南側調査区北東部

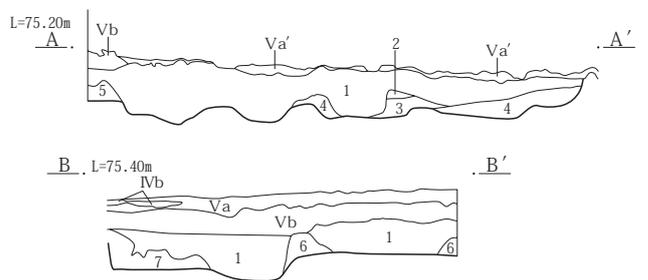
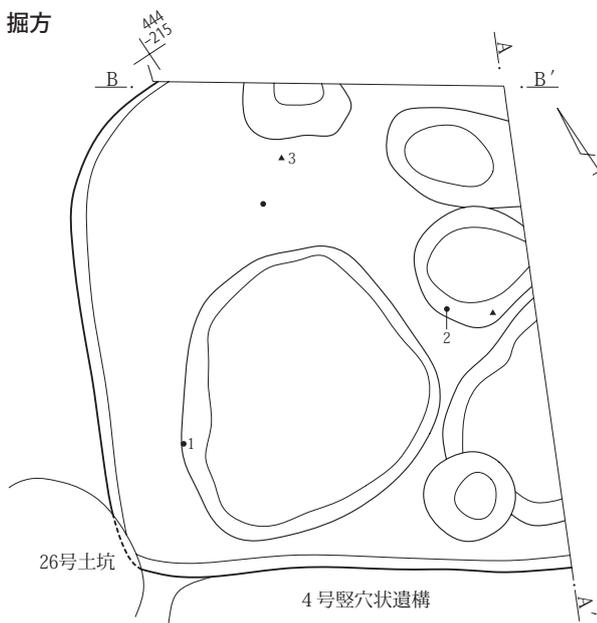
X=38,408～38,413 Y=-56,212～-56,217

主軸方向 西壁を主軸とした場合、N-30°-E

重複 4号竪穴状遺構および26号土坑と重複する。土層断面の観察から、4号竪穴状遺構の方が古い。26号土坑との新旧関係は不明である。

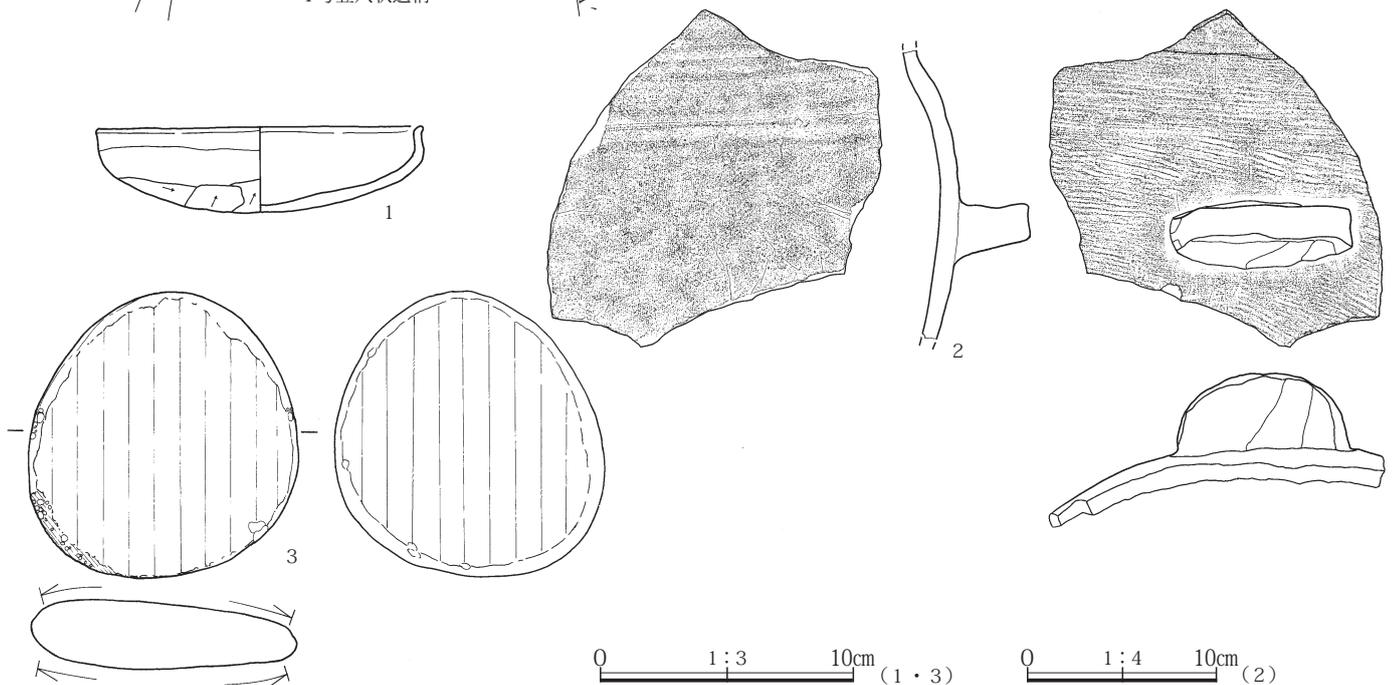
形状と規模 東部と北部は調査区外である。平面形は長方形または正方形で、検出した長径は3.94m、短軸長3.56mである。遺構検出面から底面までの深さは0.2～0.5mである。

掘方



49号住居A-A'

- 1 暗褐色土 褐灰色土大塊・酸化鉄を含む白色粒を僅かに含む
- 2 灰黄色土 淡黄色土を少量含む
- 3 褐灰色土 淡黄色土小塊を僅かに含み、酸化鉄を含む
- 4 褐灰色土 淡黄色土小塊を多量に含む、色味は暗い
- 5 黒褐色土 暗褐色土を少量含む
- 6 にぶい黄褐色土 褐灰色土を少量含む
- 7 灰黄褐色土 黒褐色土を少量含む



第169図 上西根2区49号竪穴住居と出土遺物

埋没土 暗褐色土を主体とし、人為堆積の可能性が高い。

床面 確認できなかった。

カマド・柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 土坑状およびピット状の緩やかな落ち込みが多数認められ、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器49点、須恵器2点、石製品1点が出土し、このうち3点を図示した。いずれも埋没土から出土した。

所見 遺構検出時の平面形や壁の立ち上がりが明瞭であったことから住居と判断して調査を進めたが、床面を確認することができなかった。土層断面の観察から、構築途中に放棄されたか、住居以外の性格を持つ遺構の可能性はある。遺構の重複および出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。

3. 竪穴状遺構

南側調査区北部を中心に10基検出された。遺構検出時には竪穴住居と判断し調査をすすめたが、床面が確認できず、カマドなどの内部施設が認められなかったものを竪穴状遺構として竪穴住居と区別した。竪穴状遺構の性格は明らかにできなかったものの、南側調査区北部には同様の遺構が集中し、注目される。遺構検出面はVb層上面またはVb層下面である。

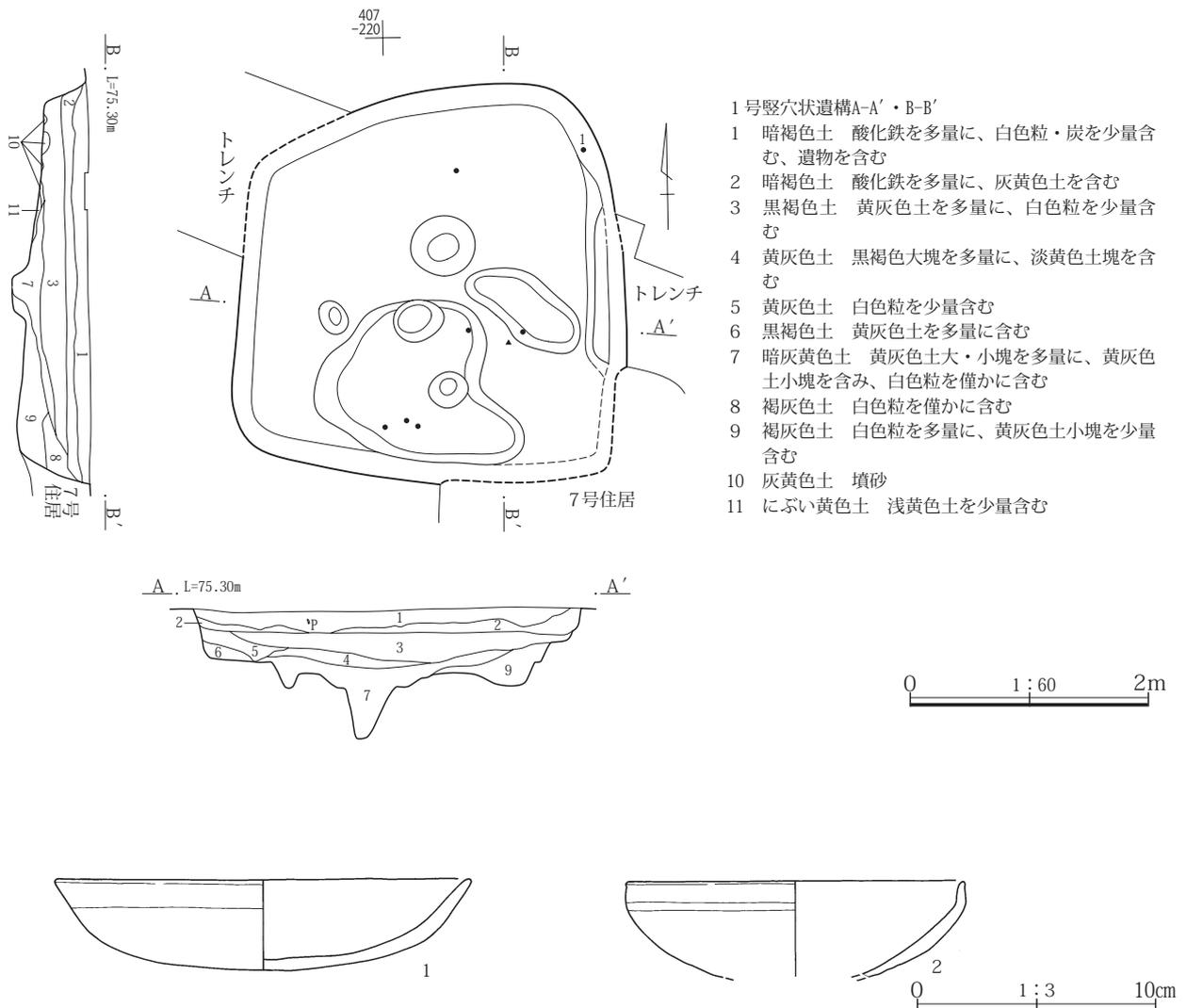
2区1号竪穴状遺構(第170図 PL.56・132)

位置 2区南側調査区北部

X = 38,403 ~ 38,406 Y = -56,218 ~ -56,221

主軸方向 N-0°-S

重複 7号住居と重複し、土層断面の観察から本遺構が新



第170図 上西根2区1号竪穴状遺構と出土遺物

しい。

形状と規模 平面形はやや不整な隅丸方形である。東壁を主軸とした場合、長軸長は3.36m、短軸長3.28m、遺構検出面から底面までの深さは0.41～1.06mである。底面は土坑状およびピット状の落ち込みが見られ、平坦ではない。

埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示している。

遺物と出土状態 土師器189点、須恵器2点が出土し、このうち2点を図示した。土師器杯(1・2)は埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末～8世紀初頭と考えられる。

2区2号竪穴状遺構(第171図 PL.56・132)

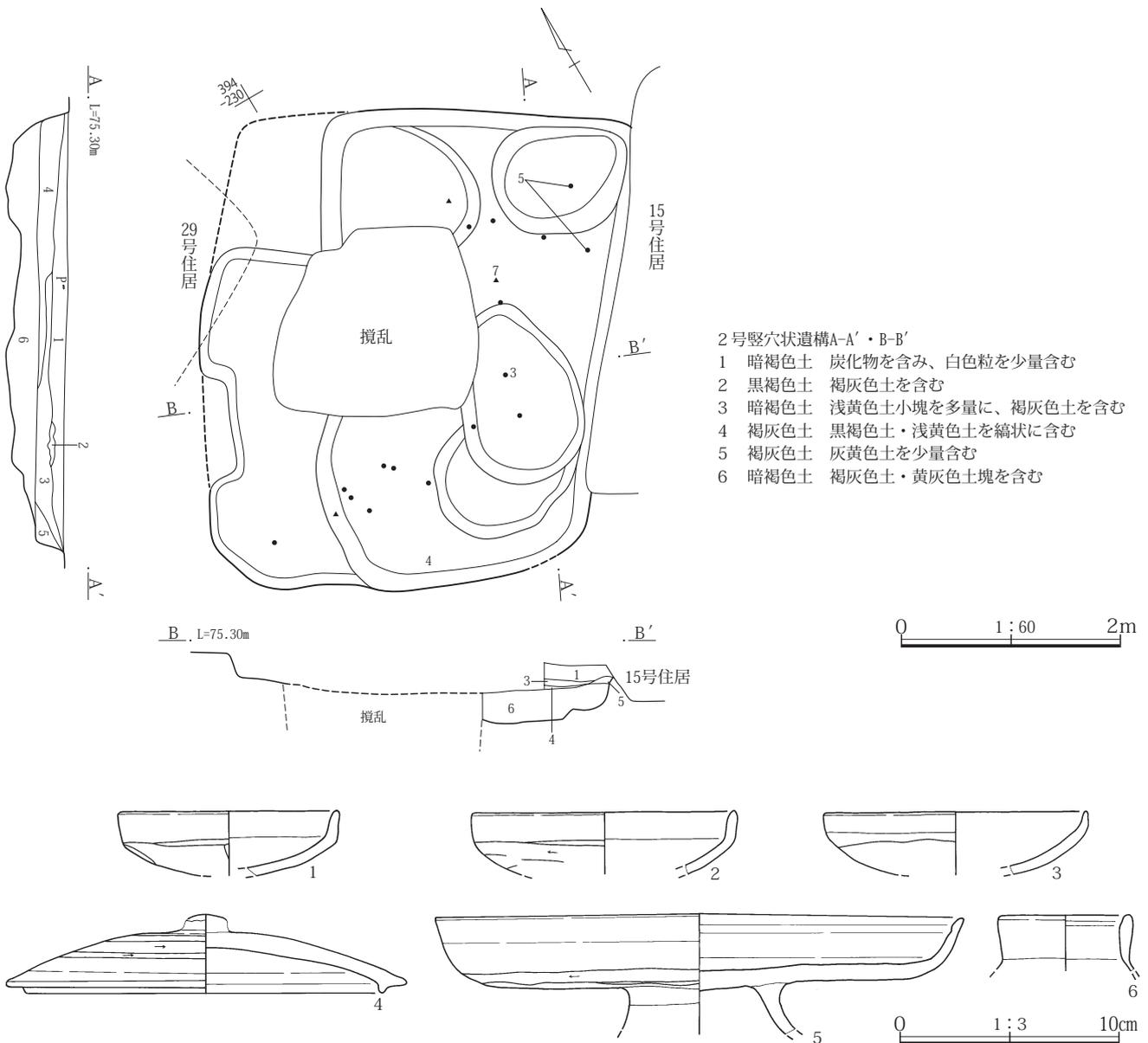
位置 2区南側調査区中央部

X=38,389～38,393 Y=-56,227～-56,232

主軸方向 N-34°-E

重複 15号・29号住居と重複する。土層断面の観察から15号住居よりも本遺構が古い。29号住居との新旧関係は発掘調査時には明らかにできなかったが、出土遺物から、本遺構が古い。

形状と規模 中央部は攪乱で失われている。平面形は不定形で、長軸長は4.54m、短軸長3.74mである。遺構検出面から底面までの深さは0.47～0.55mである。底面は浅い落ち込みが多数検出され、平坦ではない。



第171図 上西根2区2号竪穴状遺構と出土遺物

埋没土 暗褐色土および褐灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

遺物と出土状態 土師器576点、須恵器22点、石製品1点、近現代瓦1点が出土した。このうち6点を図示し、石製品は写真のみ掲載した(PL.132-7)。須恵器盤(5)は床面直上から、それ以外の遺物は埋没土中から出土した。近現代の瓦は後世の混入と考えられる。

所見 形状が不定形で、複数の遺構が重複していた可能性がある。出土遺物から、時期は7世紀後半と推定される。

2区3号竪穴状遺構(第172図 PL.57)

位置 2区南側調査区北部西壁際

X=38,410~38,414 Y=-56,222~-56,225

主軸方向 東壁を主軸とした場合、N-23°-E

重複 28号土坑と重複し、土層断面の観察から、本遺構が新しい。

形状と規模 西側は調査区外である。平面形は長方形または正方形である。検出した長軸長は3.63m、短軸長1.65m、遺構検出面から底面までの深さは0.24~0.34mである。底面中央部では0.1m程度の段差が認められた。

埋没土 暗褐色土を主体とする。埋没土全体で筋状の灰黄色土が見られた。

ピット P1が検出された。P1は長径0.43m、短径0.4mの楕円形で、深さは0.58mである。この他にピットは確認できなかった。

遺物と出土状態 土師器46点、須恵器8点が出土し、このうち2点を図示した。いずれも埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀中頃と考えている。

2区4号竪穴状遺構(第173図 PL.56~58・132)

位置 2区南側調査区北部

X=38,405~38,410 Y=-56,214~-56,218

主軸方向 北壁を主軸とした場合、N-63°-W

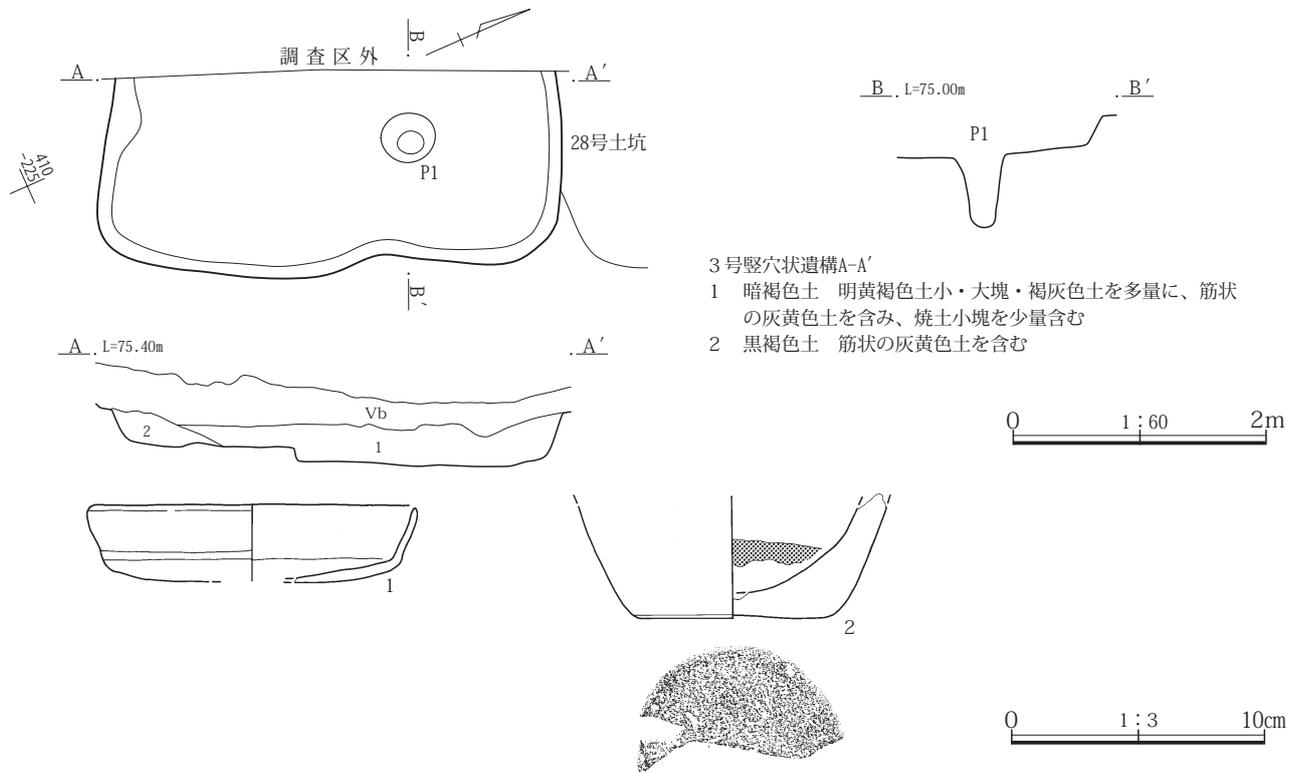
重複 49号住居および25号土坑と重複する。土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本遺構が古い。

形状と規模 東側は調査区外である。平面形は長方形で、検出した長軸長は3.38m、短軸長3.31mである。遺構検出面から底面までの深さは0.08~0.45mである。底面は0.1~0.25mの落ち込みがあり、平坦ではなかった。

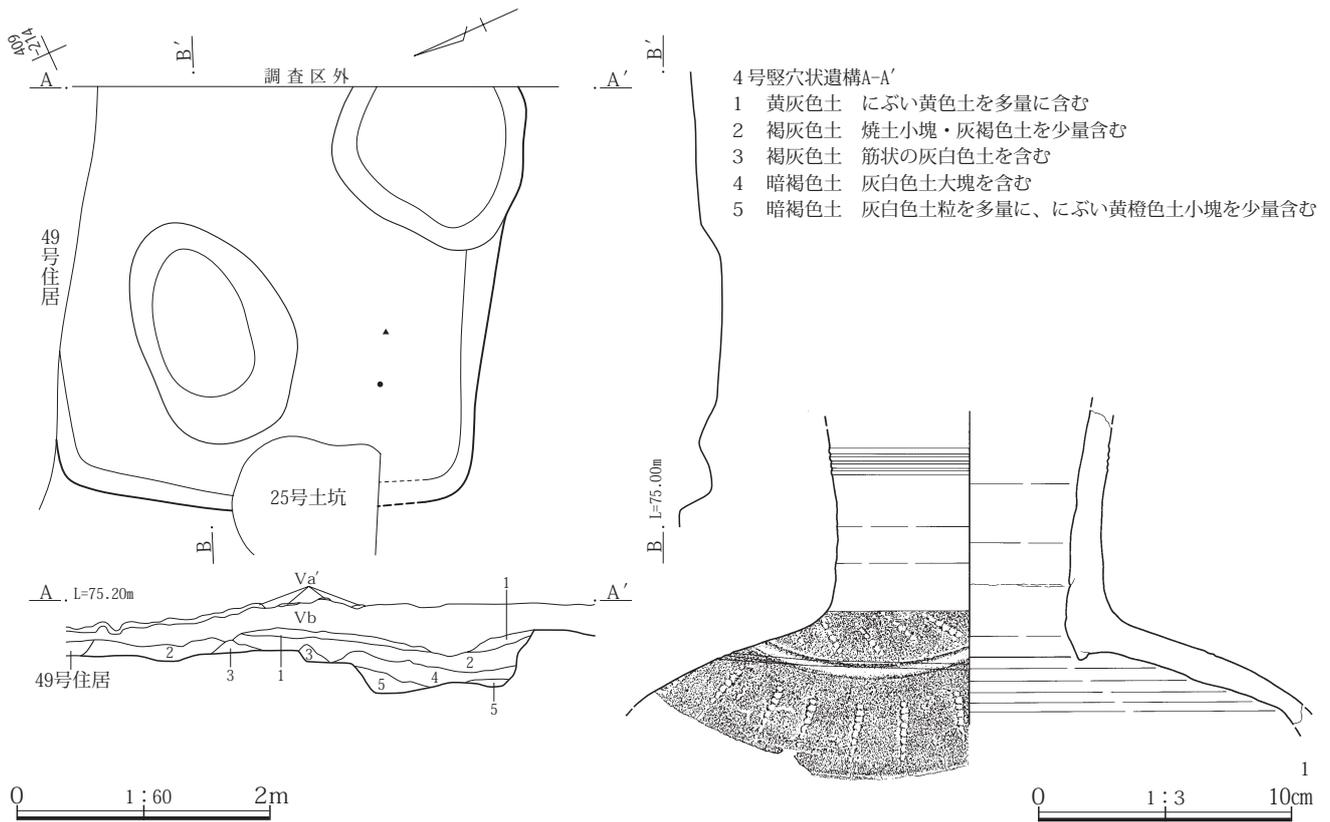
埋没土 褐灰色土および暗褐色土を主体とする。下層ほど灰白色土を多く含む。

遺物と出土状態 土師器58点、須恵器3点が出土し、このうち1点を図示した。すべて埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えられる。



第172図 上西根2区3号竪穴状遺構と出土遺物



第173図 上西根2区4号竪穴状遺構と出土遺物

2区5号竪穴状遺構(第174図 PL. 56・57)

位置 2区南側調査区北部

X=38,415 ~ 38,419 Y=-56,213 ~ -56,216

主軸方向 西壁を主軸とした場合、N-38°-E

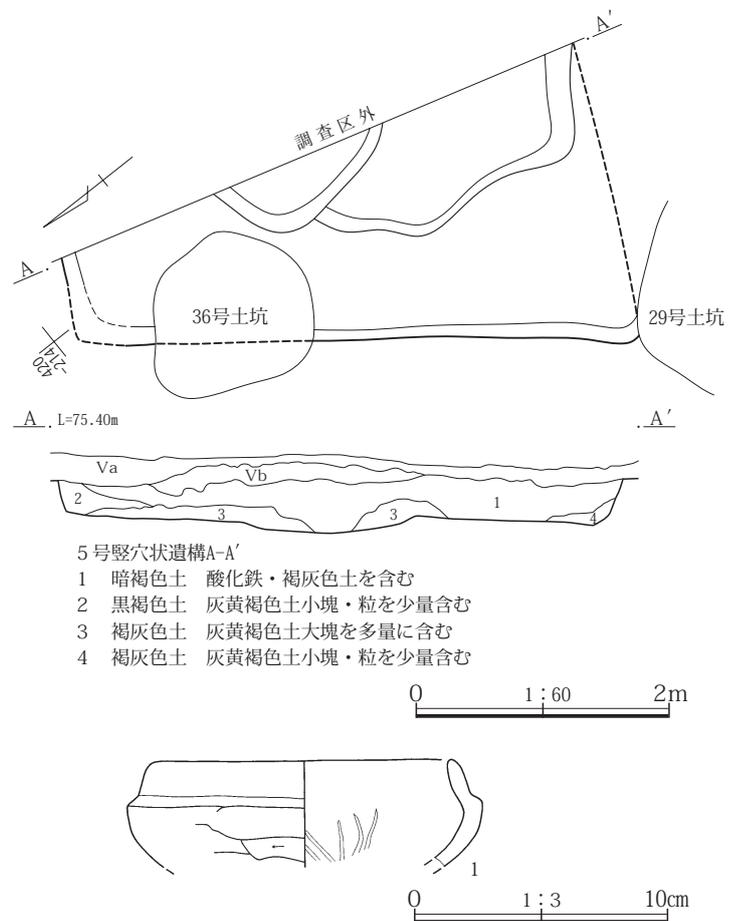
重複 29号・36号土坑と重複する。これらの土坑との新旧関係は不明である。

形状と規模 東側は調査区外である。平面形は長方形または正方形である。検出した長軸長は4.4m、短軸長2.35m、遺構検出面から底面までの深さは0.25~0.4mである。底面にはさらに0.1m程度の落ち込みがあり、平坦ではない。

埋没土 暗褐色土を主体とする。3層は灰黄褐色土大塊を多量に含み、堆積状況から人為堆積と考えられる。

遺物と出土状態 土師器48点、須恵器5点が出土し、このうち1点を図示した。いずれも埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は6世紀後半と推定される。



第174図 上西根2区5号竪穴状遺構と出土遺物

2区6号竪穴状遺構(第175図 PL. 56・57・132)

位置 2区南側調査区北部

X=38,426~38,432 Y=-56,217~-56,222

主軸方向 南壁を主軸とした場合、N-73°-W

重複 30号土坑と重複し、新旧関係は不明である。

形状と規模 西側は調査区外である。平面形は不整な長方形で、検出した長軸長は4.78m、短軸長4.5mである。遺構検出面から底面までの深さは0.1~0.35mである。底面は0.05~0.15mの落ち込みがあり、平坦ではない。

埋没土 暗褐色土を主体とする。

遺物と出土状態 土師器82点、須恵器4点、鉄滓1点が出土した。このうち2点を図示し、鉄滓は観察表にのみ掲載した(3)。すべて埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀中頃と考えられる。

2区7号竪穴状遺構(第176図 PL. 56・57・132)

位置 2区南側調査区北部

X=38,411~38,414 Y=-56,211~-56,217

主軸方向 南壁を主軸とした場合、N-86°-W

重複 27号土坑と重複し、新旧関係は不明である。

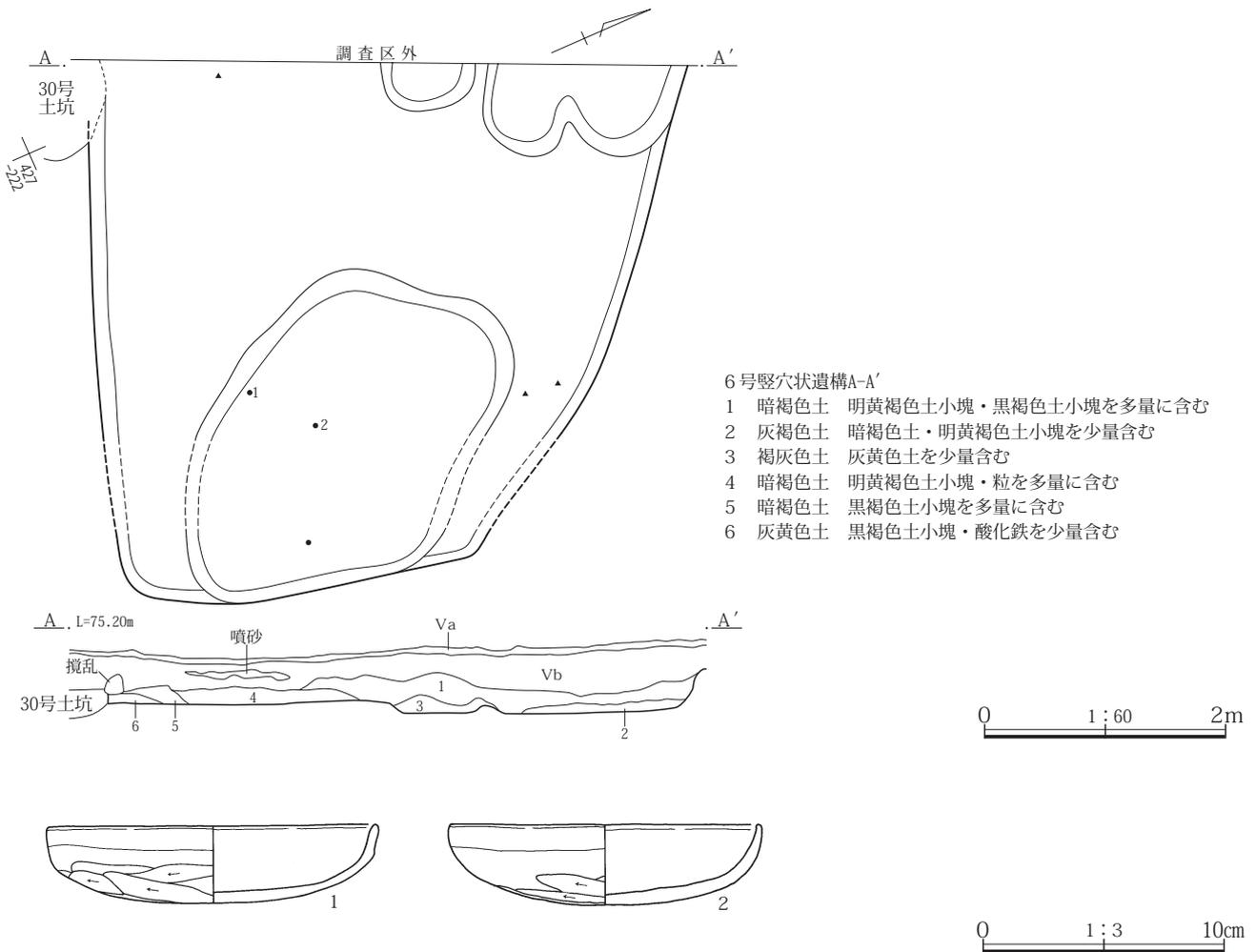
形状と規模 平面形は長方形で、検出した長軸長は3.88m、短軸長3.12mである。遺構検出面から底面までの深さは0.08~0.35mである。底面は北東部で0.1m程度の落ち込みがあり、平坦ではない。

埋没土 黒褐色土および暗褐色土を主体とする。

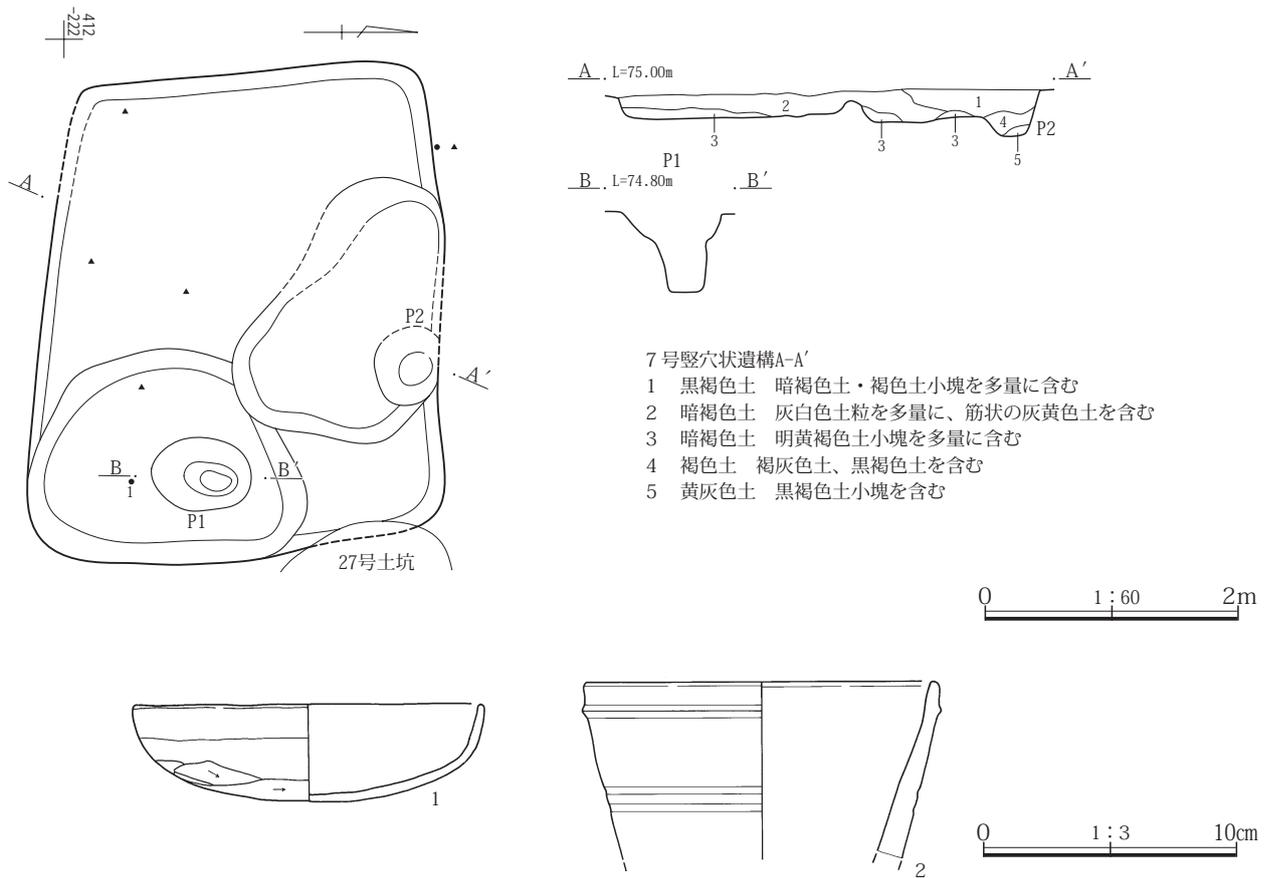
ピット 2基検出された。P1は平面形が楕円形で、長径0.79m、短径0.56m、深さ0.64mである。P2は平面形が楕円形で、長径0.65m、短径0.55m、深さ0.17mである。

遺物と出土状態 土師器19点、須恵器1点が出土し、このうち2点を図示した。いずれも埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀中頃と推定される。



第175図 上西根2区6号竪穴状遺構と出土遺物



第176図 上西根2区7号竪穴状遺構と出土遺物

2区8号竪穴状遺構(第177図 PL. 56・57)

位置 2区南側調査区北東部

X=38,419 ~ 38,423 Y=-56,212 ~ -56,215

主軸方向 不明

重複 9号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は発掘調査時には明らかにできず、不明である。

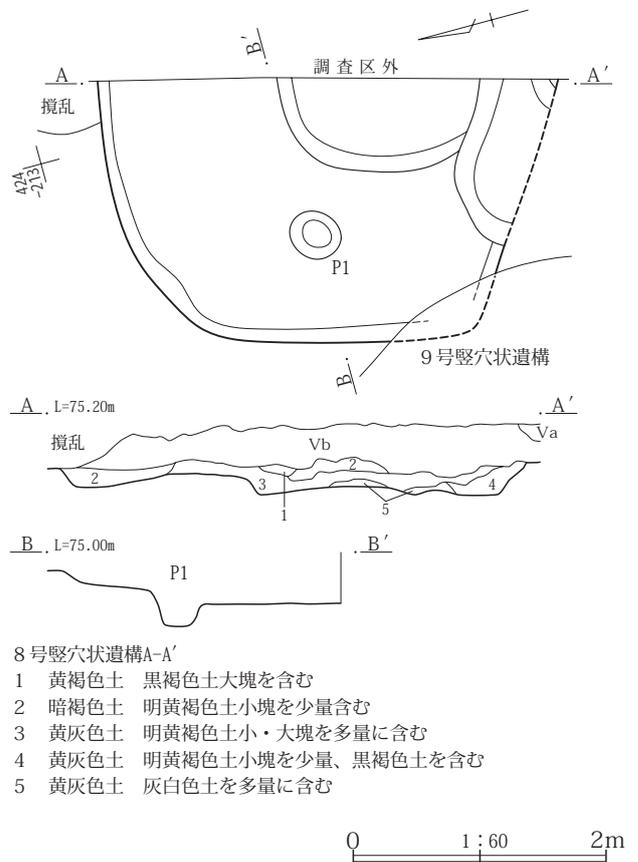
形状と規模 東側は調査区外である。平面形は不定形で、検出した長径は3.64m、短軸長2.11mである。遺構検出面から底面までの深さは0.08~0.20mである。底面は浅い土坑状およびピット状の落ち込みが見られ、平坦ではない。

埋没土 黄灰色土を主体とする。

ピット P1が検出された。平面形は楕円形で、長径0.41m、短径0.36m、深さ0.28mである。

遺物と出土状態 土師器4点が出土した。いずれも細片のため図示しなかったが、7世紀末頃の土師器甕が含まれていた。すべて埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末頃と考えている。



第177図 上西根2区8号竪穴状遺構

2区9号竪穴状遺構(第178図 PL. 57)

位置 2区南側調査区北部

X=38,418 ~ 38,423 Y=-56,214 ~ -56,218

主軸方向 不明

重複 8号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は発掘調査時には明らかにできず、不明である。

形状と規模 平面形は不定形で、検出した長径は4.3m、短軸長3.75mである。遺構検出面から底面までの深さは0.15~0.4mである。底面は浅い土坑状およびピット状の落ち込みが見られ、平坦ではない。

埋没土 黒褐色土および暗褐色土、灰黄褐色土を主体とする。

遺物と出土状態 埋没土から、土師器15点、須恵器1点が出土した。いずれも細片のため図示しなかったが、7世紀末および8世紀代の特徴を持つ土器が見られた。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末から8世紀初めと考えられる。

2区10号竪穴状遺構(第178図 PL. 56・57)

位置 2区南側調査区北部

X=38,408 ~ 38,411 Y=-56,218 ~ -56,221

主軸方向 N-10°-W

重複 なし

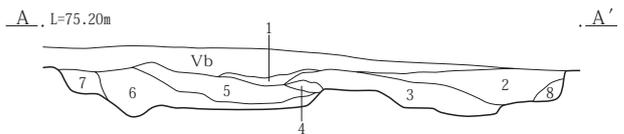
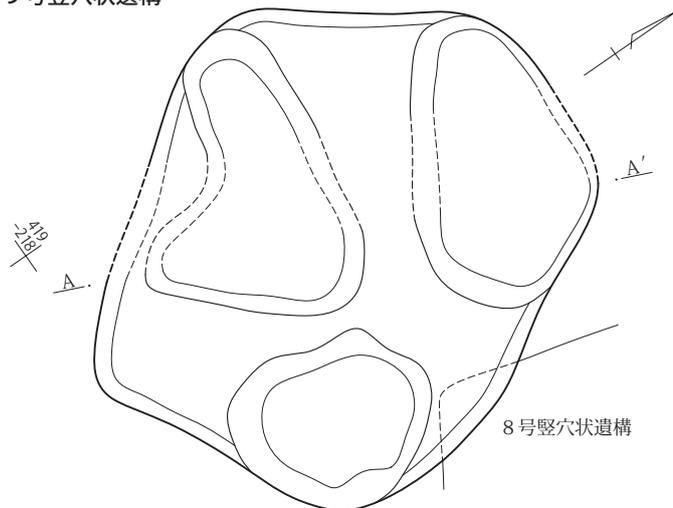
形状と規模 北東部が風倒木痕により失われているが、平面形は長方形である。検出した長径は2.94m、短軸長2.37mである。遺構検出面から底面までの深さは0.3~0.55mである。底面は深さ0.05~0.25mの浅い土坑状の落ち込みが見られ、平坦ではない。

埋没土 黒褐色土を主体とする。

遺物と出土状態 土師器22点が出土し、このうち2点を図示した。すべて埋没土から出土した。

所見 遺構の重複および出土遺物から、時期は8世紀前半と推定される。

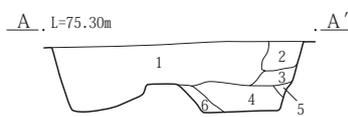
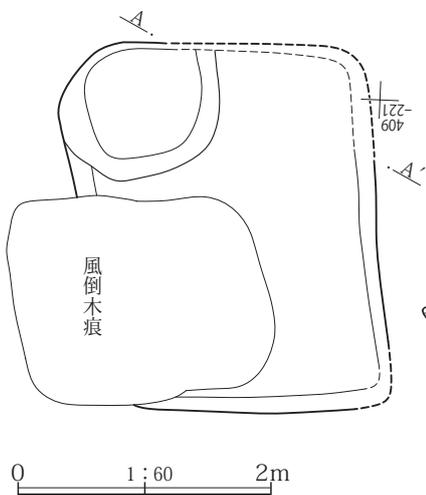
9号竪穴状遺構



9号竪穴状遺構A-A'

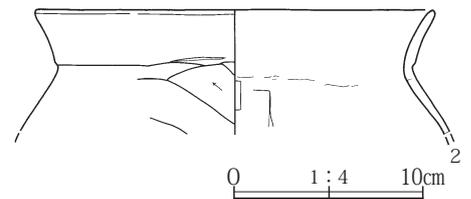
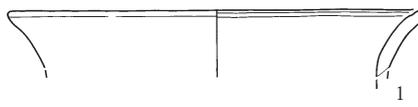
- 1 灰黄色土 筋状の灰白色土を含む
- 2 黒褐色土 暗褐色土・褐色土小塊を僅かに含む
- 3 暗褐色土 明黄褐色土小・大塊を多量に含む
- 4 灰黄色土 黒褐色土小塊を少量含む
- 5 黒褐色土 褐色土小塊・粒を少量含む
- 6 灰黄褐色土 灰白色土を多量に含む
- 7 暗褐色土 明黄褐色土大塊を含む
- 8 黒褐色土 明黄褐色土小塊を僅かに含む

10号竪穴状遺構



10号竪穴状遺構A-A'

- 1 黒褐色土 白色粒を少量含む
- 2 暗褐色土 褐色土・焼土小塊を僅かに含む
- 3 灰黄色土 焼土小塊を僅かに含む
- 4 黒褐色土 褐色土小塊・灰白色土粒を少量含む
- 5 にぶい黄色土 明黄褐色土を多量に含む
- 6 にぶい黄色土 明黄褐色土主体、黒褐色土小塊を含む



第178図 上西根2区9号・10号竪穴状遺構と10号竪穴状遺構出土遺物

4. 溝

5条検出された。いずれも2区北部に位置する。遺構検出面はVa層上面またはVb層上面、Vb層下面である。3号・4号溝は同一地点で重複している。

2区1号溝(第179図 PL. 58)

位置 2区中央調査区北部

X=38,440～38,442 Y=-56,199～-56,207

重複 1号土坑と重複し、土層断面の観察から、1号溝が新しい。

形状と規模 東側は調査区外である。検出された長さは7.28m、幅は0.58～0.96mである。遺構検出面から底面までの深さは0.16～0.3mである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-78°-W

底面比高 西端が東端より0.05m高い。

埋没土 暗褐色土を主体とする。底面付近に砂等の堆積物は認められず、常時水が流れていたとは考えにくい。

遺物と出土状態 埋没土から土師器41点、須恵器1点が出土した。いずれも細片のため、図示しなかった。

所見 埋没土の観察から、水路の可能性は否定できるものの、性格については不明である。出土遺物から、時期は古代以降と考えられる。

2区2号溝(第179図 PL. 58)

位置 2区北側調査区

X=38,453～38,461 Y=-56,193～-56,206

重複 31号～34号住居および3号・4号溝と重複する。遺構検出時の観察から、31号～34号住居よりも新しい。また、土層断面の観察から、4号溝より新しい。3号溝との新旧関係は不明である。2号溝と3号溝の底面標高がほぼ同じである。

形状と規模 北東部および南西部は調査区外である。検出された長さは12.44m、幅は0.69～2.6mである。遺構検出面から底面までの深さは0.05～0.07mである。底面付近のみの検出で、底面はほぼ平坦である。

方向 N-52°-E

底面比高 北東端が南西端より0.15m高い。

埋没土 IVb層由来の黄褐色土塊を多く含む暗褐色土である。3号溝の埋没土と同質である。

遺物と出土状態 土師器1点、須恵器1点が出土し、このうち1点を図示した。須恵器甕(2溝1)は底面から2cm上位で出土した。

所見 3号溝と埋没土が共通することから、2号・3号溝は同時期に機能していた可能性が高い。さらに、遺構の重複などから、時期は8世紀中頃と推定される。性格については不明である。

2区3号溝(第179図 PL. 58・133)

位置 2区北側調査区

X=38,448～38,458 Y=-56,197～-56,206

重複 2号・4号溝と重複する。土層断面の観察から、4号溝より新しい。埋没土の共通性から、2号溝と同時期に機能していた可能性がある。

形状と規模 北東部および南西部は調査区外である。4号溝と同一地点で検出され、平面形は完全に重なる。検出された長さは12.31m、幅は0.49～1.07mである。遺構検出面から底面までの深さは0.05～0.16mである。底面付近のみの検出で、底面はほぼ平坦である。

方向 N-40°-E

底面比高 北東端が南西端より0.13m高い。

埋没土 IVb層由来の黄褐色土塊を多く含む暗褐色土である。2号溝の埋没土と同質である。

遺物と出土状態 土師器13点、須恵器1点が出土し、このうち2点を図示した。土師器杯(3溝1)は底面に食い込むような状態で出土した。

所見 2号溝と埋没土が類似し、底面標高がほぼ同じことから、2号・3号溝は同時期に機能していた可能性が高い。また、4号溝と場所が同一であることから、4号溝が完全に埋没する前に3号溝が掘られたと考えられる。底面で出土した土器の年代から、時期は8世紀中頃と推定される。性格については不明である。

2区4号溝(第180図 PL. 58・133)

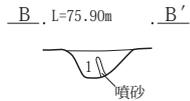
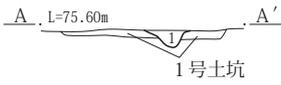
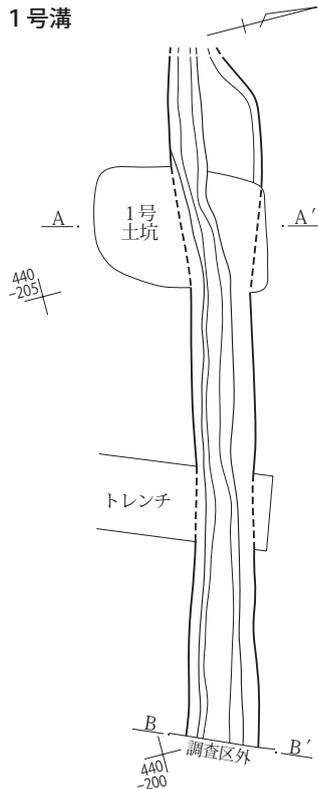
位置 2区北側調査区中央部

X=38,448～38,460 Y=-56,193～-56,205

重複 30号住居、2号・3号溝と重複する。土層断面の観察から、2号・3号溝より古く、30号住居より新しい。

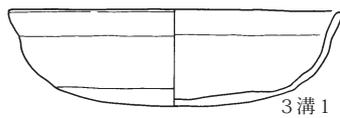
形状と規模 北東部および南西部は調査区外である。3号溝と同一地点で検出され、平面形は完全に重なる。2

1号溝

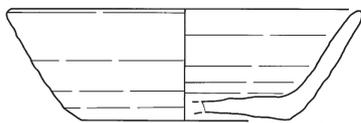


1号溝A'-B'

1 暗褐色土 浅黄色土小塊を含み、白色粒を少量、炭化物を僅かに含む



3溝1

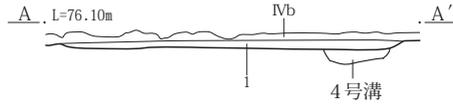


3溝2



0 1:3 10cm

2号・3号溝

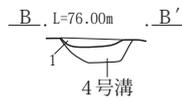
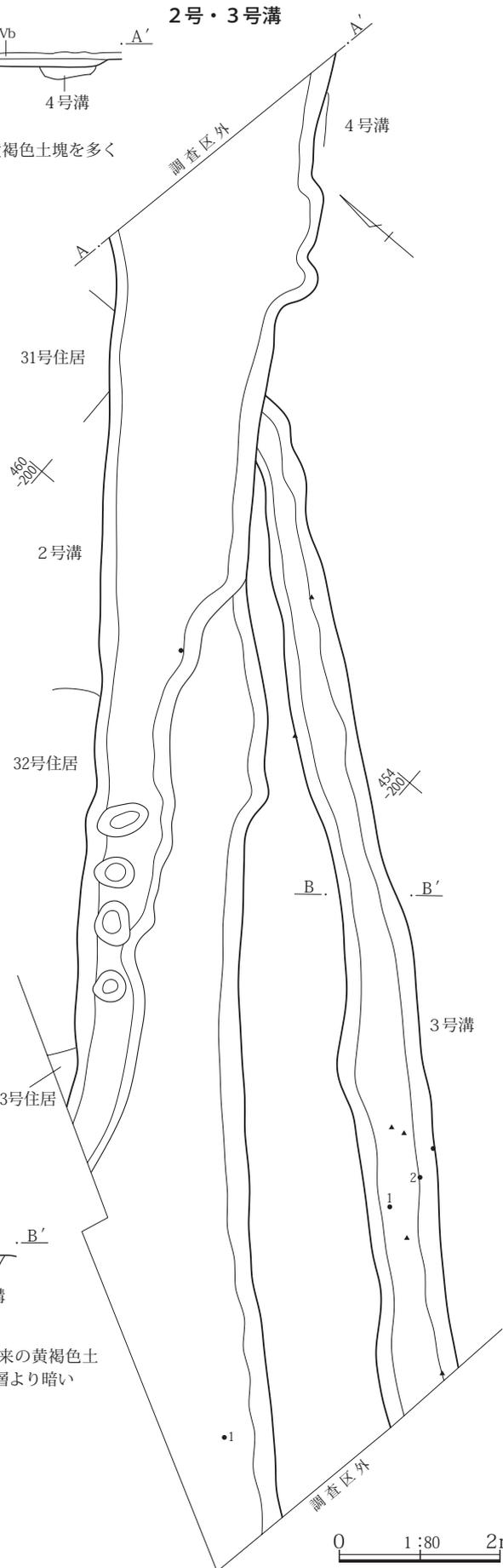


2号溝A'

1 暗褐色土 IVb層由来の黄褐色土塊を多く含む、IVb層より暗い



0 1:4 10cm



3号溝B-B'

1 暗褐色土 IVb層由来の黄褐色土塊を多く含む、IVb層より暗い

0 1:80 2m

第179図 上西根2区1号～3号溝と2号・3号溝出土遺物

号溝とも北東部で一部重なっている。検出された長さは16.58m、幅は0.39～1.1mである。遺構検出面から底面までの深さは0.08～0.30mである。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形である。

方向 N-45°-E

底面比高 北東端の標高が75.71mと南西端より0.12m高いが、傾斜の方向は一定ではなく、溝中央部付近では標高が75.49mと最も低くなっている。

埋没土 黄灰色土を含む暗褐色土である。

遺物と出土状態 土師器1点、須恵器1点、石製品1点が出土し、このうち1点を図示した。4溝1は磨石で、底面付近で出土した。それ以外は埋没土から出土した。

所見 底面の傾斜が一定ではないことから、水路としての機能は否定できるものの、性格については不明である。遺構の重複から、7世紀後半から8世紀中頃と推定される。

2区5号溝(第180図 PL. 58)

位置 2区最北端調査区南東隅

X=38,465～38,466 Y=-56,189

重複 なし

形状と規模 東壁のトレンチで断面を検出したのみで、全体を把握することができなかった。土層断面の観察から、深さは0.2m、底面はやや凹凸を持ち、壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

方向 不明

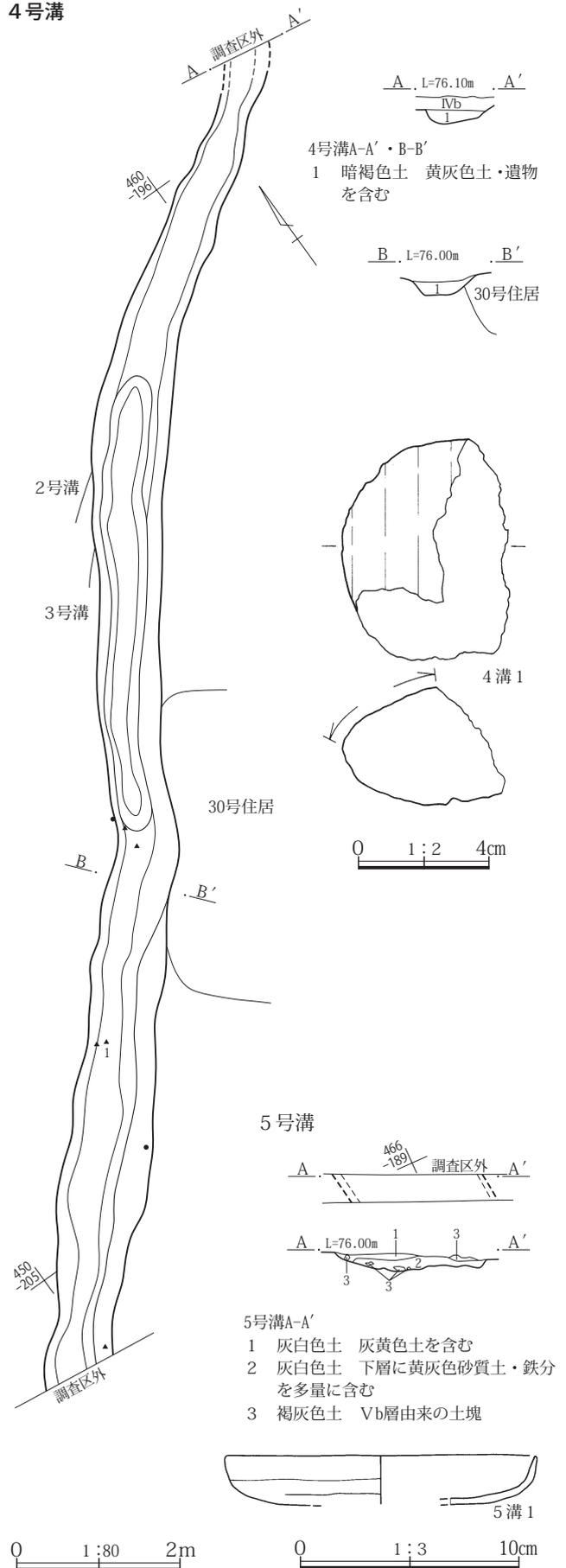
底面比高 不明

埋没土 灰白色土を主体とする。2層は黄灰色砂質土および鉄分を多量に含む土である。

遺物と出土状態 土師器57点、須恵器9点が出土し、1点を図示した。すべて埋没土から出土した。

所見 土層断面のみの検出で、全体を把握することはできなかった。溝以外の可能性もあり、性格は不明である。出土遺物から、時期は9世紀前半以降と考えられる。

4号溝



第180図 上西根2区4号・5号溝と出土遺物

5. 土坑

土坑は36基検出された。これらの土坑は2区最北端調査区と南側調査区北部で比較的まとまりをもって検出された。これらの土坑はIV層中またはV層を遺構確認面とする。大部分はVb層上面で確認された。36基の土坑は平面形、断面形、埋没土の様子から、以下の5つに分類することができた。

- ①細長い土坑 4基
- ②隅丸長方形の土坑 4基
- ③円形の土坑 4基
- ④楕円形の土坑 7基
- ⑤不定形の土坑(その他の土坑) 17基

①～⑤については、分類ごとに概観し、特徴的な土坑を個別に記載する。形状や規模、重複、長軸方向については322・330ページに示した。

①細長い土坑(第181図 PL. 59・60)

6号・7号・8号・12号土坑がこれに当たる。

6号～8号土坑は2区北側調査区の東壁付近で隣接して検出された。長軸方向は6号・7号土坑で同じでほぼ東西方向、8号土坑は6号・7号土坑に直行し、南北方向となっている。長径は短径の3～4倍の長さを持ち、壁の立ち上がりはほぼ垂直で、断面形は箱形を呈する。底面は平坦である。埋没土は3基とも共通し、灰黄色土または灰黄褐色土を主体とする。遺物は6号・7号土坑で埋没土中から、土師器が出土しているが、細片のため図示しなかった。形状や埋没土が類似していることから、6号～8号土坑は同時期と考えられ、時期は遺構の重複および埋没土の特徴から、中世以降と考えているが詳細は不明である。

12号土坑は2区最北端調査区に位置する。37号住居と重複して検出され、本土坑が新しい。かなり細長い平面形で、長径1.12m、短径0.19m、遺構検出面からの深さは0.08mである。長軸方向はN-67°-Eである。底面は平坦ではなく、壁は腕形に立ち上がっている。埋没土は灰白色土塊を多量に含む黒褐色土で、人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。性格は不明である。遺構の重複から、時期は8世紀前半～中頃に推定される37号住居より新しい。

②隅丸長方形の土坑(第181図 PL. 59～61)

1号・2号・15号・23号土坑がこれに当たる。2号土坑は東側の一部を失っているが、全体的な形状から②に含めた。平面形は隅丸長方形で、壁の立ち上がりはやや急な傾斜である。底面はほぼ平坦である。埋没土は1号・2号・15号土坑は暗褐色土を主体とし、23号土坑は炭化物を多量に含む灰黄褐色土である。23号土坑は底面にも炭化物が広範囲に認められた。遺物は1号・2号・15号土坑で土師器が出土したが、細片のため図示しなかった。23号土坑から遺物は出土しなかった。これらの土坑の時期および性格は不明である。

③円形の土坑(第181図 PL. 60・61)

14号・17号・20号・21号土坑がこれに含まれる。これらは2区最北端調査区にまとまって位置する。

14号・17号・20号土坑の断面形および埋没土は各土坑で異なっている。出土遺物は17号・20号土坑で土師器が出土したが細片のため図示しなかった。14号土坑から遺物は出土しなかった。性格および時期は不明である。

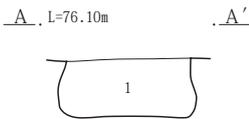
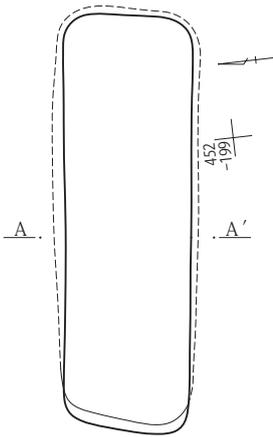
21号土坑は円形を呈し、壁の立ち上がりは急で、開口部に向かってやや広がっている。長径0.8m、短径0.79m、深さ1.19mである。底面はほぼ平坦であるが、土坑下部はオーバーハングになっている。底面では、直径約25～30cm大の礫が2個重なった状態で出土した。埋没土は褐灰色土を主体とする。遺物は、土師器が2点出土したが、細片のため図示しなかった。性格および時期は不明である。

④楕円形の土坑(第182図 PL. 59・60)

3号・4号・5号・9号・10号・11号・16号土坑がこれに当たる。これらは調査区内に点在し、まとまりを持たない。3号および10号土坑は調査区外やトレンチに切られているが、全体的な形状から判断してこれに含めた。平面形は楕円形で、壁の立ち上がりは緩やかなものや垂直に近いものもある。底面は3号土坑で段を有し、4号土坑で凹凸を持つが、それ以外の土坑は平坦である。埋没土は各土坑で異なっている。5号土坑の3層は明黄褐色土小塊を多量に含み、人為堆積の可能性が高い。また、埋没土中に筋状の灰黄色土が認められ、噴砂の痕跡と考えられる。出土遺物は、4号・5号・9号・10号・11号・16号土坑で土師器および須恵器が出土したが、細片のため図示しなかった。土坑の性格および時期は不明である。

⑤不定形の土坑(第182～184図 PL. 60・61)

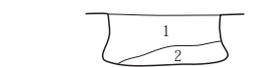
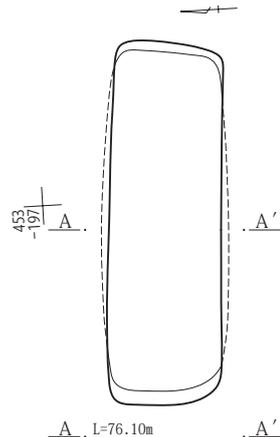
6号土坑



6号土坑A-A'

1 暗灰黄色土 明黄褐色土小塊を多量に、黒褐色土・小塊を少量含む、人為的埋没土

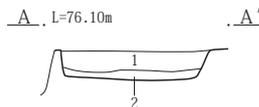
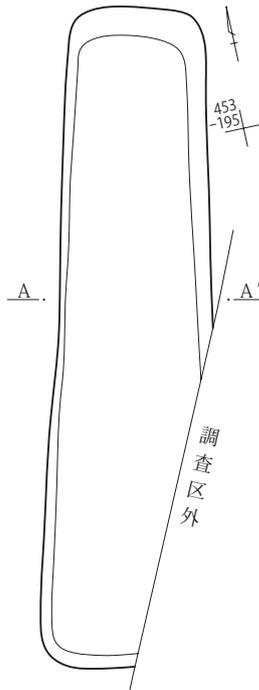
7号土坑



7号土坑A-A'

1 灰黄色土 明黄褐色土小塊を少量含む
2 暗灰黄色土 明黄褐色土小塊・黒褐色土小塊を少量含む

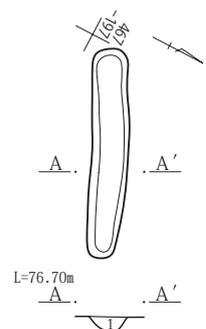
8号土坑



8号土坑A-A'

1 灰黄褐色土 黒褐色土・小塊を少量、浅黄色土小塊を僅かに含む
2 褐灰色土 黒褐色土を多量に含む

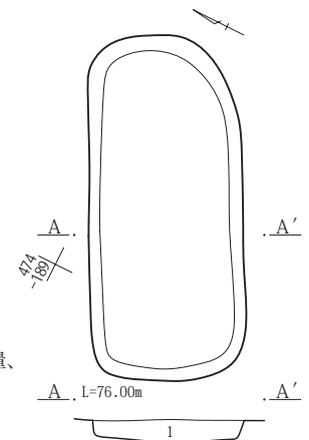
12号土坑



12号土坑A-A'

1 黒褐色土 灰白色土小塊・粒を多量に含む

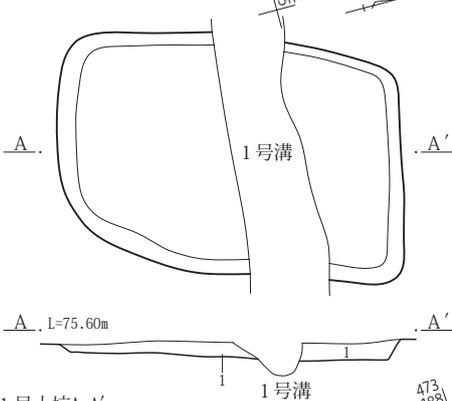
15号土坑



15号土坑A-A'

1 暗褐色土 Vb層主体、白色粒を多量に含む

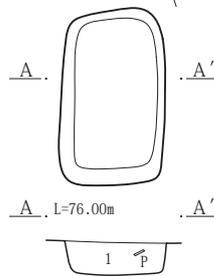
1号土坑



1号土坑A-A'

1 暗褐色土 Vb層主体、白色粒を少量含む、遺物を含む

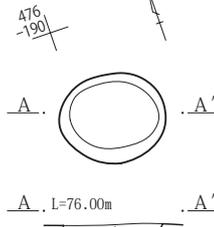
23号土坑



23号土坑A-A'

1 灰黄褐色土 炭を多量に、白色粒を少量含む

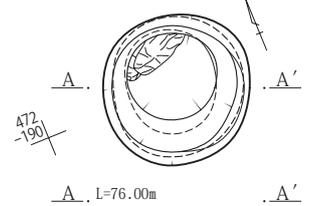
14号土坑



14号土坑A-A'

1 暗灰黄色土 白色粒僅かに含む

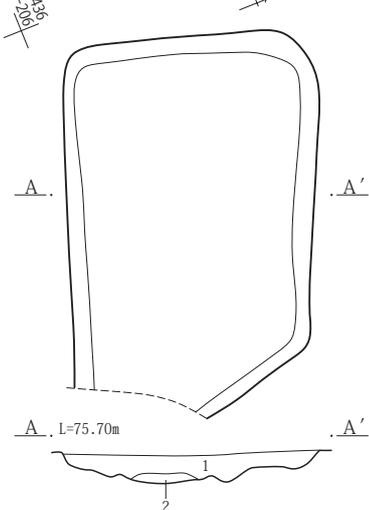
21号土坑



21号土坑A-A'

1 灰黄褐色土 白色粒を少量含む
2 褐灰色土 浅黄色土粒を少量含む
3 褐灰色土 浅黄褐色土小塊主体

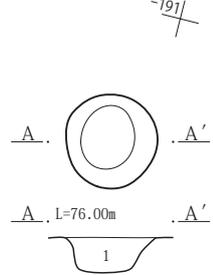
2号土坑



2号土坑A-A'

1 暗褐色土 Vb層主体、白色粒・焼土小塊を僅かに含む
2 褐灰色土 黄灰色土主体、炭小片を含む

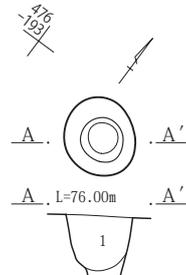
17号土坑



17号土坑A-A'

1 褐灰色土 白色粒を少量含む

20号土坑



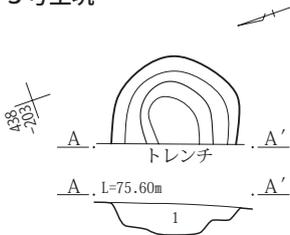
20号土坑A-A'

1 灰黄褐色土 明黄褐色土小塊を多量に、白色粒・炭・焼土を僅かに含む
2 暗褐色土 黒褐色土を含む



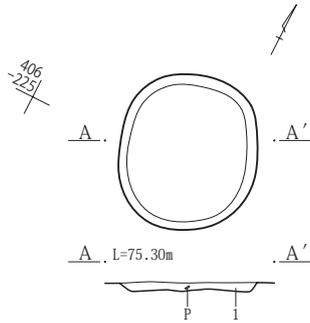
第181図 上西根2区1号・2号・6号～8号・12号・14号・15号・17号・20号・21号・23号土坑

3号土坑



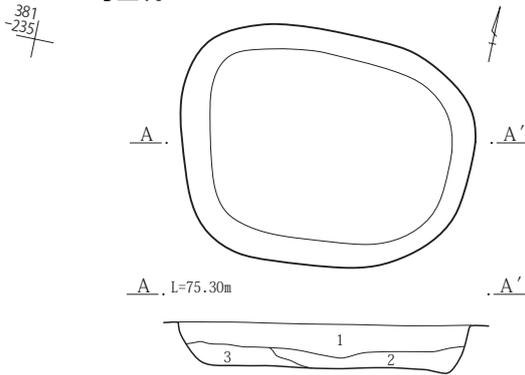
3号土坑A-A'
1 暗褐色土 Vb層主体、白色粒を僅かに含む

9号土坑



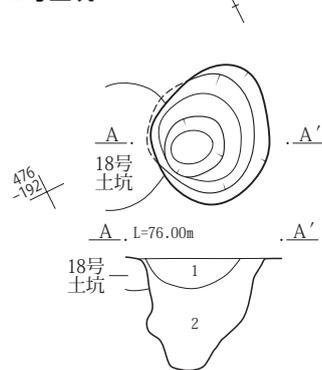
9号土坑A-A'
1 暗褐色土 Vb層主体、白色粒を多量に、遺物を含む

11号土坑



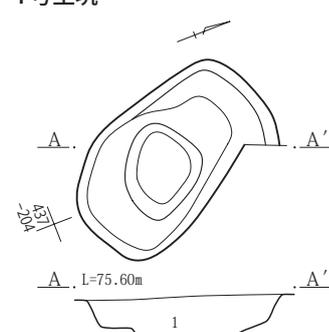
11号土坑A-A'
1 暗褐色土 Vb層主体、白色粒を多量に含む
2 褐灰色土 白色粒を僅かに含む
3 褐色土 黒褐色土を多量に、浅黄色土小塊を含み、白色粒を僅かに含む

19号土坑



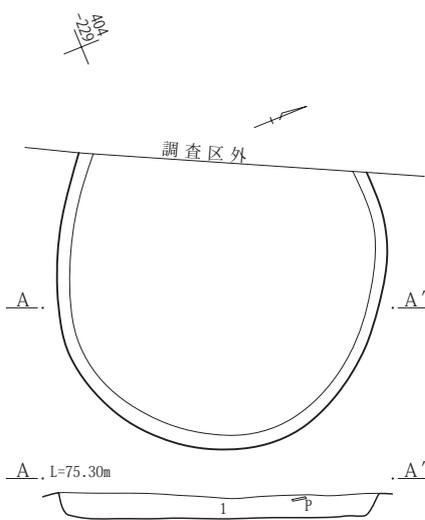
19号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 灰黄色土小塊を多量に、白色粒を僅かに含む
2 灰黄褐色土 浅黄色土を少量、炭を僅かに含む、やや色味暗い

4号土坑



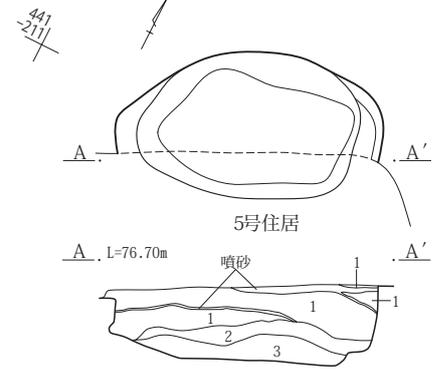
4号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 白色粒・褐色土を含み、浅黄色土塊・粒を少量含む

10号土坑

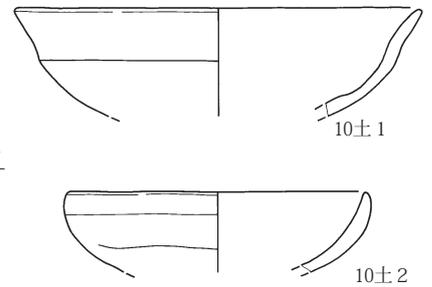


10号土坑A-A'
1 暗褐色土 Vb層主体、白色粒を多量に、遺物を含む

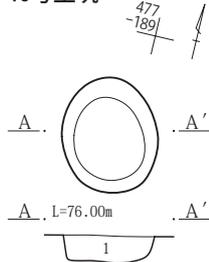
5号土坑



5号土坑A-A'
1 暗褐色土 Vb層主体、黒褐色土大塊を含み、白色粒・焼土小塊を僅かに含む
2 灰黄色土 明黄褐色土小塊を多量に、褐色土小塊を僅かに含む
3 灰黄褐色土 Vb層主体、黒褐色土小塊を含み、白色粒を僅かに含む

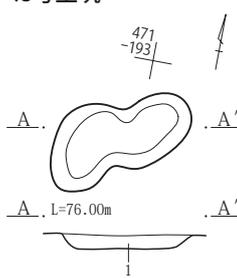


16号土坑



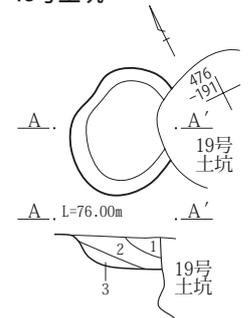
16号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 白色粒を僅かに含む

13号土坑

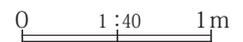


13号土坑A-A'
1 暗褐色土 Vb層主体、白色粒を多量に含む

18号土坑

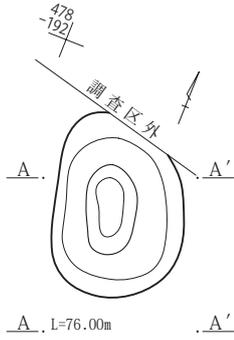


18号土坑A-A'
1 暗褐色土 焼土粒・白色粒を僅かに含む
2 灰黄褐色土 浅黄色土粒を多量に含む
3 灰黄褐色土 浅黄色土を少量含む

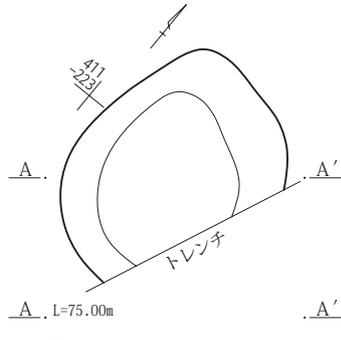


第182図 上西根2区3号~5号・9号~11号・13号・16号・18号・19号土坑と10号土坑出土遺物

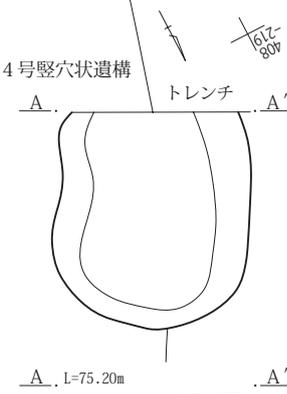
22号土坑



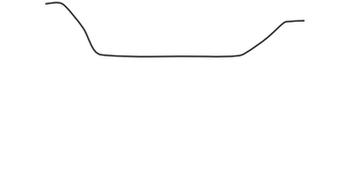
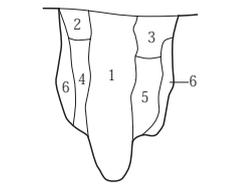
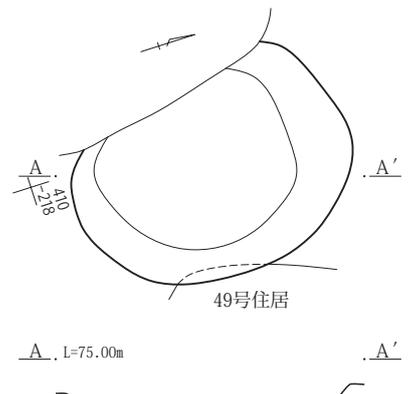
24号土坑



25号土坑



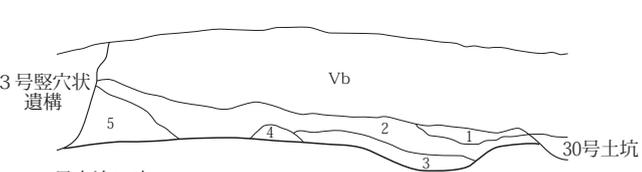
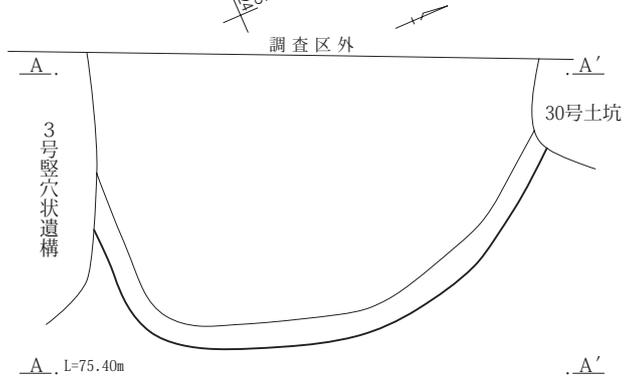
26号土坑



22号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 焼土小塊・炭・白色粒・灰白色土小塊・明黄褐色土小塊を少量含む、柱痕か
- 2 灰黄褐色土 白色粒・灰白色土小塊を少量含む
- 3 灰黄褐色土 白色粒・焼土小塊を僅かに含む
- 4 灰黄褐色土 白色粒・焼土小塊・炭を僅かに含む
- 5 灰黄褐色土 白色粒・焼土を僅かに含む
- 6 褐灰色土 黒褐色土を含む

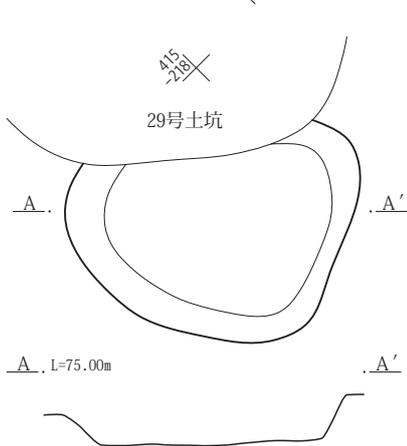
28号土坑



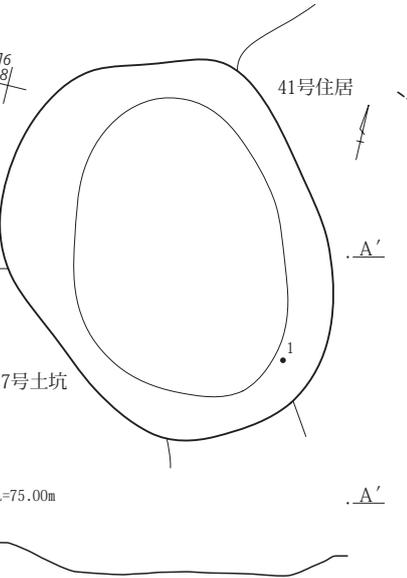
28号土坑A-A'

- 1 褐灰色土 黒褐色土大塊を少量含む
- 2 褐灰色土 白色粒・灰黄色土小塊を少量含む、筋状の灰黄色土を含む
- 3 黒褐色土 褐灰色土を含む
- 4 褐灰色土 灰黄色土大塊を含む
- 5 黄灰色土 酸化鉄を含む

27号土坑



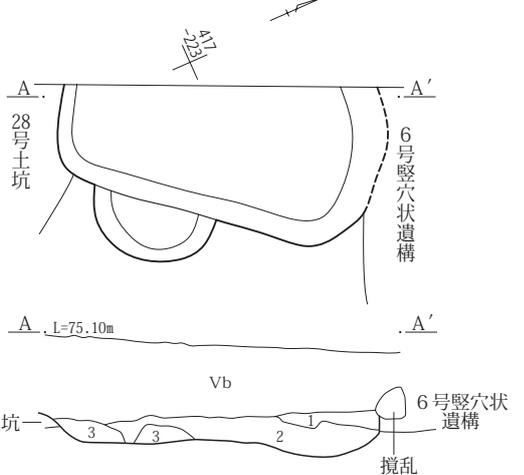
29号土坑



30号土坑A-A'

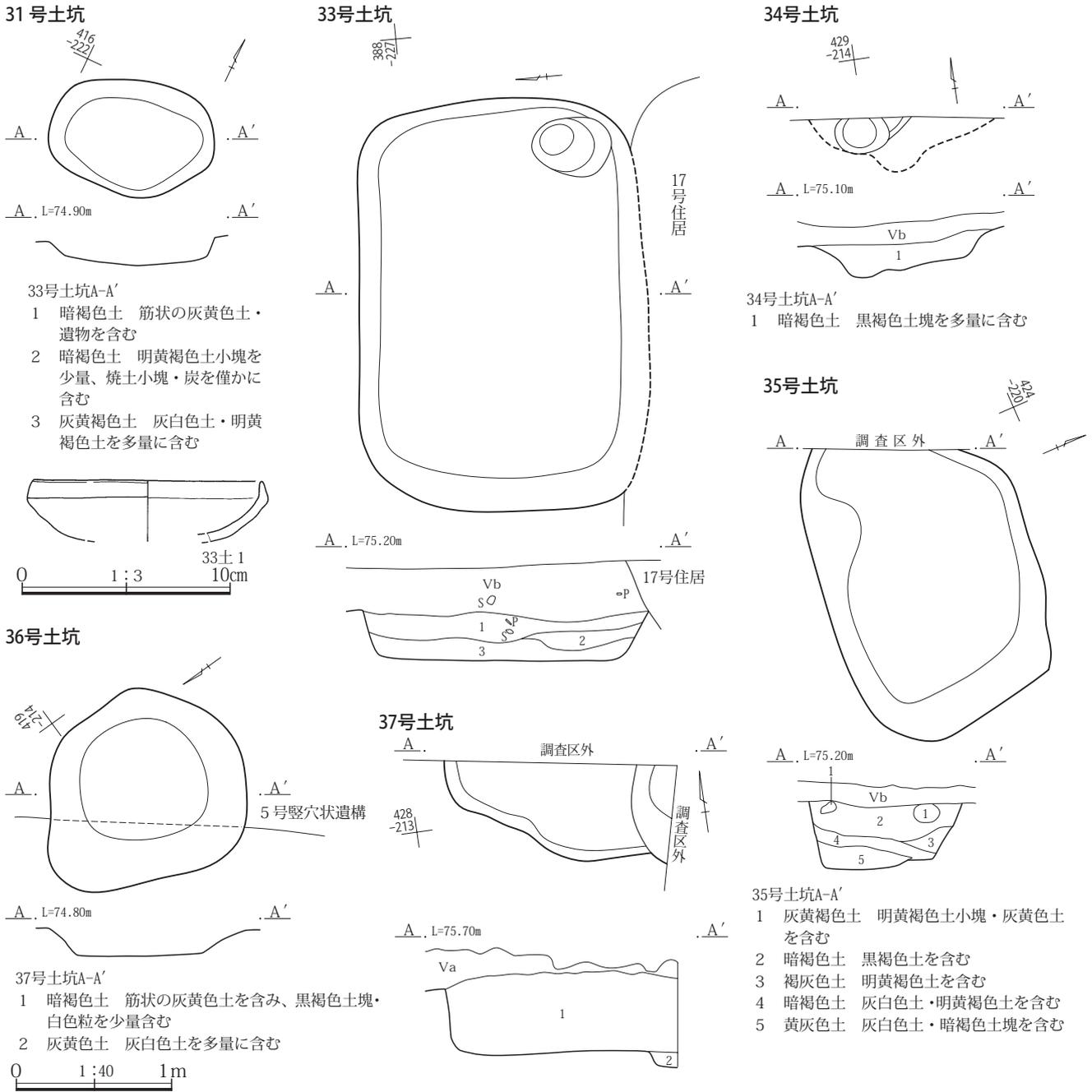
- 1 にぶい黄橙色土 褐灰色土・にぶい黄色土小塊を少量含む
- 2 褐灰色土 灰白色土大塊を多量に、黒褐色土小塊・白色粒を少量含む
- 3 褐灰色土 灰黄色土大塊を含む

30号土坑



第183図 上西根2区22号・24号～29号・30号土坑と29号土坑出土遺物





第184図 上西根2区31号・33号～37号土坑と33号土坑出土遺物

13号・18号・19号・22号・24号・25号・26号・27号・28号・29号・30号・31号・33号・34号・35号・36号・37号土坑がこれに当たる。このうち24号～31号、33号～35号土坑は南側調査区で遺構が密集している区域に位置し、平面形を正確に把握することができなかつたためこれに含めた。

19号土坑は、平面形が不定形で、壁の一部がオーバーハングしている部分もある。

24号～31号、33号～36号土坑は2区南側調査区に位置する。竪穴住居や竪穴状遺構、土坑が密集している区域である。これらの土坑の平面形は不整な楕円形および

不定形である。壁の立ち上がりは緩やかなものから比較的急なものまで認められる。底面はほぼ平坦である。埋没土は黒褐色土や暗褐色土を主体としながら、各土坑で異なっている。

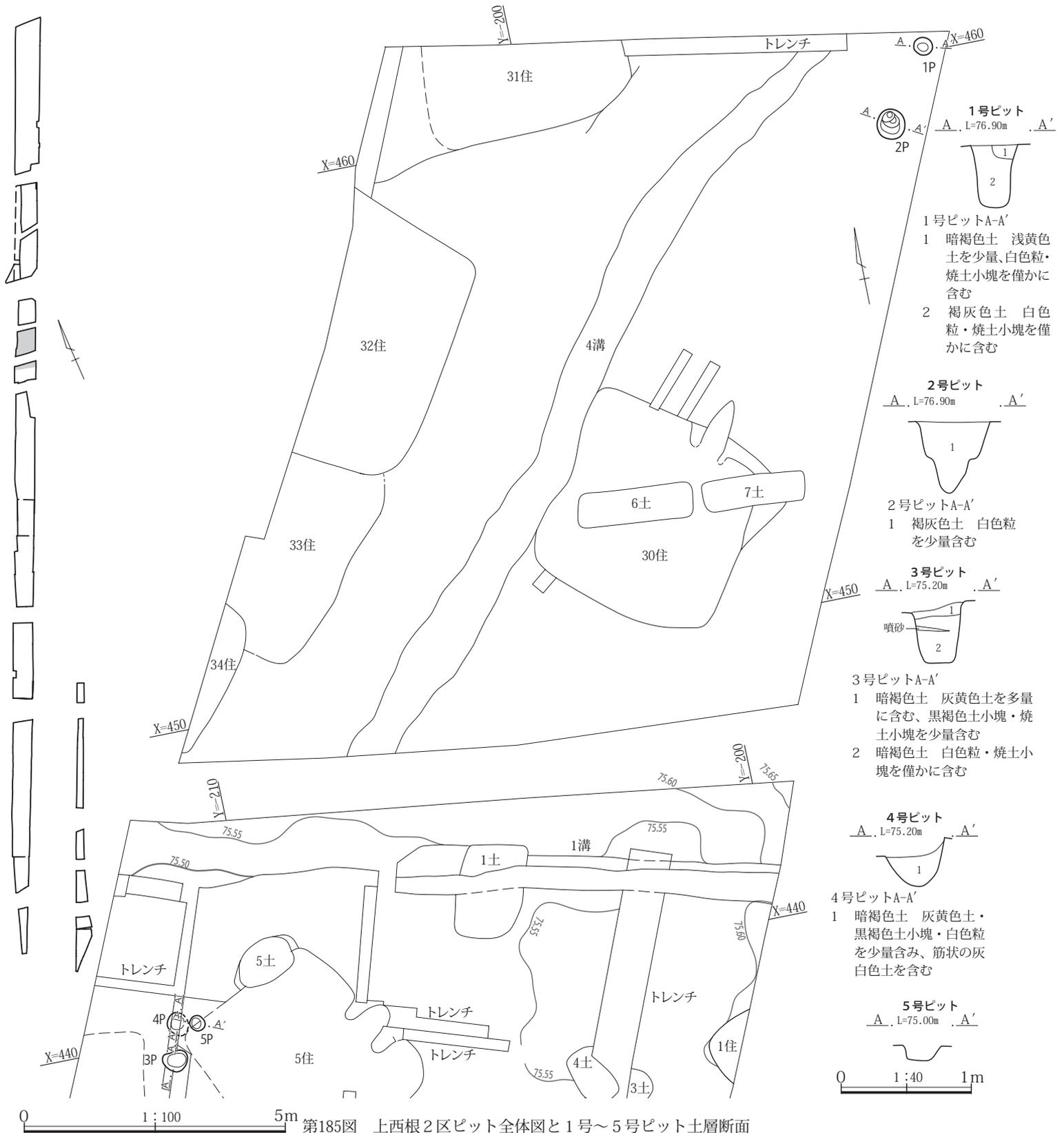
29号・33号土坑では、埋没土中から土師器が各1点出土し、これを図示した。

遺構の重複から、25号土坑は8世紀前半と推定される4号竪穴状遺構より新しく、28号土坑は8世紀中頃と考えられる3号竪穴状遺構より古いことは言えるが詳細は不明である。それ以外の土坑の時期も不明である。性格も不明である。

6. ピット(第185図)

5基検出した。北側調査区および中央調査区で、1号・2号ピット、3号~5号ピットがそれぞれまとまって検出された。1号・2号ピットの遺構検出面はIV層~V層上面である。

3号・4号ピットは土層断面の観察時に確認され、遺構埋没土と考えられる黒褐色土の下位で認められた。5号ピットは土層の記録がないため不明である。埋没土については、1号・2号ピットは褐灰色土を主体とし、3号・4号ピットは暗褐色土である。3号・4号ピットは埋没土に灰白色土が筋状に



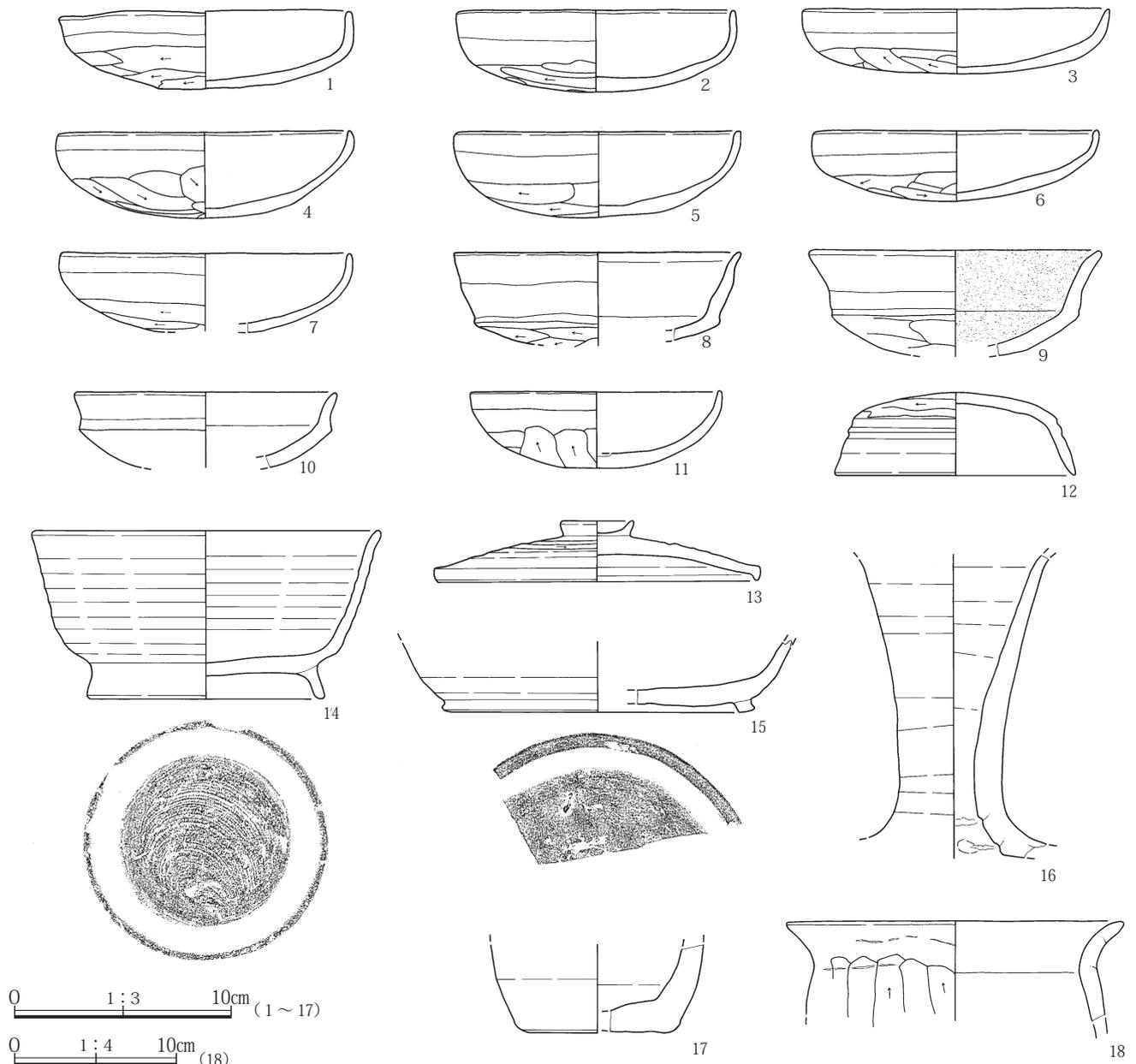
第185図 上西根2区ピット全体図と1号~5号ピット土層断面

入り、噴砂の痕跡と考えている。各ピットの規模や出土遺物の点数については、327・331ページに示す。出土遺物は少なく、1号・2号ピットで土師器が出土したのみである。いずれも細片のため、図示しなかった。これらのピットは遺構の重複関係や埋没土の特徴から、1号・2号ピットは中世以降、3号・4号ピットは古代と考えられるが、詳細は不明である。5号ピットの時期も不明である。

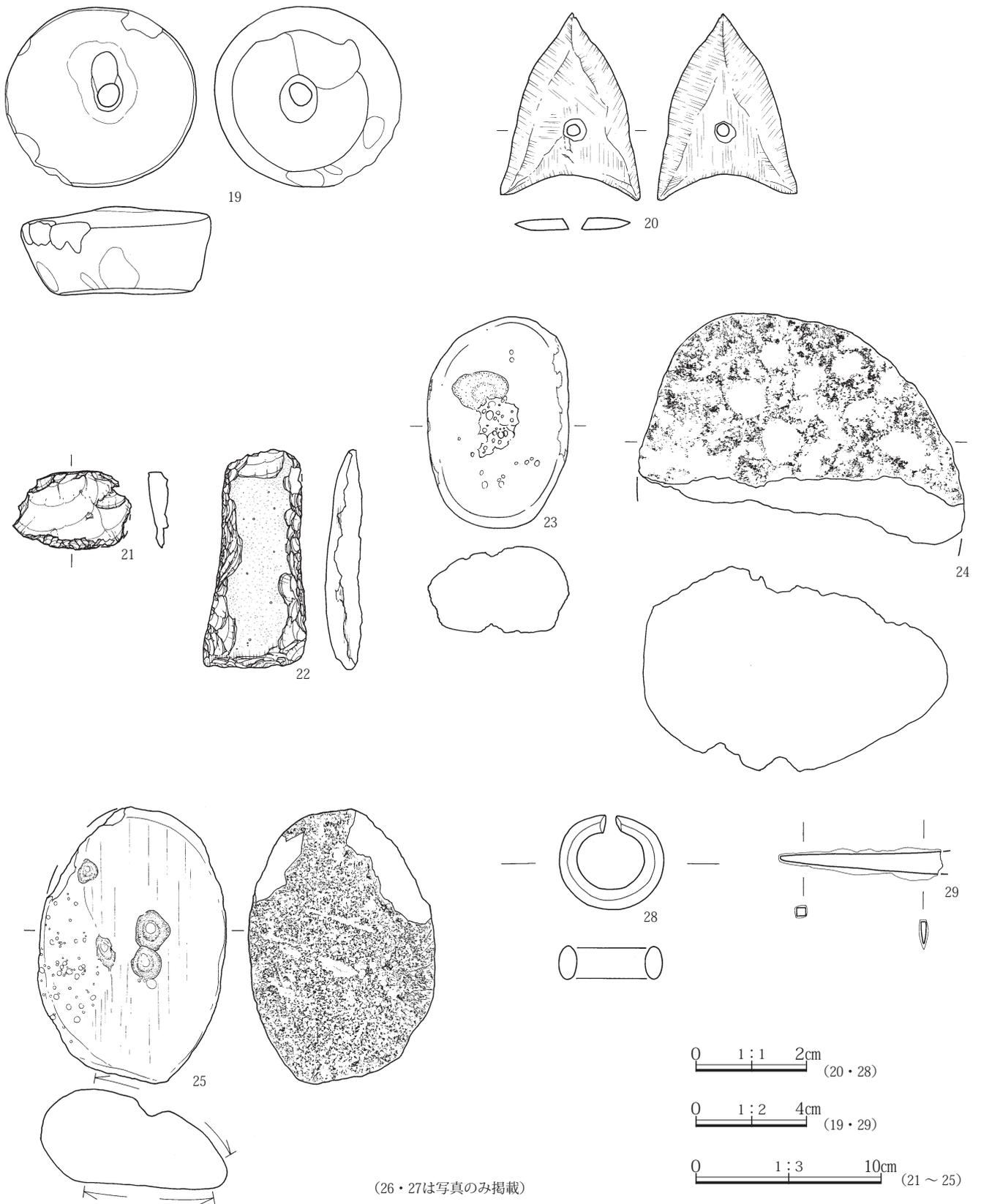
7. 遺構外から出土した遺物(第186・187図 PL. 133)

遺構外から出土した遺物は、土師器4,514点、須恵器155点、陶磁器2点、縄文土器1点、近現代瓦2点、石器8点、石製品2点、礫6点、鉄製品4点、鉄滓1点、馬歯2点の合計4,697

点である。このうち器形や時期がわかるものや特徴的な遺物を27点を図示し、石製品2点を写真のみ掲載した(PL. 133-外26・外27)。土師器および須恵器は竪穴住居の時期と一致し、これらで使用された土器が遺構外から出土したのと考えられる。2点の陶磁器は近現代のものである。20は頁岩製の磨製石鏃で、中心に穿孔が施され、縁辺に直交する擦痕が認められる。22は打製石斧で直線状の刃部には摩滅が連続的に見られる。25は粗粒輝石安山岩製で、一面には凹みが、もう一面には擦痕が連続的に認められる。凹み石を砥石に転用した可能性がある。28は耳環で、30号住居付近のV b層上面で出土した。青銅製で表面に鍍金が施されている。



第186図 上西根2区遺構外出土遺物(1)



第187図 上西根2区遺構外出土遺物(2)

第3節 3区の調査

1. 概要

上西根遺跡3区は、国道462号拡幅部分の調査となるため調査区は南北に細長く、長さ62m、幅9.5～11mである。標高はおよそ74.8～75.25mで、北東側から粕川に近い南西側に向かって緩やかに傾斜するものの、ほぼ平坦な地形である。上西根遺跡3区の調査面積は761.25㎡である。

上西根遺跡3区では、古墳時代から平安時代、中世から近世の遺構を検出した。遺構の内訳は、竪穴住居5軒、竪穴状遺構1基、礎石建物1棟、溝3条、土坑48基、ピット31基である。遺構の密度は高く、特に調査区南側では、土坑が集中して検出された。遺構検出面はVb層上面である。

2. 竪穴住居

上西根遺跡3区で竪穴住居は5軒確認された。すべて古墳時代終末期から平安時代の住居である。遺構検出面はVb層上面である。5軒の竪穴住居は調査区に散在し、集中は見られなかった。

3区1号竪穴住居(第189図 PL.63)

位置 3区南西部

X=38,325～38,328 Y=-56,257～-56,260

主軸方位 N-89°-E

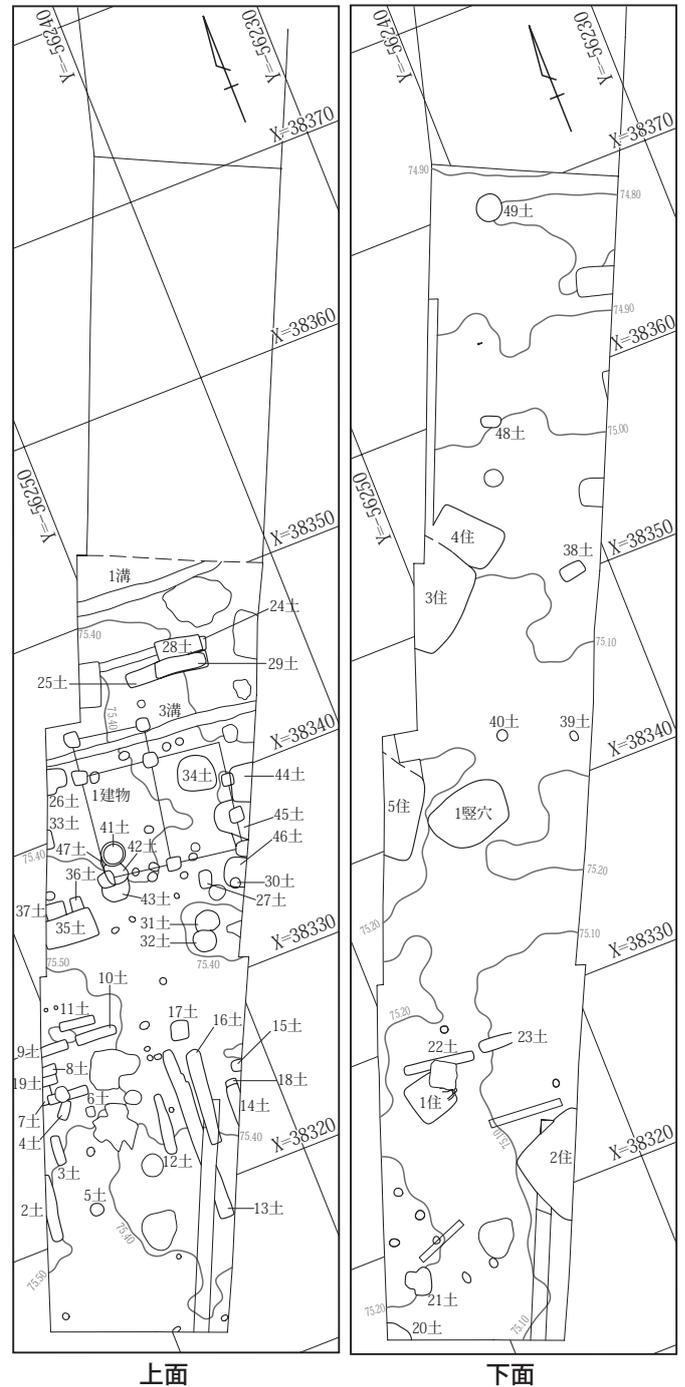
重複 6号土坑と重複し、遺構検出時の観察から、6号土坑の方が新しい。

形状と規模 北東部が攪乱で失われているが、正方形と推定される。長軸長は2.26m、短軸長2.2m、遺構検出面から床面までの深さは0.6m、掘方底面までの深さは0.63mである。

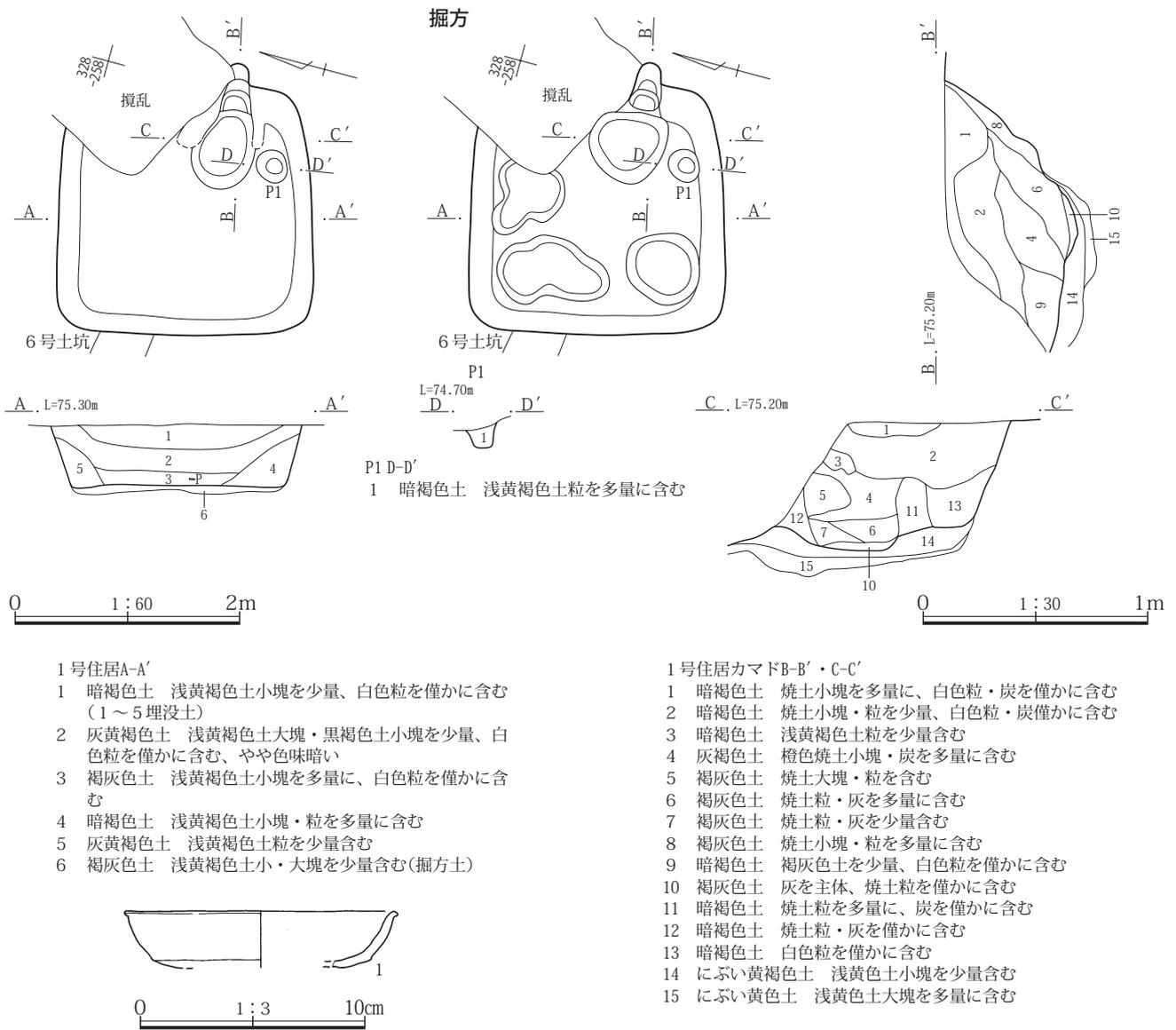
埋没土 すべての埋没土で浅黄褐色土塊を含み、人為堆積の可能性が高い。

床面 褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。北側の一部は後世の攪乱で失われている。袖の遺存状況は良好ではなく、にぶい黄褐色土で構築された基礎の一部を残すのみである。カマドの幅は0.77m、燃烧部から煙道までの長さは1.14mである。使用面直上には灰を主体とする土層が堆積し



第188図 上西根3区全体図



第189図 上西根3区1号竪穴住居と出土遺物

ていた。カマド埋没土4~7層は焼土を多く含む土で天井および壁土崩落土と考えられる。

柱穴 床面精査中にP1が検出された。P1は長径0.29m、短径0.26mのほぼ円形で、深さは0.25mである。1基のみの検出で、P1が柱穴かどうかは判断できない。

掘方 ピット状または土坑状の緩やかな落ち込みが多数認められ、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器3点、鉄製品1点が出土し、このうち、器形や時期のわかる遺物を1点図示した。土師器杯(1)は床面上2cmから出土した。

所見 小型の住居で、出土遺物が少なく、カマドの遺存状況も良くなかった。出土遺物から、時期は9世紀前半頃と考えられる。

3区2号竪穴住居(第190・191図 PL.63・64・134)

位置 3区南東部東壁際

X = 38, 320 ~ 38, 325 Y = -56, 252 ~ -56, 256

主軸方位 南西壁を主軸とした場合、N-17°-W

重複 13号・14号・16号土坑と重複し、遺構検出時の観察から、いずれの土坑よりも本住居が古い。また、床面が2時期あることが確認できた。新しい方の住居を2a号住居、古い方の住居を2b号住居と呼ぶ。

〈2a号住居〉

形状と規模 東側は調査区外であるが、平面形は正方形を呈すると推定される。検出された南西壁の長さは4.32m、北西壁の長さは4.3mである。遺構検出面から床面までの深さは0.33~0.43mである。

埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 ほぼ平坦である。中央部で硬化が確認された。北西壁際で周溝に沿って1.8m×0.3mの範囲に焼土が分布していた。このほか、側壁付近で長径15～40cmの範囲に焼土のまとまりが3か所認められた。

カマド・貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 2b号住居精査中にP1～P3を検出した。その後、土層断面の観察から、2a号住居床面から掘り込まれていることが判明し、P1～P3は2a号住居に伴うものと判断した。P1～P3の形状と大きさは以下の通りである。

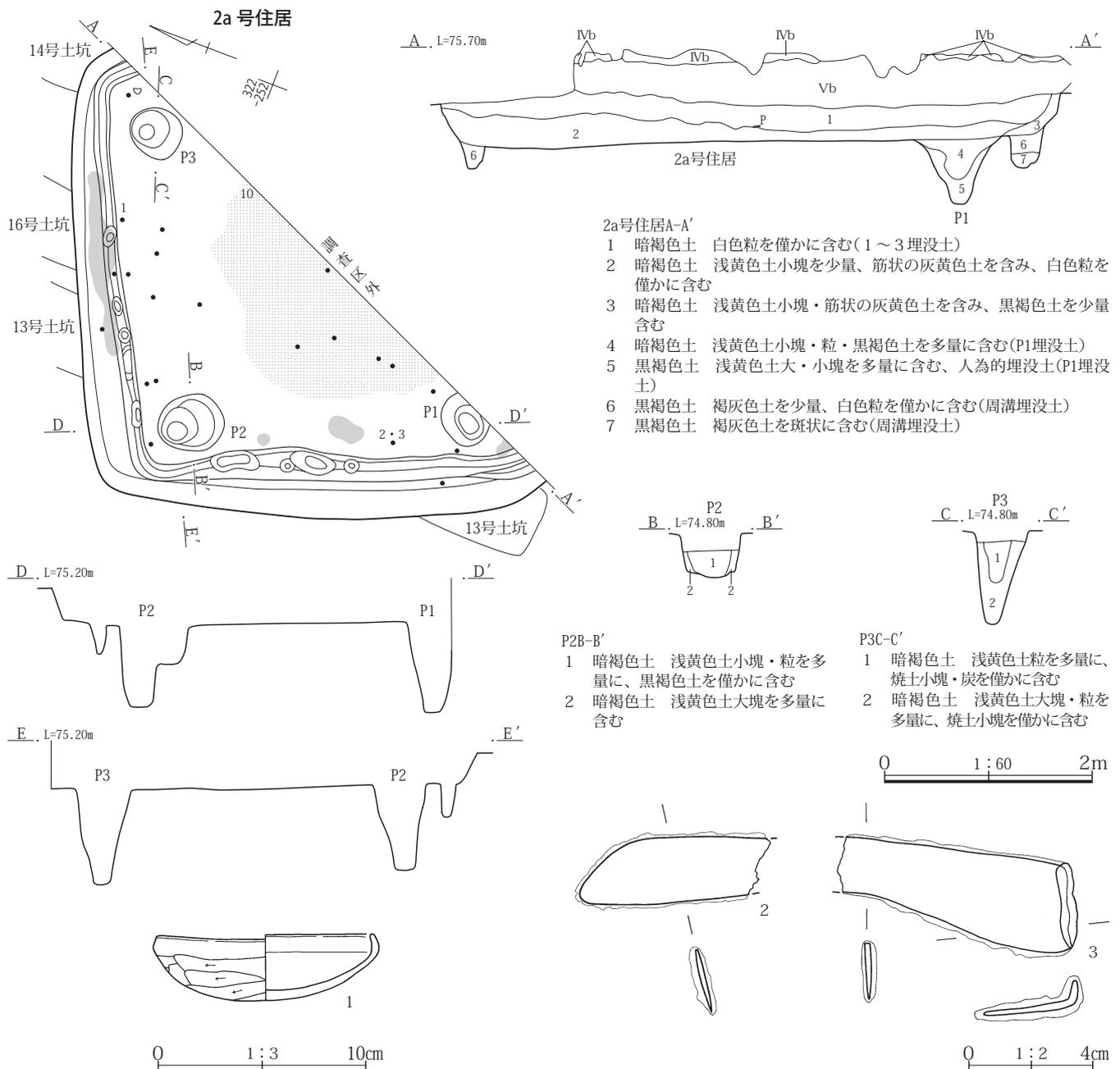
P1は楕円形で、長径0.5m、短径0.36m、深さ0.9m。

P2は楕円形で、長径0.65m、短径0.55m、深さ0.79m。

P3はほぼ円形で、長径0.5m、短径0.47m、深さ0.9m。

P1～P3は位置や大きさから主柱穴と判断した。柱穴間の距離はP1とP2間では2.84m、P2とP3間では2.95mである。東側の主柱穴は調査区外にあると推定される。

周溝 P1～P3と同様、2b号住居精査中に検出した。土層断面の観察から、2a号住居床面から掘り込まれていることが確認され、周溝も2a号住居に伴うものと判断した。周溝は南西壁では側壁に沿っているものの、北西壁ではずれている。また、周溝内には円形または長楕円形の小ピットが9基認められ、周溝底面からの深さは0.05～0.16mである。



第190図 上西根3区2a号竪穴住居と出土遺物

〈2b号住居〉

2a号住居の床面から約20cm掘り下げた所で、焼土および灰の広がりを確認したため、これを2b号住居の床面とした。

形状と規模 2a号住居と重なり、壁の立ち上がりを確認できなかったため、床面からの検出である。そのため、全体形や規模は明確ではないものの、土層断面の観察から、2b号住居の側壁は2a号住居と同じか周溝付近にあったと推定される。2b号住居の床面から掘方底面までの深さは0.15～0.8mである。

埋没土 にぶい黄褐色土を主体とし、1～4層は焼土・黒褐色土・褐灰色土・灰黄色土を斑状に含む土で、人為堆積と考えられる。

床面 にぶい黄褐色土で構築されている。5層は焼土および炭を多量に含む土で、床を整えるために充填したと考えられる。また、中央部には灰の広がりが見られ、北

部には焼土が広範囲に分布していた。

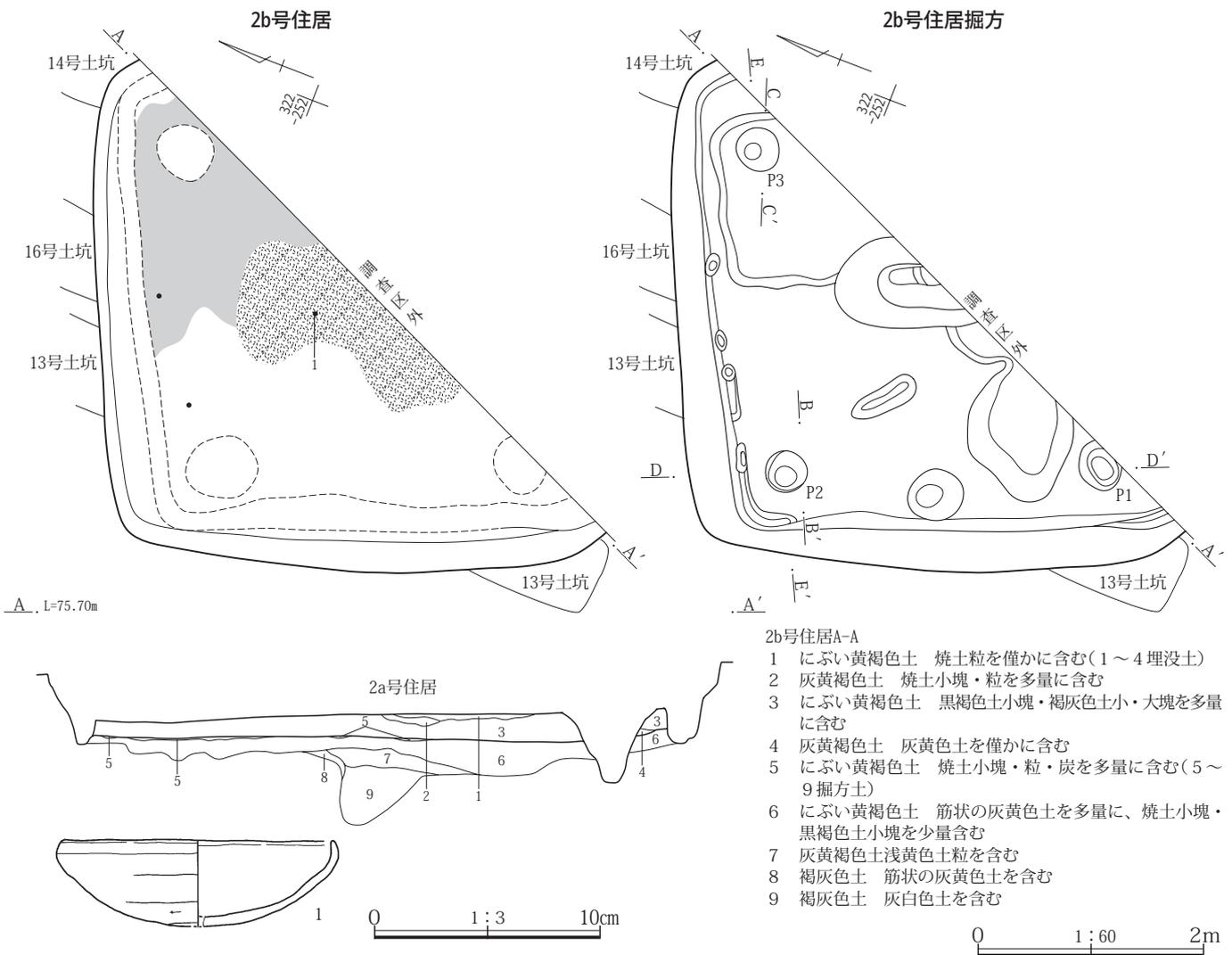
カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状またはピット状の落ち込みが多く、平坦でない。

〈2a号・2b号住居〉

遺物と出土状態 2a号・2b号住居の埋没土から、土師器73点、須恵器1点、棒状礫5点、礫1点、鉄製品2点が出土した。このうち、2a号住居から出土した3点と2b号住居から出土した1点を図示した。2a号住居では、土師器杯(1)が床上2cmで出土した。2と3は鉄鎌で、接合はしないものの同一個体と思われる。2b号住居では、土師器杯(1)が床上1cmで出土した。

所見 明瞭な床面が2面あったことから、住居の建て替えが行われたと判断した。時期の古い2b号住居では内部施設は認められず床面からの調査であったが、新しい2a号住居では支柱穴や周溝を確認できた。出土遺物から、



第191図 上西根3区2b号竪穴住居と出土遺物

時期は2a号および2b号住居とともに8世紀前半と推定され、比較的短期間に建て替えを行ったものと考えられる。

3区3号竪穴住居(第192図 PL.64)

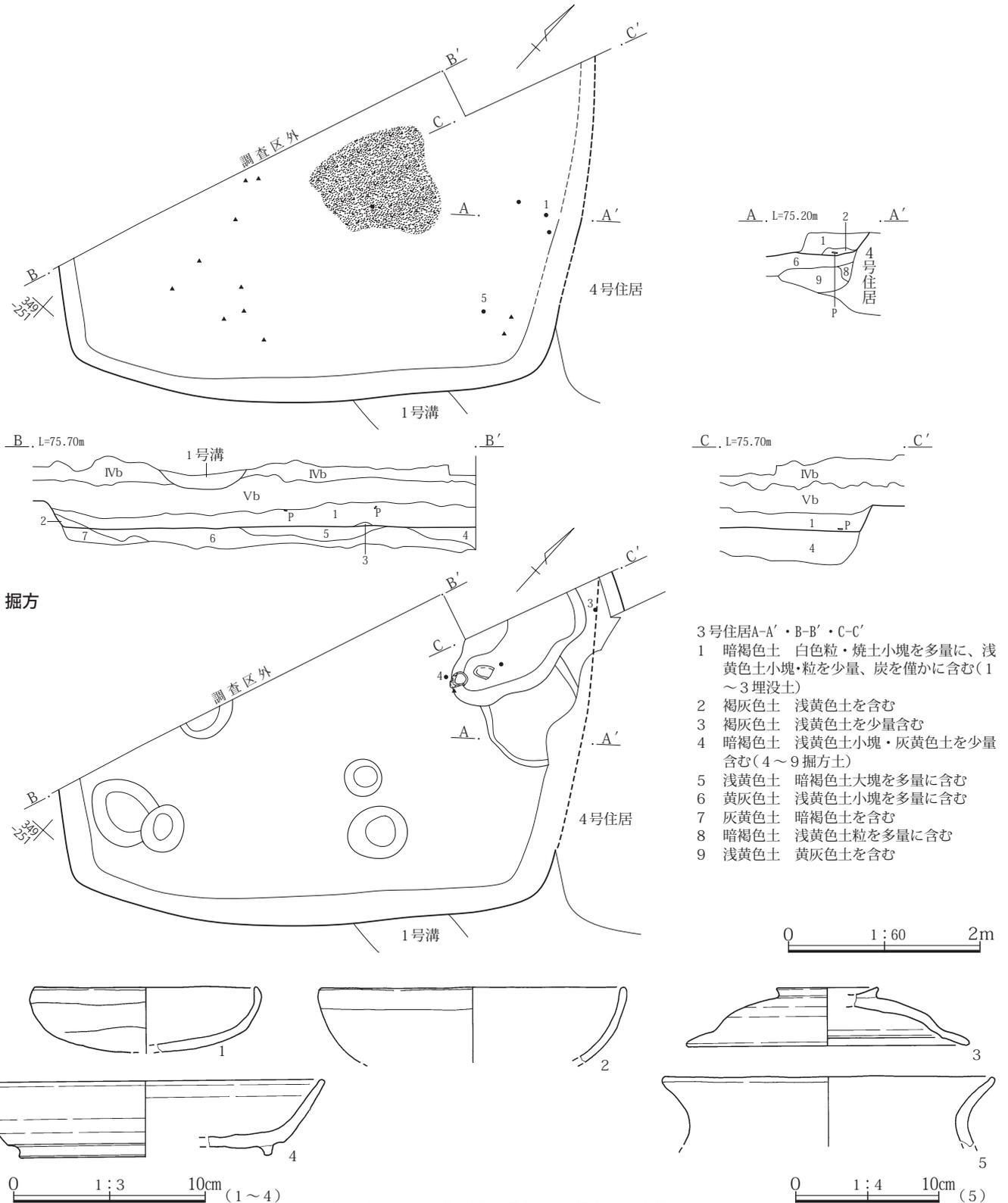
位置 3区中央部西壁際

X=38,348~38,354 Y=-56,246~-56,251

主軸方位 南東壁を主軸とした場合、N-48°-E

重複 4号住居および1号溝と重複する。土層断面の観察から、4号住居より新しく、1号溝より古い。

形状と規模 西側が調査区外だが、正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は5.25m、短軸長3.32m、遺構検出面から床面までの深さは0.15~0.25m、掘方



第192図 上西根3区3号竪穴住居と出土遺物

底面までの深さは0.3～0.45mである。

埋没土 暗褐色土を主体とし自然堆積の状況を示す。

床面 暗褐色土および浅黄色土、黄灰色土で構築され、ほぼ平坦である。住居中央部で浅黄色の粘土が1.4m×1.15mの範囲に広がっていた。粘土の厚さは10～15cmである。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状およびピット状の落ち込みが認められ、底面は平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器801点、須恵器38点、礫3点が出土し、このうち5点を図示した。土師器杯(1)は床面直上で出土した。須恵器蓋(3)と須恵器杯(4)は掘方土中から出土した。

所見 住居中央部で検出された浅黄色粘土の由来や性格は不明である。出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。

3区4号竪穴住居(第193・194図 PL.65・134)

位置 3区中央部西壁際

X=38,352～38,355 Y=-56,244～-56,248

主軸方位 北東壁を主軸とした場合、N-40°-W

重複 3号住居と重複し、土層断面の観察から、本住居が古い。

形状と規模 南西部の一部が3号住居に切られて失われているが、平面形は長方形である。長軸長は3.63m、短軸長2.45m、遺構検出面から床面までの深さは0.25m、掘方底面までの深さは0.85mである。

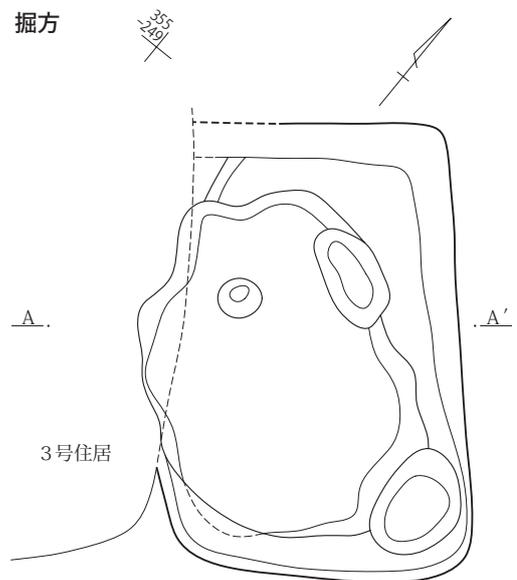
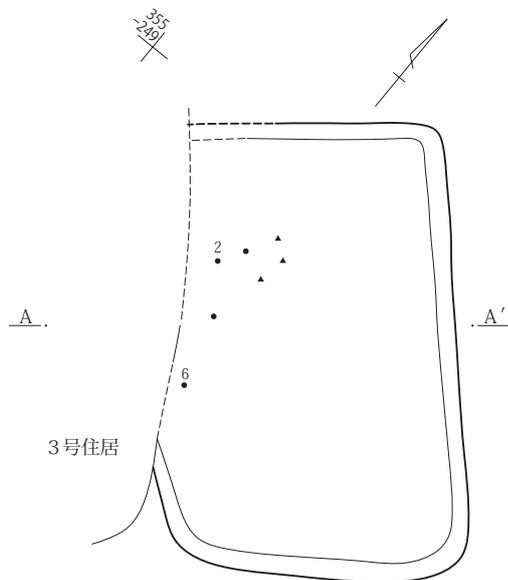
埋没土 白色粒および焼土粒を含む暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。埋没土中に筋状の灰黄色土を含む。

床面 暗褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

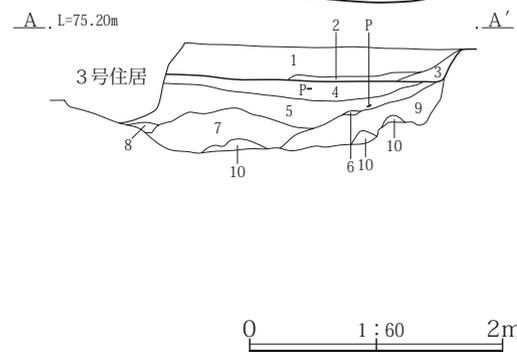
掘方 非常に深く、床面から底面の最深部まで0.6m余りあった。底面は緩やかに傾斜し平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器1,082点、須恵器44点、礫2点、



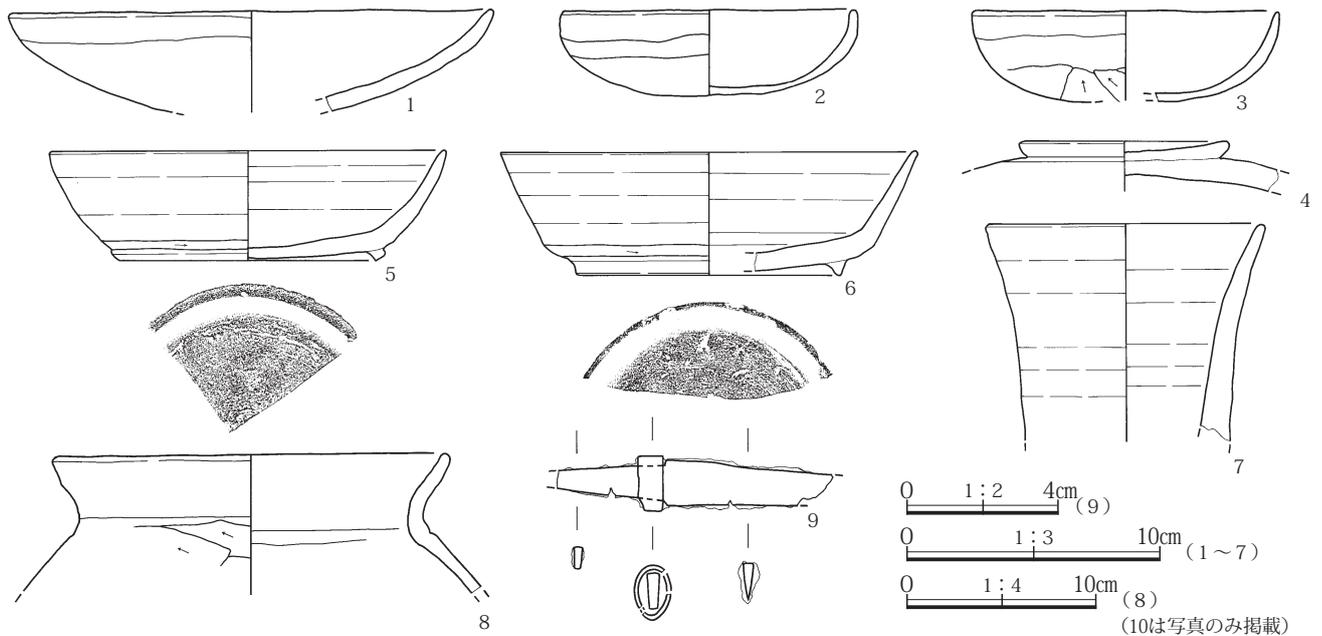
4号住居A-A'

- 1 暗褐色土 白色粒を多量に、焼土小塊を少量含み、筋状の灰黄色土を含む(1～3埋没土)
- 2 褐灰色土 焼土小塊を僅かに含む
- 3 褐灰色土 暗褐色土を多量に、筋状の灰黄色土を含む
- 4 暗褐色土 白色粒を多量に、焼土小塊・炭を僅かに含み、遺物を含む(4～10掘方土)
- 5 暗褐色土 白色粒・明黄褐色土小塊を少量、焼土小塊・炭を僅かに含む
- 6 褐灰色土 灰黄色土小塊を含む
- 7 暗褐色土 白色粒・焼土小塊を僅かに含む
- 8 明黄褐色土 大塊を含む
- 9 灰黄褐色土 灰黄色土小塊を多量に、暗褐色土小塊を少量含む
- 10 褐灰色土 灰白色土小塊・灰黄色土小塊を含む



0 1:60 2m

第193図 上西根3区4号竪穴住居



第194図 上西根3区4号竪穴住居出土遺物

鉄製品1点、鉄滓1点出土し、このうち9点を図示した。鉄滓は写真のみ掲載した(PL. 134-10)。土師器杯(2)は床面直上で出土した。

所見 カマドが検出されず、形状から推して、カマドがなかった可能性が高い。遺構検出時の観察や遺物がまわって出土したことから竪穴住居と判断し調査を進めたが、住居以外の性格をもつ遺構の可能性もある。出土遺物から、時期は8世紀前半と考えられる。

3区5号竪穴住居(第195図 PL. 65)

位置 3区中央部西壁際

X=38,339~38,344 Y=-56,253~-56,256

主軸方位 東壁を主軸とした場合、N-35°-E

重複 1号礎石建物および3号溝、33号土坑と重複する。遺構検出時や土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本住居が古い。

形状と規模 西側が調査区外だが、不整な正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は4.8m、短軸長2.27m、遺構検出面から床面までの深さは0.08~0.2m、掘方底面までの深さは0.3~0.35mである。

埋没土 暗灰色土を主体とする。

床面 ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状およびピット状の落ち込みが認められ、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器31点、須恵器2点が出土し、このうち1点を図示した。すべて埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀中頃と推定される。

3. 竪穴状遺構

3区中央部で1基検出された。3区の中では最も標高が高い地点に位置する。遺構検出面はVb層上面である。

3区1号竪穴状遺構(第195図 PL. 65)

位置 3区中央部

X=38,338~38,341 Y=-56,249~-56,253

主軸方位 N-80°-E

重複 26号ピットと重複する。また、直接の切り合いはないが、平面的に1号礎石建物と重複する。いずれの遺構よりも本遺構が古い。

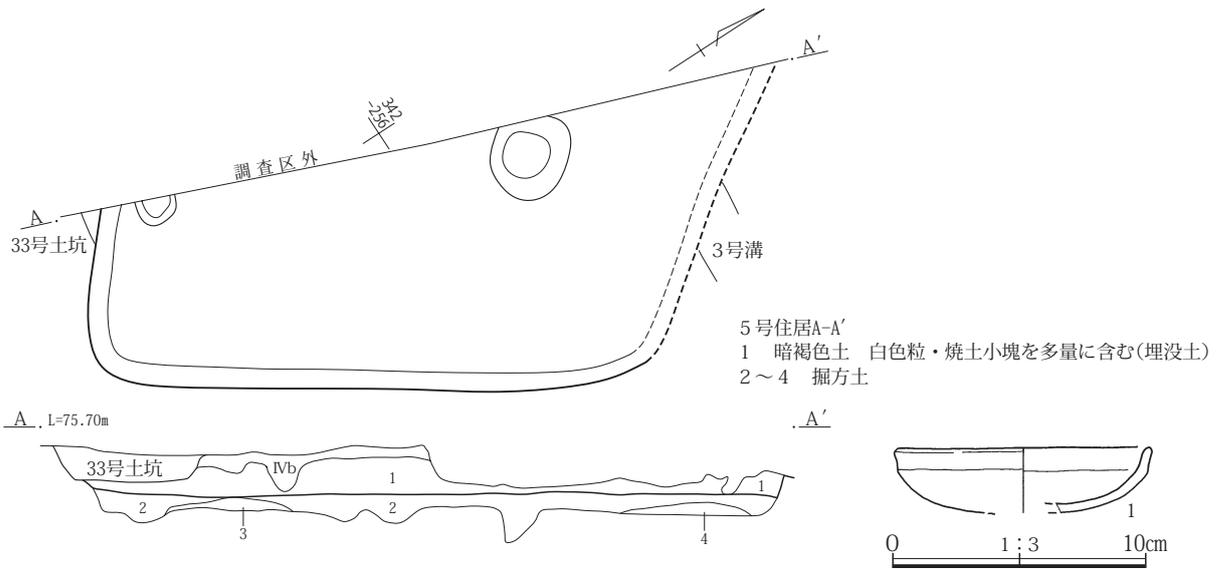
形状と規模 平面形は不整な楕円形で、検出した長軸長は4.23m、短軸長2.9m、遺構検出面から床面までの深さは0.09~0.17mである。壁の立ち上がりは比較的急で、底面はほぼ平坦である。

埋没土 暗褐色土を主体とする。2層は浅黄色土大塊を多量に含む灰黄褐色土で、人為堆積の可能性が高い。

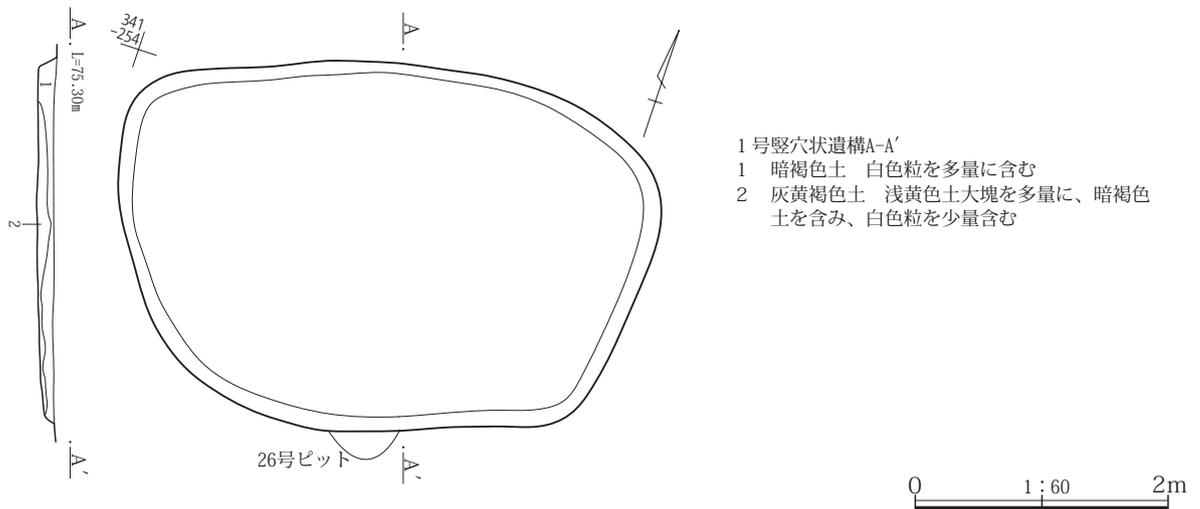
遺物と出土状態 埋没土中から、土師器75点、須恵器4点が出土した。いずれも細片のため図示しなかったが、8世紀前半の特徴をもつ土師器および須恵器が見られた。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と推定される。

5号住居



1号竪穴状遺構



第195図 上西根3区5号竪穴住居と出土遺物、1号竪穴状遺構

4. 礎石建物

3区中央部で1棟検出された。

3区1号礎石建物(第196・197図 PL. 66)

位置 3区中央部

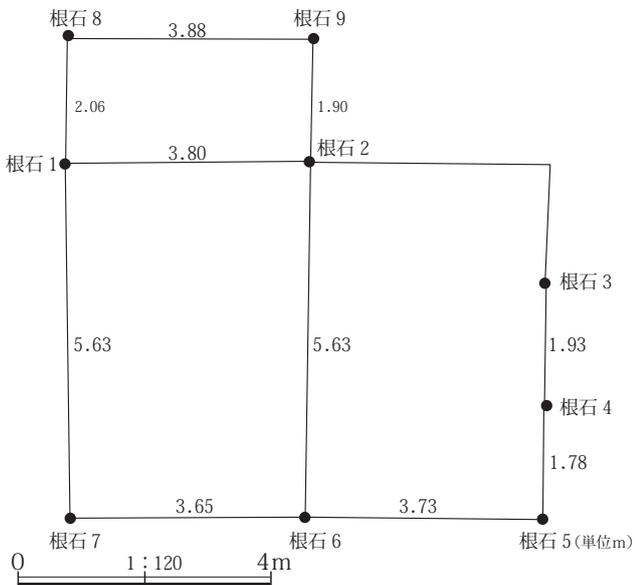
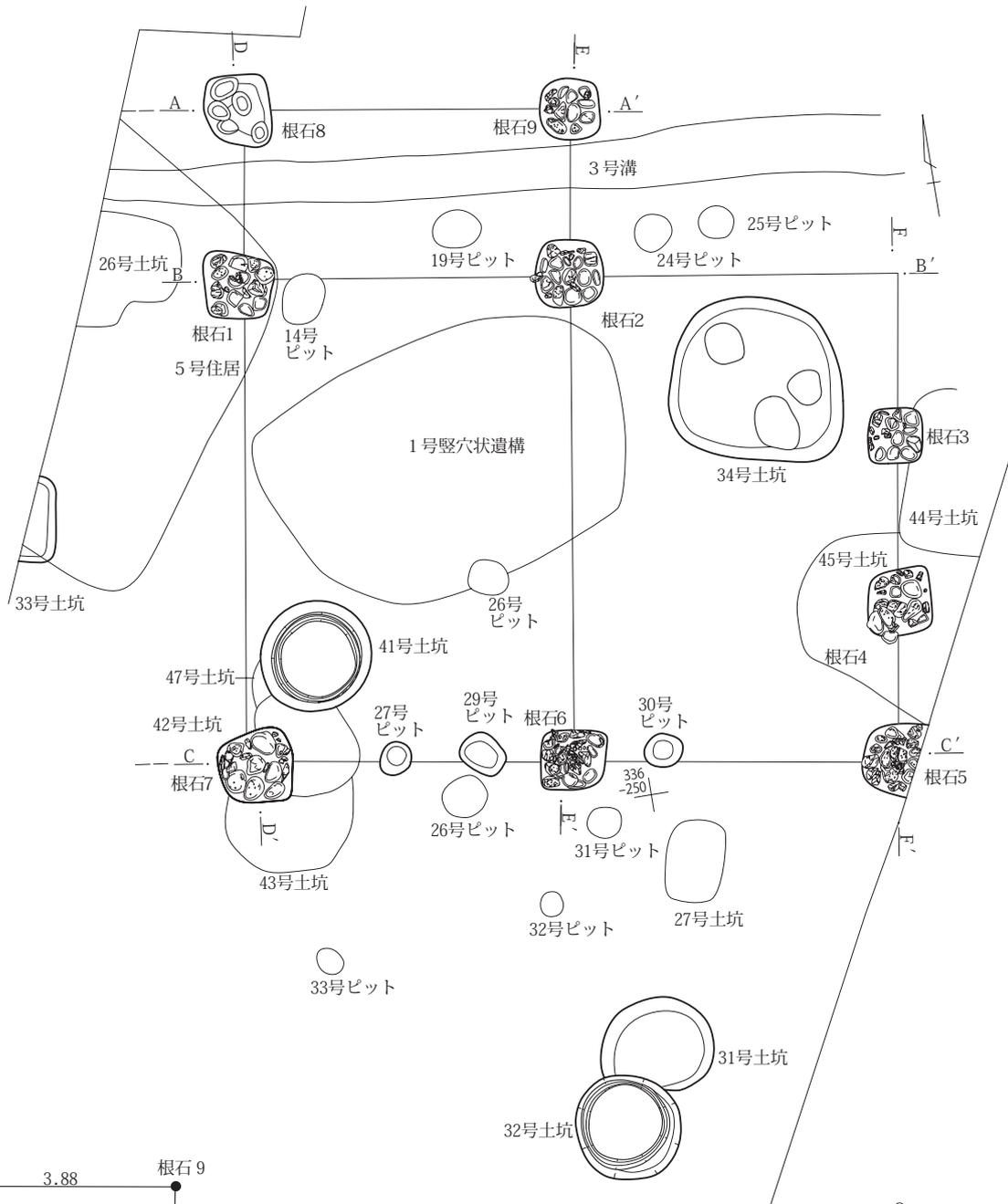
X=38,335～38,345 Y=-56,246～-56,254

主軸方位 N-79°-W

重複 5号住居および42号～45号土坑と重複し、土層断面および遺構検出時の観察から、いずれの遺構よりも本建物が新しい。また、直接の切り合いはないが、1号竪穴状遺構、34号・41号・47号土坑、14号・19号・24号～26号・27号・29号・30号ピットとも平面的に重複している。

形状と規模 東西2間以上、南北3間で、北側に1間分

が張り出す。形態から東西棟と見られ、梁間3間となるが、北東隅柱は検出されていない。北側の張り出しは柱間が身舎部と等しいため、側柱の可能性も残るが底としておく。桁方向は2間分しか検出されていないが、西側の調査区外に延びると推定される。根石2から根石6間と根石1から根石7間に根石がなく間柱が想定できないことから、間柱が省略されている。このため、検出された2間分は土間と考えられ、34号土坑は土間に造られた馬屋と考えられる。東西方向(桁方向)の柱間は3.65～3.80mと広く、通例の2間に相当する。やや異例なため、27号・29号・30号ピットが間柱とも考えられ、あるいは東西方向が梁側である可能性も残る。東西方向を4間とすると、平均柱間は約1.85m・6.1尺で、南北方向は平均柱間約1.88m・6.2尺とほぼ均質である。民家建築と



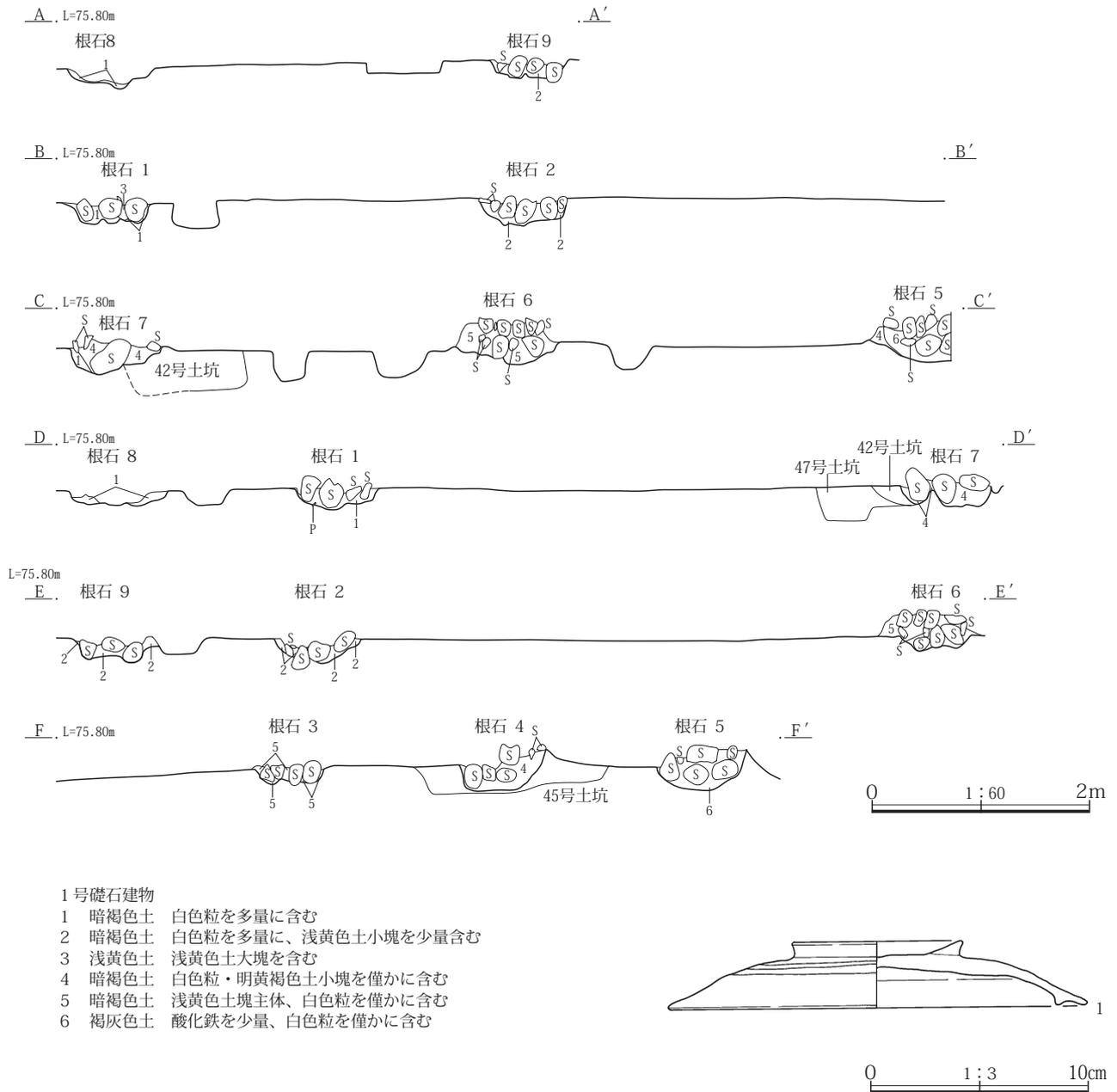
第9表 1号礎石建物掘方計測表

根石	長径	短径	深さ
1	0.96	0.9	0.2
2	0.8	0.78	0.23
3	0.64	0.61	0.18
4	0.75	0.73	0.35
5	(0.65)	0.85	0.21
6	0.75	0.68	0.21
7	0.85	0.84	0.25
8	0.99	0.84	0.2
9	0.72	0.68	0.18

(かっこ内は残存値、単位はm)

第196図 上西根3区1号礎石建物

第4章 上西根遺跡の調査



第197図 上西根3区1号礎石建物土層断面と出土遺物

して規格が完成した後の建物であろう。

根石 9基検出されたが、いずれも礎石は失われた状態で、根石および掘方が残存するだけであった。根石1～9は掘方を持ち、それぞれの規模は第9表に示す。根石8を除き、いずれも大小の礫が根石として据えられていた。根石の直径は最大で30cmである。掘方底面はほぼ平坦なものや凹凸が見られるものなど礎石ごとに様々である。

埋没土 浅黄色小塊を含む暗灰色土を主体とし、人為堆積の様相を示す。

遺物と出土状態 土師器31点、須恵器2点が出土したが、

混入と見られる。このうち器形がわかる1点を図示した。

所見 34号土坑は浅い皿状の土坑で、位置から馬屋の可能性はある。また、33号土坑は底面で僅かであるが焼土が検出され、囲炉裏の可能性はある。41号土坑は整った円形で、桶を埋設した土坑と見られ、建物内部であるため、便槽ではなく何らかの容器であろうか。また、42号・43号土坑は前出するため、継続した用途が推測される。南に2.5m離れた31号・32号土坑は位置や埋没土の特徴から、便槽の可能性があり、本建物との関連が予想される。礎石の配置や間尺などから、本建物の時期は江戸時代と推定される。

5. 溝

調査区中央部で3条検出された。3条とも走向はほぼ東西方向を示し、平行して位置する。遺構検出面はVb層である。

3区1号溝(第198図 PL. 67)

位置 3区中央部

X=38,350～38,351 Y=-56,242～-56,250

重複 3号住居と重複し、本溝の方が新しい。

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出された長さは7.62m、幅は0.52～0.88mである。遺構検出面から底面までの深さは0.11～0.15mである。底面はやや丸味を帯び、壁の立ち上がりは緩やかである。

方向 N-88°-W

底面比高 中央部が最も低い。中央部は西端より0.08m低く、東端より0.02m低い。

埋没土 灰白色土を多量に含む褐灰色土が認められた。底面付近に砂等の堆積物は認められず、常時水が流れていたとは考えにくい。

遺物と出土状態 土師器101点、須恵器9点、陶磁器4点が出土し、このうち1点を図示した。いずれも埋没土から出土した。陶磁器はすべて近世のものである。

所見 埋没土および底面の観察から、水路の可能性は否定できるものの、性格は不明である。出土遺物から、時期は近世以降と推定される。

3区2号溝(第198図 PL. 67)

位置 3区中央部

X=38,347 Y=-56,247～-56,250

重複 28号土坑と重複し、新旧関係は不明である。

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出された長さは3.11m、幅は0.48～0.5mである。遺構検出面から底面までの深さは0.09～0.15mである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-88°-W

底面比高 西端が東端より0.01m高い。

埋没土 白色粒を僅かに含む暗褐色土である。

遺物と出土状態 土師器12点、陶磁器3点が出土した。すべて細片のため図示しなかった。陶磁器はすべて近世のものである。

所見 底面に砂等の堆積が認められなかったことから、水路の可能性は否定できるが、性格は不明である。出土遺物から、時期は近世以降と推定される。

3区3号溝(第198図 PL. 67)

位置 3区中央部

X=38,342 Y=-56,243～-56,255

重複 5号住居・40号土坑と重複し、いずれの遺構よりも新しい。また、平面的には1号礎石建物と重複するが、直接切り合っている部分はなく、新旧関係は不明である。

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出された長さは11.5m、幅は0.33～0.7mである。遺構検出面から底面までの深さは0.07～0.14mである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

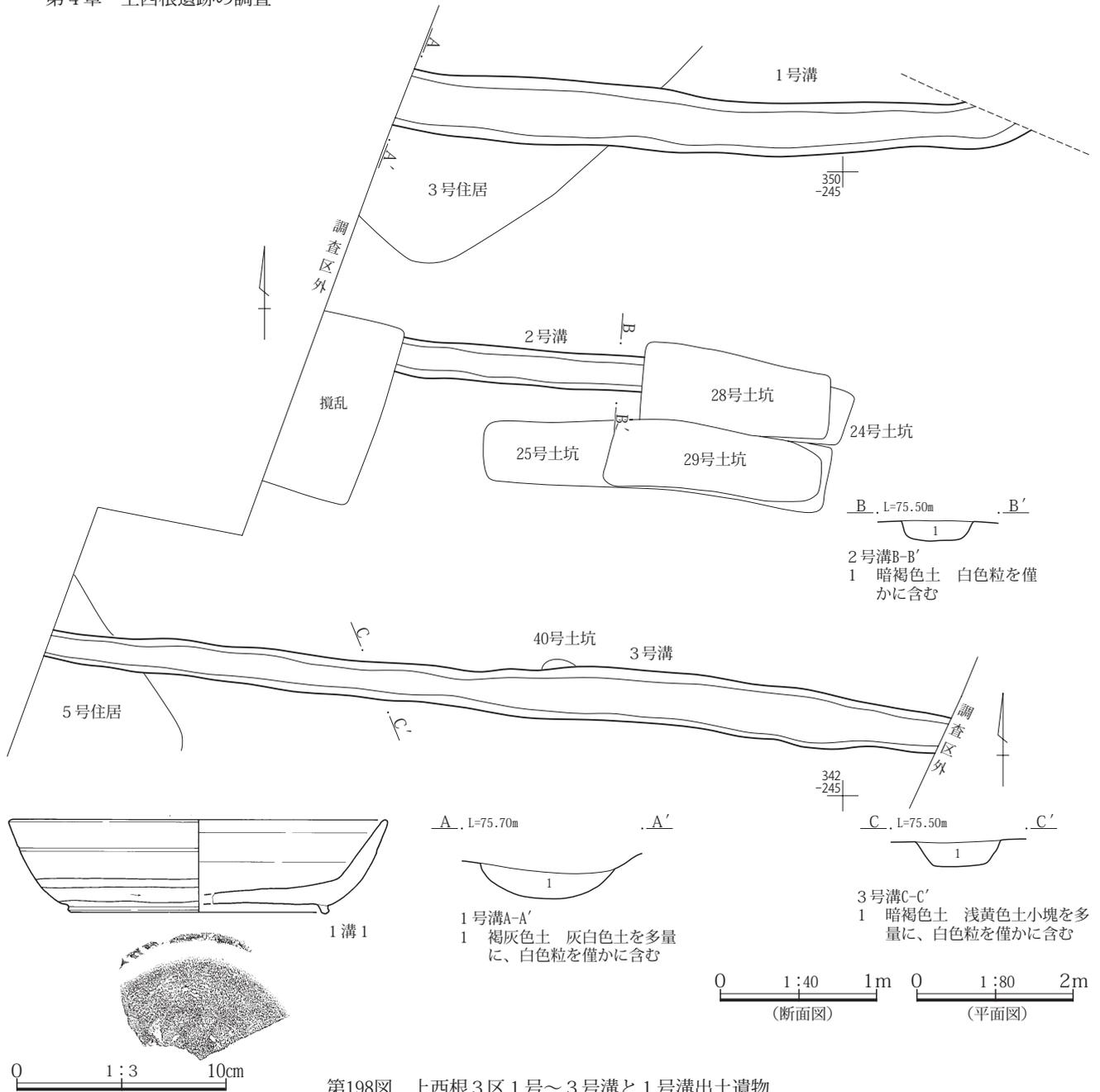
方向 N-85°-W

底面比高 西端が東端より0.05m高い。

埋没土 暗褐色土で、浅黄色土小塊および白色粒を含む。

遺物と出土状態 土師器65点、須恵器4点、礫2点が出土した。いずれの細片のため、図示しなかった。

所見 底面に砂等の堆積が認められず、水路の可能性は否定できるものの、性格は不明である。遺構の重複から、時期は8世紀中頃と推定される5号住居より新しいが、詳細は不明である。



第198図 上西根3区1号～3号溝と1号溝出土遺物

6. 土坑

土坑は48基検出された。3区南部に集中し、北部では密度が低い。遺構確認面はVb層上面である。これらの土坑は平面形や断面形、埋没土などから、以下の5つに分類することができた。

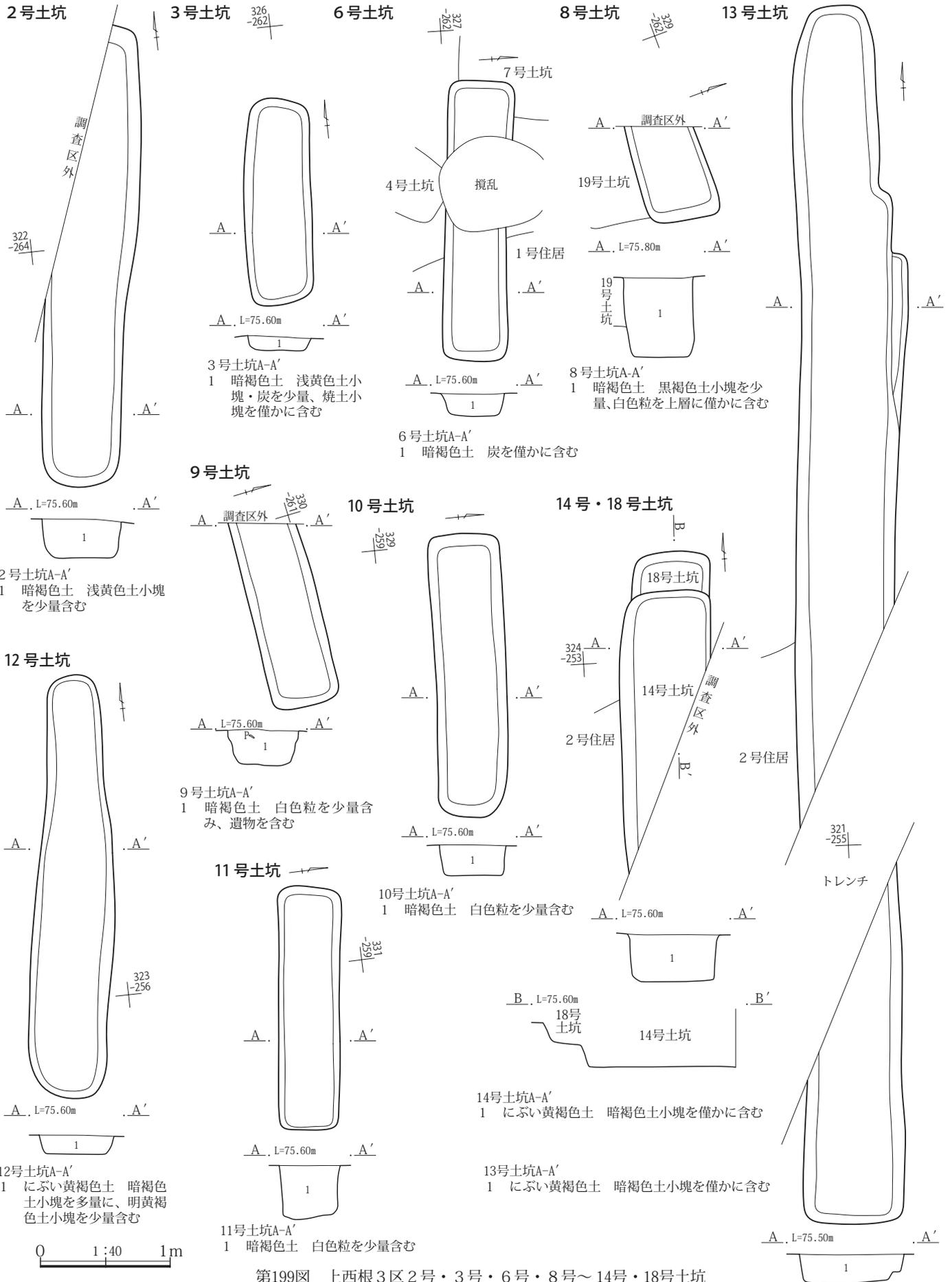
- ①細長い土坑 21基
- ②隅丸長方形の土坑 10基
- ③円形の土坑 10基
- ④楕円形の土坑 1基
- ⑤不定形の土坑(その他の土坑) 6基

それぞれの土坑の位置や規模、重複、時期、出土遺物

については遺構一覧表(322・323・330ページ)にまとめて示した。以下、6つの分類ごとに土坑を概観する。

①細長い土坑(第199・200・202図 PL. 68～71・134)

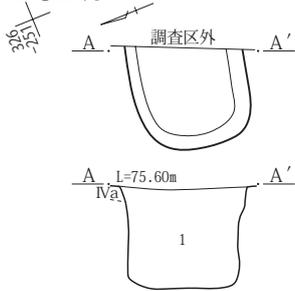
2号・3号・6号・8号～16号・18号・19号・22号～25号・28号・29号・36号土坑がこれにあたる。8号・15号・18号・19号・24号・36号土坑は一部の調査であるが、全体的な形状から判断してこれに含めた。これら21基の土坑は3区中央部と南部の2か所に集中していた。長軸方向は南北または東西方向で、方位を意識して構築している。平面形は細長い長方形を呈する。遺存状況のよくない23号・36号土坑を除き、底面が平坦で、壁の立ち上がりは垂直な箱形の断面形である。埋没土は暗褐色土ま



第199図 上西根3区2号・3号・6号・8号～14号・18号土坑

第4章 上西根遺跡の調査

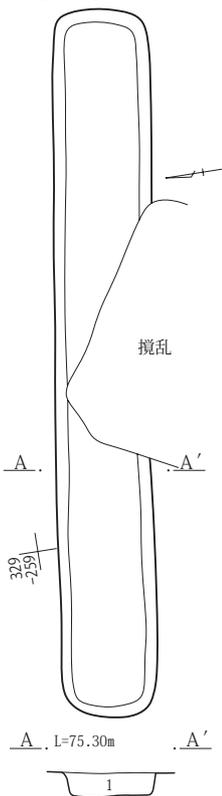
15号土坑



15号土坑A-A'

1 褐色土 Ⅲ層を含み、黄灰色土細粒を僅かに含む

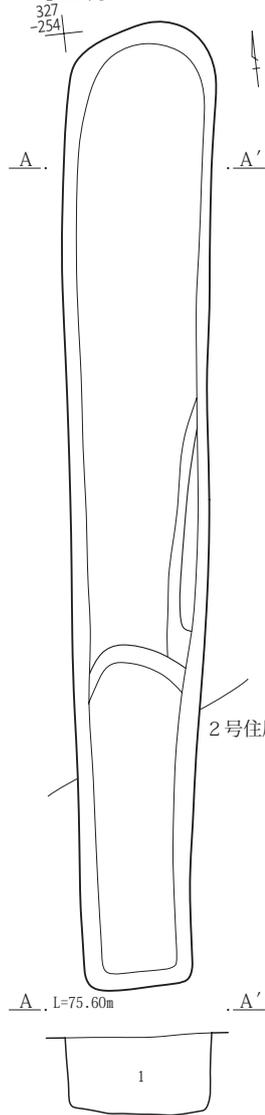
22号土坑



22号土坑A-A'

1 暗褐色土 白色粒を少量含む

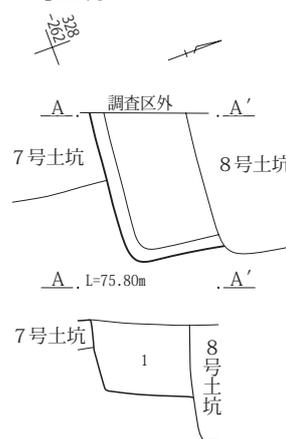
16号土坑



16号土坑A-A'

1 褐色土 Ⅲ層を含み、黄灰色土細粒を僅かに含む

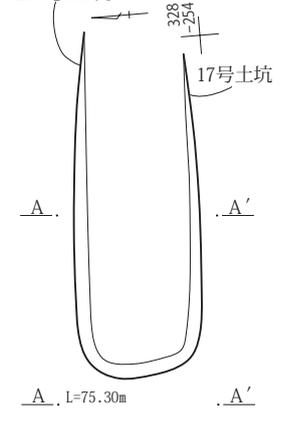
19号土坑



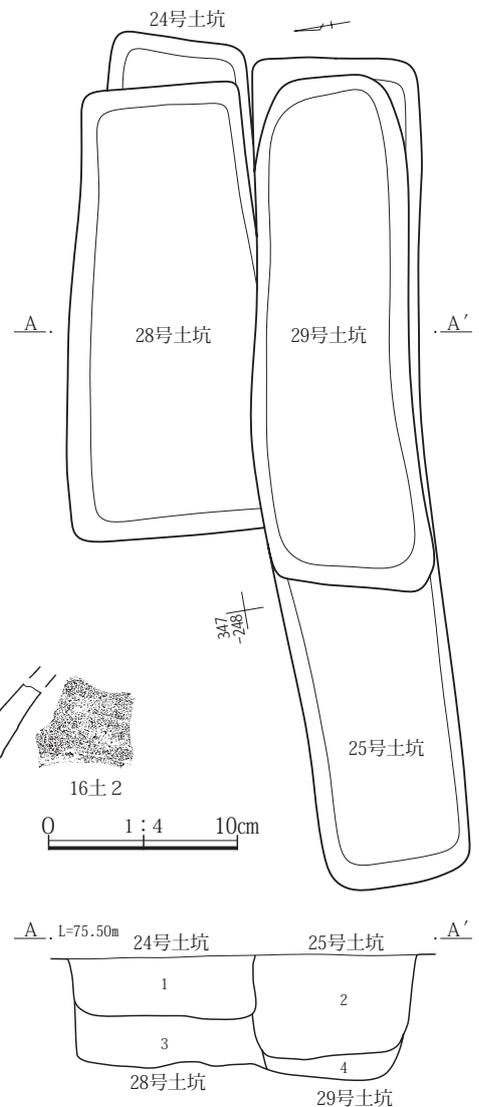
19号土坑A-A'

1 暗褐色土 黒褐色土小塊を少量、白色粒を上層に僅かに含む

23号土坑



24号・25号・28号・29号土坑



24号土坑A-A'

1 褐灰色土 灰白色小塊・粒を多量に、黒褐色土小塊・浅黄色土大塊を少量含む、人為的堆積土

25号土坑A-A'

2 褐灰色土 黒褐色土大塊・浅黄色土大塊を多量に、灰白色小塊・粒を少量含む、人為的堆積土

28号土坑A-A'

3 褐灰色土 浅黄色土大塊を多量に含む

29号土坑A-A'

4 褐灰色土 黒褐色土小塊を少量含む

0 1:3 10cm (16土1・22土1)

0 1:40 1m

第200図 上西根3区15号・16号・19号・22号～25号・28号・29号土坑と16号・22号土坑出土遺物

たは褐灰色土、黄褐色土である。24号・25号・28号・29号土坑の埋没土は白色土塊、黒色土塊、浅黄色土塊を多量に含み、人為堆積の可能性が高い。

これらの土坑から、土師器、須恵器を中心に、陶磁器、石製品、礫、鉄製品、縄文土器、古代瓦が出土している。これらの土坑は形状や長軸方向、埋没土などで共通性が高く、同時期の所産と考えている。埋没土の特徴から、時期は中世以降と考えているが詳細は不明である。性格についても不明である。

②隅丸長方形の土坑(第201・202図 PL. 68～72・134)

4号・17号・27号・33号・35号・37号・38号・44号・46号・48号土坑がこれにあたる。33号・44号土坑は一部の調査であるが、全体的な形状から判断してこれに含めた。これらの土坑は3区中央部南寄りに多く位置する。4号・46号・48号土坑を除き、長軸方向が東西または南北方向を示している。平面形は隅丸長方形で、底面は33号土坑を除き平坦である。壁の立ち上がりは垂直に近いものや急なものが多い。埋没土は暗褐色土または褐灰色土、灰黄褐色土である。17号・27号土坑はそれぞれ黄灰色土塊、明黄褐色土塊を多量に含み、人為堆積の可能性が高い。これらの土坑から、土師器を中心に須恵器、陶磁器、礫が出土した。各土坑の出土遺物点数は323ページに示した。17号・27号・33号・35号・37号土坑は形状や長軸方向などから、「①細長い土坑」と関連がある可能性が高い。時期や性格については不明である。

③円形の土坑(第202・203図 PL. 68・70～72・134)

5号・30号・31号・32号・40号・41号・42号・43号・47号・49号土坑がこれに当たる。

5号土坑では、埋没土中および底面から10～15cm大

の礫が2点出土した。5号土坑の埋没土は混入物および縮まりなどから、人為堆積である。

32号・41号土坑では底面で溝が検出された。32号土坑では、底面に幅約4cm、底面からの深さ4～5cmの細い溝が円形に巡っていた。溝の直径は1.03mである。溝は木桶の痕跡と考えられる。41号土坑では、淡黄褐色の粘土を底面と側壁に厚さ10cm程度貼られている。粘土が充填された底面には、32号土坑と同様、直径7～8cm、深さ2～3cmの溝が円形に巡っている。溝の直径は1.03mである。埋没土は暗褐色土を主体とし、灰白色土塊・浅黄色土塊を多く含み、人為堆積の可能性が高い。以上のことから、32号・41号土坑は木桶を埋設した土坑で、これらの土坑と重複し、形状や規模、埋没土が類似することから、31号・42号・43号・47号土坑も同様の性格を持つと推定される。付近に江戸時代と推定される1号礎石建物があることから、31号・32号土坑は便槽の可能性もある。

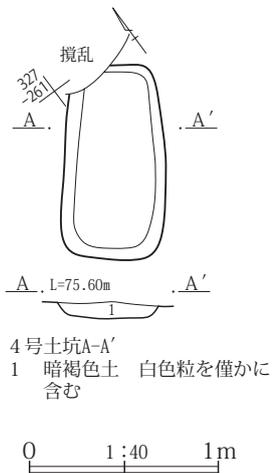
④楕円形の土坑(第203図 PL. 71)

39号土坑がこれにあたる。調査区中央部に位置する。平面形は楕円形で、底面は平坦である。壁の立ち上がりは緩やかで、断面形は逆台形である。埋没土は暗褐色土である。出土遺物はなかった。性格や時期は不明である。

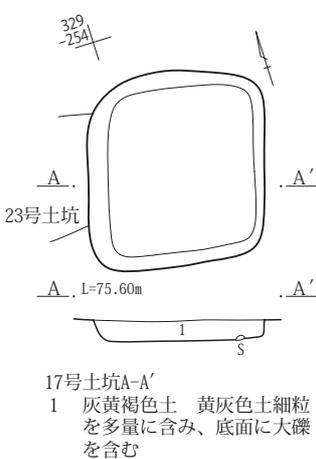
⑤不定形の土坑(その他の土坑)(第204図 PL. 68・70～72)

7号・20号・21号・26号・34号・45号土坑がこれに含まれる。7号土坑は①または②に当たる可能性もあるが、全体形が不明で、底面に段を持つなど①・②と異なる特徴もあることから、ここに含めた。また、20号土坑は大部分が調査区外で、全体を把握できなかったためここに入れた。

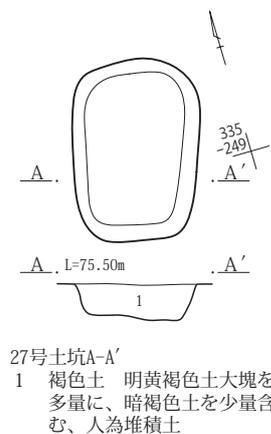
4号土坑



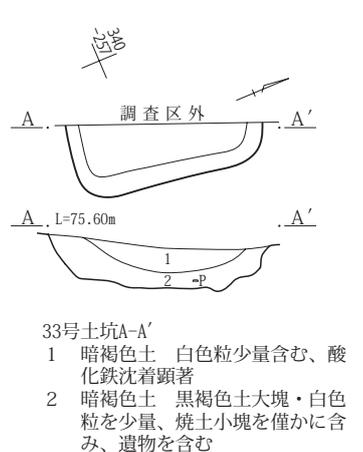
17号土坑



27号土坑



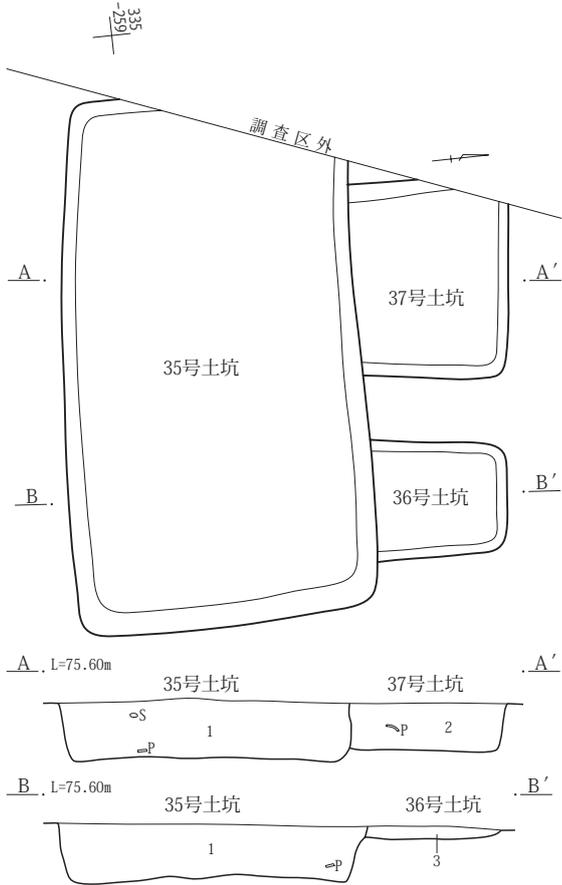
33号土坑



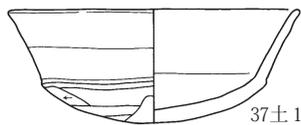
第201図 上西根3区4号・17号・27号・33号土坑

第4章 上西根遺跡の調査

35号・36号・37号土坑

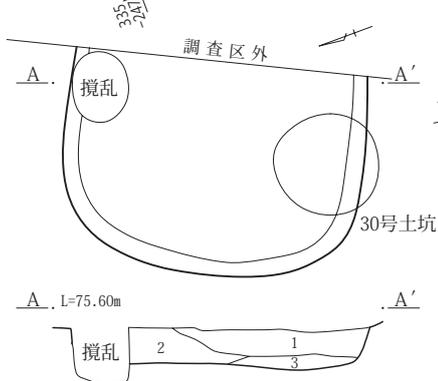


- 35号土坑A-A'・B-B'
 1 褐色土 白色粒を少量含み、遺物を含む
 37号土坑A-A'
 2 褐灰色土 黒褐色土小塊を多量に、白色粒を少量含み、遺物を含む
 36号土坑B-B'
 3 にぶい黄褐色土 浅黄色土を少量含む



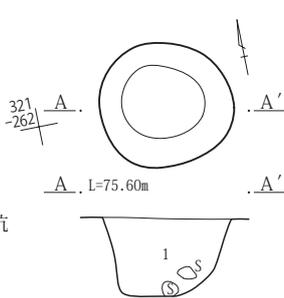
37土1

46号土坑

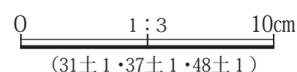


- 46号土坑A-A'
 1 灰黄褐色土 浅黄色土大塊を多量に含む
 2 灰黄褐色土 白色粒を僅かに含む
 3 灰黄褐色土 黒褐色土小塊を多量に含む

5号土坑

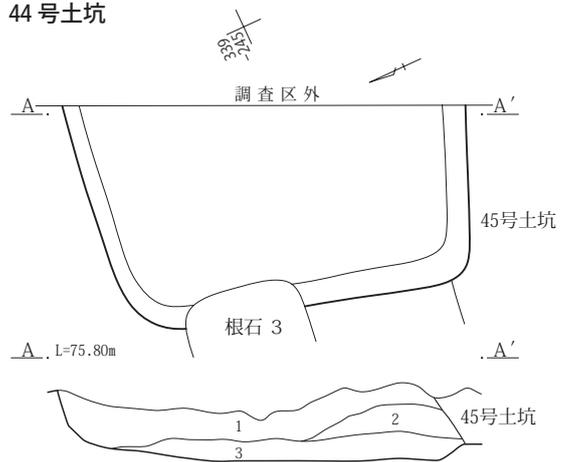


- 5号土坑A-A'
 1 にぶい黄褐色土 小・大礫を多量に含む、人為堆積土



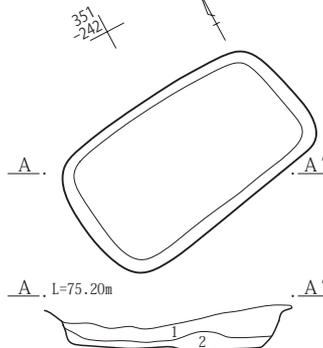
(31土1・37土1・48土1)

44号土坑



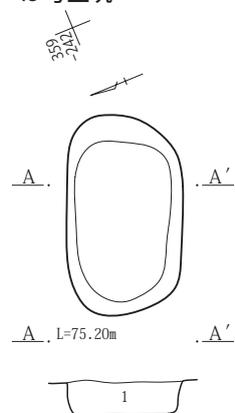
- 44号土坑A-A'
 1 褐色土 白色粒を僅かに含む
 2 褐色土 明黄褐色土粒を多量に含む
 3 黒褐色土 白色粒を多量に含む

38号土坑

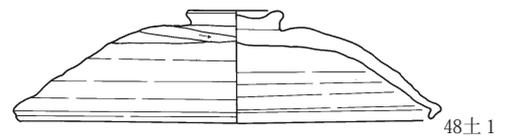


- 38号土坑A-A'
 1 暗褐色土 灰黄褐色土・酸化鉄を少量含む
 2 灰黄褐色土 褐灰色土を左右壁際を含む

48号土坑

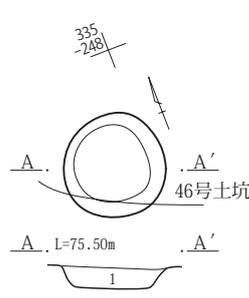


- 48号土坑A-A'
 1 暗褐色土 酸化鉄を少量、白色粒を僅かに含み、遺物を含む

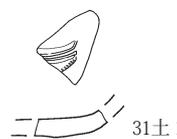


48土1

30号土坑

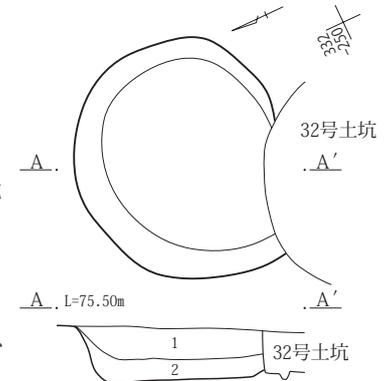


- 30号土坑A-A'
 1 褐色土 白色粒を少量含む

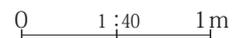


31土1

31号土坑

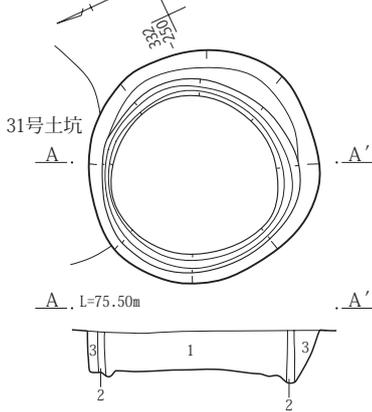


- 31号土坑A-A'
 1 暗褐色土 炭を少量、焼土小塊を僅かに含む
 2 黒褐色土 炭・白色粒を僅かに含む



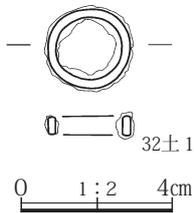
第202図 上西根3区5号・30号・31号・35号～38号・44号・46号・48号土坑と31号・37号・48号土坑出土遺物

32号土坑

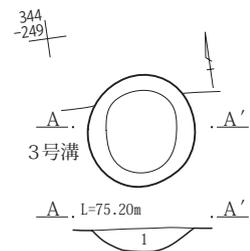


32号土坑A-A'

- 1 暗褐色土 灰白色土・炭・浅黄色土小塊を少量、白色粒を僅かに含む
- 2 褐灰色土 灰白色土を多量に、炭・暗褐色土・浅黄色土を僅かに含む
- 3 褐灰色土 灰白色土小塊・炭を僅かに含む



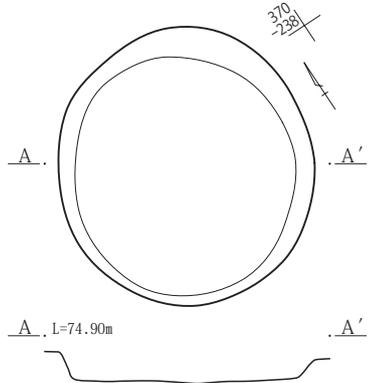
40号土坑



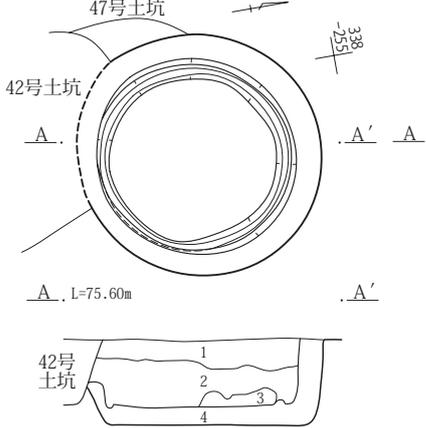
40号土坑A-A'

- 1 黒褐色土 白色粒を多量に含む

49号土坑

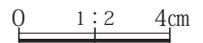
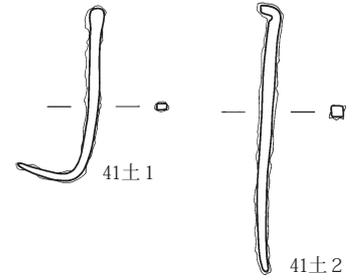


41号土坑

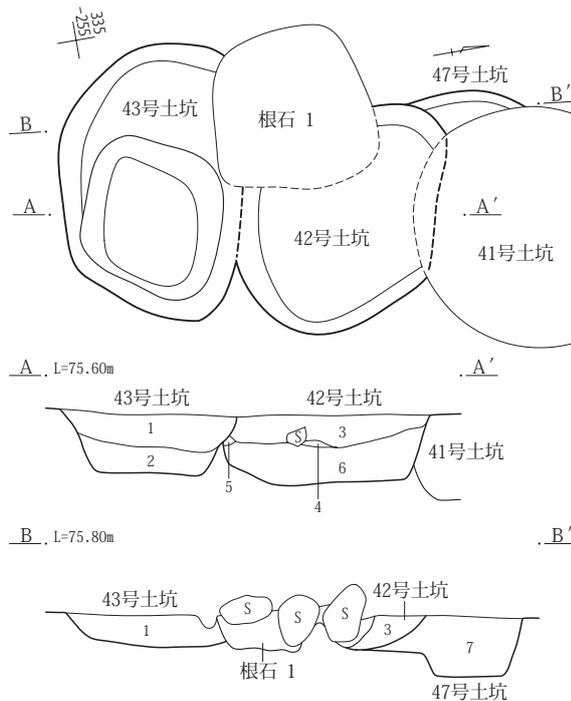


41号土坑A-A'

- 1 暗褐色土 にぶい黄褐色土小塊を少量含む
- 2 黒褐色土 淡黄色土小塊を僅かに含む
- 3 淡黄褐色土 粘質土・黒褐色土を少量含む
- 4 淡黄褐色土 粘土充填土・褐灰色土を含む



42号・43号・47号土坑



43号土坑A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 黒褐色土小塊を多量に含む
- 2 暗褐色土 黒褐色土小塊を僅かに含む

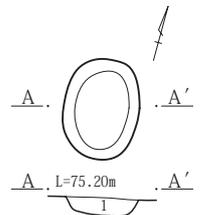
42号土坑A-A'・B-B'

- 3 暗褐色土 黒褐色土小塊・礫を含む
- 4 淡黄褐色土 41号土坑由来の粘質土塊
- 5 黒褐色土 褐灰色土を少量含む
- 6 暗褐色土 黒褐色土大塊・淡黄色土小・大塊を含む

47号土坑B-B'

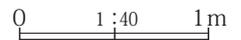
- 7 淡黄褐色土 粘土質土・褐灰色土を含む

39号土坑



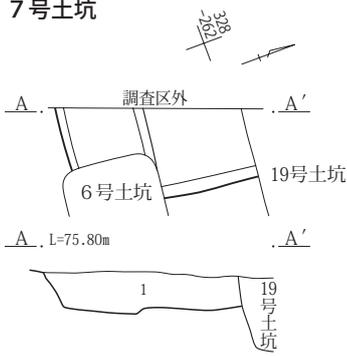
39号土坑A-A'

- 1 暗褐色土 浅黄色土・白色粒を僅かに含む



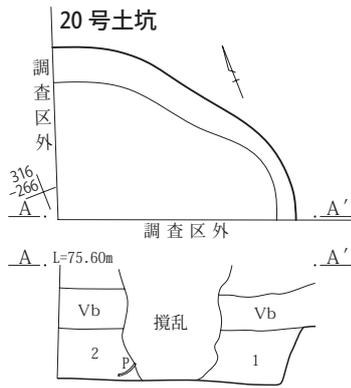
第4章 上西根遺跡の調査

7号土坑

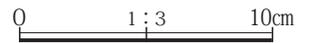
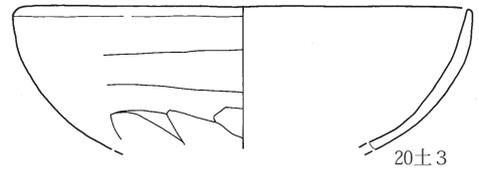
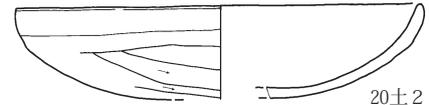
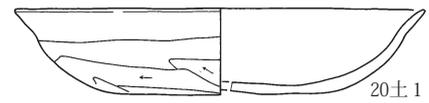


7号土坑A-A'
1 暗褐色土 黒褐色土小塊を少量含む

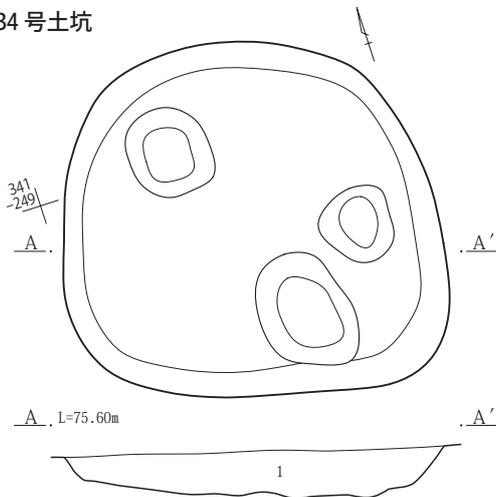
20号土坑



20号土坑A-A'
1 黒褐色土 炭を少量含む
2 暗褐色土 黄褐色土粒を含む

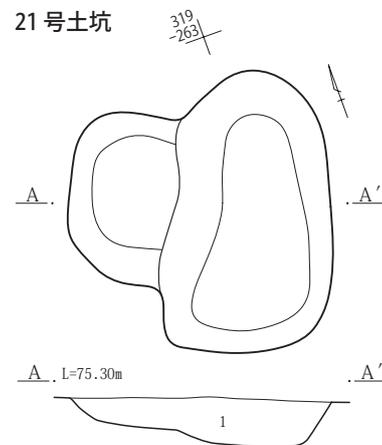


34号土坑



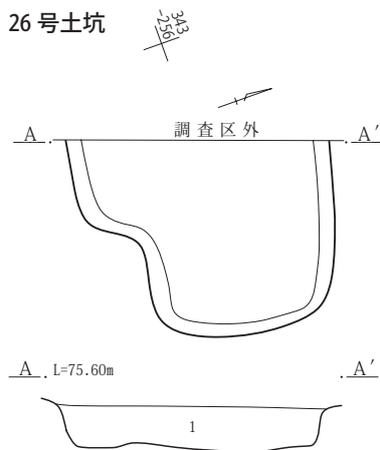
34号土坑A-A'
1 褐色土 明黄褐色土小塊・暗褐色土小塊を多量に、白色粒を僅かに含む

21号土坑



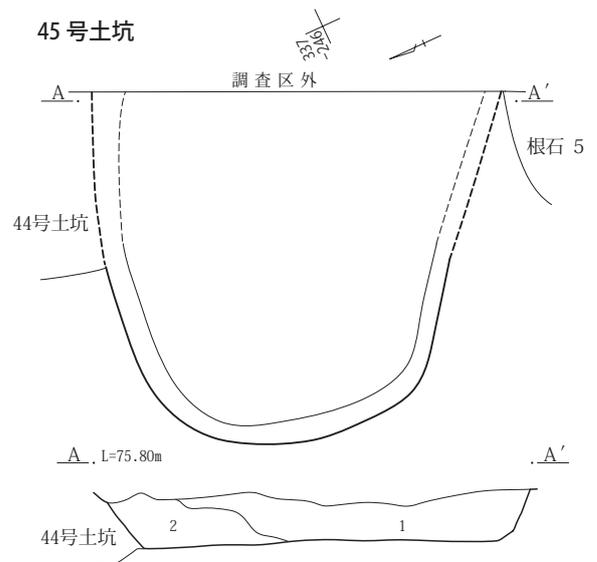
21号土坑A-A'
1 暗褐色土 黒褐色土を含む

26号土坑

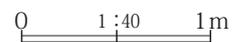


26号土坑A-A'
1 褐色土 白色粒を少量含む

45号土坑



45号土坑A-A'
1 褐色土 白色粒を僅かに含む
2 褐色土 黒褐色土・小礫を含む



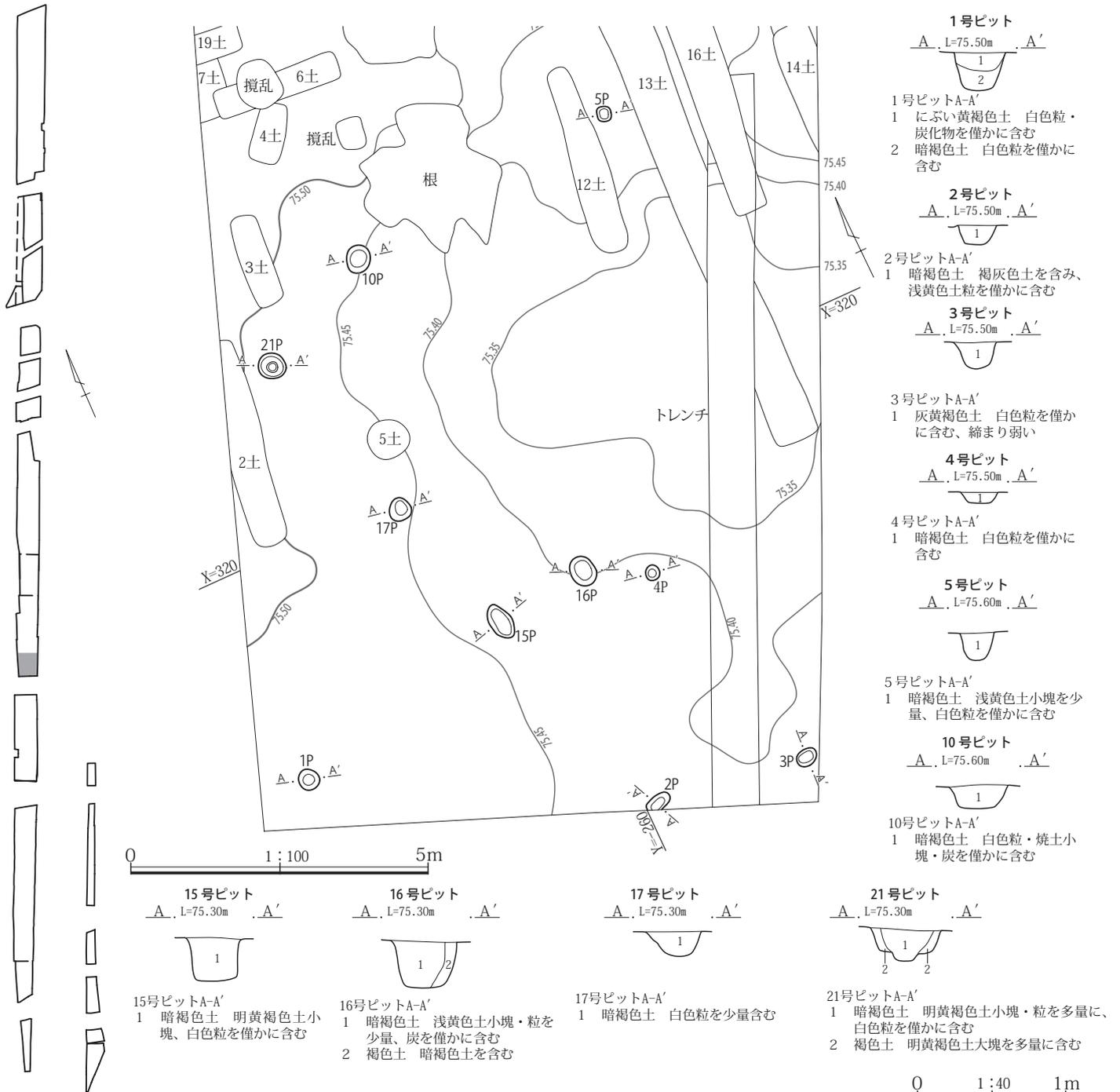
第204図 上西根3区7号・20号・21号・26号・34号・45号土坑と20号土坑出土遺物

34号土坑は隅丸台形を呈し、底面にはピット状の落ち込みが多数認められた。埋没土は明黄褐色土塊や暗褐色土塊を多量に含み、人為堆積と考えられる。その位置から、1号礎石建物との関連が想定され、馬屋の可能性もある。

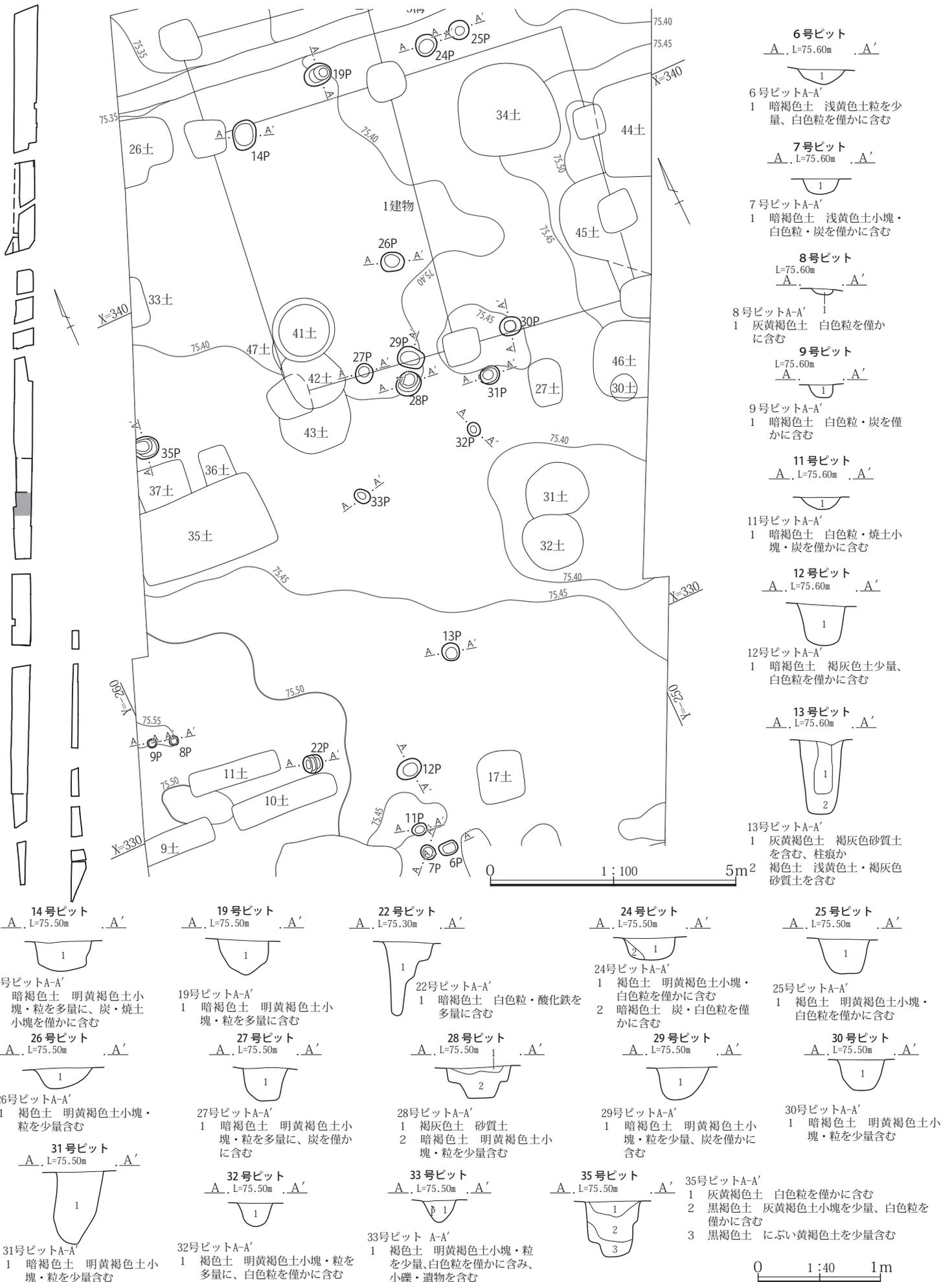
7. ピット(第205・206図)

ピットは31基検出した。調査区南側に位置し、2基~数基のまとまりが認められるものの、分布は散漫である。遺構検出面はIV層~Vb層上面である。整理作業でも、

位置や間隔、埋没土の特徴から、掘立柱建物や柵にならないかどうか検討を行ったが、建物と認められるものはなかった。埋没土は、暗褐色土および灰黄褐色土を主体とするものが多かった。各ピットの規模や出土遺物の点数については、327・328・331ページに示す。出土遺物はいずれも細片のため図示しなかった。これらのピットの時期は遺構の重複関係および埋没土の特徴から、中世以降と考えられるが、詳細は不明である。



第205図 上西根3区ピット全体図と1号~5号・10号・15号~17号・21号ピット土層断面

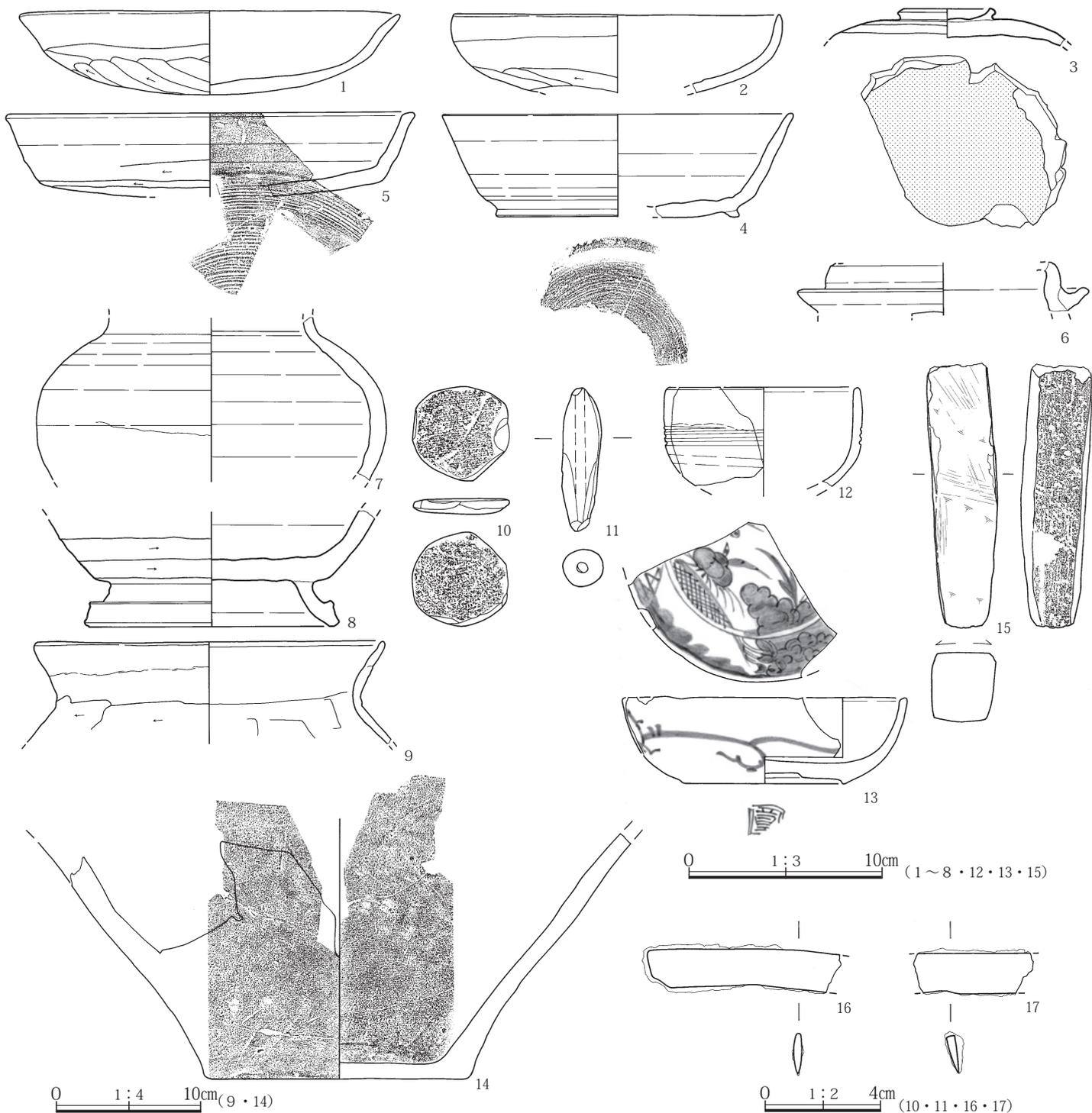


第206図 上西根3区ピット全体図と6号～9号・11号～14号・19号・22号・24号～33号・35号ピット土層断面

8. 遺構外から出土した遺物(第207図 PL. 134)

遺構外から出土した遺物は、古代の土器を中心に6, 530点出土した。その内訳は、土師器6, 140点、須恵器330点、陶磁器23点、縄文土器5点、時期不明土器6点、土製品2点、古代瓦1点、石器2点、石製品1点、礫5点、鉄製品10点、鉄滓4点、馬歯1点である。このうち器形や

時期がわかるものや特徴的な遺物を17点図示した。土師器および須恵器は竪穴住居の時期と一致している。3は内面が非常に平滑で、須恵器蓋を硯に転用したと考えられる。陶磁器は23点中14点が近世で、9点が近現代のものである。馬歯はVb層中から出土した(第6章第4節参照)。16と17は鉄製品で、断面形から刀子状のものと考えられる。4点の鉄滓は写真のみ掲載した(PL. 134-18~21)。



第207図 上西根3区遺構外出土遺物

第4節 4区の調査

1. 概要

上西根遺跡4区は、国道462号拡幅部分の調査となるため調査区は南北に細長く、長さ44m、幅約9.5～11.5mである。標高はおよそ75.25～74.95mで、北東側から粕川に近い南西側に向かって緩やかに傾斜するものの、ほぼ平坦な地形である。上西根遺跡4区の調査面積は730.03㎡である。

上西根遺跡4区では、古墳時代から平安時代、中世から近世の遺構を検出した。遺構の内訳は、竪穴住居5軒、竪穴状遺構1基、溝7条、井戸2基、土坑41基、ピット34基である。竪穴住居は比較的標高の高い調査区北部に多く、土坑は南部に集中して分布している。また、南北に走向する溝や東西方向の溝など7条の溝が南部で重複している。遺構検出面はVb層上面である。基本土層は調査区西壁および井戸の土層断面で確認した。

2. 竪穴住居

5軒検出された。いずれも古墳時代終末期から平安時代の竪穴住居である。北部を中心に調査区全体に分布している。遺構検出面はVb層上面である。

4区2号竪穴住居(第209・210図 PL.74・75・134)

位置 4区北西部

X=38,295～38,299 Y=-56,271～-56,276

主軸方位 N-66°-W

重複 なし。

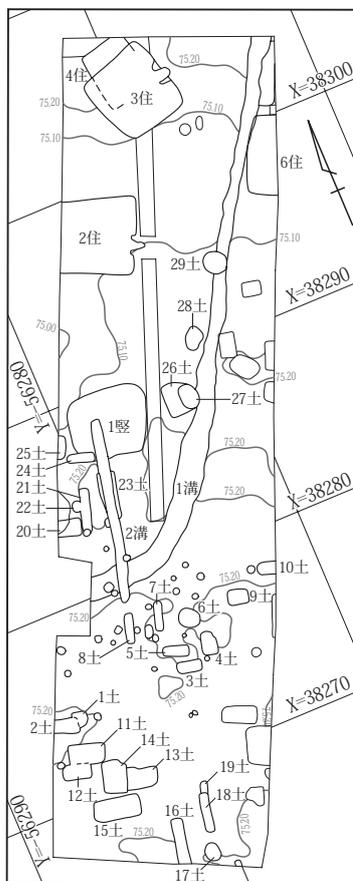
形状と規模 西側の一部が調査区外だが、長方形と推定される。検出した長軸長は3.96m、短軸長3.82m、遺構検出面から床面までの深さは0.07～0.17m、掘方底面までの深さは0.19～0.25m、面積は10.52㎡以上である。

埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

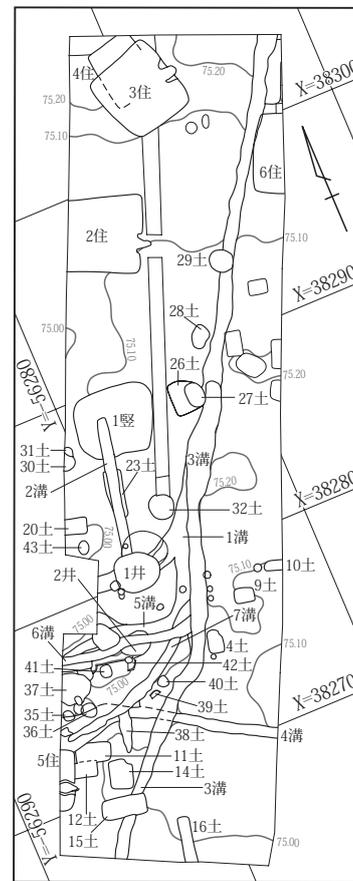
4層は掘方土で小礫を含む褐灰色砂質土である。

床面 砂質の褐灰色土で構築され、平坦である。住居中央部で硬化が認められた。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は褐灰色土で構築さ

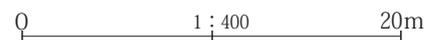


上面



下面

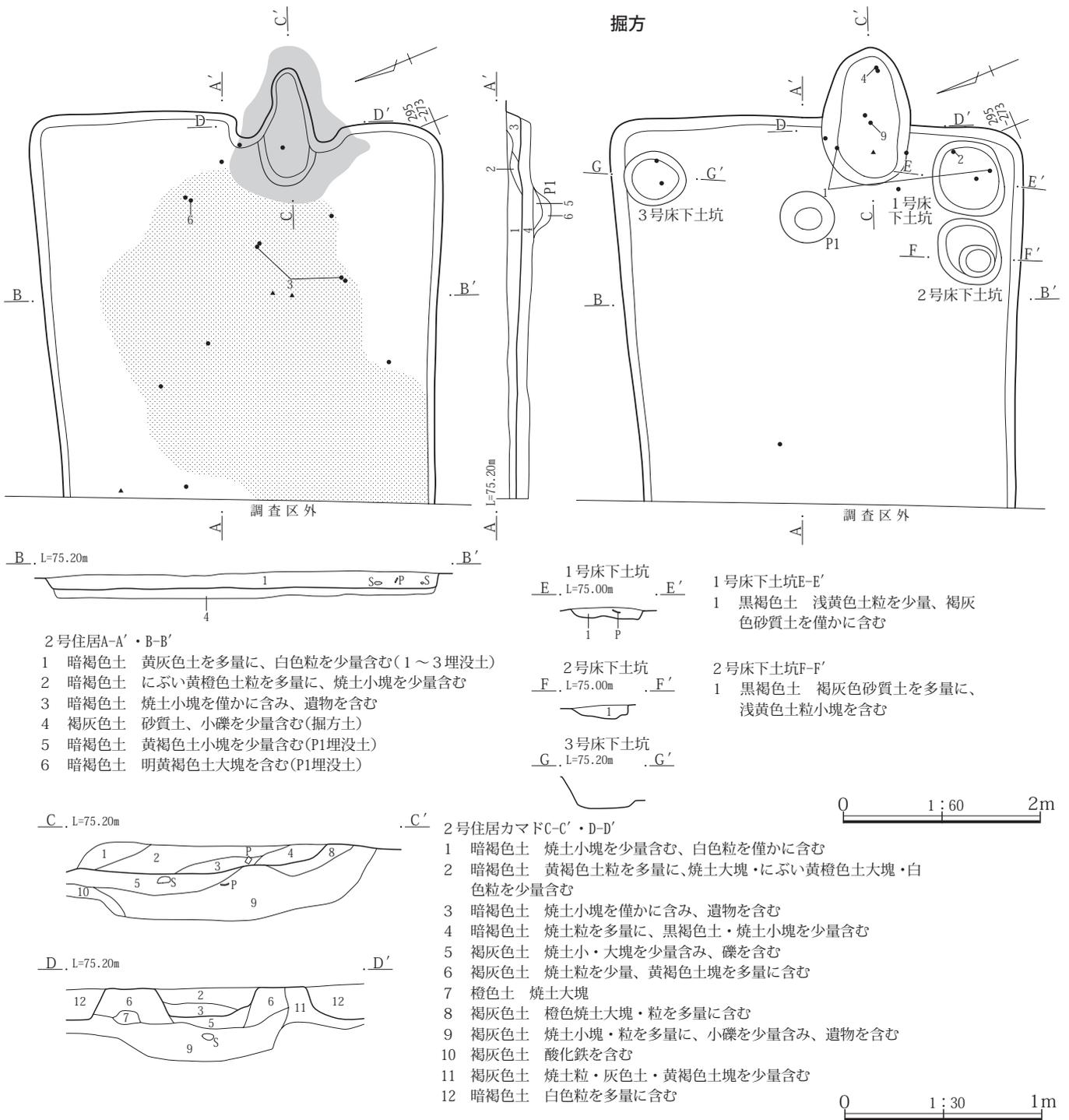
第208図 上西根4区全体図



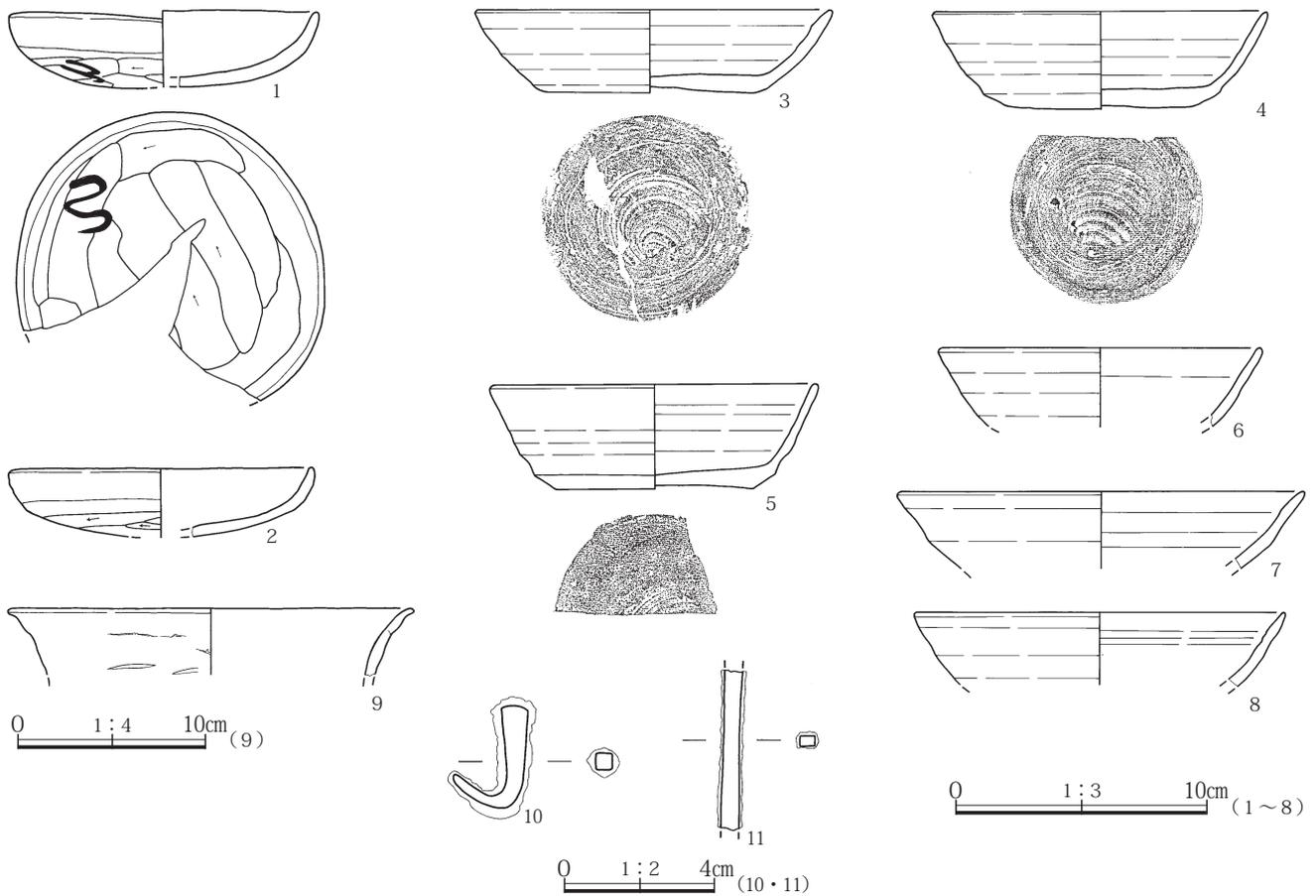
れ、残存する袖の長さは0.35mである。焚き口幅0.72m、焚き口から煙道までの長さは0.86mである。周辺には焼土が広範囲に認められた。掘方には焼土塊・粒を多く含む土が充填されていた。

掘方 ほぼ平坦である。掘方調査中に床下土坑が3基とP1が検出された。1号床下土坑はカマド右袖付近で検出され、平面形は隅丸方形である。長径0.85m、短径0.72m、

深さ0.08mである。2号床下土坑は1号床下土坑に隣接し、隅丸方形を呈する。長径0.75m、短径0.63m、深さ0.14mである。3号床下土坑は北東隅に位置し、平面形は楕円形である。長径0.64m、短径0.55m、深さ0.09mである。位置から1号または2号床下土坑は貯蔵穴の可能性がある。P1は円形を呈し、長径0.55m、短径0.54m、深さ0.2mである。位置から柱穴の可能性もあるが、他には検出



第209図 上西根4区2号竪穴住居



第210図 上西根4区2号竪穴住居出土遺物

されず不明である。

遺物と出土状態 土師器430点、須恵器46点、陶磁器1点、鉄製品2点、銅製品1点、近現代瓦1点が出土した。このうち、器形や時期のわかる11点を図示した。近現代瓦は後世の混入と考えられる。須恵器杯(6)は床面直上で出土した。須恵器杯(3)は掘方土と床面上8cmから出土した2点の破片が接合した。1・2・4・9は掘方土から出土した。土師器杯(1)の底部外面には墨書が認められる。

所見 出土遺物から、時期は8世紀中頃と考えられる。

4区3号竪穴住居(第211図 PL.75・76・134)

位置 4区北部

X=38,301~38,306 Y=-56,267~-56,271

主軸方位 N-72°-E

重複 4号住居と重複する。4号住居との新旧関係は発掘調査時には明らかにできなかったが、出土遺物から本住居の方が古い。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は4.13m、短軸

長3.96m、遺構検出面から床面までの深さは0.25~0.35m、掘方底面までの深さは0.32~0.42mである。

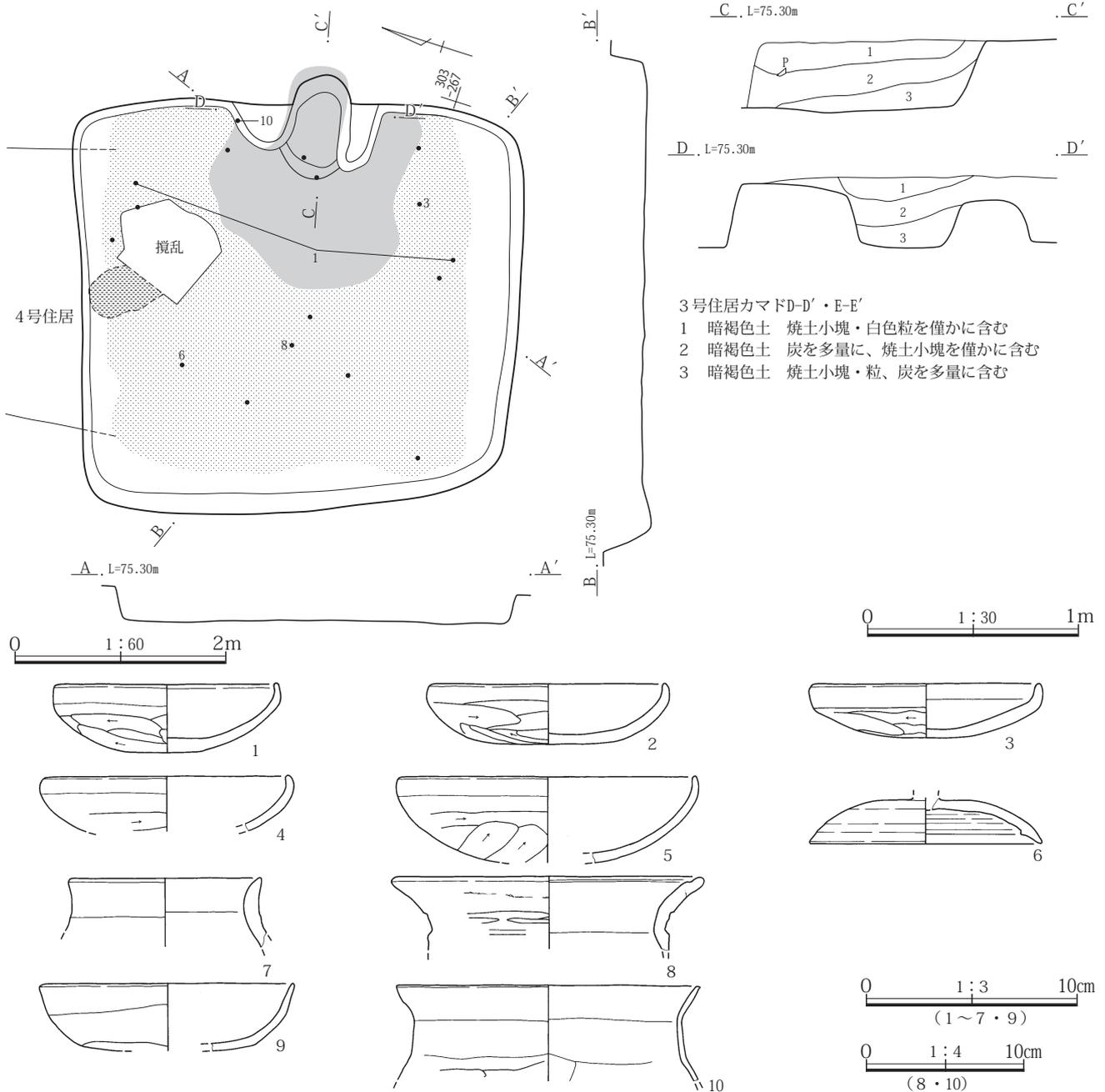
床面 北部の一部は攪乱で失われているが、ほぼ平坦である。側壁付近を除く住居全体で硬化が認められた。北壁中央部では55cm×45cmの範囲に灰の分布が見られた。

カマド 東壁で1か所検出された。袖の長さは左袖が0.45m、右袖が0.6mである。焚き口幅は0.72m、焚き口から煙道までの長さは1.05mである。煙道および燃焼部から住居中央部にかけて広範囲に焼土の広がり確認された。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器579点、須恵器16点、陶磁器1点が出土した。このうち10点を図示した。土師器杯(1)は床面上2cm、土師器杯(3)と須恵器蓋(6)は床面上4cmで出土した。それ以外は埋没土から出土した。土師器杯(9)と土師器甕(10)の時期は9世紀中頃で、重複する4号住居出土土器と同時期と考えられる。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末~8世紀前半と推定される。



第211図 上西根4区3号竪穴住居と出土遺物

4区4号竪穴住居(第212図 PL. 76)

位置 4区北部

X=38,305~38,307 Y=-56,268~-56,271

主軸方位 N-71°-E

重複 3号住居と重複する。3号住居との新旧関係は発掘調査時には明らかにできなかったが、出土遺物から本住居の方が新しい。

形状と規模 3号住居と重複する部分は形状を把握することができなかった。確認できた形状から推して、平面形は長方形と考えられる。検出した長軸長は2.6m、短軸長1.1m、遺構検出面から床面までの深さは0.01~

0.03m程度で、掘方底面までの深さは0.25mである。

埋没土 暗褐色土を主体とする。2層では筋状の灰黄色砂質土が認められた。

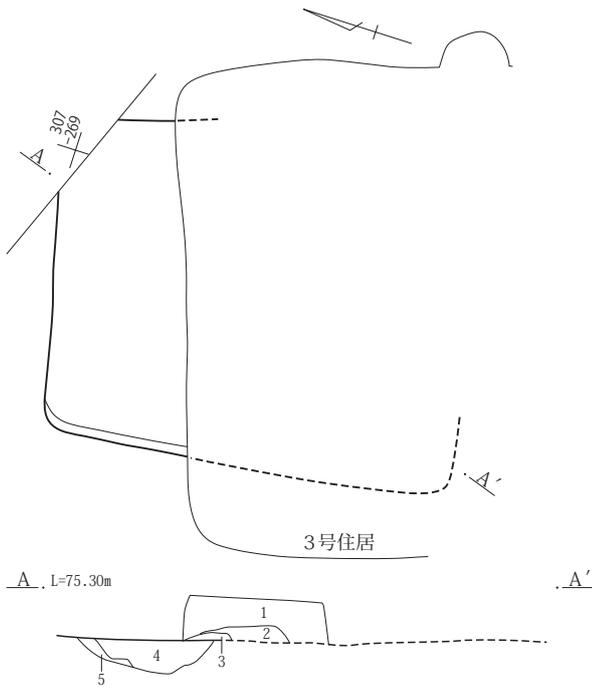
床面 ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

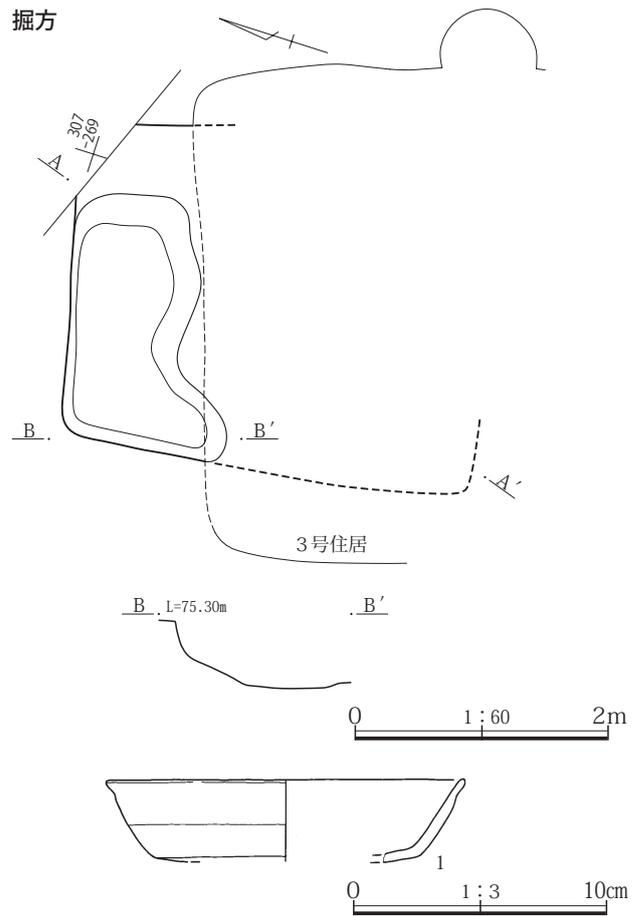
掘方 緩やかな土坑状の落ち込みが認められ、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器57点、須恵器1点、縄文土器1点が出土し、このうち1点を図示した。すべて埋没土中から出土した。縄文土器は混入と考えられる。

所見 出土遺物から、時期は9世紀中頃と考えている。



- 4号住居A-A
- 1 暗褐色土 灰白色土・浅黄色土を多量に含む(1~3埋没土)
 - 2 黒褐色土 浅黄色土を少量含む
 - 3 暗褐色土 浅黄色土を少量含む
 - 4 暗褐色土 灰黄色砂質土を含む(4・5掘方土)
 - 5 褐灰色土 砂質土・暗褐色土を少量含む



第212図 上西根4区4号竪穴住居と出土遺物

4区5号竪穴住居(第213図 PL.77・134)

位置 4区南西部

X=38,270~38,273 Y=-56,286~-56,288

主軸方位 不明である。

重複 7号溝、12号土坑、22号ピットと重複し、遺構検出時の観察からいずれの遺構よりも本住居が古い。

形状と規模 西側の大部分は調査区外である。東壁の長さは3.23m、短軸長0.8m、遺構検出面から床面までの深さは0.3~0.35m、掘方底面までの深さは0.45mである。

埋没土 暗灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。2層はカマド内埋没土で、4層はカマド袖構築土である。

床面 褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。袖が調査区外に延び、

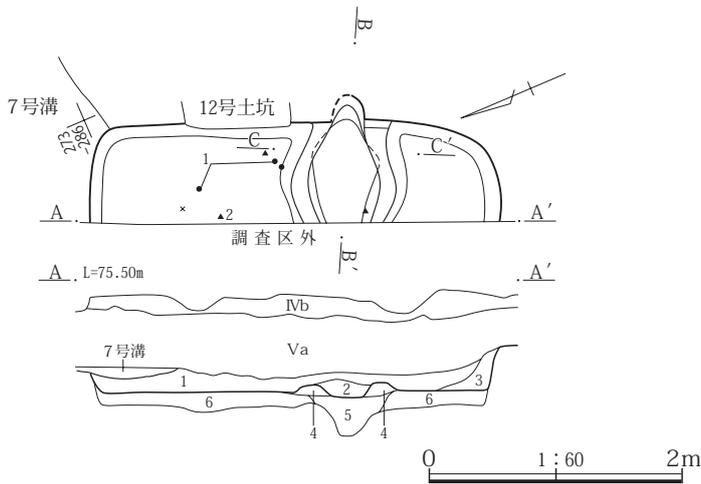
全体を調査することができなかったものの、遺存状況は良好であった。袖は淡黄色土で構築され、検出された部分の袖の長さは0.8mである。カマドの幅は1m、燃烧部から煙道までの長さは1mである。使用面直上には灰を多量に含む土が堆積していた。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器39点、須恵器8点、石製品1点を出土し、このうち1点を図示した。石製品は敲石(2)で、写真のみ掲載した(PL.134-2)。この敲石は床面直上で出土した。それ以外はすべて埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

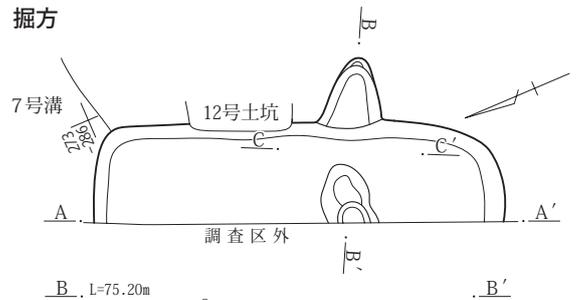


5号住居A-A'・B-B'

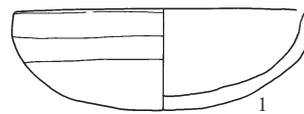
- 1 暗褐色土 白色粒を少量含む(1~3埋没土)
- 2 褐灰色土 浅黄色土小塊を多量に、焼土小塊を少量含む
- 3 黒褐色土 黄褐色土を少量含む
- 4 淡黄色土 淡黄色土大塊を多量に、焼土小塊を少量含む(カマド構築土)
- 5 褐灰色土 浅黄色土大塊を多量に含む(カマド構築土)
- 6 褐灰色土 浅黄色土を少量、白色粒を僅かに含む(掘方土)

5号住居カマドC-C'・D-D'

- 1 黒褐色土 白色粒・焼土粒・炭化物を少量含む
- 2 にぶい黄褐色土 明黄褐色土小塊・粒を多量に含む
- 3 暗褐色土 白色粒を少量含む
- 4 褐灰色土 浅黄色土小塊を多量に、焼土小塊を少量含む
- 5 褐灰色土 灰を多量に、焼土粒を少量含む
- 6 灰黄褐色土 明赤褐色焼土大塊を多量に、炭を僅かに含む
- 7 淡黄色土 淡黄色土大塊を多量に、焼土小塊を少量含む
- 8 褐灰色土 浅黄色土大塊を多量に含む
- 9 灰黄褐色土 褐灰色土を含む
- 10 灰オリーブ色土 砂質土



C . L=75.20m



0 1:30 1m

0 1:3 10cm

第213図 上西根4区5号竪穴住居と出土遺物

4区6号竪穴住居(第214図 PL.77・134)

位置 4区北東部

X=38,295~38,300 Y=-56,262~-56,265

主軸方位 西壁を主軸とした場合、N-31°-E

重複 1号溝と重複し、遺構検出時の観察から、本住居が古い。

形状と規模 東側は調査区外であるが、平面形は正方形または長方形と考えられる。長軸長は4.19m、短軸長1.6m、検出面から床面までの深さは0.25~0.35m、掘方底面までの深さは0.35~0.5mである。

埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。3層は焼土小塊・粒を大量に含む土である。

床面 にぶい黄褐色土で構築され、ほぼ平坦である。北側で焼土のまとまりが2か所認められた。調査区境付近の焼土は67cm×25cmの範囲に広がっていた。西側の焼土は80cm×30cmの範囲に分布していた。

カマド 検出されなかったが、調査区外にあるものと推定される。

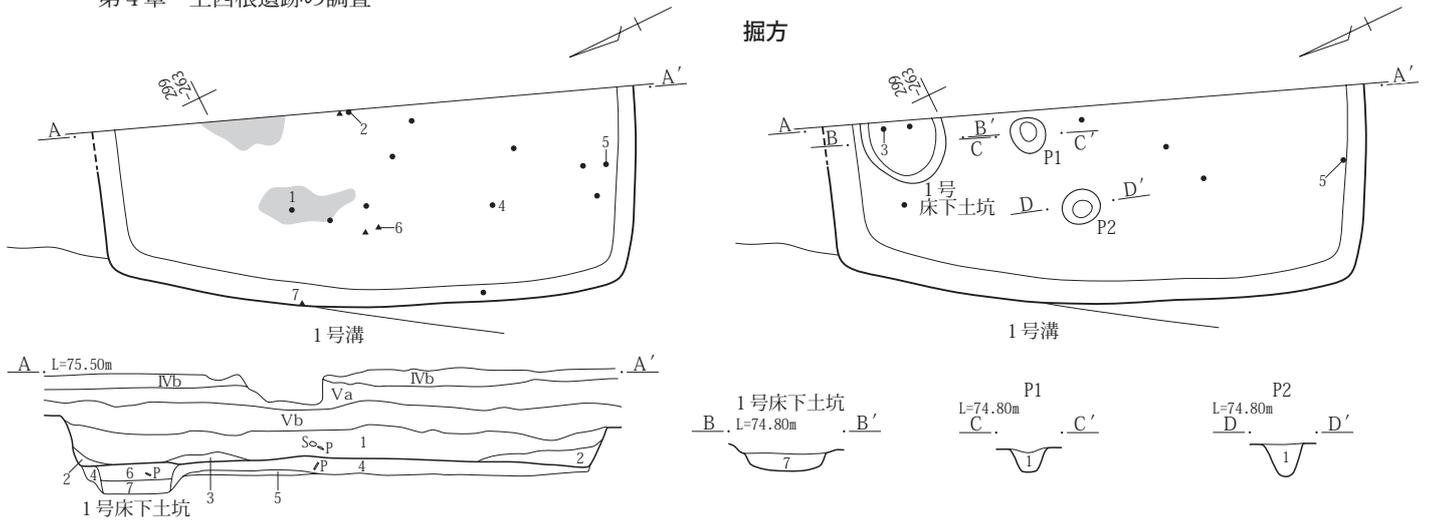
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 掘方調査中に、P1・P2が検出された。P1は長径0.28m、短径0.27mの楕円形で、深さ0.2mである。P2は長径0.3m、短径0.27mの円形で、深さは0.24mである。位置や大きさから、P1は柱穴の可能性はある。

掘方 ほぼ平坦である。掘方調査中に床下土坑が1基検出された。1号床下土坑は北壁際に位置する。長径0.65m、短径0.52mの楕円形で、深さは0.14mである。掘方土で土師器杯(3)が出土した。1号床下土坑は位置や規模、焼土の分布との関わりから、貯蔵穴の可能性はある。

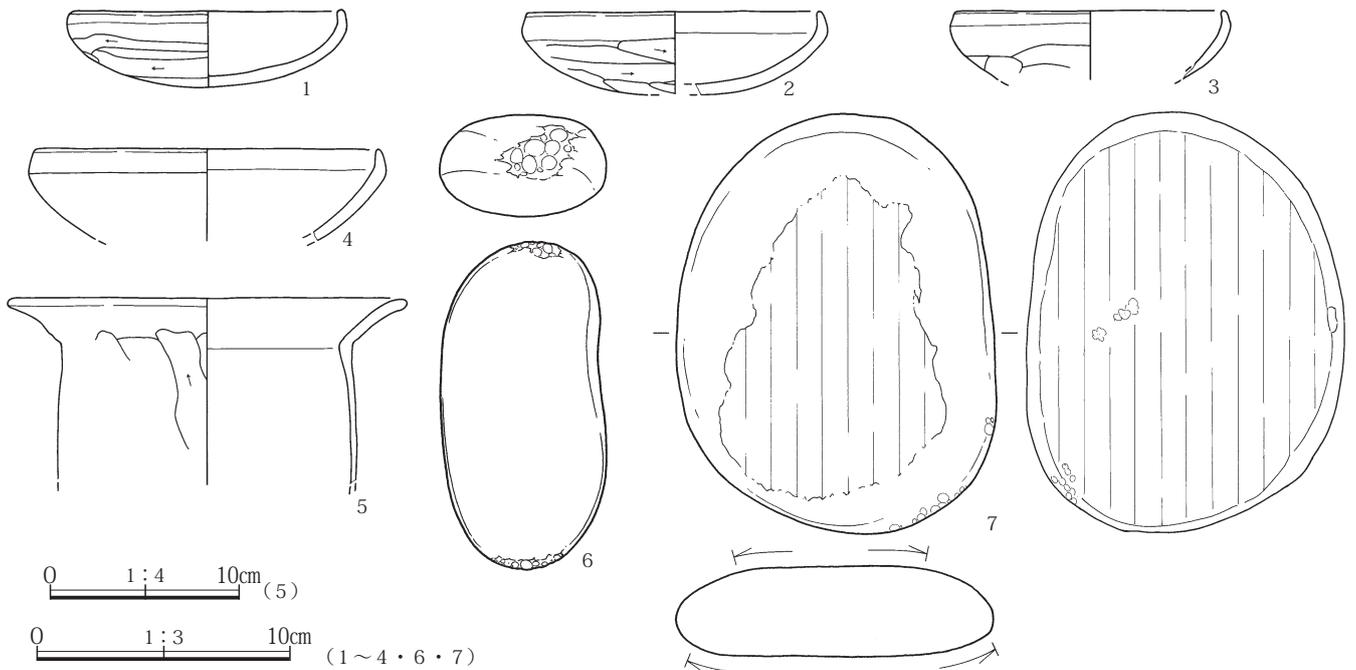
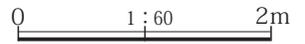
遺物と出土状態 土師器231点、須恵器14点、陶磁器2点、石製品2点が出土し、このうち7点を図示した。土師器杯(1)は床面付近から出土した。土師器甕(5)は床面付近と掘方土から出土した破片が接合している。敲石(6)は床面に食い込むような状態で出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀初頭と考えられる。



- 6号住居A-A'・1号床下土坑B-B'
- 1 暗褐色土 焼土小塊を少量、炭を僅かに含み、遺物を含む(1~3埋没土)
 - 2 褐灰色土 焼土粒を僅かに含む
 - 3 灰黄褐色土 焼土小塊・粒を多量に含む
 - 4 にぶい黄褐色土 焼土小塊・粒を少量含む(4・5掘方土)
 - 5 褐灰色土 焼土粒を僅かに含む
 - 6 灰黄褐色土 焼土小塊を僅かに含み、遺物を含む(1号床下土坑)
 - 7 灰黄褐色土 浅黄色土を含む(1号床下土坑)

- P1C-C'・P2D-D'
- 1 褐灰色土 灰白色砂質土を少量、焼土小塊を僅かに含む



第214図 上西根4区6号竪穴住居と出土遺物

3. 竪穴状遺構

4区中央部で1基検出された。西に向かって緩やかに傾斜を始める地点に位置する。

4区1号竪穴状遺構(第215図 PL.77・135)

位置 4区中央部

X=38,286~38,290 Y=-56,275~-56,279

主軸方位 N-82°-W

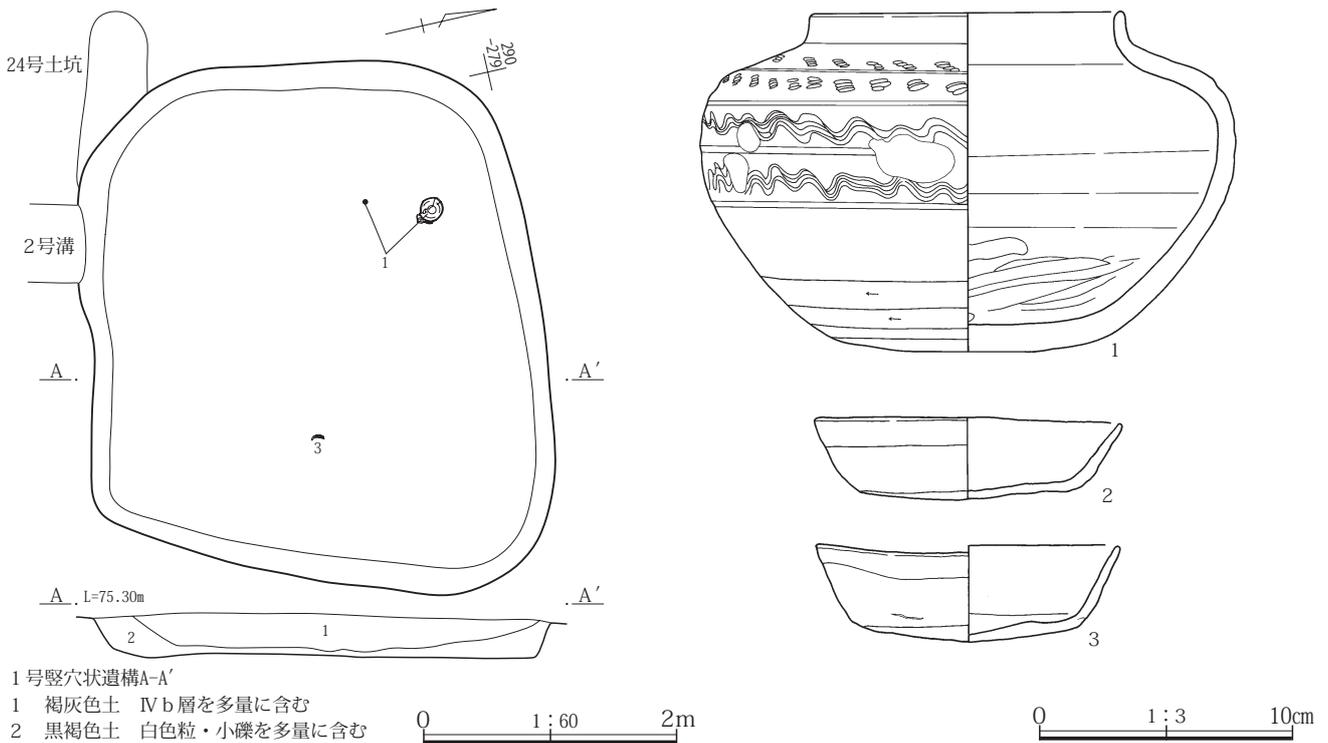
重複 24号土坑および2号溝と重複し、本遺構がいずれ

の遺構よりも古い。

形状と規模 平面形は不整な隅丸長方形で、検出した長軸長は4.2m、短軸長3.58m、遺構検出面から床面までの深さは0.25~0.41mである。壁の立ち上がりは比較的急で、底面はほぼ平坦である。

埋没土 褐灰色土と黒褐色土が認められた。1層はIVb層由来の土を多量に含む褐灰色土である。

遺物と出土状態 土師器201点、須恵器19点が出土し、このうち3点を図示した。須恵器短頸壺(1)は底面より



第215図 上西根4区1号竖穴状遺構と出土遺物

2cm上位と24cm上位から出土した破片が接合した。それ以外は埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と考えている。

4. 溝

7条検出された。これらは調査区を南北に走向する1号・3号溝を除き、南西部に集中している。遺構確認面はVb層上面である。これらの溝は南西に臨む粕川との関連で、水路が予想されたが、埋没土や底面標高の観察から、いずれの溝にも水が流れた痕跡は認められなかった。また、7号溝では埋没土上部および周辺から多量の遺物が出土し、他の溝とは様相が異なっている。

4区1号溝(第216図 PL.78・135)

位置 4区北部から南西部

X=38,279~38,304 Y=-56,261~-56,282

重複 6号住居、2号・3号・5号溝、1号井戸、27号・29号土坑、24号・25号ピットと重複する。遺構検出時と土層断面の観察から、6号住居、3号・5号溝、1号井戸、29号土坑よりも新しく、2号溝、27号土坑、24号・25号ピットよりも古い。

形状と規模 北側および南西側は調査区外である。検出された長さは32.38m、幅は0.62~1.4mである。遺構

検出面から底面までの深さは0.06~0.36mである。底面はやや丸味を帯び、壁の立ち上がりは部分によって異なるものの、比較的緩やかである。

方向 南西部ではN-87°-Eで、緩やかに北に向きを変え、北東部ではN-32°-Eである。

底面比高 南西端が北東端より0.13m高い。

埋没土 IVb層由来の灰黄色土を主体とし、自然堆積の様相を示す。

遺物と出土状態 土師器626点、須恵器76点、陶磁器5点、鉄製品4点が出土し、このうち8点を図示した。すべて埋没土から出土した。陶磁器は4点が近世で、1点が近現代のものである。

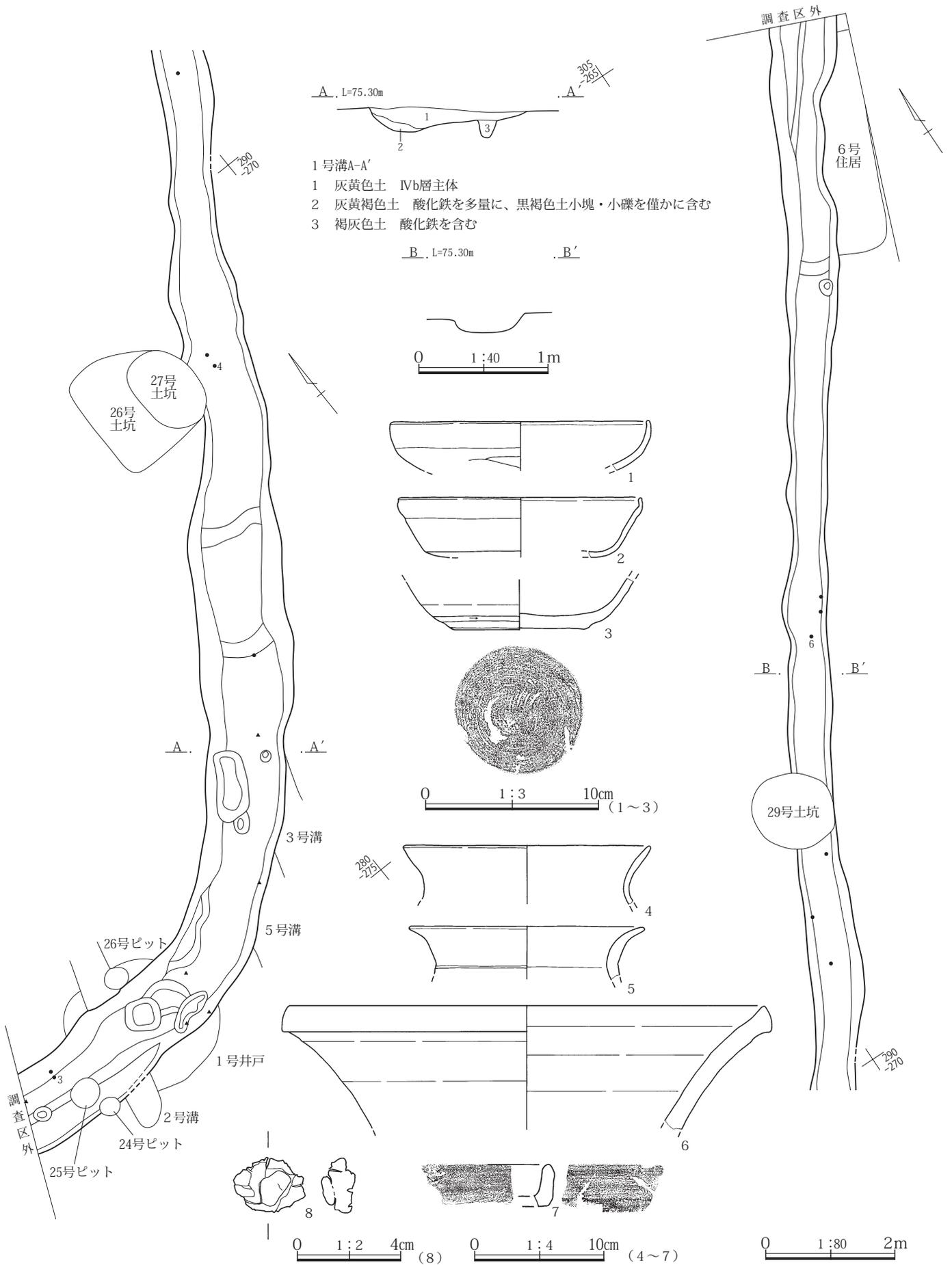
所見 埋没土の観察から、水路の可能性は低いと言えるが、その性格は不明である。遺構の重複から、時期は8世紀初頭と考えられる6号住居より新しく、中近世と推定される遺構より古い。

4区2号溝(第217図 PL.78)

位置 4区北部から南西部

X=38,279~38,304 Y=-56,261~-56,282

重複 1号竖穴状遺構、23号土坑、1号井戸、1号溝、26号・28号・34号ピットと重複する。遺構検出時と土層



第216図 上西根4区1号溝と出土遺物

断面の観察から、1号竪穴状遺構、1号井戸、1号溝より新しく、26号・28号・34号ピットよりも古い。23号土坑との新旧関係は不明である。

形状と規模 全体を調査することができた。長さは9.84m、幅は0.51～0.64mである。遺構検出面から底面までの深さは0.07～0.33mである。底面は平坦で、断面形は逆台形である。

方向 N-14°-E

底面比高 中央部が最も低い。北端より0.19m低く、南端より0.13m低い。

埋没土 Ⅲ層およびVb層由来の土を含む黒褐色土である。底面付近に砂等の堆積物は認められなかった。

遺物と出土状態 土師器184点、須恵器19点、陶磁器5点、鉄製品1点が出土した。すべて埋没土から出土した。陶

磁器のうち図示した瀬戸美濃の天目碗(1)は中世末から江戸初期で、それ以外の4点は近世のものである。

所見 埋没土や底面の観察から、水路の可能性は否定できるが、その性格は明らかにできなかった。細長い土坑(①)と長軸方向が同じことから、これらとの関連が予想される。遺構の重複から、時期は8世紀後半の竪穴状遺構より新しく、中世以降と推定されるピットより古い。

4区3号溝(第218・219図 PL.78・79・135)

位置 4区中央部から南部

X=38,266～38,288 Y=-56,271～-56,286

重複 1号・4号～7号溝、3号・5号・13号・15号・27号土坑、15号・17号・20号・21号ピットと重複する。遺構検出時と土層断面の観察から、5号～7号溝を除くこれらの遺構の方が新しい。5号～7号溝との新旧関係は不明である。

形状と規模 南側は調査区外である。検出された長さは26.2m、幅は0.5～1.44mである。遺構検出面から底面までの深さは0.18～0.46mである。底面はほぼ平坦で壁の立ち上がりは比較的急である。

方向 南側ではN-43°-Eで、緩やかに北に向きを変え、北側ではN-27°-Eである。

底面比高 中央部が最も低い。中央部は北端より0.26m低く、南端より0.15m低い。

埋没土 黒褐色土を主体とし、自然堆積の様相を示す。底面付近に砂等の堆積物は認められなかった。

遺物と出土状態 土師器455点、須恵器41点、時期不明土器1点出土し、このうち11点を図示した。すべて埋没土から出土した。1の土師器杯は底部外面に「子」の字の墨書が認められる。

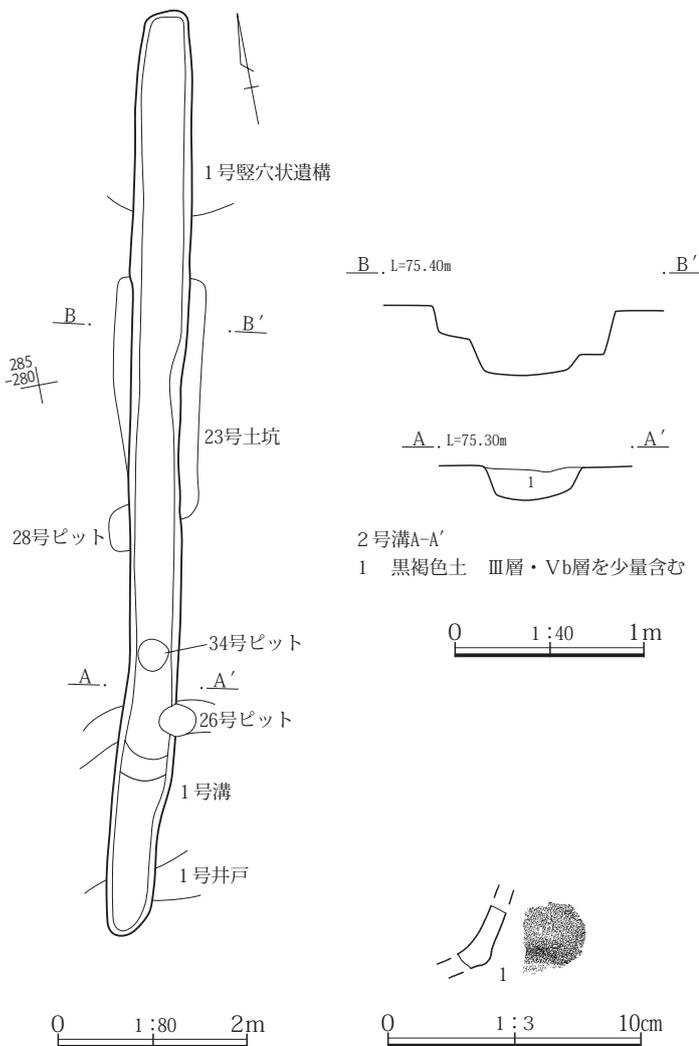
所見 埋没土および底面の観察から、水路の可能性は低いと言えるが、その性格は不明である。時期は、遺構の重複から中近世以降と考えられる遺構より古く、出土遺物はすべて古代のものである。

4区4号溝(第218図 PL.78・79)

位置 4区南部

X=38,269～38,274 Y=-56,275～-56,286

重複 3号・7号溝、1号・2号・35号・36号・38号土坑と重複する。遺構検出時と土層断面の観察から、4号



第217図 上西根4区2号溝と出土遺物

溝は3号溝より新しく、35号・36号土坑より古い。7号溝、1号・2号・38号土坑との新旧関係は不明である。
形状と規模 調査区南部を東西に走る。東側および西側は調査区外である。検出された長さは11.5m、幅は0.45～0.65mである。遺構検出面から底面までの深さは0.11～0.2mである。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-57°-W

底面比高 東端が西端よりも0.01m高い。

埋没土 灰黄褐色土が認められた。底面付近に砂等の水成堆積物は認められなかった。

遺物と出土状態 土師器4点が埋没土から出土した。いずれも細片のため図示しなかった。

所見 埋没土の観察から、水路の可能性は否定できるが、その性格は明らかにできなかった。遺構の重複から、時期は中近世以降と考えられる遺構より古いものの、詳細は不明である。

4区5号溝(第218図 PL. 78・79)

位置 4区南西部

X=38,277～38,280 Y=-56,276～-56,285

重複 3号・6号・7号溝、2号井戸、7号・8号土坑、6号・8号・9号・12号・13号・18号・19号ピットと重複する。遺構検出時と土層断面の観察から、5号溝は2号井戸より新しく、1号・6号溝、18号ピットより古い。3号・7号溝との新旧関係は不明である。

形状と規模 西側は調査区外である。検出された長さは11.6m、幅は0.48～0.75mである。遺構検出面から底面までの深さは0.1～0.16mである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

方向 西側ではN-86°-Eで、北に向きを変え、北東側ではN-25°-Eである。

底面比高 北東端が南西端に比べ、0.12m高い。

埋没土 白色粒を含む灰黄褐色土が認められた。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 底面の標高は北東端が最も高く、南西向かって緩やかに傾斜している。時期および性格は不明である。

4区6号溝(第218・219図 PL. 78・79・135)

位置 4区南西部

X=38,276～38,277 Y=-56,277～-56,285

重複 3号・5号・7号溝、2号井戸、12号・13号・15号ピットと重複する。遺構検出時と土層断面の観察から、6号溝は5号溝、2号井戸より新しい。3号・7号溝との新旧関係は不明である。

形状と規模 西側は調査区外である。検出された長さは7.0m、幅は0.48～0.75mである。遺構検出面から底面までの深さは0.13～0.22mである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは比較的急である。

方向 N-84°-E

底面比高 北東端が南西端に比べ、0.05m高い。

埋没土 白色粒を含む褐灰色土が認められた。

遺物と出土状態 土師器431点、須恵器60点が出土した。

所見 遺構の重複および出土遺物から、時期および性格は不明である。

4区7号溝(第218～220図 PL. 78・79・135)

位置 4区南西部

X=38,272～38,278 Y=-56,277～-56,286

重複 5号住居、3号～6号溝、1号・2号・5号・11号・38号・39号土坑と重複する。遺構検出時と土層断面の観察から、7号溝は5号住居および39号土坑より新しく、11号土坑より古い。3号～6号溝、38号土坑との新旧関係は不明である。

形状と規模 西側は調査区外である。検出された長さは10.0m、幅は0.45～0.73mである。遺構検出面から底面までの深さは0.12～0.26mである。底面はほぼ平坦であるが、南西部でテラス状の段を持つ。壁の立ち上がりは部分により異なるものの、比較的急である。

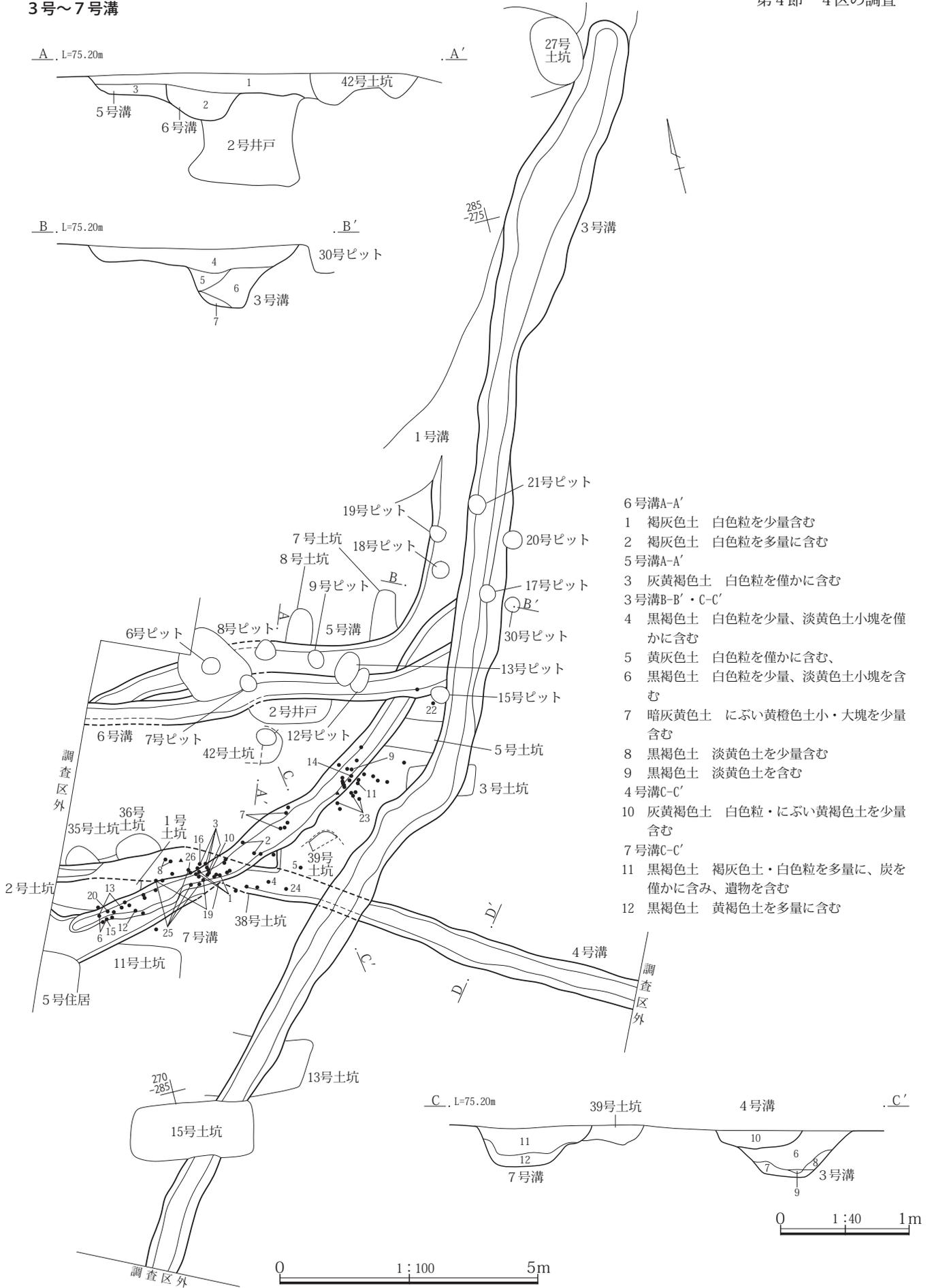
方向 南西部でN-84°-Eで、緩やかに北に向きを変え、北東部ではN-52°-Eである。

底面比高 北東端が南西端に比べ、0.12m高い。

埋没土 黒褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。底面付近で砂等の堆積物は確認されなかった。

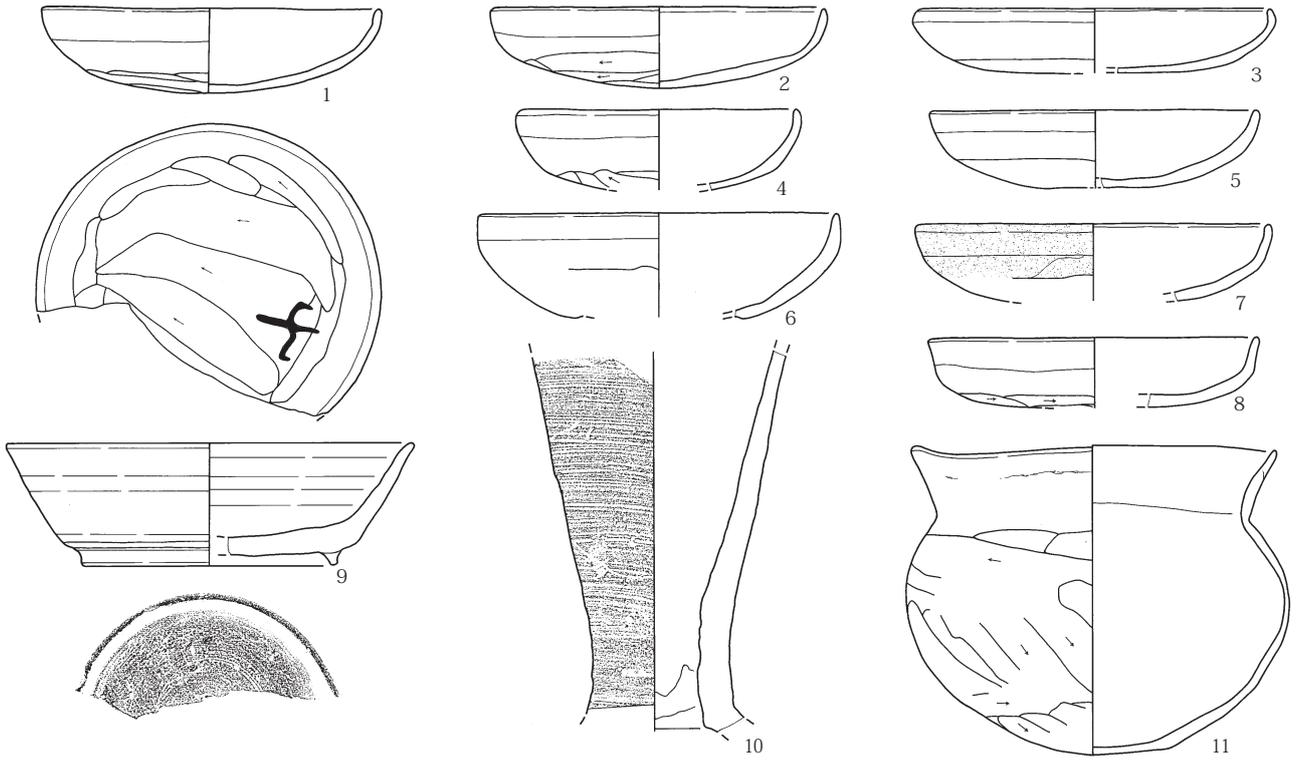
遺物と出土状態 土師器402点、須恵器54点が出土した。埋没土上部および周辺から多量の土器が出土した。接合関係からこれらは一括して投棄されたものと推定される。

所見 7号溝の埋没土上部と周辺で多量の土器が出土した。埋没土および遺物の出土状況の観察から、7号溝が

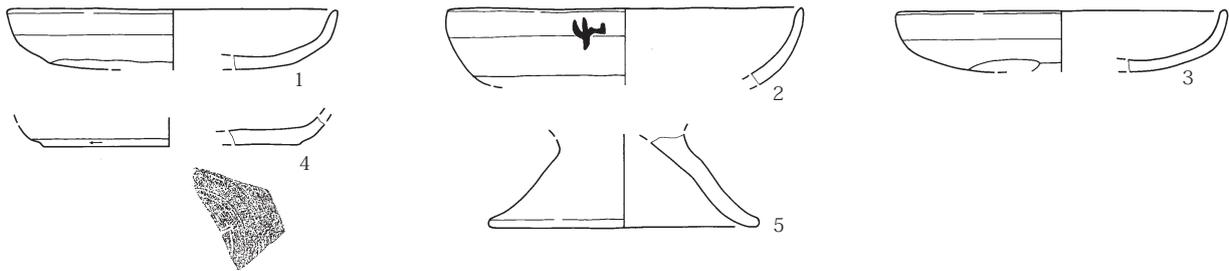


第218図 上西根4区3号~7号溝

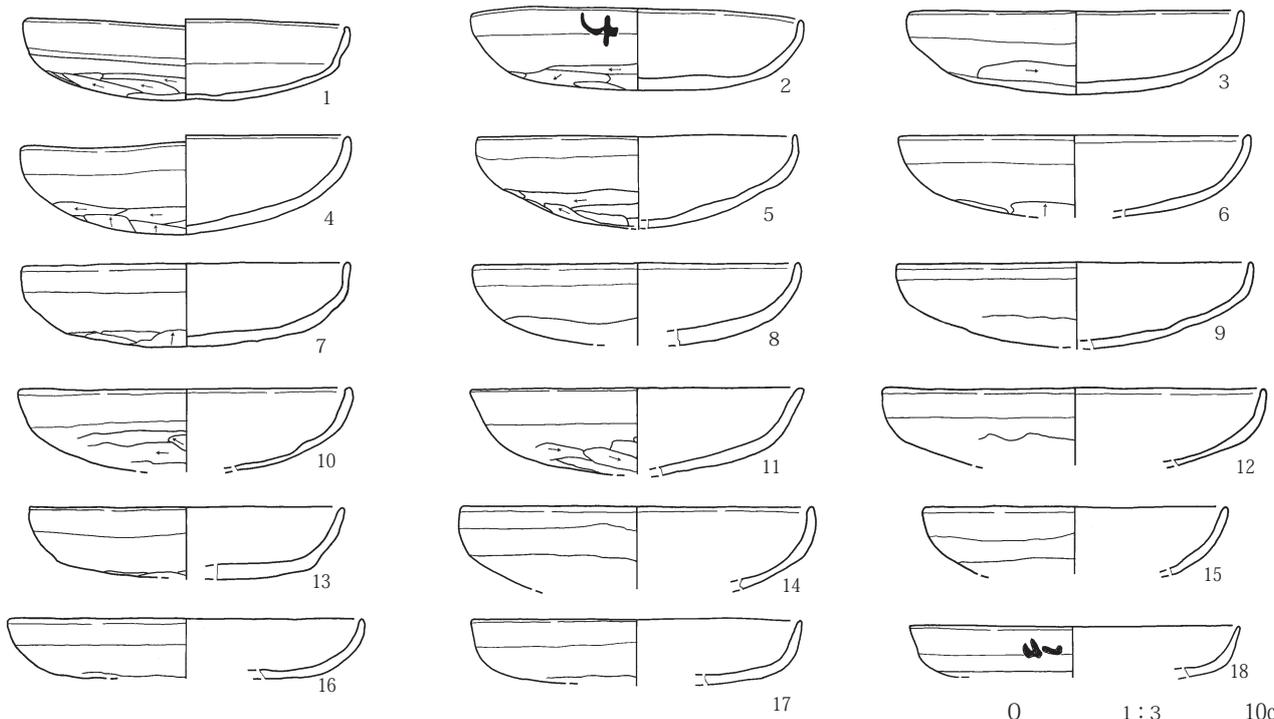
3号溝出土遺物



6号溝出土遺物

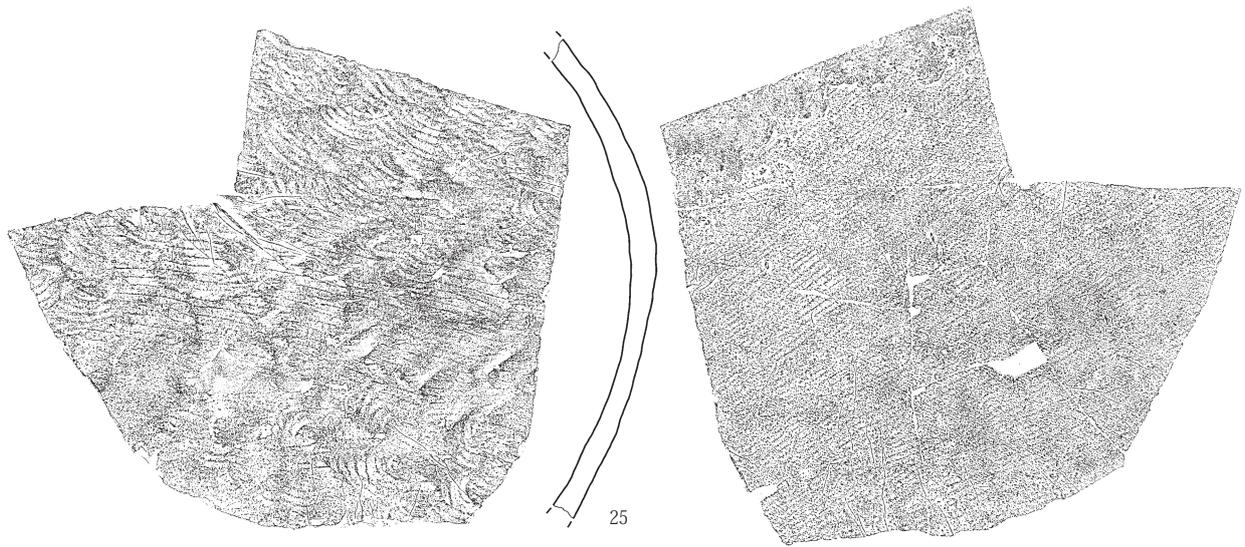
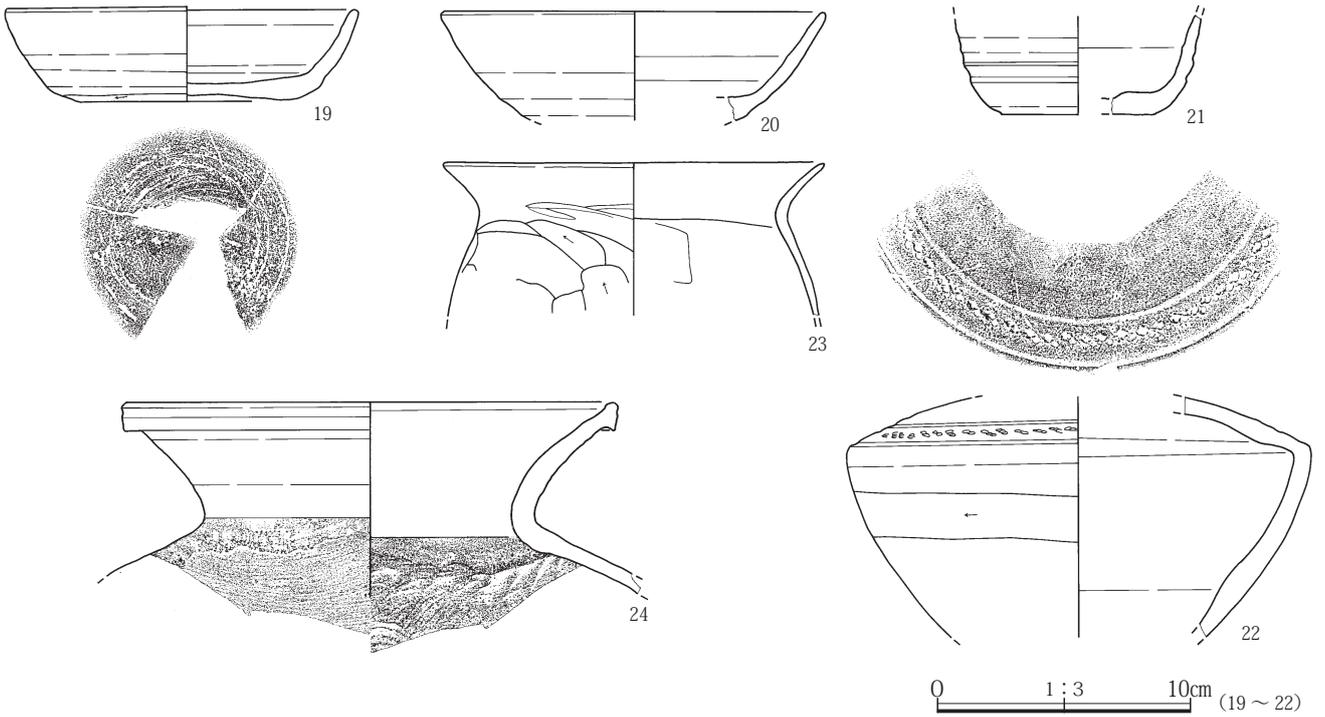


7号溝出土遺物



第219図 上西根4区3号・6号・7号溝出土遺物

7号溝出土遺物



第220図 上西根4区7号溝出土遺物

完全には埋まりきらず、浅い落ち込み状になっている時期に、溝周辺に土器片を投棄または遺棄したものと考えられる。周辺には溝が密集するものの、他の溝では見られず特異な事象である。埋没土の観察から、水路の可能性は低いが、性格については明らかにできなかった。時期は、遺構の重複から中世以降と推定される11号土坑より古く、出土遺物は古代のものが中心となっている。

5. 井戸

井戸は2基検出された。2基とも調査区南西部に位置し、標高が75.00m～75.05mで、調査区の中では比較的低い地点で検出された。2基の井戸はVb層上面で検出された。

4区1号井戸(第221図 PL.80・135)

位置 4区南西部

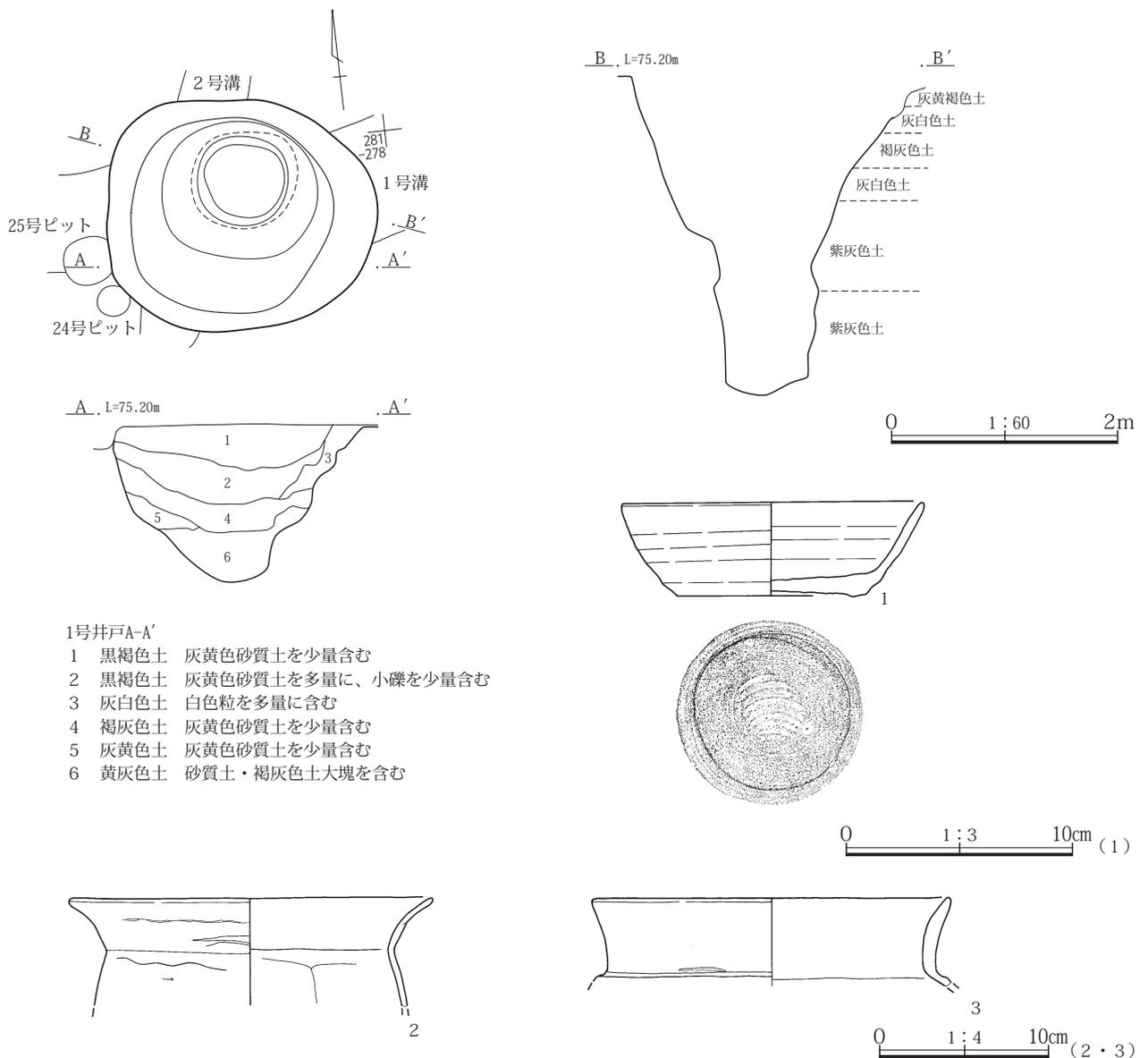
X=38,279～38,281 Y=-56,278～-56,280

長軸方向 N-48°-W

重複 1号・2号溝、24号・25号ピットと重複し、遺構検出時の観察から、いずれの遺構よりも本井戸が古い。

形状と規模 平面形は楕円形で、長径は2.43m、短径2.2mである。遺構検出面から底面までの深さは2.81mである。底面はほぼ平坦で、側壁は垂直に近い傾斜で立ち上がるが、途中から開口部に向かい大きく開く形状の断面形である。人力で完掘した後、周囲の土層を観察するため、重機で井戸を半裁した。

埋没土 土層の記録は上部のみで、それより下の記録は困難



第221図 上西根4区1号井戸と出土遺物

であった。黒褐色土および褐灰色土を主体とする。3層は白色粒を多量に含む灰白色土で、6層は黄灰色の砂質土である。
遺物と出土状態 土師器25点、須恵器5点が出土した。このうち、3点を図示した。すべて埋没土から出土した。
所見 時期は、遺構の重複から中世以降と考えられるピットより古く、出土遺物はすべて古代のものである。

4区2号井戸(第222図 PL. 80・135)

位置 4区南西部

X=38,276・38,277 Y=-56,280・-56,281

長軸方向 N-78°-E

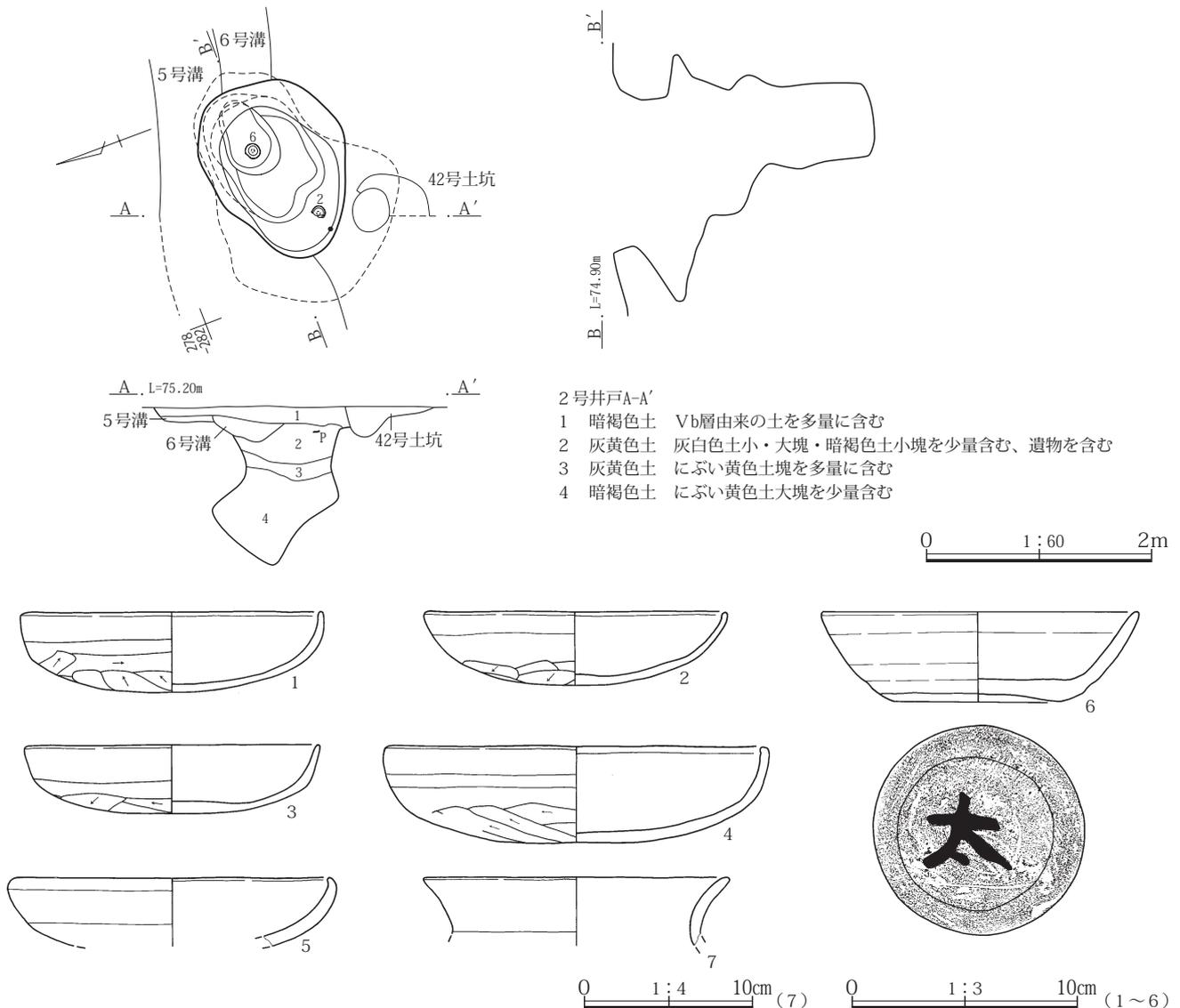
重複 8号・42号土坑、5号・6号溝と重複する。遺構検出時と土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本井戸が古い。

形状と規模 平面形は不整な楕円形で、長径は1.67m、短径1.24mである。遺構検出面から底面までの深さは2.39mである。底面はほぼ平坦で、側壁はオーバーハンクしている部分が認められる。

埋没土 土層の記録は上部のみで、それより下の記録は困難であった。灰黄色土および暗灰色土を主体とし、2～4層は灰白色土塊およびにぶい黄褐色土塊を含み、人為堆積の可能性が高い。

遺物と出土状態 土師器44点、須恵器13点が出土した。このうち、7点図示した。土師器杯(2)は遺構検出面で、須恵器杯(6)は埋没土中位から出土し、底部外面に「太」の字の墨書が認められた。

所見 時期は、遺構の重複から中世以降と推定される8号土坑より古く、出土遺物はすべて古代のものである。



第222図 上西根4区2号井戸と出土遺物

6. 土坑

41基検出された。多くの土坑は4区南側に位置する。遺構確認面はVb層上面である。これらの土坑は平面形や断面形、埋没土などから、以下の6種類に分類することができた。

- ①細長い土坑 12基
- ②隅丸長方形の土坑 10基
- ③埋没土に炭化物・焼土を多量に含む土坑 6基
- ④円形の土坑 2基
- ⑤楕円形の土坑 5基
- ⑥不定形の土坑(その他の土坑) 6基

それぞれの土坑の位置や規模、重複関係、時期、出土遺物については遺構一覧表および出土遺物一覧表(323・324・330・331ページ)にまとめて示した。以下、6つの分類ごとに土坑を概観する。

①細長い土坑(第223～225図 PL.81～83・136)

2号・3号・5号・7号・8号・10号・16号・18号・19号・21号・23号・24号土坑がこれに当たる。2号・10号・19号・23号土坑は一部の調査であるが、全体形および断面形から判断してこれに含めた。すべて調査区南部に位置する。長軸がおおむね南北方向の土坑と東西方向の土坑があり、方角を意識して作られている。平面形は細長い長方形である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは垂直に近いものが多い。断面形は箱形を呈する。これらの土坑の埋没土は共通性が高く、Ⅲ層およびⅣ層由来の土を含む褐灰色土を主体とする。含有物などから、5号・7号・8号・21号土坑は人為堆積の可能性が高い。遺構の重複関係および埋没土の特徴から、これらの土坑の時期は中世以降と推定されるが、詳細は不明である。性格についても不明である。

②隅丸長方形の土坑(第223～225図 PL.81～83・136)

1号・4号・9号・11号～15号・20号・25号土坑がこれに当たる。25号土坑は西側が調査区外であるが、全体形から判断してこれに含めた。すべて調査区南部で検出された。平面形は隅丸長方形である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは垂直に近いものが多く、断面形は箱形を呈する。埋没土は①と類似し、Ⅲ層およびⅣ層由来の土を含む褐灰色土を主体とする。含有物の特徴から、9号および11号土坑は人為堆積の様相を示している。埋没土の特徴などから、これらの土坑の時期は中世以降と考えられるが、詳細は不明である。性格についても不明である。

③炭化物・焼土が多量に出土した土坑(第225図 PL.84)

35号・36号・39号～42号土坑がこれに当たる。4区南西部に位置し、3m×6mの範囲で6基すべてが検出された。35号・36号土坑は4号溝と、39号土坑は7号溝と重複する。35号・36号土坑と4号溝との新旧関係は不明である。39号土坑と7号溝では、土層断面の観察から、39号土坑が古い。平面形は楕円形または隅丸長方形で、39号・42号土坑は全体の形状を把握できなかった。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは比較的緩やかである。埋没土中および底面で炭化物と焼土塊が多量に検出された。底面に被熱による赤化は認められなかった。これらの土坑から土師器、須恵器が出土したが、細片のため図示しなかった。遺物はすべて埋没土中から出土している。これらの土坑は位置や形状、規模、埋没土の特徴が類似していることから、同時期の土坑と考えられる。これらの土坑の時期は遺構の重複から古代の可能性があると詳細は不明である。性格も不明である。

④円形の土坑(第223・225図 PL.83・84)

22号・32号土坑がこれに当たる。2基とも4区中央部に位置する。22号土坑は東側の一部を21号土坑に切られているが、形状を全体的に判断してこれに含めた。平面形は円形で、底面は平坦である。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。規模や埋没土は土坑ごとに異なっている。22号土坑の底面で、直径15cm大の礫が出土した。これらの土坑の時期および性格については不明である。

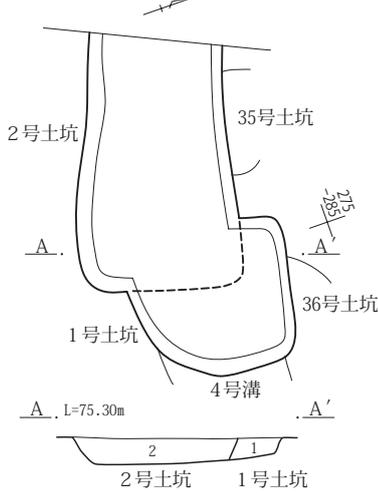
⑤楕円形の土坑(第225・226図 PL.81～84・136)

6号・17号・27号・29号・43号土坑がこれに含まれる。分布に偏りはなく、調査区全体に点在している。平面形は楕円形で、底面は平坦なものと同様に丸みをもつものがある。壁の立ち上がりは急なものと同様に比較的緩やかなものがある。埋没土は褐灰色土または暗褐色土である。27号土坑では、埋没土中から、瀬戸・美濃焼の広東碗(27土1)1点と銅銭(27土2)1点が出土した。出土遺物から、27号土坑の時期は近世以降と推定される。それ以外の土坑の時期は不明である。性格についても不明である。

⑥不定形の土坑(その他の土坑) (第226図 PL.83・84・136)

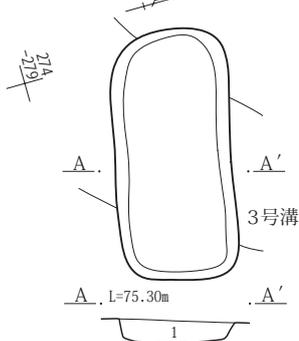
26号・28号・30号・31号・37号・38号土坑がこれに当たる。30号・31号土坑は西側が調査区外で、全体形を推定できなかったため、これに含めた。26号・28号土坑は埋没土に小礫を多量に含んでいた。これらの土坑の時期や性格については不明である。

1号・2号土坑



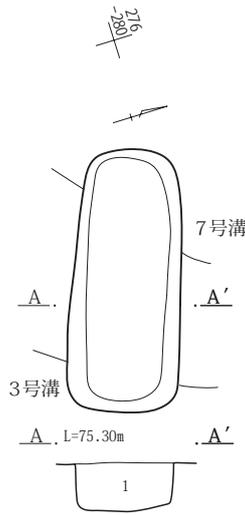
- 1号土坑A-A'
1 褐灰色土 III層主体、IV b層黄橙色粘質土大塊を含む
2号土坑A-A'
2 褐灰色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊を僅かに含む

3号土坑

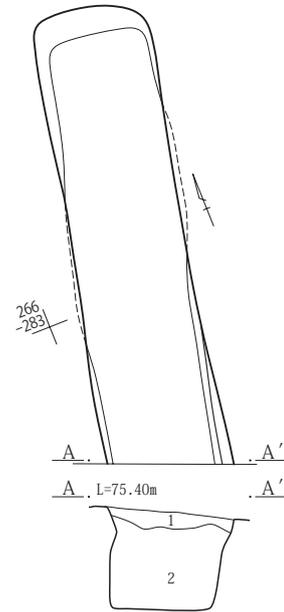


- 3号土坑A-A'
1 黒褐色土 III層主体
5号土坑A-A'
1 褐灰色土 III層・IV b層黄橙色粘質土小塊を多量に含む、暗褐色小塊を僅かに含む

5号土坑

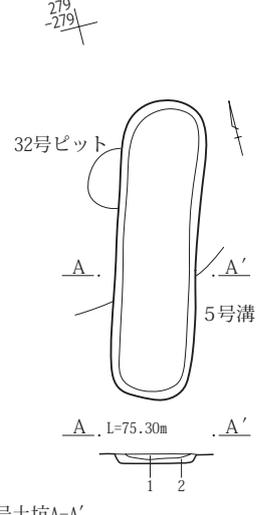


16号土坑



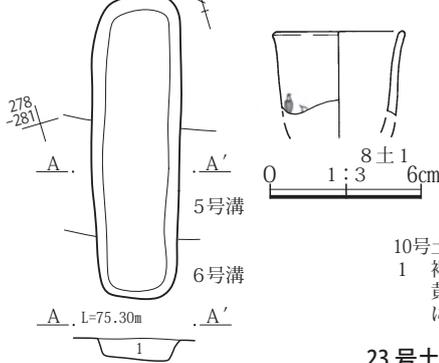
- 16号土坑A-A'
1 灰褐色土 III層を多量に含む
2 暗褐色土 黒褐色土小塊を少量、V層を僅かに含む

7号土坑



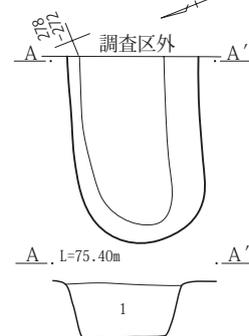
- 7号土坑A-A'
1 褐灰色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊を少量含む
2 黒褐色土 白色粒・焼土小塊を少量含む

8号土坑



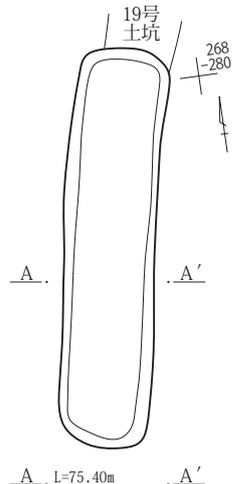
- 8号土坑A-A'
1 褐灰色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊を僅かに含む

10号土坑



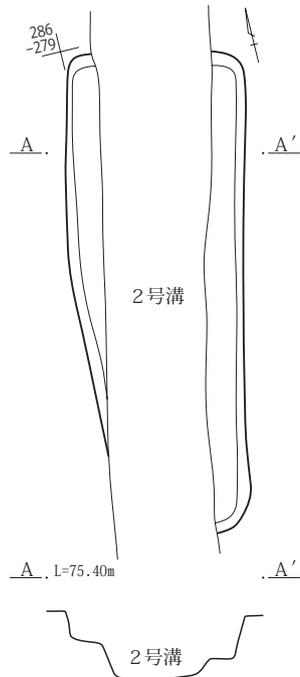
- 10号土坑A-A'
1 褐灰色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊・V b層を僅かに含む

18号土坑



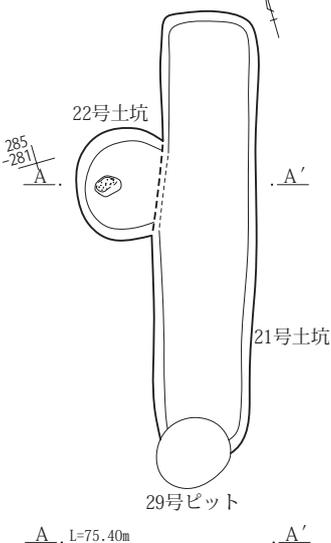
- 18号土坑 A-A'
1 灰黄褐色土 III層主体、黒褐色土を含む

23号土坑

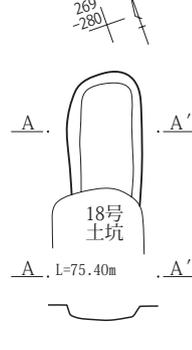


- 21号土坑A-A'
1 灰黄色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊・V b層小塊を僅かに含み、小礫を含む
22号土坑A-A'
2 黒褐色土 V b層主体、白色粒・焼土細粒を均質に少量含む

21号・22号土坑

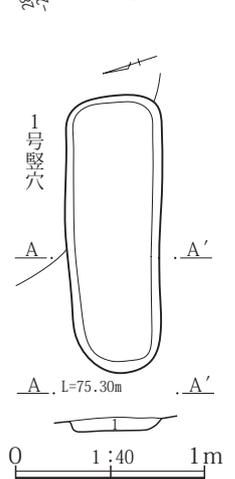


19号土坑



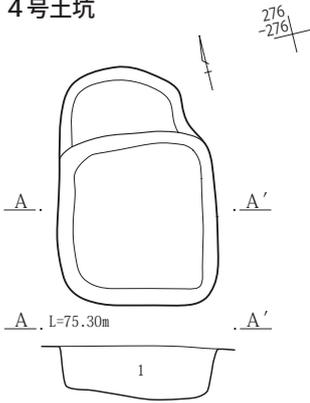
- 24号土坑A-A'
1 黒褐色土 V b層主体、焼土細粒を僅かに含む

24号土坑



第223図 上西根4区1号～3号・5号・7号・8号・10号・16号・18号・19号・21号～24号土坑と8号土坑出土遺物

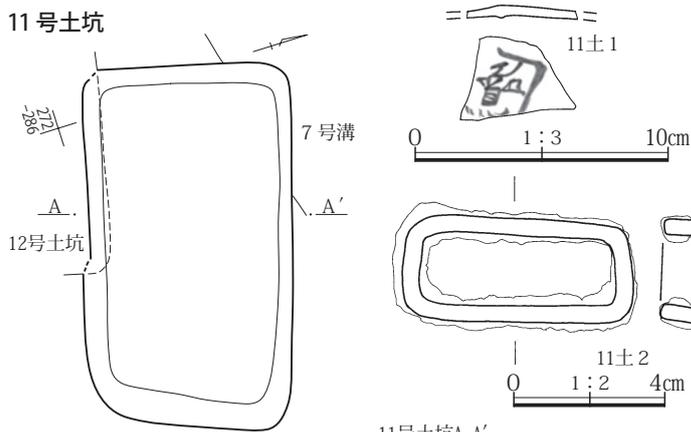
4号土坑



4号土坑A-A'

1 褐灰色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊・暗褐色小塊を僅かに含む

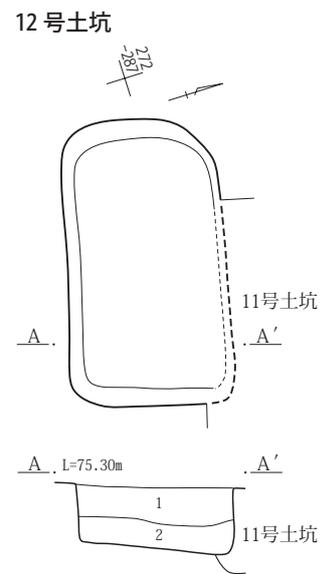
11号土坑



11号土坑A-A'

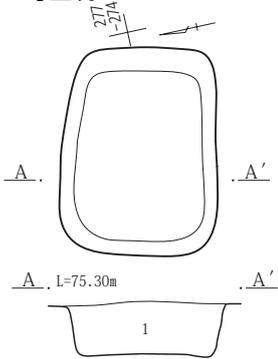
1 灰黄褐色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊・V b層を僅かに含む
2 褐灰色土 III層・IV b層黄橙色粘質土小塊・V b層を少量含む

12号土坑



1 灰黄褐色土 III層を少量、IV b層黄橙色粘質土小塊・V b層を僅かに含む
2 褐灰色土 III層・V b層を少量、IV b層黄橙色粘質土小塊を僅かに含む

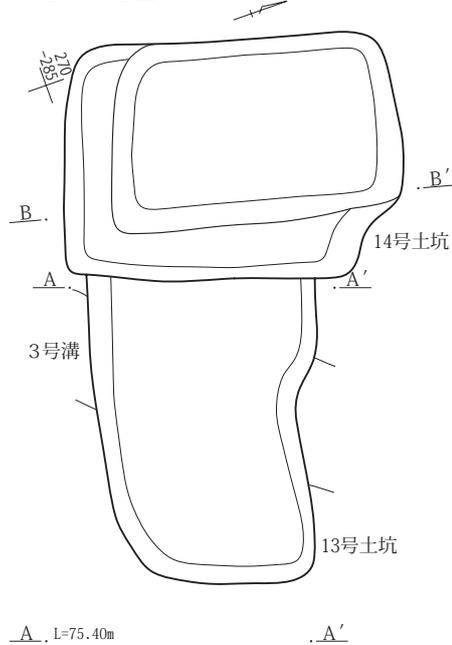
9号土坑



9号土坑A-A'

1 褐灰色土 III層多量に、黄灰色土大塊・粒・暗褐色土小塊を少量含む、IV b層黄橙色粘質土小塊を僅かに含む

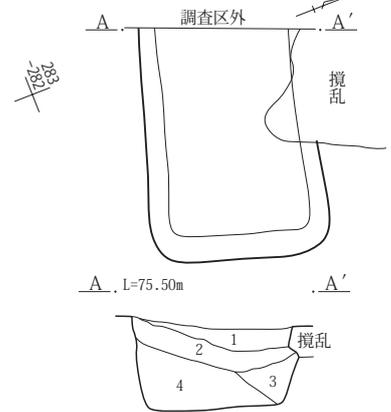
13号・14号土坑



13号土坑A-A'・B-B'

1 灰黄褐色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊を少量含む、灰黄色土大塊を含む
2 灰黄褐色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊を少量含む
3 灰黄褐色土 III層主体
4 褐灰色土 III層を多量に、暗褐色土小塊を少量、焼土小塊・炭を僅かに含む

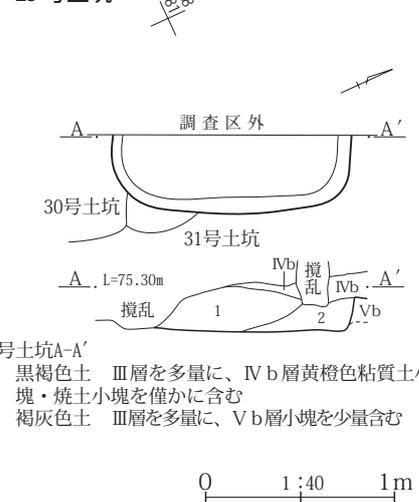
20号土坑



20号土坑A-A'

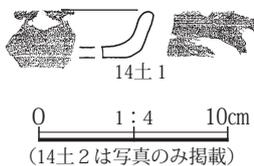
1 褐灰色土 にぶい黄橙色小塊を僅かに含む
2 褐灰色土 灰白色土小塊・黒褐色土を少量含む
3 黄灰色土 灰白色土大塊を多量に含む、攪乱崩落土
4 黒褐色土 灰白色土小塊を少量含む

25号土坑

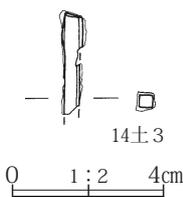


25号土坑A-A'

1 黒褐色土 III層を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊・焼土小塊を僅かに含む
2 褐灰色土 III層を多量に、V b層小塊を少量含む



(14土2は写真のみ掲載)

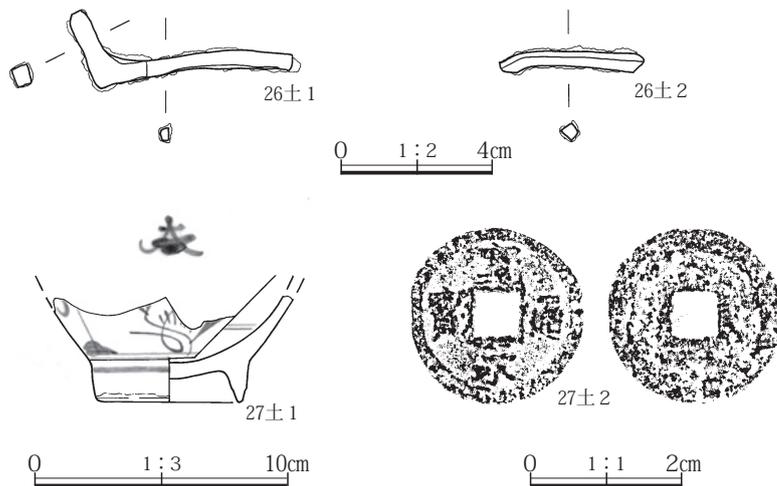
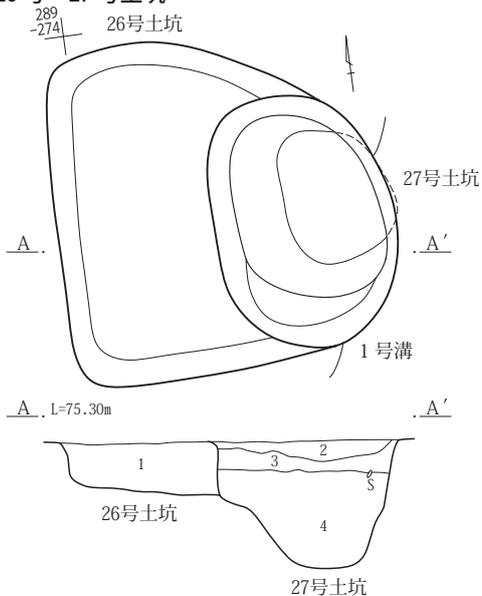


第224図 上西根4区4号・9号・11号～14号・20号・25号土坑と9号・11号・14号土坑出土遺物



第225図 上西根4区6号・15号・17号・32号・35号・36号・39号～42号土坑と15号土坑出土遺物

26号・27号土坑



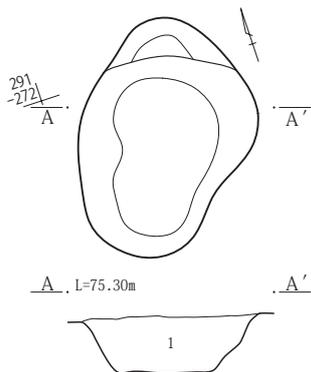
26号土坑A-A'

1 灰黄褐色土 小礫を多量に、IV b層黄橙色粘質土小塊・V b層小塊を僅かに含む

27号土坑A-A'

2 黄灰色土 灰白色土小塊を少量、小礫を僅かに含む
3 灰白色土 黄灰色土小塊を少量含む
4 黒褐色土 小礫を多量に、灰白色土を少量含み、遺物を含む

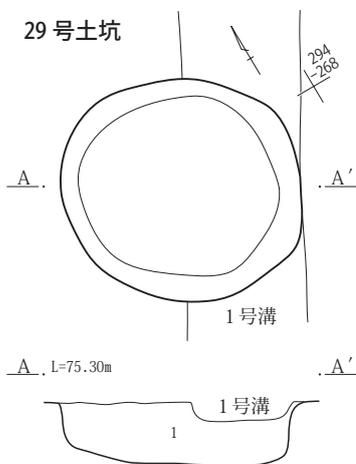
28号土坑



28号土坑A-A'

1 暗灰黄色土 V b層・小礫を多量に含む

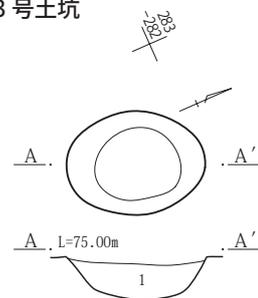
29号土坑



29号土坑A-A'

1 暗褐色土 黄灰色砂質土・小礫を少量含む

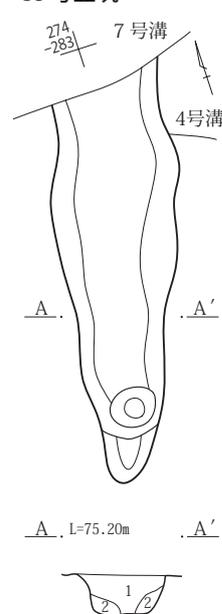
43号土坑



43号土坑A-A'

1 黒褐色土 白色粒を僅かに含む

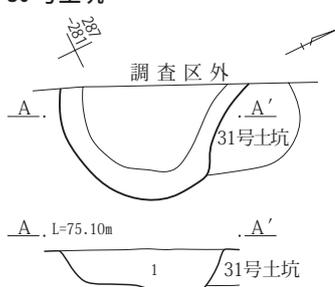
38号土坑



38号土坑A-A'

1 黒褐色土 白色粒を少量含む
2 暗褐色土 白色粒を僅かに含む

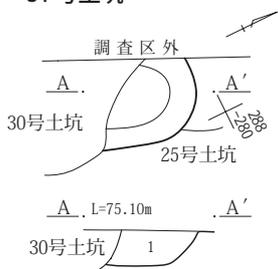
30号土坑



30号土坑A-A'

1 灰黄褐色土 淡黄色土大塊・黒褐色土小塊を少量、焼土小塊を僅かに含む

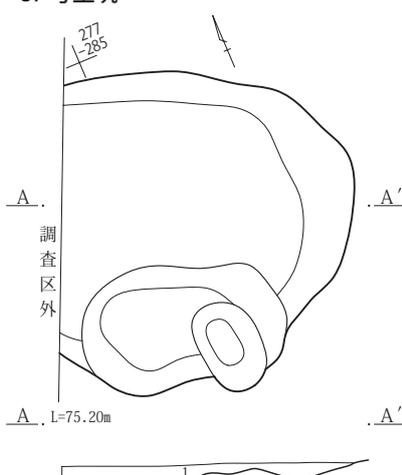
31号土坑



31号土坑A-A'

1 褐灰色土 灰黄色土・焼土小塊を僅かに含む

37号土坑



37号土坑A-A'

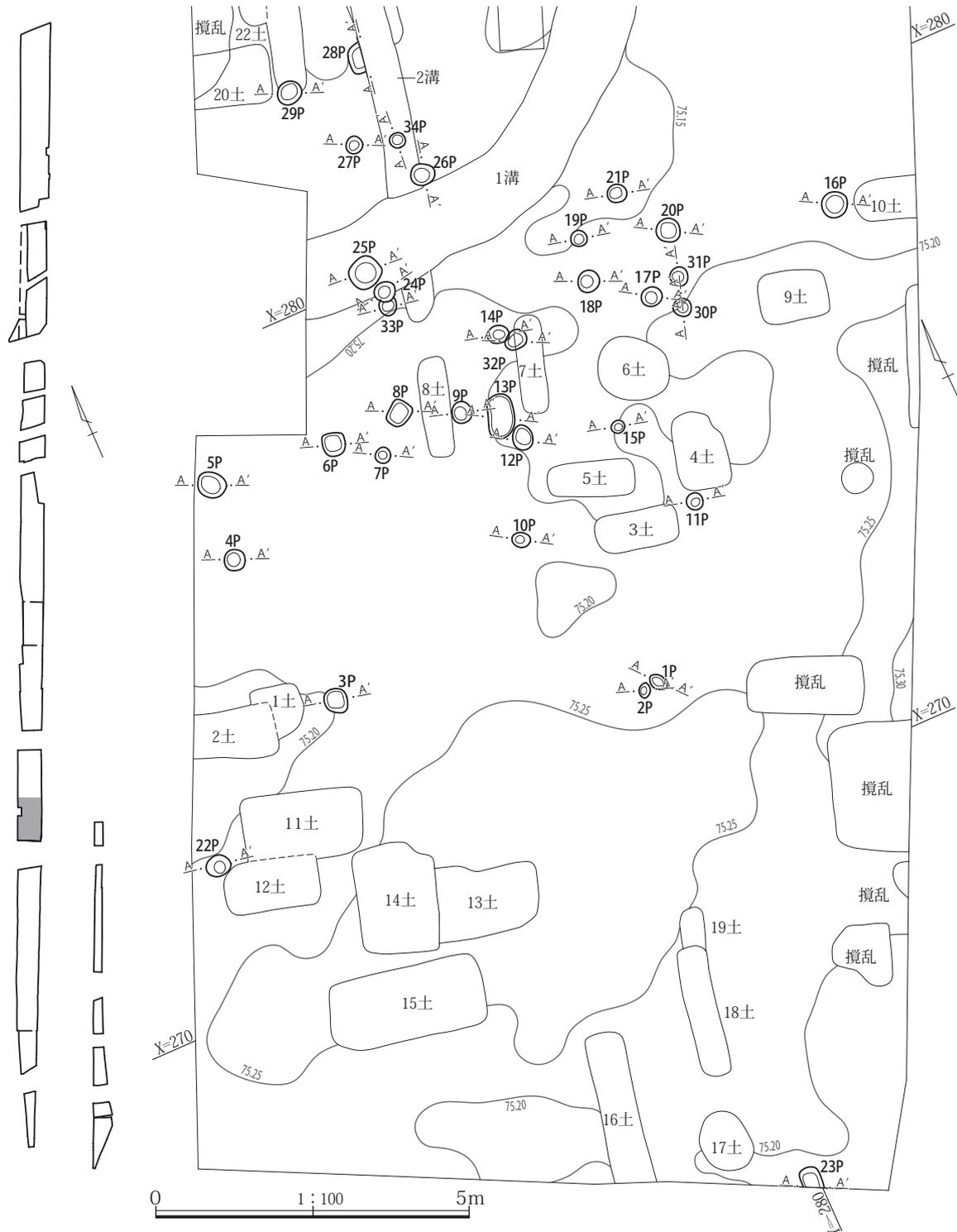
1 黄灰色土 暗褐色土・灰黄色土塊を含む

第226図 上西根4区26号～31号・37号・38号・43号土坑と26号・27号土坑出土遺物

7. ピット(第227・228図 PL.136)

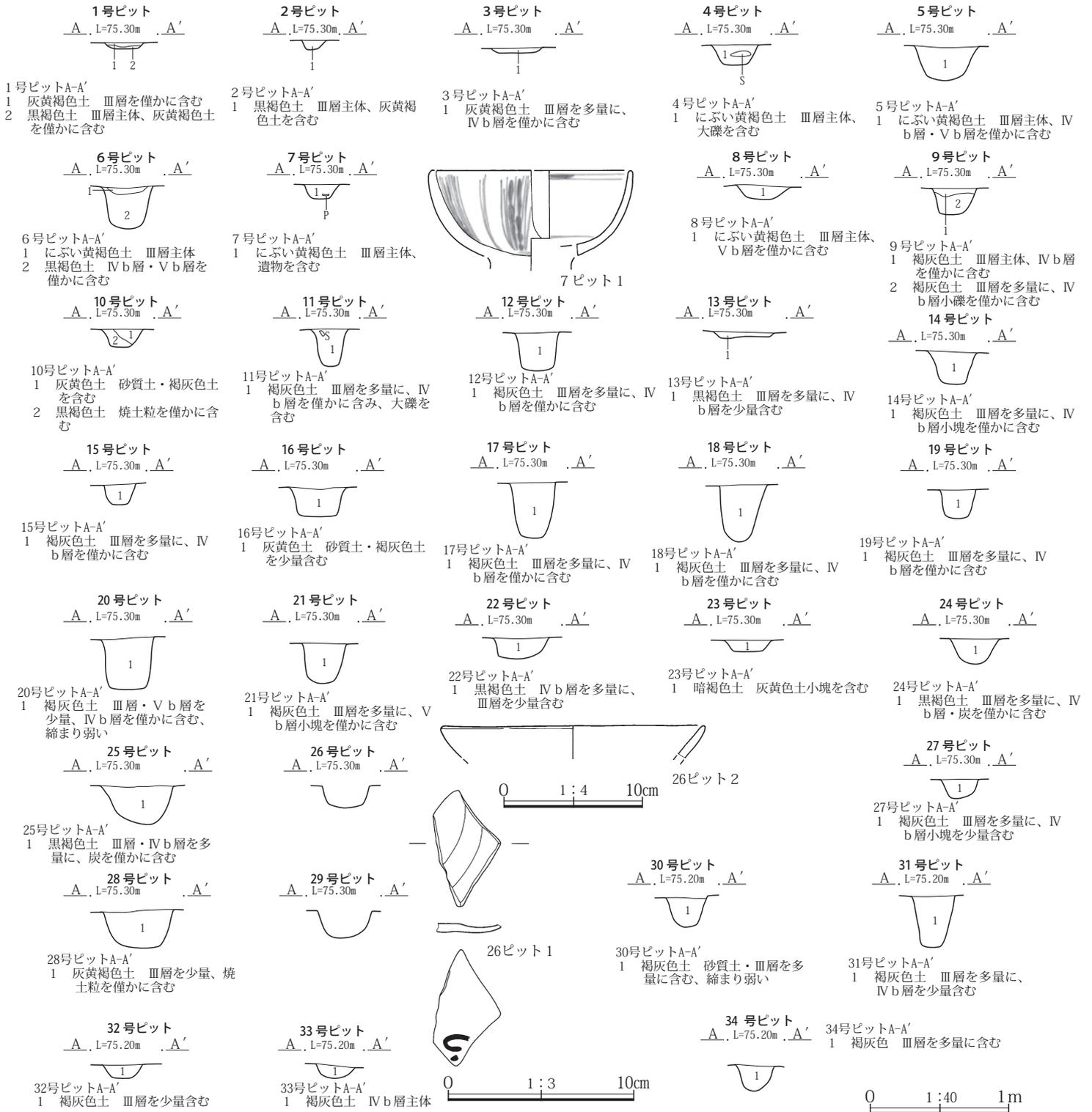
ピットは34基検出した。すべて調査区南部に集中する。遺構検出面はVb層上面である。整理作業でも、位置や間隔、埋没土の特徴から、掘立柱建物や柵として組まないか検討を行ったが、建物などに認識できるものはなかった。埋没土はすべてのピットで共通性が高く、褐灰色土および褐色土を主体とする。各ピットの規模や出土

遺物の点数については、328・331ページに示す。4号ピットの埋没土から20cm大の扁平礫が出土した。7号ピットの埋没土からは近現代の磁器(7ピット1)が出土した。また、26号ピットでは、土師器杯(26ピット1)と土師器甕(26ピット2)が出土している。26ピット1は底部片で外面に墨書が見られるが、文字の判読はできなかった。これらのピットの時期は遺構の重複関係や埋没土の特徴から、中世以降と考えられるが、詳細は不明である。



第227図 上西根4区ピット全体図

第4章 上西根遺跡の調査

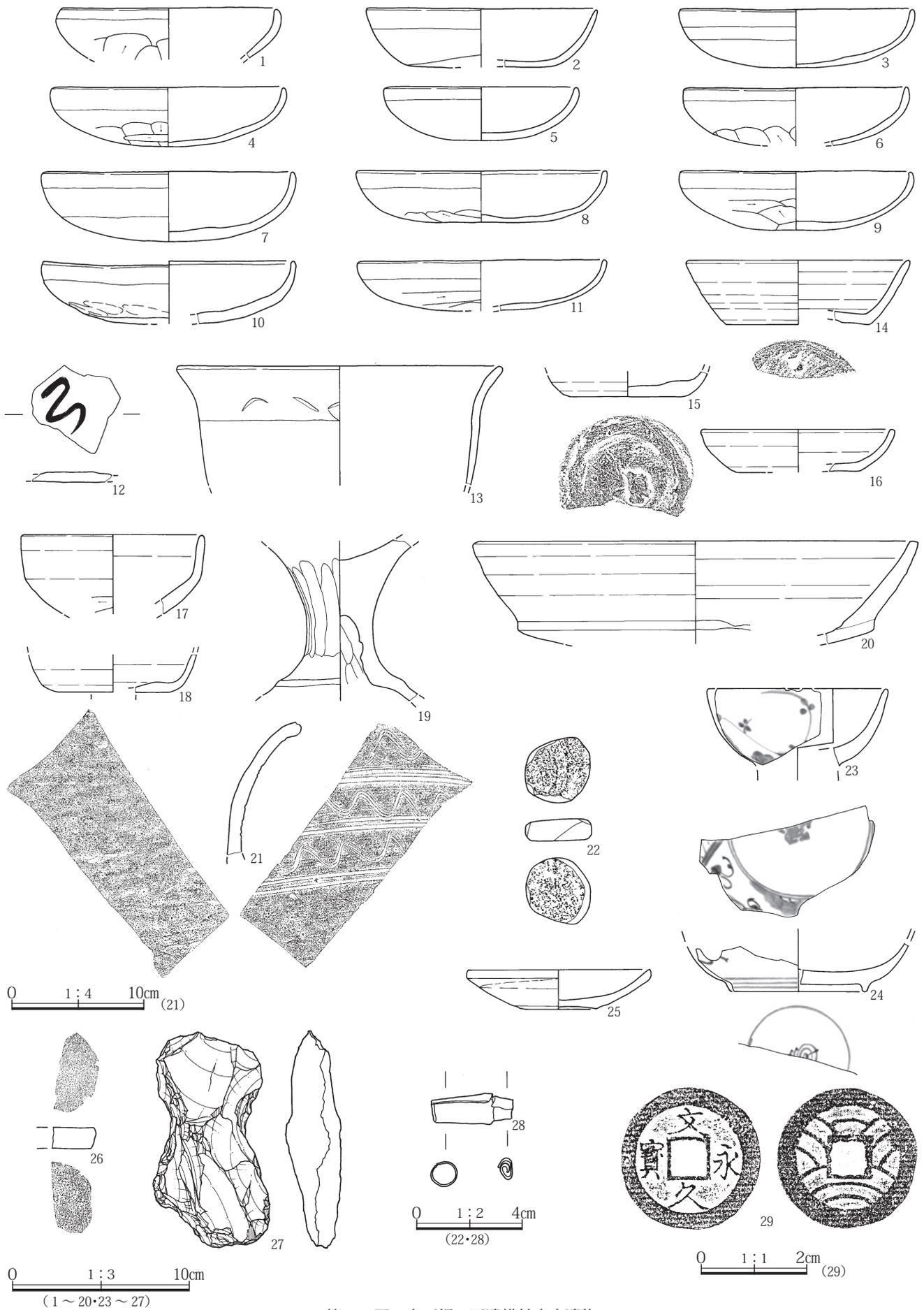


第228図 上西根4区1号～34号ピット土層断面と7号・26号ピット出土遺物

8. 遺構外から出土した遺物(第229図 PL. 136)

遺構外から出土した遺物は、土師器1,377点、須恵器173点、陶磁器72点、縄文土器7点、時期不明土器29点、近現代瓦7点、土製品2点、石器2点、礫1点、鉄製品4点、銅製品2点、鉄滓2点である。このうち器形や時期がわかるものや特徴的な遺物を29点図示した。土師器および須恵器は竪穴住居の時期(7世紀末から9世紀)と

合致している。20は須恵器で盤としたが器形の詳細は不明で、蓋の可能性もある。陶磁器は近世のものと同近現代のものが見られる。打製石斧(27)は黒色頁岩製の打製石斧で、二次加工が粗く、刃部に摩滅が認められないことから未成品と考えられる。28は煙管吸口で、薄い板状の金属を円筒形に整形している。右端は変形して扁平になっている。29は「文久永寶」(初鑄年1863年)で書体は真文である。



第229図 上西根4区遺構外出土遺物

第5節 5区の調査

1. 概要

上西根遺跡5区は、国道462号拡幅部分の調査であるため調査区は南北に細長く、長さ123.5m、幅約2.5～11mである。標高はおよそ74.25～75mで、北東側から南側に向かって緩やかに傾斜するものの、ほぼ平坦な地形である。上西根遺跡5区の調査面積は1134.59㎡である。

上西根遺跡5区では、古墳時代から平安時代、中世から近世の遺構を検出した。遺構の内訳は、竪穴住居2軒、柵2列、溝3条、井戸2基、土坑77基、ピット36基である。土坑は調査区北部に密集し、南部には竪穴住居および溝が分布する。遺構検出面はVb層上面であるが、部分的に堆積するVa層中で検出した遺構もある。基本土層は1号井戸の土層断面で確認した。

2. 竪穴住居

竪穴住居は2軒確認された。いずれも古墳時代終末期の住居である。遺構検出面はVb層上面である。2軒の竪穴住居は北側調査区南部で検出され、5m離れた地点に位置している。

5区1号竪穴住居(第231図 PL.87)

位置 北側調査区南部

X=38,176～38,180 Y=-56,322～-56,326

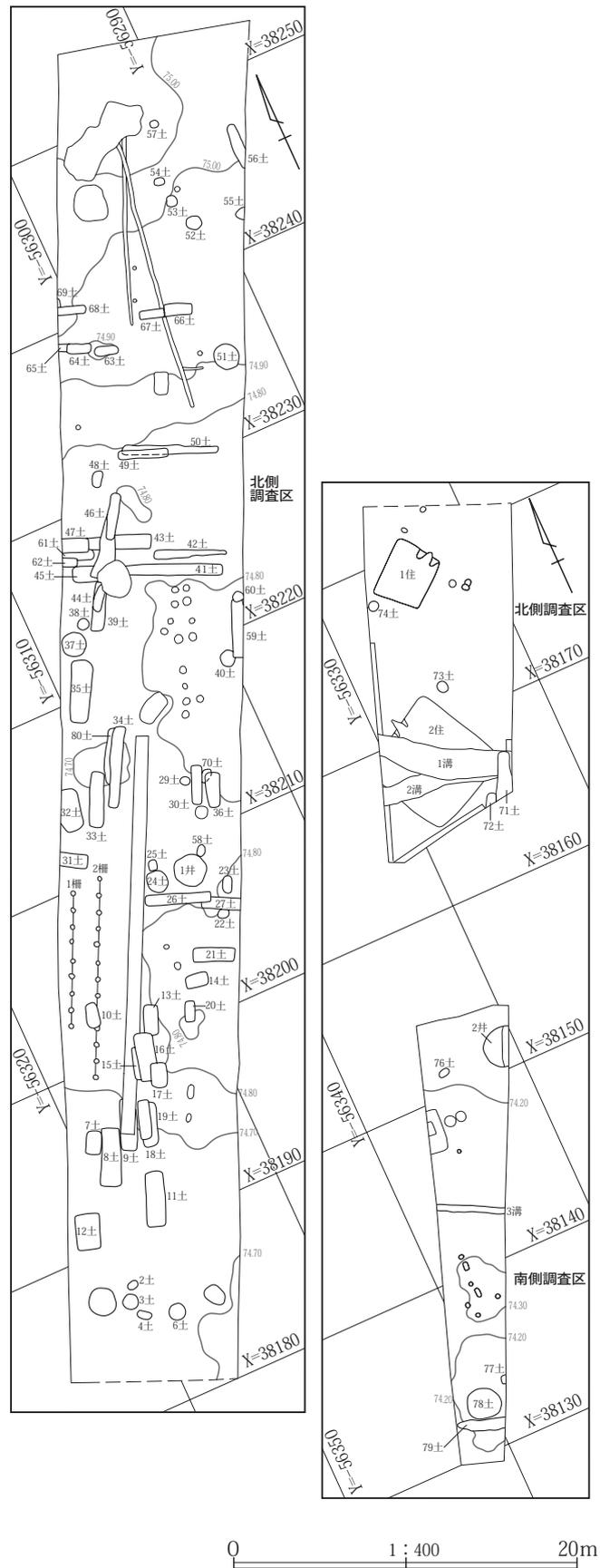
主軸方向 N-47°-E

重複 なし

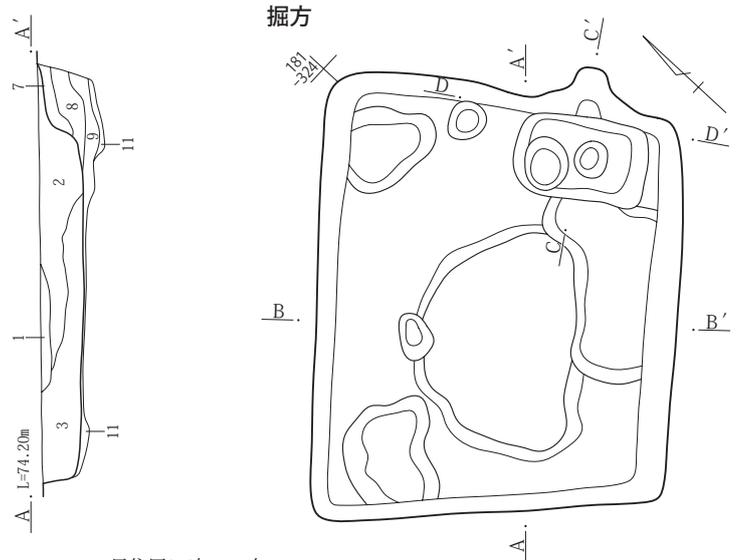
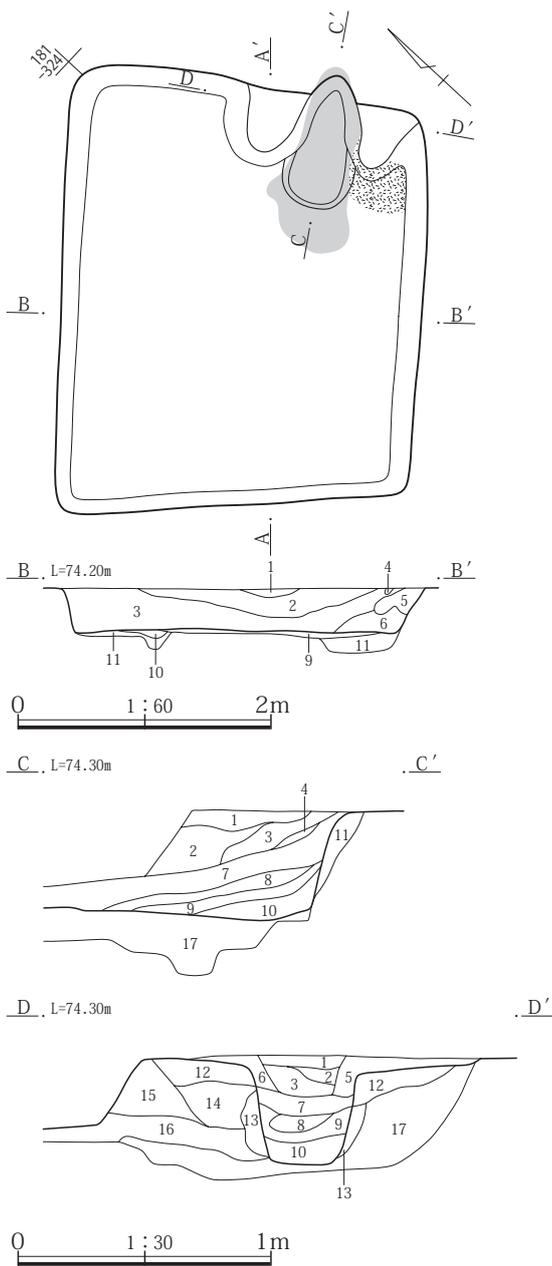
形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は3.45m、短軸長2.85mである。遺構検出面から床面までの深さは0.25～0.32m、掘方底面までの深さは0.32～0.38m、面積は6.48㎡である。

埋没土 にぶい黄褐色土および黒褐色土を主体とする。本住居は南側が標高のやや低い地点に立地しているが、土層断面の観察から南側から埋没土が堆積し、その後標高の高い北側が埋没している。さらに、埋没土1層～6層は黒褐色土塊および淡黄色土塊を多く含む土であることから、本住居は人為的に埋められたと考えられる。

床面 褐灰色土および灰黄褐色土で構築され、ほぼ平坦



第230図 上西根5区全体図



1号住居A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄色土 黒褐色土塊を多量、白色粒を少量含む(1~6埋没土)
- 2 黒褐色土 白色粒・淡黄色土塊を多量に含む
- 3 黒褐色土 淡黄色土塊を多量、白色粒を少量含む
- 4 黒色土 白色粒を少量含む
- 5 黒色土 白色粒を少量、浅黄色土塊を含む
- 6 黒褐色土 淡黄色土塊・白色粒を含む
- 7 黒褐色土 明褐色土小塊を少量、焼土粒を僅かに含む(カマド袖土)
- 8 褐灰色土 灰・焼土粒を多量に含む(カマド袖土)
- 9 褐灰色土 黒褐色土小塊を少量含む(9~11掘方土)
- 10 灰黄褐色土 褐灰色土を少量含む
- 11 褐灰色土 砂質土・黄色土小・大塊を多量に含む

1号住居カマドC-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 浅黄色土・白色粒を少量含む
- 2 黒褐色土 浅黄色土を僅かに含む
- 3 黒褐色土 焼土小塊・粒・浅黄色土を僅かに含む
- 4 褐灰色土 黒褐色土を含む
- 5 黒褐色土 白色粒を少量、焼土小塊を僅かに含む
- 6 黒褐色土 白色粒を僅かに含む
- 7 褐灰色土 焼土小塊・粒を少量含む
- 8 褐灰色土 黒褐色土を多量に、焼土小塊・粒を少量含む
- 9 灰黄褐色土 橙色焼土小・大塊を多量に含む
- 10 灰黄褐色土 青色灰多量に、焼土小塊・粒を少量含む
- 11 褐灰色土 焼土小・大塊を多量に含む
- 12 黒褐色土 明褐色土小塊を少量、焼土粒を僅かに含む
- 13 褐灰色土 焼土粒・灰を多量に含む
- 14 褐灰色土 灰・焼土粒を多量に含む
- 15 褐灰色土 灰・焼土粒・にぶい黄橙色土を少量含む
- 16 褐灰色土 黒褐色土小塊を少量含む
- 17 灰黄褐色土 褐灰色土を少量含む

第231図 上西根5区1号竪穴住居

である。

カマド 南東隅で1か所検出した。袖は黒褐色土および褐灰色土で構築され、袖の長さは0.6mである。焚き口幅は0.8m、燃烧部から煙道までの長さは1.13mである。焚き口から煙道にかけて広範囲に焼土が認められた。右袖周辺には灰が分布していた。使用面直上には灰を多量に含む土が堆積していた。9層は焼土塊を多量に含む灰黄褐色土で、天井崩落土と考えられる。

柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

掘方 中央部が高く、周辺で低くなっている。周辺では

小さな凹凸が多数認められ、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器30点が埋没土から出土した。いずれも細片のため図示しなかったが、7世紀代の特徴を持つ土師器が見られた。

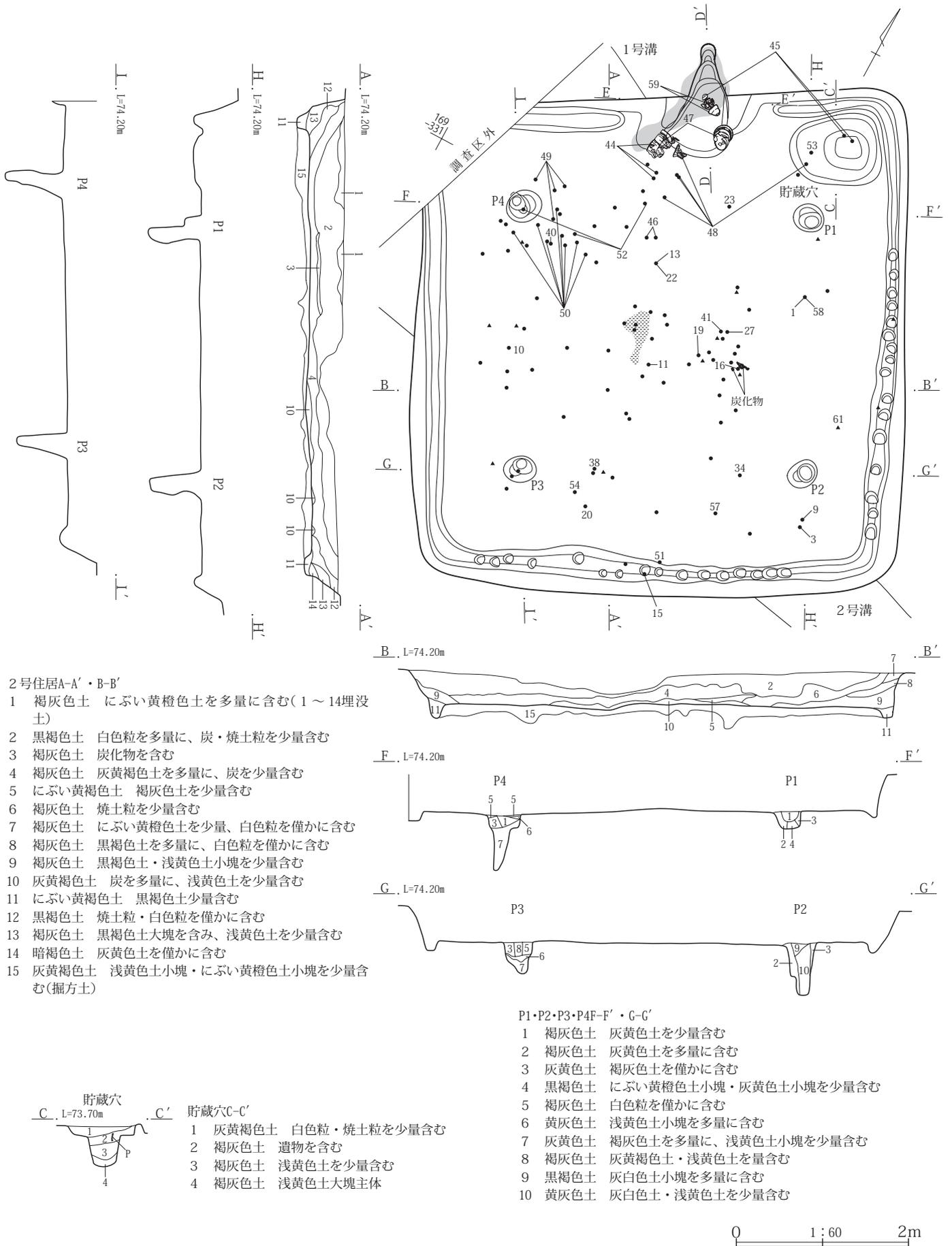
所見 出土遺物から、時期は7世紀と考えている。

5区2号竪穴住居(第232~236図 PL.88~90・136・137)

位置 5区北側調査区南部

X=38,164~38,171 Y=-56,324~-56,330

主軸方向 N-28°-W



2号住居A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 にぶい黄橙色土を多量に含む(1~14埋没土)
- 2 黒褐色土 白色粒を多量に、炭・焼土粒を少量含む
- 3 褐灰色土 炭化物を含む
- 4 褐灰色土 灰黄褐色土を多量に、炭を少量含む
- 5 にぶい黄褐色土 褐灰色土を少量含む
- 6 褐灰色土 焼土粒を少量含む
- 7 褐灰色土 にぶい黄橙色土を少量、白色粒を僅かに含む
- 8 褐灰色土 黒褐色土を多量に、白色粒を僅かに含む
- 9 褐灰色土 黒褐色土・浅黄色土小塊を少量含む
- 10 灰黄褐色土 炭を多量に、浅黄色土を少量含む
- 11 にぶい黄褐色土 黒褐色土少量含む
- 12 黒褐色土 焼土粒・白色粒を僅かに含む
- 13 褐灰色土 黒褐色土大塊を含み、浅黄色土を少量含む
- 14 暗褐色土 灰黄色土を僅かに含む
- 15 灰黄褐色土 浅黄色土小塊・にぶい黄橙色土小塊を少量含む(掘方土)

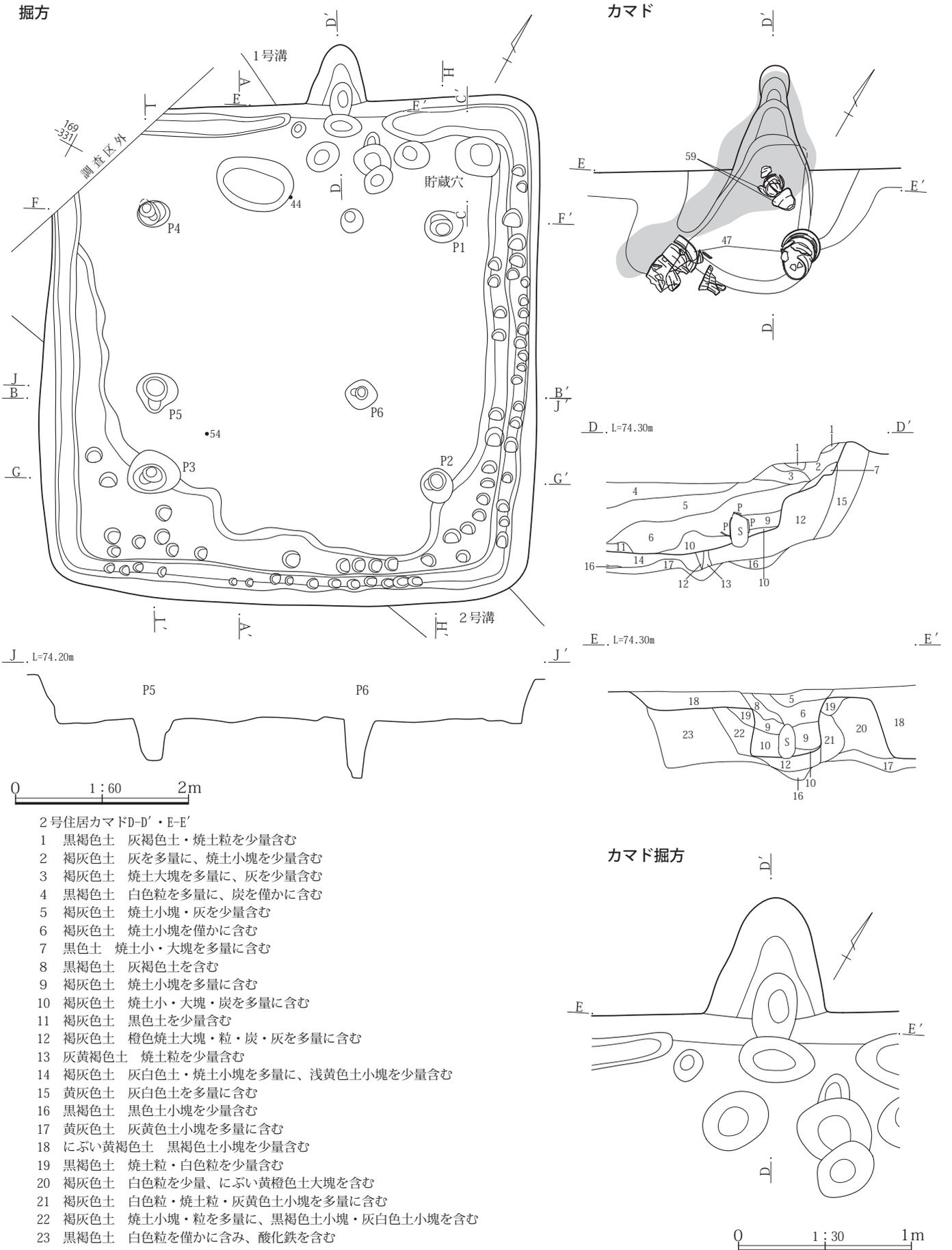
P1・P2・P3・P4F-F'・G-G'

- 1 褐灰色土 灰黄色土を少量含む
- 2 褐灰色土 灰黄色土を多量に含む
- 3 灰黄色土 褐灰色土を僅かに含む
- 4 黒褐色土 にぶい黄橙色土小塊・灰黄色土小塊を少量含む
- 5 褐灰色土 白色粒を僅かに含む
- 6 黄灰色土 浅黄色土小塊を多量に含む
- 7 灰黄色土 褐灰色土を多量に、浅黄色土小塊を少量含む
- 8 褐灰色土 灰黄褐色土・浅黄色土を量含む
- 9 黒褐色土 灰白色土小塊を多量に含む
- 10 黄灰色土 灰白色土・浅黄色土を少量含む

貯蔵穴C-C'

- 1 灰黄褐色土 白色粒・焼土粒を少量含む
- 2 褐灰色土 遺物を含む
- 3 褐灰色土 浅黄色土を少量含む
- 4 褐灰色土 浅黄色土大塊主体

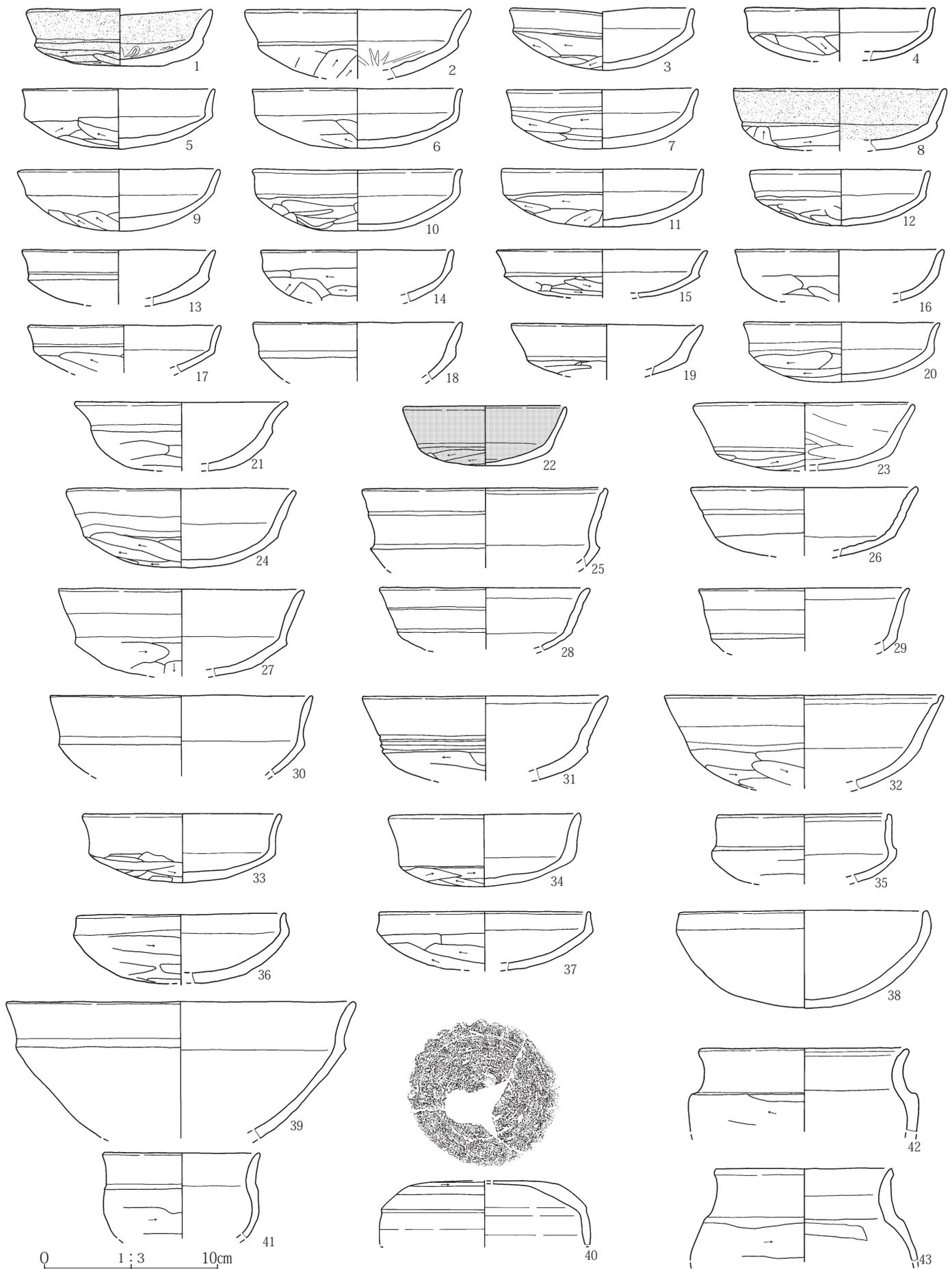
第232図 上西根5区2号竪穴住居



2号住居カマドD-D'・E-E'

- 1 黒褐色土 灰褐色土・焼土粒を少量含む
- 2 褐灰色土 灰を多量に、焼土小塊を少量含む
- 3 褐灰色土 焼土大塊を多量に、灰を少量含む
- 4 黒褐色土 白色粒を多量に、炭を僅かに含む
- 5 褐灰色土 焼土小塊・灰を少量含む
- 6 褐灰色土 焼土小塊を僅かに含む
- 7 黒色土 焼土小・大塊を多量に含む
- 8 黒褐色土 灰褐色土を含む
- 9 褐灰色土 焼土小塊を多量に含む
- 10 褐灰色土 焼土小・大塊・炭を多量に含む
- 11 褐灰色土 黒色土を少量含む
- 12 褐灰色土 橙色焼土大塊・粒・炭・灰を多量に含む
- 13 灰黄褐色土 焼土粒を少量含む
- 14 褐灰色土 灰白色土・焼土小塊を多量に、浅黄色土小塊を少量含む
- 15 黄灰色土 灰白色土を多量に含む
- 16 黒褐色土 黒色土小塊を少量含む
- 17 黄灰色土 灰黄色土小塊を多量に含む
- 18 にぶい黄褐色土 黒褐色土小塊を少量含む
- 19 黒褐色土 焼土粒・白色粒を少量含む
- 20 褐灰色土 白色粒を少量、にぶい黄褐色土大塊を含む
- 21 褐灰色土 白色粒・焼土粒・灰黄色土小塊を多量に含む
- 22 褐灰色土 焼土小塊・粒を多量に、黒褐色土小塊・灰白色土小塊を含む
- 23 黒褐色土 白色粒を僅かに含み、酸化鉄を含む

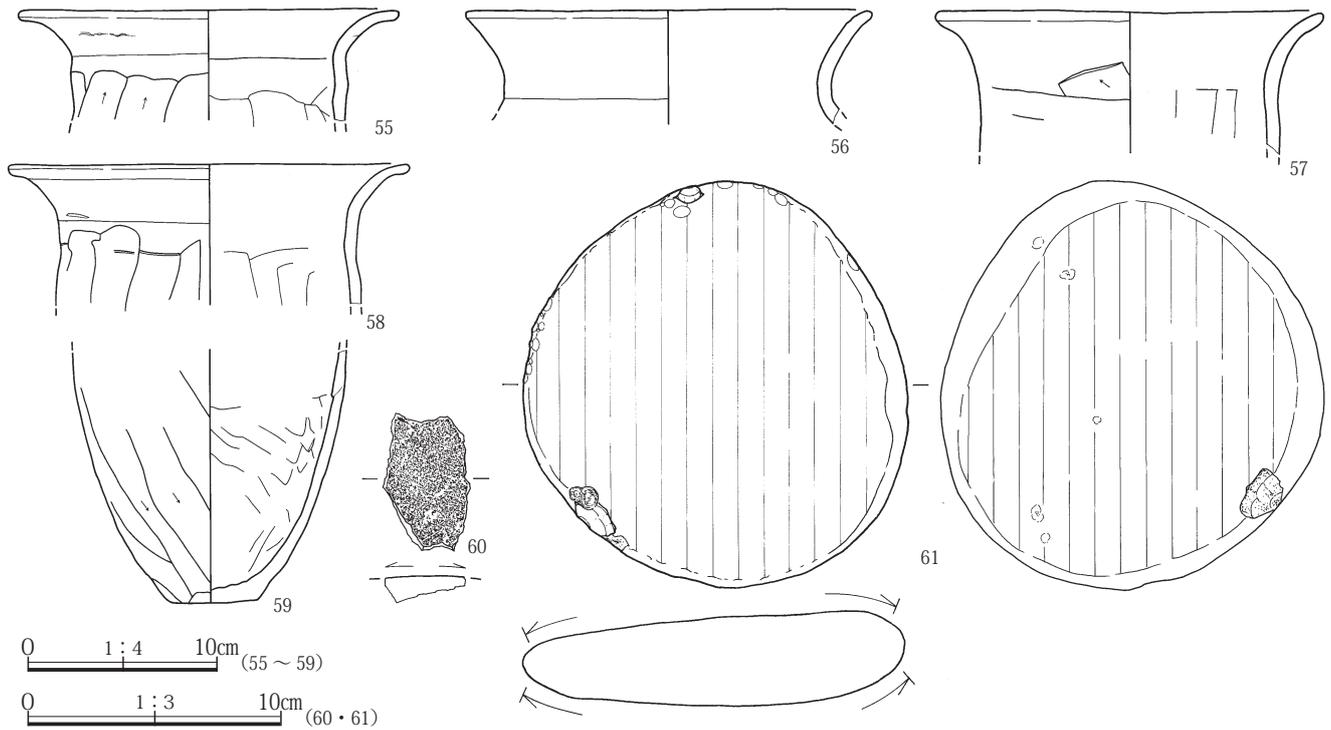
第233図 上西根5区2号竪穴住居掘方とカマド



第234図 上西根5区2号竪穴住居出土遺物(1)



第235図 上西根5区2号竪穴住居出土遺物(2)



第236図 上西根5区2号竪穴住居出土遺物(3)

重複 1号・2号溝と重複し、遺構検出時の観察から、いずれの溝よりも本住居が古い。

形状と規模 西側の一部が調査区外であるが、平面形は正方形を呈する。長軸長は5.79m、短軸長5.74m、検出面から床面までの深さは0.3～0.44m、掘方底面までの深さは約0.4～0.55m、面積は約29.73㎡である。

埋没土 黒褐色土および褐灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。10層は炭化物を多量に含んでいる。

床面 灰黄褐色土で構築され、ほぼ平坦である。中央部では、炭化物の集中が60cm×30cmの範囲に認められた。炭化物は床面から6～8cm上位で検出された。また、炭化物の集中から1m東でも大型の炭化物が検出された。床上4cmから出土し、炭化物の長さは15cmである。

カマド 北壁で1か所検出され、遺存状況は良好である。袖は褐灰色土および黒褐色土で構築され、袖の長さは0.45mである。右袖端部には土師器甕(47)が伏せた状態で埋設されていた。左袖端部では土師器甕(44)が横倒しの状態で出土した。左袖も同様に土師器甕が埋設されていたと考えられる。焚き口幅は1.02m、焚き口から煙道までの長さは1.26mである。燃烧部から煙道にかけて緩やかに傾斜している。燃烧部から煙道にかけて焼土が広範囲に認められた。燃烧部中央には、長さ20cm、直径11cmの細長い礫が掘方に埋められ据えられていた。支脚

として使用されたと考えられる。

貯蔵穴 カマド東側に隣接して検出された。隅丸方形を呈し、長径1.05m、短径0.81mである。段を有し、床面からの深さは最も深い所で0.73mである。

柱穴 P1～P6を検出した。P1～P4は床面精査中に、P5・P6は掘方精査中に確認した。P1～P6の規模と形状は以下の通りである。

P1は長径0.36m、短径0.33m、深さ0.63m、ほぼ円形。

P2は長径0.36m、短径0.29m、深さ0.59m、楕円形。

P3は長径0.37m、短径0.31m、深さ0.59m、楕円形。

P4は長径0.40m、短径0.36m、深さ0.67m、ほぼ円形。

P5は長径0.47m、短径0.46m、深さ0.49m、不整な円形。

P6は長径0.37m、短径0.34m、深さ0.70m、隅丸方形。

P1からP4は位置や規模、埋没土から、主柱穴と考えている。各柱穴間の距離はP1とP2間では2.95m、P2とP3間では3.3m、P3とP4間では3.05m、P4とP1間では3.45mである。

周溝 側壁に沿って確認された。カマド付近を除き、全周を巡っていた。幅は0.12～0.38mで、深さは0.07～0.18mである。東壁と南壁では周溝内にピットが32基検出された。周溝内ピットは円形または楕円形で、長径が0.12～0.19m、周溝底面からピット底面までの深さは0.03～0.13mである。ピットの底面は床面に対し

水平ではなく、東壁では北に、南壁では西に傾斜している。

掘方 小さな凹凸が多数見られるものの、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器1,974点、須恵器26点、石製品3点、棒状礫7点、礫2点が出土した。このうち器形や時期がわかるもの、特徴的な遺物を61点図示した。石製品のうち、1点は写真のみ掲載した(PL. 137-62)。土師器杯(10・13)と土師器甕(49・53)は床面直上から出土した。土師器甕(44・54)は埋没土と掘方土から出土した土器片同士が接合している。それ以外は埋没土中から出土した。

所見 一辺5m以上の大型の竪穴住居である。北壁にカマドが1か所設けられていた。周溝がほぼ全周を巡り、周溝内のピットが検出できた。出土遺物が非常に多かった。出土遺物から、時期は7世紀前半と考えている。

3. 柵

5区南西部で2列検出した。遺構確認面はVb層で、一部IV層下部である。発掘調査時に21基のピットが2列をなしていることを確認し柵とした。整理作業でも、他のピットを含め掘立柱建物にならないか再検討を行った。2列の柵は等間隔でピットが対になって配置されているものの、掘立柱建物とするには困難であったため、現時点では柵として報告する。1号・2号柵は規模やピット間距離、埋没土に共通性があるため、まとめて記載する。

5区1号・2号柵(第237図)

位置 5区北側調査区西壁際

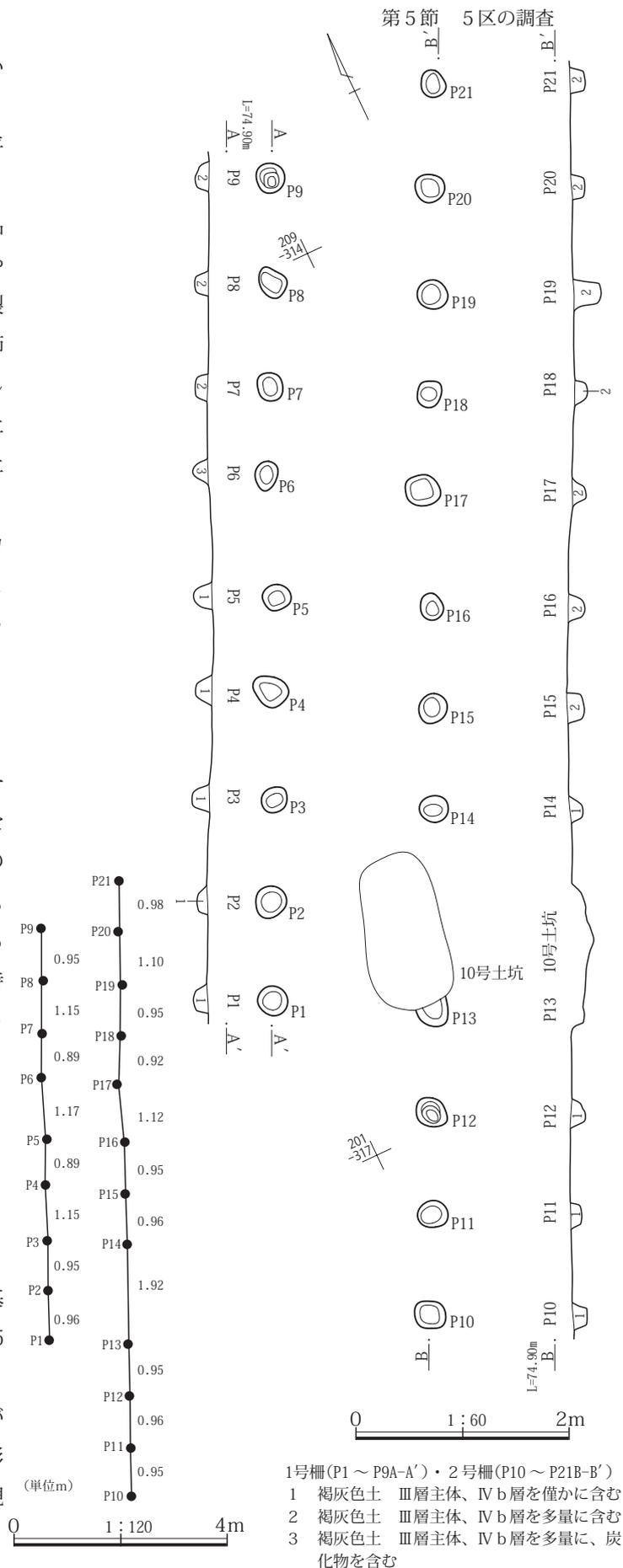
X=38,199~38,210 Y=-56,312~-56,318

主軸方向 N-26°-E

重複 10号土坑と重複し、新旧関係は不明である。

形状と規模 西側の1号柵は9基、東側の2号柵は12基のピットからなる。2列の柵は主軸方向が同一で、約1.5mの間隔で対をなし位置している。2号柵の方がピット4基分南北に長い。長さは1号柵が8.07m、2号柵が11.91mである。P1~P21は共通性が高く、形状は円形または楕円形で、断面形は逆台形である。各ピットの規模は第10表に、ピット間距離は図中に示した。

埋没土 埋没土は褐灰色土を主体とし、3つに分類した。いずれも単層で、柱痕は確認できなかった。



第237図 上西根5区1号・2号柵

第10表 1号・2号柵ピット計測表

	1号柵					2号柵			
	番号	長径	短径	深さ		番号	長径	短径	深さ
	P1	28	28	14		P10	29	26	13
	P2	30	29	9		P11	28	25	10
	P3	24	24	17		P12	33	27	12
	P4	34	27	16		P13	(22)	30	14
	P5	25	24	18		P14	27	25	12
	P6	28	21	15		P15	28	26	26
	P7	27	23	11		P16	25	21	16
	P8	28	24	15		P17	33	29	13
	P9	28	26	12		P18	25	22	12
						P19	28	28	26
						P20	28	28	12
						P21	26	22	15

(カッコ内は残存値、単位はcm)

遺物と出土状態 須恵器2点が出土した。細片のため図示しなかった。

所見 埋没土の特徴や主軸方向が南北に細長い土坑(8号・9号・11号・33号・34号土坑など)と同一であることから、時期は中世以降と推定されるが、詳細は不明である。性格も不明である。

4. 溝

3条検出された。1号・2号溝は北側調査区南端に位置し、重複していた。3号溝は南側調査区で検出された。いずれの溝もVb層上面で確認されたが、土層断面の観察から、1号・3号溝はIV層上面から掘り込まれている。

5区1号溝(第238図 PL.90・137)

位置 5区北側調査区南端

X=38,165~38,170 Y=-56,323~-56,330

重複 2号住居、2号溝、71号土坑と重複し、遺構検出時の観察から、2号住居・2号溝より新しく、71号土坑より古い。

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出された長さは7.81m、幅は1.29~1.81m、遺構検出面から底面までの深さは0.12~0.24mである。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形である。

方向 N-60°-W

底面比高 東端が西端より0.07m高い。

埋没土 灰黄褐色土が認められた。底面付近に砂等の堆積物は認められず、常時水が流れていたとは考えにくい。

遺物と出土状態 土師器53点が出土した。いずれも細片のため図示しなかった。

所見 埋没土の観察から、水路の可能性は否定できるものの、性格は不明である。遺構の重複および出土遺物から、時期は7世紀より新しく、中世以降と考えられる71号土坑より古い。

5区2号溝(第238図 PL.90)

位置 5区北側調査区南端

X=38,165~38,168 Y=-56,323~-56,330

重複 2号住居、1号溝、71号土坑と重複し、遺構検出時の観察から、2号住居より新しく、1号溝・71号土坑より古い。

形状と規模 1号溝精査時に検出した。東側および西側は調査区外である。検出された長さは7.36m、幅は0.94~1.32m、遺構検出面から底面までの深さは0.21~0.43mである。底面はピット状の凹凸があり平坦ではない。断面形は逆台形である。

方向 N-80°-W。緩やかに北にカーブしている。

底面比高 中央部が最も低く、最深部は西端より0.06m低く、東端より0.12m低い。

埋没土 褐灰色土が認められた。2層は灰白色土を主体とする。底面付近に砂等の堆積物は認められず、常時水が流れていたとは考えにくい。

遺物と出土状態 土師器40点が出土した。いずれも細片のため図示しなかった。

所見 埋没土の観察から、水路の可能性は否定できるが、性格は明らかにできなかった。遺構の重複および出土遺物から、時期は7世紀より新しく、中世以降と考えられる71号土坑より古い。

5区3号溝(第238図 PL.91)

位置 5区南側調査区中央

X=38,142~38,144 Y=-56,334~-56,338

重複 なし

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出された長さは3.96m、幅は0.35~0.41m、遺構検出面から底面までの深さは0.11~0.13mである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急である。

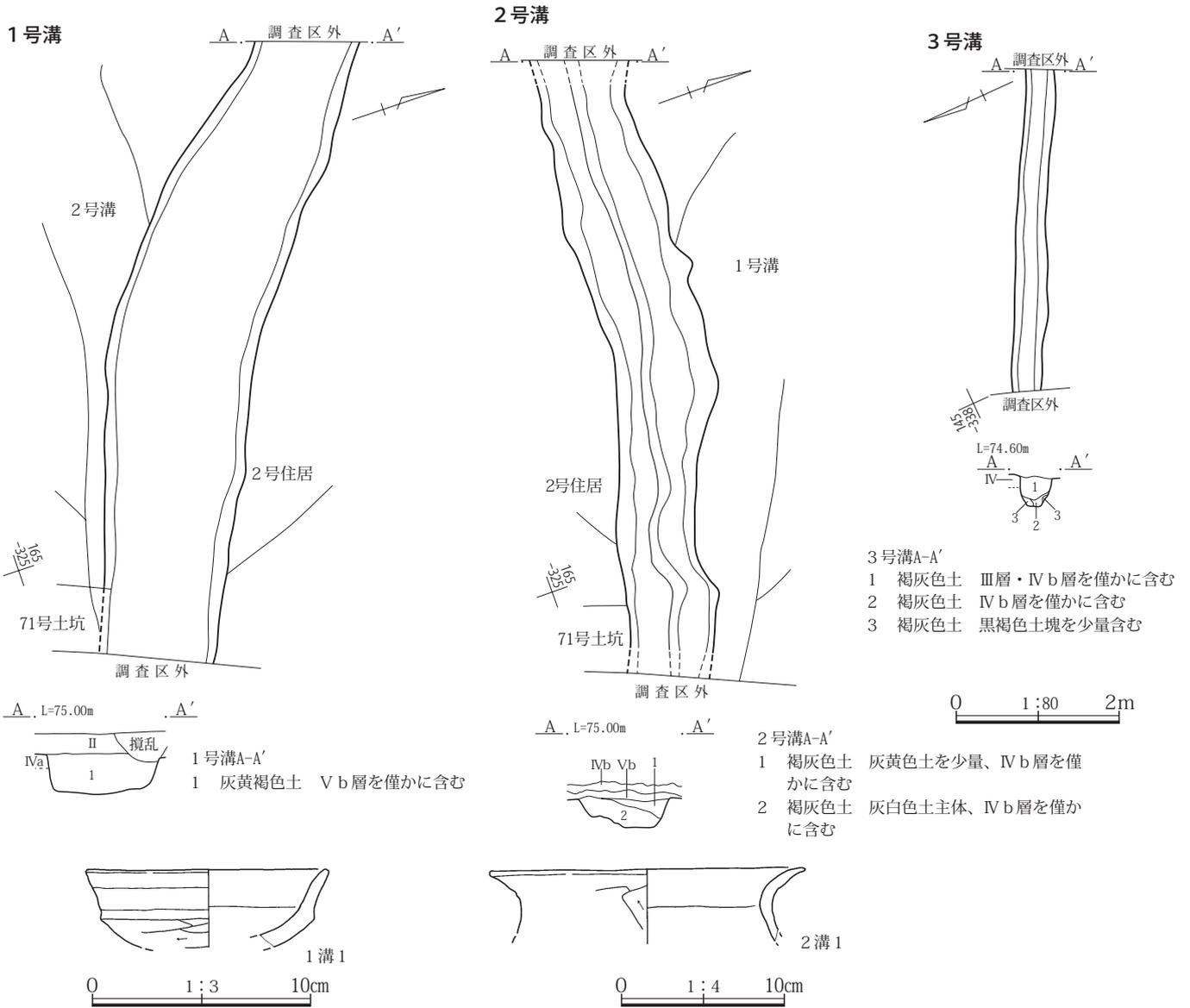
方向 N-63°-W

底面比高 比高差はほとんどない。

埋没土 褐灰色土を主体とし、自然堆積の様相を示す。底面付近に砂等の堆積物は認められず、常時水が流れていたとは考えにくい。

遺物と出土状態 須恵器2点が出土した。細片のため図示しなかった。

所見 埋没土の観察から、水路の可能性は否定できるものの、性格は不明である。出土遺物から、時期は古代以降と推定される。



第238図 上西根5区1号～3号溝と1号・2号溝出土遺物

5. 井戸

2基検出された。発掘調査時には当初2基とも土坑として着手したが、途中から井戸として調査を進めた。1号井戸は北側調査区中央部に位置し、調査区内では標高が高い地点で検出された。2号井戸は南側調査区北部に位置する。2基の井戸はVa層上面で検出された。埋没土および周囲の土層を観察するため、重機によって半裁した。

5区1号井戸(第239・240図 PL.91・138)

位置 5区北側調査区中央部

X=38,207～38,209 Y=-56,306～-56,308

長軸方向 N-60°-W

重複 なし

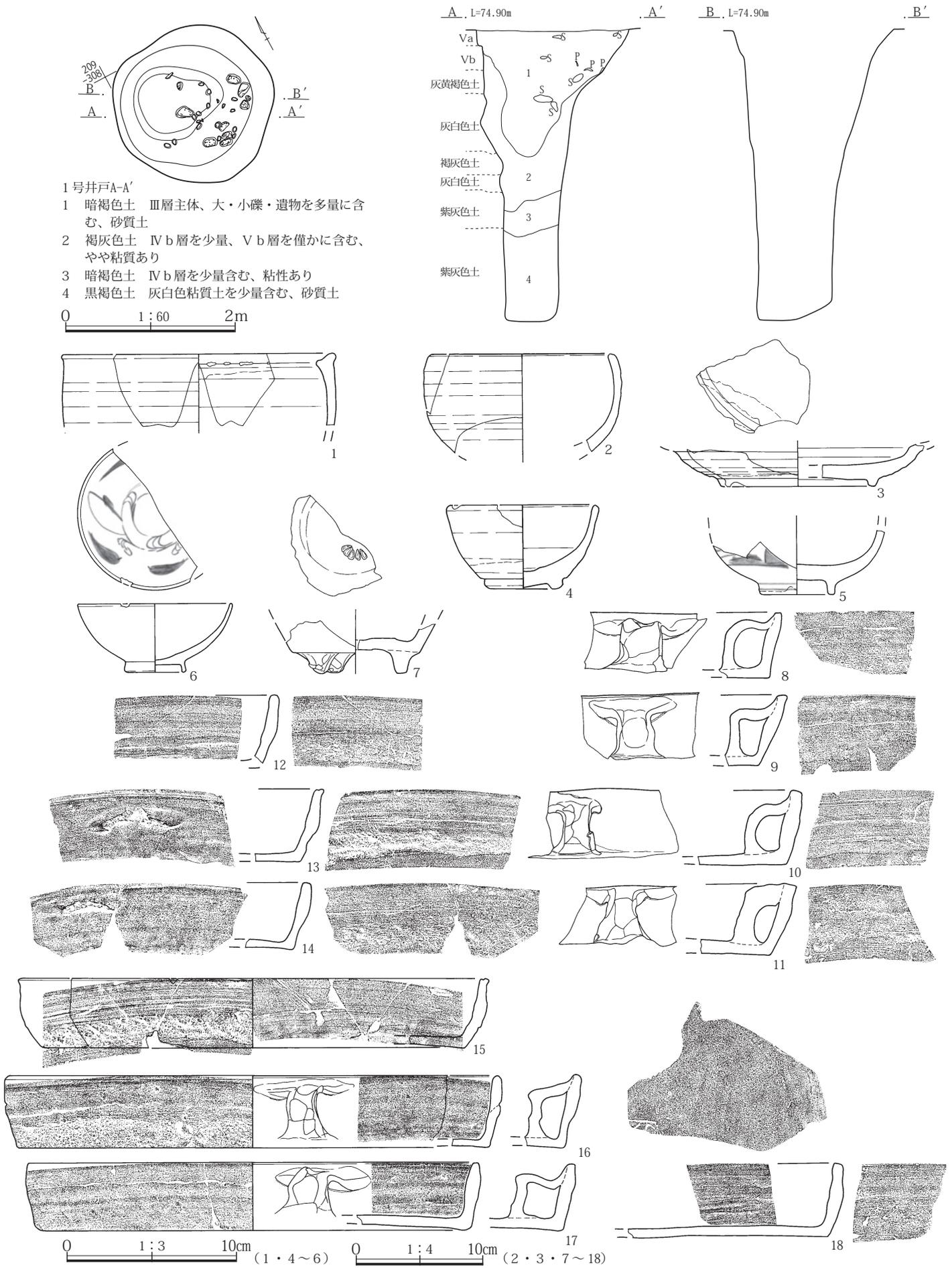
形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径は1.9m、短径

1.87mである。遺構検出面から底面までの深さは3.47mである。底面はほぼ平坦で、側壁はほぼ垂直に立ち上がり、開口部付近で傾斜が緩やかとなっている。

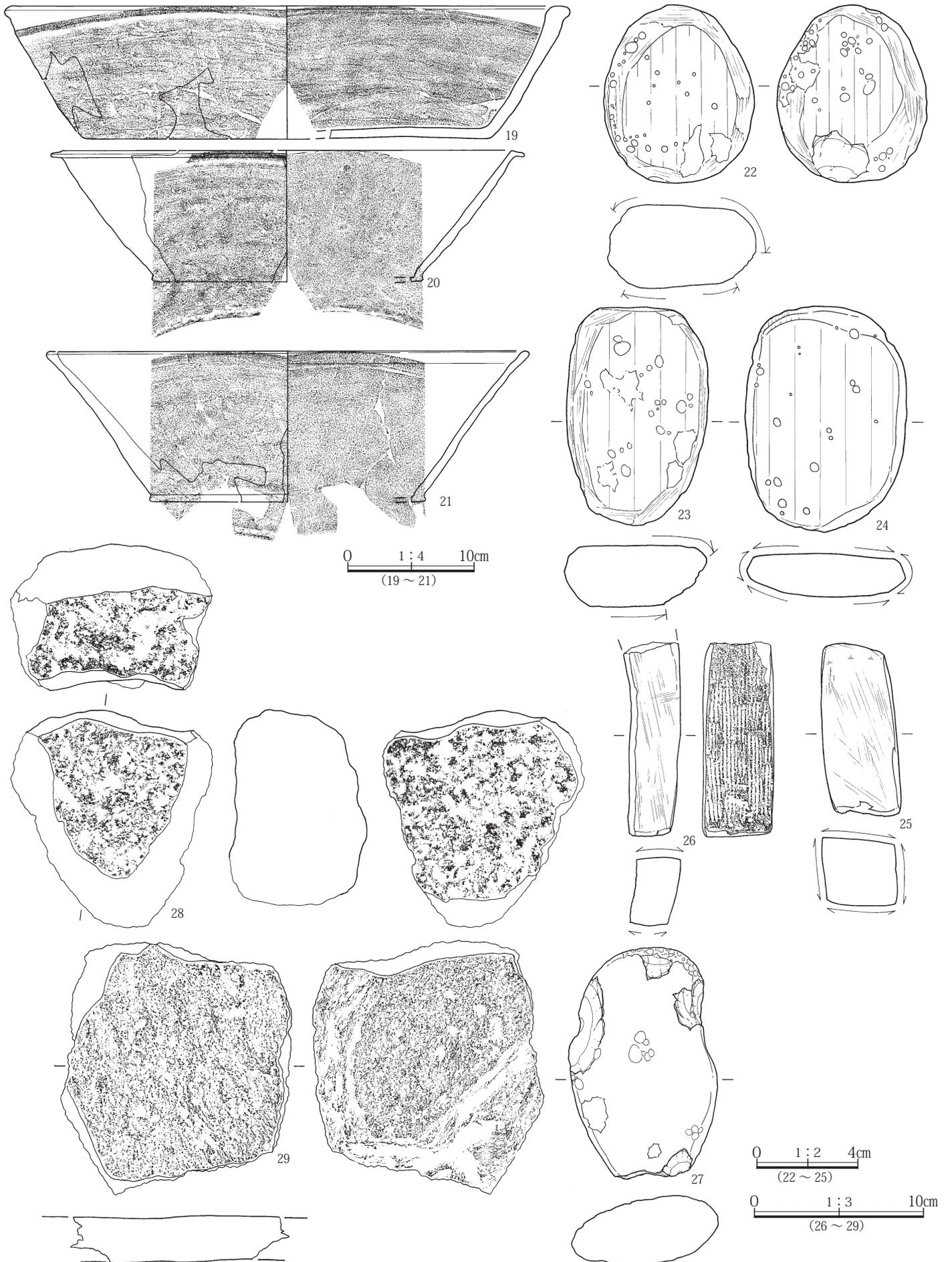
埋没土 暗褐色土および褐灰色土、黒褐色土が認められ、自然堆積の状況を示す。

遺物と出土状態 土師器6点、陶磁器57点、時期不明土器17点、埴輪3点、古代瓦4点、石製品9点、鉄滓1点が出土した。このうち29点を図示し、砥石は写真のみ(PL.138-30)、鉄滓(31)は観察表でのみ取り扱った。これらの遺物はすべて埋没土から出土した。陶磁器は1点が近現代であるが、それ以外はすべて近世のものである。1層から土器とともに、5～20cm大の礫が多数出土した。

所見 出土遺物から、時期は近世以降と考えている。



第239図 上西根5区1号井戸と出土遺物(1)



第240図 上西根5区1号井戸出土遺物(2)

5区2号井戸(第241図 PL. 91)

位置 5区南側調査区北東部

X=38,153~38,155 Y=-56,330・-56,331

長軸方向 N-23°-E

重複 なし

形状と規模 東半は調査区外である。平面形は楕円形で、長径は1.9m、短径1.87mである。遺構検出面から底面までの深さは3.47mである。底面から開口部に向かって次第に広がる断面形である。上部で直径80cm、高さ約1mの円形の木枠の痕跡が認められた。

埋没土 黄灰色土および褐灰色土、黒褐色土が認められた。1層~5層は黒褐色土塊および黄灰色土塊を含み、人為堆積である。11層は木枠の痕跡と考えている。6層~10層は人為堆積で、7層および9層は木枠の裏込め土と考えている。

遺物と出土状態 陶磁器8点、時期不明土器3点が出土し、このうち2点を図示した。すべて埋没土から出土した。陶磁器はすべて近世のものと考えている。

所見 上部1m位まで木枠が埋設されていたと考えられる。出土遺物から、時期は近世以降と推定される。

6. 土坑

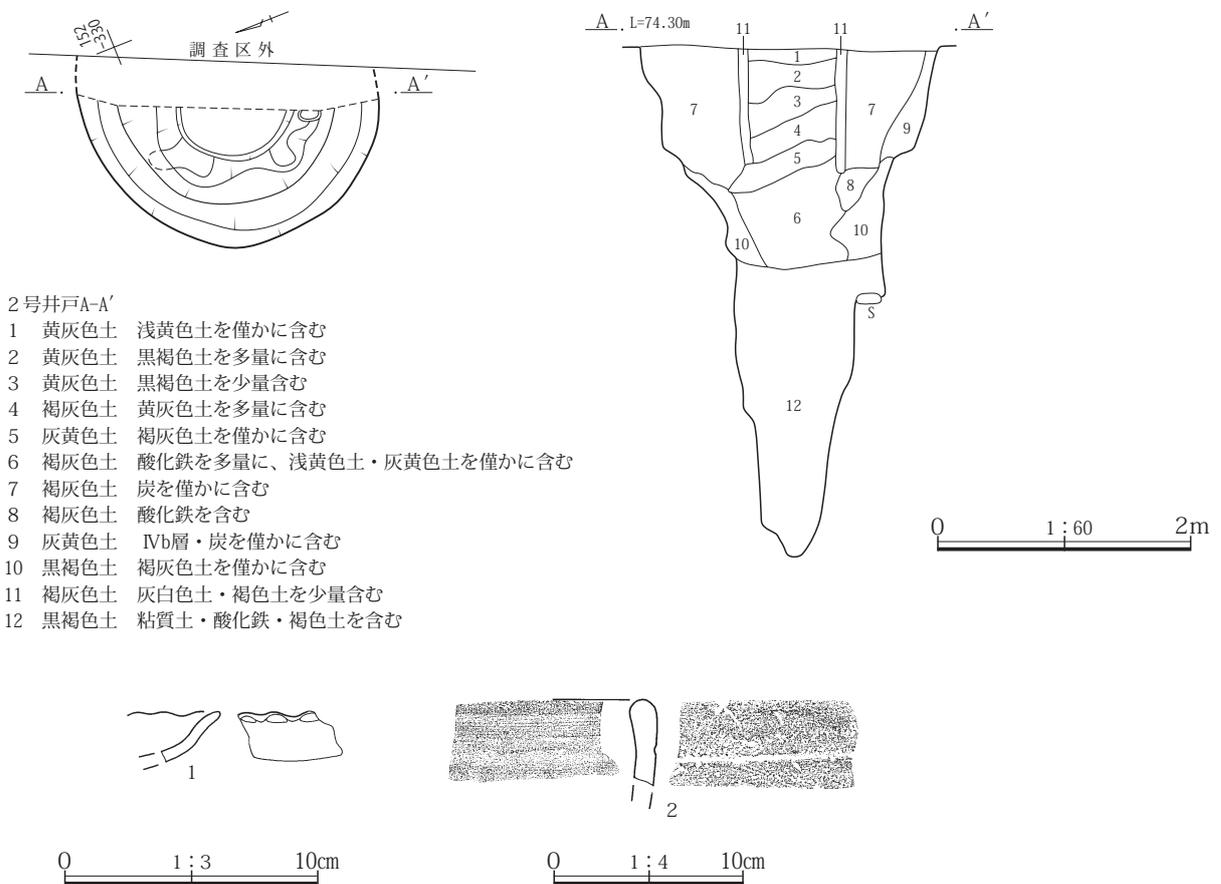
土坑は77基検出された。これらは5区全体に分布していたが、大部分は調査区北部から中央部に集中している。遺構確認面はIV層中またはV層上面である。大部分はV層上面で検出された。これらの土坑は平面形や断面形、埋没土などから、以下の5種類に分類することができた。

- ①細長い土坑 41基
- ②隅丸長方形の土坑 13基
- ③円形の土坑 6基
- ④楕円形の土坑 13基
- ⑤不定形の土坑(その他の土坑) 4基

細長い土坑(①)が半数以上を占め、次いで隅丸長方形の土坑(②)、楕円形の土坑(④)が13基と多い。それぞれの土坑の位置や規模、重複、時期、出土遺物については遺構一覧表(324・325ページ)および出土遺物点数表(331ページ)にまとめて示した。以下、5つの分類ごとに土坑を概観する。

①細長い土坑(第241~246図 PL. 92~99・138)

8号・9号・11号・15号・16号・18号・19号・21号・26号・



第241図 上西根5区2号井戸と出土遺物

27号・30号・31号・33号～36号・39号・41号～47号・49号・50号・56号・59号・61号～68号・71号・72号・79号～81号土坑がこれにあたる。65号・72号・80号土坑は一部の調査であるが、全体形を推定してこれに含めた。

平面形は細長い長方形である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。64号土坑を除き、断面形は箱形を呈する。長軸方向がN-3°-E～N-37°-Eの範囲内で、北東方向を示すものと、N-60°-E～N-70°-Eで、南東方向を示すものの2種類がある。前者と後者は90°をなしている。埋没土は共通性が高く、灰黄色土および灰黄褐色土を主体とする。

遺物は19号土坑の埋没土から椀型鍛冶滓が1点出土している。小片のため図示しなかった。

これらの土坑は形状や規模、埋没土がよく類似していることから、ほぼ同時期と考えている。埋没土の特徴から、これらの土坑の時期は、中世以降と考えているが詳細は不明である。性格も不明である。

②隅丸長方形の土坑(第246～248図 PL.92～95・97・99・138)

7号・10号・12号～14号・17号・20号・25号・32号・48号・53号・69号・77号がこれにあたる。69号・77号土坑は大半が調査区外であるが、全体形を推測してこれに含めた。53号土坑は正方形に近い平面形であるが、断面形や埋没土の特徴が他の土坑と共通するためこれに含めた。大部分は調査区北部から中央部に位置し、①の細長い土坑と分布が重なっている。

平面形は隅丸長方形で、底面は平坦である。壁の立ち上がりは急で、断面形は箱形を呈する。長軸方向がN-6°-E～N-34°-Eの範囲内で、北東方向を示すものが多く、①の細長い土坑と長軸方向が同じ土坑が多い。これらの土坑の埋没土はⅢ層由来の土を多く含む灰黄色土および灰黄褐色土を主体としよく類似している。

遺物は、12号・17号土坑で鉄製品(12土2・17土2～4)が出土した。12土2は不明鉄製品で、断面形はかまぼこ状である。表面の亀裂が著しい。17土2～4は棒状で、断面形が長方形をなす。

これらの土坑は埋没土の共通性が高いことから、同時期と考えている。埋没土の特徴から、時期は中世以降と考えているが詳細は不明である。性格も不明である。

③円形の土坑(第248図 PL.92・95～97・99)

3号・6号・37号・38号・51号・74号土坑がこれにあたる。分布に偏りはなく、調査区全体に点在している。

平面形は円形で、底面は平坦なものや凹凸があるものがある。壁の立ち上がりは急なものや比較的緩やかなものがある。埋没土は黒褐色土および灰黄色土、褐灰色土で、土坑ごとに異なっている。74号土坑は底面から開口部に向かって広がる断面形で、遺構検出面から底面までの深さは1.35mである。柱痕はなかった。これらの土坑の時期や性格は不明である。

④楕円形の土坑(第248・249図 PL.92・94・96～99)

2号・4号・22号～24号・29号・40号・54号・57号・60号・73号・76号・78号土坑がこれにあたる。分布に偏りはなく、調査区全体に点在している。

平面形は楕円形である。底面は平坦なものが多いが、78号土坑では底面中央が周囲より10cm程度高くなっている。壁の立ち上がりは急なものが多いが、土坑により多様である。埋没土は、2号・4号土坑では黒褐色土で、それ以外の土坑では灰黄褐色土または褐灰色土を主体とする。これらの土坑の時期や性格は不明である。

⑤不定形の土坑(その他の土坑)(第249図 PL.97～99・138)

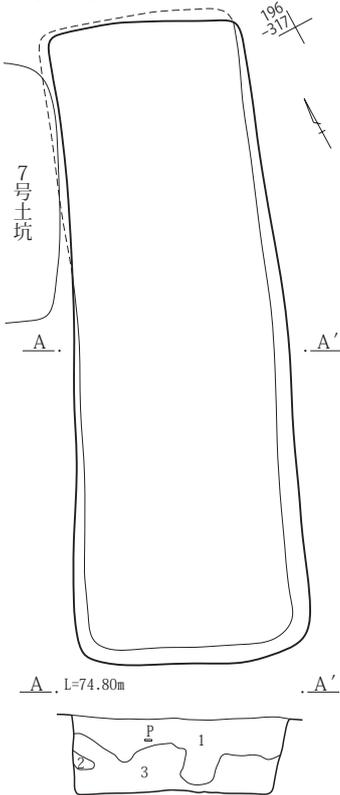
52号・55号・58号・70号土坑がこれにあたる。これらの土坑は調査区北部および中央部に位置する。

58号土坑では10～20数cm大の礫が9個検出された。周囲に同様の遺構は認められず、ここでは土坑として取り扱ったが、上西根遺跡3区の1号礎石建物の礎石と同じ特徴を持つことから、近世の礎石と考えられる。

70号土坑は長径0.87m、短径0.52m、遺構確認面から底面までの深さは0.49mである。中央に直径約35cmのピットが認められ、柱痕の可能性はある。埋没土から雲母石英片岩製の板碑が1点出土した。小片のため、写真のみ掲載した(PL.138-70土1)。出土遺物から、70号土坑の時期は中世以降と考えられる。

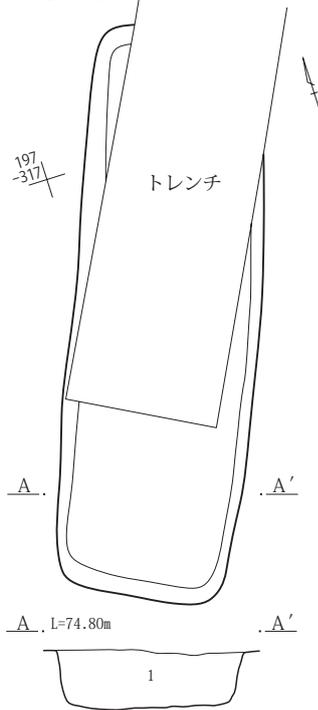
52号・55号土坑の時期や性格は不明である。

8号土坑



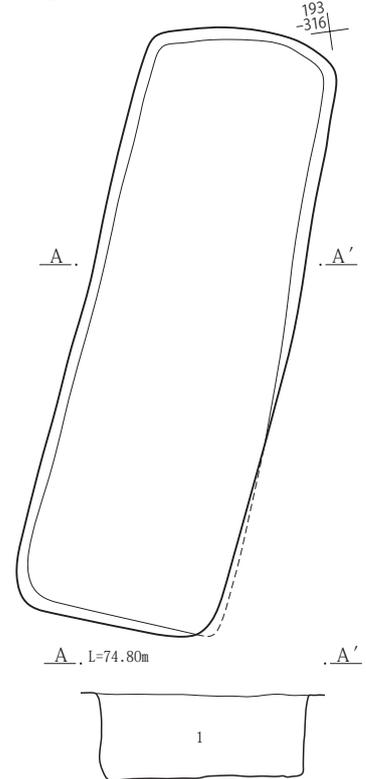
- 8号土坑A-A'
- 1 灰黄色土 III層主体、IV b層小塊を多量に含み、遺物を含む
 - 2 灰黄色土 V b層を少量含む
 - 3 黒褐色土 III層を多量に、IV b層小塊を少量含む

9号土坑



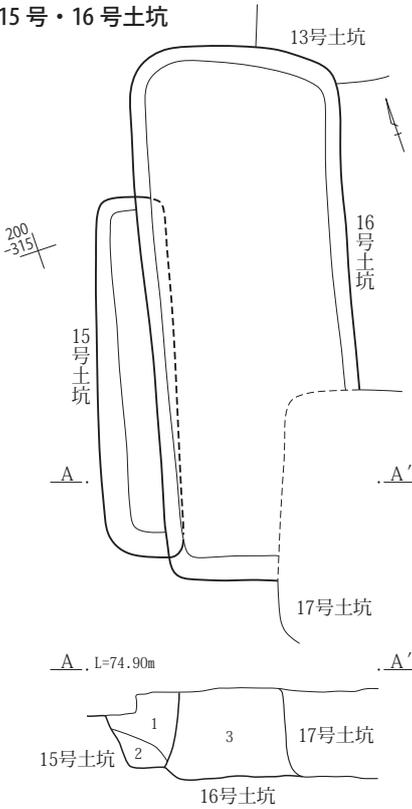
- 9号土坑A-A'
- 1 灰黄色土 III層主体、黒褐色土小塊・IV b層を僅かに含む

11号土坑



- 11号土坑A-A'
- 1 灰黄色土 III層主体、IV b層を僅かに含む

15号・16号土坑



- 15号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、暗褐色土小塊・にぶい黄褐色粘土大塊を含む
 - 2 灰黄褐色土 黒褐色土小塊を含む
 - 3 灰黄褐色土 III層主体、IV b層を少量含む

- 16号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む
 - 2 灰黄褐色土 III層主体、白色粒を少量含む

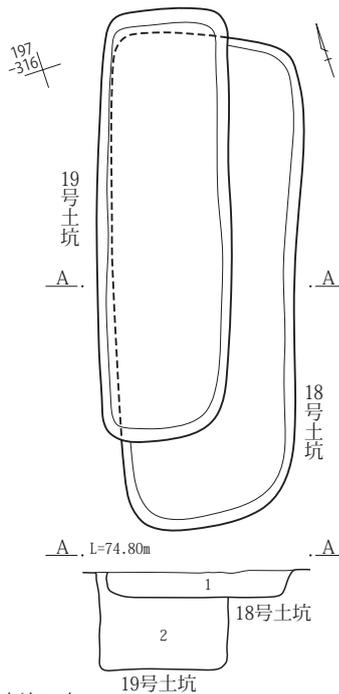
- 17号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む

- 18号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む

- 19号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む

- 20号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む

18号・19号土坑



- 18号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む

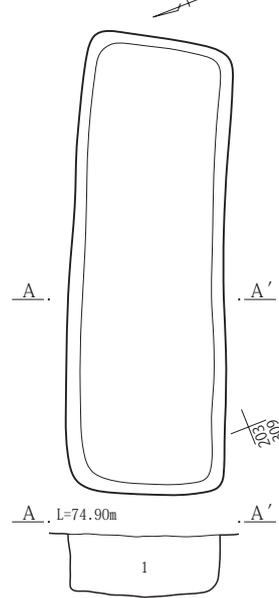
- 19号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、白色粒を少量含む

- 21号土坑A-A'
- 1 にぶい黄褐色土 III層を多量に、IV b層を少量、V b層を僅かに含む

- 26号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む

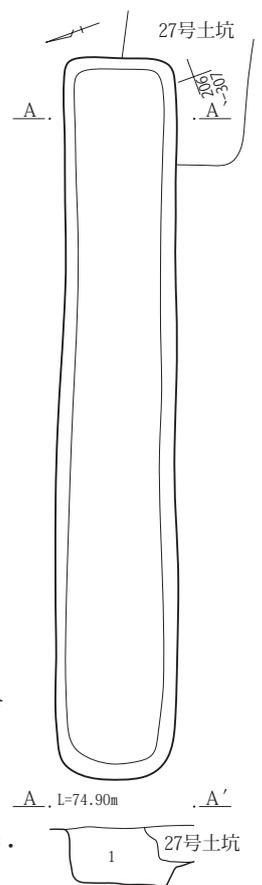
- 27号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む

21号土坑



- 21号土坑A-A'
- 1 にぶい黄褐色土 III層を多量に、IV b層を少量、V b層を僅かに含む

26号土坑

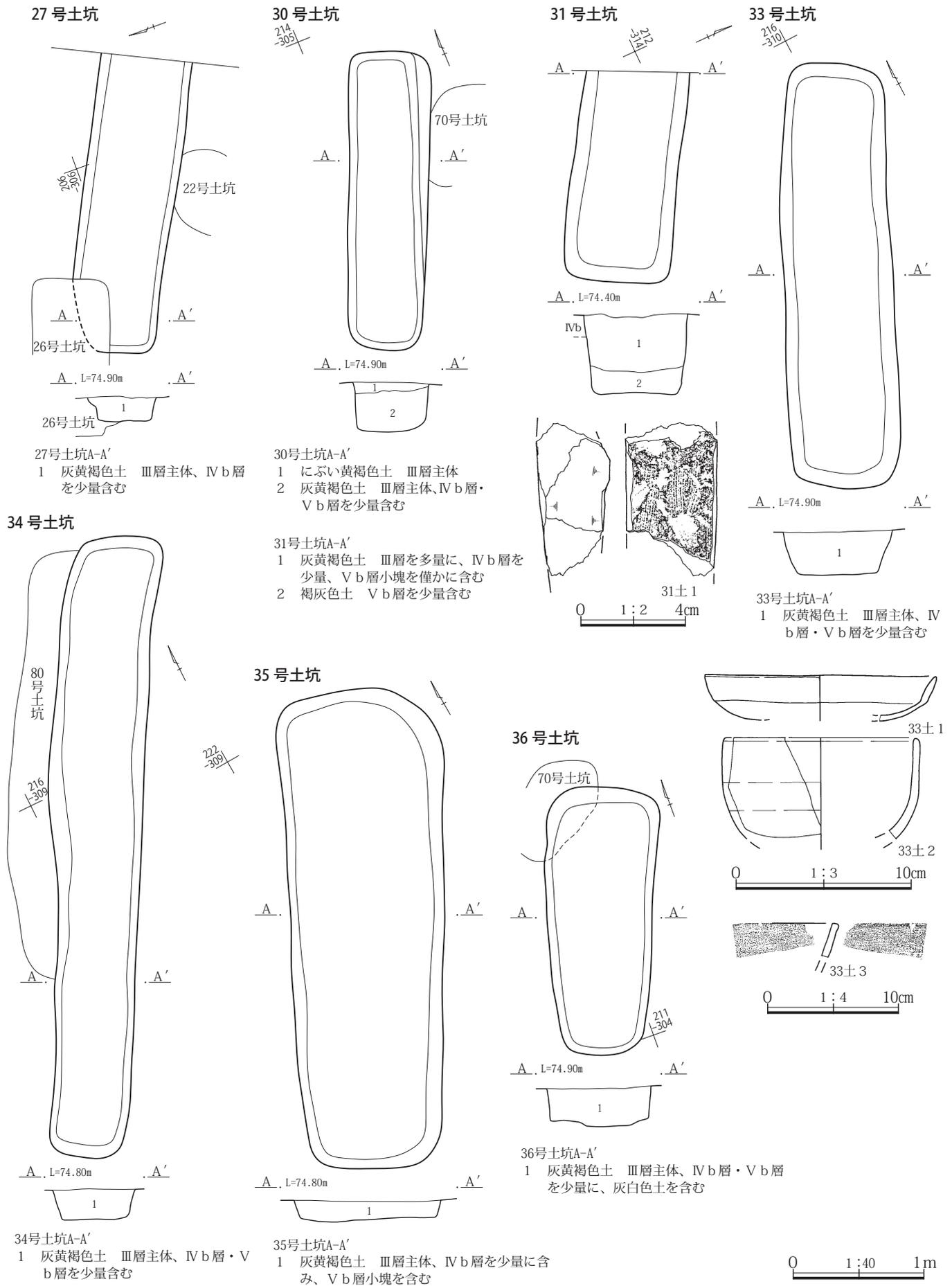


- 26号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む

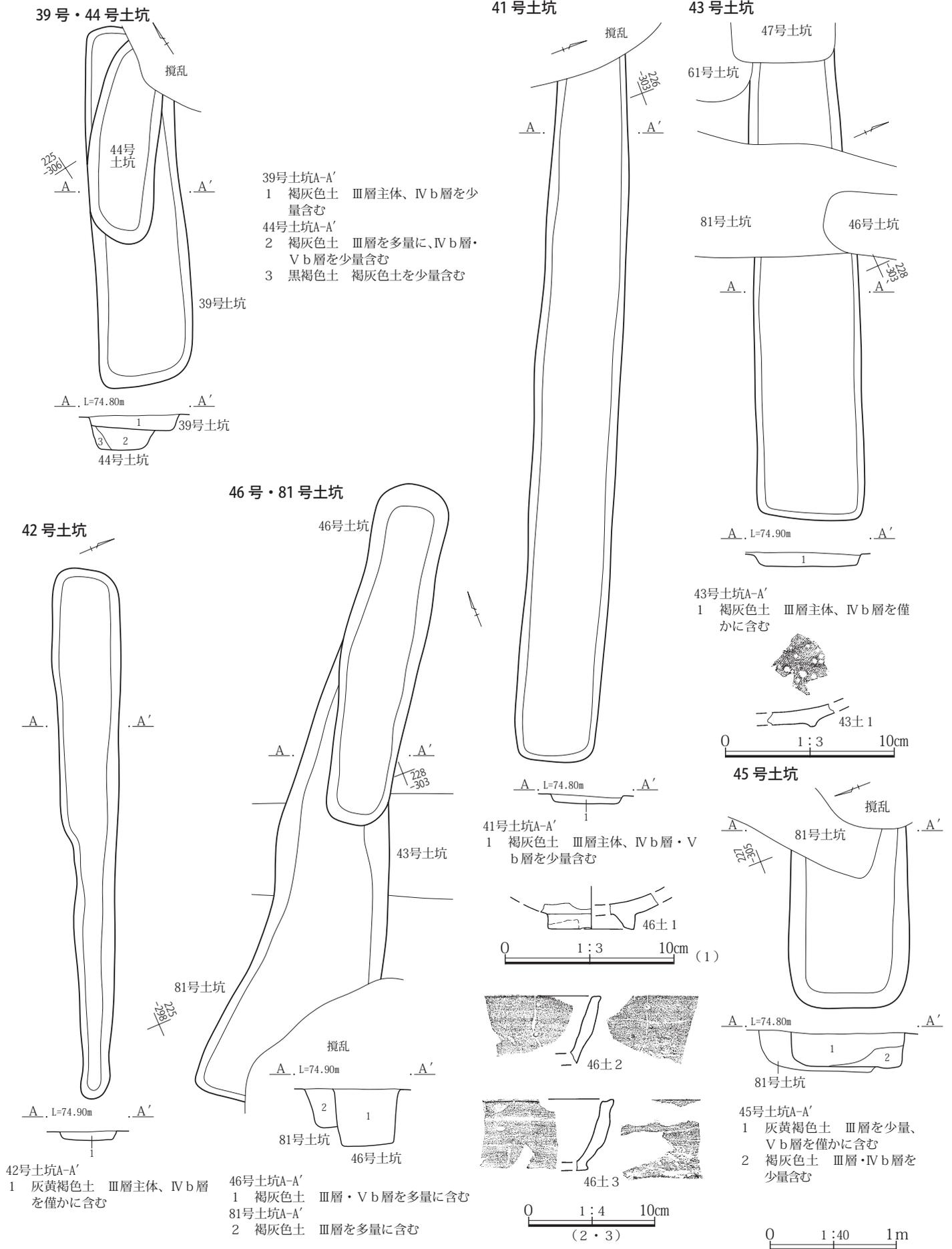
- 27号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 III層主体、IV b層・V b層を少量含む



第242図 上西根5区8号・9号・11号・15号・16号・18号・19号・21号・26号土坑

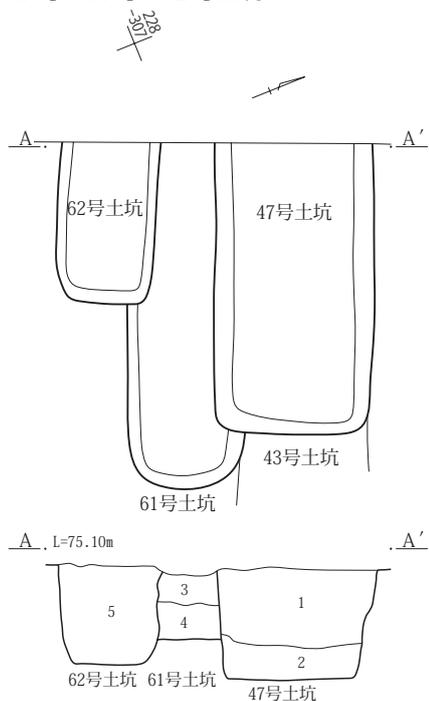


第243図 上西根5区27号・30号・31号・33号～36号土坑と31号・33号土坑出土遺物



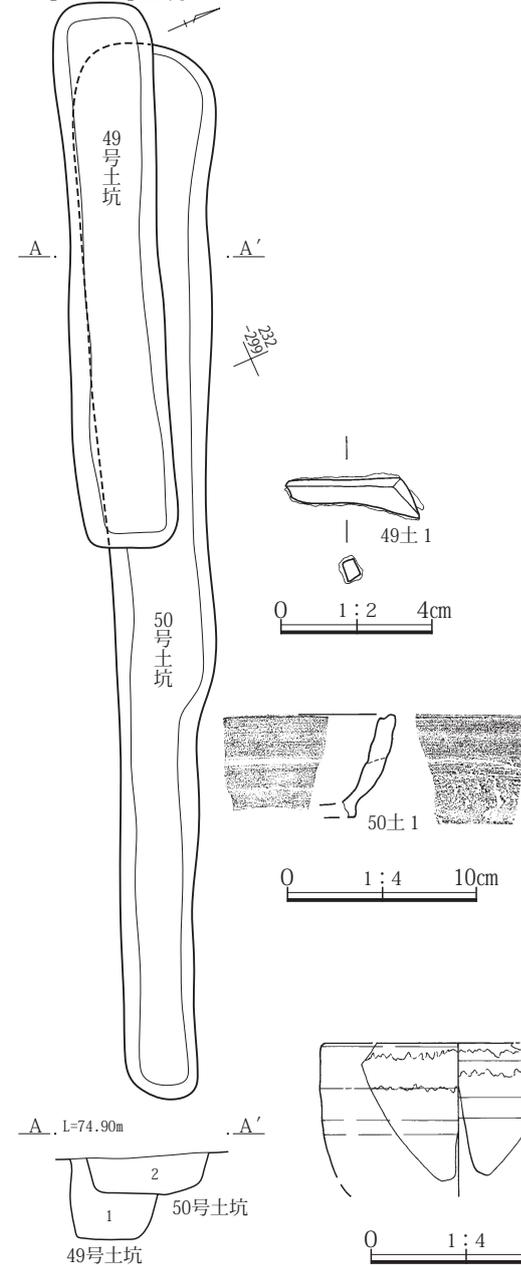
第244図 上西根5区39号・41号～46号・81号土坑と43号・46号土坑出土遺物

47号・61号・62号土坑



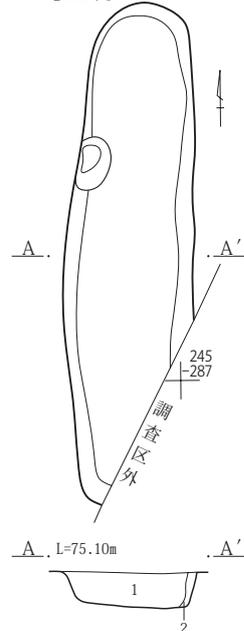
- 47号土坑A-A'
- 1 褐灰色土 Ⅲ層主体、Ⅳb層を僅かに、V b層小塊を少量含む
 - 2 褐灰色土 Ⅲ層主体、Ⅳb層・V b層小塊を僅かに含む
- 61号土坑A-A'
- 3 灰黄色土 Ⅲ層を僅かに含む
 - 4 黄灰色土 Ⅲ層主体
- 62号土坑A-A'
- 5 褐灰色土 Ⅲ層主体、Ⅳb層を僅かに含む

49号・50号土坑



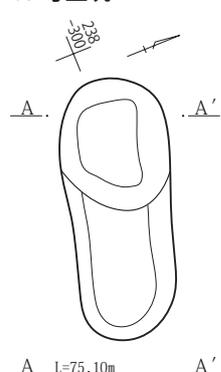
- 49号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 Ⅲ層を多量に、V b層を少量含む
- 50号土坑A-A'
- 2 灰黄褐色土 V b層を多量に、Ⅲ層を少量、小礫を僅かに含む

56号土坑



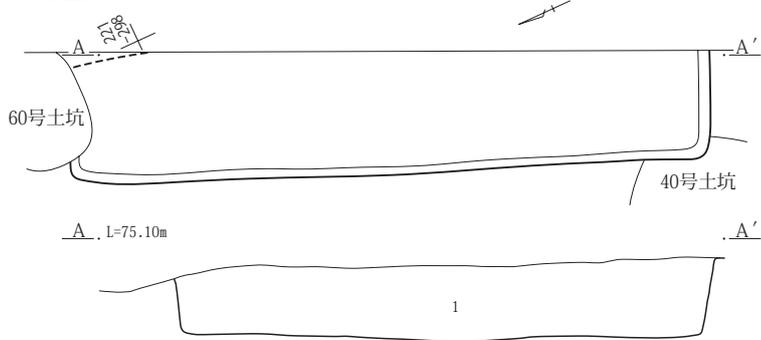
- 56号土坑A-A'
- 1 褐灰色土 Ⅲ層を多量に、V b層を僅かに含む
 - 2 黒褐色土 Ⅲ層・Ⅳb層を少量含む

63号土坑



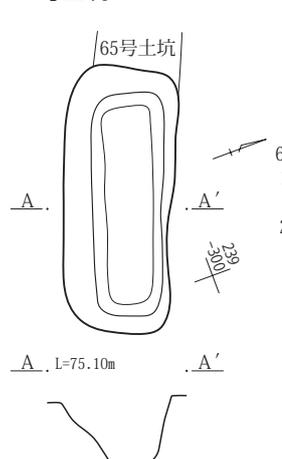
- 63号土坑A-A'
- 1 褐灰色土 Ⅲ層・V b層を少量含む
 - 2 黒褐色土 Ⅲ層主体、V b層を少量含む

59号土坑

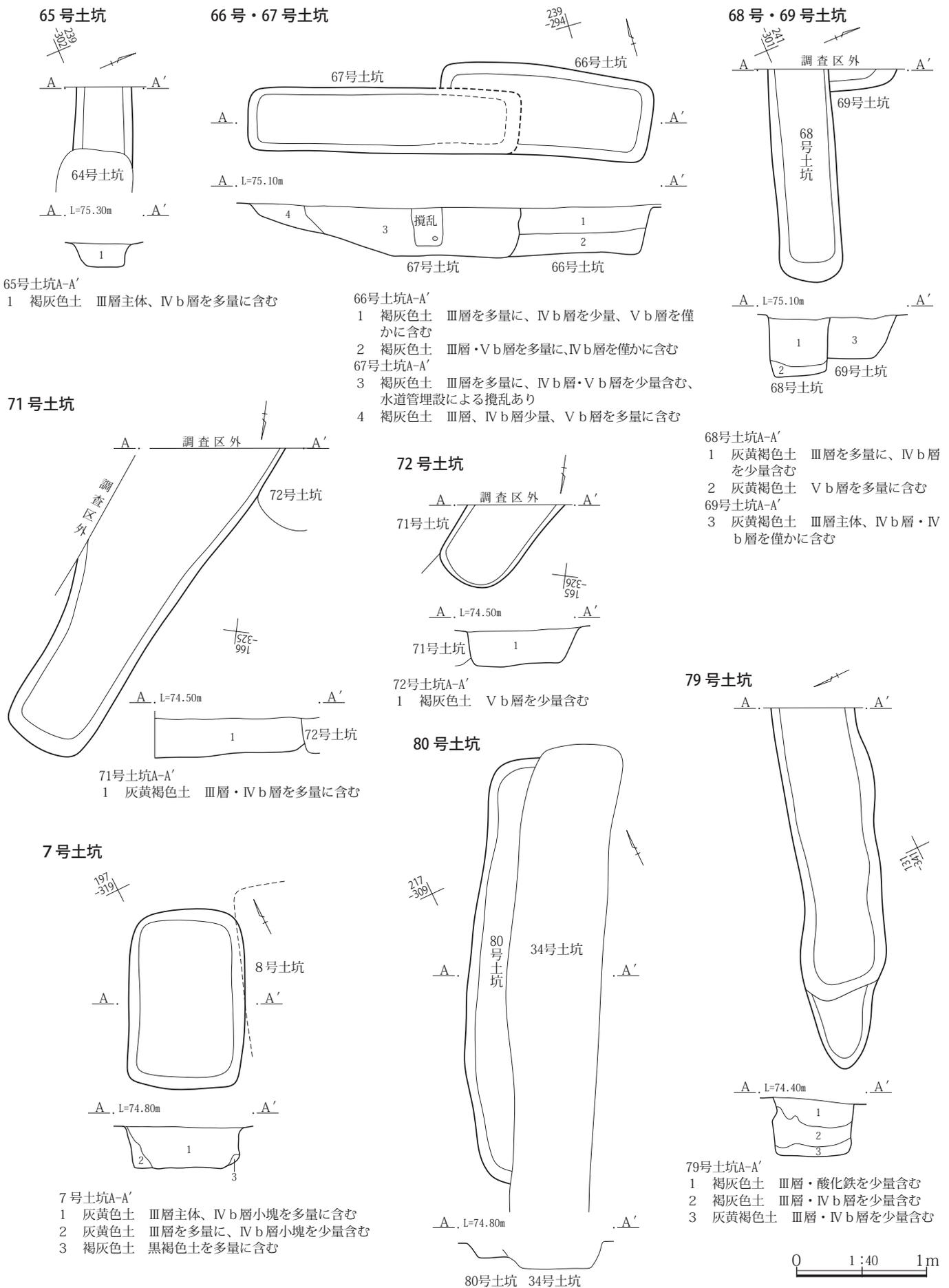


- 59号土坑A-A'
- 1 灰黄色土 Ⅲ層主体、Ⅳb層を少量、V b層を僅かに含む

64号土坑

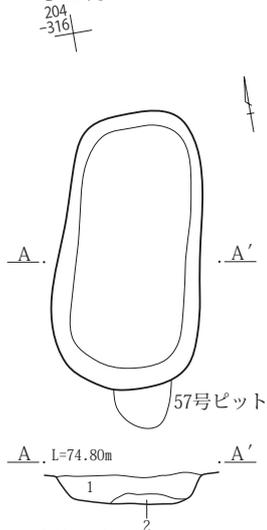


第245図 上西根5区47号・49号・50号・56号・59号・61号～64号土坑と49号・50号・63号土坑出土遺物



第246図 上西根5区7号・65号～69号・71号・72号・79号・80号土坑

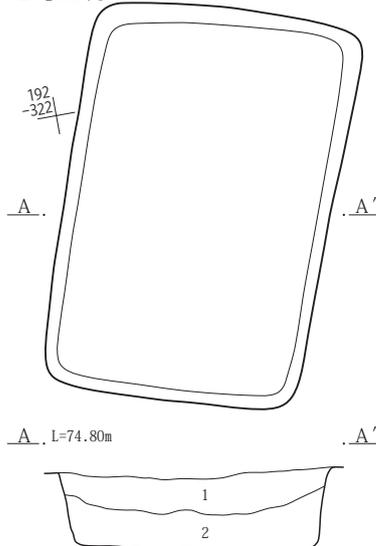
10号土坑



10号土坑A-A'

- 1 灰黄色土 III層主体、V b層を僅かに含む
- 2 灰黄色土 III層主体、V b層を多量に含む

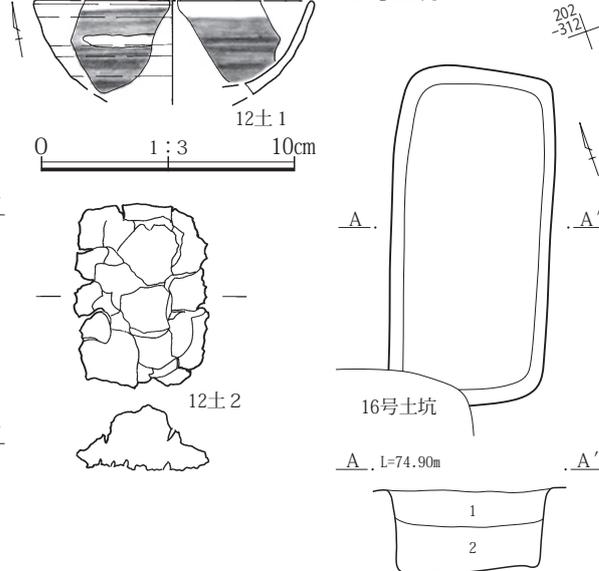
12号土坑



12号土坑A-A'

- 1 黄灰色土 III層主体、IV b層を僅かに含む
- 2 暗灰黄色土 III層主体、IV b層小塊を多量に、V b層を僅かに含む

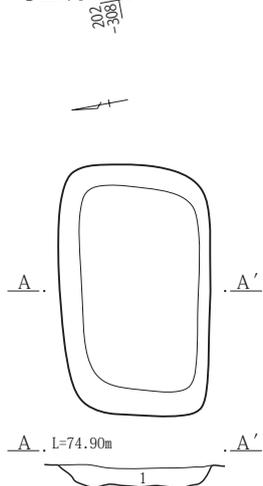
13号土坑



13号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 III層を少量含む
- 2 褐灰色土 III層主体、IV b層・V b層を僅かに含む

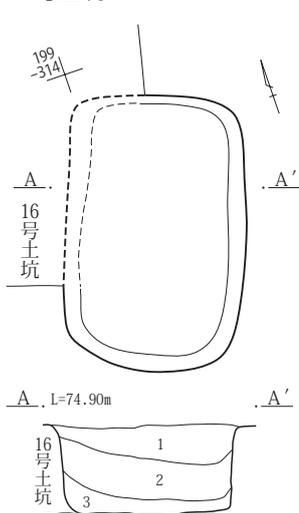
14号土坑



14号土坑A-A'

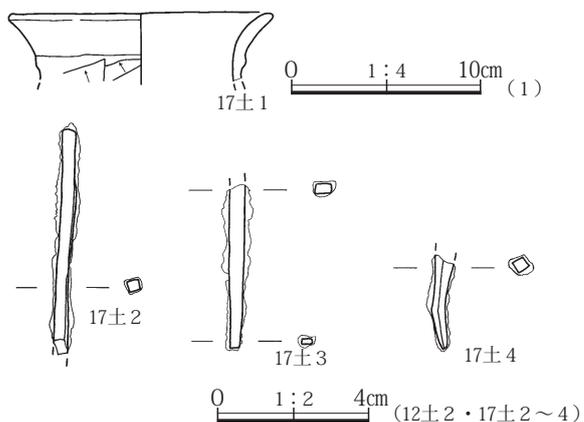
- 1 灰黄褐色土 III層を少量含む

17号土坑



17号土坑A-A'

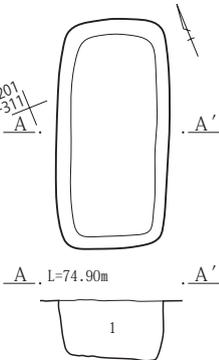
- 1 灰黄褐色土 III層を含み、にぶい黄橙色粘土小塊を少量含む
- 2 褐灰色土 III層主体、灰白色砂質土を含む
- 3 暗褐色土 黒褐色土小塊を少量含む



17号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 III層を含み、にぶい黄橙色粘土小塊を少量含む
- 2 褐灰色土 III層主体、灰白色砂質土を含む
- 3 暗褐色土 黒褐色土小塊を少量含む

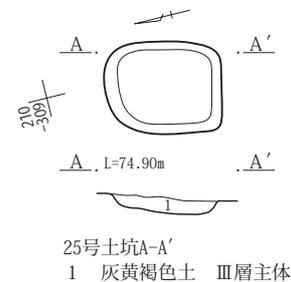
20号土坑



20号土坑A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 III層主体、IV b層を少量、V b層を僅かに含む

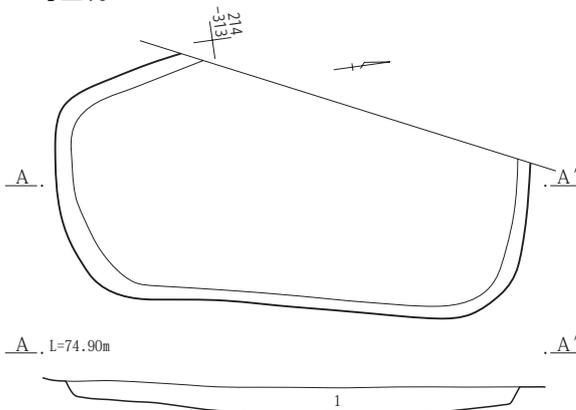
25号土坑



25号土坑A-A'

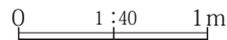
- 1 灰黄褐色土 III層主体

32号土坑



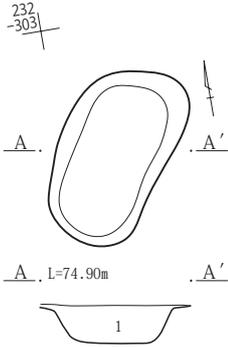
32号土坑A-A'

- 1 褐灰色土 III層主体、IV b層を少量、V b層小塊を僅かに含む



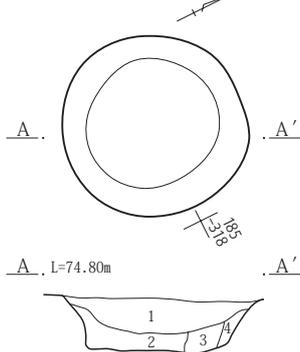
第247図 上西根5区10号・12号～14号・17号・20号・25号・32号土坑と12号・17号土坑出土遺物

48号土坑



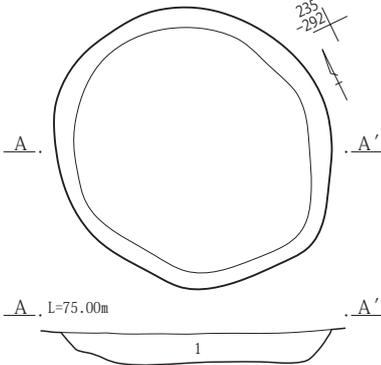
48号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層を多量に、V b層を少量含む

6号土坑



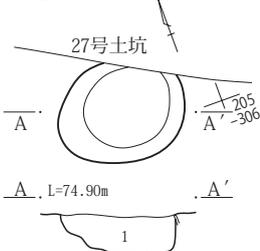
6号土坑A-A'
1 黒褐色土 Ⅲ層主体
2 黒褐色土 Ⅲ層を多量に、IV b層小塊を少量含む
3 黒褐色土 Ⅲ層を多量に、IV b層小塊を少量、V b層を僅かに含む
4 黒褐色土 黒色土小塊を含む

51号土坑



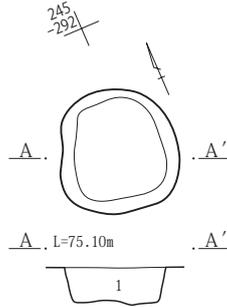
51号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層主体、IV b層・V b層を少量含む

22号土坑



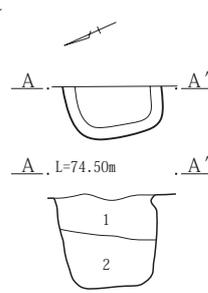
22号土坑A-A'
1 にぶい黄褐色土 Ⅲ層主体、IV b層を僅かに含む

53号土坑



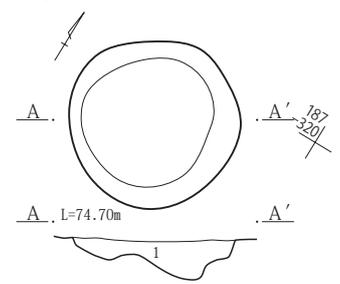
53号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、IV b層・V b層を少量、炭を僅かに含む

77号土坑



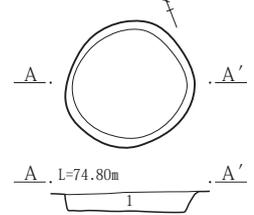
77号土坑A-A'
1 褐灰色土 酸化鉄を多量に含む
2 褐灰色土 Ⅲ層・酸化鉄を少量含む

3号土坑



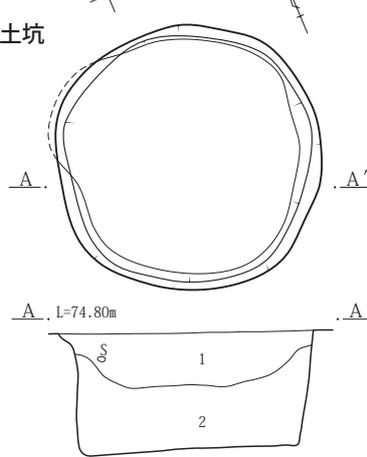
3号土坑A-A'
1 黒褐色土 Ⅲ層主体、IV b層小塊を僅かに含む

38号土坑



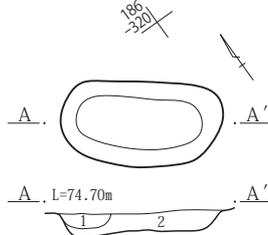
38号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、IV b層・炭を僅かに含む

37号土坑



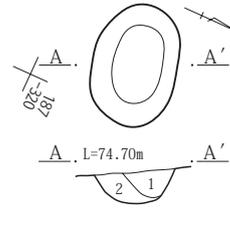
37号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層主体、黄褐色粘質土小塊を少量に、小礫を含む
2 褐灰色土 Ⅲ層を多量に、IV b層・V b層を少量含む

4号土坑



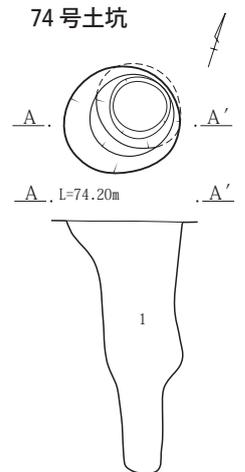
4号土坑A-A'
1 黒褐色土 Ⅲ層主体、IV b層を僅かに含む
2 黒褐色土 Ⅲ層主体

2号土坑



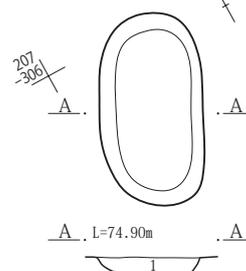
2号土坑A-A'
1 黒褐色土 Ⅲ層主体
2 黒褐色土 Ⅲ層を多量に、IV b層小塊を少量含む

74号土坑

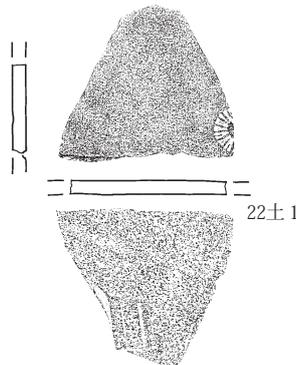


74号土坑A-A'
1 褐灰色土 IV b層を上部に多量に含み、白色粒を僅かに含む

23号土坑



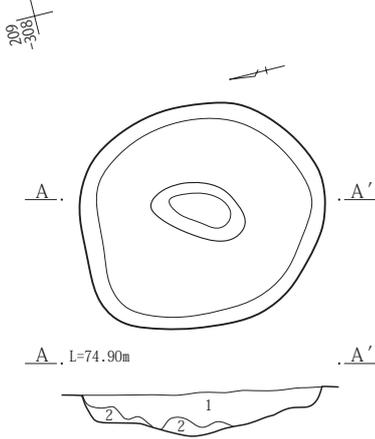
23号土坑A-A'
1 にぶい黄褐色土 Ⅲ層主体



0 1:4 10cm

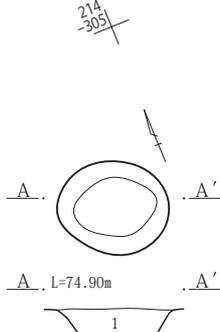
0 1:40 1m

24号土坑



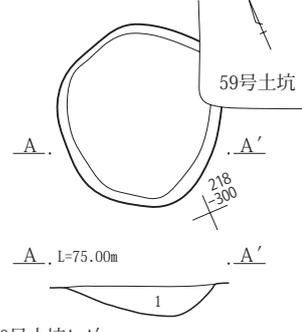
24号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 IV b層主体、Ⅲ層を僅かに含む
2 暗褐色土 V b層を含む

29号土坑



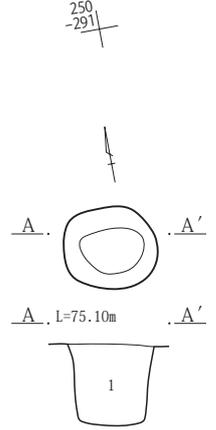
29号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層主体

40号土坑



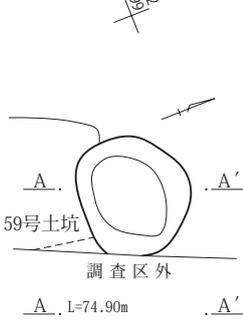
40号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、IV b層粘質土小塊を多量に含む

57号土坑

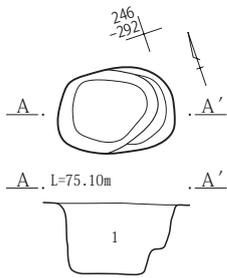


57号土坑A-A'
1 灰黄色土 Ⅲ層を多量に、V b層を少量含む

60号土坑

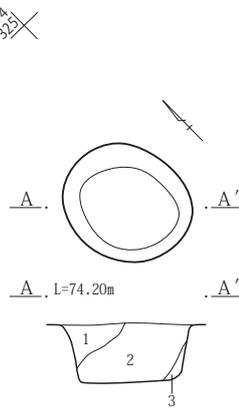


54号土坑



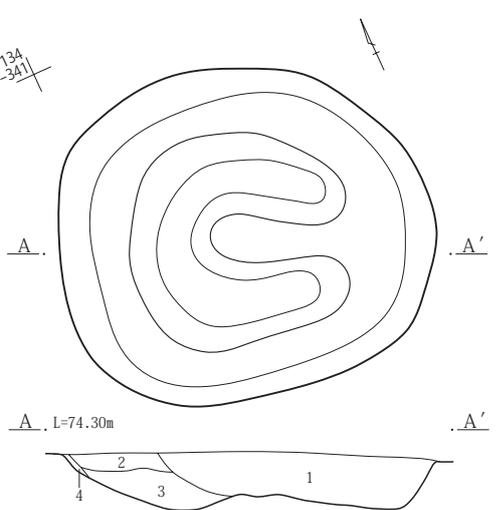
54号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、IV b層・V b層を少量含む

73号土坑



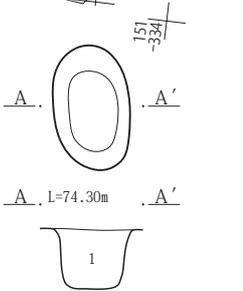
73号土坑A-A'
1 褐灰色土 V b層主体
2 灰黄褐色土 Ⅲ層を多量に、IV b層・V b層を少量含む
3 褐灰色土 V b層を多量に含む

78号土坑

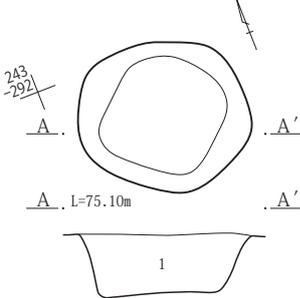


78号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 IV b層主体、Ⅲ層を少量含む
2 褐灰色土 Ⅲ層を多量に、IV b層を少量含む
3 灰黄褐色土 IV b層を多量に含む
4 褐灰色土 IV b層・V b層を少量含む

76号土坑

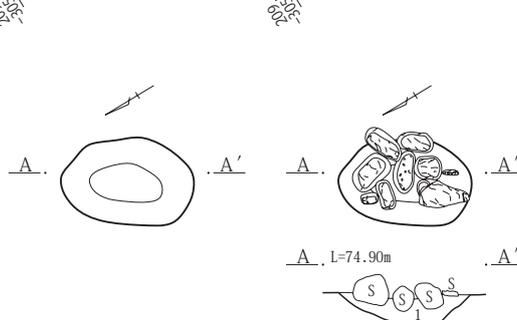


52号土坑



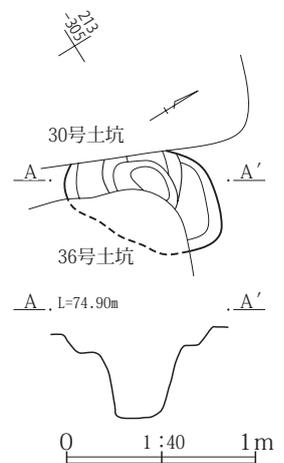
52号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、IV b層を僅かに、V b層を少量含む

58号土坑



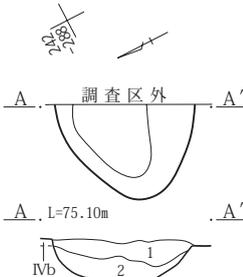
58号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層主体、IV b層を僅かに含み、大礫を含む

70号土坑



76号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 IV b層主体

55号土坑



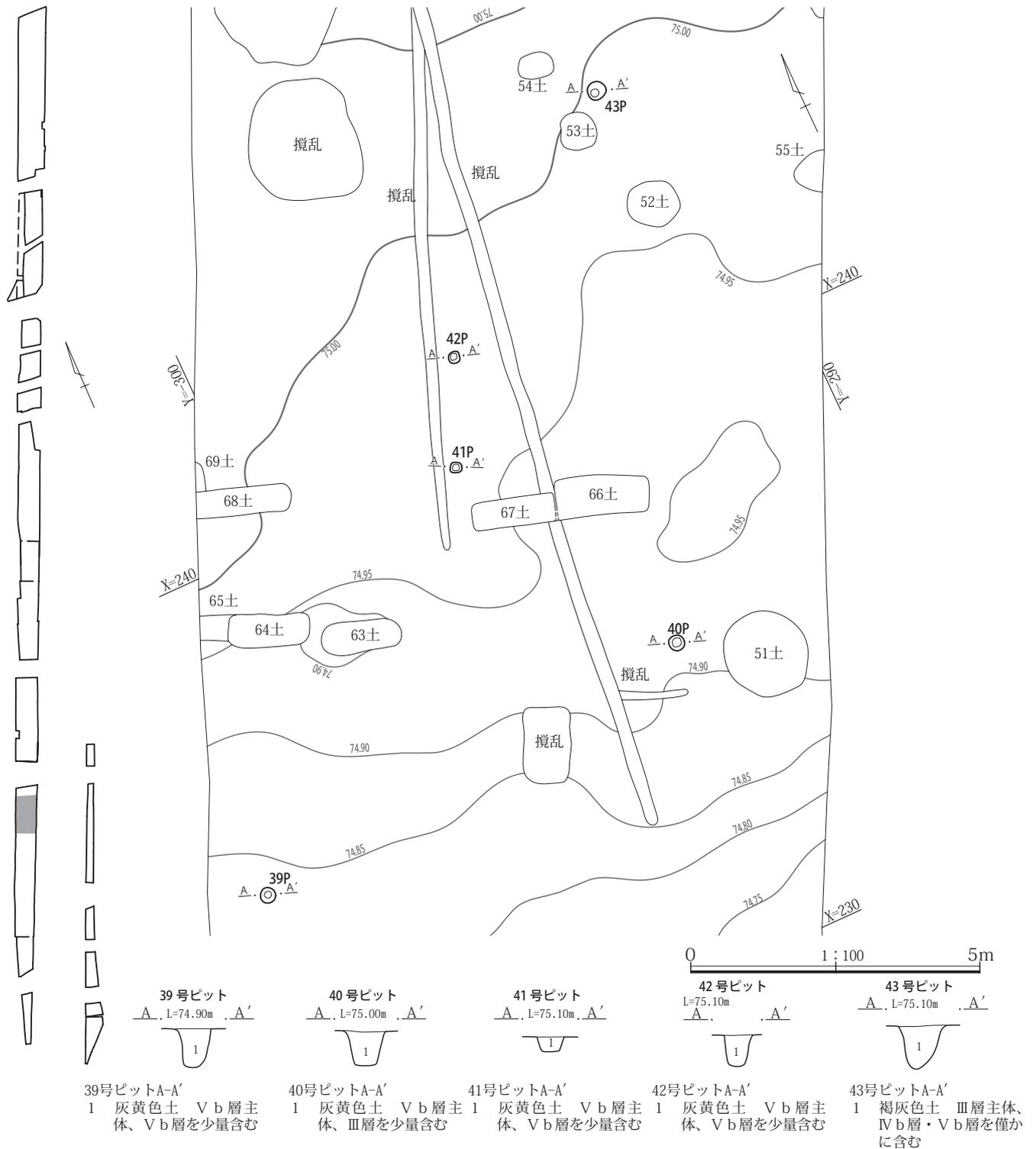
55号土坑A-A'
1 灰黄色土 Ⅲ層を多量に、IV b層を少量含む
2 褐灰色土 V b層を多量に、Ⅲ層・IV b層を僅かに含む

第249図 上西根5区24号・29号・40号・52号・54号・55号・57号・58号・60号・70号・73号・76号・78号土坑

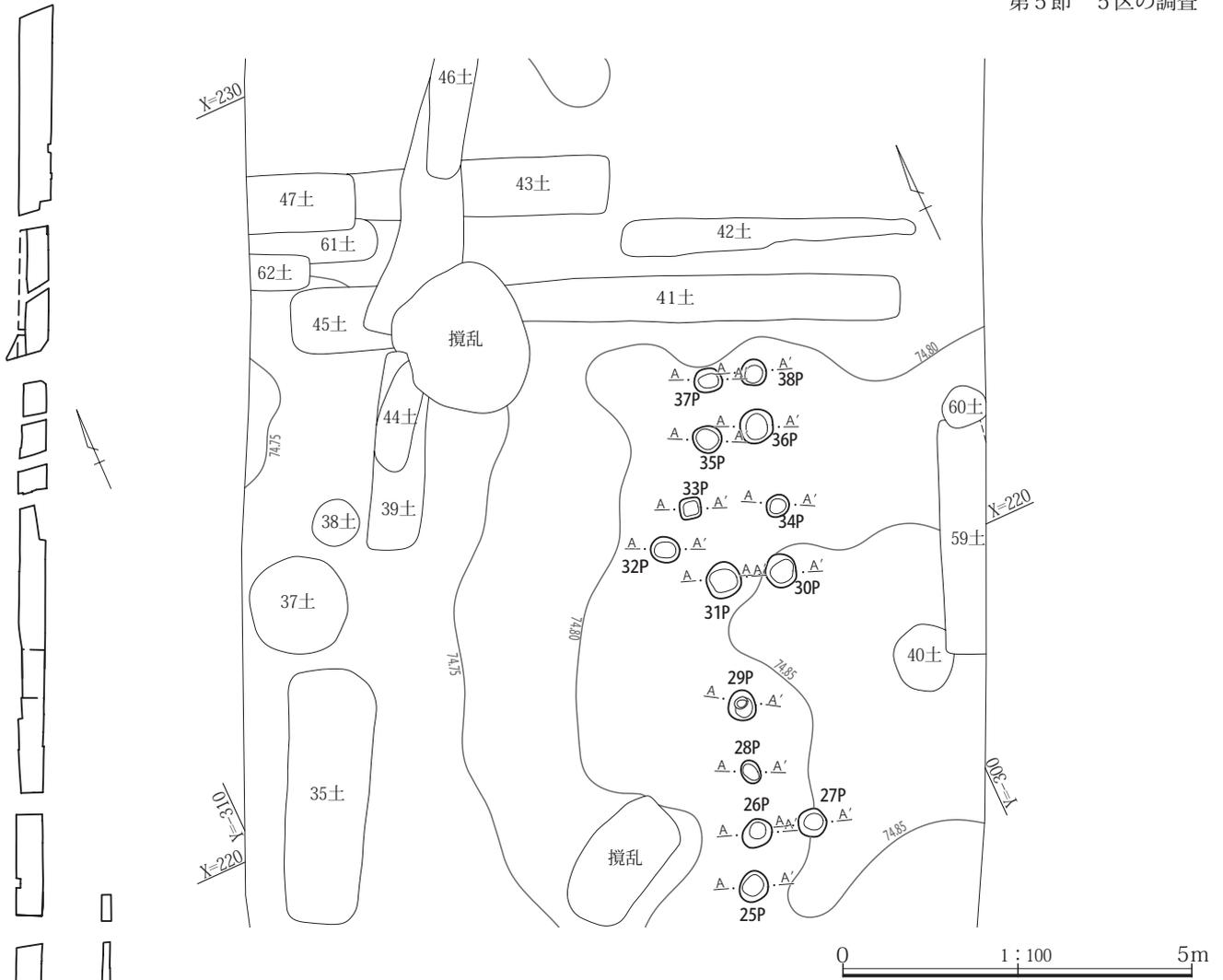
7. ピット(第250～253図)

ピットは36基検出した。調査区北寄りでは25号～38号ピットが並び、調査区南端で49号～53号ピット、55号・56号ピットが集中している。それ以外のピットは調査区内に散漫に分布している。25号～38号ピットは大きさや埋没土に共通性が高く、一定の配列も認識できるが、掘立柱建物

物や柵とするには困難であったため、ここではピットとして扱った。遺構検出面はV層上面である。ピットの埋没土は類似し、灰黄色土および褐灰色土を主体とする。各ピットの規模や出土遺物の点数については、328・329・331ページに示す。出土した遺物はいずれも細片のため図示しなかった。これらのピットの時期は埋没土の特徴から、中世以降と考えられるが、詳細は不明である。



第250図 上西根5区ピット全体図と39号～43号ピット土層断面



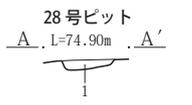
25号ピットA-A'
1 黒褐色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を僅かに含む



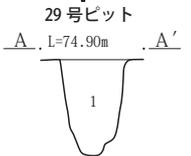
26号ピットA-A'
1 黒褐色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を僅かに含む



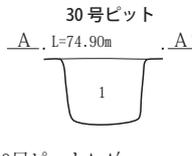
27号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を多量に含む



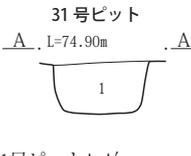
28号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体



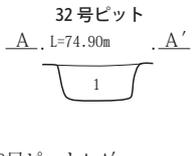
29号ピットA-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を僅かに含む



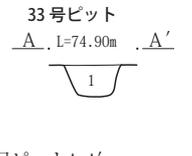
30号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を僅かに含む



31号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層・Ⅴb層を僅かに含む



32号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を多量に含む



33号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を多量に含む



34号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体



35号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を少量含む



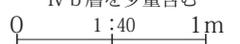
36号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を少量含む



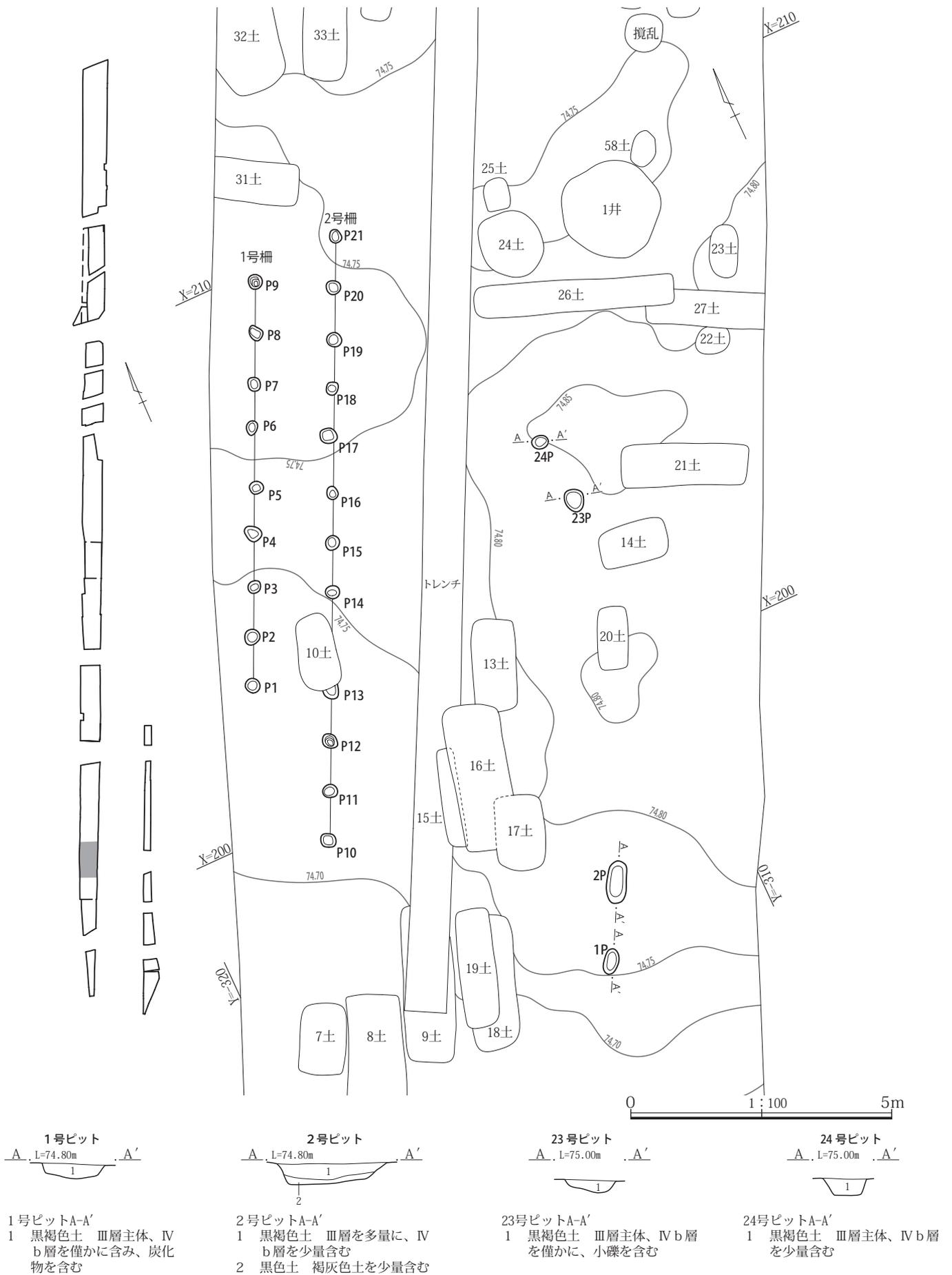
37号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層・Ⅴb層を少量含む



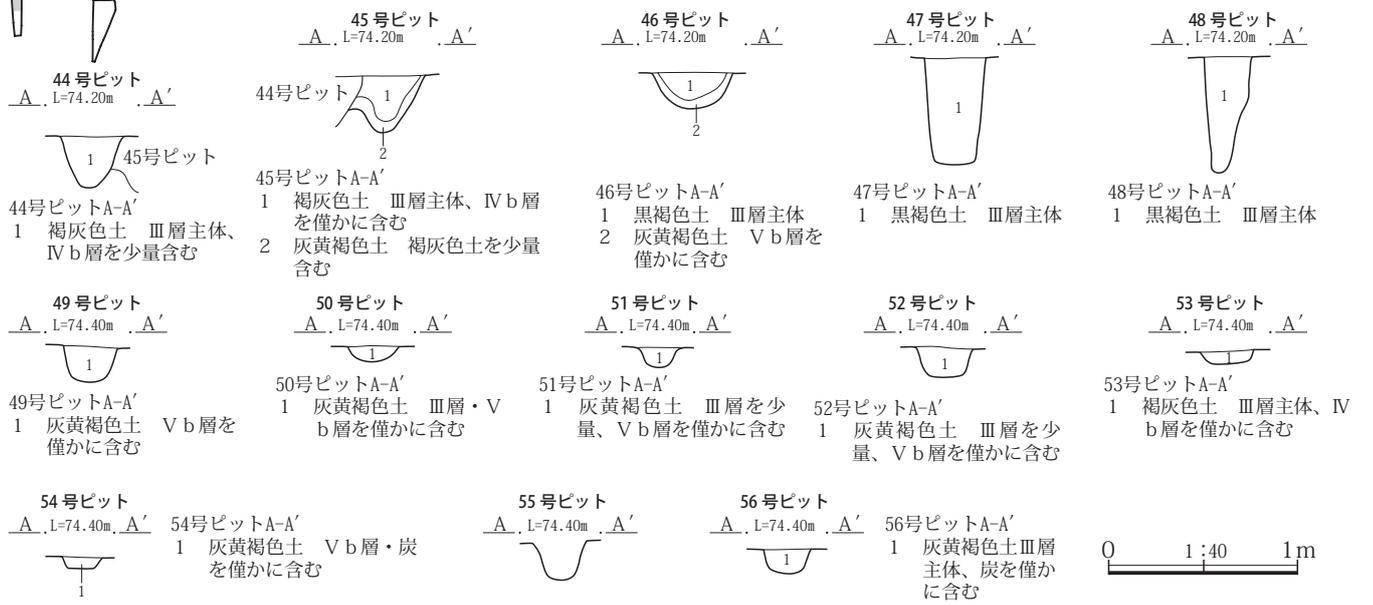
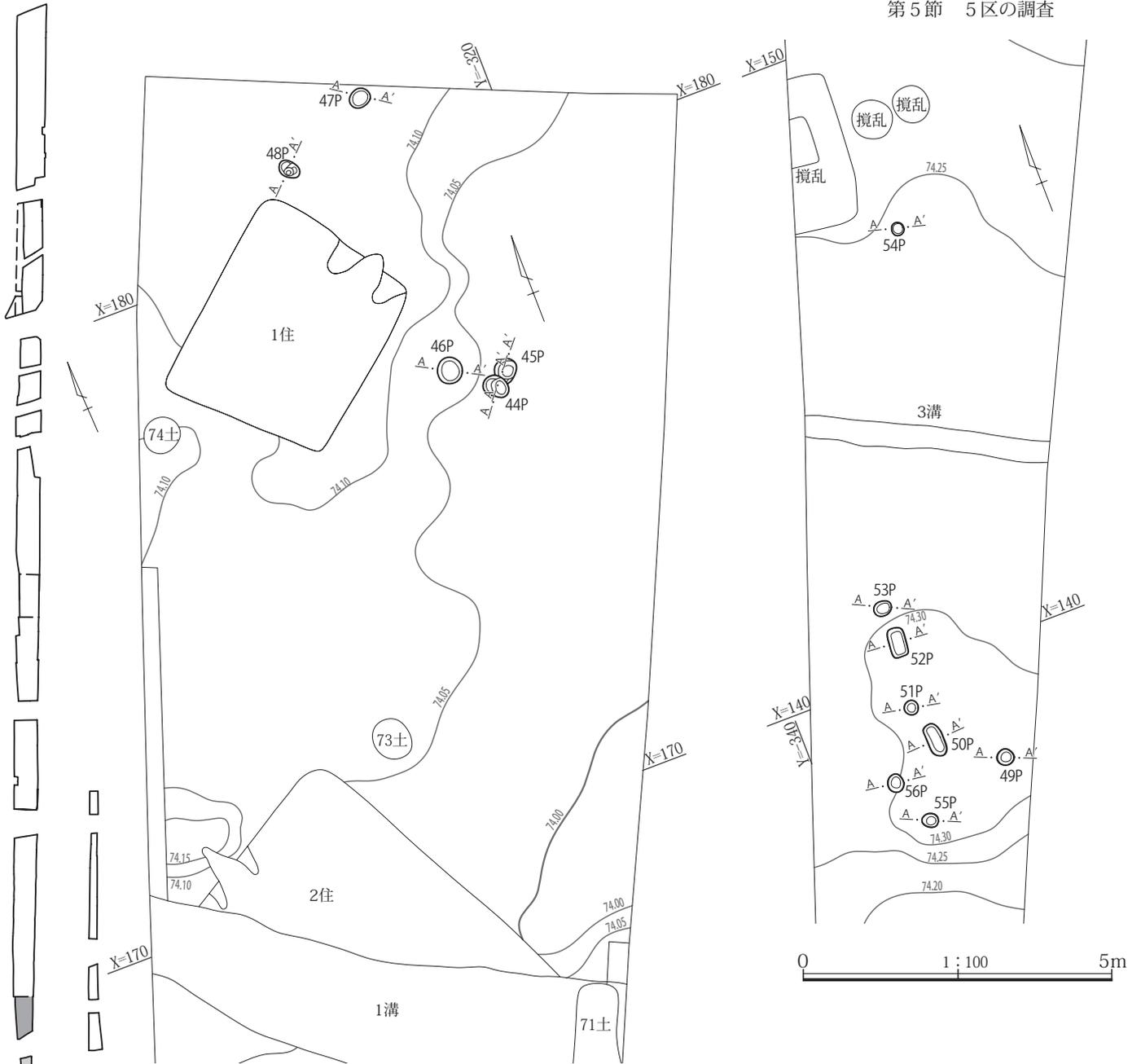
38号ピットA-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層主体、
Ⅳb層を少量含む



第251図 上西根5区ピット全体図と25号～38号ピット土層断面



第252図 上西根5区ピット全体図と1号・2号・23号・24号ピット土層断面

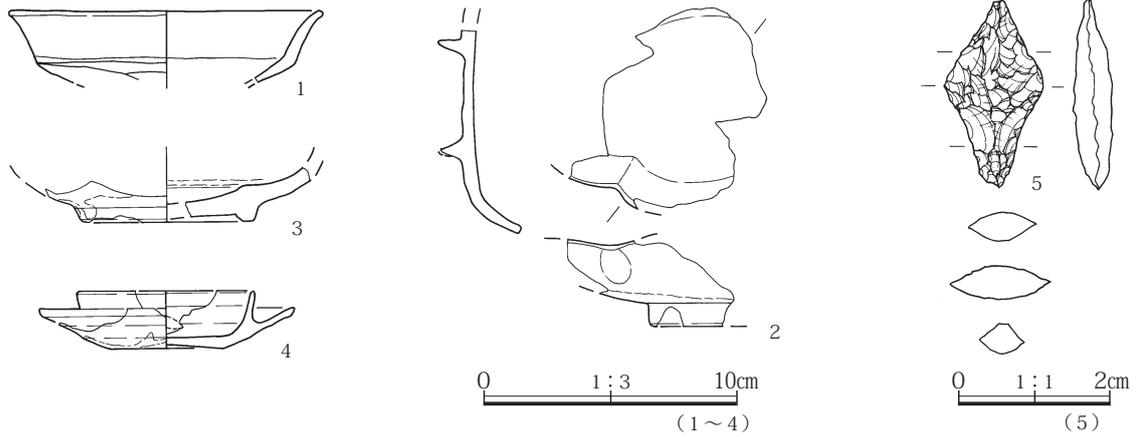


第253図 上西根5区ピット全体図と44号～56号ピット土層断面

8. 遺構外から出土した遺物(第254図 PL. 138)

遺構外から出土した遺物は、土師器207点、須恵器6点、陶磁器37点、縄文土器2点、時期不明土器9点、古代瓦2点、近現代瓦1点、時期不明瓦4点、石器1点、鉄滓1点の合計270点である。このうち器形や時期がわかるものや特徴的な遺物を5点図示した。土師器および須恵

器は竪穴住居の時期と同時期のものである。2～4はいずれも近世のもので、志戸呂焼の灯火受皿(4)は内面に黒色の付着物が見られる。5は縄文時代の石鏃で、丁寧な二次加工を施し茎を作り出している。また、小片のため図示しなかったが、1点の鉄滓は腕型鍛冶滓(6)で、内面に発泡が見られ外面に土砂が付着している。



第254図 上西根5区遺構外出土遺物



作業風景

第5章 新屋敷遺跡の調査

第1節 1区の調査

1. 概要

新屋敷遺跡1区は国道462号の東側に位置し、道路幅部分の調査となるため調査区は南北に細長く、長さ150m、幅約1～9mである。遺構検出面の標高は約73.85～74.95mで、北側から南側に向かって緩やかに傾斜するものの、ほぼ平坦な地形である。新屋敷遺跡1区の調査面積は1511.33㎡である。

新屋敷遺跡1区では、奈良時代、中世および近世以降の遺構を検出した。遺構の内訳は、竪穴住居1軒、溝15条、土坑52基、ピット50基である。竪穴住居は調査区北端で1軒検出されたのみだが、調査区中央部では、土坑やピットが集中して確認された。遺構検出面はIVb層中またはV層上面で、大部分はVb層上面である。基本土層は調査区南端の31号土坑の土層断面で確認した(第4図)。

2. 竪穴住居

調査区北端で1軒検出した。調査区の幅が1mであったため、一部のみの調査である。出土遺物が多かったため、竪穴住居と判断した。遺構検出面はVb層上面である。

1区1号竪穴住居(第256図 PL.101)

位置 1区北側

X=38,260～38,265 Y=-56,264～-56,267

主軸方向 不明 重複 なし

形状と規模 調査区幅が1mと狭く、一部のみの検出である。北壁の一部は攪乱により失われている。平面形は不明で、検出された部分の最大長は5.39m、遺構検出面から床面までの深さは0.49～0.76mである。壁の立ち上がりは途中で緩やかとなり、テラス状の平坦面が認められた。

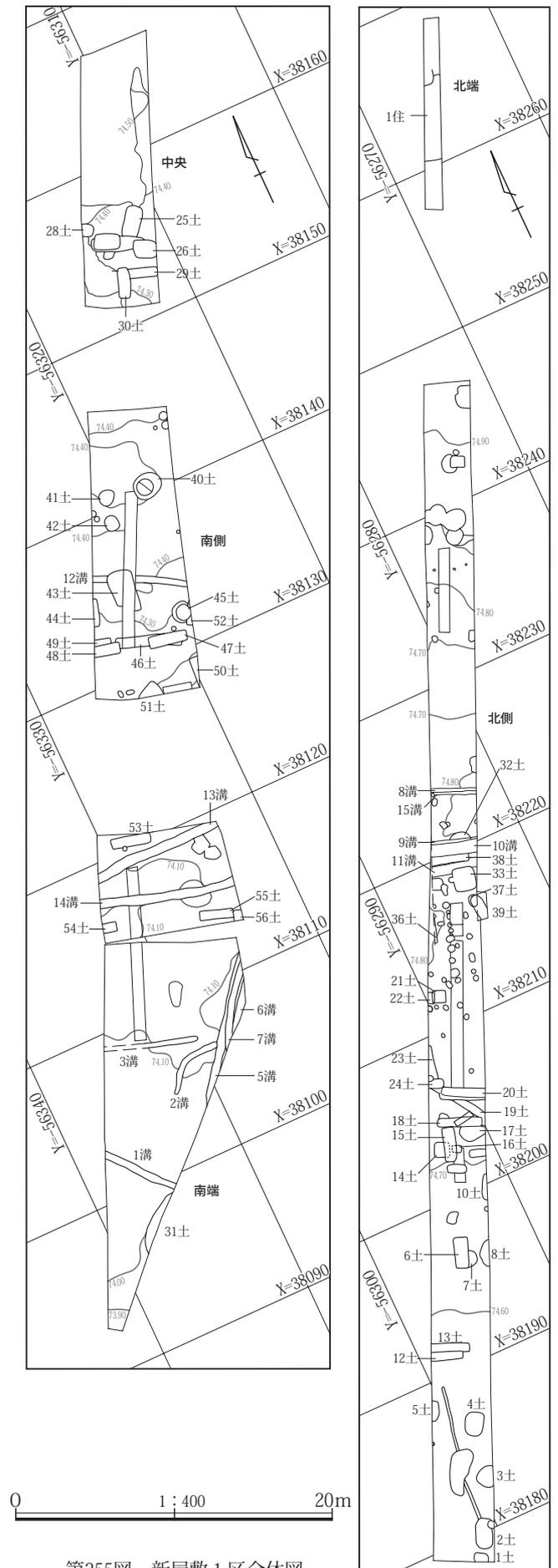
埋没土 不明である。

床面 平坦である。

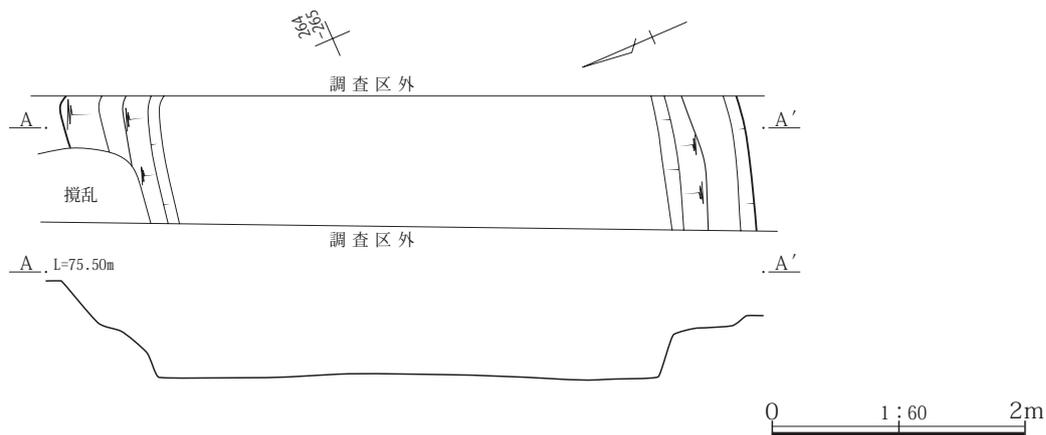
カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器337点、須恵器20点が出土した。細片が多く図示しなかったが、8世紀中頃の特徴をもつ土器が見られた。

所見 出土遺物から、時期は8世紀中頃と推定される。



第255図 新屋敷1区全体図



第256図 新屋敷1区1号竪穴住居

3. 溝

15条検出された。これらの溝は北側調査区および南側調査区、南端調査区に分布している。東西方向の溝が多く、重複または隣接して検出された。南端調査区は南向きの斜面で最も標高が低く、東西方向のみならず南北方向の溝、弧状に湾曲する溝が確認された。いずれの溝も遺構検出面はVb層上面である。15条の溝のうち、4条は近世以降と考えられ、それ以外は時期を推定できる資料がなく不明である。

1区1号溝(第257図 PL. 101)

位置 1区南端調査区

X=38,099 ~ 38,103 Y=-56,334 ~ -56,338

重複 なし

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出された長さは4.96m、幅は0.37 ~ 0.54m、遺構検出面から底面までの深さは0.07 ~ 0.13mである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。断面形は箱形を呈する。

方向 N-40°-W

底面比高 東端が西端に比べ0.02m高いが、ほぼ平坦である。

埋没土 灰黄色土および褐色土からなり、自然堆積の状況を示す。底面付近に砂等の堆積は認められず、常時水が流れていたとは考えにくい。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 時期および性格は不明である。

1区2号溝(第257図 PL. 101)

位置 1区南端調査区

X=38,104 ~ 38,106 Y=-56,228 ~ -56,332

重複 5号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

形状と規模 長さは4.63m、幅は0.28 ~ 0.42m、遺構検出面から底面までの深さは0.03 ~ 0.06mである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

方向 南側がN-42°-Eで、緩やかに東に向きを変え、東側はN-87°-Eである。

底面比高 比高差はほとんどない。

埋没土 灰黄色の砂質土が認められた。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 埋没土の観察から、水が流れていた可能性があるが、底面に比高差がなく、性格は明らかにできなかった。時期は不明である。

1区3号溝(第257図 PL. 101)

位置 1区南端調査区

X=38,107 ~ 38,109 Y=-56,329 ~ -56,335

重複 なし

形状と規模 西側は調査区外である。検出された長さは5.97m、幅は0.3 ~ 0.37m、遺構検出面から底面までの深さは0 ~ 0.04mである。底面はやや丸味を帯び、断面形は逆かまぼこ形を呈する。

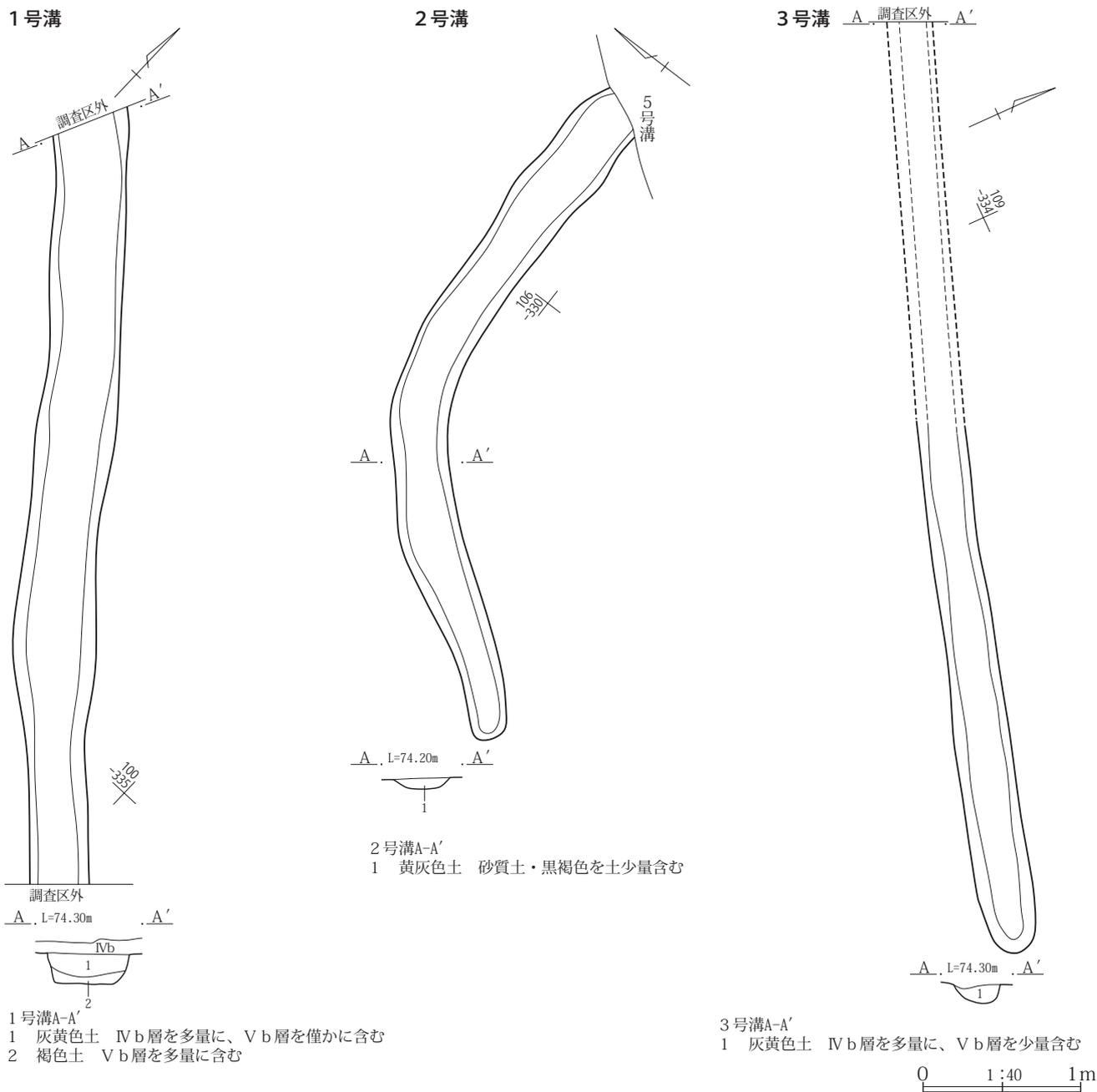
方向 N-73°-E

底面比高 東端が西端に比べ0.01m高い。

埋没土 灰黄色土1層が認められた。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 時期および性格については不明である。



第257図 新屋敷1区1号～3号溝

1区4号溝(第258図 PL. 101)

位置 1区南端調査区

X=38,107～38,109 Y=-56,329～-56,335

重複 5号溝と重複し、土層断面の観察から、4号溝が新しい。

形状と規模 5号溝の土層断面観察時に確認したため、断面のみの検出で、全体を把握することができなかった。長さは不明である。幅は0.42m、遺構検出面から底面までの深さは0.15mである。

方向 不明 底面比高 不明

埋没土 灰白色の細粒砂層1層が認められた。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 時期および性格については不明である。

1区5号溝(第258図 PL. 101)

位置 1区南端調査区

X=38,107～38,109 Y=-56,329～-56,335

重複 4号・6号・7号溝と重複し、土層断面の観察から、4号溝より古く、6号・7号溝より新しい。

形状と規模 両端は調査区外である。検出した長さは10.03m、幅は0.45～1.22m、遺構検出面から底面までの深さは0.12～0.26mである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

方向 N-37°-E

底面比高 一定ではなく、底面に凹凸が見られる。

埋没土 砂質の褐灰色土層が認められた。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 時期および性格については不明である。

1区6号溝(第258図 PL. 101)

位置 1区南端調査区

X=38,106 ~ 38,109 Y=-56,325 ~ -56,327

重複 5号・7号溝と重複し、土層断面の観察から、5号溝より古く、7号溝との新旧は不明である。

形状と規模 東壁際で一部のみ調査である。検出した長さは3.63m、幅は0.18 ~ 0.51m、遺構検出面から底面までの深さは0.3 ~ 0.39mである。底面はほぼ平坦である。

方向 N-38°-E

底面比高 南端が北端より0.02m高い。

埋没土 褐灰色土を主体とし、自然堆積と考えられる。上層は砂質土であるが、下層は粘質土である。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 時期および性格については不明である。

1区7号溝(第258図 PL. 101)

位置 1区南端調査区

X=38,105 ~ 38,110 Y=-56,325 ~ -56,328

重複 5号・6号溝と重複し、土層断面の観察から、5号溝より古く、6号溝との新旧は不明である。

形状と規模 東壁際で一部のみ調査である。検出した長さは5.92m、幅は0.37 ~ 0.47m、遺構検出面から底面までの深さは0.33 ~ 0.43mである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急である。断面形は逆台形である。

方向 N-34°-E

底面比高 南端が北端より0.06m高い。

埋没土 灰黄褐色土1層が認められた。砂質土と粘質土が互層になっている。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 時期および性格については不明である。

1区8号溝(第259図 PL. 101・102)

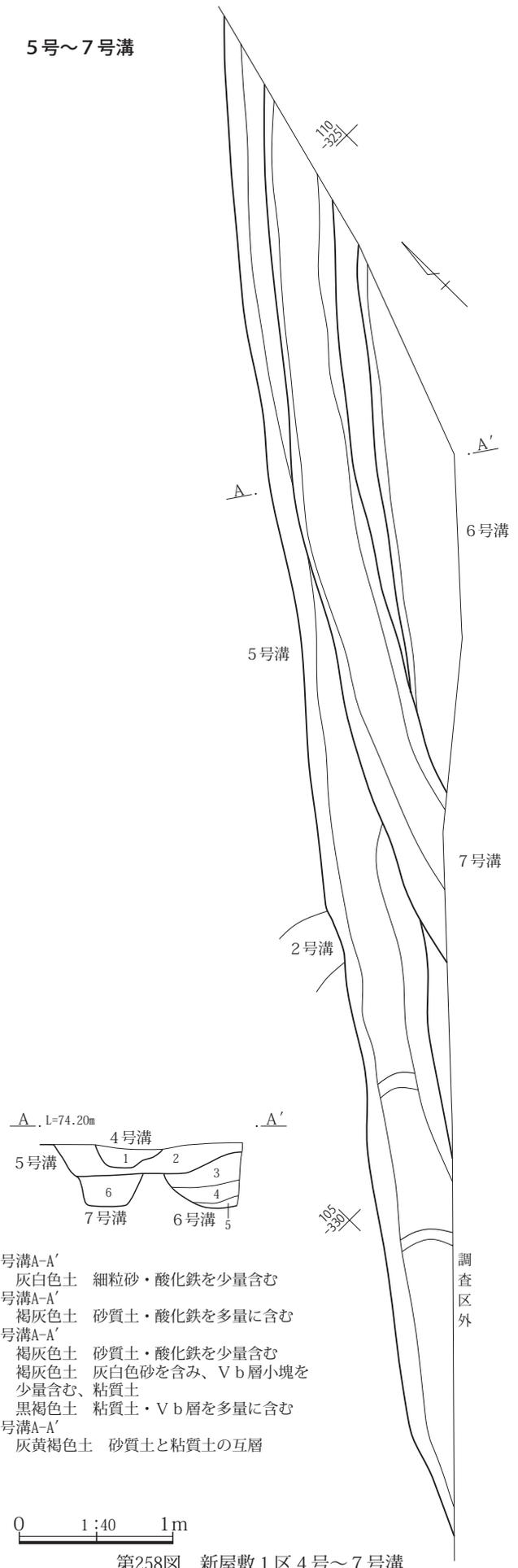
位置 1区北側調査区

X=38,222 ~ 38,224 Y=-56,281 ~ -56,284

重複 15号溝と重複し、土層断面の観察から、15号溝より新しい。

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出した長さは2.87m、幅は0.17 ~ 0.25m、遺構検出面から

5号~7号溝



底面までの深さは0.11～0.21mである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急である。

方向 N-67°-Wで、15号溝と方向が同一である。

底面比高 西端が東端より0.08m高い。

埋没土 灰黄褐色土1層が認められた。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 時期および性格は不明である。

1区9号溝(第259図 PL.102)

位置 1区北側調査区

X=38,219～38,221 Y=-56,282～-56,285

重複 10号溝、32号土坑と重複し、土層断面の観察から、いずれの遺構よりも新しい。

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出した長さは2.92m、幅は0.47～0.52m、遺構検出面から底面までの深さは0.14～0.3mである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。断面形は箱形を呈する。

方向 N-70°-W

底面比高 東端が西端より0.13m高い。

埋没土 灰黄褐色土1層が認められた。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 遺構の重複より、近世以降と考えられる10号溝より新しい。

1区10号溝(第259図 PL.102)

位置 1区北側調査区

X=38,219・38,220 Y=-56,282～-56,285

重複 9号溝、38号土坑と重複し、38号土坑より新しく、9号溝より古い。

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出した長さは2.93m、幅は0.76～0.86m、遺構検出面から底面までの深さは0.34～0.37mである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急である。

方向 N-74°-W

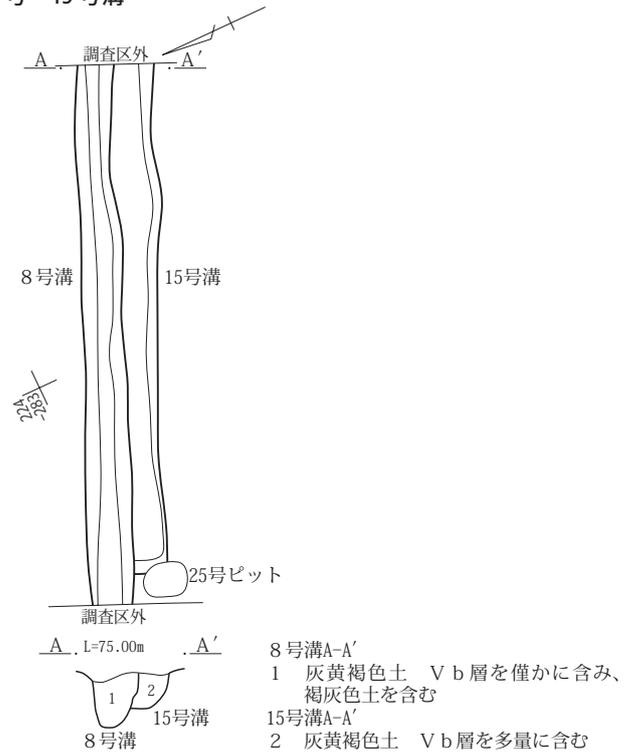
底面比高 東端が西端より0.07m高い。

埋没土 灰黄褐色土で、底面付近に褐灰色砂質土が少量認められた。

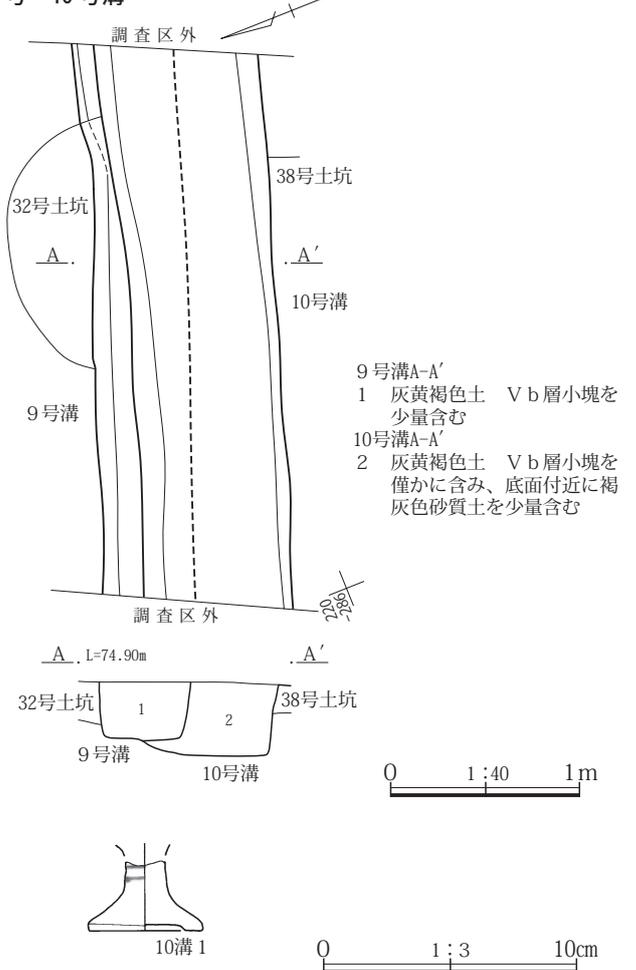
遺物と出土状態 土師器25点、陶磁器13点、時期不明土器7点、礫2点が出土し、このうち器形のわかる1点を図示した。遺物はすべて埋没土から出土した。陶磁器は1点を除き、すべて近世のものである。

所見 出土遺物から、時期は近世以降と考えられる。性格については不明である。

8号・15号溝



9号・10号溝



第259図 新屋敷1区8号～10号・15号溝と10号溝出土遺物

1区11号溝(第260図 PL.102)

位置 1区南側調査区

X=38,218・38,219 Y=-56,283~-56,286

重複 33号・38号土坑と重複し、土層断面の観察から、33号土坑より新しく38号土坑より古い。

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出した長さは2.89m、幅は0.61~0.65m、遺構検出面から底面までの深さは0.11~0.23mである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。断面形は箱形を呈する。

方向 N-78°-W

底面比高 東端が西端より0.12m高い。中央部で9cm程の段を持つ。

埋没土 灰黄褐色土である。

遺物と出土状態 土師器3点、陶磁器2点、礫2点が出土した。いずれも細片のため図示しなかった。すべて埋没土から出土した。陶磁器は2点とも近世のものである。

所見 出土遺物から、時期は近世以降と考えられる。性格については不明である。

1区12号溝(第260図 PL.102)

位置 1区南側調査区

X=38,133~38,136 Y=-56,318~-56,323

重複 43号土坑と重複し、土層断面の観察から、43号土坑より古い。

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出した長さは5.97m、幅は0.35~0.44m、遺構検出面から底面までの深さは0.31~0.36mである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。断面形は箱形を呈する。

方向 N-62°-W

底面比高 東端が西端より0.02m低い。

埋没土 灰黄褐色土および褐灰色土を主体とし、自然堆積の様相を示す。

遺物と出土状態 土師器1点、陶磁器1点が出土し、1点を図示した。12溝1は志戸呂の灯火皿の口縁部片で、江戸時代のものと考えられる。

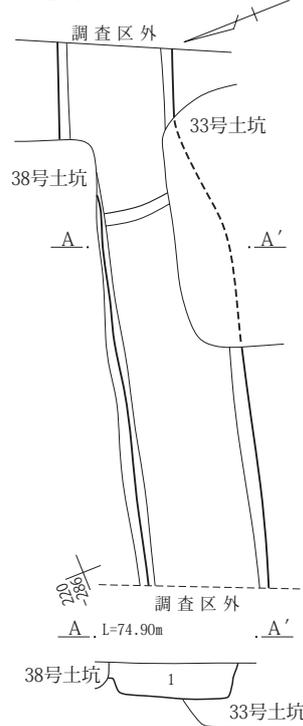
所見 出土遺物から、時期は近世以降と推定される。性格は不明である。

1区13号溝(第261図 PL.102)

位置 1区南端調査区

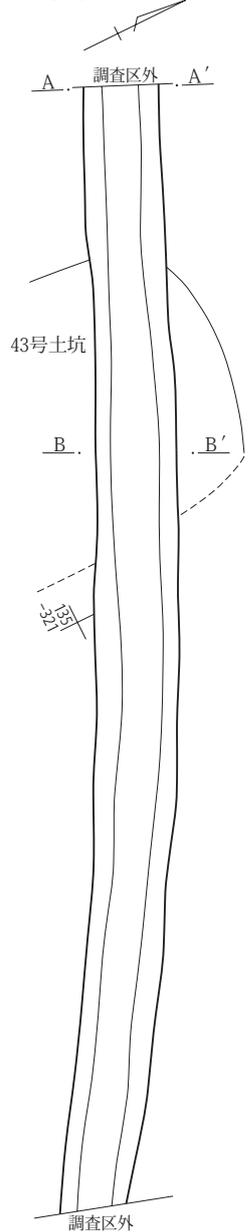
X=38,118・38,119 Y=-56,322~-56,331

11号溝



11号溝A-A'
1 灰黄褐色土 III層を少量含む、V b層・V b層を僅かに含む

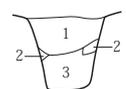
12号溝



A, L=74.40m A'

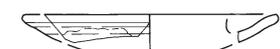


B, L=74.60m B'



12号溝A-A'・B-B'
1 灰黄褐色土 III層・IV b層少量、褐灰色砂質土を僅かに含む
2 黒褐色土 V b層小塊を含む
3 褐灰色土 砂質土・灰黄褐色土との互層

0 1:40 1m



12溝1
0 1:3 10cm

第260図 新屋敷1区11号・12号溝と12号溝出土遺物

重複 なし

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出した長さは8.37m、幅は0.57～0.73m、遺構検出面から底面までの深さは0.19～0.26mである。底面は平坦で、断面形は逆台形である。

方向 N-88°-E

底面比高 東端が西端より0.1m高い。

埋没土 褐灰色砂質土と黒色砂質土が互層に堆積する。自然堆積と考えられる。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 埋没土および底面の観察から、水路の可能性が高く、東から西に流れていたと推定できる。時期は不明である。

1区14号溝(第262図 PL.102)

位置 1区南端調査区

X=38,115～38,117 Y=-56,323～-56,331

重複 なし

形状と規模 東側および西側は調査区外である。検出した長さは8.62m、幅は0.48～0.67m、遺構検出面から底面までの深さは0.19～0.3mである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-72°-W

底面比高 東端が西端より0.06m高い。

埋没土 褐灰色土と黒褐色土からなる。底面付近では砂質土と小礫が認められ、水が流れていた可能性がある。

遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 埋没土の観察から、水路の可能性があり、東から西に流れていたと推定される。時期は不明である。

1区15号溝(第259図 PL.101・102)

位置 1区北側調査区

X=38,222～38,223 Y=-56,281～-56,284

重複 8号溝と重複し、土層断面の観察から、8号溝より古い。

形状と規模 東側は調査区外である。検出した長さは2.71m、幅は0.14～0.26m、遺構検出面から底面までの深さは0.03～0.13mである。

方向 N-67°-Wで、8号溝と同一の方向である。

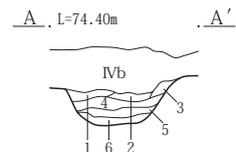
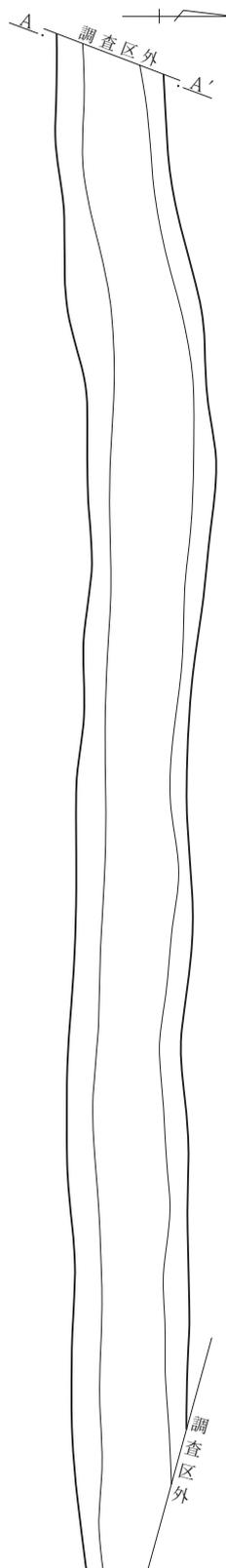
底面比高 西端が東端より0.01m高い。

埋没土 灰黄褐色土1層が認められた。

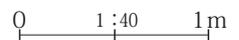
遺物と出土状態 出土遺物はなかった。

所見 時期および性格については不明である。

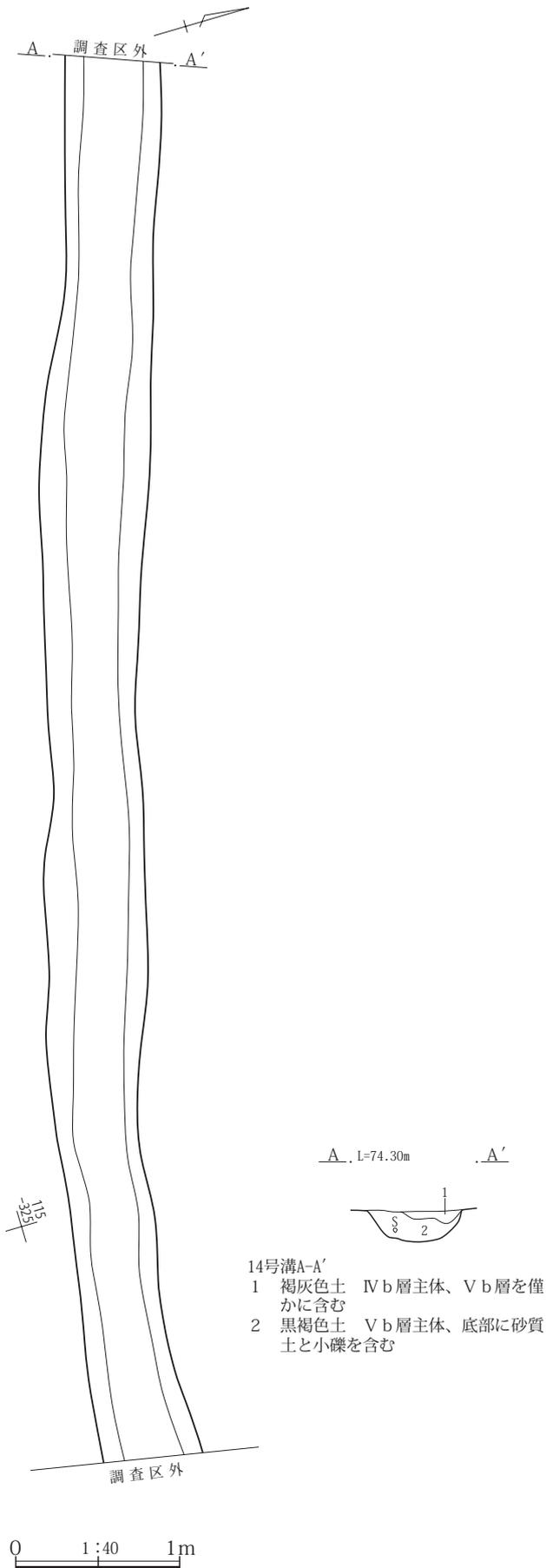
13号溝



- 13号溝A-A'
- 1 褐灰色土 細砂質土・酸化鉄を含む
 - 2 褐灰色土 砂質土・Ⅲ層を多量に、小礫を少量含む
 - 3 黒褐色土 V b層主体、IV b層を僅かに含む
 - 4 黒色土 砂質土
 - 5 褐灰色土 砂質土、1層より粒径やや粗い
 - 6 黒色土 細砂質土・V b層を少量含む



第261図 新屋敷1区13号溝



第262図 新屋敷1区14号溝

4. 土坑

52基検出された。土坑は攪乱の多い北部を除き、1区全体に分布している。遺構確認面はIVb層またはVb層上面で、大部分はVb層上面で検出した。これらの土坑は平面形や断面形、埋没土などから、以下の5種類に分類することができた。

- ①細長い土坑 24基
- ②隅丸長方形の土坑 14基
- ③円形の土坑 1基
- ④楕円形の土坑 7基
- ⑤不定形の土坑(その他の土坑) 6基

それぞれの土坑の位置や規模、重複関係、時期、出土遺物については遺構一覧表(325ページ)および出土遺物点数表(331ページ)にまとめて示した。以下、5つの分類ごとに土坑を概観する。

①細長い土坑(第263～265図 PL. 103～107・138)

6号・12号・13号・15号・18号～20号・23号・24号・29号・30号・36号・38号・39号・44号・46号～50号・52号～55号がこれにあたる。36号・50号・52号・54号土坑は一部の調査であるが、形状から全体形を推定してこれに含めた。これらの土坑は北部を除き、調査区全体で認められた。長軸方向はおおむね南北方向を示すものと東西方向を示すものがあり、両者の長軸方向はおよそ90度をなす。平面形は細長い長方形である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは垂直に近く、断面形は箱形を呈する。平面形および断面形の規格性が高い。埋没土は褐灰色土および黄灰色土、黄灰褐色土を主体とする。50号土坑の埋没土2層は灰白色の砂質土である。54号土坑の埋没土はVb層由来の黒褐色土塊を大量に含む褐灰色土で、人為堆積の可能性が高い。遺物については、12号土坑の埋没土から江戸時代の香炉(12土1)が出土した。また、38号土坑の埋没土からすり鉢の底部片に二次加工を施した円盤状製品(38土1)が出土している。埋没土の特徴から、これらの土坑の時期は中世以降と考えているが、詳細は不明である。性格も不明である。

②隅丸長方形の土坑(第265・266図 PL. 103～105・107)

1号・2号・4号・5号・10号・14号・16号・21号・22号・25号・26号・28号・33号・56号土坑がこれにあたる。1号・5号・10号・14号・22号・28号・56号土坑は一部の調査であるが、全体形を推定してこれに含めた。長軸方向は①の細長い土坑と同様、ほぼ南北方向および東西

方向を示すものが多い。平面形は隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形は箱形を呈するものが多い。埋没土は褐灰色土、灰黄褐色土を主体とする。56号土坑の埋没土1～4層は洪水層で、底面までこの層で覆われている。これらの土坑の埋没土からは、土師器を中心に須恵器、陶磁器、鉄製品が出土したが、細片のため図示しなかった。埋没土の特徴から、これらの土坑の時期は中世以降と考えているが、詳細は不明である。土坑の性格も不明である。

③円形の土坑(第267図 PL. 105)

37号土坑がこれにあたる。39号土坑と重複し、遺構検出時の観察から、37号土坑が新しい。平面形はほぼ円形で、底面は平坦である。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。埋没土は灰黄褐色土である。埋没土中から土師器が8点出土したが、いずれも細片のため図示しなかった。遺構の重複から、時期は中世以降と考えられるが詳細は不明である。性格も不明である。

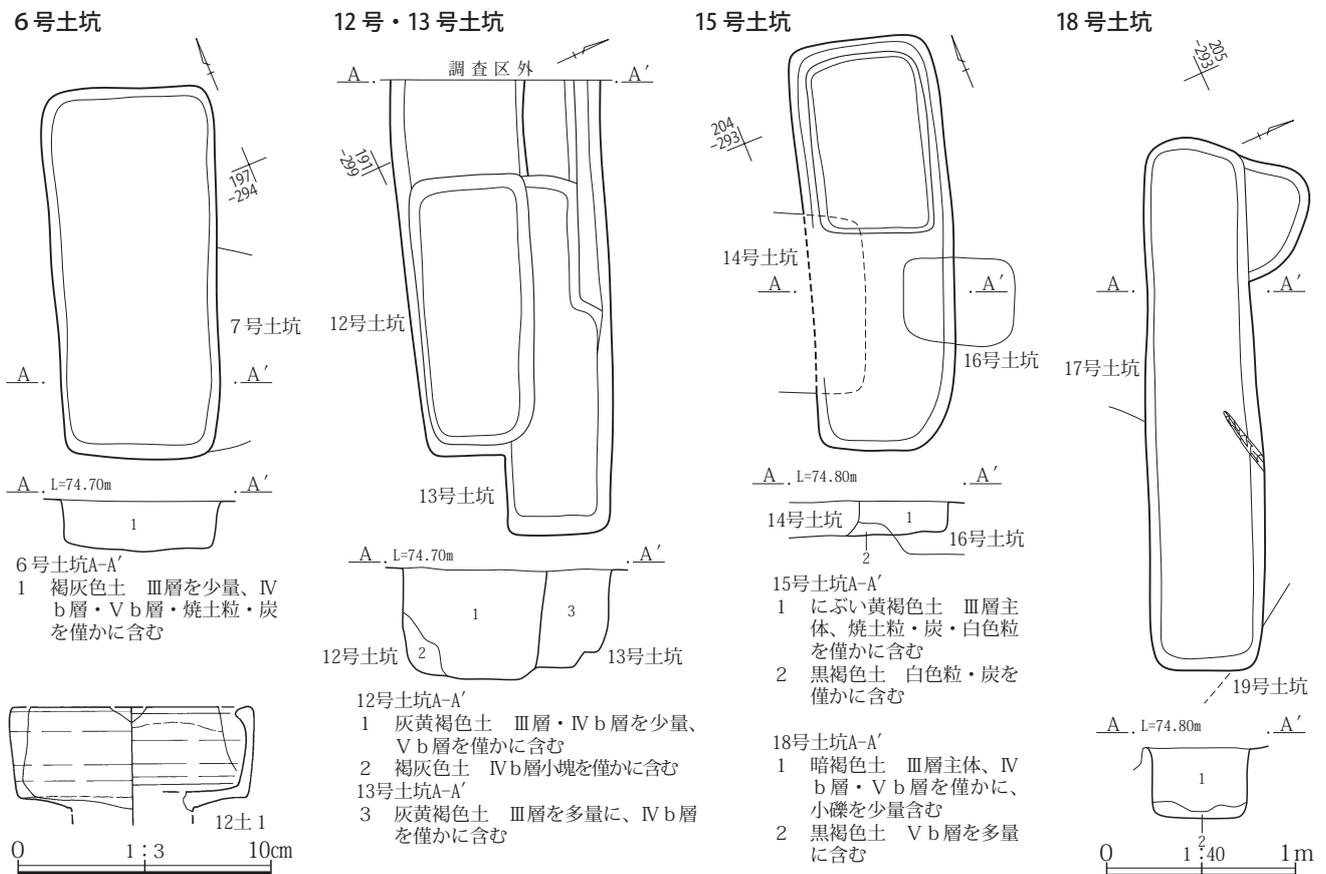
④楕円形の土坑(第265・267図 PL. 103・104・106・138)

3号・8号・17号・40～42号・45号がこれにあたる。3号・8号・17号土坑は一部の調査であるが、形状から全体形を推定してこれに含めた。これらの土坑は調査区

南部で3基が近接するものの、分布に偏りは見られなかった。平面形は楕円形で、底面はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは緩やかなものや急なものなど、土坑ごとに異なっている。埋没土は褐灰色土および灰黄褐色土を主体とする。8号土坑の埋没土1層はⅢ層由来の土を多量に含み、人為堆積と考えられる。42号土坑はⅡ層由来の土を多量に含み、人為的に埋められたと推定される。40号土坑は1層底面に桶の木片が残存していた。2層は黒褐色土や黄色粘土小塊を含む暗褐色土で、人為的に充填された土である。1層底面では幅数cm、深さ数cmの細い溝が円形に巡り、木片が一部残存していたことから、木桶が埋設されていたと推定される。遺物は、40号土坑の埋没土から、肥前の小丸碗(40土1)1点出土した。また、41号土坑の埋没土から、鉄滓が1点出土している。上西根遺跡3区で検出された32号・41号土坑と特徴が類似することから、40号土坑の時期は近世と考えられる。40号土坑以外の土坑の時期や性格は不明である。

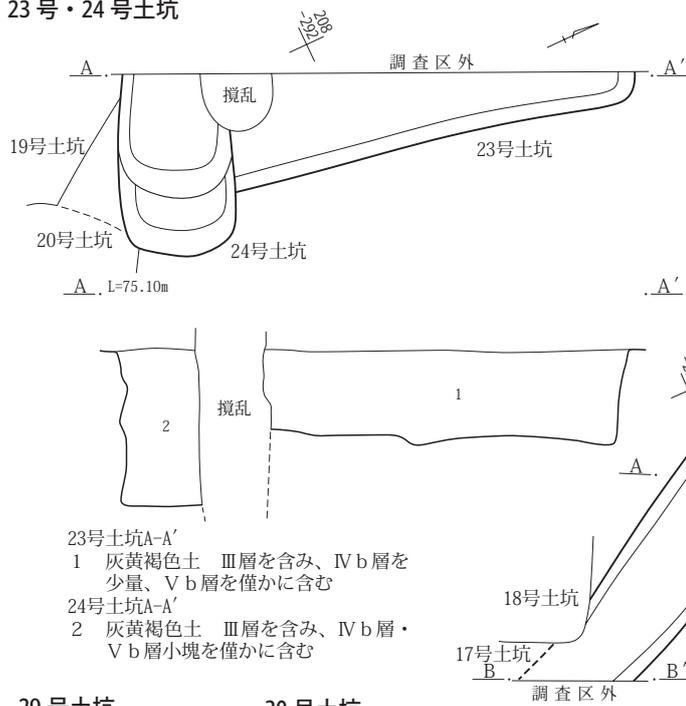
⑤不定形の土坑(その他の土坑)(第265・267・268図 PL. 103・105～107・138)

7号・31号・32号・43号・51号・59号土坑がこれに含

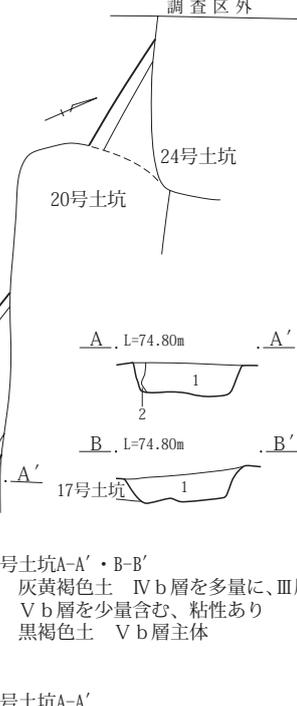


第263図 新屋敷1区6号・12号・13号・15号・18号土坑と12号土坑出土遺物

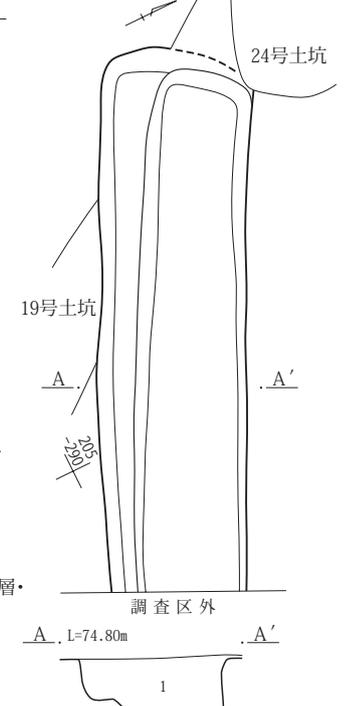
23号・24号土坑



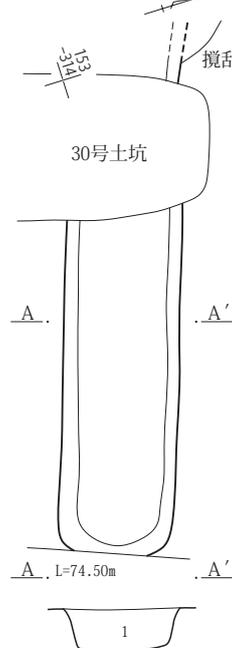
19号土坑



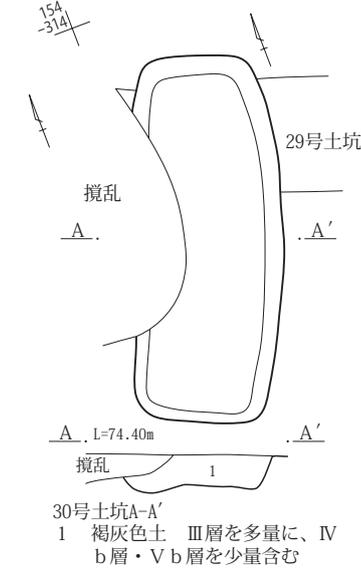
20号土坑



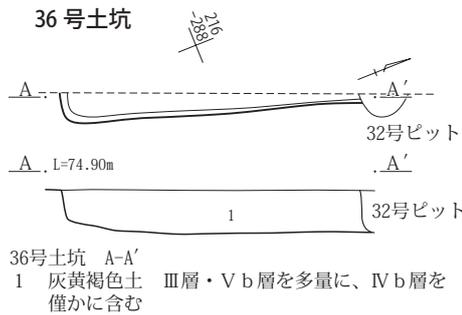
29号土坑



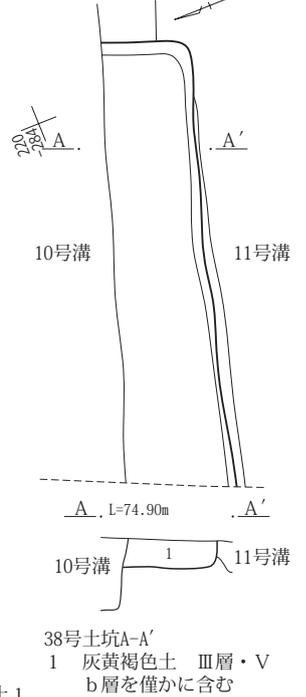
30号土坑



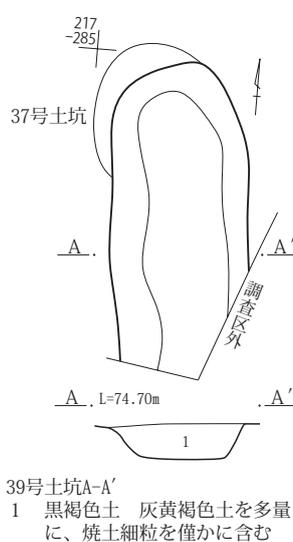
36号土坑



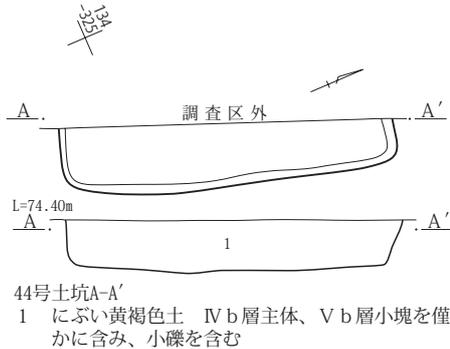
38号土坑



39号土坑



44号土坑

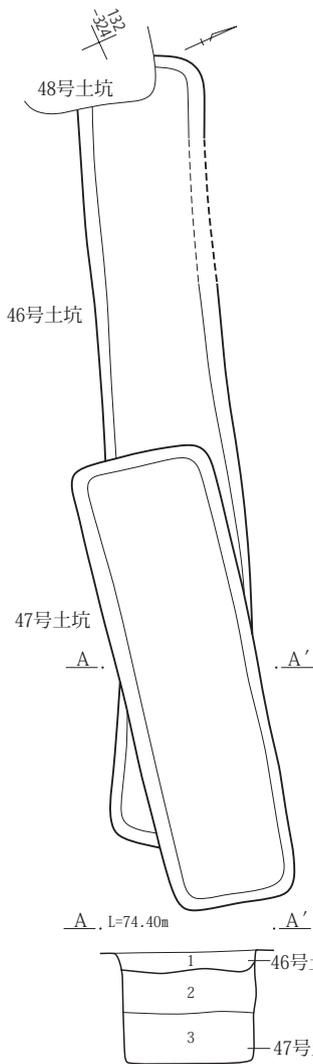


0 1:3 10cm

0 1:40 1m

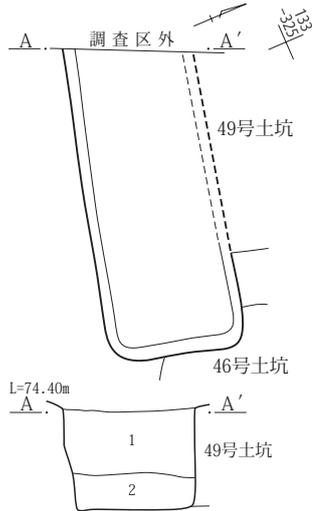
第264図 新屋敷1区19号・20号・23号・24号・29号・30号・36号・38号・39号・44号土坑と38号土坑出土遺物

46号・47号土坑



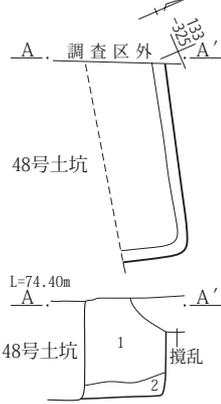
- 46号土坑A-A'
1 黄灰色土 V b層小塊を僅かに含む
- 47号土坑A-A'
2 黒褐色土 IV b層小塊を多量に、V b層小塊を僅かに含む
3 褐灰色土 砂質土

48号土坑



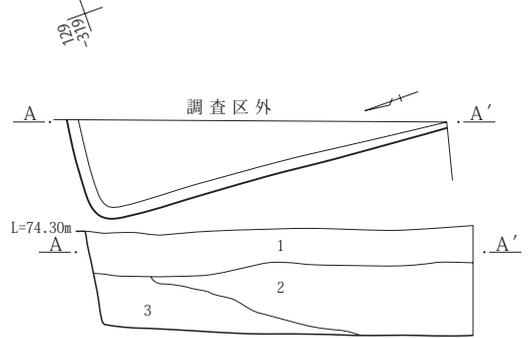
- 48号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 IV b層を多量に、V b層小塊を僅かに含む
2 にぶい黄色土 砂質土主体、V b層小塊を僅かに含む

49号土坑



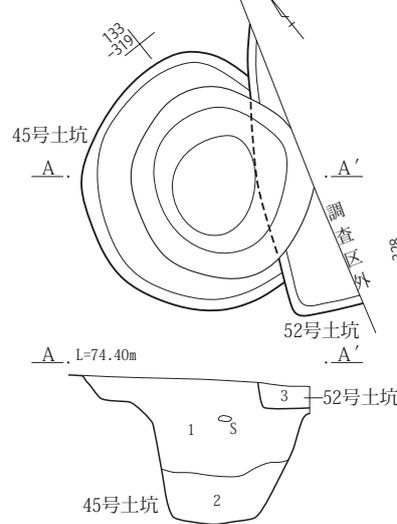
- 49号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 IV b層を少量、V b層小塊を僅かに含む
2 にぶい黄色土 砂質土主体

50号土坑



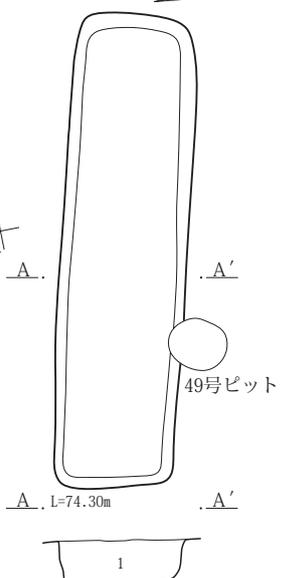
- 50号土坑A-A'
1 黒褐色土 IV b層・V b層を多量に、III層を僅かに含む
2 灰白色土 砂質土主体、V b層小塊を少量含む
3 黒褐色土 V b層を多量に、III層を僅かに含み、IV b層を少量含む

45号・52号土坑



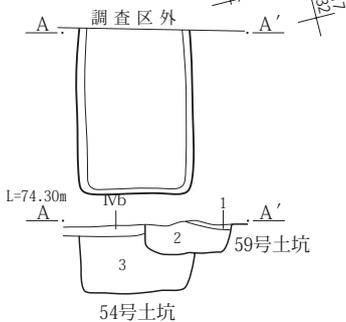
- 45号土坑A-A'
1 褐灰色土 III層を少量、IV b層・焼土粒を僅かに含む
2 褐灰色土 IV b層を多量に、V b層小塊を僅かに含む
- 52号土坑A-A'
3 褐灰色土 IV b層小塊を多量に、III層を少量含む

53号土坑



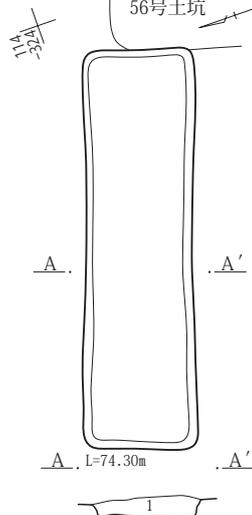
- 53号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 V b層小塊を多量に、IV b層を少量含む

54号・59号土坑



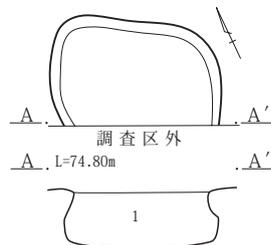
- 59号土坑A-A'
1 褐灰色土 IV b層を少量含む
2 褐灰色土 V b層を僅かに含む
- 54号土坑A-A'
3 褐灰色土 V b層小塊を多量に含む

55号土坑



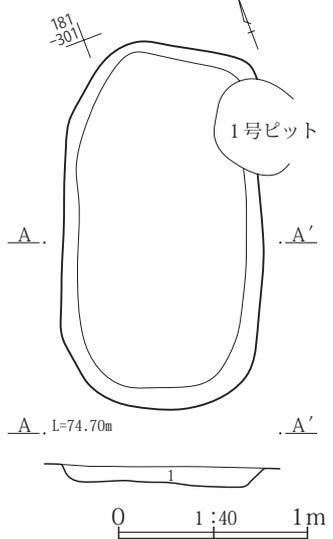
- 55号土坑A-A'
1 黄灰色土 V b層小塊を僅かに含む

1号土坑

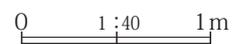


- 1号土坑A-A'
1 灰褐色土 III層を少量、IV b層・V b層を僅かに含む

2号土坑

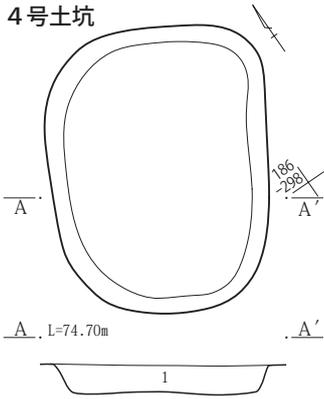


- 2号土坑A-A'
1 褐灰色土 III層を多量に、IV b層・V b層を少量含む



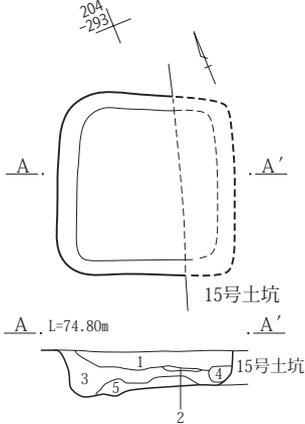
第265図 新屋敷1区1号・2号・45号～50号・52号～55号・59号土坑

4号土坑



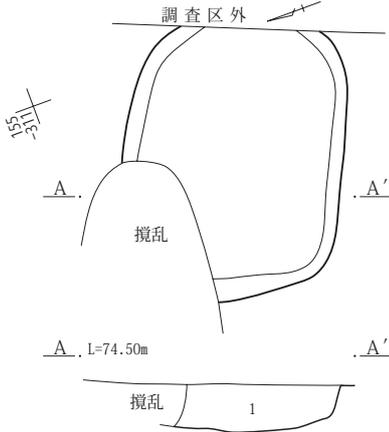
4号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層を多量に、IV b層・V b層を少量、白色粒を僅かに含む

14号土坑



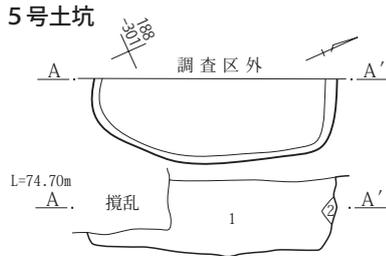
14号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅱ層・Ⅲ層を含む
2 灰黄褐色土 Ⅱ層主体
3 灰黄褐色土 Ⅱ層を多量に、小礫を含む
4 灰黄褐色土 IV b層を多量に、黒褐色土を少量含む
5 灰黄褐色土 IV b層を少量含む

26号土坑



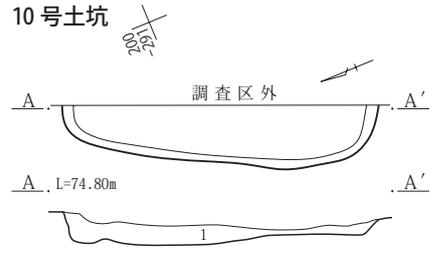
26号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層を多量に、IV b層・V b層を僅かに含む

5号土坑



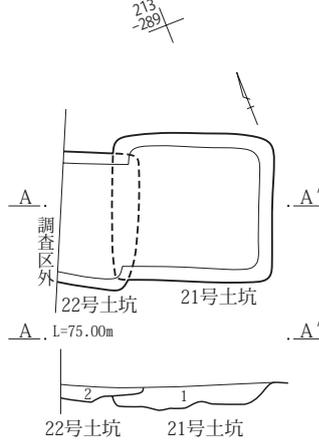
5号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層を少量、IV b層・V b層を僅かに含む
2 黒褐色土 V b層小塊

10号土坑



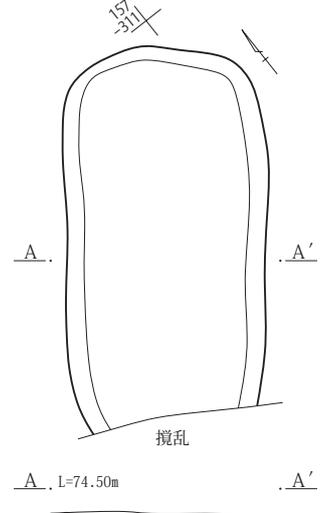
10号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層を少量、IV b層・V b層を僅かに含む

21号・22号土坑



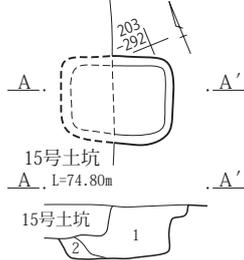
21号土坑A-A'
1 黄灰色土 Ⅲ層・IV b層・V b層小塊を僅かに含む
22号土坑A-A'
2 黄灰色土 Ⅲ層・V b層を僅かに含む

25号土坑



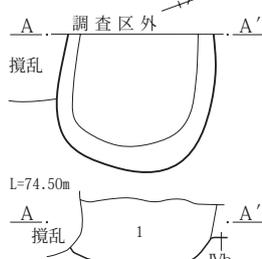
25号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層を多量に、褐灰色土を少量含む

16号土坑



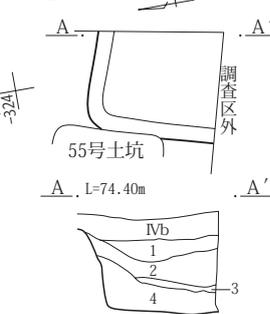
16号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層主体、V b層小塊を含み、焼土粒を僅かに含む
2 黒褐色土 V b層主体、灰白色土を僅かに含む

28号土坑



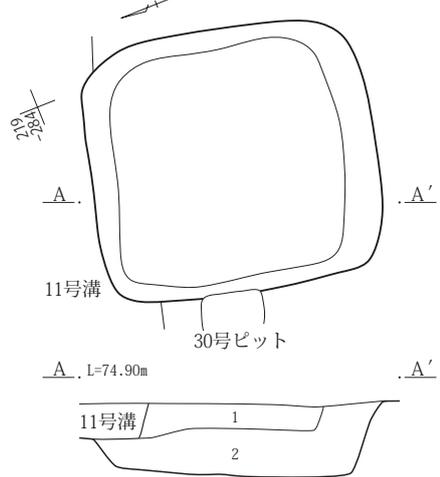
28号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層を多量に、褐灰色土を少量含む

56号土坑

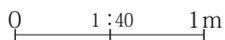


56号土坑A-A'
1 灰色土 砂質土・酸化鉄を多量に含む
2 黄灰色土 酸化鉄を少量含む
3 黄灰色土 酸化鉄を僅かに含む、色味暗い
4 褐灰色土 V b層小塊を僅かに含む

33号土坑

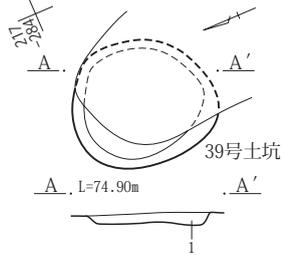


33号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層を少量含む
2 褐灰色土 灰白色土・V b層を多量に含む



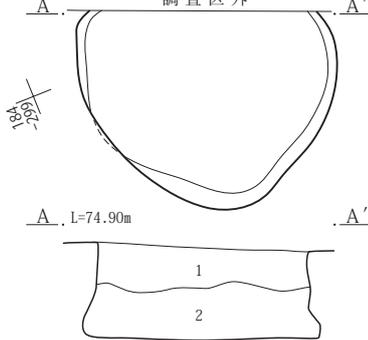
第266図 新屋敷1区4号・5号・10号・14号・16号・21号・22号・25号・26号・28号・33号・56号土坑

37号土坑



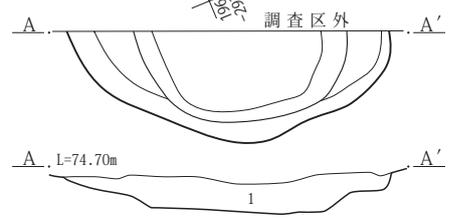
37号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層を少量、IV b層・V b層を僅かに含む

3号土坑



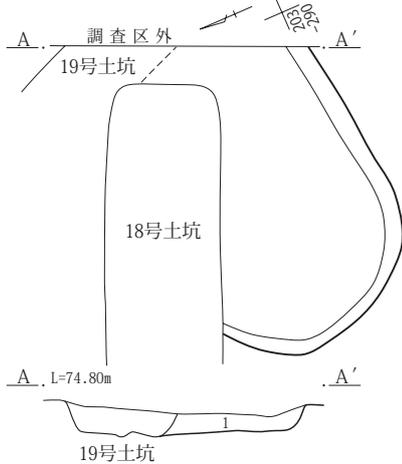
3号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層を少量含む
2 褐灰色土 Ⅲ層を多量に、IV b層・V b層を僅かに含む

8号土坑



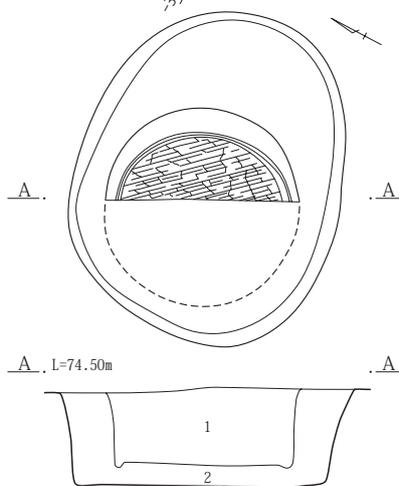
8号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 Ⅲ層を多量に、IV b層・V b層を僅かに含む

17号土坑



17号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 V b層を多量に含む

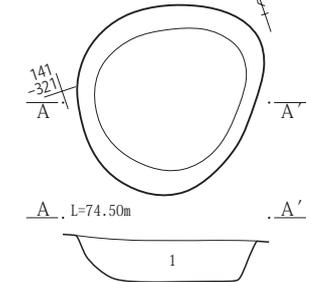
40号土坑



40号土坑A-A'
1 褐灰色土 やや砂質土・II層小塊を少量含む、底部に桶の木片一部残存
2 暗褐色土 黒褐色土を多量に、黄色粘土小塊を僅かに含む、粘土充填土

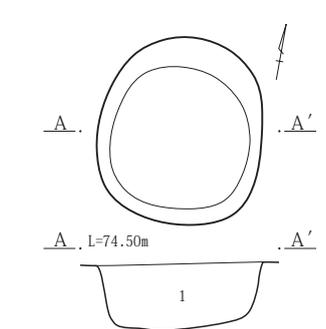
0 1:3 10cm

41号土坑



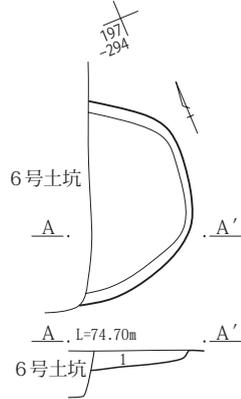
41号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 II層を多量に、V b層を少量含み、炭を僅かに含む

42号土坑



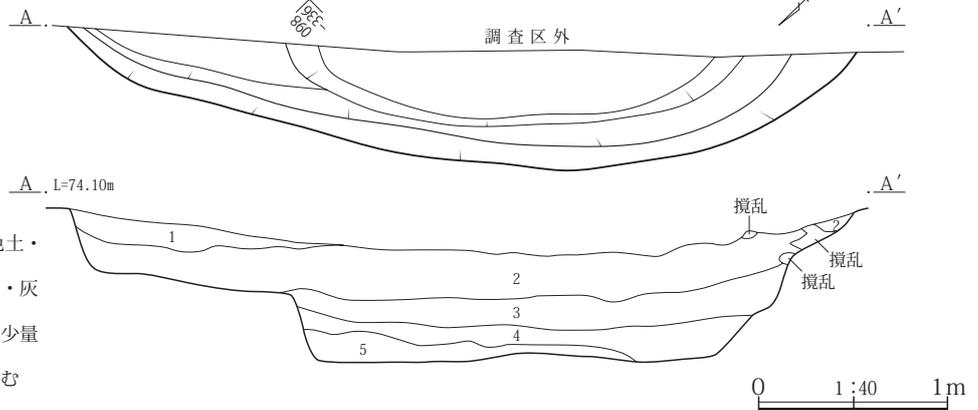
42号土坑A-A'
1 灰黄褐色土 II層を多量に、V b層を少量含む

7号土坑



7号土坑A-A'
1 にぶい黄褐色土 Ⅲ層・V b層を僅かに含む

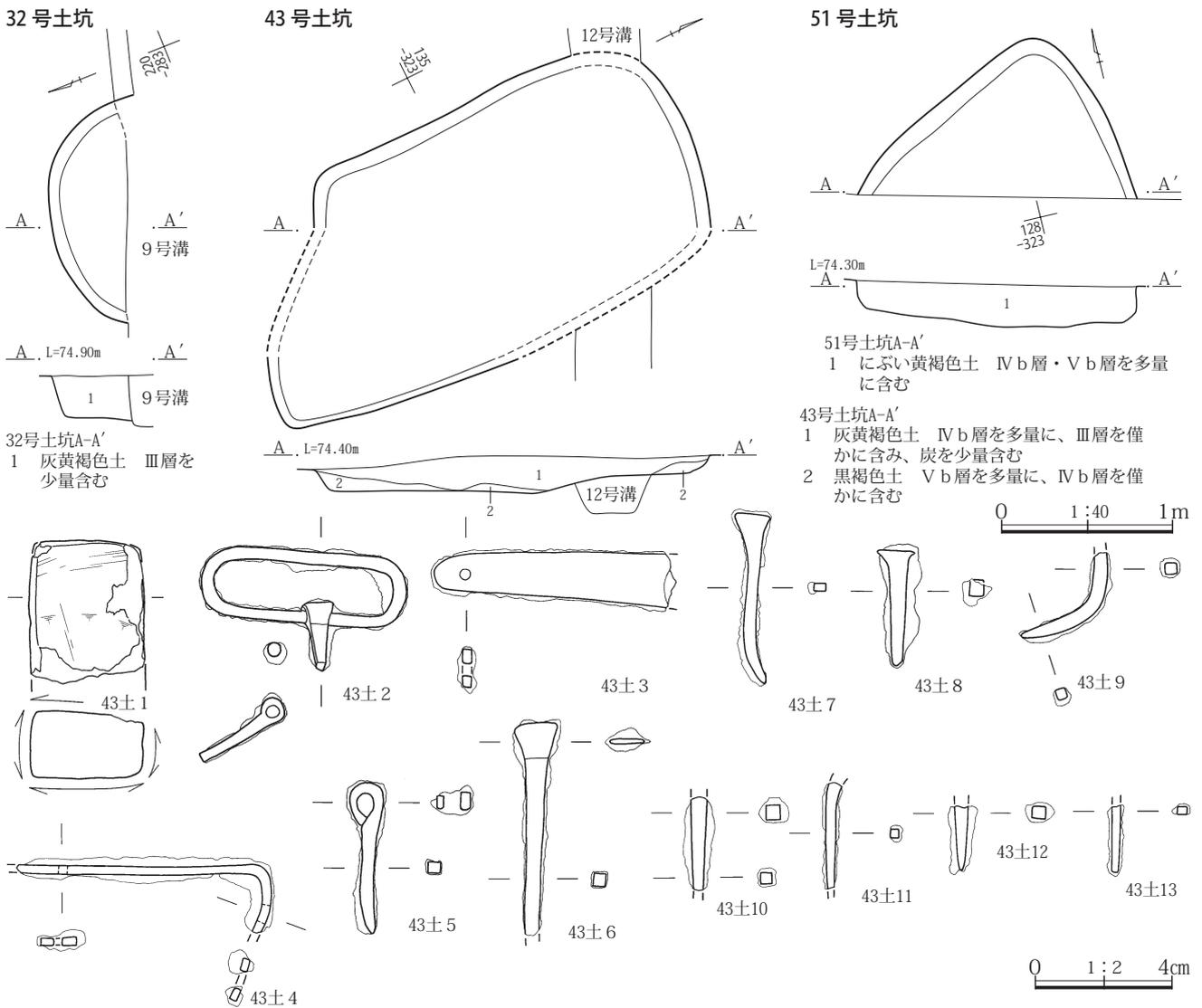
31号土坑



31号土坑A-A'
1 褐灰色土 Ⅲ層を多量に、灰黄褐色土・灰白色土を少量含む
2 褐灰色土 灰白色土を多量に、Ⅲ層・灰黄褐色土を少量含む
3 褐灰色土 Ⅲ層・IV b層・V b層を少量含む
4 灰黄褐色土 Ⅲ層・V b層を少量含む
5 灰黄褐色土 V b層を少量含む

0 1:40 1m

第267図 新屋敷1区3号・7号・8号・17号・31号・37号・40号～42号土坑と40号土坑出土遺物



第268図 新屋敷1区32号・43号・51号土坑と43号土坑出土遺物

まれる。7・31・32・51号土坑は一部の調査で、全体形を推定できなかったため、これに含めた。59号土坑は断面のみの検出で、54号土坑の土層断面観察時に確認された。断面形から、①の細長い土坑に含められる可能性があるが、平面形が不明のためこれに含めた。

31号土坑は南端調査区で検出され、埋没土1～5層は灰黄褐色土および灰白色土、黒褐色土の薄層が幾層にも重なってできた水成堆積層である。遺物は、43号土坑の埋没土から鉄製品(43±2～13)が12点出土した。43±6～13は断面形が四角形で、鉄釘と考えられる。これらの土坑の時期および性格は不明である。

5. ピット(第269・270図)

ピットは50基検出した。北側調査区で20基以上のピットが集中している。それ以外のピットは調査区内に散漫に分布している。整理作業でも、位置や間隔、埋没土の

特徴から、掘立柱建物や柵にならないか検討を行ったが、建物などに認識できるものはなかった。遺構検出面はⅤb層である。ピットの埋没土は類似し、Ⅲ層・Ⅳ層由来の土を含む灰黄褐色土および褐灰色土を主体とする。各ピットの規模や出土遺物の点数については、329・331ページに示す。出土した遺物はいずれも細片のため図示しなかった。これらのピットの時期は埋没土の特徴から、中世以降と考えられるが、詳細は不明である。

6. 遺構外から出土した遺物(第270図)

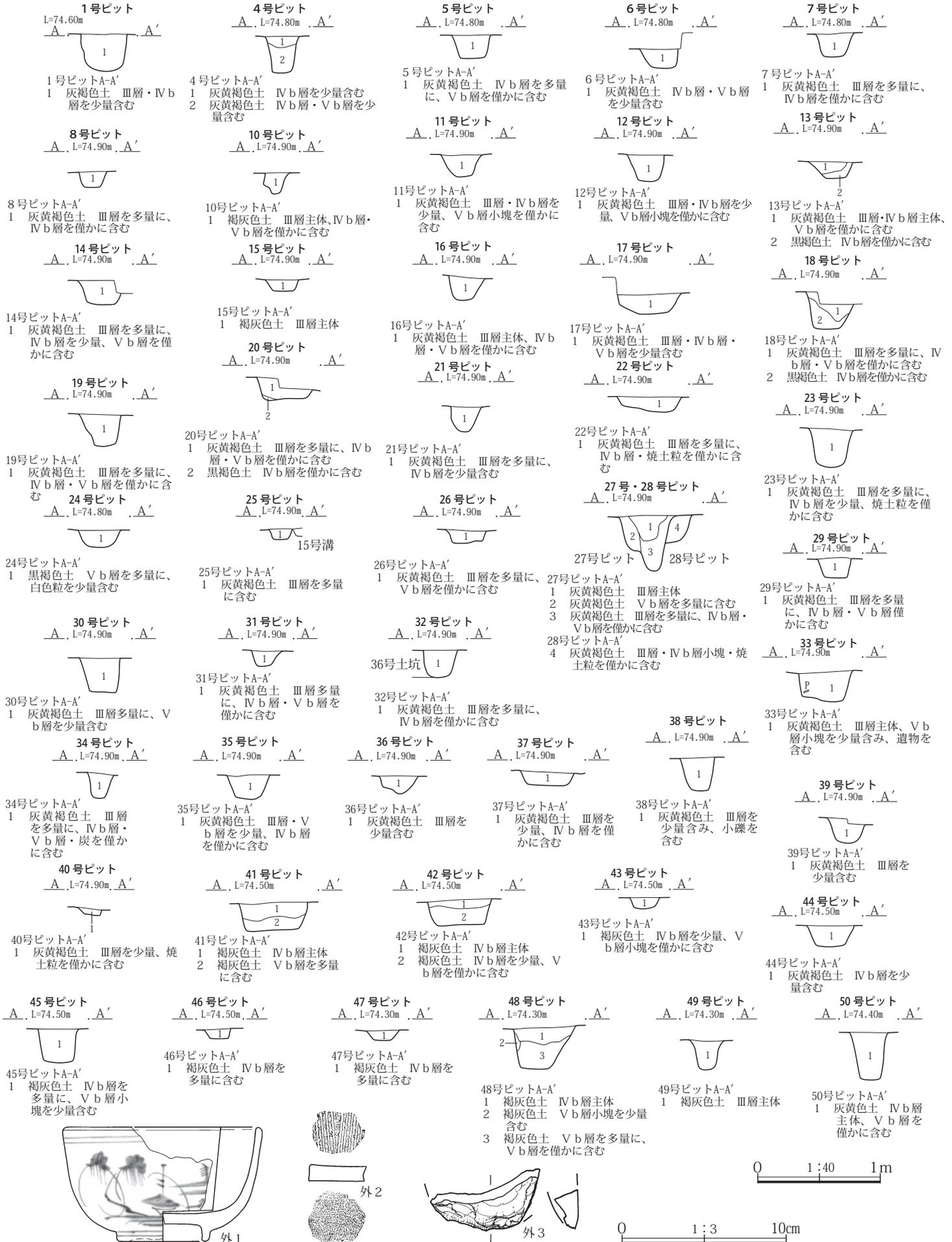
遺構外から出土した遺物は、土師器280点、須恵器11点、陶磁器9点、時期不明土器3点、土製品1点、石器2点、礫1点、鉄製品1点の合計308点で、このうち3点を図示した。陶磁器はすべて近世のものである。外2はすり鉢の体部片の周囲を打ち欠き、円盤状に整形している。外3は細粒輝石安山岩製の打製石斧で、刃部は著しく摩耗している。



第269図 新屋敷1区ピット全体図

0 1:100 5m

第5章 新屋敷遺跡の調査



第270図 新屋敷1区1号・4号～8号・10号～50号ピット土層断面と遺構外出土遺物

第6章 自然科学分析

関遺跡・上西根遺跡では、①火山灰分析および年代測定、②プラント・オパール分析、③人骨、④馬歯、⑤金属製品の5種類の自然科学分析を行った。その目的は次のとおりである。

- ①発掘調査で検出した土層の層位や年代について、火山灰分析や年代測定により明確にする。
- ②発掘調査では水田を検出できなかったものの、水田の存在が予想されたため、埋没水田土壌を確認する。
- ③関遺跡7区で出土した人骨について、個体数、性別、年齢などの基本的な情報を得、遺構理解の参考にする。
- ④上西根遺跡出土の馬歯について、部位の同定、性別、年齢等の基礎的な情報を得、遺構の性格を考える資料とする。
- ⑤上西根遺跡出土の丸軻裏金具と考えられる金属製品について、材質および製作技法を明らかにする。

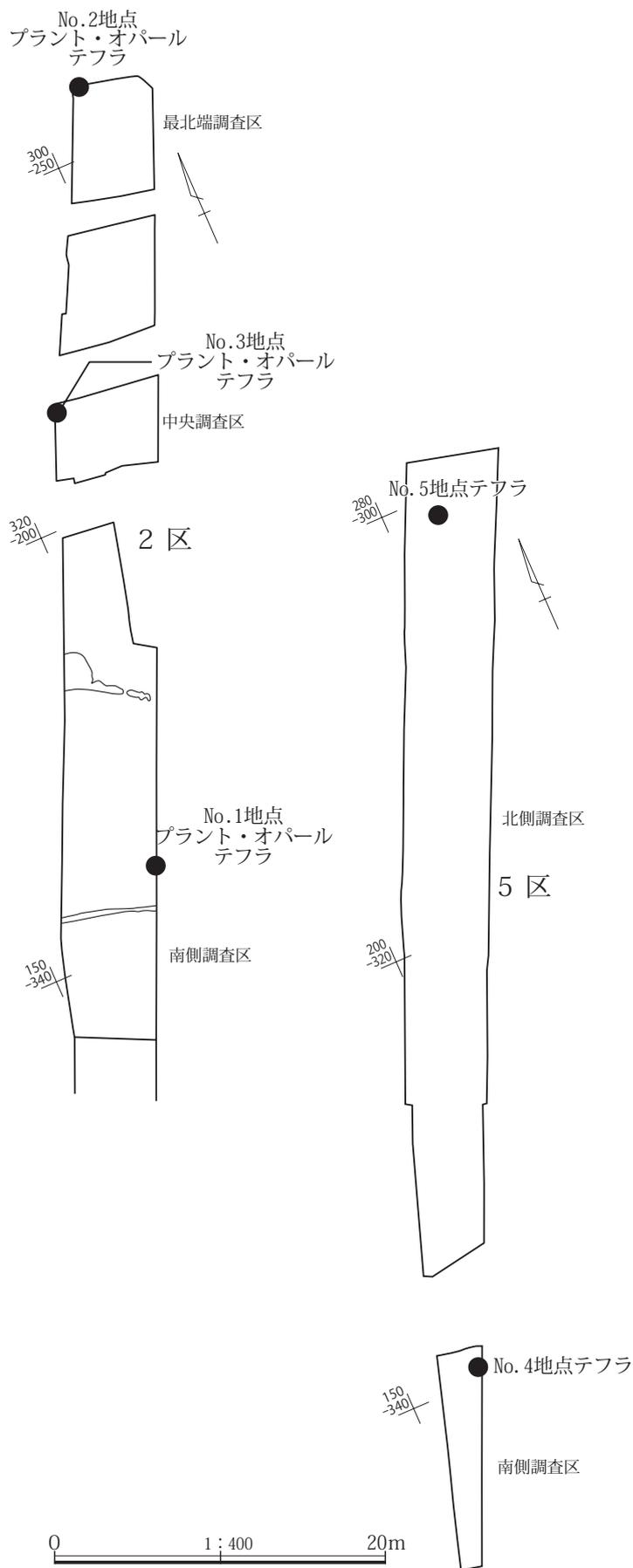
第1節 上西根遺跡の火山灰分析および年代測定

I. 上西根遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

関東地方北西部に位置する伊勢崎市とその周辺には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(火山碎屑物、いわゆる火山灰)が数多く降灰している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載学的な特徴がテフラ・カタログ(町田・新井, 1992, 2003)などに収録されており、遺跡などで調査分析を行ってテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

上西根遺跡の発掘調査区でも、層位や年代が不明なテフラや土層が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行うとともに、採取した試料を対象にテフラ分析を行って、土層の層序や層位さらに年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象



第271図 火山灰分析、プラント・オパール分析試料採取地点

となった地点は、2区南側調査区東壁(15号住居東壁)、2区最北端調査区北壁、2区中央調査区、5区南深掘トレンチ、5区北深掘トレンチの5地点である。

2. 土層の層序

(1) 2区南側調査区東壁(15号住居東壁)

2区南側調査区東壁(15号住居東壁)では、下位より灰褐色土(層厚10cm以上)、黒灰褐色土(層厚7cm)、わずかに灰色がかかった褐色土(層厚9cm)、暗灰色土(層厚11cm)、灰色シルト層(層厚13cm)、淘汰の良い灰色砂層(層厚6cm)、灰色シルト層(層厚13cm)、黄色シルト層(層厚9cm)、灰色土(層厚9cm)、暗灰色土(層厚8cm)、暗灰色粗粒火山灰層(層厚3cm)、暗灰色砂質土(層厚5cm)、砂混じり灰褐色土(層厚13cm)、淘汰の良い灰白色砂層(層厚3cm)、砂混じり灰色土(層厚16cm)、道路盛土(層厚41cm)が認められる(第272図)。

これらのうち、暗灰色粗粒火山灰層は、層相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(荒牧, 1968, 新井, 1979)と考えられる。

上位の淘汰の良い灰白色砂層は、聞き取り調査の結果、1947(昭和22)年のカスリン台風による洪水堆積物と考えられている。

(2) 2区最北端調査区北壁

2区最北端調査区北壁では、下位より暗灰褐色土(層厚5cm以上)、灰色シルト層(層厚5cm)、黄灰色砂層(層厚11cm)、若干黄色がかかった灰色土(層厚4cm)、暗灰褐色土(層厚10cm)、暗灰褐色砂質土(層厚4cm)、砂混じり灰褐色土(層厚29cm)、灰褐色表土(層厚36cm)が認められる(第272図)。

(3) 2区中央調査区

2区中央調査区では、下位より黄灰色細粒軽石を多く含む暗灰褐色粘質土(層厚3cm以上)、灰色砂質シルト層(層厚10cm)、暗灰色泥層(層厚0.5cm)、黄灰色シルト層(層厚14cm)、淘汰の良い黄色がかった灰色砂層(層厚7cm)、褐色がかかった灰色シルト層(層厚12cm)、黄橙色砂礫層(層厚3cm, 礫の最大径3mm)、黄灰色砂層(層厚3cm)、灰色がかかった黄色シルト層(層厚7cm)、黄灰色粘質土(層厚12cm)、灰褐色粘質土(層厚4cm)、暗灰色粘質土(層厚

7cm)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚2cm)、砂混じりでとくに色調が暗い暗灰褐色土(層厚5cm)、炭化物混じりで灰色がかかった褐色土(層厚26cm)、淘汰の良い灰白色砂層(層厚6cm)、灰色がかかった褐色砂質土(層厚13cm)、道路盛土(層厚24cm)が認められる(第272図)。

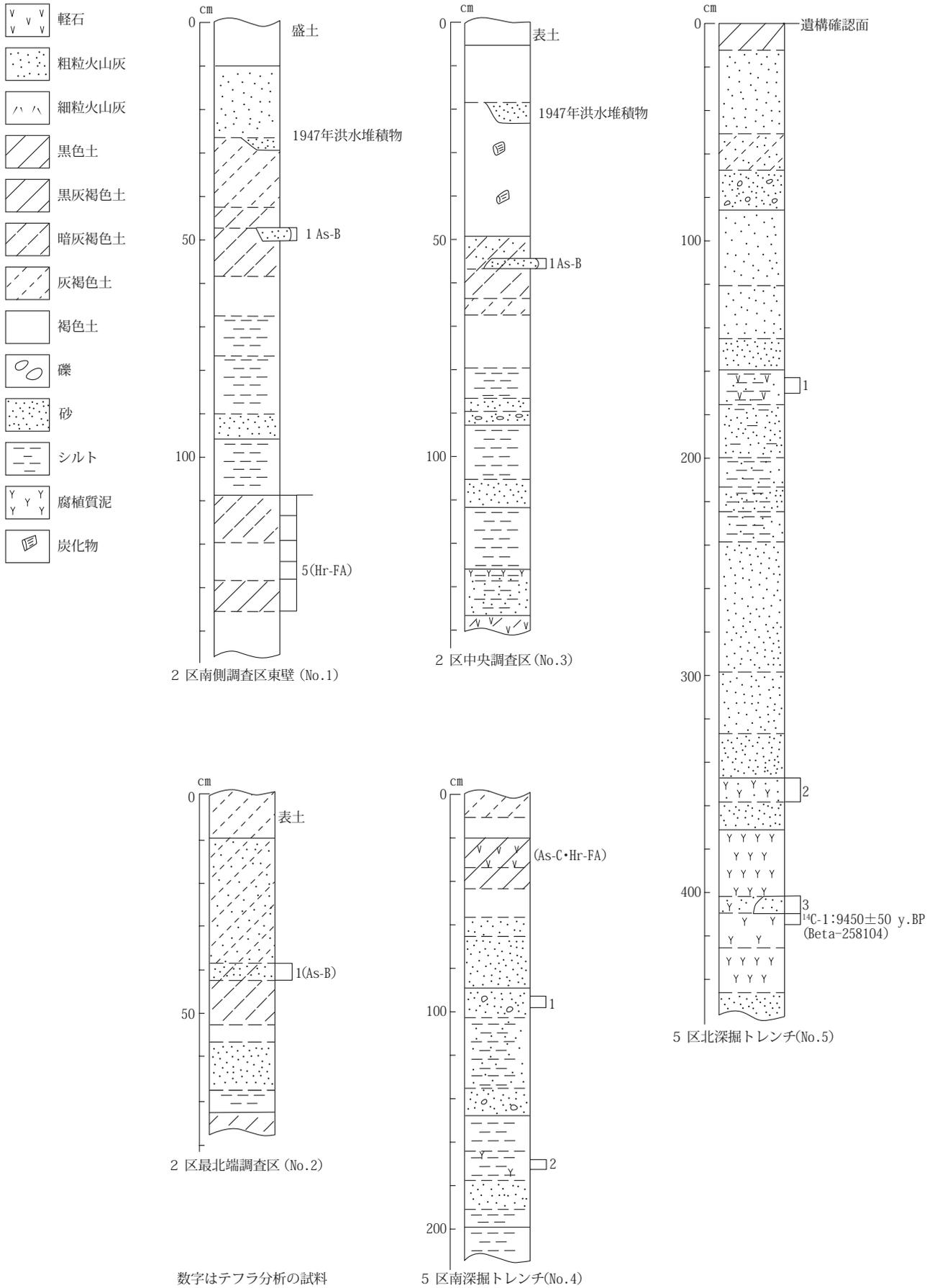
(4) 5区南深掘トレンチ

2号井戸を断ち割って作成された5区南深掘トレンチでは、下位より若干色調が暗い灰色シルト層(層厚15cm以上)、灰色シルト層(層厚7cm)、淘汰の良い灰色砂層(層厚14cm)、黄白色軽石を少量また砂を多く含む暗灰褐色腐植質シルト層(層厚13cm, 軽石の最大径5mm)、灰褐色シルト層(層厚16cm)、垂円礫を少量含む淘汰の良い灰色砂層(層厚13cm, 礫の最大径4mm)、砂混じり灰色シルト層(層厚32cm)、垂円礫をごく少量含む灰白色砂層(層厚14cm, 礫の最大径6mm)、淘汰が比較的良好な灰色砂層(層厚24cm)、若干色調が暗い灰色砂質土(層厚8cm)、若干色調が暗い灰色土(層厚13cm)、黒灰色土(層厚10cm)、黄灰色細粒軽石(最大径3mm)を多く含む白色軽石(最大径9mm)混じり黒灰色土(層厚13cm)、若干黄色がかかった灰色シルト層(層厚9cm)、砂混じり灰褐色土(層厚10cm以上)が認められる(第272図)。

これらのうち、上部の黄灰色細粒軽石については、その岩相から3世紀後半に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)に由来すると考えられる。また、ほぼ同層準に認められるより粗粒の白色軽石については、層位や岩相などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。

(5) 5区北深掘トレンチ

5区北深掘トレンチでは、下位より灰色砂層(層厚10cm以上)、暗灰色腐植質泥層(層厚21cm)、色調がとくに暗い暗灰色腐植質泥層(層厚15cm)、正の級化構造をもつ灰色砂層(層厚8cm)、黒灰色腐植質泥層(層厚30cm)、淘汰の良い灰色砂層(層厚12cm)、黒灰褐色腐植質砂層(層厚12cm)、灰色砂層(層厚20cm)、若干色調が暗い灰色砂層(層厚28cm)、灰色砂層(層厚60cm)、砂混じり灰色砂層(層厚60cm)、灰色シルト質砂層(層厚12cm)、砂混じり



第272図 上西根2・5区土層柱状図

て若干色調が暗い灰色シルト層(層厚25cm)、灰色シルト質砂層(層厚14cm)、鉄分をやや多く含む黄灰色砂層(層厚24cm)、黄色がかった淘汰の良い灰色砂層(層厚35cm)、礫を含む黄色がかった灰色砂層(層厚18cm、礫の最大径5mm)、灰褐色砂質土(層厚17cm)、若干色調が暗い灰色砂質土(層厚38cm)、黒灰褐色土(層厚12cm)が認められる(第272図)。

3. テフラ検出分析

(1)分析試料と分析方法

2区南側調査区東壁(15号住居東壁)、2区最北端調査区北壁、2区中央調査区、5区南深掘トレンチ、5区北深掘トレンチの5地点において、テフラ層や土層ごと、また土層の層界をまたがないように基本的に5cmごとに設定採取された試料のうち、11試料を対象にテフラ粒子の特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- 1)試料8～12gを秤量。
- 2)超音波洗浄装置を用いながら慎重に泥分を除去。
- 3)80℃で恒温乾燥。
- 4)実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。

(2)分析結果

テフラ検出分析の結果を第11表に示す。2区南側調査区東壁(15号住居東壁)の試料6には、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(最大径2.2mm)と、その細粒物である灰白色軽石型ガラスを比較的多く認めることができる。その斑晶には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれている。試料4には、この火山ガラスのほか、発泡がさほど良くない白色軽石型ガラスも比較的多く含まれている。この火山ガラスの斑晶には、重鉱物として角閃石や斜方輝石が認められる。

試料2には、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(最大径2.1mm)と、その細粒物である灰白色軽石型

第11表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
2区東壁(15号住居東壁)	1	**	淡褐	3.3	***	pm	淡褐
	2	*	灰白	2.1	**	pm	灰白,白
	4				**	pm	灰白,白
2区最北地点調査区北壁	6	*	灰白	2.2	**	pm	灰白
	1	**	淡褐	2.8	***	pm	淡褐
2区北部	1	**	淡褐	8.2	***	pm	淡褐
	2						
5区南深掘トレンチ	1						
	2						
5区北深掘トレンチ	1						
	2				*	pm,md	白,透明
	3	*	白	2.9	*	pm,md	白,透明

***:とくに多い, **:多い, **:中程度, *:少ない, 最大径の単位はmm, bw:バブル型, pm:軽石型。

ガラスを比較的多く認めることができる。その斑晶には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれている。また、ほかに発泡がさほど良くない白色軽石型ガラスも比較的多く含まれている。この火山ガラスの斑晶には、重鉱物として角閃石や斜方輝石が認められる。さらに、試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石(最大径3.3mm)やその細粒物である淡褐色軽石型ガラスが多く含まれている。これらの斑晶には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。

2区最北端調査区北壁の試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石(最大径2.8mm)やその細粒物である淡褐色軽石型ガラスが多く含まれている。これらの斑晶には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。また、2区中央調査区の試料1にも、比較的良く発泡した淡褐色軽石(最大径8.2mm)やその細粒物である淡褐色軽石型ガラスが多く含まれている。これらの斑晶には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。

5区南深掘トレンチでは、軽石、スコリア、火山ガラスいずれもほとんど認められなかった。一方、5区北深掘トレンチでは、試料3で発泡の良くない白色軽石(最大径2.9mm)や、その細粒物である白色の軽石型ガラスまた分厚い中間型ガラスが少量認められる。また、試料2に白色の軽石型ガラスや中間型ガラスが少量含まれている。

4. 屈折率測定

(1)測定試料と測定方法

テフラ検出分析で認められたテフラ粒子のうち、火山ガラスが検出された5区北深掘トレンチ試料3に含まれる火山ガラスと斜方輝石、また試料2に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定法により屈折率の測定を実施した。火山ガラスについては古澤地質社製MAIOT、斜方輝石については京都フィッシュン・トラック社製RIMS2000を測定に使用した。

(2)測定結果

屈折率測定の結果を第12表に示す。5区北深掘トレンチの試料3に含まれる火山ガラス(n)はbimodalで、スポンジ状の軽石型ガラス(5粒子)が1.500-1.501、中間型ガラス(14粒子)が1.502-1.504である。また、斜方輝石の屈折率(γ)はrangeが比較的広く、1.705-1.715である。

一方、試料2に含まれる火山ガラス(4粒子)の屈折率(n)は、1.502-1.503である。

第12表 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス		斜方輝石	
		屈折率(n)	測定粒子数	屈折率(γ)	測定粒子数
5区北深掘トレンチ	2	1.502-1.503	4		
	3	1.500-1.501, 1.502-1.504	5, 14	1.705-1.715	40

測定は温度変化型屈折率測定装置(火山ガラス: MA10T, 斜方輝石: RIMS2000)による。

5. 考察

テフラ検出分析で認められたテフラ粒子のうち、灰白色軽石やその細粒物である灰白色軽石型ガラスについては、その特徴からAs-Cに由来すると考えられる。また、斑晶に角閃石が認められる白色軽石や、その細粒物である白色の軽石型ガラスは、その特徴からHr-FAまたはHr-FPに由来すると考えられる。テフラの分布と本遺跡の位置関係からは、前者の可能性がより高いと考えられる。さらに、比較的良く発泡した淡褐色軽石やその細粒物である淡褐色軽石型ガラスは、その特徴から、As-Bと考えられ、2区南側調査区東壁(15号住居東壁)の土層断面の観察によるテフラ同定を支持する。

以上のことを踏まえると、2区南側調査区東壁(15号住居東壁)において認められた成層した水成堆積物の層位は、Hr-FAより上位で、As-Bより下位にあると考えられる。この堆積物は、本遺跡において2区最北端調査区北壁や2区中央調査区など広い範囲に分布しているらしい。より堆積状況の良い2区中央調査区では、間に暗灰色泥層も含まれることから、わずかながらも時間間隙が存在する可能性も考えられる。周辺での詳細な土層観察が今後必要と思われる。

5区北深掘トレンチの2試料から検出された中間型ガラスで特徴づけられる火山ガラスの多くは、赤城火山起源のテフラ粒子の特徴に関する資料があまり多くないことから正確には不明ではあるが、その形態や屈折率などから、約1.3～1.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992など)で代表される浅間火山の後期更新世末期のテフラに由来する可能性が考えられる。したがって、2試料が採取された層準については、As-YPより上位にあると推

定される。このことは、試料3直下の埋没腐植層の放射性炭素(¹⁴C)年代, 9,450±50 y. BP (Beta-258104, 後述)とも矛盾しない。また、斜方輝石の屈折率のrangeが広いことは、この堆積物が起源の異なるテフラ粒子を含むことを示唆している。実際、その値は、浅間系テフラのほか、大胡火砕流堆積物をはじめとする赤城火山起源のテフラ、さらに榛名八崎軽石(Hr-HP, 約5万年前以前, 新井, 1962, 町田・新井, 2003など)など榛名系テフラに含まれる斜方輝石のほとんど値と重なるものである。

本地点において、その上位に検出された、おもに砂やシルトからなる比較的厚い水成堆積物は、この砂質堆積物の堆積後しばらくして形成されており、As-Cの降灰前にはその堆積が終了しているらしい。この水成堆積物は伊勢崎台地を覆う砂質堆積物に関係する可能性が高い。この堆積物は、一般に伊勢崎台地における埋蔵文化財調査の際に基盤層として扱われているものの、その年代は新しい可能性があり、試料3が採取された火山泥流堆積物も含めて、今後赤城山南麓を含めた広い範囲で分布、層位、年代、発生機構などを調べておく必要がある。

6. まとめ

上西根遺跡において、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を実施した。その結果、下位より浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)などのテフラ層やテフラ粒子を検出することができた。

また、約9,500年前^{*1}に泥流が流下・堆積した可能性が指摘され、その上位から砂やシルトなどからなる比較的厚い水成堆積物が検出された。

*1 放射性炭素(¹⁴C)年代。As-YPの較正年代については、約1.5～1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003)。

II. 上西根遺跡における放射性炭素(¹⁴C)年代測定

1. 測定試料と測定方法

伊勢崎市上西根遺跡5区北深掘トレンチにおいて、分析測定担当者により採取された試料¹⁴C-1 (測定試料名: TNH-0058S)について、酸洗浄による試料の処理・調整後、加速器質量分析(AMS)法により年代測定を行った。試料の詳細を第13表に示す。なお、測定実施機関はBeta Analytic Inc. (ベータ社, 米国)で、測定には3MV HVEE タンデトロン加速器が使用された。

2. 測定結果

測定結果を第14表に示す。試料の年代測定の結果(補正年代値)は、9,450±50 y. BP (Beta-258104)であった。確率68% (1σ)での暦年較正年代は、Cal BC 8790 ~ 8700およびCal BC 8680 ~ 8650である。

なお、各用語の意味は次の通りである。

1) 未補正¹⁴C年代値

試料の¹⁴C/¹²C比から、単純に現在(AD 1950年)から何年前かを計算した値。¹⁴Cの半減期は、国際的慣例によりリビー (Libby)の5,568年を用いた。

2) δ¹³C 測定値

試料の測定¹⁴C/¹²C比を補正するための炭素安定同位体比(¹³C/¹²C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正¹⁴C年代値

δ¹³C 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、¹⁴C/¹²Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試

料のδ¹³C値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代である。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中¹⁴C濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の¹⁴Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と¹⁴C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。使用したデータセットは、INTCAL04: Calibration Issue of Radiocarbon, 46 (3), 2004 (海洋性試料については、Marine04)である。また、較正曲線のスムーズ化には下記の理論を用いた。

Talma, A. S. and Vogel, J. C. (1993) A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Radiocarbon, 35 (2), p. 317-322.

なお、暦年代の交点とは、補正¹⁴C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ(68%確率)・2σ(95%確率)は、補正¹⁴C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p. 1-79.
 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no. 157, p. 41-52.
 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地団研専報, no. 45, 65p.
 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p. 103-119.
 坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係—. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p. 17-22.
 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p. 297-312.

第13表 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	¹⁴ C試料名	採取地点	種類	重量*1	前処理	測定方法
¹⁴ C-1	TNH-0058S	5区北深掘トレンチ	腐植層	64.5g	酸洗浄	加速器質量分析(AMS)法

*1: 乾燥前の重量。

第14表 放射性炭素年代測定結果

試料	¹⁴ C試料名	未補正 ¹⁴ C年代(yBP)	δ ¹³ C	補正 ¹⁴ C年代(yBP)	暦年較正年代	測定番号
¹⁴ C-1	TNH-0058S	9400±50	-22.1	9450±50	2σ: BC9000 ~ BC9090, BC8830 ~ BC8620 1σ: BC8790 ~ BC8700, BC8680 ~ BC8650 交点: BC8750	Beta-258104

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-22.1:lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-258104

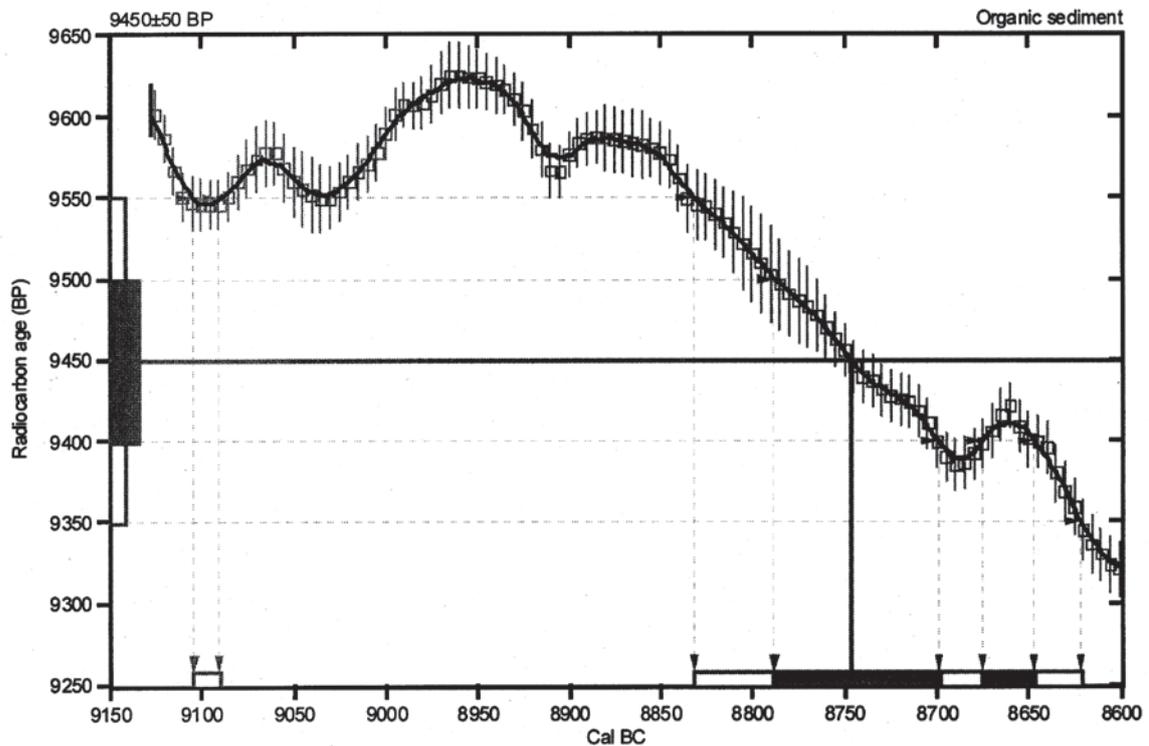
Conventional radiocarbon age: 9450±50 BP

**2 Sigma calibrated results: Cal BC 9100 to 9090 (Cal BP 11050 to 11040) and
(95% probability) Cal BC 8830 to 8620 (Cal BP 10780 to 10570)**

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 8750 (Cal BP 10700)

**1 Sigma calibrated results: Cal BC 8790 to 8700 (Cal BP 10740 to 10650) and
(68% probability) Cal BC 8680 to 8650 (Cal BP 10620 to 10600)**



References:

Database used

INTCAL04

Calibration Database

INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration

IntCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

第2節 上西根遺跡のプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したもので、植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネの消長を検討することで水田跡(稲作跡)の検証や探査が可能である(杉山, 2000)。

2. 試料

分析試料は、2区南側調査区東壁(15号住居東壁)、2区最北端調査区北壁、2区中央調査区の3地点から採取された計13点である。試料採取層位を第271図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法(藤原, 1976)を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)。
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散。
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10⁻⁵g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物

の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山, 2000)。

4. 分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第15表および第273図に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

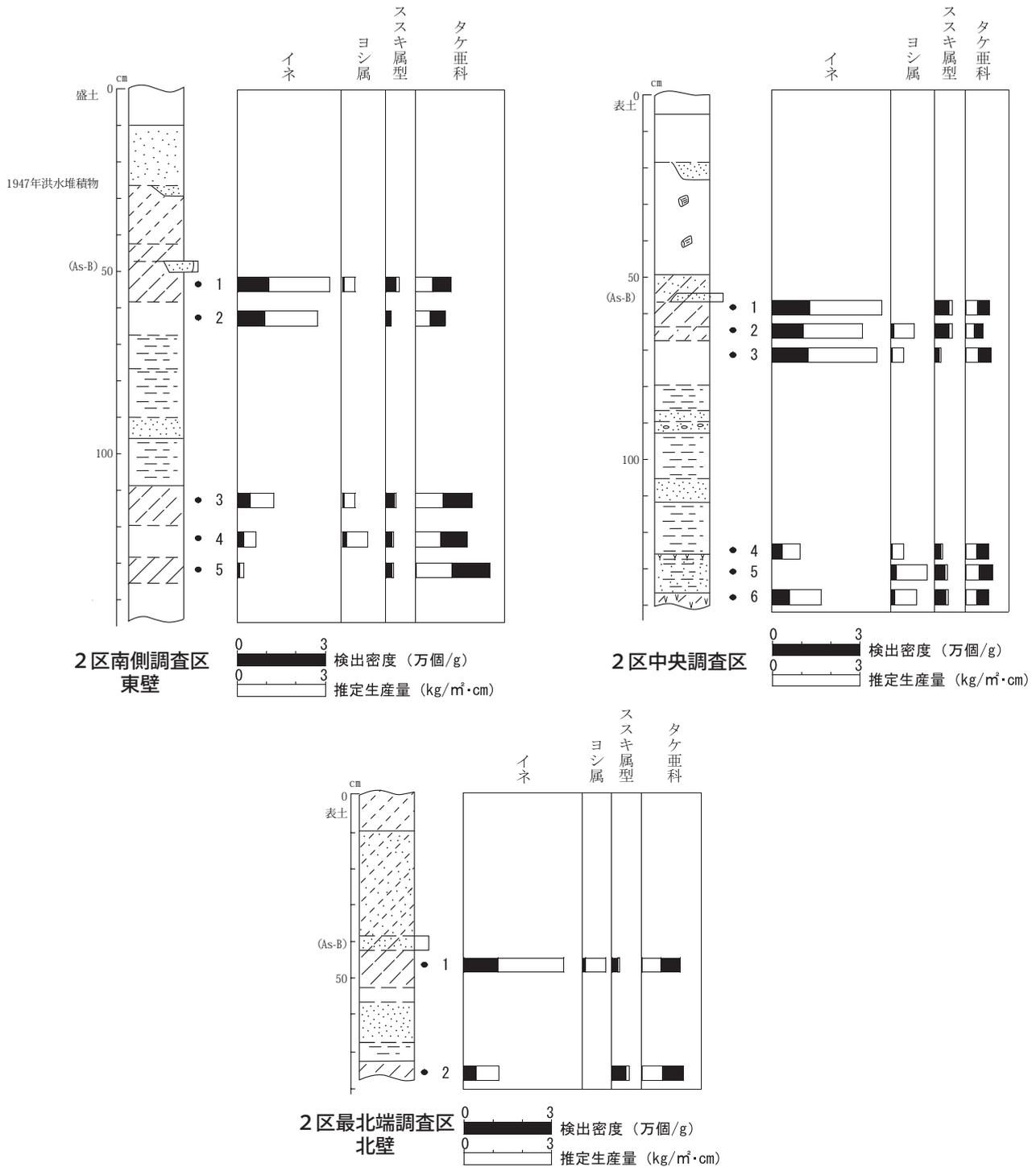
1) 2区南側調査区東壁(15号住居東壁)

As-B直下層(試料1)とその下層(試料2)および水成堆積物直下層(試料3)とその下位層(試料4および試料5)について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料1)では密度が10,900個/gとかなり高い値で、その下層(試料2)でも9,500個/gと高い値である。また、水成堆積物直下層(試料3)でも4,300個/gと比較的高い値である。したがって、これらの土層の形成時には稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。水成堆積物の下位層(試料4および試料5)では、検出密度が700~2,100個/gと比較的低い値である。イネの検出密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、さらに上位や他所からの混入などが考えられる。

2) 2区最北端調査区北壁

As-B直下層(試料1)と成層した水成堆積物の直下の土層(試料2)について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料1)で

第2節 上西根遺跡のプラント・オパール分析



第273図 上西根遺跡におけるプラント・パール分析

第15表 上西根遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度(単位: ×100個/g)

分類群	地点・試料 学名	2区南側調査区東壁					2区最北端調査区		2区中央調査区						
		1	2	3	4	5	1	2	1	2	3	4	5	6	
イネ	<i>Oryza sativa</i>	109	95	43	21	7	119	41	130	107	124	33			58
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	7		7	14		13		13	7	7	20	14		
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	36	14	29	21	20	20	48	48	47	15	20	34	36	
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	124	102	195	178	257	133	144	82	60	88	79	94	79	

推定生産量(単位: kg/m²·cm): 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	3.21	2.80	1.27	0.63	0.19	3.51	1.21	3.83	3.16	3.65	0.97		1.69
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.46		0.46	0.90		0.84		0.85	0.46	0.41	1.27	0.91	
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.45	0.17	0.36	0.26	0.25	0.25	0.60	0.60	0.58	0.18	0.24	0.42	0.45
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	0.59	0.49	0.94	0.85	1.23	0.64	0.69	0.40	0.29	0.42	0.38	0.45	0.38

は密度が11,900個/gとかなり高い値で、最下層(試料2)でも4,100個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

3) 2区中央調査区

As-B直下層(試料1)とその下位層(試料2および試料3)、水成堆積物直下層(試料4)とその下位層(試料5および試料6)について分析を行った。その結果、試料5を除く各試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料1)とその下位層(試料2および試料3)では検出密度が10,700～13,000個/gとかなり高い値で、水成堆積物の下位層(試料6)でも5,800個/gと高い値である。また、成層した水成堆積物の間の土層(試料4)でも3,300個/gと比較的高い値である。したがって、これらの土層の形成時に稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。ただし、後者については洪水などにより二次的に混入している可能性も考えられる。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、As-B直下層では、各地点ともイネが多量に検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、成層した水成堆積物直下層でもイネが比較的多量に検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に指摘された。

文献

杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)。

考古学と植物学。同成社、p.189-213.

藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究

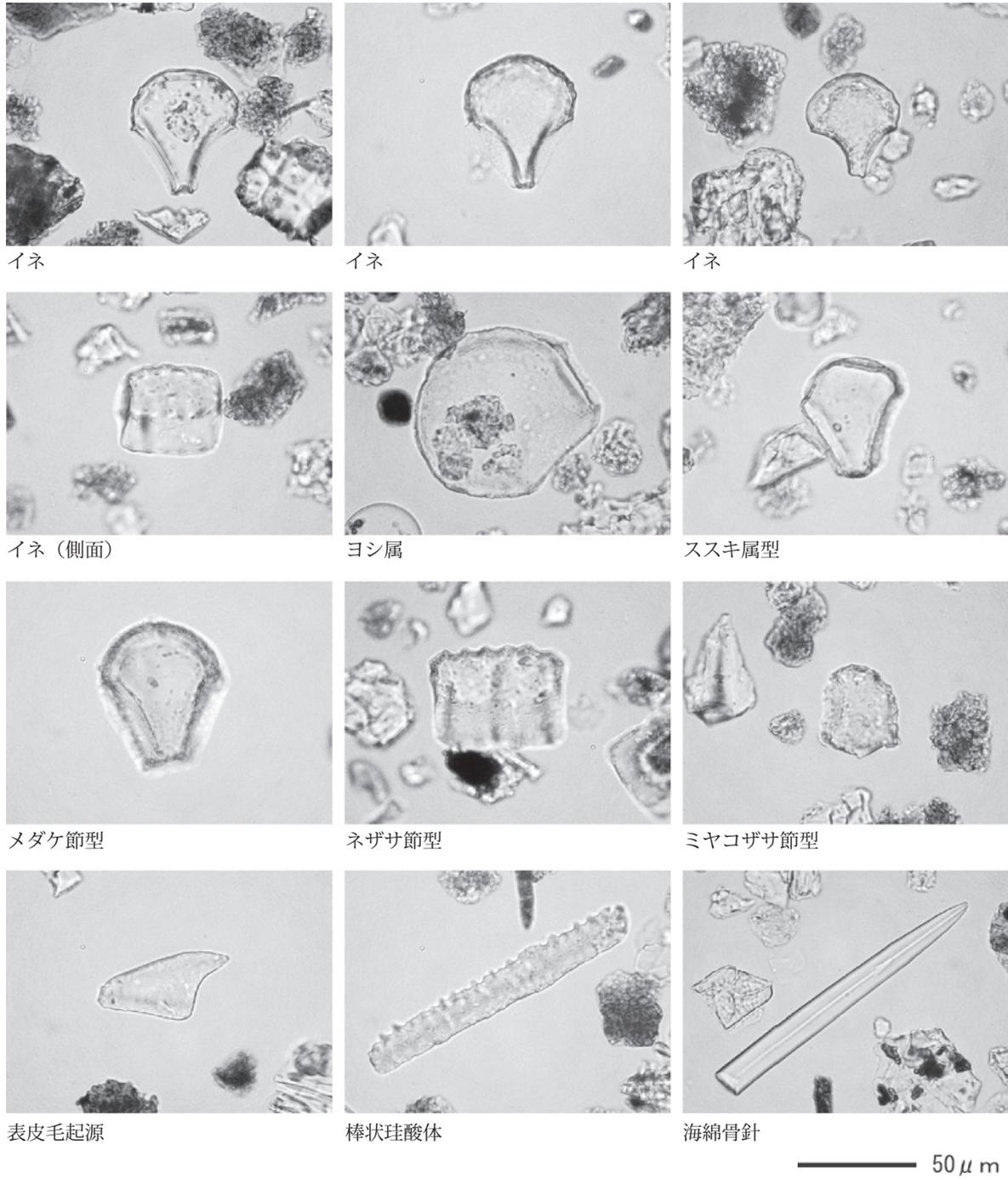
(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。

考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の

基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田

址の探査—。考古学と自然科学, 17, p.73-85.



第 274 図 植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真

第3節 関遺跡出土人骨

1. はじめに

関遺跡は、群馬県伊勢崎市鹿島町に所在する。国道462号道路改築事業に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、2008(平成20)年7月～2009(平成21)年3月まで中断期間を挟んで行われた。なお、調査時は、新屋敷遺跡1区という名称であったが、整理段階で関遺跡7区に名称変更が行われている。

本遺跡7区の、3基の墓坑から、中世人骨3体が出土したので、以下に報告する。出土人骨の残存状態は、あまり良くないため、出土歯を中心に報告する。なお、歯の計測方法は、藤田の方法にしたがった(藤田1949)。

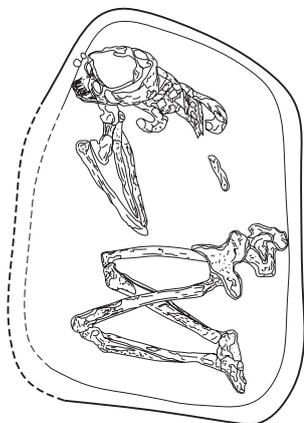
2. 関遺跡7区1号墓坑出土人骨

(1)人骨の出土状況

人骨は、長軸(南北)約105cm・短軸(東西)約76cm・深さ約14cmの楕円形土坑から出土している。



写真1. 関7区1号墓坑出土人骨出土状況[西から撮影]



第275図 関7区1号墓坑出土人骨平面図[1/20・上が北]

(2)人骨の出土部位

人骨は、頭蓋骨片・歯・四肢骨片が出土している。

(3)被葬者の埋葬状態

人骨の出土位置から、被葬者は頭位を北にして顔面部を西に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(4)副葬品

副葬品は、検出されていない。

(5)被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(6)被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値は、全体的に大きい。また、出土四肢骨である、大腿骨及び脛骨は大きく頑丈であり、特に大腿骨骨頭は大きいため、総合的に被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が線状及び面状に露出するマルティンの3度の状態である。被葬者の死亡年齢は約40歳代～50歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理

俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は、上顎右第2切歯(I2)の遠心面・上顎右犬歯(C)の近心面・下顎右第1小白歯(P1)の咬合面及び遠心面・下顎左第1小白歯(P1)の遠心面・下顎左第2小白歯(P2)の近心面に認められた。

総合的に、5本の歯に6ヶ所の齲蝕が認められた。



写真2. 関7区1号墓坑出土歯齲蝕[上段:右犬歯(C)・同第2切歯(I2),下段:右第1小白歯(P1)・左P1・左第2小白歯(P2)](左から)

3. 関遺跡7区2号墓坑出土人骨

(1)人骨の出土状況

人骨は、長軸(南北)約102cm・短軸(東西)約76cm・深さ約20cmの楕円形土坑から出土している。



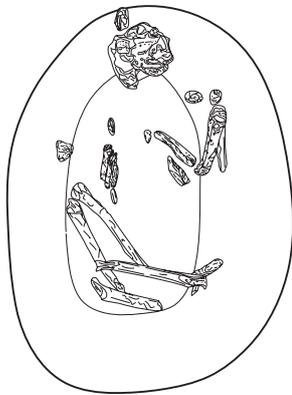
写真3. 関7区2号墓坑出土人骨出土状況[西から撮影]

(2)人骨の出土部位

人骨は、頭蓋骨片・歯・四肢骨片が出土している。

(3)被葬者の埋葬状態

人骨の出土位置から、被葬者は頭位を北にして顔面部を西に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。



第276図 関7区2号墓坑出土人骨平面図[1/20・上が北]

(4)副葬品

副葬品は、銭貨5点[至道元寶1点・元豊通寶1点・紹聖元寶1点・開禧通寶1点・永樂通寶1点]が検出されている。

(5)被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(6)被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値は、比較的大きい。また、出

土四肢骨も大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢

出土歯の咬耗度を観察すると、象牙質が線状及び面状に露出するマルティンの3度の状態である。被葬者の死亡年齢は、約40歳代～50歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理

俗に虫歯と呼ばれる齲蝕が、下顎左犬歯(C)の遠心面に認められた。また、下顎骨右第1大白歯(M1)と同第2大白歯(M2)は、生前脱落をしており歯槽も閉鎖している状態である。第3大白歯(M3)の状態は、確認できていない。



写真4. 関7区2号墓坑出土人骨下顎骨右側面[生前脱落]



写真5. 関7区2号墓坑出土人骨下顎骨右咬合面[生前脱落]

4. 関遺跡7区3号墓坑出土人骨

(1)人骨の出土状況

人骨は、長軸(南北)約125cm・短軸(東西)約74cm・深さ約27cmの楕円形土坑から出土している。



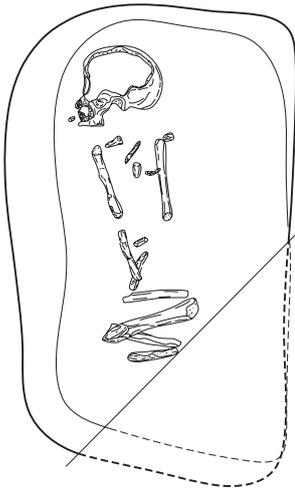
写真6. 関7区3号墓坑出土人骨出土状況[西から撮影]

(2)人骨の出土部位

人骨は、頭蓋骨片・歯・四肢骨片が出土している。

(3)被葬者の埋葬状態

人骨の出土位置から、被葬者は頭位を北にして顔面部を西に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。



第277図 関7区3号墓坑出土人骨平面図[1/20・上が北]

(4)副葬品

副葬品は、銭貨2点[熙寧元寶1点・元祐通寶1点]が検出されている。

(5)被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(6)被葬者の性別

歯冠計測値は、全体的に大きく男性的である。しかしながら、左側頭骨の乳様突起は小さく華奢で、四肢骨も小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢

出土歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状及び面状に露出するマルティンの3度の状態である。被葬者の死亡年齢は、約40歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理

俗に虫歯と呼ばれる齲蝕が、上顎左第1切歯(I1)の近心面及び遠心面歯頸部・同第2切歯(I2)の近心面・同犬歯(C)の遠心面・同第2大臼歯(M2)の近心面に認められた。同様に、齲蝕が、下顎右第1切歯(I1)の近心面・同犬歯(C)の遠心面・同第2小白歯(P2)の近心面に、下顎左第1切歯(I1)の近心面及び遠心面・同第2切歯(I2)の近心面に認められた。

総合的に、9本の歯に10ヶ所の齲蝕が認められた。



写真7. 関7区3号墓坑出土人骨齲蝕[上段:上顎左第1切歯(I1)・同第2切歯(I2)・同犬歯(C)・同第2大臼歯(M2), 下段:下顎右第2小白歯(P2)・同犬歯(C)・同第1切歯(I1), 下顎左第1切歯(I1)・同第2切歯(I2)](左から)

第16表 関7区出土人骨まとめ

	土坑番号	個体数	性別	死亡年齢	備考
1	1号墓坑	1個体	男性	約40歳代～50歳代	齲蝕
2	2号墓坑	1個体	男性	約40歳代～50歳代	齲蝕・生前脱落
3	3号墓坑	1個体	女性	約40歳代	齲蝕

引用文献

藤田恒太郎 1949 歯の計測基準について、「人類学雑誌」、61 : 1-6.

権田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67 : 151-163.

MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Museum Monographs No. 9, National Science Museum

第17表 関遺跡7区出土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種	計測	関遺跡7区						中世時代人*		江戸時代人*		現代人**			
		1号墓坑		2号墓坑		3号墓坑		Matsumura, 1995		Matsumura, 1995		権田, 1959			
		右	左	右	左	右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀		
上	I1	MD	(8.2)	(8.2)	—	8.6	—	9.3	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55	
		BL	7.3	7.1	—	7.3	—	7.7	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28	
	I2	MD	7.0	6.9	—	—	8.1	8.4	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05	
		BL	6.9	6.8	—	—	(7.0)	6.8	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51	
	C	MD	8.0	7.9	(8.0)	(7.6)	8.0	7.6	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71	
		BL	9.2	8.9	(8.6)	(8.6)	8.6	8.6	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13	
	P1	MD	7.4	7.3	7.0	—	—	7.4	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37	
		BL	9.3	9.5	9.2	—	—	9.8	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43	
	P2	MD	—	—	7.0	6.6	—	—	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94	
		BL	—	—	8.8	8.9	—	—	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23	
	M1	MD	9.5	—	—	—	—	—	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47	
		BL	12.2	—	—	—	—	—	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40	
	M2	MD	—	9.9	9.9	—	—	9.9	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74	
		BL	—	11.9	11.1	—	—	11.3	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31	
	M3	MD	—	—	9.6	—	—	8.0	—	—	—	—	8.94	8.86	
		BL	—	—	10.7	—	—	10.5	—	—	—	—	10.79	10.50	
	下	I1	MD	5.2	—	(5.4)	—	5.9	5.9	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
			BL	5.7	—	6.1	—	6.2	6.4	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
I2		MD	5.7	5.8	(6.5)	(6.2)	6.5	6.6	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11	
		BL	6.3	6.1	6.1	6.2	6.7	6.9	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30	
C		MD	6.9	6.8	(6.9)	(6.9)	7.0	7.2	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68	
		BL	8.4	8.4	(7.9)	(7.8)	7.9	7.8	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50	
P1		MD	7.0	7.1	7.5	7.2	7.4	7.3	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19	
		BL	8.0	8.1	8.0	8.0	8.4	8.0	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77	
P2		MD	—	7.0	7.0	—	7.0	7.6	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29	
		BL	—	8.3	8.1	—	8.1	8.8	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26	
M1		MD	11.5	11.4	—	(10.1)	11.3	—	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32	
		BL	11.6	11.6	—	(10.6)	10.8	—	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55	
M2		MD	—	—	—	10.2	—	10.6	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89	
		BL	—	—	—	9.6	—	9.9	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20	
M3		MD	—	—	—	10.6	—	—	—	—	—	—	10.96	10.65	
		BL	—	—	—	10.0	—	—	—	—	—	—	10.28	10.02	

註1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。

註2. 歯種は、I1(第1切歯)・I2(第2切歯)・C(犬歯)・P1(第1小白歯)・P2(第2小白歯)・M1(第1大白歯)・M2(第2大白歯)・M3(第3大白歯)を意味する。

註3. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠唇頬舌径)を意味する

註4. 計測値が「()」で囲まれているものは、咬耗により計測値が影響を受けていることを示す。

註5. 「*」は、MATSUMURA(1995)より引用。なお、MATSUMURA(1995)には、第3大白歯のデータは無い。

註6. 「**」は、権田(1959)より引用

第4節 上西根遺跡出土馬歯

1. はじめに

上西根遺跡は、群馬県伊勢崎市鹿島町に所在する。国道462号道路改築事業に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、2008(平成20)年7月～2009(平成21)年3月まで中断期間を挟んで行われた。

なお、調査時は、新屋敷遺跡2区～6区という名称であったが、整理段階で名称変更が行われている。さらに、名称変更に伴い、区名が1つずつ若い番号にずれている。

本遺跡の2区及び3区から、馬歯が出土したので以下に報告する。しかしながら、どれも馬歯片であるため、歯種の同定が可能であったのはVb層出土馬歯の一部のみであり、計測可能であった馬歯は無かった。また、性別推定が可能なものもなかった。さらに、死亡年齢推定が可能であったのはVb層出土馬歯の一部のみであった。

2. 上西根遺跡2区出土馬歯

2区では、11号住居・31号住居・Vb層・V層から馬歯が出土している。

(1) 11号住居出土馬歯[2009年3月13日出土]

本住居の時期は、出土遺物から8世紀後半に比定されている。馬歯は、掘り方から出土している。上顎臼歯片であるが、破片であるため歯種の同定にはいたらなかった。性別・死亡年齢も不明である。

(2) 31号住居出土馬歯[2009年3月12日出土]

本住居の時期は、出土遺物から8世紀前半に比定されている。馬歯は、覆土から6点に分かれて出土している。上顎臼歯片が主であるが、破片であるため歯種の同定にはいたらなかった。性別・死亡年齢も不明である。

(3) 33号住居出土馬歯[2009年3月18日出土]

本住居の時期は、出土遺物から7世紀代に比定されている。馬歯は、覆土から出土している。上顎臼歯片であるが、破片であるため歯種の同定にはいたらなかった。性別・死亡年齢も不明である。

(4) Vb層出土馬歯[2009年3月26日出土]

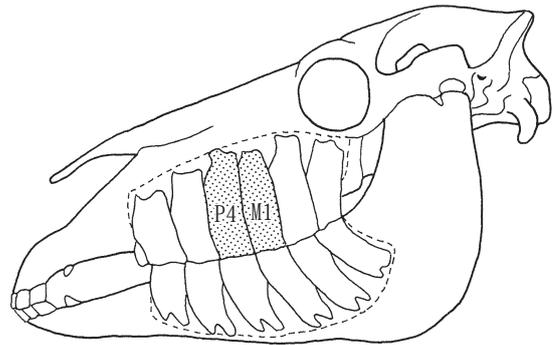
馬歯は、4番として取り上げられている。時期は不明である。上下顎臼歯片である。

出土馬歯片の内、上顎左P4(第4小白歯)と同M1(第1

大白歯)の2本のみ歯種が同定された。P4には、咬耗が認められないため萌出直前か萌出直後であると推定される。M1には、咬耗が認められる。P4は、約4歳で萌出するため、死亡年齢は約4歳前後の幼齢馬であると推定される。性別は、不明である。



写真8. 上西根2区Vb層出土馬歯[上顎左P4・M1頬側面観]



第278図 上西根2区Vb層出土馬歯出土部位図[左側面観]

(5) V層出土馬歯[2009年3月30日出土]

V層中から出土している。このV層は黒褐色土で、上層のVa層に浅間C軽石(As-C)を含み、下層のVb層上面は古代の遺構確認面である。この浅間C軽石は、3世紀末に浅間山が噴火した際の噴出物である。

3. 上西根遺跡3区出土馬歯

(1) V層出土馬歯[2009年3月24日出土]

V層中から出土している。このV層は黒褐色土で、上層のVa層に浅間C軽石(As-C)を含んでいる。この浅間C軽石は、3世紀末に浅間山が噴火した際の噴出物である。

V層中から出土している。上顎臼歯片であるが、破片であるため歯種の同定にはいたらなかった。性別・死亡年齢も不明である。

第5節 上西根遺跡出土金属製品の材質調査

はじめに

一般に出土金属製品は表層を風化層に覆われており、非破壊調査法により遺物本来の化学組成を知ることは困難である。しかし、遺物表面に生じた腐食生成物の化学組成から材質を推定することは可能である。本調査では、群馬県伊勢崎市上西根遺跡から出土した金属製品について非破壊元素測定を実施した。以下、その結果について報告する。

資料と方法

調査対象資料は、上西根遺跡から出土した扁平な不定形を呈する金属製品1点である。本資料の片側の面(表面)は、黄色みを帯びた金属光沢を有する層が地金を被覆している。もう一方の面(裏面)にはほぼ全面に土粒子が付着している。地金部分は緑～白緑色を呈する腐食生成物に覆われている(口絵2-2～4参照)。

本資料の材質を推定するために、エネルギー分散型蛍光X線分析装置(エダックス社製EAGLEⅢ)をもちいて非破壊元素測定を実施した。蛍光X線分析の測定条件は以下のとおりである。

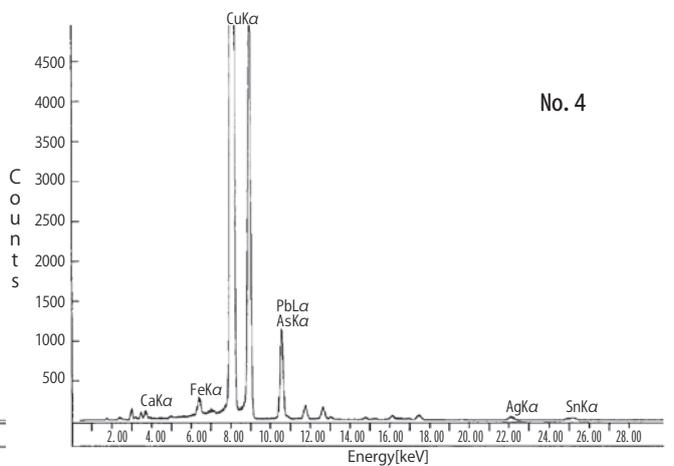
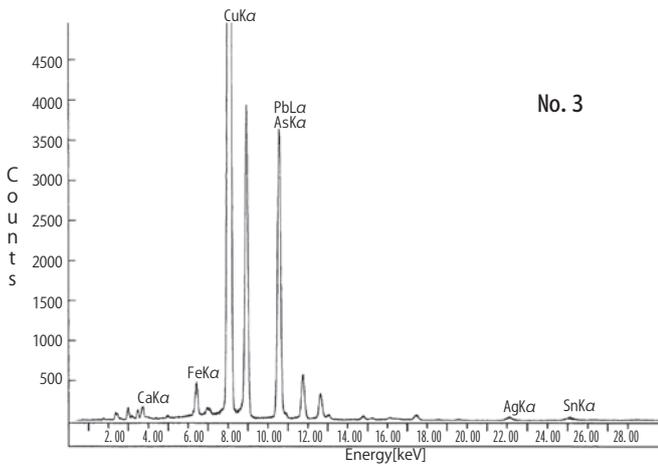
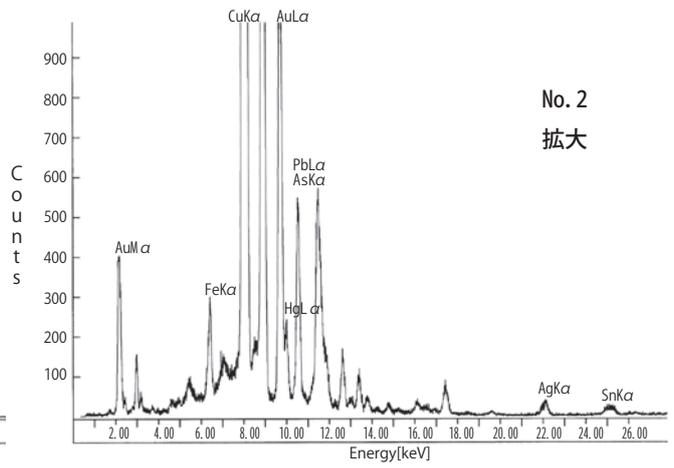
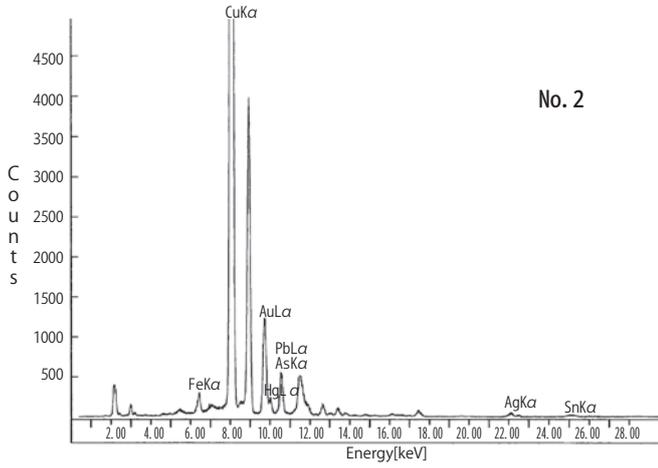
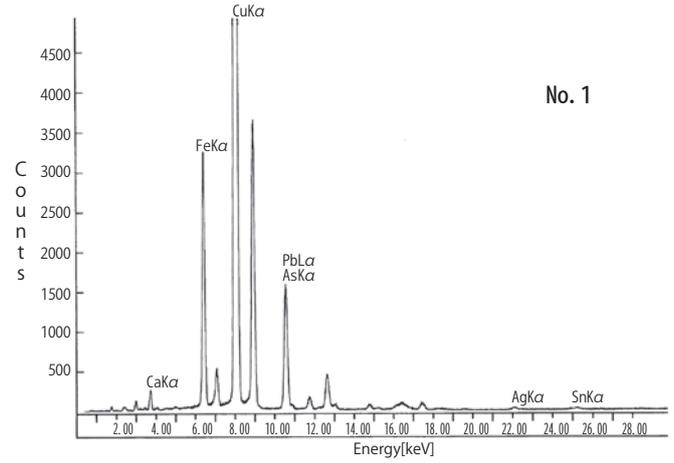
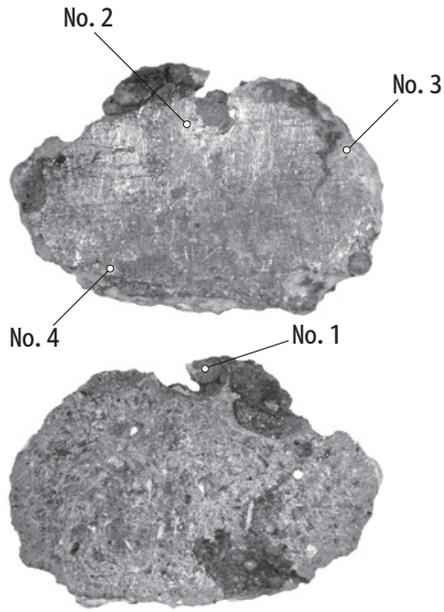
[蛍光X線測定条件]

励起用対陰極：モリブデン(Mo),	加速電圧：40 kV,	電流：30 μ A,
測定時間：300sec,	測定雰囲気：大気	

調査結果

地金の材質を推定するため、地金部分に形成された緑色腐食生成物(No. 1)(裏面)、および白緑色腐食生成物(No. 3～4)(表面)を測定した。測定の結果、いずれの測定箇所からも銅(Cu)、ヒ素(As)、鉛(Pb)が検出された。スズ(Sn)については極めて小さなピークが検出された(第279図)。また、微量の銀(Ag)も検出された。裏面のNo. 1においては、鉄(Fe)が検出されたが、表面(No. 3～4)では検出されないことから、裏面に付着する土粒子に由来する可能性が考えられる。以上の結果から、地金部分の材質はヒ素および鉛を含む青銅であると考えられる。なお、ヒ素に関しては、各測定箇所でも検出強度が異なり、とくにNo. 3では強く検出された。各測定箇所でも腐食に伴う銅の溶出量が異なるため、相対的にヒ素の強度が変化したと考えられる。ヒ素が強く検出されたNo. 3では、銅の溶出が進み、相対的にヒ素濃度が高くなったと推察される。

金属光沢が観察される箇所(No. 2)を測定した結果、上記の銅、ヒ素、鉛、微量の銀、スズに加えて金(Au)および水銀(Hg)のピークが検出された。この結果は、地金表面に水銀アマルガム法を用いた金鍍金が施されていることを示唆するものと考えられる。



第279図 蛍光X線分析箇所(左上)と各測定箇所における蛍光X線スペクトル

第7章 発掘調査の成果とまとめ

第1節 遺構

1. 洪水層と竪穴住居

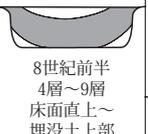
関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の調査では、大きく2時期の洪水層が確認できた。縄文時代と古代の洪水層である。本遺跡では縄文土器などの遺物と洪水層との関係は直接明らかではないものの、周辺遺跡で土層観察を重ね、洪水層と遺物や遺構との関わりについて考察している岩崎泰一氏(『喜多町遺跡』2011第9章第1節)の所見によれば、本遺跡のV層より下位の砂質土は縄文時代の洪水層であるという。すでに第1章で述べたとおり、縄文時代の洪水層は厚さ3m以上におよび、地形を改変する規模であったと推定される。

一方、古代の洪水については竪穴住居と洪水層との関係を検討する調査所見が得られた。なお、洪水層は砂質またはシルト質で、混入物が少なく一次堆積と判断できる層に限定した。

今回検出された竪穴住居および竪穴状遺構95軒のうち、埋没土に明確な洪水層が確認できたのは関遺跡7区3号住居、15号住居、19号住居、20号住居、23号住居、上西根遺跡1区1号住居、12号住居、上西根遺跡2区30号住居の8軒であった。これらは関遺跡7区、上西根遺跡1区・2区で検出され、それより南の上西根遺跡3区～5区、新屋敷遺跡1区では、埋没土に明確な洪水層が認められる竪穴住居はなかった。竪穴住居の時期と洪水層との関わりを第

280図に示した。竪穴住居と洪水層の堆積状況は大きく3つのパターンがある。①洪水層が床面直上に達しているもの、②洪水層が埋没土中位に入るもの、③埋没土上層にのみ堆積するものである。このうち、洪水層の時期を推定する上で①が重要となる。洪水層が埋没土上層にあるものは時期が不明のため、②と③は検討外とする。関遺跡7区20号住居・23号住居と上西根遺跡1区1号住居・12号住居の4軒が①に含まれる。これらの住居のうち、上西根遺跡1区12号住居を除く、3軒は土層断面を詳細に観察すると、洪水層が床面に達しているものの、側壁付近など床面の一部で別の土の堆積が認められることから、使用中の住居が洪水により埋没した可能性は低く、廃棄後と考えられる。またその際の上屋根の状況については不明である。上西根遺跡1区12号住居は土層断面を観察すると、土坑などに切られ土層が明瞭でない部分もあるものの、床面を洪水層が被覆しているように見える。これら4軒の竪穴住居では洪水層が床面まで到達していることは明らかで、住居が機能した時期と洪水層が堆積した時期との時間的な隔たりは小さいと考えられる。

出土遺物から判断した竪穴住居の時期は、関遺跡7区20号住居が9世紀代、関遺跡7区23号住居が8世紀前半、上西根遺跡1区1号住居は8世紀後半、上西根遺跡1区12号住居は8世紀から9世紀である。上西根遺跡1区12号住居は遺物の出土が少なく、時期を限定することが出来なかった。以上のことから、本遺跡に集落が営まれた

遺跡・区	関遺跡7区					上西根遺跡1区		上西根遺跡2区
	3号住居	15号住居	19号住居	20号住居	23号住居	1号住居	12号住居	30号住居
6世紀								
7世紀								
8世紀								
9世紀								

第280図 洪水層と竪穴住居の時期

6世紀後半から9世紀の時期に、竪穴住居内に入り込み厚く砂質土を堆積させる規模の洪水が少なくとも3回発生していると言える。その時期は、出土遺物から判断した竪穴住居の時期から、8世紀前半、8世紀後半、9世紀である。9世紀の洪水はその年代や遺跡内で噴砂が多数確認されていることから、弘仁9(818)年に発生した地震に伴う洪水が予想されるが、今回は明確にすることができなかった。また、基本土層のIV層は洪水層であるが、IV層が8世紀前半、8世紀後半、9世紀のどの洪水にあたるかは不明である。

今回洪水層と竪穴住居との関わりで、洪水層の時期を考えてみた。遺跡周辺を含めた赤城南麓地域で、古代の洪水層が検出されると弘仁9(818)年の地震に伴って発生した洪水に比定しがちであるが、粕川に臨む本遺跡では大規模な洪水は少なくとも3回発生していることが明らかになった。しかし、これらの洪水層は土砂の供給源が同一であるため、一見同じ洪水層に見える。よって、見た目の特徴のみで洪水層を比定するのは困難である。すでに触れた岩崎氏の試みのように、遺構や出土遺物との関わりで洪水の時期を決定することが重要と考えられる。

2. 竪穴住居および竪穴状遺構の変遷

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の調査では、竪穴住居が61軒、竪穴状遺構が12基検出された。竪穴状遺構は平面形および規模は竪穴住居に準じるが、明確な床面を確認できず、カマドなどの内部施設を持たないものを竪穴状遺構と呼び分けた。今回の調査では、遺構の性格は明らかに出来なかったものの、竪穴状遺構が多数検出されたことから、竪穴住居とあわせて竪穴状遺構の時期も見てみる。第281～284図に竪穴住居と竪穴状遺構の時期別変遷を示した。遺構の時期は、出土遺物や遺物出土状況、遺構の重複関係などから判断して推定したものである。また、「7世紀末～8世紀初頭」のように遺構の時期に幅がある場合は、古い方の「7世紀末」に含め図示した。

竪穴住居は北部の関遺跡7区、上西根遺跡1区、上西根遺跡2区で密度が高く、それより南部では散漫に分布している。また、竪穴状遺構は上西根遺跡2区に集中し、重複が著しい。

今回の調査区で、最初に竪穴住居および竪穴状遺構が作られるのは6世紀後半である。この時期の遺構は竪穴住居が1軒、竪穴状遺構が1基確認された。関遺跡7区と上西根遺跡2区で検出され、非常に散漫な分布である。

7世紀に入ると遺構数は増加し、7世紀後半で竪穴住居が22軒、竪穴状遺構が4基と今回調査した範囲内では最多となる。7世紀前半の竪穴住居は大型なものが多く、7世紀後半になると遺構数の増加のため、遺構が密集しているように見える。7世紀代の遺構は関遺跡7区から上西根遺跡2区を中心に分布している。8世紀になると、上西根遺跡2区を中心に調査区全体に認められるものの、上西根遺跡3区および4区でもまとめて検出された。8世紀は前半で遺構数が非常に多く、竪穴住居18軒、竪穴状遺構2基である。8世紀は中頃、後半になるに従い遺構数は減少する。9世紀では、竪穴住居は4軒となり、中には一辺約2.2mの小型の住居も認められる。分布に偏りはなく、調査区全体に散在している。

以上のことから、関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡の今回の調査区内では、6世紀後半から竪穴住居がつけられ始め、7世紀後半～8世紀前半に住居の数は最大となり、8世紀後半から次第に減少している様子が窺える。また、7世紀の住居よりも8世紀の住居の方が南に延びて分布していることも指摘できよう。

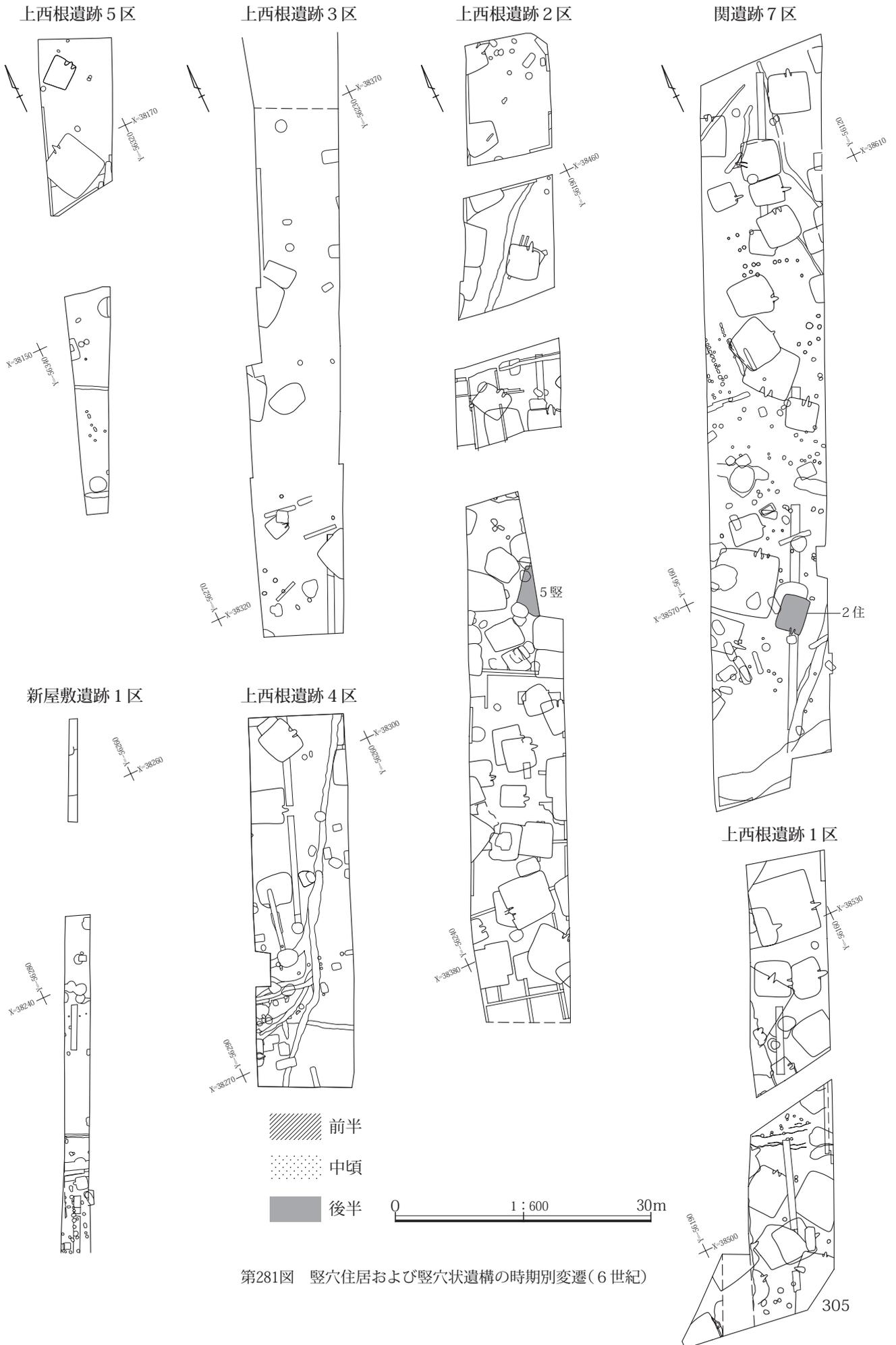
3. 景観の変遷

今回の発掘調査成果により、以下のような景観の変遷が明らかになった。

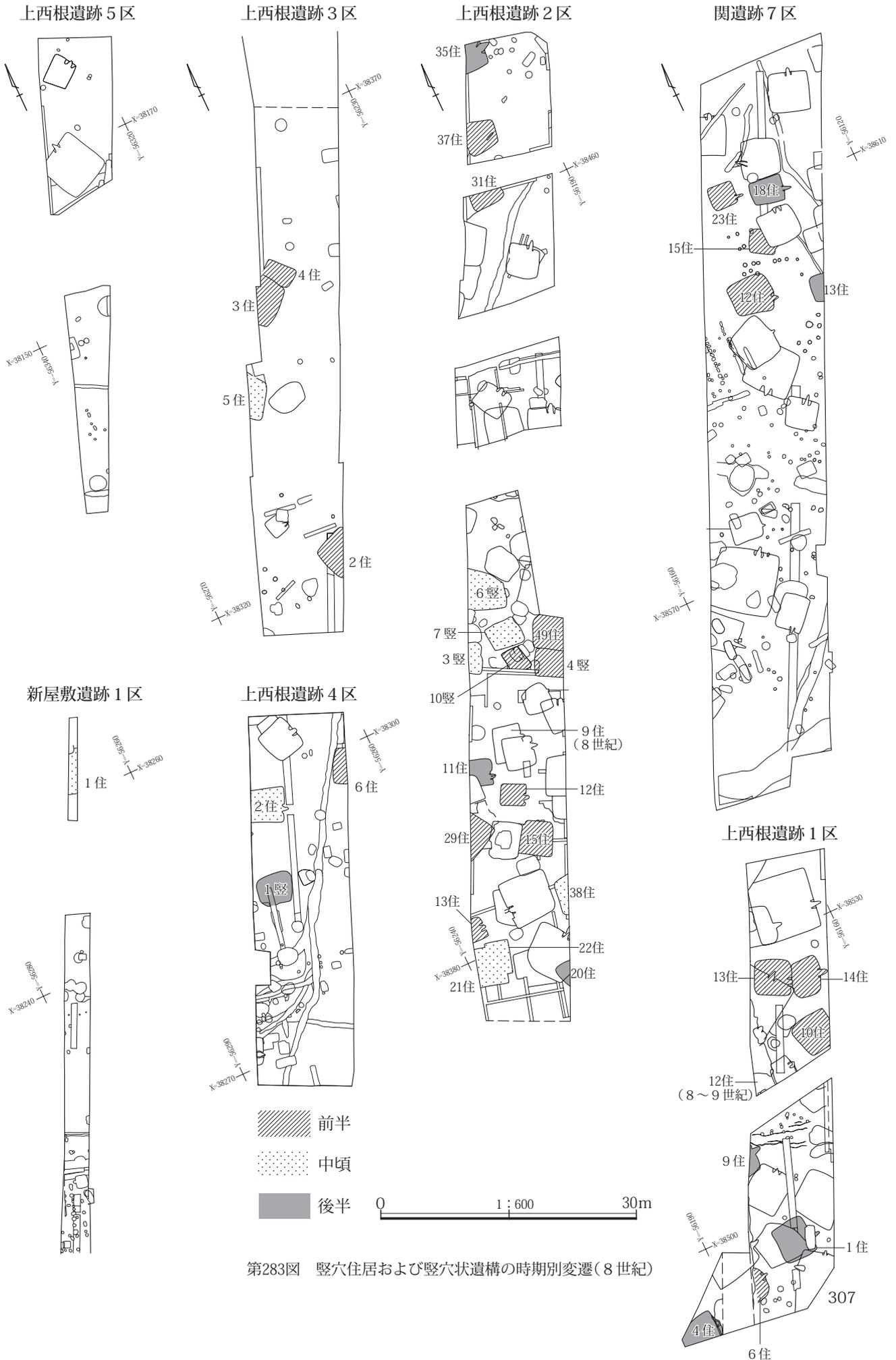
縄文時代に度重なる洪水により地形が改変され、本遺跡は微高地となる。

6世紀後半から竪穴住居がつけられ始める。7世紀に入ると住居の数が増加し始め、7世紀後半から8世紀前半に最大数となる。8世紀後半から住居の数は減り始めるが、9世紀中頃まで住居は継続的につくられている。この間に竪穴住居を埋没させるような大規模な洪水に少なくとも3回見舞われている。洪水の発生時期は8世紀前半、8世紀後半、9世紀である。9世紀の洪水は弘仁9(818)年の地震に伴う洪水の可能性があるが、本遺跡では明確ではない。少なくとも3度の洪水に遭いながらも、その後も集落は継続している。また、水田遺構は確認できなかったものの、上西根遺跡3区で実施したプラント・オパール分析の結果によると、As-B直下の層でイネが大量に検出され、稲作が行われていた可能性が高い。平安時代末期までに、本遺跡は集落から水田へと土地利用が変化していることが窺える。

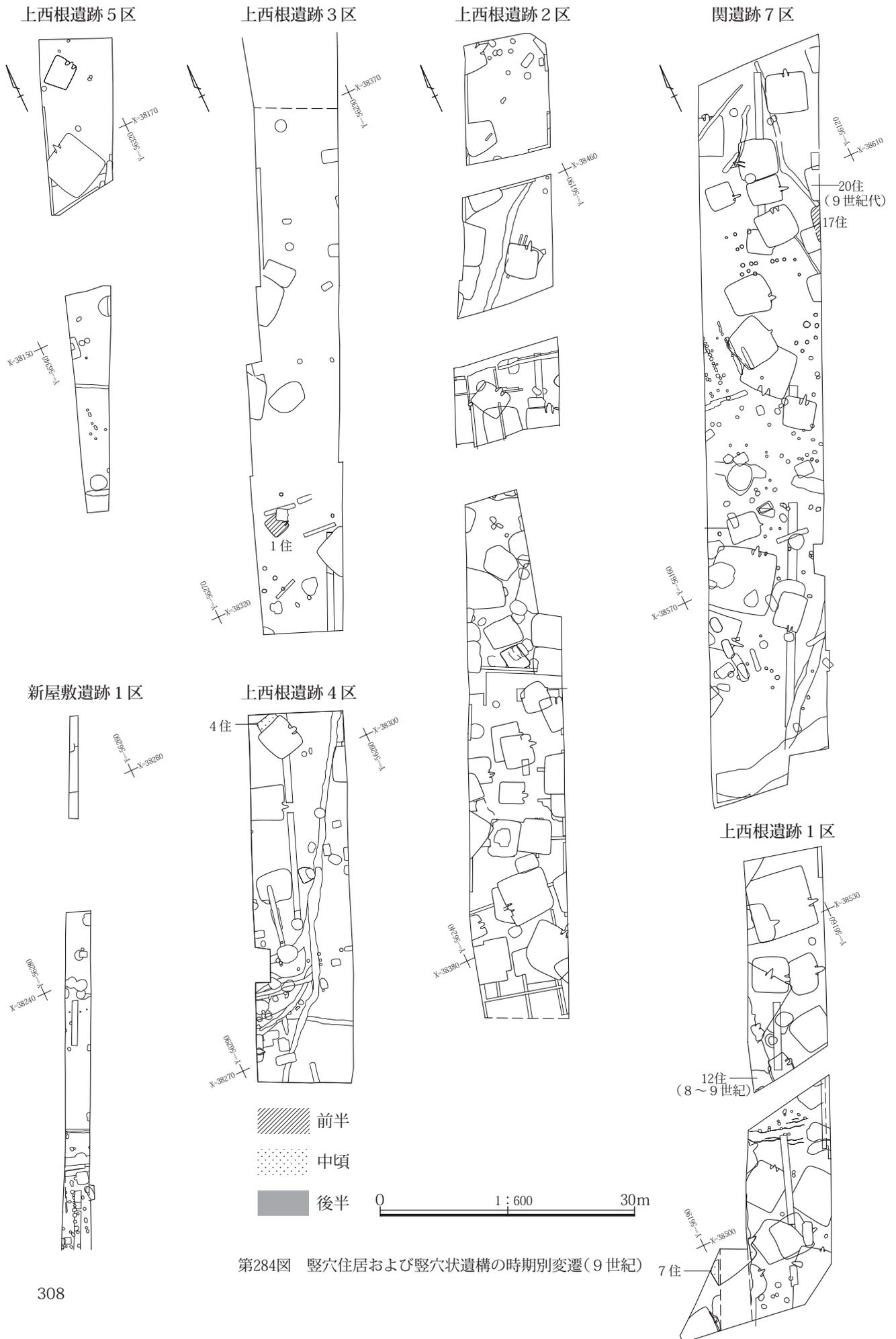
中世に入り、明らかに当該期と推定される遺構は少なく、関遺跡7区の3基の墓坑のみである。この時期、遺



第281図 竪穴住居および竪穴状遺構の時期別変遷(6世紀)



第283図 竪穴住居および竪穴状遺構の時期別変遷(8世紀)



第284図 竪穴住居および竪穴状遺構の時期別変遷(9世紀)

跡の一部は墓域となっていた。

近世に入り、明確に当該期と考えられる遺構は上西根遺跡3区で検出された礎石建物1棟のみである。その構造から江戸時代の民家と考えられ、この時期に遺跡の一部は居住地として利用されていたことが明らかになった。

関遺跡・上西根遺跡・新屋敷遺跡では、縄文時代の大規模な洪水により砂質土が厚く堆積し微高地が形成され、古墳時代後期から奈良・平安時代には砂層を掘り込んで集落が形成され、古代末期までには水田に変化している。集落期には少なくとも3回の大きな洪水被害を受けていることが明らかになった。中世に入り、遺跡の一部は墓域として使用され、近世には民家が建てられ、再び居住地として利用されている。

今回の発掘調査では、本遺跡がその立地から粕川との関連が密接で、粕川の氾濫による洪水災害に見舞われながらも人間活動が継続的に営まれたことを如実に示す成果となった。

第2節 遺物

1. 上西根遺跡出土礫石器の顕微鏡観察

上西根遺跡から、平面形が円形または楕円形で、断面は扁平な形状を有する礫石器が出土している。これらの石器は古代の竪穴住居および遺構外から出土し、表面や裏面に平滑面が形成されている。これらの礫石器を顕微鏡で観察し、石器の機能や平滑面の形成に関して何らかの手がかりが得られるのではないかと考え、今回顕微鏡観察を行った。

分析対象

上西根遺跡出土の礫石器12点を対象とした。観察した石器はすべて竪穴住居から出土し、これらの住居の時期

は7世紀前半から8世紀前半である。上西根遺跡では、縄文時代の明確な遺構は袋状(フラスコ状)土坑1基のみで、このほか遺構外から縄文土器や縄文時代と推定される石器が出土しているものの、数は少ない。したがって、これらの石器は古代のものと考えている。観察した石器一覧を第18表と第285図に示す。

分析方法

観察の目的や対象石器の石質を考慮し、初めは実体顕微鏡を中心に用いて低倍率で観察し、この観察過程で、光沢面と推定されるものがあつた場合、金属顕微鏡を用いて高倍率で観察することとした。

実体顕微鏡(Nikon SMZ-10)および手持ちのルーペを使用し、石器の線状痕および摩滅を中心に観察した。観察時の倍率は6倍～15倍である。

表面状態を観察するにあたり、利根川および粕川で採取した粗粒輝石安山岩も顕微鏡観察し比較した。

分析結果(第286図)

・いずれの礫石器にも線状痕等の明確な使用痕を確認することはできなかった。肉眼で平滑に見える面にも線状痕や光沢面は明確ではなく、実体顕微鏡下で観察した際、石器の表面は凹凸の凸部が平坦で、高さが同一になっている状況は確認できた。

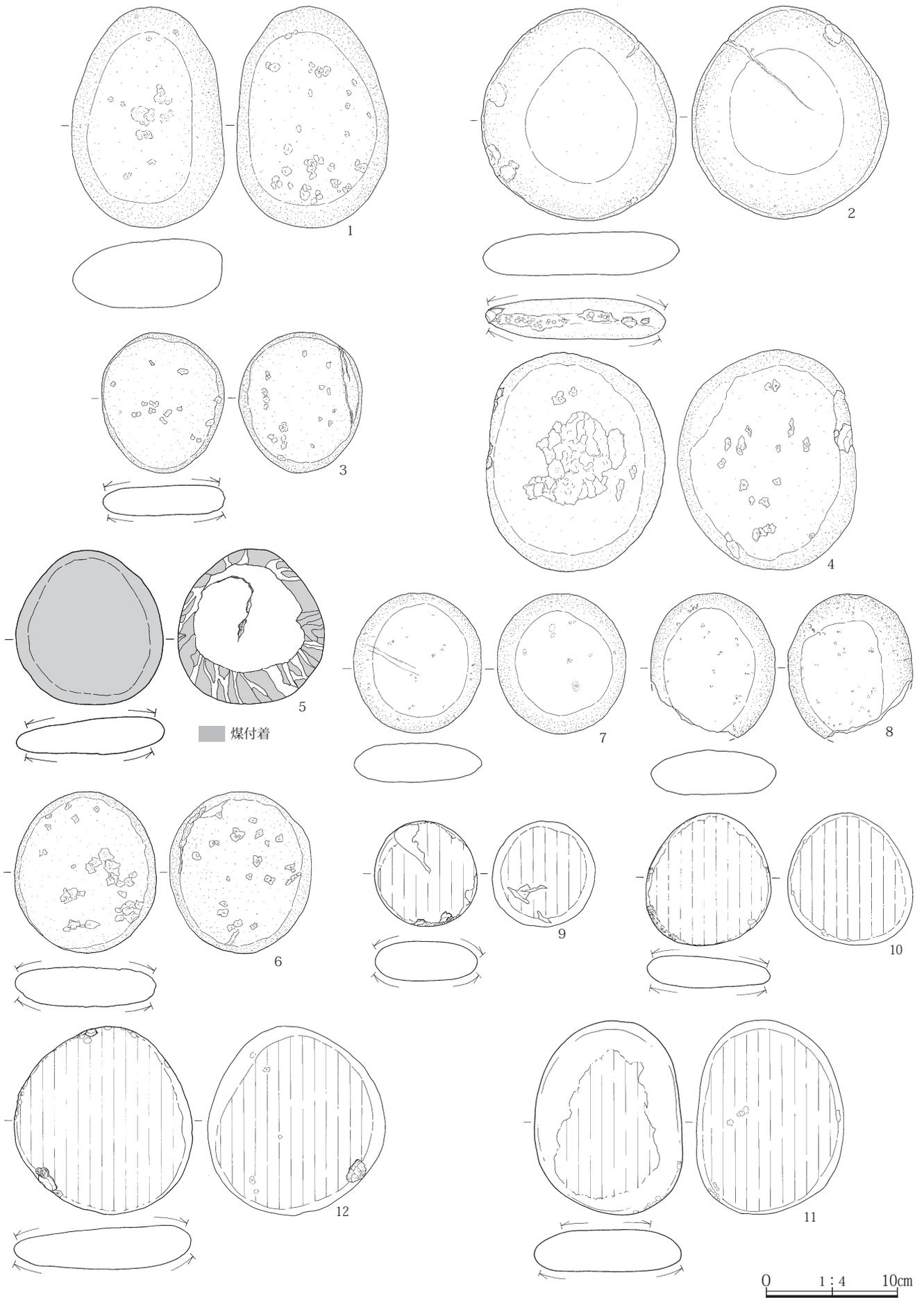
・遺跡出土の礫石器と川原採取礫を比較観察した結果、表面状態や摩耗の程度に差異は認められなかった。

まとめ

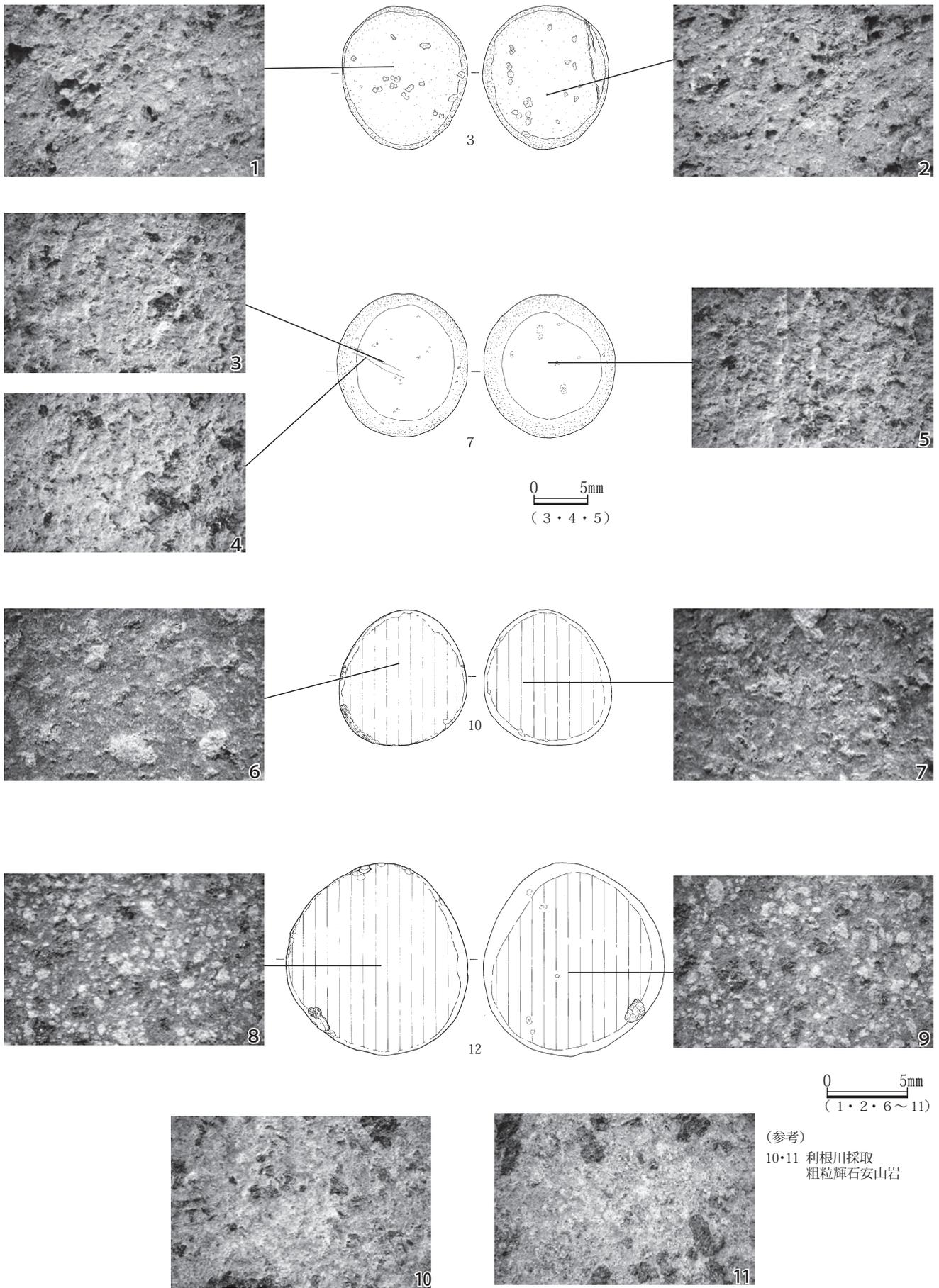
今回の観察では、古代の住居から出土した扁平な礫石器に使用痕を認めることはできなかった。しかし、同様の礫石器が古代の竪穴住居などの遺構から出土した例は多く、人為的に遺構内に遺棄または廃棄していることは明らかである。古代の礫石器の機能を含め、これらの石器に留意していく必要がある。

第18表 観察した石器一覧

番号	区	遺構	種別	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	1	3号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	19.0	12.9	6.0	1841.1	第98図-21
2	1	5号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	18.0	16.6	3.6	1411.3	第101図-7
3	2	4号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	11.9	10.3	2.5	496.5	第132図-4
4	2	4号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	18.8	15.1	3.6	1447.6	第132図-6
5	2	5号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	13.2	12.4	3.1	692.9	第134図-23 煤付着
6	2	5号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	13.8	12.0	3.4	825.6	第134図-24
7	2	5号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	11.8	10.7	3.4	528.7	第134図-25
8	2	5号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	12.3	(10.3)	3.7	639.7	第134図-26
9	2	30号住居	磨石	粗粒輝石安山岩	9.0	8.7	3.6	343.5	第160図-36
10	2	49号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	11.2	10.6	2.7	469.8	第169図-3
11	4	6号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	16.5	12.5	2.6	1327.5	第214図-7
12	5	2号住居	磨石類?	粗粒輝石安山岩	16.0	15.0	2.5	1398.8	第236図-61



第285図 観察した礫石器



第286図 礫石器の顕微鏡写真

2. 上西根遺跡出土の金属製品

上西根遺跡2区33号住居の埋没土中から出土した。33号住居はカマドを持たない竪穴住居が多く検出された2区北部に位置する。本住居でもカマドは検出されなかったが、西半分は調査区外のためカマドの有無は不明である。床面から出土した土器はなく、埋没土から7世紀代の土器の細片および馬歯が出土している。

この金属製品は薄い板状で、2箇所の小孔が認められる。材質は青銅製で片面には鍍金が施されている(第6章第5節参照)。鍍金部分の表面には横方向の擦痕が観察できる。もう片方の面には、土壌が錆と一緒に付着している。

保存処理の過程で、表面に金が施されていることを認識し、小孔の周りに先端の丸い工具によると思われる小さな凹状の痕跡が認められ、その特徴から丸軋裏金具ではないかと推測された。しかし、輪郭の大部分が欠損していることなどから、種別を判断できずにいた。独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所所長の松村恵司先生にご指導を頂く機会を得、助言を頂いた。

〈松村恵司先生の助言〉

- ・この金属製品は丸軋裏金具と考えてよい。
- ・表金具は黒漆塗りと考えられる。
- ・裏金具に鍍金を施してあるものは、三重県鳥羽市贄遺跡の出土例などがあるが珍しい。
- ・表面の鍍金部分の擦痕は、通常鍍金後は認められないので、使用中のキズではないか。

このほか、銚帯の位階表示機能および蛍光X線分析結果に基づく材質および製作方法、銚帯や鉄製品、墨書土器などの遺物と集落について広くご指導いただいた。

群馬県内出土の腰帯具

群馬県内出土の腰帯具については、小林敏夫氏(小林1988)や加部二生氏ら(加部ほか1997)、飯田陽一氏(『銚帯をめぐる諸問題』2002群馬県部分集成)によって既に集成が行われている。小林氏によると、1988年の時点で7基の古墳および34か所の集落遺跡から79点の腰帯具が出土していると述べられている。近年の発掘調査成果により、その後大幅な資料の増加が予想されたこと、また、本遺跡の出土例のように、裏金具に鍍金を施しているのはどのくらいあるのかを把握するため、群馬県内出土腰帯具

の集成を行った(第287図、第19表)。集成にあたっては、『銚帯をめぐる諸問題』(奈良文化財研究所 2002)集成の様式に合わせた。この時の群馬県の集成一覧を参考にしつつも、改めて2012年までに刊行した県内報告書に出来る限りあたってつもりである。

群馬県内ではこれまで、135遺跡256点の腰帯具の出土が確認されている。腰帯具の材質は銅製、石製、鉄製があり、鉄製は少数である。これらの内訳は、銅製の鉸具7点、丸軋52点、巡方60点、鉈尾19点、石製の丸軋39点、巡方39点、鉈尾7点、鉄製の鉸具6点、丸軋7点、巡方11点、鉈尾2点、種別・詳細不明7点である。石帯の石材は珪質頁岩、蛇紋岩、珪岩などが多く、このほか粘板岩、大理石、黒曜石、変玄武岩、花崗岩なども見られ多様性に富む。

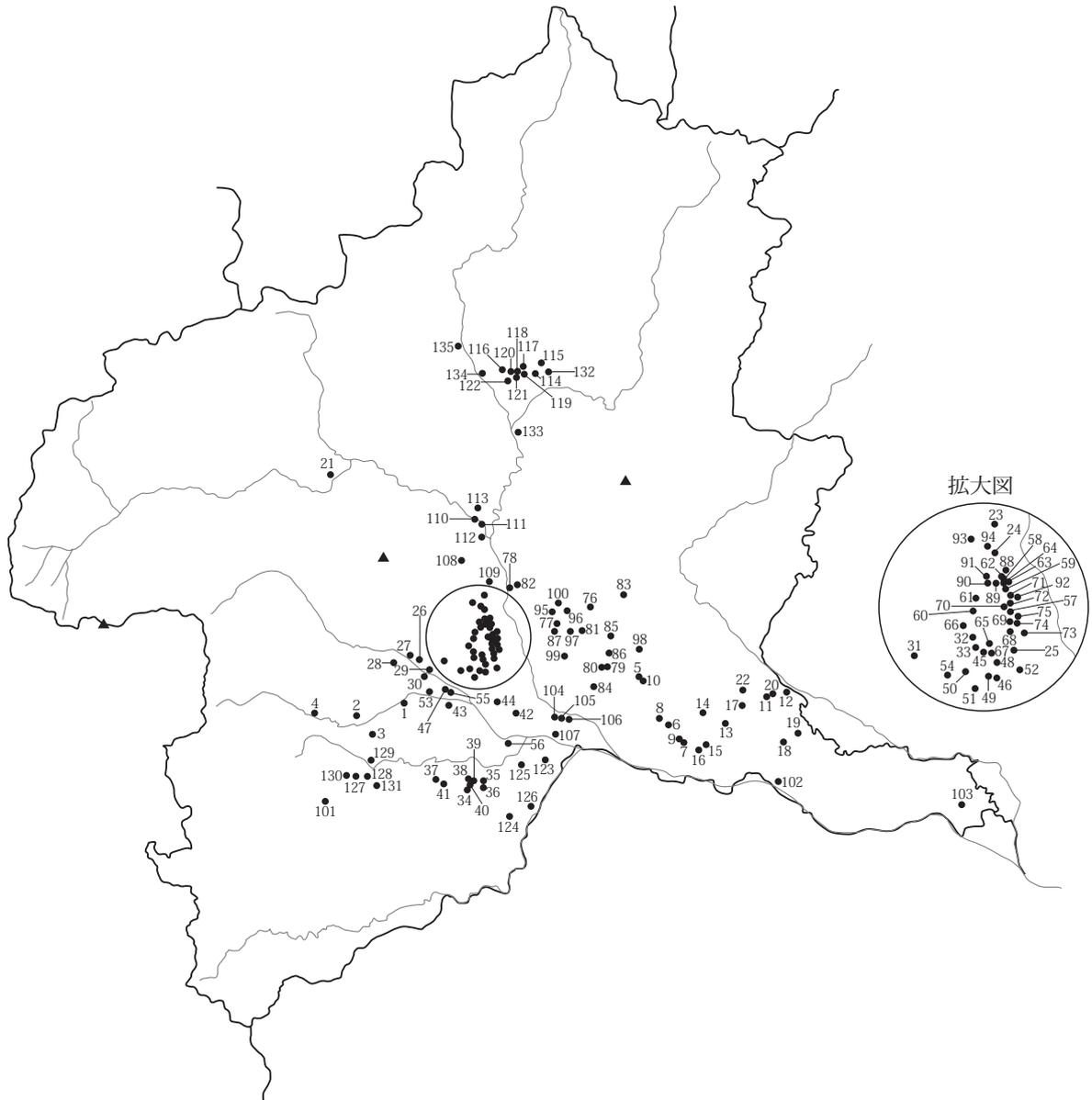
出土遺跡の分布(第287図)は、発掘調査実施件数との関わりが見てとれるが、すでに指摘されているとおり(加部ほか1997)国府推定地および国分寺周辺遺跡(拡大図)での出土例が際立っており、その傾向は同様であった。また、付近に上植木廃寺や三軒屋遺跡が位置する本遺跡周辺地域では、伊勢崎市三和町の上原古墳(第287図-5)および三和工業団地I遺跡(第287図-10)から出土しているものの、出土例は多くはなかった。

腰帯具256点中64点は古墳から、それ以外は集落遺跡から出土したもので、後者の方が出土数は圧倒的に多い。集落遺跡から出土したもののうち、大部分は単独出土である。同一遺構から複数出土しているのは、愛宕山遺跡(安中市)、中尾遺跡(高崎市)、下東西遺跡(高崎市)、上西原遺跡(前橋市)、生品西浦遺跡(川場村)である。特に生品西浦遺跡では、D区1号竪穴建物から6点も出土し(このうち1点は巡方と裏金具が結合する)、6点中4点が鉄製であることなどからほかに例を見ない。また、D区1号竪穴建物とは時期が異なるものの、南西に15m離れた地点で、鍛冶工房(D区2号工房)が検出されており、多くの鉄滓や鞆羽口とともに銅製の巡方が1点埋没土から出土している。

鍍金が施されている銚帯が出土しているのは、本遺跡のほか境ヶ谷戸遺跡(太田市)、高浜広神遺跡(高崎市)、北原遺跡(高崎市)、鳥羽遺跡G・H・I区(高崎市)、鳥羽遺跡I・J・K区(高崎市)、清里南部遺跡群(下東西遺跡、前橋市)、清里・陣場遺跡(前橋市)、秋塚11号墳(沼田市)である。このほか、三ッ寺I遺跡(高崎市)および中郷田

尻遺跡(渋川市)からも出土が報告されているが、材質や大きさなどから馬具との区別が付きにくく含めなかった。これらの出土例から、裏金具にのみ鍍金を施しているものが多いことが指摘できる。本遺跡で出土した丸鞆裏金具が蛍光X線分析によりアマルガム金鍍金であることが

明らかになったが、こうした技術が各集落にあったとは考えにくく、裏金具に鍍金した状態で集落内にもたらされたと考えられる。今後鍍金された裏金具を比較検討することにより、集落遺跡で個別に出土する背景が明らかになる可能性がある。



第287図 群馬県腰帯具出土遺跡分布図

第7章 発掘調査の成果とまとめ

第19表 群馬県内出土腰帯具一覧

○・・・表金具と石帯 ●・・・裏金具 ◎・・・表金具と裏金具

遺跡番号	番号	遺跡名	所在地	銅鉸具	銅丸柄	銅巡方	石丸柄	石巡方	石鉸具	鉄丸柄	鉄巡方	鉄鉸尾	遺構	備考 (報告書記載事項など)	縦全体	横全体	厚全体	縦透孔	横透孔	文献番号	奈文研集成 (2002)
1	1	植松・地尻	安中市安中二丁目植松2484-1		○								遺構外	横長巡方銅製だが表から鉸の頭が4か所見える	2.1	3.2	0.2	0.4	3.0	1	
3	2	蔵畑Ⅱ	安中市鷲宮字蔵畑205-1						○				5区3層H-3号住居	硬質頁岩、3か所穿孔	4.4	7.0	0.8			2	
4	3	愛宕山	安中市松井田町松井田字愛宕山1060他		○								4号住居	腰帯巡方、床直か	3.3	3.6	0.7	0.3	2.6	3	
	4	愛宕山	安中市松井田町松井田字愛宕山1060他				○						4号住居	腰帯具、蛇紋岩、床直か	2.4	3.4	0.6	0.5	1.5	3	
	5	愛宕山	安中市松井田町松井田字愛宕山1060他				○						4号住居	腰帯具、蛇紋岩	2.3	3.4	0.5	0.5	1.7	3	
5	6	上原古墳	伊勢崎市三和町上原1263-4		◎								玄室奥壁西北隅		1.65	2.5	0.5			4	○
	7	上原古墳	伊勢崎市三和町上原1263-4		◎								袖部凹隅		1.4	2.4	0.6			4	○
	8	上原古墳	伊勢崎市三和町上原1263-4		◎								袖部凹隅		1.5	2.4	0.47			4	○
	9	上原古墳	伊勢崎市三和町上原1263-4		◎								袖部凹隅		2.0	2.4	0.55			4	○
	10	上原古墳	伊勢崎市三和町上原1263-4		◎								袖部凹隅		2.0	2.3	0.45			4	○
	11	上原古墳	伊勢崎市三和町上原1263-4		◎								袖部凹隅		2.0	2.2	0.4			4	○
6	12	下淵名塚越	伊勢崎市境町下淵名					○					遺構外		3.7	3.93	0.62			5	○
7	13	三ツ木	佐波郡境町三ツ木字光坊・堂前		○								185号住居跡木面上		3.35	3.67	0.81	0.37	2.64	6	○
8	14	上淵名	伊勢崎市境町上淵名		○								25号住居跡							7	○
	15	上淵名	伊勢崎市境町上淵名				○						遺構外		(1.9)	(2.8)	0.2			7	
	16	上淵名	伊勢崎市境町上淵名					○					井戸跡							7	○
	17	上淵名	伊勢崎市境町上淵名			○							住居跡	平安初						7	○
9	18	西今井	伊勢崎市境町西今井					○					第1区19号住居跡	石帯1	3.9	4.2	1.0			8	○
10	19	三和工業団地I(2)	伊勢崎市三和町					○					32号住居	石英変岩	(2.7)	4.0	0.9			9	
	20	上西根	伊勢崎市鹿島町		●								2区33号住居	鍍金	(2.5)	(1.4)	0.1			10	
11	21	築前(2)	太田市今泉町		○								251号竪穴建物跡	鈎帯丸柄	1.9	(3.0)	0.5	0.4	1.8	11	
12	22	矢部	太田市只上町				●						6区29号住居	鈎帯鉸尾、裏金完形	2.9	3.6	0.2			12	
	23	矢部	太田市只上町		○								6区5号住居	鈎帯丸柄、裏面に墨付着	2.6	4.0	0.9	0.3	2.9	12	
13	24	境ヶ谷戸	太田市新田村田町1287-1						◎				2号掘立	裏面に金銅製の金具が付着、間に内容物	3.2	3.4	0.8	0.5	1.9	13	
14	25	中屋敷・中村田	太田市新田村田町・市野井町		○								1-14号住居	裏面に6か所釘状の突起、青銅鈎帯具	3.2	3.6	0.2			14	
	26	中屋敷・中村田	太田市新田村田町・市野井町					○					X-11号土坑	石英質岩石	3.0	4.4	0.8			14	
15	27	中江田原	太田市新田中江田町原・八縄		◎?								D-9号住居跡	『新田町誌第1巻』では鉸尾	3.5	4.1	0.6			15	○
16	28	中江田本郷	太田市新田大字中江田		○								C-30号住居跡		1.7	2.5	0.15	0.2	1.8	15	○
17	29	久保	太田市鳥山字久保2275他					○					Bx11号住居跡	蛇紋岩	2.3	3.2	0.6			16	○
18	30	中西田	太田市内ヶ島字川向・中西田			○							22号住居跡		3.0	3.2	0.5	0.7	2.2	17	○
	31	中西田	太田市内ヶ島字川向・中西田					○					36号住居跡	蛇紋岩	3.7	3.8	0.6			17	○
19	32	清水田	太田市大字茂木字清水田					○					14号溝	粘板岩	(2.6)	3.0	0.59			18	○
	33	清水田	太田市大字茂木字清水田					○					40号住居跡	大理石か	3.5	3.8	0.67			19	○
20	34	八ヶ入Ⅱ	太田市緑町・東今泉町					○					1面3区6号溝	斜長石岩?	3.5	4.2	0.6			20	
21	35	諏訪前遺跡Ⅰ	東吾妻町原町					○					表土	ヌノウ?	2.15	2.95	0.75			21	
	36	成家住居跡地	太田市成家町		○								164号住居跡		2.0	2.8	0.6	0.6	1.6	22	○
22	37	成家住居跡地	太田市成家町		○								169号住居跡		2	3.0	0.6	0.5	0.8	22	○
	38	成家住居跡地	太田市成家町										580号住居跡	鈎帯金具	(1.7)	(2.0)	0.4			22	○
23	39	大久保A	北群馬郡吉岡町大字大久保						●				121号住居跡		3.7	3.9	0.1			23	○
	40	大久保A	北群馬郡吉岡町大字大久保						●				124号住居跡		3.35	3.55	0.15			23	○
24	41	見柳東	北群馬郡吉岡町大字大久保字見柳東891-1						○				S124A	銅製鈎帯	(3.1)	3.1	0.3	0.5	1.5	24	
25	42	中尾	高崎市中尾町					○					C区37号住居跡		2.8	4.3	0.6			25	○
	43	中尾	高崎市中尾町					○					C区37号住居跡		(2.2)	(3.4)	0.7			25	○
	44	中尾	高崎市中尾町				◎						D区148号住居跡		1.7	2.4	0.7			25	○
	45	中尾	高崎市中尾町					○					D区66号住居跡		3.2	3.4	0.7	0.5	1.6	25	○
	46	中尾	高崎市中尾町					○					表土		3.6	3.8	0.65			25	○
26	47	高浜広神	高崎市高浜町		●								8号住居	金銅製腰帯裏金具	2.7	4.1	0.7			26	
27	48	中里見原	高崎市中里見原町					○					遺構外	石帯巡方、蛇紋岩	(3.3)	(3.7)	0.6			27	
28	49	三ツ子沢中	高崎市三ツ子沢町中西					○					9号住居	丸柄、黒色頁岩	2.8	4.5	0.7			28	
29	50	本郷所在古墳	高崎市本郷町		○									東京国立博物館所蔵詳細不明	2.2	3.4				29	○
	51	本郷所在古墳	高崎市本郷町			○									2.3	1.9		0.7	1.7	29	○
	52	本郷所在古墳	高崎市本郷町			○									2.3	1.9		0.7	1.7	29	○
	53	本郷所在古墳	高崎市本郷町			○									2.3	1.8~1.9		0.7	1.7	29	○
30	54	本郷の場D号墳	高崎市本郷町の場	◎									玄室奥壁東側隅	黒漆付着、一具の帯金具	2.2	3.5	0.5			30	○
	55	本郷の場D号墳	高崎市本郷町の場		◎										1.4	2.3	0.45	0.65	1.7	30	○
	56	本郷の場D号墳	高崎市本郷町の場		◎										1.55	2.4	0.45	0.7	1.7	30	○
	57	本郷の場D号墳	高崎市本郷町の場		◎										1.4	2.4	0.5	0.65	1.8	30	○
	58	本郷の場D号墳	高崎市本郷町の場		◎										1.85	2.25	0.56	0.75	1.9	30	○
	59	本郷の場D号墳	高崎市本郷町の場		◎										1.7	2.3	0.5	0.7	1.8	30	○
	60	本郷の場D号墳	高崎市本郷町の場		◎										1.75	2.2	0.4	0.7	1.9	30	○
30	61	本郷の場D号墳	高崎市本郷町の場		◎										1.75	2.4	0.5	0.65	1.9	30	○
	62	本郷の場D号墳	高崎市本郷町の場				◎								2.0~	2.0	0.45			30	○
31	63	下芝五反田	高崎市箕郷町清水五反田					○					144号住居	鈎帯丸柄、碧玉	2.5	3.4	0.6	0.5	1.8	31	
	64	下芝五反田	高崎市箕郷町清水五反田					○					8号住居	鈎帯巡方、橄欖岩	3.5	3.7	0.6	0.6	2.2	31	
	65	下芝五反田	高崎市箕郷町清水五反田					○					遺構外	鈎帯鉸尾	3.0	5.5	0.75			31	
	66	下芝五反田	高崎市箕郷町清水五反田					○					遺構外	鈎帯丸柄、珉質頁岩	2.7	4.5	0.65~0.8			31	

第2節 遺物

○・・・表金具と石帯 ●・・・裏金具 ◎・・・表金具と裏金具

遺跡番号	番号	遺跡名	所在地	銅鉸具	銅丸柄	銅巡方	銅鉈尾	石丸柄	石巡方	石鉈尾	鉄鉸具	鉄丸柄	鉄巡方	鉄鉈尾	遺構	備考 (報告書記載事項など)	縦全体	横全体	厚全体	縦透孔	横透孔	文献番号	奈文研集成 (2002)
32	67	棟高水窪Ⅱ	高崎市棟高町				○								北側調査区H-124号住居		2.35	3.35	0.5			32	
	68	棟高水窪Ⅱ	高崎市棟高町				○								北側調査区M-1		2.65	4.2	0.7			32	
33	69	棟高辻久保	高崎市引間町・棟高町				○								9号溝	蛇紋岩	2.3	3.4	0.5	0.5	1.8	33	
34	70	川内	高崎市吉井町吉井			●									44号住居跡	9c初	3.7	4.1	0.2			34	○
35	71	黒熊八幡	高崎市吉井町八幡・徳山											○	36号住居	帯金具(鉄器)	3.0	2.6	0.8	0.3	0.8	35	
	72	黒熊八幡	高崎市吉井町八幡・徳山		○										遺構外		2.9	0.8	0.7	0.3	1.6	35	
36	73	多比良追部野	高崎市吉井町比良字東沢・諏訪山・追部野・巻ヶ塚・藤ノ木地内							○					H区14号住居	巡方状石製品 砂岩	2.9	4.3	0.55			36	
37	74	西場脇	高崎市吉井町												遺物集中出土地点		4.7	(5.5)	0.9			37	○
38	75	矢田Ⅱ	高崎市吉井町矢田												12号住居跡	詳細不明						38	○
	76	矢田Ⅱ	高崎市吉井町矢田												1号住居跡	鈎帯破片	(2.1)	(2.5)	0.2			38	○
39	77	矢田	高崎市吉井町矢田				○								75号住居	青銅製品鈎帯具	3.5	4.1	0.55			39	
40	78	矢田Ⅶ	高崎市吉井町矢田・多胡							○					163号住居	矢田Ⅱの追加でⅦに報告	2.0	2.0	0.9			40	
41	79	長根羽田倉	高崎市吉井町長根字羽田倉他											○	29号住居跡の西側 壁際	輸入材か、珪質頁岩?、住居は10c後半	4.5	7.9	0.7			41	○
42	80	天田・川押	高崎市宿大類町字天田・川押							○					住居跡中央北床面		3.4	3.7	0.4			42	○
43	81	御部入8号古墳	高崎市宿大類町字乗附町			◎									玄門階石付近		1.9	2.2	0.55			43	○
	82	御部入8号古墳	高崎市宿大類町字乗附町			◎									玄門階石付近		1.9	2.2	0.6			43	○
44	83	山島・天神	高崎市宿大類町字山島				○								水路		2.6	3.6	0.5			44	○
45	84	正観寺遺跡群	高崎市小八木町・正観寺町			○									72号住居跡	白銅八棱鏡共伴、平安時代	2.4	3.7	0.7			45	○
46	85	小八木志長貝戸4	高崎市小八木町							○					奈良・平安時代5区 遺構外	斜長石岩	3.6	3.9	0.7			46	
47	86	引間	高崎市上豊岡町字引間							○					A-65号住居跡西壁 寄り	8c末	1.5	2.5	0.3			47	○
	87	引間	高崎市上豊岡町字引間				○								B-75号住居跡北部 床面上	9c~10c前半	3.35	3.65	0.7	0.35	2.6	47	○
48	88	菅谷万年貝戸	高崎市菅谷町万年貝戸1462番地1他			○									6号住居	表金具	2.3	3.5	0.15	0.4	2.5	48	
49	89	雨壺	高崎市大八木町字雨壺											○	28号住居跡床面		3.7	5.2	1.0			49	○
50	90	大八木屋敷	高崎市大八木町字融通寺							○					遺構外	珪質頁岩	2.3	3.3	0.6			50	○
51	91	融通寺	高崎市大八木町字融通寺他							○					2区47号住居跡	黒曜石	(1.9)	(1.8)	0.6			51	○
	92	融通寺	高崎市大八木町字融通寺他							○					2区71号住居跡	珪質頁岩	(2.1)	(1.8)	0.6			51	○
	93	融通寺	高崎市大八木町字融通寺他							○					遺構外	石英質岩	(2.6)	(4.3)	0.75			51	○
52	94	日高	高崎市日高町・新保田町中町				○								10号溝底		1.9	2.2		0.6	1.5	52	○
53	95	八幡	高崎市八幡町字四之市他		○										1号墳女室のほぼ 全面		5.0	7.1	1.0			53	○
	96	八幡	高崎市八幡町字四之市他				○ 長								4号墳北側周溝中		3.0	6.4				53	○
	97	八幡	高崎市八幡町字四之市他				◎								1号墳女室のほぼ 全面		2.2	4.4				53	○
	98	八幡	高崎市八幡町字四之市他				○								1号墳女室のほぼ 全面		2.9	4.8				53	○
	99	八幡	高崎市八幡町字四之市他				○								1号墳女室のほぼ 全面		2.8	4.4				53	○
	100	八幡	高崎市八幡町字四之市他				◎								1号墳女室のほぼ 全面		2.9	4.5				53	○
	101	八幡	高崎市八幡町字四之市他				◎								1号墳女室のほぼ 全面		2.8	4.6				53	○
	102	八幡	高崎市八幡町字四之市他				◎								1号墳女室のほぼ 全面		4.0	4.5				53	○
	103	八幡	高崎市八幡町字四之市他				◎								1号墳女室のほぼ 全面		3.9	4.6				53	○
	104	八幡	高崎市八幡町字四之市他				◎								1号墳女室のほぼ 全面		3.9	4.4				53	○
	105	八幡	高崎市八幡町字四之市他				◎								1号墳女室のほぼ 全面		3.8	4.5				53	○
54	106	たて	高崎市浜川町字館							○					館地区							54	○
55	107	豊岡後原Ⅰ	高崎市富岡町市後原							○					Ⅱ-109号住居跡	珪質頁岩	4.2	4.4	0.8			55	○
	108	豊岡後原Ⅰ	高崎市富岡町市後原							○					I-6 a号住居跡	裏面に線刻	2.3	2.6	0.5			55	○
56	109	田端	高崎市木部町字田端他							○					B区4a号住居跡	黒色粘板岩	2.7	4.0	0.8			56	○
57	110	上野国分寺跡	高崎市東国分町							○					個人蔵							57	○
58	111	北原	高崎市北原町			●									27号住居跡	金銅製品、鍍金	2.2	3.6	0.1			58	
	112	北原	高崎市北原町				○								42号住居跡覆土	黒漆付着	3.1	3.2	0.15	0.6	1.7	58	○
	113	北原	高崎市北原町											○	11号住居跡	1980年の発掘調査						59	○
59	114	国分寺周辺	高崎市											○	35号住居	詳細不明	2.3	(3.3)	0.3			60	○
60	115	三ッ寺Ⅰ	高崎市三ッ寺町藤塚道上572											○	2区3号住居	鉄地金箔付、住居は鬼高Ⅱ式期	4.5	4.5	0.6			61	
61	116	冷水村東・西国分新田	高崎市冷水町・西国分町												E区6・7号溝	珪質頁岩	(2.3)	(3.9)	0.6			62	○
62	117	下東西	高崎市北原町							○					S J 159号住居跡	蛇紋岩?	4.0	4.3	0.7			63	○
	118	下東西	高崎市北原町				○								S J 59号住居跡		2.3	3.0		0.8	2.6	63	○
	119	下東西	高崎市北原町							○					S J 59号住居跡		1.3	1.35				63	○
63	120	国分境	高崎市北原町国分境												B区45号住居跡	珪質頁岩?	(1.9)	4.1	0.6			64	○
	121	国分境	高崎市北原町国分境							○					B区46号住居跡竈 左袖	結晶片岩?	2.7	4.3	0.6			64	○
64	122	上野国分二寺中間地域	高崎市東国分町・前橋市元総社		○										F7区19号住居跡		1.7	3.2				65	
	123	上野国分僧寺・尼寺中間	高崎市東国分町・前橋市元総社											○ 山	D区第1号住居跡	花崗岩、報告書では鉈尾	2.8	3.68	0.58			66	○

第7章 発掘調査の成果とまとめ

○・・・表金具と石帯 ●・・・裏金具 ◎・・・表金具と裏金具

遺跡番号	番号	遺跡名	所在地	銅丸	銅丸柄	銅巡方	石丸柄	石巡方	石丸	鉄釘	鉄釘柄	鉄釘方	遺構	備考 (報告書記載事項など)	縦全体	横全体	厚全体	縦透孔	横透孔	文献番号	奈文研集成 (2002)
65	124	中林	高崎市三ツ寺町				○						40号住居跡		2.75	4.5	0.7			67	○
66	125	堤上	高崎市三ツ寺町堤上					○					H49号住居跡竈	大理石か	(2.2)	(2.3)	0.6			68	○
	126	鳥羽G・H・I区	高崎市塚田町		○								G区		3.2	3.5	0.7	0.4	5.5	69	○
	127	鳥羽G・H・I区	高崎市大字塚田				○						G区19号住居	蛇紋岩	(1.6)	(2.2)	0.65			70	○
	128	鳥羽G・H・I区	高崎市大字塚田		◎								G区7号住居	銅製品帯金具	1.7	1.9	0.5	0.5	1.5	70	○
	129	鳥羽G・H・I区	高崎市大字塚田		○								H区	鍍金	1.7	1.9	0.2	0.3	0.9	69	○
	130	鳥羽L・M・N・O区	前橋市鳥羽町から高崎市塚田町						○				L区67号住居	変玄武岩、石帯巡方	3.65	3.8	0.6			69	○
	131	鳥羽L・M・N・O区	前橋市鳥羽町から高崎市塚田町						○				L区68号住居	変玄武岩	2.9	4.6	0.7			69	○
	132	鳥羽L・M・N・O区	前橋市鳥羽町から高崎市塚田町						○				L区第4台地	石英質結晶片岩	2.3	3.6	0.6			69	○
	133	鳥羽L・M・N・O区	前橋市鳥羽町から高崎市塚田町		◎								M・N区第2台地下	黒漆塗、帯留板の間隔0.15cm	2.6	4.2	1.2	0.4	3.8	69	○
	134	鳥羽I・J・K区	前橋市元総社町						○				K31号住居跡	蛇紋岩	(2.0)	2.4	0.5			71	○
	135	鳥羽I・J・K区	前橋市元総社町		○								K区90号住居	鍍金3ヶ所	2.2	2.8	0.15	0.5	1.4	71	○
	136	鳥羽I・J・K区	前橋市元総社町		●								K区9号住居	鍍金	2.7	4.0	0.1			71	○
	137	上野国府跡	前橋市元総社町					○						採集品						72	○
	138	上野国分僧寺・尼寺 中間地域(2)	前橋市元総社町小字小見・ 高崎市東国分町小寺								○		G区1号住居	方形の板状	4.4	4.5	0.5			73	○
	139	上野国分僧寺・尼寺 中間地域(2)	前橋市元総社町小字小見・ 高崎市東国分町小寺								○		G区49号住居	馬具か	(7.8)	(7.8)	0.6			73	○
	140	草作	前橋市元総社町草作1372								○		L-7グリッド	馬具か	(4.4)	(6.6)	0.8			74	○
	141	天神	前橋市元総社町早道・天神					○					住居跡覆土中	黒漆付着	2.4	2.7	0.5			75	○
	142	元総社普海遺跡群 (24)	前橋市元総社1715-2他						○				H-10号住居	黒色頁岩	4.15	4.2	0.8			76	○
	143	元総社小見内Ⅲ	前橋市元総社町						○				13区遺構外	花崗岩類、腰帯具	3.65	3.65	0.5			77	○
	144	堀越中道	前橋市堀越町						○				3号溝	滑石	3.3	3.6	0.7			78	○
	145	五代木福Ⅱ	前橋市五代町			○							H-10	銅製帯金具	2.4	2.6	0.5	0.4	1.7	79	○
	146	五代木福Ⅱ	前橋市五代町				○						H-6	銅製帯金具	2.4	2.9	0.7			79	○
	147	田口下田尻	前橋市田口町						○				62号住居	珪質頁岩、鉈尾転用か	3.9	4.2	0.8			80	○
	148	田口下田尻	前橋市田口町								○		82号住居	鉄鋼複合品	3.6	4.2	1.4			80	○
	149	二之宮宮下東	前橋市二之宮町宮下東他								●		3区15層		3.2	3.5	0.2			81	○
	150	二之宮宮下東	前橋市二之宮町宮下東他								○		2区遺構外		(1.2)	(1.3)	0.35			81	○
	151	二之宮宮下西	前橋市二之宮町宮下西五分						○				12号住居	珪質頁岩	2.2	3.4	0.65			82	○
	152	二之宮宮下西	前橋市二之宮町宮下西五分						○				60号住居	珪質頁岩	2.6	(2.7)	0.7			82	○
	153	二之宮宮下西	前橋市二之宮町宮下西五分						○				遺構外	珪質頁岩	(1.8)	(2.2)	0.7			82	○
	154	今城	前橋市富田町		○								H-1号住居跡床面		2.1	2.5	0.8			83	○
	155	今城	前橋市富田町		○								同上		1.6	2.5		0.6	1.8	83	○
	156	上庄司原	前橋市富士見町		◎								4号古墳		1.4	2.2	0.5	0.65	1.65	84	○
	157	上庄司原	前橋市富士見町		◎								4号古墳		1.5	2.4	0.55	0.7	1.8	84	○
	158	上庄司原	前橋市富士見町		◎								4号古墳		1.7	2.2	0.6	0.7	1.9	84	○
	159	新山1号古墳	前橋市馬場町		○								玄室		2.5	3.5	0.1			85	○
	160	新山1号古墳	前橋市馬場町		○								同上			2.0	0.35			85	○
	161	新山1号古墳	前橋市馬場町		◎								同上		1.4	1.8	0.3	0.6	1.6	85	○
	162	新山1号古墳	前橋市馬場町			○							同上							85	○
	163	新山1号古墳	前橋市馬場町			○							同上							85	○
	164	新山1号古墳	前橋市馬場町		◎								同上		2.0	2.0	0.5	0.5	1.6	85	○
	165	下増田越渡	前橋市下増田町字越渡・上増田町、二之宮町						○				C区2面50号住居	珪質頁岩	2.8	4.4	0.7			86	○
	166	上西原	前橋市下大屋町861他			○							27号掘立柱建物	帯金具(表)、受けと結合	2.7	3.1	0.2	釘部 径 0.15		87	○
	167	上西原	前橋市下大屋町861他			●							27号掘立柱建物	帯金具(受け)、表と結合	2.6	3.0	0.1	0.4	1.6	87	○
	168	川籠皆戸	前橋市荒子町1231						○				16号住居	黒色頁岩	2.9	4.5	0.8			88	○
	169	上泉寺ノ堀	前橋市上泉町			○							27号住居	青銅製丸柄	(2.0)	3.1	0.14	0.6	1.6	89	○
	170	清里南部遺跡群(下東西)	前橋市青梨子町字下東西								●		23号住居跡	金銅製帯金具(丸柄裏座)	2.6	2.7				90	○
	171	清里南部遺跡群Ⅱ	前橋市青梨子町字						○				住居跡	詳細不明						91	○
	172	中島	前橋市青梨子町字中								○		住居跡		3.2	2.3	0.55			91	○
	173	清里南部遺跡群(松ノ木)	前橋市青梨子町字松ノ木他			○							住居跡		3.35	3.35		0.5		92	○
	174	山王廃寺(放光寺)跡	前橋市総社町総社字晶楽寺廻り						○					滑石製	3.1	3.5	0.4	0.6	1.7	93	○
	175	清里・陣場	前橋市池端町・北群馬郡吉岡町陣場						○				47号住居跡		2.8	4.2	0.8			94	○
	176	清里・陣場	前橋市池端町・北群馬郡吉岡町陣場								●		45号住居跡	鍍金	2.3	3.4	0.1			94	○
	177	清里・陣場	前橋市池端町・北群馬郡吉岡町陣場						○				耕114号		2.8	4.5	0.8			94	○
	178	清里・長久保	前橋市池端町他						○				13区7号住居跡	変質蛇紋岩	3.0	4.5	0.8			95	○
	179	鳥取福蔵寺	前橋市鳥取町								●		H-1号住居跡		3.5	3.6	0.2			96	○

第2節 遺物

○・・・表金具と石帯 ●・・・裏金具 ◎・・・表金具と裏金具

遺跡番号	番号	遺跡名	所在地	銅鍍具	銅丸柄	銅巡方	銅銚尾	石丸柄	石巡方	石銚尾	鉄鍍具	鉄丸柄	鉄巡方	鉄銚尾	遺構	備考 (報告書記載事項など)	縦全体	横全体	厚全体	縦透孔	横透孔	文献番号	奈文研集成 (2002)
96	180	芳賀東部遺地	前橋市鳥取町・小坂子町・五代町		○										H23号住居跡		3.0	3.4	0.2	0.3	2.2	97	○
	181	芳賀東部遺地	前橋市鳥取町・小坂子町・五代町										○		H206号住居跡		2.7	3.3	0.6			97	
	182	芳賀東部遺地	前橋市鳥取町・小坂子町・五代町		○										H364号住居跡		2.56	3.4	0.4	0.6	1.76	98	○
97	183	堤沼上	前橋市堤町・亀泉町		○										24号住居	細長孔	2.5	2.8	0.5	0.25	2.0	99	
98	184	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										◎		15号墳1号土坑		2.2	2.9	0.6	0.5	1.3	100	
	185	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										◎		15号墳1号土坑		2.2	2.9	0.5	0.5	1.4	100	
	186	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										◎		15号墳1号土坑		2.2	2.9	0.5	0.5	1.2	100	
	187	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										●		15号墳1号土坑	留金具?	2.2	2.2	0.2			100	
	188	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										●		15号墳1号土坑	留金具?	1.9	2.5	0.2			100	
	189	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										◎		15号墳1号土坑		2.7	2.8	0.5	0.5	1.2	100	
	190	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										●		15号墳炭化物分布域	留金具?	2.3	(2.1)	0.2			100	
	191	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										◎		15号墳炭化物分布域		2.2	2.8	0.5	0.6	1.4	100	
	192	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										◎		15号墳炭化物分布域	留金具付着	2.5	2.7	0.6	0.6	1.4	100	
	193	多田山古墳群	前橋市東大室町・伊勢崎市赤堀今井町										◎		15号墳炭化物分布域		2.6	2.7	0.6	0.5	1.3	100	
99	194	野中天神	前橋市野中町字天神上長磯町				◎								21号住居跡礎土		1.9	1.9	0.4			101	○
100	195	芳賀北部遺地I	前橋市嶺・勝沢・小坂子町		●										H-32号住居		2.4	3.8	0.1			102	
	196	芳賀北部遺地I	前橋市嶺・勝沢・小坂子町		○										H-96		2.3	3.9	0.7	0.4	3.0	102	
101	197	下鎌田	甘楽郡下仁田町大字馬山字下鎌田		○										5号古墳1		(1.2)	2.1	0.4		1.8	103	
	198	下鎌田	甘楽郡下仁田町大字馬山字下鎌田		○										5号古墳2		(1.3)	2.2	0.4		1.8	103	
	199	下鎌田	甘楽郡下仁田町大字馬山字下鎌田		○										5号古墳3		(0.9)	(1.9)	(0.1)			103	
	200	下鎌田	甘楽郡下仁田町大字馬山字下鎌田		○										5号古墳3		(1.0)	(0.6)	(0.2)			103	
	201	下鎌田	甘楽郡下仁田町大字馬山字下鎌田		○										5号古墳3		(0.7)	(0.8)	(0.15)			103	
	202	下鎌田	甘楽郡下仁田町大字馬山字下鎌田		◎										5号古墳4		1.5	2.3	0.6	0.6	1.5	103	
	203	下鎌田	甘楽郡下仁田町大字馬山字下鎌田		○										5号古墳5	5号墳7と接合	1.4	2.1	(0.3)	0.7	1.5	103	
	204	下鎌田	甘楽郡下仁田町大字馬山字下鎌田		◎										5号古墳6		(1.0)	2.0	0.6	(0.5)	1.5	103	
	205	下鎌田	甘楽郡下仁田町大字馬山字下鎌田		○										5号古墳7	5号墳5と接合	1.4	2.1	0.4	0.6	1.5	103	
102	206	専光寺付近	邑楽郡大泉町仙石				○								27号住居跡	詳細不明	1.8	2.1				104	○
103	207	花和田	邑楽郡板倉町板倉		○											鏝鈔		4.0	1.0			105	○
104	208	上福島中町	佐波郡玉村町大字上福島					○							Ⅱ区29号土坑	暗灰色無斑晶安山岩	2.3	3.7	0.7			106	
105	209	福島大光坊	佐波郡玉村町大字福島					○							7区グリッド	雲母石英片岩	(2.6)	(2.7)	0.8			107	
106	210	福島曲戸	佐波郡玉村町字福島					●							11号住居	珪質頁岩	2.6	3.2	0.1			108	
	211	福島曲戸	佐波郡玉村町字福島						○						12号住居	珪質頁岩	3.1	3.3	0.6			108	
	212	福島曲戸	佐波郡玉村町字福島							○					Aグリッド	石材不明円形に打ち欠き転用	1.9	2.1	0.6			108	
	213	福島曲戸	佐波郡玉村町字福島							○					Aグリッド	石材不明円形に打ち欠き転用	1.8	1.8	0.6			108	
	214	福島曲戸	佐波郡玉村町字福島						○						Aグリッド	銅製品鈔帯	3.5	(3.9)	0.2			108	
	215	福島曲戸	佐波郡玉村町字福島												Aグリッド	銅製品鈔帯	(3.2)	(3.2)	0.2			108	種類不明
107	216	上之土地遺跡群	佐波郡玉村町上之土地						○						佐波塔No138地点	蛇紋岩	2.9	4.4	0.7			109	○
108	217	中筋	渋川市行幸田						○						5号住居跡床直	大理石	2.2	(4.3)	0.8			110	○
109	218	半田中原・南原	渋川市半田445～713				◎								32号住居	銅製品帯金具巡方	1.8	2.0	0.6	0.6	1.4	111	
110	219	白井遺跡群(白井南中道遺跡)	渋川市白井										○		15号住居	鉄器銚尾	2.3	4.4	1.0			112	
111	220	白井南中道	渋川市白井							○					14号住居	頁岩、かがり穴に銅線残存	2.4	3.2	1.6			113	
112	221	白井二位屋	渋川市白井				○								68号住居跡礎土		2.4	2.6	0.2	0.55	1.5	114	○
113	222	中郷日尻	渋川市中郷				○								Ⅲ区12号住居	金銅製帯金具、鍍金残る、接合。	2.9	5.1	0.2			115	
	223	中郷日尻	渋川市中郷				●								Ⅲ区12号住居		2.9	5.1	0.2			115	
114	224	奈良ノ号古墳	沼田市奈良町				○								横穴式石室	馬具か						116	○
	225	奈良ノ号古墳	沼田市奈良町				○								横穴式石室	轡具伴	2.4	3.0	0.75			116	○
115	226	秋塚1号墳	沼田市秋塚町字前原467				◎長								北側周壁中、浅間B軽石層中	留金周りにわずかに鍍金	1.3	3.0	0.7	0.26	2.38	117	○
116	227	大釜	沼田市大釜町・掘廻町					○							18号住居跡		2.88	4.78	4.4			118	○
117	228	戸神諏訪	沼田市町田町字土塔原							○					65号住居跡	珪質頁岩	3.6	6.2	0.6			119	○
118	229	戸神諏訪Ⅲ	沼田市町田町字土塔原				○								47号住居	青銅製丸柄	2.4	3.8	0.7	0.4	2.8	120	
	230	戸神諏訪Ⅲ	沼田市町田町字土塔原					●							60号住居		3.3	4.0	0.1			120	
119	231	戸神諏訪Ⅳ	沼田市町田町字土塔原												9号住居	報告書では蛇尾	3.2	3.4	0.15			121	
	232	町田小沢	沼田市町田町字小沢												13号住居跡	9c前半	2.6	4.0	0.9	0.4	2.8	122	○
120	233	町田小沢	沼田市町田町字小沢				◎								3号住居跡	9c	2.2	3.5	0.9	0.4	2.1	122	○

第7章 発掘調査の成果とまとめ

○・・・表金具と石帯 ●・・・裏金具 ◎・・・表金具と裏金具

遺跡番号	番号	遺跡名	所在地	銅丸	銅釘	石丸	石巡方	石巡方	石巡方	鉄釘	鉄釘	鉄釘	遺構	備考 (報告書記載事項など)	縦全体	横全体	厚全体	縦透孔	横透孔	文献番号	奈文研集成 (2002)
121	234	町田十二原	沼田市町田町字十二原・小沢						○				18号住居跡	蛇紋岩	3.6	4.0	0.6			123	○
122	235	町田手古又・岡谷毛勝	沼田市町田町字手古又					○					24号住居	孔1か所に金属片	3.3	(4.0)	1.0			124	
123	236	岡之台Ⅱ(B地点)	藤岡市岡之郷岡之台					○					土壌	流紋岩	2.1	3.2	0.5			125	○
124	237	E23C三本木中道東C	藤岡市三本木字中道東404-2他	○									ⅡD-2号土坑	青銅	1.9	3.1	0.5	(0.65)	(1.8)	126	
125	238	上栗須寺前遺跡群Ⅲ	藤岡市上栗須寺東・寺前					○					60号住居跡	頁岩	3.8	3.8	0.8			127	○
126	239	美九里地No.13遺跡	藤岡市本郷字大神裏					○					表採	流紋岩	2.7	4.0	0.7			128	○
127	240	一ノ宮押出	富岡市一ノ宮押出町	○									18号住居跡	黒漆付着	2.2	3.4	0.7	0.4	2.1	129	○
128	241	本宿・郷土	富岡市一ノ宮・田島					○					MT2号住居跡覆土	頁岩	2.2	3.8	0.6			130	○
129	242	御廟塚	富岡市黒川字三谷915	○									横穴式石室		2.5	3.0	0.6			131	○
129	243	御廟塚	富岡市黒川字三谷915		○								横穴式石室	裏一部欠損	1.5	2.1	0.5	0.5	1.5	131	○
129	244	御廟塚	富岡市黒川字三谷915		◎								横穴式石室		2.1	2.5	0.6	0.6	1.9	131	○
130	245	下丹生赤子Ⅰ	富岡市上丹生赤子					○					62号住居	蛇紋岩	4.0	4.2	0.7			132	
131	246	下高瀬上之原	富岡市下高瀬						○				13号住居		3.6	4.4	0.7			133	
132	247	生品西浦Ⅱ	利根郡川場村生品字西浦・西川原		○								D区1号竪穴建物	鈎帯丸柄	2.4	4.2	1.0	0.4	2.9	134	
	248	生品西浦Ⅱ	利根郡川場村生品字西浦・西川原			●							D区1号竪穴建物	鈎帯巡方裏金(再利用)	2.9	3.0	0.2			134	
	249	生品西浦Ⅱ	利根郡川場村生品字西浦・西川原							○			D区1号竪穴建物	巡方(結合)	3.1	3.15	0.5	0.3	1.2	134	
	250	生品西浦Ⅱ	利根郡川場村生品字西浦・西川原							●			D区1号竪穴建物	巡方裏金(結合)	3.1	3.15	0.5	0.3	1.1	134	
	251	生品西浦Ⅱ	利根郡川場村生品字西浦・西川原							○			D区1号竪穴建物		2.3	3.1	0.3	0.5	0.7	134	
	252	生品西浦Ⅱ	利根郡川場村生品字西浦・西川原							○			D区1号竪穴建物		2.5	3.3	0.5	0.5	0.8	134	
	253	生品西浦Ⅱ	利根郡川場村生品字西浦・西川原			○							D区2号工房		3.1	3.3	0.6	0.7	2.0	134	
133	254	森下中田	昭和村大字森下字中田	◎									3区2号住居	青銅製丸柄	1.7	2.6	0.5	0.5	1.6	135	
134	255	後田	みなかみ町夜野野帥		●								S179号住居跡覆土中		2.5	3.7	0.2			136	○
135	256	藪田	みなかみ町夜野町夜野字藪田		●								5区9号住居跡覆土中		2.1	3.1	0.15			137	○

引用文献(数字は第19表中の文献番号と一致する。)

- 安中市埋蔵文化財発掘調査団2005『植松・地尻遺跡―店舗開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 安中市埋蔵文化財発掘調査団2006『蔵畑Ⅱ遺跡―老人保健施設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『愛宕山遺跡―一般国道18号(松井田バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』
- 伊勢崎女子高校地歴部1968『上原古墳発掘調査報告書』/群馬県1981『群馬県史資料編3』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991『下瀬名塚遺跡―一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『三ツ木遺跡―一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 境町教育委員会1982『上瀬名遺跡第3次発掘調査概要』/境町教育委員会1983『上瀬名遺跡第4次発掘調査概要』/伊勢崎市教育委員会2008『上瀬名遺跡Ⅵ』/東日本埋蔵文化財研究会1997『遺物からみた律令国家と蝦夷―資料集第1分冊』
- 群馬県教育委員会1977『西今井遺跡・三ツ木遺跡―早川河川改修区域内埋蔵文化財発掘調査報告書』/東日本埋蔵文化財研究会1997『遺物からみた律令国家と蝦夷―資料集第1分冊』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『三和工業団地Ⅰ遺跡(2) 縄文・古墳・奈良・平安時代編―三和工業団地造成事業に伴う三和工業団地Ⅰ遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書第2集』
- 本報告書
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『桑前遺跡(2)―北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域埋蔵文化財発掘調査報告書』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『矢部遺跡―北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 群馬県新田町教育委員会1999『新田町内遺跡Ⅰ―新田町文化財調査報告書第19集』
- 新田町教育委員会1997『中屋敷・中村田遺跡―新田生品住宅団地建設に伴う発掘調査報告書』
- 新田町教育委員会1997『中江原遺跡群―新田町文化財調査報告書第16集』/群馬県354号バイパス道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2』/新田町1990『新田町誌Ⅰ』
- 太田市教育委員会1991『太田市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』
- 太田市教育委員会1988『市内遺跡Ⅳ』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『太田東部遺跡群』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『太田東部遺跡群』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『八ヶ久遺跡Ⅱ―北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 吾妻町教育委員会2003『諏訪前遺跡Ⅰ』平成7年度埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
- 太田市教育委員会1992『成塚住宅団地遺跡Ⅱ-3・4』
- 吉岡村教育委員会1986『大久保A遺跡―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書K.C.Ⅱ』
- 吉岡町遺跡調査会2001『見柳東遺跡―吉岡町文化財調査報告書第15集』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1983『中尾―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第6集』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『高浜古神遺跡―北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『中里見原遺跡群―北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第15集』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『三ツ子沢中遺跡―北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書第12集』
- 東京国立博物館1983『東京国立博物館目録 古墳遺物篇(関東Ⅱ)』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『本郷的場古墳群』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『下芝五反田遺跡―北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書第6集』
- 高崎市教育委員会2008『棟高遺跡群 棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡―大型店建設に伴う真史像文化財発掘調査』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『棟高辻久保遺跡―一般県道前橋・足門線バイパス(西毛広域幹線道路)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集』
- 吉井町教育委員会1982『川内遺跡発掘調査報告書』/小林敏夫1988『群馬県出土の腰金具について』『群馬の考古学』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『黒熊八幡遺跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第37集』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1997『多比良追野遺跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第40集』
- 吉井町教育委員会1967『西場脇・長根 宿遺跡調査報告書』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991『矢田遺跡Ⅱ―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『矢田遺跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第4集』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1997『矢田遺跡Ⅶ―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第45集』

- 41 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『長根羽田倉遺跡―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第3集』
- 42 高崎市教育委員会『天田・川押遺跡』高崎文化財調査報告書第41集
- 43 群馬県1981『群馬県史資料編3』
- 44 高崎市教育委員会1984『山鳥・天神遺跡』高崎市文化財調査報告書第56集
- 45 高崎市教育委員会1981『正観寺遺跡群Ⅲ』高崎市文化財調査報告書第21集
- 46 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『小八木志志戸遺跡4―主要地方道高崎渋川線改築(改良)工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集』
- 47 高崎市教育委員会1979『引間遺跡』高崎市文化財調査報告書第5集
- 48 高崎市教育委員会2007『菅谷万年貝戸遺跡』高崎市文化財調査報告書第216集
- 49 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『熊野堂遺跡第Ⅲ地区・雨壺遺跡』
- 50 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1995『大八木屋遺跡』
- 51 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991『融通寺遺跡』
- 52 高崎市教育委員会1982『日高遺跡(Ⅳ)』高崎文化財調査報告書第34集
- 53 高崎市教育委員会1989『八幡遺跡』高崎市文化財調査報告書第91集
- 54 高崎市教育委員会1979『寺ノ内遺跡・圃場整備事業に伴う浜川遺跡群の調査概報(2)』高崎市文化財調査報告書第13集
- 55 高崎市教育委員会1998『豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡』高崎市文化財調査報告書第157集
- 56 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『田端遺跡―上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第9集』
- 57 東日本埋蔵文化財研究会1997『遺物からみた律令国家と蝦夷―資料集第1分冊』
- 58 群馬県教育委員会1986『北原遺跡―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書K-C-1』
- 59 群馬県教育委員会1981『昭和55年度埋蔵文化財発掘調査略報』群馬県文化財調査報告書第3集
- 60 群馬県教育委員会1971『上野国分寺周辺地域発掘調査報告』
- 61 群馬県教育委員会1988『三ツ寺Ⅰ遺跡―上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第8集』
- 62 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』
- 63 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1987『下東西遺跡―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第16集』
- 64 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『国分境遺跡―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第34集』
- 65 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1993『上野国分寺跡・上野国分二寺中間地域』
- 66 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第24集』
- 67 群馬県教育委員会1983『中林遺跡調査概報』
- 68 群馬県教育委員会1995『堤上遺跡』
- 69 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『鳥羽遺跡L・M・N・O区―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第31集』
- 70 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1986『鳥羽遺跡G・H・I区―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集』
- 71 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『鳥羽遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第21集』
- 72 東日本埋蔵文化財研究会1997『遺物から見た律令国家と蝦夷』
- 73 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『上野国分僧寺・尼寺中間地域(2)―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第20集』
- 74 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1985『草作遺跡』
- 75 前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団1987『群馬県前橋市天神遺跡発掘調査報告書』
- 76 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009『元総社蒼海遺跡群(24)―前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 77 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001『元総社蒼海遺跡群 元総社小見内Ⅲ遺跡―前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 78 大胡町教育委員会1997『大胡西北部遺跡群 堀越中道遺跡』、1997
- 79 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『五代木福Ⅱ遺跡・五代深堀Ⅰ遺跡―五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 80 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡―一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集』
- 81 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『二之宮宮下東遺跡―一般国道17号(上部道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 82 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『二之宮宮下西遺跡―一般国道17号(上部道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 83 前橋市教育委員会1991『今城遺跡』
- 84 富士見村教育委員会1991『富士見地区遺跡群 陣場・庄司原古墳群―平成元年県営ほ場整備事業富士見地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 85 群馬県1981『群馬県史資料編3』
- 86 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『下増田渡遺跡―北関東自動車道(高崎―伊勢崎)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第19集』
- 87 群馬県教育委員会1999『上原遺跡―県営ほ場整備事業荒砥北部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 88 群馬県教育委員会1998『諏訪西遺跡・諏訪遺跡・柳久保遺跡・川籠戸遺跡・向原遺跡―県営ほ場整備事業荒砥北部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 89 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『上泉唐ノ堀遺跡―一般国道17号(上部道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2)報告書』
- 90 前橋市教育委員会1981『清里南部遺跡群(Ⅲ)』
- 91 前橋市教育委員会1981『中島遺跡発掘調査概報』
- 92 前橋市教育委員会1980『富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南部遺跡群』
- 93 前橋市教育委員会1979『山王庵寺跡第5次発掘調査報告書』
- 94 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1981『清里・陣場遺跡一昭和53年度県営畑地帯総合土地改良事業清里地区埋蔵文化財発掘調査報告書第1集』
- 95 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1986『清里・長久保遺跡一和55年度県営畑地帯総合土地改良事業清里地区埋蔵文化財発掘調査報告書第3集』
- 96 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1997『鳥取福蔵寺遺跡』
- 97 前橋市教育委員会1988『芳賀東部団地遺跡Ⅱ―芳賀団地遺跡群第2巻』
- 98 前橋市教育委員会1987『芳賀東部団地遺跡Ⅰ―芳賀団地遺跡群第1巻』
- 99 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『境沼上遺跡―一般国道17号(上部道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2)報告書』
- 100 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『多田山古墳群・今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡 古墳時代編―多田山住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書第1集』
- 101 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『野中天神遺跡』
- 102 前橋市教育委員会1994『芳賀北部団地遺跡Ⅰ―芳賀団地遺跡群第5巻』3
- 103 群馬県教育委員会・下仁田町遺跡調査会1997『下鎌田遺跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 104 大泉町教育委員会1989『専光寺付近遺跡一昭和63年度発掘調査概報』／大泉町教育委員会1990『専光寺付近遺跡一平成元年度発掘調査概報』／大泉教育委員会1991『専光寺付近遺跡一平成2年度発掘調査報告概報』
- 105 板倉町教育委員会2001『沼田南遺跡・花和田遺跡・藤ノ木遺跡・板倉遺跡』
- 106 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『上福島中町遺跡―一級河川利根川広域一般河川改修(局改)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 107 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『福島久保田遺跡・福島大光坊遺跡―主要地方道藤岡・大胡線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集』
- 108 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『福島曲戸遺跡・上福島遺跡―主要地方道藤岡・大胡線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集』
- 109 玉村町教育委員会1999『上之手地区遺跡群(1)・(2)稲荷森遺跡・天神塚遺跡・宇貫地区遺跡群・稲荷山遺跡群・下茂木地区遺跡群 他』玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第33集
- 110 渋川市教育委員会1988『中筋遺跡第2次発掘調査概要報告書』渋川市発掘調査報告書第18集
- 111 渋川市教育委員会1994『半田中原・南原遺跡』渋川市発掘調査報告書第41集(2分冊)
- 112 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『白井遺跡群(白井南中道遺跡)―一般国道17号線(鯉沢バイパス)改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集』
- 113 子持村教育委員会1998『白井南中道遺跡―店舗開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 114 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『白井遺跡群(白井二位屋遺跡)集落編Ⅰ』
- 115 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『中郷田尻遺跡―国道353号(鯉沢バイパス)補助公共道路改築事業(国道・円滑)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第7集』
- 116 群馬県1981『群馬県史資料編3』／沼田市1995『奈良ノ古墳』沼田市史資料編1』
- 117 沼田市教育委員会1992『秋塚古墳群Ⅱ』
- 118 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1983『大釜遺跡・金山古墳群―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第7集』
- 119 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『戸神諏訪遺跡―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第30集』
- 120 沼田市教育委員会1993『戸神諏訪Ⅲ遺跡―沼田北部工業団地埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 121 沼田市教育委員会1994『戸神諏訪Ⅳ遺跡―平成3年度県営ほ場整備事業沼田北部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 122 沼田市埋蔵文化財発掘調査団1990『町田小沢遺跡』
- 123 沼田市教育委員会1993『沼田北部地区遺跡群Ⅱ(町田十二原遺跡)』
- 124 沼田市教育委員会1997『沼田市北部地区遺跡群Ⅵ 町田手古又遺跡・岡谷毛勝遺跡―県営ほ場整備事業沼田北部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書(6)』
- 125 藤岡市教育委員会1990『年報Ⅴ』
- 126 藤岡市教育委員会2012『E23 a 三本木大谷B遺跡・E23 b 三本木中道東B遺跡・E23 c 三本木中道東C遺跡―三本木工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 127 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『上栗須寺前遺跡群Ⅲ―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第36集』
- 128 藤岡市教育委員会1987『藤岡市遺跡詳細分布調査(Ⅵ)』

第7章 発掘調査の成果とまとめ

- 129 富岡市教育委員会1994『一ノ宮押出遺跡発掘調査報告書』富岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第19集
- 130 富岡市教育委員会1981『本宿・郷土遺跡発掘調査報告書』
- 131 富岡市1987『富岡市史 自然編 原始・古代・中世編』
- 132 富岡市教育委員会2009『丹生地区遺跡群一県営畑地帯総合整備事業丹生地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』富岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第29集
- 133 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『下高瀬上之原遺跡一関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第27集』
- 134 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『生品西浦遺跡Ⅱ一一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 135 昭和村教育委員会1998『森下中田遺跡一主要地方道昭和インター線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 136 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『後田遺跡一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第23集』
- 137 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『藪田遺跡一上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第4集』

本文参考文献

- 伊勢崎市 1987『伊勢崎市史通史編1』
伊勢崎市教育委員会 1985『上西根遺跡』
伊勢崎市教育委員会 2004『上西根遺跡Ⅱ』
伊勢崎市教育委員会 2009『新屋敷遺跡・上植木廃寺周辺遺跡Ⅱ・上植木廃寺一埋蔵文化財発掘調査概報一』
伊勢崎市教育委員会 2012『伊勢崎市遺跡分布地図』
岩崎泰一 2011「第9章第1節縄文期洪水層と遺跡分布」『喜多町遺跡』pp.103-110
笠懸村 1987『笠懸村史』
加部二生・荒木勇次・軽部達也・志村哲・長井正欣 1997「群馬県」『遺物からみた律令国家と蝦夷』pp.315-476 第6回東日本埋蔵文化財研究会
木崎善雄・野村哲・中島啓治1977『群馬のおいたちをたずねて』上下 上毛新聞社
群馬県 1990『群馬県史通史編1』
群馬県 1991『群馬県史通史編2』
小林敏夫 1985「群馬検出度の腰帯具について」『群馬の考古学』pp.427-438
須長泰一 1986「上植木廃寺周辺遺跡の一調査例一新屋敷遺跡発掘調査報告一」『伊勢崎市史研究』第4号pp.1-16
澤口宏 1984「第1章第2節地形・地質」『伊勢崎市史自然編』pp.21-105
澤口宏 1991「第1章第1節・第2節」『境町史第1巻自然編』pp.1-38
澤口宏 2010「大間々扇状地一社会基盤としての自然環境」『群馬県大間々扇状地の地域と景観』pp.7-17
早田勉・能登健 1990「第1章群馬県の自然と風土」『群馬県史通史編1』pp.37-129
鳥羽市教育委員会 1975『鳥羽遺跡』
奈良文化財研究所2002『銚子をめぐる諸問題』

遺構一覽表

凡例

1. 土坑・ピット一覽表は、遺跡ごとに作成し、遺構番号順に並べた。
2. 土坑・ピットの計測値は、重複等で計測できないものは計測不能とした。
3. 位置[X-Y]の数値は国家座標値の下3桁を用いて示した。
4. 規模および深さの()は残存値である。
5. 挿図は掲載図番号、写真図版は遺構写真および遺物写真の掲載PL. 番号を示した。

遺物観察表

凡例

1. 遺物観察表は、本文第3～5章の遺物掲載順に並べた。
2. 法量の()は残存値である。
3. 計測値では口径→口、底径→底、器高→高、高台径→台、稜径→稜、甕・壺などで胴部最大径→胴、内湾する杯などでの最大径→最、蓋の摘み最大径→摘と略している。
4. 重量は電磁式はかり等を使用してg単位で記した。
5. 土器の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠した。また、陶磁器の色調は割れ口により判断した。
6. 中近世土器の胎土でAは「片岩起源と思われる雲母状鉱物を含む」で、Bは「片岩起源と思われる雲母状鉱物を含まない」を表す。

目次

1. 関遺跡 土坑計測表	322
2. 上西根遺跡 土坑計測表	322
3. 新屋敷遺跡 土坑計測表	325
4. 関遺跡 ピット計測表	326
5. 上西根遺跡 ピット計測表	327
6. 新屋敷遺跡 ピット計測表	329
7. 関遺跡 土坑・ピット出土遺物一覽表	330
8. 上西根遺跡 土坑・ピット出土遺物一覽表	330
9. 新屋敷遺跡 土坑・ピット出土遺物一覽表	331
10. 遺物観察表	332

遺構一覧表

1. 関遺跡土坑計測表

区	土坑番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	分類	挿図	写真図版(PL.)
7	1	558・559-159・160	楕円形	1.56×0.80	0.14	N-56°-W		⑤	第81図	22
7	2	559-159・160	円形	0.73×(0.65)	0.13	N-75°-E	3土と重複	④	第78図	22
7	3	559-561-158-160	隅丸方形	2.03×1.25	0.57	N-80°-W	2・21土と重複	③	第78図	22・122
7	4	560・561-153・154	円形	0.95×0.95	0.37	N-53°-W		④	第80図	22
7	5	560・561-149-151	隅丸方形	1.14×0.98	0.65	N-73°-W	袋状土坑	①	第78図	22
7	6	575・576-150・151	長方形	1.85×0.85	0.08	N-0°-S	4住と重複	③	第78図	22
7	7	558-561-156・157	不定形	3.25×0.93	0.33	N-6°-W	8・13土と重複	②	第78図	22・122
7	8	558-560-156・157	隅丸長方形	2.17×(1.03)	0.44	N-9°-E	7土、1ピットと重複	③	第78図	22
7	9	558-561-155	不定形	2.76×0.50	0.08	N-6°-E		②	第78図	22
7	10	558・559-160-162	隅丸方形	(1.35)×1.06	0.46	N-75°-E	5住と重複	③	第79図	22
7	11	575・576-141・142	長方形	1.84×0.87	0.31	N-90°	12・16土と重複	③	第79図	22
7	12	575・576-141・142	長方形	1.32×(0.80)	0.30	N-85°-E	11・16土と重複	③	第79図	22・23
7	13	561-563-157・158	隅丸長方形	2.30×1.02	0.62	N-0°-S	1住、7土と重複	③	第79図	22・23
7	14	563-565-158・159	—	(1.55)×(0.70)	0.58	—	1住と重複	⑥	第81図	22
7	15	577・578-139-141	方形	1.98×1.58	0.23	N-90°	5溝と重複	③	第79図	23
7	16	574-576-146・147	長方形	1.90×0.96	0.39	N-58°-W	11・12土と重複	③	第79図	23
7	17	582・583-147・148	隅丸方形	1.09×0.92	0.08	N-81°-E	19・30土と重複	③	第79図	23
7	18	564-566-157・158	楕円形	1.85×1.13	0.61	N-6°-W	1住と重複	⑤	第80図	23
7	19	581・582-146・147	方形	1.59×1.23	0.50	N-81°-E	17土・4井戸と重複	③	第79図	23
7	20	577・578-150・151	楕円形	0.79×0.58	0.22	N-90°		⑤	第81図	23
7	21	559・560-160	方形?	0.83×(0.65)	0.13	—	3土と重複	③	第80図	22・23
7	22	586-148・149	長方形	(1.35)×0.95	0.15	N-83°-E		③	第80図	24
7	23	564-567-147・150	楕円形?	(3.80)×3.70	0.41	N-75°-E	2住・28土と重複	⑥	第81図	24
7	24	586・587-142	隅丸方形	1.12×0.85	0.12	N-6°-E		③	第80図	
7	25	585・586-139	円形	0.80×0.74	0.24	N-25°-E	8住、47ピットと重複	④	第80図	24
7	26	569・570-155・156	不定形	(1.15)×(0.90)	0.81	N-18°-W	3住、1井戸と重複	⑥	第81図	
7	27	595・596-145	不定形	(1.00)×(0.32)	0.35	N-0°-S		⑥	第81図	24・122
7	28	564-566-150・151	隅丸長方形	2.03×0.98	0.37	N-0°-S	2・3住と重複	③	第80図	24
7	29	619・620-130・131	円形	0.97×0.93	0.68	N-0°-S		④	第80図	24
7	30	581-582・583-148・150	不定形	(2.00)×1.50	0.37	N-56°-W	17・19土・4井戸と重複	⑥	第82図	

2. 上西根遺跡土坑計測表

区	土坑番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	分類	挿図	写真図版(PL.)
1	1	504・505-172-174	不定形	1.93×1.25	0.54	N-90°-E			第120図	38
1	2	505-507-172-174	不定形	2.22×1.8	0.56	N-39°-E			第120図	38
1	3	509-511-169-172	不定形	3.37×2.27	0.50	N-82°-E			第121図	38・125
1	4	519-521-169-172	不定形	2.15×1.72	0.42	N-83°-W			第122図	38
1	5	513・514-175・176	不定形	0.75×(0.18)	(0.07)	N-82°-E	12住と重複		第122図	
1	6	513・514-176	不定形	(0.38)×(0.17)	(0.05)	N-84°-E	12住と重複		第122図	
2	1	440-442-203-205	長方形	1.84×1.20	0.1	N-19°-W	1溝と重複	②	第181図	59
2	2	485-487-203-205	不定形	(2.03)×1.31	0.15	N-69°-W		②	第181図	
2	3	437-203	円形?	(0.48)×0.67	0.16	計測不能		④	第182図	59
2	4	437・438-203・204	不定形	1.14×0.65	0.26	N-29°-W		④	第182図	59
2	5	440・441-209・210	楕円形	1.39×80.78)	0.43	N-65°-E	5住と重複	④	第182図	59
2	6	452・453-198-200	長方形	2.21×0.66	0.32	N-83°-W		①	第181図	59
2	7	452-196-198	長方形	1.93×0.59	0.27	N-83°-W		①	第181図	59
2	8	450-453-195・196	長方形	3.51×0.81	0.17	N-16°-E		①	第181図	59
2	9	405・406-223・224	円形	0.83×0.73	0.05	N-29°-W		④	第182図	59
2	10	403-405-226-228	楕円形	(1.52)×1.72	0.14	N-65°-W		④	第182図	59・60
2	11	380・381-232-234	楕円形	1.55×1.25	0.25	N-87°-W		④	第182図	60
2	12	467-195・196	隅丸長方形	1.90×1.12	0.08	N-67°-E		①	第181図	60
2	13	470-192・193	不定形	0.70×0.30	0.08	N-57°-E		⑤	第182図	60
2	14	476-189・190	楕円形	0.56×0.48	0.08	N-79°-W		③	第181図	60
2	15	472-474-187-189	隅丸長方形	1.84×0.81	0.13	N-63°-E		②	第181図	60
2	16	476-188・189	楕円形	0.61×0.52	0.15	N-17°-W		④	第182図	60
2	17	473-190・191	円形	0.51×0.49	0.19	N-0°		③	第181図	60
2	18	475・476-191	楕円形	0.69×0.54	0.16	N-46°-E	19土と重複	⑤	第182図	60
2	19	475・476-190・191	楕円形	0.75×0.63	0.59	N-53°-E	18土と重複	⑤	第182図	60・61
2	20	475-192	楕円形	0.43×0.37	0.43	N-55°-W		③	第181図	61
2	21	471・472-188・189	円形	0.80×0.79	1.19	N-0°		③	第181図	61
2	22	476・477-191	楕円形	(0.99)×0.69	0.91	N-41°-W		⑤	第183図	61
2	23	472・473-186・187	長方形	0.93×0.55	0.2	N-23°-E		②	第181図	61
2	24	410・411-221・222	楕円形	1.32×(0.88)	0.28	N-15°-E		⑤	第183図	
2	25	407-709-217・218	楕円形	(1.16)×0.99	0.33	N-22°-E	40住と重複	⑤	第183図	61
2	26	410・411-217・218	楕円形	1.47×(1.00)	0.29	N-18°-W	49住と重複	⑤	第183図	61
2	27	413-415-217-219	楕円形	1.44×(1.26)	0.27	N-36°-W	29土と重複	⑤	第183図	61
2	28	413-416-222-224	不定形	(2.40)×(1.53)	0.30	N-15°-E	39住、30土と重複	⑤	第183図	61
2	29	414-416-216・267	楕円形	2.06×1.52	0.24	N-34°-W	41住、27土と重複	⑤	第183図	61
2	30	416・417-222・223	不定形	1.74×(0.95)	0.30	N-36°-E	42住、28土と重複	⑤	第183図	61
2	31	415・416-221・222	楕円形	1.06×0.76	0.17	N-72°-E		⑤	第184図	61
2	32	欠番								
2	33	336-338-227-230	隅丸長方形	2.68×1.84	0.59	N-83°-W	17住と重複	⑤	第184図	
2	34	428-213・214	不定形	(0.31)×(0.29)	0.08	N-68°-E	25住と重複	⑤	第184図	
2	35	423-425-218-220	不定形	(1.98)×1.38	0.24	N-81°-W	45住と重複	⑤	第184図	
2	36	418・419-214・215	不定形	1.44×1.20	0.18	N-9°-W	41住と重複	⑤	第184図	
2	37	427・428-211・212	不定形	14.8×6.20	0.20	N-80°-E		⑤	第184図	61
3	1	欠番								
3	2	320-323-263・264	長方形	3.58×(0.54)	0.3	N-12°-W		①	第199図	68

区	土坑 番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	分類	挿図	写真図版 (PL.)
3	3	323~326-261・262	長方形	1.60×0.53	0.11	N-4°-E		①	第199図	68
3	4	326・327-260・261	長方形	1.04×0.54	0.09	N-40°-E		②	第201図	68
3	5	320・321-261・262	円形	0.70×0.65	0.42	N-0°		③	第202図	68
3	6	326・327-259~261	長方形	2.17×0.47	0.18	N-83°-W	1住・7土と重複	①	第199図	68
3	7	327・328-261・262	不定形	(0.95)×(0.47)	0.23	計測不能	6・19土と重複	⑤	第204図	68
3	8	328・329-261・262	不定形	(0.75)×(0.51)	0.61	N-88°-E	19土と重複	①	第199図	68
3	9	329・330-259~261	長方形	(1.46)×0.50	0.21	N-90°-E		①	第199図	69
3	10	329-256~259	長方形	2.20×0.54	0.24	N-85°-W		①	第199図	69
3	11	330-257~259	長方形	1.88×0.47	0.43	N-81°-W		①	第199図	69
3	12	322~235-255	長方形	3.27×0.58	0.15	N-7°-E		①	第199図	69
3	13	318~327-254・255	長方形	9.41×0.75	0.23	N-3°-E	2住と重複	①	第199図	69
3	14	322~324-252	長方形	(1.5)×0.70	0.37	N-0°	18土と重複	①	第199図	69
3	15	325-251	長方形	(0.56)×0.61	0.46	N-79°-W		①	第200図	69
3	16	321~327-253・254	長方形	5.13×0.74	0.43	N-7°-W	2住と重複	①	第200図	69
3	17	327・328-253・254	正方形	1.03×0.93	0.11	N-23°-E	23土と重複	②	第201図	69・70
3	18	324-252	不定形	(0.03)×(0.60)	0.17	N-0°	14土と重複	①	第199図	69
3	19	328-260・261	不定形	(0.78)×(0.48)	0.4	N-83°-W°	7・8土と重複	①	第200図	68
3	20	315・316-264~266	不定形	(1.25)×(1.11)	0.22	N-66°-W		⑤	第204図	70
3	21	317・318-262~264	不定形	1.50×1.37	0.25	N-20°-E		⑤	第204図	70
3	22	328-256~259	長方形	3.76×0.50	0.13	N-78°-W		①	第200図	70・134
3	23	328-254・255	長方形	(1.86)×0.65	0.04	N-84°-W	17土と重複	①	第200図	
3	24	346・347-244~247	不定形	(0.25)×0.75	0.34	N-83°-W	25・28・29土と重複	①	第200図	70
3	25	345・346-245~249	長方形	4.40×0.88	0.56	N-87°-W	24・28・29土と重複	①	第200図	70
3	26	342・343-254~256	不定形	(1.05)×1.37	0.16	N-78°-W		⑤	第204図	70
3	27	339・340-249	長方形	0.97×0.66	0.18	N-19°-E		②	第201図	70
3	28	346・347-245~249	長方形	2.39×(0.94)	0.59	N-83°-W	24・25・29土と重複	①	第200図	70
3	29	345・346-245~248	長方形	2.72×0.80	0.56	N-78°-W	24・25・28土と重複	①	第200図	70
3	30	334-248	円形	0.55×0.5554	0.11	N-0°		③	第202図	70
3	31	332・333-249・250	楕円形	1.32×1.12	0.27	N-90°	32土と重複	③	第202図	70
3	32	331・332-250・251	円形	(1.20)×1.20	0.28	N-0°	31土と重複	③	第203図	70・71・134
3	33	339・340-256	不定形	1.20×(0.33)	0.25	N-14°-E		②	第201図	71
3	34	339~341-247~249	楕円形	2.0×1.88	0.26	N-17°-E		⑤	第204図	71
3	35	334~336-255~258	長方形	(2.84)×1.56	0.32	N-85°-W	36・37土と重複	②	第202図	71
3	36	336-256	長方形	(0.71)×0.61	0.06	N-6°-E	35土と重複	①	第202図	71
3	37	336-256~258	不定形	(0.82)×1.20	0.25	N-12°-E	35土と重複	②	第202図	71
3	38	349・350-241・242	長方形	1.31×0.74	0.13	N-78°-E		②	第202図	71
3	39	341・342-244・245	楕円形	0.54×0.40	0.09	N-10°-W		④	第203図	71
3	40	344-249	円形	0.60×0.57	0.14	N-22°-E	3溝と重複	③	第203図	71
3	41	338・339-253~255	円形	1.30×1.29	0.44	N-0°	42・47土と重複	③	第203図	71・72・134
3	42	335・336-253・254	楕円形	(1.22)×1.07	0.36	N-17°-W	41・43・47土、根石1と重複	③	第203図	71・72
3	43	334・335-253・254	楕円形	1.46×(0.99)	0.32	N-74°-W	42土、根石1と重複	③	第203図	71・72
3	44	338~340-246・246	不定形	2.04×(1.06)	0.29	N-19°-E	45土、根石3と重複	②	第202図	72
3	45	336~338-245~247	不定形	(1.88)×(1.80)	0.20	N-61°-W	44土根石4と重複	⑤	第204図	72
3	46	334・335-247・248	不定形	1.59×(1.13)	0.19	N-31°-E		②	第202図	72
3	47	336・337-254	不定形	(0.43)×(0.19)	0.32	計測不能	41・42土と重複	⑤	第203図	
3	48	358・359-242・243	楕円形	1.06×0.62	0.18	N-67°-W		②	第202図	72・134
3	49	369・370~238・239	円形	1.48×1.36	0.14	N-38°-E		③	第203図	72
4	1	273・274-284・285	不定形	0.86×(0.79)	0.09	N-8°-E	2・36土、4溝と重複	②	第223図	81
4	2	273・274-284~286	(長方形)	(1.36)×0.71	0.13	N-68°-W	1・35土と重複	①	第223図	81
4	3	274・275-277~279	隅丸長方形	1.33×0.62	0.12	N-77°-W	3溝と重複	①	第223図	81
4	4	274~276-276・277	不定形	1.27×0.82	0.28	N-75°-W		②	第224図	81
4	5	275・276-298・299	隅丸長方形	1.39×0.56	0.26	N-72°-W	3・7溝と重複	①	第223図	81
4	6	276・277-276・277	楕円形	1.14×0.98	0.16	N-59°-W	3・6・7溝と重複	⑤	第225図	81
4	7	277・278-278・279	隅丸長方形	1.08×0.53	0.05	N-19°-E	5溝、32ピットと重複	①	第223図	81
4	8	276~278-280	長方形	1.61×0.47	0.11	N-16°-E	5・6溝と重複	①	第223図	81
4	9	276・277-274・275	長方形	1.11×0.82	0.28	N-73°-W		②	第224図	81・82・136
4	10	269・270-272・273	隅丸長方形	(1.00)×0.68	0.28	N-70°-W		①	第223図	82
4	11	271~273-284~286	長方形	1.43×1.11	0.44	N-70°-W	12土・7溝と重複	②	第224図	82・136
4	12	271・272-275・276	長方形	1.53×0.84	0.32	N-74°-W	11土と重複	②	第224図	82
4	13	269・270-282~285	不定形	1.63×1.06	0.22	N-73°-W	14土・3溝と重複	②	第224図	82
4	14	269~271-283~285	不定形	1.80×1.27	0.48	N-14°-E	13土と重複	②	第224図	82・136
4	15	268・269-283~286	長方形	2.54×1.15	0.68	N-77°-W	3溝と重複	②	第225図	82・136
4	16	264~267-281・282	長方形	2.46×0.59	0.54	N-13°-E		①	第223図	82
4	17	264・265-280・281	楕円形	0.99×0.77	0.16	N-8°-W		⑤	第225図	82
4	18	267・268-280	隅丸長方形	2.13×0.49	0.11	N-13°-E	19土と重複	①	第223図	82
4	19	268-280	隅丸長方形	(0.63)×0.38	0.08	N-21°-E	18土と重複	①	第223図	82・83
4	20	283・284-280~282	長方形	(1.23)×0.87	0.3	N-73°-W		②	第224図	83
4	21	283~285-279・280	隅丸長方形	(2.17)×0.49	0.14	N-18°-E	22土、29ピットと重複	①	第223図	83
4	22	284・285-280	(円形)	0.59×(0.43)	0.11	N-0°	21土と重複	④	第223図	83
4	23	283~285-278・279	不定形	(2.55)×0.93	0.24	N-13°-E	2溝と重複	①	第223図	83
4	24	286・287-278~280	隅丸長方形	1.48×0.51	0.06	N-75°-W	1竪穴と重複	①	第223図	83
4	25	287・288~279・280	不定形	(1.26)×(0.42)	0.05	N-25°-E	30・31土と重複	②	第224図	83
4	26	287・288-272~274	不定形	(1.76)×1.80	0.27	N-88°-E	27土、1溝と重複	⑥	第226図	83・136
4	27	287・288-272・273	楕円形	1.36×0.96	0.71	N-9°-W	26土、1溝と重複	⑤	第226図	83・136
4	28	290・291-270・271	楕円形	1.27×0.93	0.31	N-26°-E		⑥	第226図	83
4	29	293・294-268・269	楕円形	1.28×1.19	0.3	N-58°-W	1溝と重複	⑤	第226図	84
4	30	286・287-280	不定形	(0.71)×0.84	0.22	N-53°-W	31土と重複	⑥	第226図	84
4	31	287-280	不定形	(0.38)×(0.44)	0.18	N-15°-E	25・30土と重複	⑥	第226図	84
4	32	282・283-276・277	円形	1.42×1.36	0.19	N-35°-W		④	第225図	84

遺構一覧表

区	土坑 番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	分類	挿図	写真図版 (PL.)
4	33	1井戸に変更					1井戸に変更			
4	34	2井戸に変更					2井戸に変更			
4	35	274・275-286	楕円形	0.65×0.53	0.23	N-28°-W	4溝と重複	③	第225図	84
4	36	274-284	楕円形	0.84×0.74	0.23	N-36°-W	1土、4溝と重複	③	第225図	84
4	37	275・276-283~285	不定形	(1.55)×1.72	0.10	N-72°-W		⑥	第226図	84
4	38	271~273-282・283	不定形	(2.10)×0.56	0.18	N-15°-E	4・7溝と重複	⑥	第226図	84
4	39	273・274-280・281	不定形	(0.54)×(0.23)	0.14	N-72°-E		③	第225図	
4	40	274-280	楕円形	0.60×0.56	0.06	N-39°-W		③	第225図	84
4	41	275・276-282・283	方形	0.68×0.59	0.17	N-11°-W		③	第225図	84
4	42	275・276-281	不定形	(0.68)×(0.53)	0.11	N-22°-E		③	第225図	
4	43	282-281	楕円形	0.73×0.55	0.23	N-25°-E		⑤	第226図	84
5	1	欠番								
5	2	187-319・320	楕円形	0.65×0.45	0.18	N-79°-E		④	第248図	92
5	3	186・187-320・321	円形	0.90×0.88	0.26	N-58°-E		③	第248図	92
5	4	185-319・320	楕円形	0.84×0.46	0.15	N-55°-W		④	第248図	92
5	5	欠番								
5	6	184・185-318・319	円形	0.98×0.95	0.3	N-26°-E		③	第248図	92
5	7	195・196-318・319	長方形	1.39×0.89	0.32	N-26°-E	8土と重複	②	第246図	92
5	8	193~196-317~319	長方形	3.31×1.15	0.44	N-26°-E	7土と重複	①	第242図	92
5	9	194~197-315~317	長方形	3.01×0.97	0.31	N-27°-E		①	第242図	92
5	10	201~203-315・316	不定形	1.68×0.73	0.17	N-6°-E	57ピットと重複	②	第247図	92・93
5	11	189~193-316~318	長方形	3.24×1.11	0.5	N-21°-E		①	第242図	93
5	12	190~192-320~322	長方形	2.11×1.39	0.50	N-17°-E		②	第247図	93・138
5	13	200~202-312・313	長方形	1.79×0.84	0.47	N-22°-E	16土と重複	②	第247図	93
5	14	201・202-308~310	長方形	1.33×0.80	0.19	N-81°-W		②	第247図	93
5	15	198~200-314・315	長方形	1.93×(0.43)	0.39	N-14°-E	16土と重複	①	第242図	93
5	16	197~200-313~315	長方形	2.85×1.07	0.51	N-15°-E	13・15・17土と重複	①	第242図	93
5	17	197・198-313・314	長方形	1.47×0.94	0.48	N-18°-E	16土と重複	②	第247図	93・138
5	18	194~196-314~316	長方形	2.29×0.71	0.18	N-19°-E	19土と重複	①	第242図	92・93
5	19	194~197-315・316	長方形	2.58×0.91	0.57	N-19°-E	18土と重複	①	第242図	92・93
5	20	200・201-310・311	長方形	1.22×0.60	0.37	N-22°-E		②	第247図	93
5	21	202・203-306~309	長方形	2.42×0.82	0.38	N-66°-W		①	第242図	94
5	22	204・205-306	楕円形	0.70×0.56	0.21	N-86°-E	27土と重複	④	第248図	94
5	23	206・207-305	隅丸長方形	1.03×0.55	0.09	N-25°-E		④	第248図	94
5	24	207~209-308・309	楕円形	1.31×1.18	0.26	N-1°-E		④	第249図	94
5	25	209-308・309	長方形	0.62×0.49	0.11	N-15°-E		②	第247図	94
5	26	206・207-306~310	長方形	3.82×0.62	0.31	N-70°-W	27土と重複	①	第242図	94
5	27	204~206-305~307	不定形	(2.28)×0.72	0.25	N-64°-W	22・26土と重複	①	第243図	94
5	28	1号井戸に変更					1井戸に変更			
5	29	212・213-305	楕円形	0.59×0.49	0.17	N-65°-W		④	第249図	94
5	30	211~213-304・305	長方形	2.28×0.61	0.43	N-23°-E	70土と重複	①	第243図	95
5	31	210~212-312・313	長方形	(1.63)×0.80	0.47	N-60°-W		①	第243図	95
5	32	213~215-311・312	隅丸長方形	2.49×1.31	0.17	N-8°-E		②	第247図	95
5	33	212~215-309~311	長方形	3.26×0.82	0.38	N-25°-E		①	第243図	95
5	34	213~217-307~309	長方形	4.76×0.63	0.29	N-29°-E	80土と重複	①	第243図	95
5	35	218~222-307~309	隅丸長方形	3.68×1.17	0.21	N-27°-E		①	第243図	95
5	36	210~212-303・304	隅丸長方形	2.05×0.81	0.31	N-20°-E	70土と重複	①	第243図	95
5	37	222・223-307・308	円形	1.40×1.39	0.66	N-25°-E		③	第248図	95
5	38	223・224-306・307	円形	0.68×0.67	0.12	N-68°-W		③	第248図	96
5	39	223~225-205・206	長方形	2.85×0.72	0.15	N-30°-E	44土と重複	①	第244図	96
5	40	218・219-299・300	楕円形	0.97×0.86	0.09	N-22°-E	59土と重複	④	第249図	96
5	41	223~225-298~303	長方形	(5.49)×0.67	0.18	N-67°-W		①	第244図	96
5	42	224~226-297~301	隅丸長方形	4.21×0.46	0.1	N-67°-W		①	第244図	96
5	43	226~228-301~304	長方形	(3.65)×0.83	0.14	N-70°-W	46・47・61・81土と重複	①	第244図	96
5	44	224・225-205・206	隅丸長方形	(1.34)×0.52	0.28	N-40°-E	39土と重複	①	第244図	96
5	45	225~227-305・306	長方形	(1.42)×0.93	0.28	N-66°-W	81土と重複	①	第244図	96
5	46	227~230-301~303	隅丸長方形	2.76×0.63	0.47	N-33°-W	43・81土と重複	①	第244図	96・97
5	47	227・228-304~306	長方形	(1.54)×0.83	0.44	N-69°-W	43・61土と重複	①	第245図	96
5	48	230・231-302・303	隅丸長方形	0.98×0.57	0.2	N-34°-E		②	第248図	97
5	49	230~232-298~301	隅丸長方形	0.90×0.46	0.44	N-69°-W	50土と重複	①	第245図	97・138
5	50	229~232-295~300	隅丸長方形	5.59×0.52	0.32	N-67°-W	49土と重複	①	第245図	97
5	51	233~235-292・293	円形	1.49×1.45	0.23	N-25°-E		③	第248図	97
5	52	242・243-291	楕円形	0.91×0.79	0.35	N-70°-W		⑤	第249図	97
5	53	244-291・292	楕円形	0.66×0.61	0.17	N-15°-E		②	第248図	97
5	54	245-291・292	楕円形	0.61×0.45	0.38	N-71°-W		④	第249図	97
5	55	241・242-288・289	不定形	0.74×(0.51)	0.22	N-26°-E		⑤	第249図	97
5	56	244~246-286・287	隅丸長方形	(2.45)×0.68	0.19	N-3°-E		①	第245図	98
5	57	248・249-290・291	隅丸長方形	0.49×0.43	0.45	N-80°-W		④	第249図	98
5	58	208・209-305・306	楕円形	0.71×0.46	0.16	N-35°-E		⑤	第249図	98
5	59	218~221-298・299	長方形	3.39×(0.66)	0.32	N-26°-E	40・60土と重複	①	第245図	98
5	60	221-327・328	楕円形	0.64×0.59	0.54	N-70°-W	59土と重複	④	第249図	98
5	61	227・228-304~306	隅丸長方形	(1.84)×0.61	0.15	N-72°-W	43・47・62土と重複	①	第245図	96・97
5	62	227-305・306	長方形	(0.86)×0.52	0.26	N-70°-W	61土と重複	①	第245図	96・97
5	63	237・238-298・299	隅丸長方形	1.40×0.53	0.38	N-72°-W		①	第245図	98
5	64	238・239-299~301	長方形	1.41×0.56	0.4	N-68°-W	65土と重複	①	第245図	98
5	65	238・239-301	不定形	(0.48)×0.42	0.11	N-68°-W	64土と重複	①	第246図	98
5	66	237・238-293~295	長方形	1.63×0.69	0.38	N-70°-W	67土と重複	①	第246図	98
5	67	238・239-294~296	長方形	2.09×0.51	0.40	N-73°-W	66土と重複	①	第246図	98
5	68	240・241-299・300	長方形	(1.65)×0.49	0.56	N-69°-W	69土と重複	①	第246図	99

区	土坑番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	分類	挿図	写真図版(PL.)
5	69	241-300	不定形	(0.52)×(0.17)	0.33	N-23°-E	68土と重複	②	第246図	99
5	70	212-213-303・304	不定形	0.87×(0.52)	0.49	N-55°-E	30・36土と重複	⑤	第249図	99・138
5	71	164~167-323~325	不定形	(2.69)×0.81	0.15	N-23°-E	72土と重複	①	第246図	99
5	72	164・165-325	長方形	(0.75)×0.58	0.1	N-30°-E	71土と重複	①	第246図	99
5	73	171・172-324・235	円形	0.68×0.62	0.31	N-46°-W		④	第249図	99
5	74	177・178-326・327	円形	0.61×0.56	1.34	N-71°-E		③	第248図	99
5	75	2井戸に変更					2井戸に変更			
5	76	151-334	楕円形	0.66×0.40	0.31	N-77°-E		④	第249図	99
5	77	133-338	不定形	0.52×(0.28)	0.24	N-25°-E		②	第248図	99
5	78	131~133-339~341	楕円形	1.97×1.77	0.33	N-65°-W		④	第249図	99
5	79	130~132-339~342	不定形	2.79×0.62	0.33	N-69°-W		①	第246図	99
5	80	214~217-307~309	隅丸長方形	3.29×(0.30)	1.19	N-29°-E	34土と重複	①	第246図	95
5	81	226~229-303~305	不定形	(3.74)×0.90	0.37	N-37°-E	43・46土と重複	①	第244図	96

3. 新屋敷遺跡土坑計測表

区	土坑番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	分類	挿図	写真図版(PL.)
1	1	178・179-301・302	不定形	0.92×(0.56)	0.18	N-61°-W		②	第265図	103
1	2	178~180-300・301	長方形	1.94×1.05	0.11	N-21°-E	1ピットと重複	②	第265図	103
1	3	182・183-298・299	不定形	1.36×1.06	0.29	N-17°-E		④	第267図	103
1	4	185~187-297~299	隅丸方形	1.53×1.14	0.17	N-33°-E		②	第266図	103
1	5	187・188-300	不定形	1.28×(0.45)	0.11	N-25°-E		②	第266図	103
1	6	195~197-294・295	長方形	1.96×0.87	0.27	N-21°-E	7土と重複	①	第263図	103
1	7	195・196-293・294	不定形	1.08×(0.53)	0.08	N-23°-E	6土と重複	⑤	第267図	103
1	8	195・196-292・293	不定形	1.69×(0.57)	0.20	N-23°-E		④	第267図	103
1	9	欠番								
1	10	199・200-291・292	不定形	1.66×(0.31)	0.17	N-21°-E		②	第266図	103
1	11	欠番								
1	12	190・191-297・299	長方形	(2.00)×0.67	0.50	N-68°-W	13土と重複	①	第263図	103
1	13	190~192-296~299	長方形	(2.41)×0.56	0.40	N-67°-W	12土と重複	①	第263図	103
1	14	202・203-292・293	正方形	0.95×(0.94)	0.25	N-24°-E	15土と重複	②	第266図	104
1	15	202~204-291~293	長方形	2.30×0.78	0.23	N-19°-E	14・16土と重複	①	第263図	104
1	16	202・203-291・292	長方形	0.59×0.47	0.28	N-68°-W	15土と重複	②	第266図	104
1	17	202・203-289~291	不定形	1.72×(0.95)	0.21	N-79°-E	18・19土と重複	④	第267図	104
1	18	203~205-290~292	不定形	2.81×0.59	0.37	N-66°-W	17・19土と重複	①	第263図	104
1	19	203~207-289~292	不定形	(4.08)×0.50	0.19	N-33°-W	17・18・20・24土と重複	①	第264図	104
1	20	204~206-289~291	長方形	(2.89)×0.79	0.31	N-66°-W	19・24土と重複	①	第264図	104
1	21	211・212-288・289	長方形	(0.85)×0.79	0.13	N-68°-W	22土と重複	②	第266図	104
1	22	211・212-289・290	不定形	(0.69)×(0.41)	0.09	N-24°-E	21土と重複	②	第266図	104
1	23	207~209-291・292	不定形	(2.16)×(0.39)	0.39	N-17°-E	24土と重複	①	第264図	
1	24	206・207-291・292	不定形	(0.97)×0.60	0.78	N-65°-W	19・20・23土と重複	①	第264図	
1	25	155・156-310~312	隅丸長方形	(2.12)×1.04	0.13	N-36°-E		②	第266図	104
1	26	153・154-310~312	長方形	(1.46)×1.15	0.26	N-68°-W		②	第266図	104
1	27	欠番								
1	28	156・157-314	不定形	0.80×(0.74)	0.27	N-27°-E		②	第266図	104・105
1	29	152・153-311~314	不定形	(2.66)×0.61	0.24	N-70°-W	30土と重複	①	第264図	105
1	30	151~153-313・314	長方形	1.95×0.78	0.25	N-21°-E	29土と重複	①	第264図	105
1	31	096~099-335~338	不定形	(4.16)×(0.61)	0.81	N-46°-E		⑤	第267図	105
1	32	220・221-283・284	不定形	(1.31)×(0.45)	0.28	N-71°-W	9・10溝と重複	⑤	第268図	105
1	33	217・218-283~285	正方形	1.51×1.41	0.40	N-14°-E	30ピット、11溝と重複	②	第266図	105
1	34	欠番								
1	35	欠番								
1	36	215・216-287・288	不定形	(1.58)×(0.11)	0.21	N-22°-E	32ピットと重複	①	第264図	105
1	37	216・217-284	楕円形	(0.77)×(0.66)	0.04	N-20°-E	39土と重複	③	第267図	105
1	38	219・220-283~286	長方形	(2.36)×(0.47)	0.20	N-74°-W	10・11溝と重複	①	第264図	105・138
1	39	215~217-284	不定形	(1.66)×0.72	0.36	N-10°-W	37土と重複	①	第264図	106
1	40	139~141-316~318	楕円形	1.89×1.54	0.53	N-62°-E		④	第267図	106
1	41	140・141-319・320	楕円形	1.03×0.93	0.23	N-35°-E		④	第267図	106
1	42	138・139-320・321	楕円形	1.00×0.86	0.36	N-4°-W		④	第267図	106
1	43	133~136-321・322	不定形	2.82×1.47	0.23	N-2°-W	12溝と重複	⑤	第268図	106・138
1	44	133~135-323・324	不定形	1.76×0.32	0.20	N-21°-E		①	第264図	106
1	45	131・132-318・319	楕円形	1.38×(1.20)	0.78	N-36°-E	52土と重複	④	第265図	106
1	46	130・131-319~323	長方形	4.22×0.67	0.12	N-66°-W	47・48土と重複	①	第265図	107
1	47	130・131-319~321	長方形	2.45×0.74	0.63	N-78°-W	46土と重複	①	第265図	107
1	48	131・132-323~325	長方形	(1.61)×0.71	0.41	N-75°-W	46・49土と重複	①	第265図	107
1	49	132-324・325	不定形	1.08×0.38	0.39	N-77°-W	48土と重複	①	第265図	107
1	50	127~129-319・320	不定形	(1.90)×(0.34)	0.37	N-5°-E		①	第265図	107
1	51	127~129-322・323	不定形	(1.62)×(0.76)	0.15	N-75°-W		⑤	第268図	107
1	52	131・132-318・319	不定形	(1.56)×(0.33)	0.15	N-27°-E	45土と重複	①	第265図	106
1	53	119・120-326~329	長方形	2.53×0.66	0.24	N-77°-W	49ピットと重複	①	第265図	107
1	54	115・116-331・332	長方形	(0.88)×0.58	0.12	N-76°-W	59土と重複(断面のみ)	①	第265図	107
1	55	113・114-324~326	長方形	2.13×0.55	0.13	N-71°-W	56土と重複	①	第265図	107
1	56	112・113-323・324	不定形	(0.60)×(0.56)	0.36	N-78°-W	55土と重複	①	第266図	107
1	57	欠番								
1	58	欠番								
1	59	116-332	不定形		0.18		54土と重複、断面図のみ出現	⑤	第265図	107

遺構一覧表

4. 関遺跡 ビット計測表

区	ビット番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	挿図
7	1	558・559-157・158	楕円形	0.50×0.37	0.42	N-7°-W	8土と重複	第85・86図
7	2	566・567-145・146	隅丸方形	0.38×0.36	0.53	N-0°-S		第85・86図
7	3	555・556-149・150	円形	0.29×0.27	0.46	N-37°-W	3溝と重複	第85・86図
7	4	583-147	円形	0.48×0.46	0.51	N-32°-E		第84・86図
7	5	581-144	楕円形	0.32×0.29	0.52	N-26°-E		第84・86図
7	6	580-142	楕円形	0.48×0.37	0.41	N-35°-E		第84・86図
7	7	579-142	円形	0.49×0.45	0.37	N-20°-E		第84・86図
7	8	579-140	円形	0.36×0.32	0.38	N-90°-E		第84・86図
7	9	579-139	円形	0.38×0.38	0.42	N-0°-S		第84・86図
7	10	579-138・139	楕円形	0.53×0.39	0.30	N-58°-W		第84・86図
7	11	578-138・139	円形	0.32×0.30	0.70	N-59°-E		第84・86図
7	12	578-130	円形	0.38×0.31	0.35	N-53°-E		第84・86図
7	13	573-141・142	楕円形	0.58×0.42	0.40	N-55°-E		第84・86図
7	14	577-144・145	円形	0.61×0.42	0.42	N-73°-E		第84・86図
7	15	574・575-144・145	不定形	0.76×0.41	0.47	N-41°-W		第84・86図
7	16	574-144	隅丸方形	0.44×0.42	0.68	N-21°-W		第84・86図
7	17	577-147・148	円形	0.60×0.55	0.39	N-31°-E		第84・86図
7	18	579-140	楕円形	0.30×0.23	0.27	N-35°-E		第84・86図
7	19	578-144・145	円形	0.28×0.28	0.36	N-43°-E		第84・86図
7	20	578-146・147	円形	0.39×0.33	0.32	N-71°-E		第84・86図
7	21	577・578-146・147	円形	0.59×0.50	0.26	N-68°-E		第84・86図
7	22	572・573-141	楕円形	0.58×0.47	0.56	N-90°-E		第84・86図
7	23	570-146	楕円形	0.42×0.34	0.39	N-23°-E		第85・86図
7	24	568-148	楕円形	0.44×0.33	0.45	N-30°-E		第85・86図
7	25	562-153	円形	0.27×0.25	0.32	N-75°-E		第85・86図
7	26	559・560-156	楕円形	0.32×0.27	0.64	N-0°-S		第85・86図
7	27	558-154	円形	0.33×0.31	0.32	N-56°-W		第85・86図
7	28	557・558-154	円形	0.36×0.33	0.44	N-0°-S		第85・87図
7	29	556・557-153・154	円形	0.54×0.50	0.62	N-64°-W		第85・87図
7	30	556-154・155	円形	0.35×0.32	0.54	N-76°-E		第85・87図
7	31	572・573-146	隅丸方形	0.24×0.20	0.32	N-13°-E		第85・87図
7	32	573-147	円形	0.27×0.25	0.21	N-58°-E		第85・87図
7	33	572-148	円形	0.34×0.30	0.45	N-44°-E		第85・87図
7	34	577・578-145	円形	0.25×0.22	0.34	N-0°-S		第84・87図
7	35	578-148	円形	0.32×0.27	0.23	N-50°-E		第84・87図
7	36	583-145	円形	0.28×0.24	0.48	N-53°-E		第84・87図
7	37	581-143・144	円形	0.27×0.22	0.26	N-44°-E		第84・87図
7	38	579・580-136・137	楕円形	0.50×0.38	0.49	N-51°-W		第84・87図
7	39	580-138	不定形	0.43×0.23	0.32	N-60°-W		第84・87図
7	40	581-139	円形	0.32×0.27	0.48	N-54°-W		第84・87図
7	41	582-137	円形	0.46×0.42	0.29	N-0°-S		第84・87図
7	42	582・583-146・147	隅丸方形	0.30×0.25	0.39	N-27°-W		第84・87図
7	43	582-138・139	円形	0.29×0.25	0.31	N-60°-W		第84・87図
7	44	584・585-142	円形	0.35×0.35	0.39	N-90°-E		第84・87図
7	45	585-135・136	楕円形	0.43×0.37	0.30	N-40°-E		第84・87図
7	46	586・587-145	楕円形	0.40×0.35	0.62	N-39°-W		第84・87図
7	47	585・586-136・140	楕円形	0.60×0.40	0.47	N-82°-E	25土と重複	第84・87図
7	48	568-144	楕円形	0.50×0.40	0.47	N-52°-W		第85・87図
7	49	568-144	楕円形	(0.33)×0.30	0.53	N-60°-W		第85・87図
7	50	568-144	楕円形	0.33×0.28	0.55	N-14°-W		第85・87図
7	51	563・564-146	不定形	0.55×0.32	0.38	N-55°-W		第85・87図
7	52	590-146・147	楕円形	0.31×0.28	0.20	N-80°-E		第84・87図
7	53	590-146・147	楕円形	0.27×0.22	0.22	N-80°-E		第84・87図
7	54	593-145	楕円形	0.34×0.29	0.38	N-74°-E		第84・87図
7	55	593・594-145	楕円形	0.32×0.28	0.29	N-90°-E		第84・87図
7	56	596-144・145	隅丸方形	0.38×0.25	0.14	N-90°-E		第84・87図
7	57	596-144・145	楕円形	0.37×0.25	0.24	N-4°-W		第84・87図
7	58	587-134	楕円形	0.47×0.30	0.40	N-90°-E		第84・87図
7	59	587-134	円形	0.55×0.48	0.43	N-90°-E		第84・87図
7	60	589-134	円形	0.51×0.44	0.48	N-90°-E		第84・87図
7	61	590・591-134・135	円形	0.37×0.36	0.48	N-64°-E		第84・87図
7	62	591・592-135	楕円形	0.42×0.34	0.35	N-33°-E		第84・87図
7	63	591-133・134	楕円形	0.45×0.40	0.54	N-44°-E		第84・88図
7	64	591-132・133	円形	0.42×0.37	0.39	N-34°-W		第84・88図
7	65	593-133	円形	0.78×0.74	0.27	N-60°-W		第84・88図
7	66	592・593	円形	0.50×0.41	0.43	N-33°-E		第84・88図
7	67	585-140・141	円形	0.75×0.57	0.43	N-0°-S		第84・88図
7	68	601-136	円形	0.43×0.42	0.39	N-29°-W		第83・88図
7	69	575-152・153	楕円形	0.45×0.37	0.33	N-13°-E		第85・88図
7	70	582-139・140	隅丸方形	0.43×0.38	0.37	N-73°-W		第84・88図
7	71	587-144	楕円形	0.50×0.40	0.39	N-33°-E		第84・88図
7	72	587-148	円形	0.47×0.43	0.33	N-44°-E		第84・88図
7	73	552-152	円形	0.22×0.22	0.40	N-27°-E		第85・88図
7	74	553-151	楕円形	0.42×0.35	0.43	N-22°-E		第85・88図
7	75	567-148・149	円形	0.43×0.47	0.23	N-20°-W		第85・88図
7	76	589・590-140	円形	0.33×0.33	0.41	N-60°-W		第84・88図
7	77	593・594-131・132	楕円形	0.45×0.34	0.39	N-65°-W		第84・88図
7	78	602-135	楕円形	0.42×0.34	0.38	N-70°-W		
7	79	600-131	楕円形	0.30×0.28	0.44	N-22°-E		第83・88図
7	80	600・601-131	楕円形	0.30×0.28	0.44	N-16°-E		第83・88図

区	ピット番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	挿図
7	81	601-132	楕円形	0.38×0.35	0.30	N-21°-E		
7	82	601・602-133	円形	0.35×0.35	0.34	N-25°-E		
7	83	601・602-133・134	円形	0.44×0.40	0.43	N-33°-E		
7	84	602・603-136	円形	0.43×0.42	0.32	N-25°-E		
7	85	601・602-135・136	円形	0.38×0.37	0.35	N-11°-E		第83・88図
7	86	602・603-137	円形	0.47×0.45	0.45	N-51°-W		
7	87	601・602-137	円形	0.40×0.40	0.31	N-0°-S		第83・88図
7	88	604・605-136	円形	0.42×0.40	0.43	N-13°-E		第83・88図
7	89	604・605-136・137	円形	0.35×0.33	0.28	N-61°-E		第83・88図
7	90	606-136	円形	0.39×0.33	0.41	N-7°-W		第83・88図
7	91	606-137	円形	0.28×0.24	0.34	N-53°-W		第83・88図
7	92	606-134・135	楕円形	0.56×0.43	0.37	N-15°-E	15住と重複	第83・88図
7	93	616・617-126・127	楕円形	0.84×0.70	0.46	N-7°-E	13溝、94ピットと重複	第83・88図
7	94	616・617-126	楕円形	0.76×0.65	0.38	N-20°-E	13溝、93ピットと重複	第83・88図

5. 上西根遺跡 ピット計測表

区	ピット番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	挿図
1	1	490-186	楕円形	0.63×0.48	0.22	N-55°-W		第123・124図
1	2	491-186	楕円形	0.85×0.58	0.39	N-46°-E	6住と重複	第123・124図
1	3	490・491-184・185	円形	0.42×0.41	0.45	N-0°-S		第123・124図
1	4	490・491-184	円形	0.43×0.39	0.42	N-6°-W		第123・124図
1	5	489・490-183・184	円形	0.61×0.56	0.27	N-15°-W		第123・124図
1	6	491・492-183・184	円形	0.68×0.64	0.38	N-63°-W		第123・124図
1	7	491・492-182	円形	0.48×(0.47)	0.31	N-19°-E		第123・124図
1	8	欠番						
1	9	503-176	楕円形	0.40×0.34	0.25	N-40°-E		第123・124図
1	10	欠番						
1	11	欠番						
1	12	欠番						
1	13	502・503-176・177	円形	0.40×0.35	0.24	N-0°-S		第123・124図
1	14	欠番						
1	15	507-175	円形	0.30×0.28	0.38	N-34°-E		第123・124図
1	16	507・508-175・176	楕円形	0.43×0.28	0.38	N-85°-E		第123・124図
1	17	欠番						
1	18	508-175・176	円形	0.29×0.28	0.37	N-30°-E		第123・124図
1	19	508-177	円形	0.30×0.30	0.21	N-0°-S		第123・124図
1	20	509-177	円形	0.33×0.28	0.20	N-90°-E		第123・124図
1	21	509-176・177	円形	0.28×0.23	0.16	N-62°-W		第123・124図
1	22	509-175・176	円形	0.36×0.33	0.39	N-55°-E		第123・124図
1	23	509-175	円形	0.26×0.25	0.08	N-90°-E		第123・124図
1	24	欠番						
1	25	509・510-174	楕円形	0.25×0.20	0.24	N-15°-E		第123・124図
1	26	509・510-174	不定形	0.57×0.32	0.30	N-52°-E		第124図
1	27	509・510-173・174	円形	0.27×0.24	0.33	N-70°-E		第124図
1	28	509-173	楕円形	0.39×0.27	0.39	N-36°-W		第124図
1	29	508-172・173	円形	0.32×0.31	0.38	N-90°-E		第124図
1	30	欠番						
1	31	欠番						
1	32	欠番						
1	33	欠番						
1	34	494・495-176	楕円形	0.47×0.37	0.34	N-57°-E		第124図
1	35	499-179・180	円形	0.47×0.45	0.41	N-90°-E		第124図
1	36	509-178	円形	0.39×0.38	0.22	N-0°-S		第124図
2	1	459・460-192	円形	0.36×0.34	0.48	N-0°-S		第185図
2	2	458・459-192・193	円形	0.59×0.53	0.55	N-19°-E		第185図
2	3	439-211・212	楕円形	0.48×0.39	0.49	N-79°-W		第185図
2	4	440-211	楕円形	(0.48)×(0.39)	0.28	N-21°-W		第185図
2	5	440-211	円形	0.30×0.30	0.12	N-0°-S	5住と重複	第185図
3	1	317-264・265	円形	0.36×0.34	0.25	N-2°-W		第205図
3	2	312-259	楕円形	(0.45)×0.24	0.13	N-84°-E		第205図
3	3	313-257	楕円形	0.37×0.28	0.17	N-62°-E		第205図
3	4	316・317-258	円形	0.25×0.24	0.08	N-0°-S		第205図
3	5	324-255	方形	0.26×0.24	0.18	N-17°-E		第205図
3	6	327-255	隅丸方形	0.38×0.28	0.13	N-87°-W		第206図
3	7	327-255	円形	0.31×0.28	0.13	N-30°-W		第206図
3	8	331-259	方形	0.19×0.18	0.05	N-20°-E		第206図
3	9	331-259・260	円形	0.19×0.18	0.1	N-0°-S		第206図
3	10	323・324-260	楕円形	0.47×0.4	0.15	N-30°-E		第205図
3	11	327・328-255	楕円形	0.31×0.25	0.10	N-82°-W		第206図
3	12	328・329-254	楕円形	0.53×0.39	0.33	N-9°-W		第206図
3	13	330・331-253	円形	0.37×0.36	0.60	N-0°-S		第206図
3	14	342-252・253	楕円形	0.64×0.49	0.24	N-45°-E		第206図
3	15	317-260・261	楕円形	0.63×0.37	0.29	N-8°-W		第205図
3	16	317-259	楕円形	0.52×0.41	0.31	N-14°-W		第205図
3	17	319-261	楕円形	0.38×0.38	0.17	N-64°-E		第205図
3	18	欠番						
3	19	342・343-250・251	楕円形	0.58×0.44	0.29	N-82°-E		第206図
3	20	欠番						
3	21	322・323-262	円形	0.46×0.43	0.22	N-50°-W		第205図
3	22	329・330-256・257	楕円形	0.40×0.37	0.60	N-74°-W		第206図

遺構一覧表

区	ビット番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	挿図
3	23	欠番						
3	24	342-248・249	楕円形	0.42×0.41	0.18	N-33°-W		第206図
3	25	342-247・248	楕円形	0.42×0.38	0.28	N-89°-W		第206図
3	26	338-251	楕円形	0.42×0.39	0.17	N-63°-W		第206図
3	27	336・337・252・253	楕円形	0.41×0.35	0.27	N-30°-E		第206図
3	28	336-251・252	楕円形	0.50×0.46	0.25	N-40°-E		第206図
3	29	336・337-251・252	隅丸方形	0.55×0.41	0.27	N-48°-W		第206図
3	30	336-249	楕円形	0.45×0.38	0.26	N-87°-W		第206図
3	31	335-250	楕円形	0.42×0.36	0.56	N-68°-E		第206図
3	32	334・335	楕円形	0.39×0.26	0.20	N-83°-W		第206図
3	33	334-253・254	楕円形	0.33×0.27	0.18	N-38°-W		第206図
3	34	欠番						
3	35	336-257	楕円形	(0.48)×0.45	0.46	N-79°-W		第206図
4	1	272-279	楕円形	0.32×0.22	0.04	N-33°-W		第227・228図
4	2	272-279	楕円形	0.24×0.18	0.06	N-33°-E		第227・228図
4	3	273・274-283・284	楕円形	0.43×0.38	0.03	N-29°-W		第227・228図
4	4	276-284	円形	0.34×0.33	0.13	N-0°-S		第227・228図
4	5	277・278-284	楕円形	0.45×0.40	0.25	N-29°-W		第227・228図
4	6	277・278-282	方形	0.39×0.37	0.30	N-9°-E		第227・228図
4	7	277-281	円形	0.26×0.25	0.10	N-0°-S		第227・228図
4	8	277・278-279	方形	0.43×0.34	0.11	N-53°-E		第227・228図
4	9	277-280	円形	0.34×0.33	0.2	N-12°-W		第227・228図
4	10	275-280	円形	0.29×0.24	0.12	N-60°-W		第227・228図
4	11	274-277	円形	0.28×0.26	0.28	N-20°-E		第227・228図
4	12	276-279	楕円形	0.41×0.32	0.27	N-8°-E		第227・228図
4	13	276・277-279	楕円形	0.73×0.42	0.04	N-20°-E		第227・228図
4	14	279-279	楕円形	0.36×0.29	0.24	N-77°-W		第227・228図
4	15	277-277・278	円形	0.22×0.21	0.15	N-0°-S		第227・228図
4	16	277・278-273	円形	0.42×0.41	0.21	N-0°-S		第227・228図
4	17	277・278-276	円形	0.34×0.31	0.40	N-78°-E		第227・228図
4	18	278-277	円形	0.36×0.34	0.41	N-58°-E		第227・228図
4	19	279-277	円形	0.27×0.26	0.21	N-0°-S		第227・228図
4	20	278・279-275・276	円形	0.40×0.39	0.38	N-0°-S		第227・228図
4	21	279-276	円形	0.31×0.31	0.29	N-0°-S		第227・228図
4	22	272-286	楕円形	0.40×0.33	0.15	N-89°-W		第227・228図
4	23	263・264-279・280	不定形	0.35×0.32	0.08	N-11°-W		第227・228図
4	24	279-280	円形	0.35×0.33	0.18	N-82°-E	1井戸、33ビットと重複	第227・228図
4	25	279・280-280	円形	0.52×0.49	0.27	N-68°-E	1井戸、1溝と重複	第227・228図
4	26	281-279	楕円形	0.39×0.35	0.16	N-83°-W	2溝と重複	第227・228図
4	27	281・282-279・280	円形	0.29×0.27	0.13	N-17°-E		第227・228図
4	28	283-279	方形?	0.49×0.23	0.28	N-85°-E		第227・228図
4	29	283-280	楕円形	0.41×0.36	0.20	N-59°-E	21土と重複	第227・228図
4	30	277-276	円形	0.30×0.30	0.22	N-0°-S		第227・228図
4	31	277・278-276	円形	0.31×0.28	0.36	N-87°-W		第227・228図
4	32	278-278・279	楕円形	0.37×0.31	0.10	N-77°-E		第227・228図
4	33	279-281	楕円形	(0.26)×0.28	0.10	N-17°-E	24ビットと重複	第227・228図
4	34	281-279	円形	0.25×0.25	0.18	N-0°-S	2溝と重複	第227・228図
5	1	194・195-313	楕円形	0.49×0.28	0.13	N-39°-E		第252図
5	2	196-312	楕円形	0.82×0.37	0.18	N-28°-E		第252図
5	3	199-317	方形	0.29×0.26	0.13	N-67°-W	2号柵	
5	4	200-316	円形	0.28×0.25	0.10	N-62°-W	2号柵	
5	5	201-316	楕円形	0.33×0.27	0.12	N-25°-W	2号柵	
5	6	203-315	円形	0.27×0.25	0.12	N-67°-W	2号柵	
5	7	204-314	円形	0.28×0.26	0.26	N-26°-E	2号柵	
5	8	205-314	楕円形	0.25×0.21	0.16	N-3°-E	2号柵	
5	9	206-313・314	楕円形	0.33×0.29	0.13	N-60°-W	2号柵	
5	10	207-313	楕円形	0.25×0.22	0.12	N-25°-E	2号柵	
5	11	208-312・313	円形	0.28×0.28	0.26	N-0°-S	2号柵	
5	12	208・209-312	円形	0.28×0.28	0.12	N-0°-S	2号柵	
5	13	209・210-312	楕円形	0.26×0.22	0.15	N-0°-S	2号柵	
5	14	202-317	円形	0.28×0.28	0.14	N-0°-S	1号柵	
5	15	203-316・317	円形	0.30×0.29	0.09	N-26°-E	1号柵	
5	16	204-316	円形	0.24×0.24	0.17	N-0°-S	1号柵	
5	17	205-315・316	楕円形	0.34×0.27	0.16	N-30°-W	1号柵	
5	18	206-315	円形	0.25×0.24	0.18	N-90°-E	1号柵	
5	19	207-315	楕円形	0.28×0.21	0.15	N-32°-E	1号柵	
5	20	207・208-314	楕円形	0.27×0.23	0.11	N-25°-E	1号柵	
5	21	208・209-314	楕円形	0.28×0.24	0.15	N-40°-W	1号柵	
5	22	209-313・314	円形	0.28×0.26	0.12	N-25°-E	1号柵	
5	23	203-310	楕円形	0.45×0.36	0.09	N-12°-E		第252図
5	24	204-310	楕円形	0.32×0.25	0.13	N-77°-W		第252図
5	25	216-303	楕円形	0.45×0.40	0.38	N-23°-E		第251図
5	26	317-303	楕円形	0.46×0.38	0.34	N-71°-E		第251図
5	27	216・217-302	円形	0.41×0.41	0.28	N-0°-S		第251図
5	28	217・218-302・303	楕円形	0.35×0.26	0.04	N-7°-W		第251図
5	29	218・219-302	楕円形	0.44×0.39	0.50	N-26°-E		第251図
5	30	220-301	楕円形	0.49×0.45	0.35	N-6°-W		第251図
5	31	220・221-302	円形	0.52×0.49	0.28	N-20°-E		第251図
5	32	221-302・303	円形	0.42×0.37	0.19	N-65°-W		第251図
5	33	221・222-302	方形	0.31×0.30	0.18	N-15°-W		第251図

区	ピット番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	挿図
5	34	221-300・301	円形	0.33×0.33	0.04	N-0°-S		第251図
5	35	222-301	円形	0.39×0.39	0.24	N-0°-S		第251図
5	36	222-300・301	円形	0.49×0.47	0.33	N-23°-E		第251図
5	37	223-301	楕円形	0.40×0.35	0.32	N-67°-W		第251図
5	38	223-300	円形	0.37×0.36	0.12	N-19°-E		第251図
5	39	234-302	円形	0.27×0.26	0.26	N-21°-E		第250図
5	40	235-294	円形	0.27×0.27	0.24	N-0°-S		第250図
5	41	239-296	方形	0.19×0.18	0.11	N-65°-W		第250図
5	42	241-295	円形	0.20×0.19	0.20	N-18°-E		第250図
5	43	244-291	円形	0.32×0.32	0.31	N-0°-S		第250図
5	44	176-321	楕円形	0.43×0.33	0.30	N-49°-W	45ピットと重複	第253図
5	45	176・177-321	楕円形	0.41×0.33	0.31	N-19°-E	44ピットと重複	第253図
5	46	177-322	円形	0.43×0.40	0.21	N-30°-E		第253図
5	47	181・182-321・322	楕円形	0.36×0.30	0.57	N-70°-E		第253図
5	48	181-323	楕円形	0.36×0.25	0.62	N-40°-W		第253図
5	49	138-336・337	円形	0.28×0.27	0.18	N-67°-W		第253図
5	50	138・139-337・338	楕円形	0.56×0.26	0.09	N-5°-W		第253図
5	51	139-338	円形	0.23×0.23	0.09	N-0°-S		第253図
5	52	140-337・338	隅丸長方形	0.48×0.27	0.14	N-0°-S		第253図
5	53	141-337・338	楕円形	0.29×0.23	0.07	N-82°-E		第253図
5	54	146-335	円形	0.22×0.20	0.05	N-10°-E		第253図
5	55	137-338	円形	0.26×0.22	0.17	N-65°-W		第253図
5	56	138-338	楕円形	0.30×0.25	0.14	N-10°-E		第253図
5	57	201-315	不定形	(0.22)×0.30	0.14	N-16°-E	2号柵	

6. 新屋敷遺跡 ピット計測表

区	ピット番号	位置[X-Y]	平面形	規模[長径×短径](m)	深さ(m)	主軸方向	重複関係	挿図
1	1	179・180-300	楕円形	0.49×(0.41)	0.23	N-19°-E	2土と重複	第269・270図
1	2	欠番						
1	3	欠番						
1	4	206・207-289	円形	0.29×0.27	0.30	N-20°-E		第269・270図
1	5	209・210-288	円形	0.36×0.30	0.18	N-25°-E		第269・270図
1	6	210・211-288	円形	0.37×0.36	0.16	N-7°-E		第269・270図
1	7	211-289	楕円形	0.38×0.31	0.18	N-21°-W		第269・270図
1	8	211-289	円形	0.27×0.22	0.12	N-5°-E		第269・270図
1	9	欠番						
1	10	209-289・290	円形	0.26×0.21	0.17	N-19°-E		第269・270図
1	11	211・212-286	楕円形	0.36×0.31	0.19	N-16°-E		第269・270図
1	12	212-286	円形	0.28×0.28	0.20	N-0°-S		第269・270図
1	13	212-287	楕円形	0.37×0.30	0.13	N-60°-E		第269・270図
1	14	212-288	楕円形	0.48×0.31	0.21	N-15°-W		第269・270図
1	15	212・213-288	楕円形	0.31×0.26	0.20	N-0°-S		第269・270図
1	16	213-288・289	円形	0.29×0.29	0.19	N-0°-S		第269・270図
1	17	212・213-287・288	楕円形	0.63×0.55	0.19	N-70°-E		第269・270図
1	18	213-287	円形	0.39×0.36	0.31	N-67°-W		第269・270図
1	19	213-286	楕円形	0.57×0.34	0.27	N-17°-E		第269・270図
1	20	214-287	楕円形	0.45×0.45	0.17	N-0°-S		第269・270図
1	21	214-286	楕円形	0.30×0.22	0.21	N-7°-E		第269・270図
1	22	214・215-286・287	楕円形	0.52×0.39	0.12	N-90°-E	40ピットと重複	第269・270図
1	23	214-285・286	円形	0.36×0.36	0.32	N-0°-S		第269・270図
1	24	232-279-280	楕円形	0.42×0.35	0.16	N-0°-S		第269・270図
1	25	223-284	楕円形	0.23×0.18	0.08	N-19°-E	15溝と重複	第269・270図
1	26	223-284	楕円形	0.49×0.32	0.11	N-30°-E		第269・270図
1	27	221・222-284	不定形	0.48×0.32	0.46	N-10°-W	28ピットと重複	第269・270図
1	28	221-283・284	不定形	0.28×(0.18)	0.22	N-0°-S		第269・270図
1	29	221-281	不定形	0.26×(0.13)	0.16	N-23°-E		第269・270図
1	30	218-285	不定形	0.32×(0.31)	0.29	N-26°-E	33土と重複	第269・270図
1	31	217-287	不定形	0.25×(0.16)	0.17	N-22°-E		第269・270図
1	32	216-287	不定形	0.26×(0.12)	0.22	N-20°-E	36土と重複	第269・270図
1	33	216・217-286	楕円形	0.45×0.40	0.23	N-72°-W		第269・270図
1	34	216-286	方形	0.21×0.20	0.20	N-77°-W		第269・270図
1	35	216-286	不定形	0.36×(0.18)	0.20	N-34°-E		第269・270図
1	36	215・216-286	楕円形	0.30×0.25	0.16	N-16°-E		第269・270図
1	37	216-287	楕円形	0.42×0.25	0.12	N-70°-W		第269・270図
1	38	215・216-285	楕円形	0.41×0.28	0.29	N-10°-E		第269・270図
1	39	215-286	楕円形	0.30×0.25	0.22	N-70°-W		第269・270図
1	40	215-286	円形	0.19×0.15	0.12	N-47°-E	22ピットと重複	第269・270図
1	41	143・144-314・315	円形	0.55×0.53	0.23	N-60°-E		第269・270図
1	42	143-314・315	楕円形	0.51×(0.40)	0.22	N-14°-E		第269・270図
1	43	143-315	円形	0.24×0.24	0.10	N-0°-S		第269・270図
1	44	140-321	円形	0.40×(0.28)	0.16	N-22°-E		第269・270図
1	45	139-321	円形	0.36×0.33	0.28	N-21°-E		第269・270図
1	46	136・137-317	円形	0.21×0.21	0.09	N-0°-S		第269・270図
1	47	128・129-324・325	楕円形	0.45×0.26	0.09	N-10°-W		第269・270図
1	48	128・129-324・325	楕円形	0.52×0.27	0.34	N-80°-E		第269・270図
1	49	119・120-328	楕円形	0.31×0.26	0.25	N-28°-E	53土と重複	第269・270図
1	50	131-319・320	円形	0.30×0.28	0.39	N-70°-W		第269・270図

遺物観察表

10. 遺物観察表

関遺跡観察表

7区1号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第11図	1	土師器 杯	1/4 埋没土	□	11.3	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。	器面内外面は 摩滅。
第11図 PL. 108	2	土師器 杯	3/5 床面上35cm	□	11.3	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	雲母
第11図 PL. 108	3	土師器 杯	3/5 床面上7cm	□	11.2	高	3.1	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/赤褐	弱い外稜を有する。口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第11図 PL. 108	4	土師器 杯	3/4 床面上28cm	□	10.6	高	3.7	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	比較的シャープな外稜を有する。口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	雲母
第11図 PL. 108	5	土師器 杯	3/5 床面上32cm	□	10.8	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第11図	6	土師器 杯	1/3 埋没土	□	10.8	高	3.2	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	外稜は弱く底部は扁平。口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第11図 PL. 108	7	土師器 杯	7/8 床面上26cm	□	11.4	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	外稜は弱く、口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素 地。底部摩滅
第11図	8	土師器 杯	1/4 床面上41cm	□	13.8	高	4.3	細砂粒・石英/良好 /橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第11図	9	土師器 杯	口縁～体部 埋没土	□	11.8			細砂粒・角閃石/良 好/橙	外稜はシャープさに欠け口縁部中位に弱い段を有する。口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第11図 PL. 108	10	土師器 杯	1/2 埋没土	□	11.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面に煤付着
第11図 PL. 108	11	土師器 杯	4/5 床面上16cm	□	11.1	高	3.0	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	外稜は弱く扁平な底部を有する。口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第11図	12	土師器 杯	1/4 埋没土	□	11.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。全体にシャープな作り。	
第11図	13	土師器 杯	口縁～体部片 床面上31cm	□	13.8	高	3.4	細砂粒・角閃石/良 好/灰黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第11図	14	土師器 杯	口縁～体部片 床面上31cm	□	11.2			細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第11図 PL. 108	15	土師器 杯	3/4 床面上27cm	□	11.4	高	3.8	細砂粒/良好/明赤 褐	弱い外稜を有する。口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第11図 PL. 108	16	土師器 杯	3/4 床面上26cm	□	10.4	高	3.6	細砂粒・角閃石/良 好/灰黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で後、雑なへら磨き。	内面黒色処理 の可能性あり。
第11図	17	土師器 杯	1/4 床面上27cm	□	12.8			細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第11図 PL. 108	18	土師器 杯	3/4 床面上27cm	□	10.8	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	雲母。粉っぽ い素地
第11図	19	土師器 杯	口縁～体部 埋没土	□	12.8			細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は丁寧な撫で。	
第11図	20	土師器 杯	口縁～体部 埋没土	□	11.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第11図	21	土師器 杯	口縁～体部 床面上43cm	□	10.8			細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで間に調整不明瞭な部分が見られる。内面は撫で。	粉っぽい素地
第11図 PL. 108	22	土師器 杯	5/6 埋没土	□	8.5	高	3.4	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第11図	23	土師器 杯	口縁～体部 床面上27cm	□	15.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	雲母
第11図 PL. 108	24	土師器 高杯	杯部 床面上17cm	□	15.8			細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で、体部はへら削り。口縁部内面に弱い稜を有する。内面は黒色処理で、部分的に粗いへら磨きが観察される。	
第11図	25	土師器 鉢	口縁部片 床面上6cm	□	22.0			細砂粒・輝石/良好 /橙	口縁部を横撫で後、体部をへら削り。	内面は剥離。
第11図	26	土師器 台付鉢か	台部片 埋没土	脚 径	14.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	台付鉢又は台付甕の脚部と思われる。外面はへら撫で。内面は撫で。	内面に輪積み 痕あり。
第11図 PL. 108	27	須恵器 高杯	杯部3/4欠 床面上21cm	□ 脚	9.4 9.2	高	10.2	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/硬質/灰	ロクロ整形、回転右回り。杯部の体部と口縁部の間に凹線を巡らす。	
第11図 PL. 108	28	須恵器 高杯	脚部 床面上29cm					細砂粒/還元焰/硬 質/灰	ロクロ整形、回転方向不明。	断面に杯部接 合痕。脚部内 面下端に輪積 み痕
第11図 PL. 108	29	須恵器 蓋	1/2 床面上29cm	□	12.7	高	3.6	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/硬質/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部外面は回転へら削り。	
第11図 PL. 108	30	須恵器 蓋	3/4 床面上20cm	□	12.4	高	3.8	細砂粒/還元焰/硬 質/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部外面は回転へら削り。	
第11図	31	須恵器 蓋	1/3 埋没土	□	10.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転へら削り。	外面に自然釉
第11図	32	土師器 長胴甕	口縁～胴部片 床面上32cm	□	15.6			細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部を横撫で後、胴部を縦へら削り。内面は横へら撫で。	
第11図 PL. 108	33	土師器 甕	口縁～胴部1/4 床面上26cm	□	19.1			細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横のへら削り。内面は横のへら撫で。	肩部に輪積み 痕。口縁部の一 部に煤付着。
第11図	34	須恵器 甕	胴部片 床面上6cm					細砂粒/還元焰/硬 質/灰	胴部外面は平行叩き。内面は青海波文。	

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第12図 PL. 108	35	土師器 不明	不明 床面上17cm	口		高 12.8 12.1	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・石英/良好/ 橙	輪積みで円筒状に成形され上端の1/2が3cmほどL字型に切り欠かれている。切り欠きの上端は平坦に整形されている。外面は縦の撫で。内面は横の雑な撫でで輪積痕を残す。	
第12図 PL. 108	36	粘土塊	完形 カマド埋没土	長	5.7	幅厚 5.5 5.0	細砂粒/不良/にぶ い黄橙	不整形の粘土塊でひび割れが顕著。表面の一部に植物の茎の圧痕が見られる。	

7区2号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第14図 PL. 109	1	土師器 杯	完形 床面上15cm	口	12.2	高 4.3	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	外稜は弱く、口縁部は横撫で。内面上端に凹線が巡る。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第14図	2	土師器 杯	口縁～体部 埋没土	口	13.6		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は丁寧な撫で。	
第14図	3	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口	15.0		細砂粒・角閃石/良 好/褐灰	外稜はシャープで横撫で、。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で後ヘラ磨き。	
第14図	4	須恵器 甕	口縁～肩部 床面上13cm	口	22.0		細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面の叩き不明、内面は青海波文。	外面の自然釉 顕著。第21図 130と同一か
第14図 PL. 109	5	土師器 小型甕	2/3 床面上2cm	口底	17.7 5.6	高 18.9	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。胴部は縦～斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	胴部外面中位 に被熱痕跡
第14図 PL. 109	6	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上11cm	口	19.6		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	胴部外面に粘 土付着
第14図 PL. 109	7	土師器 甕	口縁～胴部片 掘方土	口	21.4		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	口縁部内外面 に輪積み痕
第14図 PL. 109	8	土師器 甕	底部～胴部片 掘方土	底	4.7		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	胴部外面は縦から斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。底部はヘラ削り。	
第14図	9	土師器 甕	口縁のみ 掘方土	口	20.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	雲母
第14図	10	土師器 甕	体部～底部 床面上15cm・掘方土	底	7.9		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。下半に接合痕。底部ヘラ削り。	雲母

7区3号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第17図 PL. 109	1	土師器 杯	3/4 床面上6cm	口	12.2	高 4.8	細砂粒・小礫/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面はヘラ撫で。	内面に煤付着
第17図 PL. 109	2	土師器 杯	2/3 埋没土	口	10.8		細砂粒・角閃石/良 好/灰黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面～ 内面に漆塗り か
第17図	3	土師器 杯	1/3 埋没土	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第17図	4	土師器 杯	1/2 埋没土	口	13.8		細砂粒・軽石/良好/ にぶい黄褐	口縁部は横撫で、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面～ 内面に漆塗り の可能性あり
第17図	5	土師器 杯	1/3 埋没土	口	13.0		細砂粒・粗砂粒/良 好/灰黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面吸炭
第17図	6	土師器 杯	1/4 埋没土	口	12.8		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第17図	7	土師器 杯	1/3 床面上33cm	口	13.6		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい黄 褐	口縁部は横撫で、外面中位に段を有し、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面～ 内面に漆塗り か
第17図	8	土師器 杯	2/3 埋没土	口	12.6	高 4.3	細砂粒・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で、外面中位に段を有し、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第17図 PL. 109	9	土師器 杯	3/4 床面上61cm	口	12.8	高 4.6	細砂粒・角閃石/良 好/黒褐	口縁部は横撫で、外面中位に段を有する。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面漆塗り
第17図 PL. 109	10	土師器 杯	1/2 埋没土	口	13.4	高 3.7	細砂粒・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で、外面中位に浅い凹線を巡らせる。底部は手持ちヘラ削り。	
第17図	11	土師器 杯	1/3 床面上9cm	口	15.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第17図	12	土師器 杯	1/4 床面上10cm	口	15.8		細砂粒・軽石・角閃 石/良好/橙	口縁部は横撫で、外面中位に段を有する。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第17図	13	土師器 杯	1/3 埋没土	口	13.8	高 3.7	細砂粒・軽石・角閃 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第17図 PL. 109	14	土師器 杯	1/2 床面上11cm	口	13.5	高 3.7	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面～ 内面に漆塗り か。胎土・色調 は異質
第17図	15	土師器 杯	口縁～底部片 床面上20cm	口	12.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面の剝離顕 著
第17図	16	土師器 杯	1/2 埋没土	口	15.2		細砂粒・角閃石/良 好/黒褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面～ 内面に漆塗り か
第17図	17	土師器 杯	1/3 埋没土	口	13.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	胎土、色調異 質
第17図 PL. 109	18	土師器 杯	3/4 埋没土	口	14.6	高 5.6	細砂粒・角閃石/良 好/灰黄褐	口縁部は横撫で。体部外面～底部は手持ちヘラ削り。内面は丁寧な撫で後、放射状ヘラ磨き。	体部外面の一 部に被熱か

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第17図	19	土師器 杯	1/3 床面上10cm	□ 16.4		細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で後、放射状へら磨き。	
第17図	20	土師器 杯	1/2 埋没土	□ 10.0	高 3.4	細砂粒・軽石/良好/褐灰	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で後、へら磨き。	内面吸炭
第17図	21	土師器 杯	1/4 埋没土	□ 11.0	高 3.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第18図	22	土師器 杯	1/3 埋没土	□ 12.4		細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図 PL. 109	23	土師器 高杯	2/3 床面上5cm	□ 脚 15.0	高 8.3	細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部～脚部外面はへら削り。内面は撫で。	内外面の一部吸炭
第18図	24	土師器 高杯	杯部1/3 床面上5cm	□ 14.0		細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部はへら削り。内面は撫で。	口縁部～体部の一部吸炭
第18図 PL. 109	25	土師器 杯	口縁一部欠 床面上19cm	□ 18.5	高 7.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図 PL. 109	26	土師器 鉢	1/2 床面上5cm	□ 18.8	高 7.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図	27	土師器 鉢	口縁～体部片 床面上25cm	□ 17.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図 PL. 109	28	土師器 杯	1/3 埋没土	□ 16.4	高 6.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。一部に煤付着
第18図	29	土師器 鉢	口縁～体部片 床面上19cm	□ 22.6		細砂粒・角閃石・軽石/良好/灰黄褐	口縁部は横撫で。体部外面はへら削り。内面は撫で。	口縁部外面に輪積み痕
第18図 PL. 109	30	土師器 鉢	1/3 埋没土	□ 21.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図	31	土師器 鉢	口縁～体部片 床面上24cm	□ 35.8		細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。体部外面は斜めのへら削り、内面はへら撫で。	口縁部外面に輪積み痕
第18図	32	土師器 鉢	口縁～体部片 埋没土	□ 17.6		細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図 PL. 109	33	土師器 鉢	2/3 床面上37cm	□ 19.8		細砂粒・角閃石・軽石/良好/灰黄褐	口縁部は横撫で、1条の凹線を巡らせる。体部～底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面に漆塗りか
第18図 PL. 109	34	土師器 鉢	1/3 床面上8cm	□ 12.8	高 7.8	細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横撫で、外面中位に段を有する。体部～底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	口縁部外面～内面漆塗りか
第18図	35	土師器 杯	1/2 床面上38cm	□ 9.8		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面赤彩か
第18図	36	土師器 杯	1/3 埋没土	□ 9.8	高 3.5	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	焼き歪みが顕著
第18図 PL. 110	37	土師器 杯	3/4 埋没土	□ 10.8	高 3.7	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図 PL. 110	38	土師器 杯	3/4 床面上20cm	□ 11.5	高 4.1	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図 PL. 110	39	土師器 杯	3/4 床面上35cm	□ 11.5	高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図 PL. 110	40	土師器 杯	3/4 埋没土	□ 10.4	高 3.3	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図	41	土師器 杯	1/4 埋没土	□ 10.8	高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器胎及び器面の一部が還元ぎみ
第18図	42	土師器 杯	1/4 床面上27cm	□ 11.8	高 4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面摩滅、粉っぽい素地
第18図	43	土師器 杯	1/3 埋没土	□ 10.8	高 3.5	細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第18図	44	土師器 杯	1/3 埋没土	□ 13.0	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図	45	土師器 杯	1/3 埋没土	□ 11.8		細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第18図	46	土師器 杯	1/2 埋没土	□ 13.0	高 3.4	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図	47	土師器 杯	1/3 床面上6cm	□ 11.2	高 3.4	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図 PL. 110	48	土師器 杯	口縁一部欠 床面上26cm	□ 12.4	高 4.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第18図	49	土師器 杯	1/3 埋没土	□ 13.0	高 3.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第18図 PL. 110	50	土師器 杯	口縁一部欠 床面上43cm	□ 11.1	高 3.4	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面摩滅、粉っぽい素地
第19図 PL. 110	51	土師器 杯	口縁一部欠 埋没土	□ 10.6	高 3.3	細砂粒・雲母/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第19図 PL. 110	52	土師器 杯	口縁一部欠 埋没土	□ 11.9	高 4.4	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図 PL. 110	53	土師器 杯	口縁一部欠 埋没土	□ 11.6	高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部に黒斑・粉っぽい素地
第19図 PL. 110	54	土師器 杯	3/4 床面上22cm	□ 10.8	高 3.2	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図 PL. 110	55	土師器 杯	1/2 床面上55cm	□ 10.8	高 3.3	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第19図 PL. 110	56	土師器 杯	2/3 床面上38cm	□	11.0	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面還元ぎ み・粉っぽい 素地
第19図	57	土師器 杯	1/2 埋没土	□	12.2	高 4.1	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	58	土師器 杯	1/3 床面上41cm	□	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	59	土師器 杯	1/4 床面上32cm	□	12.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面摩滅、 粉っぽい素地
第19図	60	土師器 杯	口縁～底部片 床面上5cm	□	11.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	61	土師器 杯	1/4 床面上30cm	□	11.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面漆塗りか
第19図	62	土師器 杯	1/3 埋没土	□	11.8		細砂粒・雲母細粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第19図	63	土師器 杯	1/4 床面上2cm	□	10.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	64	土師器 杯	1/3 埋没土	□	12.8	高 4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	65	土師器 杯	1/3 埋没土	□	12.8	高 4.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅 粉っぽい素地
第19図 PL. 110	66	土師器 杯	3/4 床面上61cm	□	11.6	高 4.2	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に凹線を巡らせる。底部は手 持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面～ 内面に漆塗り か。胎土・色調 は異質
第19図	67	土師器 杯	1/4 埋没土	□	16.2		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	68	土師器 杯	1/3 埋没土	□	11.8	高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	69	土師器 杯	1/2 埋没土	□	10.6	高 4.2	細砂粒・軽石/良好 /灰黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面は漆塗 りか
第19図	70	土師器 杯	2/3 床面上32cm	□	11.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑、 粉っぽい素地
第19図	71	土師器 杯	1/2 床面上27cm	□	12.2	高 4.2	細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面～ 内面に漆塗 りか
第19図	72	土師器 杯	1/2 床面上23cm	□	10.6	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	73	土師器 杯	1/3 埋没土	□	13.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。底部 は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部～口縁部 に黒斑
第19図	74	土師器 杯	1/3 床面上12cm	□	11.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅 粉っぽい素地
第19図	75	土師器 杯	1/3 床面上37cm	□	11.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅 粉っぽい素地
第19図	76	土師器 杯	1/2 床面上50cm	□	10.4	高 3.5	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第19図 PL. 110	77	土師器 杯	3/4 埋没土	□	10.3	高 3.5	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素 地・内外面摩 滅
第19図 PL. 110	78	土師器 杯	2/3 床面上42cm	□	11.0	高 3.7	細砂粒・雲母/良好 /橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素 地・内外面摩 滅
第19図 PL. 110	79	土師器 杯	3/4 床面上13cm	□	11.2	高 3.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図 PL. 110	80	土師器 杯	完形 床面上41cm	□	10.4	高 3.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	81	土師器 杯	3/4 床面上40cm	□	11.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	82	土師器 杯	1/3 埋没土	□	10.8		細砂粒・軽石/良好 /明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第19図	83	土師器 杯	1/3 埋没土	□	11.0		細砂粒・輝石/良好 /橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。内面 は撫で。	
第19図	84	土師器 杯	1/2 埋没土	□	11.8	高 3.4	細砂粒・軽石/良好 /にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第19図 PL. 110	85	土師器 杯	3/4 埋没土	□	14.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第19図 PL. 110	86	土師器 杯	2/3 床面上10cm	□	11.8	高 4.4	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第19図	87	土師器 高杯	杯部片 埋没土	□	16.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図 PL. 110	88	土師器 高杯	杯部2/3 床面上2cm	□	16.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地 脚部欠損
第19図	89	土師器 高杯	脚部1/3 埋没土	脚 径	13.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	脚部外面は縦の撫で。内面は撫で。	
第19図	90	土師器 高杯	脚部1/4 カマド埋没土	脚 径	14.8		細砂粒/良好/橙	脚部外面は縦の撫で。内面は撫で。	粉っぽい素地

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第19図 PL. 110	91	土師器 高杯	脚部 床面上2cm	脚 径	18.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい黄橙	脚部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
第19図	92	土師器 高杯	脚部1/3 埋没土	脚 径	14.8		細砂粒/良好/明黄 褐	脚部外面は縦の撫で。内面は撫で。	粉っぽい素地
第19図	93	土師器 高杯	脚部片 カマド埋没土	脚 径	15.4		細砂粒・雲母/良好/ にぶい黄橙	脚部外面は縦の撫で。内面も撫で。	粉っぽい素地
第19図 PL. 110	94	土師器 高杯か	破片 埋没土				細砂粒・軽石・角閃 石/良好/明赤褐	脚部外面は縦のヘラ削り。杯部内面は撫で。	杯部内面に木 葉痕
第20図	95	土師器 鉢	1/4 床面上12cm	口	19.7		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で、中位に浅い凹線を1条巡らせる。体部外 面はヘラ削り。内面は撫で。	内外面わずかに 摩滅
第20図 PL. 110	96	土師器 杯	1/4 床面上32cm	口	11.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。底部 は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面～ 内面に漆塗り か
第20図 PL. 110	97	土師器 鉢	3/4 床面上32cm	口	14.5	高 10.4	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。体部～底部外面は手持ちヘラ削り。内面は 撫で。	口縁部内外面 に漆塗りか
第20図	98	土師器 鉢	1/4 埋没土	口	14.0		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第20図 PL. 110	99	土師器 鉢	1/3 埋没土	口	14.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	体部外面に輪 積み痕
第20図	100	土師器 小型鉢	1/3 埋没土	口	9.0	高 5.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部～底部はヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第20図 PL. 110	101	土師器 鉢	1/4 埋没土	口	9.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちヘラ削り。 内面は撫で。	粉っぽい素地
第20図 PL. 110	102	土師器 鉢	1/2 床面上25cm	口	12.6	高 12.9	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。胴部 内面は撫で。	胴部外面は剥 離と摩滅顕著
第20図 PL. 110	103	土師器 鉢	2/3 床面上31cm	口	22.9		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で、浅い凹線を2条巡らせる。胴部外面は横 のヘラ削り。内面はヘラ撫で。	
第20図 PL. 111	104	土師器 台付鉢	1/3 床面上12cm	口	14.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい赤褐	口縁部は横撫で、体部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫 で。脚部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
第20図	105	土師器 台付甕	底部～脚部 カマド掘方土	脚 径	11.2		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 明赤褐	胴部外面はヘラ削り。脚部外面は縦のヘラ削り。内面は横の ヘラ削り。	
第20図	106	土師器 台付甕	底部～脚部 埋没土	脚 径	9.5		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 赤褐	胴部～脚部外面はヘラ削り。脚部内面は撫で。	
第20図	107	土師器 台付甕	底部～脚部 床面上27cm	脚 径	11.2		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	脚部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
第20図	108	土師器 台付甕	底部～脚部 埋没土	脚 径	11.2		細砂粒・石英/良好/ 赤褐	脚部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
第20図 PL. 111	109	須恵器 杯	1/3 埋没土	口	13.6		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちヘラ削り。	蓋の可能性あり・内面に自然 釉
第20図 PL. 111	110	須恵器 蓋	口縁一部欠 床面上20cm	口	10.4	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り。	外面に自然釉
第20図 PL. 111	111	須恵器 蓋	3/4 床面上27cm	口	10.0	高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は手持ちヘラ削り。	
第20図 PL. 111	112	須恵器 蓋	2/3 埋没土	口	10.4	高 3.2	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り。	
第20図 PL. 111	113	須恵器 蓋	1/2 床面上48cm	口	9.2	高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り。	外面に自然釉
第20図	114	須恵器 蓋	1/3 埋没土	口	10.2		細砂粒・軽石/還元 焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。天井部外面は手持ちヘラ削り。	
第20図	115	須恵器 蓋	1/4 埋没土	口	13.0	高 3.7	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り。	内面に自然釉 と重ね焼き痕
第20図	116	須恵器 蓋	口縁～体部片 埋没土	口	11.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。天井部外面は手持ちヘラ削り。	
第20図	117	須恵器 蓋	1/2 埋没土	口	10.4		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。口縁部と天井部の境に浅い凹 線を巡らせる。天井部外面は回転ヘラ削り。	外面に自然釉
第20図	118	須恵器 蓋	口縁～体部片 埋没土	口	11.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)。天井部外面は手持ちヘラ削り。	
第20図	119	須恵器 蓋	口縁～体部片 埋没土	口	11.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り。	
第20図	120	須恵器 蓋	1/4 埋没土	口	13.0		細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り。	
第20図 PL. 111	121	須恵器 蓋	3/4 埋没土	口	11.8	高 摘 1.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り後、小振り の環状摘み貼付。	
第21図 PL. 111	122	須恵器 高杯	1/2 床面上17cm	口 脚	15.2 15.0	高 18.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。杯底部は回転ヘラ削り後、脚を貼付。 脚は長脚で2段の3方透かし。	脚端部に歪み 顕著
第21図	123	須恵器 高杯	杯部 埋没土	口	13.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。口縁部と底部との境に明瞭な段を有 する。底部は回転ヘラ削り。	
第21図 PL. 111	124	須恵器 高杯	脚部片 床面上23cm	脚 径	11.6		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。脚端部上面に浅い凹線を巡らせる。	
第21図	125	須恵器 長頸壺	頸部 埋没土				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。頸部に2条の凹線を巡らせる。	内外面に自然 釉

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第21図 PL. 111	126	須恵器 壺	3/4 床面上16cm	口 9.0	脚 3.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。脚部は底部周辺を回転ヘラ削り後の 貼り付け。肩部にクシ状の工具の刺突と凹線を巡らす。	
第21図	127	須恵器 壺	口縁片 埋没土	口 8.4		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。	外面に自然釉 顕著
第21図	128	須恵器 甕	口縁片 埋没土			細砂粒/還元焰/灰	口縁部外面に5本単位の波状文及び2条の沈線を巡らせる。	
第21図	129	須恵器 甕	頸部～胴部 床面上7cm			細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き、内面は当て具素文。	外面に自然 釉。
第21図	130	須恵器 甕	胴部片 床面上9cm			細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	叩き成形。平行叩き、内面は青海波文。	外面に自然 釉。第14図4と 同一か
第21図 PL. 111	131	土師器 小型甕	1/2 床面上21cm	口 7.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面はヘラ撫 で。	粉っぽい素地
第21図 PL. 111	132	土師器 小型甕	口縁～胴部片 床面上22cm	口 8.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面はヘラ撫 で。	粉っぽい素地
第21図 PL. 111	133	土師器 小型甕	1/2 カマド掘方土	口 12.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で、外面中位と口唇部内面に浅い凹線を巡 らせる。胴部外面はヘラ削り。内面は撫で。	口縁部内面に 輪積み痕
第21図 PL. 111	134	土師器 小型甕	1/2 床面上11cm	口 14.8		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で、外面に2段の段を有する。胴部外面は横 のヘラ削り。内面はヘラ撫で。	
第21図 PL. 111	135	土師器 甕	2/3 床面上16cm	口 15.6	高 23.3	細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。底部ヘラ削 り。内面は撫で。	器面摩滅
第21図	136	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上7cm	口 17.6		細砂粒・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で。	外面の摩滅顕 著
第22図 PL. 111	137	土師器 甕	3/4 床面上16cm	口 21.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で、口縁部内面に凹線を巡らせる。胴部外面 は縦のヘラ削り、内面は撫で。	胴部内面下位 に接合痕
第22図	138	土師器 甕	1/3 カマド掘方土	口 11.2		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め～縦のヘラ削り、内面は撫 で。	胴部外面剥 離。内面に接 合痕
第22図	139	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上10cm	口 21.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で、外面中位に段を有する。胴部外面は縦の ヘラ削り。内面は斜めのヘラ撫で。	
第22図	140	土師器 甕	口縁～胴部片 カマド掘方土	口 21.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/浅黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘ ラ撫で。	
第22図	141	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上6cm	口 20.6		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘ ラ撫で。	
第22図	142	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上21cm	口 20.6		細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
第22図	143	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上31cm	口 23.4		細砂粒・粗砂粒・軽 石・石英/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面はヘラ撫 で。	
第22図	144	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上1cm	口 20.2		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。	
第22図	145	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上35cm	口 20.4		細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/灰褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面はヘラ撫 で。	胴部外面に粘 土付着
第22図	146	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口 23.2		細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
第22図	147	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上3cm	口 20.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘ ラ撫で。	
第22図	148	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口 23.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
第22図	149	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土 カマド埋没土	口 20.6		細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面に 輪積み痕。内 外面摩滅
第22図 PL. 112	150	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口 21.6		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は斜めのヘ ラ撫で。	
第22図	151	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上15cm	口 26.4		細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘ ラ撫で。	
第22図	152	土師器 甕	1/4 床面上12cm			細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	口縁部外面に 煤付着・胴部 下端摩滅
第22図	153	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口 21.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 灰褐	口縁部は横撫で。胴部内面はヘラ撫で。	口縁部～胴部 外面のハゼ顕 著
第23図 PL. 112	154	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上7cm	口 20.8		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面上位は縦のヘラ削り。内面は横のヘ ラ撫で。	胴部外面のハ ゼ顕著
第23図	155	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上30cm	口 21.6		細砂粒・角閃石・石 英/良好/褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面はヘラ撫 で。	胴部外面は摩 滅
第23図	156	土師器 甕	口縁～胴部 床面上19cm	口 15.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で、中位に段を有する。胴部外面は斜めのヘ ラ削り、内面はヘラ撫で。	
第23図	157	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上18cm	口 22.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、口縁部外面に2段、内面に1段の段を有す る。胴部外面ヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第23図	158	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	20.4		細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。
第23図	159	土師器 甕	口縁～胴部 床面上39cm	口	19.6		細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。
第23図	160	土師器 甕	口縁～胴部 床面上3cm	口	22.8		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面はヘラ削り、内面はヘラ撫で。
第23図	161	土師器 甕	口縁～胴部 カマド掘方土	口	24.8		細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で、口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラ撫で。
第23図	162	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	19.8		細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で、外面中位及び口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。
第23図	163	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上34cm	口	17.8		細砂粒・粗砂粒・軽石・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面はヘラ撫で。
第23図	164	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上12cm	口	22.6		細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面はヘラ撫で。
第23図 PL. 112	165	土師器 甕	口縁～胴部 床面上5cm	口	21.4		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、外面中位と口唇部内面に浅い凹線を巡らせる。胴部外面はヘラ削り。内面は撫で。
第23図	166	土師器 甕	口縁～胴部 埋没土	口	20.2		細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。
第23図	167	土師器 甕	底部片 床面上6cm	底	9.0		細砂粒・粗砂粒・軽石・角閃石/良好/にぶい赤褐	胴部外面及び底部はヘラ削り。内面は撫で。
第23図 PL. 112	168	形象埴輪か	破片 埋没土				細砂粒/良好/明黄褐	器面撫で。
第24図 PL. 112	169	埴輪 器種不明	器財埴輪の一部か 床面上1cm				黒色鈹物粒・白色鈹物粒(軽石)・雲母片/良好	本体から延びる板状の大型破片。図右辺には端部が見られヘラ状工具により整えられている。一部布目の押圧が認められる。一端に本体との接合状況が観察できる。板状粘土に表裏両側から粘土を貼り足して補強を行っている接合部分の反対側の残存部は直角に近い角度で屈曲すると考えられる。外面は丁寧に施されたハケ目を残す本体との接合部分寄りには撫でを施す。内面はハケ目の上に縦あるいは横方向の撫でを重ねる。粘土紐の接合痕は消しきれずに一部が残存する。
第24図	170	形象埴輪	破片(屋根の一部) 床面上36cm				白色鈹物・黒色鈹物・輝石・雲母/良好/還元ざみ	左端は短く屈曲することから破風と考えられる。先端は薄くなり包まれたように反り返る。内外面とも外辺寄りは縦方向の撫で。それ以外は縦方向のハケ目。
第24図	171	埴輪 器種不明	器財埴輪の一部か 埋没土				白色鈹物・黒色鈹物・雲母/良好	本体から剥離した部材と考えられ、断面図下端に本体から剥離痕が見られる。第24図169と同様の破片で粘土板にも一枚補強の粘土板が添えられている。内外面とも撫で。
第25図	172	形象埴輪	破片 埋没土				白色軽石(凝固岩)・黒色鈹物粒/良好	板状の破片であるが、わずかに外彎する。一部端部が見られる。外面は撫でを施すが端部寄りにはヘラ削りが見られる。下位に成形時の板目痕が残る。内面は丁寧に撫でを施す。
第25図	173	埴輪 器種不明	器財埴輪の一部か 埋没土				白色鈹物・黒色鈹物・雲母/良好	図下端に端部を残すが、形状は歪んでいる。外面は端部に撫で。その他は横方向のハケ目。内面は端部に撫で。その他は斜め方向のハケ目。
第25図	174	埴輪 器種不明	板状の破片(器財埴輪の一部か) 床面上21cm				白色鈹物・黒色鈹物・雲母/良好	外面はハケ目を撫で消す。裏面剥離。
第25図	175	埴輪 器種不明	隅部を残す・板状の破片(器財埴輪の一部か) 床面上19cm				白色鈹物・黒色鈹物・雲母/不良	外面はハケメを施した後、撫で消している。端部の一边は撫で。もう一边はヘラ削り。内面は撫でを施す。わずかにハケ目を残す。黒色を呈する部分有り。
第25図 PL. 113	176	土製品 平瓦	破片 埋没土				細砂粒・粗砂粒・軽石/酸化焰/橙	表裏面は共に雑な撫で。端部は面取り一枚作りか。
第25図 PL. 112	177	土師器 円盤状土製品	円盤部 埋没土				細砂粒・粗砂粒・石英/良好/橙	甕の破片の縁辺を打ち砕いたものか
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴		備考
第25図 PL. 112	178	鉄製品 刀子	埋没土	長厚	10.1 0.28	幅重	1.4 15.1	茎の端部および刃先を欠く刀子で棟および刃側ともに関を有する。柄の木質の残りは良好で目釘も残存する。柄の端部は関部分を覆う様に半円型に残存する。
第25図 PL. 112	179	鉄製品 鏃	床面上20cm	長厚	13.8 0.4	幅重	0.75 18.2	錆化顕著でメタルはほとんど残っていない。泥を巻き込んで錆化し本体形状は不明瞭であるが、X線写真から柳葉型の長頸鏃で、長いのかつぎを持つが棘は見られない茎の端部は欠損する。
第25図 PL. 112	180	鉄製品 釘か	埋没土	長厚	3.2 0.35	幅重	0.35 1.5	泥・砂を巻き込んで錆化本体は空洞化する。細かい形状は不明瞭であるが釘の破片とみられる。
PL. 113	181	粘土 被熱痕のある粘土塊	床面上4cm	長厚	5.3 2.8	幅重	6.2 58.07	スサ、植物痕を多く含む、表面滓化。
PL. 113	182	粘土 被熱痕のある粘土塊	埋没土	長厚	細片多数で測定不能	重	298.3	スサ、直径1～2mm程の礫を含む、被熱痕あり。
PL. 113	183	粘土 被熱痕のある粘土塊	埋没土	長厚	9.0 2.7	幅重	6.05 4.4	スサ、直径1～2mm程の礫を含む、被熱痕あり。

7区4号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第27図	1	土師器 杯	1/2 埋没土	□	11.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。外稜はシャープな作り。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	雲母
第27図	2	土師器 杯	2/5 埋没土	□	10.1	高 2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第27図 PL. 113	3	土師器 杯	4/5 床面上29cm	□	11.8	高 3.4	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部外面に黒斑
第27図 PL. 113	4	須恵器 蓋	摘み欠 床面上18cm	□	10.7		細砂粒・石英/酸化 焰/良好/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。天井部外面は手持ちヘラ削り。摘みは欠損するため不明。	内面の杯の合わせ部は橙色
第27図 PL. 114	5	土師器 甕	ほぼ完形 カマド掘方土	□ 底	21.5 4.5	高 32.5	細砂粒・粗砂粒・石 英/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。底部はヘラ削り。	胴部外面中に被熱痕跡と剝離。粘土の付着
第27図 PL. 114	6	土師器 甕	ほぼ完形 床面上6cm	□	22.1 4.8	高 35.6	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で、胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。底部はヘラ削り。	胴部外面中に粘土付着
第27図	7	土師器 甕	口縁片 床面上28cm・ 掘方土	□	22.5		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で、胴部外面上半は横から斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
第27図	8	土師器 甕	口縁～胴上位 カマド埋没土	□	21.5		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	口縁部横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	雲母

7区5号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第28図 PL. 114	1	土師器 杯	2/3 埋没土	□	11.0	高 2.8	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部を横撫で後、底部手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第28図	2	土師器 杯	口縁～体部 埋没土	□	11.0		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	雲母・粉っぽい素地
第28図	3	土師器 杯	口縁～体部 埋没土	□	16.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は短く「く」字状に内屈する。口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第28図	4	土師器 甕	口縁～胴部 埋没土	□	20.6		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面上半は斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	

7区8号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第30図 PL. 114	1	土師器 杯	完形 床面直上	□	10.9	高 3.6	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。外稜はシャープではない。内面は撫で。	粉っぽい素地
第30図 PL. 114	2	土師器 杯	5/6 床面直上	□	11.0	高 3.4	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	比較的シャープな外稜で口縁部外面に段を有する。口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	雲母・粉っぽい素地
第30図	3	土師器 杯	口縁～底部 床面上5cm	□	11.8	高 3.6	細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	弱い外稜を有し、口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	雲母・粉っぽい素地
第30図	4	土師器 杯	1/4 埋没土	□	11.4		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部手持ちヘラ削りで弱い外稜を有する。内面は撫で。	粉っぽい素地
第30図	5	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	□	11.6		細砂粒/良好/淡黄	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。	内面は剝離。
第30図	6	土師器 杯	口縁～体部 埋没土	□	10.3		細砂粒・角閃石/良 好/橙	外稜は弱く、口縁部内面上端に凹線を巡らせる。口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第30図	7	土師器 杯	口縁～体部 埋没土	□	16.4		細砂粒/良好/橙	口縁部を横撫で後、底部は手持ちヘラ削り。	
第30図	8	土師器 鉢	口縁片 床面上26cm	□	14.2		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部を横撫で後、体部は横ヘラ削り。内面はヘラ撫で。	
第30図	9	土師器 甕	口縁片 埋没土	□	17.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	雲母・口唇部剝離

7区9号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第33図 PL. 114	1	土師器 杯	ほぼ完形 床面上16cm	□	11.6	高 3.7	細砂粒/良好/橙	弱い外稜を有し、口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	雲母・粉っぽい素地
第33図 PL. 114	2	土師器 杯	4/5 床面上1cm	□	11.5	高 4.1	細砂粒・輝石/良好 /灰黄褐	2段の外稜を有し口縁部は横撫で内面に凹線が巡る。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面から内面に漆塗り
第33図 PL. 114	3	土師器 杯	4/5 床面上11cm・ 掘方土	□	12.0	高 4.5	細砂粒・角閃石/良 好/灰白	口縁部は横撫で内面上端に凹線が巡る。底部は手持ちヘラ削りで、内面は撫で後に粗いミガキを入れたものと思われる、弱い光沢がある。	内面黒色処理の可能性が ある。
第33図 PL. 114	4	土師器 杯	1/2 掘方土	□	12.6	高 4.4	細砂粒・角閃石/良 好/褐灰	外稜シャープさは無く口縁部外面に1カ所段を有し、内面上端に凹線を巡らす。口縁部は横撫で底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面から内面に漆塗り
第33図 PL. 114	5	土師器 杯	1/2 掘方土	□	12.8	高 3.8	細砂粒/良好/橙	外稜はあまりシャープでなく底部は扁平。口縁部は横撫で底部手持ちヘラ削り。内面は撫で口唇部に凹線を巡らし口縁部の内面立ち上がり部に強い撫でを施す。	
第33図	6	土師器 杯	口縁～体部 床面上29cm	□	13.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	外稜はシャープではなく底部は扁平。口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で口唇部内面に凹線。	口縁部に歪み
第33図	7	土師器 杯	口縁～体部 掘方土	□	12.8		細砂粒・角閃石/良 好/灰黄褐	口縁部は横撫で。底部手持ちヘラ削り。内面は撫で口唇部内面は凹線状。	口縁部外面及び内面漆塗り
第33図 PL. 114	8	土師器 杯	2/3 掘方土	□	12.7	高 4.3	細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	外稜は弱く口縁部外面に2カ所の段を有する、口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で	

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第33図 PL. 114	9	土師器 杯	口縁一部欠 掘方土	口	12.6	高 4.6	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	比較的強い外稜と口縁部中程にシャープな段を有する。口 縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面から 内面に漆塗り
第33図 PL. 114	10	土師器 杯	完形 床面上10cm	口	11.0	高 4.4	細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	外稜は沈線を巡らせて描出している。口縁部は横撫で。底部 は扁平で手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部内外面 の一部吸炭
第33図	11	土師器 小型甕	口縁～胴部 床面上10cm	口	15.6		細砂粒・粗砂粒/角 閃石/良好/にぶい 赤褐	口縁部は横撫で内面に凹線が巡る。胴部外面上半は横～ 斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
第33図	12	土師器 小型甕	口縁部 埋没土	口	12.2		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 赤褐	口縁部は横撫で。弱い稜を有する。	
第33図 PL. 114	13	土師器 甕	口縁部～胴部片 床面上1cm 掘方土	口	19.4		細砂粒・粗砂粒/角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で平行沈線が巡り、口唇部内面に凹線。胴部 は縦のヘラ削り。内面は斜めのヘラ撫で。	胴部外面中位 にわずかに粘 土付着
第33図	14	土師器 甕	口縁～胴部 床面上4cm	口	22.2		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部外面は斜めのヘラ削り。内面横のヘラ 撫で。	
第33図	15	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上10cm	口	19.1		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫でで3カ所弱い段を有する。胴部外面は縦のヘ ラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
第33図	16	土師器 甕	口縁部片 床面上10cm 掘方土	口	23.0		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で後、胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横の撫 で。	
第33図	17	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土・掘方土	口	20.6		細砂粒・粗砂粒/角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫でで2カ所段を有する。胴部外面は横のヘラ削 り。内面はヘラ撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第33図 PL. 114	18	磨石? 扁平楕円礫	床面上1cm	長 厚	14.6 3.1	幅 重	17.4 941.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く光沢を帯びる。線条痕等の積極的な摩耗痕 は見られないが、手ズレ等によるものかもしれない。

7区10号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第35図 PL. 114	1	土師器 杯	口縁一部欠 床面上8cm	口	10.6	高 3.3	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	雲母
第35図 PL. 114	2	土師器 杯	4/5 床面上13cm	口	12.6	高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	雲母・粉っぽい 素地
第35図 PL. 114	3	土師器 杯	完形 床面上48cm	口	10.5	高 3.2	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第35図	4	土師器 杯	2/3 床面上27cm	口	10.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第35図 PL. 114	5	土師器 杯	完形 床面上12cm	口	11.6	高 3.8	細砂粒・粗砂粒/明 赤褐	口縁部は横撫で強く内屈する。底部手持ちヘラ削り。	雲母・内外面 共に器面のハ ゼ顕著。
第35図 PL. 115	6	土師器 杯	2/3 埋没土	口	10.0	高 2.2	細砂粒・輝石/良好 /明赤褐	口縁部は横撫で、底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	雲母
第35図 PL. 115	7	土師器 高杯	底部～脚部 掘方土	脚 径	13.2		細砂粒・角閃石/良 好/浅黄橙	杯部を欠損する。脚端部は横撫で。外面は縦のヘラ撫で。内 面は斜めのヘラ削り。	
第35図 PL. 115	8	土師器 鉢	3/4 床面上64cm	口	19.7	高 7.2	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで間に調整不明瞭 な部分が見られる。内面は撫で。	粉っぽい素地
第35図	9	須恵器 蓋	口縁片 埋没土	口	16.4		細砂粒/還元焰/硬 質/灰	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第35図	10	須恵器 横瓶	胴部片 埋没土				細砂粒・粗砂粒/還 元焰/硬質/灰白	ロクロ整形、回転右回り。胴部外面下半は回転ヘラ削り。	内面に自然釉 顕著、外面に 歪み。
第35図	11	須恵器 甕	口縁片 埋没土	口	21.8		細砂粒/還元焰/硬 質/灰褐	ロクロ整形、口縁部外面は7本単位のクシ描き波状文を2段 施す。	
第35図	12	土師器 小型甕	口縁～胴部 埋没土	口	14.6		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で、口唇部は内面肥厚。胴部外面は縦ハケ(8 本)で肩部は横に撫でを施しているものと思われる。内面は 横の木口状工具によるヘラ撫で。	
第35図	13	土師器 甕	口縁片 埋没土	口	21.9		細砂粒・粗砂粒・石 英/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ 撫で。	
第35図	14	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上21cm	口	24.2		細砂粒・粗砂粒・石 英/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で、胴部は縦のヘラ削り。内面は斜めのヘラ撫 で。	
第35図	15	土師器 甕	口縁～胴部 床面上12cm	口	18.7		細砂粒・角閃石/良 好/灰白	口縁部は横撫で、胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘ ラ撫で。	口縁部内面に 粘土状付着物
第35図 PL. 115	16	土製品土 錘	完形 床面上19cm	長 幅	5.0 1.4	孔 重	0.3 8.7	細砂粒・角閃石/良 好/灰黄褐	細い棒状のものに粘土を巻き付けて形成したものと思われ る。器面は撫で。
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第35図 PL. 115	17	石製品 扁平楕円礫	床面上9cm	長 厚	6.7 2.9	幅 重	6.0 130.6	粗粒輝石安山岩	背面側中央に径3cm大の浅い孔がある。孔は敲打により、孔 内面の摩耗は見られない。
第35図 PL. 115	18	敲石 扁平楕円礫	床面上3cm	長 厚	19.0 3.0	幅 重	7.0 506.3	粗粒輝石安山岩	右側縁・小口部両端に敲打を伴う剝離痕がある。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第35図 PL. 115	19	鉄製品 鏝	床面上50cm	長 厚	7.35 0.3	幅 重	0.65 5.7	泥・砂を巻き込んで錆化本体は空洞化する。細かい形状は不明瞭であるが鉄鏝 の破片とみられる。茎の端部を欠く。	

7区12号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第37図 PL. 115	1	土師器 皿	1/2 床面上16cm	□	15.8	高	3.8	細砂粒・軽石・輝石/ 良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第37図 PL. 115	2	土師器 皿	3/4 床面上6cm	□	15.6	高	3.6	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第37図 PL. 115	3	須恵器 蓋	2/3 床面上4cm	□	15.6	高 摘	3.3 4.4	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転へら削り後、環状摘み貼付。
第37図	4	須恵器 杯蓋	蓋片 埋没土	□	17.0			細砂粒・粗砂粒/還 元焰/硬質/灰	ロクロ整形、回転は右回り。外面上半は回転へら削り。摘みは欠損しているため形状不明。
第37図	5	土師器 小型甕	口縁～胴部 埋没土	□	13.3			細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫でで内面に凹線が巡る。胴部外面上部は横のへら削り。内面は斜めのへら撫で。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第37図 PL. 115	6	鉄製品 鏃	埋没土	長 厚	3.1 0.2	幅 重	2.8 3.3	無茎鏃。先端を欠く	中央部に径4mmの穴を有し周囲に矢柄の痕跡とみられる木質が残る。

7区13号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第38図	1	土師器 杯	1/4 埋没土	□	12.9	高	2.8	細砂粒・粗砂粒/角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は平底ぎみで手持ちへら削り。内面は撫で。
第38図	2	土師器 甕	口縁片 床面上8cm	□	23.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫でで輪積み痕を残す。胴部上半は斜めのへら削り。内面はへら撫でか。

7区14号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第40図 PL. 115	1	土師器 杯	完形 床面上1cm	□	10.9	高	3.2	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	
第40図 PL. 115	2	土師器 杯	完形 掘方土	□	12.3	高	4.5	細砂粒・軽石/良好/ 明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	硬質な焼成
第40図 PL. 115	3	土師器 杯	1/2 床面上12cm	□	11.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第40図	4	土師器 杯	1/2 埋没土	□	10.0	高	3.3	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第40図 PL. 115	5	土師器 杯	完形 床面上3cm	□	12.8	高	4.6	細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で、外面中位及び口唇部内面に凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	硬質な焼成
第40図 PL. 115	6	土師器 杯	完形 床面上2cm	□	12.8	高	4.7	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で、中位に段を有し、口唇部内面に1条の凹線を巡らす。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	縞状の素地
第40図 PL. 115	7	土師器 杯	完形 床面直上	□	12.8	高	4.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、中位に段を有する。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	
第40図 PL. 115	8	土師器 杯	1/3 床面上7cm	□	14.2	高	6.0	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・石英/良好/ 浅黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第40図 PL. 115	9	土師器 杯	1/2 床面直上	□	10.1	高	3.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部摩滅
第40図 PL. 115	10	土師器 杯	1/2 床面直上	□	11.1	高	5.8	細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/橙	厚手で雑な作り。内外面は撫で。	内面摩滅
第40図 PL. 115	11	土師器 鉢	1/3 床面上2cm	□	18.8			細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で、外面中位に1条の凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第40図	12	土師器 鉢	口縁～体部 埋没土	□	17.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は縦のへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第40図	13	土師器 鉢	口縁～体部 床面上14cm	□	20.0			細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第40図 PL. 115	14	土師器 鉢	完形 床面上3cm	□	11.4	高	11.0	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面～底部はへら削り。内面は撫で。	口縁部内外面に 輪積み痕
第40図 PL. 115	15	土師器 有孔鉢	完形 掘方土	□	16.4 7.6	高	10.6	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。体部外面は斜めのへら削り。内面は横～斜めのへら撫で。底部へら削り後、穿孔。	底部に黒斑。 口縁部外面に 輪積み痕
第40図	16	土師器 鉢	口縁～底部片 埋没土	□	19.9			細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部～底部、内外面も撫でか。	内外面に細かな ハゼ顕著。 底部に黒斑
第40図	17	須恵器 蓋	1/4 埋没土	□	11.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)体部下端～底部は回転へら削り。	
第40図	18	土師器 小型甕	口縁～頸部片 埋没土	□	12.0			細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦の撫で。	頸部内面の接 合痕顕著。
第40図 PL. 116	19	土師器 甕	2/3 掘方土	□	22.0			細砂粒・角閃石・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は斜めのへら撫で。	胴部外面に粘 土付着。内面 下位に接合痕
第40図	20	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	□	22.0			細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は斜めの撫 で。	
第40図 PL. 116	21	土師器 甕	口縁～胴部 床面直上	□	21.2			細砂粒・粗砂粒/良 好/灰白	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、内面は横の撫 で。	
第40図	22	土師器 甕	口縁～頸部片 掘方土	□	18.6			細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。内面は撫で。	

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第40図	23	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上2cm	口	21.6		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	
第40図 PL. 116	24	土師器 甕	口縁一部欠 床面上4cm・ 掘方土	口 底	23.3 10.8	高 30.3	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	胴部内面下位 に接合痕。内 面下半に吸 炭。
第41図	25	土師器 土釜	口縁片 埋没土				細砂粒・粗砂粒/良 好/灰黄褐	口縁部は雑な横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第41図 PL. 116	26	砥石 礫砥石	床面上5cm	長 厚	15.5 4.8	幅 重	7.3 805.8	石英閃緑岩	表裏面とも先端側に縦位線条痕を伴う研磨面がある。
第41図 PL. 116	27	砥石 礫砥石	床面上3cm	長 厚	11.1 2.6	幅 重	6.5 180.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも背面側に幅1mm前後の粗い刃ならし傷がある。
第41図 PL. 116	28	敲石 楕円礫	床面上10cm	長 厚	13.0 6.4	幅 重	7.2 826.1	粗粒輝石安山岩	背面側中央の稜部に敲打痕が集中する。被熱して煤ける。
第41図 PL. 116	29	磨石? 楕円礫	埋没土	長 厚	12.1 5.3	幅 重	6.3 482.9	粗粒輝石安山岩	表裏面とも敲打を伴う摩耗痕がある。小口部両端の打痕は見られない。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第41図 PL. 116	30	鉄製品 刀子	床面上直上	長 厚	6.1 0.25	幅 重	1.3 57.3	刃先および茎の端部を欠く刀子破片。棟側にはわずかに関を観察できるが刃側にまちは見られない。刃は関部分から急激に幅を減じ茎の幅より狭くなり破損する。研ぎ減りが顕著。	
第41図 PL. 116	31	鉄製品 紡錘車	床面上6cm	長 厚	2.1 50.1	幅 重	1.3 0.8	薄板状鉄製品破片。錆化顕著で薄い板状の内面は空洞化し一部ははがれている。一部に弧状にオリジナルの形状をとどめる紡錘車の紡輪破片とみられる。	

7区15号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第42図	1	土師器 鉢	口縁～体部片 埋没土	口	17.0		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第42図	2	土師器 甕	口縁～胴部 埋没土	口	20.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
第42図	3	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口	16.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。	内面摩滅
第42図	4	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口	20.4		細砂粒・角閃石/良 好/灰黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
第42図 PL. 116	5	土師器 甕	1/3 床面上2cm	口	4.1		細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/にぶい赤 褐	脚部外面は斜めのヘラ削り。底部はヘラ削り。内面はヘラ撫で。	胴部外面に粘 土付着

7区16号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第43図	1	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口	12.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	白い発色で他 の杯と異質
第43図	2	土師器 杯	口縁～底部片 床面上25cm	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第43図	3	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	11.7		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第43図	4	土師器 甕	口縁部片 埋没土				細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。	

7区17号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第43図 PL. 116	1	須恵器 杯	3/4 床面上11cm	口 底	12.2 7.4	高 3.8	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部回転糸切り無調整。	体部外面に薄 く自然釉
第43図	2	須恵器 杯	1/4 埋没土	口 底	11.8 7.0		細砂粒・粗砂粒・小 礫/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部回転糸切り無調整。	
第43図	3	須恵器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 底	11.8 6.8	高 2.9	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部回転糸切り無調整。	
第43図	4	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口	19.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	

7区18号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第44図 PL. 116	1	土師器 杯	1/2 埋没土	口	10.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部と内面の 一部吸炭
第44図 PL. 117	2	土師器 杯	3/4 床面上11cm	口	12.5	高 3.3	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第44図	3	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	13.7		細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	体部外面に輪 積み痕
第44図	4	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分を残す。	

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第44図	5	須恵器 杯	口縁～体部片 埋没土	口	11.8		細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)体部外面に縦の雑な撫で。		
第44図 PL. 116	6	土師器 有孔鉢	口縁～底部 床面上1cm	口	16.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部穿孔は外側から竹クシ状の工具による。	外面にハゼ、 内面剥離。 粉っぽい素地	
第44図	7	須恵器 蓋	破片 埋没土	口	15.5		細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形(右回転)天井部外面に回転ヘラ削り。		
第44図	8	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土・カマド 埋没土	口	19.8		細砂粒/角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ 撫で。	口縁部外面に 輪積み痕	
第44図	9	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上1cm	口	18.8		細砂粒/角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ 撫で。	硬質な焼成	
第44図	10	土製品不明	埋没土				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	不整形で一端を欠損。	両面に繊維状 及び植物の茎 の圧痕	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
PL. 117	11	カマド袖 材?	埋没土	長 厚	25.8 8.0	幅 重	12.7 1621.6	未固結凝灰岩	厚さ8cmの板状に切り取り、面取り整形してカマドの芯材と したもの。被熱痕跡は見られない。	写真のみ
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考	
第44図 PL. 117	12	鉄製品 刀子	埋没土	長 厚	4.95 0.25	幅 重	1.0 5.0	断面三角形の鉄製品破片、両端破損後錆化している。刀子刃部の破片と考えら れる。		

7区19号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第46図 PL. 117	1	土師器 杯	完形 床面直上	口	10.6	高	4.4	細砂粒/角閃石/良 好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で	底部から口縁 部外面に黒 斑。内面の一 部吸炭
第46図 PL. 117	2	土師器 杯	完形 床面上13cm	口	12.2	高	4.9	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に凹線を巡らす。底部は手持 ちヘラ削り。内面は撫で	底部に黒斑。 内面に煤付着
第46図 PL. 117	3	土師器 杯	完形 床面上8cm	口	11.6	高	4.6	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面塗塗り か
第46図 PL. 117	4	土師器 杯	3/4 掘方土	口	11.2	高	4.4	細砂粒/角閃石/良 好/褐灰	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第46図 PL. 117	5	土師器 杯	2/3 床面上2cm	口	12.4	高	4.6	細砂粒・粗砂粒/良 好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑。 内面に煤付着
第46図 PL. 117	6	土師器 杯	1/2 掘方土	口	11.6	高	4.5	細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部と内面の 一部吸炭
第46図 PL. 117	7	土師器 杯	1/2 埋没土	口	11.2	高	4.7	細砂粒・粗砂粒/良 好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面は 塗塗りか
第46図 PL. 117	8	土師器 杯	口縁一部欠 床面上20cm	口	11.1	高	4.8	細砂粒/角閃石/良 好/灰白	口縁部は横撫で、口唇部内面に凹線を巡らす。底部は手持 ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第46図 PL. 117	9	土師器 杯	口縁一部欠 床面上1cm	口	11.5	高	4.0	細砂粒・粗砂粒/良 好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第46図 PL. 117	10	土師器 杯	口縁一部欠、床 面上2cm・掘方土・ カマド掘方土	口	10.7	高	4.0	細砂粒・軽石/良好 /にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑。 内面の一部吸 炭
第46図 PL. 117	11	土師器 杯	3/4、床面上3cm・ カマド掘方土	口	12.8	高	5.5	細砂粒/角閃石/良 好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面吸炭
第46図 PL. 117	12	土師器 杯	完形 掘方土	口	14.5	高	6.0	細砂粒/角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑。 内面吸炭。口 縁部内面にハ ゼ
第46図	13	土師器 杯	1/4 埋没土	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、2条の凹線を巡らせる。底部は手持ちヘ ラ削り。内面は撫で。	内外面にハ ゼ。底部摩滅。
第46図	14	土師器 杯	1/4 埋没土	口	12.4	高	4.7	細砂粒/角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、外面上位に1条の凹線を巡らす。底部は 手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第46図	15	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	13.8			細砂粒/角閃石/良 好/黄褐	口縁部は横撫で、2条の凹線を巡らせる。底部は手持ちヘ ラ削り。内面は撫で。	口縁部内外面 に細かなハ ゼ。底部摩滅。
第46図	16	土師器 杯	1/4 埋没土	口	11.8			細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第46図 PL. 117	17	土師器 杯	完形 床面上4cm	口	11.2	高	7.5	細砂粒・粗砂粒/良 好/灰白	口縁部は横撫で。体部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第47図 PL. 117	18	土師器 鉢	口縁一部欠 床面上4cm	口	16.5	高	10.0	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦～斜めのヘラ撫で。内面は撫 で。	内面～口縁部 外面の一部吸 炭(一部格子 状)
第47図 PL. 117	19	土師器 鉢	1/4 床面上5cm	口	18.6 8.4	高	11.3	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/褐灰	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	底部に細かな ハゼ
第47図	20	土師器 鉢	口縁～体部 埋没土	口	14.0			細砂粒/角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部外面は横のヘラ磨き。内面は撫で。	外面に煤付着
第47図	21	土師器 鉢	口縁～体部片 埋没土	口	16.8			細砂粒・粗砂粒・石 英/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で、1条の凹線を巡らせる。底部は手持ちヘ ラ削り。内面は撫で。	

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第47図 PL. 117	22	土師器 鉢	1/2 床面上11cm	口	13.0			細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部外面～底部はへら削り。内面は撫で。内外面漆塗りか。
第47図 PL. 117	23	土師器 有孔鉢	口縁一部欠 床面上3cm	口	14.9	高 8.8		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部は横のへら削り。内面はへら撫で。
第47図 PL. 117	24	土師器 壺	完形 床面上1cm	口	11.0	高 12.1		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面～底部はへら磨き。内面は撫で。
第47図 PL. 118	25	土師器 小型甕	口縁～体部 床面上2cm	口	10.4			細砂粒・粗砂粒/良好/灰白	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。
第47図 PL. 118	26	土師器 小型甕	口縁～胴部片 床面上9cm	口	8.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。内面はへら撫で。
第47図 PL. 118	27	土師器 甕	完形 床面上20cm	口	17.4	高 25.3		細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/灰白	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は撫で。
第47図 PL. 118	28	土師器 甕	2/3 床面直上 掘方土	口	16.8	高 24.3		細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は撫で。
第47図	29	土師器 甕	口縁～胴部片 掘方土	口	14.8			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り、内面は撫で。
第47図	30	土師器 甕	口縁～胴部片 掘方土	口	13.6			細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り、内面は撫で。
第47図 PL. 118	31	土師器 甕	3/4 床面上 カマド埋没土					細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/浅黄橙	胴部外面は縦のへら削り。内面は撫で。
第47図	32	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上6cm・掘方土	口	18.8			細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で、内外面に凹線を巡らせる。胴部外面は横のへら削り。内面は撫で。
第47図 PL. 118	33	土師器 甕	2/3 床面直上	口底	24.0 11.6	高 29.4		細砂粒・粗砂粒/良好/灰白	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら撫で、内面は縦の撫で。
第47図	34	土師器 甕	胴部～底部片 埋没土	底	10.4	孔径 9.0		細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい赤褐	胴部外面は斜め、下端は横のへら削り。内面は斜めの撫で。
第48図	35	須恵器 甕	胴部片 床面上3cm					細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き、内面は青海波文。
第48図 PL. 118	36	土製品 支脚	3/4 床面上26cm					細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	体部外面は縦のへら撫で、孔の先端部はへら削りで整形。基部は雑な作り。
第48図 PL. 118	37	土製品 支脚	完形 掘方土	口	10.5	高 17.9		細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	体部外面は縦のへら撫で、基部は横撫で。
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第48図 PL. 118	38	砥石 切り砥石	掘方土	長 8.8 厚 3.5	幅 4.0 重 176.8		砥沢石	四面使用。側縁側に径7mmの孔を両側穿孔して下げ砥石として用いる。右辺側には未貫通の孔(径5mm弱)がある。	
第48図 PL. 118	39	敲石 楕円礫	床面上4cm	長 12.5 厚 4.9	幅 6.8 重 538.5		ホルンフェルス	小口部両端に著しい敲打痕があるほか、側縁にも敲打に伴う小剥離痕がある。	

7区20号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第49図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口底	11.8 10.1			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。

7区21号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第51図	1	土師器 杯	1/4 床面上15cm	口	10.8	高 3.3		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第51図 PL. 118	2	土師器 杯	3/4 床面上5cm	口	11.9	高 4.1		細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第51図	3	土師器 杯	1/4 床面上5cm	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第51図 PL. 118	4	土師器 杯	口縁一部欠 床面上2cm	口	12.3	高 4.3		細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第51図	5	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第51図	6	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第51図	7	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第51図 PL. 118	8	土師器 杯	1/4 埋没土	口	15.8	高	7.5	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、内面は撫で。	粉っぽい素地
第51図	9	土師器 小型甕	口縁～胴部片 埋没土	口	8.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第51図	10	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	17.6			細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅
第51図 PL. 119	11	土師器 甕	口縁～胴部 床面上4cm	口	13.2			細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で、2条の弱い凹線を巡らせる。胴部外面は横～斜めのへら削り、内面は斜めの撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第51図 PL. 119	12	砥石 棒状礫	床面上2cm	長厚	11.3 3.8	幅重	4.3 265.0	粗粒輝石安山岩	小口部上端に敲打を伴う摩耗痕がある。	

7区22号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第52図 PL. 119	1	土師器 杯	完形 掘方土	口	10.2	高	3.3	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	底部摩滅
第52図	2	土師器 杯	1/4 床面上29cm	口	11.8	高	4.0	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅、 粉っぽい素地
第52図 PL. 119	3	土師器 杯	1/2 床面上41cm	口	11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	過度の被熱により器胎還元、発泡。粉っぽい素地
第52図 PL. 119	4	土師器 甕	3/4 カマド底面上7cm	口	21.4			細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り後、一部撫で。内面は撫で。	胴部内面下位に接合痕、口縁部外面は摩滅
第52図 PL. 119	5	土師器 甕	口縁～胴部 埋没土	口	21.5			細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り、内面は撫で。	
第52図	6	土師器 甕	口縁～胴部片 カマド底面上7cm	口	21.0			細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部は縦のへら削り、内面は横のへら撫で。	
第52図	7	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	22.8			細砂粒・角閃石/良好/明黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第52図 PL. 119	8	砥石 切り砥石	床面上2cm	長厚	15.7 5.2	幅重	6.2 871.9	砥沢石	二面使用。背面側を除く各面に縦位・斜位の刃ならし傷。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考	
第52図 PL. 119	9	鉄製品 斧	掘方土	長厚	8.4 0.8	幅重	3.95 95.7	斧柄装着部を袋状に成型した鉄斧。柄装着部分に木質は確認できない。刃先角は約20°で刃先は直線ではなくやや丸みをもつ。	12ヶ小片	

7区23号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第54図 PL. 119	1	土師器 杯	3/4 カマド底面上5cm	口	11.0	高	3.7	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第54図 PL. 119	2	土師器 甕	1/4 カマド底面上5cm	口	4.0			細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/灰黄褐	胴部外面は縦のへら削り。内面は斜めのへら撫で。底部はへら削り。	

7区24号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第55図	1	土師器 杯	口縁～底部片 床面上15cm	口	11.8			細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面摩滅
第55図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	外面摩滅。 粉っぽい素地
第55図	3	須恵器 小型甕	口縁～頸部片 埋没土	口	12.9			細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)	外面に薄く自然釉
第55図	4	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上8cm	口	18.6			細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は横のへら撫で。	

7区1号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第57図 PL. 119	1	土製品瓦塔	破片 埋没土	長厚	7.8 2.5	幅	4.6	細砂粒/酸化焰/にぶい橙	半截の管状工具により瓦を描出。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第57図 PL. 119	2	石製品 不定形円礫	埋没土	長厚	11.2 4.3	幅重	7.8 365.4	粗粒輝石安山岩	背面側に径3cm強の浅い孔を穿つ。孔内面は敲打により整形されている。裏面側中央に粗い敲打痕が集中する。	
第57図 PL. 119	3	砥石 切り砥石	埋没土	長厚	(12.4) 7.8	幅重	7.0 615.7	粗粒輝石安山岩	四面使用。右辺側の側面には打痕が集中しており、砥石として砥石が再利用されている。	
PL. 119	4	石臼 下臼破片	埋没土			重	642.1	粗粒輝石安山岩	芯棒孔および下臼の上面・下面が部分的に残る。下面側は浅い研磨溝があり、転用されている可能性がある。	写真のみ

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴	備考	
PL. 119	5	椀型鍛冶滓 か	1/2残存 埋没土	長 厚	3.8 2.3	幅 重	7.0 80.94	内面発泡、外面に酸化土砂が付着。	写真のみ

7区3号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第58図 PL. 119	1	土師器 杯	1/2 底面下5cm	口	11.4	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。 内外面摩滅。 粉っぽい素地

7区5号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL. 119	1	土師器 杯	完形 底面上34cm	口	11.6	高	3.9	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第60図 PL. 119	2	土師器 杯	1/2 底面上29cm	口	10.4	高	3.6	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で、やや 雑な作り。
第60図 PL. 119	3	土師器 杯	1/2 底面上35cm	口	12.2	高	5.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第60図 PL. 120	4	土師器 杯	1/2 底面上33cm	口	12.2			細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第60図 PL. 120	5	土師器 杯	1/3 底面上14cm・床 面上19cm・床面 上44cm	口	11.7			細砂粒・角閃石/良 好/灰	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は丁寧な撫で 後、細かな放射状へら磨き。
第60図 PL. 120	6	須恵器 蓋	口縁一部欠 底面上57cm	口	11.5	高	4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)天井部外面を手持ちへら削り。
第60図 PL. 120	7	土師器 小型甕	1/2 底面上34cm	口	12.4	高	11.8	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で、頸部外面はへらの当たりが顕著。胴部外 面～底部はへら削り。内面は撫で。
第60図 PL. 120	8	土師器 杯	1/4 底面上18cm					細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	胴部外面～底部はへら削り。内面は横の撫で。
第60図 PL. 120	9	土師器 甕	3/4 底面上34cm	口	16.9			細砂粒・粗砂粒・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへ ら撫で。
第60図 PL. 120	10	土師器 甕	胴部片 底面上12cm					細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 淡黄	胴部外面は縦～斜めのへら削り。内面はへら撫で。
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第60図 PL. 120	11	石製品 扁平楕円礫	底面上9cm	長 厚	14.8 6.8	幅 重	5.8 881.8	粗粒輝石安山岩	
第60図 PL. 120	12	敲石 棒状礫	底面上34cm	長 厚	14.8 6.8	幅 重	5.8 881.8	粗粒輝石安山岩	背面側中央の稜部に敲打痕が集中するほか、左側縁にも部 分的な敲打痕がある。

7区7号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第61図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.6			細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。

7区12号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第63図	1	須恵器 壺	底部片 埋没土	口	11.3	高	11.9	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)高台は底部回転糸切り後の付け高台。
第63図	2	須恵器 甕	口縁片 埋没土	口	23.9			細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。 内外面に薄く 自然釉

7区14号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第64図	1	肥前陶器 御器手碗	口縁部1部、底部 完 埋没土	口 高	(10.3) 7.3	底	4.1	灰白	体部下位は張り、口縁部は垂直に近く立ち上がる。高台内の 挟りは深く、高台内側は「ハ」字状に開く。高台径は小さい。 高台端部を除き透明釉。貫入が入る。

7区1号井戸

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第66図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	13.7	高	3.0	細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で
第66図	2	須恵器 蓋	口縁～天井部片 埋没土	口	11.8			細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)天井部外面は回転へら削り。
第66図	3	須恵器 甕か	口縁部片 埋没土					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)肩部外面に1条の凹線とクシの 刺突を巡らす。
第66図	4	須恵器 甕	底部片 埋没土	底	11.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)高台は貼り付け部から剥離。
第66図	5	須恵器 壺か	底部片 埋没土					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は手持ちへら削り。
第66図	6	中国白磁碗	1/3 埋没土	底	(5.8)			淡黄から灰白	露胎部が淡黄色、施釉部の素地が灰白色のため、釉もオリ ブ灰色に近い灰白色となる。内面に釉を薄くかける。不規則 な貫入が入る。底部周縁窪む。

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第66図	7	在地系土器 片口鉢	口縁部1部、底部 1/6 埋没土・表採	口 高	(34.2) 11.4	底	(15.0)	A/灰	還元炎。体部から口縁部は直線的に開く。口縁部は上端から6cmほど横撫で。口縁部は上方に立ち上がるが、内面端部はゆるい稜をなす。体部内面下位は使用により器表摩滅。体部内面中位と底部と体部境は平滑となる。底部外面は砂底状。	14世紀後半頃。
第66図 PL. 120	8	在地系土器 片口鉢	1/3 埋没土	口 高	(30.6) 12.3	底	(13.6)	A/暗灰	断面と一部の器表は橙色。器表は暗灰色。体部は直線的に開き、口縁部は外反。口縁部は上端から3cmを横撫で。口縁部は薄い玉縁状をなし、上端は尖り気味。体部内面は使用により器表摩滅。体部内面は斜めに溝状に窪む。底部外面は砂底状。	14世紀中頃。
第66図	9	在地系土器 片口鉢	1/4 埋没土	底	(12.0)			B/にぶい黄橙	断面中央は灰色、器表付近は灰白色、器表はにぶい黄橙色。底部外面は砂底状。内面は使用により器表摩滅。底部中央は	中世。
第66図	10	在地系土器 片口鉢	口縁部から体部 埋没土					A/灰白	還元炎。体部下位で若干外反し、それ以上は直線的に開く。口縁部は内面に突き出すが、端部上面が摩滅し、端部形状は不明。	15世紀前半頃。
第66図	11	在地系土器 片口鉢	体部 埋没土					B/灰	断面内側から内面器表、外面器表は灰色、断面外側はにぶい褐色。使用により、内面下位の器表摩滅し、中位は平滑となる。	中世。
第66図	12	在地系土器 内耳鍋	体部片					A/灰	還元炎。断面は灰白色、器表は灰色。口縁部下は外反。	中世。
第66図	13	在地系土器 内耳鍋	体部 埋没土					B/灰	還元炎。断面は灰白色、器表は灰色。口縁部下は外反。体部外面は板状工具による斜位撫で。器壁は厚い。	14世紀後半～ 15世紀前半頃。
第66図	14	在地系土器 内耳鍋	体部 埋没土					B/灰	還元炎。断面は灰白色、器表は灰色。口縁部下は外反。体部外面の高い部分は板状工具による縦位撫で。器壁は厚い。	14世紀後半～ 15世紀前半頃か。
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第66図 PL. 120	15	敲石 扁平棒状礫	埋没土	長 厚	11.4 2.0	幅 重	3.4 122.4	ホルンフェルス	下端側小口部・右辺側エッジが敲打され、これに伴う衝撃剝離が生じている。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)				成形・整形の特徴	備考	
第66図 PL. 120	16	銅 古銭	埋没土	長 厚	2.417 0.1	幅 重	2.4 2.7	「景德元寶」 文字・郭不明瞭		
第66図 PL. 120	17	銅 古銭	埋没土	長 厚	2.476 0.1	幅 重	2.4 2.4	「至和通寶」 裏面郭不明瞭		
第66図 PL. 120	18	銅 古銭	埋没土	長 厚	2.374 0.2	幅 重	2.4 3.4	「熙寧元寶」 裏面郭不明瞭、鑄欠けあり		
第66図 PL. 120	19	銅 古銭	埋没土	長 厚	2.468 0.1	幅 重	2.5 2.8	「聖宋元寶」(篆書) 裏面郭不明瞭、孔成型不良		
第66図 PL. 120	20	銅 古銭	埋没土	長 厚	2.559 0.1	幅 重	2.5 2.9	「祥符通寶」 裏面左下に弧状の隆起あり		

7区2号井戸

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第67図	1	土師器 杯	1/4 埋没土	口	10.7	高	3.5	細砂粒・角閃石/良好/黒褐	口縁部は横撫で、口唇部内面に凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面吸炭
第67図	2	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口	11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	粉っぽい素地
第67図	3	須恵器 蓋	1/3 埋没土	口	10.0	高	3.4	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちへら削り。	
第67図 PL. 120	4	須恵器 高杯	杯部1/2 埋没土	口	11.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)体部外面下端は回転へら削り。	脚部は貼り付け部から剝離
第67図	5	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口	19.0			細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は撫で。	
第67図	6	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	15.7			細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で	
第67図	7	常滑陶器 壺か甕	体部片 埋没土					灰	外面に自然釉。	中世。
第67図	8	瓦 平瓦	破片	高	1.7			浅黄橙	土師質。断面は暗灰色、器表付近から器表は浅黄橙色。表面に布痕。布痕後に一部撫で。	古代。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			樹種	成形・整形の特徴	備考	
第67図 PL. 120	9	木製品 底板	埋没土 完形	径	18.0	厚	0.5 ～ 1.1	スギ	厚さが一定ではない。加工痕あり。側面が斜めに削られ、断面形状が台形になっている。	

7区3号井戸

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第68図	1	在地系土器 片口鉢	埋没土上部 口縁					A/灰	還元炎。口縁横撫で部で緩く外反。横撫で範囲は端部から約5センチ。口縁端部内面は丸みを持って突き出る。体部内面下位は使用により平滑となる。	14世紀後半～ 15世紀前半頃。
第68図	2	在地系土器 片口鉢	体部 埋没土上部					A/にぶい橙	断面と器表の1部はにぶい橙色、器表は黒褐色。体部外面は撫で、成形時の凹凸が残る。使用により体部下位の器表は平滑となり、体部下端から底部周縁は摩滅が著し窪む。底部外面の残りが悪く、糸切りか否か不明。	中世。

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第68図	3	在地系土器 内耳鍋	口縁 埋没土上部				B/灰	断面は灰白色、器表は灰色。口縁部下で緩く外反し、口縁部は内湾。口縁端部内面は突き出し、先端は稜をなす。口縁部下内面も明瞭な稜をなす。	14世紀後半頃。
第68図	4	瓦 平瓦	破片 埋没土上部				灰	須恵質。表面コビキ痕。コビキ痕上に粘土を上乘せし、その後布痕。裏面に格子状叩き目。	古代。

7区4号井戸

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第70図 PL. 120	1	土師器 杯	1/2 埋没土	口 底	10.8 10.0	高 3.6	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	内外面摩滅
第70図	2	土師器 杯	1/4 埋没土	口	12.2	高 3.8	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	
第70図	3	土師器 杯	1/3 埋没土	口	12.9		細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で、外面中位に段を有し、口唇部内面に凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	
第70図	4	土師器 鉢	体部～底部片 埋没土				細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。体部外面～底部は斜めのへら削り。内面は横のへら撫で。	底部に黒斑、内面も吸炭
第70図	5	土師器 鉢	口縁～体部片 埋没土	口	23.8		細砂粒/良好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	内外面塗塗りか
第70図	6	土師器 有孔鉢	底部片 埋没土	口	6.2		細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	胴部外面は斜めのへら削り。	底部に黒斑
第70図	7	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	20.6		細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへら撫で。	口縁部外面に輪積み痕
第70図	8	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	20.8		細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	
第70図	9	須恵器 甕	口縁部片 埋没土	口	21.4		細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	外面に3条単位の波状文と凹線を巡らす。	
第70図 PL. 120	10	須恵器 壺	底部 埋没土	底	16.0		細砂粒・軽石/還元焰/灰	叩き成形。外面平行叩き。内面素文か。胴部下端はへら削り。	
第70図	11	須恵器 円盤状土製品	破片 埋没土	長 幅	8.8 9.5	厚 1.8	細砂粒/還元焰/灰	横瓶の胴閉塞部の破片の周縁を打ち欠き整形。外面同心円のカキ目。内面に絞り目	内面と断面の一部に自然釉付着
第70図	12	在地系土器 片口鉢	体部下位～底部片 埋没土				A/暗灰	断面外側は灰白色、断面内側はにぶい橙色、器表は暗灰色。底部外面回転糸切無調整。使用による内面の摩滅は認められない。	中世。
第70図	13	在地系土器 片口鉢	体部から底部片 埋没土				B/灰、黒	断面中央は灰白色、器表付近のやや厚い範囲は灰黄褐色、体部外面器表は黒色、内面と底部外面器表は灰色。内面は使用により器表摩滅。底部回転糸切無調整。	中世。
第70図	14	在地系土器 片口鉢	体部片 埋没土				B/灰	断面中央は灰白色、器表付近のやや厚い範囲はにぶい黄橙色、器表は灰白に近い灰色。内面下位は使用により器表摩滅し、中位は平滑となる。	中世。

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第70図 PL. 121	15	砥石 切り砥石	一括 埋没土	長 厚	(11.0) 4.1	幅 重	5.1 303.8	砥沢石	四面使用。右側面に縦位の刃ならし傷。中央付近より下端側を大きく欠損する。
第70図 PL. 121	16	砥石 切り砥石	埋没土上部	長 厚	(9.7) 4.6	幅 重	(4.2) 241.1	砥沢石	四面使用。右辺側面には刀子状工具による整形痕が残る。上端側を欠損する。

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			樹種	成形・整形の特徴	備考
第70図 PL. 121	17	木製品 底板	埋没土 一部欠損	直 径	9.2	厚	0.5 ～ 1.1	スギ	厚さが一定ではない。表裏面には幅2～2.5cmのケズリ痕が木目に斜行して残る。側面にも斜めの加工痕が見られる。
第70図 PL. 121	18	木製品 不明	埋没土 一部欠損	長 厚	(9.9) 1.4	幅	0.8	カラマツ	棒状。断面は平行四辺形。表面に加工痕あり。
第70図 PL. 121	19	木製品 不明	埋没土 欠損	長 厚	(13.0) (3.7)	幅	1.1	スギ	止め具が1か所残る。
第70図 PL. 121	20	木製品 曲物	埋没土 欠損	長 厚	(7.2) (2.2)	幅	0.3	スギ	

7区5号井戸

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第72図	1	須恵器 杯	底部片 埋没土	底	9.4		細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)底部は回転へら削り。	内外面摩滅
第72図	2	須恵器 碗	底部片 埋没土	底	7.6	高 台	7.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)高台は、底部回転へら削り後の付け高台。
第72図	3	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	19.8		細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/灰黄褐	口縁部は横撫で、中位に凹線を巡らせる。胴部外面は斜めのへら削り、内面は横のへら撫で。	
第72図	4	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	19.8		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は撫で。	口縁部内面に帯状に摩滅
第72図	5	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	18.7		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は横のへら撫で。	
第72図	6	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	25.8		細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。内面は撫で。	

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第72図	7	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	23.8			細砂粒・角閃石/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
第72図	8	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	24.1			細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
第72図	9	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	21.7			細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で	
第72図	10	土師器 甕	胴部～底部 埋没土	口	7.0			細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄褐	胴部外面は斜めのヘラ削り。内面はヘラ撫で。底部はヘラ削り。	胴部外面に煤 付着
第72図	11	土師器 把手付甕か	把手 埋没土					細砂粒・角閃石/良好/橙	胴部への貼付は丁寧で外面は面取り	
第72図 PL. 121	12	美濃陶器 筒形香炉	口縁部1/2欠 埋没土	口 高	7.4 3.5	底	5.3	灰白	小型で器高は低い。口縁端部は内側に小さく突き出る。口縁部内面から体部外面に胎釉。底部外面に不整円錐状の脚を3箇所貼り付け。	18世紀前半 か。
第72図	13	瀬戸・美濃 陶器か皿	口縁部1部、底部 1/4 埋没土	口 高	(24.4) 5.7 ～ 6.1	底	(11.8)	灰白	底部内面周縁に凹線を廻らし、後に片彫りで線を描く。口縁部は菊皿のような形状と推定される。外面の口縁端部以下は回転篋削りで、螺旋状の稜が廻る。内面から高台端部に錆釉。釉は部分的に光沢がある。	江戸時代。
第72図 PL. 121	14	瀬戸・美濃 陶器黄瀬戸 鉢	1/3 埋没土	口 高	(34.2) 9.8	底	(14.0)	淡黄	体部は外反。口縁部は内面で小さい段をなして反り返る。口縁端部上面は小さく窪む。灰釉施釉後、高台内と高台端部を拭う。内面に筋状の銅緑釉。	18世紀前半～ 中頃。
第72図	15	堺陶器 すり鉢	口縁部1部、底部 1/4 埋没土	口 高	(32.0) 14.7	底	(15.2)	橙	口縁部下外面は窪む。口縁部は緑帯をなす。口縁端部内面の突起先端は尖る。口縁部内面は強い回転横撫で。外面口縁部下は回転篋削り後撫で。無釉。	18前半～中 頃。
第72図 PL. 121	16	製作地不明 陶器すり鉢	口縁部下欠 埋没土	口	(35.0)			灰白～浅黄橙	土器に近い焼き上がりで焼成不良。形状やすり目は丹波・信楽系に似る。すり目は口縁部整形後に施す。外面口縁部下は撫で、成形時の僅かな凹凸が残る。体部外面下半は回転横撫で。体部外面下端は回転篋撫で。底部外面は剥離。	江戸時代。焼 成不良。
第73図	17	在地系土器 鉢	口縁部から体部 片 埋没土					B/黒	断面中央は黒色、器表付近は灰白色、器表は全面黒色。被熱による色戻りは認められない。焙烙と同様な製作法であるが、外面下位の皸状亀裂は篋状工具により撫で消す。体部から口縁部内外面は、粗い横位篋磨き。	江戸時代か。
第73図 PL. 121	18	在地系土器 暖房具	底部欠 埋没土	口	16.4			灰白～黒	断面は黒色、器表付近は灰白色、器表は灰白から黒色。口縁部内面に蓋受けが張り出す。口縁部外面に焼成前の円孔を8箇所あける。外面は横位の粗い磨き。内面は撫で、接合痕が明瞭に残る。円孔間に篋状工具による不明銘。内面の円孔部付近より上位は浅黄橙色を呈し、被熱による酸化の可能性がある。	江戸時代か。
挿図 PL. NO.	NO.	器種 形態・素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第73図 PL. 121	19	砥石 切り砥石	埋没土	長 厚	(11.0) 4.1	幅 重	5.1 303.8	珪質粘板岩	細粒石材を用いた仕上げ砥。右辺に横位切断痕が残る。	
第73図 PL. 121	20	砥石 切り砥石	埋没土	長 厚	(9.7) 4.6	幅 重	(4.2) 241.1	デイスait	上端側を除く各面を機能部とする。左辺側・下端側は激しく使い込まれ、変形が著しい。上端側に横位切断痕が残る。	
第73図 PL. 121	21	敲石 楕円礫	埋没土	長 厚	12.7 2.6	幅 重	4.2 201.6	粗粒輝石安山岩	右辺側のエッジが敲打され、これに伴う小剥離痕がある。	
第73図 PL. 121	22	石製品 地輪	埋没土	長 高	21.9 25.8	幅 重	25.5 21700	粗粒輝石安山岩	地輪を転用して、各側縁の中央付近を敲打してノッチ状に浅く抉る。抉り部の内面は新鮮。地輪としては、上面中央付近を除く各面をノミ状工具により整形したのち、磨き整形して仕上げる。下面を大きく抉り軽量化を計る。	
第73図 PL. 121	23	礎板?	埋没土	長 厚	15.6 26.4	幅 重	(36.6) 23180	粗粒輝石安山岩	被熱破損した右辺側を除く、各面に粗いノミ状の工具痕が残る。裏面側は上面から斜め方向の整形で抉られている。上面側左辺は破損して、本来の形状を欠く。右辺側破損部を除く各面にスガが付着する。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)			樹種	成形・整形の特徴	備考	
第74図 PL. 121	24	木製品 底板	埋没土一括 欠損	直 径	(21.0)	厚	1.0	スギ	直径3mmの木くぎが板に水平に打ち込まれ、2か所に残る。木目以外の部分はすり減っている。	
第74図 PL. 121	25	木製品 不明	埋没土一括 欠損	長	17.5	直 径	1.5 ～ 3.6	クリ	こけし状の形態である。先端の太い部分と細い棒状部の境目に幅1～2mmの細い溝が削られている。杖か。	
第74図 PL. 121	26	木製品 不明	埋没土一括 完形					竹	同様の竹製品が37枚一括して出土。第7表に計測値を示す。	
第74図 PL. 121	27	木製品 不明	埋没土一括 完形					竹	同様の竹製品が37枚一括して出土。第7表に計測値を示す。	
第74図 PL. 121	28	木製品 不明	埋没土一括 完形					竹	同様の竹製品が37枚一括して出土。第7表に計測値を示す。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考	
第74図 PL. 121	29	鉄製品 不明	埋没土	長 厚	5.5 0.25	幅 重	3.8 21.9	鑄造鉄製品破片、現存部分は台形をしているがすべて破断面で本来の形状は不明、断面が緩く湾曲することから大型鑄造鉄製品の破片と考えられる		

遺物観察表

7区2号墓坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴	備考
第76図 PL. 122	1	銅製品 銭貨	底面上7cm	長 2.5 厚 0.158	幅 2.51 重 2.9	「開禧通寶」	
第76図 PL. 122	2	銅製品 銭貨	底面上7cm	長 2.466 厚 0.138	幅 2.45 重 3.0	「至道元寶」	
第76図 PL. 122	3	銅製品 銭貨	底面上1cm	長 2.493 厚 0.149	幅 2.496 重 3.5	「元豊通寶」 裏面郭不明瞭	
第76図 PL. 122	4	銅製品 銭貨	底面上1cm	長 2.496 厚 0.158	幅 2.5 重 3.6	「永樂通寶」	
第76図 PL. 122	5	銅製品 銭貨	底面上1cm	長 2.479 厚 0.118	幅 2.124 重 2.8	「紹聖元寶」 星孔	

7区3号墓坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴	備考
第77図 PL. 122	1	銅製品 銭貨	底面上11cm	長 2.4 厚 1.29	幅 2.399 重 2.9	「熙寧元寶」か 錆化顕著で文字不鮮明	
第77図 PL. 122	2	銅製品 銭貨	底面上2cm	長 2.475 厚 0.137	幅 2.445 重 3.4	「元祐通寶」 寶の字に鋳溜	

7区3号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第78図	1	土師器 杯	口縁~体部片	口	10.9		細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第78図	2	土師器 杯	1/3 埋没土	口	12.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第78図	3	土師器 杯	口縁~体部片 埋没土	口	10.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第78図	4	土師器 杯	口縁~体部片 埋没土	口	10.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第78図	5	須恵器 鉢	口縁~体部片 埋没土	口	18.5		細砂粒・角閃石/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(回転方向不明)体部外面は縦の撫で。内面は雑な撫で。	
第78図	6	須恵器 杯	底部片 埋没土	底	7.0		細砂粒・角閃石/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形(右回転)底部回転糸切り無調整。	
第78図	7	土師器 甕	口縁片 埋没土	口	16.6		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。	
第78図	8	土師器 土釜	口縁片 埋没土	口	20.0		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴		備考	
PL. 122	9	薄手の腕型 鍛冶滓	埋没土	長 5.6 厚 1.7	幅 4.6 重 51.17	上面平滑、下面に木炭痕が付着している。左側の粘土質溶解物は羽目のアゴ部の溶損。		写真のみ	
PL. 122	10	小型の腕型 鍛冶滓	埋没土	長 4.1 厚 2.1	幅 2.8 重 21.96	内外面に長径1cm大の木炭痕。		写真のみ	
PL. 122	11	小型の腕型 鍛冶滓	埋没土	長 3.8 厚 1.8	幅 2.6 重 17.82	粘土質溶解物主体。		写真のみ	

7区7号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴	備考
PL. 122	1	鉄 腕型鍛冶滓	埋没土	長 3.7 厚 1.5	幅 3.5 重 16.24	上面は平滑でタレが生じている、下面に木炭痕	写真のみ

7区10号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第79図	1	土師器 杯	口縁~体部片 床面上48cm	口	15.8		細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	

7区13号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第79図	1	土師器 杯	口縁~体部片 埋没土	口	11.6		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地
第79図	2	土師器 杯	口縁~体部片 埋没土	口	11.7		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地
第79図	3	須恵器 杯	口縁~体部片 埋没土	口	10.7		細砂粒・角閃石/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(回転方向不明)底部は手持ちへら削り。	

7区16号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第79図	1	土師器 甕	口縁~頸部片 埋没土	口	11.7		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り、内面は撫で。	

7区18号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第80図	1	土師器 杯	口縁~体部片 埋没土	口	11.8	高 3.3	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面摩滅
第80図	2	土師器 杯	口縁~体部片 埋没土	口	12.7		細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第80図	3	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地
第80図	4	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口 10.9	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、外稜下に撫での 部分を残す。内面は撫で。	
第80図	5	土師器 杯	1/3 埋没土	口 11.0 高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	内外面摩滅
第80図	6	土師器 台付甕	胴部～脚部 埋没土		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	胴部外面は横、脚部外面は縦のへら削り、内面はへら撫で。	

7区19号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第79図	1	須恵器 杯	底部片 埋没土		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)底部は手持ちへら削り。	

7区27号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)	成形・整形の特徴	備考
第81図 PL. 122	1	鉄製品 火打ち金	埋没土	長 6.1 幅 2.0 厚 0.3 重 12.5	小型の火打金で、現状では劣化により亀裂が発生し左右の厚みが異なる。	

7区28号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第80図	1	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口 10.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、外稜下に撫での 部分を広く残す。	底部に黒斑
第80図	2	須恵器 蓋	摘み部 埋没土	口 8.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)摘みは環状摘みで丁寧な貼り付け。	
第80図	3	須恵器 杯	口縁～体部 埋没土	口 12.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)	内外面に薄く 自然釉
第80図	4	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口 18.8	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫でで段を有する。胴部外面は横のへら削り。内 面は撫で。	硬質な焼成

7区29号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第80図	1	土師器 杯	口縁～体部 埋没土	口 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	

7区遺構外

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第89図	1	土師器 杯	口縁～体部	口 10.0	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第89図	2	須恵器 杯	口縁～体部片	口 15.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部は回転へら削り。	
第89図	3	土師器 小型甕	口縁片	口 10.8	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り、内面は撫で。	頸部内面に接 合痕
第89図	4	須恵器 甕	口縁片	口 20.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)口縁部に突帯と7本単位の波状文を巡 らす。	
第89図	5	須恵器 円盤状土製 品(杯)	完形		細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。回転糸切り無調整の杯底部の周辺を 打ち砕いて加工。	
第89図	6	埴輪 器種不明	板状の破片(器 財埴輪か)		白色鈹物粒(凝固 岩粉)・黒色鈹物/ 良好	断面形はわずかに弧をなす。外面は丁寧な撫で。内面はハケ 目を撫で消している。図下辺はへら状工具により内外面及 び端部とも面取りをしたような調整が施されている	天地左右不明
第89図	7	形象埴輪	板状の破片		白色鈹物粒・黒色 鈹物/やや軟質	外面は不定方向のハケ目、内面は一定方向のハケ目。	天地左右不明
第89図	8	円筒埴輪			茶色の粘土粒顕 著・白色鈹物粒・黒 色鈹物粒・チャー ト/やや軟質	断面台形の突帯貼付。円形と考えられる。透孔の一部が残 存。器面は摩滅が著しいが、外面は縦ハケ。突帯周辺は横撫 で。内面は縦方向の撫で。	
第89図	9	円筒埴輪			白色鈹物粒・雲母	断面台形の上稜がやや高い突帯貼付。外面は突帯貼付後の 横撫で。内面は撫でが施されていると考えられる。	
第90図	10	瀬戸・美濃 陶器せんじ 碗	底部	底 3.6	浅黄	高台端部を除き灰釉と鉄釉の掛け分け。	18世紀中頃。
第90図	11	在地系土器 片口鉢	口縁部片		A/灰	還元炎。口縁部外面は上端から4.5cmまで横撫で。外面の横 撫で境は横線状に窪む。口縁部は丸みを持って立ち上がる。	14世紀中頃～ 後半頃。
第90図	12	在地系土器 片口鉢	体部下位から底 部片		にぶい橙	底部外面は砂底状。使用により内面の器表は摩滅。	中世。
第90図	13	在地系土器 片口鉢	片口部片		A/明赤褐	口縁部外面は上端から2.5cmほど横撫で、以下は撫で。口縁 部内面器表は剥離。口縁部端部は内側に突き出す。	15世紀前半 頃。
第90図	14	在地系土器 内耳鍋	口縁部片		A/黒褐	断面はにぶい橙色、器表は黒褐色。口縁部下で外反。外反部 内面に明瞭な段差。口縁部上面は平坦で内面は明瞭な稜を なす。口縁部外面は僅かに突き出る。	16世紀前半～ 中頃か。

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)	石材	製作状況・使用状況	備考	
第90図 PL. 122	15	打製石斧 撥状?	一括	長 12.1 厚 2.8	幅 6.8 重 198.6	黒色頁岩	未製品?幅広の身部に棒状の装着部が付く。側縁加工は淡泊で、エッジはシャープである。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		樹種	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL. 122	16	木製品 椀	一部欠損 1号井戸周辺	口 高 (14.0)	底 7.7 (8.0)	エノキ属	内外面黒漆塗り。内面は赤漆塗布後黒漆塗りか。外面は黒漆塗りに一部赤漆で文様を描いている。	
第90図 PL. 122	17	木製品 底板	一部欠損 1号井戸周辺	直径	厚 0.5 ~ 0.9	スギ	厚さが一定ではない。加工痕あり。	
第90図 PL. 122	18	木製品 曲物	欠損 1号井戸周辺	長 (16.9)	幅 (8.7)	スギ	破片になってしまい復元できない。個体数も不明である。重なり部分に止め痕が残っている。端部は斜めに削いで薄くなっている。	
第90図 PL. 122	19	木製品 曲物	欠損 1号井戸周辺	長 (10.5)	幅 (7.1)	スギ	破片になってしまい復元できない。個体数も不明である。重なり部分に止め痕が残っている。端部は斜めに削いで薄くなっている。	
第90図 PL. 122	20	木製品 曲物	欠損 1号井戸周辺	長 (13.5)	幅 (9.7)	スギ	破片になってしまい復元できない。個体数も不明である。内面下端に繊維状(植物質か)の止め具が残っている。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴		備考
第90図 PL. 122	21	鉄 鉄器		長 4.0 厚 50.3	幅 2.7 重 13.3	長方形板状鉄製品で一角がわずかに曲がるが、鎌とは言い難い。劣化剥落多く脆弱。		
第90図 PL. 122	22	鉄 鉄器		長 10.3 厚 0.3	幅 1.1 重 10.39	茎の端部を欠く刀子棟側に関しては明瞭だが刃側は錆に覆われ不明瞭。茎と刃の幅はほぼ同じで研ぎ減りによるとみられる		
	23	鉄 鉄滓		長 2.0 厚 0.8	幅 1.8 重 3.39	表面および内部に発砲が見られる。		

上西根遺跡観察表

1区1号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第93図	1	土師器 杯	1/3 埋没土	口 12.8	高 4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は丁寧な撫で。	粉っぽい素地で。
第93図 PL. 123	2	土師器 杯	口縁一部欠 埋没土	口 11.9	高 4.9	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/浅黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	色調が他と異質
第93図	3	土師器 杯	口縁~底部片 埋没土・掘方土	口 13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第93図	4	土師器 杯	1/4 埋没土	口 11.8 底 9.4	高 3.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第93図	5	土師器 杯	1/4 床面直上	口 12.2 底 9.2	高 3.1	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は丁寧な撫で。	硬質
第93図 PL. 123	6	須恵器 杯	3/4 カマド床面上10cm	口 12.5 底 7.0	高 3.3	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(左回転)底部回転へら起こし無調整。	円面に火襷
第93図 PL. 123	7	須恵器 杯	3/4 カマド床面上10cm	口 12.9 底 7.6	高 3.8	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)底部回転糸切り後、周辺を回転へら削り。	口縁部の内外面酸化
第93図 PL. 123	8	須恵器 杯	口縁一部欠 床面上10cm	口 13.0 底 7.0	高 4.2	細砂粒・粗砂粒/酸 化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)底部回転へら削り。	口縁部に歪み
第93図	9	須恵器 椀	高台部 床面直上	底 8.1	高台 8.4	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)高台は、底部回転へら削り後の丁寧な付け高台。	

1区2号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第95図 PL. 123	1	土師器 杯	完形 床面上21cm	口 10.7	高 3.4	細砂粒・小礫・角閃 石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に狭く撫での部分を残す。内面は撫で。	
第95図	2	土師器 杯	口縁~底部片 カマド埋没土	口 12.0		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に広く撫での部分を残す。	
第95図	3	土師器 杯	口縁~底部片 床面上1cm	口 10.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	粉っぽい素地
第95図	4	土師器 杯	口縁~底部片 埋没土	口 12.8		細砂粒・角閃石/明 赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第95図	5	土師器 杯	口縁~底部片 カマド底面直上	口 11.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第95図 PL. 123	6	須恵器 蓋	1/3 床面上3cm	口 10.4	高 2.8 摘 1.4	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)摘みは寶珠摘みで、天井部外面を回転へら削り後の貼り付け。	口縁部内面に重ね焼きによる変色

1区3号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第97図 PL. 123	1	土師器 杯	完形 床面上41cm	口 12.4	高 5.2	細砂粒・粗砂粒/良 好/浅黄橙	口縁部は横撫で。底部は粗いへら磨き。内面は丁寧なへら磨き後、黒色処理。	
第97図 PL. 123	2	土師器 杯	2/3 床面上47cm	口 11.6	高 3.9	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第97図	3	土師器 盤	底部片 床面上38cm			細砂粒/良好/橙	脚は貼り付けで外面は縦のへら削り。内面は縦の撫で。	

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第97図	4	土師器 甕	口縁～胴部 床面上48cm	口	14.8		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は斜めのヘラ撫で	胴部外面に煤 付着
第97図	5	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上1cm	口	23.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
第97図	6	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上44cm	口	18.6		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 口縁部外面に 輪積み痕
第98図	7	土師器 杯	1/3 埋没土	口	10.4		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で後、放射状ヘラ磨き。	
第98図	8	土師器 杯	1/3 埋没土	口	12.6		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第98図 PL. 123	9	土師器 杯	1/2 埋没土	口	10.0	高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に狭く撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面摩滅
第98図	10	土師器 杯	1/4 埋没土	口	11.8	高 3.3	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	粉っぽい素地
第98図	11	土師器 杯	1/4 埋没土	口	13.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面に細かな ハゼ
第98図	12	土師器 杯	1/4 埋没土	口	13.7		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面の一部吸 炭
第98図	13	土師器 杯	1/3 埋没土	口	13.0	高 3.2	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅。
第98図	14	土師器 杯	1/4 埋没土	口	19.4		細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面摩滅。
第98図	15	須恵器 盤	口縁～体部片 埋没土	口	20.7		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)底部は回転ヘラ削り。	内面にハゼ
第98図 PL. 123	16	土師器 小型甕	1/2 埋没土	口	6.4	高 6.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第98図	17	土師器 小型甕	口縁～胴部片 埋没土	口	15.8		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのヘラ削り。内面は撫で。	内面やや摩滅
第98図	18	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	19.7		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	
第98図	19	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	18.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第98図 PL. 123	20	敲石 扁平楕円礫	一括 埋没土	長 8.4 厚 3.3	幅 7.3 重 325.74		粗粒輝石安山岩	小口部・両側縁に敲打痕がある。	
第98図 PL. 123	21	磨石類? 扁平楕円礫	埋没土	長 19.0 厚 6.0	幅 12.9 重 1841.05		粗粒輝石安山岩	背面側中央付近に敲打痕がある。属性的には台石として認定すべきものか。	
PL. 123	22	敲石 扁平楕円礫	埋没土	長 14.5 厚 5.8	幅 6.7 重 674.69		溶結凝灰岩	小口部両端・両側縁に敲打痕がある。	写真のみ
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第98図 PL. 123	23	鉄製品 不明	南東 埋没土	長 8.2 厚 0.3	幅 0.5 重 6.03		泥を巻き込み錆化本体は劣化空洞化する。一端がとがる棒状を呈するが断面は四角形で鉄鏃の破片か。		

1区4号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第99図	1	土師器 皿	口縁～底部片 埋没土	口	15.8		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅
第99図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	11.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第99図	3	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	口	11.8		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第99図 PL. 123	4	須恵器 蓋	2/3 掘方土	口	16.0	高 3.1 摘 4.1	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)摘みは環状摘みで、天井部外面を回転ヘラ削り後の貼り付け。	

1区5号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第101図	1	土師器 杯	1/2 埋没土	口	11.8	高 3.5	細砂粒・輝石/良好 /橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地
第101図	2	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	口	9.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第101図 PL. 123	3	土師器 甕	胴部一部欠 掘方土	口 底	21.0 2.5	高 33.3	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。底部はヘラ削り。	胴部内面の中 位に接合痕
第101図	4	土師器 甕	口縁～胴部 埋没土	口	20.9		細砂粒・角閃石・雲 母粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	胴部内面に輪 積み痕
第101図	5	土師器 甕	口縁～胴部 埋没土	口	19.0		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に弱い凹線を巡らせる。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
第101図	6	須恵器 壺	頸部～胴部片 埋没土				細砂粒/還元焰/灰 白	胴部下半は叩き成形か。	頸部外面～肩 部に細かなハ ゼ

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)	石材	製作状況・使用状況	備考
第101図 PL. 123	7	磨石類? 扁平楕円礫	埋没土	長 18.0 厚 3.6	幅 16.6 重 1441.3	粗粒輝石安山岩	背面側にはアバタ状の凹凸があり、打痕と判断した。これに対して裏面側は平滑で摩耗したように見える。属性的には台石として認定すべきものか。

1区6号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第102図	1	土師器 皿	1/3 埋没土	□ 18.9 高 4.5	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面摩滅
第102図 PL. 123	2	土師器 杯	3/4 床面下8cm	□ 11.5 高 3.5	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 底部に黒斑
第102図	3	土師器 杯	1/4 埋没土	□ 12.0 高 4.3	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面わずかに 摩滅。粉っぽい 素地
第102図	4	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	□ 13.0	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	外面摩滅。 粉っぽい素地
第102図	5	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	□ 11.8	細砂粒・角閃石/良 好/灰	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は丁寧な撫で。	内外面吸炭
第102図	6	須恵器 壺	口縁～体部片 埋没土	□ 6.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)胴部下半は回転へら削り。	

1区7号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第104図 PL. 123	1	土師器 杯	口縁一部欠 床面上6cm	□ 12.1 高 3.5	細砂粒・角閃石/良 好/浅黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第104図 PL. 123	2	土師器 甕	3/4・カマド底面 上21cm	□ 21.4	細砂粒・軽石/良好 /橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのへら削り。内面は撫で。	胴部内面下位 に接合痕。
第104図 PL. 124	3	土師器 甕	2/3・カマド底面 上16cm	□ 19.8	細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのへら削り。内面は撫で。	胴部内面下位 に接合痕
第104図 PL. 123	4A	土師器 甕	1/3・カマド底面 上14cm	□ 19.6	細砂粒・粗砂粒/良 好/赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのへら削り。内面は横のへら撫で。	頸部外面に輪 積み痕。硬質 な焼成
第104図 PL. 123	4B	土師器 甕	胴部～底部・カ マド底面上14cm	底 4.0	細砂粒・粗砂粒/良 好/赤褐	胴部外面は斜めのへら削り。内面は斜めの撫で。	硬質な焼成。 4Aと同一固体
第104図 PL. 123	5	土師器 甕	口縁～胴部片・カ マド底面上44cm	□ 21.8	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのへら削り。内面は斜めの撫で。	
第104図	6	土師器 甕	口縁～胴部片 カマド埋没土	□ 21.7	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。胴部上半は横の、下半は縦のへら削り、内面は横のへら撫で。	頸部外面に輪 積み痕

1区8号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第105図	1	土師器 皿	1/3 床面上4cm	□ 18.6 高 4.0	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅顕 著
第105図	2	土師器 杯	1/4 埋没土	□ 13.0 高 4.3	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は丁寧な撫で。口唇部に凹線を巡らせる。	
第105図	3	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	□ 12.8	細砂粒・角閃石/良 好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。口唇部内面に凹線を巡らせる。	底部に黒斑
第105図	4	土師器 杯	1/4 埋没土	□ 11.0	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅
第105図 PL. 124	5	土師器 杯	3/4 掘方土	□ 12.4 高 4.2	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅
第105図	6	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上12cm	□ 20.7	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。	内外面に細か なハセ、摩滅 顕著
第105図 PL. 124	7	土師器 甕	1/4 埋没土	底 4.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は縦のへら削り、内面は撫で。	下端に貫通孔 がある、礫が 抜けたものか

1区9号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第106図 PL. 124	1	土師器 杯	口縁一部欠 床面上9cm	□ 13.0 高 3.4	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面摩滅
第106図	2	土師器 杯	1/3 カマド掘方土	□ 12.9 高 3.5	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。	
第106図	3	須恵器 蓋	1/2 床面上1cm	□ 12.9	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)摘みは欠損し不明、天井部外面に回転へら削り。	焼成時の変形 顕著
第106図 PL. 124	4	須恵器 杯	口縁部一部欠損 床面上1cm	□ 13.8 高 4.7 底 8.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転)底部回転糸切り後、周辺及び体部下端を回転へら削り。	
第106図 PL. 124	5	土師器 甕	底部一部欠 カマド掘方土	□ 21.0 高 28.0 底 4.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横、下半は斜めのへら削り。内面は撫で。	胴部内面下位 に接合痕。口 縁部外面に輪 積み痕

1区10号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第107図 PL. 124	1	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	□ 14.3	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面はへら磨き後、漆塗りか	

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第107図	2	土師器 杯	1/4 床面上1cm	口	17.8	高 5.5	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第107図	3	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口	13.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は丁寧な撫 で。	内面に油煙付 着
第107図 PL. 124	4	須恵器 杯	3/4 床面上1cm	口 底	11.8 7.5	高 4.2	細砂粒・粗砂粒・雲 母/還元焰/灰白	ロクロ整形(左回転)底部回転へら削り。	胎土異質
第107図	5	須恵器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 底	13.6 9.0	高 3.2	細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形(右回転)高台は剥落しているが、底部回転へら 削り後の付け高台。	ロクロ整形痕 が狭い

1区11号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第108図	1	土師器 皿	口縁～底部片 床面直上	口	17.8		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅
第108図	2	土師器 杯	1/4 掘方土	口	11.8	高 3.0	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第108図	3	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	11.8		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。	内外面にハゼ
第108図	4	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	粉っぽい素地
第108図	5	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上1cm	口	24.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削りで、頸部への当たり りが顕著。内面は横のへら撫で。	

1区12号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第109図 PL. 124	1	須恵器 円盤状土製品	底部片 掘方土	長 厚	8.4 1.1	幅 8.6	細砂粒/還元焰/灰	底部回転糸切り無調整の杯底部の周辺を打ち欠き整形	

1区13号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第111図 PL. 124	1	土師器 杯	口縁一部欠 床面上2cm	口	13.2	高 3.9	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に狭く撫での 部分を残す。内面は撫で。	
第111図	2	土師器 杯	1/2 床面上5cm	口	13.4		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	外面に輪積み 痕
第111図	3	土師器 杯	1/2 埋没土	口	12.7		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	内外面摩滅
第111図	4	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第111図	5	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	口	12.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	粉っぽい素地
第111図	6	土師器 杯	口縁～底部 床面上5cm	口	17.8		細砂粒・軽石/良好 /橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第111図	7	須恵器 杯	口縁～底部片 掘方土	口 底	11.8 6.0		細砂粒・角閃石/酸 化焰/明赤褐	ロクロ整形(回転方向不明)底部の切り離し不明。	
第111図 PL. 124	8	須恵器 杯	3/4 床面上1cm	口	16.2		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/還元焰 /灰	ロクロ整形(左回転)高台は剥落しているが、底部回転へら 削り後の付け高台。	
第111図 PL. 124	9	土師器 甕	胴部一部欠 床面直上・掘方 土	口 底	23.5 6.3	高 30.5	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め～縦のへら削り、内面は撫 で。底部はへら削り。	胴部内面下位 に接合痕。口 縁部外面に輪 積み痕
第111図	10	土師器 甕	口縁～胴部 床面上1cm	口	22.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横の、下半は斜めのへら削 り。内面は横のへら撫で。	胴部内面下位 に接合痕
第111図	11	土師器 甕	口縁～胴部 床面直上	口	23.8		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横～縦のへら削り。内面は撫 で。	内外面摩滅、 口縁部外面に 輪積み痕
第111図 PL. 124	12	土師器 甕	1/4 掘方土	口	23.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/赤	口縁部は横撫で。胴部外面上位は横、中位以下は斜めのへら 削り。内面は撫で。	胴部内面下位 に接合痕。
第111図	13	土師器 甕	口縁～頸部片 床面直上	口	25.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	
第111図	14	土師器 甕	口縁～胴部片 床面直上	口	23.6		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り、内面は横のへら 撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
第111図 PL. 125	15	土師器 甕	口縁～胴部片 床面直上	口	21.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、内面は横のへ ら撫で。	胴部内面に輪 積み痕
第111図	16	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上2cm	口	22.7		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は撫で。	
第111図	17	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上1cm	口	23.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
第111図	18	土師器 甕	口縁～胴部片 床面直上	口	22.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、内面は横のへ ら撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第111図 PL. 125	19	鉄製品 刀子	ほぼ完形 掘方土	長 厚	14.4 0.35	幅 重 1.0 25.4	泥・砂を巻き込み錆化し本体は脆弱で詳細な形状不明瞭だが、X線観察により 棟に明瞭な関を有する細い刀子とみられる。		

遺物観察表

1区14号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第112図	1	土師器 甕	口縁部片 埋没土	口	22.9		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第112図 PL. 125	2	砥石 礫砥石	埋没土	長 厚	(6.4) 2.9	幅 重	7.7 134.57	粗粒輝石安山岩	背面側が研ぎ減り、顕著に窪む。裏面側には漏斗状の凹部があり、縄文期石器を転用したものと見られる。

1区15号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第113図	1	土師器 杯	1/4 床面上3cm	口	10.8		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で	
第113図	2	土師器 杯	1/4 埋没土	口	12.8	高	3.2	細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は丁寧な撫で。
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
PL. 125	3	カマド 構築材	カマド埋没土	長 厚	13.1 9.6	幅 重	12.5 965.86	未固結凝灰岩	角柱状(最大厚8cm)に切り取り、面取り整形してカマドの芯材としたもの。整形痕・被熱痕跡とも見られない。

1区16号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第115図	1	土師器 杯	1/3 掘方土	口	10.8	高	3.8	細砂粒・角閃石/良 好/黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で	内外面摩滅
第115図	2	土師器 杯	1/3 埋没土	口	10.8	高	4.3	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面の 一部吸炭
第115図	3	土師器 鉢	口縁～胴部片 埋没土	口	9.8			細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は横の手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第115図	4	須恵器 杯	口縁～体部片 床面上8cm	口	14.0			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形(右回転)底部回転ヘラ削り	
第115図	5	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	18.8			細砂粒・角閃石・軽 石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
第115図	6	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	20.6			細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 明黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で	
第115図	7	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	20.4			細砂粒・粗砂粒・軽 石・石英/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
第115図	8	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	20.6			細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	口縁部内外面に 輪積み痕
第115図 PL. 125	9	土製品円盤 状土製品 (甕)	完形 埋没土	長 幅	3.7 4.2	厚 み	0.9	細砂粒・角閃石/良 好/灰白	甕の胴部破片の周辺を打ち砕いて整形。	

1区17号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第116図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.8			細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、口唇部に凹線を巡らせる。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面吸炭
第116図 PL. 125	2	土師器 杯	1/2 埋没土	口	12.0	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第116図 PL. 125	3	土師器 杯	2/3 埋没土	口	13.0	高	4.1	細砂粒・粗砂粒・輝 石/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面摩滅
第116図 PL. 125	4	土師器 杯	口縁一部欠 埋没土	口	11.2	高	4.2	細砂粒・角閃石/良 好/黒褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に雑な撫での部分を残す。内面は撫で後、内外面吸炭。	
第116図	5	埴輪 器種不明	板状の破片(器 財埴輪か) 床面上11cm					白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/良好	裏面に明瞭な変換点を有し、翼状に屈曲する。外面に斜方向に延びる線刻が2条見られる。上位割れ口寄りにも弱い線刻状の条が見られる。器面の仕上げは丁寧で外面には撫で、裏面は外辺寄りに右斜め方向のハケ目を、その他にはヘラ削りを施す。	盾や靴の可能 性あり・天地 不明

1区18号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第118図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	10.7	高	3.4	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。	
第118図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 底	11.8 8.6	高	3.0	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面摩滅
第118図	3	土師器 鉢	口縁～体部片 埋没土	口	18.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。外面中位に段を有する。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第118図 PL. 125	4	土師器 甕	口縁～胴部3/2 掘方土	口	18.5			細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
第118図 PL. 125	5	土師器 甕	胴部～底部2/3 掘方土	口	5.3			細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい黄褐	胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。底部はヘラ削り。	
第118図	6	土師器 甕	口縁～胴部片 掘方土	口	17.6			細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	口縁部の歪み 顕著

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第118図	7	土師器 甕	口縁～胴部片 床面直上	口 19.5		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・石英/良好/ 明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は撫で。
第118図	8	須恵器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口 19.9		細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き、内面は青海波文。
第118図 PL. 125	9	土製品円盤 状土製品 (甕)	完形 埋没土	長 幅 4.8 5.3	厚 0.8	細砂粒/還元焰/灰 白	外面は平行叩き、内面は青海波文の甕。胴部破片の周辺を打ち砕き整形。

1区1号井戸

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第119図	1	土師器 杯	1/4 埋没土	口 13.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に雑な撫での部分を残す。内面は撫で。	
第119図	2	須恵器 杯	1/2 埋没土	口 底 13.8 7.0	高 4.4	細砂粒・軽石/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周辺を回転へら削り。	
第119図	3	須恵器 杯	1/4 埋没土	口 底 13.4 9.0	高 3.7	細砂粒・軽石/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちへら削り。	
第119図	4	土師器 甕	底部片 埋没土	底 5.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	胴部外面は斜めのへら削り。内面はへら撫で。底部はへら削り。	底部に黒斑り。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	樹種	成形・整形の特徴	同定特徴	
第119図 PL. 125	5	木製品 不明	一部欠損 埋没土	長 厚 14.5 1.2	幅 7.0	ヒノキ属	板状。長方形の穴(縦2.1cm、横2.8cm)あり。上部の湾曲部分は丁寧に面取りされている。	
第119図 PL. 125	6	木製品 不明	一部欠損 埋没土	長 厚 (10.2) (1.3)	幅 4.5	エノキ属	左面下部に加工痕あるが、摩擦している。右面は全面剥離。	
第119図 PL. 125	7	木製品 不明	欠損 埋没土	長 厚 (5.5) (1.4)	幅 (4.7)	クリ	表面は黒く変色している。裏面の大部分は剥離。	

1区3号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第121図 PL. 125	1	土師器 杯	口縁一部欠 床面上29cm	口 11.2	高 3.6	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅、 粉っぽい素地
第121図	2	土師器 杯	1/3 床面上22cm	口 12.4		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫でと指の押圧を施した部分を残す。内面は撫で。	

1区4号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第122図	1	須恵器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口 11.6		細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	叩き成形。外面は叩き不明。内面は青海波文。

1区2号ピット

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第123図	1	土師器 杯	1/2 底面上24cm	口 底 11.8 8.6	高 2.6	細砂粒・軽石/良好 /橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面の摩滅顕 著
第123図	2	須恵器 椀	口縁～体部片 埋没土	口 12.6		細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。	

1区遺構外

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第125図	1	土師器 皿	口縁～底部片	口 16.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅
第125図	2	土師器 杯	1/2	口 13.0	高 3.5	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	口縁部外面の 一部吸炭
第125図	3	土師器 杯	口縁～底部片	口 12.8		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第125図	4	須恵器 鉢	口縁～体部片	口 23.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	
第125図	5	土師器 甕	口縁～胴部片	口 21.2		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのへら削り、内面は横のへら撫で。	
第125図	6	土師器 甕	口縁～胴部片	口 22.6		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に凹線を巡らせる。胴部外面は横のへら削り。内面は横のへら撫で。	
第125図	7	美濃陶器 筒形香炉	1/4	口 (11.0)		淡黄	口縁部は「T」字状をなし、上面は内傾。口縁部内面から体部外面下位に胎釉。口縁部内外面細かい剥離が連続する。	18世紀頃、灰吹きとして使用。
第125図	8	形象埴輪	板状破片			赤色粘土粒やや顕 著・白色鉱物粒・黒 色鉱物粒/やや軟 質	外面は縦、横方向のハケ目。内面は横方向の上に縦方向のハケ目を重ねる。	天地不明
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第125図 PL. 125	9	銅製品 煙管吸口		長 厚 8.0 1.1	幅 重 1.1 515.5		肉厚のキセル吸い口で口付はラッパ状に広がる。肩付近に一部金を貼り付けたような装飾が1か所残るほかその装飾の剥がれた痕跡が1か所ある	

遺物観察表

2区1号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第127図 PL. 125	1	土師器 杯	完形 床面上2-3cm	口	10.0	高 3.4	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	

2区2号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第129図 PL. 125	1	土師器 杯	3/4 床面上3cm	口	9.7	高 4.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で、全体に雑な作り。	粉っぽい素地に黒斑。
第129図 PL. 125	2	土師器 杯	2/3 床面上1cm	口	11.0	高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅。底部に黒斑。粉っぽい素地。
第129図	3	土師器 杯	1/4 床面上2cm	口	10.0		細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅。底部に黒斑。
第129図	4	土師器 杯	底部片 埋没土				細砂粒・角閃石/良好/橙	底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に油煙状の物質付着。
第129図 PL. 125	5	須恵器 蓋	口縁部一部欠損 床面上4cm・掘方土	口	11.8	高 3.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)天井部回転ヘラ起こし。	外面の一部に薄く自然釉
第129図	6	土師器 甕	口縁～胴部片 カマド底面上10cm	口	22.8		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
第129図 PL. 125	7	土師器 甕	胴部～底部 掘方土	底	5.6		細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙	胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。底部はヘラ削り。	胴部外面下位に粘土付着。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第129図 PL. 125	8	鉄製品 釘か	掘方土	長 5.8 厚 0.4	幅 0.5 重 4.09	断面四角形の鉄製品で幅4mmから3mmと徐々に細くなる、両端は錆化不明瞭である。釘の破片か。			

2区4号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第132図	1	土師器 杯	口縁～底部片 床面上19cm	口	13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第132図 PL. 126	2	土師器 有蓋高杯	1/3 埋没土	口	8.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部回転ヘラ削り後、脚を貼り付け。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第132図 PL. 126	3	石製品 楕円礫	床面上2cm	長 8.5 厚 5.7	幅 7.5 重 269.72	粗粒輝石安山岩	背面側・右側面が研磨され、平坦面が形成されている。軽石質。		
第132図 PL. 126	4	敲石 楕円礫	床面上18cm	長 11.8 厚 5.7	幅 6.4 重 481.3	粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕。		
第132図 PL. 126	5	磨石類? 扁平円礫	カマド底面上 8cm	長 11.9 厚 2.5	幅 10.3 重 496.5	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗するよう見えるほか、礫中央部に打痕がある。台石的だがサイズ的には小さく、便宜的に磨石の類と捉えた。		
第132図 PL. 126	6	磨石類? 扁平楕円礫	カマド底面上 4cm	長 18.8 厚 3.6	幅 15.1 重 1447.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも敲打痕を伴う光沢面(摩耗面)が広がるほか、側縁には敲打痕が著しい。属性的には台石とすべきか。		
PL. 126	7	砥石? 礫砥石	カマド底面上 11cm	長 13.8 厚 5.5	幅 5.7 重 585.6	ホルンフェルス	背面側平坦面に縦線条痕が見られる。礫面は部分的に被熱して破損している。	写真のみ	

2区5号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第133図 PL. 126	1	土師器 杯	口縁一部欠 床面上16cm	口	10.3	高 3.3	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第133図 PL. 126	2	土師器 杯	3/4 床面直上・掘方土	口	10.3	高 3.3	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第133図 PL. 126	3	土師器 高杯	脚部 掘方土	脚 径	13.5		細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	脚部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ削り。	
第133図	4	土師器 小型甕	1/2・床面上 15cm・掘方土・カマド埋没土	口 底	11.8 4.3		細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/灰黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面はヘラ撫で。	
第133図 PL. 126	5	土師器 甕	口縁一部欠 掘方土	口 底	19.5 3.6	高 27.3	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/灰白	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め～縦のヘラ削り。内面は斜めのヘラ撫で。	胴部内面下位に接合痕。
第133図 PL. 126	6	土師器 甕	口縁・胴部一部 欠 床面直上	口 底	21.7 4.2	高 38.5	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦～斜めのヘラ削り。内面は撫で。	胴部外面中位に粘土付着。内面に接合痕。
第133図 PL. 126	7	土師器 甕	床面直上	口 底	23.0 5.7	高 43.1	細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。	胴部外面上半に粘土付着。内面下半は変色
第133図 PL. 126	8	土師器 甕	完形 カマド掘方土	口 底	20.4 4.3	高 37.3	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	胴部外面中位及び下半に粘土付着。内面中位に接合痕。

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第133図 PL. 127	9	土師器 甕	2/3 カマド掘方土	口	20.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/灰白	口縁部は横撫で、胴部外面は縦のヘラ削り、内面は斜めのヘ ラ撫で。	内外面剥離	
第133図 PL. 127	10	土師器 甕	口縁～胴部 カマド底面上1c m	口	20.6		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ 撫で。底部はヘラ削り。	胴部外面剥離	
第133図	11	土師器 甕	口縁～胴部片 カマド底面上 21cm	口	20.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横のヘラ 撫で。		
第133図	12	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上5cm・掘方 土	口	21.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。		
第133図	13	土師器 甕	口縁片 カマド底面上 5cm	口	16.9		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。	内外面摩滅	
第133図	14	土師器 甕	胴部～底部片 床面上4cm・掘方 土	底	5.5		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい黄橙	胴部外面は縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。底部はヘラ削 り。	外面に粘土付 着	
第134図	15	須恵器 甕	頸部～胴部片 床面上19cm				細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面平行叩き。内面は青海波文。頸部に補強帯を 巡らす。	外面及び頸部 内面に自然釉	
第134図 PL. 126	16	須恵器 甕	口縁～肩部 床面上16cm	口	18.2	高	細砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は青海波文。		
第134図 PL. 127	17	土師器 杯	1/2 埋没土	口	12.2	高 3.4	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	内外面わずかに 摩滅	
第134図 PL. 127	18	土師器 杯	口縁一部欠 床面上21cm	口	12.9	高 3.6	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。		
第134図 PL. 127	19	土師器 杯	3/4 床面上21cm	口	12.8	高 3.3	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。		
第134図 PL. 127	20	土師器 杯	体部一部欠 床面上19cm	口 底	13.9 10.0	高 4.4	細砂粒・粗砂粒・輝 石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。体部 整形は判然としない	内外面の摩滅 顕著	
第134図	21	須恵器 蓋	1/2 埋没土	口	17.0		細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)天井部外面に回転ヘラ削り。摘み不明。	藤岡か	
第134図	22	須恵器 蓋	口縁～天井部片 埋没土	口	13.8		細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)天井部外面に回転ヘラ削り。		
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第134図 PL. 127	23	磨石類?扁 平円礫	床面上5cm	長 厚	13.2 3.1	幅 重	12.4 692.9	粗粒輝石安山岩	背面側全面・裏面側周辺が被熱して煤ける。礫面の摩耗痕等 は不明。	
第134図 PL. 127	24	磨石類?扁 平円礫	床面上3cm	長 厚	13.8 3.4	幅 重	12.0 825.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗するように見える。背面側中央付近に 浅い被熱剥落痕がある。	
第134図 PL. 127	25	磨石類?扁 平円礫	カマド埋没土	長 厚	11.8 3.4	幅 重	10.7 528.7	粗粒輝石安山岩	背面側に斜向する浅い線条痕がある。礫面の摩耗痕等は不明。 礫面にススの付着は見られない。	
第134図 PL. 127	26	磨石類?扁 平円礫	床面上2cm	長 厚	12.3 3.7	幅 重	(10.3) 639.7	粗粒輝石安山岩	背面側が摩耗するほか、上端部に打痕がある。礫面には部分的 に煤けており、下端部の破損は被熱によるもの。	
PL. 127	27	敲石 楕円礫?	床面上28cm	長 厚	13.9 5.7	幅 重	6.0 623.6	粗粒輝石安山岩	小口部・側縁に打痕がある。破損面には風化面があり、礫そ のものが本来的にヒビ割れていたものと見られる。	写真のみ
PL. 127	28	敲石 扁平楕円礫	掘方土	長 厚	14.1 4.8	幅 重	8.5 832.9	デイサイト	小口部両端に敲打痕がある。	写真のみ
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考	
	29	粘土 粘土塊	カマド掘方土	測定 不能	重	116.62	スサを含む、被熱した粘土塊片が生じている。			

2区7号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第136図	1	土師器 杯	1/4 床面上11cm	口	11.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。	底部の摩滅顕 著、内面に細 かなハゼ
第136図	2	土師器 杯	口縁～底部片 床面上2cm	口	14.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第136図 PL. 127	3	土師器 甕	3/4 カマド底面直上	口	22.8 4.3	高 37.4	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ 撫で。	胴部内面中位 に接合痕。外 面中位にわず かに粘土付 着。
第136図 PL. 127	4	土師器 甕	3/4 床面上1cm	口	21.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘ ラ撫で。	胴部内面中位 に接合痕。口 縁部外面に輪 積み痕
第136図	5	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上1cm	口	17.8		細砂粒・粗砂粒・輝 石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	
第136図 PL. 127	6	土師器 甕	1/2 カマド底面上1cm	口	19.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で、胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	胴部外面中位 に粘土付着。 口縁部外面に 輪積み痕
第136図	7	土師器 甕	口縁～胴部片 床面直上	口	21.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は斜めのヘ ラ撫で。	

遺物観察表

2区10号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第139図 PL. 128	1	土師器 杯	完形 カマド掘方土	口	13.3	高 3.0	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	口縁部内面の 一部に煤付着
第139図 PL. 128	2	土師器 杯	完形 カマド掘方土	口	10.1	高 3.4	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第139図	3	土師器 杯	1/3 床面上1cm	口	11.0	高 3.5	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。	内面のハゼ顕 著
第139図	4	土師器 杯	口縁～底部片 カマド掘方土	口	12.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第139図 PL. 128	5	土師器 鉢	3/4 床面直上カマド 掘方土	口	19.3	高 9.3	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。体部外面は横のへら削り。底部はへら削 り。内面は撫で。	内外面摩滅
第139図	6	土師器 鉢	1/3 床面上1cm・掘方 土	口	16.4		細砂粒・角閃石・良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部外面は斜めのへら削り、内面は斜め のへら撫で。	体部外面上位 に炭化物付着
第139図 PL. 128	7	土師器 甕	胴部一部欠 カマド床面上 2cm・カマド埋没 土	口 底	20.4 4.9	高 36.5	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り、胴部下端は斜め のへら削り。内面は横のへら撫で。底部はへら削り。	胴部外面中位 に粘土付着。 内面下位に接 合痕。
第139図 PL. 128	8	土師器 甕	底部一部欠 カマド埋没土	口 底	21.3 6.0	高 38.3	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は斜めのへ ら撫で。底部はへら削り。	胴部内面の中 位に接合痕
第139図 PL. 128	9	土師器 甕	3/4 カマド埋没土	口	20.9		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、内面は横のへ ら撫で。	胴部内面下半 に輪積み痕
第139図 PL. 128	10	土師器 甕	口縁～胴部 カマド埋没土	口	15.8		細砂粒・粗砂粒・石 英・角閃石・軽石/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は横のへ ら撫で。	
第139図 PL. 128	11	土師器 甕	口縁～胴部 カマド底面上3c m・カマド掘方土	口	16.4		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は撫で。	
第139図	12	土師器 甕	口縁～胴部 カマド埋没土	口	20.4		細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、内面は横のへ ら撫で。	

2区11号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第140図 PL. 128	1	須恵器 杯	1/2 床面上9cm・掘方 土	口 底	14.2 8.2	高 3.8	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は回転糸切り後、周辺を回転へら 削り。	内外面摩滅。 口縁部内面は 顕著
第140図	2	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上16cm・掘 方土	口	20.8		細砂粒・粗砂粒/角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部内面は横の撫で。	口縁部外面に 輪積み痕、内 外面摩滅

2区12号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第141図	1	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	口	10.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	内外面摩滅。 底部に黒斑。 粉っぽい素地
第141図	2	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	口	12.0		細砂粒・軽石/良好 /橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第141図	3	土師器 小型甕	口縁～胴部片 床面上1cm	口	10.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は撫で	粉っぽい素地
第141図	4	土師器 小型甕	口縁～胴部片 埋没土	口	7.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は横の撫 で。	

2区13号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第142図	1	土師器 杯	口縁～底部片 1号床下土埋没 土	口	10.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	
第142図 PL. 128	2	土師器 杯	1/2 床面上2cm	口	13.6	高 4.2	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	

2区14号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第143図	1	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口	13.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第143図	2	須恵器 蓋	摘み片 掘方土	口	8.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)摘みは大振りな環状摘みで、天井部の 外面を回転へら削り後、丁寧な貼り付け。	天井部の内面 は平滑
第143図	3	土師器 甕	口縁～頸部片 掘方土	口	19.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
第143図	4	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上12cm	口	17.4		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は横のへ ら撫で。	

2区15号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第144図	1	土師器 杯	1/4 掘方土	口	10.9		細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地	
第144図	2	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	粉っぽい素地	
第144図	3	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。		
第144図	4	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	口	13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地	
第144図	5	土師器 費	口縁～胴部辺 床面上5cm	口	24.6		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、内面は横のへら撫で。		
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第144図 PL. 128	6	敲石 楕円礫	床面直上	長 厚	8.9 5.3	幅 重	5.2 236.13	粗粒輝石安山岩	小口部上端・右側縁に敲打痕。	
PL. 128	7	敲石 楕円礫	掘方土	長 厚	12.2 5.0	幅 重	5.7 330.99	デイスait	小口部下端に敲打痕。	写真のみ

2区17号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第147図 PL. 128	1	土師器 杯	1/3 埋没土	口	11.0	高	2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第147図 PL. 128	2	土師器 杯	完形 掘方土	口	11.0	高	3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。	内外面摩滅。 底部のハゼ顕著。 粉っぽい素地
第147図 PL. 128	3	土師器 杯	完形 床面上9cm	口	10.6	高	3.8	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第147図	4	土師器 杯	1/4 掘方土	口	10.8	高	3.8	細砂粒・角閃石/良好/灰黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面漆塗りか
第147図	5	土師器 杯	1/4 埋没土	口	10.8	高	3.4	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地
第147図 PL. 128	6	土師器 杯	完形 床面上1cm	口	12.0	高	4.2	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第147図 PL. 128	7	土師器 杯	底部一部欠 掘方土	口	11.8	高	3.7	細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第147図 PL. 128	8	土師器 杯	口縁一部欠 床面直上・掘方土	口	10.8	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	外面摩滅。口縁部内面の一部にハゼ
第147図	9	土師器 杯	底部一部欠損 床面上1cm	口	11.1	高	3.8	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地
第147図	10	土師器 杯	1/4 床面直上	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第147図 PL. 128	11	土師器 杯	3/4 床面上5cm・掘方土	口	11.6	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、外稜との間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面に輪積み痕
第147図 PL. 128	12	土師器 杯	1/2 床面上2cm	口	11.5	高	4.1	細砂粒/良好/明黄褐	口縁部は横撫で、口唇部内面に弱い凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第147図 PL. 128	13	土師器 杯	1/2 床面上2cm	口	13.0	高	4.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅
第147図 PL. 128	14	土師器 杯	3/4 床面上4cm	口	11.4	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地
第147図 PL. 128	15	土師器 杯	完形 掘方土	口	14.0	高	4.1	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、1条の凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。	内外面摩滅。 内面のハゼ顕著。
第147図 PL. 128	16	土師器 杯	1/2 床面直上	口	11.8	高	4.7	細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、外面中位に凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面漆塗りか
第147図 PL. 129	17	土師器 杯	3/4 床面上1cm	口	12.6	高	4.4	細砂粒・角閃石・軽石/良好/灰黄褐	口縁部は横撫で、外面中位に凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面漆塗りか、底部に黒斑
第147図 PL. 129	18	土師器 杯	完形 床面上2cm	口	11.6	高	5.3	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、中位に段を有する。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 内面にハゼ。
第147図 PL. 129	19	土師器 杯	完形 床面直上	口	13.8	高	3.7	細砂粒・角閃石/良好/黒褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面吸炭
第147図 PL. 129	20	土師器 杯	口縁一部欠 床面直上	口	12.5	高	3.4	細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。見込み部はへら撫で。	内外面吸炭
第147図 PL. 129	21	土師器 杯	口縁一部欠 床面直上	口	12.2	高	3.2	細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横撫で、中位と外稜部に凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面吸炭
第147図 PL. 129	22	土師器 杯	口縁一部欠 掘方土	口	12.1	高	3.8	細砂粒・角閃石/良好/灰白	口縁部は横撫で、口唇部内面に凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面と外面の大半吸炭
第147図 PL. 129	23	土師器 杯	3/4 床面上1cm・掘方土	口	12.4	高	3.6	細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、外面中位に段、口唇部内面に凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。見込み部はへら撫で。	内外面吸炭
第147図 PL. 129	24	土師器 杯	口縁一部欠 掘方土	口	12.6	高	3.9	細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、外面中位及び口唇部内面に凹線を巡らせる。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。見込み部はへら撫で。	内外面吸炭

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第147図 PL. 129	25	土師器 鉢	1/2・カマド底面上7cm	口 18.8 高 7.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に雑な撫での部分を残す。内面は撫で。	外面に輪積み痕
第147図 PL. 129	26	土師器 鉢	完形 カマド底面上5cm	口 18.3 高 6.6	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。明瞭な段を有する。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面に摩滅とハゼ
第147図 PL. 129	27	土師器 甗	3/4 掘方土	口 16.4 高 18.5	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、外面中位に1条の凹線を巡らせる。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。底部はヘラ削り。	被熱によるものか底部の剥離が顕著
第147図 PL. 129	28	土師器 甗	口縁一部欠 カマド底面上8cm カマド掘方土	口 17.5 高 24.0 底 5.2	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。底部はヘラ削り。	口縁部外面に輪積み痕。胴部外面の一部は剥離
第147図 PL. 129	29	土師器 甗	胴部一部欠 底面上3cm・ 掘方土	口 20.9 高 39.1 底 3.9	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。底部はヘラ削り。	
第147図 PL. 129	30	土師器 甗	3/4 カマド底面上5cm	口 21.8 高 39.1 底 4.2	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	胴部外面は剥離、内面下位に接合痕。口縁部外面に輪積み痕。脚部下端に黒斑。
第148図 PL. 129	31	土師器 甗	2/3 カマド掘方土	口 21.4	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で	口縁部外面に輪積み痕
第148図 PL. 129	32	土師器 甗	3/4 カマド底面上4cm	口 17.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で、口唇部内面に凹線を巡らせる。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は斜めの撫で。	胴部内面に輪積み痕
第148図	33	土師器 甗	口縁～胴部片 カマド底面上3cm	口 22.5	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	
第148図	34	土師器 甗	口縁～胴部片 床面直上	口 20.6	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で	
第148図	35	土師器 甗	胴部 床面直上		細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/灰黄褐	胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	胴部外面の剥離顕著。内面下位に接合痕
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)	石材	製作状況・使用状況	備考
第148図 PL. 129	36	石製品 楕円礫	床面上16cm	長 (9.7) 幅 8.7 厚 6.3 重 491.75	粗粒輝石安山岩	表裏面とも、刀子状工具による浅い整形痕がある。加工意図については不明。	
PL. 129	37	敲石 楕円礫	床面上2cm	長 11.9 幅 6.5 厚 4.9 重 438.49	粗粒輝石安山岩	左側縁に敲打痕があるほか、これに接して背面側に弱い摩耗痕が広がる。	写真のみ

2区18号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第150図 PL. 130	1	土師器 杯	口縁一部欠 床面上12cm	口 12.1 高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第150図	2	土師器 杯	1/3 埋没土	口 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で	被熱のためか内外面の一部還元
第150図	3	土師器 杯	1/2 床面上20cm	口 11.6 高 4.5	細砂粒/良好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、内面は撫で。	
第150図 PL. 130	4	土師器 小型甗	口縁～胴部 床面上11cm	口 10.8	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	粉っぽい素地
第150図	5	土師器 小型甗	口縁～胴部片 床面上10cm	口 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラ撫で。	内外面摩滅。粉っぽい素地
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)	石材	製作状況・使用状況	備考
PL. 130	6	紡輪台形状	埋没土	直径 (3.8) 厚 (0.3) 重 2.46	滑石	紡輪体部破片。棒軸孔(径6mm)・体部側面のみが部分的に残る。	写真のみ
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴	備考
PL. 130	7	被熱した粘土塊	埋没土	長 7.7 幅 6.5 厚 1.8 重 94.06		被熱により発泡した粘土塊。内面は発泡し、表面は滓化し、タレが生じている。	写真のみ
PL. 130	8	被熱した粘土塊	掘方土	長 2.1 幅 3.6 厚 1.3 重 2.41		被熱により発泡した粘土塊。内面は発泡し、表面は滓化し、タレが生じている。	写真のみ
PL. 130	9	被熱痕のある粘土塊	埋没土	長 2.4 幅 4.4 厚 2.5 重 4.65		平坦面をもつ形状、側面は破面。スサ、長径1～2mm程の礫を含む。被熱痕あり、表面の僅かな滓が付着している	写真のみ

2区19号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第151図	1	土師器 杯	口縁～底部片 床面上2cm	口 12.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。	内外面摩滅。粉っぽい素地
第151図	2	土師器 甗	口縁～胴部片 埋没土	口 20.6	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	

2区20号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第152図	1	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	口	12.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。
第152図	2	土師器 甕	口縁部片 埋没土	口	19.8		細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。 口縁部外面に 輪積み痕
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴		備考
第152図 PL. 130	3	鉄製品 不明	埋没土	長 厚	5.4 4.5	幅 重	5.5 5.59	断面四角形の鉄製品で一端は細くどがる。一端は破損し断面5mから徐々に細くなる。泥を巻き込み錆化本体は空洞化し形状は不明瞭である。釘または茎の破片か。

2区21号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第153図	1	土師器 杯	1/4 埋没土	口	10.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で
第153図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.8		細砂粒・輝石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。
第153図	3	土師器 鉢	口縁～体部片 埋没土	口	19.8		細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。 体部外面剥離。内面は摩滅
第153図	4	須恵器 甕	口縁片 埋没土	口	21.2		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)

2区22号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第153図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	11.8		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で 粉っぽい素地
第153図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	18.6		細砂粒・軽石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。外面上位に段を有する。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。
第153図	3	須恵器 蓋	口縁～底部片 埋没土	口	13.8		細砂粒・粗砂粒・軽石/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴		備考
第153図 PL. 130	4	鉄製品 不明	埋没土	長 厚	2.7 0.4	幅 重	0.6 5.78	泥・砂巻き込み錆化し本体は脆弱、形状は不明瞭だが断面四角形でくの字に曲がる角棒状鉄製品釘の破片か

2区23号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第140図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	10.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。 内外面摩滅
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴		備考
	2	粘土 粘土塊	埋没土	長 厚	2.9 1.4	幅 重	2.1 6.3	スサを含む、被熱した粘土塊片が生じている。
	3	粘土 粘土塊	埋没土	長 厚	2.7 1.5	幅 重	1.9 4.44	スサを含む、被熱した粘土塊片が生じている。

2区28号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第155図	1	土師器 皿	口縁～体部片 掘方土	口	16.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第155図	2	土師器 杯	口縁～体部片 掘方土	口	12.0		細砂粒/良好/明黄褐	口縁部は横撫で。 内外面摩滅	
第155図	3	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口	13.6		細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。 内外面摩滅	
第155図	4	土師器 甕	口縁片 埋没土	口	17.5		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。	
第155図	5	土師器 甕	口縁片 掘方土	口	19.7		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。 口縁部外面に 輪積み痕	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)		石材	製作状況・使用状況	備考	
PL. 130	6	敲石 棒状礫	埋没土	長 厚	12.0 4.7	幅 重	4.2 331.1	デイスait	小口部上端・左側縁に敲打痕。 写真のみ

2区29号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第156図	1	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口	13.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第156図	2	須恵器 杯	底部片 埋没土	底	9.0		細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周辺を回転へら削り。 内外面摩滅	
第156図	3	土師器 鉢	口縁～胴部片 埋没土	口	16.7		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	
第156図 PL. 130	4	土錘	3/4 埋没土	長 厚	4.3 1.6	幅 孔	1.4 0.3	細砂粒/良好/にぶい黄橙	器面撫で。穿孔は片面。 器面の一部吸炭重さ9.10g

遺物観察表

2区30号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第158図 PL. 130	1	土師器 杯	3/4 埋没土	口	10.2	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第158図 PL. 130	2	土師器 杯	3/4 床面上24cm	口	11.5	高	3.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。1条の凹線を巡らせる。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第158図 PL. 130	3	土師器 杯	3/4 床面上14cm	口	11.6	高	3.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第158図 PL. 130	4	土師器 杯	完形 床面上8cm	口	11.0	高	3.6	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第158図 PL. 130	5	土師器 杯	口縁一部欠 床面上15cm	口	11.1	高	4.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第158図 PL. 130	6	土師器 杯	完形 床面上15cm	口	10.7	高	3.6	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第158図 PL. 130	7	土師器 杯	完形 床面上13cm	口	11.4	高	3.7	細砂粒・雲母微粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第158図 PL. 130	8	土師器 杯	完形 床面上14cm	口	11.4	高	3.7	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第158図 PL. 130	9	土師器 杯	完形 掘方土	口	11.0	高	3.2	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第158図	10	土師器 杯	1/2 掘方土	口	10.8	高	4.0	細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面に摩滅とハゼ
第158図	11	土師器 杯	1/4 埋没土	口	11.8	高	4.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第158図	12	土師器 杯	1/3 埋没土	口	11.9	高	3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第158図 PL. 130	13	土師器 杯	3/4 床面上1cm	口	10.0	高	3.5	細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で後、粗い斜放射状のヘラ磨き。	内外面の一部に吸炭
第158図 PL. 130	14	土師器 高杯か	脚部2/3 床面上5cm	脚径	8.5			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	外面上半はヘラ撫で。内面上位は横のヘラ削り。	粉っぽい素地
第158図	15	土師器 鉢	口縁～体部片 埋没土	口	17.8			細砂粒・粗砂粒・軽石・輝石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部外面は斜めのヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
第158図	16	土師器 鉢	口縁～体部片 カマド底面上1cm	口	28.8			細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。体部外面は斜めのヘラ削り、内面は斜めのヘラ撫で。	口縁部外面の一部吸炭
第159図	17	須恵器 杯	1/3 埋没土	口	10.9			細砂粒・軽石/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部及び体部下端は回転ヘラ削り。	
第159図	18	須恵器 杯	1/3 埋没土	口	14.0	高	4.0	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰オリーブ	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周辺を回転ヘラ削り。	
第159図 PL. 130	19	須恵器 高杯	脚部 床面上13cm	脚径	9.2			細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)脚部外面に2条の凹線を巡らせる。	
第159図 PL. 130	20	土師器 小型甕	3/4 床面上1cm	口	16.1	高	14.2	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのヘラ削り。底部はヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	外面の摩滅顕著。底部に黒斑
第159図 PL. 130	21	土師器 小型甕	胴部一部欠 床面上2cm	口底	13.4 6.9	高	16.9	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。	胴部内面下位に接合痕。胴部外面のハゼ顕著。外面中位に黒斑、下位に粘土付着。
第159図	22	土師器 小型甕	1/3 埋没土	口	9.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	口唇部に細かな割れ
第159図 PL. 130	23	土師器 甕	3/4 床面上11cm	口	21.6			細砂粒・粗砂粒・小礫/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	胴部外面中位に粘土付着。内面下位に接合痕。
第159図 PL. 130	24	土師器 甕	3/4 床面上18cm	口	22.7			細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。	胴部外面の広範囲に粘土付着。胴部内面下位に接合痕、内面変色。
第159図 PL. 131	25	土師器 甕	3/4 カマド底面上7cm・カマド掘方土	口	20.2			細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/褐灰	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は斜めのヘラ撫で。	胴部内面下位に接合痕
第159図 PL. 131	26	土師器 甕	3/4 カマド底面上30cm	口	18.5			細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	器面摩滅
第159図 PL. 131	27	土師器 甕	3/4 カマド掘方土	口	18.7			細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	胴部外面上位に輪積み痕顕著
第159図	28	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上3cm	口	20.6			細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	
第159図	29	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上10cm	口	19.6			細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は撫で。	

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第160図 PL. 131	30	土師器 甕	口縁一部欠 床面上2cm・掘方 土	口 底	20.2 8.3	高 31.5	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面上半は縦のへら撫で、下半は斜め のへら削り。内面上半は横の撫で、接合部は横の撫で。底部 はへら削り。	胴部外面に2 か所黒斑
第160図 PL. 131	31	須恵器 甕	1/2 掘方土	口	25.3		細砂粒・粗砂粒・小 礫/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は青海波文。頸部外面に18 本ほどの単位の波状文を3帯巡らす。	
第160図	32	須恵器 甕	口縁～頸部片 床面上10cm	口	22.4		細砂粒/還元焰/暗 灰	叩き成形。叩きの当て具不明。頸部外面に6本単位の波状文 を巡らす。	内外面に自然 釉
第160図	33	須恵器 甕	口縁片 床面上10cm	口	23.5		細砂粒/還元焰/灰 白	口縁部はロクロの撫で。	内外面に薄く 自然釉
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第160図 PL. 131	34	石製品 多孔石	埋没土	長 厚	15.2 7.7	幅 重	11.2 1024.3	粗粒輝石安山岩	表裏両面とも刀子状工具によるものと見られる浅く窪んだ 整形痕がある。縄文期多孔石の転用品。
第160図 PL. 131	35	石製品 扁平礫	掘方土	長 厚	10.0 4.6	幅 重	12.0 751.0	粗粒輝石安山岩	背面側中央が浅く窪む他、これに近接して幅1mm弱の浅い研 磨痕がある。背面側は被熱して煤ける。
第160図 PL. 131	36	磨石 扁平楕円礫	床面上5cm	長 厚	9.0 3.6	幅 重	8.7 343.48	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗するほか、小口部に打痕がある。属性的に縄 文期磨石と同質。

2区31号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第161図	1	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口	12.0		細砂粒・角閃石/良 好/にふい橙	口縁部の横撫で範囲不分明。底部は手持ちへら削り。内面は 撫で。	
第161図	2	須恵器 杯	底部片 床面下4cm	口			細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は回転へら削り。	
第161図	3	須恵器 盤	体部～底部片 埋没土	口			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転か)脚は貼り付け。内面はカキ目。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第161図 PL. 131	4	紡輪 円盤状	床面上29cm	長 厚	5.2 1.3	幅 重	5.1 63.1	滑石質蛇紋岩	表裏面とも棒軸孔周辺が黒く光沢を帯びている。径7mmの棒 軸孔を片側穿孔する。

2区32号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第163図	1	土師器 杯	1/3 埋没土・掘方土	口	10.8	高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第163図	2	土師器 皿	1/3 床面上13cm	口	17.2		細砂粒・角閃石・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、内面は撫で。	
第163図	3	土師器 杯	1/3 埋没土	口	10.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第163図	4	須恵器 蓋	天井部～口縁部 片 床面上32cm	口	12.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)体部に凹線を1条巡らせ、天井部外面は 手持ちへら削り。	口縁部内面は 摩滅
第163図	5	須恵器 杯	底部 埋没土	口	7.8		細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部回転糸切り後、周辺及び体部下端 を回転へら削り。	
第163図	6	土師器 鉢	1/3 床面上20cm	口	20.4		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。体部外面は斜めのへら削り、内面は撫で。	外面摩滅、内 外面に剝離、
第163図	7	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	21.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、内面は横の撫 で。	内外面摩滅
第163図	8	須恵器 甕	頸部～肩部片 埋没土				細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	叩き成形、外面は平行叩き、内面は青海波文。頸部外面にカ キ目。	
第163図	9	形象埴輪	板状の破片(器 財埴輪か) 埋没土				白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/良好	横断面は外面が鈍角をなして屈曲、変換点に明瞭な稜をな すのに対して内面は弧状を呈する。外面はへら削り。内面は 丁寧な撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第163図 PL. 131	10	石製品 楕円礫	底面上8cm	長 厚	9.6 5.1	幅 重	7.5 391.19	粗粒輝石安山岩	背面側が摩耗するほか、同・中央が浅く窪む。属性的には縄 文期の凹石と同質。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm)			成形・整形の特徴		備考
第163図 PL. 131	11	鉄製品 不明	埋没土	長 厚	4.6 0.4	幅 重	0.6 4.87	泥・砂巻き込み錆化し本体は脆弱、形状は不明瞭だが断面四角形を呈する	
第163図 PL. 131	12	鉄製品 不明	埋没土	長 厚	3.3 0.25	幅 重	0.5 4.31	泥・砂を巻き込み錆化し本体は空洞化し脆弱断面三角形で両端とも破損し全体形 状不明	

2区33号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			成形・整形の特徴		備考
第164図 PL. 131	1	金属製品 丸鞘裏金	埋没土	長 厚	(2.5) 0.1	幅 重	(1.4) 0.95	丸鞘裏金具破片、一部劣化消失するが表面全体に僅かに金色部分が見られる。 外形は破損のため不明瞭であるが下方の一部に斜めに面取りした縁部分が残 る。右側と上の二箇所には直径1.3mmの穴が残るが左側は欠損のため残ってい ない。上の穴の下および右斜めに微小な丸い凹みがある。下の凹みは穴を回 るように弧状に凹みがめぐる、坊主鑿状の工具による痕跡と見られる。裏面は 錆化し非常に脆弱なため錆の除去を控えているため加工痕跡等は不明。	

遺物観察表

2区35号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第165図	1	土師器 杯	口縁～底部片 床面上4cm	口	10.8		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。内面は撫で。	外面摩滅、被熱による変色
第165図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 底	12.0 11.2		細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面摩滅
第165図	3	土師器 杯	口縁～底部片 カマド埋没土	口	11.8		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第165図	4	土師器 甕	口縁～頸部片 カマド掘方土	口	22.8		細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り、内面は横のへら撫で。	口縁部外面に輪積み痕
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴	備考	
第165図 PL. 131	5	鉄製品 不明	埋没土・トレンチ	長厚	3.0 0.45	幅重	0.5 3.79	断面角形の鉄製品で幅5～3mmと細くなる、錆化顕著で詳細は不明。	

2区37号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第167図 PL. 132	1	土師器 杯	3/4 掘方土	口	12.8	高	3.1	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第167図 PL. 132	2	土師器 杯	1/2 掘方土	口	13.4	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第167図 PL. 132	3	土師器 杯	1/2 掘方土	口	14.8	高	4.8	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に雑な撫での部分を残す。内面は撫で。	
第167図 PL. 132	4	須恵器 蓋	1/4 掘方土	口	15.4	高	2.1	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)摘みは環状摘みで丁寧な作り。内面に硯に転用。平滑で光沢がある。	
第167図 PL. 132	5	須恵器 杯	3/4 掘方土	口 底	13.2 6.4	高	3.7	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は回転へら削り。	見込み部に赤色物質が付着。顔料か
第167図 PL. 132	6	須恵器 杯	1/2 埋没土	口 底	12.8 7.9	高	3.8	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は回転へら削り。	
第167図	7	須恵器 杯	1/2 床面上7cm	口 底	13.6 7.6	高	3.7	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は回転へら削り。	
第167図	8	須恵器 杯	1/4 埋没土	口	13.8 7.8	高	3.9	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は回転へら削り。	
第167図 PL. 132	9	須恵器 杯	1/4 掘方土	口 底	12.8 8.0	高	3.7	細砂粒・粗砂粒・針状鉱物/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は回転へら削り。	南比企底部に線刻
第167図	10	須恵器 杯	口縁～底部片 掘方土	口	13.4 9.0	高	3.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は回転へら削り。	口唇部摩滅
第167図	11	須恵器 杯	底部片 掘方土	底	8.2			細砂粒・軽石/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部は回転系切り後、周辺を回転へら削り。	
第167図	12	須恵器 杯	底部片 掘方土	底	8.0			細砂粒・石英/還元焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)底部は回転系切り後、周辺及び体部下端を回転へら削り。	
第167図	13	須恵器 椀	1/4 掘方土	口	13.8			細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)	内外面摩滅
第167図	14	須恵器 盤	体部～高台部片 埋没土	口	12.8	高台	12.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)高台は丁寧な付け高台。	
第167図	15	須恵器 盤	底部片 掘方土	口	16.0			細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)高台は底部回転へら削り後の付け高台。	
第167図	16	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上9cm	口	19.6			細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、内面は撫で。	口縁部外面に輪積み痕
第167図	17	須恵器 甕	口縁部片 掘方土	口	26.8			細砂粒・粗砂粒/還元焰/暗灰	ロクロ整形(回転方向不明)	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			成形・整形の特徴	備考		
第167図 PL. 132	18	鉄製品 不明	埋没土・トレンチ	長厚	13.7 0.55	幅重	0.7 45.55	断面四角形の棒状鉄製品、泥・砂を巻き込んで強固に錆化し本体形状は不明瞭		

3区38号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第168図 PL. 132	1	土師器 杯	3/4 掘方土	口	13.0	高	3.5	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。

3区49号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第169図 PL. 132	1	土師器 杯	3/4 掘方土	口	12.6	高	3.3	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	底部に黒斑
第169図 PL. 132	2	須恵器 把手付鉢	胴部片 掘方土					細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	叩き成形、外面は平行叩き。内面素文。体部中位に一对の把手が付くと思われる。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第169図 PL. 132	3	磨石類? 扁平楕円礫	掘方土	長厚	11.2 2.7	幅重	10.6 469.79	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗するほか、側縁に敲打痕がある。背面側は黒く光沢を帯びている。	

2区1号竪穴状遺構

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第170図 PL. 132	1	土師器 杯	1/2 床面上14cm	口 17.1 高 3.7	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。縞状の胎土で他と異質
第170図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 13.9	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に狭く撫での部分を残す。	内外面摩滅

2区2号竪穴状遺構

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第171図	1	土師器 杯	1/4 埋没土	口 9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	内外面摩滅
第171図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 11.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で	外面摩滅
第171図	3	土師器 杯	口縁～底部片 床面上8cm	口 11.8	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	粉っぽい素地
第171図 PL. 132	4	須恵器 蓋	完形 床面上7cm	口 16.1 高 3.5	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)摘みはボタン状摘みで、天井部外面を回転へら削り後の貼り付け。	
第171図 PL. 132	5	須恵器 盤	杯部2/3、脚部裾部欠 床面直上	口 23.8 7.3	細砂粒・粗砂粒・片岩/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。脚は底部回転へら削り後の貼り付け。	藤岡か
第171図	6	土師器 小型甕	口縁部片 埋没土	口 5.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)	石材	製作状況・使用状況	備考
PL. 132	7	敲石 楕円礫	床面上19cm	長厚 10.4 3.6 幅重 4.8 203.79	粗粒輝石安山岩	小口部上端に敲打痕。	写真のみ

2区3号竪穴状遺構

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第172図	1	土師器 杯	1/4 埋没土	口 12.8 高 11.8 3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第172図	2	須恵器 鉢	底部片 埋没土	口 7.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)	内外面摩滅。内面に帯状に煤付着

2区4号竪穴状遺構

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第173図 PL. 132	1	須恵器 壺	頸部～胴部片 底面上32cm		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)肩部外面に凹線とクシ状工具の刺突を巡らせる。	

2区5号竪穴状遺構

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第174図	1	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口 11.5	細砂粒・角閃石/良好/褐灰	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で後、雑な放射状のへら磨き。	内外面の一部吸炭

2区6号竪穴状遺構

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第175図 PL. 132	1	土師器 杯	口縁一部欠 底面上14cm	口 13.4 高 3.1	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に狭く撫での部分を残す。	
第175図 PL. 132	2	土師器 杯	口縁一部欠 底面上21cm	口 12.6 高 3.3 底 9.9	細砂粒・角閃石・軽石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面摩滅
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴	備考
	3	鉄 不明の鉄滓	埋没土	長厚 5.7 0.3 幅重 0.8 4.08		酸化土砂に覆われ錆化している。放射割れが生じ、鉄部が内在している。	

2区7号竪穴状遺構

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第176図 PL. 132	1	土師器 杯	口縁一部欠 底面上2cm	口 13.6 高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第176図	2	須恵器 壺	口縁片 埋没土	口 13.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)口縁部外面に突帯と2条の凹線を巡らせる。	内外面摩滅、内面の剥離顕著

2区10号竪穴状遺構

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第178図	1	土師器 甕	口縁片 埋没土	口 21.8	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。	
第178図	2	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口 20.8	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへら撫で。	頸部内面に成形時のひび割れ

2区2号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第179図	1	須恵器 甕	胴部片 底面上2cm		細砂粒/還元焰/灰	叩き成形、外面は平行叩き。内面素文。	外面に薄く自然釉

遺物観察表

2区3号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第179図 PL. 133	1	土師器 杯	2/3 底面下1cm	口 底	12.8 9.4	高 3.8	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅
第179図 PL. 133	2	須恵器 杯	1/2 底面上4cm	口 底	13.6 8.2	高 4.3	細砂粒・粗砂粒・軽 石/還元焰/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転)底部回転糸切り無調整。	内面及び底部酸化

2区4号溝

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第180図 PL. 133	1	磨石? 楕円礫?	底面下1cm	長 厚	6.8 3.5	幅 重	5.1 95.32	粗粒輝石安山岩	背面側のみ弱く摩耗する。破片で、礫中央の打痕の有無は確認できない。

2区5号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第180図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 底	14.0 13.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	

2区10号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第182図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	15.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地
第182図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	11.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面摩滅

2区29号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第183図	1	土師器 甕	頸部～胴部片 底面上9cm				細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は横のへら撫で。	

2区33号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第184図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	10.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	

2区遺構外

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第186図 PL. 133	1	土師器 杯	口縁一部欠 V層	口	13.2	高 3.5	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。		
第186図 PL. 133	2	土師器 杯	完形	口	12.6	高 3.7	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に雑な撫での部分が残り、型肌が見られる。内面は撫で。		
第186図 PL. 133	3	土師器 杯	口縁一部欠 V層	口	13.9	高 2.9	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。		
第186図 PL. 133	4	土師器 杯	1/2	口	13.3	高 3.9	細砂粒・角閃石・軽 石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。		
第186図 PL. 133	5	土師器 杯	口縁一部欠 V層	口	12.8	高 3.9	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。		
第186図 PL. 133	6	土師器 杯	2/3 V層上	口	12.8	高 3.3	細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。		
第186図	7	土師器 杯	1/3 V層	口	13.2		細砂粒・軽石/良好 /にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。		
第186図 PL. 133	8	土師器 杯	3/4	口	13.0		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面の細かな ハゼ顕著。内 外面漆塗りか	
第186図	9	土師器 杯	1/4	口	13.2		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面は漆塗りか	
第186図	10	土師器 杯	口縁～底部片	口	11.8		細砂粒・石英/良好 /にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	口縁部外面に 黒斑	
第186図	11	土師器 杯	1/3	口	11.4	高 3.5	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。	内面に剥離	
第186図	12	須恵器 蓋	1/4 V層	口	10.8	高 3.8	細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形(右回転)天井部外面は手持ちへら削り。		
第186図	13	須恵器 蓋	1/3 V層	口	14.6	高 2.7	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)摘みは環状摘みで、天井部を回転へら削り後、貼り付け。	内面摩滅	
第186図 PL. 133	14	須恵器 椀	2/3 V層上	口 底	15.7 10.5	高 台	7.8 10.6	細砂粒・粗砂粒・軽 石/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)高台は底部回転糸切り後の付け高台	内外面摩滅
第186図	15	須恵器 椀	底部片 V層上	底	14.0	高 台	13.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)高台は底部回転へら削り後の付け高台	高台及び体部 外面に自然 釉。秋間か
第186図 PL. 133	16	須恵器 長頸壺	頸部片 V層					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)	内外面に自然 釉。頸部内面 の輪積み痕顕 著。秋間か

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第186図	17	須恵器 壺	底部片 V層	底	7.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)	内外面摩滅	
第186図	18	土師器 甕	口縁～頸部片	口	20.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り、内面は撫で。	外面摩滅	
第187図 PL. 133	19	土製品 紡錘車	完形	長 幅	6.8 6.5	孔 0.9	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	器面は撫で。穿孔は斜め。	重さ150g	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第187図 PL. 133	20	磨製石鏃		長 厚	3.4 0.2	幅 重	2.1 2.5	頁岩	表裏面とも丁寧に研磨され、逆Y字状の弱い稜が形成されているほか、背面側穿孔部より下が研磨され、浅く窪む。先端部は側縁を強く絞り込んで鋭く尖る。	
第187図 PL. 133	21	削器 幅広剥片		長 厚	4.2 1.1	幅 重	6.3 23.1	黒色安山岩	剥片端部に浅く深い剥離を加え、刃部を作出する。	
第187図 PL. 133	22	打製石斧 短冊型		長 厚	11.7 2.0	幅 重	5.0 145.5	粗粒輝石安山岩	完成状態。刃部は直刃様で摩耗が著しい。両側縁ともよく潰れているが、捲縛痕については不明瞭。	
第187図 PL. 133	23	凹み石 扁平楕円礫		長 厚	11.4 4.7	幅 重	7.6 465.5	粗粒輝石安山岩	表裏面とも中央付近に敲打痕が集中するほか、両側縁に敲打痕がある。礫表皮が粗く摩耗痕については不明瞭。	
第187図 PL. 133	24	多孔石 楕円礫		長 厚	12.5 10.9	幅 重	(07.4) 1376.0	粗粒輝石安山岩	表裏面とも多数の孔を穿つ。礫面は被熱して焼けているが、被熱したのち穿孔したことが明らかである。	
第187図 PL. 133	25	凹み石 楕円礫		長 厚	15.0 5.0	幅 重	10.0 786.73	粗粒輝石安山岩	背面側中央付近に孔3、左辺側に孔1を穿つ。裏面側の浅い条線には鉄が付着しているが、詳細は明らかでない。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
PL. 133	26	砥石? 切り砥石?	V層	長 厚	5.5 1.3	幅 重	2.2 22.54	珪質頁岩	二面使用?背面側には線条痕が明瞭に残り、砥石としての使用は確実だが、裏面側線条痕は不明瞭。	写真のみ
PL. 133	27	敲石 柱状礫	V層	長 厚	15.8 4.3	幅 重	5.9 635.14	変質安山岩	小口部・側縁が敲打され、大きく破損している。	写真のみ
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考	
第187図 PL. 133	28	金属製品 耳環	ほぼ完形 V b層上面	長 厚	1.7 0.6	幅 重	1.9 4.9	中実の金環、銅芯に薄い金板貼りとみられる。金板は銀を多く含むためか金白色を呈する。端部は劣化し残りは悪いが一部に金板を折り込んで仕上げたとみられる痕跡がのこる。銅芯の端部全体に並行する階段状のスジがあり切断痕跡と見られる。端部は上方から観察すると平らではなく凸型に緩やかに弧を描く。側面の金表面には硬いものを弧状にずらし押し付けと見られる傷がありその上を銅錆が覆っており使用時の傷と見られる。		
第187図 PL. 133	29	鉄製品 刀子		長 厚	5.7 0.3	幅 重	0.8 4.08	刃先部分を欠く刀子。泥・錆を巻き込み錆脆弱本体形状は不明瞭だが棟側にわずかな関を有する。		
	30	鉄 不明の鉄滓		長 厚	3.7 2.2	幅 重	3.5 25.66	長径約10mm大の木炭痕が多く観察される。		

3区1号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第189図	1	土師器 杯	口縁～底部片 床面上2cm	口	11.8		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	外面摩滅。 粉っぽい素地

3区2 a号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第190図 PL. 134	1	土師器 杯	1/2 床面上2cm	口	10.3	高 3.1	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第190図 PL. 134	2	鉄製品 鎌	床面上1cm	長 厚	6.1 1.5	幅 重	2.1 11.4	泥・砂を巻き込み錆化本体は空洞化する。断面細い三角形を呈し鎌の刃部分の破片とみられる。破片は小さく柄装着部分の形態は不明	
第190図 PL. 134	3	鉄製品 鎌	床面上1cm	長 厚	7.6 0.17	幅 重	2.9 25.01	泥・砂を巻き込み錆化本体は空洞化する。刃の先端部分断面を欠く。断面は細い三角形でやや中央が膨らむが、これは錆化変形によると考えられる。柄装着部分は刃先にやや鋭角気味に曲げれる。柄装着部から2cmは刃の幅は広くその先から幅を減じ研ぎ減りと考えられる。	

3区2 b号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第191図	1	土師器 杯	口縁～底部片 床面上1cm	口	11.8		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	

3区3号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第192図	1	土師器 杯	口縁～底部片 床面上1cm	口	11.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地	
第192図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	15.6		細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 粉っぽい素地	
第192図	3	須恵器 蓋	1/4 掘方土	口	14.2	高 摘	3.0 5.2	細砂粒・粗砂粒・軽 石/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)摘みはシャープな環状摘み。	

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第192図	4	須恵器 杯	口縁～底部片 掘方土	口底	18.2 13.2	高台 3.9 12.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)高台はシャープな作りの付け高台。底部切り離し不明。	
第192図	5	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上4cm	口	22.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。	

3区4号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第194図	1	土師器 皿	1/4 掘方土	口	18.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	外面摩滅
第194図	2	土師器 杯	1/3 床面上1cm	口	11.4	高台 3.3	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	外面摩滅
第194図	3	土師器 杯	1/3 掘方土	口	11.8		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。	
第194図	4	須恵器 蓋	摘み部片 掘方土	口		摘み 径 7.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)大振りな環状摘みで丁寧な貼り付け。	
第194図	5	須恵器 杯	1/4 掘方土	口底	15.4 10.6	高台 4.3 10.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)高台はシャープな作りで、底部回転へら削り後の付け高台	
第194図	6	須恵器 杯	1/3 床面上7cm	口底	16.2 10.8	高台 4.9 10.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)体部下端は回転へら削り。高台は、底部回転へら削り後の丁寧な付け高台。	
第194図	7	須恵器 長頸壺	口縁片 埋没土	口	10.8		細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)	器面整形がやや雑
第194図	8	土師器 甕	口縁～胴部片 埋没土	口	20.4		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り。内面は撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm)			成形・整形の特徴		備考
第194図 PL. 134	9	鉄製品 刀子	埋没土一括	長厚	7.2 1.0	幅重 1.5 8.0	棟・刃側ともに関を持ち鉄製はばきを装着する刀子、刃先・茎ともに端部を欠く		
PL. 134	10	鉄 不明の鉄滓	埋没土一括	長厚	4.8 1.9	幅重 3.3 42.41	酸化土砂に厚く覆われた鉄滓、錆化が激しく、放射割れが生じている。		写真のみ

3区5号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第195図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	9.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。	

3区1号礎石建物

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第197図	1	須恵器 蓋	1/3 埋没土	口	18.6	高台 3.0	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)摘みは環状摘みで、天井部外面に回転へら削り後の貼り付け。	外面全体に自然釉

3区1号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第198図	1	須恵器 杯	1/4 埋没土	口	17.8 12.2	高台 4.4 12.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)体部中位に1条の凹線を巡らし、下端は回転へら削り。高台は底部回転へら削り後の付け高台。	

3区16号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第200図	1	須恵器 壺	口縁～胴部片 埋没土	口	8.0		細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形(回転方向不明)	肩部に自然釉
第200図	2	丹波陶器 すり鉢	底部片 埋没土				にぶい黄橙	体部外面から底部内面はにぶい赤褐色で鉄泥を塗布か。内面器表は使用により摩滅。	江戸時代。

3区20号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第204図	1	土師器 皿	1/4 埋没土	口	15.9	高台 3.3	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第204図	2	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	15.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面摩滅
第204図	3	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	17.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分が残り、型肌が顕著。内面は丁寧な撫で。	

3区22号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第200図 PL. 134	1	砥石 切り砥石	埋没土	長厚	(11.0) (2.4)	幅重 (3.2) 136.0	砥沢石	一面使用。上面を除く各面は、刀子状工具による整形痕を残す。上端側を欠損する。	

3区31号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第202図	1	龍泉窯系 青磁皿	体部片 埋没土				灰白	底部内面は片彫りと櫛状工具による施文。釉はオリーブ黄色。底部外面は釉を削り取る。	13世紀。

3区32号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第203図 PL. 134	1	鉄製品輪状 鉄製品	埋没土	長厚	2.1 0.5	幅重 2.1 4.2	輪状の鉄製品で断面は厚さ2mm×幅6～4mmほどでつなぎ目等は観察されない。		

3区37号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第202図	1	土師器 杯	1/3 埋没土	口 11.4 高 4.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	

3区41号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第203図 PL. 134	1	鉄製品 釘	埋没土	長厚 5.9 0.2 幅重 0.4 2.4		細い角釘で頭部分は破損する、先端より1.5cm付近で100°程の角度で曲がる	
第203図 PL. 134	2	鉄製品 釘	埋没土	長厚 7.0 0.3 幅重 0.4 4.3		細い角釘で頭部分は平らにして折り曲げるが厚めである。鉄釘の遺存状態は良好だが木質等の痕跡は見られない	

3区48号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第202図 PL. 134	1	須恵器 蓋	裾部一部欠損 埋没土	口 16.2 高摘 4.4 3.6	細砂粒・粗砂粒・片岩/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)摘みは環状摘みで、天井部外面に回転へら削り後の貼り付け。	藤岡か

3区遺構外

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第207図 PL. 134	1	土師器 皿	2/3 V層	口 19.4 高 4.3	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/赤	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第207図	2	土師器 杯	1/4 V層	口 16.6	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。間に撫での部分を残す。内面は撫で。	粉っぽい素地
第207図	3	須恵器 転用硯(蓋)	摘み～体部 V層	摘径 4.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)摘みは環状摘みで、天井部外面は回転へら削り後の貼り付け。	円面を硯面として使用。秋間か
第207図	4	須恵器 杯	口縁～底部片 V層	口底 17.8 12.4 高 5.3	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)高台は、角高台状で底部回転へら削り後の付け高台。	
第207図	5	須恵器 盤	口縁～底部片 V層	口底 20.6 17.8	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)体部下端及び底部周辺は回転へら削り。内面はカキ目。	
第207図	6	須恵器 硯か	破片 V層		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)硯面は欠損しており、突帯と脚の一部が残存した。脚部の透かしは方形と考えられる。	
第207図	7	須恵器 短頸壺	頸部～胴部片 V層		細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)	胴部外面に厚く自然釉
第207図	8	須恵器 壺	底部 V層	口 10.4	細砂粒・粗砂粒・軽石/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)胴部下端は回転へら削り、高台は付け高台。	
第207図	9	土師器 甕	口縁～胴部片 V層	口 23.8	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り。内面は横のへら撫で。	口縁部外面に輪積み痕
第207図 PL. 134	10	土師器 円盤状土製品(杯)	完形 V層		細砂粒・角閃石/良好/橙	杯底部の破片の周辺を打ち欠き整形。	
第207図 PL. 134	11	土製品 土錘	端部一部欠 V層	長幅 5.0 0.9 孔厚 0.4 0.8	細砂粒/良好/灰黄褐	撫でによる整形。	重さ9.17g
第207図	12	瀬戸・美濃 陶器腰鏝碗	1/6 V層	口 (9.6)	灰白	口縁部外面下位に螺旋状凹線。内面から口縁部外面に灰釉。凹線部以下は鉄釉。	18世紀中頃～後半。
第207図 PL. 134	13	肥前磁器 皿	1/4 V層	口高 (14.6) 4.4 底 (8.6)	白	蛇ノ目凹形高台。口縁部は小さい輪花とする。高台内に「筒江」銘が変化したとされる銘。	18世紀中頃～後半。
第207図 PL. 134	14	常滑陶器? 甕	底部 V層	底 18.0	赤	内面器表は極暗赤褐色の釉を施釉。外面は板状工具による斜位撫で。	近現代か。
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)	石材	製作状況・使用状況	備考
第207図 PL. 134	15	砥石 切り砥石	V層	長厚 (13.7) 3.6 幅重 3.5 217.1	砥沢石	一面使用。背面側を除く各面はタガネ状工具による整形痕が部分的に残る程度に、磨き整形されている。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第207図 PL. 134	16	鉄 鉄器不明	V層	長厚 6.6 0.3 幅重 1.4 9.2		鉄製品破片断面形はやや中央が膨らむ細い三角形。	
第207図 PL. 134	17	鉄 刀子	V層	長厚 4.1 0.3 幅重 1.4 7.6		断面三角形の鉄製品破片で刀子刃部分の破片とみられる。両端とも破損後錆に覆われている。	
PL. 134	18	鉄 鉄滓	V層	長厚 3.3 3.3 幅重 5.2 43.78		酸化土砂に厚く覆われた鉄滓、錆化が激しく、放射割れが生じている。	写真のみ
PL. 134	19	鉄 鉄滓	V層	長厚 2.5 2.1 幅重 3.5 20.94		酸化土砂に厚く覆われた鉄滓、錆化が激しく、放射割れが生じている。	写真のみ
PL. 134	20	鉄 鉄滓	V層	長厚 2.4 1.9 幅重 3.9 18.49		酸化土砂に厚く覆われた鉄滓、錆化が激しく、放射割れが生じている。	写真のみ
PL. 134	21	鉄 鉄滓	V層	長厚 2.2 1.9 幅重 2.1 10.67		酸化土砂に厚く覆われた鉄滓、錆化が激しく、放射割れが生じている。	写真のみ

4区2号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第210図 PL. 134	1	土師器 杯	1/3 掘方土	口 12.0	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部に墨書文字不明
第210図	2	土師器 杯	1/4 掘方土	口 11.8	細砂粒/良好/黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。間に撫での部分を残す。内面は撫で。	

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第210図 PL. 134	3	須恵器 杯	1/2 床面上8cm・掘方 土	口 底	13.9 8.1	高	3.3	細砂粒・粗砂粒/還 元焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)底部は回転糸切り後、周辺を回転ヘラ 削り。	
第210図 PL. 134	4	須恵器 杯	1/3 掘方土	口 底	13.2 7.6	高	3.9	細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形(右回転)底部は回転糸切り後、周辺を回転ヘラ 削り。	
第210図	5	須恵器 杯	口縁～底部片 3号床下土坑埋 没土	口 底	12.6 7.8	高	4.1	細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周辺を回転ヘラ 削り。	
第210図	6	須恵器 杯	口縁～体部片 床面直上	口	12.6			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形(回転方向不明)	
第210図	7	須恵器 椀	口縁～体部片 カマド掘方土	口	15.8			細砂粒/酸化焰/明 赤褐	ロクロ整形(右回転)	
第210図	8	須恵器 椀	口縁～体部片 掘方土	口	14.5			細砂粒/酸化焰/明 赤褐	ロクロ整形(回転方向不明)	
第210図	9	土師器 甕	口縁部片 掘方土	口	21.0			細砂粒・角閃石・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で	口縁部外面に 輪積み痕
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考	
第210図 PL. 134	10	鉄製品 釘	カマド掘方土	長 厚	4.3 0.45	幅 重	0.7 4.6	泥を巻き込んで錆化し本体は劣化顕著で形状は不明瞭であるが、断面角で先端 で大きく曲がる形状が推定される。		
第210図 PL. 134	11	鉄製品 鏃	埋没土	長 厚	4.3 0.3	幅 重	0.5 3.1	断面長方形の鉄製品で両端とも欠けている、鉄鏃破片か。		

4区3号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第211図 PL. 134	1	土師器 杯	口縁一部欠 床面上2cm	口	10.4	高	3.2	細砂粒・角閃石/軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第211図	2	土師器 杯	1/4 埋没土	口	11.0	高	2.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第211図	3	土師器 杯	1/3 床面上4cm	口	10.6	高	2.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第211図	4	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口	11.4			細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	外面摩滅
第211図	5	土師器 杯	1/4 カマド埋没土	口	13.8			細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	外面摩滅
第211図	6	須恵器 蓋	1/4 床面上4cm	口	10.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)摘みは貼り付け部から欠損。	
第211図	7	土師器 小型甕か	口縁片 埋没土	口	8.8			細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横撫で。	
第211図	8	土師器 甕	口縁～頸部片 床面上18cm	口	19.0			細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で、内面に1条の凹線を巡らせる。胴部外面 は斜めのヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
第211図	9	土師器 杯	1/4 埋没土	口	11.8	高	3.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面 は撫で。	
第211図	10	土師器 甕	口縁～胴部片 カマド底面上 18cm	口	18.8			細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ 撫で。	

4区4号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第212図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 底	13.8 10.4	高	3.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面 は撫で。	

4区5号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第213図 PL. 134	1	土師器 杯	2/3 床面上20cm	口	11.3	高	3.9	細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分 を残す。	外面摩滅
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
PL. 134	2	敲石 棒状礫	床面直上	長 厚	12.4 4.5	幅 重	6.7 496.9	粗粒輝石安山岩	下端側が敲打され、破損する。破損部の稜は部分的に弱く潰 れているように見える。	写真のみ

4区6号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第214図 PL. 134	1	土師器 杯	1/2 床面上1cm	口	10.5	高	3.0	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に狭く撫での 部分を残す。内面は撫で。	底部に黒斑
第214図	2	土師器 杯	1/4 床面上6cm	口	11.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第214図	3	土師器 杯	口縁～体部片 掘方土	口	10.4			細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第214図	4	土師器 杯	口縁～体部片 掘方土	口	13.4			細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第214図	5	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上5cm・掘方 土	口	20.6			細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第214図 PL. 134	6	敲石	掘方土	長 厚	12.9 2.7	幅 重	6.5 552.0	粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打され、特に上端側小口部の敲打痕が著し い。	

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)	石材	製作状況・使用状況	備考
第214図 PL. 134	7	磨石類?	床面上12cm	長 16.5 厚 2.6	幅 12.5 重 1327.5	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗しているが、背面側摩耗面は稜を形成しているが、風化が弱く新鮮に見える。

4区1号竪穴状遺構

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第215図 PL. 135	1	須恵器 短頸壺	3/4 床面上2cm・24cm	口 12.0 底 11.4	高 13.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)肩部~胴部中位外面に4条の凹線と刺突及び6本単位の波状文を巡らせる。内面下半は撫で。高台は貼り付け部から剥落。	胴部外面の細かなハゼ顕著
第215図 PL. 135	2	土師器 杯	3/4 埋没土	口 11.8 底 8.2	高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は雑な撫で。底部は撫で。内面は丁寧な撫で。	体部外面から底部に型肌顕著
第215図 PL. 135	3	土師器 杯	1/2 床面上15cm	口 11.6 底 8.4	高 3.8	細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。体部外面は雑な撫で。底部は雑な手持ちへら削り。内面は撫で。	体部外面に輪積み痕

4区1号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考		
第216図	1	土師器 杯	口縁~体部片 埋没土	口 14.6		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に狭く撫での部分を残す。内面は撫で。		
第216図	2	土師器 杯	口縁~底部片 埋没土	口 13.8 底 11.0	高 3.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	口縁部摩滅。硬質な焼成	
第216図	3	須恵器 杯	体部~底部片 床面上8cm	底 7.4		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部及び体部下端は回転へら削り。		
第216図	4	土師器 甕	口縁~頸部片 床面上2cm	口 18.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。		
第216図	5	土師器 甕	口縁~胴部片 埋没土	口 17.8		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。内面は撫で。		
第216図	6	須恵器 甕	口縁片 床面下8cm	口 27.2		細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	口縁部内外面はロクロによる撫で。	口唇部外面は摩滅	
第216図	7	在地系土器 焙烙	口縁部から底部片 埋没土			浅黄橙、黒褐	断面は灰白色、内面器表は浅黄橙色、外面は黒褐色。口縁部から体部外面に煤付着。底部外面には煤付着しない。丸底か平底か不明瞭。	近現代。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)	成形・整形の特徴			備考	
第216図 PL. 135	8	鉄製品 鉄器不明	埋没土	長 2.1 厚 1.2	幅 2.7 重 6.6	錆化が著しいか鑄造鉄製品の破片とみられる			

4区2号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第217図	1	瀬戸・美濃 陶器天目碗	体部小片 埋没土			灰白	茶色味が強い褐色の鉄釉。体部外面下位は無釉。	大窯か登窯。

4区3号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第219図 PL. 135	1	土師器 杯	3/4 埋没土	口 13.1	高 3.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	底部に墨書「子」か
第219図 PL. 135	2	土師器 杯	1/2 埋没土	口 13.0	高 3.2	細砂粒・角閃石・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図	3	土師器 杯	口縁~底部片 埋没土	口 13.6		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図	4	土師器 杯	1/4 埋没土	口 10.8		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	
第219図	5	土師器 杯	口縁~底部片 埋没土	口 12.8	高 3.1	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図	6	土師器 杯	口縁~底部片 埋没土	口 14.0		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図	7	土師器 杯	口縁~底部片 埋没土	口 13.8		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面に煤付着
第219図	8	土師器 杯	口縁~底部片 埋没土	口 12.8		細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図 PL. 135	9	須恵器 杯	1/4 埋没土	口 15.8 底 10.4	高 4.8	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)高台は底部回転糸切り、周辺を回転へら削り後の丁寧な付け高台。	
第219図 PL. 135	10	須恵器 長頸壺	頸部 埋没土			細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)	頸部外面は横のカキ目か
第219図	11	土師器 小型甕	2/3 埋没土	口 14.1	高 12.2	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。底部はへら削り。内面は撫で。	口縁部外面に輪積み痕

4区6号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第219図	1	土師器 杯	1/4 埋没土	口 12.8		細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	硬質な焼成
第219図 PL. 135	2	土師器 杯	口縁~体部片 埋没土	口 13.8		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	口縁部外面に墨書「子」か
第219図	3	土師器 杯	口縁~底部片 埋没土	口 12.7		細砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図 PL. 135	4	須恵器 杯	底部片 埋没土			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部及び体部下端は回転へら削り。	底部に刻印「十か」
第219図	5	土師器 台付甕	台部3/4 埋没土	口 10.5		細砂粒・雲母微粒/良好/にぶい黄橙	内外面撫で。	貼り付け部から剥離

遺物観察表

4区7号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第219図 PL. 135	1	土師器 杯	1/2 底面上15cm	口 12.6 高 3.2	細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第219図 PL. 135	2	土師器 杯	口縁一部欠 底面上6cm	口 12.9 高 3.2	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に広く撫での部分を残す。内面は撫で。	口縁部外面に墨書、文字不明、硬質な焼成。
第219図 PL. 135	3	土師器 杯	3/4底面上20cm	口 13.0 高 3.3	細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図 PL. 135	4	土師器 杯	1/2 底面上15cm	口 12.8 高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第219図 PL. 135	5	土師器 杯	1/2 底面上26cm	口 12.4 高 3.6	細砂粒・角閃石/良好/褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図 PL. 135	6	土師器 杯	1/2 底面上24cm	口 13.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に雑な撫での部分を広く残す。内面は撫で。	
第219図	7	土師器 杯	1/3 底面上18cm	口 12.8 高 3.2	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	硬質な焼成
第219図	8	土師器 杯	1/3 底面上15cm	口 12.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図	9	土師器 杯	1/4 底面上21cm	口 13.8	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に雑な撫での部分を残り、型肌が顕著。内面は撫で、押圧の跡を残す。	硬質な焼成
第219図	10	土師器 杯	口縁～底部片 底面上13cm	口 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に狭く撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図	11	土師器 杯	口縁～底部片 底面上8cm	口 12.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	硬質な焼成
第219図	12	土師器 杯	口縁～底部片 底面上24cm	口 14.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図 PL. 135	13	土師器 杯	1/2 底面上11cm	口 12.1	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第219図	14	土師器 杯	口縁～底部片 底面上22cm	口 13.6	細砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図	15	土師器 杯	口縁～底部片 底面上28cm	口 11.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図	16	土師器 杯	口縁～底部片 底面上26cm	口 13.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を広く残す。内面は撫で。	
第219図	17	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 12.8	細砂粒・角閃石・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に広く撫での部分を残す。内面は撫で。	
第219図 PL. 135	18	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口 12.8	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	口縁部外面に墨書「子」か
第220図 PL. 135	19	須恵器 杯	2/3 底面上21cm	口底 13.7 8.1 高 3.7	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)底部を回転へら起こし後、周辺を回転へら削りか。体部下端は回転へら削り。	内外面摩滅
第220図	20	須恵器 碗	口縁～体部片 底面上17cm	口 14.8	細砂粒・粗砂粒・軽石/酸化焰/にぶい赤褐	ロクロ整形(回転方向不明)	内面の口縁部より下位還元焰
第220図	21	須恵器 高杯	杯部片 埋没土	底 6.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)体部外面に2段の稜を巡らす。	
第220図 PL. 135	22	須恵器 長頸壺	胴部～胴部 底面上7cm		細砂粒/還元焰/明オリブ灰	ロクロ整形(左回転か)肩部外面に2条の凹線と刺突を巡らせる。胴部中位を回転へら削り。	
第220図	23	土師器 甕	口縁～胴部 底面上6cm	口 19.8	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、内面は横のへら撫で。	
第220図	24	須恵器 甕	口縁～肩部片 底面上9cm	口 25.6	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は青海波文。	外面の一部及び内面に自然釉
第220図	25	須恵器 甕	胴部片 底面上10cm		細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は平行叩き。内面は青海波文。	外面の一部に自然釉
第220図	26	須恵器 甕	胴部片 底面上15cm		細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	叩き成形。外面は斜格子叩き。内面は青海波文。	

4区1号井戸

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第221図 PL. 135	1	須恵器 杯	4/5 埋没土	口底 13.0 8.2 高 4.2	細砂粒・粗砂粒/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)底部を回転糸切り後、周辺を回転へら削り。	内面酸化
第221図	2	土師器 甕	口縁～胴部 埋没土	口 21.1	細砂粒・角閃石/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り、内面は横のへら撫で。	口縁部外面に輪積み痕
第221図	3	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口 20.6	細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。内面は撫で。	

4区2号井戸

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第222図 PL. 135	1	土師器 杯	2/3 埋没土	口 13.1 高 3.5	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第222図 PL. 135	2	土師器 杯	2/3 遺構検出面	口 13.1 高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第222図 PL. 135	3	土師器 杯	2/3 埋没土	口 12.9 高 3.0	細砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	口縁部外面に煤付着

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第222図	4	土師器 杯	1/4 埋没土	口 16.6 高 4.2	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を狭く残す。内面は丁寧な撫で。	硬質な焼成
第222図	5	土師器 杯	口縁～体部片 埋没土	口 13.9	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
第222図 PL. 135	6	須恵器 杯	完形 埋没土中位	口底 13.7 高 4.0 7.5	細砂粒・粗砂粒/還元焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周辺及び体部下端を回転へら削り。	底部に墨書「太」。内面酸化
第222図	7	土師器 甕	口縁片 埋没土	口 17.8	細砂粒・粗砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。内面は撫で。	口縁部内面は摩滅

4区8号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第223図	1	製作地不明 磁器小坏	1/2 埋没土	口 (5.0)	白	口縁部付近で小さく外反。外面に黒色顔料による下絵。	近現代。

4区9号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)	成形・整形の特徴	備考
第224図 PL. 136	1	楕円形輪状 鉄製品	埋没土	長厚 5.8 0.4 幅重 2.8 14.7	断面4mm丸の楕円形輪状鉄製品、輪は完全には閉じず一か所で隙間があく。	

4区11号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第224図	1	製作地不明 陶器爛徳利	底部片 埋没土		灰黄	底部外面に墨書。	近現代。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)	成形・整形の特徴	備考	
第224図 PL. 136	2	鉄製品 不明	埋没土	長厚 2.3 1.0 幅重 4.1 32.4	長方形帯状鉄製品断面幅10mm、厚さ4.5mm		

4区14号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第224図	1	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片・埋没土		にぶい橙	体部から口縁部は直線的。丸底か平底か不明。	近現代。
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)	石材	製作状況・使用状況	備考
PL. 136	2	砥石 切り砥石	埋没土	長厚 9.0 2.2 幅重 3.3 99.66	流紋岩	一面使用。左辺側にはノコギリ痕が残る他、裏面側には刀子状工具による整形痕がある。石材感は細粒緻密質で、仕上げ砥として使われたものと見られる。	写真のみ
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)	成形・整形の特徴	備考	
第224図 PL. 136	3	鉄製品 鉄釘	埋没土	長厚 2.7 0.4 幅重 4.5 1.7	断面四角の釘で頭部は破損か。形状は不明。先側も破損欠失。		

4区15号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第225図	1	瀬戸・美濃 磁器小坏	口縁部1部、底部 埋没土	口高 (5.6) 4.4 底 (3.0)	白	口縁部外面に黒色顔料による下絵。口縁部から高台外面にクロム青磁。内面と高台内に透明釉。	近現代。
第225図	2	製作地不明 磁器小坏	1/2 埋没土	底 2.9	白	高台脇に人造呉須によると考えられる1重圏線。透明釉は白濁する。焼成不良。	近現代。
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)	石材	製作状況・使用状況	備考
第225図 PL. 136	3	砥石 切り砥石	埋没土	長厚 (7.0) (1.8) 幅重 (2.8) 28.7	流紋岩	破損した裏面側を除く各面を使用。いずれも破損面は被熱によるものと見られる。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)	成形・整形の特徴	備考	
第225図 PL. 136	4	鉄製品 不明	埋没土	長厚 13.1 0.65 幅重 0.7 26.9	角棒状鉄製品、断面6.5mm角で緩くへの字状に曲がる。両端はほぼ直角に終わる。		
第225図 PL. 136	5	銅製品 煙管吸口	埋没土	長厚 10.3 0.9 幅重 1.2 14.5	キセル吸い口。口付から3cm程で破損のため折れ曲がる		

4区26号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)	成形・整形の特徴	備考
第226図 PL. 136	1	金属製品 不明	埋没土	長厚 5.8 0.5 幅重 0.8 4.5	断面四角でくの字状の金属製品と断面かまぼこ型の鉄製品が結合した金属製品、26土2と同一の破片か。	
第226図 PL. 136	2	鉄製品 不明	埋没土	長厚 1.8 0.35 幅重 0.5 2.4	断面かまぼこ型の棒状鉄製品破片、26土1と同一の破片か。	

4区27号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第226図 PL. 136	1	瀬戸・美濃 磁器広東碗	底部 埋没土	底 5.8	白	器壁は厚い。内面は2重圏線内に不明文様。体部外面は区画内に簡略化した草文か。	19世紀前半～中頃。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)	成形・整形の特徴	備考	
第226図 PL. 136	2	銅製品 銭貨	埋没土	長厚 2.3 410.143 幅重 2.3 732.7	「寛永通寶」鋳化が顕著		

遺物観察表

4区7号ピット

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第228図	1	瀬戸・美濃 磁器碗	1/4 埋没土	口	(10.7)		白	外面に人工呉須による縦線の染付。	近現代。

4区26号ピット

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第228図 PL. 136	1	土師器 杯	底部片 埋没土	長 幅	6.3 3.5	厚 0.4	細砂粒・角閃石/良 好/明赤褐	底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部に墨書文 字不明
第228図	2	土師器 甕	口縁片 埋没土	口	18.7		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。	

4区遺構外

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第229図	1	土師器 杯	口縁～体部片 V層	口	12.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。	
第229図	2	土師器 杯	1/4 V層	口	12.9		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面 は撫で。	
第229図	3	土師器 杯	1/3 V層	口	13.0	高 3.3	細砂粒・角閃石/良 好/明黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	外面摩滅
第229図	4	土師器 杯	1/3 V層	口	13.0	高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第229図	5	土師器 杯	1/4	口	10.8	高 3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。	外面摩滅
第229図	6	土師器 杯	1/3 V層	口	12.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第229図	7	土師器 杯	1/3 V層	口	13.9	高 3.9	細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	底部にハゼ
第229図	8	土師器 杯	1/4 V層	口	13.9	高 2.9	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は丁寧な撫で。	
第229図	9	土師器 杯	1/3 V層	口	12.9	高 3.3	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
第229図 PL. 136	10	土師器 杯	1/2 V層	口	14.0		細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に指の押圧と 撫での部分が広くみられる。内面は撫で。	
第229図	11	土師器 杯	1/4 V層	口	13.9	高 2.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りで、間に雑な撫での 部分を残す。内面は撫で。	
第229図 PL. 136	12	土師器 杯	底部片 V層				細砂粒/良好/橙	底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部に墨書文 字不明
第229図	13	土師器 鉢	口縁～体部片 V層	口	18.0		細砂粒・角閃石/良 好/明黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面はへら削り。	内外面は摩滅 顕著
第229図	14	須恵器 杯	1/4 V層	口	12.3 8.0	高 3.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)底部回転系切り後、周辺を回転へら削 り。	
第229図	15	須恵器 杯	底部片 V層	底	6.4		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)底部は回転へら起こし無調整。	
第229図	16	須恵器 杯	1/3 表土	口 底	10.6 7.0		細砂粒・粗砂粒/酸 化焰/黄褐	ロクロ整形(左回転)底部回転系切り無調整。	
第229図	17	須恵器 高杯か	杯部1/4 トレンチ	口	10.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)	杯部下端は回 転へら削り
第229図	18	須恵器 高杯か	杯部底部片	底	6.2		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)脚の貼り付け部で欠損した可能 性が高い。	
第229図	19	土師器 台付鉢か	脚部 IV層				細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/明赤褐	脚部外面に縦の撫で。	
第229図	20	須恵器 盤	口縁～底部片 V層	口	24.3		細砂粒・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)底部はへら削り。	
第229図	21	須恵器 甕	口縁片 トレンチ				細砂粒・粗砂粒/還 元焰/黒褐	口縁部外面に4本単位の波状文と2条の凹線を3単位巡らせ る。	外面に薄く自 然釉。内面に 輪積み痕
第229図 PL. 136	22	土師器 円盤状土製 品(甕)	完形 V層	長 幅	1.9 2.4	厚 0.8	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	甕の破片の周辺を打ち欠き整形。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(c m)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第229図	23	肥前磁器	1/4 攪乱	口	(10.0)			外面に雪輪草花文か。	
第229図 PL. 136	24	肥前磁器 皿	体部1部、底部 1/2 攪乱	口	7.6			呉須の発色はやや良好。底部内面の五弁花はコンニャク印 判。高台内1重圏線内に「満福」字銘。	
第229図 PL. 136	25	製作地不明 陶器灯 火皿	1/2 IV層	口 底	(10.2) 2.1	底 4.2	灰黄	体部から口縁部は内湾して開く。口縁部外面以下は回転鏡 削り。内面から口縁部外面に灰釉。無釉部全面に油と推定さ れる黒色物付着。	
第229図	26	三河土器円 盤状製品 (コンロ?)	1/2 V層	高	1.2			金雲母を含む。胎土・焼成の特徴から三河土器と考えられ る。平坦な部分の破片を円形状に打ち欠き、周囲を粗く擦っ て整形。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第229図 PL. 136	27	打製石斧 分銅型	VI層	長 厚	12.1 3.1	幅 重	6.5 218.9	黒色頁岩	完成状態。加工状態は粗く縁辺も鋭利で、装着されたものか 判断が難しいが、刃部摩耗が部分的にあり、刃部再生も明ら かである。

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)		成形・整形の特徴	備考
第229図 PL. 136	28	銅製品 煙管吸口	IV層	長 3.0 厚 1.0	幅 1.2 重 5.4		
第229図 PL. 136	29	銅製品銭貨	IV層	長 2.7 厚 370.1	幅 2.7 重 43.0	「文久永寶」	

5区2号住居

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第234図 PL. 136	1	土師器 杯	口縁一部欠 床面上17cm	口 10.4	高 3.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で後、見 込み部に放射状のへら磨き。	内外面漆塗り か。内面にハ ゼ
第234図	2	土師器 杯	1/4 埋没土	口 12.8		細砂粒・角閃石/良 好/灰黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で後、見 込み部に放射状の粗いへら磨き。	内外面漆塗り か
第234図 PL. 136	3	土師器 杯	口縁一部欠 床面上8cm	口 10.4	高 3.5	細砂粒・角閃石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第234図	4	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 10.6		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図	5	土師器 杯	1/4 埋没土	口 10.8	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図	6	土師器 杯	1/4 埋没土	口 11.8	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図 PL. 136	7	土師器 杯	1/2 埋没土	口 10.8	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図 PL. 136	8	土師器 杯	1/2 埋没土	口 12.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面漆塗り
第234図 PL. 136	9	土師器 杯	2/3 床面上9cm	口 11.4	高 3.5	細砂粒・角閃石/良 好/浅黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 底部に黒斑。 粉っぽい素地
第234図 PL. 136	10	土師器 杯	1/2 床面上1cm	口 11.8	高 3.5	細砂粒・雲母微粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図 PL. 136	11	土師器 杯	1/2 掘方土	口 11.4	高 3.3	細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図 PL. 136	12	土師器 杯	1/2 埋没土	口 10.1	高 3.2	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面わずか に摩滅
第234図	13	土師器 杯	口縁～底部片 床面直上	口 10.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第234図	14	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 10.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図	15	土師器 杯	口縁～底部片 掘方土	口 11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第234図	16	土師器 杯	口縁～底部片 床面上2cm	口 11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図	17	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 10.8		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図	18	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図	19	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 10.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図 PL. 136	20	土師器 杯	1/2 床面上4cm	口 11.0	高 3.4	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図	21	土師器 杯	口縁～底部片 床面上9cm	口 12.0		細砂粒・角閃石・石 英/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面摩滅
第234図 PL. 136	22	土師器 杯	3/4 埋没土	口 9.2	高 3.4	細砂粒・角閃石/良 好/褐灰	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面吸炭
第234図 PL. 136	23	土師器 杯	1/3 床面直上	口 12.5	高 3.9	細砂粒・角閃石/良 好/灰白	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面と口縁部 外面～底部の 一部吸炭
第234図 PL. 136	24	土師器 杯	1/2 床面上7cm	口 13.0	高 4.5	細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面にわずか に細かなハゼ
第234図	25	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 13.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で、中位に1条の凹線を巡らせる。底部は手 持ちへら削り。内面は撫で。	硬質な焼成
第234図	26	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 12.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で、1条の凹線を巡らせる。底部は手持ちへ ら削り。内面は撫で。	底部と内面に ハゼ
第234図	27	土師器 杯	口縁～底部片 床面上4cm	口 14.0		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	口縁部外面～ 内面漆塗りか
第234図 PL. 136	28	土師器 杯	1/3 埋没土	口 11.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で、1条の凹線を巡らせる。底部は手持ちへ ら削り。内面は撫で。	外面摩滅。内 面のハゼ顕著
第234図	29	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 11.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横撫で、弱い段を有する。底部は手持ちへら削 り。内面は撫で。	内外面わずか に摩滅
第234図	30	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 14.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
第234図	31	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 13.9		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、外稜部に3条の凹線を巡らせる。底部は 手持ちへら削り。内面は撫で。	色調が他と異 質
第234図 PL. 136	32	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口 15.8	高 5.3	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で、口唇部内面に凹線を巡らせる。底部は手 持ちへら削り。内面は撫で。	底部に細かな ハゼ
第234図 PL. 136	33	土師器 杯	1/2 埋没土・トレンチ	口 11.2	高 3.9	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第234図 PL. 136	34	土師器 杯	完形 床面上5cm	口	10.8	高 4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
第234図	35	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	9.8		細砂粒・輝石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部にハゼ
第234図	36	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第234図	37	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.0		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第234図 PL. 136	38	土師器 杯	2/3 床面上4cm	口	14.0	高 5.6	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面摩滅。 部分的にハゼ
第234図	39	土師器 鉢	口縁～底部片 埋没土	口	19.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	比熱により発泡し、器面に歪み。器胎還元
第234図 PL. 136	40	須恵器 蓋	3/4 床面上10cm				細砂粒・粗砂粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)天井部外面は回転ヘラ削り。	
第234図	41	土師器 小型甕	口縁～底部片 床面上5cm	口	8.8		細砂粒・雲母微粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は撫で。	
第234図	42	土師器 鉢	口縁～肩部片 カマド埋没土	口	11.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。体部外面はヘラ削り。内面は撫で。	内外面部分的 に吸炭、口縁 部外面に煤付 着
第234図 PL. 137	43	土師器 小型甕	口縁～胴部片 埋没土・掘方土	口	10.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	粉っぽい素地
第235図 PL. 137	44	土師器 甕	3/4 床面上2cm・掘方 土	口	22.1		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、中位に段を巡らせる。胴部外面は縦～斜めのヘラ削り、内面は撫で。	胴部内面中位 に接合痕。口 縁部外面に輪 積み痕
第235図 PL. 137	45	土師器 甕	3/4 カマド掘方土・ 貯蔵穴底面上 4cm・掘方土	口 底	21.4 5.0	高 38.1	細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。底部はヘラ削り。	胴部外面中位 に粘土付着。 胴部内面下位 に接合痕
第235図 PL. 137	46	土師器 甕	3/4 掘方土	口	21.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は撫で。	胴部内面下位 に接合痕。
第235図 PL. 137	47	土師器 甕	底部欠損 掘方土	口	22.6		細砂粒・軽石/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのヘラ削り。内面は撫で。	胴部内面下位 に接合痕。
第235図 PL. 137	48	土師器 甕	2/3 床面上1cm・掘方 土	口	21.0		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい赤褐	口縁部は横撫で、ヘラの当たりが顕著。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は斜めのヘラ撫で。	胴部外面下位 に粘土付着。 内面下位に接 合痕。
第235図 PL. 137	49	土師器 甕	3/4 床面上1cm	口 底	15.6 7.3	高 22.5	細砂粒・角閃石・軽 石/良好/橙	口縁部は横撫で、胴部外面は縦～斜めのヘラ削り。底部はヘラ削り。内面は撫で。	底部に黒斑
第235図 PL. 137	50	土師器 甕	2/3 床面上3cm	口	19.7		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのヘラ削り。内面は斜めの撫で。	
第235図	51	土師器 甕	口縁～胴部 掘方土	口	23.7		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は斜めのヘラ撫で。	口縁部外面に 煤付着。胴上 位外面に輪積 み痕。縞状の 胎土。
第235図	52	土師器 甕	口縁～胴部 床面上10cm	口	19.1		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横～斜めのヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
第235図	53	土師器 甕	口縁～胴部 床面上1cm	口	20.5		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/橙	口縁部は横撫で、外面に段、口唇部内面に凹線を巡らせる。胴部外面は横～縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	口縁部の内面 摩滅
第235図	54	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上4cm・掘方 土	口	21.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。	内外面摩滅
第236図	55	土師器 甕	口縁～胴部 埋没土	口	19.6		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は縦の撫で。	口縁部外面に 輪積み痕。口 縁部～胴部内 面は吸炭
第236図	56	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口	21.0		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で	
第236図	57	土師器 甕	口縁～胴部片 床面上12cm	口	20.0		細砂粒・角閃石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
第236図	58	土師器 甕	口縁～胴部 床面上17cm	口	20.7		細砂粒・粗砂粒・角 閃石・軽石/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
第236図	59	土師器 甕	胴部～底部 カマド床面上 3cm	底	4.3		細砂粒・粗砂粒・角 閃石/良好/にぶい 黄橙	胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は斜めのヘラ撫で。	胴部内面に接 合痕
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第236図 PL. 137	60	砥石 切り砥石?	埋没土	長 厚	(5.5) (1.0)	幅 重	(3.4) 15.5	粗粒輝石安山岩	砥石背面側破片。使用面は目が潰れ平滑。
第236図 PL. 137	61	磨石類? 扁平楕円礫	床面上19cm	長 厚	16.0 2.5	幅 重	15.0 1398.77	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗するほか、側縁に打痕がある。

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)		石材	製作状況・使用状況	備考		
PL. 137	62	敲石 棒状礫	埋没土	長 厚	13.9 3.8	幅 重	7.0 531.12	頁岩	上端側小口部に敲打痕がある。	写真のみ
5区1号溝										
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考		
第238図 PL. 137	1	土師器 杯	1/4 埋没土	口	10.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	硬質な焼成	
5区2号溝										
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考		
第238図	1	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口	19.0		細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り。内面は撫で。	藤岡か	
5区1号井戸										
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考		
第239図	1	美濃陶器 筒形香炉	1/10 埋没土	口	(15.6)		淡黄	体部はやや内湾。口縁端部は内傾する「T」字状。口縁部内面から外面に明黄褐色の胎釉。貫入が入る。口縁部内面の突出部先端は、敲打により細かい剥離連続する。	18世紀前半～ 中頃。灰吹き として使用。	
第239図	2	瀬戸・美濃 陶器片口鉢	1/5 埋没土	口	(14.7)		灰白	体部から口縁部は内湾。内外面に胎釉に近い灰釉。貫入が入る。	18世紀中頃 か。	
第239図	3	瀬戸・美濃 陶器皿	1/5 埋没土	底	(12.0)		灰白	底部周縁で外方に屈曲し、口縁部外反して広がる。内面から高台脇に黄瀬戸釉、底部から口縁部内面、青緑色の釉を筋状にかける。	江戸時代。	
第239図	4	瀬戸・美濃 陶器小碗	口縁部1/4、底部 完 埋没土	口 高	(8.5) 4.9	底 4.6	灰白	体部下位は斜めに広がり、口縁部下で屈曲する。底部内面中央は窪む。高台は低く、高台内は兜幅状に盛り上がる。内面から体部外面下位に暗褐色の胎釉。底部内面に3箇所の目痕。	17世紀後半。	
第239図 PL. 138	5	肥前陶器	底部 埋没土		4.3		灰白	高台幅は狭く、高台径もやや小さい。下位部下位は張る。外面に染付。高台端部以外に透明釉。貫入が入る。	陶胎染付。17 世紀末～18世 紀中頃。	
第239図 PL. 138	6	肥前磁器上 絵小碗	1/2 埋没土	口 高	(9.04)	底 3.6	白	底部から口縁部は均一に内湾。底部内面蛇ノ目釉剥ぎ。体部内面に赤色の上絵。釉剥ぎ部と釉剥ぎ部より上位に黒の輪郭線と輪郭線内を薄い黒で塗る。外面は無文。	江戸時代。	
第239図	7	在地系土器 香炉か	1/2 埋没土	底	(10.0)		B/灰黄	断面中央は黒色。器表付近は灰白色。外面器表は灰黄色、内面器表は暗灰から黒色。残存部に1箇所脚貼り付け。底部外面に他の脚貼り付け時の撫でが残る。底部外面は砂底状。底部内面に菊花状押印。底部周縁は強い横撫でにより凹線状に窪む。脚は3箇所と考えられる。	江戸時代。	
第239図	8	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片 埋没土	高	5.1		黒褐、暗灰	断面中央は黒色。器表付近は灰白色、内面器表は暗灰色、外面器表は黒褐色。外面上位に接合痕。外面下半は匏撫で。内面に扁平な内耳貼り付け。体部外面下端から底部外面は浅黄褐色。	江戸時代。	
第239図	9	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片 埋没土	高	5.6		黒褐	断面中央は黒色。器表付近は灰白色、器表は黒色。外面上位に接合痕。外面下位に皺状亀裂。外面下端は匏撫で。底部外面器表のみ黄灰色。内面に幅広の内耳貼り付け。	江戸時代。	
第239図	10	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片 埋没土	高	5.9		黒	断面中央は暗灰色。器表付近は灰白色。器表は黒色。体部外面下端から底部外面の器表は灰黄色。内面に耳貼り付け。器高が高く体部器壁は厚い。	江戸時代。	
第239図	11	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片 埋没土	高	5.4		黒	断面中央は灰白色。器表付近はにぶい黄橙から橙色。器表は黒色から黒褐色。底部内面器表はにぶい橙色。底部外面器表はにぶい橙色。全体に器壁厚く、内耳も肉厚。内耳側面に擦れによる弧状の摩滅あり。	江戸時代。内 耳側面に擦れ による弧状摩 滅。	
第239図	12	在地系土器 焙烙	口縁部から体部 埋没土				暗灰、	断面は黒色。器表付近薄く灰白色、内面器表は暗灰色、外面器表は黒色。中位外面は肥厚。外面下位に皺状亀裂。外面下端は匏撫で。	江戸時代。第 239図18と同 一個体か。	
第239図	13	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片 埋没土	高	5.7		黒、黒褐	断面中央は黒色。器表付近は灰白色、内面器表は黒色、外面器表は黒褐色。内面に幅広の耳貼り付け痕。外面中位に接合痕。外面下位の皺状亀裂部分は窪む。外面下端は丁寧な匏撫で。底部外面は皺状亀裂。	江戸時代。第 239図15と同 一個体か。	
第239図	14	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片 埋没土	高	5.2		黒	断面は灰白からにぶい橙色。器表は黒色。内外面下端から底部内外面は黄灰色。内面に幅広の耳貼り付け痕。外面中位に貼り付け痕若干残る。外面下位は窪み皺状亀裂。	江戸時代。	
第239図	15	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片 埋没土	高	5.6		黒、黒褐	断面中央は黒色。器表付近は灰白色。器表は黒色。外面下位器表は黒褐色。外面中位に接合痕。外面下位の皺状亀裂部分は窪む。外面下端は丁寧な匏撫で。底部外面は皺状亀裂。	江戸時代。第 239図13と同 一個体か。	
第239図	16	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 埋没土	高	5.6		黒	断面中央は黒色。器表付近は灰白色。器表は黒色。外面下位器表は黒褐色、外面下端から底部外面は灰白色。器壁はやや薄い。内面に幅広の耳貼り付け。内耳状部側面に弧状の擦れ。	江戸時代。内 耳側面に小さ い弧状摩滅。	
第239図 PL. 138	17	在地系土器	1/4 埋没土	口 高	(35.4) 5.3	底 (34.0)	黄灰、黒	断面中央は黒色。器表付近は灰白色、内面器表は灰色、外面器表は黒褐色。底部内面器表は黄灰色。体部外面下端から底部外面器表はにぶい黄褐色。外面上位に接合痕。外面下位は皺状亀裂を撫で消す。内面に耳を貼り付ける。	江戸時代。	
第239図	18	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 埋没土	高	5.8		暗灰、黒	暗灰、黒	江戸時代。と 同一個体か。 底部内面に不 明押印。	
第240図 PL. 138	19	在地系土器 鉢	3/4 埋没土	口 高	44.4 10.4	底 31.7	黒	断面中央は黒色。器表付近は灰白色。器表は全面黒色。被熱による色戻りは認められない。焙烙と同様な製法であるが、外面下位の皺状亀裂は匏状工具により撫で消す。体部から口縁部内外面は、粗い横位匏磨き。底部外面は皺状亀裂。	江戸時代か。	
第240図	20	在地系土器 鍋	1/5 埋没土	口 高	(35.0) 10.3	底 (21.2)	黒、灰黄	断面中央は黒色。器表付近は灰白色、内面器表は灰黄色、外面器表は黒褐色で口縁部以下から底部外面に煤付着。体部は内湾気味に広がり、口縁端部は下がり気味に屈曲して広がる。	江戸時代。	

遺物観察表

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第240図	21	在地系土器 鍋	1/4 埋没土	口 高	(37.0) 11.8	底 (21.6)	黄灰、黒	断面中央は黒色、器表付近と内面器表は黄灰色、外面器表は黒色、外面口縁部以下から底部外面に煤附着。体部から口縁部は外反して広がり、口縁端部は内面に小さい段を付けるように横撫で。	江戸時代。	
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第240図 PL. 138	22	石製品 楕円礫	埋没土	長 厚	7.0 3.2	幅 重	5.9 143.34	粗粒輝石安山岩	表裏面とも研磨されているが、背面側の研磨が著しく、広い平坦面がある。石造物関連の砥石としての使用を想定することができようか。	
第240図 PL. 138	23	石製品 楕円礫	埋没土	長 厚	8.1 2.6	幅 重	5.5 140.29	粗粒輝石安山岩	背面側が顕著に摩耗して、平坦面が形成されている。第240図22と同質の石製品とすることができる。	
第240図 PL. 138	24	石製品 扁平楕円礫?	埋没土	長 厚	9.0 1.7	幅 重	6.4 107.82	粗粒輝石安山岩	表裏面・側縁とも研磨され、これにより形状が整えられている。製作目的は不明だが、より平坦な背面側と上端部・左辺側の摩耗が著しい。	
第240図 PL. 138	25	砥石 切り砥石	埋没土	長 厚	6.9 2.7	幅 重	3.1 93.01	砥沢石	四面使用。上下両端とも破損後に整形され、その後も砥石として継続使用されている。下端部は磨き整形とされているのであろうが、使用面の光沢と変わらない。	
第240図 PL. 138	26	砥石 切り砥石	埋没土	長 厚	8.1 2.6	幅 重	5.5 254.44	砥沢石	二面使用。左右の両側面・下端小口部にタガネ状工具による整形痕を残しているほか、裏面側にも同種整形痕が部分的に残る。	
第240図 PL. 138	27	敲石 扁平礫	埋没土	長 厚	13.7 4.1	幅 重	8.7 519.2	粗粒輝石安山岩	小口部両端・両側縁に敲打痕、敲打に伴う剝離痕がある。	
第240図 PL. 138	28	石製品石 鉢	埋没土	長 厚	12.8 8.6	幅 重	11.8 1132.1	粗粒輝石安山岩	内面は丁寧に磨き整形されることが通例だが、概して整形は粗く、雑な作り。	
第240図 PL. 138	29	板碑 基部側破片?	埋没土	長 厚	(15.0) 1.7	幅 重	(13.5) 1033.59	雲母石英片岩	中型板碑下部破片。背面側に種子等の掘り込みなし。裏面側は薄く剥落、中央付近の浅いU字状の窪みは文字の一種か。右辺・裏面側に逆台形状の側縁が残る。上端側破損部は摩耗、二次使用した可能性がある。	
PL. 138	30	砥石 切り砥石	埋没土	長 厚	(5.4) 1.7	幅 重	2.7 39.81	砥沢石	一面使用。背面側を除く各面にタガネ状工具による整形痕を残す。上下両端を欠損する。	写真のみ
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考	
	31	鉄 不明の鉄滓	埋没土	長 厚	5.0 3.0	幅 重	4.3 64.37	側面破面。気泡が多く内在しているが、比重が比較的高い。上面はタレが生じている。		

5区2号井戸

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第241図	1	瀬戸・美濃 陶器輪花皿	口縁部片 埋没土				灰白	口縁部は外反。口縁端部付近を上下から押しつけて襷状にする。内外面に灰釉。貫入が入る。	江戸時代。
第241図	2	在地系土器 火鉢?	口縁部片 埋没土				黒	断面中央は黒色、器表付近は灰白色、器表は黒色。口縁部外面に1条の凹線、外面口縁部下に施文か。口縁端部上面から外面器表は剝離部分多い。	江戸時代か。

5区12号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第247図	1	肥前陶器 碗	1/8 埋没土	口	(11.0)		黄灰	体部は内湾。内外面に白土刷毛塗り。外面に他個体との溶着痕。	江戸時代。
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第247図 PL. 138	2	鉄製品 不明	埋没土	長 厚	4.8 1.6	幅 重	3.4 29.9	錆化し亀裂が多数入る、鑄造鉄製品の破片とみられる	

5区17号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第247図	1	土師器 甕	口縁～頸部片 埋没土	口	13.6		細砂粒・角閃石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面はヘラ削り。内面は撫で。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第247図 PL. 138	2	鉄 鉄器	埋没土	長 厚	5.8 0.35	幅 重	0.3 54.9	角棒状鉄製品。端部は角型で終わりもう一方の端部は破損する。	
第247図 PL. 138	3	鉄 鉄器	埋没土	長 厚	4.3 0.35	幅 重	4.5 2.4	断面四角形の棒状で、端部で2.5mm×4.5mm角で全体形状は不明。	
第247図 PL. 138	4	鉄 鉄器	埋没土	長 厚	2.4 0.35	幅 重	3.5 1.2	浅くくの字形に曲がる、断面四角の棒状鉄製品一端は細く一方の端部は破損する。	

5区19号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
	1	鉄 椀型鍛冶滓	埋没土	長 厚	4.6 1.8	幅 重	2.3 23.49		

5区22号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第248図	1	在地系土器 焙烙	底部片 埋没土				B/浅黄、にぶい褐	断面は橙色、内面器表は浅黄色、外面器表はにぶい褐色。内面に菊花状押印。	江戸時代。

5区31号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第243図 PL. 138	1	砥石 切り砥石	埋没土	長 厚	(5.8) 3.5	幅 重	2.8 64.7	砥沢石	背面側を除く各面にタガネ状工具による整形痕が残る。

5区33号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第243図	1	土師器 皿	口縁～底部片 埋没土	口	15.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへう削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第243図	2	肥前陶器御 器手碗	1/6 埋没土	口	(10.7)			淡黄	口縁部はほぼ直立。内外面に透明釉。細かい貫入が入る。	17世紀後半～ 18世紀初頭。
第243図	3	在地系土器 鍋	口縁部片 埋没土					B/黒褐	断面は黒色、器表付近のみ灰白色、器表は黒褐色。口縁端部 付近の外面は横撫でにより外反気味。	江戸時代。

5区43号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第244図	1	瀬戸・美濃 陶器志野菊 皿	底部片 埋没土					灰白	内面の花卉を表す窪みは幅広い。内面から高台内周縁にや や厚い長石釉。高台内に楕円形の目痕1箇所。	17世紀前半～ 中頃。

5区46号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第244図	1	瀬戸・美濃 陶器丸碗	1/3 埋没土	底	(5.0)			灰白	高台内側は「ハ」字状に開く。内面から高台外面に灰釉。	江戸時代。
第244図	2	在地系土器 焙烙	口縁部から体部 片 埋没土					黒、黒褐	断面中央は黒色、器表付近は淡黄色、内面器表は黒色、外面 器表は黒褐色。外面中位に接合痕。外面下位に皺状亀裂。	江戸時代。
第244図	3	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片 埋没土					浅黄橙、黒褐	厚い部分の断面中央は黒色、断面と内面器表は浅黄橙色、外 面は黒褐色。体部外面下端から底部外面は灰白色。口縁端部 上面は内傾して窪む。外面器表の多くは剝離。外面中位に接 合痕。外面下位に皺状亀裂。	江戸時代。

5区49号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第245図 PL. 138	1	鉄製品 不明	埋没土	長 厚	3.5 0.4	幅 重	0.7 4.1	角棒状で端部は厚さ5mmほどを計測するが錆による変形とみられる。反対側は 斜めに破損しその後錆化していると思われる	

5区50号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第245図	1	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片 埋没土					にぶい黄橙～灰黄	断面中央は黒色、器表付近から器表はにぶい黄橙色から灰 黄色。外面中位に接合痕。外面下位はやや窪み、皺状亀裂が 残る。	江戸時代。

5区63号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第245図	1	美濃陶器尾 呂茶碗	1/8 埋没土	口	(10.5)			灰白	内外面に鉛釉。口縁部内外面に藁灰釉。	17世紀末～18 世紀中頃。

5区70号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
PL. 138	1	板碑	埋没土	長 厚	(4.6) 1.0	幅 重	(3.6) 18.61	雲母石英片岩	小片で、整形痕等は不明。	写真のみ

5区遺構外

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考	
第254図	1	土師器 杯	口縁～底部片 埋没土	口	12.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへう削り。内面は撫で。	粉っぽい素地
第254図 PL. 138	2	美濃陶器皿	口縁部1部、底部 完	底	4.5			灰白	木瓜形の皿。内面から高台脇に灰釉。底部内面の一部に布痕 残る。粗い貫入が入る。	17世紀後半～ 18世紀前半。 御深井製品。
第254図	3	瀬戸・美濃 陶器輪壳皿	1/3	底	(6.9)			灰黄	底部内面は窪み、周縁は段をなして平坦となり、周縁の釉を 削る。内面から高台脇に長石釉。高台端部は摩滅か人為的に 擦る。	17世紀。
第254図	4	志戸呂陶器 灯火受皿	1/2	口 高	(10.0) 2.2	底	4.4	にぶい黄橙	口縁部は直線的に開き、受け部は高い。受け部にアーチ状の 抉り1箇所残存。外面口縁部以下は回転削り。内面から体 部外面に鉄泥。	18世紀前～中 頃
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考	
第254図 PL. 138	5	石鏃 凸基有茎鏃	フク土	長 厚	2.5 0.5	幅 重	1.3 1.2	黒色安山岩	鏃身に比べ、太い茎が付く。鏃身は灰白色に風化しているの に対して、茎は風化が弱く、装着状態で廃棄されたものと見 られる。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考	
	6	鉄 椀型鍛冶滓	表土	長 厚	4.1 1.4	幅 重	2.8 16.89			

遺物観察表

新屋敷1区
1区10号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第259図	1	肥前磁器 仏飯器	1/3 埋没土	(4.4)			白	柱状部外面に2重圏線。裾部内面は施釉。裾部端部は無釉。	江戸時代。

1区12号溝

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第260図	1	志戸呂陶器 灯火皿	1/5 埋没土	口 (10.0)			灰白	口縁部は僅かに外反。内面から口縁部外面に鉄泥。	18世紀前半から中頃か。

1区12号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第263図	1	瀬戸・美濃 陶器筒形香 炉	1/4 埋没土	口 (9.5)			灰白	高台脇は水平に近く広がり、体部から口縁部は筒状に立ち上がる。輪高台であろう。口縁端部は内傾し、内面は三角形に尖る。口縁端部内面から筒状部外面に灰釉。貫入が入る。	18世紀後半～19世紀初頭。

1区38号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第264図 PL. 138	1	堺・明石陶 器円盤状製 品(すり鉢)	完形 埋没土	口 高 3.2 0.7	底 3.1		明赤褐	すり鉢底部片の周囲を細かく打ち欠いて整形。	二次加工品。

1区40号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第267図 PL. 138	1	肥前磁器小 丸碗	口縁部1/3、底部 1/2埋没土	口 高 (9.0) 5.2	底 (3.0)		白	外面に孟宗譚。口縁部内面は3重圏線、底部内面は2重圏線内に不明文様。	18世紀後半～19世紀初頭。

1区41号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴	備考
	1	鉄 鉄滓	埋没土	長 厚 5.7 1.3	幅 重 3.3 7.5		鉄滓の可能性が高いが発泡性が高く、あまりみない。附着物は鍛造削片とは言い難い。	文章のみ

1区43号土坑

挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第268図 PL. 138	1	砥石 切り砥石	埋没土	長 厚 (4.2) 2.0	幅 重 3.3 48.8		流紋岩	四面使用。上端小口部破片。	
挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	出土位置	計測値(cm・g)			成形・整形の特徴		備考
第268図 PL. 138	2	鉄製品 不明	埋没土	長 厚 5.9 0.7	幅 重 3.4 9.3		断面円形の楕円形金具に舌状の金具が付く		
第268図 PL. 138	3	鉄製品 不明	埋没土	長 厚 7.0 0.25	幅 重 1.5 511.2		端部が丸い板状鉄製品で、丸い端部より1.2cm程の中央に円穴を有する。反対側はわずかに折れ曲り破損する		
第268図 PL. 138	4	鉄製品 不明	埋没土	長 厚 8.8 50.25	幅 重 3.0 14.6		端部が丸い板状鉄製品で、丸い端部より1.2cm程の中央に円穴を有する。反対側は直角に折れ曲がりさらに1.5cmで再度折れ曲り破損する。この破損部近くに5mmの円穴を持つ。この破損部は錆により変形しているためきっちりとは接合できないが、その状況から第268図3と接合関係にあると思われる。		
第268図 PL. 138	5	鉄製品 不明	埋没土	長 厚 4.5 0.4	幅 重 1.1 4.9		角型断面を有する鉄製品で一端はやや細くループ状に曲げられている。		
第268図 PL. 138	6	鉄製品 釘	埋没土	長 厚 6.2 0.5	幅 重 1.3 8.5		角釘で先端部を欠く、錆化が著しく形状は不明瞭であるが頭部は平たく伸ばしたままで折り曲げてはいない状況が観察される		
第268図 PL. 138	7	鉄製品 釘	埋没土	長 厚 5.1 0.25	幅 重 1.0 2.9		劣化脆弱なため形状は不明瞭であるが、断面四角で頭部をたたき広げた形状がみられる。		
第268図 PL. 138	8	鉄製品 釘	埋没土	長 厚 3.4 0.5	幅 重 1.2 2.7		泥・砂を巻き込んで錆化本体は劣化空洞化する。頭の形状は円板状で軸部分の断面形状も不明瞭である		
第268図 PL. 138	9	鉄製品 釘	埋没土	長 厚 3.8 50.3	幅 重 4.0 2.0		くの字状に曲がる断面3mm角の棒状鉄製品で、錆化により形状不明瞭であるが釘の破片とみられる。		
第268図 PL. 138	10	鉄製品 釘	埋没土	長 厚 2.7 0.45	幅 重 0.4 52.38		泥・砂を巻き込んで錆化本体は劣化空洞化し本来の形状は不明である		
第268図 PL. 138	11	鉄製品 不明	埋没土	長 厚 3.05 0.25	幅 重 0.3 51.0		泥・砂を巻き込んで錆化本体は空洞化し形状不明瞭、角棒状で一方が細くなる。釘または茎破片か。		
第268図 PL. 138	12	鉄製品 不明	埋没土	長 厚 1.8 0.35	幅 重 0.3 51.1		断面四角の角棒状鉄製品で、一端は細く尖り他の端部は劣化破損する。		
第268図 PL. 138	13	鉄製品 不明	埋没土	長 厚 1.9 50.2	幅 重 0.2 50.5		断面四角の角棒状鉄製品で、端部は劣化破損するし他の端部錆化する。		

1区遺構外

挿図 PL. NO.	NO.	種類 器種	残存率 出土位置	計測値(cm)			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備考
第270図	1	肥前陶器碗	1/2 攪乱	口 高 (11.5) 6.9	底 (5.5)		灰白	高台内の削りはやや深い。腰は張り、底部内面径がやや大きい。外面に東屋山水文。	陶胎染付。17世紀末～18世紀中頃。
第270図	2	堺・明石陶 器円盤状製 品(すり鉢)	完形 深掘	口 高 3.4 0.9	底 3.3		明赤褐	すり鉢体部の周囲を細かく打ち欠いて整形。	二次加工品。
挿図 PL. NO.	NO.	器種形態・ 素材	出土位置	計測値(cm・g)			石材	製作状況・使用状況	備考
第270図	3	打製石斧 分銅型?		長 厚 (3.7) (1.7)	幅 重 (6.6) 27.1		細粒輝石安山岩	完成状態。裏面側の大きく礫面を残した石斧刃部破片で、背面側に被熱剝離痕が残る。刃部摩耗が著しい。	